

# 日本医科大学研究業績年報

第 49 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 49



平成 14 ( 2002 ) 年度

April 2002    March 2003

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 49 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 49

平成 14 ( 2002 ) 年度

April 2002—March 2003

# まえがき

学長 荒 木 勤

21世紀は、「知」の時代とも言われている。その「知」の拠点としての大学の役割は高度な研究を多用に展開し、個性豊かな大学として社会から期待されるものでなければならない。単なる自己を満足させるだけの研究成果、業績であってはならない。大学への期待として、事業化を考慮した研究や経済効果が見込まれる分野の研究に視点を置くことも重要と考える。

本学の大学院重点化にあたっては、社会の人々の知的財産の拡充に貢献できるような質の高い基礎研究も重視する必要がある。本学でのTLOセンターの設置は研究者の知的財産に関する意識や情報公開に対する意識改革へと進んできた感を抱かせる。しかし、研究の実用化への考慮や研究スピードにおいては他大学に遅れをとっていないだろうか。

このような視点からも第49巻（2002年度）の研究業績年報をみて頂きたいと思う。

年々、基礎科学、基礎医学、臨床医学、老人病研究所など全学各施設からの研究効果は数のうえでは右肩上がりの上昇傾向を示している。論分数のみならず、内容的にも国内外で高く評価されるものが多く、大変心強い感じをもつ。そのなかには独創的な研究も多くみられるということは大きな飛躍でもある。

ハイテクリサーチセンター整備事業、学術フロンティア推進事業、バイオベンチャー研究開発等の研究は着々とその成果を挙げている。その結果、私立大学施設整備費、経常費補助金、特別補助、文部科学省や厚生労働省等からの研究費、自治体や種々財団からの補助金などの増加は目を見張るものと言える。

これらの成果は、本学の研究者一人一人の寝食を忘れてのエネルギーから創り出された研究成果に他ならない。

次年度は質の高い、社会にも認められる研究が続々と誕生していくことを期待したい。

これからは産学官共同による大型プロジェクト研究開発も視野に入れて、特定分野における基礎的研究や応用開発研究も本学の取り組むテーマの一つではないかと考える。研究が個性的で、特色あるものであってほしい。“新しいことをするには、常に反対を押し切る勇気”も必要である。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学 .....	1
〔国文学〕 .....	1
〔心理学〕 .....	1
〔歴史学〕 .....	2
〔文化人類学〕 .....	3
〔経済学〕 .....	3
2. 自然科学 .....	4
〔数 学〕 .....	4
〔物理学〕 .....	5
〔化 学〕 .....	5
〔生物学〕 .....	7
3. 外国語 .....	9
〔英 語〕 .....	9
〔ドイツ語〕 .....	10
4. スポーツ科学 .....	11
〔スポーツ科学〕 .....	11

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座 .....	15
2. 解剖学第二講座 .....	17
3. 生理学第一講座 .....	20
4. 生理学第二講座 .....	24
5. 生化学第一講座 .....	28
6. 生化学第二講座 .....	31
7. 薬理学講座 .....	36
〔薬理学〕 .....	36
〔臨床薬理センター〕 .....	38
8. 病理学第一講座 .....	40
9. 病理学第二講座 .....	47
10. 微生物学・免疫学講座 .....	55
11. 衛生学・公衆衛生学講座 .....	61
12. 法医学講座 .....	63
13. 医療管理学講座 .....	66
14. 基礎医学共同研究利用施設 .....	71
〔実験動物管理室〕 .....	71
〔中央電子顕微鏡研究施設〕 .....	72
〔情報科学センター〕 .....	75

### 〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座	79
〔付属病院第1内科〕	79
〔付属病院老人科〕	97
〔第二病院内科〕	101
〔多摩永山病院内科〕	104
2. 内科学第二講座	110
〔付属病院第2内科〕	110
〔付属病院リウマチ科〕	127
3. 内科学第三講座	131
〔付属病院第3内科（血液内科，消化器，内分泌代謝）〕	131
4. 内科学第四講座	143
〔付属病院呼吸器内科〕	143
5. 精神医学講座	155
〔付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科〕	155
〔付属病院東洋医学科〕	160
6. 小児科学講座	162
〔付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科〕	162
7. 放射線医学講座	175
〔付属病院放射線科〕	175
〔第二病院放射線科〕	188
〔多摩永山病院放射線科〕	190
〔千葉北総病院放射線科〕	192
8. 皮膚科学講座	194
〔付属病院皮膚科〕	194
〔第二病院皮膚科〕	202
〔多摩永山病院皮膚科〕	202
〔千葉北総病院皮膚科〕	203
9. 外科学第一講座	205
〔付属病院第1外科〕	205
〔多摩永山病院外科〕	225
〔多摩永山病院消化器科〕	232
〔千葉北総病院外科〕	235
10. 外科学第二講座	239
〔付属病院第2外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科〕	239
〔第二病院外科〕	255
〔多摩永山病院内視鏡科〕	257
11. 脳神経外科学講座	260
〔付属病院脳神経外科〕	260
〔第二病院脳神経外科〕	282

	[ 多摩永山病院脳神経外科 ] .....	286
	[ 千葉北総病院脳神経外科 ] .....	289
12.	整形外科学講座 .....	296
	[ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科 ] .....	296
13.	産婦人科学講座 .....	302
	[ 付属病院女性診療科・産科 ] .....	302
	[ 第二病院女性診療科・産科 ] .....	314
	[ 多摩永山病院女性診療科・産科 ] .....	317
	[ 千葉北総病院女性診療科・産科 ] .....	320
14.	耳鼻咽喉科学講座 .....	323
	[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ] .....	323
15.	泌尿器科学講座 .....	340
	[ 付属病院泌尿器科 ] .....	340
	[ 第二病院泌尿器科 ] .....	344
	[ 多摩永山病院泌尿器科 ] .....	347
	[ 千葉北総病院泌尿器科 ] .....	348
16.	眼科学講座 .....	350
	[ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ] .....	350
	[ 千葉北総病院眼科 ] .....	356
17.	麻酔科学講座 .....	358
	[ 付属病院麻酔科 ] .....	358
	[ 第二病院麻酔科 ] .....	364
	[ 多摩永山病院麻酔科 ] .....	366
	[ 千葉北総病院麻酔科 ] .....	367
18.	救急医学講座 .....	370
	[ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 新東京国際空港クリニック ] .....	370
	[ 多摩永山病院救命救急センター ] .....	382
	[ 千葉北総病院救命救急センター ] .....	386
	[ 新東京国際空港クリニック ] .....	393
19.	形成外科学講座 .....	394
	[ 付属病院形成外科・美容外科 ] .....	394
	[ 第二病院形成外科 ] .....	401
	[ 千葉北総病院形成外科 ] .....	402
20.	付属病院付置施設等 .....	403
	[ 付属病院集中治療室 ] .....	403
	[ 付属病院病理部 ] .....	409
	[ 付属病院中央検査部 ] .....	415

	[ 付属病院薬剤部 ] .....	416
	[ 付属病院生理機能センター ] .....	419
	[ 付属病院看護部 ] .....	421
	[ 付属病院放射線科技師室 ] .....	425
	[ 日本医科大学腎クリニック ] .....	427
	[ ワクチン療法研究施設 ] .....	428
21.	第二病院付置施設等 .....	429
	[ 第二病院消化器病センター ] .....	429
	[ 第二病院リハビリテーションセンター ] .....	432
	[ 第二病院病理部 ] .....	435
	[ 第二病院中央検査室 ] .....	440
	[ 第二病院薬剤科 ] .....	440
	[ 第二病院看護部 ] .....	441
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	443
	[ 多摩永山病院病理部 ] .....	443
	[ 多摩永山病院中央検査室 ] .....	448
	[ 多摩永山病院薬剤科 ] .....	450
	[ 多摩永山病院看護部 ] .....	451
	[ 多摩永山病院放射線科技師室 ] .....	452
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	454
	[ 千葉北総病院内科 ] .....	454
	[ 千葉北総病院集中治療室 ] .....	467
	[ 千葉北総病院リハビリテーション科 ] .....	472
	[ 千葉北総病院病理部 ] .....	473
	[ 千葉北総病院中央検査室 ] .....	476
	[ 千葉北総病院薬剤科 ] .....	477
	[ 千葉北総病院中央画像検査室 ] .....	477
	[ 千葉北総病院歯科 ] .....	479
	[ 千葉北総病院看護部 ] .....	480
〔4〕付置研究施設		
1.	老人病研究所 .....	483
	[ 病理学部門 ] .....	483
	[ 生化学部門 ] .....	486
	[ 免疫部門 ] .....	490
	[ 疫学部門 ] .....	492
	[ 分子生物学部門 ] .....	495
	[ 臨床部門 ] .....	503
〔5〕その他		
1.	教育推進室 .....	507

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	513
1. 平成14年度科学研究費補助金交付決定一覧 .....	513
2. 平成14年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況 .....	520
3. 平成14年度厚生労働省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況 .....	520
4. 平成14年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況 .....	522
5. 平成14年度各種補助金の交付状況一覧 [ 内訳 ] .....	524



## 〔 1 〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [国文学]

### 研究概要

本年度は、2001年度の英国留学体験をもとに、「近代作家の留学体験」を主な研究対象とし、他に「近代文学と病い」、「文学作品における＜空間＞」、「現代女性作家研究」などのテーマで、研究を展開した。

に関しては、「森 外とベルリン」、「永井荷風とシアトル」、「島崎藤村・林芙美子とパリ」、「芥川龍之介・横光利一と上海」の関係を大学の講演で扱い、「夏目漱石の文学とロンドン」との関わりについて、学士会館で講演した。

については、徳富蘆花「不如帰」、堀 辰雄「風立ちぬ」における結核の意味、樋口一葉「にぎりえ」の婦人病、芥川龍之介「歯車」に描かれた精神の病い、村上春樹「ノルウェイの森」の自殺などを授業で取り上げた。

については、国文学の専門誌に「石坂洋次郎と軽井沢」という論文を発表した。

に関しては、佐藤愛子の随筆の文庫本に、佐藤愛子年譜最新版を執筆した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 神田由美子：石坂洋次郎と軽井沢．国文学解釈と鑑賞 2003；別冊：152-159．

#### 著書

- 1) 神田由美子：〔分担〕年譜．不運は面白い 幸福は退屈だ（佐藤愛子），2002；pp276-287，集英社．
- 2) 神田由美子：〔自著〕二十世紀ロンドン幻視行 英京倫敦膝栗毛，2003；碧天舎．

## [心理学]

### 研究概要

本年度は、一昨年から取り組んでいた臨床心理学の教科書「臨床心理学講義 - 実習を通して学ぶ」を出版することができた。また、昨年来責任編集作業に取り組んでいたアヴェ・ラルマンの「バウムテスト」の翻訳書を7月に出版した。

1. 日本芸術療法学会において「心身症患者の投影描画法テストの検討」を高名清養病院の原信一郎氏と国士館大学の鈴木康明氏とともに発表した。日本心理臨床学会において「投影描画法テストバッテリーの検討その1」を鈴木康明氏と発表した。京都文教コラーージュ療法研究会で「イメージと癒し - 不登校児を持つ母親の変化」を発表した。

2. 本学基礎紀要第32号に「食事摂取が精神活動に及ぼす影響」を成城墨岡クリニックの高梨利恵子氏と共著で、「不登校児の親の会における投影描法テストバッテリーとその意義」を早稲田大学大学院八木早霧氏と共著で発表した。

3. 東京コラ - ジュ療法研究会を2002年5月，7月，9月，11月，2003年2月の5回行った。今年度は代表的なコラーージュ研究家・実践家が「コラーージュ療法体験」、「これまでの研究の総括と事例報告」、「同時製作法の効果，相互作用に関して」、「合同法からみた母子関係」、「マグリットの絵画をコラーージュの特性を考えながら分析，理解する試み」の発表を行った。その他，長野県教育センター，法務省研修センター，町田教育センターなどで講師を務めた。また日本心理臨床学会でワークショップの講師や座長を務めた。日本箱庭療法学会で指定討論を勤めた。日本カウンセリング学会の研修会（広島大会，静岡大会），日本学校相談学会の研修会の講師を勤めた。日本歯科医師会主催の海外歯科問題フォーラムのシンポジストを勤めた。

4. 学生相談室が開室以来8年目となった。新入生全員にUPI（学生健康調査）テストを行った。2001年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第7号を発行した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 杉浦京子, 原信一郎, 鈴木康明：心身症患者（アトピー性皮膚炎・気管支喘息患者）の投影描画法テストの検討．日本芸術療法学会誌 2002；33（1）：5-14．
- 2) 杉浦京子, 高梨利恵子：食事摂取が精神活動に及ぼす影響．日本医科大学基礎科学紀要 2002；（32）：33-40．
- 3) 杉浦京子, 八木早霧：不登校児の親の会における投影描画法テストバッテリーとその意義：投影描画法テストバッテリーから見た母親の変化．日本医科大学基礎科学紀要 2002；（32）：63-93．

### 著書

- 1) 杉浦京子：〔編集〕ワルテッグ描画テスト：心理相談のための，2002；pp1-203，川島書店．
- 2) 杉浦京子：〔単著〕臨床心理学講義：実習を通して学ぶ，2002；pp1-297，朱鷺書房．
- 3) 杉浦京子：〔編集〕パウムテスト，2002；pp1-227，川島書店．
- 4) 杉浦京子：〔共著〕我慢すぎる子の心理と課題．児童心理，2003；pp183-187，金子書房．

### 学会発表

#### (1) ワークショップ：

- 1) 杉浦京子：コラージュ療法．日本心理臨床学会，2002．9．

#### (2) ポスター発表：

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明：投影描画法テスト・バッテリーの検討 その1：星と波テスト・ワルテッグ描画テスト・パウムテストの検討．日本心理臨床学会，2002．9．

#### (3) 指定討論：

- 1) 杉浦京子：描画解釈における模写の意義．日本箱庭療法学会，2002．9．

#### (4) 自主シンポジウム：

- 1) 杉浦京子, 入江 茂：老年期におけるコラージュ療法．日本心理臨床学会，2002．9．

## [ 歴史学 ]

### 研究概要

平成13（2001）年6月より『南北朝遺文』関東編（1333年12月～1395年12月までの関東およびその西に接する伊豆・駿河・甲斐・信濃・越後・佐渡に関する古文書を編年順に収めた史料集，全6巻の予定）の編纂作業を行っている（佐藤和彦・帝京大学教授，山田邦明・東京大学史料編纂所助教授，伊東和彦・本学非常勤講師，角田朋彦・駒澤大学院生）。

平成14（2002）年度は，すでに収集した県史や若干の市町村史の史料のほかに，『大日本史料』から該当地域の文書を補充し，平成15（2003）年1月より第1巻収録予定の文書の採否およびその掲載順などの検討作業を行っている。

### 研究業績

#### 著書

- 1) 阿部朝衛：〔事典〕天台本覚思想・鎌倉旧仏教．日本文化史ハンドブック（阿部 猛・西垣晴次〔編〕），2002；pp120-122，東京堂出版．

## [ 文化人類学 ]

### 研究概要

文化・文明の構造と機能，人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性，生活の豊かさの本質，現代社会における宗教的精神性の意義，理想的社会像とその方向性等について究明している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：祈りの芽生え：自分自身の体験から．日医大基礎科学紀要 2002；(32)：105-114．

## [ 経済学 ]

### 研究概要

経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，これまでの研究を継続，発展させてきた．

従来から実施してきた電子マネーに関する研究に関して，今年度はとくに理論的研究に重点を置き，電子マネーを切り口に「貨幣」について考察し，電子マネーの貨幣論的位置づけを明らかにすることに務めた．

また，日本経済・世界経済の現状把握のための研究会では，一昨年来日本の雇用に関する調査研究をすすめているが，今年度は日本の雇用喪失を東アジア，とりわけ中国の台頭との係わりでとらえ，現状と課題を明らかにした．その際，現代のリーディング産業である電機・電子産業の技術的特性に着目し，日本の電機メーカーの海外シフトと中国の台頭をもたらした背景を明らかにしている．その成果は，研究会での発表，シンポジウムなどで公表してきたが，現在報告書にまとめているところである．

現在では，北東アジアを中心に日本企業を中心とする企業内・間ネットワークの形成が進んでおり，電機・電子産業だけでなく自動車産業にも広がりつつある．その現状把握を進めているところである．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三輪春樹：電子マネーの「貨幣論」．総合教育センター紀要（東海大学総合教育センター） 2002；(22)：55-69．

##### (2) 研究報告書：

- 1) 三輪春樹：東アジア経済の発展と日本の雇用．グローバル化・IT革命と日本の雇用に関する調査研究報告書（雇用・能力開発機構，先端技術産業調査会） 2002；pp55-72．

### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 松田周三<sup>1)</sup>，広田 薫<sup>2)</sup>，小島末夫<sup>3)</sup>，三輪春樹，三浦宏一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日刊工業新聞社，<sup>2)</sup> 日本能率協会総合研究所，<sup>3)</sup> 国土館大学21世紀アジア学部，アジア日本研究センター)：東アジアの新動向と日本の雇用．アジア・日本研究センター（国土館大学），2002．10．

##### (2) セミナー：

- 1) 三輪春樹：メイドインチャイナの時代の東アジア経済．21世紀アジア学部創設記念講演会，2002．11．

##### (3) 一般講演：

- 1) 三輪春樹：東アジアの新動向と日本の雇用．アジア・日本研究センター（国土館大学），2002．5．

## 2. 自然科学

### [数 学]

#### 研究概要

4次元 hierarchical  $O(N)$  model の連続極限が Gauss 測度となることの証明の概略を得た .

Lorenzenhof (ドイツ) の Mathematisches Forschungsinstitut Oberwolfach における研究会 "Renormalization Group" に invited speaker として参加した .

文部科学省 検定教科書「数学 III」の編集に携わった . (渡辺)

作用素の差が positive definite になるという意味での order を保存する作用素関数を作り , その応用を示した .

また , Kantorovich type の不等式のある意味での拡張を考えた .

"次元"について様々な角度から考察した . (儀我)

#### 研究業績

##### 論 文

##### (1) 原著 :

1) Giga M , Cho M<sup>1)</sup> , Han YM<sup>2)</sup> , Huruya T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Kanagawa University , <sup>2)</sup>Iowa University, USA , <sup>3)</sup>Niigata University ): Rectangular cutting for operators associated with hyponormal operators and increasing functions . Far East J. Math. Sci 2002 ; 7 ( 3 ): 333-339 .

##### (2) 綜説 :

1) Watanabe H : Triviality of hierarchical Ising model in four dimensions . 数理解析研究所 講究録 2002 ; 1275 : 193-205 .

2) 渡辺 浩 : 構成的場の理論と繰り込み群 . 日本医科大学基礎科学紀要 2002 ; 32 : 1-31 .

3) 渡辺 浩 : 無限自由度の数理 . 数学セミナー 2003 ; 42 ( 1 ): 28-30 .

##### (3) 研究報告書 :

1) Giga M : Dimensions . The third international conference on mathematics education and cultural history of mathematics in this information-oriented society, Proceedings 2002 ; 3 : pp133-135 .

##### 著 書

1) 渡辺 浩 , 青木健一<sup>1)</sup> , 泉 正己<sup>2)</sup> , 磯崎 洋<sup>3)</sup> , 廣島文生<sup>4)</sup> , 森吉仁志<sup>5)</sup> , 吉田伸生<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>金沢大学理学部物理学教室 , <sup>2)</sup>京都大学大学院理学研究科 , <sup>3)</sup>東京都立大学大学院理学研究科 , <sup>4)</sup>摂南大学工学部数学物理学系教室 , <sup>5)</sup>慶応義塾大学工学部数理科学科 , <sup>6)</sup>京都大学大学院理学研究科 ): [ 共著 ] 繰り込み群解析 . 数理解析物理への誘い 4 ( 荒木不二洋 ), 2002 ; pp41-62 , 遊星社 .

##### 学会発表

##### (1) セミナー :

1) 儀我真理子 : Kantorovich 不等式について . 作用素論セミナー , 2002 . 12 .

##### (2) 一般講演 :

1) Giga M : Dimensions . The third international conference on mathematics education and cultural history of mathematics in this information-oriented society ( Kyoto ), 2002 . 7 .

2) 儀我真理子 : order を保存するある作用素関数 . 作用素の構造と関連する最近の話題 ( 数理解析研究所 , 共同研究集会 ), 2003 . 1 .

3) 儀我真理子 : Some operator functions implying order preserving inequalities . 日本数学会 年会 , 2003 . 3 .

## [ 物理学 ]

### 研究概要

1) トロポロンおよびそのハロゲン置換体の最低励起状態におけるトンネル効果によるプロトン移動の理論的研究を行っている。以前にフロンティア分子軌道がミオシンによるATP加水分解の初期過程を示唆するという結果を得たが、さらに反応の進んだ状態(遷移状態)についての量子化学計算を行っている。[香川]

2) 米国留学から帰国。以前の研究を継続している。具体的には、地球上で最初に酸素を発生する機構を獲得した生物であるシアノバクテリアの光捕集性色素タンパク質複合体(フィコビリソーム)内での励起エネルギー移動機構の理論的研究を行っている。この研究を遂行する上での一つのステップとして、Duschinsky mixing を考慮した、多次元 Franck-Condon 因子の新しい計算方法を開発した。[菊地]

3) 量子 - 古典対応領域での古典カオスと量子カオスの対応について検討を続けている。特に、既に報告してきた modified standard map を含んで新たな結論も得られ、FST 2003 国際会議に発表する。また Phys. Rev. などに発表予定である。この領域は、最近のナノチューブ構造を含む、原子、分子系の材料科学や、短時間領域での現象、メソスコピック物理、また量子、古典対応の基礎的問題においても興味ある領域である。また、量子カオスの新たな、新しい量子力学建設の可能性も含めた取扱いも検討している。更に、神経系のカオスについて昨年度の検討を続行し、興味ある結果が得られ、発表の予定である。[須田]

4) 素粒子の質量、特に、チャーモニウムやボトモニウムの質量をハイブリッドのポテンシャル(遠距離ではリニアポテンシャル、近距離ではクーロンポテンシャルに近づく)で分析している。対象となる粒子の範囲を広げて解析する予定である。また、引き続き LFQCD の勉強も続けている。[三浦]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Mori K<sup>1)</sup>, Ichimura A<sup>2)</sup>, Kagawa H ( <sup>1)</sup>WCSC, <sup>2)</sup> Kokushikan University ): Study of Tunneling Splitting with Symmetrically-Combined Morse Potential Model Using Associated Laguerre Basis Functions . J. Mol. Struct. ( THEOCHEM ) 2002 ; 581 : 31-36 .
- 2) Mori K<sup>1)</sup>, Kawachi S<sup>2)</sup>, Tachikawa M<sup>3)</sup>, Kagawa H ( <sup>1)</sup>WCSC, <sup>2)</sup> Tokyo Institute of Technology , <sup>3)</sup>RIKEN ): AM1-RPA Calculation for Proton Tunneling in Excited States of Hydrogen Bonding Systems Using the Program "RADON" . Mem. Kokushikan Univ. Cent. Inform. Sci. 2003 ; ( 24 ): 44-52 .

## [ 化学 ]

### 研究概要

石田:

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム(IV), ハフニウム(IV), および他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原:

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および、不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成

(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中：

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

(1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン，電子移動反応

中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

(1) 生体内微量元素等と疾患，環境等との関連

永井：

2, 2'-ピピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

(1) 錯体の合成

(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構

(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究

(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

CMセルロースTLCおよびゼオライトTLCに関する研究

(1) 塩類水溶液系 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動

(2) 吸着挙動におよぼす諸因子の検討

(3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

(1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構

(2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

## 研究業績

論文

(1) 原著：

1) Tanaka M, Miki E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Chemistry, College of Science, Rikkyo University): The importance of preferential solvation of the CN ligands in electron- and proton-transfers observed for *cis*-[Ru(CN)<sub>2</sub>(bpy)<sub>2</sub>] under ion bombardment. J. Am. Soc. Mass Spectrom. 2002; 13(10): 1209-1217.

2) Nihira M<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup>, Tanaka M, Hayashida M<sup>1)</sup>, Tomita Y<sup>1)</sup>, Hirakawa K<sup>1)</sup>, Uekusa K<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Legal Medicine, Nippon Medical School): Gas Chromatographic/ Mass Spectrometric Analysis of Aconitine: Changes of Aconitine Levels in Several Organs after its Administration to Mice. Jpn. J. Forensic Toxicol. 2003; 21(1): 38-46.

学会発表

(1) 一般講演：

1) 田中幹夫，三木瑛一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立教大学理学部化学科): ニトロシルルテニウム錯体のLSIMS，MIマスペクトルで観察された配位子効果．第50回 質量分析総合討論会，2002．

2) 田中幹夫，三木瑛一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>立教大学理学部化学科): ニトロシルルテニウム錯体のLSIMS，MIマスペクトルで観察された配位子効果 II．第52回 錯体化学討論会，2002．

## [ 生物学 ]

### 研究概要

1) 植物の生育可能な期間が短くまた、年毎の環境変動も激しい北極圏において、植物の適応現象を生態学的に研究している。北極圏は温暖化の影響が最も大きいと危惧され、そこに生育する植物の生態に関する基礎データの収集は、気候変化に対する生態系反応予測の上でも重要である。平成12年度から科研費補助金を受け、プレフォーメーション（翌春の成長のために芽の中に葉や繁殖器官を準備する現象）、フェノロジー（一生育シーズン内での成長と繁殖のスケジュール）、生態特性の遺伝的変異に主眼を置いて研究している。毎年夏のノルウェーでの野外調査に加え、栽培実験により環境条件がプレフォーメーションとフェノロジーに与える影響も調べている。(西谷)

2) カロテノイド色素に関して、物理化学的性質、紅色光合成細菌のケト化酵素遺伝子の単離・酵素の性質、大腸菌を用いて代謝工学的手法により種々の遺伝子を組み合わせさせて発現させて酵素の性質と生産物の検討、新規ヘリオバクテリアのジアポニューロスポレン配糖体エステルと同定と生合成経路、緑色イオウ光合成細菌の色素分析、原始的緑藻の進化と色素組成の関係、イモリ腹部の赤色素の同定、などを研究している(国際、国内共同研究)。(高市)

3) 英語の生理活性脂質データベースLIPID<sub>BANK</sub> for Webのカロテノイド部門の責任者としてデータの追加・修正と紹介をした。国際原核光合成生物シンポジウム(2003年、東京)の組織委員、日本植物生理学会の評議委員を務めている。他大学の大学院学生などに対する研究指導も行っている。(高市)

4) 各種ウニの正常発生(受精から稚ウニまで)の比較を行った。ウニ類でも正形類(パフンウニなど)と不正形類(タコノマクラなど)ではこれまで知られている以上の相違が明らかになった。また従来からのウニ体腔細胞(4種類)の培養(増殖)法の確立と細胞株の樹立、発生学上の由来についても検討を行った。(関)

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) El-Sayed WSM<sup>1)</sup>, Takaichi S, Saida H<sup>2)</sup>, Kamekura M<sup>3)</sup>, Abu-Shady M<sup>1)</sup>, Seki H<sup>4)</sup>, Kuwabara T<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Ain Shams Univ., Egypt, <sup>2)</sup> Toyama Univ. of International Studies, <sup>3)</sup> Noda Institute for Scientific Research, <sup>4)</sup> Univ. of Tsukuba): Effects of light and low oxygen tension on pigment biosynthesis in *Halobacterium salinarum*, revealed by a novel method to quantify both retinal and carotenoids. Plant Cell Physiol. 2002; 43 (4): 379-383.
- 2) Yoshii Y<sup>1)</sup>, Takaichi S, Maoka T<sup>2)</sup>, Hanada S<sup>3)</sup>, Inouye I<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Univ. Tsukuba, <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ., <sup>3)</sup> National Institute of Advanced Industrial Science and Technology): Characterization of two unique carotenoid fatty acid esters from *Pterosperma cristatum* (Prasinophyceae, Chlorophyta). J. Phycol. 2002; 38 (2): 297-303.
- 3) Takaichi S, Misawa N<sup>1)</sup>, Ito M<sup>2)</sup>, Yamano Y<sup>2)</sup>, Maoka T<sup>3)</sup>, Yokoyama A<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Marin Biotechnology Institute, <sup>2)</sup> Kobe Pharmaceutical Univ., <sup>3)</sup> Kyoto Pharmaceutical Univ., <sup>4)</sup> Eco-Techno Co., Ltd.): LIPID<sub>BANK</sub> for Web, a newly developed lipid database in Japan: carotenoid class. Carotenoid Sci. 2002; 5 (1): 44-51.
- 4) Steiger S<sup>1)</sup>, Takaichi S, Sandmann G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Goethe Univ.): Heterologous production of two novel acyclic carotenoids, 1, 1'-dihydroxy-3, 4-didehydrolycopene and 1-hydroxy-3, 4, 3', 4'-tetrahydrolycopene by combination of the *crtC* and *crtD* genes from *Rhodobacter* and *Rubrivivax*. J. Biotechnol. 2002; 97 (1): 51-58.
- 5) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ohmura S<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Uehara K (<sup>1)</sup> Osaka Pref. Univ.): Photoadaptation of green sulfur photosynthetic bacterium *Chlorobium phaeobacteroides*. J. Photosci. 2002; 9 (2): 364-366.
- 6) Takaichi S, Oh-oka H<sup>1)</sup>, Maoka T<sup>2)</sup>, Jung DO<sup>3)</sup>, Madigan MT<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Osaka University, <sup>2)</sup> Kyoto Pharmaceutical University, <sup>3)</sup> Southern Illinois University): Novel carotenoid glucoside esters from alkaliphilic heliobacteria. Arch. Microbiol. 2003; 179 (2): 95-100.



## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ohmura S<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Uehara K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Osaka Pref. University): Photoadaptation of green sulfur photosynthetic bacteria *Chlorobium phaeobacteroides*. 1st Asian Conference on Photobiology (Hyogo, Japan), 2002. 6.
- 2) Hirabayashi H<sup>1)</sup>, Ohmura S<sup>1)</sup>, Ishii T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Uehara K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Osaka Pref. University): Effect of carotenoids on the aggregation of bacteriochlorophyll in the chlorosome of green sulfur photosynthetic bacteria *Cb. phaeobacteroides*. 14th International Conference on Photochemical Conversion and Storage of Solar Energy (Sapporo, Japan), 2002. 8.
- 3) Takaichi S: How many enzymes are required for carotenogenesis in purple photosynthetic bacteria? International Workshop on the Construction of Nono-Devices Based on Bacterial Light-Harvesting Complexes (Osaka, Japan), 2002. 12.
- 4) 高市真一: 光合成細菌におけるカロテノイド配糖体脂肪酸エステルが存在と機能. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー - X, 2002. 6.
- 5) 原田二郎<sup>1)</sup>, 高市真一, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立大・理・生物): 紅色光合成細菌におけるスフェロイデンのケト化は光酸素障害を防止している. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー - X, 2002. 6.
- 6) 平林博樹<sup>1)</sup>, 大村達史<sup>1)</sup>, 石井孝定<sup>1)</sup>, 高市真一, 上原 赫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大阪府大・先端研): 緑色イオウ光合成細菌 *Cb. phaeobacteroides*の光適応. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー - X, 2002. 6.
- 7) 関 俊則, 後藤英司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市立大学・医学教育): 専門書を教科書とした生物学教育. 第34回日本医学教育学会大会, 2002. 7.
- 8) 高市真一: 紅色光合成細菌のスフェロイデン経路とケト化酵素. 第16回カロテノイド研究談話会, 2002. 9.
- 9) 高市真一, 松井久実<sup>1)</sup>, 中村正久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>早大・教育・生物): オキアミのアスタキサンチン・エステルには特定の脂肪酸が結合している. 第16回カロテノイド研究談話会, 2002. 9.
- 10) 高市真一, Madigan MT<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Southern Illinois Univ. ): スフェロイデン経路をもつ光合成細菌は必ずケト化酵素をもつ. 日本植物学会第66回大会, 2002. 9.
- 11) 西谷里美, 増沢武弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大・理・生物): 北極圏のムカゴトラノオ: むかごの色変異と発芽特性. 第25回極域生物シンポジウム, 2002. 12.
- 12) 高市真一: 紅色光合成細菌のカロテノイド生合成には何種類の酵素が必要か? 日本植物生理学会2003年度年会および第43回シンポジウム, 2003. 3.
- 13) 三室 守<sup>1)</sup>, 秋本誠志<sup>2)</sup>, 村上明男<sup>3)</sup>, 坂和貴洋<sup>4)</sup>, 高市真一, 山崎 巖<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>京大院・地球環境学堂, <sup>2)</sup>北大院・工学研究科, <sup>3)</sup>神戸大・内海域センター, <sup>4)</sup>山口大院・理工学): 緑藻ミルにおけるシフォナキサンチンからクロロフィルへのエネルギー移動過程の解析. 日本植物生理学会2003年度年会および第43回シンポジウム, 2003. 3.
- 14) 原田二郎<sup>1)</sup>, 高市真一, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 嶋田敬三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>都立大・理・生物): 紅色光合成細菌におけるケト化カロテノイドによる高い光酸化障害防御作用. 日本植物生理学会2003年度年会および第43回シンポジウム, 2003. 3.

## 3. 外国語

### [ 英 語 ]

#### 研究概要

The English Department's syllabus for the 2002 academic year included, as usual, training in the four major language skills. In the writing component, instruction was given in academic writing skills, focusing on hormone disrupting chemicals. Seminars were given on literature and media English, and the second-year students were offered a series of lectures on "Body and Medicine in 18th- and 19th-Century British Literature" and on Shakespeare's Romeo and Juliet.

The department continued to pursue both linguistic and literary research and contributed to several publications in the 2002 academic year. In the linguistic field, the published work focused on English grammar and usage (particularly in relation to the topic and subject in passive constructions) and communicative skills. In the latter area, a contribution was made to a government-approved textbook for the Oral Communication I component of the high school curriculum. We also cooperated in the collection and editing of materials from the American Heart Association's conference in Chicago in November, 2002.

The department's involvement in research into "Body, Medicine and Culture" continued. This research focused on the description of the female body and motherhood in Maria Edgeworth's novels, and also on breast reconstruction after a mastectomy, with special reference to Audre Lorde. Part of the work was made public through an article and a presentation. Fanny Burney's letter on her own experience of a mastectomy was also translated into Japanese with detailed notes on the text.

#### 研究業績

##### 論 文

##### (1) 原著:

- 1) ミントン TD: 実用英文法講義・時事英語 Current English 2002; 57 (1-9, 各号3ページ分).
- 2) 西川純恵: 日英語における主題・主語の認識と「言語転移」 英語受動文の場合. 日本医科大学基礎科学紀要 2002; (32): 95-104.
- 3) ミントン TD: 実用英文法講義・時事英語 Current English 2003; 57 (10-12, 各号3ページ分).

##### (2) Articles:

- 1) ピーターセンマーク<sup>1)</sup>, ミントン TD (1) 明治大学): アメリカ英語とイギリス英語 (第3回) 日本人英語学習者へ向けて. 時事英語 Current English 2003; 57 (12): 37-42.
- 2) ミントン TD: 新しいイギリスをプロモートする英国大使の素顔. イングリッシュ・ジャーナル 2002; 82-83.
- 3) ミントン TD: ジェイミ・オリバー. イングリッシュ・ジャーナル 2002; 88-93.
- 4) ミントン TD: Sir Stephen Gomersall: イギリスと日本を結ぶ強い絆. イングリッシュ・ジャーナル 2002; 19-30.
- 5) ミントン TD: Learning, Improving, 日本人の間違いだらけの英文法完全治療クリニック. イングリッシュ・ジャーナル 2002; (4-12月号, 毎号1ページ分).
- 6) ピーターセンマーク<sup>1)</sup>, ミントン TD (1) 明治大学): アメリカ英語とイギリス英語 (第1回) 日本人英語学習者へ向けて. 時事英語 Current English 2003; 57 (10): 19-26.
- 7) ピーターセンマーク<sup>1)</sup>, ミントン TD (1) 明治大学): アメリカ英語とイギリス英語 (第2回) 日本人英語学

習者へ向けて．時事英語 Current English 2003 ; 57 ( 11 ) : 20-27 .

8) ミントン TD : Learning, Improving, 日本人の間違いだらけの英文法完全治療クリニック．イングリッシュ・ジャーナル 2003 ; ( 1-3月号, 毎号1ページ分) .

(3) 翻訳 :

1) 中村哲子 : 乳房切除 ファニー・パーニーの書簡より . 日本医科大学基礎科学紀要 2002 ; ( 32 ) : 115-139 .

著 書

1) Fellows J gen ed , Nakamura T ( <sup>1</sup> Cambridge University ) : [ 分担編集 ] Annual Bibliography of English Language and Literature for 2001, Vol. 76 , 2002 ; Maney Publishing for the Modern Humanities Research Association, Leeds .

2) 中村哲子 : [ 分担 ] 注釈 . John Steinbeck, Of Mice and Men ( 齋藤兆史 < 監修 > , ロン・カーター < 解説 > ) , 2002 ; pp107-126 , ICG ミューズ出版 .

3) 中村哲子 : [ 分担 ] 乳癌を病むドラクール子爵夫人 , そして女の欲望 マライア・エッジワースの『ペリンダ』( 1801年 ) をめぐって . 身体医文化論 感覚と欲望 ( 石塚久郎・鈴木晃仁 ) , 2002 ; pp189-214 , 慶應義塾大学出版会 .

4) 竹村日出夫<sup>1)</sup> , Minton, TD , 増山久一郎<sup>2)</sup> , 今井孝之<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 工学院大学 , <sup>2)</sup> さいたま市立浦和高等学校 , <sup>3)</sup> 郁文館高等学校 ) : [ 共著 ] True Colors, Oral Communication I , 2003 ; pp1-95 , 数研出版 .

5) 竹村日出夫<sup>1)</sup> , Minton TD , 横山久一郎<sup>2)</sup> , 今井孝之<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 工学院大学 , <sup>2)</sup> さいたま市立浦和高等学校 , <sup>3)</sup> 郁文館高等学校 ) : [ 共著 ] True Colors, Oral Communication I, Workbook , 2003 ; pp1-88 , 数研出版 .

6) 竹村日出夫<sup>1)</sup> , Minton TD , 横山久一郎<sup>2)</sup> , 今井孝之<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 工学院大学 , <sup>2)</sup> さいたま市立浦和高等学校 , <sup>3)</sup> 郁文館高等学校 ) : [ 共著 ] True Colors, Oral Communication I, Teacher's Manual ( CO-ROM 付 ) , 2003 ; pp1-286 , 数研出版 .

学会発表

(1) セミナー :

1) Minton, TD : 英文法を考える . 全国商業高等学校協会第39回実用英語セミナー , 2002 . 8 .

(2) ワークショップ :

1) 中村哲子 : 乳房再建 成立とその背景 . 身体医文化論研究会第3回ワークショップ , 2003 . 3 .

## [ ドイツ語 ]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く「Kommunikativer Sprachunterricht」が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室

では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 安藤 勉：フィッシャー夫妻と近代日本の諸相。明治日本美術紀行（講談社学術文庫）所収 2002；203-227。
- 2) 安藤 勉：内地旅行免状にみるベルツ、ウェストン、リース、フィッシャーなど：長野県飯田市に残る旅行免状写し『外国人性（ママ）名留』について。日独文化交流史研究 2002；（5）：51-68。

### 著書

- 1) 安藤 勉：〔翻訳〕フリーダ・フィッシャー：明治日本美術紀行，2002；pp1-233，講談社（学術文庫）。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 国信浩洋：オイレンブルクと諸外国外交官。日本独学史学会，2002。12。
- 2) 安藤 勉：ベルツ、フィッシャーなどの内地旅行免状について：とくに『ベルツの日記』の空白を埋めるもの。日本独学史学会，2002。12。

## 4. スポーツ科学

### [ スポーツ科学 ]

#### 研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 運動前の全身の加温により骨格筋 HSP70 を増加させることが、その後の運動時の骨格筋の損傷を抑制することを明らかにした。2) 尾部懸垂により廃用性筋萎縮をラットに起こさせる際に、定期的に骨格筋に熱負荷をすると骨格筋 HSP70 の増加が生じ筋萎縮が軽減されることを明らかにした。3) 他大学の研究者との共同研究により、骨格筋での糖取り込みがキサンチンオキシダーゼ反応による過酸化水素の産生により引き起こされること（佐賀医科大学との共同研究）、また尾部懸垂により廃用性筋萎縮をラットに起こさせる際に、定期的にアイソメトリック運動を負荷すると骨格筋 HSP70 の増加が生じ筋萎縮が軽減されること（慈恵医科大学との共同研究）を明らかにした。

武藤：以下の項目について研究を行った。1) カンボジアシュムリアップ州で開催された青少年スポーツ大会（NPO ハートオブゴールド主催）の一環として現地で体力測定を行い、発展途上国の青少年の体格、体力、および運動習慣等の調査研究を行った。同年齢の日本人と比較して体格、体力とも顕著に劣り、体力では特に筋力が影響する種目が劣り、女子では加齢に伴う発達が見られなかった。また運動習慣と体力の間には関係が認められ、特に男子ではサッカーが体力向上に貢献していることが判明した。2) 高齢者用生活活動体力の測定器具を開発し、従来の測定方法より有用性が高いことを明らかにした。さらにその器具を使用するバッテリーテストを作成し、測定値の標準化を進めている。3) 大学生および看護学生の運動およびスポーツとストレスの関係について調査研究を行った。多くの学生がストレスを日常的に感じ、ストレス対処には運動およびスポーツが役立つという思考が高いが、運動習慣のある学生は少なかった。さらにストレスの少ない学生は体力が高い傾向が明らかとなった。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 三上俊夫, 反町 誠<sup>1)</sup>, 伊地知哲也<sup>2)</sup>, 福生吉裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>住友不動産フィットネス, <sup>2)</sup>コンビ株式会社ファンクショナルフーズ事業部, <sup>3)</sup>博慈会老人病研究所): 運動トレーニング時の組織SOD活性と過酸化脂質量に及ぼすメロンSOD投与の影響. 未病と抗老化 2002; 11: 64-68.
- 2) 白石まりも<sup>1)</sup>, 武藤三千代(<sup>1)</sup>二松学舎大学): 大学生におけるスポーツとストレスに関する1考察. 運動とスポーツの科学 2002; 8(1): 87-92.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Muto M, Yamauchi K<sup>1)</sup>, Watanabe R<sup>2)</sup>, Okada C<sup>3)</sup>, Nakayama M<sup>4)</sup>, Hirata D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Keio University, <sup>2)</sup>Kanagawa Prefectural College of Nursing and Medical Tecology, <sup>3)</sup>Osaka University of Foreign Studies, <sup>4)</sup>Japan Overseas Cooperation Volunteers): The Study of Physique and Physical Performance in the Youth of Siem reap Province in Cambodia. International Council for Health, Physical Education, Recreation Sport and Dance (Bangkok Thailand), 2003. 3.
- 2) Yamauchi K<sup>1)</sup>, Muto M, Watanabe R<sup>2)</sup>, Hirata D<sup>1)</sup>, Okada C<sup>3)</sup>, Nakayama M<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>Keio University): The Relation between the Lifestyle and Physical Performance in the Youth of Siem reap Province in Cambodia. International Council for Health, Physical Education, Recreation Sport and Dance (Bangkok Thailand), 2003. 3.
- 3) 白石まりも<sup>1)</sup>, 武藤三千代(<sup>1)</sup>二松学舎大学): 大学生におけるスポーツとストレスの1考察. 日本体育学会測定評価専門分科会例会, 2002. 5.
- 4) 武藤三千代, 白石まりも<sup>1)</sup>, 大内哲彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>二松学舎大学, <sup>2)</sup>日本体育大学): 高齢者の体力と運動習慣について. 日本運動・スポーツ科学学会第9回大会, 2002. 6.
- 5) 檜垣靖樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 小山勝弘<sup>2)</sup>, 清野哲也<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>佐賀医科大学医学部地域保健科, <sup>2)</sup>山梨大学教育人間学部, <sup>3)</sup>木更津高等専門学校): 過酸化水素によるラット骨格筋での糖取り込みの亢進. 第10回日本運動生理学会総会, 2002. 7.
- 6) 四倉寛子<sup>1)</sup>, 賀来佳男<sup>1)</sup>, 山岡宣行<sup>1)</sup>, 山沖佳愛<sup>1)</sup>, 三上俊夫(<sup>1)</sup>医学部第2学年): 運動前の熱負荷による骨格筋HSP70の増加は運動時の筋損傷を抑制する. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 7) 三上俊夫, 反町 誠, 山内秀樹(<sup>1)</sup>住友不動産フィットネス, <sup>2)</sup>慈恵医科大学リハビリテーション医学講座体力医学研究室): 運動前の熱ストレスによるHSP70の増加は運動時の筋損傷を抑制する. 第70回日本体力医学会総会, 2002. 9.
- 8) 武藤三千代, 白石まりも<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>二松学舎大学): 看護学生における運動とストレスについて. 第61回日本公衆衛生学会総会, 2002. 10.
- 9) 増田敬子<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 衣笠竜太<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立衛生短期大学, <sup>2)</sup>日本体育大学): 10m障害物歩行における自動測定器の有用性. 日本体育測定評価学会第2回大会, 2002. 11.
- 10) 渡部隼二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 衣笠竜太<sup>2)</sup>, 増田敬子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立衛生短期大学, <sup>2)</sup>日本体育大学): 生活体力測定の検討. 日本体育測定評価学会第2回大会, 2002. 11.
- 11) 山内秀樹<sup>1)</sup>, 三上俊夫, 刈谷文彦<sup>2)</sup>, 宮野佐人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慈恵医科大学リハビリテーション医学講座体力医学研究室, <sup>2)</sup>国際武道大学): 非荷重による筋萎縮に対する運動の抑制効果と熱ショック蛋白質70の変化. 第80回日本生理学会大会, 2003. 3.

## 〔 2 〕 基 礎 医 学

# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

本講座では、各種組織や器官の構造と機能の関係を明らかにする目的で、以下に示す様々な手法を用いて研究を進めている。

血管内皮細胞の研究ではラットの動脈硬化を生じやすい部位の血管片を取り出し、内皮細胞におけるアクチンストレスファイバーの形成や、各種 heat shock protein の発現を免疫組織化学的に調べ、細胞骨格要素と heat shock protein の因果関係を in vivo で検討した。また、生体内各部血管の内皮細胞を用いて、市販の NO 蛍光指示薬とアルデヒド系固定剤とを組み合わせた方法で、内皮細胞が示す応答反応の一つとしての一酸化窒素 (NO) 産生像を捉えることに成功した。

組織の立体構造観察では、連続切片再構築法および共焦点レーザー顕微鏡法を用いてコンピュータ解析を行っている。また新たに、走査型電子顕微鏡による立体観察とコンピュータ解析とを組み合わせる観察手法について検討を行った。これらの三次元的な観察により、スunks下垂体における前葉細胞の三次元的な分布を明らかにした。また、肝細胞および肝小葉の発育、腎遠位尿細管の走行、ツパイの腸絨毛構造についても新たな所見を得た。

胎生期における mRNA の発現を調べた研究では次のことが明らかになった。前年度までに確認した、ニワトリ DDAH ( dimethylarginine dimethylaminohydrolase ) I の mRNA が、脊髄だけではなく、心血管系や骨などにも発現していた。また、ニワトリ以外のラットにおいても発現を確認し、脊髄、肝臓、腎臓、心血管系に発現が観察され、胎生時期にしたがった発現様式なども確認した。

糖尿病マウスの膵島の観察では、尿糖陰性の8週齢から尿糖強陽性の12週齢にかけて毛細血管に大きな変化があることを認めた。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Ishikawa T, Ichikawa Y, Abe Y, Kitoh J<sup>1)</sup>, Yamashita K ( <sup>1)</sup> Nagoya University School of Medicine ): Three-dimensional distribution patterns of PRL, GH, and ACTH cells in the house musk shrew *Suncus murinus*. *Anat Embryol* 2002 ; 205 ( 2 ): 159-167 .
- 2) Yoshida K<sup>1, 2)</sup>, Behrens A<sup>3)</sup>, Le-Niculescu H<sup>1)</sup>, Wagner Erwin F <sup>3)</sup>, Harada T<sup>2)</sup>, Imaki J, Ohno S<sup>2)</sup>, Karin M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratory of Gene Regulation and Signal Transduction, Department of Pharmacology, University of California, San Diego, La Jolla, California , <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo, Japan , <sup>3)</sup> Institute of Molecular Pathology, Vienna, Austria ): Amino-Terminal Phosphorylation of c-Jun Regulates Apoptosis in the Retinal Ganglion Cells by Optic Nerve Transection . *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2002 ; 43 ( 5 ): 1631-1635 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Sugimoto K, Fujii S, Luo S, Yamashita K : ROLE OF STRESS PROTEIN 70 IN MECHANICAL STRETCHING-INDUCED STRESS FIBER FORMATION IN THE RAT ARTERIAL ENDOTHELIAL CELLS . 12th International Vascular Biology Meeting ( Karuizawa, Japan ), 2002 . 5 .
- 2) Imaki T<sup>1)</sup>, Katsumata H<sup>1)</sup>, Kasagi Y<sup>1)</sup>, Konishi S<sup>1)</sup>, Imaki J, Minami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gerontology,

Nippon Medical School ): Role of corticotropin-releasing factor ( CRF ) for traumatic brain injury . 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol, UK ), 2002 . 9 .

- 3) 市川安昭, 山下和雄: 自然発症糖尿病 KKAy マウス膵臓の膵内分泌細胞の観察 . 第1回日本再生医療学会, 2002 . 4 .
- 4) 杉本啓治, 藤井幸子, 羅 善順, 山下和雄: 各部動脈内皮における抗ストレス性HSP70分子の局在性 . 第41回日本エム・イー学会大会, 2002 . 5 .
- 5) 市川安昭, 日下部守昭<sup>1, 2)</sup>, 山下和雄 ( <sup>1)</sup> 財団法人動物繁殖研究所, <sup>2)</sup> アロカ株式会社 ANBつくば研究所 ): 自然発症糖尿病 KKAy マウス膵島および膵島内毛細血管の観察 . 第17回 日本糖尿病動物研究会年次学術集会, 2003 . 1 .
- 6) 市川安昭: 自然発症糖尿病 KKAy マウス膵臓の膵内分泌細胞の観察 . 第9回日本未病システム学会, 2003 . 1 .
- 7) 市川安昭: 自然発症糖尿病 KKAy マウス膵島および膵島内毛細血管の観察 . 第2回日本再生医療学会, 2003 . 3 .
- 8) 市川安昭: 自然発症糖尿病 KKAy マウス膵島および膵島外組織のネクチン陽性細胞の観察 . 第2回日本再生医療学会, 2003 . 3 .



## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は、神経解剖学と人体肉眼解剖学の二つの分野からなっているが、いずれも比較形態学を土台としている。これは人間の病気の多くが進化の歪みに起因していると考えられるためである。ヒトの進化上の特徴は「大脳化」と「直立二足歩行」である。大脳化の影響は胎児にまでおよび、その結果は産科や婦人科などの問題となっている。ヒトはその解決策として生理的早産の道を選んだが、そのため新生児や小児科領域の問題が新たに生じた。急速な大脳新皮質の発達は精神科や脳外科領域で生ずる問題の原因となっている。直立二足歩行は整形外科領域の問題をはじめ、多くの分野で問題を生じている。

神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、

二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般性感覚）の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による神経線維の解析、標識法を用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、運動器系（筋肉と骨格）、循環器系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、末梢神経系、などである。

平成12～13年度は、前倒しとなった新カリキュラムの第2学年と旧カリキュラムのまま進む第3学年の講義と実習が重なったため、十分な研究時間がとれず、業績が著しく落ち込んでしまった。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>1)</sup>, Tanuma K, Pennington D G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Hand Surgery, Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia ): An anatomical and clinical study of the dorsal intercostal cutaneous perforators : Its application to free microvascular augmented subdermal vascular network ( ma-SVN ) flaps . Br. J. Plast. Surg. 2002 ; 55 : 396-401 .
- 2) Saito T, Tanuma K, Den S<sup>1)</sup>, Tanuma Y<sup>2)</sup>, Miyakawa K<sup>3)</sup>, Carney E<sup>1)</sup>, Carlsson C<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, The National Cancer Center Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Teikyo University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Radiology, The National Cancer Center Hospital, <sup>4)</sup> Department of Anesthesiology, Lund University, Malmo, Sweden ): Pathways of anesthetic from the thoracic paravertebral region to the celiac ganglion . Clin. Anat. 2002 ; 15 : 340-344 .
- 3) Futami C, Tanuma K, Tanuma Y<sup>1)</sup>, Saito T ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Teikyo University School of Med-

icine): Interventional Neuroradiology: The arterial blood supply of the conducting system in normal human hearts. Surg. Radiol. Anat. 2003; 25 (1).

- 4) Ito H, Yamamoto N, Yoshimoto M, Sawai N, Yang C-Y, Xue H-G, Imura K: Fiber connections of the torus longitudinalis in a teleost: *Cyprinus carpio* re-examined. J. Comp. Neurol. 2003; 457 (2): 202-211.
- 5) Imura K, Yamamoto N, Sawai N, Yoshimoto M, Yang C-Y, Xue H-G, Ito H: Topographical organization of an indirect telencephalo-cerebellar pathway through the nucleus paracommissuralis in a teleost, *Oreochromis niloticus*. Brain Behav. Evol. 2003; 61 (2): 70-90.
- 6) 中嶋信人<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 柏木哲也<sup>2)</sup>, 浅川光夫 ( <sup>1)</sup> 本学6年生, <sup>2)</sup> 内科第2 ): 本邦成人における腰部変位腎の1例. J Nippon Med Sch 2002; 69 (6): 577-582.
- 7) 斎藤敏之, 角田 篤<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>1)</sup>, 遠藤正宏<sup>1)</sup>, 田 秀蘭<sup>1)</sup>, 金子明博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科): 網膜芽細胞腫の検査, 治療への日帰り麻酔の導入準備としての情報収集. 臨床麻酔 2002; 26: 1426-1427.
- 8) 斎藤敏之, 田沼久美子, 大井良之<sup>1)</sup>, 田 秀蘭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科): 超音波ドップラー装置による肺血流測定を試み. 臨床麻酔 2003; 27: 101-104.

## (2) 総説:

- 1) 伊藤博信: 魚類の視神経交叉. 脳21 (特集: 視神経交叉を考える) 2002; 5 (1): 9-13.
- 2) 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類の糸球体前核. 比較生理生化学 2002; 19 (3): 198-202.
- 3) 斎藤敏之: 硬膜外穿刺を全身麻酔で施行すると合併症が有為に増すのか? 臨床麻酔 2002; 26: 972-973.

## (3) Photogravure:

- 1) Saito T: Anatomical bases of the spread of the anesthetic solution in the paravertebral region. J Nippon Med Sch 2002; 69: 408-409.

## 著 書

- 1) 伊藤博信: [分担] 看護大辞典 (総編者: 和田 攻, 南 裕子, 小峰光博), 2002; pp1-3166, 医学書院, 東京.

## 学会発表

### (1) セミナー:

- 1) 山本直之: 硬骨魚類のGnRHニューロン. 神経科学セミナー (東京都神経科学研究所), 2002. 8.
- 2) 吉本正美: 腹部内臓から生じる感覚情報 (一般臓性感覚) の上行性の伝達経路. 第1回めだかの学校研究会 (産業技術総合研究所関西センター), 2003. 2.

### (2) 一般講演:

- 1) Saito T, Tanuma K: Subcompartment in subarachnoidal space at thoracic and lumbar spinal levels produced by arachnoid membrane. Experimental Biology, (New Orleans, USA), 2002. 4.
- 2) Ogawa S<sup>1)</sup>, Soga T<sup>1)</sup>, Yamamoto N, Sakuma Y<sup>1)</sup>, Parhar IS<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Physiology): Modulation of reproductive behaviors by antisense GnRH in cichlid fish. Society for Behavioral Neuroendocrinology, (Amherst, Massachusetts, USA), 2002. 6.
- 3) 井村幸介, 山本直之, 吉本正美, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの小脳体の出力. 第25回日本神経科学大会, 2002. 7.
- 4) Kerem G, 吉本 正美, 楊 春英, Xue H-G, 山本直之, 伊藤博信: スズキ型魚類テラピア *Oreochromis Tilapia niloticus* の三叉神経節内における神経節細胞の体部位局在性と大きさ. 第25回日本神経科学大会, 2002. 7.
- 5) 楊 春英, 吉本正美, Xue H-G, 山本直之, 伊藤博信: 硬骨魚類テラピアの小脳弁外側核の電子顕微鏡による観察. 第25回日本神経科学大会, 2002. 7.
- 6) Xue H-G, 山本直之, 吉本正美, 楊 春英, Kerem G, 伊藤博信: 硬骨魚類イトウダイの縦走堤の線維連絡.

第25回日本神経科学大会，2002．7．

- 7) 山本直之，澤井信彦，井村幸介，吉本正美，Xue H-G，Yang C-Y，Kerem G，伊藤博信：コイ科魚類終脳への聴覚上行路．第25回日本神経科学大会，2002．7．
- 8) 吉本正美，山本直之，伊藤博信：硬骨魚類セラピアの間脳一般臓性感覚核から延髄の一次一般臓性領域への下行性投射．第25回日本神経科学大会，2002．7．
- 9) 小島三貴子<sup>1)</sup>，高野みずき<sup>1)</sup>，浅川光夫<sup>(<sup>1)</sup> 本学5年生)</sup>：完全重複腎盤尿管の1例．第70回日本医科大学医学学会総会，2002．9．
- 10) 許田典男<sup>1)</sup>，井出 仁<sup>1)</sup>，行徳求馬<sup>1)</sup>，浅川光夫<sup>(<sup>1)</sup> 本学3年生)</sup>：本邦成人腎臓容積の形態計測学的検索．第70回日本医科大学医学学会総会，2002．9．
- 11) 山本直之，伊藤博信，岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学・理学部)：グルタミン酸が終神経GnRHペプチドニューロンのco-transmitterである可能性について．第73回日本動物学会，2002．9．
- 12) 石崎摩美<sup>1)</sup>，飯郷雅之<sup>2)</sup>，山本直之，岡 良隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>中央農業総合研究所，<sup>2)</sup>宇都宮大学・農学部，<sup>3)</sup>東京大学・理学部)：多様な脳内GnRH系におけるGnRH分泌活動とその雌雄差の解析．第73回日本動物学会，2002．9．
- 13) 岡 良隆<sup>1)</sup>，山本直之，高島 麗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学・理学部)：行動の動機付けの定量的解析と神経修飾物質GnRH．第73回日本動物学会，2002．9．
- 14) 斎藤敏之，大井良之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科)：舌癌用経鼻挿管チューブの考案と試用．第22回日本臨床麻酔学会総会，2002．10．
- 15) 斎藤敏之，大井良之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科)：肺血栓モニターの開発．第22回日本臨床麻酔学会総会，2002．11．
- 16) 斎藤敏之，井上哲夫<sup>1)</sup>，大井良之<sup>1)</sup>，田 秀蘭<sup>1)</sup>，伊藤博信，吉本正美<sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科)</sup>：第12胸椎・第1腰椎脊髄神経後枝内側枝の特殊性．第9回硬膜外麻酔研究会，2003．2．

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

本年度も様々な手法を用いてエストロゲン受容体の発現, GnRHの分泌調節, 性ホルモンによる情動行動の調節などの研究を進めた。2名を採用した博士研究員の貢献も大きい。本年度公刊された原著の2編は大学院生による学位論文であって、何れも評価の高い国際的雑誌に掲載された。学部教育では引き続き少人数の実習を重視し、基礎配属では学生の意欲に応えるため国外学会での発表を実現させた。我々の基礎研究の応用について複数の企業から助言を求められ、共同研究に発展したのも本年度が初めてである。科学研究費補助金では基盤研究(C)の継続課題3件に加え、新たに4件を申請し、基盤研究(B),(C)と若手研究(B)の各1件が採択された。大学院重点特別経費研究科分の「エストロゲン受容体陽性ニューロンによる脳機能の調節」、日本学術振興会日米科学協力事業「脳研究」分野「性成熟と情動行動の調節にGnRHが果たす役割」は共に最終の計画年度となった。その他のプロジェクトには生理学研究所計画共同研究「個体レベルの遺伝子操作を用いた生理学的研究」などがある。日米科学協力によるロックフェラー大学Pfaff教授との共同研究の一環として、基礎配属学生2名を行動神経内分泌学会(ボストン, 6月)に同行、魚類の脳内に発現しているアミノ酸組成の異なるGnRH分子の役割分担について発表させた(View 2002年10月号)。9月の国際神経内分泌会議には大学院生を含む多数が参加してエストロゲン受容体ベータの脳内発現にみられる性差やGnRHニューロン由来の株細胞における分泌調節機序などについて報告した。Pfaff教授との共同研究によるノックアウトマウスを用いた研究成果は、北米神経科学会で発表した(11月)。また同月、環境省主催の第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウムの一企画として、脳の性分化のセッションを組織し、この経費で招いたコロラド大学Tobet教授の講演を本学医学会の特別講演として行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Ishihara T, Oriyasa C, Araki T, Sakuma Y: Sex difference in the expression and regulation of nitric oxide synthase gene in the rat preoptic area. *Neuroscience Research* 2002; 43: 147-154.
- 2) Kondo Y, Sachs BD<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physiology, University of Connecticut): Disparate effects of small medial amygdala lesions on noncontact erection, copulation, and partner preference. *Physiology & Behavior* 2002; 76: 443-447.
- 3) Kaneishi K, Sakuma Y, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Kato M(<sup>1)</sup>Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University): 3', 5'-Cyclic adenosine monophosphate augments intracellular Ca<sup>2+</sup> concentration and gonadotropin-releasing hormone (GnRH) release in immortalized GnRH neurons in an Na<sup>+</sup>-dependent manner. *Endocrinology* 2002; 143(11): 4210-4217.
- 4) Li XM<sup>1)</sup>, Ohnishi Y<sup>1)</sup>, Kuwabara K, Rho JY, Wada-Kiyama Y, Sakuma Y, Kiyama R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Research Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology): Ligand-dependent transcriptional enhancement by DNA curvature between two half motifs of the estrogen response element in the human estrogen receptor gene. *Gene* 2002; 294: 279-290.
- 5) Kondo Y, Sudo T, Tomihara K<sup>1)</sup>, Sakuma Y(<sup>1)</sup>Department of Psychology, Kagoshima University): Activation of accessory olfactory bulb neurons during copulatory behavior after deprivation of vomeronasal inputs in male rats. *Brain Research* 2002; 962: 232-236.
- 6) Parhar IS, Soga T, Sakuma Y, Millar RP<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>Medical Research Council Human Reproductive Sciences

- Unit, Center for Reproductive Biology , <sup>2)</sup> Department of Medical Biochemistry, University of CapeTown ): Spatio-temporal expression of gonadotropin-releasing hormone receptor subtypes in gonadotropes, somatotropes and lactotropes in the cichlid fish . Journal of Neuroendocrinology 2002 ; 14 : 657-665 .
- 7) Pandolfi M<sup>1)</sup>, Parhar IS , Ravaglia MA<sup>1)</sup>, Meijide FJ<sup>1)</sup>, Maggese MC<sup>1)</sup>, Paz DA<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratorio de Embriologia Animal. Dpto. de Ciencias Biologicas. Facultad de Ciencias Exactas y Naturales. Universidad de Buenos Aires. Ciudad Universitaria , <sup>2)</sup> Instituto de Neurociencia ): Ontogeny and distribution of gonadotropin-releasing hormone ( GnRH ) neuronal systems in the cichlid fish Cichlasoma dimerus . Anatomy Embryol 2002 ; 205 : 271-281 .
- 8) Sogami M<sup>1,2)</sup>, Uyesaka N , Era S<sup>2)</sup>, Kato K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, School of Sciences, Hujita Health University , <sup>2)</sup> Department of Physiology, Gifu University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pathology, School of Health Sciences, Fujita Health University ): Saturation transfer in human red blood cells with normal and unstable hemoglobin . NMR in Biomedicine 2003 ; 16 : 19-28 .

## 著 書

- 1) Parhar I : [ 編集 ] Gonadotropin-releasing hormone : molecules and receptors . Progress in Brain Research Vol. 141 ( Ishwar S. Parhar ), 2002 ; Elsevier .
- 2) Parhar I : [ 共著 ] Cell migration and evolutionary significance of GnRH subtypes . Progress in Brain Research Vol. 141 ( Ishwar S. Parhar ), 2002 ; pp3-17 , Elsevier .

## 学会発表

### ( 1 ) 招待講演 :

- 1) Orikasa C : Sexually dimorphic expression of estrogen receptor b in the rat preoptic area : Implication in luteinizing hormone surge . Workshop on Progress in Reproductive Physiology ( Mariensee, Germany ), 2002 . 9 .
- 2) Parhar I : GnRH neurons : GnRH to behavior . 5th Scientific Congress Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies ( FAOPS )( Kuala Lumpur, Malaysia ), 2002 . 9 .
- 3) Parhar I : GnRH and GnRH receptor gene roles from developmental and evolutionary perspective . The 3rd the Federation of Asian-Oceanian Neuroscience Societies ( FAONS )( Seoul, Korea ), 2002 . 10 .
- 4) Parhar I : Evolutionary significance of GnRH and GnRH receptor genes . 4th Intercongress Symposium of The Asia and Oceania Society for Comparative Endocrinology ( GuangZhou, China ), 2002 . 10 .
- 5) Parhar I : Molecular evolution and functional diversity of GnRH neuronal systems . The 4th Annual Conference of the Comparative Endocrinology and Molecular Evolution Society ( Bangkok, Thailand ), 2002 . 12 .
- 6) 近藤保彦 : 陰茎勃起の動物モデル . 中国男科学学会 ( 上海, 中国 ), 2002 . 8 .
- 7) Sakuma Y : エストロゲン受容体と脳の性分化 . 第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム , 2002 . 11 .
- 8) 折笠千登世 : エストロゲン受容体の脳内発現とその動態 . 第25回日本神経科学大会 サテライトシンポジウム , 2002 . 7 .
- 9) 佐久間康夫 : ラットの性行動から見た脳の性分化とエストロゲン作用 . CREST 第三回研究会 , 2002 . 7 .
- 10) 折笠千登世 : 海馬 ER 受容体 mRNA の組織染色 . CREST 第三回研究会 , 2002 . 7 .
- 11) 佐久間康夫 : 匂いによる性志向の弁別に関わる脳回路 . 第8回「性と生殖」公開シンポジウム , 2002 . 11 .
- 12) 折笠千登世 : 視索前野エストロゲン受容体 発現細胞による生殖内分泌調節 . 第3回環境生理シンポジウム , 2003 . 3 .

(2) 一般講演 :

- 1) Kondo Y , Xiao K , Sakuma Y : Differential control of female rat sexual behavior by the lateral septum and medial preoptic area : Effects of lesion on lordosis, pacing behavior and partner preference . Society for Behavioral Neuroendocrinology Annual Meeting ( Amherst, MA, USA ), 2002 . 6 .
- 2) Ogawa S , Soga T , Yamamoto N , Sakuma Y , Parhar I : Modulation of reproductive behavior by antisense GnRH in cichlidfish . Society for Behavioral Neuroendocrinology Annual Meeting ( Amherst, MA, USA ), 2002 . 6 .
- 3) Akiyama G , Kato S , Soga T , Tamano K , Kawai T , Sakuma Y , Parhar I : Social stress controls terminal nerve GnRH neurons . Society for Behavioral Neuroendocrinology Annual Meeting ( Amherst, MA, USA ), 2002 . 6 .
- 4) Kato M , Sakuma Y : Voltage-gated calcium channels in identified rat GnRH neurons . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol, UK ), 2002 . 9 .
- 5) Orikasa C , Sakuma Y : Sex difference in estrogen receptor beta positive cells in the rat preoptic area : Implications for female sexual cyclicity . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol, UK ), 2002 . 9 .
- 6) Kaneishi K , Kato M , Sakuma Y : Ionic mechanism in cAMP-mediated intracellular  $Ca^{2+}$  increase and GnRH release in immortalized GnRH neurons ( GT1-7 cells) . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol, UK ), 2002 . 9 .
- 7) Watanabe M , Kato M , Sakuma Y : Functional expression of the voltage-gated calcium channels and effect of GABA<sub>B</sub> receptor agonist in immortalized hypothalamic GnRH neurons . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol, UK ), 2002 . 9 .
- 8) Onishi H , Kondo Y , Sakuma Y : Facilitation of mount behavior in female rats by caudal deafferentation of the ventromedial hypothalamus . 32nd Annual Meeting Society for Neuroscience ( Orland, FL, USA ), 2002 . 11 .
- 9) Ogawa S<sup>1)</sup>, Mirasoll EG<sup>1)</sup>, Mesalo R<sup>1)</sup>, Pfaff DW<sup>1)</sup>, Parhar I ( <sup>1)</sup> The Rockefeller University Laboratory of Neurobiology and Behavior ): Existence of multiple GnRH forms and their co-localization with estrogen receptor in the male mouse brains . 32nd Annual Meeting Society for Neuroscience ( Orland, FL, USA ), 2002 . 11 .
- 10) Kiyama R<sup>1)</sup>, Onishi Y<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y ( <sup>1)</sup> Reserch Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology ): An initial step in  $\beta$ -globin gene activation . 44th Annual Meeting and Exposition American Society of Hematology ( Philadelphia, PA, USA ), 2002 . 12 .
- 11) 濱田知宏, 木山裕子, 佐久間康夫 : エストロゲン受容体トランスジェニックラットにおける脳内EGFP発現分布 . 第80回日本生理学会大会, 2003 . 3 .
- 12) 佐久間康夫 : 脳機能の性差 . 第75回日本内分泌学会, 2002 . 6 .
- 13) 加藤昌克, 高野みずき, 佐久間康夫, 関川明生<sup>1)</sup>, 坂井貴文<sup>1)</sup>, 寒川賢治<sup>2)</sup>, 林友二郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉大学理学部生体制御, <sup>2)</sup> 国立循環器病センター, <sup>3)</sup> サントリー医薬開発研究所 ): GnRHニューロンに発現する膜電位依存性カルシウムチャンネル . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .
- 14) 丸山 徹<sup>1,2)</sup>, 斉藤和之<sup>2,3)</sup>, 伊東裕幸<sup>1)</sup>, 加治良一<sup>1)</sup>, 藤野武彦<sup>4)</sup>, 上坂伸宏 : ニッケルメッシュ濾過法による糖尿病患者赤血球の変形能の解析 . 膜シンポジウム2002, 2002 . 11 .
- 15) 佐久間康夫, 濱田知宏 : トランスジェニックラットを用いたエストロゲン受容体陽性細胞の可視化 . 第30回自律神経生理研究会, 2002 . 12 .
- 16) 魯 禎妍, 濱田知宏, 大西芳秋<sup>1)</sup>, 木山裕子, 木山亮一<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup> 産業技術総合研究所・糖鎖工学研究センター遺伝子ダイナミクスチーム ): cDNA マイクロアレイ法を用いたラットのエストロゲン応答性遺伝子の解析 . 第25回日本分子生物学会, 2002 . 12 .

- 17) 加藤昌克, 佐久間康夫: EGFP 標識ラット GnRH におけるカルシウムチャネルの発現パターン. 第 80 回日本生理学会大会, 2003. 3.
- 18) 肖 凱, 近藤保彦, 佐久間康夫: ラットにおける性的嗜好性の性ホルモン調節. 第 80 回日本生理学会大会, 2003. 3.
- 19) 丸山 徹<sup>1)</sup>, 斉藤和之<sup>1)</sup>, 藤野武彦<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>九州大学・健康科学センター, <sup>2)</sup>レオロジー機能食品研究所 ): 糖尿病患者赤血球の変形能低下と微小循環障害. 第 80 回日本生理学会大会, 2003. 3.

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

我々の講座ではストレス反応調節機構, 摂食・エネルギー調節機構, およびてんかん発症機序等の解明を主な研究テーマとして研究を行っている. 今年度に発表された当講座の主な原著論文において, 視床下部弓状核のグレリン受容体を抑制したトランスジェニックラットを作成し, 同受容体が成長ホルモンの分泌や体脂肪蓄積に促進的に機能していること, ラットのテイルピンチによる摂食促進機序に corticotropin releasing factor (CRF) が CRF タイプ1型受容体を介して関与していること, ラットにおいて慢性ストレスが慢性接触性皮膚炎を CRF タイプ1型受容体を介して悪化させていること, ラットへの CRF のタイプ1型受容体拮抗薬の慢性投与の摂食, 視床下部-下垂体-副腎系への影響, 偽性低アルドステロン症のミネラルコルチコイド受容体とアミロライド感受性 Na チャネルの遺伝子変異の機能, さらにてんかん発作機序における海馬神経回路の役割等を明らかにした. これらに加え, 当講座に新たに加わったメンバーにより発表された原著論文も含まれている.

現在もそれぞれの研究者がこれらの研究テーマに取り組んでおり, 引き続き研究の発展が期待される.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Chun HS<sup>1)</sup>, Cho BP<sup>1)</sup>, Sugama S, Joh TH<sup>1)</sup>, Volpe BT<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute ): APP knockout attenuates microglial activation and enhances neuron survival in substantia nigra compacta after axotomy . *Glia* 2002 ; 38 ( 2 ): 174-178 .
- 2) DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Chun HS<sup>1)</sup>, Kim YS<sup>1)</sup>, Sugama S, Son JH<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup>, Bolpe BT<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute ): Amyloid precursor protein gene disruption attenuates degeneration of substantia nigra compacta neurons following axotomy . *Brain Res* 2002 ; 938 ( 1-2 ): 38-44 .
- 3) Shuto Y<sup>1)</sup>, Shibasaki T, Otagiri A, Kuriyama H, Ohata H, Tamura H<sup>1)</sup>, Kamegai J<sup>1)</sup>, Sugihara H<sup>1)</sup>, Oikawa S<sup>1)</sup>, Wakabayashi I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Medicine, Nippon Medical School ): Hypothalamic growth hormone secretagogue receptor regulates growth hormone secretion, feeding and adiposity . *J Clin Invest* 2002 ; 109 ( 11 ): 1429-1436 .
- 4) Ito S<sup>1)</sup>, Fukusato T<sup>2)</sup>, Nemoto T, Sekihara H<sup>1)</sup>, Seyama Y<sup>3)</sup>, Kubota S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Third Department of Internal Medicine, Yokohama City University School of Medicine, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Faculty of Medicine, Gumma University, <sup>3)</sup>Department of Physiological Chemistry and Metabolism, Graduate School of Medicine, University of Tokyo ) Co-expression of glucose transporter and matrix metalloproteinase-2 in human cancers . *J. Natl. Cancer Inst.* 2002 ; 94 ( 14 ): 1080-1091 .
- 5) Maru E, Kanda M<sup>1)</sup>, Ashida H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Neurology, Takeda General Hospital, <sup>2)</sup>Division of Biomedical Information Sciences, National Defense Medical College Research Institute ): Functional and morphological changes in the hippocampal neuronal circuits associated with epileptic seizures . *Epilepsia* 2002 ; 43 ( 9 ): 44-49 .
- 6) Tanida I<sup>1)</sup>, Nishitani T<sup>1)</sup>, Nemoto T, Ueno T<sup>1)</sup>, Kominami E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry, School of Medicine, Juntendo University ): Mammalian Apg12p, but not the Apg12p-Apg5p conjugate, facilitates LC3 processing . *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2002 ; 296 ( 5 ): 1164-1170 .



- 7) Ohata H , Arai K , Shibasaki T : Effect of chronic administration of CRF1 receptor antagonist, CRA1000, on locomotor activity and endocrine responses to stress . *Eur J Pharmacol* 2002 ; 457 ( 2-3 ): 201-206 .
- 8) Sugama S , Cho BP<sup>1)</sup> , Baker H<sup>1)</sup> , Joh TH<sup>1)</sup> , Lucero J<sup>2)</sup> , Conti B<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute , <sup>2)</sup>Department of Neuropharmacology, The Scripps Research Institute ): Neurons of the superior nucleus of the medial habenula and ependymal cells express IL-118 in rat CNS . *Brain Res* 2002 ; 958 ( 1 ): 1-9 .
- 9) Arai K , Nakagomi Y<sup>1)</sup> , Iketani M , Shimura Y<sup>1)</sup> , Amemiya S<sup>1)</sup> , Ohyama K<sup>1)</sup> , Shibasaki T ( <sup>1)</sup>Department of Pediatrics, Yamanashi Medical School ): Functional polymorphisms in the mineralocorticoid receptor and amiloride-sensitive sodium channel genes in a patient with sporadic pseudohypoaldosteronism . *Hum Genet* 2003 ; 112 ( 1 ): 91-97 .
- 10) Samarghandian S , Ohata H , Yamauchi N , Shibasaki T : Corticotropin-releasing factor as well as opioid and dopamine are involved in tail-pinch-induced food intake of rats . *Neuroscience* 2003 ; 116 ( 2 ): 519-524 .
- 11) Kaneko K , Kawana S<sup>1)</sup> , Arai K , Shibasaki T ( <sup>1)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Corticotropin-releasing factor receptor type 1 is involved in the stress-induced exacerbation of chronic contact dermatitis in rats . *Exp Dermatol* 2003 ; 12 ( 1 ): 47-52 .
- 12) Sugama S , Yang L<sup>1)</sup> , Cho BP<sup>2)</sup> , DeGiorgio LA<sup>2)</sup> , Lorenzi S<sup>1)</sup> , Albers DS<sup>1)</sup> , Beal MF<sup>1)</sup> , Volpe BT<sup>2)</sup> , Joh TH<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University , <sup>2)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute ): Age-related microglial activation in 1-methyl-4-phenyl-1, 2, 3, 6-tetrahydropyridine ( MPTP )-induced dopaminergic neurodegeneration in C57BL/6 mice . *Brain Res* 2003 ; 964 ( 2 ): 288-294 .
- 13) Sugama S , Cho BP<sup>1)</sup> , Degiorgio LA<sup>1)</sup> , Shimizu Y<sup>1)</sup> , Kim SS<sup>1)</sup> , Kim YS<sup>1)</sup> , Shin DH<sup>1)</sup> , Volpe BT<sup>1)</sup> , Reis DJ<sup>1)</sup> , Cho S<sup>1)</sup> , Joh TH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute ): Temporal and sequential analysis of microglia in the substantia nigra following medial forebrain bundle axotomy in rat . *Neuroscience* 2003 ; 116 ( 4 ): 925-933 .
- (2) 総説 :
- 1) 石井新哉<sup>1)</sup> , 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>内科第3 ) : レチノール酸はクッシング病の治療に有効か . 内分泌・糖尿病科 2002 ; 14 ( 6 ): 641-643 .
- (3) 研究報告書 :
- 1) 大畠久幸 , 小田切あすか , 池谷光江 , 稲田詩乃 , 芝崎 保 : Urocortin ( Ucn ) II, Ucn III, CRHの脳室内投与による運動活動量への影響の比較 . ACTH RELATED PEPTIDES 13 2002 ; 13 : pp29-36 .
- 2) 芝崎 保 , 堀田真理<sup>1)</sup> , 高野加寿恵<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京女子医科大学内科2 ) : 神経性食欲不振症におけるCorticotropin-releasing hormone 1受容体遺伝子の解析 . 厚生労働省特定疾患対策研究事業中枢性摂食異常症に関する調査研究平成13年度研究報告書 2002 ; pp56-60 .
- 3) 芝崎 保 , 新井桂子 , 大畠久幸 : ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析 . 平成13年度喫煙科学研究財団研究年報 2002 ; pp589-594 .
- 4) 新井桂子 , 小田切あすか , 周東佑仁<sup>1)</sup> , 田村秀樹<sup>1)</sup> , 芝崎 保 ( <sup>1)</sup>内科第3 ) : Growth hormone secretagogue ( GHS ) 受容体 ( GHSR ) 発現抑制トランスジェニックラットを用いたGHSのGH分泌促進機序に関する検討 . 財団法人成長科学協会平成13年度研究年報 2002 ; 25 : pp169-173 .
- 5) 山形要人<sup>1)</sup> , 竹宮孝子<sup>1)</sup> , 杉浦弘子<sup>1)</sup> , 鈴木香子<sup>1)</sup> , 川上順子<sup>2)</sup> , 丸 栄一 ( <sup>1)</sup>東京都神経科学総合研究所 , 神経薬理部門 , <sup>2)</sup>東京女子医科大学 , 生理学第一講座 ) : 痙攣発作によって誘導される遺伝子群の解析によるてんかん病態の解明 . てんかん治療研究振興財団研究年報 2002 ; 14 : pp75-81 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 芝崎 保, 小田切あすか, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3) : グレリン受容体発現抑制トランスジェニッククラットを用いた同受容体の機能解析 . 第1回グレリンシンポジウム 国立循環器病センターCOEシンポジウム, 2003 . 3 .
- 2) 小田切あすか, 大畠久幸, 山内直子, 芝崎 保 : Urocortin (Ucn) IIとUcnIIIの作用機構の検討 . 第29回日本神経内分泌学会, 2002 . 10 .
- 3) 谷田以誠<sup>1)</sup>, 西谷寛仁<sup>1)</sup>, 根本崇宏, 上野 隆<sup>1)</sup>, 木南英紀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部生化学) : Apg12とLC3 : 2つのユビキチン様修飾システムのクロストーク . 第75回日本生化学会, 2002 . 10 .
- 4) 芝崎 保, 大畠久幸, 小田切あすか, 池谷光江, 稲田詩乃, 関野あずさ, 山内直子 : CRFファミリーペプチドとストレス . 第18回日本ストレス学会学術総会, 2002 . 11 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Kim K<sup>1)</sup>, Arai K, Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Shibasaki T (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : The expression of TRH type 1 receptor mRNA in human pituitary adenomas . The 4th Annual Meeting of Korean Medical Society (Pyongyang), 2002 . 5 .
- 2) Ohata H, Shibasaki T : Effects of Urocortin II and Urocortin III on Motor Activity in Rats . The 84th Annual Meeting of The Endocrine Society ( San Francisco, USA ), 2002 . 6 .
- 3) Kawana S<sup>1)</sup>, Arai K, Shibasaki T (<sup>1)</sup>Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Corticotropin-releasing factor receptor type 1 is involved in the stress-induced exacerbation of chronic contact dermatitis . 20th World Congress of Dermatology ( Paris, France ), 2002 . 7 .
- 4) Nemoto T, Tanida <sup>1)</sup>, Ueno T<sup>1)</sup>, Kominami E<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Biochemistry, School of Medicine, Jun-tendo University) : The mouse APG10 homologue, an authentic E2-like enzyme for Apg12p-Apg5p conjugation system, facilitates MAP-LC3 processing . 3rd International Symposium of Autophagy ( Osaka, Japan ), 2002 . 9 .
- 5) Sugama S, Yang L<sup>1)</sup>, Cho BP<sup>1)</sup>, Chirichigno JW<sup>1)</sup>, Lorenzl S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute) : Age-related microglial activation of 1-methyl-4, 2, 3, 6-tetrahydropyridine ( MPTP )-induced dopaminergic neurodegeneration in C57BL6 mice . Society for Neuroscience ( Orlando ), 2002 . 11 .
- 6) Joh TH<sup>1)</sup>, Kim YS<sup>1)</sup>, Shin DH<sup>1)</sup>, Cho BP<sup>1)</sup>, DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Sugama S (<sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute) : A novel mechanism for neuroprotection : Prevention of early phagocytosis . Society for Neuroscience ( Orlando ), 2002 . 11 .
- 7) Yang L<sup>1)</sup>, Kiaei M<sup>1)</sup>, Sugama S, Mischak RP<sup>1)</sup>, Beal MF<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University) : A novel caspase inhibitor attenuates toxicities of MPTP, 3-NP and malonic acid in mouse and rat brain . Society for Neuroscience ( Orlando ), 2002 . 11 .
- 8) Cho BP<sup>1)</sup>, Shin DH<sup>1)</sup>, Sugama S, DeGiorgio LA<sup>1)</sup>, Joh TH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Laboratory of Molecular Neurobiology, The W. M. Burke Med Institute) : Phagocytic microglia actively participate in the axotomy-induced apoptotic degeneration of nigral dopaminergic neurons from the early degenerative stage . Society for Neuroscience ( Orlando ), 2002 . 11 .
- 9) Lorenzl S<sup>1)</sup>, Albers DS<sup>1)</sup>, Yang L<sup>1)</sup>, Sugama S, Chirichigno JW<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University) : The role of matrix metalloproteinase in dopamine depletion and microglia activation in the MPTP mouse . Society for Neuroscience ( Orlando ), 2002 . 11 .
- 10) 金 景成<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 芝崎 保 (<sup>1)</sup>脳神経外科学) : GH産生腺腫をはじめとする

- 各種下垂体腺腫におけるGHRHR遺伝子発現に関する検討．第3回日本分子脳神経外科学会，2002．8．
- 11) 大畠久幸，芝崎 保：Urocortin IIIとCorticotropin releasing factorの脳室内投与の摂食量および活動量への影響の比較．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
  - 12) 小田切あすか，周東裕仁<sup>1)</sup>，杉原 仁<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>(1)</sup>内科第3)：Growth hormone secretagogue (GHS) 受容体アンチセンス発現トランスジェニックラットにおけるGHS-R，NPY，GRFの発現について．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
  - 13) 稲田詩乃，小田切あすか，池谷光江，山内直子，芝崎 保：新規corticotropin-releasing factor (CRF) ファミリーペプチドurocortinIII (UCNIII)の脳室内投与によるFos発現について．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
  - 14) 山内直子，小田切あすか，稲田詩乃，池谷光江，芝崎 保：新規corticotropin-releasing factor (CRF) ファミリーペプチドurocortinII (UCNII)の抗体作製及び局在の検討．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
  - 15) 金 景成<sup>1)</sup>，新井桂子，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>(1)</sup>脳神経外科学)：GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現に関する検討：第2報．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
  - 16) 青木恵理，川名誠司<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>(1)</sup>皮膚科)：間歇的フットショックストレスはマウス毛周期に影響を与える．日本研究皮膚科学会第27回年次学術大会総会，2002．8．
  - 17) 大畠久幸，芝崎 保：Corticotropin-releasing factorの脳室内投与による摂食抑制に及ぼすantisauvagine-30の効果．第29回日本神経内分泌学会，2002．10．
  - 18) 根本崇宏，谷田以誠<sup>1)</sup>，上野 隆<sup>1)</sup>，木南英紀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学医学部生化学)：マウスAPG10 cDNAの単離と機能解析．第75回日本生化学会，2002．10．
  - 19) 金 景成<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，酒井直之<sup>1)</sup>，新井桂子，寺本 明<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>(1)</sup>脳神経外科学)：GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現に関する検討：第2報．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
  - 20) 関野あずさ，大畠久幸，小田切あすか，芝崎 保：拘束ストレスによる摂食抑制にCRH1型及び2型受容体拮抗薬が及ぼす影響．第14回CRH・ACTH研究会，2003．3．

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による三次元構造の解析結果を基に、バキュロウイルス/昆虫細胞系による発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析ではすでに1.6 Åの構造をえているが、さらに高分解能および種々の阻害剤との複合体の解析を行ってきた。またタンパク質の補欠分子族の形成について分子生物学的方法を用いて取り組んでいる。

2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討を引き続き行った。立体構造の解明を行ったが、引き続き変異体の構造とヘム結合の様式につき研究も行っている。

3) 上記以外の金属を有するタンパク質の分光学的研究とともに、さらにプロテオミックス法と結びつけ、新しい金属タンパク質の網羅的検索を行っている。大腸菌における亜鉛タンパク質の探索に続き、現在鉄タンパク質の探索をヒト培養細胞を用いて行っている。さらに、これと関連しヒトの病態解析も行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Maiti NC<sup>1)</sup>, Tomita T<sup>1)</sup>, Kitagawa T<sup>1)</sup>, Okamoto K, Nisino T ( <sup>1)</sup>Okazaki National Research Institutes ): Resonance Raman studies on xanthine oxidase : observation of Mo ( VI ) -ligand vibrations . J. Biol. Inorg. Chem. 2002 ; 8 ( 3 ): 327-333 .
- 2) Samoilova R I<sup>1)</sup>, Kollimg D<sup>1)</sup>, Uzawa T<sup>2)</sup>, Iwasaki T, Crofts A R<sup>1)</sup>, Dikanov S A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>University of Illinois , <sup>2)</sup>Osaka Kyoiku University ): The interaction of the Rieske Iron-sulfur protein with occupants of the Qo-site of the bc1 complex, probed by electron spin echo envelope modulation . J. Biol. Chem. 2002 ; 277 : 4605-4608 .
- 3) Suzuki T<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Uzawa T<sup>2)</sup>, Hara K<sup>1)</sup>, Nemoto N<sup>1)</sup>, Kon T<sup>1)</sup>, Ueki T<sup>1)</sup>, Yamagishi A<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science , <sup>2)</sup>Osaka Kyoiku Univ. ): *Sulfolobus tokodaii* sp. nov. ( f. *Sulfolobus* sp. strain 7 ), a new member of the genus *Sulfolobus* isolated from Beppu Hot Springs, Japan . Extremophiles 2002 ; 6 ( 1 ): 39-44 .
- 4) Yoshimatsu K<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Fujiwara T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Shizuoka University ): Sequence and electron paramagnetic resonance analyses of nitrate reductase NarGH from a denitrifying halophilic euryarchaeote *Haloarcula marismortui* . FEBS Lett. 2002 ; 516 ( 1-3 ): 145-150 .
- 5) Kusano T, Nishino T, Okamoto K, Hori H<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>Ehime University ): The factor in bovine milk and the sulfhydryl residues of xanthine oxidoreductase responsible for conversion from dehydrogenase to oxidase forms . Flavins and Flavoproteins 2002 2002 ; 271-274 .
- 6) Kuwabara Y, Nishino T, Okamoto K, Araki T<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup>産婦人科学 ): The key residues for con-

version of electron acceptors specificity of xanthine oxidoreductase analysed by site-specific mutagenesis . *Flavins and Flavoproteins* 2002 2002 ; 275-279 .

- 7) Igarashi K<sup>1)</sup>, Samejima M<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> Tokyo University ): Rapid Kinetic Study of Extracellular Flavocytochrome Cellobiose Dehydrogenase from the White-rot Fungus *Phanerochaete* . *Flavins and Flavoproteins* 2002 2002 ; 435-440 .
- 8) Nishino T , Amaya Y<sup>1)</sup>, Kawamoto S<sup>1)</sup>, Kashima Y<sup>1)</sup>, Okamoto K , Nishino T ( <sup>1)</sup> Yokohama City University ): Purification and Characterization of Multiple-Forms of Rat Liver Xanthine Oxidoreductase Expressed in Baculovirus-Insect Cell System. *J. Biochem.* 2002 ; 132 : 597-606 .
- 9) Iwasaki T , Kounosu A , Aoshima M<sup>1)</sup>, Ohmori D<sup>2)</sup>, Imai T<sup>3)</sup>, Urushiyama A<sup>3)</sup>, Cosper N J<sup>4)</sup>, Scott R A<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Tokyo , <sup>2)</sup> Juntendo University , <sup>3)</sup> Rikkyo University , <sup>4)</sup> University of Georgia ): Novel [2Fe-2S]-type redox center C in SdhC of archaeal respiratory complex II from *Sulfolobus tokodaii* strain 7 . *J. Biol. Chem.* 2002 ; 277 : 39642-39648 .
- 10) Cosper N J<sup>1)</sup>, Eby D M<sup>1)</sup>, Kounosu A , Kurosawa N<sup>2)</sup>, Neidle E L<sup>1)</sup>, Kurtz D M J<sup>1)</sup>, Iwasaki T , Scott R A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Georgia , <sup>2)</sup> Soka University ): Redox-dependent structural changes in archaeal and bacterial Rieske-type [2Fe-2S] clusters . *Protein Sci.* 2002 ; 11 : 2969-2973 .
- 11) Okamoto K , Eger BT<sup>1)</sup>, Nishino T , Kondo S<sup>2)</sup>, Pai EF<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> University of Toronto , <sup>2)</sup> TEI-JIN ): An Extremely Potent Inhibitor of Xanthine Oxidoreductase : Crystal Structure of the Enzyme-Inhibitor Complex and Mechanism of Inhibition . *J. Biol. Chem.* 2003 ; 278 : 1848-1855 .

## 著 書

- 1) Iwasaki T , Kounosu A , Dikanov S A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Illinois ): [ 共著 ] The [2Fe-2S] cluster in sulredoxin from the thermoacidophilic archaeon *Sulfolobus tokodaii* strain 7, a novel water-soluble Rieske protein . *EPR in the 21st Century* ( Kawamori A. , Yamauchi J. , Ohta H. , eds ), 2002 ; pp488-493 , Elsevier Science B. V.
- 2) Pai E<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> University of Toronto ): [ 共著 ] The molybdenum-containing xanthine and picolic acid dehydrogenase . In *Metal Ions in Biological Systems* ( eds. A. Siegel and H. Siegel ), 2002 ; pp431-454 , Marcel Dekker, New York .
- 3) 西野朋子 , 川本 進<sup>1)</sup>, 西野武士 ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学 ): [ 共著 ] バキュロウイルス , 昆虫細胞系を用いたタンパク質の大量発現と精製法 . *ポストシークエンスタンパク質実験法2* ( 大島泰郎 , 鈴木紘一 , 藤井義明 , 松村 喬 編 ), 2002 ; pp69-80 , 東京化学同人 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) Nishino T : Structure and Mechanism of Xanthine Oxidoreductase, a Molybdenum Containing Iron-sulfur Flavoprotein . *The Symposium of The First Asian Meeting of Bioinorganic Chemistry* ( Okazaki, Japan ), 2002 . 3 .
- 2) Nishino T : The mechanism of conversion of xanthine dehydrogenase to xanthine oxidase . *Fifty years of Molybdoenzymes - A Memorial Symposium for Bob Bray.* ( UK ), 2002 . 9 .
- 3) 西野武士 : 高等動物とくにヒトの構造解析を含めたマイクロな蛋白質研究の意義 . *第一回ヒトプロテオーム学会* , 2003 . 2 .

### (2) シンポジウム :

- 1) Pai EF<sup>1)</sup>, Nishino T ( <sup>1)</sup> University of Toronto ): Structure and function of xanthine oxidoreductase, a molybdenum . *第75回日本生化学会* , 2002 . 10 .

- 2) 西野武士, 片山 映, 辻井厚子, 佐藤理佳, 石浜 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本生物科学研究所): 金属タンパク質の系統的・網羅的解析. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 3) 岡本 研, Eger BT<sup>1)</sup>, 西野朋子, Pai EF<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>University of Toronto): キサンチン脱水素酵素の2つのインヒビターの結合様式. 文部省科学研究費特定領域研究(A) 公開シンポジウム「シンクロトン放射光による生物マシナリーの構造生物学」, 2003. 1.
- (3) 一般講演:
- 1) Kusano T, Nishino T, Okamoto K, Hori H, Nishino T (<sup>1)</sup>Ehime University): The Factor in Bovine Milk and the Sulfhydryl Residues of Xanthine Oxidoreductase Responsible for Conversion from Dehydrogenase to Oxidase Forms. 14th International Symposium on Flavins and Flavoproteins (Cambridge, UK), 2002. 7.
  - 2) Kuwabara Y, Nishino T, Okamoto K, Araki T, Takeshi N (<sup>1)</sup>産婦人科): The Key Residues for Conversion of Electron Acceptors Specificity of Xanthine Oxidoreductase Analysed by Site-directed Mutagenesis. 14th International Symposium on Flavins and Flavoproteins (Cambridge, UK), 2002. 7.
  - 3) Igarashi K<sup>1)</sup>, Samejima M<sup>1)</sup>, Nishino T (<sup>1)</sup>Tokyo University): Rapid Kinetic Study of Extracellular Flavocytochrome Cellobiose Dehydrogenase from the White-rot Fungus Phanerochaete. 14th International symposium on Flavins and Flavoproteins (Cambridge, UK), 2002. 7.
  - 4) 峯 克也: 帝王切開術後に呼吸不全を合併した症例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
  - 5) 西野朋子, 岡本 研, Eger BT<sup>1)</sup>, Pai EF<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>University of Toronto): ミルクキサンチン脱水素酵素の高分解能結晶構造および基質複合体構造. 生物マシナリー, 2002. 7.
  - 6) 桑原慶充, 西野朋子, 岡本 研, 松村智裕, 川口裕子, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>産婦人科学): X線構造に基づく部位特異的変異法によるキサンチン脱水素酵素の活性変換メカニズムの検討. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 7) 西野朋子, 岡本 研, 堀 弘幸<sup>1)</sup>, 前田裕子, 川口裕子, 西野武士 (<sup>1)</sup>愛媛大学): ラットキサンチン脱水素酵素におけるF336L変異体酵素の性質. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 8) 草野輝男, 西野朋子, 岡本 研, 西野武士: 牛乳に存在するキサンチン脱水素酵素の酸化酵素への変換因子. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 9) 岡本 研, Eger BT<sup>1)</sup>, 西野朋子, Pai EF<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>University of Toronto): 複合体結晶構造から見たキサンチン脱水素酵素阻害剤の阻害機構の検討. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 10) 山口雄一郎<sup>1)</sup>, 松村智裕, 市田公美<sup>1)</sup>, 細谷龍男<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学): 組換えタンパク質を用いたヒト由来モリブデン酵素の解析. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 11) 阿部靖子, 松村智裕, 西野武士: HBP23のperoxidase活性. 第75回日本生化学会, 2002. 10.
  - 12) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子: 古細菌複合金属酵素の初期進化を探る. 第75回日本生化学会大会, 2002. 10.
  - 13) 鴻巣麻子, 今井竹夫<sup>1)</sup>, 漆山秋雄<sup>1)</sup>, 大森大二郎<sup>2)</sup>, Li Z<sup>3)</sup>, Cospier Nathaniel J<sup>3)</sup>, Scott Robert A<sup>3)</sup>, 岩崎俊雄 (<sup>1)</sup>立教大学, <sup>2)</sup>順天堂大学, <sup>3)</sup>University of Georgia): 古細菌呼吸鎖複合体IIの高電位鉄硫黄クラスターの解析. 第75回日本生化学会大会, 2002. 10.
  - 14) 吉松勝彦<sup>1)</sup>, 岩崎俊雄, 藤原健智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>静岡大学): 脱窒古細菌 *Haloarcula marismortui* の異化型硝酸塩還元酵素の遺伝子構造. 第75回日本生化学会大会, 2002. 10.
  - 15) 山口雄一郎<sup>1)</sup>, 松村智裕, 市田公美<sup>1)</sup>, 細谷龍男<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>東京慈恵会医科大学): ヒトキサンチン脱水素酵素の大腸菌を用いた発現及び基質特異性認識機構の解析. 第36回日本痛風・核酸代謝学会, 2003. 2.
  - 16) 岡本 研, Eger BT<sup>1)</sup>, 西野朋子, Pai EF<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>University of Toronto): 複合体結晶構造から見た尿酸生成抑制剤のキサンチン酸化還元酵素阻害機構の検討. 第36回日本痛風・核酸代謝学会, 2003. 2.

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

遺伝子導入技術の開発・改良を進めるとともに、新たに多能性幹細胞を遺伝子治療の標的細胞とする可能性について検討した。我々の研究室では遺伝子異常の修復による遺伝子病の治療を最終目標として、遺伝子導入技術の開発、多能性幹細胞の研究、遺伝子修復技術の開発、の三つの課題について研究をすすめている。での具体的な成果としては、安全で高率のHIVベクター産生系を確立した。非分裂細胞の染色体への遺伝子組み込みが可能なHIVベクターの応用として、X連鎖無ガンマグロブリン血症(XLA)、眼内新生血管病、慢性関節リウマチ、白血病、多発性骨髄腫(MM)などの動物モデルに対する遺伝子治療実験を行い有用性を示した。神経系細胞、筋肉細胞、肝臓細胞への高率な遺伝子導入が可能なAAVベクターの応用として異染性ロイコジストロフィー(MLD)、Fabry病の遺伝子ノックアウトマウスや膵臓癌のモデルハムスターに対する遺伝子治療実験を行い有用性を示した。特にFabryマウスの実験では生化学的および組織学的異常をほぼ完全に治療できることを明らかにし、注目されている。ではGFPトランスジェニックマウスの骨髄細胞を移植したキメラマウスを作製し、骨髄細胞の多能性を研究する実験系を確立した。このキメラマウスを用い、心筋、脳組織、腎臓、小腸、膵臓の再生過程における骨髄幹細胞の関与を明らかにした。に関しては、M13mp2ファージのLacZ遺伝子の修復を指標とするin vitroのミスマッチ修復アッセイ系を確立した。M13mp2ファージに標的部位に相補的なオリゴヌクレオチドとHeLa細胞抽出液を反応させることで約1/2000の効率で塩基置換が起こることを確認した。患者自身の幹細胞の遺伝子修復技術が実用化できれば、多くの遺伝病について究極の遺伝子治療が可能になると考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Igarashi T, Miyake K, Suzuki N, Kato K, Takahashi H, Ohara K, Shimada T: New strategy for in vivo transgene expression in corneal epithelial progenitor cells. *Current Eye Res.* 2002; 24(1): 46-50.
- 2) Inokuchi K, Yamaguchi H, Hanawa H, Tanosaki S, Nakamura K, Tarusawa M, Miyake K, Shimada T: Loss of DCC gene expression is of prognostic importance in acute myelogenous leukemia. *Clinical Cancer Res.* 2002; 8(6): 1882-1888.
- 3) Takahashi H, Hirai Y, Migita M, Seino Y, Fukuda Y, Sakuraba H, Kase R, Kobayashi T, Hashimoto Y, Shimada T: Long-term systemic therapy of Fabry disease in a knockout mouse by adeno-associated virus-mediated muscle-directed gene transfer. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.* 2002; 99(21): 13777-13782.
- 4) Mochizuki H, Miura M, Shimada T, Mizuno Y: Adeno-associated virus mediated antiapoptotic gene delivery: in vivo gene therapy for neurological disorders. *Methods* 2002; 28(2): 248-252.
- 5) Orimo H, Shin Yoon S<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>(1)</sup> Department of Pediatrics, University of Munich): G317D mutation in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene associated with childhood hypophosphatasia in a German family. *J. Inherit. Metab. Dis.* 2002; 25(7): 601-602.
- 6) Watanabe H<sup>1)</sup>, Goseki-Sone M<sup>2)</sup>, Orimo H, Hamatani R<sup>2)</sup>, Takinami H<sup>1)</sup>, Ishikawa I<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Periodontology, Department of Hard Tissue Engineering, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Food and Nutrition, Japan Women's University): Function of mutant (G1144A) tissue-nonspecific ALP gene from hypophosphatasia. *J. Bone Miner. Res.* 2002; 17(11): 1945-1948.
- 7) Migita M<sup>1)</sup>, Uchikoba Y<sup>1)</sup>, Orimo H, Shimada T, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup>, Saitoh M<sup>3)</sup>,

- Fukunaga Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, The University of Tokyo): Genetic diagnosis of Werdnig-Hoffmann disease: a problem for application to prenatal diagnosis. *J Nippon Med Sch* 2003; 70(1): 45-48.
- 8) Igarashi T, Miyake K, Kato K, Watanabe A, Ishizaki M, Ohara K, Shimada T: Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy model. *Gene Ther.* 2003; 10(3): 219-226.
- 9) Tanaka R, Komine-Kobayashi M, Mochizuki H, Yamada M, Furuya T, Migita M, Shimada T, Mizuno, Urabe T: Migration of EGFP expressing bone marrow-derived microglia/macrophage into the mice brain following permanent focal ischemia. *Neuroscience* 2003; 117(3): 531-539.
- 10) Furuya T, Tanaka R, Urabe T, Hayakawa J, Migita M, Shimada T, Mizuno Y, Mochizuki H: Establishment of modified chimeric mice using GFP bone marrow as a model for neurological disorders. *Neuro Report* 2003; 14(4): 629-631.
- 11) 渡邊 淳, 島田 隆: 遺伝子診断からみた未病. *Progress in Medicine* 2002; 22: 119-122.
- 12) 島田 隆: 遺伝子治療の理念と方法(わかりやすいゲノム・再生医療の基礎・現状・展望). *medicina* 2002; 39: 398-400.
- 13) 五十嵐勉, 島田 隆, 大原國俊: 遺伝子治療の基礎と眼疾患への応用. *あたらしい眼科* 2002; 19: 1185-1196.
- 14) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆, 福永慶隆: 骨髄幹細胞の多能性と再生医療への応用. *小児科* 2002; 8: 1056-1061.
- (2) 綜説:
- 1) 神田佳和: 胚性腫瘍細胞の研究の進展と有用性: レチノイン酸による神経細胞系への分化. *生化学* 2002; 74(7): 567-572.

## 著 書

### (1) 原著:

- 1) Mochizuki H, Hayakawa H, Migita M, Shimada T, Masyuki M, Mizuno Y: Anti-apoptotic therapy for Parkinson's disease: overexpression of an apf-1-dominant-negative inhibitor can block MPTP toxicity. *Mapping the Program of Alzheimer's and Parkinson's Disease.* (edited by Mizuno et al). Kluwer Academic Publishers, 2002; pp469-472.
- 1) Igarashi T: [分担] In vivo gene transfer into corneal epithelial progenitor cells by viral vectors. *Advances in experimental medicine and biology* (Vol. 506), Lacrimal Gland, Tear Film, And Dry Eye Syndromes 3, Basic Science and Clinical Relevance (Edited by David A. Sullivan, Michael E. Stern, Kazuo Tsubota, Darlene A. Dartt, Rose M. Sullivan and B. Britt Bromberg.), 2002; pp1309-1314, Kluwer Academic/Plenum Publishers.
- 2) 神田佳和: [分担] ビタミンAとカロテノイド・12章. *最新栄養学: 専門領域の最新情報*(木村修一, 小林修平), 2002; pp129-147, 建綿社.

## 学会発表

### (1) ワークショップ:

- 1) 渡辺裕子<sup>1,2)</sup>, 鈴木由美<sup>1,2)</sup>, 千葉弘子<sup>1,2)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,3)</sup>, 右田 真<sup>1,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 附属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 小児科学): 日本医科大学附属病院遺伝外来における看護師の役割 現状と課題. 第1回日本遺伝看護研究会総会, 2002. 9.



(2) 一般講演 :

- 1) Takahashi H , Igarashi T , Fujimoto C , Ohara K , Ishizaki M ( <sup>1)</sup>Ophthalmology , <sup>2)</sup>Biochemistry , <sup>3)</sup>Ophthalmology , <sup>4)</sup>Ophthalmology , <sup>5)</sup>Pathology ): Immunohistochemical Observation of the Effects of the Amniotic Membrane After Corneal Alkali Burn . The association for research in vision and ophthalmology ( Florida ), 2002 . 5 .
- 2) Igarashi T , Miyake K , Kato M , Kato K , Suzuki N , Ishizaki M , Takahashi H , Ohara K , Shimada T : HIV Vector Mediated Expression of Angiostatin Efficiently Inhibits Neovascularization in a Murine Proliferative Retinopathy Model . The Association for Rresearch in Vision and Ophthalmology ( Florida ), 2002 . 5 .
- 3) Ikejima M , Shimada T : Molecular mechanism of oligonucleotide-mediated gene repair . The 5th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy ( Boston ( USA ) ), 2002 . 6 .
- 4) Noro T<sup>13)</sup> , Miyake K<sup>1)</sup> , Suzuki N<sup>1)</sup> , Uchida E<sup>2)</sup> , Yamazaki Y<sup>3)</sup> , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Surgery, Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Department of Surgery, Tokyo Jikei Medical School ): AAV Mediated Systemic Anti-angiogenic Gene Therapy for Pancreatic Cancer Metastases . American Society of Gene Therapy 5th Annual Meeting ( Boston ), 2002 . 6 .
- 5) Miyake K , Suzuki N , Shimada T : Lentiviral Mediated Systemic Antiangiogenic Gene Therapy of Non-Hodgkin Lymphoma . The 5th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Boston ), 2002 . 6 .
- 6) Suzuki N , Miyake K , Shimada T : A Novel Transfection-Free Packaging Strategy of HIV Vector Using a CHO Based Packaging Cell Line and an Adenovirus Based Expression Vectors . The 5th Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy ( Boston ), 2002 . 6 .
- 7) Kato K , Miyake K , Suzuki N , Okabe M , Igarashi T , Nagashima M , Yoshino S , Shimada T : HIV Vector-Mediated Gene Transfer of Angiostatin Inhibits Synovial Cell Proliferation and Angiogenesis of Collagen Induced Mouse Model . American society of gene therapy ( Boston ), 2002 . 6 .
- 8) Takahashi H , Hirai Y , Seino Y , Sakuraba H , Kase R , Hashimoto Y , Shimada T : Adeno-associated Virus Vector Mediated Muscle Directed Enzyme Replacement Therapy for Fabry Disease . American Society of Gene Therapy ( Boston ), 2002 . 6 .
- 9) Shimada T : AAV Vector mediated gene therapy for lysozomal diseases . 7th international symposium on mucopolysaccharide and related diseases, 3rd scientific lysosomal storage disorders congress ( Paris ), 2002 . 6 .
- 10) Shimada T : Targeted gene transfer by recombinant viral vectors . 2002 ICH Gene Therapy Workdshop ( Vienna, VA ), 2002 . 9 .
- 11) Hiranuma T<sup>1)</sup> , Watanabe A , Kinoshita H , Mizuguchi H<sup>2)</sup> , Hayakawa T<sup>2)</sup> , Matsukura M<sup>1)</sup> , Miike T<sup>1)</sup> , Shimada T ( <sup>1)</sup>熊本大学発達小児科 , <sup>2)</sup>国立医薬品食品衛生研究所 ): Vascular smooth muscle specific gene expression in vivo by the fiber-modified adenovirus vector . 52nd Annual Meeting of the American Society of Human Genetics ( Baltimore, USA ), 2002 . 10 .
- 12) Shimada T : AAV mediated gene therapy for lysosomal storage diseases . International Symposyum on the the Current Status of Gene Therapy ( Seoul, Korea ), 2002 . 10 .
- 13) Igarashi T , Miyake K , Kato K , Hayakawa J , Ishizaki M , Takahashi H , Ohara K , Shimada T : Bone marrow cells differentiated into neuron and glia in the mouse retina . The international society for eye research congress ( Geneva ), 2002 . 10 .
- 14) Igarashi T , Miyake K , Kato K , Kurai K , Ishizaki M , Takahashi H , Ohara K , Shimada T : Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy model . European society of gene therapy ( Antibes, France ), 2002 . 10 .

- 15) Kurai T , Igarashi T , Kato M , Noro T , Miyake K , Ogawa K , Ishizaki M , Takahashi H , Ohara K , Shimada T : Adeno-associated virus mediated systemic delivery of endostatin inhibits retinal angiogenesis without affecting growth and development of newborn mice. Adeno-associated virus mediated systemic delivery of endostatin inhibits retinal angiogenesis without affecting growth and development of newborn mice . European society of gene therapy ( Antibes, France ), 2002 . 10 .
- 16) Miyake K , Inokuchi K , Suzuki N , Shimada T : Suppression of Granulocytosis and Thrombocytosis by Systemic Antiangiogenic Gene Therapy for Myeloproliferative Disorders Induced by P230 Bcr-Abl in Transgenic Mice . The 44th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( Philadelphia ), 2002 . 12 .
- 17) Miyake K , Suzuki N , Okabe M , Shimada T : Comparative Evaluation of the Systemic Antiangiogenic Gene Therapy by Lentiviral Mediated Stem Cell Gene Transfer in a Mouse Model of Multiple Myeloma . The 44th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( Philadelphia ), 2002 . 12 .
- 18) Tanabe H , Miyake K , Shimada T : Expression of Bruton's Tyrosine Kinase in Hematopoietic Stem Cells Was Not Sufficient for Restore Immunoglobulin Concentration in X-Linked Immunodeficient Mice . The 44th Annual Meeting of The American Society of Hematology ( Philadelphia ), 2002 . 12 .
- 19) Igarashi T , Kurai T , Hayakawa J , Kato M , Kawabata K , Miyake K , Ishizaki M , Takahashi H , Ohara K , Shimada T : Circulating bone marrow cells migrated into the retinal tissue of the newborn mice and differentiated into retinal cells . American Society of Hematology ( Philadelphia ), 2002 . 12 .
- 20) Ikejima M , Shimada T : Molecular mechanism of oligonucleotide-mediated gene repair . The 8th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy , 2002 . 7 .
- 21) Noro T<sup>1,3)</sup> , Miyake K<sup>1)</sup> , Suzuki N<sup>1)</sup> , Uchida E<sup>2)</sup> , Yamazaki Y<sup>3)</sup> , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Surgery, Tokyo Jikei Medical School ): Suppression of Liver Metastases by Intramuscular Administration of Recombinant Adeno-associated Virus Vector Expressing Endostatin in Golden Hamster Model of Pancreatic Cancer . The 8th annual meeting The Japan society of gene therapy , 2002 . 7 .
- 22) Miyake K , Suzuki N , Shimada T : Suppression of Tumor Growth by Lentiviral Mediated Systemic Antiangiogenic Gene Therapy in Non-Hodgkin Lymphoma . The 8th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy ( Tokyo ), 2002 . 7 .
- 23) Miyake K , Suzuki N , Shimada T : A Novel Packaging System of HIV Vectors Using CHO Based Stable Packaging Cell Line and Adenovirus Based Expression Vectors . The 8th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy ( Tokyo ), 2002 . 7 .
- 24) Takahashi H , Hirai Y , Seino Y , Hashimoto Y , Sakuraba H , Shimada T : Development of AAV vector mediated enzyme replacement therapy for Fabry disease : echocardiographic evaluation of gene therapy of Fabry mice . The 8th Annual Meeting of The Japan Society of Gene Therapy ( Tokyo ), 2002 . 7 .
- 25) 高橋 啓 , 平井幸彦 , 清野精彦 , 橋本康弘 , 桜庭 均 , 島田 隆 : Adeno-associated Virus Vector Mediated Muscle Directed Enzyme Replacement Therapy for Fabry Disease . 生化学会 ( 京都 ), 2002 . 10 .
- 26) 早川 潤 , 右田 真 , 島田 隆 , 福永慶隆 : GFP+ 骨髄幹細胞と間葉系幹細胞を持つ2種類のキメラマウスの作成 : 間葉幹細胞の多能性の解明に向けて . 第105回日本小児科学会総会 ( 名古屋 ), 2002 . 4 .
- 27) 早川 潤 , 右田 真 , 林田真理 , 倉持雪穂 , 島田 隆 , 福永慶隆 : GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスの作製 ~ 骨髄細胞の多能性の解明に向けて ~ . 第一回日本再生医学学会総会 ( 京都 ), 2002 . 4 .
- 28) 神田佳和 : 細胞分化における a-SM-アクチンの動態 . 日本細胞生物学会 , 2002 . 5 .
- 29) 渡辺 淳<sup>1)</sup> , 平井幸彦 , 浅野ありさ<sup>1,2)</sup> , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来 , <sup>2)</sup> 同小児科 ): 医学部における臨床遺伝教育の必要性 : 医学部学生のアンケート結果を通して . 第26回日本遺伝カウンセリング学会 , 2002 . 5 .

- 30) 島田 隆<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,3)</sup>, 鈴木由美<sup>1,3)</sup>, 千葉弘子<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同小児科, <sup>3)</sup> 同看護部 ): 日本医科大学付属病院遺伝外来の現状 . 第26回日本遺伝カウンセリング学会, 2002 . 5 .
- 31) 鈴木由美<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,2)</sup>, 千葉弘子<sup>1,2)</sup>, 右田 真<sup>1,3)</sup>, 林 瑞成<sup>4)</sup>, 折茂英生, 浅野ありさ<sup>1,3)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 小児科, <sup>4)</sup> 女性診療科・産科 ): Werdnig-Hoffmann病の出生前診断に対する遺伝カウンセリングにおける看護職の役割 . 第26回日本遺伝カウンセリング学会, 2002 . 5 .
- 32) 高橋 浩, 五十嵐勉, 藤本千明, 大原国俊, 石崎正通 ( <sup>1)</sup> 眼科, <sup>2)</sup> 生化第二, <sup>3)</sup> 微生物学・免疫学, <sup>4)</sup> 眼科, <sup>5)</sup> 病理第一 ): 角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫組織学的検討 . 日本眼科学会総会, 2002 . 5 .
- 33) 五十嵐勉, 三宅弘一, 加藤美穂, 加藤 興, 鈴木紀子, 高橋 浩, 大原國俊, 島田 隆 : HIVベクターを使った網膜新生血管に対する遺伝子治療 . 第106回日本眼科学会総会 ( 仙台 ), 2002 . 5 .
- 34) 鈴木由美<sup>1,2)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>3)</sup>, 島 義雄<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 葛飾日赤産院 ): 羊水検査でマーカー染色体が発見された夫婦への遺伝カウンセリング . 第1回日本遺伝看護研究会総会, 2002 . 9 .
- 35) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 平井幸彦, 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同小児科 ): 日本医科大学における臨床遺伝教育の必要性 : 医学部2年生のアンケート結果を通して . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 36) 島田 隆<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>1,2)</sup>, 右田 真<sup>1,2)</sup>, 渡辺裕子<sup>1,3)</sup>, 鈴木由美<sup>1,3)</sup>, 千葉弘子<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝外来, <sup>2)</sup> 同小児科, <sup>3)</sup> 同看護部 ): 日本医科大学付属病院遺伝外来の現状 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 37) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆, 福永慶隆 : 骨髄生着における Dextran sulfate 及び SDF-1 の役割 : 臍帯血移植の適応拡大に向けて . 第64回日本血液学会総会, 2002 . 9 .
- 38) 神田佳和 : ヒト母乳由来増殖因子 ( MGF ) の活性部位の同定 . 日本生化学大会, 2002 . 10 .
- 39) 池島三与子, 黒川優子, 福田江里, 島田 隆 : 遺伝子を治療する遺伝子治療を目指して : 遺伝子修復アッセイの確立 . 第45回日本先天代謝異常学会総会, 2002 . 11 .
- 40) 高橋 啓, 平井幸彦, 清野精彦, 橋本康弘, 桜庭 均, 島田 隆 : Fabry 病遺伝子治療の検討 : 心臓超音波検査, 組織学的評価による治療効果の判定 . 先天代謝異常学会 ( 神戸 ), 2002 . 11 .
- 41) 久安早苗, 木下裕康, 足立久美, 平井幸彦, 島田 隆 : AAV-TATRep78蛋白質を用いたAAVベクターの産生系及び遺伝子の部位特異的組込法の開発 . 第25回日本分子生物学会年会 ( 横浜 ), 2002 . 12 .
- 42) 三宅弘一, 鈴木紀子, 島田 隆 : 血管新生抑制物質による悪性リンパ腫の遺伝子治療の検討 . 第45回日本臨床血液学会 ( 横浜 ), 2002 .
- 43) 早川 潤, 右田 真, 林田真理, 加藤善史, 島田 隆, 福永慶隆 : GFP+ 骨髄移植モデルを用いた腸管再生における骨髄細胞の動態 . 第一回日本再生医学学会総会 ( 神戸 ), 2003 . 3 .

## 7. 薬理学講座

### [ 薬理学 ]

#### 研究概要

当講座では、内因性生理活性物質および薬物と生体の相互作用について、神経伝達とそれらを制御する物質を中心に研究し、新しい作用機序に基づいた薬の開発を目指している。現在進行中の主な研究の概要と14年度の進行状況は以下のとおりである。

#### 1. 精神神経疾患の神経基盤の解明

抑うつや不安障害の神経基盤を、神経伝達の異常という観点から解明しようと試みている。そのために動物モデルを作成し、神経伝達の異常を分子生物学、行動科学、電気生理学的に解析している。特に不安情動の情報処理に重要な役割をしている扁桃体を中心に検討している。14年度は恐怖条件付けモデル動物を作成し、情動記憶によって変化する遺伝子を同定し、解析を行った。

#### 2. GABA シナプス伝達の修飾機構の解明

小脳および扁桃体において種々の神経伝達物質によるGABAを介する抑制性神経伝達の修飾機構について検討している。14年度は小脳プルキンエ細胞で観察されるGABA作動性の自発的後シナプス電流の頻度と振幅がプリン作動性神経伝達によって増大する機構について明らかにした。

#### 3. 痛みの発症・持続機構の解明

神経損傷などによって発症する神経因性疼痛について、その発症に関わる神経回路の可塑的变化を解明することを目指している。14年度は神経栄養因子のEIAを確立し、栄養因子蛋白の発現変化を観察した。その結果、グリア細胞株由来神経栄養因子および受容体の発現が慢性疼痛状態に伴って徐々に低下し、本因子の補充によって疼痛が緩和されることを見出した。

#### 4. エンドトキシン血症の発症機構

エンドトキシン血症の発症機構を解明するために、敗血症性の麻痺性イレウスin vivoモデルを作成し、in vivo条件下に検討を行っている。14年度はin vivoモデルをモルモットで確立し、リポポリサッカライド投与によってエンドトキシンショックの病態を再現することが可能となった。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Toriyama H<sup>1)</sup>, Wang L<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>1)</sup>, Zong S<sup>1)</sup>, Osanai M<sup>1)</sup>, Murakoshi T, Noda T<sup>2)</sup>, Ohno K<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med Dent Univ, <sup>2)</sup> Tohoku Univ ): Role of Ca<sub>v</sub>2.3 (  $\alpha_{1E}$  ) Ca<sup>2+</sup> channel in ischemic neuronal injury . Neuroreport 2002 ; 13 : 261-265 .
- 2) Tsunemi T<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>1)</sup>, Ishikawa K<sup>1)</sup>, Nagayama S<sup>1)</sup>, Murakoshi T, Mizusawa H<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med Dent Univ ): Novel Ca<sub>v</sub>2.1 splice variants isolated from Purkinje cells do not generate P-type Ca<sup>2+</sup> current . J Biol Chem 2002 ; 277 : 7214-7221 .
- 3) Sakata Y<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>1)</sup>, Zong S<sup>1)</sup>, Osanai M<sup>1)</sup>, Murakoshi T, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Noda T<sup>2)</sup>, Aso T<sup>1)</sup>, Tanabe T<sup>1)</sup>

(<sup>1</sup>Tokyo Med Dent Univ, <sup>2</sup>Tohoku Univ.): Ca<sub>v</sub>2.3 (  $\alpha_{1E}$  ) Ca<sup>2+</sup> channel participates in the control of sperm function . FEBS Lett 2002 ; 516 : 229-233 .

4) Takahashi N<sup>1</sup>), Nagano M, Suzuki H, Umino M<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>Anesthesiol Clin Physiol Tokyo Med Dent Univ): Expression changes of glial cell line-derived neurotrophic factor in a rat model of neuropathic pain . J Med Dent Sci 2003 ; 50 ( 1 ): 87-92 .

## (2) 綜説 :

1) 鈴木秀典 : 中枢におけるタキキニン作動性神経の役割 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 322-327 .

2) 鈴木秀典 : トピックス・用語解説 : ベンゾジアゼピンの鎮静作用と抗不安作用 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 405 .

3) 鈴木秀典 : トピックス・用語解説 : 唐辛子とペパーミント . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 406 .

4) 鈴木秀典 : ニューロステロイド . 小児科3月増刊号 2003 ; 44 ( 4 ): 520 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

1) Nagano M, Suzuki H : Expression of Neurotrophic factors is developmentally regulated in rat skeletal muscles . The 16th Japan-Korea Joint Seminar on Pharmacology ( Tokyo ), 2002 . 10 .

2) Suzuki H, Takahashi N<sup>1</sup>), Nagano M, Umino M<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>Anesthesiol Clin Physiol, Tokyo Med Dent Univ): Expression of glial cell line-derived neurotrophic factor in neuropathic pain caused by chronic constrictive injury of the sciatic nerve . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando ( USA ) ), 2002 . 11 .

3) Saitow F, Konishi S<sup>1,2</sup>) (<sup>1</sup>Mitsubishi Kasei Inst Life Sci, <sup>2</sup>CREST, JST): Roles of I<sub>h</sub> in  $\alpha$ -adrenergic receptor-mediated enhancement of inhibitory transmission at cerebellar basket cell-purkinje cell synapses . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando ( USA ) ), 2002 . 11 .

4) 高橋直樹<sup>1</sup>), 鈴木秀典, 海野雅浩<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>東京医歯大院・麻酔生体管理): 一次求心性線維損傷における神経栄養因子の発現の定量的解析 . 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .

5) 二宮宣文<sup>1</sup>), 根本香代, 岡村忠夫, 鈴木秀典, 山本保博<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>救急医学): 意識下無拘束モルモット腸管平滑筋実験モデルにおける lipopolysaccharide の作用 . 第17回日本Shock学会, 2002 . 5 .

6) 齋藤文仁, 小西史朗<sup>1,2</sup>) (<sup>1</sup>三菱化学生命研, <sup>2</sup>CREST, JST):  $\alpha$ -アドレナリン受容体で仲介される小脳 GABA シナプス増強機構における I<sub>h</sub> チャネル活性化の役割 . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .

7) 高橋直樹<sup>1</sup>), 永野昌俊, 海野雅浩<sup>1</sup>), 鈴木秀典 (<sup>1</sup>東京医歯大院・麻酔生体管理): グリア細胞由来神経栄養因子の神経因性疼痛に対する疼痛軽減効果 . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .

8) 浜田 剛, 程久美子<sup>1</sup>), 高橋史峰<sup>1</sup>), 今城純子<sup>2</sup>), 小野寺英貴<sup>2</sup>), 三嶋拓也<sup>2</sup>), 鈴木秀典 (<sup>1</sup>東京大院・理・生物化学, <sup>2</sup>日本医科大学解剖第1): 脊髄由来新規細胞増殖因子ファミリー, SCDGF, の中枢神経系における発現 . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .

9) 三嶋拓也<sup>1</sup>), 浜田 剛, 程久美子<sup>2</sup>), 鈴木秀典, 今城純子<sup>1</sup>), 山下和雄<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>日本医科大学解剖第1, <sup>2</sup>東京大院・理・生物化学): ニワトリ胚脊髄における DDAH1 の発現 . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .

10) 高橋史峰<sup>1</sup>), 浜田 剛, 永野昌俊, 実川佐智恵, 鈴木秀典, 三嶋拓也<sup>2</sup>), 今城純子<sup>2</sup>), 太田成男<sup>3</sup>), 程久美子<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>東京大院・理・生物化学, <sup>2</sup>日本医科大学解剖第1, <sup>3</sup>同老人病研究所・生化学部門): ニワトリ7SL RNA 相同分子の運動ニューロン生存活性及び発現分布 . 第25回日本神経科学大会, 2002 . 7 .

11) 鈴木秀典 : 生体警告系としてのタキキニン作動性神経伝達 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .

12) 二宮宣文<sup>1</sup>), 根本香代, 岡村忠夫, 鈴木秀典, 山本保博<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>救急医学): エンドトキシン血症モルモットにおける抗インフルエンザウイルス剤の効果 . 第30回日本救急医学会総会, 2002 . 10 .

13) 高橋史峰<sup>1</sup>), 浜崎浩子<sup>2</sup>), 浜田 剛, 鈴木秀典, 三嶋拓也<sup>3</sup>), 今城純子<sup>3</sup>), 上田 龍<sup>4</sup>), 西郷 薫<sup>5</sup>), 程久美子<sup>1</sup>)

- (<sup>1</sup>)東京大院・理・生物化学,<sup>2</sup>)東京医歯大・難研,<sup>3</sup>)日本医科大学解剖第1,<sup>4</sup>)三菱化学生命研,<sup>5</sup>)東京大院・理・生化):脊椎動物の胚発生におけるRNA interference法を用いた遺伝子機能解析.第25回日本分子生物学会年会,2002.11.
- 14)永野昌俊,高橋直樹<sup>1</sup>),海野雅浩<sup>1</sup>),鈴木秀典(<sup>1</sup>)東京医歯大院・麻酔生体管理):ラット神経因性疼痛モデルにおけるグリア細胞株由来神経栄養因子の疼痛軽減効果.戦略的創造研究推進事業(CREST)「脳を知る」合同シンポジウム"脳神経科学の最先端2002",2002.11.
- 15)齋藤文仁,小西史朗<sup>1,2</sup>)(<sup>1</sup>)三菱化学生命研,<sup>2</sup>)CREST, JST):小脳GABAシナプスのP2Y受容体を介する増強機構.戦略的創造研究推進事業(CREST)「脳を知る」の合同シンポジウム"脳神経科学の最先端2002",2002.11.
- 16)蒔苗浩司<sup>1</sup>),中野朝彩子<sup>2</sup>),橋本直子<sup>2</sup>),鈴木秀典,小西史朗<sup>1,2</sup>)(<sup>1</sup>)CREST, JST,<sup>2</sup>)三菱化学生命研):恐怖条件づけにより発現が増加する遺伝子の同定.戦略的創造研究推進事業(CREST)「脳を知る」合同シンポジウム"脳神経科学の最先端2002",2002.11.
- 17)山本保博<sup>1</sup>),二宮宣文<sup>1</sup>),原田尚重<sup>1</sup>),根本香代,岡村忠夫,鈴木秀典(<sup>1</sup>)救急医学):アナンダミドおよび2-アラキドノイルグリセロール投与によるモルモットのエンドトキシン様作用発現.第7回エンドトキシン血症救命治療研究会,2003.1.
- 18)根本香代,岡村忠夫,二宮宣文<sup>1</sup>),原田尚重<sup>1</sup>),山本保博<sup>1</sup>),鈴木秀典(<sup>1</sup>)救急医学):覚醒モルモットの腸管運動に及ぼすカンナビノイドの影響.第76回日本薬理学会年会,2003.3.

## [ 臨床薬理センター ]

### 研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokineticsの研究:NONMEM(Non-Linear Mixed Effect Model)は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能なpopulation pharmacokinetics理論を応用した薬物動態解析プログラムである.抗不整脈薬の光学異性体の薬物動態の特徴を分析した.
2. センター長の大橋は,新GCPに関する平成9年度,10年度,厚生科学研究の"モニタリングと監査のあり方"に参加し,また平成11年度"医療機関におけるモニタリング受け入れガイドライン"作成のため厚生省の作業班に参加し,この方面の研究を重ねてきた.日本医科大学付属病院に治験支援室が新設され,治験データの品質管理,品質保証部門を臨床薬理センターが担当した.その中で「照合率」,「不整合率」などによる品質評価尺度を提唱した.今後更に医療機関自らが行うデータマネジメントについて研究を進めていく.
3. 薬害予防の立場から医薬品の有害事象に関する情報収集を行い,内容を分析している.
4. *Helicobacter pylori*(HP)urease蛋白を構成する重複した合成ペプチド群を作成してELISA法により中和抗体の認識部位と最小抗原決定基を同定した.さらにこれらの同定部位のペプチドを合成し,それぞれウサギに免疫して得られた血清よりIgGを精製し,HP ureaseに対する中和能を比較検討した.またureaseに対する薬剤のurease中和能についても検討している.
5. 自然発症慢性膵炎モデルのWBN/Kobラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究.開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せ検討している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

- 1) 大橋和史:医療機関における治験データマネジメントの現状と今後の課題.臨床評価 2002;29(2・3):333-344.

## 著 書

- 1) 大橋和史：〔分担〕臨床試験・治験の基盤整備と実施 6. モニタリング・監査．CRCテキストブック（日本臨床薬理学会），2002；pp113-122，医学書院．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子，廣田 薫，奈良弘恵<sup>1)</sup>，太田詩穂子，大橋和史（<sup>1)</sup> 附属4病院薬物治験審査委員会事務局）：日本医科大学附属4病院 薬物治験審査委員会（IRB）年間報告（平成13年度）．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 2) 大橋和史，阿曾亮子，廣田 薫，太田詩穂子，奈良弘恵<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 附属4病院薬物治験審査委員会）：開発中止薬の分析：治験審査委員会（IRB）のフォロー業務として．第23回日本臨床薬理学会年会，2002．12．
- 3) 阿曾亮子，廣田 薫，太田詩穂子，大橋和史，奈良弘恵<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 附属4病院薬物治験審査委員会）：医療機関自身による治験データの品質評価の試み：CRC導入後の照合可能率及び不整合率の調査．第23回日本臨床薬理学会年会，2002．12．
- 4) 阿曾亮子，廣田 薫，太田詩穂子，大橋和史：CRC対応の有無による治験データの品質比較評価：医療機関自身による照合可能率及び不整合率の調査．日本薬学会第123年会，2003．3．

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

基礎的な研究としては、肺臓病理学、腎臓病理学、心臓病理学、皮膚病理学、眼科病理学を中心に行なわれた。肺臓では、培養線維芽細胞走化におけるプロスタグランディンの影響、MMP-2 ノックアウトマウスにおける実験的肺線維症、間質性肺炎におけるKL-6の産生細胞、間質性肺炎におけるepimorphinの役割、肺癌の組織型と予後、腎臓では、実験的閉塞性腎炎における尿細管周囲血管の変化、実験的腎移植の慢性拒絶の機序、VEGFによる実験的糸球体腎炎の進行抑制、Thy-1腎炎における補体の関与、Thy-1腎炎におけるリンパ流路傷害負荷の影響、Fabry病モデルの遺伝子治療、心臓では心弁膜硬化と動脈硬化、皮膚では、創傷治癒機転におけるCyclooxygenase-2の関与、眼では、グリーンマウスを応用した網膜、角膜における各種細胞への分化、angiostatinによる実験的網膜血管増生抑制などが報告された。また、方法論として、抗1本鎖DNA抗体によるapoptosis細胞の検出、免疫組織化学における新しい抗原賦活法、共焦点レーザー顕微鏡の応用などが報告された。これらの研究には、基礎配属学生が行ったものも含まれることを特筆したい。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も活発に行われた。各種間質性肺炎、間質性肺炎合併肺癌、シェーグレン症候群の肺病変、各種肺癌、肺過誤腫、中皮腫、副腎炎症性偽腫瘍、急性糸球体腎炎、IgA腎症、巣状糸球体腎炎、半月体形成糸球体腎炎、遺伝性腎症、クリオグロブリン血症に伴う膜性増殖性糸球体腎炎、悪性リンパ腫、ムコール真菌症、子宮体癌、乳癌、癌浸潤による尿崩症、各種細胞診などでの報告が行われた。

また、本年度から新たに肺臓、腎臓、角膜、心臓弁膜にまたがる「難治性線維性疾患の病態・機序の解明と治療への応用研究」が立ち上げられており、今後の発展が期待される。

### 研究業績

#### 論文

〔2001年度追加分〕

原著：

- 1) Kohyama T<sup>1)</sup>, Ertl RF<sup>1)</sup>, Valenti V<sup>1)</sup>, Spurzem J<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Veys TA<sup>1)</sup>, IIEga L<sup>1)</sup>, Romberger DJ<sup>1)</sup>, Rennard S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Pulmonary and Critical Care Medicine Section, University of Nebraska Medical Center ): Prostaglandin E 2 inhibits fibroblast chemotaxis. Am J Physiol 2001 ; 281 ( 5 ): L1257-L1263 .
- 2) Okada D, Koizumi K<sup>1)</sup>, Haraguchū S<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Mikami I<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第2 ) : Two cases of pneumothorax manifesting primary lung cancer. Jpn J Thorac Cardiovascular Surg 2002 ; 50 ( 3 ): 133-136 .

( 1 ) 原著：

- 1) Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>, Sachs David<sup>1)</sup>, Colvin R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Transplant biology research center, Massachusetts General Hospital, USA, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital, USA ): Mechanisms of chronic renal allograft rejection. II. Progressive allograft glomerulopathy in miniature swine. Lab Invest 2002 ; 82 ( 6 ): 673-686 .
- 2) Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Transplant biology research center, Massachusetts General Hospital, USA, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Massachusetts General Hospital, USA ): Mechanisms of chronic renal allograft rejection. I. Persistent rejection of peritubular capillaries and tubules is associated with



progressive interstitial fibrosis . Kidney Int 2002 ; 61 ( 5 ): 1867-1879 .

- 3) Shichinohe K<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Ishizaki M ( <sup>1)</sup>実験動物管理室, <sup>2)</sup>老研病理部門): Supplementation of heterologous complement induces anti-thy-1. 1 nephritis in the mongolian gerbil ( Meriones unguiculatus ). J. Vet. Med. Sci. 2002 ; 64 ( 6 ): 463-467 .
- 4) Okada D, Koizumi K<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第2 ) : A case of chronic expanding hematoma as a huge mass in the pleural cavity . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 3 ): 282-285 .
- 5) Ohashi R, Shimizu A, Masuda Y, Kitamura H, Ishizaki M, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>付属病院病理部 ): Peritubular Capillary Regression during the Progression of Experimental Obstructive Nephropathy . J Am Soc Nephrol 2002 ; 13 ( 7 ): 1795-1805 .
- 6) Takahashi H<sup>1)</sup>, Hirai Y<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Sakuraba H<sup>3)</sup>, Kase R<sup>3)</sup>, Kobayashi T<sup>4)</sup>, Hashimoto Y<sup>4)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>生化第2, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research, <sup>4)</sup>理研 ): Long-term systemic therapy of Fabry disease in a knockout mouse by adeno-associated virus-mediated muscle-directed gene transfer . Proc Natl Acad Sci USA 2002 ; 99 ( 21 ): 13777-13782 .
- 7) Futagami A, Ishizaki M, Fukuda Y, Kawana S<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1)</sup>皮膚科学 ): Wound Healing Involves Induction of Cyclooxygenase-2 Expression in Rat Skin . Lab Invest 2002 ; 82 ( 11 ): 1503-1513 .
- 8) Mikami I<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Hemmi S, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1)</sup>, Akiyama H<sup>1)</sup>, Hirai K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第2 ) : Functional mediastinal parathyroid cyst : report of a case . Surg Today 2002 ; 32 ( 4 ): 351-353 .
- 9) Satou E<sup>1)</sup>, Kawamoto M, Nakayama T, Kunugi S, Yoshimura A<sup>2)</sup>, Haraguchi S<sup>3)</sup>, Okada D<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>4)</sup>, Fukuda Y, Koizumi K<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>日本医科大学第5学年, <sup>2)</sup>内科学第4, <sup>3)</sup>外科学第3, <sup>4)</sup>付属病院病理部 ): Prognostic suggestion in the evaluation of solid component in poorly differentiated adenocarcinoma of the lung . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 28-33 .
- 10) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup>, 中山一隆<sup>5)</sup>, 川本雅司, 杉浦仁<sup>5)</sup>, 内藤善哉<sup>6)</sup>, 横山宗伯<sup>6)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>外科学第1, <sup>4)</sup>外科学第2, <sup>5)</sup>内科学第3, <sup>6)</sup>病理学第2 ) : 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例 . 内科 2002 ; 89 ( 5 ): 935-945 .
- 11) 榎本達治<sup>1)</sup>, 川本雅司, 功刀しのぶ, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榎原桂太郎<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 福田 悠, 工藤翔二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>外科学第2 ) : 胸腔鏡下肺生検後に急性増悪した特発性肺線維症症例の検討 . 日呼会誌 2002 ; 40 ( 10 ): 806-811 .

## (2) 綜説 :

- 1) 石崎正通 : An absence of the collagen type IV 5 chain in alport syndrome . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 2 ): 86-87 .
- 2) 中山智子, 福田 悠 : 特発性間質性肺炎 3 : 線維化のメカニズム . 治療学 2002 ; 36 ( 6 ): 573-576 .
- 3) 中山智子, 福田 悠 : 線維化のメカニズム . 特集 : びまん性肺疾患, 求められる的確な鑑別診断 . 治療学 2002 ; 36 ( 6 ): 573-576 .
- 4) 中山智子, 福田 悠 : 特集 間質性肺炎のアップデート2002 : 線維化形成の機序と治療反応性 . 呼吸 2002 ; 21 ( 8 ): 726-731 .
- 5) 中山智子, 福田 悠 : 線維化形成の機序と治療反応性 . 特集 : 間質性肺炎のアップデート2002 . 呼吸 2002 ; 21 ( 8 ): 726-731 .
- 6) 福田 悠 : 肺臓の線維化-間質性肺炎の分類と病態 . 特集 : 臓器線維症 : 発症機序の解明と対策 . 医のあゆみ 2002 ; 201 : 887-890 .

- 7) 福田 悠：病理形態像からみた治る間質性肺炎と治らない間質性肺炎．特集：特発性間質性肺炎の診断と治療．呼吸器科 2002；1：485-491．
  - 8) 功刀しのぶ，福田 悠：胎生肺発生からみた肺の再生と細胞外基質．特集：慢性閉塞性肺疾患．現代医療 2002；34：2161-2165．
  - 9) 福田 悠：特集「肺」導入として：肺線維症・肺気腫におけるリモデリング．特集：肺．Connective tissue 2002；34：199-207．
  - 10) 寺崎泰弘，福田 悠：肺線維症におけるエピモルフィンの役割．特集：肺．Connective tissue 2002；34：225-233．
  - 11) 井内康輝<sup>1)</sup>，堤 寛<sup>2)</sup>，田村浩一<sup>3)</sup>，川本雅司，鬼島 宏<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学，<sup>2)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一病理学，<sup>3)</sup>日本医科大学付属病院病理部，<sup>4)</sup>東海大学医学部総合診療系病理診断学部門)：新医師臨床研修制度におけるCPCレポート作成と症例提示の意義．医のあゆみ 2003；204(12)：885-890．
  - 12) 田村浩一<sup>1)</sup>，井内康輝<sup>2)</sup>，堤 寛<sup>3)</sup>，川本雅司，鬼島 宏<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学，<sup>3)</sup>藤田保健衛生大学医学部第一病理学教室，<sup>4)</sup>東海大学医学部総合診療系病理診断学部門)：新医師臨床研修制度におけるCPCレポートはいかにあるべきか：レポート作成の要点と留意事項．医のあゆみ 2003；204(12)：891-901．
- (3) 随想：
- 1) 福田 悠：臨床：研究の周辺から．呼吸 2003；22(1)：1-2．

## 著 書

- 1) 川本雅司，福田 悠：〔分担〕診断・治療のための必須知識：病理．呼吸器病 New Approach 「間質性肺炎びまん性肺疾患(永井厚志，大田 健，飛田 渉)，2002；pp40-43，メジカルビュー社．
- 2) 福田 悠：〔分担〕呼吸器疾患の病理診断．別冊 医学のあゆみ．呼吸器疾患 state of art(北村 諭，福地 義之助，石井芳樹)，2002；pp229-232，医歯薬出版．

## 学会発表

〔2001 年度追加分〕

### 一般講演：

- 1) 宮永晃彦<sup>1)</sup>，栗林茂彦<sup>1)</sup>，奈良道哉<sup>1)</sup>，細見幸生<sup>1)</sup>，岡野哲也<sup>1)</sup>，弦間昭彦<sup>1)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，功刀しのぶ，川本雅司，福田 悠(<sup>1)</sup>内科学第4)：尿崩症を初発症状とした肺腺癌下垂体転移の1例．第133回日本肺癌学会関東支部会，2002．3．

### (1) 教育講演：

- 1) 川本雅司：小型肺腺癌の細胞像：良性病変から高分化腺癌まで．兵庫県細胞診従事者講習会，2002．10．

### (2) シンポジウム：

- 1) 福田 悠：治る間質性肺炎，治らない間質性肺炎(肺病理の新展開)．第42回日本呼吸器学会総会，2002．4．
- 2) 高山守正<sup>1,5)</sup>，安藤岳史<sup>2,5)</sup>，桃井貴裕<sup>2,5)</sup>，本間英恵<sup>2,5)</sup>，川本雅司<sup>5)</sup>，中村 隆<sup>3,5)</sup>，五十嶋一成<sup>4,5)</sup>，五十嶋博文<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第一，<sup>2)</sup>日本医科大学山岳部，<sup>3)</sup>中村病院，<sup>4)</sup>自衛隊中央病院内科，<sup>5)</sup>日本医科大学山岳医学研究会，<sup>6)</sup>太郎平小屋)：北アルプス中高年登山者における登山中の疾病発症予防・予後予測：山小屋でのSpO<sub>2</sub>測定の意義．第22回日本登山医学シンポジウム，2002．5．
- 3) 清水 章：糸球体の再生・修復不全による糸球体硬化の発症とその制御(修復機構とその破綻)．第23回日本炎症再生医学会，2002．7．

- 4) 清水 章：腎微小血管系の傷害と腎不全の進展（腎疾患治療薬の創製に向けて：腎不全進行と尿細管間質の慢性虚血状態）。キリン腎臓ミニシンポジウム，2002．12．
- 5) 福田 悠：肺線維症の超微形態（臓器線維症-その形態と分子病理学）。日本電子顕微鏡学会第58回学術講演会，2002．

(3) ワークショップ：

- 1) 清水 章，益田幸成，森貴博一，北村博司，石崎正通，福田 悠，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院病理部)：糸球体硬化にまで進展する進行性実験腎炎における糸球体毛細血管網の動態．第91回日本病理学会総会，2002．4．
- 2) 福田 悠：間質性肺炎の線維化形成過程（間質性肺疾患の診断，病理発生と病態）．第91回日本病理学会総会，2002．4．
- 3) 川本雅司，松原美幸<sup>1)</sup>，佐藤春明<sup>1)</sup>，鈴木あかね<sup>1)</sup>，渡會泰彦<sup>1)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院病理部)：腺癌と鑑別を要する細胞が出現する良性・非腫瘍性病変「小型肺腺癌の細胞像の検討：良性病変から早期腺癌まで」．第43回日本臨床細胞学会総会，2002．6．
- 4) 林田真理<sup>1)</sup>，石崎正通，右田 真<sup>1)</sup>，土屋正巳<sup>1)</sup>，村上睦美<sup>1)</sup>，福永慶隆<sup>1)</sup>，島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学，<sup>2)</sup>生化学第2)：腎炎治癒過程における骨髓幹細胞の役割．日本小児腎臓病学会，2002．7．
- 5) 清水 章：間質・尿細管障害の考え方と鑑別診断．腎病理組織診断研究会，2003．1．

(4) 一般講演：

- 1) Kim Yong J<sup>1)</sup>， Shimizu A (<sup>1)</sup>College of Medicine, Yeungnam University, Korea)：A case of resolving stage of postinfectious acute glomerulonephritis．The 1st Korean-Japanese Joint conference of the renal pathology (Seoul, Korea)，2002．4．
- 2) Kitamura H， Yim EE<sup>1)</sup>， Sugisaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Ajou University School of Medicine，<sup>2)</sup>附属病院病理部)：A 71 year-old woman with hypertension with presented with edema．The 1st Korean-Japanese Joint conference of the renal pathology (Seoul, Korea)，2002．4．
- 3) Nakayama T， Kohno N<sup>1)</sup>， Ishizaki masamichi， Masuda Y， Fukuda Y (<sup>1)</sup>Second Department of Internal Medicine, Hiroshima University)：Detection of KL-6 production and localization in interstitial pneumonia．American thoracic society, 98th international conference (Atlanta, USA)，2002．5．
- 4) Igarashi T<sup>1)</sup>， Miyake K<sup>1)</sup>， Kato K<sup>1)</sup>， Suzuki N<sup>1)</sup>， Ishizaki M， Takahashi H<sup>2)</sup>， Ohara K<sup>2)</sup>， Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2，<sup>2)</sup>眼科)：HIV Vector Mediated Expression of Angiostatin Efficiently Inhibits Neovascularization in a Murine Proliferative Retinopathy Model．The association for research in vision and ophthalmology (Florida, USA)，2002．5．
- 5) Terasaki Y<sup>1)</sup>， Fukuda Y， Suga M<sup>2)</sup>， Takeya M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学医学部病理，<sup>2)</sup>同内科)：Epimorphin and urokinase-type plasminogen activator in interstitial lung disease．American thoracic society, 98th international conference (Atlanta, USA)，2002．5．
- 6) Fukuda Y， Nakayama T， Kunugi S， Ishizaki M， Itohara S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>理研)：Retarded alveolar epithelial cell repair after bleomycin treatment in mice．American thoracic society, 98th international conference (Atlanta, USA)，2002．5．
- 7) Namimatu S<sup>1)</sup>， Matubara M<sup>1)</sup>， Ozaki M<sup>1)</sup>， Wakamatu K， Gahzizadeh M<sup>2)</sup>， Ishizaki M， Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院病理部，<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門)：Application of cytraconic anhydride (CCA) for antigen retrieval immunohistochemistry．The Sixth Joint Meeting of The Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry and The Histochemical Society (Seattle, USA)，2002．7．
- 8) Igarashi T<sup>12)</sup>， Miyake K<sup>1)</sup>， Kato M<sup>1)</sup>， Hayakawa J<sup>1)</sup>， Ishizaki M， Takahashi H<sup>2)</sup>， Ohara K<sup>2)</sup>， Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2，<sup>2)</sup>眼科学)：Bone marrow cells differentiated into neuron and glia in the mouse retina．The international society for eye research congress (Geneva)，2002．10．

- 9) Igarashi T<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kurai T<sup>1,2)</sup>, Ishizaki M, Takahashi H<sup>2)</sup>, Ohara K<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>眼科): Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy model. European society of gene therapy (Antibes), 2002. 10.
- 10) Kurai T<sup>1,2)</sup>, Igarashi T<sup>1,2)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Noro T<sup>1,4)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Ogawa K<sup>1,3)</sup>, Ishizaki M, Takahashi H<sup>2)</sup>, Ohara K<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>眼科, <sup>3)</sup>小児科, <sup>4)</sup>慈恵大学医学部外科): Adeno-associated virus mediated systemic delivery of endostatin inhibits retinal angiogenesis without affecting growth and development of newborn mice. European society of gene therapy (Antibes), 2002. 10.
- 11) Igarashi T<sup>1,2)</sup>, Kurai T<sup>1,2)</sup>, Hayakawa J<sup>1,3)</sup>, Kato M<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Kabata K<sup>1,3)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>眼科学, <sup>3)</sup>小児科学): Circulating bone marrow cells migrated into the retinal tissue of the newborn mice and differentiated into retinal cells. American society of hematology (Philadelphia, USA), 2002. 10.
- 12) Shimizu A, Masuda Y, Kitamura H, Ohashi R, Ishizaki M, Fukuda Y, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): Vascular endothelial growth factor165 (VEGF165) prevents immune-mediated necrotizing and crescentic glomerular injury and accelerates glomerular repair in the experimental crescentic glomerulonephritis (GN). American society of nephrology 35th Annual Meeting (Philadelphia, USA), 2002. 11.
- 13) Kawamoto M, Matsubara M<sup>1)</sup>, Sato H<sup>1)</sup>, Satake A<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): Difficulty in the cytological distinction between pulmonary well differentiated adenocarcinoma cells and non-malignant cells. 日中医学大会(北京), 2002. 11.
- 14) Igarashi T<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Takahashi H<sup>2)</sup>, Ohara K<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2, <sup>2)</sup>眼科学): Inhibition of Neovascularization in a Murine Proliferative Retinopathy Model by Lentivirus Mediated Expression of Angiostatin. The Japan Society of Gene Therapy, 2002. 10.
- 15) 益田幸成, 清水 章, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup>付属病院病理部): Thy-1腎炎のメサンギウム流路障害負荷による影響について. 第91回日本病理学会総会, 2002. 4.
- 16) 中山智子, 河野修興<sup>1)</sup>, 石崎正通, 益田幸成, 福田 悠(<sup>1)</sup>広島大学第二内科): 間質性肺炎(IP)肺組織におけるKL-6の産生と局在の同定. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 17) 榎本達治<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 平松久弥子<sup>1)</sup>, 榊原桂太郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>2)</sup>, 平田知巳<sup>2)</sup>, 福島光浩<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>外科学第2): 胸腔鏡下肺生検後に増悪したUIP2症例の検討. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 18) 持丸 博<sup>1)</sup>, 川本雅司, 福田 悠, 榎本達治<sup>2)</sup>, 平松久弥子<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>船堀クリニック, <sup>2)</sup>内科学第4): PM / DM に伴う亜急性発症の間質性肺炎(SAIP)におけるTBLB検体による予後予測. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 19) 岡田大輔, 逸見しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>内科学第4): 間質性肺炎合併肺癌手術症例の検討. 第42回日本呼吸器病学会総会, 2002. 4.
- 20) 小倉高志<sup>1)</sup>, 高橋 宏<sup>1)</sup>, 吉池保博<sup>1)</sup>, 綿貫祐司<sup>1)</sup>, 佐藤雅訓<sup>1)</sup>, 宮沢直幹<sup>1)</sup>, 長岡章平<sup>2)</sup>, 大野美香子<sup>2)</sup>, 青木昭子<sup>1)</sup>, 石ヶ坪良明<sup>1)</sup>, 矢澤卓也<sup>1)</sup>, 伊藤隆明<sup>3)</sup>, 小田切繁樹<sup>1)</sup>, 福田 悠, 庄司 晃<sup>4)</sup>, 北村 均<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立呼吸器循環器病センター呼吸器科, <sup>2)</sup>横浜南共済病院リウマチ科, <sup>3)</sup>横浜市大病理, <sup>4)</sup>同内科): 原発性シェーグレン症候群に伴う気管支・肺病変の臨床・病理学的検討. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 21) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>, 福田 悠, 竹屋元裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学病理): 間質性肺炎におけるuPAを介したエピモルフィンの役割. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 22) 寺崎泰弘<sup>1)</sup>, 一門和也<sup>2)</sup>, 東元一晃<sup>2)</sup>, 福田 悠, 弦間昭彦<sup>3)</sup>, 持丸 博, 竹屋元裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>熊本大学医学部病理,

- 2) 同内科, 3) 日本医科大学内科第4) : Micronodular type II cell hyperplasiaの2例の検討 . 第91回日本病理学会総会, 2002 . 4 .
- 23) 清水 章, 益田幸成, 森 貴博, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部) : 進行性半月体形成性実験腎炎に対するVEGFを用いた積極的な糸球体毛細血管の再生促進の影響 . 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
- 24) 益田幸成, 清水 章, 北村博司, 森 貴博, 石崎正通, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部) : Thy-1腎炎におけるプロタミン投与による影響について . 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
- 25) 飛騨真理子<sup>1)</sup>, 藤田尚代<sup>1)</sup>, 大森さゆ<sup>1)</sup>, 小崎健次郎<sup>1)</sup>, 粟津 緑<sup>1)</sup>, 清水 章 (<sup>1)</sup>慶応義塾大学小児科) : Cockayne症候群に合併したFGSの1例 . 第67回関東小児腎臓研究会, 2002 . 6 .
- 26) 中島泰志<sup>1)</sup>, 池田昌弘<sup>1)</sup>, 若木 均<sup>1)</sup>, 亀井宏一<sup>1)</sup>, 森 一越<sup>1)</sup>, 石倉建司<sup>1)</sup>, 幡谷浩史<sup>1)</sup>, 本田雅敬<sup>1)</sup>, 緒方健太郎<sup>2)</sup>, 清水 章 (<sup>1)</sup>都立清瀬小児病院 腎内科, <sup>2)</sup>川崎市立井田病院病理) : 高度な尿細管間質病変を認めた巣状糸球体硬化症 (FGS) の2症例 . 第67回関東小児腎臓研究会, 2002 . 6 .
- 27) 沖野恵子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 川本雅司, 松原美幸<sup>2)</sup>, 浅川一枝<sup>2)</sup>, 渡會泰彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 同病理部) : 卵巣腫瘍として発見された子宮体癌肉腫卵巣転移例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2002 . 6 .
- 28) 阿部 崇<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 川本雅司, 渡會泰彦<sup>2)</sup>, 浅川一枝<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部) : 子宮内膜細胞診を契機に手術に至った大腸癌卵管転移例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2002 . 6 .
- 29) 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 川本雅司 (<sup>1)</sup>外科学第2) : 肺癌原発印環細胞癌の一切除 . 第134回日本肺癌学会関東支部会, 2002 . 7 .
- 30) 新井孝司, 清水 章, 石川吾利美, 田村尚美, 北村博司, 益田幸成, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 付属病院病理部) : 抗一本鎖DNA抗体を用いたアポトーシス細胞の同定 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002 . 9 .
- 31) 片岡光枝, 益田幸成, 石川吾利美, 田村尚美, 北村博司, 清水 章, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 福田 悠 (<sup>1)</sup> 付属病院病理部) : 腎糸球体における毛細血管網傷害後の血管再生 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002 . 9 .
- 32) 斎藤義人<sup>1)</sup>, 安達明里<sup>1)</sup>, 布施晴子<sup>1)</sup>, 中西茂良<sup>1)</sup>, 永井洋子<sup>1)</sup>, 若倉 学<sup>1)</sup>, 清水 章 (<sup>1)</sup>東邦大学 内科) : 肉芽腫を伴った尿管間質性腎炎 . 第28回東京腎生検カンファレンス, 2002 . 9 .
- 33) 西村元伸<sup>1)</sup>, 小澤真一<sup>1)</sup>, 萩原正大<sup>1)</sup>, 鈴木理志<sup>1)</sup>, 吉村和修<sup>1)</sup>, 寺脇博之<sup>1)</sup>, 長谷川俊男<sup>1)</sup>, 山田研一<sup>1)</sup>, 浜田欣一<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>1)</sup>, 寺野 隆<sup>2)</sup>, 清水 章 (<sup>1)</sup>国立佐倉病院, <sup>2)</sup>千葉市立病院) : 腎障害進展を腎生検にて追跡し得たPOEMS症候群の1例 . 第28回東京腎生検カンファレンス, 2002 . 9 .
- 34) 中山智子, 石崎正通, 益田幸成, 福田 悠 : 間質性肺炎 (IP) におけるKL-6の局在と産生の同定 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 35) 松原美幸<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 尾崎正行<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 浅川一枝<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 佐竹あかね<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 川本雅司, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 病理学第2) : 穿刺吸引細胞診判定不能例について . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 36) 浅川一枝<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 安藤 哲<sup>1)</sup>, 尾崎正行<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 佐竹あかね<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>2)</sup>, 川本雅司, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 病理学第2) : 乳線invasive microcapillary carcinomaの2例 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 37) 安藤岳史<sup>1)</sup>, 桃井貴裕<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 川本雅司, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup>, 五十嶋博文<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部学生, <sup>2)</sup> 同内科学第1, <sup>3)</sup> 中村病院, <sup>4)</sup> 自衛隊中央病院, <sup>5)</sup> 太郎平小屋, 山岳医学研究会) : 北アルプス中高年登山者における登山中の疾病発症予防・予後予測 : 山小屋でのSpO<sub>2</sub>測定の意義 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 38) 浅川一枝<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 佐竹あかね<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 源河

- 敦史<sup>2)</sup>, 川本雅司, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>同病理学第2): 乳線 invasive microcapillary carcinoma の2例. 日本臨床細胞学会関東連合会, 2002. 9.
- 39) 富樫真由子<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 萬里小路直樹<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup>昭和女子大学大学院生活機構研究科, <sup>2)</sup>付属病院病理部): 心臓弁膜硬化と大動脈・冠動脈硬化症の関連性. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 40) 新津義文<sup>1)</sup>, 小俣百世<sup>1)</sup>, 清水 章(<sup>1)</sup>石心会狭山病院内科): 悪性腎硬化症により半月体形成を伴う急速進行性腎炎症候群を呈したIgA腎症の1例. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 41) 土井研人<sup>1)</sup>, 野入英世<sup>1)</sup>, 平田恭信<sup>2)</sup>, 藤田敏郎<sup>1)</sup>, 清水 章, 北村博司, 杉崎祐一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学腎臓内分泌内科, <sup>2)</sup>同循環器内科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院病理部): 本態性クリオグロブリン血症に伴う膜性増殖性糸球体腎炎(MPGN)にて慢性腎不全を呈する1例の長期観察. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 42) 須賀 優<sup>1)</sup>, 小野田教高<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>, 櫻井祐成<sup>1)</sup>, 大園英一<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 清水 章, 北村博司(<sup>1)</sup>春日部秀和病院腎臓内科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院内科): 尿所見の乏しい時期に腎組織を評価し得たANCA関連腎炎の1症例. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 43) 岸雄一郎<sup>1)</sup>, 柏木哲也<sup>1)</sup>, 藤田有子<sup>1)</sup>, 飯塚美穂<sup>1)</sup>, 王 恒雄<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 青木 宏<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 北村博司(<sup>1)</sup>内科第2): ぶどう膜炎に肉芽腫性間質性腎炎を併発した1例. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 44) 大塚美穂<sup>1)</sup>, 橋本和政<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 北村博司(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第2): 血中免疫複合体が持続高値を示したC-ANCA陽性の半月体形成性腎炎の1例. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 45) 新藤 晋<sup>1)</sup>, 池園哲郎<sup>1)</sup>, 李 麗淑<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>, 石崎正通(<sup>1)</sup>耳鼻科): 発生過程におけるCochlinの発現ラットを用いた研究 第2報. 日本めまい平衡医学会総会, 2002. 10.
- 46) 上野 亮<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 中山智子, 福田 悠(<sup>1)</sup>内科第1): 間質性肺炎に対するステロイド治療中, 急速に進行する舌壊死を呈したムコール症の一部検例. 日本内科学会関東地方会例会, 2002. 11.
- 47) 川本雅司, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 佐竹あかね<sup>1)</sup>, 浅川一枝<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 肺原発Signet-ring cell carcinomaの1例. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 11.
- 48) 米山剛一<sup>1)</sup>, 川本雅司, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 八田充子<sup>1)</sup>, 阿部 崇, 土居大祐<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 渡會泰彦<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部): Endometrial intraepithelial carcinomaの存在を疑った子宮体癌症例の病理学的検討. 第41回日本臨床細胞学会秋期総会, 2002. 11.
- 49) 佐々木量矢<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): 3年経過の後に切除された悪性胸膜中皮腫の1例. 日本肺癌学会関東地方会, 2002. 12.
- 50) 平松久弥子<sup>1)</sup>, 加藤英治<sup>1)</sup>, 榊原桂太郎<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 中山智子, 福田 悠(<sup>1)</sup>内科第4): 不規則な分布を示すびまん性粒状影を呈したT細胞性悪性リンパ腫の1例. 第149回日本呼吸器学会関東地方会, 2002.
- 51) 上山雅子<sup>1)</sup>, 榊原桂太郎<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 加藤英治<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 福田 悠(<sup>1)</sup>内科第4): 肺胞出血を伴ったIgA腎症の1例. 第150回日本呼吸器学会関東地方会, 2002.
- 52) 北村博司: 糸球体に多量の沈着物を伴ったM蛋白陰性のMPGN様腎症の1例. 腎病理組織診断研究会, 2003. 1.
- 53) 持丸 博<sup>1)</sup>, 川本雅司, 日野光紀<sup>2)</sup>, 福田 悠, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>船堀クリニック, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第4): 急性好酸球性肺炎(AEP)と慢性好酸球性肺炎(CEP)の臨床病理学的比較. 第43回日本呼吸器学会総会, 2003. 3.

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

現在、病理学第二講座では、人体病理学および実験病理学の効果的な融合と治療への応用を目標に以下の内容を中心に研究を進めている。

(1) 心血管系に関する研究；動脈硬化，心筋梗塞症や糖尿病における血管障害や組織障害の発生機序の解明を目的に，これらの病態発生に関わる形態変化をレーザー顕微鏡や電子顕微鏡などを用いて解析している．さらに病態の発生進展に関連する脂質成分，変性糖化物質（AGEs）やFGF（Fibroblast growth factor）などの増殖因子，フィブロネクチンなどの細胞外基質成分などの関与および，病態の進展に関連する細胞内外の蛋白質の産生とこれらの遺伝子の発現-調節機構について検討している．

(2) 腫瘍の増殖進展に関する研究；腫瘍細胞の増殖進展転移にともなう細胞内のmycなどの癌遺伝子，癌抑制遺伝子の発現の変化，keratinocyte growth factor（KGF）などの増殖因子とその受容体の関与やルミカンやラミニンなどの細胞外基質の産生や細胞外基質との接着状態による影響についても検討している．また，これらの遺伝子や蛋白質の発現を調節する因子（熱ショック蛋白など）の役割や細胞内シグナル伝達機構について検討している．

癌の増殖，転移に重要な役割を果たす血管およびリンパ管にも注目し，血管内皮細胞やリンパ管増殖に関与するVascular endothelial growth factor（VEGF）などの増殖因子やそれらの受容体についても研究を行っている．

(3) 消化器疾患に関する研究；特に胃，消化器疾患に関しては，過去7年間に集積した胃生検23,000例を用い，ヘリコバクターピロリと胃炎，胃癌発生との関連やアジア，アフリカ各国の民族差も含め解析を進めている．また，各種肝障害ならびに肝癌や胃癌発生におけるチトクロームP450など薬物代謝酵素の関与やp53癌抑制遺伝子などの遺伝子異常や遺伝子多型との関係についても検討している．

(4) 脳神経疾患に関する研究；脳神経病理学の領域では，老人性痴呆症であるアルツハイマー病やパーキンソン病，レビー小体病などの中枢神経変性疾患の形態的变化を中心に研究を進めている．特にアルツハイマー病に関しては，病態の発生進展に重要な老人斑の形成に注目し，老人斑の形成に関与する異常燐酸化Tau蛋白質や $\beta$ -amyloidなどの異常沈着物の発生機序の解明を目指して研究を行っている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wauke K<sup>1)</sup>, Nagashima M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Asano G, Yoshino S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Joint Disease and Rheumatism): Expression and localization of vascular endothelial growth factor-C in rheumatoid arthritis synovial tissue. J Rheumatol 2002; 29(1): 34-38.
- 2) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Mori O<sup>2)</sup>, Yokoyama M, Kawamoto Y<sup>3)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Ciba hokusou Hospital, <sup>3)</sup>First Department of Surgery): Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus: cytological and immunohistochemical observation of a case. Pathol Int 2002; 52(1): 75-81.
- 3) Lu Y-P, Ishiwata T, Asano G: Lumican expression in alpha cells of islets in pancreas and pancreatic cancer cells. J Pathol 2002; 196(3): 324-330.
- 4) Nagae Y, Kameyama K, Yokoyama M, Naito Z, Yamada N, Maeda S, Asano G: Expression of E-cadherin, catenin and C-erbB-2 gene products in invasive ductal-type breast carcinomas. J Nippon Med Sch 2002; 69(2): 165-171.

- 5) Naito Z, Ishiwata T, Kurban G, Teduka K, Kawamoto Y, Kawahara K, Sugisaki Y : Expression and accumulation of lumican protein in uterine cervical cancer cells at the periphery of cancer nests . *Int J Oncol* 2002 ; 20 ( 5 ) : 943-948 .
- 6) Akasu H<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Kitagawa W<sup>1)</sup>, Naito Z, Kawanami O<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Second Department of Surgery ) : Histological study of papillary thyroid carcinoma treated with percutaneous ethanol injection therapy . *Pathol Int* 2002 ; 52 ( 5-6 ) : 406-409 .
- 7) Hirose Y, Naito Z, Kato S, Onda M, Sugisaki Y : Immunohistochemical study of CYP2E1 in hepatocellular carcinoma carcinogenesis . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 3 ) : 243-251 .
- 8) Kornmann M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Matsuda K<sup>2)</sup>, Lopez ME<sup>2)</sup>, Fukahi K<sup>2)</sup>, Asano G, Beger HG<sup>1)</sup>, Korc M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of General Surgery, University of Ulm, Germany , <sup>2)</sup>Department of Medicine, Biological Chemistry, and Pharmacology, University of California, USA ) : IIIc isoform of fibroblast growth factor receptor 1 is overexpressed in human pancreatic cancer and enhances tumorigenicity of hamster ductal cells . *Gastroenterology* 2002 ; 123 ( 1 ) : 301-313 .
- 9) Matsukura N<sup>1)</sup>, Yokomuro S<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Naito Z, Sundo T<sup>2)</sup>, Hamada T<sup>3)</sup>, Kamiyama S<sup>4)</sup>, Fox JG ( <sup>1)</sup>First Department of Surgery , <sup>2)</sup>Department of Surgery, Faculty Medicine, Chiang Mai University Thailand , <sup>3)</sup>Diagnostic Division, Gene Diagnostic Research, Otuka Assay Laboratories , <sup>4)</sup>Department of Infectious Diseases, Kyourin University , <sup>5)</sup>Division of comparative Medicine, Massachusetts Institute of Technology, USA ) : Association between *Helicobacter bilis* in bile and biliary tract malignancies : *H. bilis* in bile from Japanese and Thai patients with benign and malignant diseases in the biliary tract . *Jpn J Cancer Res* 2002 ; 93 ( 7 ) : 841-847 .
- 10) Lu Y-P, Ishiwata T, Kawahara K, Watanabe M<sup>1)</sup>, Naito Z, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Asano G ( <sup>1)</sup>Center for Digestive Diseases, Second Affiliated Hospital , <sup>2)</sup>Division of Surgical Pathology ) : Expression of lumican in human colorectal cancer cells . *Pathol Int* 2002 ; 52 ( 8 ) : 519-526 .
- 11) Nagashima M, Tanaka H, Takahashi H, Tachihara A, Tanana K, Ishiwata T, Asano G, Yosino S : Study of the mechanism involved in angiogenesis and synovial cell proliferation in human synovial tissues of patients with rheumatoid arthritis using SCID mice . *Lab Invest* 2002 ; 82 ( 8 ) : 981-988 .
- 12) Okajima Y<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazak T<sup>1)</sup>, Onda M : Clinical application of a CT-guided lung biopsy system : Core needle biopsy at the IVR center . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 5 ) : 434-444 .
- 13) Ishiwata T, Naito Z, Lu YP, Kawahara K, Fujii T, Kawamoto Y, Teduka K, Sugisaki Y : Differential distribution of fibroblast growth factor ( FGF ) -7 and FGF-10 in L-arginine-induced acute pancreatitis . *Exp Mol Pathol* 2002 ; 73 ( 3 ) : 181-190 .
- 14) Sawada N, Ishiwata T, Naito Z, Maeda S, Sugisaki Y, Asano G : Immunohistochemical localization of endothelial cell markers in solitary fibrous tumor . *Pathol Int* 2002 ; 52 ( 12 ) : 769-776 .
- 15) Uchida E, Tajiri T, Nakamura Y, Aimoto T, Naito Z : Relationship between grade of fibrosis in pancreatic stump and postoperative pancreatic exocrine activity after pancreaticoduodenectomy with special reference to insufficiency of pancreaticointestinal anastomosis . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 6 ) : 549-556 .
- 16) Naito Z, Ishiwata T, Lu YP, Teduka K, Fujii T, Kawahara K, Sugisaki Y : Transient and ectopic expression of lumican by acinar cells in L-arginine-induced acute pancreatitis . *Exp Mol Pathol* 2003 ; 74 ( 1 ) : 33-39 .
- 17) Naito Z, Takashi E, Xu G, Ishiwata T, Teduka K, Yokoyama M, Yamada N : Different influences of hyperglycemic duration on phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in rat heart . *Exp Mol Pathol* 2003 ; 74 ( 1 ) : 23-35 .



- 18) Onda M, Naito Z, Wang R, Fujii T, Kawahara K, Ishiwata T, Sugisaki Y: Expression of keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR2 IIIb) in vascular smooth muscle cells. *Pathol Int* 2003; 53 (3): 127-132.
- 19) Sun Y, Naito Z, Ishiwata T, Maeda S, Sugisaki Y, Asano G: Basic FGF and Ki-67 proteins useful for immunohistological diagnostic evaluations in malignant solitary fibrous tumor. *Pathol Int* 2003; 53 (5): 284-290.
- 20) 内藤善哉, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 浅川一枝<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院病理部, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部): 神経細胞への分化を伴った浸潤性乳癌の3例. *日本臨床細胞学会雑誌* 2002; 41 (1): 14-20.
- 21) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 中山一隆<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 杉原仁<sup>4)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯, 田村浩一<sup>6)</sup>, 福田 悠<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 外科学第1, <sup>3)</sup> 外科学第2, <sup>4)</sup> 内科学第3, <sup>5)</sup> 病理学第1, <sup>6)</sup> 付属病院病理部): 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例. *内科* 2002; 89 (5): 935-945.
- 22) 北川泰之<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 家田俊也<sup>1)</sup>, 南部昭彦<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一, 前田昭太郎 (<sup>1)</sup> 整形外科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 多摩永山病院病理部): MIB 1抗体を用いたけん鞘巨細胞腫の細胞増殖能の検討. *東日本整形災害外科学会雑誌* 2002; 14 (2): 174-178.
- 23) 小泉康雄<sup>1)</sup>, 新藤 晋<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部): 頸縦隔型脂肪肉腫の1例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2002; 74 (9): 622-626.
- 24) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 阿部久美子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 付属永山病院病理部, <sup>2)</sup> 外科学第1): 乳腺硬癌に関する細胞学的, 組織学的検討: 穿刺吸引細胞診でいかに正しく診断するか. *日本臨床細胞学会雑誌* 2003; 42 (1): 64-72.

## 著 書

- 1) 細根 勝, 前田昭太郎, 内藤善哉: [分担] “体腔液細胞アトラス: 体腔液細胞診の理解のために”. *体腔液原発悪性リンパ腫*, 2002; pp104-109, 篠原出版新社.
- 2) 内藤善哉: [分担] 色素排泄試験, シデロソーム, ズダンIII染色, 正誤率. *医学大事典* (印刷中), 2003; 医学書院.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学第1): 胃粘膜におけるサイトカインIL-1, IL-8, COX2および胃粘膜防御因子である trefoil factor family 1 (PS2) のmRNA発現からみた胃癌発生高危険度粘膜の特徴. *DDW 消化器*, 2002. 10.
- 2) 町田 稔, 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 放射線科ハイテクリサーチセンター): 光感受性物質を用いた動脈硬化巣のスペクトル解析 (21世紀の脈管学を担う青年医師の研究). *第43回日本脈管学会総会*, 2002. 11.

### (2) パネルディスカッション:

- 1) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学第1): *Helicobacter pylori*感染と胃癌発生高危険度粘膜の関連: 胃粘膜におけるIL-1, IL-8, COX2および胃粘膜防御因子である trefoil factor family 1 (PS2) のmRNA発現の特徴. *日本消化器癌発生学会*, 2002. 9.

### (3) 一般講演:

- 1) Saika S<sup>1)</sup>, Miyamoto T<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tanaka T<sup>1)</sup>, Ohnishi Y<sup>2)</sup>, Ooshima A<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Asano, G,

- Liu C-Y<sup>2)</sup>, Kao CWC<sup>3)</sup>, Kao WW-Y<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Ophthalmology, Wakayma Medical University, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Wakayma Medical University, <sup>3)</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati Medical Center, OH, USA ): Ectopic expression of lumican in lens epithelium during wound repair . Pacific-ECM meeting in Hamamatsu ( Hamamatsu ), 2002 . 4 .
- 2) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): Expression of lumican in colorectal cancer with liver metastasis . 18th United International Cancer Congress ( Oslo ), 2002 . 6 .
  - 3) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): Expression of lumican in advanced colorectal cancer . 18th United International Cancer Congress ( Oslo ), 2002 . 6 .
  - 4) Tajiri T<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Togashi A<sup>1)</sup>, Tsuruta A<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): The association of the mRNA expression levels of the IL-1 , IL-8, COX2 and trefoil factor family 1 ( PS2 ) gene in the stomach and the highrisk mucosa for gastric carcinogenesis . The 2nd Annual Conference of Korea-Japan Joint Meeting of *Helicobacter Pylori* , 2002 . 6 .
  - 5) Takashi E , Xu G , Tezuka K , Ishiwata T , Naito Z , Yokoyama M , Yamada N , Asano G , Sugisaki Y : Aging induced failure of myocardial ERK1/2 during ischemia-reperfusion via intracellular glycation . 6th Joint meeting of the JSHC & HCS ( Seattle ), 2002 . 7 .
  - 6) Xu G , Takashi E , Tezuka K , Ishiwata T , Naito Z , Yokoyama M , Yamada N , Asano G , Sugisaki Y : Short and long period hyperglycemia induce different reaction of ERK1/2 in rat heart . 6th Joint meeting of the JSHC & HCS ( Seattle ), 2002 . 7 .
  - 7) Katayama H<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Higo M<sup>1)</sup>, Obana Y<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Tamabayama Hospital ): Technical examination of HER2 status in breast cancer of immunohistochemical staining . Thai-Japanese Breast Cancer Conference Schedule ( Chiang Mai ), 2002 . 8 .
  - 8) Takashi E , Xu G , Tezuka K , Ishiwata T , Naito Z , Yokoyama M , Yamada N , Asano G , Sugisaki : Inhibited ERK1/2 phosphorylation and intracellular glycation in aging rat heart . ISHR 19th annual meeting of Japanese section ( Yamagata ), 2002 . 10 .
  - 9) Takahashi Y<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): Lumican expression in advanced gastric cancer . 10th United European Gastroenterology Week ( Geneve ), 2002 . 10 .
  - 10) Seya T<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): Lumican expression in advanced colorectal cancer . 10th United European Gastroenterology Week ( Geneve ), 2002 . 10 .
  - 11) Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>First Department of Surgery ): Expression of matrix metalloproteinase-9 in gastric cancer . 10th United European Gastroenterology Week ( Geneve ), 2002 . 10 .
  - 12) Lu YP , Naito Z , Ishiwata T , Kawahara K , Fujii T , Kawamoto Y , Teduka K , Sugisaki Y : Transient expression of lumican in L-arginine-induced pancreatitis . American Pancreatic Association Meeting ( Chicago ), 2002 . 11 .
  - 13) Ishiwata T , Naito Z , Lu Y-P , Kawahara K , Fujii T , Kawamoto Y , Teduka K , Sugisaki Y : Differential expression of fibroblast growth factor ( FGF ) -7 and FGF-10 in L-arginine-induced acute pancreatitis . American Pancreatic Association Meeting ( Chicago ), 2002 . 11 .
  - 14) Isobe H<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z (<sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology, Tamabayama Hospital ): Fine needle aspiration ( FNA ) cytology of intramuscular nodular fasciitis : Cytologic-

- histologic correlations between two separate cases . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. ( Hua Hin ), 2003 . 1 .
- 15) Liu AM<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital ): The role of electron microscopic studies in fine needle aspiration cytology . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua Hin ), 2003 . 1 .
  - 16) Watanabe M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital ): A comparison study of Papanicolaou, Giemsa and H-E stains in cytology and histology . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua Hin ), 2003 . 1 .
  - 17) Obata Y<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital ): Clear cell chondrosarcoma. A case report . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua Hin ), 2003 . 1 .
  - 18) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital ): Primary intracranial osteosarcoma : a case report . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology, ( Hua Hin ), 2003 . 1 .
  - 19) Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital ): Fine needle aspiration cytology ( FNAC ) of 40 cases of histologically-definite node-based lymphomas with flow cytometric immunophenotyping . The Third IAP Asia Pacific Meeting( IAP2003 ) ( Bangkok ), 2003 . 1 .
  - 20) Machida M<sup>1)</sup>, Kameyama K, Onda M, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Radiology ): Photosignal analysis using hematoporphyrin as a microenvironmental probe for experimental atheromatous . European Congress of Radiology ( Vienna ), 2003 . 3 .
  - 21) Liu AM<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Tamagayama Hospital, <sup>2)</sup> Division of Surgical Pathology ): Large cell carcinoma with neuroendocrine features of the lung : Immunohistochemical and electron microscopic studies . 第70回日本医科大学医学学会総会 , 2002 . 9 .
  - 22) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : 進行大腸癌におけるlumicanの発現 . 第61回日本癌学会総会 , 2002 . 10 .
  - 23) 雑賀司珠也<sup>1)</sup>, 宮本 武<sup>1)</sup>, 田中オー<sup>1)</sup>, 田中 剛<sup>1)</sup>, 大西克尚<sup>1)</sup>, 大島 章<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 淺野伍朗 ( <sup>1)</sup> 眼科学, Chia-Yang Liu, CandaceW-C. Kao, WinstonW-Y Kao ): 創傷治癒過程での水晶体上皮細胞のルミカン発現 . 水晶体研究会 , 2002 . 1 .
  - 24) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 恩田宗彦, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 放射線科ハイテクリサーチセンター ): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いた分光および位相解析 . 第61回日本医学放射線学会総会 , 2002 . 4 .
  - 25) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : 進行大腸癌におけるルミカンの発現意義 . 第102回日本外科学会 , 2002 . 4 .
  - 26) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : 大腸癌肝転移症例におけるLumicanの発現 . 第102回日本外科学会 , 2002 . 4 .
  - 27) 廣井 信<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : ハムスター実験腫瘍モデルにおけるN-[3, 4-dimethoxycinnamoyl]-anthranilic acid ( tranilast ) の抗腫瘍効果 . 第102回日本外科学会 , 2002 . 4 .
  - 28) 田中秀和<sup>1)</sup>, 永島正一<sup>1)</sup>, 吉野槇一<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 淺野伍朗 ( <sup>1)</sup> リウマチ科 ): 滑膜組織におけるFGF-7, FGF-10の産生と局在およびそのレセプターの存在について . 第46回日本リウマチ学会 , 2002 . 5 .
  - 29) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部 ): 術中迅速診断における細胞診材料への迅速免疫染色の検討 . 第43回日本臨床細胞学会総会 , 2002 . 5 .

- 30) 森 修<sup>1)</sup>, 青木純夫<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>3)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>内科学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部 ): 非定型的横断性脊髄症状で発症したSubacute necrotic myelopathyの1例. 第43回日本神経病理学会総会学術研究会, 2002. 5.
- 31) 森 修<sup>1)</sup>, 黒木副武<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>付属千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>内科学第2 ): Neuroaxonal dystrophyを伴う, パーキンソン病の1例. 第43回日本神経病理学会総会学術研究会, 2002. 5.
- 32) 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ): 肝胆膵腫瘍FNA細胞診における針内遺残細胞の腫瘍マーカー測定の意義. 第43回日本臨床細胞学会総会, 2002. 5.
- 33) 山本 剛<sup>1)</sup>, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 第10回肝病態生理研究会, 2002. 5.
- 34) 喬 炎, 徐 光, 手塚 潔, 内藤善哉, 石渡俊行, 横山宗伯, 山田宣孝, 淺野伍朗, 杉崎祐一: 加齢心筋におけるリン酸化ERK1/2の減少とAGEsの形成. 第44回日本老年医学会, 2002. 6.
- 35) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ): 正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌, 転移性肝癌組織における炎症性サイトカインIL-8およびCOX2のmRNA発現レベルの相違 (第1報. 日本肝臓学会総会, 2002. 6.
- 36) 鈴木康之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 家田俊也<sup>1)</sup>, 南部昭彦<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院整形外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部 ): 手に発生した骨外性軟骨腫の2例. 第35回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会, 2002. 7.
- 37) 北川泰之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 武内俊次<sup>1)</sup>, 角田 隆<sup>1)</sup>, 丸山晴久<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院整形外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): 腱鞘巨細胞腫の治療成績と問題点. 第35回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会, 2002. 7.
- 38) 横山宗伯, 恩田宗彦, 北川泰之<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>整形外科学, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): 左下腿前面皮下に発生し扁平な形状を示した紡錘形細胞腫瘍の1例. 第35回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会, 2002. 7.
- 39) 沖野恵子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 川本雅司<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>3)</sup>, 渡会泰彦<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>産婦人科学, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>付属病院病理部 ): 卵巣腫瘍として発見された子宮体部癌肉腫卵巣転移例. 第43回日本臨床細胞学会総会, 2002. 7.
- 40) 花尾ゆかり<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 淡明細胞型軟骨肉腫の1例: 臨床病理学的鑑別診断について. 第16回臨床細胞学会関東連合会総会, 2002. 9.
- 41) 川野記代子, 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 内藤善哉, 横山宗伯: Hercep Testの基礎的検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 42) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 再発をくりかえしMIB-1Indexの高値化を示した脊索腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 43) 浅川一枝, 永井祥子, 安藤 哲, 尾崎正行, 内藤善哉, 横山宗伯: 乳腺Invasive micropapillary carcinomaの2例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 44) 松原美幸<sup>1)</sup>, 釜口晴美, 尾崎正行, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部 ): 穿刺吸引細胞診判定不能例について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 45) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 淡明細胞型軟骨肉腫の1例: 臨床病理学的な鑑別診断. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 46) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 術中迅速診断における迅速免疫染色併用の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 47) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>脳神経外科学 ): 脳原発骨肉腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

- 48) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 術中迅速診断における迅速免疫染色併用の検討 . 第70回日本医科大学医学学会総会, 2002 . 9 .
- 49) 内藤善哉, 石渡俊行, 浅野伍朗, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 残胃癌組織における染色体不安定性ならびにEB virusの関与 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 50) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 : 筋肉内結節性筋膜炎の2症例 . 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002 . 10 .
- 51) 福島光浩<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 内木場庸子<sup>1)</sup>, 千葉 隆, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>外科学第2 ) : 診断に苦慮した右胸腔内成熟奇形種の1例 . 第55回日本胸部外科学会総会, 2002 . 10 .
- 52) 松田範子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 残肝再発におよぼす正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌組織中のIL-8, COX2, HGF の mRNA 発現レベルと肝線維化との関連 . 日本消化器癌発生学会, 2002 . 10 .
- 53) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌組織中のIL-8, COX2, HGF の mRNA 発現レベルが残肝再発や手術成績におよぼす影響 . DDW2002 ( 日本肝臓学会大会 ), 2002 . 10 .
- 54) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 胃粘膜防御因子 Trefoil Factor Family1 ( TTF1 : PS2 ), IL-1, IL-8, COX の mRNA 発現からみた胃癌発生高危険粘膜の特徴 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 55) 内藤善哉, 石渡俊行, 浅野伍朗, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 残胃癌組織における染色体不安定性ならびにEB virusの関与 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 56) 高橋由至<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 進行胃癌におけるルミカンの発現についての検討 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 57) 松田範子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌, 転移性肝癌組織におけるIL-8, COX2, HGF およびCytochrome p450 2E1 ( CYP2E1 ) の mRNA 発現の特徴 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 58) 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 胃癌におけるMMP-9発現の意義 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 59) 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 相本孝之<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : PGHAM-1細胞によるハムスター実験肝癌モデル . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 60) 加藤俊二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>外科学第1 ) : 胃の発癌におよぼす胃粘膜背景因子と胃酸分泌を制御するIL-1 遺伝子多型性およびその mRNA 発現の個人差 . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 61) 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 王 若皎, 町田 幹, 恩田宗彦, 横山宗伯, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup>放射線科学 ): 冠動脈硬化進展評価のための病巣偏光成分の偏光と散乱分光と位相解析 . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .
- 62) 町田 幹<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 町田 稔<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>放射線科学 ): micospectrometry と画像解析を用いた, 人大動脈の動脈硬化性病変における, 組織変化を伴うHDL会合や凝集の分布 . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .
- 63) 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部 ): 脂腺への分化を伴う耳下腺上皮筋上皮癌の1例 . 第41回 日本臨床細胞学会秋期大会, 2002 . 11 .
- 64) 松原美幸<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 横山宗伯, 北川泰之<sup>2)</sup>, 前田美穂 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>整形外科 ): 大細胞Ewing肉腫の1例 . 第41回 日本臨床細胞学会秋期大会, 2002 . 11 .
- 65) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 脳原発骨肉腫の1例 . 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002 . 11 .
- 66) 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 横山宗伯 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 術中迅速診断におけ

る迅速免疫染色併用の検討：迅速組織材料と細胞診材料との比較検討を含めて．第49回日本臨床検査医学会総会，2002．11．

67) 恩田宗彦，石渡俊行，川原清子，亀山孝二，内藤善哉：ヒト冠動脈硬化病巣におけるlumicanタンパクの局在についての病理組織学的検討．第43回日本脈管学会総会，2003．11．

(4) スライドカンファレンス：

1) 内藤善哉，秋丸琥甫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：画像診断が細胞診に有用であった症例：3. 消化器．第21回日本臨床細胞学会東京都支部総会学術集会（スライドカンファレンス），2002．6．

(5) フォーラム：

1) 加藤俊二<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，内藤善哉(<sup>1)</sup>外科学第1)：胃の発癌におよぼす胃粘膜背景因子と胃酸分泌を抑制するIL-1 遺伝子多型性 およびそのmRNA発現の個人差．第102回日本外科学会（フォーラム），2002．4．

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、教職員および大学院生が一丸となって感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などの研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。

感染症学および感染免疫学：[A] HIVに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1) 千葉大学齋藤研究室との共同研究で開発したHIV特異的キラーT細胞(CTL)のT細胞レセプター発現トランスジェニックマウスを用い、感染防御におけるCTLの役割を粘膜面も含め解析し、エイズの病態解明を進めている。(2) ウイルス蛋白断片により活性化したCTLがApoptosisに陥ることを見だし、その機序について検討した。(3) こうしたCTLが殺虫剤におけるリン酸化合物によって傷害されることを見出した。(4) 京都大学との共同研究において、Nef遺伝子欠損ウイルスの経鼻接種により粘膜感染に対する感染抵抗性が誘導されることをサルモデルを用いて見出した。(5) そして特殊なりボソームを用いることにより粘膜免疫の効率を上げるための方法を見出した。(6) さらに、乳汁中のマクロファージがHIVを運搬するDC-SIGNを発現することを見出した。[B] C型肝炎ウイルスの発症機序に関するウイルス特異的CTLがHCVのE1抗原を認識し肝障害の誘発に関与することを見出した。[C] (1) ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼを不活性化する抗体が感染予防効果を有するか否かを追跡している。[D] 結核菌脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子であるCD1分子について、細胞生物学的、免疫学的研究を展開している。とくに今後の抗結核脂質ワクチンの開発をめざし、モルモットを用いた結核感染モデルやCD1トランスジェニックマウスの作製を進めている。

腫瘍免疫学：(1) 腫瘍細胞表面より弱酸抽出法により得られた腫瘍抗原付与した樹状細胞によりNKT細胞が誘導されることを見出した。(2) ヒト末梢血よりHerpes Virus Saimiriを用いてパーフォリンを介した抗腫瘍効果を有する特殊な 1 1のT細胞株の樹立に成功した。

アレルギー・膠原病学：[A] (1) 卵白OVAをコレラ毒素とともに経口投与した場合には、糞便中の分泌型IgAならびにアレルギーの原因である特異的IgE抗体産生が誘発されること、そしてこの分泌には粘膜由来の T細胞が強く関与することを見出し、アレルギー制御における T細胞の役割を解明する研究に着手している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokosuka T<sup>1,2)</sup>, Takase K<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>3)</sup>, Nakagawa Y, Taki S<sup>1)</sup>, Takahashi H, Fujisawa T<sup>2)</sup>, Arase H<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1,4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Genetics, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>2)</sup> Department of Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>3)</sup> Center for Animal Resources and Development, Kumamoto University, <sup>4)</sup> Cell Signaling team, RIKEN Research Center for Allergy and Immunology ): Predominant role of T cell receptor ( TCR ) - chain in forming preimmune TCR repertoire revealed by clonal TCR reconstitution system . J. Exp. Med 2002 ; 195 ( 8 ) : 991-1001 .
- 2) Li Q<sup>1)</sup>, Nagahara N<sup>1)</sup>, Takahashi H, Takeda K<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Minami M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, <sup>2)</sup> Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine ) : Organophosphorus pesticides markedly inhibit the activities of natural killer, cytotoxic T lymphocyte and lymphokine-activated killer : a proposed inhibiting mechanism via granzyme inhibition . Toxicology 2002 ; 172 ( 3 ) : 181-190 .
- 3) Ise W<sup>1)</sup>, Totsuka M<sup>1)</sup>, Sogawa Y<sup>1)</sup>, Ametani A<sup>2)</sup>, Hachimura S<sup>1)</sup>, Sato T<sup>3)</sup>, Kumagai Y, Habu S<sup>3)</sup>,

- Kaminogawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, University of Tokyo , <sup>2)</sup> Division of Immune Regulation, La Jolla Institute for Allergy and Immunology , <sup>3)</sup> Department of Immunology, Tokai University School of Medicine ): Naive CD4+ T Cells exhibit distinct expression patterns of cytokines and cell surface molecules on their primary responses to varying doses of antigen . *J. Immunol* 2002 ; 168 ( 7 ): 3242-3250 .
- 4 ) Enose Y<sup>1)</sup> , Ui M<sup>1)</sup> , Miyake A<sup>1)</sup> , Suzuki H<sup>1)</sup> , Uesaka H<sup>1)</sup> , Kuwata T<sup>1)</sup> , Kunisawa J<sup>2)</sup> , Kiyono H<sup>2)</sup> , Takahashi H , Miura T<sup>1)</sup> , Hayami M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute for Virus Research, Kyoto University , <sup>2)</sup> Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University ): Protection by intranasal immunization of a nef-deleted, nonpathogenic SHIV against intravaginal challenge with a heterologous pathogenic SHIV . *Virology* 2002 ; 298 ( 2 ): 306-316 .
- 5 ) Watanabe Y<sup>1)</sup> , Todome Y<sup>1)</sup> , Ohkuni H<sup>1, 2)</sup> , Sakurada S<sup>3)</sup> , Ishikawa T<sup>1)</sup> , Yutsudo T<sup>4)</sup> , Fischetti VA<sup>5)</sup> , Zabriskie JB<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology and Infectious Diseases, Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> Clinical Laboratory, Medca Japan Co. , Ltd. , <sup>3)</sup> Bureau of International Cooperation, International Medical Center of Japan , <sup>4)</sup> Medical Science, Discovery Research Laboratory, Shionogi & Co. , Ltd. , <sup>5)</sup> Laboratory of Bacterial Pathogenesis and Immunology, Rockefeller University , <sup>6)</sup> Laboratory of Clinical Microbiology and Immunology, Rockefeller University ): Cysteine protease activity and histamine release from the human mast cell line HMC-1 stimulated by recombinant streptococcal pyrogenic exotoxin B/streptococcal cysteine protease . *Infect. Immun* 2002 ; 70 ( 7 ): 3944-3947 .
- 6 ) Kimura A<sup>1)</sup> , Sakurada S<sup>2)</sup> , Ohkuni H<sup>2)</sup> , Todome Y<sup>2)</sup> , Kurata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency Medicine, Traumatology and Toxicology, International Medical Center of Japan , <sup>2)</sup> Department of Immunology and Infectious Disease, Institute of Gerontology ): Moderate hypothermia delays proinflammatory cytokine production of human peripheral blood mononuclear cells . *Crit. Care Med* 2002 ; 30 ( 7 ): 1499-1502 .
- 7 ) Hanawa T<sup>1)</sup> , Yamanishi S , Murayama S<sup>2)</sup> , Yamamoto T<sup>3)</sup> , Kamiya S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Medical Microbiology, Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Teikyo University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Microbiology and Molecular Genetics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University ): Participation of DnaK in expression of genes involved in virulence of *Listeria monocytogenes* . *FEMS Microbiol. Lett* 2002 ; 214 ( 1 ): 69-75 .
- 8 ) Takahashi M , Osono E , Nakagawa Y , Wang J<sup>1)</sup> , Berzofsky JA<sup>2)</sup> , Margulies DH<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Laboratory of Immunology, National Institute of Allergy and Infectious Disease, National Institutes of Health , <sup>2)</sup> and Molecular Immunogenetics and Vaccine Research Section, Metabolism Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health ): Rapid induction of apoptosis in CD8+ HIV-1 envelope-specific murine CTLs by short exposure to antigenic peptide . *J. Immunol* 2002 ; 169 ( 11 ): 6588-6593 .
- 9 ) Sakaue G<sup>1)</sup> , Hiroi T<sup>1)</sup> , Nakagawa Y , Someya K<sup>2)</sup> , Iwatani K<sup>1)</sup> , Sawa Y<sup>3)</sup> , Takahashi H , Honda M<sup>2)</sup> , Kunisawa J<sup>1)</sup> , Kiyono H<sup>1, 4, 5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Mucosal Immunology, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka University , <sup>2)</sup> AIDS Research Center, National Institute of Infectious Disease , <sup>3)</sup> First Department of Surgery, Osaka University , <sup>4)</sup> Division of Mucosal Immunology, Department of Microbiology and Immunity, Institute of Medical Science, University of Tokyo , <sup>5)</sup> Immunobiology Vaccine Center, University of Alabama ): HIV mucosal vaccine : nasal immunization with gp160-encapsulated hemagglutinating virus of Japan-liposome induces antigen-specific CTLs and neutralizing antibody responses . *J. Immunol* 2003 ; 170 ( 1 ): 495-502 .
- 10 ) Ichikawa M<sup>1)</sup> , Sugita M , Takahashi M , Satomi M<sup>1)</sup> , Takeshita T<sup>1)</sup> , Araki T<sup>1)</sup> , Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Breast milk macrophages spontaneously produce granulocyte-



macrophage colony stimulating factor and differentiate into dendritic cells in the presence of exogenous interleukin-4 alone . Immunology 2003 ; 108 ( 2 ) : 189-195 .

- 11) Takaku S<sup>1)</sup>, Nakagawa Y, Shimizu M, Norose Y, Maruyama I<sup>2)</sup>, Wakita T<sup>3)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kohara M<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of First Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Cell Biology, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , <sup>3)</sup> Department of Microbiology and Immunology, The Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience ): Induction of hepatic injury by hepatitis C virus-specific CD8+ murine cytotoxic T lymphocytes in transgenic mice expressing the viral structural genes . Biochem. Biophys. Res. Commun 2003 ; 301 ( 2 ) : 330-337 .
- 12) Narazaki H<sup>1)</sup>, Watari E, Shimizu M, Owaki A, Das H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Takahashi H, Sugita M ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics , <sup>2)</sup> Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ): Perforin-dependent killing of tumor cells by V<sub>β</sub>1V<sub>β</sub>1-bearing T-cells . Immunol. Lett 2003 ; 86 ( 1 ) : 113-119 .

## (2) 綜説 :

- 1) 高橋秀実 : 免疫病態 : 感染抵抗性の実体について . 日本臨床 2002 ; 60 ( 4 ) : 717-723 .
- 2) 高橋秀実 : 基本免疫と獲得免疫 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ) : 410-414 .
- 3) 渡理英二 : インフルエンザ . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ) : 494-498 .

## (3) 研究報告書 :

- 1) 高橋秀実 : HIV 特異的CTL 認識応答の解析と制御 : ウイルスペプチドによるCTLの抑制と破壊. エイズの病態と制御に関する基礎研究 . 平成10-13年度科学研究費補助金特定領域研究 研究成果報告書 2003 ; pp116-122 .

## 著 書

- 1) 大国寿士, 留目優子, 渡邊ユキノ : [ 分担 ] レンサ球菌性毒素性ショック症候群 . 現代感染症事情上巻 ( 中山宏明, 多田 功, 南嶋洋一編 ), 2003 ; pp56-69, 医歯薬出版 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : 免疫学よりみた東洋医学 . 平成14年度日本東洋医学会 東京都部会総会, 2002 . 10 .
- 2) 高橋秀実 : 免疫システムの新たな実体 : 基本免疫と獲得免疫 . 第5回日本臨床腸内微生物学会総会, 2002 . 11 .
- 3) 高橋秀実 : 病と闘う体内の免疫システム . 日本ホリスティック医学シンポジウム, 2002 . 11 .
- 4) 高橋秀実 : 漢方薬の作用に関する新たな視点 . 2003年漢方調剤研究会, 2003 . 3 .

### (2) シンポジウム :

- 1) Yanagie H, Sugiyama H : Application of novel tumor suppressor gene "INES" in nonviral gene . Delivery for Cancer Gene Therapy International Symposium of Predictive Oncology ( Paris, France ), 2002 . 2 .
- 2) Sugita M : Failure of CD1-dependent presentation of microbial lipid antigens in AP-3 deficient cells . The Awaji International Forum on Infection and Immunity ( Awaji-shima, Japan ), 2002 . 8 .
- 3) Mabuchi A<sup>1)</sup>, Mullaney I<sup>2)</sup>, Sheard P<sup>1)</sup>, Hessian P<sup>1)</sup>, Zimmermann A<sup>3)</sup>, Senoo H<sup>4)</sup>, Wheatley AM<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Physiology, University of Otago , <sup>2)</sup> Departments of Pharmacology, University of Otago , <sup>3)</sup> Department of Pathology, University of Berne , <sup>4)</sup> Department of Anatomy, Akita University School of Medicine ): Role of hepatic stellate cells in the early phase of liver regeneration in rat : formation of tight adhesion to parenchymal cells . 11th International Symposium on the Cells of the Hepatic Sinusoid & Their Relation to Other Cells ( Arizona, USA ), 2002 . 8 .
- 4) Ohkuni H<sup>1,2)</sup>, Todome Y<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Takahashi H, Fischetti VA<sup>3)</sup>, Zabriskie JB<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of

- Immunology and Infectious Diseases, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Clinical Laboratory, Medca Japan Co., Ltd., <sup>3)</sup> Laboratory of Bacterial Pathogenesis and Immunology, Rockefeller University, <sup>4)</sup> Laboratory of Clinical Microbiology and Immunology, Rockefeller University): Studies of recombinant streptococcal pyrogenic exotoxin B/cysteine protease (rSPE/SCP) in the skin of guinea pigs and the release of histamine from cultured mast cells and basophilic leukocytes. XVth Lancefield International Symposium on Streptococci and Streptococcal Diseases (Goa, India), 2002. 10.
- 5) Wheatley AM<sup>1)</sup>, Sun CK<sup>1)</sup>, Mallard B<sup>1)</sup>, Mabuchi A<sup>1)</sup>, Zimmermann A<sup>1)</sup>, Zhang X<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Physiology, Otago School of Medical Sciences, University of Otago): Hepatic haemodynamics in the regenerating liver and the role of reactive oxygen species. 公開シンポジウム バイオイメージングとナノテクノロジー, 2003. 2.
- 6) 高橋秀実: ウイルス感染制御における細胞性免疫の役割: T細胞と T細胞の関与について. 第38回日本肝臓学会総会, 2002. 6.
- 7) 高橋秀実: HIV免疫応答とワクチン開発に関する最近の話題. 第16回日本エイズ学会総会, 2002. 11.
- 8) Mabuchi A<sup>1)</sup>, Mullaney I<sup>2)</sup>, Sheard P<sup>1)</sup>, Hessian P<sup>1)</sup>, Zimmermann A<sup>3)</sup>, Senoo H<sup>4)</sup>, Wheatley AM<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>オタゴ大・生理学, <sup>2)</sup>同・薬理学, <sup>3)</sup>ベルン大・病理学, <sup>4)</sup>秋田大・解剖学第2): 肝再生の早期に活性化するラット肝星細胞のクラスター形成. 第15回肝臓洞壁細胞シンポジウム, 2002. 12.
- 9) 長尾朋和<sup>1)</sup>, 越尾 修<sup>1, 2)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 大野尚仁<sup>3)</sup>, 高橋 啓<sup>4)</sup>, 南谷晴之<sup>5)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症・生物活性物質, <sup>2)</sup>現, 帝京大・医, <sup>3)</sup>東京薬大, <sup>4)</sup>東邦大・医・大橋病院, <sup>5)</sup>慶応義塾大学・院基理工): 免疫異常による腎微小血管傷害のイメージング. 公開シンポジウム バイオイメージングとナノテクノロジー, 2003. 2.
- (3) セミナー:
- 1) 杉田昌彦: 結核菌感染免疫におけるCD1分子の役割: 脂質ワクチン開発に向けて. 第11回日本医科大学 感染・免疫・アレルギー研究会, 2002. 6.
- 2) 杉田昌彦: CD1分子を介した脂質抗原提示: 感染免疫の新たなパラダイム. 第11回内毒素・LPS研究会, 2002. 6.
- 3) 高橋秀実: 免疫学と漢方の関わりについて. 第10回本庄・児玉漢方研究会, 2002. 8.
- 4) 高橋秀実: 各種抗体の生理的意義と関連病態. 平成14年度第9回北区医師会学術講演会, 2002. 8.
- 5) 高橋秀実: T細胞による異物認識機構. 平成14年度第10回北区医師会学術講演会, 2002. 8.
- 6) 高橋秀実: ウイルスの持続感染と腫瘍免疫. 平成14年度第11回北区医師会学術講演会, 2002. 8.
- 7) 杉田昌彦: CD1分子を介した脂質抗原提示: 感染免疫の新たなパラダイム. 東京大学医科学研究所セミナー, 2002. 9.
- 8) 杉田昌彦: CD1: 感染免疫の新しいパラダイム. 東北大学平成14年度免疫科学セミナー, 2002. 10.
- 9) 杉田昌彦: 結核菌脂質をターゲットにした免疫応答とその制御: 抗結核脂質ワクチンの開発にむけて. 免疫・炎症学術講演会, 2002. 10.
- 10) 杉田昌彦: 脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子. 第2回臨床免疫セミナー in Kyoto, 2002. 10.
- 11) 杉田昌彦: 脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子CD1と腫瘍との関わり. 第5回日医・慶應・慈恵泌尿器科同窓会懇話会, 2002. 11.
- 12) 杉田昌彦: CD1: 脂質抗原を提示する新しいタイプの抗原提示分子. 信州大学・第16回最先端医学懇話会セミナー, 2002. 12.
- 13) 高橋秀実: ウイルスと免疫システムとの攻防. 第12回日本医科大学 感染・免疫・アレルギー研究会, 2002. 12.
- 14) 杉田昌彦: 脂質をターゲットにした免疫反応とその制御. 大阪歯科大学大学院セミナー, 2003. 2.
- 15) 高橋秀実: 漢方薬の薬理作用に対する新たな視点: T細胞への作用の可能性. 北里研究所東洋医学セミナー

ー, 2003 . 2 .

(4) ワークショップ :

- 1) Takahashi H, Ichikawa M, Sugita M, Takahashi M, Satomi M, Takeshita T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): DC-SIGN expression on breast milk macrophages : implication for HIV-1 transmission . Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 15th Joint Scientific Meeting of AIDS ( Okinawa, Japan ), 2003 . 3 .
- 2) 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 長尾朋和<sup>1)</sup>, Wheatley AM<sup>3)</sup>, 鈴木和男 ( <sup>1)</sup> 国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup> 朝日生命糖尿病研究所, <sup>3)</sup> オタゴ大・生理学 ): Concanavalin A 静注により惹起されるマウス肝傷害の過程で肝類洞内に出現する F4/80high+ Mac-1high+ 細胞の免疫抑制活性 . 生体防御機能異常ワークショップ - 2002/第5回肝臓生物学研究会, 2002 . 11 .
- 3) 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 長尾朋和<sup>1)</sup>, 石田-大川原明子<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup> 朝日生命糖尿病研究所 ): 血管内皮細胞の Apoptosis 誘導における p38 MAP kinase と Caspase 8 の活性化に対する好中球および Cytokine 類の関与 . 生体防御機能異常ワークショップ - 2002/第5回肝臓生物学研究会, 2002 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) Shinya E, Kawashima T, Takeuchi J, Owaki A, Shimizu M, Hidaka C, Sugita M, Takahashi H : Nef down-regulates CD1 surface expression : Another mechanism for immune evasion by HIV-1 . 第16回日本エイズ学会総会, 2002 . 11 .
- 2) Hiroi T<sup>1)</sup>, Sakaue G<sup>1)</sup>, Nakagawa Y, Someya K<sup>2)</sup>, Iwatani K<sup>1)</sup>, Sawa Y<sup>3)</sup>, Takahashi H, Honda M<sup>2)</sup>, Kunisawa J<sup>1)</sup>, Kiyono H<sup>14)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Mucosal Immunol. , Res. Inst. Microbial Dis. , Osaka Univ. , <sup>2)</sup> AIDS res. Ctr. Nat. Inst. of Infect. Dis. , <sup>3)</sup> Dept. Surgery, Osaka Univ. Graduate Sch. of Med. , <sup>4)</sup> Dept. Miro. and Immunol. , Inst. of Med. Science, Univ. of Tokyo ): HIV mucosal vaccine : Nasal immunization with gp160 encapsulated HVJ-liposome induces antigen-specific CTL and neutralizing antibody responses . 第32回日本免疫学会総会, 2002 . 12 .
- 3) Kawashima T, Norose Y, Narazaki H, Enomoto Y, Watari E, Takahashi H, Sugita M : CD1 dependent T-cell recognition of BCG-infected dendritic cells . 第32回日本免疫学会総会, 2002 . 12 .
- 4) Sugita M, Cernadas M<sup>1)</sup>, Cao X<sup>1)</sup>, Brenner MB<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School ): Functional difference of mouse and human CD1d, predicted by their differential binding to AP-3 . 第32回日本免疫学会総会, 2002 . 12 .
- 5) 杉田昌彦 : 結核菌感染制御における, CD1 を介した脂質抗原提示の重要性 . 第75回日本細菌学会総会, 2002 . 4 .
- 6) 花輪智子<sup>1)</sup>, 山西慎吾, 大崎敬子<sup>1)</sup>, 田口晴彦<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 神谷 茂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 杏林大・医・感染症 ): *Listeria monocytogenes lmaB* プロモーターの転写制御 . 第75回日本細菌学会総会, 2002 . 4 .
- 7) 大崎敬子<sup>1)</sup>, 山西慎吾, 豊田 篤<sup>2)</sup>, 花輪智子<sup>1)</sup>, 田口晴彦<sup>1)</sup>, 神谷 茂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 杏林大・医・感染症, <sup>2)</sup> 同・医・耳鼻科 ): *Helicobacter pylori* の胃上皮細胞に対するアポトーシス誘導に関わる分子の解析 . 第75回日本細菌学会総会, 2002 . 4 .
- 8) 若林あや子, 清水真澄, 中川洋子, 高橋秀実 : OVA とコレラトキシンの経口投与により OVA 特異的な液性免疫および細胞性免疫が誘導される : 免疫応答に及ぼすコレラトキシンの影響 . 第56回日本栄養・食糧学会大会, 2002 . 7 .
- 9) 高橋秀実, 大園英一, 渡理英二, 渡辺恵理, 高橋めぐみ : HIV 由来浮遊抗原ペプチドによる特異的 CTL のアポトーシス誘導 . 第50回日本ウイルス学会総会, 2002 . 10 .
- 10) 高久 俊, 清水真澄, 中川洋子, 脇田隆字<sup>1)</sup>, 小原道法<sup>2)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 都立神経医学総合研・微生物, <sup>2)</sup> 都立臨床医学総合研・感染生体防御 ): C型肝炎ウイルス transgenic mice を用いた HCV 特異的細胞傷害性 T細胞の誘導と解析 . 第50回日本ウイルス学会総会, 2002 . 10 .

- 11) 長尾朋和<sup>1)</sup>, 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 大野尚仁<sup>3)</sup>, 高橋 啓<sup>4)</sup>, 南谷晴之<sup>5)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup>朝日生命糖尿病研究所, <sup>3)</sup>東京薬大, <sup>4)</sup>東邦大・医・大橋病院, <sup>5)</sup>慶応義塾大学・院基理工): 免疫異常による腎臓血管傷害のイメージング. 第8回MPO研究会, 2002. 10.
- 12) 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 長尾 朋和<sup>1)</sup>, 石田-大川原明子<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup>朝日生命糖尿病研究所): 血管内皮細胞のApoptosis誘導におけるp38 MAPKとCaspase 8の活性化に対する好中球およびIL-1の関与. 第8回MPO研究会, 2002. 10.
- 13) 長尾朋和<sup>1)</sup>, 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 大野尚仁<sup>3)</sup>, 高橋 啓<sup>4)</sup>, 南谷晴之<sup>5)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup>朝日生命糖尿病研究所, <sup>3)</sup>東京薬大, <sup>4)</sup>東邦大・医・大橋病院, <sup>5)</sup>慶応義塾大・院基理工): 免疫異常による腎臓血管傷害のイメージング. 第11回日本バイオイメージング学会学術集会, 2002. 10.
- 14) 里見操緒, 市川雅男, 杉田昌彦, 新谷英滋, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋英実(<sup>1)</sup>産婦人科学): ヒト母乳中マクロファージのIL-4による分化とHIV運搬の可能性. 第16回日本エイズ学会総会, 2002. 11.
- 15) 市川雅男<sup>1)</sup>, 杉田昌彦, 高橋めぐみ, 新谷英滋, 里見操緒<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>産婦人科学): 腎におけるpoly Ig receptor (pIgR) 発現の低下はddYマウスにおけるIgA腎症発症要因の1つである(第2報). 第32回日本免疫学会総会, 2002. 12.
- 16) 熊谷善博, 大脇敦子, 高橋秀実: 抗体超過変部を用いたエピト-ブライブラリイの構築と感染防御への利用. 第32回日本免疫学会総会, 2002. 12.
- 17) 金 栄淳<sup>1)</sup>, 中川洋子, 杉山弘高, 渡理英二, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋秀実(<sup>1)</sup>産婦人科学): 胎児期蛋白(AFP)発現細胞を障害するIL-13産生CD4陽性 型T細胞. 第32回日本免疫学会総会, 2002. 12.
- 18) 石井律子, 清水真澄, 大脇敦子, 渡辺恵理, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実: 腫瘍表面より抽出した抗原による樹状細胞を介した腫瘍特異的CTLの誘導. 第32回日本免疫学会総会, 2002. 12.
- 19) 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 長尾朋和<sup>1)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup>朝日生命糖尿病研究所): コンカナバリンA惹起肝傷害に肝類洞内に出現する免疫応答抑制性細胞の同定と抑制因子NOの産生動態. 第22回日本分子生物学会, 2002. 12.
- 20) 越尾 修<sup>1,2)</sup>, 長尾朋和<sup>1)</sup>, 石田-大川原明子<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 鈴木和男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染研・生物活性物質, <sup>2)</sup>朝日生命糖尿病研究所): 血管内皮細胞のApoptosis誘導におけるp38 MAPKとCaspase 8の活性化に対する好中球およびIL-1の関与. 第22回日本分子生物学会, 2002. 12.

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

今年度の学会や論文にみる研究課題は多彩で、最終年度を迎えた南研の方針が鮮明になった。(1) サリン被曝に関する研究(南),(2) 中国減肥茶成分に関する研究(南),(3) 有機リンによるNK細胞の活性の阻害とグランザイムのとの関連に関する研究(李, 平田),(4) 喫煙の身体的影響およびコチニンを指標にしたバイオロジカル・モニタリングに関する研究(勝又),(5) C型肝炎の疫学(若山),(6) 血清ブチリルコリンエステラーゼの定量法に関する研究(稲垣),(7) 鉛中毒に関連するポルフォビリノーゲン合成酵素のクローニングおよび発現と酵素学的, 分子生物学的研究(澤田),(8) シアンに対する防御因子であるメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の酵素学的, 分子生物学的研究(永原)など研究のテーマは尽きない。我々は中毒, 疾患の発生機序を明らかにすることを研究の目的にしてきたが, はたしてどの程度まで達成できただろうか。目的や仮説を持たず, 方法や技術に執着して測定を行っていても研究にはならない。臨床検査センターや衛生試験所や安全管理センターで行われている検査業務と大学における研究は異なる。化学環境に関する研究の方向性は明確になったが, 国内外の研究者と議論ができるように個々の研究を進展させること - これが今後の我々の課題である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Li Q, Nagahara N, Takahashi H<sup>1)</sup>, Takeda K<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Minami M ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Immunology, Juntendo University School of Medicine ): Organophosphorus pesticides markedly inhibit the activities of natural killer, cytotoxic T lymphocyte and lymphokine-activated killer : a proposed inhibiting mechanism via granzyme inhibition . Toxicology 2002 ; 172 ( 3 ) : 181-190 .
- 2) Hanaoka T<sup>1)</sup>, Li Q, Imagawa J<sup>2)</sup>, Taguchi M<sup>3)</sup>, Minami M, Tsugane S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Epidemiology and Biostatistics Division, National Cancer Center Research Institute East, <sup>2)</sup> Imagawa Occupational Health Consultant Office, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Saitama Medical School ): Occupational allergic dermatitis induced by an epoxy hardener alkylamine . J. Occup. Health 2002 ; 44 ( 4 ) : 264-266 .

##### (2) その他:

- 1) 永原則之: 話題: 化学環境への適応メカニズム . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ) : 600-601 .

#### 著書

- 1) 永原則之: [ 分担 ] 看護大辞典 第一版 ( 和田 攻, 南 裕子, 小峰光博 ), 2002 ; 医学書院 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 中台亜里, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 南 正康: メタノール使用作業における尿中ギ酸の測定 . 第75回日本産業衛生学会, 2002 . 4 .
- 2) 若山葉子, 植田悠紀子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 県立長崎シーボルト大・看護栄養 ): 肝炎流行地区の予後の検討 . 第61回日本公衆衛生学会総会, 2002 . 10 .
- 3) 澤田典里, 永原則之, 南 正康: 還元剤による porphobilinogen synthase の活性化の機序 . 第75回日本生化学

会大会，2002．10．

- 4) 永原則之，澤田典里，南 正康：ラット mercaptopyruvate sulfurtransferase の酸化ストレスによる活性阻害機構．第75回日本生化学会大会，2002．10．
- 5) 平田幸代，李 卿，稲垣弘文，南 正康：recombinant ヒト Gr3 の精製．第75回日本生化学会大会，2002．10．
- 6) 稲垣弘文，南 正康：ヒト血清コリンエステラーゼに対する Two-site specific sandwich ELISA．第75回日本生化学会大会，2002．10．
- 7) 杉田 達<sup>1)</sup>，勝又聖夫，南 正康 (<sup>1)</sup>杉田眼科)：オートクレーブの圧力釜から生ずるアルミニウムの定量．第26回日本眼科手術学会総会，2003．1．
- 8) 中台亜里，稲垣弘文，池上四郎<sup>1)</sup>，大沢基保<sup>1)</sup>，高橋秀依<sup>1)</sup>，足立雅之<sup>2)</sup>，南 正康 (<sup>1)</sup>帝京大・薬，<sup>2)</sup>慶応大・医)：中国製ダイエット食品のGC/MSによる成分測定．第73回日本衛生学会総会，2003．3．
- 9) 勝又聖夫，平田紀美子，中台亜里，稲垣弘文，南 正康：長期間にわたり刺激物質が認められた室内環境汚染例．第73回日本衛生学会総会，2003．3．
- 10) 南 正康，永原則之，稲垣弘文：新しい paraoxonase の発見．第73回日本衛生学会総会，2003．3．
- 11) 平田紀美子，勝又聖夫，稲垣弘文，南 正康：習慣喫煙者の喫煙状況と唾液中 Cotinine の関わり．日本薬学会第123年会，2003．3．
- 12) 平田幸代，李 卿，稲垣弘文，永原則之，南 正康：Recombinant ヒト Granzyme 3 の作製とその応用．日本薬学会第123年会，2003．3．

## 12. 法医学講座

### 研究概要

#### 1. 臨床法医中毒学

急性薬物中毒の疑われる救急患者の緊急薬物分析法を開発し、GC/MS、LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いた Tetrodotoxin 等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる。

#### 2. トリカブト毒に関する研究

トリカブト毒について、急性中毒のみならず、長期投与における生体内での代謝、死体内での物理・化学的变化等についても実験的研究を行っている。同時にLC/MS、GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発、検討している。

#### 3. アルコールの代謝と Molecular toxicology

アルコールの代謝機序を明らかにするため、その鍵酵素であるADH1およびADH3の寄与およびその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討している。また、アルコール感受性の性差・個体差、アルコール関連障害の機序をADH遺伝子改変を含む各種の培養細胞およびノックアウトマウスを用いて研究している。さらに、アルコールの溶液構造とその生体作用への影響や、培養心筋細胞を用いた細胞内小器官および分子レベルでの生理・薬理学的検討を行っている。

#### 4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

#### 5. その他の研究

死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究、医事法や生命倫理に関わる調査検討等を行っている。なお、法医学実務として、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Toda S<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Uekusa K ( <sup>1)</sup> Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Neurosurgery, Showa University ): Highly Reproducible Rat Model of Reversible Fore-brain Ischemia Modified Four-Vessel Occlusion Model and its Metabolic Feature. *Acta Neurochirurgica* 2002 ; 144 : 1297-1304 .
- 2) Nihira M, Ohno Y, Tanaka M<sup>1)</sup>, Hayashida M, Tomita Y, Hirakawa K, Uekusa K, Yamada T, Hayakawa H ( <sup>1)</sup> Laboratory of Chemistry, Nippon Medical School ): Gas chromatographic/mass spectrometric analysis of aconitine : changes of aconitine level in several organs after its administration to mice. *Jpn. J. Forensic Toxicol* 2003 ; 21 ( 1 ): 38-46 .
- 3) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup> 形成外科学 ): 中国製 polyacrylamide hydrogel ( 商品名 : Amazingel<sup>®</sup> ) の顔面注入後合併症の1例. *日美外報* 2002 ; 24 ( 3 ): 29-34 .
- 4) 崔 范来, 大野曜吉, 長谷場 健, 早川秀幸 : 中国における司法・行政制度と法医学制度. *法医学の実際と研究* 2002 ; 45 : 189-194 .
- 5) 大野曜吉, 早川秀幸, 崔 范来, 和田健太郎 : ある殺人事件裁判に関する直腸温および胃内容についての人体実験例. *法医学の実際と研究* 2002 ; 45 : 181-187 .

6) 大野曜吉：早稲田大学法学部賠償医学を担当して．賠償科学 2002；28：76-80．

(2) 研究報告書：

1) 大野曜吉，仁平 信，林田真喜子：Aconitine・Tetrodotoxin混合投与時の生体内薬物動態の解明．平成12年度 - 平成14年度 科学研究費補助金（基盤研究C2）研究成果報告書 2003．

2) 真下啓子：エタノールによるミトコンドリアの融合と巨大化：培養心筋細胞を用いた数量的解析．平成12年度 - 平成14年度 科学研究費補助金（基盤研究C2）研究成果報告書 2003．

(3) グラビア：

1) 大野曜吉，山本伊佐夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 神奈川歯科大学法医歯科学)：火葬骨の鑑定例．J Nippon Med Sch 2002；69(4)：320-321．

(4) 座談会：

1) 杉田雅彦<sup>1)</sup>，野村好弘<sup>2)</sup>，平岩幸一<sup>3)</sup>，藤本裕司<sup>4)</sup>，平沼高明<sup>5)</sup>，伊藤文夫<sup>6)</sup>，大野曜吉，小嶋 亨<sup>7)</sup>，塩崎勤<sup>8)</sup>，児玉安司<sup>9)</sup>(<sup>1)</sup> 静岡県弁護士会，<sup>2)</sup> 明治学院大学法学部，<sup>3)</sup> 福島県立医科大学，<sup>4)</sup> 大阪弁護士会，<sup>5)</sup> 第一東京弁護士会，<sup>6)</sup> 損害保険料率算出機構，<sup>7)</sup> 広島大学医学部，<sup>8)</sup> 桐蔭横浜大学法学部，<sup>9)</sup> 東海大学医学部)：21世紀の賠償科学：学会創立20周年を振り返って．賠償科学 2002；28：3-25．

著 書

1) 黒須三恵：〔編集(追加分)〕テキスト版 資料集 生命倫理と法．テキスト版 資料集 生命倫理と法(資料集 生命倫理と法編集委員会)，2002；太陽出版(東京)．

2) 仁平 信：〔分担〕臨床薬毒物分析における問題点．薬毒物分析実践ハンドブック -クロマトグラフィーを中心として-(鈴木 修，屋敷幹雄)，2002；pp52-59，じほう(東京)．

3) 黒須三恵：〔分担〕臓器移植関連用語等10項目．生命倫理事典，2002；太陽出版(東京)．

4) 黒須三恵：〔編集〕資料集 生命倫理と法．資料集 生命倫理と法(資料集 生命倫理と法編集委員会)，2003；太陽出版(東京)．

5) 大野曜吉：〔分担〕医学用語20項目．医学大辞典(伊藤正男，井村裕夫，高久史磨)，2003；医学書院(東京)．

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 大野曜吉：保険金支払紛争例における鑑定：鑑定人の立場から．日本賠償科学会第40回研究会，2002．6．

2) 大野曜吉：社会現象と外来精神医療．日本外来精神医療学会第2回大会，2002．7．

3) 平川慶子，大野曜吉：体内埋入異物の化学分析法：特にNMRの有用性について．第25回日本美容外科学会総会，2002．10．

(2) 一般講演：

1) Haseba T, Mashimo K, Ohno Y, Duester G<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Burnham Institute, La Jolla, CA): Contribution of Class III ADH to Alcohol Metabolism: In vivo Evidence from the Knockout Mouse. 11th Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism (San Francisco), 2002. 6.

2) Onodera K<sup>1)</sup>, Aiboshi J<sup>1)</sup>, Koike K<sup>2)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Uekusa K, Ohno Y (<sup>1)</sup> Dept. Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. Emergency and Critical Care Medicine, Tohoku University): The Effect of Liposome: Encapsulated Hemoglobin on Tissue Oxygen Metabolism of Small Intestine Following Hemorrhagic Shock in Rats. 61th American Association for The Surgery of Trauma (Florida), 2002. 9.

3) Hayashida M, Hayakawa H, Wada K, Yamada T, Nihira M, Ohno Y: A column-switching LC/MS/ESI method for detecting tetrodotoxin and Aconitum alkaloids in serum. Fifth International Symposium on Advances in Legal Medicine (Takayama), 2002. 10.



- 4) Kurosu M , Mukai T<sup>1)</sup>, Ohno Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine ): Regulations and guidelines on handling human materials obtained from medicolegal autopsy for use in research . Fifth International Symposium on Advances in Legal Medicine ( Takayama ), 2002 . 10 .
- 5) Hayakawa H , Nihira M , Tomita Y , Ohno Y . : The Influence of Putrefaction on the Concentrations of Aconitum Alkaloids in Body Tissue . International Symposium on Toxins and Natural Products in Honor of Professor Anthony T. Tu ( Okinawa ), 2002 . 11 .
- 6) Onodera K<sup>1)</sup>, Aiboshi J<sup>1)</sup>, Koike K<sup>2)</sup>, Kakinuma T<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Uekusa K , Ohno Y ( <sup>1)</sup>Dept. Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dept. Emergency and Critical Care Medicine, Tohoku University ): The Effect of Liposome : Encapsulated Hemoglobin on Tissue Oxygen Metabolism of Small Intestine Following Hemorrhagic Shock in Rats . IX International Symposium on Blood Substitutes ( Tokyo ), 2003 . 3 .
- 7) 長谷場健, 手塚 進<sup>1)</sup>, 真下啓子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>実験動物管理室 ): Class III ADH ( ADH3 ) の血中アルコール動態および急性アルコール中毒における役割 : ノックアウトマウスを用いての in vivo evidence . 第86次日本法医学会総会, 2002 . 4 .
- 8) 富田ゆかり, 仁平 信, 早川秀幸, 大野曜吉, 佐藤 茂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): アコニチン急性中毒マウスの心筋における微細構造の死後変化 . 第86次日本法医学会総会, 2002 . 4 .
- 9) 長谷場健, 安藤智暁<sup>1)</sup>, 吉川善子<sup>1)</sup>, 坂本 啓<sup>1)</sup>, 杉浦未紀<sup>1)</sup>, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>東京大学医学部6年 ): ウイスキーの熟成がアルコールの中樞神経抑制および代謝に及ぼす影響 . 第86次日本法医学会総会, 2002 . 4 .
- 10) 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>2)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup>東北大学医学部救急医学 ): 出血性ショック後のラット腸管における Lactate と Alanine の変化 : リボソーム内包型ヘモグロビンを蘇生輸液に用いて . 第17回日本ショック学会総会, 2002 . 5 .
- 11) 林田真喜子, 早川秀幸, 山田文士, 仁平 信, 大野曜吉, 清水尚登<sup>1)</sup>, 岩田和則<sup>2)</sup>, 関根 均<sup>3)</sup>, 宮口 一<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>横河アナリティカルシステムズ, <sup>2)</sup>昭和電工, <sup>3)</sup>埼玉県警 科捜研 ): カラムスイッチング LC/MS/ESI を用いたマウス試料中テロドトキシンの分析 . 日本法中毒学会第21年会, 2002 . 7 .
- 12) 真下啓子, 長谷場健, 大野曜吉 : 培養心筋細胞ミトコンドリアのエタノールによる巨大化の flow cytometry による検討 . 第37回日本アルコール・薬物医学会総会, 2002 . 9 .
- 13) 長谷場健, 真下啓子, 大野曜吉 : ClassIII ADH ( ADH3 ) のアルコール代謝における寄与 : ノックアウトマウスを用いての in vivo evidence . 第37回日本アルコール・薬物医学会総会, 2002 . 9 .
- 14) 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 柿沼敏行<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>救急医学 ): ラット・出血性ショックモデルに対する代用赤血球の効果 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 15) 平川慶子, 植草協子, 松本美保, 大野曜吉, 河原理子<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): SR-MAS NMR法による人工補填物質の分析 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 16) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 中国製 polyacrylamide hydrogel を使用した Amazingel® の顔面への注入を受け, 術後合併症をきたした症例について . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 17) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>2)</sup>, 相星淳一<sup>2)</sup>, 吉田竜介<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 仁平 信, 林田真喜子, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学 ): 乱用薬物スクリーニング検査キットの有用性の検討 : TOX/See と Triage8 の比較検討 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 18) 河原理子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子 ( <sup>1)</sup>形成外科学 ): 新しい生体内埋入異物の画像診断 . 第25回日本美容外科学会総会, 2002 . 10 .
- 19) 安藤絵美<sup>1)</sup>, 知野 巧<sup>1)</sup>, 加武東武徳<sup>2)</sup>, 林田真喜子, 早川秀幸, 仁平 信, 大野曜吉 ( <sup>1)</sup>日本医科大学3年, <sup>2)</sup>同4年 ): タイ国覚醒剤依存者毛髪中メタンフェタミン, アンフェタミンの GC/MS による分析 . 第71回日本法医学会関東地方会, 2002 . 10 .

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

#### 研究概要

教育：医師国家試験必修項目の約40%が医療管理学と関連がある項目で、学部教育は当教室のテーマである「質」と、求められる医師としての素養を身につけるために医療システム、EBM、医師患者関係、面接技法、患者安全管理など臨床の基礎である医療管理の部門を中心におこなった。自主学習では情報収集方法、EBM、患者体験などを摂り入れた。

研究：高柳は欧米で始まったNarrative Based Medicine (NBM) 研究会を立ち上げ、この延長線上で、QOLを高める医療の構築に向けて脊髄損傷患者の排泄に関する調査研究を行い、順行性強制排便手術を米国から導入し患者のQOLを高めるという実践的医療をおこなっている。また精神安寧の実験を行っている。

太田は前年度に引き続き、リハビリテーション医療を対象として、医療の質を改善する方法論の確立とその実践を行った。脳卒中を対象として、リハビリテーション医療のperformance measurementを行うためのデータベースの構築と統計学的分析方法を開発・検証した。

学術活動：客員教授の木村はバイオフィリアリハビリテーション学会会長となり日米合同会議を開催した。現在、医療福祉連携およびCRN (Community Rehabilitation Network) の組織造りを推進している。また、医療福祉機器開発関連分野の生活支援工学会の会長として医・工連携の要の役を果たしている。高柳は日本医学会総会で「医療の質の改善」の柱の座長を行い、「学会と医療の質の保証」の発表を行った。太田は「腰痛症に対する運動療法の有効性」について腰痛学会のシンポジウムにおいて発表した。中国留学生王 徳宏は「リハ領域に於ける中国伝統的物理療法の近代リハ手技への応用と検証」について、王凱は「医療保険に関する日本と中国の医療事情」について研究を行った。研究生の萩原由希子はハーバード大学大学院公衆衛生学で医療倫理を学んでいる。

教室の今後：医療管理学は社会の注目を浴び、医療現場と医療提供の科学的質の向上を結ぶ学問体系として大きな位置を占め、ニーズも大きい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 北川恒実, 木村哲彦：脊髄損傷患者の合併症がおよぼす医療経済敵利益：特に尿路感染症と褥創について。J Nippon Med Sch 2002；69(3)：268-277。
- 2) 高柳和江：笑いで未病を癒す：笑いによる心理的・生理的・免疫学的変化。PM (Progress in Medicine) 2002；22(10)：2353-2356。
- 3) 高柳和江：シェル (SHELL) による要因分析。ナースデータ 2002；23(10)：6-12。
- 4) 太田久彦, 木村哲彦, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 後藤正幸<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 情報科学センター, <sup>2)</sup> 武蔵工業大学)：リハビリテーション診療支援のためのデータベース開発。第22回医療情報学連合大会論文集 2002；(22)：215-216。
- 5) 高柳和江：ひまわりシェルの分析から再発予防までのプロセス。ナースデータ 2003；24(2)：17-22。

##### (2) 綜説：

- 1) 高柳和江：癒しの環境づくりに向けて。TKC医療経営情報 2002；(93)：16-19。
- 2) 高柳和江：心の後継 伝える, 続ける。アポロニア21 2002；(100)：86-87。
- 3) 高柳和江：医療と介護の新しい展望。日本歯技 2002；(395)：32-38。
- 4) 高柳和江：アフガニスタンの子ども。アポロニア21 2002；(101)：86-87。

- 5) 高柳和江：癒しの医療と介護：人間としての尊厳と権利を求めて．デンタルハイジーン 2002；22(6)：516-523．
  - 6) 高柳和江：的確な病院評価と徹底した情報公開を．Phase3 2002；(214)：34-35．
  - 7) 高柳和江：医療消費者．アポロニア21 2002；(102)：86-87．
  - 8) 河田耕一<sup>1)</sup>，木村哲彦，石田健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>高知工業大学，<sup>2)</sup>高知医科大学)：健康増進用乗馬ロボットのオンライン学習制御．知能メカトロニクスワークショップ 2002；(特集号)：127-128．
  - 9) 高柳和江：Safe Kids．アポロニア21 2002；(103)：86-87．
  - 10) 高柳和江：癒しの環境へ．公共建築 2002；44(3)：37-40．
  - 11) 高柳和江：患者さんの権利．日本病院会雑誌 2002；49(7)：1059-1068．
  - 12) 高柳和江：感覚と感性．アポロニア21 2002；(104)：86-87．
  - 13) 高柳和江：リスクマネージメントとクリニカルパス．救急医学 2002；26(8)：959-963．
  - 14) 高柳和江：高齢者の生をまっとうできる環境を市民社会の新たな可能性を求めて．望星 2002；33(8)：76-79．
  - 15) 高柳和江：ニュージーランドの医療福祉．日本病院会雑誌 2002；49(9)：1412-1419．
  - 16) 高柳和江：安心と生きる力を与えるためのインテリア．メディカウエル 2002；4-5．
  - 17) 高柳和江：感性と癒し．アポロニア21 2002；(105)：86-87．
  - 18) 木村哲彦，太田久彦，北川恒実，玉川慎二：医療経済的にみた脊髄損傷リハビリテーションの保健医療．メディカルリハビリテーション 2002；(22)：131-133．
  - 19) 高柳和江：智美様．アポロニア21 2002；(106)：86-87．
  - 20) 高柳和江：高齢者を介護する心構え．日経ビジネス 2002；(1164)：70-71．
  - 21) 高柳和江：緩和ケアに望まれる環境：科学的根拠のある癒しの環境．がん患者と対症療法 2002；13(2)：58-64．
  - 22) 高柳和江：パッチと語ろう21世紀の介護：愛と笑いと喜びを．JAMIC JOURNAL 2002；22(11)：46-47．
  - 23) 高柳和江：治療から癒し中心に枠組みの転換を：「病院」から「健院」．医療タイムス 2002；(1598)：23．
  - 24) 高柳和江：自己決定の難しさ．アポロニア21 2002；(107)：86-87．
  - 25) 高柳和江：情報伝達．アポロニア21 2002；(108)：86-87．
  - 26) 高柳和江：パッチアダムスに学ぶ医師のあり方，患者コミュニケーション．医療経営情報 2002；19(8)：19-21．
  - 27) 高柳和江：病者の人権：癒しの環境の中での医療から．人権教育・啓発フォーラム誌 2002；(1)：11-20．
  - 28) 高柳和江：介護の楽しみ．アポロニア21 2003；(109)：84-85．
  - 29) 高柳和江：病院のトイレを癒しの場に．CLINIC magazine 2003；(387)：52-54．
  - 30) 高柳和江：病院感染対策“expense”と“cost”．INFECTION CONTROL 2003；12(1)：1．
  - 31) 高柳和江：死に方のコツ．がんに克つ 2003；5(1)：46-47．
  - 32) 高柳和江：いつから「私の赤ちゃん」？アポロニア21 2003；(110)：84-85．
  - 33) 高柳和江：がんサポートセンター．がんに克つ 2003；5(4)：44-45．
  - 34) 高柳和江：医師の診療報酬．アポロニア21 2003；(111)：84-85．
- (3) 研究報告書：
- 1) Shinomiya Y<sup>1)</sup>，木村哲彦，王 碩玉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高知工科大学)：Development and Muscle Strength Training Evaluation for Horseback Riding Therapeutic Equipment．Jornal of Robotics and Mechatronics 2002；14(6)：pp597-603．
  - 2) 四宮葉一<sup>1)</sup>，木村哲彦(<sup>1)</sup>高知工業大学)：健康増進を目的とする四足歩行馬ロボットの開発．知能メカトロニクスワークショップ 2002；(特集号)：pp69-72．
  - 3) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，北川恒実，木村哲彦(<sup>1)</sup>医療の質に関する研究会)：科学的根拠(Evidence Based

Medicine ; EBM ) に基づいた腰痛診療のガイドラインの策定に関する研究 第6章慢性腰痛症の治療法として運動療法は有効か . 厚生労働省研究報告書 2002 ; pp280-298 .

## 著 書

- 1) 高柳和江 : [ 共著 ] パッチの世界へようこそ ! パッチアダムス , いまみんなに伝えたいこと ( 高柳和江 ) , 2002 ; pp5-8 , 主婦の友社 .
- 2) 高柳和江 : [ 共著 ] パッチと私の壮大な夢 & 計画 . パッチアダムス , いまみんなに伝えたいこと ( 高柳和江 ) , 2002 ; pp139-164 , 主婦の友社 .
- 3) 高柳和江 : [ 共著 ] 伝えること , 人の心に生きること . パッチアダムス , いまみんなに伝えたいこと ( 高柳和江 ) , 2002 ; pp185-190 , 主婦の友社 .
- 4) 高柳和江 : [ 自著 ] 死に方のコツ ( 高柳和江 ) , 2002 ; 小学館 .
- 5) 高柳和江 : [ 共著 ] 患者からみた医療 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp11-22 , 放送大学教育振興会 .
- 6) 高柳和江 : [ 共著 ] 患者学 ( 1 ) . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp26-37 , 放送大学教育振興会 .
- 7) 高柳和江 : [ 共著 ] 医療サービス . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp66-67 , 放送大学教育振興会 .
- 8) 高柳和江 : [ 共著 ] 医療の質 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp84-93 , 放送大学教育振興会 .
- 9) 高柳和江 : [ 共著 ] 医療の評価 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp99-108 , 放送大学教育振興会 .
- 10) 高柳和江 : [ 共著 ] 高齢者の自立に向けて . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp117-126 , 放送大学教育振興会 .
- 11) 高柳和江 : [ 共著 ] 医学教育 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp136-149 , 放送大学教育振興会 .
- 12) 高柳和江 : [ 共著 ] 患者安全管理 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp167-178 , 放送大学教育振興会 .
- 13) 高柳和江 : [ 共著 ] 患者治癒力の向上 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp183-209 , 放送大学教育振興会 .
- 14) 高柳和江 : [ 共著 ] 生殖補助医療・遺伝子治療 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp213-228 , 放送大学教育振興会 .
- 15) 高柳和江 : [ 共著 ] 高度先進医療と今後の医療 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp230-245 , 放送大学教育振興会 .
- 16) 高柳和江 : [ 共著 ] 健康と経済 : 医療経済 . 患者からみた医療 ( 高柳和江 , 仙波純一 ) , 2003 ; pp247-266 , 放送大学教育振興会 .
- 17) 高柳和江 : [ 自著 ] 医療の品質の管理方法 . よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ ! ( 高柳和江 ) , 2003 ; pp7-22 , 放送大学教育振興会 .
- 18) 高柳和江 : [ 自著 ] リスクマネジメント . よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ ! ( 高柳和江 ) , 2003 ; pp24 , 日総研出版 .
- 19) 高柳和江 : [ 自著 ] 医療事故と医療過誤 . よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ ! ( 高柳和江 ) , 2003 ; pp39-54 , 日総研出版 .
- 20) 高柳和江 : [ 自著 ] 事例の収集システム . よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ ! ( 高柳和江 ) , 2003 ; pp55-76 , 日総研出版 .

- 21) 高柳和江：〔自著〕シェル (SHELL). よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ！ (高柳和江), 2003 ; pp77-144, 日総研出版 .
- 22) 高柳和江：〔自著〕4M4Eマトリックス. よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ！ (高柳和江), 2003 ; pp145-164, 日総研出版 .
- 23) 高柳和江：〔自著〕パラダイムの変更. よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ！ (高柳和江), 2003 ; pp165-188, 日総研出版 .
- 24) 高柳和江：〔自著〕センチネルイベント管理. よくわかる患者安全管理 ヒヤリハットや自己分析・活用に役立つ！ (高柳和江), 2003 ; pp189-229, 日総研出版 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) Kimura T : The Personnel Training about the BM-Engineering . BME International Guihin ( China ), 2002 . 5 .
- 2) Kimura T : Community Rehabilitation Network for the Disabled and Aged . Biophilia Rehabilitation Academy ( SAIPAN ), 2002 . 11 .
- 3) 高柳和江：新生児感染症とCDCガイドライン．第11回近畿新生児研究会，2002．3．
- 4) 木村哲彦：医療福祉機関開発技術者の教育．生活支援工学会，2002．6．
- 5) 高柳和江：患者の人権：癒しの環境の中での医療から．人権教育・啓発フォーラム，2002．6．
- 6) 高柳和江：死に方のコツ．沼津医師会，2002．7．
- 7) 高柳和江：癒しの環境．眼科学会女医会，2002．8．
- 8) 高柳和江：癒しの医療．岩手県医師会女医会，2002．9．
- 9) 高柳和江：癒しの環境．日本医学看護教育学会，2002．10．
- 10) 高柳和江：「笑い」の福祉論入門：笑うことと生きること．第9回ウェルネス福祉論，2002．12．
- 11) 高柳和江：がんに対する心構え：がんと上手に付き合う方法．吉田富三生誕100周年記念講演，2003．2．
- 12) 高柳和江：パッチが伝えたいこと．愛と笑いど喜びの「パッチ・アダムス」を語る集い，2003．3．

##### (2) 教育講演：

- 1) 木村哲彦：CRN（地域リハ連絡網）の推進．Biophilia Rehabilitation Academy，2002．8．
- 2) 高柳和江，長澤 泰<sup>1)</sup>，柳田邦男<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>東京大学，<sup>2)</sup>ノンフィクション作家）：病院から健院へ．第31回日本医療福祉設備学会，2002．11．

##### (3) シンポジウム：

- 1) 木村哲彦：長寿社会を支える医用福祉工学．ライフサポート学会，2002．9．
- 2) 木村哲彦：健康を支える医学と工学．精密工学会，2002．10．
- 3) 太田久彦，小林順子<sup>1)</sup>，木村哲彦（<sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会）：慢性腰痛症の治療法としての運動療法の有効性．日本腰痛学会，2002．11．

##### (4) 一般講演：

- 1) 高柳和江：癌末期患者の絵画による心理的・免疫学的影響．第7回日本臨床死生学会，2001．12．
- 2) 北川恒実，太田久彦，高柳和江，竹内孝仁<sup>1)</sup>，木村哲彦（<sup>1)</sup>付属第二病院リハビリテーションセンター）：頸髄損傷患者における合併症が及ぼす医療経済的検討．第39回日本リハビリテーション学会医療経済的検討学術集会，2002．5．
- 3) 高柳和江：Safe Kids．第39回日本小児外科学会，2002．6．
- 4) 高柳和江：環境における心理的变化．第52回日本病院学会，2002．6．
- 5) 高柳和江：人工的自然環境における心理的および免疫学的変化．第24回癒しの環境研究会全国大会，2002．8．

- 6) 太田久彦, 小林順子<sup>1)</sup>, 木村哲彦 ( <sup>1)</sup>日本リハビリテーションネットワーク研究会 ): 脳卒中のADLを指標としたリハビリテーション医療のアウトカム評価 . 日本病院管理学会, 2002 . 11 .
  - 7) 高柳和江 : 癌末期患者の絵画による心理的・免疫学的影響 . 第40回日本病院管理学会, 2002 . 11 .
  - 8) 高柳和江 : 医療環境におよぼす心理的免疫学的影響 . 日本医科大学医学会第108回例会, 2002 . 11 .
  - 9) 高柳和江 : NBMと実証としてのQOLを高める手術 . 日本医科大学医学会第109回例会, 2003 . 2 .
- (5) 文化講演 :
- 1) 高柳和江 : 21世紀の癒し . 第60回日本脳神経外科学会, 2001 . 10 .

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [ 実験動物管理室 ]

#### 研究概要

実験動物管理室では、実験動物飼育室の衛生状態の維持・改善のための検討の他、新しい疾患モデル動物の開発あるいは既知の実験動物の新たな有用性および特性の解析を行っている。

実験動物飼育室のうち、SPFバリア領域については定期的にモニタリングを行うことによって各飼育室の衛生状態を把握し、汚染対策を検討している。

WBN/Kob ratは糖尿病発症時期が9ヶ月齢以降であることから、その発症時期を早めるために、leptin receptorの異常により肥満を誘起する突然変異遺伝子 *Lepr<sup>fa</sup>* を WBN/Kob rat に導入した congenic 系を作成し、N9世代に達している。N6世代でヘテロ個体同士を交配して得られた *Lepr<sup>fa</sup>/Lepr<sup>fa</sup>* 個体が生後11週齢で膵炎を、3ヶ月齢で糖尿病発症を認めている。また、*Lepr<sup>fa</sup>/Lepr<sup>fa</sup>* 個体の長期飼育を行い、糖尿病合併症について解析中である。

スナネズミは、脳虚血・寄生虫感染あるいはピロリ菌感染モデルとして多用されている実験動物であるが、生物学的特性は十分に解明されていないため、当施設にて継代繁殖し研究を続けている。腎臓にThy-1抗原があるためThy-1腎炎モデルとしても有用であり、先天的に補体活性が低いことから補体欠損モデルとしての可能性も明らかにした。

近年代替補完医療が注目されているが、医学的検証が不十分なものが多いため、動物実験による検証を試みた。植物性精油の一部に抗ヒスタミン薬様の作用があり、アレルギー症状を軽減することが *in vivo* の皮膚炎モデル および *in vitro* のアナフィラキシーモデル双方の実験によって示唆された。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 老研・病理部門, <sup>2)</sup> 病理学第一 ): Supplementation of heterologous complement induces anti-Thy-1. 1 nephritis in the Mongolian gerbil (*Meriones unguiculatus*). J. Vet. Med. Sci. 2002 ; 64 ( 6 ): 463-467 .

##### (2) 綜説：

- 1) 七戸和博, 菅沼 ( 清水 ) 眞澄, 飯野正昭<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉工業大学 ): ホタルと環境 . 東武医学技術専門学校紀要 2002 ; 7 ( 1 ): 27-34 .

##### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Zhang X-J<sup>1)</sup>, Katsuta Y<sup>1)</sup>, Akimoto T, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Nagato T<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Komeichi H<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第一 ): Intrapulmonary vasodilatations and hypoxemia in chronic bile duct ligated rats . Asian Pacific Association for the study of the liver meeting 2002. ( Taipei, Taiwan ), 2002 . 9 .
- 2) Nagato T<sup>1)</sup>, Katsuta Y<sup>1)</sup>, Zhang X-J<sup>1)</sup>, Akimoto T, Ohsuga M<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Komeichi H<sup>1)</sup>, Satomura K<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>1)</sup> : Abnormalities of hemodynamic and gas exchange in rats with far advanced cirrhosis ( CBDL 8 weeks ). Asian Pacific Association for the study of the liver meeting 2002 ( Taipei, Taiwan ), 2002 . 9 .
- 3) 長谷場健<sup>1)</sup>, 手塚 進, 真下啓子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法医学 ): Class III ADH ( ADH<sub>3</sub> ) の血中アルコール動態および急性アルコール中毒における役割 : ノックアウトマウスを用いての *in vivo* evidence . 日本法医学会第

86次総会，2002．4．

- 4) 七戸和博，菅沼（清水）眞澄：動物実験による植物性精油の抗アレルギー作用の評価．第49回日本実験動物学会，2002．5．
- 5) 七戸和博，ミランガ ムワナタンブエ<sup>1)</sup>，菅沼（清水）眞澄，佐藤健司<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学病理学第二，<sup>2)</sup>京都府立大学）：ガン移植マウスに対するサメ軟骨食品の影響（2）．第56回日本栄養・食糧学会大会，2002．7．
- 6) 手塚 進，浦山利巳，山崎邦広，秋元敏雄，佐久間康夫：基礎医学動物室SPF 飼育エリアにおける微生物モニタリングおよび空中落下細菌検査について（第5報）．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 7) 秋元敏雄，仲間一雅<sup>1)</sup>，米田嘉重郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>サイエンス・サービス，<sup>2)</sup>東京医大）：肥満遺伝子（*Lep<sup>fa</sup>*）がWBN/Kob ラットの糖尿病発症に及ぼす影響について．第134回日本獣医学会学術集会，2002．9．
- 8) 秋元敏雄，仲間一雅<sup>1)</sup>，米田嘉重郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>サイエンス・サービス，<sup>2)</sup>東京医大）：WBN/Kob-*Lep<sup>fa</sup>*ラットの膵病変と糖尿病発症について．第17回日本糖尿病動物研究会，2003．1．
- 9) 菅沼（清水）眞澄，七戸和博：サメ軟骨の抗ガン作用．第26回日仏獣医学会，2003．2．
- 10) 飯野正昭<sup>1)</sup>，菅沼（清水）眞澄，七戸和博（<sup>1)</sup>千葉工大）：超音波処理細胞膜の生体分子透過特性．第50回応用物理学会，2003．3．
- 11) 七戸和博，菅沼（清水）眞澄，刈田貴久<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>ネイチャー・テクノロジー）：モルモット腸管収縮反応における植物性精油の影響（2）．第76回日本薬理学会年会，2003．3．

## [ 中央電子顕微鏡研究施設 ]

### 研究概要

本研究施設では，ヒト組織の電顕診断，動物実験による研究，および電顕技術開発を行っている．また，臨床ならびに基礎医学の各講座との共同研究や電顕技術の提供が行われている．

年間400余の検体が電顕診断として処理されている．主な対象臓器は腎臓と肝臓であるが心臓や各臓器の腫瘍等も含まれており，今年は大細胞型リンパ腫，肺大細胞内分泌癌（LCNEC）を対象に解析を試み，その成果を報告した．

動物実験としては，ラットに肺水腫を起こさせ，肺サーファクタントの動態を電子顕微鏡観察し，サーファクタントの分泌促進と，不活性型のサーファクタントが多数出現することを見つけた．本研究施設は，ウーロン茶抽出物（OTE）を用いての新しい試料作製を開発している．

1) 電顕による結合組織染色についてタンニン酸とOTEとを比較検討し，リン酸緩衝液で溶解したOTEが優れていることを見つけた．

2) OTEを用いたブロック染色により，眼房水や小腸杯上皮細胞の分泌形態が明確に観察されることを見つけた．他の試料作製技術の開発としては，

1) ウルトラマイクロトームの切削機構を解明することにより，物性の評価が可能となった．

2) 無固定試料による透過型電子顕微鏡観察が可能であるかを検討中である．

共同研究としては，小児科学教室，眼科学教室，外科学第二教室，皮膚科学教室，ならびに基礎医学では病理学第一，法医学教室との共同発表がある．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Omi T<sup>1)</sup>，Kawana S<sup>2)</sup>，Sato S，Honda M<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Dept. of Dermatology, Queen's Square Medical Center，<sup>2)</sup> Dept. of Dermatology）：Acute changes elicited by a nonablative wrinkle reduction laser：an ultrastruc-



tural study . Laser Florence 2001 2002 ; 4903 : 184-188 .

- 2) 尾見徳弥<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 佐藤 茂, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>クイーンズスクエアメディカルセンター, <sup>2)</sup>皮膚科学): 1 . レーザー e. Dye Laser (N-Lite<sup>®</sup>) による Collagen Replenishment . 皮膚科の臨床 2002 ; 44 ( 11 ): 1185-1189 .
- 3) 尾見徳弥<sup>1)</sup>, 小坂祥子<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 佐藤 茂, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科, <sup>2)</sup>皮膚科学): ClearLight<sup>™</sup> (Lumenis, Israel) による瘰癧治療の臨床的効果と細菌学的変動 . 日本美容皮膚科学会雑誌 2002 ; 12 : 77-82 .

## (2) Photogravure :

- 1) Sato S , Adachi A , Sasaki Y , Dai W , Sugisaki Y : Ultrastructure of Normal Rat Hepatocytes : Stereological Arrangement of the Organellae . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ): 512-513 .

## 著 書

- 1) 佐藤 茂 : [ 分担 ] 8 . サーファクタントと肺疾患 . 「病気の形態学」日本臨床電子顕微鏡学会編 , 2002 ; pp128-130 , 学際企画 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 朝倉健太郎<sup>1)</sup>, 広畑泰久, 平坂雅男<sup>2)</sup>, 長澤忠広<sup>3)</sup>, 星埜由典<sup>4)</sup>, 川澄寛国<sup>5)</sup>, 丹羽博嗣<sup>6)</sup>, 谷山 明<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>2)</sup> 帝人 (株) 高分子研究センター, <sup>3)</sup> コニカ (株) 中央研究所, <sup>4)</sup> 東京インキ製造 (株) 研究統轄部, <sup>5)</sup> 昌国, <sup>6)</sup> シーエーシーズ (株) 四日市分析センター, <sup>7)</sup> 住友金属工業 (株) 総合技術研究所): 計装化ウルトラマイクロームによる金属ナイフの検討 . 日本電子顕微鏡学会代 58 回学術講演会 , 2002 . 5 .
- 2) 秋元 剛<sup>1)</sup>, 広畑泰久, 白川伊吹<sup>1)</sup>, 杉 晴夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 帝京大学医学部生理学教室): 生体高分子試料観察のためのガス雰囲気試料室用隔膜に関する研究 . 日本電子顕微鏡顕微鏡学会第 58 回学術講演会 , 2002 . 5 .
- 3) 鈴木敏洋<sup>1)</sup>, 星埜由典<sup>2)</sup>, 朝倉健太郎<sup>3)</sup>, 広畑泰久, 平坂雅男<sup>4)</sup>, 長澤忠広<sup>5)</sup>, 京谷陸征<sup>6)</sup>, 斉藤 実<sup>7)</sup>, 中村 新一<sup>8)</sup>, 谷山 明<sup>9)</sup>, 丹羽博嗣<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> 真空冶金 (株) 品質管理部, <sup>2)</sup> 東洋インキ製造 (株) 研究統轄部, <sup>3)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>4)</sup> 帝人 (株) 高分子研究センター, <sup>5)</sup> コニカ (株) 中央研究所, <sup>6)</sup> JFCC, <sup>7)</sup> 大妻女子大学, <sup>8)</sup> 東芝電子エンジニアリング (株) 分析評価センター, <sup>9)</sup> 住友金属工業 (株) 総合技術研究所, <sup>10)</sup> シーエーシーズ (株) 四日市分析センター): 歪みゲージを用いた計装化ウルトラマイクロームの開発 . 日本電子顕微鏡顕微鏡学会第 58 回学術講演会 , 2002 . 5 .
- 4) 谷山 明<sup>1)</sup>, 朝倉健太郎<sup>2)</sup>, 広畑泰久, 平坂雅男<sup>3)</sup>, 長澤忠広<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 住友金属工業 (株) 総合技術研究所, <sup>2)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>3)</sup> 帝人 (株) 高分子研究センター, <sup>4)</sup> コニカ (株) 中央研究所): 計装化ウルトラマイクロームの金属材料評価への適用 . 日本電子顕微鏡顕微鏡学会第 58 回学術講演会 , 2002 . 5 .
- 5) 丹羽博嗣<sup>1)</sup>, 朝倉健太郎<sup>2)</sup>, 広畑泰久, 平坂雅男<sup>3)</sup>, 長澤忠広<sup>4)</sup>, 京谷陸征<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> シーエーシーズ (株) 四日市分析センター, <sup>2)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>3)</sup> 帝人 (株) 高分子研究センター, <sup>4)</sup> コニカ (株) 中央研究所, <sup>5)</sup> 産総研 新炭素系材料研究開発センター): 計装化ウルトラマイクロームを用いた細いナイフによる異種物質界面の力学特性 . 日本電子顕微鏡顕微鏡学会第 58 回学術講演会 , 2002 . 5 .

### (2) ワークショップ :

- 1) Liu AM , Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y (<sup>1)</sup> Dept. of Pathology): The Role of Electron Microscopic Study in Fine Needle Aspiration Cytology . The Ninth Thai-Japanese Workshop on Diagnostic Cytopathology ( Bangkok, Thailand ), 2003 . 1 .

### (3) 一般講演 :

- 1) Liu AM , Sugisaki Y , Hosone M<sup>1)</sup>, Namimatsu S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Div. of surgical pathology, Tama-Nagayama Hp. ,

- <sup>2)</sup>Dept. of 2nd Pathology ): A Case of Microvillous Lymphoma with CD30+ALCL-B Features . XI Meeting of the EAHP ( Siena, Italy ), 2002 . 5 .
- 2) Liu AM , Sugisaki Y , Hosone M<sup>1)</sup> , Namimatsu S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Div. of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hp. , <sup>2)</sup>Div. of Surgical Pathology ): Immunohistochemical and ultrastructural studies of four cases of CD30+TIA-1+ALK+Anaplastic large cell lymphoma . The Sixth Joint Meeting of The Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry and The Histochemical Society ( Seattle, USA ), 2002 . 7 .
- 3) Hirohata Y , Asakura K<sup>1)</sup> , Saito M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Univ. of Tokyo , <sup>2)</sup>Otsuma Woman's Collage ): Measurement of sectioning force with instrumented ultramicrotome . 15th International Congress of Electron Microscopy ( Durban, South Africa ), 2002 . 9 .
- 4) Liu AM , Maeda S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>1)</sup> , Katayama H<sup>1)</sup> , Azuma K<sup>1)</sup> , Sugisaki Y , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Div. of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hp. , <sup>2)</sup>Dept. of 2nd Pathology ): Large cell neuroendocrine carcinoma of the lung - Immunohistochemical and electron microscopic studies . XXIVth International Congress of the International Academy of Pathology ( Amsterdam, Netherlands ), 2002 . 10 .
- 5) Liu AM , Sugisaki Y , Maeda S<sup>1)</sup> , Hosone M<sup>1)</sup> , Katayama H<sup>1)</sup> , Azuma K<sup>1)</sup> , Matsushima S<sup>2)</sup> , Yamamoto H<sup>2)</sup> , Egami K<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup>同外科 , <sup>3)</sup>病理学第2 ): Large cell carcinoma with neuroendocrine features of the lung : Immunohistochemical and electron microscopic studies . 第70回日本医科大学医学学会総会 , 2002 . 9 .
- 6) 劉 愛民 , 前田昭太郎<sup>1)</sup> , 細根 勝<sup>1)</sup> , 片山博徳<sup>1)</sup> , 東 敬子<sup>1)</sup> , 松島申治<sup>2)</sup> , 山本英希<sup>2)</sup> , 江上 格<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup>同外科 ): Large cell carcinoma with neuroendocrine feature of the lung - Differentiation between LCNEC and LCCND . 第43回日本肺癌学会総会 , 2002 . 11 .
- 7) 前田昭太郎<sup>1)</sup> , 細根 勝<sup>1)</sup> , 片山博徳<sup>1)</sup> , 志村俊郎<sup>2)</sup> , 山王直子<sup>2)</sup> , 横山宗伯<sup>3)</sup> , 内藤善哉<sup>3)</sup> , 劉 愛民 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup>同脳神経外科学 , <sup>3)</sup>病理学第2 ): 脳原発骨肉腫の1例 . 第70回日本医科大学医学学会総会 , 2002 . 9 .
- 8) 東 敬子<sup>1)</sup> , 前田昭太郎<sup>1)</sup> , 細根 勝<sup>1)</sup> , 片山博徳<sup>1)</sup> , 川野記代子<sup>1)</sup> , 劉 愛民 , 金澤宏美<sup>2)</sup> , 大塚俊昭<sup>2)</sup> , 岸田 浩<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 , <sup>2)</sup>同内科 ): 剖検時迅速細胞診が診断に有用であった心臓肉腫の1例 . 第70回日本医科大学医学学会総会 , 2002 . 9 .
- 9) 佐藤 茂 , 佐佐木喜広 , 安達彰子 , 戴 威 , 杉崎祐一 : 正常ラット肝細胞の立体超微構造 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 10) 佐佐木喜広 , 佐藤 茂 , 安達彰子 , 杉崎祐一 : ウーロン茶抽出物 ( OTE ) を用いたブロック染色による小腸粘膜杯細胞の電顕観察 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 11) 劉 効蘭 , 前田美穂<sup>1)</sup> , 安達彰子 , 戴 威 , 佐佐木喜広 , 佐藤 茂 , 海津聖彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科学 ): 小児白血病の治療後末梢血の電子顕微鏡観察 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 12) 松井洋法<sup>1)</sup> , 佐藤 茂 , 佐佐木喜広 , 小原澤英彰<sup>1)</sup> , 大原國俊<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>眼科学 ): ウーロン茶抽出物 ( OTE ) を用いたブロック染色によるラット眼房水の電子顕微鏡観察 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 13) 並松茂樹<sup>1)</sup> , 佐藤 茂 , 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>付属病院病理部 ): 2.5%グルタルアルデヒド固定した組織は免疫電顕が可能か . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 14) 戴 威 , 並松茂樹<sup>1)</sup> , 佐藤 茂 , 佐佐木喜広 , 安達彰子 , 劉 効蘭 , 杉崎祐一 : 電子顕微鏡観察の為の結合組織染色 2 . 種種漢方薬による検討 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会 , 2002 . 9 .
- 15) 佐藤 茂 , 劉 効蘭 , 上田眞太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本大学大学院理工学研究科 ): 過酸化水素投与による肺表面被覆層の障害 : 電子顕微鏡観察 . 第38回日本界面医学会 , 2002 . 10 .

## [ 情報科学センター ]

### 研究概要

2002年度は、学内IT環境の整備運用が主となった年であった。

#### 1. 仮想大学の実現を目指して

2001年度に導入されたビデオオンデマンド マルチメディアデータベースサーバーを基盤として、学術ビデオ製作環境の整備とビデオデータベースの開発を行った。本年度は試行的な意味も含めて、学内に開かれる学術講演会の収録を開始した。10月以降にビデオ撮影を開始したにもかかわらず、25本の講演会ビデオの収録が出来ている。講演会のみで通年で60本以上の収録が見込まれる。その他、今後は、自主的な教育番組の製作など、医学教育へのマルチメディア活用の基盤となりつつある。いつでも何処でも学べる「仮想医科大学」の実現を目指している。特に、直接的な授業へのIT導入として2年生の「情報科学演習」にe-Learningプラットフォーム JANZABARの試験利用を開始しており、今後、その教育上の成果、評価を報告できよう。

#### 2. 新丸子マルチメディア教室の構築

本学においては、常設のPCを備えた情報教育用教室が存在せず、集中的なテラシー教育を行うのに極めて不都合であった。新丸子校舎によく、PC54台を備えたマルチメディア教室が本年実現でき、1年生に対して早期のリテラシー教育が可能となった。2003年より、充実した講習会の開催が期待でき、教育のマルチメディア化推進の基盤となることが期待される。既にCBTに活用されている。

#### 3. 学術ネットワークに関して

学術ネットワークは「仮想大学」が実現する事により、名実と共に大学の研究、教育の基盤となろう。システムの高速安定稼働が不可欠であるので、2003年1月にメールサーバーの拡充が図られた。

学内LAN上の研究教育情報資源の充実に伴い、特に文献検索などで自宅、学会出張先などからのアクセスが求められている。HTTPSプロトコルによるセキュアなアクセスを来年度より実現する事とした。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書：

- 1) Kawano K, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kokubo H<sup>1)</sup>, Chen W<sup>1)</sup>, Zhang T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Characteristics of EEG during Various Meditations . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2002 ; 20 ( 2 ): pp512-516 .
- 2) Zhang T<sup>1)</sup>, Chen W<sup>1)</sup>, Yoichi H<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Kawano K, Kokubo H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Brain Activation during Qigong Meditation : Comparison of EEG and Optical Topography Study . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2002 ; 20 ( 2 ): pp517-526 .
- 3) Yoichi H<sup>1)</sup>, Kokubo H<sup>1)</sup>, Chen W<sup>1)</sup>, Zhang T<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Kawano K, Yamamoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Barin Blood Volume Change under an ESP Task Measured by Optical Topography . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2002 ; 20 ( 2 ): pp637-641 .
- 4) Kokado T<sup>1)</sup>, Fukuda N<sup>1)</sup>, Kawano K, Yamamoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Brain Wave Coherence Function in Remote Action Experiments : Rank Sum Test vs. Traditional Method . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2002 ; 20 ( 2 ): pp648-653 .
- 5) Chen W<sup>1)</sup>, Zhang T<sup>1)</sup>, Kotake J<sup>1)</sup>, Yoichi H<sup>1)</sup>, Haraguchi S<sup>1)</sup>, Kawano K, Kokubo H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>National Institute of Radiological Sciences ): Temperature and Biophoton Changes of the Middle Finger during Qigong and Light Imagery Tasks . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2002 ; 20 ( 2 ): pp703-710 .
- 6) Kawano K, Machi Y<sup>1)</sup>, Liu C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo Denki University ): An Approach from EEG to a Health Method,

- Juji-shiki . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2003 ; 21 ( 1 ): pp100-107 .
- 7) Machi Y<sup>1)</sup>, Liu C<sup>1)</sup>, Kawano K ( <sup>1)</sup> Tokyo Denki University ) : Physiological Effects of a Treatment by JU-JISHIKI HEALTH SERVICE . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2003 ; 21 ( 1 ): pp91-99 .
- 8) Zhang T<sup>1)</sup>, Chen W<sup>1)</sup>, Fukuda N<sup>1)</sup>, Yoichi H<sup>1)</sup>, Kawano K, Kokubo H<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences ) : Correlations between Cardiac Variability and Alpha/Theta Activities of EEG during Qigong Task : A Circumstantial Evidence on Conversation of Mind and Body . J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2003 ; 21 ( 1 ): pp270-284 .
- 9) 河野貴美子 : 珠算習得課程における脳波の変化 . 数学文化 2002 ; 0 ( 1 ): pp50-58 .

## 著 書

- 1) Kawano K , Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kokubo H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> National Institute of Radiological Sciences ) : [ 分担 ] A study of a waves on the frontal area . Recent Advances in Human Brain Mapping ( Hirata, K, Koga, Y, Nagata, K and Yamazaki, K ), 2002 ; pp107-112 , Elsevier .
- 2) 河野貴美子 : [ 分担 ] 脳波 . 記号学大事典 ( 坂本百大 ), 2002 ; pp327-328 , 柏書房 .

## 学会発表

### ( 1 ) 招待講演 :

- 1) 河野貴美子 : EEG Changes during Qigong and Meditation . Chui-San International New Science Symposium ( ソウル ), 2002 . 9 .

### ( 2 ) パネルディスカッション :

- 1) 河野貴美子 : 数のこころ . 日本数学協会 , 2003 . 2 .

### ( 3 ) 一般講演 :

- 1) 河野貴美子 : 日本人と欧米人における数感覚の差異 . 日本脳電磁図トポグラフィ研究会 , 2002 . 4 .
- 2) 太田久彦<sup>1)</sup>, 小林順子<sup>2)</sup>, 木村哲彦<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>3)</sup>, 後藤正幸<sup>4)</sup>, 大久保寛基<sup>5)</sup>, 桑原正臣<sup>5)</sup>, 大成 尚<sup>6)</sup>, 浜田利満<sup>6)</sup>, 丸山博史<sup>7)</sup>, 陶山哲夫<sup>8)</sup>, 草野修輔<sup>8)</sup>, 高橋邦泰<sup>9)</sup>, 比留間ちづ子<sup>10)</sup>, 羽生輝子<sup>11)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学医療管理学, <sup>2)</sup> リハビリテーションネットワーク研究会, <sup>3)</sup> 日本医科大学情報科学センター, <sup>4)</sup> 武蔵工大環境情報学部, <sup>5)</sup> 早稲田大学理工学部, <sup>6)</sup> 日立マイクロソフトウエアシステムズ, <sup>7)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター, <sup>8)</sup> 国際医療福祉大学保健学部, <sup>9)</sup> 東京女子医科大学リハビリテーション部, <sup>10)</sup> 日本福祉教育専門学校 ) : リハビリテーション診療支援のためのデータベース開発 . 第22回医療情報学連合大会, 2002 . 11 .
- 3) 河野貴美子 : 脳波から思考集中を考える . 人体科学会第12回大会, 2002 . 12 .
- 4) 河野貴美子, 町 好雄<sup>1)</sup>, 劉 超<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京電機大学 ) : 十字式健康法における脳波からのアプローチ . 第15回生命情報科学シンポジウム, 2003 . 3 .
- 5) 町 好雄<sup>1)</sup>, 劉 超<sup>1)</sup>, 河野貴美子 ( <sup>1)</sup> 東京電機大学 ) : 十字式健康法による治療の生理効果 . 第15回生命情報科学シンポジウム, 2003 . 3 .

## 〔 3 〕 臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [ 付属病院第 1内科 ]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学，糖尿病学，ならびに再生医学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った．

循環器病学では，不整脈に関する研究として，1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，4) 失神患者における自律神経機能の評価，5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討．

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング，4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，5) 虚血心筋保護法の検討，6) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討．

肝臓病学では，1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生，4) 慢性肝疾患における肺循環異常，5) 二次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係．

糖尿病学では，1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，2) 糖尿病患者における自律神経機能，3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している．

再生医学の臨床応用は2002年より開始され，首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症・パージャール病・糖尿病性壊疽）への血管再生療法」の臨床応用に成功した．また重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった．さらに日本獣医畜産大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるパイオ人工臓の開発も研究中である．

### 研究業績

#### 論文

[ 1996 年度追加分 ]

原著：

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Satomura K ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches ): The Ultrastructure of Spiralled Collagen in Liver Fibrosis . Med. Electron Microsc 1996 ; 29 (3-4) : 153-158 .

[ 1997 年度追加分 ]

総説：

- 1) 大須賀勝，荒牧琢己：門脈圧亢進症・食道静脈瘤．治療 1998；（増刊号）：639-641．

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Satomura K, Yin M<sup>1)</sup>, Sekiyama T, Fujisaki S, Aramaki T, Okumura H<sup>2)</sup>, Ohmoto Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Infections Diseases, Yan bian Medical School, China , <sup>2)</sup> Professor Emeritus of Nippon Medical School , <sup>3)</sup> First Institute of New Drug Research, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd ): Effects of SSM ( Specific Substance Maruyama ) on HBe Antigen-Positive Chronic Hepatitis B . 日医大誌 2000 ; 67 ( 4 ) : 261-266 .
- 2) Sato S<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Wakamatsu K<sup>2)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Satomura K, Asano G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Elec-

tron Microscopic Research , <sup>2)</sup> First Department of Pathology ): Abnormal elastic system fibers in fibrotic human liver . Med Electron Microsc 2000 ; 33 ( 3 ): 135-142 .

(1) 原著 :

- 1) Morita N , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Hayashi M , Atarashi H , Kato T , Takano T : Pronounced effect of procainamide on clockwise right atrial isthmus conduction compared with counterclockwise conduction : possible mechanism of the greater incidence of common atrial flutter during antiarrhythmic therapy . J Cardiovasc Electrophysiol 2002 ; 13 ( 3 ): 212-222 .
- 2) Miura K , Seino Y , Honma H : Interception of aortic regurgitation by vegetation plug in a patient with infective endocarditis . Heart 2002 ; 87 ( 4 ): 362 .
- 3) Horie T , Seino Y , Miyauchi Y , Saitoh T<sup>1)</sup> , Takano T , Ohashi A<sup>1)</sup> , Yamada N<sup>1)</sup> , Tamura K<sup>1)</sup> , Yamana-ka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology ): Unusual Petal-like Fibromuscular Dysplasia as a Cause of Acute Abdomen and Circulatory Shock . Jpn Heart J 2002 ; 43 : 301-305 .
- 4) Kumita S<sup>1)</sup> , Seino Y , Cho K<sup>1)</sup> , Nakajo H<sup>1)</sup> , Toba M<sup>1)</sup> , Fukushima Y<sup>1)</sup> , Okamoto N<sup>2)</sup> , Takano T , Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology , <sup>2)</sup> Medical Imaging, Bristol-Myers Squibb K. K. , Tokyo, Japan ): Assessment of myocardial washout of Tc-99m-sestamibi in patients with chronic heart failure : Comparison with normal control . Ann Nucl Med 2002 ; 16 ( 4 ): 237-242 .
- 5) Takayama H<sup>1)</sup> , Takeda S<sup>1)</sup> , Saitoh S-K<sup>1)</sup> , Hayashi H<sup>2)</sup> , Takano T , Tanaka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Division of Intensive Care and Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> The Division of Radiology ): Spontaneous Isolated Dissection of the Superior Mesenteric Artery . Internal Medicine 2002 ; 41 ( 9 ): 713-716 .
- 6) Takahashi H , Hirai Y<sup>1,2)</sup> , Migita M<sup>1,2)</sup> , Seino Y , Fukuda Y<sup>3)</sup> , Sakuraba H<sup>4)</sup> , Kase R<sup>4)</sup> , Kobayashi T<sup>5)</sup> , Hashimoto Y<sup>6)</sup> , Shimada T<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup> Division of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology , <sup>3)</sup> Department of Pathology , <sup>4)</sup> Department of Clinical Genetics, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research , <sup>5)</sup> Sphingolipid Functions Laboratory , <sup>6)</sup> Glyco-Chain Functions Laboratory, Supra-Bio-molecular System Group, The Institute of Physical and Chemical Research Frontier Research System, Saitama ): Long-term systemic therapy of Fabry disease in a knockout mouse by adeno-associated virus-mediated muscle-directed gene transfer . PNAS 2002 ; 99 ( 21 ): 13777-13782 .
- 7) Tanaka K<sup>1)</sup> , Sato N<sup>1)</sup> , Yasutake M , Takeda S<sup>1)</sup> , Takano T , Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Intensive and Coronary Care Unit ): Clinical course, timing of rupture and relationship with coronary recanalization therapy in 77 patients with ventricular free wall re-rupture following acute myocardial infarction . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 481-488 .
- 8) Setsuta K<sup>1)</sup> , Seino Y , Ogawa T , Arai M<sup>1)</sup> , Miyatake Y<sup>1)</sup> , Takano T ( <sup>1)</sup> The Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Use of Cytosolic and Myofibril Markers in the Detection of Ongoing Myocardial Damage in Patients with Chronic Heart Failure . Am J Med 2002 ; 113 : 717-722 .
- 9) Miura H , Kiuchi K , Nejima J , Takano T : Limitation of infarct size and ventricular remodeling in patients with completely reperfused anterior acute myocardial infarction-the potential role of ischemia time . Clin Cardiol 2002 ; 25 ( 12 ): 566-571 .
- 10) Satomura K , Shimizu S , Nagato T , Komeichi H , Osuga M , Katsuta Y , Aramaki T , Omoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Biologic Research Institute, Otsuka Pharmaceutical Co. Ltd ): Establishment of an assay method for human mast cell chymase . Hepatology Research 2002 ; 24 ( 4 ): 361-367 .

- 11) Endoh Y, Atarashi H, Hayakawa H, Nagasawa K, Kishida H, Takano T : Clinical Significance of Wide QRS Complexes at the Termination of Paroxysmal Supraventricular Tachycardias . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ): 525-533 .
- 12) Tsukada Y, Yasutake M, Jia D<sup>1)</sup>, Kusama Y, Kishida H, Takano T, Tsukada S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, China Medical University, <sup>2)</sup> The First Department of Physiology, National Defense Medical College ) : Real-time measurement of nitric oxide by luminol-hydrogen peroxide reaction in crystalloid perfused rat heart . Life Sci 2003 ; 72 ( 9 ): 989-1000 .
- 13) Tanaka K<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Takano T, Ochi M<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Tamura K<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> Division of Intensive and Coronary Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology ) : Clinicopathological Characteristics of 10 Patients with Rupture of Both Ventricular Free Wall and Septum ( Double Rupture ) After Acute Myocardial Infarction . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 21-27 .
- 14) Takaku S, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Norose Y<sup>1)</sup>, Maruyama I<sup>2)</sup>, Wakita T<sup>3)</sup>, Takano T, Kohara M<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, <sup>2)</sup> Department of Microbiology and Cell Biology, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>3)</sup> Department of Microbiology and Immunology, The Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience ) : Induction of hepatic injury by hepatitis C virus-specific CD<sup>+</sup>8 murine cytotoxic T lymphocytes in transgenic mice expressing the viral structural genes . Biochemical and Biophysical Research Communications 2003 ; 301 ( 2 ): 330-337 .
- 15) Sutovsky I, Katoh T, Takayama H, Ono T, Takano T : Therapeutic Monitoring of Class I Antiarrhythmic Agents Using High-Resolution Electrocardiography Instead of Blood Samples . Circ J 2003 ; 67 ( 3 ): 195-198 .
- 16) Ohmura K, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Endoh Y, Atarashi H, Katoh T, Takano T : Electrocardiographic and electrophysiological characteristics of atrial fibrillation organized into atrial flutter by oral administration of class I antiarrhythmic agents . PACE 2003 ; 26 ( 3 ): 692-702 .
- 17) Katoh T, Saitoh H, Ohno N, Tateno M, Nakamura T, Dendo I, Kobayashi S, Nagasawa K : Drug interaction between mosapride and erythromycin without electrocardiographic changes . Jpn Heart J 2003 ; 44 ( 2 ): 225-234 .
- 18) 大野則彦<sup>1)</sup>, 斎藤寛和, 大坂元久, 新 博次<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科 ): QT 間隔の時間的変動と心室性不整脈 : variability index と周波数解析による検討 . 心電図 2002 ; 22 ( 4 ): 274-284 .
- 19) 森田典成, 小林義典, 館岡克彦, 谷口宏史, 阿部純子, 岩崎雄樹, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院内科, <sup>2)</sup> 外科第二 ): Ic 群抗不整脈投与後に T wave alternance が認められた Brugada 症候群の 1 例 . 臨床心臓電気生理 2002 ; 25 ( 5 ): 315-322 .
- 20) 大野忠明, 本間 博, 吉川雅智, 時田祐吉, 宗像 亮, 草間芳樹, 岸田 浩, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理機能センター ): ドブダミン負荷心エコー法による冠動脈疾患の診断 : 経静脈心筋コントラストエコー法と経胸壁心エコー・ドプラ法による冠血流評価法との併用 . 心臓 2002 ; 34 ( 特別 2 号 ): 4-5 .
- 21) 磯田麻理, 木内 要<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>2)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 鶴見大学歯学部 内科 ): 冠動脈疾患患者におけるレプチンおよびインスリン抵抗性の役割 : グルコースクランプ法を用いた検討 . J Cardiol 2002 ; 40 ( 2 ): 51-57 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 小林義典 : 心不全薬物治療と不整脈 ( 特集 : 心不全と不整脈 ). 循環器科 2002 ; 52 ( 1 ): 23-30 .
- 2) 清野精彦, 緒方憲一, 説田浩一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東京都立駒込病院循環器内科 ): 心筋壊死の新しい生化学診断 . 治療学 2002 ; 36 ( 4 ): 67-71 .
- 3) 加藤貴雄 : 塩酸ニフェカルト : nifekalant ( シンビット注<sup>®</sup> ). CARDIAC PRACTICE 2002 ; 13 ( 4 ): 104-105 .



- 4) 清野精彦, 緒方憲一, 福島正人, 高野照夫: 急性冠症候群における全血迅速診断法 (特集: ここまでできるベッドサイド検査). 救急・集中治療 2002; 14 (7): 699-704.
- 5) 高野仁司, 高野照夫: 慢性腎不全患者のジギタリス中毒. 内科 2002; 89 (5): 975-978.
- 6) 高山守正: 東京都CCUネットワーク23年のあゆみ. IHD Frontier 2002; 3 (1): 86-90.
- 7) 清野精彦, 富田喜文, 福島正人, 緒方憲一, 田中邦夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 博慈会記念病院循環器科): 心筋マーカー測定による急性心筋梗塞早期診断の有用性. IHD Frontier 2002; 3 (1): 47-53.
- 8) 小林義典: 心房細動治療におけるカテーテル・アブレーションの役割. J Nippon Med Sch 2002; 69 (3): 290-293.
- 9) 高山守正: 経皮的冠動脈インターベンションに関する米国心臓学会 (ACC) / 米国心臓協会 (AHA) ガイドライン: 経皮的冠動脈形成術ガイドライン1993の改編: 主要要旨 - (特集: 血栓症のガイドライン). 血栓と循環 2002; 10 (2): 85-94.
- 10) 小林義典: 心房細動 / 心房粗動 (特集: 不整脈). 日本臨牀 2002; 60 (7): 1373-1381.
- 11) 小林義典: 治療が必要な不整脈, 不要な不整脈. medicina 2002; 39 (7): 1126-1128.
- 12) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 荒牧琢己 ( <sup>1)</sup> 脳神経外科学): 卒前医学教育の新しい流れ. J Nippon Med Sch 2002; 69 (4): 403-403.
- 13) 清野精彦: 1枚の心電図から: 何が考えられるか. 日本醫事新報 2002; 4085: 53-56.
- 14) 小林義典: 心原性失神の診断 (特集: 失神の診かた). Heart View 2002; 6 (8): 24-30.
- 15) 大須賀勝, 大村和子, 勝田悌実, 荒牧琢己, 高野照夫: 集学的治療により救命し得た劇症肝不全の1例. J Nippon Med Sch 2002; 69: 390-394.
- 16) 清野精彦, 山下照代: 生化学検査と診断意義. 救急医学 2002; 26 (10): 1363-1368.
- 17) 森田典成: 突然死の予防: Brugada症候群に対する薬物, 非薬物療法. PTM 2002; 1 (9).
- 18) 里村克章, 荒牧琢己: III. 消化器疾患 肝硬変症. 日本医師会雑誌特別号 2002; 128 (8).
- 19) 山本 剛, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 横山宋伯<sup>1)</sup>, 松本光司, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 渡辺 惇<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 小児科学, <sup>3)</sup> 生化学第2): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 薬理と治療 2002; 30: s385-391.
- 20) 高野照夫, 山本 剛: 深部静脈血栓症と肺塞栓症 診断と治療 特に関節リウマチ患者の人工関節置換術との関係について. 関節の外科 2002; 29 (4): 111-116.
- 21) 小原啓子<sup>1)</sup>, 櫛方美文<sup>1)</sup>, 原田英博<sup>1)</sup>, 直塚康史<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 太田眞夫, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 同愛記念病院 内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属第二病院内科): 当院における糖尿病治療について. 同愛医学雑誌 2002; 22: 18-21.
- 22) 櫛方美文<sup>1)</sup>, 小原啓子<sup>1)</sup>, 原田英博<sup>1)</sup>, 直塚康史<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 太田眞夫, 高野照夫 ( <sup>1)</sup> 同愛記念病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属第二病院内科): 短報: 当科における糖尿病治療の現状について. 同愛医学雑誌 2002; 22: 22-23.
- 23) 高山守正, 安藤岳史<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup>, 五十嶋博文<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学学友会山岳部, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理第1, <sup>3)</sup> 中村病院, <sup>4)</sup> 自衛隊山台病院内科, <sup>5)</sup> 北アルプス太郎平小屋): 北アルプス中高年登山者における登山中の健康障害イベント発症の予測: 山小屋でのSpO<sub>2</sub>測定の意義. 登山医学 2002; 22: 91-100.
- 24) 清野精彦: 心血管疾患非薬物療法の現状と展望. 進歩する心臓研究 2002; XXII (1): 3-3.
- 25) 高山守正: 病態による検査の進め方 (非観血的検査からどこまでわかるか?). medicina 2003; 40 (1): 25-28.
- 26) 安武正弘, 高野照夫: 急性冠症候群 診断・治療の新しいstrategy. 心臓 2003; 35 (2): 83-90.
- 27) 清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 福島正人: 生化学マーカー (心筋虚血の評価 1). 治療学 2003; 37 (2): 35-40.
- 28) 小林義典: 冠静脈洞の巨大憩室を伴ったWPW症候群の1例. Cardiovascular Med-Surg 2003; 5 (1): 87-91.

29) 岸田 浩：急性冠症候群の病態と治療．循環制御 2003；24(1)：27-28．

(3) 研究報告書：

- 1) 山口 徹<sup>1)</sup>，石川欽司<sup>2)</sup>，一色高明<sup>3)</sup>，井野隆史<sup>4)</sup>，上松瀬勝男<sup>5)</sup>，北村惣一郎<sup>6)</sup>，住吉徹哉<sup>7)</sup>，高野照夫，茅野眞男<sup>8)</sup>，野々木宏<sup>9)</sup>，延吉正清<sup>10)</sup>，平山治雄<sup>11)</sup>，堀江俊伸<sup>12)</sup>，幕内晴朗<sup>13)</sup>，光藤和明<sup>14)</sup>，本宮武司<sup>15)</sup>(<sup>1)</sup> 虎の門病院，<sup>2)</sup> 近畿大学循環器内科，<sup>3)</sup> 帝京大学内科，<sup>4)</sup> 自治医科大学附属大宮医療センター心臓血管外科，<sup>5)</sup> 日本大学内科学講座内科二部門，<sup>6)</sup> 国立循環器病センター，<sup>7)</sup> 榊原記念病院循環器内科，<sup>8)</sup> 国立病院東京医療センター - 循環器科，<sup>9)</sup> 国立循環器病センター - 内科心臓血管部門，<sup>10)</sup> 小倉記念病院循環器科，<sup>11)</sup> 名古屋第二赤十字病院循環器センター内科，<sup>12)</sup> 埼玉県立循環器・呼吸器病センター，<sup>13)</sup> 聖マリアンナ医科大学心臓血管外科，<sup>14)</sup> 倉敷中央病院循環器内科，<sup>15)</sup> 大森赤十字病院循環器科)：急性冠症候群の診療に関するガイドライン．J Cardiol 2003；41( Appendix)：pp149-159．
- 2) 荒牧琢己：肝硬変における静脈瘤に対する薬物療法の研究．特殊疾病(難病)に関する研究報告書 2003；pp29-30．

著 書

- 1) Tomita Y, Kishida H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital)：〔分担〕Acidic FGF in Left Ventricular Idiopathic Cardiomyopathy．Fibroblast Growth Factor in the Cardiovascular System (P. Cuevas)，2002；pp261-272，Holzapfel Publishers, Munchen．
- 2) 勝田悌実，大須賀勝，荒牧琢己：〔共著〕III 肝硬変 3 合併症 食道静脈瘤．図説消化器病シリーズ 10 ウイルス肝炎，肝硬変(三田村圭二)，2001；pp179-189，メジカルビュー社．
- 3) 安武正弘：〔分担〕急性期パラメーターによるリスク評価(第3章 心筋梗塞(急性期)の診断)．新しい診断と治療のABC4/循環器1 心筋梗塞(高野照夫)，2002；pp114-121，最新医学社．
- 4) 清野精彦：〔分担〕病態・重症度に応じた治療選択．実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp53-66，医薬ジャーナル社．
- 5) 高山守正：〔分担〕4. 弁膜症における心不全(II. 病因別の心不全治療)．実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp128-137，医薬ジャーナル社．
- 6) 安武正弘，石井健輔：〔分担〕血管拡張薬(III. 薬物療法)．実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp219-224，医薬ジャーナル社．
- 7) 草間芳樹：〔分担〕カテコラミンによる治療(III. 薬物治療)．実地診療に則した心不全治療・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp225-228，医薬ジャーナル社．
- 8) 子島 潤，宮武佳子：〔分担〕心房性ナトリウム利尿ペプチド．実地診療に則した心不全治療・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp242-248，医薬ジャーナル社．
- 9) 高橋直人<sup>1)</sup>，宗像一雄(<sup>1)</sup> 第二病院内科)：〔分担〕ジギリタス．実地診療に則した心不全治療・治療マニュアル(高野照夫，清野精彦)，2002；pp212-218，医薬ジャーナル社．
- 10) 高野照夫：〔分担〕虚血性心疾患．新臨床内科学(高久史磨，尾形悦郎，黒川 清，矢崎義雄)，2002；pp485-487，医学書院．
- 11) 高野照夫：〔分担〕ショック．新臨床内科学(高久史磨，尾形悦郎，黒川 清，矢崎義雄)，2002；pp506-509，医学書院．
- 12) 高野照夫：〔分担〕ショック．内科学書(島田 馨)，2002；pp1222-1227，中山書店．
- 13) 勝田悌実，荒牧琢己：〔分担〕門脈圧亢進性胃症．今日の消化器疾患治療指針(多賀須幸男，三田村圭二，幕内雅敏)，2002；pp355-357，医学書院．
- 14) 荒牧琢己：〔分担〕肝肺症候群(HPS)診断のコツ - 肝硬変では手のひら(掌)だけでなく指も診よ．肝疾患診療のコツと落とし穴(井廻道夫)，2002；pp96-97，中山書店．

- 15) 荒牧琢己：〔分担〕食道静脈瘤出血予防に対する薬物療法．肝疾患診療のコツと落とし穴（井廻道夫），2002；pp182-183，中山書店．
- 16) 大須賀勝，荒牧琢己：〔分担〕肝血行異常．内科学書 改訂第6版（島田 馨），2002；pp1903-1910，中山書店．
- 17) 加藤貴雄：〔分担〕徐脈性不整脈．今日の診断指針（第5版）（亀山正邦，高久史麿），2002；pp302-303，医学書院．
- 18) 村瀬恒男<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，清野精彦（<sup>1)</sup>第二病院内科）：〔分担〕心不全．腎疾患治療薬マニュアル2002 - 2003（二瓶 宏），2002；pp452-457，東京医学社．
- 19) 木内 要，高野照夫：〔分担〕心原性ショック．急性心筋梗塞の呼吸 循環管理，2002；pp139-145，メディカ出版．
- 20) 磯田麻里，木内 要，高野照夫：〔分担〕高齢者の急性心不全：病態と治療の進歩．循環器New Trends シリーズ4 高齢社会と循環器治療（土居義典），2003；pp140-151，メジカルビュー社．
- 21) 加藤貴雄：〔分担〕心室頻拍．抗不整脈薬のすべて（小川 聡，大江 透，井上 博），2003；pp173-183，先端医学社．
- 22) 高野照夫，木内 要：〔分担〕ショック（3. 治療薬）．内科学第八版（杉本恒明，小俣政男，水野美邦），2003；pp312-315，朝倉書店．
- 23) 佐藤直樹，高野照夫：〔分担〕カテコラミン薬．治療薬ガイド2003～2004（和田 攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内尉義），2003；pp155-161，文光堂．
- 24) 岸田 浩：〔分担〕心・血管外傷（5. 循環器系の疾患）．内科学（杉本恒明，小俣政男，水野美邦），2003；pp720-722，朝倉書店．
- 25) 加藤貴雄：〔分担〕QRS終末部に注意！：イブシロン波を見逃さない．心電図検査のコツと落とし穴（小川 聡），2003；pp24-25，中山書店．
- 26) 加藤貴雄：〔分担〕洞房ブロックにも Wenckebach 周期がある．心電図検査のコツと落とし穴（小川 聡），2003；pp98-99，中山書店．
- 27) 加藤貴雄：〔分担〕緩徐解離型Na<sup>+</sup>チャネル遮断薬の臨床的特徴と適応．緩徐解離型Na<sup>+</sup>チャネル遮断薬の実際（平岡昌和，山下武志，中谷晴昭，有田 眞），2003；pp19-32，ライフメディコム．
- 28) 岸田 浩：〔分担〕無痛性虚血性心疾患の心電図診断．虚血性心疾患診療のコツと落とし穴（上松瀬勝男），2003；pp173-173，中山書店．
- 29) 岸田 浩：〔分担〕無痛性虚血性心疾患の薬物療法．虚血性心疾患診療のコツと落とし穴（上松瀬勝男），2003；pp186-186，中山書店．
- 30) 雪吹周生<sup>1)</sup>，岸田 浩（<sup>1)</sup>多摩永山病院内科）：〔分担〕昇圧薬．治療薬ガイド2003～2004（和田 攻，大久保昭行，矢崎義雄，大内尉義），2003；pp275-281，文光堂．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) Takagi G, Takagi I, Kim Song-J<sup>1)</sup>, Kudej RK<sup>1)</sup>, Yang Gui-P<sup>1)</sup>, Karoor VL<sup>1)</sup>, Vatner DE<sup>1)</sup>, Vatner SF<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Cell Biology and Molecular Medicine, University of Medicine and Dentistry of New Jersey）: iNOS regulates diastolic dysfunction in the development of heart failure（Diagnosis and treatment of diastolic heart failure -from bench to bedside-）. 第67回日本循環器学会学術集会，2003．3．
- 2) 加藤貴雄：緩徐解離型Na<sup>+</sup>チャネル遮断薬の臨床的特徴と適応：プロパフェノン（緩徐解離型Na<sup>+</sup>チャネル遮断薬の不整脈治療における新しい展開：いわゆる“IC”薬を中心に）. 第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 3) 高山守正，高野照夫：CCU・救命センター設置方式による急性心筋梗塞初期治療成績の違い．第30回日本救急医学会学術集会，2002．10．

- 4) 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 集中治療室 ): 急性心不全における神経体液性因子およびサイトカイン測定の意義 . 第39回日本臨床生理学会総会, 2002 . 11 .
- 5) 高野照夫: 急性心不全の最新治療方針 ( 心不全治療の最前線 : 心不全の治療 ). 第122回日本医学会シンポジウム, 2002 . 12 .
- (2) パネルディスカッション :
- 1) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 集中治療室 ): トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の妥当性について ( 心筋梗塞を見逃さないために : 早期診断から病態に応じた治療選択 ). 第22回心筋梗塞研究会, 2002 . 7 .
- 2) 大須賀勝, 勝田悌実, 荒牧琢己 : Non-alcoholic steatohepatitis ( NASH ) の臨床病理学的特徴 ( わが国におけるNASHの実態 . 第6回日本肝臓学会大会, 2002 . 10 .
- (3) ワークショップ :
- 1) 宮本正章, 太田眞夫, 安武正弘, 平山悦之, 高野仁司, 及川恵子, 吉村滋弘<sup>1)</sup>, 田中常雄<sup>1)</sup>, 遠山敏弘<sup>2)</sup>, Mullen Y<sup>3)</sup>, Brendle M<sup>4)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1</sup> 太陽東洋酸素技術開発部, <sup>2)</sup> 日本製薬研究開発本部大阪研究所, <sup>3)</sup> UCLA Diabetes Research Center, <sup>4)</sup> Giessen University 内科第三 ): わが国における膵島細胞移植と膵島凍結保存法の確立 ( 細胞組織移植と長期保存 ). 第23回日本炎症・再生医学会, 2002 . 7 .
- (4) プレナリーセッション :
- 1) 加藤貴雄 : 不整脈 ( 心疾患診療の新しい展開 ). 第37回日本成人病学会, 2003 . 1 .
- (5) 一般講演 :
- 1) Asai K<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>2)</sup>, Vatner DE<sup>2)</sup>, Vatner SF<sup>2)</sup>, Takano T ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Research Institute, University of Medicine and Dentistry of New Jersey ): Paradoxically enhanced endothelin-B receptor mediated vasoconstriction and vascular endothelial apoptosis in conscious old monkeys . XIIth International Vascular Biology Meeting ( Karuizawa, Japan ), 2002 . 5 .
- 2) Ohsuga M, Zhang XJ, Akimoto T, Nagato T, Katsuta Y, Aramaki T : Acute NOS inhibition does not ameliorate splanchnic hyperemia in far advanced cirrhotic rats ( CBDL 8 weeks ). European Association for the Study of the Liver, Monothematic Conference on Vascular Function in Liver Disease ( London, UK ), 2002 . 6 .
- 3) Kato K, Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Takano T : Nicorandil limits myocardial infarct size even when given during reperfusion only in rat low-flow ischaemia model . 22nd European Section Meeting of the International Society for Heart Research ( Szeged, Hungary ), 2002 . 7 .
- 4) Ishii K, Yasutake M, Kato K, Jia D, Kusama Y, Takano T : JTV-519, a new cardioprotective drug, and cariporide, synergistically improved post-ischaemic contractile recovery in the rat . 22nd European Section Meeting of the International Society for Heart Research ( Szeged, Hungary ), 2002 . 7 .
- 5) Yamane Y, Nakagomi A, Aoki S, Kusama Y, Takayama M, Takano T : A novel extent score is useful for predicting adverse outcomes in patients with acute myocardial infarction underwent percutaneous coronary intervention . 14th World Congress of Cardiology ( Sydney, Australia ), 2002 . 8 .
- 6) Zhang XL, Katsuta Y, Akimoto T, Ohsuga M, Nagato T, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Aramaki T : Intrapulmonary vasodilation and hypoxemia in chronic bile duct ligation rat . Asian Pacific Association for the Study of the Liver, Meeting 2002 ( Taipei, Taiwan ), 2002 . 9 .
- 7) Nagato T, Katsuta Y, Zhang XJ, Akimoto T, Ohsuga M, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Aramaki T : Abnormalities of hemodynamic and gas exchange in rats with far advanced cirrhosis ( CBDL 8 week ). Asian Pacific Association for the Study of the Liver, Meeting 2002 ( Taipei, Taiwan ), 2002 . 9 .

- 8) Yoshida H , Takayama M , Tamura K , Hosokawa Y , Hosone M , Miyamoto S , Ibuki C , Takano T : Histopathological findings of alcohol septal myocardial ablation in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy who dies in chronic stage : post-modern study . Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2002 ( Washington DC, USA ), 2002 . 9 .
- 9) Takayama M , Yoshikawa M , Munakata R , Yamamoto E , Murakami D , Kobayashi Y , Hosokawa Y , Zreiqat J , Yamane Y , Aoki S , Takano H , Nakagomi A , Kusama Y , Takano T : Limitation of temporary balloon occlusion to predict reduction of pressure gradient after ethanol ablation in percutaneous catheter treatment for symptomatic hypertrophic obstructive cardiomyopathy . Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2002 ( Washington DC, USA ), 2002 . 9 .
- 10) Hayashi M : Which is the optimal ablative procedure in selective slow pathway ablation? From the result of a randomized comparison of the straight linear approach with electrogram mapping focal approach . 5th Taipei-Tokyo Joint Conference of Cardiac Arrhythmias ( Kaohsiung, Taiwan ), 2002 . 10 .
- 11) Takahashi H , Seino Y , Fukumoto H : AAV Vector-Mediated Muscle Directed Gene Therapy Results in Long-Term Enzymatic and Functional Correction in Reno-Vascular System of Fabry Mouse . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 12) Takahashi H , Seino Y , Fukumoto H : AAV Vector-Mediated Muscle Directed Gene Therapy Results in Long-Term Enzymatic and Functional Correction in Cardiovascular System of Fabry Mouse . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 13) Setsuta K<sup>1)</sup>, Fujiwara T<sup>1)</sup>, Arao M<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Seino Y ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Ongoing Myocardial Damage in Patients with Hypertensive Left Ventricular Hypertrophy without Systolic Dysfunction . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 14) Seino Y , Fukushima M , Fukumoto H , Wu X : Plasma Concentration of N-Terminal Pro-BNP versus BNP in Patients with Chronic Heart Failure ; More Discerning Marker for the Progression . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 15) Nakagomi A , Yamamoto E , Yamane Y , Takano H , Aoki S , Asai K , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Reduction of Cardiac Events by HMG-CoA Reductase Inhibitors is Associated with Decreased Atherosclerotic Plaque Burden in Patients with Acute Myocardial Infarction . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 16) Hayashi M , Kobayashi Y , Morita N , Iwasaki Y , Miyauchi Y , Ohmura K , Satoh N , Hirayama Y , Tanaka K , Katoh T , Takano T : A Novel Mechanism of Post-Infarction Ventricular Tachycardia Originating in Left Posterior Purkinje Fibers . American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 17) Miyamoto M : Therapeutic angiogenesis for patients with refractory peripheral ischemic disease by autologous implantation of bone-marrow mononuclear cells . The Cell Transplant Society 6th International Meeting ( Atlanta, USA ), 2003 . 3 .
- 18) Ohara K , Takayama H , Yodogawa K , Wu X , Sutovsky I , Kobayashi Y , Takano T , Ohara T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Conary Care Unit ): Electrocardiographical differences of ventricular premature beats in patients with old myocardial infarction and dilated cardiomyopathy . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 19) Yokoyama H<sup>1)</sup>, Yamashina I<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Ogawa A<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>1)</sup>, Yodogawa K , Inami S , Takano H , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tohsei National Hospital ): Vasomotor abnormality in the brachial and coronary arteries of patients with vasospastic angina or syndrome X . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 20) Takagi H<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Kasagami Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Kameyama M<sup>1)</sup>, Yasu-

- take M , Takano T ( <sup>1</sup> Coronary Care Unit ): Risk stratification by neurohumoral factors and hemodynamics on admission in acute heart failure . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 21 ) Yamamoto T<sup>1</sup> , Kasagami Y<sup>1</sup> , Akutsu K<sup>1</sup> , Kameyama M<sup>1</sup> , Takagi H<sup>1</sup> , Hayashi M<sup>1</sup> , Sato N<sup>1</sup> , Yasutake M<sup>1</sup> , Tanaka K<sup>1</sup> , Takayama M , Takano T , Tajima H<sup>2</sup> , Kumazaki T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Intensive and Coronary Care Unit , <sup>2</sup> Department of Radiology ): Comparison of aggressive interventional therapy with traditional thrombolysis for acute massive pulmonary embolism . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 22 ) Kato K , Yasutake M , Jia D , Ishii K , Takagi H , Kusama Y , Kishida H , Takano T : Mitochondrial KATP channel opener, nicorandil, limits myocardial infarct size even when given during reperfusion alone . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 23 ) Oikawa K , Fukuma N , Kanazawa H , Miura K , Kimura Y , Mabuchi K , Takano T : Central chemosensitivity associated with ventilatory and chronotropic response to exercise in patients with heart disease and preserved exercise tolerance . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 24 ) Seino Y , Fukushima M , Wu X , Takano T : Plasma concentration of N-terminal Pro-BNP vs BNP and H-FABP in chronic heart failure : More discerning marker for the progression . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 25 ) Takayama M , Yoshikawa M , Fujita N , Takagi H , Yamane Y , Ohno T , Aoki S , Takano H , Fujioka M , Nakagomi A , Yasutake M , Honma H , Kusama Y , Takano T : Effectiveness and safety of percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy : single center experience . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 26 ) Fukushima M , Seino Y , Takano T , Kumita S<sup>1</sup> , Cho K<sup>1</sup> , Nakajyo H<sup>1</sup> , Kumazaki T<sup>1</sup> , Tanaka K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Radiology , <sup>2</sup> Coronary Care Unit ): Myocardial perfusion/metabolism abnormalities and therapeutic effects at the site of minor myocardial damage in patients with redefined myocardial infarction . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 27 ) Takahashi H , Seino Y , Fukumoto H , Takano T , Shimada T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): AAV Vector-mediated muscle directed gene therapy results in long-term enzymatic and structural correction in cardiovascular system of Fabry mice . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 28 ) Matsumoto S , Saitoh H , Hirayama H , Iwasaki Y , Kobayashi Y , Seino Y , Katoh T , Takano T , Ohno N<sup>1</sup> , Ogata K<sup>1</sup> , Atarashi H<sup>1</sup> , Ohsaka M<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2</sup> Department of Health Care Center, 2nd Hospital ): T-wave alternans can detect the cardiac involvement in sarcoidosis . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 29 ) Matsumoto S , Hirayama Y , Saitoh H , Iwasaki Y , Kobayashi Y , Seino Y , Katoh T , Takano T , Ohno N<sup>1</sup> , Ogata K<sup>1</sup> , Atarashi H<sup>1</sup> , Ohsaka M<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2</sup> Department of Health Care Center, 2nd Hospital ): The significance of T-wave alternans for predicting VT or VF in different types of organic heart disease . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 30 ) Nakagomi A , Aoki S , Yamane Y , Inami S , Fujita N , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Elevated plasma levels of C-reactive protein may modulate myocardial damage in patients with acute myocardial infarction underwent percutaneous coronary intervention . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 31 ) Miura K , Fukuma N , Oikawa K , Kanazawa H , Kimura Y , Mabuchi K , Takano T : Accelerated central chemoreflex sensitivity as a cause of abnormal ventilatory control during exercise in patients with chronic heart failure . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 32 ) Kidokoro Y<sup>1</sup> , Sato N<sup>1</sup> , Tanaka K<sup>1</sup> , Kasagami Y<sup>1</sup> , Yamamoto T<sup>1</sup> , Hayashi M<sup>1</sup> , Kameyama M<sup>1</sup> , Takagi H<sup>1</sup> , Yasutake M , Takano T ( <sup>1</sup> Coronary Care Unit ): Clinical characteristic of acute heart failure with

- and without improvements of mitral regurgitation . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 33 ) Sato N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Kasagami Y<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Akutsu K<sup>1)</sup> , Hayashi M<sup>1)</sup> , Kameyama M<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Yasutake M , Takano T , Kumita S<sup>2)</sup> , Kumazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Discrepancy between pre-synaptic and post-synaptic dysfunctions of cardiac sympathetic nerves in human heart failure . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 34 ) Hayashi M<sup>1)</sup> , Kameyama M<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Akutsu K<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Kasagami Y<sup>1)</sup> , Sato N<sup>1)</sup> , Yasutake M<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Takayama H , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit ): Beneficial effect of nifekalant in patients with hemodynamically unstable paroxysmal atrial fibrillation resistant to direct current delivery . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 35 ) Iwasaki Y , Miyauchi Y , Ohsaka M , Abe J , Miyauchi M , Morita N , Hayashi M , Ohmura K , Hirayama Y , Kobayashi Y , Saitoh H , Katoh T , Takano T : Quantification of the autonomic effect on the atrioventricular node by spectral analysis of heart rate variability during regular atrial pacing . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 36 ) Kimura Y , Fukuma N , Kanazawa H , Miura K , Oikawa K , Mabuchi K , Kusama Y , Takano T : Enhanced central chemosensitivity reflects the anaerobic metabolism alteration during exercise in heart disease patients with impaired exercise capacity . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 37 ) Aoki S , Nakagomi A , Yamane Y , Inami S , Yoshikawa M , Fujita N , Takano T , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Increased coronary atherosclerotic plaque burden is an important determinant of adverse outcomes in diabetic patients after percutaneous coronary intervention . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 38 ) Takano H , Kodani E , Hill M<sup>1)</sup> , Tang XL<sup>1)</sup> , Bolli R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, University of Louisville ): Myocardial protection of late preconditioning - its mechanisms and therapeutic applications - . International Society for Heart Research the 19th Annual Meeting of the Japanese Section , 2002 . 10 .
- 39 ) 石川正也 , 佐藤直樹 , 高野照夫 : Prevention of pulmonary hypertension and right ventricular hypertrophy by  $\beta$  blocker in monocrotalim-induced pulmonary hypertension rats . 第6回日本心不全学会 , 2002 . 10 .
- 40 ) Yamamoto T<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Nishina D<sup>1)</sup> , Hayashi M<sup>1)</sup> , Akutsu K , Fujita N<sup>1)</sup> , Ono T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Yasutake M , Takano T , Tajima H<sup>2)</sup> , Kumazaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive Care and Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Difference in the clinical course of acute massive pulmonary embolism : In-hospital vs out-hospital onset . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 41 ) Tetsuo-Tsukada Y , Yasutake M , Kusama Y , Takano T : Thrombin-induced vascular reactivity is modulated by NO release in coronary artery . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 42 ) Kato K , Yasutake M , Jia D , Kusama Y , Takano T : Human urotensin II Activates the sarcolemmal Na<sup>+</sup> /H<sup>+</sup> exchanger ; Roles of mitogen-activated protein kinases and protein kinase C . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 43 ) Takahashi H , Seino Y , Fukumoto H , Shimada T<sup>1)</sup> , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): AAV vector-mediated muscle directed gene therapy for Fabry disease : Sequential evaluation on cardiovascular and renal system . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 44 ) Morita N , Kobayashi Y , Tateoka K , Horie T , Taniguchi H , Hirasawa Y , Abe J , Yodogawa K , Iwasaki Y , Hayashi M , Ohara T , Ohmura K , Hirayama Y , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Relationship between structural characteristics of the crista terminalis and its transverse conduction in patients with atrial flutter . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 45 ) Yodogawa K , Morita N , Takayama H , Ohara T , Tateoka K , Taniguchi H , Horie T , Hirasawa Y , Abe J ,

- Iwasaki Y , Hayashi M , Kawaguchi N , Ohmura K , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T : Abnormal high frequency potentials in Brugada syndrome detected by wavelet transformed electrocardiogram . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 46) Takayama H<sup>1)</sup> , Katoh T ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, Tohsei National Hospital ): QRS wave alternans obtained by wavelet analysis is one of the mechanisms of life threatening ventricular tachyarrhythmias . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 47) Takayama H<sup>1)</sup> , Katoh T ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, Tohsei National Hospital ): High resolution wavelet analysis of body surface ECG for prediction of ventricular tachyarrhythmia in patients with hypertrophic cardiomyopathy . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 48) Ono T , Saitoh H , Kobayashi Y , Yap Y-G<sup>1)</sup> , Gang Y<sup>1)</sup> , Knatkova K<sup>1)</sup> , Lee T<sup>2)</sup> , Tanaka K , Katoh T , Takano T , Malik M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> London University, St. George's Hospital , <sup>2)</sup> Yashio Heart Clinic ): Can the T-wave morphology analysis get into the same dilemma as QT dispersion? . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 49) Iwasaki Y , Yamashita T<sup>1)</sup> , Sekiguchi A<sup>1)</sup> , Hatano S<sup>1)</sup> , Sagara K<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>1)</sup> , Aizawa T<sup>1)</sup> , Fu L-T<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ): Glucocorticoid induces atrial arrhythmogenesis via modification of ion channel gene expression in rats : molecular evidence for stress-induced atrial fibrillation . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 50) Hayashi M<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Katoh T , Takagi H<sup>1)</sup> , Morita N , Iwasaki Y , Akutsu K<sup>1)</sup> , Yamamoto T<sup>1)</sup> , Fujita N<sup>1)</sup> , Ono T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Takano T ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit ): Nifekalant facilitates transthoracic cardioversion in critically ill patients with hemodynamically unstable atrial fibrillation . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 51) Seino Y , Ogata K , Yasutake M , Ogawa A , Yamashita T , Fukushima M , Takano T : Elevation of N-terminal Pro-BNP in patients with early phase acute myocardial infarction : Unique diagnostic value and pathophysiological implication . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 52) Tsuchida T , Fukuma N , Aisu N , Miura K , Kimura Y , Mabuchi K , Takano T : Impaired response of norepinephrine to exercise as a cause of chemoreflex hypersensitivity in chronic heart failure . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 53) Ohno T , Honma H , Munakata R , Yoshikawa M , Takayama M , Takano T : The new index of regional left ventricular function using tissue doppler imaging in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 54) Nakagomi A , Seino Y , Yamane Y , Takano H , Aoki S , Asai K , Yasutake M , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Ongoing myocardial damage in patients with chronic heart failure is strongly related to upregulated monocyte proinflammatory cytokine production . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 55) Yamamoto T<sup>1)</sup> , Takagi H<sup>1)</sup> , Akutsu K<sup>1)</sup> , Fujita N<sup>1)</sup> , Sato N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Yasutake M , Nakagomi A , Kusama Y , Takayama M , Takano T ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit and Coronary Care Unit ): The revised criteria for acute myocardial infarction : anything better or nothing worse? 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 56) Yoshikawa M , Takayama M , Fujita N , Aoki S , Takano H , Nakagomi A , Ohno T , Honma H , Kusama Y , Takano T : Temporary balloon occlusion halfly predicts reduction of pressure gradient in percutaneous catheter treatment with alcohol for hypertrophic obstructive cardiomyopathy ( HOCM ) . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 57) Kameyama M<sup>1)</sup> , Hirayama Y , Yashima M , Kobayashi Y , Takano T , Maruyama M<sup>2)</sup> , Atarashi H<sup>2)</sup> , Shinada T<sup>3)</sup> , Saitoh H<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Intensive and Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> Department of Internal Medi-



- cine, Tama Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Department of Intensive and Coronary Care Unit, Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> Dr. Hiro's Medical Office ): Roles of CA<sup>2+</sup> pump function of sarcoplasmic reticulum in the mechanism of electrical and mechanical alternans . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 58) Kasagami Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Kameyama M<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Yoshikawa M, Inami S, Yamane Y, Fujita N, Takano H, Aoki S, Fujioka M, Nakagomi A, Kusama Y, Takayama M, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Coronary Care Unit ): Indication for successful aspiration thrombectomy using Rescuet<sup>TM</sup> catheter . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 59) Ogata K<sup>1)</sup>, Seino Y, Kiuchi K, Takayama M, Takano T, Satoh N<sup>2)</sup>, Yasutake M<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Tama Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Coronary Care Unit ): Comparison of heart-type fatty acid-binding protein (H-FABP) and myoglobin for diagnosis of superacute phase myocardial infarction ; rapid H-FABP test study subanalysis . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 60) Abe J, Kobayashi Y, Ueno A, Tateoka K, Yodogawa K, Morita N, Iwasaki Y, Hayashi M, Takayama H, Matsumoto S, Ohmura K, Ohara K, Hirayama Y, Katoh T, Takano T : Morphological characteristics of signal-averaged P wave in patients with focal atrial fibrillation . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 61) Tanabe J<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Yamashina I<sup>1)</sup>, Ogawa A<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Inami S, Takano H, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tohsei National Hospital, Shimizucho ): Pharmacological stress can evaluate myocardial contractile reserve in chronic heart failure . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 62) Ogawa A<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Tajika K<sup>1)</sup>, Yamashina I<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Inami S, Takano H, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiology, Tohsei National Hospital ): Markers of neurohumoral activation were risk factors for silent cerebral infarction in the patients with chronic and paroxysmal atrial fibrillation . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 63) Ohtsuka T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital ): RHO/RHO-kinase system contributes to vasomotor function in moderate-grade coronary stenotic lesions . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 64) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y, Ogawa T, Takano T ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital ): Assessment of severity and prognosis of chronic heart failure using cytosolic and myofibril markers : Implication of ongoing myocardial damage . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 65) Toba M<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Sano J, Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ): Incremental longitudinal prognostic value of I-123 BMIPP myocardial SPECT in patients without myocardial infarction -comparison with stress perfusion imaging- . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 66) 伊藤恵子, 本間 博, 大野忠明, 時田祐吉, 宗像 亮, 吉川雅智, 横島友子, 安武ひろ子, 菅原博子, 高野照夫, 松崎つや子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理機能センター ): Strain rate imagingによる局所心機能評価 . 第13回日本心エコー図学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 67) 古明地弘和 : 自己免疫性肝炎における反復肝生検による肝組織所見の短期的, 長期的経過 . 第88回日本消化器病学会総会 , 2002 . 4 .
- 68) 岡崎怜子, 大村和子, 山根吉人, 福間長知, 大須賀勝, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 : 急性心筋梗塞発症を契機に診断された単冠動脈症の1例 . 第499回日本内科学会関東地方会 , 2002 . 5 .
- 69) 山本 剛, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌安, 荒牧琢己, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理第二, <sup>2)</sup> 第二病院病理部 ): 診断に難渋した高度胆汁うっ滞を伴う骨髄性プロトボルフィリン症の1例 . 第289回日本消化器病学会関東支部例会 , 2002 . 5 .

- 70) 岩崎雄樹, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 山下武志<sup>1)</sup>, 関口昭子<sup>1)</sup>, 相良耕一<sup>1)</sup>, 飯沼宏之<sup>1)</sup>, 傳 隆康<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>心臓血管研究所): 心筋イオンチャネル遺伝子発現の複数同時解析法. 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術集会, 2002. 5.
- 71) 淀川顕司, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: WPW 症候群における早期興奮派の周波数特性. 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術集会, 2002. 5.
- 72) 淀川顕司, 高山英男, 加藤貴雄, 高野照夫: WPW 症候群における早期興奮派の周波数特性. 第41回日本エム・イー学会大会, 2002. 5.
- 73) 田中古登子, 太田眞夫, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 川嶋修司, 村上大介, 鈴木雄一郎, 橋本英洋, 高野照夫: 正常アルブミン尿2型糖尿病における腎血行動態予備能 (RFR) と各種関連因子の検討. 第45回日本糖尿病学会年次学術集会, 2002. 5.
- 74) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 岡崎怜子, 宗像 亮, 鈴木雄一郎, 山根吉人, 藤田進彦, 高野仁司, 青木 聡, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): 冠動脈奇形を合併した急性心筋梗塞への経皮的冠インターベンション. 第20回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002. 5.
- 75) 高山守正, 安藤岳志<sup>1)</sup>, 桃井貴裕<sup>1)</sup>, 本間英恵<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学山岳部, <sup>2)</sup>同病理第一, <sup>3)</sup>中村病院, <sup>4)</sup>自衛隊中央病院内科): 北アルプス中高年登山者における登山中の疾病発症予防・予後予測: 山小屋でのSPO2測定の意義. 第22回日本登山医学シンポジウム, 2002. 5.
- 76) 森田典成, 小林義典, 館岡克彦, 谷口宏史, 阿部純子, 岩崎雄樹, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>外科第2): Ic群抗不整脈剤投与後にT wave alternansが認められたBrugada症候群の1例. 第31回臨床心臓電気整理研究会, 2002. 6.
- 77) 牛島明子, 高山英男, 古明地弘和, 大須賀勝, 高野照夫: 間接痛を伴いSLE合併が疑われた自己免疫性溶血性貧血の1例. 第500回日本内科学会関東地方会, 2002. 6.
- 78) 伊藤恵子, 中里 馨<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 石井玲子<sup>1)</sup>, 福間祐美子, 大野忠明, 本間博, 高野照夫, 林 宏光<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>生理機能センター, <sup>2)</sup>放射線医学): 高齢者巨大縦隔嚢胞の1例. 日本超音波学会第75回学術集会, 2002. 6.
- 79) 吉田博史<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 石井健輔<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 岸田浩<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 冠動脈ステント周縁部の慢性期狭小化に血管のnegative remodelingが関係する. 第11回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2002. 6.
- 80) 吉田博史, 高山守正, 雪吹周生, 高野照夫, 田村浩一<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 剖検による経皮的中隔心筋焼灼術既往例の心臓病理所見. 第11回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2002. 6.
- 81) 高山守正, 宗像 亮, 村上大介, 山本英世, 時田祐吉, 鈴木雄一郎, 吉川雅智, 椎葉邦人, 加藤浩司, 竹永清人, 山根吉人, 藤田進彦, 高野仁司, 青木 聡, 藤岡幹雄, 安武正弘, 中込明裕, 草間芳樹, 高野照夫: 経皮的中隔心筋焼灼術における緩徐なエタノール注入による合併症の防止. 第11回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2002. 6.
- 82) 坏 宏一<sup>1)</sup>, 高山守正, 高木啓倫<sup>1)</sup>, ズライガット ジハド, 笠神康平<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 鈴木雄一郎, 山根吉人, 藤田進彦, 青木 聡, 高野仁司, 藤岡幹雄, 安武正弘, 中込明裕, 草間芳樹, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): 新世紀ステント (Bx-VelocityおよびMulti-Link Trister) の使用成績. 第11回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2002. 6.
- 83) 森田典成, 小林義典, 上野 亮, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 淀川顕司, 阿部純子, 林 明聡, 高山英男, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 福間長知, 清野精彦, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada 症候群に冠攣縮狭心症が合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第184回学術集会, 2002. 6.

- 84) 山本 剛, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 渡辺 淳<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>小児科, <sup>3)</sup>生化第2): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 第10回肝病態生理研究会, 2002. 6.
- 85) 宗像 亮, 福間長知, 大須賀勝, 佐藤直樹, 高山守正, 高野照夫, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 低ナトリウム血症による意識障害で診断された症候性ラトケ嚢胞の1例. 第501回日本内科学会関東地方会, 2002. 7.
- 86) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の妥当性について. 第22回心筋梗塞研究会, 2002. 7.
- 87) 馬淵浩輔, 草間芳樹, 美浦和代, 木村祐子, 及川恵子, 土田貴也, 福間長知, 岸田 浩, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): 心電図同期SPECTを用いたRegional Post-stress Stunningの検出: Subtraction MapによるWall Thickeningの経時的変化. 第52回循環器負荷研究会, 2002. 8.
- 88) 守屋慶一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 加藤活人, 小原俊彦, 高山守正, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 先天性大動脈弁狭窄症に心室細動を発症しbystander CPRがなされ, 院外にて心拍再開し救命し得た中年女性の1例. 第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2002. 8.
- 89) 福島正人, 清野精彦, 中条秀信<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>集中治療室): 診断基準改訂により包括された急性心筋梗塞症例における微小心筋障害の分析: T1/BMIPP dual SPECTと血液生化学諸指標に関して. 第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2002. 8.
- 90) 村上大介, 宗像 亮, 藤田進彦, 清水秀治, 大村和子, 福間長知, 大須賀勝, 高山守正, 高野照夫: 浮腫, 腹水にて発見されたAlagille症候群の成人例. 第502回日本内科学会関東地方会, 2002. 9.
- 91) 星野公彦: 中等度低体温の心室筋細胞におけるNa<sup>+</sup>/H<sup>+</sup>交換系活性とそのcariporideによる抑制に及ぼす影響. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 92) 高木 元: 重症心不全におけるiNOSの心収縮能への作用. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 93) 石井玲子<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 水瀬 学<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 大野忠明, 高野照夫 (<sup>1)</sup>生理機能センター): Strain rate imagingによる局所心機能の定量的評価の試み. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 94) 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 美浦和代, 福間長知, 木村祐子, 土田貴也, 及川恵子, 馬淵浩輔, 高野照夫 (<sup>1)</sup>生理機能センター): 心筋梗塞に対する運動療法が血中ビタミンC濃度に及ぼす影響. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 95) 中村利枝<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 福間長知, 美浦和代, 木村祐子, 土田貴也, 及川恵子, 馬淵浩輔, 高野照夫 (<sup>1)</sup>生理機能センター): 自転車エルゴメーター回転数の差異による運動時心肺応答の変化. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 96) 安藤岳志<sup>1)</sup>, 高山守正, 桃井貴裕<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 中村 隆<sup>3)</sup>, 五十嶋一成<sup>4)</sup>, 五十嶋博文<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学学生, <sup>2)</sup>同病理第1, <sup>3)</sup>中村病院, <sup>4)</sup>自衛隊中央病院, <sup>5)</sup>太郎平小屋): 北アルプス中高年登山者の登山時の疾病発症予防・予後予測: 山小屋でのSPO2測定の意義(第二報). 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 97) 山本英世, 高山守正, 宗像 亮, 村上大介, ズライガードジハード, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 中込明裕, 福間長知, 草間芳樹, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>集中治療室): 急性冠症候群が疑われた診断にドブタミン負荷が有用であったfunctional left ventricular obstructionの2例. 第50回日本心臓病学会学術集会, 2002. 9.
- 98) 石井健輔<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): Pho-kinase阻害による血管拡張効果: 上腕動脈と冠動脈の比較. 第50回日本心

臓病学会学術集会，2002．9．

- 99) 大塚俊昭<sup>1)</sup>，雪吹周生<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>1)</sup>，徳山権一<sup>1)</sup>，石井健輔<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，小谷英太郎<sup>1)</sup>，岸田 浩<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>(1)</sup>多摩永山病院循環器科): 冠動脈狭窄病変における Pho-kinase 阻害薬の血管拡張効果：nitroglycerin との比較．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 100) 高山守正：新しいカテーテル治療 PTSMa を企図した薬剤抵抗性閉塞性肥大型心筋症49症例の治療成績．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 101) 坏 宏一<sup>1)</sup>，鈴木 亨<sup>2)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，林 明聡，藤田進彦<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，ズライガットジハード，高野照夫<sup>(1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>東京大学大学院循環器内科): 大動脈解離急性期における血清中 MMP/TIMP 系および plasminogen/plasmin 系の動態．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 102) 石川正也，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>(1)</sup>集中治療室): モノクロタリン誘発性肺高血圧モデルにおける ブロッカーの予防効果．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 103) 大野忠明，本間 博，宗像 亮，時田祐吉，吉川雅智，草間芳樹，高山守正，高野照夫，松崎つや子<sup>(1)</sup>生理機能センター): 低用量ドブタミン負荷経静脈心筋コントラスト・エコーによる冠動脈疾患の評価．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 104) 土田貴也，清野精彦，佐藤直樹，高野照夫，菊岡万里子<sup>1)</sup>，久米真澄<sup>1)</sup><sup>(1)</sup>治療支援室): 睡眠時異常呼吸を合併する慢性心不全症例の臨床背景と夜間在宅酸素療法導入に関する検討．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 105) 館岡克彦，小林義典，谷口宏史，堀江 格，淀川顕司，阿部純子，岩崎雄樹，森田典成，林 明聡，川口直美，大村和子，小原俊彦，八島正明，平山悦之，加藤貴雄，高野照夫：男性高齢者に発症する房室結節リエントリー性頻拍は器質的心疾患に合併する．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 106) 草間芳樹，高瀬凡平<sup>1)</sup>，西崎光弘<sup>2)</sup>，小出 靖<sup>3)</sup>，李 鐘大<sup>4)</sup>，川久保清<sup>5)</sup>，齋藤 穎<sup>6)</sup>，田邊晃久<sup>7)</sup>，児玉和久<sup>8)</sup>，岸田 浩<sup>(1)</sup>防衛医科大学第一内科，<sup>2)</sup>横浜南共済病院循環器内科，<sup>3)</sup>杏林大学医学部第二内科，<sup>4)</sup>福井医科大学第一内科，<sup>5)</sup>東京大学大学院医学系研究科健康増進科学，<sup>6)</sup>日本大学医学部第二内科，<sup>7)</sup>東海大学医学部循環器内科，<sup>8)</sup>大阪警察病院): 経皮的冠動脈形成術後の再狭窄診断における運動負荷心電図の役割：ST 偏位に関する検討．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 107) 高瀬凡平<sup>1)</sup>，草間芳樹，西崎光弘<sup>2)</sup>，小出 靖<sup>3)</sup>，李 鐘大<sup>4)</sup>，川久保清<sup>5)</sup>，齋藤 穎<sup>6)</sup>，田邊晃久<sup>7)</sup>，児玉和久<sup>8)</sup>，岸田 浩<sup>(1)</sup>防衛医科大学第一内科，<sup>2)</sup>横浜南共済病院循環器内科，<sup>3)</sup>杏林大学医学部第二内科，<sup>4)</sup>福井医科大学第一内科，<sup>5)</sup>東京大学大学院医学系研究科健康増進科学，<sup>6)</sup>日本大学医学部第二内科，<sup>7)</sup>東海大学医学部循環器内科，<sup>8)</sup>大阪警察病院): 経皮的冠動脈形成術後の再狭窄診断における運動負荷心電図の役割：QT dispersion に関する検討．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 108) 淀川顕司，高山英男，上野 亮，館岡克彦，堀江 格，阿部純子，森田典成，林 明聡，大村和子，小林義典，加藤貴雄，高野照夫：WPW 症候群における早期興奮波の周波数解析．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 109) 岩崎雄樹，山下武志<sup>1)</sup>，関口昭子<sup>1)</sup>，相良耕一<sup>1)</sup>，相澤忠範<sup>1)</sup>，飯沼宏之<sup>1)</sup>，傳 隆康<sup>1)</sup>，小林義典，加藤貴雄，高野照夫<sup>(1)</sup>心臓血管研究所): ストレス誘発性イオンチャネルリモデリング，発作性心房細動発症の新たなメカニズム．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 110) 森田典成：心房粗動症例での右房分界稜の解剖学的特徴：3次元画像構築システムでの検討．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 111) 阿部純子：巣状心房細動における心電図P波の形態的特徴：平均加算心電図を用いた検討．第19回日本心電学会学術集会，2002．9．
- 112) 美浦和代，長戸孝道，高野仁司，中込明裕，大須賀勝，勝田悌実，高野照夫：生検により腹腔内リンパ節・肝結核症と診断，抗結核薬に特異な反応を呈した1例．第503回日本内科学会関東地方会，2002．10．
- 113) 清水秀治，里村克章，加藤良人，長戸孝道，古明地弘和，大須賀勝，勝田悌実，荒牧琢己，大本安一<sup>(1)</sup><sup>(1)</sup>大

- 塚研究所): 慢性肝炎における肝組織中キマーゼ濃度と線維化, 炎症の程度について. 第6回日本肝臓学会大会, 2002. 10.
- 114) 高木啓倫<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 神谷仁孝, 小林宣明, 宗像 亮, 鈴木雄一郎, 川嶋修司, 山根吉人, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: PCI合併症: ガイドワイヤー先端のX線不透過ポリマーチップが剥がれた3症例. 第21回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002. 10.
- 115) 小川友裕<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院循環器センター): 亜急性期にブランク破綻像を血管内視鏡, IVUSで観察した1例. 第21回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002. 10.
- 116) 工藤律子<sup>1)</sup>, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 東 春香, 大野忠明, 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 中沢 賢<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同放射線科): 急性肺塞栓症を合併した先端巨大症の1例. 第9回肺塞栓症研究会, 2002. 10.
- 117) 淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada症候群における心電図QRS内異常高周波成分の検出. 第18回心電情報処理ワークショップ, 2002. 10.
- 118) 上野 亮, 大村和子, 古明地弘和, 福間長知, 大須賀勝, 高野照夫, 中山智子<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第1): 間質性肺炎に対するステロイド治療中, 急速に進行する舌壊死を呈したムコール症の1例. 第504回日本内科学会関東地方会, 2002. 11.
- 119) 森田典成, 小林義典, 館岡克彦, 堀江 格, 谷口宏史, 平澤泰宏, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 林 明聡, 川口直美, 小原俊彦, 大村和子, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: Mahaim束に対するアブレーションelectro-anatomical mapping systemが有用であった1例. 第1回カテーテル・アブレーション委員会公開研究会, 2002. 11.
- 120) 土田貴也, 福間長知, 美浦和代, 木村祐子, 愛須紀子, 及川恵子, 馬淵浩輔, 高野照夫: 心不全例において化学受容体反射が安静時及び運動負荷時の血圧に及ぼす影響. 第39回日本臨床生理学会総会, 2002. 11.
- 121) 美浦和代, 福間長知, 木村祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 及川恵子, 馬淵浩輔, 高野照夫: 運動耐容能傷害と化学受容体反射感受性亢進. 第39回日本臨床生理学会総会, 2002. 11.
- 122) 山本 剛<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同放射線科): 重症急性肺塞栓症に対する積極的カテーテル治療の効果. 第43回日本脈管学会総会, 2002. 11.
- 123) 鈴木雄一郎, 中込明裕, 神谷仁孝, 小林宣明, 宗像 亮, 川嶋修司, 山根吉人, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: 新しい冠動脈硬化症評価法のExtent scoreは冠動脈形成術後の心事故予測に有用である. 第16回日本冠疾患学会学術集会, 2002. 12.
- 124) 渋井俊之<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 仁科 大<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本剛<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 神谷仁孝, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室): WPW症候群合併心房粗動による頻脈誘発性心筋症に, 準緊急Catheter Ablationを施行し, 心機能改善をみた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第186回学術集会, 2002. 12.
- 125) 谷口宏史, 小林義典, 森田典成, 岡崎怜子, 館岡克彦, 堀江 格, 平澤泰宏, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 林 明聡, 川口直美, 小原俊彦, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 開心術後の複数の心房性リエントリー性頻拍をカテーテルアブレーションにて根治し得た1例. 第15回臨床不整脈研究会, 2003. 1.
- 126) 大須賀勝, 張 雪君, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 非アルコール性脂肪性肝炎とアルコール性肝疾患の異同 (ASHとNASH: その比較と異同). 第23回アルコール医学

生物学会学術集会, 2003 . 2 .

- 127) 徳泉澄子, 青木 聡, 福間長知, 清野精彦, 高野照夫, 渋井俊之<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 合併心奇形のない右側大動脈弓(鏡像型)に発症した解離性大動脈瘤(Stanford B)の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2003 . 2 .
- 128) 高木啓倫<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 川嶋修司, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>集中治療室): 早期発症型HITTSによる難治性左主幹部血栓閉塞をきたし治療に難渋した不安定狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2003 . 2 .
- 129) 淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Brugada 症候群における薬物負荷の及ぼす影響: 加算平均心電図を用いた検討. 第13回体表心臓微小電位研究会, 2003 . 2 .
- 130) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同放射線科): ベッドサイドでの右心機能測定法: 右心カテーテル法とモバイルガンマカメラを用いた心プールシンチ法の比較. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 131) 高久多岐朗<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 松本亜紀<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 倉根修二<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 大野忠明, 本間 博, 亀井克彦<sup>2)</sup>, 三上 襄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科第4, <sup>2)</sup>千葉大学真菌医学研究センター系統・化学分野, <sup>3)</sup>同センター高分子活性分野): *Rothia* spによる感染性心内膜炎, 敗血症性肺塞栓症を併発した成人心室中隔欠損症の1例. 第506回日本内科学会関東地方会, 2003 . 2 .
- 132) 宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木啓倫, 藤田進彦, 淀川顕司, 太良修平, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup>, 水野博司<sup>4)</sup>, 落 雅美<sup>5)</sup>, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>内科第三, <sup>2)</sup>付属病院放射線科, <sup>3)</sup>同麻酔科, <sup>4)</sup>同形成外科・美容外科): 慢性末梢動脈閉塞症に対する自己骨髄幹細胞移植血管再生療法の有用性. 第2回日本再生医療学会大会, 2003 . 3 .
- 133) 徳泉澄子, 青木 聡, 福間長知, 大須賀勝, 高野照夫, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 急性心筋梗塞に対するインターベンション後発症し, 皮膚生検で診断し得たコレステロール結晶塞栓症の1例. 第507回日本内科学会関東地方会, 2003 . 3 .
- 134) Miura K, Fukuma N, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T: Improvement of norepinephrine and heart rate response to exercise after oral administration of ascorbic acid in patients with myocardial infarction . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 135) Fukuma N, Miura K, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T, Nakamura T<sup>1)</sup>, Igarashi A<sup>1)</sup>, Sugaya J<sup>1)</sup>, Saito K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Physiological Examination Center): Randomized crossover study of alteration of heart rate response to norepinephrine by pedaling rate during ergometer exercise in normal volunteer . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 136) Ogata K<sup>1)</sup>, Seino Y, Sato N<sup>2)</sup>, Yasutake M, Takayama M, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takano T(<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Coronary Care Unit): Semi-quantitative positivity in whole-blood rapid troponin-T test identifies higher risk patients for cardiac emergency triage . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 137) Tateoka K, Iwasaki Y, Ono T, Kobayashi Y, Taniguchi H, Horie T, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Morita N, Hayashi M, Kawaguchi N, Ohara T, Ohmura K, Hirayama Y, Saitoh H, Katoh T, Takano T: Dramatically induced of sensitivity for head-up tilt test under alcohol ingestion . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 138) Tokuyama K, Sato N<sup>1)</sup>, Kamiya M, Yamamoto E, Munakata R, Tanaka K<sup>1)</sup>, Takano T(<sup>1)</sup>Intensive and Coronary Care Unit): Effects of central sympathoinhibition via imidazoline receptor activation on the progression of heart failure in conscious beagles . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 139) Ogawa A, Seino Y, Yamashita T, Fukushima M, Ogata K, Yasutake M, Takano T: Difference in ele-

vation of N-terminal Pro-BNP and conventional cardiac markers between patients with ST-elevation versus Non-ST-elevation acute coronary syndrome . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .

- 140) Kawashima S , Takayama M , Munakata R , Kamiya M , Kobayashi Y , Zreiqat J , Yoshikawa M , Yamane Y , Takano H , Aoki S , Asai K , Yasutake M , Nakagomi A , Kusama Y , Takano T : Relation between serum CK release and result of created myocardial necrosis in hypertrophic obstructive cardiomyopathy undergoing percutaneous myocardial alcohol ablation . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 141) Fukumoto H , Seino Y , Tomita Y , Kumita S<sup>1)</sup> , Cho K<sup>1)</sup> , Nakagomi A , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ) : Elevated troponin T levels reflect myocardial damage and mitochondrial dysfunction in chronic adriamycin cardiomyopathy rats : Assessment by Tc99m-sestamibi wash-out analysis . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 142) Fukuma N , Miura K , Kimura Y , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Takano T , Igarashi A<sup>1)</sup> , Nakamura T<sup>1)</sup> , Sugaya J<sup>1)</sup> , Saito K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Physiological Examination Center ) : Influence of cardiac rehabilitation on oxidative stress marker and consumption of ascorbic acid in patients with myocardial infarction . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .

(6) 公開講座 :

- 1) 加藤貴雄 : 心電図波形の読み方とその異常 : QRS異常とその意義 (心電図の見方) . 第19回日本心電学会学術集会, 2002 . 9 .

(7) Featured Research Session :

- 1) Hayashi M<sup>1)</sup> , Kameyama M<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Abe J , Yodogawa K , Hirasawa Y , Morita N , Iwasaki Y , Takayama H , Miyauchi Y , Ohmura K , Hirayama Y , Katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit ) : Ventricular tachycardia arising from left posterior purkinje fibers after myocardial infarction - A proposed mechanism of post-infarction ventricular arrhythmias . 第66回日本循環器学会学術集会, 2002 . 4 .
- 2) Oikawa K , Fukuma N , Kanazawa H , Miura K , Kimura Y , Mabuchi K , Kusama Y , Munakata K , Takano T : Attenuated heart rate response to exercise correlates with severity of heart failure . 第66回日本循環器学会学術集会, 2002 . 4 .
- 3) Nakagomi A , Aoki S , Yamane Y , Iname S , Yoshikawa M , Ogawa T , Takano H , Kusama Y , Takayama M , Takano T , Geczy C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> School of Pathology, The University of New South Wales, Sydney, Australia ) : C-creative protein synergizes with interferon- to upregulate monocyte tissue factor and factor VII . 第66回日本循環器学会学術集会, 2002 . 4 .
- 4) Iwasaki Y , Yamashita T<sup>1)</sup> , Sekiguchi A<sup>1)</sup> , Hayami N<sup>1)</sup> , Hatano S<sup>1)</sup> , Sagara Ko-ichi<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>1)</sup> , Aizawa T<sup>1)</sup> , Fu L<sup>1)</sup> , Kobayashi Y , katoh T , Takano T ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute ) : Transcriptional profiling of ion channels in rat pulmonary veins . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 5) Asai K , Takagi G , Kamiya M , Tokuyama K , Yamamoto E , Munakata R , Satoh N , Takano T : Gender and aging difference in baroreflex sensitivity in healthy monkeys . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 6) Seino Y , Kumita S<sup>1)</sup> , Fukushima M , Fukumoto H , Nakagomi A , Takano T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ) : Ongoing myocardial damage in non-ischemic cardiomyopathy is related to mitochondrial dysfunction evaluated by Tc99m-sestamibi retention/wash-out analysis . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 7) Aoki S , Nakagomi A , Kobayashi Y , Kamiya M , Munakata R , Suzuki Y , Kawashima S , Yamane Y , Takano H , Asai K , Yasutake M , Kusama Y , Takayama M , Takano T : Increased peripheral blood mononuclear cells is an important determinant of left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .

(8) Meet the Expert :

- 1) Takano T : Acute myocardial infarction : The gist of early treatment . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

(9) Roundtable Discussion :

- 1) Takayama M , Yasutake M , Tanaka K , Takano T : Catheter intervention, especially role of Direct PTCA ( Reperfusion therapy for acute myocardial infarction ) . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .

(10) 教育セッション :

- 1) 高山守正 : エタノールによる中隔アブレーション ( 肥大型心筋症の診療に関するガイドライン ) . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

(11) 徹底討論 :

- 1) 山本 剛<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野寺英貴<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 放射線医学 ): 第一選択はカテーテル血管内治療である ( 重症急性肺塞栓症に対する治療戦略 : 外科手術か, カテーテル血管内治療か ) . 第30回日本集中治療医学会総会 , 2003 . 2 .

## [ 付属病院老人科 ]

### 研究概要

高齢者の糖尿病, 動脈硬化, 脂質代謝異常に関する臨床的研究を中心に行った. 糖尿病に関して, 1) 食後血糖値の変動の臨床的意義を糖尿病の病態との関連から検討した. 2) 経口血糖降下薬療法時の血糖コントロール指標としての各時間血糖値の臨床的意義を明らかにした. 3) コレスチミドの血糖降下作用を明らかにした. 4) 厚生労働省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究」を行った. 5) 2型糖尿病患者における末梢血NOx値測定の臨床的意義を検討した. 6) 高齢者糖尿病における自律神経機能検査(ウエイブレット解析)の臨床的有用性を検討した.

動脈硬化に関して, 1) 末梢血NOx値の測定意義を血管内皮機能と総頸動内膜中膜複合体厚との関連から検討した. 2) 総頸動脈血流速の左右差が心血管病変進展の予測因子なることを明らかにした. 3) 脈波伝播速度(PWV), 足関節/上腕血圧比(ABI)および心血管病変の相互関連を検討した. 4) 総頸動脈超音波検査成績と頭蓋内動脈病変の関連性を検討した.

脂質代謝に関して, 1) 血清Lp(a)フェノタイプと虚血性心疾患との関連を明らかにした. 2) プラバスタチンの血管内皮機能におよぼす影響を検討した. 3) スタチンの薬剤間における炎症反応におよぼす影響の違いを比較検討した. 4) J-LIT研究班の一員として, 日本人高脂血症に対するシンバスタチン投与の有用性を明らかにした. その他, 1) 痴呆専門病院における, 痴呆患者の入院時の診断と入院後の経過について検討した. 2) 高齢者多発性骨髄腫にける骨病変の臨床的検討を多施設との共同研究で実施した. 3) 高齢者における骨密度測定の臨床的意義を検討した.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Matsuzaki M<sup>1)</sup>, Kita T<sup>2)</sup>, Mabuchi H<sup>3)</sup>, Matsuzawa Y<sup>4)</sup>, Nakaya N<sup>5)</sup>, Oikawa S<sup>6)</sup>, Saito Y<sup>7)</sup>, Sasaki J<sup>8)</sup>, Shimamoto K<sup>9)</sup>, Itakura H<sup>10)</sup>, the J-LIT Study Group ( <sup>1)</sup> Yamaguchi University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Kanazawa University Graduate School of Medicine, <sup>4)</sup> Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>5)</sup> Fussa General Hospital, <sup>6)</sup> Nippon Medical School, <sup>7)</sup> Chiba University Graduate School of Medicine, <sup>8)</sup> International University Graduate School of Health and Welfare, <sup>9)</sup> Sapporo Medical University School of Medicine, <sup>10)</sup> Ibaraki Christian University ): Large scale



cohort study of the relationship between serum cholesterol concentration and coronary events with low-dose simvastatin therapy in Japanese patients with hypercholesterolemia : Primary prevention cohort study of the Japan Lipid Intervention Trial ( J-LIT ). Circ J 2002 ; 66 ( 12 ): 1087-1095 .

- 2) Mabuchi H<sup>1)</sup>, Kita T<sup>2)</sup>, Matsuzaki M<sup>3)</sup>, Matsuzawa Y<sup>4)</sup>, Nakaya N<sup>5)</sup>, Oikawa S<sup>6)</sup>, Saito Y<sup>7)</sup>, Sasaki J<sup>8)</sup>, Shimamoto K<sup>9)</sup>, Itakura H<sup>10)</sup>, The J-LIT Study Group ( <sup>1)</sup> Kanazawa University Graduate School of Medicine , <sup>2)</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine , <sup>3)</sup> Yamaguchi University Graduate School of Medicine , <sup>4)</sup> Osaka University Graduate School of Medicine , <sup>5)</sup> Fussa General Hospital , <sup>6)</sup> Nippon Medical School , <sup>7)</sup> Chiba University Graduate School of Medicine , <sup>8)</sup> International University Graduate School of Health and Welfare , <sup>9)</sup> Sapporo Medical University School of Medicine , <sup>10)</sup> The J-LIT Study Group ): Large scale cohort study of the relationship between serum cholesterol concentration and coronary events with low-dose simvastatin therapy in Japanese patients with hypercholesterolemia and coronary heart disease : Secondary prevention cohort study of the Japan Lipid Intervention Trial ( J-LIT ). Circ J 2002 ; 66 ( 12 ): 1096-1100 .
- 3) 深田順一<sup>1)</sup>, 近森一正<sup>1)</sup>, 松原 隆<sup>1)</sup>, 古味隆子<sup>1)</sup>, 菅野 尚<sup>1)</sup>, 高田宏美<sup>1)</sup>, 高松和永<sup>1)</sup>, 中山拓郎<sup>1)</sup>, 中村寿宏<sup>1)</sup>, 服部嘉之<sup>1)</sup>, 松田勇蔵<sup>1)</sup>, 南 順文, 吉本幸生<sup>1)</sup>, 橋本浩三<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 高知糖尿病性神経障害研究会 ): 高知県の中核的医療施設における糖尿病合併症の実態 : 糖尿病性末梢神経障害を中心に . 糖尿病 2002 ; 45 ( 5 ): 311-317 .
- 4) 梅田正法<sup>1)</sup>, 足立山夫<sup>2)</sup>, 富山順治<sup>2)</sup>, 高崎 優<sup>3)</sup>, 新 弘一<sup>3)</sup>, 森真由美<sup>4)</sup>, 堤 久<sup>4)</sup>, 村井善郎<sup>5)</sup>, 武藤良知<sup>6)</sup>, 友安 茂<sup>7)</sup>, 川戸正文<sup>8)</sup>, 中村典子<sup>9)</sup>, 妻鳥昌平, 山口 潜<sup>10)</sup>( <sup>1)</sup> 東邦大学内科 , <sup>2)</sup> 東京都立墨東病院内科 , <sup>3)</sup> 東京医大老年科 , <sup>4)</sup> 東京都老人医療センター血液科 , <sup>5)</sup> 東京都多摩老人医療センター血液内科 , <sup>6)</sup> 虎ノ門病院血液内科 , <sup>7)</sup> 昭和大学血液内科 , <sup>8)</sup> 国立病院東京医療センター内科 , <sup>9)</sup> 立川相互病院血液内科 , <sup>10)</sup> 大蔵省印刷局東京病院 ): 高齢者多発性骨髄腫における骨病変の臨床的検討 . 日老医誌 2002 ; 39 ( 6 ): 631-638 .

## (2) 綜説 :

- 1) 澗瀧由美子, 中野博司, 大庭建三 : 高齢者糖尿病の治療上の問題 : 薬物療法上の注意点 . Diabetes Frontier 2002 ; 13 ( 3 ): 353-356 .
- 2) 猪狩吉雅, 大庭建三 : 嚥下障害のある患者の糖尿病診断 . 日本医事新報 2002 ; ( 4085 ): 91-92 .
- 3) 鈴木達也, 猪狩吉雅, 大庭建三 : NAG ( N-アセチル - - D - グルコサミニダーゼ ) . 日臨 2002 ; 60 ( 増刊号 8 ): 586-591 .
- 4) 中野博司, 大庭建三 : 高齢者糖尿病の疫学 . 日臨 2002 ; 60 ( 増刊号 9 ): 731-739 .
- 5) 中野博司, 澗瀧由美子, 大庭建三 : 脱水 . メディカルプラクティス 2002 ; 19 ( 臨時増刊号 ): 33-37 .
- 6) 鈴木達也, 岡崎恭次, 大庭建三 : 意識障害 . メディカルプラクティス 2002 ; 19 ( 臨時増刊号 ): 26-32 .
- 7) 大庭建三 : 寝たきり高齢者のカロリー - 計算 . ドクターサロン 2002 ; 46 ( 10 ): 721-726 .
- 8) 中野博司, 大庭建三 : 高齢者の血糖管理 . 今月の治療 2002 ; 10 ( 11 ): 1190-1192 .

## (3) 研究報告書 :

- 1) 大庭建三, 中野博司 : HMG-CoA 還元酵素阻害薬の変更による脂質および炎症反応の変化に関する研究 . 高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入試験平成 14 年度報告書 2003 ; pp105-114 .

## 著 書

- 1) 中野博司 : [ 分担 ] 絶対医療禁忌・治療・老年病科 . 医療禁忌マニュアル Ver. 2 ( 富野康日己 ), 2001 ; pp130-131, 医歯薬出版 .
- 2) 中野博司 : [ 分担 ] 相対医療禁忌・検査・老年病科 . 医療禁忌マニュアル Ver. 2 ( 富野康日己 ), 2001 ; pp292-293, 医歯薬出版 .
- 3) 中野博司 : [ 分担 ] 相対医療禁忌・治療・老年病科 . 医療禁忌マニュアル Ver. 2 ( 富野康日己 ), 2001 ; pp434-

441, 医歯薬出版.

- 4) 中野博司:〔分担〕相対医療禁忌・配合禁忌・老年病科. 医療禁忌マニュアルVer. 2(富野康日己), 2001; pp632-635, 医歯薬出版.
- 5) 中野博司:〔編集〕老年病科. 医療禁忌マニュアルVer. 2(富野康日己総編集), 2001; 医歯薬出版.
- 6) 中野博司:〔分担〕高齢者の皮下注射では, 筋肉注射にならぬように十分に注意しなければならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp68-68, 南江堂.
- 7) 中野博司:〔分担〕高齢者では発熱がなくても感染症を否定してはならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp68-68, 南江堂.
- 8) 中野博司:〔分担〕高齢者に, 駆血前に血管の走行を十分に確認せずに静脈穿刺を行ってはならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp127-127, 南江堂.
- 9) 中野博司:〔分担〕高齢者には多量の浣腸液を用いた浣腸を行ってはならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp134-134, 南江堂.
- 10) 中野博司:〔分担〕便秘などの消化管通過障害のある高齢者に, 腸管洗浄目的にニフレックを服用させてはならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp135-135, 南江堂.
- 11) 中野博司:〔分担〕高齢者の不眠に対して安易に睡眠薬を使用してはならない. 根拠がわかるナースのための医療禁忌セルフチェック(富野康日己, 櫻井美鈴), 2001; pp136-136, 南江堂.
- 12) 渡邊健太郎, 大庭建三:〔分担〕暁現象について. 老年病診療Q and A(小沢利男編), 2002; pp1141-1141, 六法出版.
- 13) 大庭建三:〔分担〕施設介護と在宅介護.「改訂版」老年医学テキスト(日本老年医学会編), 2002; pp181-184, メジカルビュー社.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演:

- 1) 鈴木達也: 虚血性心疾患に対する血清Lp(a)フェノタイプおよび相対的リンパ球の影響について. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 2) 中野博司: ACEとARB. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 大庭建三: 特別な管理を要する糖尿病: 高齢者. 第37回糖尿病学の進歩, 2003. 2.

##### (3) 一般講演:

- 1) Oba K, Matsumura N, Watanabe K, Igari K, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H: Colestimide improves glycemic control in patients with type 2 diabetes mellitus. 26th International Congress of Internal Medicine (Kyoto), 2002. 5.
- 2) Nakano H, Matsumura N, Watanabe K, Igari K, Okazaki K, Suzuki T, Oba K: The fluctuation of plasma concentration of C-reactive protein by change of statins. 26th International Congress of Internal Medicine (Kyoto), 2002. 5.
- 3) 渡邊健太郎, 中野博司, 岡崎恭次, 斎藤好史, 大内基司, 伊藤 民, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 鈴木達也, 大庭建三: 頭部超音波検査により早期大血管障害が検出可能か. 第45回日本糖尿病学会年次学術集会, 2002. 5.
- 4) 松村典昭, 中谷千瑞子, 山下直子, 高井恵美子, 矢野 誠, 澗瀧由美子, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: コレスチミドの2型糖尿病患者の血糖降下作用に関する検討. 第45回日本糖尿病学会年次学術集会, 2002. 5.
- 5) 倉辻公美, 松村典昭, 福長麻美, 藤本あみか, 新井みどり, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢

- 者糖尿病における自律神経機能検査（ウエイブレット解析）の臨床的有用性．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
- 6) 二見章子，陳進陽，関水健一，安岡比呂子，鈴木一成，澗瀧由美子，鈴木達也，中野博司，大庭建三，吉村明修<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，渋谷晶彦<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学内科学第4，<sup>2)</sup>都立駒込病院呼吸器科）：グリコヘモグロビンの異常高値により発見された異常ヘモグロビン（Hb Turriff）の1例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
  - 7) 渡邊健太郎，岡崎恭次，中野博司，高井恵美子，大内基司，安岡比呂子，斎藤好史，澗瀧由美子，鈴木達也，大庭建三：老年者の頭頸部超音波検査の検討：内皮依存性血管拡張反応との関連の面からの検討．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 8) 中野博司，中谷千瑞子，岡村弘次郎，山口寛，水野重芳，松村典昭，犬塚有紀，岡崎恭次，鈴木達也，大庭建三：Ankle brachial index（ABI）の併用により pulse wave velocity（PWV）の心血管病変の検出感度は低下する．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 9) 鈴木達也，二見章子，伊藤民，犬塚有紀，松村典昭，猪狩吉雅，木川好章，奥山祐，中野博司，大庭建三：虚血性心疾患の合併と血清Lp（a）フェノタイプ別の影響について．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 10) 岡崎恭次，渡邊健太郎，中野博司，福長麻美，工藤律子，山下直子，増谷祐人，矢野誠，鈴木達也，大庭建三：末梢血NOx測定の臨床的意義：高齢2型糖尿病における検討．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 11) 松村典昭，猪狩吉雅，中野博司，倉辻公美，関水健一，高橋央，渡邊健太郎，澗瀧由美子，鈴木達也，大庭建三：老年者における自律神経検査の検討：血糖コントロール・糖尿病合併症の面からの検討．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 12) 澗瀧由美子，鈴木一成，藤本あみか，猪狩吉雅，新井みどり，高井恵美子，矢野誠，中野博司，鈴木達也，大庭建三：老年糖尿病患者の血糖値の臨床的評価：糖尿病治療の面からの検討．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
  - 13) 村田雄一<sup>1)</sup>，竹澤健司<sup>2)</sup>，木川暁子<sup>1)</sup>，木川好章<sup>1)</sup>，鈴木英朗<sup>2)</sup>，黒澤尚<sup>1)</sup>，中野博司，大庭建三，遠藤俊吉<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>飯能好友病院，<sup>2)</sup>精神医学）：痴呆専門病院における紹介入院時の診断名と入院後の経過．第17回日本老年精神医学会，2002．6．
  - 14) 福長麻美，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：Pravastatin投与の血管内皮機能に及ぼす影響に関する検討．第2回Geriatric Medical Frontier Forum，2002．7．
  - 15) 山田幸弘，松村典昭，吉松寛臣，猪狩吉雅，渡邊健太郎，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：老年者における心拍変動解析の臨床的有用性：糖尿病合併症の面からの検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 16) 安岡比呂子，與田小百合，野呂瀬準，関水健一，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三：免疫グロブリン療法が有効であった高齢者慢性炎症性脱髄性多発神経炎の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 17) 藤本あみか，須澤直木，福長麻美，二見章子，猪狩吉雅，澗瀧由美子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢発症の1型糖尿病の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 18) 二見章子，鈴木一成，猪狩吉雅，澗瀧由美子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：CK結合免疫グロブリンの出現をみたslowly progressive IDDMの1例．第36回日本老年医学会関東甲信越地方会，2002．9．
  - 19) 新井みどり，大内基司，渡邊健太郎，澗瀧由美子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：深部静脈血栓症で入院中に頸椎椎間板炎を併発した1例．第36回日本老年医学会関東甲信越地方会，2002．9．
  - 20) 倉辻公美，松村典昭，犬塚有紀，澗瀧由美子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三：根昆布による甲状腺機能低下を認めた高齢者の1例．第36回日本老年医学会関東甲信越地方会，2002．9．
  - 21) 二見章子，陳進陽，安岡比呂子，関水健一，鈴木一成，澗瀧由美子，鈴木達也，中野博司，大庭建三，吉村明修<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，渋谷昌彦<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学内科第4，<sup>2)</sup>都立駒込病院呼吸器科）：グリコヘモグロビンの異常高値により発見された異常ヘモグロビン（Hb Turriff）の1例．第29回老年者造血管器疾患研究会，2002．11．

- 22) 澗瀧由美子, 山下直子, 高井恵美子, 斎藤好史, 関水健一, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病患者の食後血糖値の変動に関する検討: 年代別・治療法別の検討. 日本医科大学医学会第109回例会, 2003. 2.
- 23) 須澤直木, 関水健一, 工藤律子, 大内基司: 抗利尿ホルモン産生肺癌の1例. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 24) 山田幸弘, 與田小百合, 中谷千瑞子, 伊藤 民: 高度のインスリン抵抗性を認めた肥満2型糖尿病の1例. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 25) 野呂瀬準, 二見章子, 倉辻公美, 斎藤好史: 発熱にて発症し炎症反応が正常であった高齢者非定型抗酸菌症の1例. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 26) 吉松寛臣, 鈴木一成, 新井みどり, 山下直子: 橋本病とシェーグレン症候群を合併し, 発熱で発症した高齢者の1例. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 27) 松村典昭, 岡村弘次郎, 高井恵美子, 増谷祐人: 高齢者糖尿病の自律神経機能: ウエーブレット解析の臨床的有用性に関する検討. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 28) 猪狩吉雅, 山口 寛, 渡邊健太郎, 犬塚有紀: 無症候性白血球尿に関する検討: 自律神経機能の面からの検討. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 29) 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 澗瀧由美子: 頭頸部動脈の超音波による血流速の臨床的有用性: 血清CRPの面からの検討. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 30) 澗瀧由美子, 松村典昭, 岡崎恭次, 奥山 裕: 糖尿病患者の食後血糖値の変動に関する検討: 年代別・治療法別の検討. 第6回高齢者生活習慣病研究会, 2003. 2.
- 31) 與田小百合, 吉松寛臣, 山田幸弘, 野呂瀬準, 二見章子, 鈴木一成, 新井みどり, 工藤律子, 山下直子, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司: 外来における非侵襲的な動脈硬化および骨密度検査の臨床的有用性. 第3回 Geriatric Medical Frontier Forum, 2003. 3.
- 32) 吉松寛臣, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 澗瀧由美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 橋本病とシェーグレン症候群を合併し, 発熱で発症した高齢者の1例. 第37回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2003. 3.

## [ 第二病院内科 ]

### 研究概要

循環器, 神経内科, および腎臓病学の領域を中心とした著書, 学会発表があった. 循環器病学では治療に関する著書が2編あり, 診断に関しては核医学と超音波を用いた画像診断について研究がなされそれらを学会に発表した. 神経内科においては, 痴呆に関する診断, 治療についての著書, 学会発表が数多くなされた. 核医学を用いた脳血流についての研究が多いのが特徴であろう. 腎臓病学においては, 血液浄化療法を中心とした研究がなされ, なかでも糖尿病性腎症に関する研究が行われた. 消化器病学の領域でも学会発表があり, また呼吸器病学の領域でも治療や夜間無呼吸症候群などに関する研究がなされた.

### 研究業績

#### 論文

[ 2001 年度追加分 ]

原著:

- 1) Yasutake M<sup>1)</sup>, Kunimi T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takayama N<sup>1)</sup>, Munakata K, Kishida H<sup>1)</sup>, Tkano T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital): Effects of a Single Oral Dose of Cilostazol on Epicardial Coronary Arteries and Hemodynamics in Humans. Circulation Journal 2002; 66 (3): 241-246.

(1) 原著:

- 1) 櫛方美文<sup>1)</sup>, 小原啓子<sup>1)</sup>, 原田英博<sup>1)</sup>, 直塚康史<sup>1)</sup>, 宗像一雄, 太田眞夫<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>同愛記念病院, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院第1内科): 短報: 当科における糖尿病治療の現状について. 同愛医学雑誌 2002; 22(1): 22-23.

(2) 綜説:

- 1) 北村 伸: アルツハイマー病へのアプローチ. Journal of Clinical Rehabilitation 2003; 2: 109-115.

著 書

- 1) 高橋直人, 宗像一雄: [分担] III. 薬物療法「ジギタリス」. 心不全診断・治療マニュアル, 2002; pp212-216, 医薬ジャーナル社.
- 2) 村澤恒男, 酒井行直, 清野精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第1内科): [分担] 心不全. 腎疾患治療薬マニュアル2002 - 2003 (二瓶 宏, 小山哲夫, 北岡建樹, 飯野靖彦, 五十嵐隆), 2002; pp452-457, 東京医学社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 北村 伸: アルツハイマー型痴呆の診断・治療マニュアル(診断). 第17回日本老年精神医学会, 2002. 6.
- 2) 北村 伸: アルツハイマー型痴呆の診断・治療マニュアル. 第17回日本老年精神医学会, 2002. 6.

(2) セミナー:

- 1) 北村 伸: アルツハイマー病と脳血管障害の関係: 臨床診断と画像診断の観点から. 第43回日本神経病理学会, 2002. 5.
- 2) 北村 伸: 変性性痴呆のニューロイメージング. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.

(3) 一般講演:

- 1) 村澤 恒男, 酒井行直, 小野卓哉, 伊佐治剛, 宜保陽介, 網谷賢一, 山口朋禎, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴うARI dispersionの変動: 年齢, 性比, 除水率を一致させた糖尿病群と非糖尿病群の比較. 第47回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2002. 7.
- 2) 酒井行直, 網谷賢一, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松 豊<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室): 無酢酸血液透析濾過(バイオフィルトレーション)が有効であった血小板減少症を伴う透析困難症の1例. 第47回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2002. 7.
- 3) 寺田秀人: 門脈圧亢進症(門亢症)におけるストレスの肝循環に対する影響. 第39回日本臨床生理学会総会, 2002. 11.
- 4) Ono T, Ohsaka M, Munakata K, Gang Y<sup>1)</sup>, Yap Yee G<sup>1)</sup>, Hnatkova K<sup>1)</sup>, Malik M<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>2)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>St. George's Hospital Medical School Cardiological Sciences, London, UK, <sup>2)</sup>First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital): Can new descriptors of ventricular repolarisation detect high-risk patients with implanted cardioverter defibrillator?-Usefulness of T-wave morphology analysis. 第66回日本循環器学会, 2002. 4.
- 5) 竹永清人, 伊佐治剛, 山口朋禎, 寺田秀人, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: 乳癌による微小肺塞栓で垂急性に肺高血圧を生じ, DICおよびマクロCK血症を合併し死亡した1例. 第499回日本内科学会関東地方会, 2002. 5.
- 6) 鯨澤理人, 山口朋禎, 網谷賢一, 伊佐治剛, 宗像一雄, 佐藤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科): 気管支胸腔瘻を合併した難治性膿胸に気管支鏡下のペリプラスト注入が有効であった2例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 7) 村澤恒男, 酒井行直, 網谷賢一, 山口朋禎, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴うARI disper-

sion の変動：糖尿病群と非糖尿病群との比較．第45回日本腎臓学会学術総会，2002．5．

- 8) 北村 伸，山室 学，宗像一雄，山本 彰<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院第二内科)：アルツハイマー型痴呆の重症度と脳血流低下域．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 9) 高久多季朗<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，亀山幹彦<sup>1)</sup>，林 明聡<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，牛島明子<sup>2)</sup>，高山英男<sup>2)</sup>，安武正弘<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>3)</sup>，高橋直人(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室，<sup>2)</sup>同第一内科，<sup>3)</sup>同放射線科)：潰瘍性大腸炎に急性広範性肺血栓栓症を合併した1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第184回学術集会，2002．6．
- 10) 北村 伸，山室 学，宗像一雄，山本 彰<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)：アルツハイマー型痴呆の重症度と3DSSPで解析した脳血流低下域についての見当．第17回日本老年精神医学会，2002．6．
- 11) 網谷賢一，村澤恒男，山口朋禎，酒井行直，宗像一雄，門松 豊<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：維持透析患者の血液透析に伴う細胞内外水分量と血管作動因子の糖尿病群と非糖尿病群との比較．第47回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2002．7．
- 12) 門松 豊<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：PAES膜ダイアライザー MWの臨床評価．第47回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2002．7．
- 13) 磯野友昭<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄(<sup>1)</sup>第二病院血液浄化療法室)：各種ポリスルホン膜の溶質除去性能および抗凝固能の比較検討．第47回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2002．7．
- 14) 高橋直人，竹中清人，網谷賢一，山口朋禎，小野卓哉，内田高浩，岩原信一郎，宗像一雄，山本 彰<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)：心電図同期心筋SPECTのポーラマップを利用した左室壁運動の評価：2D - echoとp - FASTの比較検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 15) 本郷公英，宜保陽介，伊佐治剛，竹永清人，網谷賢一，山口朋禎，高橋直人，小野卓哉，内田高浩，岩原信一郎，宗像一雄：I-BMIPP無集積により診断されたI型CD36欠損症を合併した拡張型心筋症の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第185回学術集会，2002．9．
- 16) 村澤恒男：維持透析患者の血液透析に伴うARI dispersion の変動：年齢，除水率を一致させた糖尿病群と非糖尿病群との比較．第40回日本人工臓器学会大会，2002．10．
- 17) 高橋直人，竹永清人，網谷賢一，山口朋禎，小野卓哉，内田高浩，岩原信一郎，宗像一雄，山本 彰<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)：心電図同期心筋SPECTのpolar mapを利用した左室壁運動の評価．第11回神奈川SPECT研究会，2002．10．
- 18) 劉 春玲，北村 伸，三品雅洋<sup>1)</sup>，山室 学，宗像一雄(<sup>1)</sup>付属病院第二内科)：ハンチントンの舞蹈病の1例：画像所見について．第6回Neurology SPECT定量検討会，2002．10．
- 19) 山口朋禎，高橋直人，網谷賢一，内田高浩，岩原信一郎，村澤恒男，宗像一雄：簡易型睡眠時無呼吸モニターを用いた循環器障害を有する患者における呼吸障害の検討．第39回日本臨床生理学会総会，2002．11．
- 20) 高橋直人，岩原信一郎，宗像一雄，山本 彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)：心電図同期SPECTのポーラマップを利用した左室壁運動の評価：2D-echoとp-FASTの比較検討．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 21) 劉 春玲：脳血管障害とアルツハイマー型痴呆の関係についての検討．第26回日本脳神経CI学会総会，2003．2．
- 22) 山口朋禎，岩原信一郎，内田高浩，高橋直人，網谷賢一，竹永清人，板倉潮人，宗像一雄：簡易型睡眠時無呼吸モニターを用いた循環器障害を有する患者における呼吸障害の検討．日本医科大学医学会第109回例会，2003．2．

## [ 多摩永山病院内科 ]

### 研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが，多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対

象とする体制をとっている。臨床研究が主体となるが、実験的研究にも積極的に従事している。

1) 虚血性心疾患に関する経皮的カテーテル治療に関連したインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究。

2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断，治療に関する研究。

3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究。

4) 心不全における 受容体，レニン・アンギオテンシン系の役割に関する研究。

上記の循環器領域における虚血，不整脈，心不全といった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている。また，当院薬剤部との協力により慢性肺疾患，心疾患患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

〔2001年度追加分〕

原著：

- 1) Maruyama M, Tadera T, Miyamoto S, Ino T : Demonstration of the Reentrant Circuit of Verapamil-Sensitive Idiopathic Left Ventricular Tachycardia : Direct Evidence for Macroreentry as the Underlying Mechanism . J Cardiovasc Electrophysiol 2001 ; 12 ( 8 ) : 968-972 .

(1) 原著：

- 1) Morita N<sup>1)</sup>, Kobayashi Y , Iwasaki Y , Hayashi M , Atarashi H , Kato T , Takano T ( <sup>1)</sup> Firste Department of Internal Medicine ) : Pronounced effect of procainamide on clockwise right atrial isthmus conduction compared with counterclockwise conduction : possible mechanism of greater incidence of common atrial flutter during antiarrhythmic therapy . J Cardiovasc Electrophysiol 2002 ; 13 ( 3 ) : 212-222 .
- 2) Maruyama M , Atarashi H , Ino T , Kishida H : Osborn Waves Associated with Ventricular Fibrillation in a Patient with Vasospastic Angina . Journal Cardiovascular Electrophysiology 2002 ; 13 ( 5 ) : 486-489 .
- 3) Atarashi H , Inoue H<sup>1)</sup>, Fukunami M<sup>2)</sup>, Sugi K<sup>3)</sup>, Hamada C<sup>4)</sup>, Origasa H<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> The Second Department of Internal Medicine Toyama Medical and Pharmaceutical University , <sup>2)</sup> Division of Cardiology Osaka Prefectural Hospital , <sup>3)</sup> The Third Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine, Ohashi Hospital , <sup>4)</sup> Department of Pharmacoepidemiology, Kyoto University School of Public Health , <sup>5)</sup> Department of Statistics and Information Science, Toyama Medical Pharmaceutical University ) : Double-Blind Placebo-Controlled Trial of Aprindine and Digoxin for the Prevention of Symptomatic Atrial Fibrillation . Circulation Journal 2002 ; 66 ( 6 ) : 553-556 .
- 4) Endoh Y , Atarashi H , Hayakawa H<sup>1)</sup>, Nagasawa K , Kishida H , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Firste Department of Internal Medicine ) : Clinical Significance of Wide QRS Complexes at the Termination of Paroxysmal Supraventricular Tachycardias . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ) : 525-533 .
- 5) Shimokawa H<sup>1)</sup>, Hiramori K<sup>2)</sup>, Iinuma H<sup>3)</sup>, Hosoda S<sup>4)</sup>, Kishida H , Osada H<sup>5)</sup>, Katagiri T<sup>6)</sup>, Yamauchi K<sup>7)</sup>, Yui Y<sup>8)</sup>, Minamino T<sup>9)</sup>, Nakashima M<sup>10)</sup>, Kato K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Kyushu University Graduate School of Medical Sciences , <sup>2)</sup> Iwate Medical University , <sup>3)</sup> The Cardiovascular Institute , <sup>4)</sup> Sakakibara Memorial Hospital , <sup>5)</sup> Fujigaoka Hospital, Showa University , <sup>6)</sup> Fujigaoka Hospital, Showa University , <sup>7)</sup> Showa University , <sup>8)</sup> Nagoya University , <sup>9)</sup> Kyoto University , <sup>10)</sup> Sakurabashi Watanabe Hospital , Hahamatsu Institute of Clinical Pharmacology and Therapeutics ) : Anti-anginal Effect of Fasudil, a Rho-Kinase Inhibitor, in Patients With Stable Effort Angina : A Multicenter Study . Journal of Car-

diovascular Pharmacology TM 2002 ; 40 ( 5 ): 751-761 .

- 6) Atarashi H, Ogawa S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Medicine, Keio University School of Medicine ): New ECG Criteria for High-Risk Brugada Syndrome . Circulation Journal 2003 ; 67 ( 1 ): 8-10 .
- 7) Maruyama M, Ino T, Miyamoto S, Tadera T, Atarashi H, Kishida H : Characteristics of the Electrical Activity Within the Persistent Left Superior Vena Cava : Comparative View With Reference to the Ligament of Marshall . Journal of Electrocardiology 2003 ; 36 ( 1 ): 53-57 .
- 8) 大野則彦, 齋藤寛和<sup>1)</sup>, 大坂元久<sup>1)</sup>, 新 博次, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): QT間隔の時間的変動と心室性不整脈 : vaariability indexと周波数解析による検討 . 心電図 2002 ; 22 ( 4 ): 274-284 .
- 9) 藤中祐美子<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup>, 遠藤康実, 新 博次, 長澤紘一 (<sup>1)</sup>薬剤科): 心房細動における warfarin 療法の現状 . Ther Res 2002 ; 23 ( 5 ): 895-897 .
- 10) 森田典成<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 館岡克彦<sup>1)</sup>, 谷口宏史<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 松本真<sup>1)</sup>, 大村和子<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 新 博次, 新田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>外科第2): Ic群抗不整脈薬投与後に T wave alternance が認められた Brugada 症候群の1例 . 臨床心臓電気生理 2002 ; 25 ( 5 ): 315-322 .
- 11) 犀川哲典<sup>1)</sup>, 新 博次, 北畠 顕<sup>2)</sup>, 久賀圭祐<sup>3)</sup>, 井上 博<sup>4)</sup>, 臼田和生<sup>5)</sup>, 八木 洋<sup>6)</sup>, 中里祐二<sup>7)</sup>, 遠藤優枝<sup>8)</sup>, 白山武司<sup>9)</sup>, 杉 薫<sup>10)</sup>, 平尾見三<sup>11)</sup>, 太田賢一<sup>12)</sup>, 堀江 稔<sup>13)</sup>, 坂東重信<sup>14)</sup>, 不整脈薬物療法研究会 (<sup>1)</sup>大分医科大学第一内科, <sup>2)</sup>北海道大学医学部循環器内科, <sup>3)</sup>筑波大学医学部内科, <sup>4)</sup>富山医科薬科大学第二内科, <sup>5)</sup>富山県立中央病院, <sup>6)</sup>駿河台日本大学病院内科, <sup>7)</sup>順天堂大学医学部循環器内科, <sup>8)</sup>総合守谷第一病院, <sup>9)</sup>京都府立医科大学第二内科, <sup>10)</sup>東邦大学医学部附属大橋病院第三内科, 東京医科歯科大学第一内科, 慶応義塾大学呼吸器内科, 京都大学第三内科, 香川県立白鳥病院, 他): 心筋梗塞と不整脈 : 多施設共同調査 1,098例での検討 . 心電図 2003 ; 23 ( 1 ): 75-89 .

## (2) 総説 :

- 1) 新 博次 : 心室頻拍に対するカルシウム拮抗薬の使用可否 . 日本医事新報 2002 ; 4074 : 86-87 .
- 2) 新 博次 : 不整脈と脳血管障害 . 東京都医師会雑誌 2002 ; 55 ( 5 ): 735-743 .
- 3) 新 博次 : 治療すべき不整脈 . 臨床医 2002 ; 28 ( 6 ): 676-678 .
- 4) 新 博次 : Brugada 症候群とは ( 特集 : 不整脈への対応, 専門医に学ぶ治療の実際 ). 今月の治療 2002 ; 10 ( 7 ( 別冊 )) : 806-809 .
- 5) 新 博次 : 新しい抗不整脈薬 . 医薬ジャーナル 2002 ; 38 ( 7 ): 1984-1987 .
- 6) 新 博次 : 「薬物療法」停止と予防 . 循環器科 2002 ; 10 ( 7 ): 564-565 .
- 7) 新 博次 : 慢性心房細動 . Medicina 2002 ; 39 ( 7 ): 1166-1167 .
- 8) 新 博次 : 発作性心房細動には電氣的除細動? 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 ( 7 ): 865-866 .
- 9) 鈴木 健, 岸田 浩 : 内科医が使う薬の副作用・相互作用 : 循環器薬 硝酸薬 ( ニトロ - ル R, アイトロ - ル, ニトロペン, ミオコ - ルスプレ -, ニトロダ - ム TTS, ミリスロ - ル ). Medicina 2002 ; 39 ( 11 増刊号 ): 15-19 .
- 10) 鈴木 健, 岸田 浩 : 内科医が使う薬ノ副作用・相互作用 : 循環器薬 その他の冠拡張薬 ( シグマート, コロルナル, ペルサンチェ ). Medicina 2002 ; 39 ( 11 ): 20-23 .
- 11) 新 博次 : Disopyramide の発作性心房細動における臨床効果 . 心臓 2002 ; 34 ( 11 ): 858-859 .
- 12) 新 博次 : 除細動の薬物療法 . CARDIAC PRACTICE 2003 ; 14 ( 1 ): 51-54 .
- 13) 遠藤康実, 新 博次 : エキスパートに学ぶ治療戦略 : 徐脈性不整脈 . 今月の治療 2003 ; 10 ( 臨時増刊号 ): 59-62 .
- 14) 雪吹周生, 小谷英太郎, 笠神康平, 岸田 浩 : 心筋梗塞 ( 特集 動脈硬化と疾患 ). 医学と薬学 2003 ; 49 ( 2 ): 188-199 .



15) 新 博次: 心房細動の治療. 日本医事新報 2003 ; 4115 : 106-107 .

(3) 研究報告書:

- 1) 齋藤宗靖<sup>1)</sup>, 谷口興一<sup>2)</sup>, 神原啓文<sup>3)</sup>, 片桐 敬<sup>4)</sup>, 後藤葉一<sup>5)</sup>, 野原隆司<sup>6)</sup>, 伊東春樹<sup>7)</sup>, 前原和平<sup>8)</sup>, 上嶋健治<sup>9)</sup>, 中谷武嗣<sup>10)</sup>, 川久保清<sup>11)</sup>, 岸田 浩, 武者春樹<sup>12)</sup>, 長嶋正実, 山田純生 ( <sup>1)</sup>自治医科大学大宮医療センター循環器科, <sup>2)</sup>群馬県立心臓血管センター, <sup>3)</sup>大阪赤十字病院, <sup>4)</sup>昭和大学医学部第三内科, <sup>5)</sup>国立循環器病センター内科心臓部門, <sup>6)</sup>田附興会北野病院循環器科, <sup>7)</sup>(財)心臓血管研究所附属病院, <sup>8)</sup>白河厚生総合病院, <sup>9)</sup>岩手医科大学循環器医療センター, <sup>10)</sup>国立循環器病センター臓器移植部, <sup>11)</sup>聖マリアンナ医科大学 ): 心疾患における運動療法に関するガイドライン . Circulation Journal 2002 ; 66 ( Suppl ): pp1177-1247 .

著 書

- 1) Tomita Y<sup>1)</sup>, Kishida H ( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): [ 分担 ] Acidic FGF in Left Ventricular Idiopathic Cardiomyopathy . Fibroblast Growth Factor in the Cardiovascular System ( P. Cuevas ), 2002 ; pp261-272, Holzapfel Publishers, Munchen .
- 2) 新 博次: [ 分担 ] 日・欧米新ガイドラインによる薬物治療 . 難治性不整脈の治療戦略 ( 小川 聡 ), 2002 ; pp10-19, メジカルビュー社 .
- 3) 新 博次: [ 編集 ] 抗不整脈薬の新たな展開 ( 新 博次 ), 2003 ; 医薬ジャーナル社 .
- 4) 新 博次: [ 分担 ] 異方性伝導 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 5) 新 博次: [ 分担 ] 上室性補充収縮 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 6) 新 博次: [ 分担 ] 心室内興奮到達時間 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 7) 新 博次: [ 分担 ] 心室非同期性 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 8) 新 博次: [ 分担 ] 心室補足 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 9) 新 博次: [ 分担 ] 頻度依存性ブロック . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 10) 新 博次: [ 分担 ] 頻拍誘発帯 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 11) 新 博次: [ 分担 ] 保護ブロック . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 12) 新 博次: [ 分担 ] 融合収縮 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 13) 新 博次: [ 分担 ] ラウン分類 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 14) 新 博次: [ 分担 ] 両方向頻拍 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 15) 新 博次: [ 分担 ] 両方向ブロック . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 16) 雪吹周生, 岸田 浩: [ 分担 ] 昇圧薬 . 治療薬ガイド2003 ~ 2004 ( 和田 攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内慰義 ), 2003 ; pp275-281, 文光堂 .
- 17) 新 博次: [ 分担 ] アダムス・ストークス症候群 . 医学書院 医学大事典, 2003 ; 医学書院 .
- 18) 新 博次: [ 分担 ] 妊婦の不整脈と抗不整脈薬 . 抗不整脈のすべて 第2版 ( 小川 聡, 大江 透, 井上 博 ), 2003 ; pp292-298, 先端医学社 .
- 19) 新 博次: [ 分担 ] Brugada 症候群: ハイリスク例の診断 . 心電図検査のコツと落とし穴 ( 小川 聡 ), 2003 ; pp130-131, 中山書店 .

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 新 博次: 心房細動薬物治療の新展開: 心房細動の病態と治療 . 第39回日本臨床生理学会, 2002 . 11 .

(2) 海外留学者講演:

- 1) 小谷英太郎, Bolli R<sup>1)</sup>, XuanYu - T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Cardiology, University of Louisville ): Pharmacological preconditioning in conscious rabbits . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) Ishii K , Yasutake M<sup>1)</sup> , Katoh K<sup>1)</sup> , Jia D<sup>1)</sup> , Kusama Y<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine ): JTV-519, a new cardioprotective drug, and cariporide, synergistically improved post-ischaemic contractile recovery in the rat. . 22nd European Section Meeting of the International Society of Heart Research ( Hungary, Szeged ), 2002 . 7 .
- 2) Ogata K , Seino Y<sup>1)</sup> , Kiuchi K<sup>1)</sup> , Takayama M<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Satoh N<sup>2)</sup> , Yasutake M<sup>2)</sup> , Tanaka K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, , <sup>2)</sup> Coronary Care Unit ): Comparison of Heart-type Fatty Acid-Binding Protein ( H-FABP ) and Myoglobin for Diagnosis of Superacute Phase Myocardial Infarction ; Rapid H-FABP Test Study Subanalysis . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 3) Kameyama M<sup>1)</sup> , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Yashima M<sup>1)</sup> , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Maruyama M , Atarashi H , Shinada T<sup>2)</sup> , Saitoh H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, , <sup>2)</sup> Department of Intensive and Coronary Care Unit, Hokusou Hospital , <sup>3)</sup> Dr. Hiro's Medical Office ): Roles of Ca<sup>2+</sup>Pump Function of Sarcoplasmic Reticulum in the Mechanism of Electrical and Mechanical Alternans . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 4) Matsumoto S<sup>1)</sup> , Saitoh H<sup>1)</sup> , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Iwasaki Y<sup>1)</sup> , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Seino Y<sup>1)</sup> , Katoh T<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Ohno N , Ogata K , Atarashi H , Ohsaka M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> First department of Internal Medicine, , <sup>2)</sup> Department of Health Care Center, 2nd Hospital of Nippon Medical School ): T-wave Alternans can detect the cardiac involvement in sarcoidosis . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 5) Matsumoto S<sup>1)</sup> , Hirayama Y<sup>1)</sup> , Saitoh H<sup>2)</sup> , Iwasaki Y<sup>1)</sup> , Kobayashi Y<sup>1)</sup> , Seino Y<sup>1)</sup> , Katoh T<sup>1)</sup> , Takano T<sup>1)</sup> , Ohno N , Ogata K , Atarashi H , Ohsaka M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, , <sup>2)</sup> Dr. Hiro's Medical Office , <sup>3)</sup> Department of Health Care Center, 2nd Hospital of Nippon Medical School ): The significance of T-wave alternans for predicting VT or VF in different types of organic heart diseases . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 6) Ogata K , Atarashi H , Ogawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> The Idiopathic Ventricular Fibrillation Investigators ): A New Electrocardiographic Criteria for the Symptomatic Brugada Syndrome . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 7) Kato K<sup>1)</sup> , Yasutake M<sup>1)</sup> , Jia D<sup>1)</sup> , Ishii K , Takagi H<sup>1)</sup> , Kusama Y<sup>1)</sup> , Kishida H , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Mitochondrial KATP channel opener, nicorandil, limits myocardial infarct size even when given during reperfusion alone . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 8) Shimokawa H<sup>1)</sup> , Iinuma H<sup>2)</sup> , Katoh K<sup>2)</sup> , Kishida H , Nakashima M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Kyushu University Graduate School of Medical Sciences , <sup>2)</sup> The Cardiovascular institute, <sup>3)</sup> Hamamatsu Institute of Clinical Pharmacology and Therapeutics ): Antianginal effect of fasudil, a Rho-kinase inhibitor, in patients with stable effort angina : a multicenter study . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 9) Ohtuka T , Ibuki C , Suzuki T , Tokuyama K , Yoshida H , Ishii K , Asai K , Kishida H , Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Rho/Rho-kinase System Contributes to Vasomotor Function in Moderate-grade Coronary Stenotic Lesions . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 10) Seino Y<sup>1)</sup> , Ogata K , Yasutake M , Ogawa A , Yamashita T , Fukushima M , Takano T ( <sup>1)</sup> The First De-

- partment of Internal Medicine ): Elevation of N-Terminal Pro-BNP in Patients with Early Phase Acute Myocardial Infarction : Unique Diagnostic Value and Pathophysiological Implication . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 11 ) Morita N<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Tateoka K<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Taniguchi H<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ohmura K<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H, Katoh K<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine ): Relationship between Structural Characteristics of the Crista Terminalis and Its Transverse Conduction in Patients with Atrial Flutter . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 12 ) Toba M<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Cho K<sup>2)</sup>, Kanazawa H, Ohtsuka T, Ibuki C, Ishii K, Tokuyama K, Suzuku T, Kishida H, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Radiology , <sup>3)</sup> The First Department of Internal Medicine ): Does Post-Stress Stunning Continue for 30 Minutes after Exercise? -Clinical Value of Gated SPECT Imaging Immediately after Exercise Stress . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 13 ) Ogawa A<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Ogata K, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T ( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine ): Difference in Elevation of N-terminal Pro-BNP and Conventional Cardiac Markers between Patients with ST-Elevation versus Non-ST-Elevation Acute Coronary Syndrome . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 14 ) Ishii K, Ibuki C, Ohtsuka T, Kasagami Y, Kodani E, Suzuki T, Kishida H, Unemoto T<sup>1)</sup>, Murata K<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Ooyama Y<sup>2)</sup>, Morikawa M<sup>2)</sup>, Terasawa T<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Pharmacy , <sup>2)</sup> Department of Pharmacotherapy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science ): -Blocker Treatment is Associated with Physical Aspect of Quality of Life in Out-of-Hospital Patients with Myocardial Infarction . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 15 ) Ohtsuka T, Ibuki C, Ishii K, Kasagami Y, Kodani E, Suzuki T, Kishida H : Fasudil, a Rho-Kinase Inhibitor, Has Potent Vasodilator Effect at Diseased Coronary Segments . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 16 ) Seino Y<sup>1)</sup>, Ogata K, Yasutake M<sup>1)</sup>, Ogawa A<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Fukushima M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine ): Elevation of N-terminal Pro-BNP in Patients with Early Phase Acute Myocardial Infarction : Unique Diagnostic Value and Pathophysiological Implication . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 17 ) 丸山光紀, 與田小百合, 大塚俊昭, 緒方憲一, 宮本新次郎, 田寺 長, 遠藤康実, 井野 威, 新 博次, 岸田 浩 : Osborn 波の出現に伴い心室細動の発症冠攣縮性狭心症の1例 . 第17回日本心臓ペースング電気生理学術大会, 2002 . 5 .
  - 18 ) 石井健輔, 吉田博史, 大塚俊昭, 徳山権一, 村上大介, 與田小百合, 小谷英太郎, 浅井邦也, 雪吹周生, 岸田 浩 : 非定型抗酸菌による重症肺感染症により心筋虚血が増悪し, 冠動脈インターベンションを余儀なくされた高齢者, 左主幹部病変の1例 . 第20回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002 . 5 .
  - 19 ) 徳山権一, 浅井邦也, 大塚俊昭, 吉田博史, 石井健輔, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 岸田 浩 : 高齢者の急性冠症候群患者における臨床的特徴と冠インターベンションの有効性についての検討 . 第44回日本老年医学会学術集会, 2002 . 6 .
  - 20 ) 吉田博史, 雪吹周生, 村上大介, 徳山権一, 石井健輔, 大塚俊昭, 浅井邦也, 鈴木 健, 岸田 浩, 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第一 ): 冠動脈ステント周縁部の慢性期狭小化に血管の negative remodeling が関係する . 第11回日本心血管インターベンション学会学術大会, 2002 . 6 .
  - 21 ) 雪吹周生, 大塚俊昭, 鈴木 健, 徳山権一, 石井健輔, 吉田博史, 浅井邦也, 岸田 浩, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 内科

- 第一): 冠動脈攣縮部位の血管内皮機能; 低用量 acetylcholine 負荷に対する拡張反応と冠動脈床 NO 産生能. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 22) 林 綾子<sup>1)</sup>, 田所久子<sup>1)</sup>, 手嶋浩恵<sup>1)</sup>, 杉原秀人<sup>1)</sup>, 水谷行伸<sup>1)</sup>, 酒井貴史<sup>1)</sup>, 佐藤寛之<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木健<sup>(1)</sup>中央検査室): 24時間血圧測定による夜間降圧の評価にどの測定値が最も有効か. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 23) 酒井貴史<sup>1)</sup>, 佐藤寛之<sup>1)</sup>, 林 綾子<sup>1)</sup>, 田所久子<sup>1)</sup>, 手嶋浩恵<sup>1)</sup>, 杉原秀人, 水谷行伸, 池野廣幸, 鈴木 健: QTc, QTd測定における自動計測ソフトQTD - 1の有用性. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 24) 菊池英子<sup>1)</sup>, 井口輝彦<sup>1)</sup>, 林 綾子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>(1)</sup>中央検査室): 検査室におけるインシンデントレポートの分析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 25) 渡部百合子<sup>1)</sup>, 柴田明佳<sup>1)</sup>, 恩田怜子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>(1)</sup>中央検査室): 同時発症した夫婦の三日熱マラリア. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 26) 柴田明佳<sup>1)</sup>, 渡部百合子<sup>1)</sup>, 恩田怜子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>(1)</sup>中央検査室): トロンボテスト試薬(トロンボテストオーレン)は全自動血液凝固測定置(ラックローター)で使用可能か. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 27) 東 敬子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>2)</sup>, 金沢宏美, 大塚俊昭, 岸田浩<sup>(1)</sup>多摩厚山病院病理部,<sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 剖検時迅速細胞診が診断に有用であった心臓肉腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 28) 杉原秀人<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 鈴木 健, 直江康孝<sup>2)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央検査室,<sup>2)</sup>救命救急センター): 来院時心肺停止患者における蘇生後脳症の神経生理学的検査所見とその予後について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 29) 大塚俊昭, 雪吹周生, 鈴木 健, 徳山権一, 石井健輔, 笠神康平, 小谷英太郎, 岸田 浩, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): 冠動脈狭窄病変におけるRho-Kinase阻害薬の血管拡張効果: nitroglycerinとの比較. 第50回日本心臓病学会学術集会, 2002. 9.
- 30) 石井健輔, 雪吹周生, 大塚俊昭, 徳山権一, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木 健, 岸田 浩, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): Rho-Kinase阻害による血管拡張効果; 上腕動脈と冠動脈の比較. 第50回日本心臓病学会学術集会, 2002. 9.
- 31) 金沢宏美, 大塚俊昭, 村上大介, 徳山権一, 石井健輔, 笠神康平, 小谷英太郎, 雪吹周生, 鈴木 健, 岸田浩: 冠動脈内に血行性転移をきたし急性心筋梗塞を発症した左室原発線維肉腫の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第185回学術集会, 2002. 10.
- 32) 雪吹周生, 石井健輔, 大塚俊昭, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木 健, 岸田 浩: HMG-CoA還元酵素阻害薬(スタチン)による冠動脈ステント内新生内膜増殖抑制作用は脂質代謝改善作用と相関するか? 第23回日本臨床薬理学会年会, 2002. 12.
- 33) 亀山幹彦, 新 博次, 山科育子, 遠藤康実, 鈴木 健, 岸田 浩, 長澤紘一: 長期間持続した心房細動に対するアンジオテンシンII受容体ブロッカーの臨床効果. 第37回日本成人病学会, 2003. 1.
- (4)トピックス:
- 1) Atarashi H: Natural History and Pronosis of Brugada Syndrome. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- (5)教育セッション:
- 1) 新 博次: Brugada症候群の臨床的特徴とその問題点. 第17回日本心臓ペ - シング・電気生理学会学術大会, 2002. 5.

## 2. 内科学第二講座

### [ 付属病院第 2内科 ]

#### 研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと臨床データに基づいた臨床的アプローチの両面から行っています。

実験的研究では、主としてラットを用いた中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明のためオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法を用いて局所脳循環代謝を測定している。

また、脳梗塞体積および脳浮腫容積を測定し、各種薬剤の脳保護作用および治療可能時間 (Therapeutic Time Window) を検討している。近年、当教室で力を注いでいる研究の一つは免疫抑制薬、フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護作用であるが、それらの治療薬や治療法のアポトーシス誘導遺伝子への影響についても検討を行なっている。

また、脳虚血モデルを使用してウイルスベクターを用いた遺伝子治療や脳保護蛋白の導入による治療も試みている。臨床的には脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, Perfusion Weighted Imageによる診断法の開発に力を注いでいる。その他、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。

腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生労働省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。

また、腎クリニックや千葉北総病院内科および脳卒中センター (SCU) に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2001 年度追加分 ]

原著：

- 1) Katsura K, Kurihara J, Hiraide T, Terashi A, Kato H, Katayama Y : Effects of FK506 on the translocation of protein kinase C and CaM kinase II in the gerbil hippocampal CA1 neurons. . J Cereb Blood Flow Metab 2001 ; (suppl) S261-S261 .
- 2) Kaneko T, Kudo M, Okumura T, Kashiwagi T, Turuoka S, Simizu M, Iino Y, Katayama Y : Successful treatment of digoxin intoxication by haemoperfusion with specific columns for  $\alpha_2$  - microglobulin - adsorption ( LixelleTM ) in a maintenance haemodialysis patient . Nephrol Dial Transplant 2002 ; 16 : 195-196 .

(1) 原著：

- 1) Oh T, Sakayori O, Kamano C, Komaba Y, Iino Y, Katayama Y : Optimal hematocrit based on regional cerebral blood flow in hemodialysis patients with diabetic nephropathy . Clin Exp Nephrol 2002 ; 6 : 140-146 .
- 2) Mishina M, Senda M, Kiyosawa M, Ishiwata K, De Volder Anne G, Nakano H, Toyama H, Oda K, Kimura Y, Ishii K, Sasaki T, Ohyama M, Komaba Y, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y : Normal

- distribution of GABA receptor in visual cortex of early onset blindness . J Nucl Med 2002 ; 43 ( suppl ): ( suppl ) 253 .
- 3) Ohyama M , Ishiwata K , Ishii K , Mishina M , Kitamura S , Kawamura K , Kimura Y , Sasaki T , Oda K , Mitani K , Katayama Y : The First Evaluation of Signal Receptors in Patients with Alzheimer's Disease Using PET and a Newly Developed Ligand : 11C SA4503 . J Nucl Med 2002 ; 43 ( suppl ): ( suppl ) 243 .
  - 4) Ishiwata A , Sakayori O , Minoshima S , DJ C , Kitamura S , Katayama Y : Preclinical Evidence of Alzheimer Changes in Patients with Mild Cognitive Impairment as Detected by Brain SPECT . J Nucl Med 2002 ; 43 ( suppl ): suppl 243-suppl 243 .
  - 5) Takei H , Komaba Y , Araki T , Iino Y , Katayama Y : Plasma immunoabsorption for guillain - barre syndrome : critical day for initiation. . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 557-563 .
  - 6) Utsumi K , Tsuji A , Kase R , Tanaka A , Tanaka T , Uyama E , Ozawa T , Sakuraba H , Komaba Y , Kawabe M , Iino Y , Katayama Y : Western blotting analysis of the beta-hexosaminidase alpha- and beta-subunits in cultured fibroblasts from cases of various forms of GM2 gangliosidosis. . Acta Neurol Scand 2002 ; 105 : 427 -430 .
  - 7) Kamano C , Komaba Y , Sakayori O , Iino Y , Katayama Y : Decreased cerebral blood flow in renal transplant recipients. . Intern Med 2002 ; 41 : 677-683 .
  - 8) Kondo T<sup>1)</sup> , Takahashi K<sup>2)</sup> , Kohara N<sup>3)</sup> , Takahashi Y<sup>4)</sup> , Hayashi S<sup>5)</sup> , Takahashi H<sup>6)</sup> , Matsuo H<sup>7)</sup> , Yamazaki M , Inoue K<sup>8)</sup> , Miyamoto K<sup>9)</sup> , Yamamura T<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, National Institute of Neuroscience, NCNP , <sup>2)</sup> Department of Immunology, National Institute of Neuroscience, NCNP , <sup>3)</sup> Department of Neurology, Kobe City General Hospital , <sup>4)</sup> Department of Neurology, St. Mariaanna University of Medicine , <sup>5)</sup> Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University , <sup>6)</sup> Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University , <sup>7)</sup> Department of Neurology, Kawatana National Hospital, Nagasaki , <sup>8)</sup> Department of Neurology, Jikei University School of Medicine , <sup>9)</sup> Department of Immunology, National Institute of Neuroscience, NCNP , <sup>10)</sup> Department of Immunology, National Institute of Neuroscience, NCNP ): Heterogeneity of presenile dementia with bone cysts ( Nasu-Hakola disease ): Three genetic forms . Neurology 2002 ; 59 ( 7 ): 1105-1108 .
  - 9) Kumagai N , LaMattina JC , Kamano C , Vagefi PA , Barth RN , O'Neil JJ , Yamamoto S , Moran SG , Utsugi R , Sachs DH , Yamada K : Vascularized islet cell transplantation in miniature Swine : islet-kidney allografts correct the diabetic hyperglycemia induced by total pancreatectomy .Diabetes 2002 ; 51 : 3220-3228 .
  - 10) Takada D , Emi M , Nobe Y , Kawamura K , Iino Y , Katayama Y , Yuanpei X , Lity L W , Stacey Lar- ringa-S , Susan H S , Steven C H , Paul N H : Interaction between the LDL - receptor gene bearing a novel mutation and a variant in the apolipoprotein A - II promoter : molecular study in a 1135 - member familial hypercholesterolemia kindred. . J Hum Genet 2002 ; 47 : 656-664 .
  - 11) Arai K , Igarashi H , Arai T , Katayama Y : The effect of ozagrel sodium on photochemical infarct in rat . Life Science 2002 ; 71 : 2983-2994 .
  - 12) Muramatsu H , Igarashi H , Okubo S , Katayama Y : Montepase reduces infarct volume and hemorrhagic transformation in rat model of embolic stroke . Neurol Res 2002 ; 24 : 311-316 .
  - 13) Shoji M , Matsubara E , Murakami T , Manabe Y , Abe K , Kanai M , Ikeda M , Tomidokoro Y , Shizuka M , Watanabe M , Amari M , Ishiguro K , Kawarabayashi T , Harigaya Y , Okamoto K , Nishimura T , Nakamura Y , Takeda M , Urakami K , Adachi Y , Nakashima K , Arai H , Sasaki H , Kanemaru K , Yamanouchi H , Yoshida Y , Ichise K , Tanaka K , Hamamoto M , Yamamoto H , Matsubayashi T , Yoshida H , Toji H , Nakamura S , Hirai S : Cerebrospinal fluid tau in dementia disorders : a large scale multicenter study by a Japanese study

- group . Neurobiol Aging 2002 ; 23 ( 3 ) : 363-370 .
- 14) Nomoto T , Okada T , Shimazaki K , Mizukami H , Matsushita T , Hanazono Y , Kume A , Katsura K , Katayama Y , Ozawa K : Distinct Patterns of gene transfer to gerbil hippocampus with recombinant adenoassociated virus type 2 and 5 . Neurosci Lett 2003 ; 340 : 153-157 .
  - 15) Otori T , Greenberg JH , Welsh FA : Cortical spreading depression causes a long-lasting decrease in cerebral blood flow and induces tolerance to permanent focal ischemia in rat brain. . J Cereb Blood Flow Metab 2003 ; 23 : 43-50 .
  - 16) Takada D , Ezura Y , Ono S , Iino Y , Katayama Y , Xin Y , Wu LL , Lariinga Shum S , Stephenson SH , Hunt SC , Hopkins PN , Emi M : Apolipoprotein H variant modifies plasma triglyceride phenotype in familial hypercholesterolemia : A molecular study in an eight-generation hyperlipidemic family . J Atheroscler Thromb 2003 ; 10 : 79-84 .
  - 17) Asoh S , Ohsawa I , Mori T , Katsura K , Hiraide T , Katayama Y , Kimura M , Ozaki D , Yamagata K , Ohta S : Protection against ischemic brain injury by protein therapeutics. . Proc Natl Acad Sci USA 2003 ; 99 : 17107-17112 .
  - 18) 葉山修陽, 松信精一, 亀谷 純, 青木 宏, 藤田進彦, 壇 和夫, 田村浩一, 杉崎祐一, 勝田悌美, 川本雅司, 森 修, 工藤翔二, 高野照夫, 北村博司, 清野精彦: 敗血症をきたした Bartter 症候群の1例 . Conference Room 「内科」 2002 ; 89 : 145-156 .
  - 19) 名取国彦, 柏木哲也, 飯野靖彦, 片山泰朗: 博慈会腎クリニックにおける高齢者腎不全患者の管理について . 老人病研究所紀要 2002 ; 19-23 .
  - 20) 朝本俊司, 杉山弘行, 土居 浩, 飯田昌孝, 長尾毅彦, 小林信介, 林 宗貴, 池田幸穂: 高気圧酸素とプロスタグランジンE1製剤を併用した変形性頸椎症に対する保存的療法の有効性 . 脊髄外科 2002 ; 26 ( 1 ) : 39-42 .
  - 21) 中島信人, 国松淳和, 柏木哲也, 浅川光夫: 本邦における腰部変位腎の1例 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 577-582 .
  - 22) 谷内七三子, 山崎峰雄, 桂研一郎, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗: 脳内多発性海綿状血管腫のMRIT2\*強調画像 . Brain and Nerve 2002 ; 54 : 1082-1083 .
  - 23) 角南英子, 西山 穰, 五十嵐博中, 酒巻雅典, 小島康正, 新井裕至, 安藤 順, 知識鐵郎, 片山泰朗: 脳梗塞における glycerol の抗浮腫効果 ( 第二報 ) : MRI 緩和時間を用いた抗浮腫効果の mapping . Progress in Research on Brain Edema and ICP 2002 ; 69-73 .
  - 24) 岸雄一郎, 柏木哲也, 金子朋広, 林 美穂, 清水光義, 松信精一, 飯野靖彦, 大橋隆治, 片山泰朗: Unusual pattern の light chain deposition disease を呈した多発性骨髄腫の1例 . 日本内科学会誌雑誌 2002 ; 91 ( 2 ) : 243-245 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 三品雅洋, 駒場祐一, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 大山雅史, 片山泰朗: 【18F】FDG PET 画像の Jack-knife 検定と健常者平均画像との差分画像: 進行性核上性麻痺の検討 . 千葉核医学研究会誌 2002 ; 18 : 23-27 .
  - 2) 勝又俊弥, 片山泰朗: Ca, Na チャンネル拮抗薬 . 分子脳血管病 2002 ; 23-27 .
  - 3) 桂研一郎, 片山泰朗: Mongolian gerbil を用いた前脳虚血モデル . 分子脳血管病 2002 ; 449-452 .
  - 4) 片山泰朗, 桂研一郎: 脳保護療法の現状と展望 . 分子脳血管病 2002 ; 1 : 127-132 .
  - 5) 萩原万里子: 頭痛の最近の話題: 診断と治療の進歩 . 調心記 2002 ; 139 : 2-3 .
  - 6) 岸雄一郎, 柏木哲也, 飯野靖彦: 尿路感染症の診断および治療 . レジデントノート 2002 ; 4 : 113-116 .
  - 7) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 透析患者の合併症をどうするか? 血液系異常の合併症の原因と対策 . 今月の治療 2002 ; 65-68 .
  - 8) 高木 誠, 畑 隆志, 長尾毅彦, 内山真一郎: BRAIN ATTACK : それぞれの臨床現場での最高の治療とは .

内科 2002 ; 89 ( 4 ) : 708-720 .

- 9) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 電解質異常治療薬の使い方. レジデントノート 2002 ; 4 : 81-87 .
- 10) 岸雄一郎, 柏木哲也, 飯野靖彦: 貧血とEPO療法. 腎と透析 2002 ; 53 : 463-466 .
- 11) 神谷達司, 片山泰朗: Intraluminal Suture Model . 分子脳血管病 2002 ; 1 : 211-215 .
- 12) 飯野靖彦: 保存期慢性腎不全患者の治療. 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 : 592-596 .
- 13) 長尾毅彦: アスピリンかワルファリンか: 脳梗塞再発予防療法の新しいエビデンス. 内科 2002 ; 89 ( 5 ) : 948-949 .
- 14) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之: 血栓症に関するガイドライン・ASHP therapeutic position statement on antithrombotic therapy in chronic atrial fibrillation. American Society of Health - System Pharmacists . 血栓と循環 2002 ; 10 ( 2 ) : 123-125 .
- 15) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 輸液の分布と適応 事故を起こさないための注射と輸液の基礎知識. 臨床看護5 2002 ; 28 : 832-835 .
- 16) 神谷達司, 片山泰朗: 脳血流とアポトーシス. 分子脳血管病 2002 ; 1 : 258-262 .
- 17) 片山泰朗: 脳卒中慢性期の治療: 脳循環代謝改善薬の使い方: ISSN 神経・筋・運動器疾患. PTM 2002 ; 4 .
- 18) 片山泰朗, 西山康裕: 脳卒中後うつ病の疫学. こころの臨床 2002 ; 21 : 325-328 .
- 19) 片山泰朗, 勝又俊弥: BBBの分子制御機構と脳虚血病態への関与: その治療における意義. 現代医療 2002 ; 34 : 53-57 .
- 20) 飯野靖彦: 高血圧と腎障害. 今月の治療 2002 ; 890-891 .
- 21) 片山泰朗: 専門医に訊く 慢性期脳血管障害の治療薬剤: 薬効再評価結果をふまえて. Medical Tribune 2002 ; 2-8 .
- 22) 長尾毅彦: アルツハイマー型痴呆の薬物療法の実際. CLINICIAN 2002 ; 49 ( 515 ) : 1080-1084 .
- 23) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 透析合併症 慢性腎不全の看護. 月刊ナーシング 2002 ; 22 : 62-67 .
- 24) 仁藤智香子, 片山泰朗: 慢性疼痛の臨床: 視床痛. Clinical Neuroscience 2002 ; 20 : 1153-1155 .
- 25) 山崎峰雄, 中野今治: アポトーシスと疾患: 最近の展開: 神経変性疾患における神経細胞死はアポトーシスか? 最新医学 2002 ; 57 : 2481-2486 .
- 26) 石渡明子, 蓑島 聡: 老年期痴呆の脳画像解析と臨床応用: 特集: 精神疾患の脳画像解析と臨床応用の将来. 精神医学 2002 ; 44 : 1207-1217 .
- 27) 萩原万里子, 土居 浩, 杉山弘行: 急性期脳梗塞に対する薬物療法とHBOとの治療効果の総合的比較の試み. 日本高気圧環境医学会関東地方会誌 2002 ; 30-33 .
- 28) 片山泰朗: 脳血管障害の再発予防: 基礎疾患のマネジメント. 東京都医師会雑誌 2002 ; 55 : 1652-1657 .
- 29) 片山泰朗, 新井裕至: リスク管理, 血圧管理を中心に. 総合臨床 2002 ; 51 : 3183-3188 .
- 30) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎峰雄, 高木 亮<sup>3)</sup>, 青山純夫, 橋詰良夫<sup>4)</sup>, 山田宣孝<sup>5)</sup>, 杉崎祐一<sup>6)</sup>, 片山泰朗, 寺本 明<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学 脳神経外科学, <sup>2)</sup>同千葉北総病院 病理部, <sup>3)</sup>日本医科大学 放射線医学, <sup>4)</sup>愛知医科大学 加齢医学研究所 神経病理, <sup>5)</sup>日本医科大学病理学第2, <sup>6)</sup>, <sup>7)</sup>同脳神経外科: Neurological CPC・96 亜急性に進行する対麻痺で発症し, 約1カ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例. . 脳と神経 2002 ; 54 : 543-549 .
- 31) 山崎峰雄: 特集「グリアの生物科学」タウオパチーにおけるグリアの変化. 神経研究の進歩 2002 ; 46 : 573-583 .
- 32) 葉山修陽: 慢性糸球体腎炎症候群. 腎と透析 2002 ; 53 ( 4 ) .
- 33) 片山泰朗, 大鳥達雄: 脳卒中の予防に関するEBM: 無症候性脳梗塞・白質障害. 循環器 New Trends シリーズ 2002 ; 6 : 100-104 .
- 34) 飯野靖彦: 高血圧治療のホットな話題. 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 : 401-405 .



- 35) 飯野靖彦：輸液：標準的な輸液とそのpitfall．内科 2002；90：5-8．
- 36) 青木 宏，飯野靖彦：高齢者の栄養管理．月刊 薬事44 2002；44：1705-1712．
- 37) 飯野靖彦：輸液Q & A．医薬ジャーナル 2002；38：1090-1091．
- 38) 高田大輔，飯野靖彦，片山泰朗，江見 充：高血圧関連遺伝子は何か．成人病と生活習慣病 2002；32：515-519．
- 39) 五十嵐博中，片山泰朗：MRIを用いた脳循環測定．脳循環代謝 2002；14：171-180．
- 40) 五十嵐博中，片山泰朗：脳における水の動態：MRを用いた観測手法．日本レオロジー学会誌 2002；16：61-70．
- 41) 福地孝明，片山泰朗：急性期にみる脳卒中の診断と管理．医学と薬学 2002；47：845-857．
- 42) 橋本和政，飯野靖彦：腎不全を合併した電解質異常の治療．腎疾患最新の治療2002 - 2004 2002；234-235．
- 43) 内海甲一：糖代謝異常，腎疾患治療マニュアル2002 - 2003．腎と透析 2002；53：549-551．
- 44) 青木 宏，飯野靖彦：糖尿病性腎症の治療 ネフローゼ・ASO・網膜症・CVDなどの合併症管理．PROGRESS IN MEDICINE 22 2002；20：2639-2643．
- 45) 永山 寛，片山泰朗：脳梗塞慢性期の病態と最近の進歩：臨床評価と治療の目標．Clinical Neuroscience 2003；21：17-20．
- 46) 駒場祐一，片山泰朗：脳卒中の啓発運動と医学教育．脳と循環 2003；8：51-54．
- 47) 勝又俊弥，片山泰朗：脳の血管炎（感染症） 血管異常よりみた脳卒中．分子脳血管病 2003；2：47-52．
- 48) 五十嵐博中，有井一正，片山泰朗：連載【講座】「脳虚血モデル」Photochemical thrombosis model．分子脳血管病 2003；3：81-86．
- 49) 五十嵐博中，片山泰朗：海外論文紹介：急性期脳梗塞におけるMicroembolic signalとDWI所見．分子脳血管病 2003；4：107-108．
- 50) 北村 伸：アルツハイマー病へのアプローチ 診断．Journal of Clinical Rehabilitation 2003；12：109-115．
- 51) 松信精一，柏木哲也，飯野靖彦：外来透析導入．成人病と生活習慣病 2003；33：202-206．
- 52) 濱本 真，片山泰朗：脳血管障害のすべて：脳血管障害の分類．神経内科 2003；58：11-17．
- 53) 飯野靖彦：腎疾患のプライマリケアとしての尿検査のすすめ方．New Modern Urinalysis 2003；2-4．
- 54) 岸雄一郎，飯野靖彦：腎血管性高血圧の腎病変：狭窄腎，対側腎．腎と透析 2003；54：287-290．
- 55) 神谷達司：脳血管障害のすべて：脳出血．内科的治療（血圧管理を含む）．神経内科 特別増刊号 2003；58：428-433．
- 56) 山崎峰雄，片山泰朗：血管性痴呆・再考 ビンスワンガー型痴呆の成因．老年精神医学 2003；14：193-197．
- 57) 武井寛之，飯野靖彦：腎機能検査をどう臨床に応用するか．診断と治療 2003；91（3）．

## 著 書

- 1) 飯野靖彦：〔自著〕一目でわかる水電解質・第2版．Medical Science International，2002；pp0-96，Medical Science International．
- 2) 片山泰朗：〔分担〕脳保護薬（フリーラジカルスカベンジャー等）．脳卒中ナビゲーター（小林祥泰監修，田中耕太郎，中川原讓二，橋本洋一郎編），2002；pp244-245，メディカルレビュー社．
- 3) 片山泰朗：〔分担〕ニューロイムノフィリン．脳卒中ナビゲーター（小林祥泰監修 田中耕太郎，中川原讓二，橋本洋一郎編），2002；pp340-341，メディカルレビュー社．
- 4) 片山泰朗：〔分担〕脳浮腫．脳卒中ナビゲーター（小林祥泰監修 田中耕太郎，中川原讓二，橋本洋一郎編），2002；pp360-361，メディカルレビュー社．
- 5) 中沢 勝，片山泰朗：〔共著〕糖尿病と血管合併症：動脈硬化性疾患への新しいアプローチ：血管管理．脳血管障害．今月の治療，2002；pp1196-1198，総合医学社．
- 6) 飯野靖彦：〔共著〕電解質異常，酸・塩基平衡異常．標準腎臓病学（菱田 明，槇野博史編集），2002；pp44-

57, 医学書院.

- 7) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] 腎不全. ショックの臨床, 2002; pp227-235, 医薬ジャーナル社.
- 8) 青木 宏, 飯野靖彦: [分担] 浮腫・脱水. 腎疾患治療薬マニュアル2002-2003 (小山・北岡・飯野), 2002; pp64-67, 東京医学社.
- 9) 藤田有子, 柏木哲也, 飯野靖彦: [分担] 発熱. 腎疾患治療薬マニュアル2002-2003 (小山・北岡・飯野), 2002; pp64-67, 東京医学社.
- 10) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] 高浸透圧症候群, 低浸透圧症候群. 腎疾患治療薬マニュアル2002-2003 (小山・北岡・飯野), 2002; pp290-295, 東京医学社.
- 11) 坂本静樹: [分担] V. 透析患者に対するくすりの使い方2) 疾患別・病態別【脳神経障害】 121. 脳梗塞. 腎疾患治療薬マニュアル2002-2003 (小山・北岡・飯野), 2002; pp473-476, 東京医学社.
- 12) 松信精一, 柏木哲也, 飯野靖彦: [分担] 透析患者に対する薬の使い方: 上部消化管疾患(胃・十二指腸潰瘍). 腎疾患治療薬マニュアル2002-2003 (小山・北岡・飯野著), 2002; pp482-485, 東京医学社.
- 13) 飯野靖彦: [共著] 嚢胞性腎疾患. 内科学書 改訂版第6版(島田責任編集), 2002; pp2085-2086, 中山書店.
- 14) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] 移植後の慢性腎機能低下をどう治療するか? 腎疾患最新の治療 2002 - 2004 (二瓶 宏・飯野靖彦・楨野博史編), 2002; pp29-32, 南江堂.
- 15) 桂研一郎, 片山泰朗: [分担] 脳保護薬. 脳血管障害の最新医療, 2002; pp327-331, 先端医療技術研究所.
- 16) 桂研一郎, 片山泰朗: [分担] エダラボンの臨床報告6. 脳梗塞急性期治療の進歩: エダラボンの臨床, 2002; pp92-96, 医薬ジャーナル社.
- 17) 片山泰朗: [分担] 脊髄血管障害. 今日の治療指針 2003, 2003; pp594-595, 医学書院.
- 18) 飯野靖彦, 片山泰朗: [分担] 腎疾患と水・電解質・酸塩基平衡障害. 内科学 第8版(杉本恒明他総編集), 2003; pp1336-1341, 朝倉書店.
- 19) 片山泰朗: [分担] 15. 神経系の疾患: 脳梗塞. 内科学 第8版(杉本恒明他総編集), 2003; pp1976-1982, 朝倉書店.
- 20) 中村秀紀, 片山泰朗: [分担] 第4章 脳血管障害の管理・治療 救急処置. 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 10 (神経1) 脳血管障害, 2003; pp125-132, 最新医学社.
- 21) 松信精一: [共著] 第2章 各種病態における輸液 2) 血清電解質濃度の異常 Na代謝異常. ポケット輸液マニュアル(北岡建樹編), 2003; pp67-79, 羊土社.
- 22) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] 輸液療法に必要な体液電解質の基礎知識 栄養・代謝の基礎知識. ポケット輸液マニュアル(北岡建樹編集), 2003; pp33-46, 羊土社.
- 23) 飯塚美穂, 飯野靖彦: [分担] 各種病態における輸液: 血清電解質濃度の異常 Ca 代謝異常, P代謝異常, Mg代謝異常. ポケット輸液マニュアル(北岡建樹 編集), 2003; pp80-97, 羊土社.
- 24) 斎藤サビ - ネ京子, 松信精一, 飯野靖彦: [分担] 各種病態における輸液: 血清電解質濃度の異常 酸塩基平衡異常. ポケット輸液マニュアル(北岡建樹編集), 2003; pp98-108, 羊土社.
- 25) 濱本 真: [分担] 抗リン脂質抗体陽性の高齢脳梗塞. 脳卒中診療のコツと落とし穴(峰松一夫編), 2003; pp88-89, 中山書店.
- 26) 長尾毅彦: [分担] 慢性期抗凝固療法のワルファリンのさじ加減. 脳卒中診療のコツと落とし穴(峰松一夫編), 2003; pp174-175, 中山書店.
- 27) 北村 伸: [分担] 脳血管性痴呆の画像診断の有用性と落とし穴. 脳卒中診療のコツと落とし穴(峰松一夫編), 2003; pp182-183, 中山書店.
- 28) 五十嵐博中, 片山泰朗: [分担] 病態評価と進展予測における拡散強調MRIと脳灌流MRI. 脳卒中診療のコツと落とし穴(峰松一夫編), 2003; pp118-119, 中山書店.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 片山泰朗：脳梗塞急性期の診断と治療．第12回Metropolitan Stroke Forum，2002．4．
- 2) 片山泰朗：脳梗塞における脳保護療法の現状と展望．第27回日本脳卒中学会総会 イブニングセミナー，2002．4．
- 3) 五十嵐博中：急性期脳梗塞のdecision making toolとしてのMRI．第27回日本脳卒中学会総会ランチョンセミナー，2002．4．
- 4) 片山泰朗：最新の脳梗塞治療．第43回日本神経学会総会 ランチョンセミナー，2002．5．
- 5) 北村 伸：アルツハイマー病と脳血管障害の関係：臨床診断と画像診断の観点から．第43回日本神経病理学会 学術研究会ランチョンセミナー，2002．5．
- 6) 飯野靖彦：腎障害における尿蛋白の意義．第45回日本腎臓学会学術総会ランチョンセミナー，2002．5．
- 7) 五十嵐博中：神経内科医が求めるMR画像．第8回MR励起会，2002．5．
- 8) 片山泰朗：うつ：post stroke depression．第44回日本老年医学会シンポジウム，2002．6．
- 9) 片山泰朗：生活習慣病と脳血管障害．第44回日本老年医学会モーニングセミナー，2002．6．
- 10) 片山泰朗：高血圧と脳血管疾患：臓器障害を合併する高血圧の治療．朝日医学フォーラム，2002．7．
- 11) 片山泰朗：脳血管障害の再発予防：基礎疾患のマネジメント．日本医師会生涯教育講座，2002．7．
- 12) 桂研一郎，水越元気，五十嵐博中，片山泰朗：Edaravone 使用症例の検討．脳梗塞フォーラム，2002．7．
- 13) 片山泰朗：糖尿病と脳卒中．第4回糖尿病トータルケア・フォーラム，2002．10．
- 14) 三品雅洋：パーキンソン症候群とPET．第6回Neurology SPECT定量検討会，2002．10．
- 15) 片山泰朗：脳梗塞の病態と最新治療．岡山神経カンファレンス第200回記念特別講演会，2003．1．
- 16) 五十嵐博中：急性期脳梗塞のtherapeutic decision making toolとしてのMR．第3回京滋脳血管研究会，2003．1．
- 17) 北村 伸：変性性痴呆のニューロイメージング．第26回日本脳神経CI学会総会ランチョンセミナー，2003．2．
- 18) 片山泰朗：脳卒中とリスクファクター．第3回福岡脳卒中フォーラム，2003．2．
- 19) 山崎峰雄：痴呆専門病棟における連続剖検100例の神経病理学的検討．第4回痴呆を語る会，2003．2．
- 20) 片山泰朗：脳卒中後遺症の治療戦略：脳循環代謝改善薬の正しい使い方．第28回日本脳卒中学会総会 ランチョンセミナー，2003．3．

### (2) 招待講演：

- 1) Kamiya T, Katayama Y: Mild hypothermia enhances efficacy of its Neuroprotective agents in cerebral ischemia in rats. International symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia (Okayama, Japan), 2002．10．

### (3) 教育講演：

- 1) 飯野靖彦：蛋白尿・血尿になったら．第45回日本腎臓学会学術総会 市民公開講座，2002．5．
- 2) 北村 伸：アルツハイマー型痴呆の診断・治療マニュアル（診断）．第17回日本老年精神医学会，2002．6．
- 3) 片山泰朗：脳卒中の予防：脳卒中と生活習慣病．平成14年度文京区教育委員会共催 大学公開講座，2002．8．
- 4) 五十嵐博中：脳梗塞急性期における拡散強調画像，脳灌流画像の臨床的意義．第1回茨城画像フォーラム，2002．10．

### (4) シンポジウム：

- 1) 駒場祐一：脳血管性痴呆：アルツハイマー型痴呆とその鑑別を中心に．第18回Brain Function Imaging Conference，2002．9．
- 2) 長尾毅彦：病診・診診連携が「かかりつけ歯科医機能」を変える，せまりくる地域歯科医療システムの新たな展開．日本歯科医師会 シンポジウム，2003．6．

### (5) 一般講演：

- 1) Kamiya T, Nito C, Ueda M, Kato K, Amemiya S, Inaba T, Terashi A, Katayama Y: A selective

thrombin inhibitor prevents thrombin-induced neuronal cell death and mild hypothermia enhances its neuro-protective effects following transient focal ischemia in rats . 5th International Work shop Maturation Phenomenon in Cerebral ischemia ( Banff, Canada ), 2002 . 4 .

- 2) Kamano C , Parsia A V , Kumagai N , Yamamoto S , Rolf N B , John C LaM , Shannon G M , David H S , Yamada K : Vascularized islet-Kidney allografts cure surgically-induced diabetes across a fully MHC mismatched barrier in miniature swine . The 20th American Transplantation Congress ( Washington DC ), 2002 . 4 .
- 3) Parsia A V , Kamano C , Kumagai N , Yamamoto S , Rolf N B , John C LaM , Shannnon G M , David H S , Yamada K : Vascularized thymic lobe allografts induce transplant tolerance across a fully MHC mismatched barrier in miniature swine . The 20th American Transplantation Congress ( Washington DC ), 2002 . 4 .
- 4) Ida M , Ohnishi T , Nakamura K , Reel , Arai T , Nagao T , Toyoda K , Fukuda K : Proton spectroscopic imaging in hyperacute cerebral ischemia : Comparison with diffusion- weighted imaging and perfusion study . The 40th American Society of Neuroradiology ( Canada ), 2002 . 5 .
- 5) Ishiwata A , Sakayori O , Minoshima S , DJ C , Kitamura S , Katayama Y : Preclinical Evidence of Alzheimer Changes in Patients with Mild Cognitive Impairment as Detected by Brain SPECT . The 49th Society of Nuclear Medicine, Annual Meeting ( Los Angels ), 2002 . 6 .
- 6) Ohyama M , Ishiwata K , Ishii K , Mishina M , Kitamura S , Kawamura K , Kimura Y , Sasaki T , Oda K , Mitani K , Katayama Y : The first evaluation of signal receptors in patients with alzheimer's disease using PET and a newly developed ligand : 11C SA4503 . The 49th Society of Nuclear Medicine Annaul Metting ( Los Angeles ), 2002 . 6 .
- 7) Mishina M , Senda M , Kiyosawa M , Ishiwata K , Anne G De V , Nakano H , Toyama H , Oda keiichi , Kimura Y , Ishii K , Sasaki T , Ohyama M , Komaba Y , Kobayashi S , Kitamura S , Katayama Y : Normal distribution of GABAA receptor in visual cortex of early onset blindness . The 49th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting. ( Los Angeles ), 2002 . 6 .
- 8) Oyanagi K<sup>1)</sup>, Yamazaki M , Watabe K<sup>1)</sup>, Morita T<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Kanda N<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京都神経研神経病理学, <sup>2)</sup>信楽園病院病理, <sup>3)</sup>新潟大学脳研究所病理学分野, <sup>4)</sup>東京農工大): Decreased transcriptin activity in ribosomal RNA ( rRNA ) gene in spinal anterior horns cells in patients with amyotrophic lateral sclerosis . The 7th European Congress of Neuropathology ( Finland Helsinki ), 2002 . 6 .
- 9) Mishina M , Ohyama M , Ishii K , Mitani K , Komaba Y , Ishiwata K , Kobayashi S , Kitamura S , Katayama Y : Statistical Parametric Mapping for Cerebral Metabolism of Glucose and Clinical Symptoms in Progressive Supranuclear Palsy . The 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 10) Ohta Y , Nariai T , Ishii K , Ishiwata K , Mishina M , Ohono K : Voxel based and ROI based statistical analysis of PET parameters as guides for surgical treatment of intractable mesial temporal lobe epilepsy . The 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 11) Ishii K , Nakamura M , Nariai T , Mishina M , Ohyama M , Oda K , Ishiwata K : Functional anatomy of crossed cerebellar diaschisis . The 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 12) Hagiwara M : Hemorrhagic transformation in experimental focal ischemia with thrombolytic agants . The 7th Europian Congress of Neuropathology ( Finland, Helsinki ), 2002 . 7 .
- 13) Kamano C , LaMattina JC , Kumagai N , Vagefi PA , Moran SG , Yamamoto S , Barth RN , O'Neil JJ , Sachs DH , Yamada K : Islet-kidney transplantation across allogeneic barriers in miniature swine cures surgically induced diabetes . The 19th International Society of Transplantation ( Miami ), 2002 . 8 .

- 14) Vagefi PA , Kumagai N , Kamono C , Yamamoto S , Moran SG , LaMattina JC , Barth RN , Sachs DH , Yamada K : Vascularized thymic lobe allografts support thymopoiesis and induce transplantation tolerance across fully mhc-mismatched barriers in miniature swine .The 19th International Society of Transplantation( Miami ), 2002 . 8 .
- 15) Igarashi H , Kwee LI , Nakada T , Katayama Y : Predicting pathological fate of focal cerebral ischemia using 1H-magnetic resonance spectroscopic imaging . Summer School 2002 of the International Society of CBF and M, and Joint International Symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia ( Okayama, Japan ), 2002 . 10 .
- 16) Okubo S , Igarashi H , Yamaguchi H , Arii K , Sakamaki M , Mizukoshi G , Aoki H , Katayama Y : Therapeutic time window of rt-PA on embolic stroke in rat . Summer School 2002 of the International Society of CBF and M, and Joint International Symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia ( Okayama, Japan ), 2002 . 10 .
- 17) Katsura K , Kurihara J , Watanabe M , Takahashi K , Katayama Y : FK506 facilitates the normalization of post-ischemic perturbation of kinase and tyrosine phosphorylation in the gerbil hippocampal CA1 sectors . Summer School 2002 of the International Society of CBF and M, and Joint International Symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia ( Okayama, Japan ), 2002 . 10 .
- 18) Amemiya S , Kamiya T , Nito C , Kato K , Inaba T , Katayama Y : Effects of immunosuppressant, FK506, on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain . Summer School 2002 of the International Society of CBF and M, and Joint International Symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia ( Okayama, Japan ), 2002 . 10 .
- 19) Nito C , Kamiya T , Amemiya S , Kato K , Inaba T , Katayama Y : Mild hypothermia enhances neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 following transient focal ischemia in rats . Summer School 2002 of the International Society of CBF and M, and Joint International Symposium on molecular mechanism and epochal therapeutics for ischemic stroke and dementia ( Okayama, Japan ), 2002 . 10 .
- 20) Juliy. C. Friedland<sup>1)</sup>, Otori T , Muramatsu H , Welsh FA<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, University of Pennsylvania , <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, University of Pennsylvania ): Cortical spreading depression dose not increase levels of glycogen in the rat brain . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando USA ), 2002 . 11 .
- 21) Kamiya T , Nito C , Ueda M , Kato K , Amemiya S , Inaba T , Terashi A , Katayama Y : Mild hypothermia enhances the neuroprotective effects of a selective thrombin inhibitor following transient focal ischemia in rats . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2002 . 11 .
- 22) Amemiya S , Kamiya T , Nito C , Katsura K , Ueda M , Kato K , Muramatsu H , Inaba T , Katayama Y : Effects of immunosuppressant , FK506 , on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2002 . 11 .
- 23) Nito C , Kamiya T , Amemiya S , Kato K , Inaba T , Katayama Y : Mild hypothermia enhances neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 following transient focal ischemia in rats . Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting ( Orlando, USA ), 2002 . 11 .
- 24) Igarashi H , Hamaoto M , Yamaguchi H , Okubo S , Nagashima J , Nagayama H , Amemiya S , Arii K , Sakamaki M , Katayama Y : Cerebral blood flow index image as a simple indicator for the fate of acute ischemic lesion . The 12th International Symposium on Brain Edema and Brain Tissue Injury ( Hakone, Japan ), 2002 . 11 .

- 25) Katsura K, Kurihara J, Watanabe M, Kato H, Katayama Y: Effects of FK506 on protein phosphorylation system in the gerbil hippocampal CA1 neurons. The 12th International Symposium on Brain Edema and Brain Tissue Injury (Hakone, Japan), 2002. 11.
- 26) Kamiya T, Nito C, Ueda M, Kato K, Amemiya S, Terashi A, Katayama Y: Mild hypothermia enhances the neuroprotective effects of a selective thrombin inhibitor following transient focal ischemia in rats. The 12th International Symposium on Brain Edema and Brain Tissue Injury (Hakone, Japan), 2002. 11.
- 27) Nito C, Kamiya T, Amemiya S, Kato K, Inaba T, Katayama Y: The effect of radical scavenger, edaravone and extra-mild hypothermia following transient focal in rats. The 12th International Symposium on Brain Edema and Brain Tissue Injury (Hakone, Japan), 2002. 11.
- 28) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 有井一正, 酒巻雅典, 片山泰朗: Diffusion / Perfusion MRI による深部白質梗塞の症状進行予測. 第99回日本内科学会総会, 2002. 3.
- 29) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusion における脳梗塞の予測指標の検討. 第99回日本内科学会総会, 2002. 3.
- 30) 永山 寛, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態に及ぼすアスコルビン酸の影響. 第99回日本内科学会総会, 2002. 3.
- 31) 大久保誠二, 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 酒巻雅典, 水越元気, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> 情報科学センター): 急性期脳梗塞に対する Dynamic T2\* perfusion MRI を用いた脳血流量評価法の比較. 第27回 日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 32) 酒巻雅典, 五十嵐博中, 大久保誠二, 濱本 真, 山口 博, 有井一正, 片山泰朗: Diffusion/Perfusion MRI による穿通枝領域梗塞の progressing 予測. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 33) 五十嵐博中, 大久保誠二, 山口 博, 濱本 真, 酒巻雅典, 有井一正, 片山泰朗: T2'低信号領域とその危険因子: 脳梗塞急性期症例における検討. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 34) 三品雅洋, 駒場祐一, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明: エダラボン使用により脳塞栓の出血性変化は減少するか. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 35) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusion における脳梗塞の予測指標の検討. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 36) 大鳥達雄, Joel HG<sup>1)</sup>, Frank A W<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> Cerebrovascular Research Center, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery University of Pennsylvania): ラット中大脳動脈永久閉塞モデルにおける Cortical Spreading Depression 後の虚血耐性現象の検討. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 37) 福地孝明, 桂研一郎, 五十嵐博中, 松信精一, 神谷達司, 片山泰朗: 局所脳血流量のネフローゼ症候群患者での検討. 第2報. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 38) 勝又俊弥, 西山 穰, 田中紀子, 臼田和弘, 有井孝子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 山口 博, 片山泰朗: 頸動脈エコーから得られたデータと脳梗塞のリスクファクターとの関連について. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 39) 萩原万里子, 稲村憲治, 赫 彰郎, 片山泰朗, スーザンファーガン<sup>1)</sup>, フリオガルシア<sup>1)</sup> (<sup>(1)</sup>ヘンリーフォード病院) 実験的局所脳虚血再灌流モデルにおける t-PA 療法と Hemorrhagic Transformation 病理と臨床所見. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 40) 桂研一郎, 栗原順一<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> 帝京大学薬学部薬理学): 増強したアシド - シスの脳虚血再灌流障害に及ぼす影響. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 41) 町田佳恵, 田中伸幸, 大久保誠二, 山口 博, 濱本 真, 片山泰朗: 脳梗塞各病型に退する頸動脈超音波PI値の意義. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 42) 長汐千秋, 町田佳恵, 田中伸幸, 田中紀子, 山口 博, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者の抗リン脂質抗体陽性者

- の脳梗塞一次予防法としての抗血小板療法およびワーファリゼーションの検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 43) 駒場祐一，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明：若年性脳梗塞におけるその特徴の検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 44) 渡辺めぐみ，三品雅洋，駒場祐一，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明：ヘパリン使用時のearly CT sign と脳塞栓出血性変化の関係についての検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 45) 長尾毅彦，井田正博，水越元気，五十嵐博中，片山泰朗：脳梗塞急性期におけるNAA, 乳酸の経時的変化および血糖の影響．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 46) 水越元気，井田正博，五十嵐博中，長尾毅彦，大久保誠二，横地正之，片山泰朗：脳虚血急性期病巣におけるN - acetyl aspartate の減少速度に関する検討：ヒトおよびラットにおける差異．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 47) 仁藤智香子，神谷達司，雨宮志門，稲葉俊東，片山泰朗：ラット局所脳虚血モデルにおけるラジカル消去薬edaravoneと軽微低体温併用療法による脳保護効果増強作用の検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 48) 西山 穰，勝又俊弥，田中紀子，臼田和弘，有井孝子，仁藤智香子，大久保誠二，山口 博，片山泰朗：脳梗塞の臨床病型と頸動脈エコー上のパラメーターの検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 49) 三品雅洋，駒場祐一，小南修史，水成隆之，小林士郎，大山雅史，片山泰朗，三谷和子，石井賢二：【<sup>18</sup>F】FDG PET 画像のJackknife 検定と健常者平均画像との差分画像：進行性核上性麻痺の検討．第35回千葉核医学研究会，2002．4．
- 50) 萩原 浩，中村秀紀，五十嵐博中，神谷達司，片山泰朗：脳梗塞診断におけるCT Perfusion の有用性と問題点．第27回 日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 51) 五十嵐博中，大久保誠二，濱本 真，山口 博，有井一正，酒巻雅典，片山泰朗：T2\*にて見られるmicro bleed とその危険因子：脳梗塞症例における検討．第11回日本脳ドック学会総会，2002．5．
- 52) 田中紀子，西山 穰，勝又俊弥，田中伸幸，片山泰朗：頸動脈エコー上の計測値と脳梗塞の臨床病型, リスクファクターとの関連．第21回日本神経超音波学会，2002．5．
- 53) 五十嵐博中，山口 博，大久保誠二，濱本 真，有井一正，酒巻雅典，片山泰朗：Diffusion / Perfusion MRI による深部白質梗塞の急性期予後予測．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 54) 角南英子，西山 穰，五十嵐博中，酒巻雅典，小島康正，新井裕至，安藤 順，知識鐵郎，片山泰朗：MRI 緩和時間画像を用いたglycerol 抗脳浮腫効果のmapping．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 55) 中沢 勝，水村 直<sup>1)</sup>，北村 伸，片山泰朗 (<sup>1)</sup>放射線医学)：歩行障害を伴う変性疾患における歩行時脳血流分布の検討．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 56) 雨宮志門，神谷達司，仁藤智香子，加藤健吾，片山泰朗：Rat 局所脳虚血モデルにおけるedaravone と軽微低体温併用療法の脳保護効果増強作用．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 57) 駒場祐一，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗，寺本 明：若年性脳梗塞におけるその部位・背景の検討．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 58) 大山雅史，三品雅洋，北村 伸，片山泰朗，三谷和子，石渡喜一，石井賢二，木村裕一，織田圭一：シグマ受容体リガンド<sup>11</sup>C SA4503 によるアルツハイマー病への臨床応用．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 59) 坂本静樹，瀬田健博，有井孝子，山崎峰雄，中沢 勝，臼田和弘，桂研一郎，五十嵐博中，水村 直，片山泰朗：塩酸ドネペジル投与によるアルツハイマー型痴呆の脳血流変化 - 有効例と無効例の検討．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 60) 長尾毅彦，片山泰朗，横地正之：凝血学的分子マーカーを指標とした抗凝固療法の新しいモニタリングの試み．第43回日本神経学会総会，2002．5．
- 61) 野本達也，岡田尚巳<sup>1)</sup>，島崎久仁子<sup>2)</sup>，桂研一郎，小澤敬也<sup>3)</sup>，片山泰朗 (<sup>1)</sup>自治医科大学遺伝子治療研究部，

- 2) 同生理学, 3) 同遺伝子治療研究部): アデノ随伴ウイルスベクターを用いたスナネズミ海馬への遺伝子導入. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 62) 桂研一郎, 栗原順一<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>(1)</sup> (帝京大学薬学部薬理学): 脳虚血再灌流障害におよぼす, 増強したアシド-シスの影響. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 63) 北村 伸, 山室 学, 宗像一雄, 山本 彰, 佐藤雅史, 片山泰朗: アルツハイマー型痴呆の重症度と脳血流低下域. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 64) 三品雅洋, 駒場祐一, 小林士郎, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二: 進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝と症状との関係 - SPM99を用いた検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 65) 田中伸幸, 山口 博, 五十嵐博中, 長汐千秋, 町田佳恵, 大久保誠二, 濱本 真, 片山泰朗: T<sub>2</sub>' 低信号領域とその危険因子: 脳梗塞急性期症例における検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 66) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: 脳梗塞診断におけるCT Perfusion の有用性と問題点. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 67) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusion における脳梗塞の予測指標の検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 68) 永山 寛, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態に及ぼすアスコル便酸の影響. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 69) 水越元気, 長尾毅彦, 井田正博, 五十嵐博中, 片山泰朗, 横地正之: Wernicke脳症急性期における<sup>1</sup>H - MRS 所見の検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 70) 西山 穰, 勝又俊弥, 田中紀子, 白田和弘, 有井孝子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 片山泰朗: 脳梗塞の臨床病型と頸動脈エコー上のデータ及び危険因子の関連の検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 71) 山崎峰雄, 森 修<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>2)</sup>, 土谷邦秋<sup>3)</sup>, 池田研二<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 小柳清光<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 病理部): タウオパチーにおける大脳白質の Tau - positive Fine Granule ( TFG ). 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 72) 萩原万里子, フリオガルシア<sup>1)</sup>, 稲村憲治, 赫 彰郎, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> ヘンリーフォード病院): 短期中大脳動脈閉塞後再灌流ラット局所脳虚血モデルにおける神経所見と病理所見. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 73) 森 修<sup>1)</sup>, 黒木副武<sup>2)</sup>, 山崎峰雄, 中尾安秀<sup>3)</sup>, 飯田 恵<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup>, 川越康博<sup>6)</sup>, 大秋美治<sup>7)</sup>, 杉崎祐一<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup> 新松戸中央病院内科, <sup>9)</sup> 日本医科大学病理学第2): Neuroaxonal dystrophy を伴う, パーキンソン病の1例. 第43回日本神経病理学会学術研究会, 2002. 5.
- 74) 山崎峰雄, 森 修<sup>1)</sup>, 村山繁雄<sup>2)</sup>, 土谷邦秋<sup>3)</sup>, 池田研二<sup>4)</sup>, 片山泰朗, 小柳清光<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部): タウオパチーにおける大脳白質の Tau - positive Fine Granule ( TFG ). 第43回日本神経病理学会学術研究会, 2002. 5.
- 75) 森 修<sup>1)</sup>, 青山純夫, 山崎峰雄, 田村浩一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 病理学第2, <sup>4)</sup> 脳神経外科学): 非定型的横断性脊髓症状で発症した subacute necrotic myelopathy の1例. 第43回日本神経病理学会学術研究会, 2002. 5.
- 76) 葉山修陽, 大塚美穂, 橋本和政, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 飯野靖彦 ( <sup>1)</sup> 春日部秀和病院 腎臓内科): 維持血液透析患者の虚血性心疾患と副甲状腺機能について. 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002. 5.
- 77) 飯野靖彦, 出浦照国, 梅村 敏, 川村哲也, 北島武之, 小山哲夫, 椎貝達夫, 杉崎徹三, 鈴木洋通, 富野康日己, 林 松彦, 山田研一, 川口良人, 桑原道雄, 内田俊也, 山崎 力: 保存期不全患者における AII 受容体拮抗薬ロサルタンの抗蛋白尿効果 ( J - LIGHT 試験独立データモニタリング委員会 ). 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002. 5.
- 78) 河辺満彦, 奥村ともみ, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性維持透析患者における経時的各種血清骨代謝マーカーの検討. 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002. 5.
- 79) 内海甲一, 河辺満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: 閉塞性動脈硬化症に対する LDL-apheresis 療法と接着分子. 第45



- 回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
- 80) 大園英一, 栗原 怜, 大和田一博, 櫻井祐成, 小野田教高, 須賀 優, 米島秀夫, 葉山修陽: 維持血液透析患者の上気道黄色ブドウ球菌保菌率の検討 . 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
- 81) 阿部 新, 桂研一郎, 和泉里江子, 熊谷智昭, 五十嵐博中, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 心因性てんかんからSPECT・脳磁図(MEG)により前頭葉てんかんを鑑別しえた1例 . 第499回日本内科学会関東地方会, 2002 . 5 .
- 82) 神谷信雄, 山崎貴史, 櫻澤 誠, 横地正之: 精神症状・意識障害で発症し, 多発大脳病変を認めたneuro - Behcet syndromeの1例 . 第161回日本神経学会関東地方会, 2002 . 6 .
- 83) 酒巻雅典, 永山 寛, 五十嵐博中, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: MIBG心筋シンチH/Mが低値を示した多系統萎縮症の1例 . 第161回日本神経学会関東地方会, 2002 . 6 .
- 84) 北村 伸, 山室 学, 宗像一雄, 山本 彰, 佐藤雅史: アルツハイマー型痴呆の重症度と3DSSPで解析した脳血流低下域についての検討 . 第17回日本老年精神医学会, 2002 . 6 .
- 85) 永山 寛, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗: 高齢パーキンソン病患者のレポドーパ動態に及ぼすアスコルビン酸の影響 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 86) 坂本静樹, 瀬田健博, 山崎峰雄, 中沢 勝, 五十嵐博中, 片山泰朗: 塩酸ドネペジル投与によるアルツハイマー型老年痴呆の治療効果と脳血流変化の検討 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 87) 長汐千秋, 山口 博, 田中伸幸, 町田佳恵, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者における臨床病型と血清CRP濃度に関する検討 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 88) 田中紀子, 西山 穰, 勝又俊弥, 大久保誠二, 仁藤智香子, 片山泰朗: 脳梗塞の臨床病型と頸動脈エコー上のパラメーターの検討 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 89) 須田 智, 山口 博, 町田佳恵, 中島亜希子, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者における臨床病型と血清CRP値との関係 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 90) 山口 博, 中島亜希子, 町田佳恵, 須田 智, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者におけるPost stroke depressionの発症頻度および脳血流との関連 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 91) 酒巻雅典, 五十嵐博中, 大久保誠二, 濱本 真, 山口 博, 片山泰朗: Diffusion/Perfusion MRIによる穿通枝領域梗塞の予後予測 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
- 92) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 山崎峰雄, 永山 寛, 瀬田健博, 福地孝明, 勝又俊弥, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 経過13年で片麻痺が緩徐に進行し, MRSにて脳幹部腫瘍が疑われた症例 . 第500回日本内科学会関東地方会, 2002 . 6 .
- 93) 萩原万里子, 土居 浩, 杉山弘行: 急性期脳梗塞に対する薬物療法とHBOとの治療効果の総合的治療比較の試み . 第1回 日本高気圧環境医学会関東地方会学術集会, 2002 . 7 .
- 94) 葉山修陽, 大塚美穂, 橋本和政, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 大園英一<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>春日部秀和病院 腎臓内科): 透析患者における足の動脈硬化に関するアンケート調査について . 第47回日本透析医学会学術集会, 2002 . 7 .
- 95) 栗原 怜, 小野田教高, 大和田一博, 桜井祐成, 須賀 優, 大園英一, 葉山修陽: マキサカルシトール(OCT) 静注パルス療法の骨組織へおよび影響 . 第47回日本透析医学会学術集会, 2002 . 7 .
- 96) 大園英一, 田中雅巳, 新谷英滋, 栗原 怜, 大和田一博, 小野田教高, 櫻井祐成, 須賀 優, 米島秀夫, 葉山修陽: 血液透析患者のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症の疫学的検討 . 第47回日本透析医学会学術集会, 2002 . 7 .
- 97) 岸川裕之, 田畑一秀, 斎藤綾子, 市川 匠, 内海甲一, 松信精一, 河辺満彦, 飯野靖彦: ポリエーテルスルホン膜PES - 150Dの性能評価 . 第47回日本透析医学会学術集会, 2002 . 7 .
- 98) 河辺満彦, 清水光義, 内海甲一, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 約1.5年間の血清骨代謝マーカー変動による検討 . 第47回日本透析医学会学術集会, 2002 . 7 .

- 99) 城所淑乃, 天谷まどか, 鈴木一人, 高田大輔, 白木優子, 金子朋広, 清水光義: On-line HDFとビタミンE固定化ダイアライザによる抗酸化作用の検討. 第47回日本透析医学会学術集会, 2002. 7.
- 100) 鈴木実子, 市川 匠, 福永由美, 森田智子, 中村千瑞子, 山形幸子, 永田浩一, 松信精一, 河辺満彦, 飯野靖彦: 症候性低血圧予防がQOLに与える影響. 第47回日本透析医学会学術集会, 2002. 7.
- 101) 大沢弘和, 王 恒維, 勝野 浩, 青木 浩, 松信精一, 橋本和政, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 当院における高齢血液透析患者の検討. 第47回日本透析医学会学術集会, 2002. 7.
- 102) 高田大輔, 江見 充, 飯野靖彦, 片山泰朗: 家族性高脂血症におけるLDL受容体とapoA-II変異の遺伝子相互作用. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 7.
- 103) 平出智晴, 酒寄 修, 濱本 真: Bickerstaff型脳幹脳炎で発症し, 遷延型Guillain-Barre症候群を呈したIgM抗GMI抗体長期陽性例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 7.
- 104) 須田 智, 新井裕至, 五十嵐博中, 小島康正, 酒巻雅典, 西山 穰, 安藤 順<sup>1)</sup>, 知識鉄郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗 (<sup>1)</sup>北村山公立病院 放射線科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 急性期脳梗塞におけるMCI-186(edaravone)の抗脳浮腫効果: MRI緩和時間を用いた抗脳浮腫効果のmapping. 第5回 脳浮腫・頭蓋内圧研究会, 2002. 7.
- 105) 西山 穰, 勝又俊弥, 田中紀子, 片山泰朗: 脳梗塞の臨床病型と頸動脈エコー上のパラメーターの検討. 第21回 Mt. Fuji Workshop on CVD 2002, 2002. 8.
- 106) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusionにおける脳梗塞の予測指標の検討. 第21回 Mt. Fuji Workshop on CVD 2002, 2002. 8.
- 107) 鈴木正彦, 石井賢二, 三谷和子, 石渡喜一, 三品雅洋: パーキンソン病における節前・節後ドーパミン機能の相関的解析: voxel based analysis. 第2回パーキンソン病フォーラム, 2002. 8.
- 108) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 酒寄 修, 濱本 真, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二, 木村裕一, 織田圭一, 河村和紀, 佐々木徹, 石渡喜一: 【C-11】SA4305 PETを用いたパーキンソン病におけるsigma-1受容体分布 - Preliminary Study. 第2回パーキンソン病フォーラム, 2002. 8.
- 109) 永山 寛, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢Parkinson病患者のlevodopa動態評価における最適な検査order. 第2回パーキンソン病フォーラム, 2002. 8.
- 110) 五十嵐博中, 濱本 真, 大久保誠二, 山口 博, 有井一正, 酒巻雅典, 片山泰朗: 主幹動脈系脳梗塞急性期における脳灌流MRI perfusion mapの選択. 第21回 Mt. Fuji Workshop on CVD 2002, 2002. 8.
- 111) 熊谷智昭, 山崎峰雄, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 歯状核視床路に変性を認めた成人発症副腎白質ジストロフィーの1例. 第162回日本神経学会関東地方会, 2002. 9.
- 112) 五十嵐博中, 濱本 真, 大久保誠二, 山口 博, 有井一正, 酒巻雅典, 片山泰朗: 急性期脳梗塞における病態評価に適した脳灌流MRI perfusion mapの選択. 第30回 磁気共鳴医学会, 2002. 9.
- 113) 森 修, 松澤こずえ, 三枝順子, 赤坂久美, 清水秀樹, 小黑辰夫, 新井 悟, 大秋美治, 黒木副武, 中尾安秀, 飯田 恵, 川越康博, 山崎峰雄, 内藤善哉, 杉崎祐一: Neuroaxonal dystrophyを伴う, パーキンソン病: Spheroidの超微形態. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002. 9.
- 114) 岸雄一郎, 桂研一郎, 藤田有子, 内海甲一, 青木 宏, 松信精一, 勝又俊弥, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: 霧視を契機に発見された腎サルコイドーシスの1例. 第502回日本内科学会関東地方会, 2002. 9.
- 115) 岡村正哉, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳出血を繰り返した静脈洞血栓症の1例. 第50回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 9.
- 116) 岸雄一郎, 桂研一郎, 飯塚美穂, 藤田有子, 王 恒維, 柏木哲也, 金子朋広, 内海甲一, 青木 宏, 松信精一, 勝又俊弥, 神谷達司, 飯野靖彦, 北村博司, 片山泰朗: ステロイドにて肉芽腫の消退を認めた, 腎サルコイドーシスの1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 117) 瀬田健博, 桂研一郎, 永山 寛, 内海甲一, 福地孝明, 勝又俊弥, 臼田和弘, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 中枢神経障害を認めた高齢発症の混合性結合織病(MCTD)の1例. 第70回日本医科大学医学会総会,

2002 . 9 .

- 118) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 山崎峰雄, 永山 寛, 瀬田健博, 福地孝明, 勝又俊弥, 神谷達司, 片山泰朗: 経過13年で片麻痺が緩徐に進行し, MRSにて脳幹部腫瘍が疑われた症例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 119) 須田 智, 新井裕至, 五十嵐博中, 小島康正, 酒巻雅典, 西山 穰, 安藤 順<sup>1)</sup>, 知識鉄郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院 放射線科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 急性期脳梗塞におけるMCI-186 (edaravone) の抗脳浮腫効果: MRI緩和時間を用いた抗脳浮腫効果のmapping. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 120) 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 隈崎達夫, 坂本静樹, 瀬田健博 ( <sup>1)</sup>放射線科): 正常データベース施設間共有化のためのSPECT装置の画像間差補正プログラム (eZIS) の開発と検証. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 121) 藤田有子<sup>1)</sup>, 高田大輔<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 飯野靖彦, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門): 家族性高脂血症の表現型に及ぼすApolipoprotein Hの修飾効果. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 122) 小柳清光<sup>1)</sup>, 巻淵隆夫<sup>2)</sup>, 山崎峰雄, 大藤高志<sup>3)</sup>, K - MC<sup>4)</sup>: 黒質からみたグアム島のパーキンソン痴呆症と筋萎縮性側索硬化症. 第21回日本痴呆学会学術集会, 2002 . 10 .
- 123) 岸雄一郎, 柏木哲也, 藤田有子, 王 恒維, 内海甲一, 青木 宏, 松信精一, 飯野靖彦, 北村博司, 片山泰朗: ぶどう膜炎に肉芽腫性間質性腎炎を併発した1例. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002 . 10 .
- 124) 劉 春玲, 北村 伸, 三品雅洋, 山室 学, 宗像一雄: ハンチントン舞蹈病の1例: 画像所見について. 第6回Neurology SPECT定量検討会, 2002 . 10 .
- 125) 平出智晴: 痴呆性疾患の鑑別と診断. 印西・白井地区痴呆勉強会, 2002 . 11 .
- 126) 五十嵐博中, 濱本 真, 山口 博, 大久保誠二, 有井一正, 酒巻雅典, 片山泰朗: 急性期脳梗塞における脳灌流MRI perfusion map. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 127) 桂研一郎, 栗原順一<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>帝京大学薬学部薬理学): 増強させたAcidosisの脳虚血再灌流障害に及ぼす影響. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 128) 神谷達司, 仁藤智香子, 雨宮志門, 加藤健吾, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるラジカル消去薬と軽微低体温併用療法による脳保護効果増強作用の検討. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 129) 大鳥達雄, 片山泰朗: ラット中大脳動脈永久閉塞モデルにおけるCortical Spreading Depression後の虚血耐性現象の検討. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 130) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: CT Perfusionにおける脳梗塞の予測指標の検討. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 131) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: 脳梗塞診断におけるCT Perfusionの有用性と問題点. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 132) 坂本静樹, 瀬田健博, 山崎峰雄, 中沢 勝, 五十嵐博中, 桂研一郎, 水村 直<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>放射線科): 塩酸ドネペジル投与によるアルツハイマー型痴呆の脳循環変化: 有効例と無効例. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 133) 中島亜希子, 山口 博, 町田佳恵, 須田 智, 濱本 真, 片山泰朗: 高齢者脳梗塞患者におけるPost Depressionの発症頻度および脳血流 (3D - SSP) との関連. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 134) 駒場祐一, 鎌野千佐子, 酒寄 修, 飯野靖彦, 片山泰朗: 腎移植患者における脳循環の検討. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 135) 福地孝明, 桂研一郎, 五十嵐博中, 松信精一, 神谷達司, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量: 腎機能障害の程度, PSL治療, 糖尿病有無による分類の検討第3報. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002 . 11 .
- 136) 瀬田健博, 谷内七三子, 山崎峰雄, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: 延髄外側症候群で発症した脳多発性海綿状血管腫の1例. 第163回日本神経学会関東地方会, 2002 . 11 .
- 137) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之: Prothrombin Fragment 1+2を指標とした抗凝固療法の新しいモニタリング法

- の提案．第25回日本血栓止血学会学術集会，2002．11．
- 138) 水越元気，坂本静樹，桂研一郎，五十嵐博中，神谷達司，片山泰朗：画像で経過を観察し得た多発性脳膿瘍の1例．第30回日本頭痛学会，2002．11．
- 139) 萩原万里子，土居 浩，岩間淳一，三須恭典，杉山弘行：急性期脳梗塞に対する薬物療法とHBOの治療効果総合的比較及び併用療法の試み．第37回日本高気圧環境医学会総会，2002．11．
- 140) 三品雅洋，大山雅史，石井賢二，石渡喜一，織田圭一，河村和紀，木村裕一，佐々木徹，小林士郎，北村 伸，片山泰朗：SPM99を用いた老年変性疾患のFDG PET画像解析における加齢変化の除去：age match と AN-COVA．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 141) 大山雅史，石井賢二，三品雅洋，三谷和子，北村 伸，織田圭一，木村裕一，河村和紀，佐々木徹，片山泰朗，石渡喜一：アルツハイマー病におけるシグマ受容体リガンド11C - SA4503 と糖代謝の関係．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 142) 石井賢二，三品雅洋，鈴木正彦，三谷和子，織田圭一，木村裕一，河村和紀，佐々木徹，石渡 喜一：パーキンソン病における節前・節後ドーパミン機能の相関的解析：voxel based analysis．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 143) 熊谷智昭，山崎峰雄，桂研一郎，坂本静樹，片山泰朗：脊髄小脳変性症様症状を呈し，MRI で両側歯状核赤核路の病変を認めた症例．第46回CCN研究会，2002．11．
- 144) 高田大輔，飯野靖彦，片山泰朗，江見 充：家族性高脂質血症の表現型に及ぼすApolipoprotein Hの修飾効果．第47回日本人類遺伝学会，2002．11．
- 145) 野村浩一，桂研一郎，山崎峰雄，五十嵐博中，勝又俊弥，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：One- and- a - half - syndromeを来し，MRIにて発症原因を診断し得たbranch atheromatous disease 型脳幹梗塞の2症例．第503回日本内科学会関東地方会，2002．11．
- 146) 熊谷智昭，桂研一郎，西山 穰，山崎峰雄，勝又俊弥，駒場祐一，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：脊髄小脳変性症様症状を呈した成人発症副腎白質ジストロフィーの1例．第503回日本内科学会関東地方会，2002．11．
- 147) 劉 春玲，北村 伸，山室 学，網谷賢一，伊佐治剛，宗像一雄：脳血管障害とアルツハイマー型痴呆の関係についての検討．第26回日本脳神経CI学会総会，2003．2．
- 148) 葉山修陽，大塚美穂，橋本和政，北村博司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1)：極初期に発見しえたANCA関連腎炎の1症例．第2回東葛腎カンファレンス，2003．2．
- 149) 野村浩一，桂研一郎，金子朋広，西山康裕，青木 宏，内海甲一，勝又俊弥，神谷達司，飯野靖彦，片山泰朗：経過中に横紋筋融解症を発症した後天性血友病Aの1剖検例．第506回日本内科学会関東地方会，2003．2．
- 150) 須田 智，三品雅洋，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：血小板・凝固・線溶機能と脳梗塞．第5回千葉県北総地区脳卒中フォーラム，2003．2．
- 151) 中村真一郎，野原千洋子，谷口 司，萩原万里子，横地正之：名辞障害を特徴とした前頭側頭葉状萎縮症の1例(ビデオ供覧)．第164回日本神経学会関東地方会，2003．3．
- 152) 平間章郎，岡村正哉，西山康裕，桂研一郎，坂本静樹，片山泰朗：眼内炎を合併した多発性脳膿瘍の1例．第164回日本神経学会関東地方会，2003．3．
- 153) 瀬田健博，水村 直，勝又俊弥，西山 穰，永山 寛，桂研一郎，福地孝明，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：ラクナ梗塞症例における頸動脈超音波所見と脳血流異常分布の関連．第28回日本脳卒中学会総会，2003．3．
- 154) 井田正博，長尾毅彦，横地正之：静脈洞血栓症急性期のMR診断 静脈洞血栓症．第28回日本脳卒中学会総会，2003．3．
- 155) 上田雅之，神谷達司，片山泰朗，Nowak TS Jr．Thaddeus S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>テネシー大学 神経内科)：前脳虚血後のラット海馬におけるextracellular signal - regulated kinase および c - Jun のリン酸化閾値．第28回日本脳卒中学会総会，2003．3．

- 156) 西山康裕, 臼田和弘, 神谷達司, 五十嵐博中, 坂本静樹, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ病の疫学的検討および病変部位との関連性. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 157) 大鳥達雄, 片山泰朗, ウエルシュフランク<sup>1)</sup>, フリードランドジュリー<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ペンシルバニア大学 脳神経外科): ラット頭部外傷後における虚血耐性現象と脳内グリコーゲン量の関係についての検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 158) 五十嵐博中, 大久保誠二, 酒巻雅典, 水越元気, 片山泰朗: Rat embolic infarction modelにおける rt - PAのtherapeutic time window およびhemorrhagic transformation. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 159) 神谷達司, 仁藤智香子, 上田雅之, 加藤健吾, 雨宮志門, 片山泰朗: ラット脳血栓モデルにおけるエダラボンとオザグレルナトリウムの併用療法による脳保護効果増強作用の検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 160) 酒巻雅典, 角南英子, 五十嵐博中, 西山 穰, 新井裕至, 安藤 順, 知識鐵郎, 片山泰朗: MRI緩和時間画像を用いたglycerol抗脳浮腫効果のmapping. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 161) 西山 穰, 勝又俊弥, 田中紀子, 有井孝子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 山口 博, 片山泰朗: NINDS分類及びTOAST分類における脳梗塞の臨床病型と頸動脈エコー上のパラメーターの検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 162) 勝又俊弥, 西山 穰, 田中紀子, 有井孝子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 山口 博, 片山泰朗: 脳梗塞患者における頸動脈プラーク性状とエコー上のパラメーター, 脳梗塞危険因子の検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 163) 中沢 勝, 水村 直<sup>1)</sup>, 石渡明子, 片山泰朗(<sup>1)</sup>放射線医学): 尾状核頭梗塞の脳血流分布 - 3D - SSPを用いた脳血流SPECTの検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 164) 山口 博, 三井亜希子, 町田佳恵, 木嶋祥一郎, 須田 智, 濱本 真, 片山泰朗: 脳SPECT(3D - SSP)を用いた高齢者Post - stroke depression患者についての検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 165) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター): 皮質梗塞患者におけるcrossed cerebral diaschisis: 交絡因子をコントロールしたlogistic解析による検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 166) 萩原 浩, 中村秀紀, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: Perfusion CTによる島皮質early CT signの検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 167) 中村秀紀, 萩原 浩, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: けいれん発作時と発作間欠期のCT Perfusion. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 168) 三品雅洋, 駒場祐一, 田中伸幸, 福地孝明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup>脳神経外科学): エダラボン使用による心原性脳塞栓の出血性変化: ロジスティック回帰分布を用いた検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 169) 桂研一郎, 勝又俊弥, 山崎峰雄, 西山 穰, 永山 寛, 神谷達司, 片山泰朗: Ederavone 単独およびOzagrel Naとの併用による治療効果の比較. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 170) 三品雅洋, 駒場祐一, 福地孝明, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院 脳神経センター, <sup>3)</sup>脳神経外科学): ラクナ梗塞におけるヘパリン・グリセロール・オザグレルとエダラボン併用の効果. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 171) 萩原万里子, フリオガルシア<sup>1)</sup>, ケイリイウ<sup>2)</sup>, ジョングテール<sup>3)</sup>, 稲村憲治, 片山泰朗, 赫 彰郎(<sup>1)</sup>ヘンリーフォード病院, <sup>2)</sup>ヘンリーフォード病院, <sup>3)</sup>ヘンリーフォード病院): 短期中大脳動脈閉塞後再灌流ラット局所脳虚血モデルにおける神経病理所見と臨床所見. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 172) 長尾毅彦, 井田正博, 片山泰朗, 横地正之: 出血性脳卒中除外診断に頭部CT検査は必要か? 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 173) 雨宮志門, 神谷達司, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 加藤健吾, 片山泰朗: ラット局所脳虚血 - 再灌流モデルにおける

- edaravoneの脳保護作用および抗アポトーシス効果に関する検討．第28回日本脳卒中学会総会，2003．3．
- 174) 水越元気，桂研一郎，片山泰朗：妊娠出産後に発症した若年性脳梗塞の1例．第2回東京Strokeフロンティア，2003．3．
- 175) 須田 智，三品雅洋，福地孝明，小林士郎，片山泰朗：脳幹をはじめ多発性病変を呈し，高血圧性脳症と考えられた1例．第33回千葉北総神経放射線研究会，2003．3．
- 176) 塚本和久，桂研一郎，熊谷智昭，永山 寛，西山 穰，勝又俊弥，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗：ミラーフイッシャー症候群の症状を来したが眼筋麻痺を認めなかった1例．第507回日本内科学会関東地方会，2003．3．
- 177) 濱本 真：進行性核上性麻痺と皮質基底核変性症の鑑別について．日本医科大学附属千葉北総病院 第25回公開CPC，2003．3．

(6) 班会議講演：

- 1) 五十嵐博中，片山泰朗：脳虚血急性期におけるPerfusion Mapの最適化．平成14年度循環器病研究委託費14公-1 超急性期虚血性脳血管障害に対する非侵襲的診断・モニタリングシステムに関する研究班会議，2002．

## [ 付属病院リウマチ科 ]

### 研究概要

リウマチ科の研究課題は，関節リウマチ（RA）・全身性変形性関節症（GOA）などのリウマチ性疾患患者に対し，薬物治療，外科治療，リハビリテーション治療，そして精神的指導等のトータルマネジメントと，滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究，全身性エリテマトーデス，強皮症，多発性筋炎等の膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御である．

より具体的に述べれば，臨床研究として 1) より大きな可動域を追及した人工膝関節のシステムの開発，2) 時に死に至る術後合併症である肺塞栓症の病態解明と予防，3) リウマチ性疾患患者の全人的ケアの大切を客観的に知るため，精神・神経・内分泌システムの相関に関する研究などを行っている．

一方，基礎的研究としては，1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与，2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用，3) 関節リウマチの遺伝子治療，4) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御，5) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析，Th1 / Th2 誘導に関する分子群の同定とその機能，6) GOA 発症における免疫学的機序の解明，などである．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Ishii H, Tanaka H, Katoh K, Nakamura H, Nagashima M, Yoshino S: Characterization of infiltrating T cells and Th 1 / Th 2 - type cytokines in the synovium of patients with osteoarthritis. *Osteoarthritis Cartilage* 2002 ; 10 (4): 277-281 .
- 2) Yamazaki J, Ishigami S, Nagashima M, Yoshino S: Hy - Flex II total knee system and range of motion . *Arch Orthop Trauma Surg* 2002 ; 122 (3): 156-160 .
- 3) Nagashima M, Tanaka H, Takahashi H, Tachihara A, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>Immunology Research Laboratory, Taiho Pharmaceutical Company Ltd. , <sup>2)</sup>Dept. of Pathology, Nippon Medical School): Study of mechanism involved in angiogenesis and synovial cell proliferation in human synovial tissues of patients with rheumatoid arthritis using SCID mice. *Lab Invest* 2002 ; 82 (8): 981-988 .
- 4) Wauke K, Nagashima M, Kato N<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Yoshino S ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon

- Medical School): Comparative study between thromboembolism and total knee arthroplasty with or without tourniquet in rheumatoid arthritis patients. Arch Orthop Trauma Surg 2002 ; 122 ( 8 ): 442-446 .
- 5) Kato N<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Yoshino S, Ogawa R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Anesthesiology): Abnormal Echogenic Findings Detected by Transesophageal Echocardiography and Cardiorespiratory Impairment during Total Knee Arthroplasty with Tourniquet. Anesthesiology 2002 ; 97 ( 5 ): 1123-1128 .
- 6) Tarner IH<sup>1)</sup>, Nakajima A, Seroogy CM<sup>1)</sup>, Erman J<sup>1)</sup>, Levicnic A<sup>1)</sup>, Contag CH<sup>1)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. Rheumatol, Stanford Univ. ): Retroviral gene therapy of collagen - induced arthritis by local delivery of IL - 4. Clin Immunol 2002 ; 105 ( 3 ): 304-314 .
- 7) Hasegawa J, Nagashima M, Yamamoto M, Nishijima T, Katsumata S, Yoshino S : Bone resorption and inflammatory inhibition efficacy of intermittent cyclical etidronate therapy in rheumatoid arthritis. J Rheumatol 2003 ; 30 ( 3 ): 474-479 .
- 8) 永島正一, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 吉野槇一(<sup>1)</sup>都立府中病院リウマチ膠原病科): 関節リウマチに伴う骨粗鬆症の病態と治療: リウマチに伴う骨粗鬆症とビスフォスフォネード. リウマチ科 2002 ; 28 ( 1 ): 44-47 .
- 9) 丹野 亮, 佐野茂夫<sup>1)</sup>, 田中秀和, 永島正一, 吉野槇一(<sup>1)</sup>三楽病院整形外科): 関節リウマチの胸腰椎病変に対する脊椎インストルメンテーション. 関節の外科 2002 ; 29 ( 4 ): 122-129 .
- 10) 向井英一: 関節リウマチ患者の手術のタイミング. 総合臨床 2002 ; 51 ( 12 ): 3299-3300 .
- 11) 永島正一, 山崎純司, 山本宗宏, 宮本洋介, 岩川賀世, 竹之内研二, 田中秀和, 吉野槇一: Hy - Flex II 人工膝関節置換術とその術後成績. 日本人工関節学会誌 2002 ; 32 : 139-140 .
- 12) 斉藤公久<sup>1)</sup>, 小岩政仁<sup>1)</sup>, 松崎 剛<sup>1)</sup>, 山初晋也<sup>1)</sup>, 吉野槇一(<sup>1)</sup>春日部秀和病院整形外科・リウマチ科): 人工膝関節置換手術後の大腿骨顆上骨折: 手術例の検討. 関節の外科 2003 ; 30 ( 1 ): 21-25 .

(2) 綜説:

- 1) Slavin AJ<sup>1)</sup>, Tarner IH<sup>1)</sup>, Nakajima A, Urbanek-Ruiz I<sup>1)</sup>, McBride J<sup>1)</sup>, Contag CH<sup>1)</sup>, Fathman CG<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Med. Div. of Immunol. Rheumatol, Stanford Univ. ): Adoptive cellular gene therapy of autoimmune disease. Autoimmune Rev 2002 ; 1 ( 1 ): 213-219 .
- 2) 中島敦夫: 抗原特異的 T 細胞を用いた自己免疫性関節炎の治療. 臨床免疫 2002 ; 37 ( 6 ): 679-686 .
- 3) 中島敦夫, 高橋 央: 関節リウマチの遺伝子治療. アレルギー免疫 2003 ; 10 ( 3 ): 369-377 .

著 書

- 1) 永島正一, 藤森十郎<sup>1)</sup>, 吉野槇一(<sup>1)</sup>防府整形・リウマチクリニック): [共著] 足部疾患の保存療法と手術療法: 足部変形に対する手術療法. 新世代の整形外科手術 15 新 OS NOW (岩本幸英, 高岡邦夫, 落合直之, 清水克時), 2002 ; pp145-150, メジカルビュー社 .
- 2) 吉野槇一: [共著] 骨・関節(または運動器)疾患の診察法. 治療(特集: プライマリケアのための骨・関節疾患の診かた(相馬 裕), 2003 ; pp410-420, 南山堂 .
- 3) 田中秀和, 吉野槇一: [共著] Hy - Flex II Total Knee and Ligament Balancing System. 関節外科, 2003 ; pp52-56, メジカルビュー社 .

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 吉野槇一: 人工膝関節置換術 -両側同時か片方ずつか- 片方ずつの方がよい. 第75回日本整形外科学会学術集会, 2002 . 5 .

(2) シンポジウム:

- 1) 吉野槇一: 内・外側軟部組織の等しい緊張を客観的に獲得する手技とその意義. 第75回日本整形外科学会学術

集会, 2002 . 5 .

(3) ワークショップ:

- 1) 山崎純司, 長谷川潤, 丹野 亮, 宮本洋介, 永島正一, 吉野樺一: ビスフォスフォネートによる抗炎症および疼痛抑制効果. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 2) 永島正一, 加藤 興, 吉野樺一: 血管新生抑制からみた関節リウマチ滑膜増殖の制御. 第46回 日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 3) 中島敦夫: 免疫担当細胞を介した自己免疫疾患の遺伝子治療. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 4) 山本宗宏, 宮本洋介, 高橋 央, 向井英一<sup>1)</sup>, 永島正一, 吉野樺一<sup>(1)</sup> 東京都リハビリテーション病院 整形外科): RA 患者の性的問題についての調査. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 5) 永島正一, 田中秀和, 加藤 興, 山本宗宏, 吉野樺一: 後足部障害をきたした関節リウマチ患者の人工足関節置換術の臨床成績. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 6) 加藤 興, 永島正一, 山崎純司, 吉野樺一: 関節リウマチ後足部障害に対する足関節固定術の治療成績. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 7) 中島敦夫: 自己抗原特異的 T 細胞の生体内動態. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 8) 吉野樺一, 石井博泰, 山本宗宏, 丹野 亮, 岩川賀世, 中島敦夫: 深い感動に涙して泣くことは RA 患者の神経内分泌-免疫系に及ぼせる影響を与えるか. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 9) 吉野樺一: 日本医科大学におけるリウマチ学の卒前教育について. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .

(4) 一般講演:

- 1) Nagasima M : Comparison of outcomes between total ankle arthroplasty and arthrodesis for hind foot in patients with rheumatoid arthritis . The 7th German - Japanese meeting of the Friendship Society of Orthopedic Surgeons ( Berlin ), 2002 . 6 .
- 2) Ishii H , Nakajima A , Yoshino Shin-i : High Prevalence of Thyroid Autoantibodies at Diagnosis of Heberden's Nodes . American College of Rheumatology 66th Annual Scientific Meeting ( New Orleans ), 2002 . 10 .
- 3) Ishii H , Iwakawa K , Tanno M , Nakajima A , Yoahino Shin-i : The Relationship between Emotional Sensitivity and the Control and prognosis of Rheumatoid aArthritis . American College of Rheumatology 66th Annual Scientific Meeting ( New Orleans ), 2002 . 10 .
- 4) 田中秀和, 永島正一, 吉野樺一, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 関節リウマチ(RA)滑膜組織における FGF - 7 , FGF - 10 の産生と局在およびそのレセプターの存在について. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 5) 金子礼志, 岩川賀世, 森 伸哉, 竹之内研二, 坂根 学, 高地雄太, 田中秀和, 中島敦夫, 永島正一, 吉野樺一: 関節リウマチ患者に対する尿試験紙法の実施と腎臓超音波結果. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 6) 加藤 興, 永島正一, 吉野樺一, 三宅弘一<sup>1)</sup>, 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2): 関節炎モデルマウスにおける血管新生抑制物質の遺伝子導入( HIV virus vector を使って). 第46回日本リウマチ学会総会, 2002 . 4 .
- 7) 永島正一, 田中秀和, 山崎純司, 山本宗宏, 藤森十郎<sup>1)</sup>, 吉野樺一<sup>(1)</sup> 防府整形・リウマチクリニック): 高度な後足部変形をきたした関節リウマチ患者に対するフィン付き髓内釘固定術の臨床成績. 第75回日本整形外科学会学術集会, 2002 . 5 .
- 8) 向井英一<sup>1)</sup>, 吉野樺一<sup>(1)</sup> 東京都リハビリテーション病院整形外科): 関節リウマチ患者の性生活に関する調査. 第39回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2002 . 5 .
- 9) 向井英一<sup>1)</sup>, 川崎洋介<sup>1)</sup>, 周 豪奎<sup>1)</sup>, 杉本 淳<sup>1)</sup>, 大塚友吉<sup>1)</sup>, 吉野樺一<sup>(1)</sup> 東京都リハビリテーション病院整形外科): フィン付き髓内釘を応用した重度変形麻痺足に対する治療経験. 第39回日本リハビリテーション



医学会学術集会，2002．5．

- 10) 加藤 興，永島正一，田中秀和，丹野 亮，宮本洋介，吉野槇一：我々の施設における手術に至った男性外反母趾患者の検討．第27回日本足の外科学会学術集会，2002．6．
- 11) 金子礼志<sup>1)</sup>，高橋 央，山本宗宏<sup>2)</sup>，坂根 学，森 伸哉，宮本洋介，西島 徹<sup>3)</sup>，勝又信一，田中秀和，中島敦夫，永島正一，吉野槇一（<sup>1)</sup>順天堂大学浦安病院内科，<sup>2)</sup>武蔵野赤十字病院整形外科，<sup>3)</sup>都立墨東病院整形外科）：PR 3 - ANCA 陽性，LE 細胞陽性を呈したフェルティール症候群の1例．第13回日本リウマチ学会関東支部学術集会，2002．12．
- 12) 勝又信一，永島正一，加藤 興<sup>1)</sup>，和宇慶晃一<sup>2)</sup>，斉藤 進<sup>2)</sup>，吉野槇一（<sup>1)</sup>帝京大学付属溝ノ口病院整形外科，<sup>2)</sup>静岡リウマチ整形外科リハビリ病院）：人工膝関節全置換術時における止血帯使用の有無による術後の血中TAT，D-dimer 並びに好中球エラスターゼ値の変動の意義について．第13回日本リウマチ学会関東支部学術集会，2002．12．
- 13) 坂根 学，中島敦夫，勝又信一，丹野 亮，田中秀和，永島正一，吉野槇一：サラゾスルファピリジンによる薬剤性ループスと考えられた1症例．第13回日本リウマチ学会関東支部学術集会，2002．12．

(5) ポスター：

- 1) Kato K：HIV Vector - Mediated Gene Transfer of Angiostatin Inhibits Synovial Cell Proliferation and Angiogenesis of Collagen Induced Mouse Model .AMERICAN SOCIETY of GENE THERAPY(Boston)，2002．6．

(6) 症例報告：

- 1) 坂根 学，岩川賀世，高地雄太，石神 伸，平井 博，金子礼志，中島敦夫，永島正一，吉野槇一：人工膝関節置換後に強皮症・多発性筋炎を発症した関節リウマチの1例．第46回 日本リウマチ学会総会，2002．4．

### 3. 内科学第三講座

#### [ 付属病院第 3内科 ( 血液内科, 消化器, 内分泌代謝 ) ]

##### 研究概要

血液病学の基礎的研究では, トランスジェニックマウスを用いた造血器腫瘍の発症および病態の解析, 新規開発方法を用いた造血器腫瘍細胞の細胞生物学的解析, 腫瘍免疫に関する研究, 等を主に行った. 臨床的研究では造血幹細胞移植療法に関する検討, 造血器疾患の病態に関する検討, 造血器腫瘍の治療成績に関する検討などを主に行い, また開発治験を行った.

消化器病学は, (1) 逆流性食道炎, 食道運動機能異常に対する病態生理学的検討, (2) 上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義, (3) 慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討, (4) 大腸腺腫, 癌の病態に関する検討, (5) 大腸癌の診断法に関する研究, (6) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身におよぼす影響に関する検討, (7) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能, など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め, (8) 消化管粘膜の分子機構に関する研究, COX-2の消化管癌に対する役割, など基礎的研究も実施されつつある.

内分泌代謝病学の基礎的研究では, 成長ホルモン分泌機構の解明を目的として作成されたモデルラットの研究やグレリンと食欲調節の関連についての研究がまとめられた. 甲状腺悪性疾患の病態の差異が増殖因子の差異に現れる可能性が追求され, 糖尿病の新しい発症機序を想定した研究が進められた. 臨床では代謝因子や年齢とアディポネクチンの関係が検討された. また, リポ蛋白リパーゼ遺伝子異常の症例が発見され, この例ではインスリン抵抗性の強いことを報告した. 厚生労働省科学研究として原発性高脂血症調査研究や糖尿病合併症の発症進展に関する研究 (JDCS) が行われ, また, 長寿化学総合研究では高齢糖尿病患者における前向き研究が続けられた.

##### 研究業績

###### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Akashi M, Hirama T, Tanosaki S, Kuroiwa N, Nakagawa K, Tsuji H, Kato H, Yamada S, Kamata T, Kinugasa T, Ariga H, Maekawa K, Suzuki G, Tsujii H ( <sup>1</sup> Division of Radiation Health, National Institute of Radiological Sciences ): Initial symptoms of acute radiation syndrome in the JCO criticality accident in Tokai-mura. *Journal of Radiation Research* 2001; 42 ( Suppl 1 ): 157-166.
- 2) Miyake K, Tsukui T, Futagami S, Tatsuguchi A, Shinoki K, Hiratsuka T, Iizumi T, Nagata K, Shinji Y, Wada K, Yamada N, Kobayashi M, Sakamoto C: Effect of acid suppression therapy on development of gastric erosions after cure of *Helicobacter pylori* infection. *Aliment Pharmacol Ther* 2002; 16 ( Suppl. 2 ): 210-216.
- 3) Futagami S, Hiratsuka T, Wada K, Tatsuguchi A, Tsukui T, Miyake K, Akamatsu T, Hosone M, Sakamoto C, Kobayashi M: Inhibition of *Helicobacter pylori*-induced cyclooxygenase-2 aggravates NSAIDs-induced gastric damage in Mongolian gerbils. *Aliment Pharmacol Ther* 2002; 16 ( 4 ): 847-855.
- 4) Tanaka S, Tanabe Y, Tamura H, Ishii S, Shuto Y, Kamegai J, Sugihara H, Kobayashi M, Wakabayashi I, Murano T, Shirai K, Oikawa S: Chylomicronemia caused by lipoprotein lipase gene mutation related to a hyper-response of insulin secretion to glucose. *Intern Med* 2002; 41: 300-303.
- 5) Elisseeva OA<sup>1)</sup>, Oka Y<sup>2)</sup>, Tsuboi A<sup>3)</sup>, Ogata K, Wu F<sup>4)</sup>, Kim EH<sup>4)</sup>, Soma T<sup>5)</sup>, Tamaki H<sup>6)</sup>, Kawakami M<sup>7)</sup>, Oji Y<sup>8)</sup>, Hosen N<sup>1)</sup>, Kubota T<sup>1)</sup>, Nakagawa M<sup>1)</sup>, Yamagami T<sup>1)</sup>, Hiraoka A<sup>1)</sup>, Tsukaguchi M<sup>1)</sup>,

- Udaka K<sup>1)</sup>, Ogawa H<sup>1)</sup>, Kishimoto T<sup>9)</sup>, Nomura T<sup>10)</sup>, and Sugiyama H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Clinical Laboratory Science, Osaka University , <sup>2)</sup> Department of Radiation Biology, Osaka University , <sup>3)</sup> Department of Molecular Medicine, Osaka University , <sup>4)</sup> Osaka Minami National Hospital , <sup>5)</sup> Nissay Hospital , <sup>6)</sup> Nippon Life Saiseikai Foundation , <sup>7)</sup> Center for Adult Diseases , <sup>8)</sup> Sakai Municipal Hospital , <sup>9)</sup> Department of Biophysics, Kyoto University , <sup>10)</sup> Osaka University ): Humoral immune responses against Wilms tumor gene WT1 product in patients with hematopoietic malignancies . *Blood* 2002 ; 99 ( 9 ) : 3272-3279 .
- 6 ) Miura S , Tsukui T , Shinoki K , Takeyama H<sup>1)</sup> , Akamatsu T , Miyake K , Wada K , Mizokami Y , Kobayashi M , Matsuoka T , Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Fifth Department of Internal Medicine, Tokyo Medical School ): Differential effects of cyclooxygenase-2 on vascular endothelial growth factor production in gastric fibroblasts and cancer cells . *The Journal of Tokyo Medical University* 2002 ; 60 ( 3 ) : 181-188 .
- 7 ) Kotake H<sup>1)</sup> , Sekikawa A<sup>1)</sup> , Tokita Y<sup>1)</sup> , Ishigaki Y<sup>1)</sup> , Oikawa S ( <sup>1)</sup> The Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine ): Effect of HMG-CoA reductase inhibitor on plasma cholesteryl ester transfer protein activity in primary hypercholesterolemia : Comparison among CETP/Taq1B genotype subgroups . *J Atheroscler Thromb* 2002 ; 9 : 207-212 .
- 8 ) Mohler JL<sup>1)</sup> , Morris TL<sup>1)</sup> , Ford OH 3rd<sup>1)</sup> , Alvey RF<sup>1)</sup> , Sakamoto C , Gregory CW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of North Carolina-Chapel Hill ): Identification of differentially expressed genes associated with androgen-independent growth of prostate cancer . *Prostate* 2002 ; 51 ( 4 ) : 247-255 .
- 9 ) Inokuchi K , Yamaguchi H , Hanawa H , Tanosaki S , Nakamura K , Tarusawa M , Miyake K<sup>1)</sup> , Shimada T<sup>1)</sup> , Dan K ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School ): Loss of DCC gene expression is of prognostic importance in acute myelogenous leukemia . *Clinical Cancer Research* 2002 ; 8 ( 8 ) : 1882-1888 .
- 10 ) Shuto Y , Shibasaki T<sup>1)</sup> , Otagiri A<sup>1)</sup> , Kuriyama H<sup>1)</sup> , Ohata H<sup>1)</sup> , Tamura H , Kamegai J , Sugihara H , Oikawa S , Wakabayashi I ( <sup>1)</sup> Department of Physiology ): Hypothalamic growth hormone secretagogue receptor regulates growth hormone secretion, feeding and adiposity . *J Clin Invest* 2002 ; 109 ( 11 ) : 1429-1436 .
- 11 ) Tsunetsugu-Yokota Y<sup>1)</sup> , Tamura H , Tachibana M , Ogata K , Takemori T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Immunology, National Institute of Infectious Diseases ): Selective expansion of perforin-positive CD8+ T cells by immature dendritic cells infected with live *Bacillus Calmette-Guerin* mycobacteria . *Journal of Leukocyte Biology* 2002 ; 72 ( 1 ) : 115-124 .
- 12 ) Nomura S<sup>1)</sup> , Dan K , Hotta T<sup>2)</sup> , Fujimura K<sup>3)</sup> , Ikeda Y<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Kansai Medical University , <sup>2)</sup> Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Hiroshima University , <sup>4)</sup> Keio University School of Medicine ): Effects of pegylated recombinant human megakaryocyte growth and development factor in patients with idiopathic thrombocytopenic purpura . *Blood* 2002 ; 100 ( 2 ) : 728-730 .
- 13 ) Tamura H , Kagemagi J , Shimizu T , Ishii S , Sugihara H , Oikawa S : Ghrelin stimulates GH but not food intake in arcuate nucleus ablated rats . *Endocrinology* 2002 ; 143 ( 9 ) : 3268-3275 .
- 14 ) Fujimori S , Kishida T , Mitsui K , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Tanaka S , Tatsuguchi A , Sato J , Yokoi K , Tanaka N<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Sakamoto C , Kobayashi M ( <sup>1)</sup> First Dept. of Surgery , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology ): Influence of alcohol consumption on the association between serum lipids and colorectal adenomas . *Scand J Gastroenterol* 2002 ; 1309-1312 .
- 15 ) Ogata K , Nakamura K , Yokose N , Tamura H , Tachibana M , Taniguchi O<sup>1)</sup> , Iwakiri R<sup>2)</sup> , Hayashi T<sup>3)</sup> , Sakamaki H<sup>4)</sup> , Murai Y<sup>5)</sup> , Tohyama K<sup>6)</sup> , Tamoyasu S<sup>7)</sup> , Nonaka Y<sup>3)</sup> , Mori M<sup>2)</sup> , Dan K , Yoshida Y<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Otsuka Assay Laboratories , <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital , <sup>3)</sup> Tokyo Metropolitan Police Hos-

- pital, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>5)</sup> Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital, <sup>6)</sup> Kyoto University, <sup>7)</sup> Showa University, <sup>8)</sup> Takeda Hospital): Clinical significance of phenotypic features of blasts in patients with myelodysplastic syndrome. *Blood* 2002; 100 (12): 3887-3896.
- 16) Fujimori S, Kishida T, Uchida N, Ohiso G, Kotoyori M, Yoshizawa M, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> First Dept. of Surgery ): Changes in endoscopic findings of primary aortoduodenal fistula. *Digestive Endoscopy* 2002; 14: 178-180.
- 17) Yamaguchi H, Inokuchi K, Dan K: The study for loss of bcl-xs expression as a prognostic factor in acute myeloid leukemia. *Leukemia Research* 2002; 26 (12): 1119-1123.
- 18) Ishii S, Kamegai J, Tamura H, Shimizu T, Sugihara H, Oikawa S: Role of ghrelin in streptozotocin-induced hyperphagia. *Endocrinology* 2002; 143 (12): 4934-4937.
- 19) Matsuzaki M<sup>1)</sup>, Kita T<sup>1)</sup>, Mabuchi H<sup>1)</sup>, Matsuzawa Y<sup>1)</sup>, Nakayama N, Oikawa S, Saito Y<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Shimamoto K<sup>1)</sup>, Itakura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J-LIT Study Group ): Large scale cohort study of the relationship between serum cholesterol concentration and coronary events with low-dose simvastatin therapy in Japanese patients with hypercholesterolemia-Primary prevention cohort study of the Japan Lipid Intervention Trial. (*J-LIT*) - *Circ J* 2002; 66 (12): 1087-1095.
- 20) Mabuchi H<sup>1)</sup>, Kita T<sup>1)</sup>, Matuzaki M<sup>1)</sup>, Matsuzawa Y<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>1)</sup>, Oikawa S, Saito Y<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Shimamoto K<sup>1)</sup>, Itakura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J-LIT Study Group ): Large scale cohort study of the relationship between serum cholesterol concentration and coronary events with low-dose simvastatin therapy in Japanese patients with hypercholesterolemia-Secondary prevention cohort study of the Japan Lipid Intervention Trial. (*J-LIT*) - *Circ J* 2002; 66 (12): 1096-1100.
- 21) Fujimori S, Kishida T, Mitsui K, Seo T, Yonezawa M, Shibata Y, Shinozawa I, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sato J, Yoshida Y, Yokoi K, Tanaka N, Ohaki Y, Sakamoto C, Kobayashi M: Mean corpuscular volume (MCV) and the risk of colorectal adenoma in menopausal women. *Hepato-Gastroenterology* 2003; 50 (3): 392-395.
- 22) 藤田宏子, 竹田普浩, 池崎 浩, 四維東州, 二神生爾, 小川 龍, 田中啓治: Still病による多臓器不全に血球貪食症候群を併発した1症例. *J Jpn Soc Intensive Care Med* 2002; 9: 415-416.
- 23) 榎原義之, 金沢秀典, 長田祐二, 吉本 均, 坂本長逸, 小林正文: 難治性腹水に対する経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) の長期治療成績. *日本消化器病学会雑誌* 2002; 99 (5): 474-482.
- 24) 平塚哲郎, 二神生爾, 辰口篤志, 津久井拓, 鈴木健司, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 篠木 啓, 赤松知憲, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸: マウスを用いた胃虚血再灌流実験におけるCOX-2蛋白誘導と胃粘膜傷害の検討. *実験潰瘍* 2002; 29 (1): 49-53.
- 25) 津久井拓, 鈴木健司, 平塚哲郎, 辰口篤志, 横瀬紀夫, 三宅一昌, 吉野槇一, 坂本長逸: 全身性エリテマトーデスの経過中に発症した胃悪性リンパ腫の1例. *Modern Physician* 2002; 22 (6): 795-798.
- 26) 石井新哉, 芝崎 保<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理第2 ): レチノール酸はクッシング病の治療に有効か. *内分泌・糖尿病科* 2002; 14 (6): 641-643.
- 27) 岩切勝彦, 琴寄 誠, 林 良紀, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸: 画像を診る: 鑑別診断のポイント: 食道アカラシア. *消化器の臨床* 2002; 5 (4): 466-469.
- 28) 渡辺伸一郎<sup>1)</sup>, 三輪 剛<sup>2)</sup>, 白井孝之<sup>2)</sup>, 山下克子<sup>3)</sup>, 大川真一郎<sup>4)</sup>, 三輪洋人<sup>5)</sup>, 田辺 聡<sup>6)</sup>, 中村孝司<sup>7)</sup>, 坂本長逸, 高橋 寛<sup>8)</sup>, 住野泰清<sup>9)</sup>, 高橋信一<sup>10)</sup>, 織野彬雄<sup>11)</sup>, 森 治樹<sup>12)</sup>, 佐竹儀治<sup>13)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学, <sup>2)</sup> 東海大学, <sup>3)</sup> 東京女子医科大学成人医学センター, <sup>4)</sup> 東京女子医科大学第二病院, <sup>5)</sup> 順天堂大学, <sup>6)</sup> 北里大学東病院, <sup>7)</sup> 帝京大学市原病院, <sup>8)</sup> 昭和大学藤が丘病院, <sup>9)</sup> 東邦大学大森病院, <sup>10)</sup> 杏林大学, <sup>11)</sup> 先端医療センター診療所, <sup>12)</sup> 医療法人社団樹康会荻窪胃腸クリニック, <sup>13)</sup> 田坂記念クリニック ): EP831 (ファモチジン

配合剤)の胃炎症状に対する臨床試験成績. 新薬と臨床 2002 ; 51 ( 11 ): 1101-1113 .

(2) 綜説 :

- 1) Sakamoto C : STAT1 and STAT3 might be regulated differently in esophageal squamous cell carcinoma ( Editorial ). J Gastroenterol 2002 ; 37 ( 7 ): 575-577 .
- 2) 山田 隆, 檀 和夫 : 他の病気に伴う貧血の注意点 . からだの科学 2002 ; 222 : 76-79 .
- 3) 三宅一昌, 坂本長逸 : 再出血を防ぐために : 選択的COX-2阻害剤はどこまで有効か . 消化器の臨床 2002 ; 5 ( 2 ): 174-179 .
- 4) 岡島史宜, 及川眞一 : 高コレステロール血症の治療 . medicina 2002 ; 39 ( 4 ): 1-1 .
- 5) 小竹英俊, 及川眞一 ( <sup>1</sup> ) 東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ) : HDL-コレステロール低値の改善策・薬物療法 ( 開発中の薬物を含む ). Progress in Medicine 2002 ; 22 ( 4 ): 983-987 .
- 6) 田村秀樹, 及川眞一 : 糖尿病の輸液と注意 . 臨床看護 2002 ; 28 ( 6 ): 970-976 .
- 7) 小竹英俊 <sup>1)</sup> , 及川眞一 ( <sup>1</sup> ) 東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ) : CETPと治療 . 内科 2002 ; 89 ( 5 ): 898-901 .
- 8) 小竹英俊 <sup>1)</sup> , 及川眞一 ( <sup>1</sup> ) 東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ) : 各スタチンの特徴と使い分け . 治療学 2002 ; 36 ( 6 ): 487-490 .
- 9) 及川眞一 : 心血管イベント予防を念頭にいた糖尿病患者における脂質管理の意義とその考え方 . Therapeutic Research 2002 ; 23 ( 5 ): 1045-1051 .
- 10) 小竹英俊 <sup>1)</sup> , 及川眞一 ( <sup>1</sup> ) 東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ) : スタチンの免疫抑制作用 . BIO Clinica 2002 ; 17 ( 6 ): 537-541 .
- 11) 三宅一昌, 坂本長逸 : *H. pylori*除菌後の胃, 十二指腸粘膜傷害におけるH2-blockerの効果 . 消化器科 2002 ; 35 ( 1 ): 76-83 .
- 12) 岡島史宜, 及川眞一 : アポリポ蛋白E異常と臓器障害 . 高脂血症と動脈硬化 2002 ; 別冊 : 76-81 .
- 13) 和田 謙, 坂本長逸 : インターロイキン-1 刺激によるヒト胃線維芽細胞とMKN28胃癌細胞のEGF受容体およびTGF- $\beta$  発現調節に関する検討 . Progress in Medicine 2002 ; 22 ( 8 ): 2030-2033 .
- 14) 檀 和夫 : 形態診断でここまでわかる : 不応性貧血診断のこつ . Medical Practice 2002 ; 19 ( 8 ): 1295-1298 .
- 15) 二神生爾, 平塚哲郎, 津久井拓, 坂本長逸 : *Helicobacter pylori*感染とT細胞 . Journal of Helicobacter Research 2002 ; 6 ( 5 ): 365-369 .
- 16) 横瀬紀夫, 檀 和夫 : 慢性リンパ性白血病と関連疾患 . 臨床検査 2002 ; 46 ( 11 ): 1231-1233 .
- 17) 坂本長逸 : 診療の実際 : 慢性胃炎 . 臨床と研究 2002 ; 79 ( 11 ): 1923-1927 .
- 18) 及川眞一 : 大血管症を中心に . 今月の治療 2002 ; 10 ( 11 ): 1221-1223 .
- 19) 小竹英俊 <sup>1)</sup> , 及川眞一 ( <sup>1</sup> ) 東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科 ) : 慢性疾患と心身医療 . 糖尿病 , medicina 2002 ; 39 : 2083-2086 .
- 20) 城所秀子, 及川眞一 : ニコチン系薬剤 . medicina 2002 ; 39 ( 11 ): 206-207 .
- 21) 坂本長逸 : 境界領域 - 知っておきたい : COX-2 . 臨床整形外科 2002 ; 37 ( 12 ): 1442-1443 .
- 22) 檀 和夫 : 成人の特発性血小板減少性紫斑病 : 血液疾患のクリニカルパス . 血液フロンティア 2002 ; 12 ( 12 ): 109-116 .
- 23) 坂本長逸 : COX-2阻害薬の現状とこれから . Medical Science Digest 2003 ; 29 ( 1 ): 13-15 .
- 24) 篠木 啓, 津久井拓, 坂本長逸 : COX-2阻害薬の新展開 : NSAIDによる潰瘍発症機序 : COX-2阻害薬で胃粘膜傷害は減少する . Medical Science Digest 2003 ; 29 ( 1 ): 32-35 .
- 25) 坂本長逸 : NSAID潰瘍の実態と予防・治療 . 骨・関節・靭帯 2003 ; 16 ( 1 ): 91-98 .
- 26) 辰口篤志, 坂本長逸 : 潰瘍性大腸炎の炎症としての特徴 . Modern Physician 2003 ; 23 ( 1 ): 27-32 .
- 27) 田近賢二 : 21世紀の造血細胞移植 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 62-65 .

- 28) 岡島史宜, 及川眞一: リポ蛋白系球体症. *Medical Practice* 2003; 20(1): 105-109.
- 29) 坂本長逸: NSAIDsによる胃粘膜傷害とCOX-2の役割. *J Nippon Med Sch* 2003; 70(1): 5-11.
- 30) 津久井拓, 三浦崇幣, 篠木 啓, 進士陽子, 竹山裕樹, 和田 謙, 西垣 均, 辰口篤志, 二神生爾, 三宅一昌, 溝上裕士, 坂本長逸: 培養胃癌細胞株におけるシクロオキシゲナーゼ-2発現と血管内皮細胞増殖因子. *Progress in Medicine* 2003; 23(3): 851-853.

(3) グラビア:

- 1) 緒方清行: 骨髄異形成症候群: 前白血病. *J Nippon Med Sch* 2003; 70(1): 2-3.

(4) 症例報告:

- 1) 猪口孝一, 中山一隆, 緒方清行, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 平山悦之<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 檀 和夫, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>5)</sup>, 青木見佳子<sup>6)</sup>, 弦間昭彦<sup>7)</sup>, 吉村明修<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>病理第2, <sup>4)</sup>付属病院病理部, <sup>5)</sup>内科第2, <sup>6)</sup>皮膚科学, <sup>7)</sup>内科第4): 皮膚病変増悪と食道癌の合併がみられ, 急転の転帰をとった成人T細胞性白血病例. *内科* 2001; 88(3): 551-562.

著 書

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Wada K, Tatsuguchi A, Tsukui T, Miyake K, Shinji Y, Iizumi T, Shinoki K, Akamatsu T, Hosone M<sup>1)</sup>, Sakamoto C (<sup>1)</sup>Department of Pathology): Interrelations of nonsteroidal anti-inflammatory drugs, *H. pylori* infection, and gastric damage. *Trends in Gastroenterology Hepatology*, 2002; pp242-245.
- 2) 岸田輝幸: [分担] 抗菌薬起因性大腸炎. *消化器ナビゲーター*, 2002; pp142-143, メディカルレビュー社.
- 3) 坂本長逸: [分担] アラキドン酸カスケード. *消化器ナビゲーター*, 2002; pp36-37, メディカルレビュー社.
- 4) 坂本長逸: [分担] PGの胃粘膜保護作用のメカニズムとCOXとの関係について解説して下さい. これだけは知っておきたい-アラキドン酸カスケードQ&A, 2002; pp96-97, 医薬ジャーナル社.
- 5) 西垣 均, 坂本長逸: [分担] 疾患に応じたプロトンポンプ阻害薬の投与期間, 至適投与量決定の根拠. *プロトンポンプ阻害薬のすべて*, 2002; pp97-104, 先端医学社.
- 6) 檀 和夫: [分担] 特発性血小板減少性紫斑病に対する*H. pylori*除菌療法について. *EBM血液疾患の治療*(押味和夫, 他), 2002; pp514-518, 中外医学社.
- 7) 檀 和夫: [分担] 巨赤芽球性貧血. *今日の診断指針*(亀山正邦, 他), 2002; pp1036-1038, 医学書院.
- 8) 和田 謙, 坂本長逸: [分担] erbB-2遺伝子. *TECHNICAL TERM消化管*, 2002; pp14-15, 先端医学社.
- 9) 辰口篤志, 坂本長逸: [分担] シクロオキシゲナーゼ-2. *TECHNICAL TERM消化管*, 2002; pp68-69, 先端医学社.
- 10) 津久井拓, 坂本長逸: [分担] PCR法/RT-PCR法. *TECHNICAL TERM消化管*, 2002; pp122-123, 先端医学社.
- 11) 檀 和夫: [分担] 自己免疫性溶血性貧血. *今日の治療指針* 2003(山口 徹, 他), 2003; pp441-443, 医学書院.
- 12) 天野康雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 天野成子<sup>1)</sup>, 田近賢二, 織内 昇<sup>1)</sup>, 遠藤啓吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): [共著] 総論IV 診断4. 画像診断. *みんなに役立つ悪性リンパ腫の基礎と臨床*(押味和夫), 2003; pp104-111, 医薬ジャーナル社.
- 13) 三宅一昌, 小林正文: [分担] 慢性胃炎. *消化器疾患最新の治療2003-2004*, 2003; pp123-126, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Tatsuguchi A, Suzuki K, Kusunoki M, Shinji Y, Shinoki K, Iizumi T, Aka-

matsu T, Nishigaki H, Wada K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C: MCP-1 released from *H. pylori*-stimulated MKN-28 cells induces COX-2 expression in T cells. The 8th Japanese Society for Helicobacter Research, 2002. 6.

- 2) 及川眞一: 特別な管理を要する糖尿病・肥満. 第37回糖尿病学の進歩, 2002. 2.
- 3) 三宅一昌, 辰口篤志, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸: *H. Pylori*除菌後の胃, 十二指腸粘膜障害におけるH2 blockerの効果. 第6回壁細胞研究会, 2002. 4.
- 4) 岡島史宜, 栗原美樹子, 谷村恭子, 及川眞一: 脂質とインスリン分泌・作用の相互関係(酸化LDLによるインスリン分泌障害). 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 5) 矢島宏昭<sup>1)</sup>, 近藤恵二<sup>1)</sup>, 及川眞一( <sup>1)</sup>キリンビール株式会社基盤技術研究所): 脂質とインスリン分泌・作用の相互関係(イソフロン類のインスリン抵抗性改善作用). 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 6) 二神生爾, 平塚哲郎, 鈴木健司, 津久井拓, 坂本長逸: NSAID胃粘膜障害に及ぼす, *H. pylori*感染の役割. ヘリコバクターフォーラム, 2002. 9.
- 7) 及川眞一: マルチプルリスクファクター症候群の1部分症としての糖尿病性マクロアングイオパシー(糖尿病性マクロアングイオパシーへの合同委員会からの提言). 第17回日本糖尿病合併症学会, 2002. 10.
- 8) 緒方清行: Blastretrieverを用いた臨床検体からの芽球分離: その適用と意義について(血液検査の新しい流れ). 第49回日本臨床検査医学会総会, 2002. 11.

#### (2) パネルディスカッション:

- 1) Miyake K<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Suzuki N<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Suppression of granulocytosis and thrombocytosis by systemic antiangiogenic gene therapy for myeloproliferative disorders induced by P230 Bcr-Abl in transgenic mice. 44th annual meeting of American Association of Hematology ( Philadelphia ), 2002. 12.
- 2) 稲見光春, 山口博樹, 足澤美樹, 中村弘之, 中山一隆, 松岡弘樹, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: Masked-variantPML/RAR 融合遺伝子を有し, 長期寛解を維持しているAPLの症例の遺伝子解析. 第64回日本血液学会総会, 2002. 9.
- 3) 守屋慶一, 横瀬紀夫, 中山一隆, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: G-CSF産生Hodgkinリンパ腫. 第44回日本臨床血液学会総会, 2002. 9.
- 4) 内田直也, 稲見光春, 渡邊綾子, 橘美紀子, 中山一隆, 中村恭子, 横瀬紀夫, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: MDSから移行したdouble Ph陽性旧制白血病の1例. 第44回日本臨床血液学会総会, 2002. 9.

#### (3) ワークショップ:

- 1) 津久井拓, 坂本長逸: COX-II阻害剤の胃粘膜におよぼす影響. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002. 4.
- 2) 猪口孝一, 内田直也, 本田浩章<sup>2)</sup>, 平井久丸<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 檀 和夫( <sup>1)</sup>日本医科大学大学生化学第2, <sup>2)</sup>広島大学原爆放射線医科学研究所組織再生制御研究分野, <sup>3)</sup>東京大学無菌治療部): P230bcr/ablトランスジェニック(Tg)マウスの作成. 第64回日本血液学会総会, 2002. 9.
- 3) 猪口孝一, 檀 和夫, 本田浩章<sup>1)</sup>, 平井久丸<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>広島大学原爆医科学研究所組織再生制御研究分野, <sup>2)</sup>東京大学医学部無菌治療部, <sup>3)</sup>日本医科大学大学生化学第2): P230bcr/ablトランスジェニック(Tg)マウス作製と解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 4) 小野瀬裕之, 江本直也, 及川眞一: 血中脂質・肥満(糖尿病患者におけるBMIの変化率と代謝因子の関係: 糖尿病治療法別の検討). 第17回日本糖尿病合併症学会, 2002. 10.
- 5) 小野千速, 岡島史宜, 谷村恭子, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一: 小児におけるアディポサイトカインと各種代謝因子の相関. 第17回日本糖尿病合併症学会, 2002. 10.

#### (4) プレナリーセッション:

- 1) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸: PPI治療後逆流性食道炎(RE)

の食道運動機能からみたREの治療戦略．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．

(5) 一般講演：

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Suzuki K, Tatsuguchi A, Shinji Y, Shinoki K, Miyake K, Wada K, Tsukui T, Sakamoto C : Cytokines including MCP-1 from gastric epithelial cells are involved in T-cell activation via COX-2 expression . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 2) Hiratsuka T, Futagami S, Tatsuguchi A, Suzuki K, Kusunoki M, Shinji Y, Shinoki K, Nishigaki H, Wada K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : Rebamipide reduces gastric ischemia-reperfusion injury via inhibiting ICAM-1 expression in mice . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 3) Nishigaki H, Wada K, Sueoka N, Tatsuguchi A, Kusunoki M, Shinji Y, Suzuki K, Shinoki K, Hiratsuka T, Futagami S, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : Expression of erbB-2 and erbB-3 protein in specialized columnar epithelium in Barrett's esophagus . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 4) Shinoki K, Tsukui T, Tatsuguchi A, Miura S, Shinji Y, Hiratsuka T, Nishigaki H, Futagami S, Wada K, Miyake K, Sakamoto C : Basic fibroblast growth factor ( bFGF ) enhances the expression of vascular endothelial growth factor ( VEGF ) through induction of cyclooxygenase-2 in gastric fibroblasts derived from gastric ulcer patients . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 5) Tanaka S, Tatsuguchi A, Futagami S, Wada K, Yonezawa M, Nagata K, Shibata Y, Sato J, Miyake K, Tsukui T, Kishida T, Sakamoto C : Possible involvement of MCP-1 in macrophage COX-2 expression of human colonic adenoma . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 6) Wada K, Kusunoki M, Nagata K, Tatsuguchi A, Futagami S, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : Induction of transforming growth factor- and epidermal growth factor receptors by Interleukin-1 in MKN28 gastric cancer cells and human gastric fibroblasts . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 7) Wei-Hao C<sup>1)</sup>, Iwakiri K, Rachael R<sup>1)</sup>, Richard H H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal Medicine, Royal Adelaide Hospital, Australia ): Electrical stimulation at the upper gastrointestinal acupoint ( Neiguan ) inhibits transient lower esophageal sphincter relaxations . The 103th Meeting of the American Gastroenterological Association ( San Francisco, USA ), 2002 . 5 .
- 8) Park S<sup>1)</sup>, Kamegai J, Kineman RD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of Illinois at Chicago ): Dexamethazone inhibits pituitary expression of the somatostatin ( SRIF ) receptor subtypes, sst2 and sst3, in vivo and in vitro . The 84th Annual Meeting, The Endocrine Society ( San Francisco ), 2002 . 6 .
- 9) Kamegai J, Shimizu T, Tamura H, Ishii S, Kidokoro Y, Shuto Y, Sugihara H, Oikawa S, Park S<sup>1)</sup>, Frohman LA<sup>1)</sup>, Kineman RD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, University of Illinois at Chicago ): The role of pituitary ghrelin in growth hormone secretion . The 84th Annual Meeting, The Endocrine Society ( San Francisco ), 2002 . 6 .
- 10) Inokuchi K, Dan K, Uchida N, Inami M, Tarusawa M, Yamaguchi H, Miyake K, Honda H, Hirai H, Shimada T ( <sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Dept. of Developmental Biology, Division of Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University , <sup>3)</sup> Dept. of Hematology/Oncology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo ): Novel transgenic mice express-



ing P230 Bcr-Abl developed myeloproliferative disease closely resembling human CML . 44th Annual meeting of American Society of Hematology ( Philadelphia ), 2002 . 12 .

- 11) Kidokoro Y, Sato N<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Kasagami Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Kameyama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Coronary Care Unit, <sup>2)</sup> 1st Department of Medicine ): Clinical characteristics of acute heart failure with and without improvements of mitral regurgitation . 日本循環器学会, 2002 . 4 .
- 12) 岩切勝彦: Acidity in proximal stomach between patients with reflux disease and controls . 第70回日本医科大学医学学会総会, 2002 . 9 .
- 13) Futagami S: C-C chemokines released from Helicobacter pylori-stimulated MKN-28 cells stimulated proliferation and cyclooxygenase-2 expression in T cells . CRG/AGA symposium , 2002 . 12 .
- 14) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 林 良紀, 石川久木, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 多方向LES圧測定による最低LES圧と重症逆流性食道炎( RE ) の関連について . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 15) 林 良紀, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 食道運動機能に及ぼす加齢の影響 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 16) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 石川久木, 三宅一昌, 津久井拓, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 十二指腸潰瘍( DU ) 患者における *Helicobacter pylori* 除菌前後の食道内圧検査所見 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 17) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: nutcracker esophagusの症状の違いによる食道内圧検査所見の違い . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 18) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 長田祐二, 中塚雄久, 名知志子, 小泉信人, 斎藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: アンギオテンシンII受容体拮抗剤( ロサルタン ) の門脈圧に及ぼす影響 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 19) 和田 謙, 楠 正典, 永田和弘, 西垣 均, 辰口篤志, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: Interleukin ( IL ) -1 によるヒト胃線維芽細胞とMKN28胃癌細胞のTGF- $\beta$  発現調節に関する検討 . 第88回日本消化器病学会, 2002 . 4 .
- 20) 藤森俊二, 岸田輝幸, 関田祥久, 大磯義一郎, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中周, 辰口篤志, 佐藤 順, 吉田 豊, 横井公良, 田中宣威, 坂本長逸, 小林正文: 常習飲酒者の大腸腺腫の有無と血清総コレステロールとの関係に対する検討 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 21) 篠木 啓, 津久井拓, 三浦崇幣, 和田 謙, 進士陽子, 鈴木健司, 楠 正典, 飯泉 匡, 竹山裕樹, 平塚哲郎, 赤松知憲, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸, 小林正文: 塩基性胃線維芽細胞増殖因子は培養ヒト胃線維芽細胞における血管内皮細胞増殖因子の発現を誘導する . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 22) 竹山裕樹, 津久井拓, 和田 謙, 辰口篤志, 篠木 啓, 平塚哲郎, 三浦崇幣, 進士陽子, 鈴木健司, 楠 正典, 飯泉 匡, 西垣 均, 二神生爾, 三宅一昌, 溝上裕士, 坂本長逸, 小林正文: 胃線維芽細胞, および, 血管内皮細胞におけるPGE2によるICAM-1の発現調節 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 23) 平塚哲郎, 二神生爾, 辰口篤志, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 飯泉 匡, 篠木 啓, 赤松知憲, 三宅一昌, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: 胃の虚血灌流傷害におけるICAM-1発現に対するRebamipideの影響 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 24) 鈴木健司, 二神生爾, 平塚哲郎, 辰口篤志, 楠 正典, 進士陽子, 篠木 啓, 赤松知憲, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: *H. pylori* water-extractにより胃粘膜上皮から誘導されるMCP-1とIL-8の比較検討 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 25) 二神生爾, 平塚哲郎, 鈴木健司, 辰口篤志, 楠 正典, 篠木 啓, 進士陽子, 西垣 均, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: *H. pylori* water-extractにより胃粘膜上皮から誘導されるMCP-1とT cell由来のCOX-2発現 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .

- 26) 辰口篤志, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 佐藤 順, 藤森俊二, 山門 進, 岸田輝幸, 坂本長逸, 小林正文: 大腸腺腫における  $\beta$ -catenin, cyclin D1, COX-2免疫組織学的局在. 第88回日本消化器病学会総会, 2002. 4.
- 27) 楠 正典, 永田和弘, 和田 謙, 辰口篤志, 西垣 均, 坂本長逸, 小林正文: Intestinal metaplasiaにおける erbB2, 3の発現の検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002. 4.
- 28) 西垣 均, 和田 謙, 末岡伸夫, 辰口篤志, 坂本長逸, 小林正文: 食道バレット上皮 (BE) の特殊円柱上皮 (SCE) における erbB-2, 3の発現についての検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002. 4.
- 29) 三浦崇幣, 溝上裕士, 津久井拓, 坂本長逸, 松岡 健: ヒト胃線維芽細胞での VEGF 産生における COX-2の役割. 第149回東京医科大学医学会総会, 2002. 5.
- 30) 関田祥久, 柴田喜明, 角岡真帆, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 津久井拓, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科第1): 術前の小腸内視鏡検査で出血源を同定し得た多発腸管動脈奇形の1例. 第269回日本消化器病学会関東支部例会, 2002. 5.
- 31) 小野瀬裕之, 江本直也, 及川眞一: BMIの変化率と代謝因子. 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 32) 谷村恭子, 岡島史宜, 栗原美樹子, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: 臍 細胞における各種リポ蛋白取り込み能について. 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 33) 栗原美樹子, 岡島史宜, 谷村恭子, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: HIT細胞のインスリン分泌能における過酸化脂質の影響. 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 34) 周東祐仁, 岡島史宜, 谷村恭子, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: 砂糖消費と代謝因子. 第45回日本糖尿病学会総会, 2002. 5.
- 35) 江本直也, 城所 葉, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 及川眞一, 豊田亜希子<sup>2)</sup>, 豊田英尚<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学外科第2, <sup>2)</sup>千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室): 高感度微量解析法を用いた甲状腺乳頭癌で消失している FGF - 2結合性ヘパラン硫酸の構造解析. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 5.
- 36) 柴田喜明, 田中 周, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 篠澤 功, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 三宅一昌, 津久井拓, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸, 小林正文, 杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理第2): 大腸原発 MALT リンパ腫の1例. 第74回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 6.
- 37) 石井新哉, 亀谷 純, 田村秀樹, 岡島史宜, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: ストレプトゾトシン (STZ) ラットの diabetic hyperphagia におけるグレリンの役割. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 38) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一: 下垂体グレリンの遺伝子発現におよぼす絶食の効果. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 39) 周東祐仁, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: アディポネクチンと代謝因子: 八丈島町民健診から. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 40) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: 下垂体グレリンに関する検討. 第29回日本神経内分泌学会, 2002. 6.
- 41) 石井新哉, 亀谷 純, 田村秀樹, 杉原 仁, 及川眞一: 甲状腺中毒症ラットの摂食亢進におけるグレリンの役割. 第29回日本神経内分泌学会, 2002. 6.
- 42) 岡島史宜, 周東祐仁, 谷村恭子, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: アディポネクチンと年齢の及ぼす影響: 八丈島町民健診から. 第44回日本老年医学会, 2002. 6.
- 43) 城所 葉, 江本直也, 小野瀬裕之, 杉原 仁, 清水一雄<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup>外科第2): 甲状腺乳頭癌におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の解析. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 44) 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 坂本長逸: 20 channel topographical esophageal manometry (TEM) による食道運動機能の評価 (第1報). 第44回日本平滑筋学会総会, 2002. 7.

- 45) 瀬尾継彦, 鈴木健司, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 津久井拓, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: 中毒性表皮壊死症 (TEN) に合併した下部消化管粘膜傷害の1症例. 270回日本消化器病学会関東支部例会, 2002. 7.
- 46) 石垣 泰<sup>1)</sup>, 及川眞一, 鴫田克久<sup>1)</sup>, 関川明宏<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>1)</sup>, 岡 芳知<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学分野): 糖尿病性腎症の発症におけるLp(a)フェノタイプの検討. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 47) 小竹英俊<sup>1)</sup>, 岡島史宜, 谷村恭子, 栗原美樹子, 及川眞一(<sup>1)</sup>JT 仙台健康管理センター): 運動習慣のアディポサイトカイン分泌に与える影響の検討. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 48) 関川明宏<sup>1)</sup>, 石垣 泰<sup>1)</sup>, 鴫田克久<sup>1)</sup>, 小竹英俊<sup>1)</sup>, 岡 芳知<sup>1)</sup>, 白幡康弘<sup>2)</sup>, 大河内弘信<sup>2)</sup>, 里見 進<sup>2)</sup>, 岡島史宜, 及川眞一(<sup>1)</sup>東北大学大学院分子代謝病態学, <sup>2)</sup>同先進外科学): 家族性高コレステロール血症ホモ接合体に対する生体肝移植の1例. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 49) 三浦 裕<sup>1)</sup>, 小山田千秋<sup>1)</sup>, 細野麻友<sup>1)</sup>, 金成繁太<sup>1)</sup>, 小田井英陽<sup>1)</sup>, 近藤恵二<sup>1)</sup>, 及川眞一(<sup>1)</sup>キリンビール株式会社基盤技術研究所): ビール苦み成分の脂質代謝改善効果について. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 50) 谷村恭子, 周東祐仁, 岡島史宜, 城所 葉, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: アディポネクチンに対する男女差と代謝因子の及ぼす影響: 八丈島検診から. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 51) 高木 承<sup>1)</sup>, 尾花伸哉<sup>1)</sup>, 鴫田克久<sup>2)</sup>, 関川明宏<sup>2)</sup>, 石垣 泰<sup>2)</sup>, 高橋成一<sup>1)</sup>, 木内喜孝<sup>1)</sup>, 及川眞一, 下瀬川徹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院消化器病態学, <sup>2)</sup>同分子代謝病態学): 高脂血症及び糖尿病患者における末梢血単球テロメア長と臨床因子との相関について. 第34回日本動脈硬化学会, 2002. 7.
- 52) 柴田喜明, 三宅一昌, 永田和弘, 田中 周, 辰口篤志, 津久井拓, 岸田輝幸, 坂本長逸, 杉崎祐一: 2nd lineによる*H. pylori*除菌療法成功後, 縮小した大腸原発 MALT リンパ腫の1例. 第19回文京消化器内視鏡研究会, 2002. 8.
- 53) 緒方清行, 中村恭子, 横瀬紀夫, 田村秀人, 橘美紀子, 谷口 脩<sup>1)</sup>, 岩切理歌<sup>2)</sup>, 林 達之<sup>3)</sup>, 坂巻 壽<sup>4)</sup>, 村井善郎<sup>5)</sup>, 通山 薫<sup>6)</sup>, 友安 茂<sup>7)</sup>, 野中泰延<sup>3)</sup>, 森眞由実<sup>2)</sup>, 檀 和夫, 吉田彌太郎<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>大塚アッセイ研究所, <sup>2)</sup>都立老人医療センター血液内科, <sup>3)</sup>東京警察病院内科, <sup>4)</sup>都立駒込病院血液内科, <sup>5)</sup>東京都多摩老人医療センター血液科, <sup>6)</sup>川崎医科大学検査診断学, <sup>7)</sup>昭和大学医学部血液内科, <sup>8)</sup>武田病院血液内科): 骨髄異形成症候群 (MDS) における芽球形質の臨床的意義: 新規芽球分離試薬を用いた解析. 日本血液学会総会, 2002. 9.
- 54) 田村秀人, 橘美紀子, 緒方清行, 横田 (恒次) 恭子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立感染症研究所免疫部): BCG感染による樹状細胞の活性化と細胞傷害性T細胞の誘導機構の解析. 日本血液学会総会, 2002. 9.
- 55) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 長田祐二, 中塚雄久, 名知志子, 黒田 肇, 坂本長逸: TIPSを施行した難治性腹水例の長期経過と病態の変化. 第9回日本門脈圧亢進症学会総会, 2002. 9.
- 56) 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 名知志子, 小泉信人, 中塚雄久, 金沢秀典, 黒田 肇, 坂本長逸: TIPS閉塞に対するバルン拡張術後に肝不全となり急死した腎不全合併肝硬変の1例. 第9回日本門脈圧亢進症学会総会, 2002. 9.
- 57) 鈴木健司, 三宅一昌, 宮田淳子, 楠 正典, 進士陽子, 平塚哲郎, 篠木 啓, 西垣 均, 辰口篤志, 二神生爾, 小泉信人, 津久井拓, 坂本長逸, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 消化管出血を契機に見えられた十二指腸球部原発Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) の1例. 第271回日本消化器病学会関東支部例会, 2002. 9.
- 58) 水木太郎, 田近賢二, 橋本充弘, 塩井由美子, 中村弘之, 中山一隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: Rituximabによるin vivo purging後, 自家末梢血幹細胞移植を施行したマントル細胞リンパ腫の2例. 第64回日本血液学会総会・第44回日本臨床血液学会総会, 2002. 9.
- 59) 中村弘之, 内田直也, 稲見光春, 橘美紀子, 足澤美樹, 橋本充弘, 塩井由美子, 水木太郎, 中山一隆, 中村恭子, 田村秀人, 横瀬紀夫, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 悪性リンパ腫患者におけるESHAP/ACES療法およびエトポシド単独投与後のG-CSFによる末梢血幹細胞動員. 第64回日本血液学会総

会・第44回日本臨床血液学会総会，2002．9．

- 60) 中山一隆，稲見光春，横瀬紀夫，中村弘之，水木太郎，橋本充弘，内田直也，中村恭子，緒方清行，猪口孝一，田近賢二，檀 和夫：治療抵抗性急性白血病に対し gemtuzumab ozogamicin ( Mylotarg ) を投与後に同種臍帯血移植を施行した1例．第64回日本血液学会総会・第44回日本臨床血液学会総会，2002．9．
- 61) 木村 祐，金沢秀典，滝 保彦，榎原義之，間宮康貴，長田祐二，名知志子，小泉信人，吉本 均，中塚雄久，黒田 肇，坂本長逸：TIPS後肝性脳症の検討．第6回日本肝臓学会大会，2002．10．
- 62) 津久井拓，篠木 啓，三浦崇幣，進士陽子，鈴木健司，楠 正典，飯泉 匡，平塚哲郎，永田和弘，赤松知憲，辰口篤志，西垣 均，二神生爾，和田 謙，溝上裕士<sup>1)</sup>，三宅一昌，坂本長逸<sup>(1)</sup>東京医大5内): 培養胃癌細胞株における血管内皮増殖因子 ( VEGF ) 産生とシクロオキシゲナーゼ ( COX ) ．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 63) 小泉信人，中塚雄久，金沢秀典，厚川正則，木村 祐，滝 保彦，榎原義之，間宮康貴，長田祐二，名知志子，吉本 均，黒田 肇，坂本長逸：門脈圧亢進症胃症 ( PHG ) にみられる Mosaic-like pattern ( MLP ) の重症度と門脈圧変動の関連について．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 64) 名知志子，金沢秀典，中塚雄久，小泉信人，吉本 均，長田祐二，間宮康貴，榎原義之，滝 保彦，木村 祐，斎藤 整，厚川正則，黒田 肇，坂本長逸：Octoreotideが肝硬変症例の門脈血流量へ及ぼす効果．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 65) 間宮康貴，金沢秀典，厚川正則，木村 祐，滝 保彦，榎原義之，長田祐二，小泉信人，中塚雄久，名知志子，黒田 肇，坂本長逸：TIPSが難治性腹水例の腎血行動態，神経内因子へ及ぼす効果．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 66) 中島 泰，岡島史宜，小野千速，谷村恭子，杉原 仁，及川眞一：小児におけるアディポサイトカインと各種代謝因子の相関．第23回日本肥満学会，2002．10．
- 67) 矢島宏昭<sup>1)</sup>，柳原恵美子<sup>1)</sup>，近藤恵二<sup>1)</sup>，笠岡宣代<sup>2)</sup>，江崎 治<sup>2)</sup>，江崎 治<sup>2)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>キリンビール株式会社基盤技術研究所，<sup>2)</sup> 国立健康・栄養研究所): ビール苦み成分の肥満抑制作用．第23回日本肥満学会，2002．10．
- 68) 二神生爾，平塚哲郎，鈴木健司，進藤智隆，辰口篤志，進士陽子，篠木 啓，赤松知憲，和田 謙，三宅一昌，津久井拓，坂本長逸： *H. pylori* water-extractにより胃粘膜上皮から誘導される MCP-1 と T cell由来の COX-2発現．第30回日本実験潰瘍学会，2002．11．
- 69) 城所 葉，江本直也，芦澤真代，小野瀬裕之，清水一雄<sup>1)</sup>，及川眞一<sup>(1)</sup>外科第2): サイログロブリンの甲状腺細胞増殖刺激作用．第39回日本甲状腺学会，2002．11．
- 70) 江本直也，城所 葉，芦澤真代，小野瀬裕之，清水一雄<sup>1)</sup>，及川眞一，豊田亜希子<sup>2)</sup>，豊田英尚<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学外科第2，<sup>2)</sup> 千葉大学大学院薬学研究院生体分析化学研究室): Basedow病甲状腺におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の特異性．第45回日本甲状腺学会，2002．11．
- 71) 林 良紀，岩切勝彦，琴寄 誠，杉浦敏昭，川上明彦，坂本長逸，牧野浩司<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，田尻孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 小児食道アカラシアの1例．第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2002．12．
- 72) 津久井拓，末岡伸夫，三宅一昌，楠 正典，進士陽子，鈴木健司，篠木 啓，平塚哲郎，永田和弘，西垣 均，二神生爾，猪口孝一，香川隆男，坂本長逸，杉崎祐一<sup>1)</sup>，白尾國昭<sup>2)</sup>，松野吉宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院病理部，<sup>2)</sup> 国立がんセンター中央病院消化器内科，<sup>3)</sup> 同臨床検査部): *Helicobacter pylori*除菌後経過観察中にT細胞性悪性リンパ腫の発症をみたB細胞性胃 MALT リンパ腫の1例．第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2002．12．
- 73) 片倉玲樹，榎原義之，吉澤徹哉，厚川正則，滝 保彦，間宮康貴，西垣 均，長田祐二，小泉信人，中塚雄久，金沢秀典，黒田 肇，坂本長逸：肝内 APシャントに対する TAE が奏功した肝硬変に合併する難治性腹水の1例．第272回日本消化器病学会関東支部例会，2002．12．

- 74) 篠木 啓, 津久井拓, 三浦崇幣, 進士陽子, 楠 正典, 鈴木健司, 平塚哲郎, 二神生爾, 和田 謙, 三宅一昌, 坂本長逸: 胃線維芽細胞による VEGF 産生に及ぼす bFGF の影響. 第 32 回創傷治癒学会, 2002. 12.
- 75) 佐野弘仁, 田村秀樹, 城所 葉, 岡島史宣, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一: 血糖コントロールに苦慮した一型糖尿病の 1 例. 第 40 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2003. 1.
- 76) 濱本達彦, 中塚雄久, 辰口篤志, 瀬尾継彦, 小泉信人, 城所 葉, 鈴木健司, 平塚哲郎, 永田和弘, 二神生爾, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸, 鈴木常道<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 島田安博<sup>2)</sup>, 二村聡<sup>3)</sup>, 下田忠和<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>2)</sup>国立がんセンター中央病院内科, <sup>3)</sup>同病理部): 胃内分泌細胞癌の 1 例. 第 273 回日本消化器病学会関東支部例会, 2003. 2.
- 77) 張本滉智, 田村秀樹, 守屋慶一, 岡島史宣, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 北川 亘<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup>外科第 2): 褐色細胞腫とパセドウ病の合併例. 第 3 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術総会, 2003. 2.
- 78) 瀧藤健太<sup>1)</sup>, 松谷 毅, 竹森 健, 田村秀樹, 岡島史宣, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一 (<sup>1)</sup>日本医科大学 5 年): 清涼飲料水ケトースिसにより心筋虚血を生じた高齢糖尿病の 1 例. 第 3 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術総会, 2003. 2.
- 79) 福田 健, 田中由理子, 石井新哉, 田村秀樹, 亀谷 純, 岡島史宣, 城所 葉, 横瀬紀夫, 杉原 仁, 檀 和夫, 及川眞一: メルカゾールによる再生不良性貧血. 第 13 回臨床内分泌代謝 Update, 2003. 3.
- 80) 中村純子, 石井新哉, 田村秀樹, 亀谷 純, 岡島史宣, 城所 葉, 杉原 仁, 沖 隆<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup>浜松医科大学第二内科): 生物活性の低い ACTH が疑れた副腎皮質機能低下症. 第 13 回臨床内分泌代謝 Update, 2003. 3.
- 81) 市川雅男<sup>1)</sup>, 江本直也, 朝倉禎史<sup>1)</sup>, 小木三郎<sup>1)</sup>, 五十嵐健治<sup>1)</sup>, 若月雅美<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 松澤一郎<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院産婦人科, <sup>2)</sup>同泌尿器科): 妊娠中期に診断されたクッシング症候群の 1 症例. 第 13 回内分泌代謝 Update, 2003. 3.

## 4. 内科学第四講座

### [ 付属病院呼吸器内科 ]

#### 研究概要

呼吸器疾患を対象に平成14年度に以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究：1) 特発性肺線維症 (IPF), 慢性過敏性肺臓炎, 膠原病関連肺疾患, 血管炎, サルコイドーシスなどについての症例検討報告, 2) IPF患者に対する高血糖の与える影響についての研究, 3) マクロライドの抗炎症作用を期待したIPFの急性増悪防止およびIPF合併肺癌の術後増悪防止に対する効果の検討, 4) IPFに対する抗線維化剤Pirfenidone臨床治験, NAC吸入試験 (全国共同研究), 5) 高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における患者指導に関する研究, テレメディスンによる病診連携, 6) 慢性閉塞性肺疾患患者と類瘦, 成長ホルモンの検討, 7) びまん性肺疾患の肺音の音響学的解析, 8) 咳嗽音の音響学的解析と咳カウンターの開発, 9) 離島における大気汚染と呼気中NOとの関係の研究, 10) 各種呼吸器疾患における呼気中NO濃度の検討, 11) 睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患との検討, 12) 肺癌化学療法 of 臨床的研究 [TXT+CDDP vs TXT+GEM (phase II), GEM+VNR (phase I), second line CBDCA+TXL (phase I), elderly GEM+VNR vs VNR (phase II), small cell lung cancer alternating therapy], 13) 遺伝子解析, 発現解析によるオーダーメイド治療, 14) 肺癌CT検診の意味。

基礎的研究：1) プレオマイシン誘発肺線維症モデルマウスを用いた肺傷害機序に関わる物質 (活性酸素種, メタロプロテアーゼなど) や接着分子の解明, 各段階を阻止しうる薬剤の検討, 2) インターフェロンの線維化抑制機序の解明, 3) 新規薬剤の実験的間質性肺炎抑制効果の検討, 4) DPB関連気道病変についての疾患感受性遺伝子の探求 (共同研究), マクロライド作用機序の解明, 5) 肺癌高転移能に関わる因子の単離, 6) 肺線維症の発癌メカニズムの分子生物学的検討, 7) 肺癌のオーダーメイド治療の基礎的研究, 8) 肺癌抑制遺伝子候補の単離, 9) イレッサ至適投与法の開発。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Miyamoto H<sup>1)</sup>, Sugawara I<sup>2)</sup>, Azuma A, Saito Y<sup>2)</sup>, Kohno N<sup>1)</sup>, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Department of Molecular and Internal Medicine, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University, <sup>2)</sup>Research Institute of Tuberculosis, Japan Antituberculosis Association ): Differential Secretion of Cytokines and Adhesion Molecules by HUVEC ; Stimulated with Low Concentrations of Bleomycin . Cellular Immunology 2002 ; 219 (2): 73-81 .
- 2) Saito Y, Azuma A, Kudoh S, Takizawa H<sup>1)</sup>, Sugawara I ( <sup>1)</sup> Tokyo Univasecsity ): Effects of Diesel Exhaust on Murine Alveolar Macrophages and a Macrophage Cell Line . Experimental Lung Research 2002 ; 28 (3): 201-217 .
- 3) Kobayashi K<sup>1)</sup>, Hino M<sup>1)</sup>, Fukuoka M<sup>1)</sup>, Takeuchi K<sup>1)</sup>, Furuse K<sup>1)</sup>, Yoneda S<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>1)</sup>, Noda K<sup>1)</sup>, Kinoshita H<sup>1)</sup>, Kimura I<sup>1)</sup>, Taguchi T<sup>1)</sup>, Kanamaru R<sup>1)</sup>, Horikoshi N<sup>1)</sup>, Niitani H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Respiratory Medicine, Saitama Cancer Center ): Phase I studies of nogitecan hydrochloride for Japanese . Int J Clin Oncol 2002 ; 7 (3): 177-186 .
- 4) Li Y, Azuma A, Takahashi S<sup>1)</sup>, Usuki J, Matsuda K, Aoyama A, Kudoh S ( <sup>1)</sup>Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba ): Fourteen-Membered Ring Macrolides Inhibit Vascular Cell Adhesion Molecule 1 Messenger RNA Induction and Leukocyte Migration\* Role in Preventing Lung Injury and Fibrosis in Bleomycin-Challenged Mice\* . Chest 2002 ; 122 (6): 2137-2145 .

- 5) Matsumoto T<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>1)</sup>, Morita S<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Shibuya M<sup>1)</sup>, Yamaji Y<sup>1)</sup>, Eguchi K<sup>1)</sup>, Fukuoka M<sup>1)</sup>, Nagao K<sup>1)</sup>, Niitani H<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>CPT-11 Lung Cancer Study Groups West and East): The quality of life questionnaire for cancer patients treated with anticancer drugs (QOL-ACD): Validity and reliability in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer. *Quality of Life Research* 2002; 11 (5): 483-493.
- 6) Saito Y, Azuma A, Kudoh S, Takizawa H<sup>1)</sup>, Sugawara I (<sup>1</sup>Tokyo University): Long-Term Inhalation of Diesel Exhaust Affects Cytokine Expression in Murine Lung Tissue: Comparison Between Low- and High-Dose Diesel Exhaust Exposure. *Experimental Lung Research* 2002; 28 (6): 493-506.
- 7) Xia C<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, Yuan X<sup>1)</sup>, Uematsu K<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Li K<sup>1)</sup>, Li L<sup>1)</sup>, McCormick F<sup>1)</sup>, Jablons DM<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Department of Surgery, Thoracic Oncology Laboratory, Comprehensive Cancer Center, University of California): Induction of Apoptosis in Mesothelioma Cells by Antisurvivin Oligonucleotides. *Molecular Cancer Therapeutics* 2002; 1 (9): 687-694.
- 8) Matsumoto N<sup>1)</sup>, Yoshizawa H<sup>1)</sup>, Kagamu H<sup>1)</sup>, Abe T<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Watanabe S<sup>1)</sup>, Kuriyama H<sup>1)</sup>, Ishiguro T<sup>1)</sup>, Tanaka J<sup>1)</sup>, Suzuki E<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Gejyo F<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Division of Respiratory Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences): Successful liquid storage of peripheral blood stem cells in UW solution at subzero non-freezing temperature. *Bone Marrow Transplantation* 2002; 30 (11): 777-784.
- 9) Seike M, Gemma A, Hosoya Y, Hosomi Y, Okano T, Kurimoto F, Uematsu K, Takenaka K, Yoshimura A, Shibuya M, Ui-Tei K, Kudoh S: The promoter region of the human BUBR1 gene and its expression analysis in lung cancer. *Lung Cancer* 2002; 38 (3): 229-234.
- 10) He B<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Uematsu K<sup>1)</sup>, Matsangou M<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, He M<sup>1)</sup>, McCormick F<sup>1)</sup>, Jablons DM<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Department of Surgery, Thoracic Oncology Laboratory, Comprehensive Cancer Center, University of California): Cloning and characterization of a functional promoter of the human SOCS-3 gene. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2003; 301 (2): 386-391.
- 11) Shinoda K, Shibuya M<sup>1)</sup>, Hibino S, Ono Y, Matsuda K, Takemura A, Zou D, Kokubo Y, Takechi A<sup>2)</sup>, Kudoh S (<sup>1</sup>Respiratory Division of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2</sup>Department of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Ohkubo Hospital): A novel matrix metalloproteinase (MMP) inhibitor, FYK-1388 suppresses tumor growth, metastasis and angiogenesis by human fibrosarcoma cell line. *Int J Oncol* 2003; 22 (2): 281-288.
- 12) He B<sup>1)</sup>, You L<sup>1)</sup>, Uematsu K<sup>1)</sup>, Matsangou M<sup>1)</sup>, Xu Z<sup>1)</sup>, McCormick F<sup>1)</sup>, Jablons D. M. <sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Department of Surgery, Thoracic Oncology Laboratory, Comprehensive Cancer Center, University of California): Cloning and characterization of a functional promoter of the human SOCS-3 gene. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2003; 301 (2): 386-391.
- 13) Kaneko Y<sup>1)</sup>, Floras JS<sup>1)</sup>, Usui K<sup>1)</sup>, Plante J<sup>1)</sup>, Tkacova R<sup>1)</sup>, Kubo T<sup>1)</sup>, Ando S<sup>1)</sup>, Bradley TD<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>University of Toronto): Cardiovascular Effects of Continuous Positive Airway Pressure in Patients with Heart Failure and Obstructive Sleep Apnea. *N Engl J Med* 2003; 348 (13): 1233-1241.
- 14) 森川哲行<sup>1)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>, 市野浩三<sup>1)</sup>, 菊岡健太郎<sup>1)</sup>, 石田安代<sup>1)</sup>, 打越 暁<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>横浜労災病院呼吸器科): 当院における肺癌患者の退院後職場復帰に関する検討. *日職災医誌* 2002; (50): 270-273.
- 15) 都築 関<sup>1)</sup>, 川田 博<sup>1)</sup>, 竹田雄一郎<sup>1)</sup>, 豊田恵美子<sup>1)</sup>, 小林信之<sup>1)</sup>, 工藤宏一郎<sup>1)</sup>, 大数加光治<sup>2)</sup>, 黒木啓久<sup>2)</sup>, 森田豊彦<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>国立国際医療センター病院呼吸器科, <sup>2</sup>同整形外科, <sup>3</sup>同病理部): 慢性関節リウマチとして約11ヶ月間ステロイド治療が行われた骨関節結核の1例. *結核* 2002; 77 (4): 361-366.
- 16) 都築 関<sup>1)</sup>, 川名明彦<sup>1)</sup>, 竹田雄一郎<sup>1)</sup>, 小林信之<sup>1)</sup>, 工藤宏一郎<sup>1)</sup>, 野村友清<sup>2)</sup>, 森田敬知<sup>2)</sup>, 森田豊彦<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>国立国際医療センター病院呼吸器科, <sup>2</sup>同呼吸器外科, <sup>3</sup>同病理部): 硬化性血管腫の診断に11C-Choline-

positron emission tomography が有用であった 1 例．日本呼吸器学会雑誌 2002；40（5）：402-407．

- 17) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，奈良道哉，工藤翔二（<sup>1</sup>）国立療養所晴嵐荘病院内科）：無治療経過中に陰影が多様な変化を示した続発性クリプトコッカス症の 1 例．日本呼吸器学会誌 2002；40（6）：489-493．
- 18) 李 英姫，吾妻安良太，白杵二郎，松田久仁子，青山昭徳，工藤翔二：プレオマイシン急性肺傷害における好中球接着浸潤に関わる分子の発現ならびに 14 員環マクロライドの抑制作用．J Nippon Med Sch 2002；69（3）：252-261．
- 19) 小林国彦，文元日和，安藤真弘，兼本典明，葛西 隆，伊藤陽一，大橋靖雄，Green J，Gotay C：QOL 質問票の国際比較と緩和医療用 QOL 質問票の開発．臨床薬理の進歩 2002；（23）：1-10．
- 20) 小野啓資，村田 朗，工藤翔二，渋谷敦夫<sup>1)</sup>，村武虎和<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>）日本女子大学家政学部，<sup>2</sup>）ケンツメディコ株式会社）：間質性肺炎における，肺音計による非侵襲的診断の有用性の検討．薬理と臨床 CLINICAL PHARMACOLOGY AND THERAPY 2002；12（5）：371-378．
- 21) 森本泰介<sup>12)</sup>，森川哲行<sup>1)</sup>，武内浩一郎<sup>1)</sup>，菊岡健太郎<sup>1)</sup>，打越 暁<sup>1)</sup>，山里将也<sup>1)</sup>，榊原桂太郎<sup>13)</sup>，坂本和裕<sup>4)</sup>，三上理一郎<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）横浜労災病院呼吸器科，<sup>2</sup>）日赤医療センター呼吸器科，<sup>3</sup>）博慈会記念病院呼吸器科，<sup>4</sup>）横浜労災病院呼吸器外科）：当院における肺癌終末期在宅酸素療法施行例の検討．日呼吸会誌 2002；40（9）：727-731．
- 22) 村田 朗，小野啓資，工藤翔二，渋谷敦夫<sup>1)</sup>，太田奈緒<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）日本女子大学家政学部）：咳嗽モニタリングシステムの臨床応用 A clinical study on monitoring system of cough sounds．薬理と臨床 CLINICAL PHARMACOLOGY AND THERAPY 2002；12（5）：365-370．
- 23) 太田奈緒<sup>1)</sup>，渋谷敦夫<sup>1)</sup>，村田 朗，小野啓資，工藤翔二（<sup>1</sup>）日本女子大学家政学部）：咳嗽モニタリングシステムの設計．薬理と臨床 2002；12（5）：357-364．
- 24) 榎本達治，川本雅司，功刀しのぶ，平松久弥子，榊原桂太郎，白杵二郎，吾妻安良太，平井恭二，小泉 潔，福田 悠，工藤翔二：胸腔鏡下肺生検後に急性増悪した特発性肺線維症症例の検討．日本呼吸器学会誌 2002；40（10）：806-811．
- 25) 岡田大輔<sup>1)</sup>，小泉 潔<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，功刀しのぶ<sup>2)</sup>，平井恭二<sup>1)</sup>，三上 徹<sup>1)</sup>，吾妻安良太，工藤翔二，福田悠<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>）外科学第 2，<sup>2</sup>）病理学第 1）：特発性間質性肺炎合併肺癌における術後急性増悪の臨床病理学的検討．日本肺癌学会誌 2002；42（6）：567-572．

## （2）綜説：

- 1) Li Y，Hu H<sup>1)</sup>，Kudoh S（<sup>1</sup>）Department of Respiratory Medicine General Hospital of PLA, China）：Diffuse Panbronchiolitis and Macrolides．Chin J Tuberc Respir Dis 2002；25（7）：58-60．
- 2) 吉村明修：今日の肺癌診療 肺癌検診の進歩 CT 検診と微小肺癌の診断．日本医師会雑誌 2002；128（3）：382-386．
- 3) 吾妻安良太：特発性間質性肺炎の新しい分類．小児科臨床 2002；55（4）：439-445．
- 4) 神尾孝一郎，吾妻安良太，慶長直人<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>）国立国際医療センター，呼吸器研究部）：慢性気道感染症とマクロライド療法．小児科臨床 2002；55（4）：559-565．
- 5) 白杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二：14 員環マクロライドの新作用：5. マクロライドの構造と活性-新作用を中心として．臨床医 2002；22（5）：604-609．
- 6) 榎本達治，吾妻安良太：特発性間質性肺炎の薬物治療，現在から未来（肺移植を含む）．呼吸と循環 2002；50（9）：895-901．
- 7) 吉村明修：XX 肺癌の検診 肺がん検診の実際．日本臨床 2002；60（5）：645-648．
- 8) 吾妻安良太：フェレットにおけるクラリスロマイシンの気道炎症抑制および粘液分泌抑制．Highlights of ICMAS 2002．



- 9) 工藤翔二, 吉村明修: 肺癌と特発性肺線維症. 日本臨床 2002 ; 60 (5): 716-719 .
  - 10) 榎原桂太郎, 吾妻安良太: 検査・診断へのアプローチ. 今日の治療 2002 ; 6 (5): 29-33 .
  - 11) 吾妻安良太: 特集 ; 2. 特発性間質性肺炎, 2) 診断基準. 治療学 2002 ; 36 (6): 565-571 .
  - 12) 工藤翔二: III 主要疾患の歴史 10 . びまん性汎細気管支炎. 日本内科学会雑誌創立 100 周年記念号 2002 ; 91 (6): 146-149 .
  - 13) 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: EBM のための内科疾患データファイル治療方針決定のために 呼吸器びまん性汎細気管支炎と副鼻腔気管支症候群. 内科 2002 ; 89 (6): 1056-1059 .
  - 14) 吾妻安良太: 特発性肺線維症 (IPF): 最近の治療法開発の現状. 呼吸器科 2002 ; 1 (6): 497-508 .
  - 15) 吾妻安良太: 集中講座 (ラジオ短波) 「原因不明の間質性肺炎 (特発性間質性肺炎) をめぐる今日の課題 ; IPF : 新しい治療法開発の可能性と最近の臨床治験. 日本医師会雑誌 2002 ; 128 (2): 233-238 .
  - 16) 吾妻安良太: 特集・臨床: 特発性肺線維症 (IPF) に対する最近の臨床試験. 分子呼吸器病 2002 ; 6 (4): 313-321 .
  - 17) 工藤翔二: 下気道閉塞性疾患の臨床: 歴史的俯瞰. 病理と臨床 2002 ; 20 (9): 888-892 .
  - 18) 細見幸生, 弦間昭彦: 肺癌の遺伝子異常. 呼吸器科 2002 ; 2 (3): 221-225 .
  - 19) 吾妻安良太: インターフェロンの臨床-ひとくちメモ- 特発性肺線維症とインターフェロン療法. 日本医師会雑誌 2002 ; 128 (10): 1070-1071 .
  - 20) 小林国彦: がん患者の QOL の評価法. 看護技術 2002 ; 48 (12): 1322-1326 .
  - 21) 白杵二郎, 吾妻安良太: かぜ症候群の治療における抗生剤の意義: マクロライドを中心に. 今日の治療 2002 ; 11 (12): 91-96 .
  - 22) 弦間昭彦: 前癌病変における遺伝子異常. 癌と化学療法 2002 ; 29 (13): 2451-2457 .
  - 23) 神尾孝一郎, 慶長直人<sup>1)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二 (<sup>1)</sup> 国立国際医療センター 呼吸器研究部): びまん性汎細気管支炎・気管支拡張症と気道分泌. 医薬ジャーナル 2002 ; 38 (12): 3346-3352 .
  - 24) 村田 朗: 特集 慢性閉塞性肺疾患の診断と治療 COPD の非侵襲的呼吸管理とその適応. 呼吸器科 2002 ; 1 (3): 233-241 .
  - 25) 吾妻安良太: 新世紀の感染症学: マクロライド. 日本臨床「2003 年増刊号」 2003 ; 61 : 804-812 .
  - 26) 吉村明修, 工藤翔二: 肺癌診療 最近の話題 特発性肺線維症と肺癌. 癌と化学療法 2003 ; 30 (2): 215-222 .
  - 27) 吾妻安良太, 工藤翔二: 心と肺シリーズ: COP ないし BOOP. 診断と治療 2003 ; 91 (2): 189-195 .
  - 28) 吾妻安良太: 各科臨床のトピックス: 肺線維症治療薬の動向. 日本医師会雑誌 2003 ; 129 (2): 768-771 .
  - 29) 小林国彦: がんの外来化学療法の動向: 入院治療から外来・在宅医療へ. 看護技術 2003 ; 49 (2): 11-14 .
  - 30) 村田 朗: 在宅酸素療法と NPPV. 呼吸器科 Respiratory Medicine 2003 ; 3 (2): 183-190 .
  - 31) 倉根修二: インフルエンザ (最近の話題). J Nippon Med Sch, 2002 ; 69 : 499-503 .
- (3) 研究報告書:
- 1) 吾妻安良太, 工藤翔二, 菅 守隆: 特発性間質性肺炎の診断基準改定作業経過報告. 厚生科学研究 特定疾患対策研究事業 びまん性肺疾患研究班 平成 13 年度研究報告書 2002 ; pp99-105 .
  - 2) 工藤翔二, 吉村明修, 弦間昭彦, 植松和嗣, 竹中 圭, 細谷曜子: 肺線維症合併肺癌の発癌メカニズムに関する研究. 厚生科学研究 特定疾患対策研究事業 びまん性肺疾患研究班 平成 13 年度研究報告書 2002 ; pp218-225 .
  - 3) 白杵二郎, 松田久仁子, 青山昭徳, 吾妻安良太, 工藤翔二: 実験的プレオマイシン肺線維症におけるエラストラーゼ活性をもつ MMP の発現. 厚生労働科学研究びまん性肺疾患研究班 平成 13 年度研究報告書 2003 ; pp197-201 .
  - 4) 工藤翔二, 平松久弥子, 岡田大輔<sup>1)</sup>, 榎本達治, 白杵二郎, 吾妻安良太 (<sup>1)</sup> 外科学第二): 特発性間質性肺炎合併肺癌の術後急性増悪に対するマクロライド系抗生剤の予防投与に対する検討 (特発性間質性肺炎患者における術後急性増悪の臨床病理組織学的検討). 東京都保険局 平成 13 年度特定疾病 (難病) に関する研究報告書 2003 ; pp42-46 .

- 5) 村田 朗：呼吸器疾患に伴って発生する咳嗽音の治療効果判定のための客観的指標となる非侵襲的咳嗽カウンターシステムの開発．医科学応用研究財団研究報告2001 2003；pp22-26．

## 著 書

- 1) 工藤翔二，宮本晴子：〔分担〕5. 呼吸器疾患 びまん性汎細気管支炎．今日の処方改訂第3版，2002；pp189-191，南江堂．
- 2) 工藤翔二：〔分担〕薬剤誘起性肺炎．今日の治療指針，2002；pp205-205，医学書院．
- 3) 工藤翔二：〔分担〕びまん性汎細気管支炎．新臨床内科学第3版，2002；pp99-100，医学書院．
- 4) 工藤翔二：〔分担〕びまん性汎細気管支炎（DPB）疾患概念．呼吸器病 New Approach 8 閉塞性肺疾患，2002；pp183-189，メヂカルレビュー社．
- 5) 小林国彦<sup>1)</sup>，工藤翔二（<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター）：〔分担〕肺癌の在宅医療．がんの在宅医療（坪井栄孝監修 田城孝雄編），2002；pp306-313，中外医学社．
- 6) 倉根修二，工藤翔二：〔分担〕肺結核．今日の治療（専門医がすすめる最新処方1），2002；pp82-84，医学書院．
- 7) 村田 朗：〔分担〕看護学大辞典第5版 MEDICAL FRIEND'S NURSING SCIENCE DICTIONARY，2002；メヂカルフレンド社．
- 8) 弦間昭彦：〔分担〕肺癌関連遺伝子の発現プロファイル解析の臨床応用システム．日本臨床「肺癌の診断と治療：最新の研究動向」，2002；pp748-753，日本臨床社．
- 9) 吾妻安良太：〔分担〕23：肺リンパ管ま脈管筋腫症（LAM）．専門医を目指すケースメソッドアプローチ（中田紘一郎），2002；日本医事新報社．
- 10) 山本和男，村田 朗：〔分担〕各種病態における輸液とその注意 ぜん息発作の輸液と注意．臨床看護 事故防止のための注射と輸液の知識，2002；pp928-934，へるす出版．
- 11) 弦間昭彦：〔分担〕肺癌の網羅的遺伝子発現解析とその応用．最新医学増刊 臨床遺伝子学 '02，2002；最新医学社．
- 12) 倉根修二，工藤翔二：〔分担〕卒前・卒後の結核教育．呼吸と循環，2002；pp1121-1126，医学書院．
- 13) 吾妻安良太：〔分担〕胸膜炎．今日の治療指針，2002；pp225-226．
- 14) 榎本達治：〔分担〕第3章呼吸器疾患の診断．新体系看護学5 疾病の成り立ちと回復の促進3，呼吸器疾患/腎疾患（工藤翔二，山田 明），2002；pp39-60，メヂカルフレンド社．
- 15) 榎本達治：〔分担〕第4章主な呼吸器疾患とその診療（1）保存的治療の適応となる主な疾患とその治療法．新体系看護学5 疾病の成り立ちと回復の促進3 呼吸器疾患・腎疾患（工藤翔二，山田 明），2002；pp61-153，メヂカルフレンド社．
- 16) 村田 朗：〔分担〕第4章呼吸器疾患とその診療 保存的治療の適応となる主な疾患．新体系看護学5 疾病の成り立ちと回復の促進 呼吸器疾患/腎疾患（山田 明），2002；pp61-153，メヂカルフレンド社．
- 17) 村田 朗：〔分担〕第2章 呼吸器疾患の主な症状．新体系看護学5 疾病の成り立ちと回復の促進 呼吸器疾患/腎疾患（山田 明），2002；pp19-59，メヂカルフレンド社．
- 18) 吾妻安良太：〔分担〕16. 特発性間質性肺炎．EBM呼吸器疾患の治療 2003～2004，2003；pp198-210，文光堂．
- 19) 吾妻安良太：〔分担〕特発性間質性肺炎の薬剤開発動向．Annual Review 呼吸器 2003，2003；pp236-247．
- 20) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕胸水．臨床検査ガイド2003～2004，2003；pp1053-1056，文光堂．
- 21) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕別冊・医学のあゆみ COPD（慢性閉塞性肺疾患）．COPDに対する薬物療法（北村諭），2003；pp78-82，医歯薬出版．
- 22) 村田 朗：〔分担〕包括的呼吸リハビリテーション．3学会合同呼吸療法認定士「認定更新のための講習会（2003）」テキスト，2003；pp44-48，3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局．
- 23) 吾妻安良太，工藤翔二：106．IIPの新分類とIPF．別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患 - state of arts 2003-2005，

2003 ; pp415-420 , 医歯薬出版 .

- 24) 斎藤好信, 吾妻安良太 : [ 分担 ] 17 . 肺の線維化とTh1/Th2サイトカイン . 別冊・医のあゆみ 呼吸器疾患 - state of arts 2003-2005 , 2003 ; pp64-66 , 医歯薬出版 .
- 25) 近藤 格<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 森 康治<sup>1)</sup>, 藤井一恭<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>1)</sup>, 廣橋説雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター研究所腫瘍プロテオミクスプロジェクト) : [ 共著 ] 二次元電気泳動を用いた癌のプロテオーム解析II部 生命科学研究への応用 , 1章 発現プロファイル解析 . 実験医学別冊 , 注目のプロテオミクスの全貌を知る ! 2003 ; pp144-151 , 羊土社 .
- 26) 都築 閱, 工藤宏一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立国際医療センター呼吸器科) : [ 分担 ] 硬化性血管腫 . 別冊・医のあゆみ 呼吸器疾患 - state of arts 2003-2005 , 2003 ; pp552-554 , 医歯薬出版 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) 工藤翔二 : DPBの今日 : マクロライド療法はなにをもたらしたか . 三菱WPフォーラム , 2002 . 4 .
- 2) 工藤翔二 : 睡眠時無呼吸症候群の診断治療 . 足立区医師会学術講演会 , 2002 . 5 .
- 3) 工藤翔二 : 特発性間質性肺炎の歴史と課題 . 第8回閉空呼吸器シンポジウム , 2002 . 7 .
- 4) 工藤翔二 : 間質性肺炎の臨床 . 小諸北佐久医師会学術講演会 ( 日本医師会生涯教育講座 ) , 2002 . 8 .
- 5) 工藤翔二 : 医学と医療百年ひと昔 . 日本内科学会 100周年記念事業・市民公開講座 , 2002 . 9 .
- 6) 工藤翔二 : 睡眠時無呼吸症候群の診断治療 . 江戸川区医師会学術講演会 , 2002 . 9 .
- 7) 工藤翔二 : 間質性肺炎の病態と治療について . シリーズ「間質性肺炎」第3回講演会 , 2002 . 10 .
- 8) 工藤翔二 : 副鼻腔気管支症候群とDPB : マクロライド療法をめぐる . 第8回南九州上気道感染症臨床懇話会 , 2002 . 11 .
- 9) 工藤翔二 : びまん性肺疾患の診断をめぐる . 郡山呼吸器疾患研究会 , 2002 . 12 .

##### (2) 招待講演 :

- 1) Gemma A : Pulmonary Carcinogenesis in idiopathic pulmonary fibrosis . 1st International Lung Cancer Conference ( Beijing ) , 2002 . 10 .
- 2) 吾妻安良太 : 特発性間質性肺炎 : 病態・診断・治療 . 中国医科大学呼吸器疾患研究所講演 ( 中国 ( 沈陽 ) ) , 2002 . 11 .
- 3) 吾妻安良太 : マクロライド療法の現在と未来 . 茨城県北部呼吸器研究会 , 2002 . 12 .

##### (3) 教育講演 :

- 1) 村田 朗 : 睡眠時無呼吸症候群の診断と治療 . 葛飾区医師会勉強会 , 2002 . 6 .
- 2) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション . 3学会合同呼吸療法認定士認定更新のための講習会 ( 2003年 ) , 2003 . 2 .

##### (4) シンポジウム :

- 1) Nakata K , Uchida K , Azuma A , Kudoh S : C83 ; High Avidity GM-CSF Neutralizing Auto-antibody in the Sera of Patients with Pulmonary Alveolar Proteinosis . ATS ( Atlanta ) , 2002 . 5 .
- 2) 吾妻安良太 : 特発性肺線維症 ( 呼吸器疾患の終末期医療と緩和ケア ) . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 3) 吾妻安良太 : 「 気道感染症 」 構造と活性 ( マクロライド療法 ) . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 4) 倉根修二 : 大学における結核教育の現状と課題 . 第77回日本結核病学会総会 , 2002 . 4 .
- 5) 村田 朗 : 新しい在宅呼吸ケア : テレメディスンの応用について : 在宅酸素療法における Telemedicine の利用と問題点 . 第12回日本呼吸管理学会学術集会 , 2002 . 7 .
- 6) 村田 朗 : チーム医療によりCOPDの急性増悪を回避する : 外来治療 , 入院治療の判断ポイント . 第10回東京在宅呼吸ケア研究会 , 2003 . 2 .

- 7) 吾妻安良太：新しい抗線維化薬臨床試験からみた IPF の新たな治療戦略（特異性間質性肺炎）. 第 43 回日本呼吸器学会総会，2003 . 3 .
- (5) セミナー：
- 1) 小林国彦：進行肺癌における外来化学療法 . 第 43 回日本呼吸器学会総会，2003 . 3 .
  - 2) 小林国彦：化学療法の副作用対策 . 第 43 回日本呼吸器学会総会，2003 . 3 .
- (6) ワークショップ：
- 1) 弦間昭彦，竹中 圭，植松和嗣，細谷曜子，奈良道哉，細見幸生，岡野哲也，吉村明修，工藤翔二：肺線維症における肺癌合併機序の検討 . 第 61 回日本癌学会総会，2002 . 9 .
  - 2) 村田 朗：慢性呼吸不全の総合的アプローチ：COPD の急性増悪を回避するための戦略発症原因の多様性とその実態 . 第 43 回日本呼吸器学会総会，2003 . 3 .
- (7) 一般講演：
- 1) Hino M , Kobayashi K , Gemma A , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Weekly administration of irinotecan (CPT-11) plus cisplatin (CDDP) for non-small cell lung cancer (NSCLC) . 38th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO) , 2002 . 4 .
  - 2) Kobayashi K , Komagata H , Sakai H , Yoneda S : Nimustine hydrochloride (ACNU) for refractory or relapsed lung cancer . 38th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO) , 2002 . 4 .
  - 3) Kobayashi T , Kobayashi K , Kobayashi M , Shimonagayoshi M , Kanemoto N , Kasai R , Itoh Y , Ohashi Y , Green J , Gotay C : A quality of life (QOL) questionnaire, Care Notebook, for cancer patients using outpatients clinic . 38th Annual Meeting of American Society of Clinical Oncology (ASCO) , 2002 . 4 .
  - 4) Kobayashi K : Chemoradiotherapy for non-small cell lung cancer . Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA) Seminar on Radiation Oncology , 2002 . 4 .
  - 5) Azuma A , Tsuboi E<sup>1)</sup> , Abe S<sup>2)</sup> , Nukiwa T<sup>3)</sup> , Nakata K<sup>4)</sup> , Nagai S<sup>5)</sup> , Taguchi Y<sup>6)</sup> , Suga M<sup>7)</sup> , Itoh M<sup>8)</sup> , Ohi A<sup>9)</sup> , Sato A<sup>10)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Toranomon , <sup>2)</sup> Sapporo , <sup>3)</sup> Touhoku , <sup>4)</sup> Toranomon , <sup>5)</sup> Kyoto , <sup>6)</sup> Tenri , <sup>7)</sup> Kumamoto , <sup>8)</sup> Fukui , <sup>9)</sup> Kyoto , <sup>10)</sup> Kyoto ) : 822 : A Placebo Controlled and Double Blind Phase II Clinical Study of Pirfenidone in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan . ATS ( Atlanta ) , 2002 . 5 .
  - 6) Kaneko Y<sup>1)</sup> , Plante J<sup>1)</sup> , Kubo T<sup>1)</sup> , Tkacova R<sup>1)</sup> , Ando S<sup>1)</sup> , Floras JS<sup>1)</sup> , Bradley TD<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Toronto ) : Effects of CPAP on Cardiac Function in Heart Failure Patients with Obstructive Sleep Apnea . American Thoracic Society ( Atlanta ) , 2002 . 5 .
  - 7) Saito T<sup>1)</sup> , Suzuki J<sup>1)</sup> , Noro R<sup>1)</sup> , Ueno T<sup>1)</sup> , Watanabe K<sup>1)</sup> , Aoki H<sup>1)</sup> , Hayashihara K<sup>1)</sup> , Ushigome M<sup>2)</sup> , Ishikawa J<sup>2)</sup> , Sakamoto O<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 , <sup>2)</sup> 同研究検査室 ) : The Weak Positivity of Amplicor MTB Test does not Necessary Indicate Active Tuberculosis . ATS ( Atlanta ) , 2002 . 5 .
  - 8) Yamamoto K , Murata A , Itoh E , Kudoh S : EXAMINATION OF THE OBJECTIVE ITEMS IN THE APPRAISALS OF THE AIR ENVIRONMENTAL EFFECTS ON A LIVING BODY . The 98th International Conference of the American Thoracic Society ( ATLANTA ) , 2002 . 5 .
  - 9) Matsuda K , Takahashi T , Azuma A , Sakakibara K , Enomoto T , Usuki J , Ohara K<sup>1)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Ophthalmology ) : Morphological Analysis in BAL Lymphocytes of Patients with Sarcoidosis and Other Diseases . WASOG ( Stockholm ) , 2002 . 6 .
  - 10) Takahashi T , Azuma A , Matsuda K , Sakakibara K , Enomoto T , Usuki J , Ohara K<sup>1)</sup> , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Ophthalmology ) : Serum Concentration of Soluble IL-2 Receptor in Patients with Suspected Ocular Sarcoidosis . WASOG ( Stockholm ) , 2002 . 6 .
  - 11) Usuki J , Matsuda K , Aoyama A , Azuma A , Kudoh S : Expression of elastolytic matrix metalloproteinases in bleomycin-induced pulmonary fibrosis . European Respiratory Society ( Stockholm ) , 2002 . 9 .

- 12) Gemma A , Ichinose Y<sup>1)</sup>, Nakai Y<sup>2)</sup>, Semba H , Shibuya M , Kudoh S , Niitani H ( <sup>1)</sup>国立九州がんセンター , <sup>2)</sup> 山台厚生病院 ): UFT plus cisplatin with concurrent radiotherapy for locally advanced non-small-cell lung cancer : a multiinstitutional phase II trial. . ESMO ( NICE ), 2002 . 11 .
- 13) Li Y , Azuma A , Takahashi S<sup>1)</sup>, Usuki J , Matsuda K , Aoyama A , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba ): Fourteen Membered Ring Macrolides Inhibit VCAM 1 mRNA Induction And Leucocyte Migration, Thus Preventing Lung Injury And Fibrosis In Bleomycin Challenged Mice . China-Japan Medical Conference 2002 , 2002 . 11 .
- 14) Li YJ , Azuma A , Takahashi S<sup>1)</sup>, Usuki J , Matsuda K , Aoyama A , Kudoh S ( <sup>1)</sup> Tsukuba University ): Mis-P48 : Fourteen Membered Ring Macrolides Inhibit VCAM 1 mRNA Induction And Leucocyte Migration, Thus Preventing Lung Injury And Fibrosis In Bleomycin Challenged Mice . China-Japan Medical Congress ( Beijin ), 2002 . 11 .
- 15) Seike M , Kondo T , Yamada T , H : Clustering analysis of human cancer cell lines based on quantitative 2D profile . Human proteomics organization First World congress , 2002 . 11 .
- 16) Okano T , Gemma A , Hosoya Y , Hosomi Y , Nara M , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Genetic Alterations of Candidate Tumor Suppressor ING1, ING2 in Human Lung Cancer . 第41回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 17) 臼杵二郎 , 松田久仁子 , 青山昭徳 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 : 実験的プレオマイシン肺線維症におけるエラストラーゼ活性をもつMMPの役割の検討 . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 18) 山本和男 , 村田 朗 , 伊藤永喜 , 工藤翔二 : 大気環境の生体に及ぼす影響に関する客観的評価法の検討 . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 19) 倉根修二 , 高橋秀実 , 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 微生物学・免疫学 ): ESAT-6ペプチド刺激による末梢血単核球のインターフェロン 産生能を指標とした結核院内感染対策の試み . 第76回日本感染症学会総会 , 2002 . 4 .
- 20) 村田 朗 , 渋谷惇夫<sup>1)</sup>, 小野啓資 , 伊藤永喜 , 山本和男 , 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 日本女子大学家政学科 ): 咳嗽音のモニタリングシステムの開発と臨床応用 . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 21) 平松久弥子 , 榎本達治 , 榊原桂太郎 , 臼杵二郎 , 吾妻安良太 , 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup> 病理第1 ): 当院における薬剤性肺炎死亡例の臨床的検討 . 第42回日本呼吸器学会総会 , 2002 . 4 .
- 22) 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 植野孝博<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 根本悦夫<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 , <sup>2)</sup> 同外科 ): 血球貪食症候群を合併した重症粟粒結核2例 . 第77回日本結核病学会総会 , 2002 . 4 .
- 23) 林原賢治<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 植野孝博<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 青木弘道<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>, 根本悦夫<sup>2)</sup>, 深井志摩夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 , <sup>2)</sup> 同外科 ): 抗酸菌症におけるLipoarabinomannan抗体および抗TBGL抗体の診断能の検討 . 第77回日本結核病学会総会 , 2002 . 4 .
- 24) 工藤翔二 : 呼吸器学の展望 . 徳島大学第3内科開講30周年記念会 , 2002 . 5 .
- 25) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 原口典博<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立療養所晴嵐荘病院内科 ): 細菌性肺炎および肺化膿症が初発日和見感染症と考えられたAIDSの3例 . 第151回日本呼吸器学会関東地方会 , 2002 . 5 .
- 26) 木田厚瑞<sup>1)</sup>, 桂 秀樹<sup>1)</sup>, 山田浩一<sup>1)</sup>, 茂木 孝<sup>1)</sup>, 西村直樹<sup>1)</sup>, 小俣雅稔<sup>1)</sup>, 後藤里江<sup>1)</sup>, 山本しづ子<sup>2)</sup>, 若林律子<sup>3)</sup>, 太田 隆<sup>4)</sup>, 鈴木礼野<sup>5)</sup>, 村田 朗 , 野村浩一郎<sup>6)</sup>, 岩崎郁美<sup>7)</sup>, 島田 潔<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都老人医療センター呼吸器科 , <sup>2)</sup> 同看護科 , <sup>3)</sup> 帝人在宅医療学術推進部 , <sup>4)</sup> 東京都老人医療センター理学療法科 , <sup>5)</sup> 同薬剤科 , <sup>6)</sup> 国立東静病院呼吸器科 , <sup>7)</sup> 町立八丈病院小児科 , <sup>8)</sup> 板橋区板橋区役所前診療所 ): 高齢者の気管支ぜん息 , 慢性気管支炎 , 肺気腫の保健指導等に関する研究 . 大気汚染による健康影響に関する総合的研究第13回研究懇話会 ( 公害健康被害補償予防協会 ) , 2002 . 5 .

- 27) 工藤翔二：原因不明の間質性肺炎の画像診断：急性病変を中心に．第66回間質性肺疾患研究会，2002．6．
- 28) 工藤翔二：COPDとは？第1回山形COPD研究会，2002．6．
- 29) 根井貴仁<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，原古典博<sup>1)</sup>，松野洋輔<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>，森下由紀雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>筑波大学臨床医学系病理)：血性を示した両側良性石綿胸水の1例．第24回茨城医学会内科分科会/第167回茨城県内科集談会，2002．6．
- 30) 山本和男，伊藤永喜，村田 朗，倉根修二，工藤翔二：抗体価，寒冷凝集素価が共に10万倍を超え多彩な臨床所見を呈したマイコプラズマ肺炎の1例．第6回呼吸器感染症研究会，2002．6．
- 31) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，原古典博<sup>1)</sup>，松野洋輔<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科)：肺低換気症候群を合併した重症インフルエンザ肺炎によるARDSの1例．第166回茨城県内科集談会，2002．6．
- 32) 遠山雄二<sup>1)</sup>，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>NPO法人日本呼吸器障害者情報センター)：酸素欠の育成とその有用性の検討．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 33) 高橋美樹<sup>1)</sup>，木野毅彦<sup>1)</sup>，山下いずみ<sup>1)</sup>，軽部裕子<sup>1)</sup>，森 英代<sup>1)</sup>，山本和男，伊藤永喜，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>付属病院看護部)：携帯用液体酸素ボンベ(ヘリオス)と携帯用高圧酸素ボンベの患者使用感の比較．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 34) 山本雪貴美<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，斉藤一<sup>1)</sup>，山本和男，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>生理機能センター)：呼吸器疾患における呼気中一酸化窒素(NO)濃度の検討．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 35) 山本和男，村田 朗，伊藤永喜，工藤翔二：大気環境の生体に及ぼす影響に関する客観的評価法の検討．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 36) 上山雅子，榊原桂太郎，榎本達治，加藤英治，白杵二郎，吾妻安良太，吉村明修，功刀しのぶ，工藤翔二，福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1)：肺泡出血を伴ったIgA腎症の1例．日本呼吸器学会地方会，2002．7．
- 37) 菅谷寿理<sup>1)</sup>，山本雪貴美<sup>1)</sup>，斉藤一<sup>1)</sup>，山本和男，村田 朗，工藤翔二(<sup>1)</sup>生理機能センター)：呼気中一酸化窒素(NO)濃度測定に環境NO濃度が及ぼす影響．12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 38) 斉藤恒博<sup>1)</sup>，村田 朗，伊藤永喜，小野啓資，山本和男，小田原栄美子<sup>1)</sup>，磯部智美<sup>1)</sup>，小島裕美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>医療法人社団グッドスリープ・クリニック)：インターネットによる睡眠時無呼吸症候群に関する質問紙調査．日本睡眠学会第27回定期学術集会，2002．7．
- 39) 村田 朗，小野啓資，伊藤永喜，山本和男，工藤翔二：咳嗽音モニターの開発と臨床における有用性の検討．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 40) 都築 閱<sup>1)</sup>，上村光弘<sup>1)</sup>，竹田雄一郎<sup>1)</sup>，河石 真<sup>1)</sup>，小林信之<sup>1)</sup>，工藤宏一郎<sup>1)</sup>，木村荘介<sup>2)</sup>，新野 史<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立国際医療センター病院呼吸器科，<sup>2)</sup>同心臓血管外科，<sup>3)</sup>同病理部)：Cisplatin, Irinotecanによる化学療法で完全寛解を認めた胸腺粘表皮癌の1例．日本呼吸器学会地方会，2002．7．
- 41) 都築 閱<sup>1)</sup>，川名明彦<sup>1)</sup>，工藤宏一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立国際医療センター病院呼吸器科)：慢性良性コクシジオイデス症へ移行した1例．臨床呼吸器カンファランス，2002．7．
- 42) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>，糸瀬美香<sup>2)</sup>，渡邊咲恵<sup>2)</sup>，金子晴明<sup>2)</sup>，根本悦夫<sup>3)</sup>，深井志摩夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>同理学療法科，<sup>3)</sup>同外科)：NIPPV治療中に気胸を合併した2例．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 43) 林原賢治<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>，糸瀬美香<sup>2)</sup>，渡邊咲恵<sup>2)</sup>，金子晴明<sup>2)</sup>，根本悦夫<sup>3)</sup>，深井志摩夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科，<sup>2)</sup>同理学療法科，<sup>3)</sup>同外科)：体重低下によりNIPPVからnasal CPAPに切り替えられた肥満低換気症候群の2例．第12回日本呼吸管理学会学術集会，2002．7．
- 44) 吉岡央子，山本和男，伊藤永喜，村田 朗，倉根修二，工藤翔二：ステロイド投与中の若年SLEに発症し肺葉切除を要したMRSA肺膿瘍の1例．呼吸器感染症研究会，2002．9．
- 45) 山本雪貴美<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，五十嵐亜季<sup>1)</sup>，宗方祐美子<sup>1)</sup>，竹田裕子<sup>1)</sup>，与那嶺弘子<sup>1)</sup>，青木 亘<sup>1)</sup>，平野美子<sup>1)</sup>，

- 瀬川純子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 山本和男, 村田 朗, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 付属病院生理機能センター): 呼気中一酸化窒素 (NO) と呼吸器疾患. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 46) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 山本雪貴美<sup>1)</sup>, 五十嵐亜季<sup>1)</sup>, 宗方祐美子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 与那嶺弘子<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 瀬川純子<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 山本和男, 村田 朗, 工藤翔二<sup>(1)</sup> 付属病院生理機能センター): 呼気中一酸化窒素 (NO) の濃度の日内変動. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 47) 平松久弥子, 斎藤好信, 吾妻安良太, 工藤翔二, 宇田川忠<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 結核研究所分子病理学科): マウス肺に対するDE曝露の影響について. 第43回大気環境学会年会, 2002. 9.
- 48) 平松久弥子, 大木宏亮<sup>1)</sup>, 吉田成一<sup>1)</sup>, 武田 健<sup>1)</sup>, 宇田川忠<sup>2)</sup>, 菅原 勇<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 東京理科大学薬学部, <sup>2)</sup> 結核研究所分子病理学科): DE曝露のマウス内分泌組織 (副腎・卵巣) に及ぼす影響について. 第43回大気環境学会年会, 2002. 9.
- 49) 宮本晴子, 宮本和明, 大石祥子, 高井大哉, 杉村 隆, 牛島俊和: ヒト肺がんでサイレンシングされる遺伝子の検索. 第61回 日本癌学会総会, 2002. 10.
- 50) 工藤翔二: ギナミビル治療に対する患者からの評価(第2報). 第51回日本感染症学会東日本地方会総会, 2002. 10.
- 51) 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 原古典博<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立療養所晴風荘病院内科): 肺 MAC 症および非侵襲性肺アスペルギルス症を合併し, 治療に難渋したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例. 第102回日本気管支学会関東支部会, 2002. 10.
- 52) Okano T, Gemma A, Hosoya Y, Hosomi Y, Nara M, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S: Alterations of Candidate Tumor Suppressor Gene ING1, ING2 in Human Lung Cancer. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 53) 安藤真弘, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 栗本太嗣, 森山 岳, 水谷英明, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 安孫子正美<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 坪井病院): 経口 EGFR tyrosine kinase inhibitor (ZD1839) が奏功した再発非小細胞肺癌2例. 日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 54) 弦間昭彦, 竹中 圭, 細谷曜子, 奈良道哉, 細見幸生, 岡野哲也, 吉村明修, 工藤翔二: 網羅的遺伝子発現解析を用いた肺癌遺伝子研究の実際. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 55) 山本和男, 伊藤永喜, 村田 朗, 吉岡央子, 工藤翔二: 若年者の中枢型睡眠時無呼吸症候群に対し夜間 NPPV を導入することで臨床症状の改善をみた1例. 第89回臨床呼吸生理研究会, 2002. 11.
- 56) 小斉平聖治<sup>1)</sup>, 小林国彦<sup>1)</sup>, 駒形浩史<sup>1)</sup>, 酒井 洋<sup>1)</sup>, 米田修一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター呼吸器科): 既治療肺癌に対する ACNU+TAXOL 併用療法の第I相試験: CPT-11 不応小細胞肺癌に対する可能性. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 57) 松田久仁子, 高橋卓夫, 吾妻吾良太, 臼杵二郎, 榎本達治, 榊原圭太郎, 川並汪一<sup>1)</sup>, 大原國俊<sup>2)</sup>, 工藤翔二(<sup>1)</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 眼科学): サルコイドーシス患者における気管支肺胞洗浄液中リンパ球の形態学的検討. 日本気管食道科学会, 2002. 11.
- 58) 森山 岳, 安藤真弘, 水谷英明, 栗本太嗣, 渡辺秀一<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>2)</sup>, 安孫子正美<sup>2)</sup>, 岩波 洋<sup>2)</sup>, 坪井栄孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 坪井病院内科, <sup>2)</sup> 同外科, <sup>3)</sup> 坪井病院): 肺カルチノイド12例の臨床的検討. 日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 59) 平松久弥子, 斎藤好信, 宇田川忠<sup>1)</sup>, 大友幸二<sup>1)</sup>, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 阿部千代治<sup>1)</sup>, 渡辺邦友<sup>2)</sup>, 工藤翔二(<sup>1)</sup> 結核研究所分子病理学科, <sup>2)</sup> 岐阜大学医学部附属嫌気性菌実験施設): リンパ節, 皮膚, 糞便由来 Propionibacterium acnes の肉芽腫誘導能について. 第22回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2002. 11.
- 60) 森本泰介<sup>1)</sup>, 北村英也<sup>1)</sup>, 太田啓介<sup>1)</sup>, 安藤常浩<sup>1)</sup>, 生島壮一郎<sup>1)</sup>, 折津 愈<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本赤十字社医療センター内科, <sup>2)</sup> 同病理部): 中枢神経サルコイドーシスの1例. 第505回内科学会関東地方会, 2002. 12.
- 61) 森山 岳, 安藤真弘, 堀江秀治, 水谷英明, 栗本太嗣, 渡辺秀一<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>2)</sup>, 安孫子正美<sup>2)</sup>, 岩波 洋<sup>2)</sup>, 坪井栄孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 坪井病院内科, <sup>2)</sup> 同外科, <sup>3)</sup> 坪井病院): 当院における肺カルチノイド腫瘍12例の検討. 日本内科学会東北地方会, 2003. 2.
- 62) 清家正博<sup>1)</sup>, 近藤 格<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>1)</sup>, 廣橋説雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国立がんセンター研究所腫瘍プロテオミクスプロジェクト)

- ト): 2D-DIGE ( fluorescent two-dimensional difference gel electrophoresis ) 法を用いたヒト癌細胞株のクラスタ解析 . 第1回日本ヒトプロテオーム学会 , 2003 . 2 .
- 63) 谷口泰之<sup>1)</sup>, 渡邊 亨<sup>1)</sup>, 早川 淳<sup>1)</sup>, 内田八重子<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 宮永忠彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慈生会等潤病院): ゲフィチニブを投与した5症例のまとめ . 第18回足立医学会 , 2003 . 2 .
- 64) 白杵二郎, 松田久仁子, 青山昭徳, 吾妻安良太, 工藤翔二: プレオマイシン肺線維症における Smad 発現の検討 . 第43回日本呼吸器学会 , 2003 . 3 .
- 65) 榎本達治, 吾妻安良太, 松本亜紀, 白杵二郎, 工藤翔二: びまん性汎細気管支炎難治例に対する azithromycin 有効性の検討 . 第43回日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- 66) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 鈴木淳子<sup>1)</sup>, 原口典博<sup>1)</sup>, 松野洋輔<sup>1)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 林原賢治<sup>1)</sup>, 斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 血液培養により菌を検出し得た結核症2例 . 第168回茨城県内科集談会 , 2003 . 3 .
- 67) 山本和男, 村田 朗, 伊藤永喜, 吉岡央子, 工藤翔二: 大気環境の生体に及ぼす影響に関する客観的評価法の検討: 経年における呼気中一酸化窒素 ( NO ) 濃度測定の有用性及び安定性について . 第43回日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- 68) 市野浩三<sup>1)</sup>, 菊岡健太郎<sup>1)</sup>, 石田安代<sup>1)</sup>, 打越 暁<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>1)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜労災病院呼吸器科): 当院救急外来における喘息患者の受診動向 . 日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- 69) 小斉平聖治, 小林国彦, 駒形浩史, 酒井 洋, 米田修一: 骨髄移植後に発症し, 気管支鏡にて診断し得たノカールジア症の1例 . 第104回日本気管支学会関東支部会 , 2003 . 3 .
- 70) 森本耕三, 小野啓資, 武村 明, 榎本達治, 弦間昭彦, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 中山智子<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup>病理学第2): 頸部CTで発見され, 気管支鏡下生検にて線維性組織球種 ( fibrous histiocytoma ) が疑われた気管腫瘍の1例 . 気管支学会関東地方会 , 2003 . 3 .
- 71) 平松久弥子, 斎藤好信, 菅原 勇<sup>1)</sup>, 滝沢 始<sup>2)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>結核研究所分子病理学科, <sup>2)</sup>東京大学呼吸器内科): マウス肺に対するDE曝露の影響における系統差について . 第43回日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- 72) 北村和広<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 杣 知行<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科呼吸器病センター): 進行肺小細胞肺癌未治療例に対するCBDCA+PTX+UFT併用療法のphase1, 2study . 第43回日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- 73) 李 英姫, 青山昭徳, 松田久仁子, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 砂塚敏明<sup>1)</sup>, 大村 智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北里研究所): BLM肺線維症マウスモデルにおけるマクロライド新規誘導体EM-703の抑制作用 . 第43回日本呼吸器学会総会 , 2003 . 3 .
- (8) ポスター :
- 1) Kaneko Y<sup>1)</sup>, Zivanovic V<sup>1)</sup>, Hajek V<sup>1)</sup>, Bradley TD<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Toronto): Sleep Apnea in Stroke Patients Predicts Worse Functional Status and Longer Hospitalization . American Thoracic Society ( Atlanta ), 2002 . 5 .
- 2) Matsuda K, Takahashi T, Azuma A, Usuki J, Enomoto T, Sakakibara K, Kawanami O<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>2)</sup>, Kudoh S (<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup>眼科): Morphological Analysis in BAL Lymphocytes of Patients with Sarcoidosis and Other Diseases . The 7th WASOG Congress ( World Association of Sarcoidosis and Other Granulomatous Disorders ), 2002 . 6 .
- 3) Egri ZJ<sup>1)</sup>, Spaak J<sup>1)</sup>, Yu E<sup>1)</sup>, Ando S<sup>1)</sup>, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Bradley TD<sup>1)</sup>, Floras JS<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>University of Toronto): Increased Daytime Sympathetic Nerve Activity in Heart Failure Patients with Sleep Apnea . American Heart Association ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 4) 吉岡央子<sup>1)</sup>, 海老沢雅子<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 野村浩一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静病院呼吸器科): 呼吸器感染症における糖



尿病合併例の臨床的検討．日本呼吸器学会，2002．4．

- 5) 野呂林太郎<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 肺クリプトコッカス症の臨床的検討．第42回日本呼吸器学会総会，2002．4．
- 6) 林原賢治<sup>1)</sup>，鈴木淳子<sup>1)</sup>，野呂林太郎<sup>1)</sup>，植野孝博<sup>1)</sup>，渡部厚一<sup>1)</sup>，青木弘道<sup>1)</sup>，斎藤武文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立療養所晴嵐荘病院内科): 結核定期検診の有効性の検討：自験例での分析から．第42回日本呼吸器学会総会，2002．4．
- 7) 鄒大同，篠田欣也，日比野俊，松田久仁子，竹中圭，澁谷昌彦，工藤翔二：転移能の異なるヒト肺腺癌株における血管新生能の差異．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 8) 武村明，吉村明修，中村治彦<sup>1)</sup>，加藤治文<sup>1)</sup>，工藤翔二(<sup>1)</sup>東京医科大学第1外科): 会員制有料健診センター受診者における肺癌発見状況の検討．日本肺癌学会総会，2002．11．
- 9) 吉岡央子，山本和男，伊藤永喜，金子泰之，村田朗，工藤翔二：呼吸器疾患における呼気中NO濃度の検討．日本呼吸器学会，2003．3．
- 10) 橋元恵美<sup>1)</sup>，家城隆次<sup>1)</sup>，笠井大介<sup>1)</sup>，倉井大輔<sup>1)</sup>，斎藤恵里香<sup>1)</sup>，太田智裕<sup>1)</sup>，湯浅和美<sup>1)</sup>，井口万里<sup>1)</sup>，岡村樹<sup>1)</sup>，澁谷昌彦<sup>1)</sup>，森山佐知子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>都立駒込病院呼吸器内科，<sup>2)</sup>同病理科): Gefitinib (Iressa) による薬剤性肺傷害の3症例．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．
- 11) 市野浩三<sup>1)</sup>，石田安代<sup>1)</sup>，菊岡健太郎<sup>1)</sup>，打越暁<sup>1)</sup>，森川哲行<sup>1)</sup>，武内浩一郎<sup>1)</sup>，西井鉄平<sup>2)</sup>，武井秀史<sup>2)</sup>，前原孝光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>横浜労災病院呼吸器科，<sup>2)</sup>同呼吸器外科): 当院救急外来における喘息患者の受診動向の検討．第43回日本呼吸器学会総会，2003．3．

## 5. 精神医学講座

### [ 付属病院神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科 ]

#### 研究概要

教室の研究領域は、精神・神経生理学的研究を主体とし、コンサルテーション・リエゾン精神医学、催眠や心理療法、セネストパチーをはじめとした様々な臨床研究、精神薬理研究があり、研究対象もうつ病をはじめとして、老年期精神障害、アルコール依存、神経症性障害、摂食障害、セネストパチー、自殺、睡眠障害など多岐にわたる。

うつ病では、アイオワ大学のRobinson教授の研究に参加したメンバーを中心として、脳卒中後のうつ病を含むvascular depressionに対し脳画像、治療など様々な検討が引き続き行われ、昨年以上の成果をあげることができた。さらに頭部外傷後の精神状態に対する影響に関しても研究が進められた。

コンサルテーション・リエゾン精神医学の領域では自殺企図者を含めた救急場面における精神医学的研究が救命救急センターと連携して行われ、また合併症を有する精神疾患患者の入院治療に関する研究も進められている。加えて国立がんセンター精神腫瘍学研究にも参加している。

催眠研究では、臨床的・治療的視点に加え脳波を用いた精神生理学的研究の成果が公表された。精神薬理学的研究では、SNRIの効果に関して脳卒中後うつ病、脳損傷、慢性疼痛、セネストパチー等種々の疾患に対して検討が行われた。その他modified ECT、医療改革、心身医学等に関する業績も挙げられている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yokota T, Ishizu H, Takakura M, Akamine Y : Stress Coping Behavior and Its Related Factors by Gender Differences in School Teachers : Especially Awareness of Duties, type A Behavior, and Depression . THE JAPANESE JOURNAL OF HEALTH AND HUMAN ECOLOGY 2002 ; 68 : 54-67 .
- 2) Kimura M, Kanetani K, Imai R, Suzuki H, Isayama K, Endo S : Therapeutic effects of milnacipran, a serotonin and noradrenaline reuptake inhibitor, on post-stroke depression . Int Clin Psychopharmacol 2002 ; 17 : 121-125 .
- 3) Takezawa K, Kimmura M, Mori T, Endo S : EEG changes induced by odor effects after stress of long monotonous work ; application of nonlinear analysis based on chaos dynamics . J Intl Soc Life Info Sci 2002 ; 20 : 721-727 .
- 4) Tateno A, Kimura M, Robinson R : Phenomenological characteristics of poststroke depression ; early-versus late onset . Am J Geriatr Psychiatry 2002 ; 10 : 575-582 .
- 5) Wang X, Kimura M, Hada M, Nakajima Y, Mori T, Endo S : Changes of the Event-Related Potentials during Hypnosis . J Intl Soc Life Info Sci 2002 ; 10 : 575-582 .
- 6) Suzuki H, Kimura M, Sakamoto A, Hada M, Takezawa K, Suzuki H, Shimoda K, Mori T, Endo S : One-year follow-up outcome of relapse and recurrence after electroconvulsive therapy in major depression . Jpn J Gen Hosp Psychiatry 2002 ; 14 : 148-156 .
- 7) 伊藤敬雄, 山寺博史, 遠藤俊吉, 川島修司<sup>1)</sup>, 山中博之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 成人still病の経過中にせん妄に基づく精神症状を呈した1症例 . 精神医学 2002 ; 44 (6) : 651-657 .
- 8) 伊藤敬雄, 山寺博史, 黒澤 尚, 岸 泰宏, 原田章子, 横田裕行, 黒川 顕, 遠藤俊吉 : 高度救命救急センター

における精神科consultation-liaison serviceを開始して．総合病院精神医学 2002；14（1）：63-74．

- 9) 伊藤敬雄，山寺博史，遠藤俊吉，川島修司，山中博之：成人still病の経過中にせん妄に基づく精神症状を呈した1症例．精神医学 2002；44（6）：651-657．
  - 10) 伊藤敬雄，山寺博史，工藤吉尚，遠藤俊吉：ニコチン置換療法とparoxetine併用が有効であったニコチン依存症の1症例．精神医学 2002；44（9）：949-955．
  - 11) 伊藤敬雄，山寺博史，工藤吉尚，黒澤 尚，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>救急医学）：南多摩地域の大学病院救命救急センターからみた精神科救急医療．病院・地域精神医学 2002；45（3）：351-359．
  - 12) 伊藤敬雄，伊藤理津子，木村真人，佐藤忠宏<sup>1)</sup>，高橋祥友<sup>2)</sup>，山寺博史，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>公徳会佐藤病院，<sup>2)</sup>東京都精神医学総合研究所精神病理研究部門）：老年期痴呆の自殺に関する臨床的研究：脳血管性痴呆とアルツハイマー型痴呆を比較して．老年精神医学雑誌 2002；13（11）：1307-1322．
  - 13) 石津 宏，豊里竹彦：心因性EDの治療（精神科・心療内科の立場から）：ライフスタイルと性機能．ストレスと臨床 2002；19-25．
  - 14) 伊藤敬雄，山寺博史，伊藤理津子，佐藤忠宏<sup>1)</sup>，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>公徳会佐藤病院）：脳血管性痴呆の自殺企図の臨床的研究．精神医学 2002；44（12）：1295-1303．
  - 15) 森 隆夫：長期入院患者の実態と今後の対応について：具体的な実態と問題点から院内施設まで．日精協雑誌 2002；21：32-38．
  - 16) 石津 宏，與古田孝夫，吉田 延，森山浩司，大仲良一：心因性勃起障害の定義と診断基準：男性性機能不全：ED関連の基礎・臨床研究の進歩．日本臨床 2002；60：431-438．
  - 17) 木村真人：Post-stroke depressionに対するSNRI Milnacipranの治療効果．老年精神医学雑誌 2002；13：435-439．
  - 18) 木村真人，森 隆夫，葉田道雄，石塚龍夫，中島泰憲，王 旭梅，鈴木博子，遠藤俊吉：催眠中の脳波パワーと事象関連電位の変化．催眠と科学 2002；17：28-31．
  - 19) 木村真人，金谷幸一，今井理子，鈴木博子，諫山和夫，遠藤俊吉：脳卒中後うつ病に対するmilnacipranの治療効果．臨床精神薬理 2002；5（増）：103-109．
- (2) 綜説：
- 1) 高石 昇：教育研修講演：催眠の倫理，限界，危険性．臨床催眠学 2002；18-24．
  - 2) 伊藤敬雄，山寺博史，黒澤 尚，岸 泰宏，原田章子，横田裕行<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，遠藤俊吉（<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター）：高度救命救急センターにおける精神科consultation-liaison serviceを開始して．総合病院精神医学 2002；14（1）：63-74．
  - 3) 伊藤敬雄，山寺博史：アルツハイマー型痴呆治療薬である塩酸ドネペジル（アリセプト）は効果があるのか．J Nippon Med Sch 2002；69（4）：379-382．
  - 4) 下田健吾：脳卒中後うつ病と病変部位の関連．こころの臨床 2002；21（3）：335-339．
  - 5) 木村真人，下田健吾，森 隆夫，遠藤俊吉：気分障害の診断分類の対比：従来診断，DSM-4，ICD-10．精神科治療学 2002；17（増刊）：43-49．
  - 6) 下田健吾，木村真人：精神科臨床における一般的な身体治療薬との併用の注意点および問題点について：風邪薬，痛み止め，胃腸薬を中心として．精神科臨床サービス 2002；2（4）：518-521．
  - 7) 木村真人，下田健吾：脳卒中後の軽症うつ病．成人病と生活習慣病 2002；32（11）：1458-1462．
  - 8) 下田健吾，木村真人，鈴木博子，小泉幸子，森 隆夫，遠藤俊吉：強迫性障害が先行し後に大うつ病を合併した二症例について．精神科治療学 2002；17（12）：1535-1540．
  - 9) 森 隆夫，木村真人：職場でのストレス現状と人間関係：暗示と思い込みを中心にして．催眠と科学 2002；17：5-9．
  - 10) 森 隆夫：現代病としての軽症うつ病；職場環境・社会環境と軽症うつ病；特集：現代病としての軽症うつ病．

成人病と生活習慣病 2002 ; 32 : 1418-1422 .

- 11) 石津 宏, 太田光紀, 下地紀康, 柳田信彦, 森山浩司: 心理テスト: 男性機能不全. 日本臨床 2002 ; 60 : 136-141 .
- 12) 石津 宏, 下地紀康, 仲本 勉, 山本健司: 心理療法 - 概論: 一般心理療法と専門的心理療法. 日本臨床 2002 ; 60 : 229-234 .
- 13) 木村真人: 軽症うつ病の診療における病診連携. 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 : 49-51 .
- 14) 木村真人: Vascular Depression (血管性うつ病): 老年者に対する抗うつ薬の選び方と治療の実際: 新規抗うつ薬をどう使い分けるか. Geriatric Medicine 2002 ; 40 : 491-494 .
- 15) 木村真人, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉: うつ病の概念を考える: 大うつ病の概念, 特集-「うつ」は変わったか-評価と分類-I. 精神科治療学 2002 ; 17 : 979-984 .
- 16) 木村真人: 特集にあたって: 脳血管障害とうつ病. こころの臨床 a・la・carte 2002 ; 21 : 341-344 .
- 17) 木村真人: 脳卒中後の情動障害における歴史的背景と今後の課題. こころの臨床 a・la・carte 2002 ; 21 : 319-323 .
- 18) 木村真人: 脳卒中後うつ病と認知障害との関連. こころの臨床 a・la・carte 2002 ; 21 : 341-344 .
- 19) 木村真人: 脳血管障害: 身体疾患にともなううつ状態への治療的対応, 内科医のためのうつ病診療. Modern Physician 2002 ; 22 : 1131-1133 .
- 20) 木村真人: 血管性うつ病 (Vascular depression) の概念と薬物療法. 臨床精神薬理 2002 ; 5 : 1549-1556 .
- 21) 鈴木博子, 木村真人: 救命救急医療における精神医学的問題, 特集: リエゾン精神医学の直面している問題と新しい動き I. 精神科治療学 2002 ; 17 : 1367-1374 .
- 22) 遠藤幸彦: トラウマ, 過去世, 前世療法. 催眠と科学 2002 ; 17 (1): 62-67 .
- 23) 木村真人, 下田健吾: 血管性うつ病の本態と治療. 新しい診断と治療のABC 9 2003 ; 171-178 .
- 24) 木村真人, 下田健吾: 脳器質性うつ病の最近の話題: 血管性うつ病を中心に. 最新精神医学 2003 ; 8 (1): 21-29 .
- 25) 木村真人: Vascular depression の治療, 特集 Vascular depression. Depression Frontier 2003 ; 1 : 41-48 .

#### (3) 研究報告書:

- 1) 遠藤俊吉, 佐藤茂樹, 上村秀樹, 杉山 一, 木村真人, 鈴木博子: 合併症病棟のあり方に関する研究. 厚生省科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業-精神医療の機能分化や専門的医療等に関する研究- 2002 ; pp34-49 .

#### (4) 研修症例コメント:

- 1) 遠藤幸彦: 「まとめあげる」こと. 精神分析研究 2002 ; 46 (2): 109-110 .

#### (5) 症例報告:

- 1) 田邊 綾, 下田健吾, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 一過性てんかん性健忘 (TEA) の1例: 臨床特徴と神経生理学的所見を中心に. 臨床脳波 2002 ; 44 : 334-338 .
- 2) 田村良敦, 木村真人, 森 隆夫, 葉田道雄, 下田健吾, 遠藤俊吉, 佐藤田鶴子: Milnacipran が著効した口腔内セネストパチーの1例. 臨床精神薬理 2002 ; 5 (増): 201-204 .

#### 著 書

- 1) Kimura M, Shimoda K, Mori T, Tateno A, Hada M, Suzuki H, Endo S : [ 分担 ] Changes in regional cerebral blood flow on recovery from depression- comparison of vascular depression and non-vascular depression ( Hirata K, Koga Y, Nagata K and Yamazaki K eds ), 2002 ; pp757-761, Elsevier Science B. V.
- 2) 遠藤俊吉, 森 隆夫: [ 自著 ] 精神科医が語る子どもの心の病気, 2002 ; 成美堂出版 .
- 3) 森 隆夫: [ 分担 ] 精神分裂病の急性期患者に対する quetiapine の治療経験. 私の処方, 2002 ; pp44-47, 診療新社 .

- 4) 石津 宏, 與古田孝夫, 下地紀靖, 大仲良一, 吉田 延: [分担] 一般臨床に役立つ抗不安薬と睡眠薬の使い方. レジデント・ハンドブック Case Study (上島国利編), 2002; pp96-101, アルタ出版.
- 5) 木村真人, 下田健吾: [分担] 血管性うつ病とSNRI. 治療編. SNRIのすべて (上島国利, 小山 司, 樋口輝彦編集), 2002; pp154-167, 先端医学社.
- 6) 遠藤俊吉, 木村真人: [監訳] 脳卒中の臨床神経精神医学 (ロバート・G・ロビンソン著), 2002; 星和書店.
- 7) 木村真人: [翻訳] 脳卒中後不安障害. 脳卒中の臨床神経精神医学 (ロバート・G・ロビンソン著, 遠藤俊吉, 木村真人監訳), 2002; pp345-394, 星和書店.
- 8) 木村真人, 下田健吾: [分担] 血管性躁病. KEY WORD 精神 (樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編集), 2003; pp58-59, 先端医学社.
- 9) 木村真人, 下田健吾: [分担] 血管性うつ病の本態と治療, 第4章躁うつ病の管理・治療. 新しい診断と治療のABC9, 精神1. 躁うつ病 (上島国利編集), 2003; pp171-178, 最新医学社.
- 10) 木村真人, 下田健吾: [分担] Vascular mania. キーワード精神第三版 (樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編集), 2003; pp171-178, 先端医学社.

(1) 翻訳:

- 1) 高石 昇: アメリカ臨床心理学会 臨床催眠訓練のスタンダード: D. C. Hammond & G. R. Elkins 著. 臨床催眠学, 2003; pp57-66.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Ishizu H: Invitation toward 2003 the 44th Academic Congress of Japanese College of Psychosomatic Medicine held in Okinawa. The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine ( Taipei, Taiwan ), 2002. 9.

(2) シンポジウム:

- 1) Ishizu H, Yokota T, Moriyama K, Toyosato T, Sobajima K, Shimoji T, Yanagida N, Ota M, Chen Wen-jye, Yamamoto K, Wake N, Akisaka M, Willcox C, Yoshida N: Health promotion based on mental health - correlative study between subjective well-being and physical conditions on elderly persons of longevity areas in Okinawa. The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine ( Taipei, Taiwan ), 2002. 9.
- 2) Ibi Y, Naka K, Wake N, Kinblem M, Takizawa T, Yokota T, Ishizu H: Relation between parental child-abuse and the child's self-esteem, ego state and school life adaptation. The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine ( Taipei, Taiwan ), 2002. 9.
- 3) Yokota T, Ishizu H, Takamura M, Akamine Y, Naka K, Wake N, Ota M, Sawada S, Femg E: Self-esteem of the elderly people in relation to the psychosocial aspects in Okinawa Field of Study. The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine ( Taipei, Taiwan ), 2002. 9.
- 4) 木村真人: Vascular Depressionの薬物治療. 第7回日本神経精神医学会, 2002. 6.

(3) セミナー:

- 1) 皆川邦直<sup>1)</sup>, 溝口純二<sup>2)</sup>, 遠藤幸彦, 満岡義敬<sup>3)</sup>, 生田憲正<sup>4)</sup>, 餅田彰子<sup>5)</sup>, 守屋直樹<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>法政大学, <sup>2)</sup>東京国際大学, <sup>3)</sup>横浜市民病院, <sup>4)</sup>国立成育医療センター, <sup>5)</sup>日吉病院, <sup>6)</sup>昭和大学藤が丘病院 ): 発生論的・力動的定式化3. 第18回日本精神分析学会教育研修セミナー, 2002. 10.
- 2) 高石 昇: 行動療法(II) 臨床場面における技法の実際. 関西カウンセリングセンター, 2003. 3.

(4) ワークショップ:

- 1) 高石 昇: 第9回研修会. 日本臨床催眠学会, 2002. 9.
- 2) 高石 昇: 第10回研修会. 日本臨床催眠学会, 2002. 11.

(5) 一般講演：

- 1) Kimura M, Kanetani K, Imai R, Suzuki H, Mori T, Endo S : Effects of milnacipran on post-stroke depression . XII World Congress of Psychiatry ( Yokohama ), 2002 . 8 .
- 2) Shimoda K, Kimura M, Mori T, Fujito T, Tamura Y, Endo S : Clinical usefulness for differential diagnosis of elderly depressed patients using three-dimensional stereotactic surface projections of 123I-IMP SPECT . XII World Congress of Psychiatry ( Yokohama ), 2002 . 8 .
- 3) Tamura Y, Kimura M, Mori T, Hada M, Shimoda K, Endo S : Efficacy of milnacipran in a patient with cenesthopathy . XII World Congress of Psychiatry ( Yokohama ), 2002 . 8 .
- 4) Nakajima Y, Kimura M, Hada M, Mori T, Endo S : The changes of Event Related Potential during Hypnosis . XII World Congress of Psychiatry ( Yokohama ), 2002 . 8 .
- 5) Hada M, Kimura M, Nakajima Y, Mori T, Endo S : An ERP study in cenesthopathy . XII World Congress of Psychiatry ( Yokohama ), 2002 . 8 .
- 6) Takizawa T, Naka K, Wake N, Kinblen M, Ishizu H, Yokota T : Stress and coping of aged people who live in farm village in northeastern japan . The 10th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine ( Taiwan, Taipei ), 2002 . 9 .
- 7) 下田健吾, 木村真人, 藤渡辰馬, 田村良敦, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : アルツハイマー型痴呆に移行した老年期うつ病の123I-IMP SPECT 3D-SSP所見 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 8) 原田章子, 木村真人, 葉田道雄, 木村美保, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 右側頭葉を主体とする広範な脳梗塞によって二次性躁病を発症した1例 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 9) 金谷幸一, 木村真人, 遠藤俊吉 : 外傷性脳損傷軽症例におけるミルナシبران ( SNRI ) の治療効果 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 10) 田邊 綾, 木村真人, 竹澤健司, 小宅理佳子, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 薬物治療抵抗性のパセドウ病に伴う精神病症状にECTが奏功した1例 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 11) 大熊征司, 木村美保, 木村真人, 鈴木博子, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : Cushing病の精神症状にバルプロ酸ナトリウムが有効であった1症例 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 12) 新井麻紀, 木村美保, 木村真人, 鈴木英朗, 下田健吾, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 脳波異常を伴うパセドウ精神病にquetiapineが奏功し, 脳波所見も改善した1例 . 第7回日本神経精神医学会, 2002 . 6 .
- 13) 荒川亮介, 木村真人, 竹澤健司, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 催眠施行中における脳波変化 : odd-ball課題施行中のフラクタル次元解析 . 第18回日本催眠学会, 2002 . 9 .
- 14) 上地真知子, 山田 亨, 上江洲歩, 與古田孝夫, 照屋 淳, 高倉 実, 石津 宏 : 性差からみた地域高齢者伝統的信仰意識とメンタルヘルスとの関連についての検討 . 日本民族衛生学会30回沖縄地方会, 2002 . 10 .
- 15) 上江洲歩, 上地真知子, 山田 亨, 與古田孝夫, 照屋 淳, 高倉 実, 石津 宏 : 地域高齢者の疾病対処と代替医療の関連意識についての検討 . 日本民族衛生学会第30回沖縄地方会, 2002 . 10 .
- 16) 山田 亨, 上地真知子, 上江洲歩, 與古田孝夫, 照屋 淳, 高倉 実, 石津 宏 : 高齢者の自己効力感 ( self-efficacy ) に影響する要因についての検討 : 中城村地域高齢者の調査結果から . 日本民族衛生学会第30回沖縄地方会, 2002 . 10 .
- 17) 木村真人, 佐藤茂樹, 上杉秀樹, 杉山 一, 鈴木博子, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 守屋裕文 : 精神科合併症病棟のあり方に関する研究 . 第15回総合病院精神医学会総会, 2002 . 11 .
- 18) 木村真人, 金谷幸一, 今井理子, 鈴木博子, 諫山和夫, 遠藤俊吉 : 脳卒中後うつ病に対するmilnacipranの治療効果 : 抑うつ, 不安, 認知, ADLに関する検討 . 第15回日本総合病院精神医学会総会, 2002 . 11 .
- 19) 鈴木博子, 木村真人, 竹澤健司, 池森紀夫, 森 隆夫, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 : 救命救急センターにおける自殺企図者の特徴 : 診断と継続治療 . 第15回日本総合病院精神医学会総会, 2002 . 11 .

- 20) 岸 泰宏, Kathol R : 総合病院 (C/L) 精神医療は医療支出削減に貢献可能か? 第15回日本総合病院精神医学会総会, 2002. 11.
- 21) 森岡恭介, 持田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>介護老人保健施設ハイネス憩の丘): 痴呆性老人の心身医療とケアとの関連についての一つの試み: 処方分離操作による影響について. 第3回日本地方ケア学会大会, 2002. 11.
- 22) 高石 昇: 中心自我による自我強化法の経験. 日本臨床催眠学会 第4回学術大会, 2002. 11.
- 23) 伊藤敬雄, 工藤吉尚, 遠藤俊吉: SNRI (milnacipran) が著効した慢性疼痛患者の1症例の検討. 第2回不安・抑うつ研究会, 2003. 2.

## [ 付属病院東洋医学科 ]

### 研究概要

現代医学における東洋医学の有用性の探求と東洋医学の病態概念の科学的実証, これが当科の研究目標である. 本年度の科学的実証の研究は, 昨年度に引き続き, 春季花粉症の研究をおこなった. すなわち, 症例数を増やす事により, 昨年度に実証した花粉症3分類のより詳細な病態像を明らかにした. 有用性の研究では, これまであまり注目されず, かつ明確となっていない清心蓮子飲について, 有効症例の集計を通して, その適応病態・適応症状・適応疾患を実証的に明確にした. 更に清脾飲の適応病態像を明確にし, 梅核気の新しい適応処方を検討した. その他, 不眠の病態・加味逍遙散などの皮膚疾患への応用などの研究をおこなった.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 興津 寛, 土屋 喬, 斉藤輝夫, 白石佳正, 渡邊 裕, 三浦於菟: 皮膚疾患に加味逍遙散を使用した症例の検討. 漢方と最新医学 2002; 11(3): 284-290.
- 2) 三浦於菟: 清心蓮子飲の病態と効能. 漢方と最新治療 2002; 11(4): 385-395.
- 3) 三浦於菟: 清心蓮子飲と清脾湯で軽快した多汗症の1例. 漢方の臨床 2003; 50(1): 125-131.
- 4) 三浦於菟: アレルギー性鼻炎, 特に春季花粉症の東洋医学的病態像の検討. 日本東洋医学雑誌 2003; 54(1): 116-125.
- 5) 三浦於菟: 半夏厚朴湯によらない梅核気の三治験例. 東静漢方研究室 2003; 26(1): 10-17.

##### (2) 綜説:

- 1) 三浦於菟: 痺証の薬物外治療法. 東静漢方研究室 2002; 25(3): 13-20.
- 2) 三浦於菟: 実践漢薬学第13回: 活血薬. 漢方研究 2002; 366: 218-222.
- 3) 三浦於菟: 実践漢薬学第14回: 化痰薬. 漢方研究 2002; 367: 289-296.
- 4) 春木英一<sup>1)</sup>, 杉原 桂, 飯倉洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学医学部小児科): 小児科と東洋医学. 日本小児科学会雑誌 2002; 106(8): 971-974.
- 5) 三浦於菟: 中国の漢方医療の現状. 海外勤務と健康 2002; 16: 29-32.
- 6) 三浦於菟: 漢方ものしり辞典: 東洋医学対語術語. MEDICAL KANPO 2002; 12-12.
- 7) 三浦於菟: 実践漢薬学第15回: 安神薬. 漢方研究 2002; 370: 444-446.
- 8) 古賀実芳, 三浦於菟: 東洋医学では不眠をどう考え治療しているのか. aromatopia 2002; 11(6): 30-35.
- 9) 三浦於菟: 実践漢薬学第16回: 平肝熄風薬. 漢方研究 2002; 372: 32-36.
- 10) 三浦於菟: 実践漢薬学第17回: 安神薬. 漢方研究 2003; 374: 63-68.
- 11) 三浦於菟: 春季花粉症の東洋医学的病態像: 漢方薬を使った新しい治療法. Medical ASAHI 2003; 32(4): 44-46.

## 著 書

- 1) 三浦於菟：〔自著〕四季の漢方，2002；pp1-223，源草社．
- 2) 三浦於菟：〔監修〕漢方ってこんなにすごい，2002-120；主婦と生活社．

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 三浦於菟：アレルギー性鼻炎，特に春季花粉症の東洋医学的病態像の検討 「アレルギー性鼻炎患者の全人的医療をめざして」．第53回日本東洋医学会学術総会，2002．5．

### (2) 一般講演：

- 1) 三浦於菟，李 彦<sup>1)</sup>，武島英人<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>吉祥寺東方医院，<sup>2)</sup>武島内科クリニック)：清心蓮子飲と清脾飲で軽快した多汗症の1例．第12回漢方治療研究会，2002．6．
- 2) 三浦於菟：漢方薬の副作用．第39回日本絶食研究会，2002．11．
- 3) 土屋 喬，興津 寛，川嶋裕子，古賀実芳，斉藤輝夫，三浦於菟：花粉症の鍼灸治療．平成15年日本東洋医学会東海支部静岡県部会学術講演会，2003．3．



## 6. 小児科学講座

### [ 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 ]

#### 研究概要

小児科学教室では付属4病院小児科の協力のもとにおいて下記の研究を行っており、業績は一括して報告する。

- 1) 小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子解析，晩期障害の検討。
- 2) 不定愁訴をもつ学童生徒での自己抗体出現の機序と臨床的意義。
- 3) 肥満児の病態解析．小人症の治療と随伴する微量元素の代謝。
- 4) 川崎病後の血管リモデリングと心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する遺伝子，分子生物学的検討。
- 5) けいれん性疾患脳波学的解析．各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析。
- 6) 乳児期腎臓超音波マスキング検査の臨床的意味付け。
- 7) 食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討。
- 8) 小児の呼吸音の解析．小児呼吸器疾患の血清KL-6値の検討。
- 9) 遺伝子治療の臨床応用にむけての基礎的研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2001 年度追加分 ]

研究報告書：

- 1) 村上睦美：小児腎尿路疾患の早期発見システムの導入に関する研究．厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）小児難児性腎尿路疾患の早期発見，管理・治療に関する研究 平成13年度研究報告書：主任研究者 五十嵐隆 2002；400-425。

(1) 原著：

- 1) Asano T, Matsumoto T, LingZhi C, Maeda M, Uchida E, Tjiri T, Fukunaga Y: Solid and cystic tumor of the pancreas in a 12-year-old boy. *Pediatrics Int*.
- 2) Wada-kiyama Y, Kuwabara K, Sakuma Y, Onishi Y, Trifonov EN, Kiyama R: Localization of curved DNA and its association with nucleosome phasing in the promoter region of the human estrogen receptor alpha gene. *FEBS Lett*. 1999; 444 (1): 117-124.
- 3) Itoh Y, Imai T, Fujino O, Fukunaga Y: Subclinical Sjögren syndrome and anti-Ro/SSA positive autoimmune fatigue syndrome in children. *Modern Rheumatol* 2002; 12 (3): 201-205.
- 4) Onishi Y, Kuwabara K, Rho J, Wada-Kiyama Y, Sakuma Y, Kyama R: Ligand-dependent transcriptional enhancement by DNA curvature between two halfmotifs of the estrogen response element in the human estrogen receptor alpha gene. *Gene* 2002; 294 (1-2): 279-290.
- 5) Maeda M, Fukunaga Y, Asano T, Migita M, Ueda T, Hayakawa J: Zanamivir is an effective treatment for influenza in children undergoing therapy for acute lymphoblastic leukemia. *Scand J Infect Dis* 2002; 34: 632-633.
- 6) Takahashi H<sup>1)</sup>, Hirai H<sup>1)</sup>, Migita M, Seino Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>3)</sup>, Sakuraba H<sup>4)</sup>, Kase R<sup>4)</sup>, Kobayashi T<sup>5)</sup>, Hashimoto T<sup>5)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, (<sup>2)</sup> Dept. of first internal med-

- icine, <sup>3)</sup> Dept. of Pathology, <sup>4)</sup> Dept. of Clinical Genetics, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>5)</sup> RIKEN Frontier Research System): Long-term systemic therapy of Fabry disease in a knockout mouse by adeno-associated virus-mediated muscle-directed gene transfer. Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2002; 99: 13777-13782.
- 7) Tamura K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Ogawa S, Yamauchi H<sup>2)</sup>, Okada R<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Surgical Pathology, <sup>2)</sup> Second Department of Surgery, <sup>3)</sup> Tokyo and Gunma Puz Junior College of Nursery): Tumorous deformity of mitral valve leaflet after chordal rupture in a child. Pathology International 2003; 53: 51-57.
- 8) Migita M, Uchikoba Y, Orimo H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Matsumoto T, Hayakawa J, Fujino O, Saitoh M<sup>2)</sup>, Fukunaga Y (<sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Pediatrics, The University of Tokyo): Genetic diagnosis of Werdnig-Hoffmann disease-A problem for application to pre-natal diagnosis-. J Nippon Med. Sch. 2003; 70 (1): 45-48.
- 9) Tanaka R<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup>, Yamada M<sup>1)</sup>, Furuya T<sup>1)</sup>, Migita M, Shimada T<sup>2)</sup>, Mizuno Y<sup>1)</sup>, Urabe T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Neurology, Juntendo University of Medicine, <sup>2)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Migration of enhanced green fluorescent protein expressing bone marrow derived microglia/macrophage into the mice brain following permanent focal ischemia. Neuroscience 2003; 117: 531-539.
- 10) Furuya T<sup>1)</sup>, Tanaka R<sup>1)</sup>, Hayakawa J, Migita M, Shimada T<sup>2)</sup>, Mizuno Y<sup>1)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Neurology, Juntendo University of Medicine, <sup>2)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Establishment of modified chimeric mice using GFP bone marrow as a model for neurological disorders. Neurosci Lett 2003; 14 (2): 629-631.
- 11) Narazaki H, Watari E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Das H<sup>2)</sup>, Fukunaga Y, Takahashi H<sup>1)</sup>, Sugita M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School): Perforin-dependent killing of tumor cells by VgVd1-bearing T-cells. Immunology Letters 2003; 86: 113-119.
- 12) 松本多絵<sup>1,2)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup>, 武智信幸<sup>1)</sup>, 川畑 建<sup>2)</sup>, 藤村樹里<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学小児科学): 原因不明の急激な溶血性貧血を呈した極低出生体重児の4症例. 日本新生児学会誌.
- 13) 河合 忠<sup>1)</sup>, 富野康日己<sup>2)</sup>, 船曳和彦<sup>3)</sup>, 小林 豊<sup>4)</sup>, 谷龍龍男<sup>5)</sup>, 大野岩男<sup>5)</sup>, 山田 明<sup>6)</sup>, 原 茂子<sup>6)</sup>, 栖原優<sup>7)</sup>, 村上睦美<sup>8)</sup>, 土屋正己<sup>8)</sup>, 近藤喜久<sup>9)</sup>, 新聞紀康<sup>10)</sup>, 伊藤機一<sup>11)</sup>, 片山善章<sup>12)</sup> (<sup>1)</sup> 国際臨床病理センター, <sup>2)</sup> 順天堂大学医学部腎臓内科, <sup>3)</sup> 北里大学医学部腎臓内科, <sup>4)</sup> 東海大学医学部腎代謝内科, <sup>5)</sup> 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, <sup>6)</sup> 虎ノ門病院腎センター, <sup>7)</sup> 駿河台日本大学病院小児科, <sup>8)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>9)</sup> 旭川医科大学臨床検査医学, <sup>10)</sup> 旭川医科大学付属病院検査部, <sup>11)</sup> 神奈川県立衛生短期大学, <sup>12)</sup> 国立循環器病センター臨床検査部): 新しい尿検査試験紙の基礎的および臨床的検討. 医学と薬学 2002; 47 (5): 775-786.
- 14) 加藤裕久<sup>1)</sup>, 馬場 清<sup>2)</sup>, 原田研介<sup>3)</sup>, 浜岡建城<sup>4)</sup>, 賀藤 均<sup>5)</sup>, 津田悦子<sup>6)</sup>, 上村 茂<sup>7)</sup>, 佐治 勉<sup>8)</sup>, 赤木禎治<sup>1)</sup>, 石井正浩<sup>1)</sup>, 小川俊一, 越後茂之<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> 久留米大学小児科, <sup>2)</sup> 倉敷市民病院小児科, <sup>3)</sup> 日大小児科, <sup>4)</sup> 京都府立医大小児科, <sup>5)</sup> 東大小児科, <sup>6)</sup> 国立循環器病センター小児科, <sup>7)</sup> 和歌山県立医大小児科, <sup>8)</sup> 東邦大学小児科): 川崎病冠状動脈後遺症のカテーテル治療に関する指針 (厚生科学研究「川崎病の治療と長期管理に関する研究」研究班による). 心臓 2002; 34: 587-593.
- 15) 西澤善樹<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院小児科): 1998年秋に神奈川県川崎市で流行した麻疹および合併症について. 小児保健研究 2002; 61 (4): 612-615.
- 16) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英, 今井登志子: 小児喘息の長期管理における肺胞音スペクトル解析の有用性. 薬理と臨床 2002; 12 (5): 379-384.

- 17) 川上康彦<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松永成太<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 藤野 修<sup>2)</sup>, 古根 淳<sup>3)</sup>, 近藤雅雄<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2)</sup> 同千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup> 名古屋第一赤十字病院小児科, <sup>4)</sup> 国立健康・栄養研究所応用栄養学研究所): 難治てんかんにポルフィリン代謝異常を併発したと考えられた1症例. ポルフィリン 2002 ; 125-132 .
- 18) 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 内木場庸子, 小川俊一 ( <sup>1)</sup> 放射線医学 ): Multi-detector row CT : 基礎とその特徴活かした臨床応用. 日本小児放射線学会雑誌 2002 ; 18 : 148-153 .
- 19) 山本 剛, 長戸孝道, 清水秀治, 荒牧琢己, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野ありさ, 渡辺 淳, 島田 隆 ( <sup>1)</sup> 内科学第1, <sup>2)</sup> 病理学第2, <sup>3)</sup> 生化学第2 ): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 薬理と治療 2002 ; 30 ( 2 ): S385-S391 .
- 20) 浅野 健, 内木場康子, 蔡 靈芝, 川東 豊, 前田美穂, 清水一雄, 福永慶隆: 左下咽頭梨状窩瘻からの感染による急性可能性甲状腺炎の一女児例. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ): 632-633 .
- 21) 今井大洋, 吉田順子, 伊藤保彦: 肺炎軽快後も胸水貯留が持続し, その消失後にSLEと診断された1例. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 2002 ; 13 ( 1 ): 41-45 .
- 22) 平山恒憲<sup>1)</sup>, 川畑 建<sup>2)</sup>, 川上康彦<sup>1)</sup>, 小川耕一<sup>2)</sup>, 今井丈英<sup>3)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>4)</sup>, 清水裕之<sup>5)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学第二病院小児科, <sup>2)</sup> 同付属病院小児科, <sup>3)</sup> 同多摩永山病院小児科, <sup>4)</sup> 同千葉北総病院小児科, <sup>5)</sup> 都立神経病院脳神経外科 ): 興味あるMRIとSPECTの所見を呈した局在関連てんかん難治例. 小児科 2003 ; 44 : 147-148 .
- (2) 綜説:
- 1) 土屋正己, 村上睦美: 先天性腎尿路疾患の超音波スクリーニング. 東京小児科医会報 2002 ; 21 ( 1 ): 2-25 .
- 2) 伊藤保彦, 今井大洋, 福永慶隆: 膠原病と呼吸器疾患. 小児科臨床 2002 ; 55 ( 4 ): 703-707 .
- 3) 大木由加志, 折茂裕美: 肥満・2型糖尿病 ( 小児の治療指針9. 内分泌・代謝 ). 小児科診療 2002 ; 65 : 417-419 .
- 4) 高瀬真人: 呼吸器疾患とKL-6 ( 特集: 呼吸器疾患の診断・治療の最近の進歩 ). 小児科臨床 2002 ; 55 ( 4 ): 475-480 .
- 5) 村上睦美: 尿閉, 乏尿, 無尿 [ 小児の治療指針 ]. 小児科診療増刊号 Vil. 65, 76-78, 2002 2002 ; 65 ( suppl. ): 76-78 .
- 6) 稲葉八興, 千葉 隆: 睡眠時無呼吸症候群. 小児科診療 2002 ; 65 ( suppl. ): 332-334 .
- 7) 前田美穂: 遺伝性溶血性貧血. 小児科診療 2002 ; 65 : 349-351 .
- 8) 小川俊一: 先天性心疾患と呼吸器疾患. 小児科臨床 2002 ; 55 : 611-617 .
- 9) 伊藤保彦: 慢性疲労症候群. リウマチエキスパート 2002 ; 32 : 4-5 .
- 10) 村上睦美, 土屋正己: 小児の血尿の取り扱い方: chance hematuriaを中心に [ 主題: 血尿 ]. 腎臓 2002 ; 25 ( 1 ): 29-35 .
- 11) 小川俊一: 細菌性心内膜炎の予防に関するRecommendation. 小児科臨床 2002 ; 55 : 1101-1108 .
- 12) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆 ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): 骨髄幹細胞の多能性の解明と再生医学への応用. 小児科 2002 ; 43 ( 8 ): 1056-1061 .
- 13) 小川俊一: 脈の異常 外来患者の素朴な疑問に答える 家庭でのケアとその指導Q&A Part 2. 小児科 2002 ; 43 : 1241-1244 .
- 14) 前田美穂: いわゆる貧血. 小児科 2002 ; 43 : 1154-1156 .
- 15) 村上睦美, 土屋正己: 学校健診: 学校腎臓検診. 保健の科学 2002 ; 44 ( 9 ): 668-675 .
- 16) 大木由加志: 未病としての小児・思春期生活習慣病 ( 未病制御 II. 臨床未病 ). Progress in Medicine 2002 ; 22 ( 10 ): 2263-2266 .
- 17) 折茂裕美, 大木由加志: 小児糖尿病に対する新しい治療法 ( 新しい小児医療 ). 小児科 2002 ; 43 ( 10 ): 1599-1603 .

- 18) 伊藤保彦：小児科領域における抗核抗体検査の意義．日本小児科学会雑誌 2002；106(11)：1543-1549．
- 19) 大木由加志，折茂裕美：肥満検診による糖尿病スクリーニング(小児糖尿病UPDATE II．診断)．小児内科 2002；34(11)：1620-1623．
- 20) 村上睦美，土屋正己：学童期における腎疾患児の管理．日本医事新報 2002；(4100)：7-15．
- 21) 稲葉八興，千葉 隆：呼吸不全．小児内科 2002；34(増刊号)：36-40．
- 22) 高瀬真人：RSウイルス(特集：ウイルス治療最前線)．小児科 2002；43(12)：1823-1829．
- 23) 村上睦美：無症候性蛋白尿・血尿[腎疾患治療薬マニュアル]．腎と透析 2002；53(suppl)：108-112．
- 24) 桑原健太郎，小林朋子：TicとTourette症候群．小児科 2002；43(7)：11-16．
- 25) 榎崎秀彦，杉田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)微生物学・免疫学)：CD1-感染免疫のあらたなパラダイム．別冊・医のあゆみ 免疫疾患 2002；72-76．
- 26) 村上睦美：[血尿の予後] 検診潜血陽性(小児)．腎と透析54：94-99，2003． 2003；54(1)：94-99．
- 27) 伊藤保彦，福永慶隆：慢性疲労症候群の自己免疫学的側面：自己免疫性疲労症候群との関係．医のあゆみ 2003；204(5)：163-167．
- 28) 五十嵐徹：平成14年度貧血検査の検討：学校検診貧血検査の重要性について．平成14年度学校検診総括表 2003；36-39．
- 29) 前田美穂：小児の虐待．歯学(日本歯科大学歯学会雑誌) 2003；90：11-14．

### (3) 研究報告書：

- 1) 伊藤保彦，福永慶隆：自己免疫性疲労症候群に対する少量ステロイド療法の試み．厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」平成13年度研究業績報告書 2002；1(1)：pp35-41．
- 2) 大木由加志，岸 恵，大川拓也，折茂裕美：全国アンケート調査からみた小児・思春期2型糖尿病のQOLに関する問題点について：平成13年度厚生科学研究・子ども家庭総合研究事業「糖尿病・生活習慣病をもつ子どものQOL改善のための研究」．平成13年度厚生科学研究報告書 2002；pp446-447．
- 3) 前田美穂：思春期貧血：その実態と検査の重要性について．東京都予防医学協会年報 2003；32：pp57-61．
- 4) 福永慶隆，伊藤保彦，早川 潤，右田 真，島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)生化学第2)：造血幹細胞を標的としたX連鎖型重症複合免疫不全症の遺伝子治療．厚生科学研究費補助金 特定疾患対策事業，原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成14年度総括・分担研究報告書 2003；pp58-63．

### 著 書

- 1) 本田 眞<sup>1)</sup>，飯高喜久雄<sup>2)</sup>，上原健夫<sup>3)</sup>，梅嶋功至<sup>4)</sup>，柏光佐子<sup>5)</sup>，菊池敏夫<sup>6)</sup>，原田研介<sup>7)</sup>，馬場礼三<sup>8)</sup>，松浦信夫<sup>9)</sup>，村上睦美<sup>10)</sup>，山内邦昭<sup>11)</sup>(<sup>1)</sup>福岡市立子ども病院，<sup>2)</sup>大和市立病院小児科，<sup>3)</sup>中野区立北中野中学，<sup>4)</sup>埼玉県立杉戸高等学校，<sup>5)</sup>ひたちなか市立那珂湊第三小学校，<sup>6)</sup>神奈川県医師会学校部会，<sup>7)</sup>日本大学医学部医学部小児科，<sup>8)</sup>東海大学体育学部，<sup>9)</sup>北里大学医学部小児科，<sup>10)</sup>日本医科大学小児科，<sup>11)</sup>東京都予防医学協会)：〔分担〕腎臓手帳．腎臓手帳(財団法人 日本学校保健会)，2002；pp1-39，財団法人 日本学校保健会．
- 2) 本田 眞<sup>1)</sup>，飯高喜久雄<sup>2)</sup>，上原健夫<sup>3)</sup>，梅嶋功至<sup>4)</sup>，柏光佐子<sup>5)</sup>，菊池敏夫<sup>6)</sup>，原田研介<sup>7)</sup>，馬場礼三<sup>8)</sup>，松浦信夫<sup>9)</sup>，村上睦美<sup>10)</sup>，山内邦昭<sup>11)</sup>(<sup>1)</sup>福岡市立子ども病院，<sup>2)</sup>大和市立病院小児科，<sup>3)</sup>中野区立北中野中学，<sup>4)</sup>埼玉県立杉戸高等学校，<sup>5)</sup>ひたちなか市立那珂湊第三小学校，<sup>6)</sup>神奈川県医師会学校部会，<sup>7)</sup>日本大学医学部医学部小児科，<sup>8)</sup>東海大学体育学部，<sup>9)</sup>北里大学医学部小児科，<sup>10)</sup>日本医科大学小児科，<sup>11)</sup>東京都予防医学協会)：〔分担〕腎疾患児：新・学校生活管理指導表のしおり．腎疾患児：新・学校生活管理指導表のしおり(財団法人 日本学校保健会，心臓・腎臓等管理指導小委員会)，2002；pp1-10，財団法人 日本学校保健会．
- 3) 小川俊一：〔分担〕心・血管疾患に伴う喘鳴．新・症状から見た小児X線の撮り方読み(藤岡睦久，吉田豊共

- 著), 2002 ; pp23-31, 診断と治療社 .
- 4) 高瀬真人, 吉田 豊 : [ 分担 ] 喘鳴 . 新・症状からみた小児 X 線の撮り方読み方 ( 藤岡睦久, 吉田 豊 ), 2002 ; pp1-23, 診断と治療社 .
  - 5) 伊藤保彦 : [ 分担 ] 膠原病と周辺疾患 13. Sjogren 症候群 . 小児疾患診療のための病態生理 1 ( 第 3 版 ) ( 『 小児内科』 『 小児外科』 編集委員会 ), 2002 ; pp1331-1334, 東京医学社 .
  - 6) 深澤隆治, 小川俊一 : [ 分担 ] 先天性心疾患のカテーテル治療 . 小児科, 2002 ; pp1578-1584, 金原出版 .
  - 7) 村上睦美, 松浦信夫 : [ 共著 ] 養護教諭 : 毎日の執務とその工夫, 追録第 4 章 . 腎臓疾患・糖尿病の子どもの学校生活 ( 村上睦美, 松浦信夫 ), 2002 ; pp1-28, 第一法規出版 .
  - 8) 小川俊一 : [ 分担 ] 心臓腫瘍 . 小児疾患診療のための病態生理学 1 ( 『 小児内科』 『 小児外科』 編集委員会共編 ), 2002 ; pp335-339, 東京医学社 .
  - 9) 高瀬真人 : [ 分担 ] 原発性線毛運動不全 . 小児疾患診療のための病態生理 I ( 第 3 版 ) ( 『 小児内科』 『 小児外科』 編集委員会 ), 2002 ; pp79-83, 東京医学社 .
  - 10) 浅野 健, 福永慶隆 : [ 分担 ] 小児の輸液と注意 . 臨床看護, 2002 ; pp980-984 .
  - 11) 藤野 修, 藤田武久, 高石康子 : [ 分担 ] 脳波判読のピットホール . 小児内科, てんかん 1 : 診断治療の進歩, 2002 ; pp700-704 .
  - 12) 藤田武久 : [ 分担 ] 小児の脳血管障害 . 今日の診断指針 第 5 版 ( 亀山正邦, 高久史麿 ), 2002 ; pp1688-1689, 医学書院 .
  - 13) 小川俊一 : [ 分担 ] 心疾患をもつ乳幼児の日常生活の管理と指導 . 今日の治療指針 2003 ( 山口 徹, 北原光夫総編集 ), 2003 ; pp905-907, 医学書院 .
  - 14) 村上睦美 : [ 分担 ] 学校検尿 . 別冊医学のあゆみ [ 腎疾患 state of arts 2003-2005 ] ( 浅野 泰, 小山哲夫 ), 2003 ; pp145-148, 医歯薬出版株式会社 .
  - 15) 村上睦美 : [ 分担 ] 第 3 章 : 管理と治療 . 新・学校検尿のすべて : 計画から事後措置まで : ( 日本学校保健会 「 心臓・腎臓等管理指導小委員会 」 ), 2003 ; pp55-83, 財団法人日本学校保健会 .
  - 16) 藤野 修, 藤田武久, 桑原健太郎 : [ 分担 ] けいれん意識障害ハンドブック . 小児内科増大号, 2003 ; pp138-140 .

#### 学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

#### 特別講演 :

- 1) 前田美穂 : 中枢神経白血病と晩期障害 . 第二回小児白血病フォーラム, 2001 . 10 .

#### ( 1 ) 特別講演 :

- 1) 小川俊一 : 川崎病における遺伝子多型とその治療 : 血管炎, 血管再構築, 動脈硬化 . 第 46 回埼玉小児循環器談話会, 2002 . 6 .
- 2) 大木由加志 : 小児・思春期生活習慣病について : 肥満・2 型糖尿病を中心に . 第 7 回埼玉小児内分泌研究会, 2002 . 11 .
- 3) 村上睦美 : 腎臓病の子どもの取り扱い方と学校生活管理指導表について . 第 35 回台東区学校保健研究発表会, 2003 . 2 .
- 4) 村上睦美 : 学校検尿について . 岡崎小児科医会, 2003 . 2 .
- 5) 前田美穂 : こどもの貧血とその予防 . 東京都 B 地区学校保健協議会, 2003 . 2 .

#### ( 2 ) 招待講演 :

- 1) 深澤隆治 : 川崎病は動脈硬化の危険因子となるか : 遺伝子からみた Risk . 第 6 回川崎病懇話会, 2002 . 9 .

(3) 教育講演：

- 1) 伊藤保彦：慢性疲労症候群．第28回リウマチ中央教育研修会，2002．7．
- 2) 村上睦美：腎臓疾患における学校生活管理指導表の解説．第46回九州ブロック学校保健・学校医大会，2002．8．
- 3) 伊藤保彦：感染と小児の慢性疲労症候群．第35回埼玉県小児感染免疫懇話会，2003．2．
- 4) 飯高喜久雄<sup>1)</sup>，村上睦美<sup>2)</sup>，山内邦昭<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大和市立病院小児科，<sup>2)</sup>日本医科大学小児科，<sup>3)</sup>東京都予防医学協会)：「新学校生活管理指導表」に関するアンケート調査．第5回学区道腎臓病健診研究会，2003．2．

(4) シンポジウム：

- 1) 右田 真：小児科領域における最先端医療 骨髄幹細胞を用いた再生医療の進歩：心筋，腎臓の再生を中心に．第105回日本小児科学会学術集会(名古屋)，2002．5．
- 2) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：自己免疫性疲労症候群の長期予後(小児の慢性疲労病態)．第8回慢性疲労症候群(CFS)研究会，2003．2．
- 3) 山内仁紫<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>，中野純子<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，内木場庸子，倉持雪穂，深澤隆治，小川俊一，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2)：川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 4) 西澤善樹(<sup>1)</sup>第二病院小児科)：未熟児医療と母性(周産期における母児の絆は今)．第16回神奈川県母性衛生学会，2003．2．

(5) パネルディスカッション：

- 1) 稲葉八興，福永慶隆：3歳児におけるBCG針痕数とアトピー性疾患有病率との関係．日本小児科学会，2002．4．

(6) セミナー：

- 1) 小川俊一：血流速測定(FloWire)及び血圧測定(Pressure Wire)による冠循環動態の評価．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 2) 村上睦美：尿検査の事後措置と腎疾患児の管理．第217回学校保健セミナー，2002．7．

(7) ワークショップ：

- 1) 林田真理，石崎正道<sup>1)</sup>，右田 真，土屋正己，村上睦美，福永慶隆，島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1，<sup>2)</sup>生化学第2)：腎炎治癒過程における骨髄幹細胞の役割．第37回日本小児腎臓病学会学術集会，2002．7．
- 2) 土屋正己，村上睦美：学校検尿：成果と問題点．第52回日本腎臓学会東部学術大会，2002．10．

(8) 一般講演：

- 1) 土屋正己<sup>1)</sup>，松永成太<sup>1)</sup>，林田真理<sup>1)</sup>，柳原 剛<sup>1)</sup>，吉田順子<sup>1)</sup>，大橋隆治<sup>2)</sup>，立麻典子<sup>1)</sup>，宗像恵美子<sup>3)</sup>，松岡和彦<sup>4)</sup>，芦田光則<sup>5)</sup>，山本博章<sup>1)</sup>，村上睦美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科，<sup>2)</sup>同病理第1，<sup>3)</sup>大宮赤十字病院小児科，<sup>4)</sup>日本医科大学第二病院小児科，<sup>5)</sup>勝楽堂病院小児科)：ANCA陽性半月体形成性糸球体腎炎の1女児例．第37回日本小児腎臓病学会学術集会，2002．7．
- 2) Fukazawa R, Kuramochi Y, Uchikoba Y, Ikegami E, Kamisago M, Katsube Y, Ogawa S : Leukocyte adhesion factor Mac-1 and myeloid-related protein (MRP) on granulocyte plays the essential role for causing vasculitis in Kawasaki disease, and the gamma globulin therapy decrease leukocyte-endothelial cell adhesion . 51th American Collage Cardiology ( Atlanta ), 2002 . 3 .
- 3) Itoh Y, Kuwabara N, Ogawa K, Igarashi T, Fukunaga Y : Anti-Ro/SSA-positive autoimmune fatigue syndrome and subclinical sjören's syndrome in children . VIIIth International Symposium on Sjören's Syndrome ( Kanazawa, Japan ), 2002 . 5 .
- 4) Ogawa S, Fukazawa R, Kamisago M, Seki T, Ohkubo T, Kuramochi Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Ikegami E, Katsube Y : Analysis of coronary blood flow velocity and pressure dynamics before and after PTCA and CABG in children with Kawasaki disease . The 14th World Congress of Cardiology ( Sydney ), 2002 . 5 .
- 5) Uchikoba Y, Fukazawa R, Katsube Y, Kamisago M, Ohkubo T, Fukumi D, Ikegami E, Ogawa S : Late Anthracycline Cardiotoxicity by Dobutamine Stress QT Dispersion in Patients with Cancer . The 14th World

- Congress of Cardiology ( Sydney ), 2002 . 5 .
- 6) 内木場庸子, 深澤隆治, 勝部康弘, 上砂光宏, 大久保隆志, 福見大地, 池上 英, 小川俊一: Late Anthracycline Cardiotoxicity by Dobutamine Stress QT Dispersion in Patients with Cancer. . The 14th World Congress of Cardiology ( Sydney ), 2002 . 5 .
  - 7) Migita M , Hayakawa J , Kawabata K , Igarashi T<sup>1)</sup> , Fukunaga Y , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology ): Gene-mediated and cell-mediated therapy of metachromatic leukodystrophy ( MLD ) . 7th International symposium on mucopolysaccharide and related diseases ( Paris, France ), 2002 . 6 .
  - 8) Maeda M , Tsuchida M , Sugita K , Kikuchi A , Ishimoto K , Kamijo T , Hanada R , Hosoya R , Tsunematsu Y : Secondary brain tumor in children with acute lymphoblastic leukemia ( ALL ) trated with TCCSG . 7th Internatinal Conference on Long-Term Complication of Treatment of Children & Adolescents for Cancer ( Canada ), 2002 . 6 .
  - 9) Uchikoba Y , Maeda M , Fukazawa R , Kuramochi Y , Fukumi D , Ikegami E , Katsube Y , Kamisago M , Seki T : Electrocardiographic assesment of late anthracycline cardiotoxicity dobutamine stress QT dispersion in cpatients with cancer . 7th Internatinal Conference on Long-Term Complication of Treatment of Children & Adolescents for Cancer ( Canada ), 2002 . 6 .
  - 10) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Ohkubo T , Uchikoba Y , Fukumi D , Ikegami E , Katsube Y : Myocardial farctional flow reserve and coronary flow ratio in children with Kawasaki disease . The 2002 Congress of the European Society of Cardiology ( Berlin ), 2002 . 9 .
  - 11) Ogawa S , Fukazawa R , Kamisago M , Ohkubo T , Uchikoba Y , Fukumi D , Ikegami E , Katsube Y : Relations between localization, haemodynamic changes and thrombus formation in coronary aneurysms having history with Kawasaki disease . The 2002 Congress of the European Society of Cardiology ( Berlin ), 2002 . 9 .
  - 12) Takase M , Shirota K , Imai T : Spectral changes in normal breath sounds associated with bronchodilator response in asthmatic children . The 27th Annual Congress of International Lung Sound Association ( Stockholm-Helsinki ), 2002 . 9 .
  - 13) Maeda M , Tsuchida M , Sugita K , Ishimoto K , Kikuchi A , Tsunematsu Y , Hosoya R , Fukunaga Y , Nakazawa S : Prevalence and clinical outcome of hepatitis C virus infection in survivors of childhood acute lymphoblastic leukemia treated to the TCCSG protocol . SIOP XXXIV Meeting ( Porto ), 2002 . 9 .
  - 14) Yoshida J , Tsuchiya M , Hayashida M , Yanagihara T , Tatsuma N , Murakami M , Ohashi R : A CASE OF 5 YEAR-OLD FEMALE WITH ANCAASSOCIATED PAUCI-IMMUNE NECROTIZING CRESCENTIC GLOMERULONEPHRITIS . EIGHTH ASIAN CONGRESS OF PEDIATRIC NEPHROLOGY ( Korea ), 2002 . 9 .
  - 15) Fukazawa R , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Kamisago M , Katsube Y , Ogawa S : Immunoglobulin inhibits adhesion between leukocyte and endothelial cell in Kawasaki disease . 75th American Heart Association ( Chicago ), 2002 . 11 .
  - 16) Kuramochi Y , Fukazawa R , Uchikoba Y , Ikegami E , Watanabe M , Kamisago M , Katsube Y , Ogawa S : Granulocyte-corony stimulating factor ( G-CSF ) administration improves cardiac function after myocardial infarction in mice without altering cardiomyocyte regeneration . 75th American Heart Association ( Chicago ), 2002 . 11 .
  - 17) Akagi T<sup>1)</sup> , Ogawa S , Echigo S<sup>2)</sup> , Hamaoka K<sup>3)</sup> , Terai M<sup>4)</sup> , Harada K<sup>5)</sup> , Satomi G<sup>6)</sup> , Baba K<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> 久留米大学小児科, <sup>2)</sup> 国立循環器病センター小児科, <sup>3)</sup> 京都府立医大小児科, <sup>4)</sup> 千葉大小児科, <sup>5)</sup> 日大小児科, <sup>6)</sup> 長野こども病院循環器科, <sup>7)</sup> 倉敷市民病院小児科 ): Long-Term Outcome of Catheter Intervention in Kawasaki Disease : Japanese Multi-Institutional Study . American Heart Association Scientific Session 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .

- 18) Kuramochi Y, Fukazawa R, Migita M, Hayakawa J, Uchikoba Y, Fukumi D, Ikegami E, Shimada T<sup>1)</sup>, Ogawa S ( <sup>1</sup> 生化学第2 ): Granulocyte-Colony Stimulating Factor ( G-CSF ) Administration Improves Cardiac Function after Myocardial Infarction in Mice without Altering Cardiomyocyte Regeneration . American Heart Association Scientific Session 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 19) Fukazawa R, Uchikoba Y, Ikegami E, Watanabe M, Kamisago M, Ohkubo T, Seki T, Katsube Y, Ogawa S : Immunoglobulin Inhibits Adhesion between Leukocyte and Endothelial Cell in Kawasaki Disease . American Heart Association Scientific Session 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 20) Hayakawa J, Migita M, Hayashida M, Kato Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pediatrics Surgry, Juntendo University ): The behavior of bone marrow cell in regeneration of intestine : Useful model for studying tissue regeneration in vivo . Keystone Symposia 2003 , Stem Cells ( E3 )( Steamboat Resort, CO, USA ), 2003 . 3 .
- 21) Hayakawa J, Migita M, Shimada T<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1</sup> Dept. of Biochemistry and Molecular Biology ): The behavior of bone marrow derived cells in regeneration of intestine-useful model for studying tissue regeneration in vivo- . Keystone symposia, From Stem Cells to Therapy ( Colorado, USA ), 2003 . 3 .
- 22) 深澤隆治, 倉持雪穂, 内木場庸子, 池上 英, 福見大地, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : The role of Mac-1 and myeloid-related protein ( MRP ) for causing vasculitis in Kawasaki disease, and the effects of gamma globulin . 第66回日本循環器学会, 2002 . 4 .
- 23) 内木場庸子, 福見大地, 深澤隆治, 倉持雪穂, 池上 英, 渡邊美紀, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>1)</sup>, 小川俊一 ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科 ): 3次CT ( 螺旋走査型CT ) を用いた先天性異常血管の評価 . 小児放射線学会, 2002 . 5 .
- 24) 深澤隆治, 渡邊美紀, 池上 英, 内木場庸子, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : The effect of immunoglobulin therapy on human endothelial cell in Kawasaki disease . 第67回日本循環器学会, 2003 . 3 .
- 25) 高石康子, 藤野 修, 桑原健太郎, 藤田武久, 川上康彦, 岡田一芳 : てんかん患者における熱性けいれんの既往の有無と脳血流状態との相関性について . 第44回日本小児神経学会総会,
- 26) 松本多絵<sup>1)</sup>, 城田和彦<sup>1)</sup>, 守田利貞<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 国立東静岡病院 ): 最近経験したShaken Baby Syndromeの1例 . 第8回日本小児科学会静岡地方会,
- 27) 松本多絵<sup>1)</sup>, 城田和彦<sup>1)</sup>, 守田利貞<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 国立東静岡病院 ): 最近経験したShaken Baby Syndromeの1例 . 静岡東部臨床懇話会,
- 28) 伊藤保彦, 小川耕一, 五十嵐徹 : 自己免疫性疲労症候群の長期予後 . 第105回日本小児科学会学術集会, 2002 . 4 .
- 29) 門脇弘子<sup>1)</sup>, 赤沼安夫<sup>1)</sup>, 原 一雄<sup>2)</sup>, 門脇 孝<sup>2)</sup>, 大木由加志, 望月 弘<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 朝日生命糖尿病研究所, <sup>2)</sup> 東京大学糖尿病代謝内科, <sup>3)</sup> 埼玉県立小児医療センター ): 一般小児や2型糖尿病, 肥満, 脂肪萎縮性糖尿病でのアディポネクチン値と遺伝子多型 . 第105回日本小児科学会総会, 2002 . 4 .
- 30) 桑原健太郎, 小林朋子, 川上康彦, 今井大洋, 高石康子, 岡田一芳 : 急死したてんかん症例の検討 . 第105回日本小児科学会, 2002 . 4 .
- 31) 倉持雪穂, 深澤隆治, 内木場庸子, 福見大地, 池上 英, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : Circulating bone marrow-derived cells differentiate into cardiomyocytes in infarcted heart . 第66回日本循環器学会, 2002 . 4 .
- 32) 倉持雪穂, 深澤隆治, 内木場庸子, 福見大地, 池上 英, 上砂光裕, 勝部康弘 : Bone marrow stromal cell-mediated gene delivery into infarcted heart . 第66回日本循環器学会, 2002 . 4 .
- 33) 早川 潤, 右田 真, 野々山恵章<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆 ( <sup>1</sup> 生化学第2, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学小児科 ): 造血幹細胞を標的としたX連鎖重症複合型免疫不全症の遺伝子治療 . 第105回日本小児科学会総会 ( 名古屋 ), 2002 . 4 .
- 34) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆 ( <sup>1</sup> 生化学第2 ): GFP+ 骨髄幹細胞と間葉系幹細胞を持つ2種類のキメラマウスの作成 : 間葉幹細胞の多能性の解明に向けて . 第105回日本小児科学会総会 ( 名古屋 ), 2002 . 4 .



- 35) 早川 潤, 右田 真, 林田真理, 倉持雪穂, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>(1)</sup>生化学第2): GFP陽性骨髄細胞のモデルマウスの作製: 骨髄細胞の多能性の解明に向けて. 第一回日本再生医学学会総会, 2002. 4.
- 36) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英, 今井登志子, 稲葉八興, 千葉 隆, 今井大洋: 気管支喘息児の肺動脈スペクトル解析: 発作間欠期の 2刺激薬吸入に対する反応性. 第105回日本小児科学会学術集会, 2002. 4.
- 37) 土屋正己<sup>1)</sup>, 林田真理<sup>1)</sup>, 立麻典子<sup>1)</sup>, 村上睦美<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 宗像恵美子<sup>2)</sup>, 平岡政弘<sup>3)</sup>, 伊藤雄平<sup>4)</sup>, 松村千恵子<sup>5)</sup>, 倉山英昭<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>大宮赤十字病院小児科, <sup>3)</sup>福井医科大学小児科, <sup>4)</sup>久留米大学小児科, <sup>5)</sup>国立療養所千葉東病院): 腎エコー所見における中心部エコー像の解離と膀胱尿管逆流との関連について. 第105回日本小児科学会学術集会, 2002. 4.
- 38) 伊藤恭子, 小川耕一, 関 隆志, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 周期性発熱を主訴として発見された食道アカラシアの1例. 川崎市小児科医会第237回症例検討会, 2002. 4.
- 39) 白井潤二<sup>1)</sup>, 川畑 建<sup>2)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院小児科): 特発性後腹膜血腫の1例. 川崎市小児科医会第237回症例検討会, 2002. 4.
- 40) 松永成太, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): ウイルソン病の1例. 川崎市小児科医会第237回症例検討会, 2002. 4.
- 41) 前田美穂, 土田昌宏, 杉田憲一, 石本浩市, 菊地 陽, 恒松由記子, 福永慶隆, 中澤眞平: 小児急性リンパ性白血病治療とC型ウイルス肝炎. 第105回日本小児科学会学術集会, 2002. 4.
- 42) 伊藤保彦, 桑原奈津子, 小川耕一, 五十嵐徹, 福永慶隆: 自己免疫性疲労症候群患者の長期予後に関する検討. 第46回日本リウマチ学会総会, 2002. 5.
- 43) 桑原健太郎, 黒田奈緒, 小林朋子, 上砂光裕, 今井大洋, 土屋正己: サプレッション・パーストを伴う乳児早期てんかん性脳症(ELEE)の1例. 第107回日本医科大学医学会総会, 2002. 5.
- 44) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 右田 真, 林 瑞成, 折茂英生, 浅野ありさ, 渡辺 淳, 島田 隆: Werdnig-Hoffman病の出生前診断に対する遺伝カウンセリングにおける看護職の役割. 日本遺伝カウンセリング学会, 2002. 5.
- 45) 島田 隆, 渡辺 淳, 右田 真, 浅野ありさ, 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子: 日本医科大学付属病院遺伝外来の現状. 日本遺伝カウンセリング学会, 2002. 5.
- 46) 渡辺 淳, 平井幸彦, 浅野ありさ, 島田 隆: 医学部における臨床遺伝教育の必要性: 医学部学生のアンケート結果を通して. 日本遺伝カウンセリング学会, 2002. 5.
- 47) 桑原健太郎, 小林朋子, 川上康彦, 藤田武久, 岡田一芳, 高石康子: 乳児期難治性てんかんに対するクロバザムの使用経験. 第44回日本小児神経学会総会, 2002. 6.
- 48) 桑原健太郎, 桑原奈津子, 土屋正己, 藤野 修, 村上睦美, 福永慶隆: タイ国チェンマイ地方の小児における高Ca尿症の疫学的検討. 第13回日本小児科医会, 2002. 6.
- 49) 桑原健太郎, 桑原奈津子: タイ国小児における *Helicobacter pylori* 感染の疫学的検討. 第8回日本ヘリコバクター・ピロリ学会, 2002. 6.
- 50) 松久威史, 桑原健太郎, 山田宣孝: ベトナム人小児における *Helicobacter pylori* 感染: 日本人小児との比較. 第8回日本ヘリコバクター・ピロリ学会, 2002. 6.
- 51) 内木場庸子, 福見大地, 深澤隆治, 倉持雪穂, 池上 英, 太田美紀, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 小川俊一(<sup>1)</sup>放射線科): 三次元CT(螺旋走査型CT)を用いた先天性異常血管の評価. 第38回日本小児放射線学会, 2002. 6.
- 52) 土屋正己, 林田真理<sup>1)</sup>, 吉田順子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 武田幸代<sup>1)</sup>, 立麻典子<sup>1)</sup>, 宗像恵美子<sup>2)</sup>, 芦田光則<sup>3)</sup>, 山本博章<sup>1)</sup>, 村上睦美<sup>1)</sup>, 継 仁<sup>4)</sup>, 日野佳昭<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>大宮赤十字病院小児科, <sup>3)</sup>勝楽堂病院小児科, <sup>4)</sup>継医院, <sup>5)</sup>日野クリニック): 先天性腎尿路異常の早期発見を目的とした腎エコースクリーニング: 1カ月健診時を対象として. 第13回日本小児科医会セミナー, 2002. 6.
- 53) 藤田武久<sup>1)</sup>, 沼田朋子<sup>2)</sup>, 伊藤 正<sup>2)</sup>, 藤野 修<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院小児科, <sup>2)</sup>水芳園, <sup>3)</sup>千葉北総病院小児科):

- 重症心身障害児への麻疹ワクチン接種．第44回日本小児神経学会総会，2002．6．
- 54) 伊藤恭子，小川耕一，関 隆志，勝部康弘，藤田武久，松岡和彦<sup>(1)</sup> (第二病院小児科)：周期性発熱を主訴として発見された食道アカラシアの1例．第257回日本小児科学会神奈川県地方会，2002．6．
- 55) 羽鳥誉之，稲垣真澄，白根聖子，佐々木匡子，加茂牧子<sup>(1)</sup> (国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部)：副腎白質ジストロフィー症 (ALD) 児おける視覚性P300の評価．第44回日本小児神経学会，2002．6．
- 56) 平山恒憲<sup>1)</sup>，藤野 修<sup>2)</sup>，藤田武久<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院小児科，<sup>2)</sup> 千葉北総病院小児科)：Ohdo眼瞼裂狭小症候群と考えられた一女児例．第44回日本小児神経学会総会，2002．6．
- 57) 前田美穂，福永慶隆，早川 潤，右田 真，浅野 健：Fludarabinを用いた低身長のある再生不良貧血児へのHLA一座不一致 Allo-PBSCT．第9回小児再生不良性貧血治療研究会，2002．6．
- 58) 松本多絵<sup>1)</sup>，城田和彦<sup>1)</sup>，守田利貞<sup>1)</sup>，土井貴之<sup>2)</sup>，河野僚児<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 国立東静岡病院小児科，<sup>2)</sup> 同産婦人科)：当院で最近経験したPotter症候群の2症例．第99回日本小児科学会静岡地方会，2002．6．
- 59) 浅野 健，内木場康子，前田美穂，福永慶隆：下咽頭梨状窩瘻による急性可能性甲状腺炎の一女児例．第504回日本小児科学会東京都地方会，2002．7．
- 60) 深澤隆治，渡邊美紀，池上 英，内木場庸子，上砂光裕，勝部康弘，小川俊一：川崎病における冠動脈内皮細胞の動きと免疫グロブリンの作用．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 61) 藪田友良<sup>1)</sup>，原田研介<sup>2)</sup>，鮎沢 衛<sup>2)</sup>，上村 茂<sup>3)</sup>，小川俊一，清沢伸幸<sup>4)</sup>，中村好一<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 日赤医療センター小児科，<sup>2)</sup> 日大小児科，<sup>3)</sup> 和歌山県立医大小児科，<sup>4)</sup> 京都第二日赤，<sup>5)</sup> 自治医大公衆衛生)：川崎病診断の手引き改訂：改訂第5版について．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 62) 池上 英，倉持雪穂，深澤隆治，早川 潤，右田 真，福見大地，内木場庸子，渡辺美紀，島田 隆<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>(1)</sup> (生化学第2)：G-CSFが心筋梗塞後の心機能，心筋再生に及ぼす影響．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 63) 勝部康弘，渡辺美紀，池上 英，内木場庸子，福見大地，大久保隆志，関 隆志，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一：新生仔ならびに成獣ラット心室筋細胞におけるL型Caチャンネル特性の比較．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 64) 内木場庸子，大久保隆志，勝部康弘，深澤隆治，福見大地，池上 英，渡辺美紀，山内仁紫<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>，小川俊一<sup>(1)</sup> (外科第2)：急性および無症候性心筋梗塞症例を除く川崎病巨大冠動脈瘤の治療戦略．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 65) 大久保隆志，深澤隆治，内木場庸子，池上 英，福見大地，渡辺美紀，上砂光裕，関 隆志，勝部康弘，小川俊一：新しい川崎病冠動脈障害予防薬としてのAT1阻害剤の可能性．第38回日本小児循環器学会，2002．7．
- 66) 宗像恵美子<sup>1)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，大久保隆志<sup>1)</sup>，安田 正<sup>1)</sup>，村上睦美<sup>(1)</sup> (大宮赤十字病院小児科)：新生児多数例における超音波による腎計測値の検討．第37回日本小児腎臓病学会学術集会，2002．7．
- 67) 柳原 剛，林田真理，吉田順子，立麻典子，土屋正己，熊谷善博<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup>，村上睦美<sup>(1)</sup> (日本医科大学生体防御医学講座)：腎におけるpoly Ig receptor (pIgR) 発現の低下はddYマウスのIgA腎症発症要因のひとつである．第37回日本小児腎臓病学会学術集会，2002．7．
- 68) 西澤善樹，藤田武久，松岡和彦<sup>(1)</sup> (第二病院小児科)：妊娠中母体体重増加が児に及ぼす影響 第2報：1ヵ月時の体重との関連について．第38回日本新生児学会，2002．7．
- 69) 藤田武久<sup>1)</sup>，日野佳昭<sup>2)</sup>，藤松真理子<sup>1)</sup>，橋本 清<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 第二病院小児科，<sup>2)</sup> 付属病院小児科)：5歳過ぎまで経過をみている4p 症候群の2例．第30回神奈川小児神経懇話会，2002．7．
- 70) 折本瑞恵，島 義雄，藤村樹里，松本多絵<sup>(1)</sup> (葛飾赤十字産院小児科)：一児がbody stalk anomaly を呈したまれな結合双胎の1例．第38回日本新生児学会，2002．7．
- 71) 藤村樹里，入江 学，内木場庸子，藤田敦士，福永慶隆：肝臓，脾臓に多発病変を呈した猫ひっかき病の1例．第96回日本小児科学会栃木県地方会，2002．7．

- 72) 藤村樹里, 島 義雄, 松本多絵, 武智信幸, 新井 一: 出生前診断された鞍上部クモ膜嚢胞の1例. 第38回日本新生児学会, 2002. 7.
- 73) 池上 英, 倉持雪穂, 深澤隆治, 早川 潤, 右田 真, 福見大地, 内木場庸子, 渡邊美紀, 島田 隆: G-CSFが心筋梗塞後の心機能, 心筋再生に及ぼす影響. 第38回日本小児循環器学会, 2002. 7.
- 74) 桑原奈津子, 飛田正俊, 前田美穂: クームス陰性自己免疫性溶血性貧血と考えられる1幼児例. 第62回埼玉県小児血液同好会, 2002. 7.
- 75) 浅野 健, 蔡 靈芝, 早川 潤, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: エトポシド耐性白血病細胞に対する薬剤耐性克服の試み. 第64回日本血液学会, 2002. 9.
- 76) 浅野 健, 蔡 靈芝, 早川 潤, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: 薬剤耐性白血病細胞に対するDNAマイクロアレイによる解析. 第44回日本小児血液学会, 2002. 9.
- 77) 馬場千晶, 上砂光裕, 小林朋子, 桑原健太郎, 今井大洋, 土屋正己: 非チフス性サルモネラ感染症による急性脳症の1例. 第162回日本小児科学会千葉地方会, 2002. 9.
- 78) 小林朋子, 桑原健太郎, 上砂光裕, 今井大洋, 土屋正己, 藤野 修: 無熱性けいれんを主訴に来院した水中毒の1例. 第163回日本小児科学会千葉地方会, 2002. 9.
- 79) 藤野 修, 藤田武久, 高石康子, 桑原健太郎, 岡田一芳: てんかんの疑いで小児神経外来を受診した症例の検討: 初回発作例について. 第36回日本てんかん学会・第4回アジア太平洋てんかん学会議合会議, 2002. 9.
- 80) 小林朋子, 桑原健太郎, 藤松真理子, 藤田武久, 高石康子, 藤野 修: 片側性小脳炎の9歳女子例. 第37回日本小児神経学会関東地方会, 2002. 9.
- 81) 上砂光裕, 深澤隆治, 勝部康弘, 大久保隆志, 池上 英, 小川俊一: 川崎病既往者における動脈硬化関連遺伝子多型の検討. 第22回川崎病研究会, 2002. 9.
- 82) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>(1)</sup>生化学第2): 骨髄生着におけるDextran sulfate及びSDF-1の役割: 臍帯血移植の適応拡大に向けて. 第64回日本血液学会総会, 2002. 9.
- 83) 上砂光裕, 深澤隆治, 勝部康弘, 大久保隆志, 池上 英, 小川俊一: 川崎病既往者における動脈硬化関連遺伝子多型の検討. 第22回日本川崎病研究会, 2002. 9.
- 84) 池上 英, 深澤隆治, 渡辺美紀, 小川俊一: 発症2年後に急激な瘤の増大を認めた1例. 第22回日本川崎病研究会, 2002. 9.
- 85) 大久保隆志, 深澤隆治, 上砂光裕, 渡辺美紀, 小川俊一: 冠動脈造影検査にて微小循環障害が疑われ, 部分心筋予備流量比(FFRmyo)の低下を認めた川崎病の1例. 第22回日本川崎病研究会, 2002. 9.
- 86) 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 土屋正己<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 桑原奈津子<sup>2)</sup>, 村上睦美<sup>2)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup>, Chartapisak W<sup>3)</sup>, Punupoorata T<sup>3)</sup>, Boonyaritichai Kij S<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院, <sup>2)</sup>同付属病院小児科, <sup>3)</sup>チェンマイ大学小児科, <sup>4)</sup>同家庭医学科): タイ国チェンマイ地方の小児高カルシウム尿症の頻度調査. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 87) 藤松真理子, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 先天性梨状窩瘻の1例. 第258回日本小児科学会神奈川県地方会, 2002. 9.
- 88) 藤松真理子, 重松淑子, 荻原護久, 中島瑞恵, 松永成太, 関 隆志, 西澤善樹, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 先天性梨状窩瘻の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 89) 池上 英: 川崎病発症2年後に急激な瘤の増大を認めた1例. 第22回日本川崎病研究会, 2002. 9.
- 90) 生田孝一郎, 土田昌宏, 真部 淳, 佐藤 武幸, 菊地 陽, 金子 隆, 上條岳彦, 木下明俊, 豊田恭徳, 前田美穂, 中澤真平: 超高危険群小児急性リンパ性白血病に対する造血幹細胞移植の役割: TCCSG L95-14研究. 第44回日本臨床血液学会, 2002. 9.
- 91) 新藤史子, 千葉 隆, 大久保隆志, 高瀬真人, 飛田正俊, 富山俊一: PRSPによる急性中耳炎および乳様突起炎の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

- 92) 劉 効蘭, 前田美穂, 安達彰子, 戴 威, 佐佐木喜弘, 佐藤 茂, 海津聖彦, 福永慶隆, 杉崎祐一: 小児白血病の治療後末梢血の電子顕微鏡観察. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002. 9.
- 93) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美: 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) に対するGH補充療法開始後3年間の血清レプチン値の変動. 第36回日本小児内分泌学会, 2002. 10.
- 94) 門脇弘子<sup>1)</sup>, 赤沼安夫<sup>1)</sup>, 原 一雄<sup>2)</sup>, 門脇 孝<sup>2)</sup>, 大木由加志, 望月 弘<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>朝日生命糖尿病研究所, <sup>2)</sup>東京大学糖尿病代謝内科, <sup>3)</sup>埼玉県立小児医療センター): 小児におけるアデイポネクチン値と遺伝子多型. 第36回日本小児内分泌学会, 2002. 10.
- 95) 浅野 健: エトボシド耐性癌細胞に対する組み換えアデノウイルスによる耐性克服の試み. 第61回日本癌学会, 2002. 10.
- 96) 早川 潤, 右田 真, 島田 隆<sup>1)</sup>, 福永慶隆(<sup>1)</sup>生化学第2): 骨髄生着におけるDextran sulfate及びSDF-1の役割: 臍帯血移植の適応拡大に向けて. 第45回日本小児血液学会, 2002. 10.
- 97) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美: 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) に対するGH補充療法開始後3年間の血清レプチン値の変動. 第36回日本小児内分泌学会, 2002. 10.
- 98) 荻原護久, 関 隆志, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 新生児マス・スクリーニングにて発見されたアミノ酸代謝異常の1例. 川崎市小児科医会第242回症例検討会, 2002. 10.
- 99) 竹内穂高, 藤松真理子, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): 先天性梨状窩瘻の1例. 川崎市小児科医会第242回症例検討会, 2002. 10.
- 100) 初鹿野見春, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦(<sup>1)</sup>第二病院小児科): HHV6脳炎の1例. 川崎市小児科医会第242回症例検討会, 2002. 10.
- 101) 平山恒憲<sup>1)</sup>, 仁保幸次<sup>2)</sup>, 藤野 修<sup>3)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院小児科, <sup>2)</sup>国立療養所福島病院小児科, <sup>3)</sup>千葉北総病院小児科): 重傷心身障害児(者)病棟患者の保護者意識調査: 軽症医療を必要とする場合の連絡方法について. 第49回日本小児保健学会, 2002. 10.
- 102) 前田美穂, 福永慶隆, 海津聖彦, 早川 潤, 右田 真, 浅野 健, 伊藤保彦, 天野康雄: 白血病・悪性リンパ腫の治療終了後にみられる頭部MRI所見の検討. 第44回日本小児血液学会, 2002. 10.
- 103) 海老原康博<sup>1)</sup>, 真部 淳<sup>1)</sup>, 石川久美子<sup>1)</sup>, 鶴田敏久<sup>1)</sup>, 長谷川大輔<sup>1)</sup>, 井関 徹<sup>2)</sup>, 前田美穂, 石本浩市<sup>3)</sup>, 神田忠泰<sup>4)</sup>, 辻浩一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大医科研小児細胞移植科, <sup>2)</sup>同医科研輸血部, <sup>3)</sup>順天堂大学小児科, <sup>4)</sup>NTT東日本関東病院小児科): 先天性骨髄不全症候群に続発したMDS/AMLに対する造血幹細胞移植. 第25回造血細胞移植学会, 2002. 10.
- 104) 浅野 健, 蔡 靈芝, 前田美穂, 右田 真, 浜田久光, 早川 潤: エトボシド耐性癌細胞に対する組み換えアデノウイルスによる耐性克服の試み. 第18回日本小児がん学会, 2002. 11.
- 105) 河上智美, 前田美穂, 浅野 健, 右田 真, 早川 潤, 海津聖彦: 小児悪性腫瘍治療後にあらわれた歯の形成障害の検討. 第18回日本小児がん学会, 2002. 11.
- 106) 大久保隆志, 藤松真理子, 宗像恵美子<sup>1)</sup>, 安田 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮赤十字病院小児科): レントゲン写真上, 縦隔異常陰影を呈し結核と考えられた1女児例. 第35回日本小児呼吸器疾患学会, 2002. 11.
- 107) 今井丈英, 千葉 隆, 高瀬真人: 新生児期に呼吸障害を呈した原発性線毛運動不全の1例. 第35回日本小児呼吸器疾患学会, 2002. 11.
- 108) 今井丈英, 今井登志子, 千葉 隆, 高瀬真人: 小児科一般外来患者における尿中eosinophil protein X (EPX) 値の検討. 第35回日本小児呼吸器疾患学会, 2002. 11.
- 109) 高瀬真人, 城田和彦, 今井丈英: 喘息児における肺音スペクトルの特徴と気管支拡張薬吸入に対する変化. 第27回肺音(呼吸音)研究会, 2002. 11.
- 110) 羽鳥誉之, 稲垣真澄, 白根聖子, 根本れい子, 加茂牧子(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部): 意味カテゴリー一致判断課題時のN400に対するキー押しの影響. 第32回臨床神経生理学学会学術大会,

2002 . 11 .

- 111) 羽鳥誉之, 稲垣真澄, 白根聖子, 加茂牧子 ( <sup>1</sup> 国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部 ): 聴覚性 P300 の刺激音別発達変化 . 第 32 回臨床神経生理学学会学術大会, 2002 . 11 .
- 112) 藤村樹里, 入江 学, 土屋正己: 偽性副甲状腺機能低下症 Ib 型の 1 例 . 第 15 回栃木県こどもの成長を考えるフォーラム, 2002 . 11 .
- 113) 青木芳郎, 浅川義次, 石川竹善, 川瀬茂子, 前田美穂: 東京都足立区における中学生の貧血検査: 鉄欠乏性貧血および潜在性鉄欠乏性貧血の検討 . 第 33 回全国学校保健・学校医大会, 2002 . 11 .
- 114) 河上智美, 前田美穂, 浅野 健, 右田 真, 早川 潤, 海津聖彦, 大出祥幸, 福永慶隆: 小児悪性腫瘍治療後にあらわれた歯の形成障害の検討 . 第 18 回日本小児がん学会, 2002 . 11 .
- 115) 今井丈英, 竹田幸代, 高瀬真人, 飛田正俊: 小児呼吸器疾患における血清 KL-6 値 . 第 54 回日本気管食道科学学会, 2002 . 11 .
- 116) 浅野 健, 内木場康子, 倉持雪穂, 藤松真理子, 松岡和彦, 福永康隆: 先天性梨状窩瘻の 3 例 . 小児耳鼻科, 2002 . 12 .
- 117) 西澤善樹, 藤田武久, 松岡和彦 ( <sup>1</sup> 第二病院小児科 ): 新生児黄疸とオキシトシンとの関係 第 1 報: 黄疸の産科的リスク因子について . 第 47 回日本未熟児新生児学会, 2002 . 12 .
- 118) 早川 潤, 右田 真, 蔡 靈芝, 伊藤保彦, 島田 隆<sup>1</sup>), 福永慶隆 ( <sup>1</sup> 生化学第 2 ): 造血幹細胞を標的とした X 連鎖型重症複合免疫不全症の遺伝子治療 . 厚生労働省班会議 原発性免疫不全症調査研究班平成 14 年度第一回班会議総会 2003. 1. 24, 2003 . 1 .
- 119) 藤田武久<sup>1</sup>), 重村朋子<sup>2</sup>), 藤松真理子<sup>1</sup>), 橋本 清<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> 第二病院小児科, <sup>2</sup> 同小児科臨床心理士 ): 学校での居眠りが主訴であった小児欠神てんかんの 1 例 . 第 31 回神奈川小児懇話会, 2003 . 1 .
- 120) 小林朋子, 桑原健太郎, 上砂光裕, 今井大洋, 土屋正己, 藤野 修: 診断に苦慮した周期性 ACTH-ADH 放出症候群の 1 例 . 第 164 回日本小児科学会千葉地方会, 2003 . 2 .
- 121) 荻原護久, 関 隆志, 勝部康弘, 藤田武久, 松岡和彦 ( <sup>1</sup> 第二病院小児科 ): 新生児マスキリーニングにて発見された MAT1/III 欠損症の 1 例 . 第 260 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2003 . 2 .
- 122) 右田 真, 前田美穂, 浅井牧子, 山口和子, 海津聖彦, 福永慶隆: 多発性真菌性脾膿瘍を併発した T-ALL の 1 例 . 第 16 回小児秘蔵研究会, 2003 . 2 .
- 123) 桑原健太郎, 藤野 修: Monoclonal 抗体によるタイ人小児の便中 H. pylori 抗原測定 . 第 7 回日本小児ヘリコバクター研究会, 2003 . 3 .
- 124) 荻原護久, 藤松真理子, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 松岡和彦: ガスリー検査にて発見された常染色体優性遺伝を示す MIT1/III 欠損症の 1 例 . 第 38 回日本小児神経学会関東地方会, 2003 . 3 .
- 125) 早川 潤, 右田 真, 林田真理, 加藤善史<sup>2</sup>), 島田 隆<sup>1</sup>), 福永慶隆 ( <sup>1</sup> 日本医科大学生化学第 2, <sup>2</sup> 順天堂大学小児外科 ): GFP 陽性骨髄細胞のモデルマウスを用いた腸管再生における骨髄細胞の動態 . 第 2 回日本再生医学学会総会, 2003 . 3 .
- 126) 海津聖彦, 前田美穂, 右田 真, 浅野 健, 福永慶隆: HLA 一座不一致同種末梢血幹細胞移植後, 自己免疫性肝炎様肝障害から肝不全を呈した再生不良性貧血の 1 例 . 第 63 回埼玉県小児血液同好会, 2003 . 3 .
- 127) 千葉 隆, 今井丈英, 高瀬真人, 飛田正俊: 難治性肺炎の治療に BAL が有用であった Kostmann 型先天性無顆粒球症の 1 例 . 第 54 回日本気管食道科学会, 2003 . 11 .

## 7. 放射線医学講座

### [ 付属病院放射線科 ]

#### 研究概要

一般撮影部門では、フラットパネルディテクターを用いたデジタル撮影による一般撮影や乳房撮影、およびRによる下肢静脈造影の画質改善・診断精度向上の検討が行われ成果が得られた。

CT部門では、3次元CT診断法が血管や中枢神経系を中心に低侵襲な診断法として確立されつつある。16列検出器型CTの導入に伴い、脳パーフュージョン、冠動脈から広範囲におよぶ高精度の3次元血管造影法が開発され、研究が進んでいる。

MRI部門ではsteady state法や脂肪抑制法の基礎的検討を行い、梗塞撮像法を心臓領域に用い始めている。本法は脳幹部や末梢血管の機能解析にも有用で、広く国内外で認識されるに至った。

超音波部門では、静脈疾患に対する高精度超音波診断法の開発が進み、静脈瘤、深部静脈血栓に対し応用されている。

血管造影・IVR部門では、大動脈ステントグラフト、肺塞栓症・深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法などの研究を引き続き行っている。また、気管支ステントやCTガイド下肺生検が成果をあげている。骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環下における高濃度抗癌剤治療も臨床応用が進んでいる。

核医学部門ではこれまでのQGSプログラムによる虚血性心疾患の診断に加え、モバイル型半導体検出器を用いた集中治療室における迅速診断に関する研究が進んでいる。中枢神経領域では他施設と連携した3次元統計解析の研究や痴呆疾患・虚血脳病変に対する新たな解析プログラムの開発を行っている。

放射線治療部門では、強度変調放射線治療と定位放射線治療が可能であり、頭頸部腫瘍と子宮頸癌のlate effect in normal tissueが検討されている。また、頭頸部腫瘍の超音波を用いた評価法が研究され、有用性が確認された。

#### 研究業績

##### 論文

[ 2001 年度追加分 ]

##### 研究報告書：

- 1) 松本 徹<sup>1)</sup>、伊東久夫<sup>2)</sup>、大和田秀美<sup>2)</sup>、金木健一<sup>3)</sup>、神立 進<sup>1)</sup>、日部幸則<sup>4)</sup>、栗山喬之<sup>2)</sup>、黒田知純<sup>5)</sup>、鈴木公則<sup>6)</sup>、鈴木隆一郎<sup>5)</sup>、角南祐子<sup>6)</sup>、田島廣之、長尾啓一<sup>2)</sup>、中川 徹<sup>7)</sup>、藤澤武彦<sup>2)</sup>、藤野雄一<sup>8)</sup>、増田義昭<sup>2)</sup>、松本満臣<sup>9)</sup>、宮本忠明<sup>1)</sup>、山本眞司<sup>10)</sup>、吉川京燦<sup>2)</sup>、吉村明修<sup>11)</sup>(<sup>1)</sup>放医研、<sup>2)</sup>千葉大、<sup>3)</sup>日立メディコ、<sup>4)</sup>福井医大、<sup>5)</sup>大阪府立成人病センター、<sup>6)</sup>結核予防会千葉県支部、<sup>7)</sup>日立健康管理センター、<sup>8)</sup>NTTサイバーソリューション研究所、<sup>9)</sup>都立保健科学大、<sup>10)</sup>豊橋技術科学大、<sup>11)</sup>日本医科大学内科第4): らせんCT肺ガン検診システムの開発評価に関する研究。放射線医学総合研究所；グループ研究「高度診断機能研究」最終報告書 2002；pp59-65。
- 2) 吉村明修<sup>1)</sup>、安藤真弘<sup>1)</sup>、工藤翔二<sup>1)</sup>、渡 潤、田島廣之、隈崎達夫、松本満臣<sup>2)</sup>、矢野 侃<sup>3)</sup>、宮本忠昭<sup>4)</sup>、松本 徹<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学内科第4、<sup>2)</sup>東京都立保健科学大学、<sup>3)</sup>荒川区がん予防センター、<sup>4)</sup>放医研): 低線量らせんCTによる肺癌1次検診のパイロット・スタディー。放射線医学総合研究所；グループ研究「高度診断機能研究」最終報告書 2002；pp310-316。

##### 総説：

- 1) 林 宏光、隈崎達夫：動脈疾患：大動脈瘤と閉塞性動脈硬化症。日本内科学会雑誌 2002；91(3): 147-153。

(1) 原著 :

- 1) Kumita S , Seino Y<sup>1)</sup> , Cho K , Nakajo H , Toba M<sup>2)</sup> , Fukushima Y , Okamoto N<sup>3)</sup> , Takano T<sup>2)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Medical Imaging, Bristol-Myers Squibb K. K ): Assessment of myocardial washout of Tc-99m-sestamibi in patients with chronic heart failure : Comparison with normal control . Annual of Nuclear Medicine 2002 ; 16 ( 4 ): 237-242 .
- 2) Uchiyama N , Kobayashi H , Tanikoshi M , Machida M , Tajima H , Kumazaki T : Clinical Evaluation of Full-Field Digital Mammography in Comparison with CR Mammography . Digital Mammography IWDM 2002 ; 494-496 .
- 3) Tanigoshi M , Kobayashi H , Uchiyama N : Evaluation of the exposure dose reduction in Full-Field Digital Mammography System . Digital Mammography IWDM 2002 ; 149-151 .
- 4) Kobayashi H , Tanigoshi M , Uchiyama N : Comparison of Noise Characteristics between CR System and Full Field Digital Mammography system . Digital Mammography IWDM 2002 ; 72-74 .
- 5) Niibe Y , Karasawa K , Kaizu T , Mizutani K , Ozaki Y , Nagno H , Ueda K , Murakami A , Tanaka Y : Difference in prognostic factors between stage IB and II uterine cervical carcinoma patients treated with radical hysterectomy and postoperative radiation therapy . Radiat Med 2002 ; 20 ( 4 ): 161-167 .
- 6) Murakami R<sup>1)</sup> , Machida M , Hayashi H , Uchiyama N , Kumazaki T ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nissan-Tamagawa Hospital ): Plasma Endothelin, Nitric Oxide and Atrial Natriuretic Peptide Levels in Humans After Abdominal Angiography . Acta Radiologica43 2002 ; 340-343 .
- 7) Okajima Y<sup>1)</sup> , Tajima H<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Center for Advanced Medical Technology , <sup>2)</sup> Dept. of Pathology ): Clinical application of a CT-guided lung biopsy system : Core needle biopsy at the IVR center . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 434-444 .
- 8) Kumita S , Cho K , Nakajo H , Toba M<sup>1)</sup> , Akiyama K , Furukawa K , Mizumura S , Kumazaki T , Sano J<sup>2)</sup> , Munakata K<sup>2)</sup> , Kishida H<sup>2)</sup> , Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Tama-nagayama Hospital , <sup>2)</sup> First Dept. of Internal Medicine ): Serial assessment of left ventricular performance at rest and during bicycle exercise by ECG-gated myocardial perfusion SPECT . Annals of Nuclear Medicine 2002 ; 16 ( 5 ): 329-335 .
- 9) Kitagawa W<sup>1)</sup> , Shimizu K<sup>2)</sup> , Kumita S , Akasu H<sup>1)</sup> , Kumazaki T , Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Endocrine Surgery , <sup>2)</sup> Dept. of Second Surgery ): Radio-Guided Parathyroidectomy for Primary Hyperparathyroidism Combined With Video-Assisted Surgery Using the Solid-State, Multi-Crystal Gamma Camera . Journal of Surgical Oncology 2002 ; 80 : 173-175 .
- 10) Takahama K , Amano Y , Hayashi H , Kumazaki T : T1-weighted Magnetic Resonance Imaging Sequence Appropriate for the Evaluation of the Longitudinal Relaxation Effect of Superparamagnetic Iron Oxide : A Phantom Study . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ): 571-576 .
- 11) Amano Y , Amano M , Matsuda T<sup>1)</sup> , Tsuchihashi T , Takahama K , Kumazaki T ( <sup>1)</sup> GE Yokogawa Medical Systems ): Fat-suppressed three-dimensional MR angiography technique with elliptical centric view order and no prolonged breath-holding time . J Magn Reson Imaging 2002 ; 16 ( 12 ): 707-715 .
- 12) Takayama H<sup>1)</sup> , Takeda S<sup>1)</sup> , Saitoh K<sup>1)</sup> , Hayashi H , Kumazaki T , Takano T<sup>2)</sup> , Tanaka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Intensive Care and Coronary Care Unit , <sup>2)</sup> Dept. of First Internal Medicine ): Spontaneous Isolated Dissection of the Superior Mesenteric Artery . Internal Medicine 2002 ; 41 ( 12 ): 713-716 .
- 13) Shimizu T<sup>1)</sup> , Onda M<sup>1)</sup> , Tajiri T<sup>1)</sup> , Yoshida H<sup>1)</sup> , Mamada Y<sup>1)</sup> , Tani ai N<sup>1)</sup> , Aramaki T<sup>2)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup> First Department of Surgery , <sup>2)</sup> First Department of Medicine ): Bleeding Portal-hypertensive Gastropathy Managed Successfully by Partial Splenic Embolization . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 ( 12 ): 947-949 .

- 14) Miyashita T, Ogawa R<sup>1)</sup>, Mitsuhashi K<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Departments of Plastic and Reconstructive Surgery and Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Marine Clinic): Postoperative Electron-Beam Irradiation Therapy for Keloids and Hypertrophic Scars : Retrospective Study of 147 Cases Followed for More Than 18 Months . Plast Reconstr. Surg 2003 ; 111 ( 1 ): 547-553 .
- 15) Okada S<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Katagiri K, Kumazaki T (<sup>1)</sup> Department of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School ): Effect of the Surface Potential of the Hemodialysis Membrane and the Electrical Charge of Gadolinium Contrast Medium on Dialyzability . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 12-15 .
- 16) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 新しい3次元画像診断法の開発と臨床評価: Multidetector-rowCT用いた3次元CT血管造影法を中心に . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 456-459 .
- 17) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>内科第1・集中治療室): 急性肺血栓塞栓症に対する新しい治療法の開発と臨床評価 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 463-467 .
- 18) 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫, 大井良之<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 阿部 豊, 駒田康成, 古川一博, パスカルニゲマン, 宮下次廣, 高橋秀明<sup>3)</sup>, 木全亮二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>泌尿器科学, <sup>3)</sup>外科学第1): 閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の開発と臨床評価 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 468-470 .
- 19) 保坂純郎: 下肢静脈疾患に対する新しい画像診断法の開発と臨床評価 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 460-462 .
- 20) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 水村 直, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 尾科隆司, 隈崎達夫: 心電図同期心プールSPECTデータを用いた心機能解析: QBSによる心内膜面自動抽出法に基づく機能解析 . 核医学 2002 ; 39 : 469-476 .
- 21) 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 中里 馨<sup>2)</sup>, 松崎つや子<sup>3)</sup>, 佐藤淳子<sup>3)</sup>, 水瀬 学<sup>3)</sup>, 伊藤玲子<sup>3)</sup>, 福間祐美子<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>日本医科大学内科第1, <sup>2)</sup>本駒込クリニック, <sup>3)</sup>日本医科大学生理機能センター): 高齢者の巨大縦隔嚢胞の1例 . 日本超音波医学会誌 2002 ; 29 : 497-497 .
- 22) 趙 圭一, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 水村 直, 石原真木子<sup>2)</sup>, 尾科隆司<sup>2)</sup>, 櫻井 実, 齋藤晴美<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): 半導体検出器を用いた心プールシンチグラフィ - 拍動型心臓ファントムによるアンガ: 型カメラとの比較 . 核医学 2002 ; 39 ( 12 ): 535-541 .
- 23) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>内科学第1): 胃切除術後2日目に発症した肺動脈血栓塞栓症 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 504-507 .
- 24) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>内科学第1): 胃切除術後2日目に発症した肺動脈血栓塞栓症 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 504-507 .
- 25) 内山菜智子: FFDMの臨床評価 . 日本放射線技術学会雑誌 2003 ; 59 ( 1 ): 42-43 .

(2) 綜説:

- 1) 石王道人, 隈崎達夫: サーモグラフィ . 血栓と循環 2002 ; 10 ( 1 ): 71-74 .
- 2) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 骨盤・下肢血管病変: 検査の画像処理の実際-マルチディテクターCT: 撮像: 再構成そして読影 . 臨床画像 2002 ; 18 ( 5 ): 78-88 .
- 3) 林 敏彦<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 石原楷輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科): 不正性器出血 ( 非悪性腫瘍性 ). 臨床画像 2002 ; 18 ( 5 ): 103-112 .
- 4) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・八



- イテクリサーチセンター): MDCT AngiographyとAdvanced Vessel Analysisを用いた新しい血管病変の画像診断と解析. 脈管学 2002 ; 42 ( 8 ): 521-526 .
- 5) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓溶解・破砕・吸引療法. Vascular Diseases and Therapies 2002 ; 8 ( 10 ): 1-3 .
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 ( <sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺血栓塞栓症, 深部静脈血栓症. INNERVISION 2002 ; 17 ( 10 ): 73-75 .
- 7) 古川一博<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高濱克也<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 泌尿器画像診断の全て: 腎外傷CT・IVRを中心として. 臨床放射線 2002 ; 47 ( 10 ): 1382-1388 .
- 8) 高木 亮, 隈崎達夫: CT perfusion : その原理と臨床応用. 脳と神経 2002 ; 54 ( 11 ): 950-958 .
- 9) 岡島雄史, 田島廣之, 福永 毅, 小野澤志郎, 渡 潤, 駒田康成, 阿部 豊, 村田 智, 隈崎達夫: 肺腫瘍に対するNon-vascular IVR, CT下肺生検における合併症と対策. IVR会誌 2002 ; 17 ( 12 ): 310-313 .
- 10) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肺塞栓症の肺動脈造影: 特に肺動脈造影所見について. Heart View 2002 ; 6 ( 13 ): 46-49 .
- 11) 田島廣之, 隈崎達夫: ここまで進んだ血管内治療〔総論〕救急・集中治療への適応効果・限界. 救急・集中治療 2002 ; 14 ( 12 ): 1203-1208 .
- 12) 林 宏光, 町田 稔, 高木 亮, 天野康雄, 川俣博志, 田島廣之, 隈崎達夫: 閉塞性動脈硬化症の画像診断各種検査法の特徴とその使い分け. Progress in Medicine 2002 ; 22 ( 12 ): 3021-3025 .
- 13) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 町田 稔, 古川一博, 清水康弘, 松田 亮, 隈崎達夫: マルチディテクターCT: 骨盤・下肢血管病変: 検査と画像処理の実際. 臨床画像 2002 ; 18 ( 12 ): 546-556 .
- 14) 林 宏光, 隈崎達夫: 多列検出器型CTによる3次元CT血管造影法: 臨床的特長とその可能性. 今日の高血圧治療 2002 ; 5 ( 12 ): 1-2 .
- 15) 林 宏光, 隈崎達夫: Multi-detector Row CT血管造影法による下肢動脈の評価: 初期臨床報告. Vascular Diseases and Therapies Update 2002 ; 6 ( 12 ): 5-5 .
- 16) 林 宏光, 隈崎達夫: 画像診断で広がる病診連携: 骨盤・下肢: 閉塞性動脈硬化症を中心に. MEDICAL DIGEST 2002 ; 51 ( 12 ): 37-45 .
- 17) 宮下次廣, 館野 温, 吉原尚志: ヨード過敏症患者にDIPはできない? 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 ( 12 ): 1019-1020 .
- 18) 超 圭一, 汲田伸一郎: Gated SPECTは臨床に役立つか?: 左室容積, 左室駆出率算出の問題点. 核医学 2002 ; 39 ( 12 ): 97-102 .
- 19) 隈崎達夫: Hodgkin病放射線治療後におけるタモキシフェンの乳癌予防効果. Highlights of RSNA2002 2002 ; 7-7 .
- 20) 林 宏光, 隈崎達夫: MDCTAとMRAによる骨盤・下肢血管疾患の診断. Radiology Frontier 2002 ; 5 ( 3 ): 33-36 .
- 21) 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血栓症のInterventional Radiology: 特集によせて. 血栓と循環 2002 ; 10 ( 1 ): 9-9 .
- 22) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血栓症のInterventional Radiology: 肺血栓塞栓症. 血栓と循環 2002 ; 10 ( 1 ): 28-32 .
- 23) 川俣博志, 隈崎達夫, 岡田 進: 血栓症のInterventional Radiology: 門脈血栓症. 血栓と循環 2002 ; 10 ( 1 ): 42-47 .
- 24) 高木 亮: CBF ( cerebral blood flow ) CT perfusionの有用性, 検査, 診断のテクニック. INNERVISION 2003 ; 18 ( 1 ): 113-115 .

- 25) 林 宏光, 隈崎達夫: 大血管・末梢血管. CLINICIAN 2003 ; 50 ( 518 ): 47-54 .
- 26) 田島廣之, 隈崎達夫: 新薬展望2003造影剤. 医療ジャーナル 2003 ; 39 ( 2 ): 641-645 .
- 27) 汲田伸一郎: 心臓核医学の臨床. 新医療 2003 ; 30 ( 2 ): 110-113 .
- 28) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: 三次元画像再構成法; 臨床応用の現状とその役割. 日独医報 2003 ; 48 ( 1 ): 39-50 .
- 29) 林 宏光, 隈崎達夫: 総腸骨動脈のステント内狭窄を評価する; MD-CTとMRA, デジタル血管造影による狭窄ファントムの比較検討. Vascular Diseases and Therapies Update 2003 ; 9 ( 3 ): 5-5 .

(3) 研究報告書:

- 1) 超 圭一: 局所収縮能変動の定量解析: 機能subtraction mapの開発. 第4回心電図同期SPECT研究会記録集 2002 ; pp7-8 .

著 書

- 1) 隈崎達夫: [ 監修 ] 全身の動脈・P6. 全身の静脈・P7. 心臓血管1~2, 胸部血管1~4・P26-37. 新血管造影アトラス, 2002 ; 電通サドラー・アンド・ヘネシー .
- 2) 田島廣之: [ 分担 ] 全身の動脈・P6. 全身の静脈・P7. 心臓血管1~2, 胸部血管1~4・P26-37. 新血管造影アトラス, 2002 ; 電通サドラー・アンド・ヘネシー .
- 3) 村田 智: [ 分担 ] 全身の動脈・P6. 全身の静脈・P7. 心臓血管1~2, 胸部血管1~4・P26-37. 新血管造影アトラス, 2002 ; 電通サドラー・アンド・ヘネシー .
- 4) 市川和雄, 田島廣之: [ 分担 ] 咯血. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp347-349, 南江堂 .
- 5) 田島廣之, 除 向英: [ 分担 ] 気道狭窄. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp350-351, 南江堂 .
- 6) 田島廣之, 隈崎達夫: [ 分担 ] 急性肺血栓塞栓症. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp352-354, 南江堂 .
- 7) 川俣博志, 隈崎達夫: [ 分担 ] 大動脈解離. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp355-356, 南江堂 .
- 8) 岡島雄史, 田島廣之: [ 分担 ] 気胸. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp357-358, 南江堂 .
- 9) 村田 智, 田島廣之: [ 分担 ] 肝損傷 ( 動脈塞栓術の適応 ). Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp361-362, 南江堂 .
- 10) 古川一博, 田島廣之: [ 分担 ] 骨盤臓器損傷. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp127-131, 南江堂 .
- 11) 田島廣之, 市川和雄: [ 分担 ] ボディーパッカー. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp217-217, 南江堂 .
- 12) 隈崎達夫, 田島廣之: [ 分担 ] 気管支内異物. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp218-218, 南江堂 .
- 13) 田島廣之, 川俣博志: [ 分担 ] 飲酒運転と胆嚢破裂. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp120-120, 南江堂 .
- 14) 村田 智, 田島廣之: [ 分担 ] 脾損傷: 動脈塞栓術の適応. Emergency Radiology ( 救急放射線研究会ERセミナー ), 2002 ; pp363-364, 南江堂 .
- 15) 林 宏光: [ 分担 ] 放射線診療用語集 ( 改定第3版 ). 心血管・IVR2002日本医学放射線学会, 2002 ; 金原出版 .
- 16) 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫, 小川 令, 岩切 致, 百束比古: [ 分担 ] ケロイド. 良性疾患の放射線治療

(晴山雅人・山下 孝), 2002 ; pp122-131, 金原出版 .

- 17) 天野康雄, 隈崎達夫, 天野成子<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 織内 昇<sup>1)</sup>, 遠藤啓吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大核医学科, <sup>2)</sup>日本医科大学内科学第3): [分担] みんなに役立つ悪性リンパ腫の基礎と臨床 . 画像診断 (押味和夫), 2003 ; pp104-111, 医薬ジャーナル社 .

#### 学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

##### 特別講演 :

- 1) 水村 直 : 画像間差補正共有対照群データベースを用いた塩酸ドネペジルの脳血流変化の検討 . アルツハイマー型痴呆研究会・画像診断サブコミッティ, 2002 . 1 .
- 2) 水村 直 : 適正な画像処理を行うための注意点 : よくある質問とその対処法 . 3D-SSP 検討会, 2002 . 1 .
- 3) 隈崎達夫 : Interventional Radiology (IVR) の歴史 . 第1回日本PTGE研究会, 2002 . 1 .

##### 一般講演 :

- 1) 日高史貴<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 治療法の選択に難渋した孤立性上腸間膜動脈解離の1例 . 第11回東京血管外科画像診断治療懇話会, 2002 . 2 .
- 2) 阿部 豊<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): IVRにて治療しえた腓十二指腸動脈瘤の1例 . 第11回東京血管外科画像診断治療懇話会, 2002 . 2 .

##### (1) 特別講演 :

- 1) 隈崎達夫 : 脈管の3次元画像診断 : 動脈硬化性疾患を中心として . 第2回臨床動脈波研究会, 2002 . 5 .
- 2) 水村 直 : 画像間差補正法と画像データベースの共有化について . EZIS講演会, 2002 . 5 .
- 3) 隈崎達夫 : 統合IVR : 21世紀の医療を見据えた提言 . 第37回日本核医学会 中国・四国地方会, 2002 . 6 .
- 4) 水村 直 : 精神神経疾患における群間比較評価の臨床的有用性 . 3D-SSP検討会, 2002 . 7 .
- 5) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の現状と将来展望 . 第5回熊本心臓心臓核医学フォーラム, 2002 . 7 .
- 6) 田島廣之 : 肺血栓塞栓症に対するIVR . 徳島IVR研究会, 2002 . 9 .
- 7) 水村 直 : 脳血流シンチグラフィのピットフォール . 第28回茨城県臨床核医学研究会, 2002 . 9 .
- 8) 林 宏光, 隈崎達夫 : 血流障害の画像診断・マルチスライスCTによる3次元CT血管造影で何がわかるのか, どこまでわかるのか . 血管疾患フォーラム, 2002 . 10 .
- 9) 高木 亮 : 中枢神経におけるMD-CT ; CT perfusionの臨床応用 . 新潟脳ドック研究会, 2002 . 11 .
- 10) 田島廣之 : 腹部外傷の画像診断とIVR . 第1回新都心救急放射線研究会, 2003 . 1 .
- 11) 宮下次廣 : 本学における集学的放射線治療成績 . 早期乳癌とケロイド, 2003 . 2 .
- 12) 林 宏光 : CT angiographyによる閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断・治療支援画像としての可能性を探る . 栃木血管病セミナー ~ ASO : その診断と治療の進歩 ~ , 2003 . 2 .
- 13) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の新しい展開 . 心臓核医学フォーラム, 2003 . 3 .
- 14) 林 宏光 : マルチスライスCT・基礎からその特徴を活かした臨床応用まで . 第1回沖縄マルチスライスCT研究会, 2003 . 3 .

##### (2) 招待講演 :

- 1) 趙 圭一 : 局所収縮能変動の定量解析 : 機能subtraction mapの開発 . 第4回心電図同期SPECT研究会, 2002 . 6 .
- 2) 隈崎達夫 : 画像診断とIVRの最前線 : ハイテクノロジーによる治療戦略を求めて . 日本医大三九会学術講演, 2002 . 9 .

(3) 教育講演：

- 1) 汲田伸一郎：Gated SPECT の臨床応用法；最近のトピックス．第3回関西Gated SPECT研，2002．8．
- 2) 汲田伸一郎：心臓核医学の臨床応用法，将来展望を含めて．第42回日本核医学会総会，2002．11．

(4) シンポジウム：

- 1) Takagi R, Kumazaki T : New CT imaging of cerebral ischemia : combined technique of CT perfusion and CT angiography . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology , 2002 . 5 .
- 2) Tajima H, Kumazaki T, Murata S, Kawamata H, Ichikawa K, Abe Y, Komada K, Nakazawa K : Deep Venous thrombosis : Interventions with mechanical thrombectomy and thrombo-aspiration . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology , 2002 . 5 .
- 3) Murata S, Tajima H, Kumazaki T, Oi Y, Kondo Y, Niggemann P, Abe Y, Komada Y, Miyashita T, Takasaki H, Kimata R ( <sup>1</sup> Dept. of Radiology/advanced medical technology Center, anesthesiology ( Y. O ), Urology ( Y. K, R. K ), and 1st Surgery ) : The negative-balanced isolated pelvic perfusion : A new system for high dosed regional chemotherapy . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology , 2002 . 5 .
- 4) Kumita S : Nuclear cardiology in patients with heart failure . 第6回日本心不全学会総会，2002．10．
- 5) 内山菜智子：シンポジウムI. フラットパネルディテクタの臨床応用（5）FFDMの臨床評価．第58回日本放射線技術学会，2002．4．
- 6) 高木 亮，隈崎達夫：CT perfusion とCT angiography を用いた急性期脳虚血性病変の評価．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
- 7) 村田 智：閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の開発と臨床評価（骨盤進行癌を中心に）．第11回造影剤と放射線シンポジウム，2002．5．
- 8) 田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，山本 剛<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup>内科第1・集中治療室）：急性肺血栓塞栓症に対する新しい治療法の開発と臨床評価．日本医科大学医学会第12回公開「シンポジウム」，2002．6．
- 9) 保坂純郎：下肢静脈疾患に対する新しい治療法の開発と臨床評価．日本医科大学医学会第12回公開「シンポジウム」，2002．6．
- 10) 林 宏光<sup>1)</sup>，高木 亮<sup>1)</sup>，内山菜智子<sup>1)</sup>，高浜克也<sup>1)</sup>，古川一博<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター）：新しい3次元画像診断法の開発と臨床評価：Multidetector-row CTを用いた3次元CT血管造影法を中心に．日本医科大学医学会第12回公開「シンポジウム」，2002．6．
- 11) 村田 智，田島廣之，隈崎達夫，大井良之<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>2)</sup>，阿部 豊，駒田康成，古川一博，パスカルニゲマン，宮下次廣，高崎秀明<sup>3)</sup>，木全亮二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>麻酔科学，<sup>2)</sup>泌尿器科学，<sup>3)</sup>外科第1）：閉鎖循環回路下による進行癌の治療：村田法の開発と臨床評価．日本医科大学医学会第12回公開「シンポジウム」，2002．6．
- 12) 林 宏光<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター）：Pediatric CT Update 2002・小児のMDCT：Multidetector-row CTとは何か：その特徴を中心にして．第38回日本小児放射線学会，2002．5．
- 13) 田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，ニゲマン パスカル<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター）：深部静脈血栓症に対するIVR：大腿静脈アプローチ．第8回国際IVR/血管造影シンポジウム，第31回日本血管造影・IVR学会総会，2002．5．
- 14) 田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，駒田康成<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>

- (<sup>1</sup>)放射線科・ハイテクリサーチセンター, (<sup>2</sup>)内科第1): 深部静脈血栓症に対する Interventional Radiology . 第22回日本静脈学会総会, 2002 . 6 .
- 15) 中澤 賢<sup>1</sup>), 田島廣之<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 市川和雄<sup>1</sup>), 阿部 豊<sup>1</sup>), 駒田康成<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 高山守正<sup>2</sup>), 田中啓治<sup>2</sup>), 高野照夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>)放射線科・ハイテクリサーチセンター, (<sup>2</sup>)内科第1): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓破砕・溶解・吸引療法 . 第22回日本静脈学会総会, 2002 . 6 .
- 16) 林 宏光, 隈崎達夫: 新しい3次元画像診断法の開発臨床応用 . 日本医科大学医学会第12回公開「シンポジウム」, 2002 . 6 .
- 17) 田島廣之<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 市川和雄<sup>1</sup>), 阿部 豊<sup>1</sup>), 駒田康成<sup>1</sup>), 中澤 賢<sup>1</sup>), 福永 毅<sup>1</sup>), 田中啓治<sup>2</sup>), 高野照夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>)放射線科・ハイテクリサーチセンター, (<sup>2</sup>)内科学第1): 深部静脈血栓症に対する血管内治療 . 第8回日本血管内治療学会, 2002 . 7 .
- 18) 隈崎達夫: Interventional Radiology (IVR) 研究の進歩: 21世紀の役割を視野に入れて . 日本医科大学ハイテクリサーチ・学術フロンティア研究第1期 合同公開シンポジウム, 2002 . 7 .
- 19) 林 宏光<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>)放射線科・ハイテクリサーチセンター): 新しい3次元画像診断技術の開発: 21世紀におけるIVRの支援画像診断 . 日本医科大学ハイテクリサーチ・学術フロンティア研究第1期 合同公開シンポジウム, 2002 . 7 .
- 20) 汲田伸一郎: 負荷時Gated SPECTを用いたPCI後の冠動脈再狭窄評価 . 名古屋21世紀カンファレンス, 2002 . 10 .
- 21) 汲田伸一郎: 心臓核医学を用いた虚血性心疾患における病態評価 . 第22回日本画像医学会, 2002 . 10 .
- 22) 林 宏光, 高木 亮, 高浜克也, 内山菜智子, 町田 稔, 古川一博, 隈崎達夫: MDCT AngiographyとAdvanced Vessel Analysisを用いた新しい血管病変の画像診断と解析 . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .
- 23) 坂保純郎, 松田 亮, 隈崎達夫: 静脈疾患の画像診断: 特に弁機能解析を中心に . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .
- 24) 田島廣之, 村田 智, 阿部 豊, 駒田康成, 中澤 賢, 福永 毅, 隈崎達夫: 急性肺血栓塞栓症に対する血管内治療の実際 . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .
- 25) 田島廣之<sup>1</sup>), 隈崎達夫<sup>1</sup>), 村田 智<sup>1</sup>), 中澤 賢<sup>1</sup>), 山本 剛<sup>2</sup>), 高山守正<sup>2</sup>), 田中啓治<sup>2</sup>), 高野照夫<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>)放射線科・ハイテクリサーチセンター, (<sup>2</sup>)内科学第1・集中治療室): 「カテーテル血管内治療」重症急性塞栓症の治療戦略外科手術かカテーテル血管治療か . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 26) 山本 剛<sup>1</sup>), 坪 宏一<sup>1</sup>), 藤田進彦<sup>1</sup>), 小野寺英貴<sup>1</sup>), 金 徹<sup>1</sup>), 佐藤直樹<sup>1</sup>), 竹田晋浩<sup>1</sup>), 田中啓治<sup>1</sup>), 高野照夫<sup>2</sup>), 田島廣之<sup>1</sup>) (集中治療室, <sup>2</sup>)内科学第1): 重症急性肺塞栓症に対する治療戦略: 第一選択はカテーテル血管内治療である . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- (5) パネルディスカッション:
- 1) 林 宏光, 隈崎達夫: マルチスライスCTによる3次元CT血管造影法: Coronary CT Angiographyの確立を目指して . 第18回循環器情報処理研究会, 2002 . 11 .
- (6) 一般講演:
- 1) Komada Y, Tajima H, Okajima Y, Fukunaga T, Yoshida T, Endo M, Kuribayashi S, Murata S, K : Successful percutaneous drainage of descending necrotizing mediastinitis . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology, 2002 . 5 .
- 2) Abe Y, Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Komada Y, Nakazawa K, Endo M, Onozawa S, K : Transcatheter arterial embolization of ruptured left gastric artery aneurysm . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology, 2002 . 5 .
- 3) Yoshihara H, Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Abe Y, Komada Y, Nakazawa K, Kitagawa R, K :

Transcatheter Arterial embolization of common hepatic Artery bleeding following pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology , 2002 . 5 .

- 4) Onozawa S , Murata S , Tajima H , Hayashi H , Ichikawa K , Machida M , Furukawa K , Nakazawa K , K : Interventional Approach for arteriovenous malformations and fistulas with klippel-trenauney-weber syndrome . The 8th International Symposium on Interventional Radiology & New Vascular Imaging cooperated with the 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Angiography & Interventional Radiology , 2002 . 5 .
- 5) Amano Y , Tajika K<sup>1)</sup> , Uchiyama N , Takahama K , Dan K<sup>1)</sup> , K ( <sup>1)</sup>3rd Internal Medicine ): Whole-body black-blood fast short inversion time inversion recovery MR imaging for staging of malignant lymphoma . 10th annual meeting of ISMRM ( Hawaii ) , 2002 . 5 .
- 6) Amano Y , Takahama K , Tsuchihashi T , Matsuda T<sup>1)</sup> , Uchiyama K<sup>1)</sup> , K ( <sup>1)</sup>GE Yokogawa Medical Systems ): Fat-suppressed three-dimensional MR angiography technique with elliptical centric view order and no prolonged breath-holding time . 10th annual meeting of ISMRM ( Hawaii ) , 2002 . 5 .
- 7) Takagi R : CT Perfusion Using MS-CT for Cerebral Ischemia . International Workshop on Multislice CT 3D Imaging Virtual Endoscopy , 2002 . 6 .
- 8) Uchiyama N , Kobayashi H , Tanikoshi T , Machida M , Tajima H , Kumazaki T : Clinical Evaluation of Full-Field Digital Mammography in Comparison with CR Mammography . IWDM ( Bremen, Germany ) , 2002 . 6 .
- 9) Tanigoshi M , Kobayashi H , Uchiyama N : Evaluation of the exposure dose reduction in Full-Field Digital Mammography System . IWDM ( Bremen, Germany ) , 2002 . 6 .
- 10) Kobayashi H , Tanigoshi M , Uchiyama N : Comparison of Noise Characteristics between CR System and Full Field Digital Mammography system . IWDM ( Bremen, Germany ) , 2002 . 6 .
- 11) Uchiyama N , Kobayashi H , Tajima H , Machida M , Kumazaki T , M : Comparison of Full-Field Digital Mammography in with CR Mammography . Radiological Society of North America ( Chicago ) , 2002 . 12 .
- 12) Amano Y : Evaluation of Cardiac Morphology and Function with Magnetic Resonance Imaging in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy after Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation . Radiological Society of North America ( Chicago ) , 2002 . 12 .
- 13) Amano Y , Takayama M<sup>1)</sup> , Amano M , Hayashi H , Takano T<sup>1)</sup> , Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Department of the 1st Internal Medicine ): Evaluation of cardiac morphology and function with magnetic resonance imaging in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy after percutaneous transluminal septal myocardial ablation . 88th annual meeting of RSNA ( Chicago ) , 2002 . 12 .
- 14) Machida M , Kameyama K , Onda M , Hayashi H , Tajima H , Kumazaki T : Photosignal analysis using hematoporphyrin as a microenvironmental probe for experimental atheromatous plaques . European Congress of Radiology ( Vienna Austria ) , 2003 . 3 .
- 15) Takagi R , Amano Y , Teramoto A , Sanno N , Nakahara M , Kumazaki T : Estimation of the hardness of pituitary adenoma with magnetization transfer imaging . European Congress of Radiology ( Vienna Austria ) , 2003 . 3 .
- 16) Tajima H<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Murata S<sup>1)</sup> , Nakazawa K<sup>1)</sup> , Abe Y<sup>1)</sup> , Machida M<sup>1)</sup> , Tanaka K<sup>2)</sup> , Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチ , <sup>2)</sup>内科第1 ): Acute massive pulmonary thromboembolism : A combined approach with mechanical fragmentation using a modified rotating pigtail catheter, local fibrinolysis and manual thrombo-aspiration . European Congress of Radiology ( Vienna Austria ) , 2003 . 3 .
- 17) 清水宏明<sup>1)</sup> , 高木 博<sup>1)</sup> , 羽田野頭治<sup>1)</sup> , 村瀬貴之<sup>1)</sup> , 青木祐子<sup>1)</sup> , 林 宏光 , 内山菜智子 , 隈崎達夫 , 小林尚

- 志<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日立メディコ技術研究所,<sup>2)</sup>新古賀病院付属医学研究所): CT画像を利用したデジタル解剖アトラス"CT-navi"の開発. 第58回日本放射線技術学会, 2002. 4.
- 18) 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): MDCT Angiographyによる小児複雑心血管奇形の評価. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 19) 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 林宏光<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): Negative in-out flow rate閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の動物実験での検討: 抗癌剤の骨盤外漏出量と注入・吸引速度の差との相関関係. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 20) 天野康雄, 高浜克也, 古川一博, 天野真紀, 隈崎達夫: 脂肪抑制 IR-SSFSE 法による非造影 MR 門脈撮影. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 21) 趙 圭一, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科,<sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科): 不安定狭心症における心筋 SPECT を用いた血流・脂肪酸代謝評価: 血清トロポニン T 活性との対比. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 22) 水村 直, 汲田伸一郎, 秋山一義, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 吉原尚志, 小野澤志郎, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): 虚血性病変に対する定性的・定量的脳血流 SPECT における 3D - SSP / Z - スコアマップの差異. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 23) 内山菜智子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 宮川国久<sup>2)</sup>, 森山紀之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>国立がんセンター放射線診断部): Digital Mammography の臨床評価. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 24) 高浜克也, 天野康雄, 林 宏光, 石原真木子<sup>1)</sup>, 松田 亮, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科): 肝腫瘍性病変の診断における SPIO 造影 T1 強調画像の有用性: Gd 造影 MRI 遅延相との比較. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 25) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>病理第2): 動脈硬化モデルにおけるヘマトポルフィリンを用いた分光および位相解析. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 26) 阿部 豊, 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫, 市川和雄, 駒田康成, 中澤 賢, 小野澤志郎, 林 宏光: Prostaglandin E1 による肝実質の造影効果への影響: 門脈 CT による検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 27) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 町田稔<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 内頸静脈血栓症に対する IVR. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 28) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 水村 直, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 秋山一義, 隈崎達夫, 四方田勇<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科,<sup>2)</sup>第1ラジオアイソトープ): アドリアマイシン心不全ラットにおける Tc-99m-ses-tamibi の心筋保持能. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 29) 秋山一義, 水村 直, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 吉原尚志, 小野澤志郎, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): 3D SSP を用いた無症候性脳梗塞における脳血流 SPECT の経時的観察. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 30) 古川一博<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 骨盤・下肢閉塞性動脈硬化症の超音波による血流解析. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 31) 駒田康成<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター,<sup>2)</sup>泌尿器科学): 骨盤内進行癌に対する Negative in-out flow 閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の臨床応用. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.

- 32) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 隈崎達夫, 高山守正<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): 急性塊状肺動脈血栓塞栓症に対する血栓塞栓症・溶解・吸引療法: 特に循環動態の改善について. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 33) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 水村 直, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): 急性心筋梗塞における201Tl123I-BMIPP dual心筋SPECTの有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 34) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 渡 潤, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 駒田康成, 中澤 賢, 隈崎達夫: 肺野小病変に対するCTガイド肺生検: IVRセンターにおける検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 35) 吉原尚志, 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 水村 直, 秋山一義, 小野澤志郎, 隈崎達夫: 運動負荷心筋Gated SPECTを用いた左室機能解析: 安静時心プールシンチグラフィとの対比検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 36) 内木場庸子<sup>1)</sup>, 福見大地<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 倉持雪穂<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 太田美紀<sup>1)</sup>, 林 宏光, 隈崎達夫, 小川俊一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学): 3次元CT(らせん操作型CT)を用いた先天性異常血管の評価. 第38回日本小児放射線学会, 2002. 5.
- 37) 駒田康成<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>救急医学): 経カテーテル的動脈塞栓術を施行した外傷性肝被膜下損傷の2例. 第16回日本外傷学会, 2002. 5.
- 38) 大森裕也<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 矢島俊巳<sup>1)</sup>, 菅野重人<sup>1)</sup>, 枅方規喜<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 井村肇<sup>1)</sup>, 保坂純郎, 隈崎達夫, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2): 高性能超音波装置による不全穿通技術前マーキングの有用性. 第30回日本血管外科学会, 2002. 5.
- 39) 町田 稔: HDI5000を用いたpulse inversion harmonic imagingによる肝腫瘍性病変のLevovist造影効果について. 第28回千駄木肝カンファレンス, 2002. 5.
- 40) 高久多希朗<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 牛島明子<sup>2)</sup>, 高山英男<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田島廣之, 高橋直人(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1, <sup>3)</sup>第二病院内科): 潰瘍性大腸炎に急性広範性肺血栓塞栓症を合併した1例. 第184回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2002. 6.
- 41) 保坂純郎, 松田 亮, 隈崎達夫: 下肢静脈血流の生理: 呼吸法の弁挙動と血流におよぼす影響. 第22回日本静脈学会総会, 2002. 6.
- 42) 松田 亮<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 静脈弁部逆流定量評価の試み: 静脈弁ファントムによる基礎的検討. 第22回日本静脈学会総会, 2002. 6.
- 43) 栗林茂彦, 古川一博, 田島廣之, 林 宏光, 村田 智, 町田 稔, 隈崎達夫: 部検にて診断された膵腺房細胞多臓器転移の1例. 第421回日本医学放射線学会関東地方会, 2002. 6.
- 44) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 日高史貴<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中久美<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>外科第2, <sup>3)</sup>内科第4): 胸腺摘出術後に合併した右鎖骨下動脈結核性仮性動脈瘤破裂に対する外科的バイパス術・継皮的ステントグラフト留置術併用療法. 第8回日本血管内治療学会, 2002. 7.
- 45) 福永 毅<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 中澤 賢, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 肝動脈結核を有するHCCに対しバルーンカテーテル閉塞下TAE施行した2例. 第8回日本血管内治療学会, 2002. 7.
- 46) 川野陽一<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琉甫<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>外科第1): 肝細胞癌に対するModified PMC療法. 第24回リザーバ研究会, 2002. 7.



- 47) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 駒田康成<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 血栓溶解・破碎・吸引療法と血管形成術が奏功した左上肢静脈血栓症の1例. 第14回関東IVR研究会, 2002. 7.
- 48) 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 山下精彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>外科第1): 線形モデルによる診療内容解析の試み: 頭部MRIにおける検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 49) 宮本正章<sup>1)</sup>, 及川恵子<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 太田眞夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎, 落 雅美<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>内科第3, <sup>3)</sup>外科第2, <sup>4)</sup>麻酔科): 重症末梢性血管病変に対する自己骨髄細胞による血管再生療法. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 50) 二見良平<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 舘野 温, 宮下次廣(<sup>1)</sup>外科第1): Nedaplain, 5-FU, leukovorin, 放射線併用療法が奏効し, 血清中の血管内皮細胞増殖因子が低下した切除不能食道癌の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 51) 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 宮下次廣, 舘野 温, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科): ケロイドに対する術後電子照射を含めた集学的治療. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 52) 水村 直, 汲田伸一郎, 隈崎達夫, 坂本静樹<sup>1)</sup>, 瀬田健博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2): 正常データベース施設間共有化のためのSPECT装置の画像間差補正プログラム(eZIS)の開発と検証. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 53) 天野康雄<sup>1)</sup>, 古川一博<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 野崎 敦<sup>2)</sup>, 天野真紀<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター, <sup>2)</sup>GE横河メディカルシステムズ): Phased-array coilとASSETを併用した骨盤下肢領域2D gated TOF MRA. 第30回日本磁気共鳴学会大会, 2002. 9.
- 54) 前田美穂<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 早川 潤<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 天野康雄(<sup>1)</sup>小児科): 白血病・悪性リンパ腫の治療終了後にみられる頭部MRI所見の検討. 第44回日本小児血液学会, 2002. 10.
- 55) 高木 亮, 小野澤志郎, 日高史貴, 内山菜智子, 林 宏光, 隈崎達夫: CT perfusionを用いた脳腫瘍性病変の評価. 第13回医用デジタル動画像研究会, 2002. 10.
- 56) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 松田 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 下肢静脈瘤患者における穿通枝の動画像による評価. 第13回医用デジタル動画像研究会, 2002. 10.
- 57) 高木 亮, 小野澤志郎, 栗林茂彦, 古川一博, 林 宏光, 田島廣之, 隈崎達夫, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 頭部3D-CTAと手術所見が異なった椎骨脳動脈瘤の1例. 第12回救急放射線研究会, 2002. 10.
- 58) 古川一博<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高浜克也<sup>1)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 吉原尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科・ハイテクリサーチセンター): 門脈腫瘍塞栓を伴った後腹膜原発悪性黒色腫の1例. 第38回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2002. 10.
- 59) 遠藤正文, 田島廣之, 高木 亮, 天野康雄<sup>1)</sup>, 古川一博, 桑子智之, 椎葉真人<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 伊藤博元<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>整形外科): 頸椎骨折に合併した左椎骨動脈閉塞の1例: MRI所見を中心に. 第38回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2002. 10.
- 60) 工藤律子<sup>1)</sup>, 藤谷 仁<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 東 春香<sup>2)</sup>, 大野忠明<sup>2)</sup>, 高野仁司<sup>2)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田島廣之, 中澤 賢, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1): 急性肺塞栓症を合併した先端巨大症の1例. 第9回肺塞栓症研究会・学術集会, 2002. 11.
- 61) 汲田伸一郎, 趙 圭一, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 水村 直, 秋山一義, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科): 高感度コリメータを装着した半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラを用いた左室機能解析. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 62) 趙 圭一, 汲田伸一郎, 水村 直, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 櫻井 実<sup>2)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科技師): 心電図同期SPECTによるRegional Post-stress Stunningの検出: Subtraction Mapによる収縮率の経時的変化. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 63) 水村 直, 汲田伸一郎, 秋山一義, 中條秀信, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科):

- 3D - SSPを用いた無症候性脳梗塞における定性・定量的脳血流SPECTの経時的観察．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 64) 櫻井 実，汲田伸一郎，趙 圭一，齋藤晴美<sup>1)</sup>，小菅 豊<sup>1)</sup>，上森真理子<sup>1)</sup>，鳥羽正浩<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 付属病院放射線科技師，<sup>2)</sup> 多摩永山病院放射線科)：心電図同期SPECTを用いた経時的局所収縮機能変化の解析：Wall Tricking Subtraction Mapの開発．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 65) 中條秀信：びまん性転移骨腫瘍．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 66) 鳥羽正浩<sup>1)</sup>，汲田伸一郎，趙 圭一，水村 直，中條秀信，福嶋善光，市川太郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 多摩永山病院放射線科)：運動負荷30分後にPost-stress Stunningは検出可能か？：Gated SPECTによる心機能の経時的変化．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 67) 福嶋善光，汲田伸一郎，鳥羽正浩<sup>1)</sup>，趙 圭一，中條秀信，水村 直，秋山一義，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 多摩永山病院放射線科)：急性心筋梗塞における201TI/123I-BMIPP dual心筋SPECTの有用性：心筋逸脱酵素との比較検討．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 68) 石原真木子<sup>1)</sup>，汲田伸一郎，趙 圭一，水村 直，木島鉄仁<sup>1)</sup>，齋藤晴美<sup>2)</sup>，櫻井 実<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup> 付属病院放射線科技師)：脳数値ファントムを用いた脳血流SPECT血流低下域の検討：FBPとOSEM再構成法による比較．第42回日本核医学会総会，2002．11．
- 69) 亀山孝二<sup>1)</sup>，恩田宗彦<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 病理第2，<sup>2)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：光感受性物質を用いた動脈硬化巣のスペクトル解析．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 70) 山本 剛<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>2)</sup>，亀山幹彦<sup>2)</sup>，林 明聡<sup>2)</sup>，坪 宏一<sup>2)</sup>，佐藤直樹<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>，田島廣之，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 集中治療室，<sup>2)</sup> 内科第1)：重症急性肺塞栓症に対する積極性カテーテル治療の効果．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 71) 大森裕也<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>，新田 隆<sup>1)</sup>，矢島俊巳<sup>1)</sup>，菅野茂人<sup>1)</sup>，檜山和弘<sup>1)</sup>，宮城泰雄<sup>1)</sup>，佐々木量矢<sup>1)</sup>，保坂純郎，隈崎達夫，田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 外科第2)：Color Duplex Scanによる不全交通枝術前マーキングの検討．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 72) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>2)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター，<sup>2)</sup> 病理学第2)：光感受性物質を用いた動脈硬化巣のスペクトル解析．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 73) 亀山孝二<sup>1)</sup>，町田 稔<sup>2)</sup>，王 若皎<sup>1)</sup>，町田 幹<sup>1)</sup>，恩田宗彦<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 病理第2，<sup>2)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：冠動脈硬化進展評価のための病巣偏光の散乱分光移相解析．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 74) 町田 幹<sup>1)</sup>，亀山孝二<sup>1)</sup>，町田 稔，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 病理第2)：microspectrometryと画像解析を用いた，人大動脈硬化性病変における，組織変化を伴うHDL会合や凝集の分布．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 75) 吉原尚志，高木 亮，松田 亮，町田 稔，横山宗伯<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 病理第2)：右殿部腫瘍として発見された胞巣状軟部肉腫の1例．第422回日本医学放射線学会関東地方会，2002．12．
- 76) 吉野公二<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>，汲田伸一郎，隈崎達夫<sup>(1)</sup> 付属病院皮膚科)：移動シンチカメラを用いたsentinel lymph node biopsyの試み．日皮会第778回東京地方会，2002．12．
- 77) 阿部 豊<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，中澤 賢<sup>1)</sup>，福永 毅<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，林 宏光<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：IVRが著効した脾動脈瘤破裂の1例．第12回東京血管外科画像診断治療研究会，2003．2．
- 78) 古川一博，田島廣之，村田 智，天野康雄，町田 稔，松田 亮，市川太郎<sup>1)</sup>，内山菜智子，中澤 賢，福永 毅，桑子智之，隈崎達夫，内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院放射線科，<sup>2)</sup> 病理学第2)：混合型肝癌の1例．第31回千駄木肝カンファレンス，2003．2．

#### (7) ランチョン・サテライトセミナー：

- 1) 林 宏光：マルチスライスCT：原理，基礎そして臨床応用．第27回日本超音波検査学会，2002．4．
- 2) 汲田伸一郎，趙 圭一，中條秀信，鳥羽正浩，福嶋善光，水村 直，櫻井 実，隈崎達夫，佐藤直樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，小嶋豊之<sup>2)</sup>，北川 亘<sup>3)</sup>，清水一雄<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1，<sup>2)</sup>脳神経外科，<sup>3)</sup>外科第2)：モバイル型半導体検出器ガンマカメラ Digirad 2020tc Imager の臨床応用例について．第42回 日本核医学会総会，2002．11．
- 3) 林 宏光：Multidetector-row CTによる血管疾患のCT Angiography．第21回日本画像医学会，2003．2．
- 4) 汲田伸一郎，田中啓治<sup>1)</sup>，趙 圭一，佐藤直樹<sup>1)</sup>，高木啓倫<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，鳥羽正浩，福嶋善光，高野照夫<sup>1)</sup>，隈崎達夫(<sup>1)</sup>内科第1)：急性心筋梗塞再灌流症例におけるNo reflow現象の画像化：心電図同期併用のTc-99m-MAA心筋シンチグラフィを用いた心筋微小循環，左室機能の同時評価．第67回日本循環器学会総会，2003．3．

## [ 第二病院放射線科 ]

### 研究概要

#### 放射線診断学：

- 1) 呼吸器疾患に対し，気管支鏡を用いたBAL，肺生検を施行し，画像診断の向上に力を注いでいる．肺切除病理標本とCT画像の比較検討から，詳細な画像所見の分析を試みている．
- 2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし，結核，癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている．肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している．
- 3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する．いわゆるFunctional Radiologyに目標をおき，また*H. Pylori*の胃の胃粘膜変化についても研究中である．
- 4) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である．
- 5) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用，乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる．また，高分解能MRIによる脾の微小病変の描出，2次脾管描出の研究，dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究中である．

#### Interventional Radiology：

- 1) 悪性胆道閉塞患者に対し，減黄およびQOL向上を目的とし，ステント挿入および放射線治療を施行している．さらにこの分野での研究に取り組んでいる．
- 2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる．

#### 放射線治療学：

- 1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる．

#### 核医学：

- 1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる．
- 2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Matsushima H<sup>1)</sup>，Takayanagi N<sup>1)</sup>，Satoh M，Kurashima K<sup>1)</sup>，Kanauchi T<sup>2)</sup>，Hoshi T<sup>2)</sup>，Kanazawa M<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>Dept. of Respiratory Medicine, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, <sup>2)</sup>Dept. of Radiology,

Saitama Cardiovascular and Respiratory Center): Congenital Bronchial Atresia: Radiologic Findings in Nine Patients. Journal of Computer Assisted Tomography 2002; 26(5): 860-864.

- 2) Jin E<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Pan X<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Arai S<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Kajiwara K, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Surgical Pathology Section, Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Surgical Pathology, Japan Red Cross Center Hospital): Protease-Activated Receptor (PAR)-1 and PAR-2 Participate in the Cell Growth of Alveolar Capillary Endothelium in Primary Lung Adenocarcinomas. Cancer 2003; 97(3): 703-713.
- 3) 林 敏彦, 鶴田晴子, 梶原景子, 菊池真理, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰, 佐藤雅史, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): シェーグレン症候群に合併した肝原発悪性リンパ腫の1例. 腹部画像診断アトラス 2002; 7: 84-85.

(2) 総説:

- 1) 梶原景子, 佐藤雅史, 田中 宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>御茶ノ水駿河台クリニック): 腹部異常ガス像(症状と症候からみた画像診断・腹部編9). 臨床画像 2002; 18(4): 441-452.
- 2) 林 敏彦, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 石原楷輔<sup>2)</sup>, 田中 宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>第二病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup>御茶ノ水駿河台クリニック): 不正性器出血(非悪性腫瘍性)(症状と症候からみた画像診断・腹部編10). 臨床画像 2002; 18(5): 571-580.
- 3) 佐藤雅史: この所見だけは見逃すな(胸部X線像の理解). メディチーナ 2002; 39(12): 1845-1847.
- 4) 梶原景子, 佐藤雅史: 空洞陰影の鑑別(胸部X線像の理解). メディチーナ 2002; 39(12): 1853-1856.
- 5) 佐藤雅史: 胸部単純X線撮影(特集: 検診診断のポイント). 臨床画像 2003; 19(3): 268-275.
- 6) 佐藤雅史: 画像パターンから見た肺癌の診断(画像診断ライブラリー). 日本醫事新報 2003; 4116: 69-72.
- 7) 林 敏彦, 小西英喜<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院産婦人科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 卵巣癌の staging(特集: 女性生殖器疾患の minimum essential). 画像診断 2003; 23(3): 265-270.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 佐藤雅史: 胸部画像診断: 人の過ちから学ぶ. 第14回岡山胸部画像カンファレンス, 2002. 9.
- 2) 佐藤雅史: 胸部画像診断: 他人の過ちから学ぶ. 第201回Open Film Conference, 2002. 9.

(2) 教育講演:

- 1) 佐藤雅史: pattern分類からみた胸部画像診断: 他人の過ちから学ぶ. 第61回日本医学放射線学会総会, 2002. 4.
- 2) 佐藤雅史: 2) 胸部単純写真(臨床像から考えるびまん性肺疾患). 放射線科専門医会2002年度ミッドサマーセミナー, 2002. 7.

(3) 一般講演:

- 1) 北村 伸<sup>1)</sup>, 山室 学<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 山本 彰, 佐藤雅史, 片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>内科第2): アルツハイマー型痴呆の重症度と脳血流低下域. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 2) 鯨沢理人<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 伊佐治剛<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 佐藤雅史(<sup>1)</sup>第二病院内科): 気管支・胸腔瘻を合併した難治性膿胸に気管支鏡下のペリプラスト注入が有効であった2症例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 3) 北村 伸<sup>1)</sup>, 山室 学<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 山本 彰, 佐藤雅史(<sup>1)</sup>第二病院内科): アルツハイマー型痴呆の重症度と3DSSPで解析した脳血流低下域についての検討. 第17回日本老年精神医学会, 2002. 6.
- 4) 高橋直人<sup>1)</sup>, 竹永清人<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 岩原信一郎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 山本 彰, 佐藤雅史(<sup>1)</sup>第二病院内科): 心電図同期心筋SPECTのポラーマップを利用した左室壁運動の評価: 2D-echoとp-FASTの比較検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

- 5) 枝川聖子<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>5)</sup>, 佐藤雅史, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 大原國俊<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門,<sup>2)</sup>付属病院病理部,<sup>3)</sup>第二病院病理部,<sup>4)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>5)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>6)</sup>内科学第4,<sup>7)</sup>眼科学): 気管支肺胞洗浄法(Bronchoalveolar Lavage: BAL): 本学における現状と疾患特異性について. 第70回日本医科大学医学学会総会, 2002. 9.
- 6) 菊池真理, 佐藤雅史, 阿部和也, 奥山孝男, 金城忠志, 梶原景子, 林 敏彦, 山本博人, 山本 彰: 画像上悪性リンパ腫と鑑別が困難であった巨大大腸癌の1例. 神奈川県放射線医学会第43回例会, 2002. 9.
- 7) 林 敏彦, 金城忠志, 阿部和也, 奥山孝男, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 大石妙枝<sup>2)</sup>, 石川亮宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科,<sup>2)</sup>島津メディカルシステムズ(株)技術推進部,<sup>3)</sup>(株)島津製作所医用機器事業部): FLASE(Fluid Attenuated Spin Echo)法の頭部領域における臨床応用. 第30回日本磁気共鳴医学大会, 2002. 9.
- 8) 高橋直人<sup>1)</sup>, 竹永清人<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 岩原信一郎<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 山本彰, 佐藤雅史(<sup>1)</sup>第二病院内科): 心電図同期心筋SPECTのpolar mapを利用した左室壁運動の評価: 2D-echoとp-FASTの比較検討. 第11回神奈川PET. SPECT研究会, 2002. 10.
- 9) 黒瀬厚成, 宮田周司, 高橋 徹, 鈴木 洵, 林 敏彦, 大石妙枝<sup>1)</sup>, 石川亮宏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>島津メディカルシステムズ東日本(株),<sup>2)</sup>(株)島津製作所・医用機器事業部): FLASE(Fluid Attenuated Spin Echo)法を使ったT2強調画像の検討. 日本放射線技術学会第30回秋季学術大会, 2002. 10.
- 10) 奥山孝男, 林 敏彦, 金城忠志, 阿部和也, 佐藤雅史, 松本光司<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部,<sup>2)</sup>付属病院放射線科): 30数年経過観察された血管外皮腫の1例. 第38回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2002. 10.
- 11) 阿部和也, 佐藤雅史, 金城忠志, 梶原景子, 山本博人, 山本 彰: 著名なリンパ節腫大とびまん性粒状影を呈した肺アミロイドーシスの1例. 第16回胸部放射線研究会, 2002. 10.
- 12) 金城忠志, 佐藤雅史, 阿部和也, 奥山孝男, 梶原景子, 林 敏彦, 山本博人, 山本 彰: 鼻根部腫瘍で発見されたnasal gliomaの1例. 第15回頭頸部放射線研究会, 2002. 10.
- 13) 二見長一郎, 林 敏彦, 山本博人, 山本 彰, 佐藤雅史, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 頭蓋骨に発生した傍骨性骨肉腫の1例. 第422回日本医学放射線学会関東地方会, 2002. 12.
- 14) 椎葉真人, 二見長一郎, 阿部和也, 奥山孝男, 金城忠志, 梶原景子, 菊池真理, 林 敏彦, 山本博人, 山本彰, 佐藤雅史: 肺葉切除が施行された非定型抗酸菌症の2例. 第28回胸部放射線研究会東京部会, 2002. 12.

## [ 多摩永山病院放射線科 ]

### 研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を継続している.
2. コンピュータを活用した医療画像処理の研究を続けている.
3. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている.
4. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断について研究, 検討が行われている.
5. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている.
6. CTにおける経静脈造影の至適タイミング, 方法について研究を行っている.
7. CTによる心疾患の診断について研究を行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 山本 鼎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松村研二<sup>2)</sup>, 菅谷 眞<sup>2)</sup>, 佐野元春<sup>2)</sup>, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本讓<sup>2)</sup>, 阿部敏尚<sup>2)</sup>, 衛藤公治<sup>2)</sup>, 高原満男<sup>2)</sup>, 野田正剛<sup>2)</sup>, 深沢伯英<sup>2)</sup>, 八島 顕<sup>2)</sup>, 武藤 敬<sup>2)</sup>, 塩原一英<sup>2)</sup>,

阿萬忠之<sup>2)</sup>, 山下 巖<sup>2)</sup>, 桜井雅樹<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>, 岩崎義信<sup>3)</sup>, 河野正実<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 豊島区医師会, <sup>3)</sup> 豊島健康審査センター): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌一次検診の経験(第2報). 腹部CT検診 2002; 9(2): 166-172.

(2) 綜説:

- 1) 市川太郎, 玉井 仁, 中原 圓, 小林由子, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 肝の Multidetector-row CT の実際. INNERVISION 2003; 18(2): 50-55.

著 書

- 1) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): [分担] Gated SPECTの定量解析・基礎編 第6章. EBMに基づいた誰でもわかる心臓核医学, 2002; pp56-69, メジカルセンス社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): I-123BMIPPの虚血性心疾患に対する臨床応用: 予後評価を中心に. 第9回静岡県循環器核医学研究会, 2002. 8.

(2) 一般講演:

- 1) 山本 鼎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 松村研二<sup>2)</sup>, 菅谷 眞<sup>2)</sup>, 大越 敦, 進士雄二<sup>2)</sup>, 中本 讓<sup>2)</sup>, 木田勝美<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 豊島区医師会, <sup>3)</sup> 豊島健康審査センター): 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌一次検診の経験(第3報). 2003. 2.
- 2) Toba M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Sano J<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> First Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Incremental Longitudinal Prognostic Value of Iodine-123 BMIPP Myocardial SPECT in Patients without Previous Myocardial Infarction-Comparison with Stress Perfusion imaging-. 第66回日本循環器学会学術集会, 2002. 4.
- 3) Toba M, Kumita S<sup>1)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>2)</sup>, Ibuki C<sup>2)</sup>, Ohtsuka T<sup>2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Suzuki T, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> First Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Does Post-stress Stunning Continue for 30 Minutes after Exercise? -Clinical value of Gated SPECT imaging immediately after exercise stress-. 第67回日本循環器学会学術集会, 2003. 3.
- 4) 玉井 仁, 市川太郎, 小林由子, 中原 圓, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 医療用三次元データ観察フリーウェアの作成: 第2法. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 5) 中原 圓, 高木 亮<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科): 脳梗塞における high b-value 拡散強調画像の有用性. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 6) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科): 安静時 I-123BMIPP 心筋 SPECT 予後評価における有用性: 運動負荷心筋血流 SPECT との比較. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 7) 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 水村 直<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科): 急性心筋梗塞における <sup>201</sup>Tl/<sup>123</sup>I-BMIPP dual 心筋 SPECT の有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 8) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 石原眞木子<sup>2)</sup>, 川俣博志<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科): 不安定狭心症における心筋 SPECT を用いた血流・脂肪酸代謝評価: 血清トロポニン T 活性との対比. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 9) 中條秀信<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 四方田勇<sup>2)</sup>, 井上

- 実<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科,<sup>2)</sup>第一RI): アドリアマイシン心不全ラットにおける Tc-99m-sestamibi の心筋保持能. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 10) 吉原尚志<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 運動負荷心筋 Gated SPECT を用いた左室機能解析: 安静時心ブールシンチグラフィとの対比検討. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 11) 石原眞木子<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 中條秀信<sup>2)</sup>, 鳥羽正浩, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科,<sup>2)</sup>付属病院放射線科): 脳数値ファントムを用いた脳血流 SPECT 局所集積比の検討; FBP と OSEM 再構成法の比較. 第61回日本医学放射線学会, 2002. 4.
- 12) 小林由子, 鳥羽正浩, 中原 圃, 玉井 仁, 市川太郎, 谷内良成<sup>1)</sup>, 山田浩子<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 村上隆介<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>同病理部,<sup>3)</sup>付属病院放射線科): 腹膜悪性中皮腫の1例. 第16回腹部放射線研究会, 2002. 5.
- 13) 玉井 仁, 市川太郎: 異なった呼吸時相の腹部三次元CT間のサブトラクション. 第21回日本医用画像工学会大会, 2002. 7.
- 14) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 運動負荷30分後に Post-stress Stunng は検出可能か?: Gated SPECT による心機能の経時的変化. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 15) 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 急性心筋梗塞における <sup>201</sup>Tl/<sup>123</sup>I-BMIPP dual 心筋 SPECT の有用性: 心筋逸脱酵素との比較検討. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 16) 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 3D-SSP を用いた無症候性脳梗塞における定性・定量的脳血流 SPECT の経時的観察. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 17) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 秋山一義<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 高感度コリメータを装着した半導体検出器搭載モバイル型ガンマカメラを用いた左室機能解析. 第41回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 18) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 櫻井 実<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科,<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科技師室): 心電図同期 SPECT による Regional Post-stress Stunning の検出: Subtraction Map による収縮率の経時的変化. 第41回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 19) 櫻井 実<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 斎藤晴美<sup>1)</sup>, 小菅 豊<sup>1)</sup>, 上森真理子<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科技師室,<sup>2)</sup>付属病院放射線科): 心電図同期 SPECT を用いた経時的局所収縮能変化の解析: Wall Thickening Subtraction Map の開発. 第41回日本核医学会総会, 2002. 11.

## [ 千葉北総病院放射線科 ]

### 研究概要

1) 脳血流に関する研究: 2002.4. 第61回日本医学放射線学会総会では, 脳血流 SPECT 像の再構成過程において, 脳の辺縁部と中心部の集積比がどの程度異なる統計的影響を受けるかについて, filtered back projection (FBP) 法と ordered subsets expectation maximization (OSEM) で比較検討した. 次いで, 2002年11月第42回日本核医学会総会では, この検討を, 脳血流低下のあるモデルに広げて検討した. 脳血流 SPECT 像では OSEM 構成法により血流低下域が過小評価される傾向にあることが示唆された. 一方, 2002.12. 脳核医学フォーラムでは, 様々な脳外科的治療支援を目的として, SPECT に代表される機能画像と MRI に代表される解剖学的画像との image fusion を, 安価なフリーソフトウェアの組み合わせで構築する新しいシステムを試作し, 臨床応用への可能性を示した.

2) 血管造影・IVRに関する研究：深部静脈血栓症の診断およびIVRが中心的なテーマとなっている。主に、腸骨静脈閉塞性病変に対するステント治療を積極的に行い、良好な治療成績を得ている。交通事故等における緊急IVRも多くの症例を経験しており、治療に貢献している。

3) CTを用いた研究：静脈血栓につき、MD-CTを用いた新しい方法を検討している。従来法の静脈造影と詳細な比較を行い、その有用性を検討している。MD-CTでは、その他に消化管、血管系などの検討を行っている。また、ヘリカルピッチなどの撮像条件に関する検討を行い、画質改善のための研究を行っている。

4) MRIを用いた研究：婦人科領域において、病理との詳細な比較検討を行っている。脳については、機能性MRI、tensor MRIなどの検討を行っている。

5) 造影剤の研究：前年度までに引き続いて、透析による造影剤除去につき基礎的および臨床的検討を行い、発表している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Okada S, Matsushita N<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>2)</sup>, Tsutomu A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>付属病院女性診療科・産科 ): Mitotic index and Ki-67 nuclear antigen labeling index as predictors of chemotherapy response in uterine cervical carcinoma . Gynecologic Oncology 2001 ; 83 ( 3 ): 555-559 .
- 2) Okada S, Inoue K, Kijima T, Katagiri K, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科 ): Effect of the surface potentials of the hemodialysis membrane and the electrical charge of the gadolinium contrast medium on dialyzability . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 12-15 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 石原真木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 中條秀信<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>2)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科 ): 脳数値ファントムを用いた脳血流SPECT局所集積比の検討：FBPとOSEM再構成法の比較．第61回日本医学放射線学会総会, 2002 . 4 .
- 2) 石原真木子, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 齋藤晴美, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科 ): 脳数値ファントムを用いた脳血流SPECT血流低下域の検討：FBPとOSEM再構成法による比較．第42回日本核医学会総会, 2002 . 11 .
- 3) 石原真木子：MRAとbrain SPECTとのimage fusion：eZISを用いて．脳核医学フォーラム, 2002 . 12 .



## 8. 皮膚科学講座

### [ 付属病院皮膚科 ]

#### 研究概要

- 1) 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム
  - ・CRHがおよぼす毛周期への影響
  - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用
- 2) 自己免疫性水疱症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析
- 3) 脂質抗原の認識機構の解析
- 4) センチネルリンパ節生検法の応用と開発
- 5) 薬疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
- 6) メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発
- 7) ウィルス性疣贅におけるテロメラーゼ活性の解析
- 8) 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
- 9) 美容皮膚科学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamic therapyの基礎的研究
- 10) レーザー光を応用した治療・診断の開発
  - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする
- 11) アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
- 12) 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法
- 13) 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Suzuki K, Aoki M, Kawana S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Miyazawa S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Electrone Microscopy Center, Kitazato University ): Metastatic Silicone Granuloma : Lupus Miliaris Disseminatus Faciei-like Facial Nodules and Sicca Complex in a Silicone Breast Implant Recipient . Arch Dermatol 2002 ; 138 ( 4 ): 537-538 .
- 2) Omi T, Kawana S, Asano G<sup>1)</sup>, Honda M<sup>2)</sup>, Thestrup-Pedersen K<sup>3)</sup>, Hankins RW<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Yokohama-shi, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Aarhus University, <sup>4)</sup> Third Diagnostic Division, Health Sciences Research Institute ): Culture of Skin Homing T Cells from Lesional Skin of Atopic Dermatitis Patients Using IL-2 and IL-4 . J Pediatric Dermatol 2002 ; 21 ( 1 ): 33-39 .
- 3) Yoshizawa Y, Nomaguchi H<sup>1)</sup>, Izaki S<sup>2)</sup>, Kitamura K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Saitama Medical Center, Saitama Medical School ):

Serum cytokine levels in atopic dermatitis . *Clin Exp Dermatol* 2002 ; 27 : 225-229 .

- 4) Fujimoto K<sup>1)</sup>, Yasuhara N<sup>1)</sup>, Kawarada H<sup>1)</sup>, Kosaka S, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital ): Burns caused by dilute hydrofluoric acid in the bleach . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 2 ): 180-184 .
- 5) Yoshizawa Y, Izaki S<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Saitama Medical Center, Saitama Medical School ): Systemic immunotherapy with topical dinitrochlorobenzene as additional treatment of alopecia areata . *Acta Derm Venereol* 2002 ; 82 ( 2 ): 136-138 .
- 6) Aramaki J, Kawana S, Effendy I<sup>1)</sup>, Happle R<sup>2)</sup>, Loeffler H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Municipal Hospital, Bielefeld, Germany , <sup>2)</sup> Department of Dermatology, University of Marburg, Germany ): Differences of skin irritation between Japanese and European women . *Br J Dermatol* 2002 ; 146 ( 6 ): 1052-1056 .
- 7) Aoki M, Kusunoki T<sup>1)</sup>, Tahara S<sup>2)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Kiyose-shi , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Angiolymphoid Hyperplasia with Eosinophilia Associated with Anomalous Dilatation of Occipital Artery : IL-5 and VEGF Expression of Lesional Mast Cells . *Arch Dermatol* 2002 ; 138 ( 7 ): 982-984 .
- 8) Loeffler H<sup>1)</sup>, Aramaki J, Happle R<sup>1)</sup>, Effendy I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, University of Marburg, Germany , <sup>2)</sup> Bielefeld, Germany ): Changes in skin physiology during bath PUVA therapy . *Br J Dermatol* 2002 ; 147 ( 7 ): 105-109 .
- 9) Hattori S, Aoki M, Kawana S : Immediate Hypersensitivity to Pine Nuts . *Environ Dermatol* 2002 ; 9 ( 3 ): 132-134 .
- 10) Aoki M, Kawana S : Bilateral Chalazia of the Lower Eyelids Associated with Pulmonary Tuberculosis . *Acta Derm Venereol* 2002 ; 82 ( 5 ): 386-387 .
- 11) Futagami A, Aoki M, Niimi Y, Kawana S, Watanabe S<sup>1)</sup>, Ohnishi T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Teikyo University School of Medicine ): Apocrine poroma with follicular differentiation : a case report and immunohistochemical study . *Br J Dermatol* 2002 ; 147 ( 4 ): 825-827 .
- 12) Omi T, Kawana S, Sato S<sup>1)</sup>, Honda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Yokohama-shi ): Acute changes elicited by a non-ablative wrinkle reduction laser : an ultrastructural study . *Progress in Biomedical Optics and Imaging* 2002 ; 3 ( 28 ): 184-188 .
- 13) Futagami A, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Kawana S, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Wound healing Involves Induction of Cyclooxygenase-2 Expression in Rat Skin . *Lab Invest* 2002 ; 82 ( 11 ): 1503-1513 .
- 14) Kimura Y, Pawankar R<sup>1)</sup>, Aoki M, Niimi Y, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Otolaryngology, Nippon Medical School ): Mast cells and T cells in Kimura's disease express increased levels of interleukin-4, interleukin-5 and RANTES . *Clin Exp Allergy* 2002 ; 32 ( 12 ): 1787-1793 .
- 15) Omi T, Kawana S, Sato S<sup>1)</sup>, Honda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic researches, Nippon Medical School, Japan , <sup>2)</sup> Yokohama-shi ): Ultrastructural Changes Elicited by a Non-Ablative Wrinkle Reduction Laser . *Lasers Surg Med* 2003 ; 32 ( 1 ): 46-49 .
- 16) Kaneko K<sup>1)</sup>, Kawana S, Arai K<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School ): Corticotropin-releasing factor receptor type 1 is involved in the stress-induced exacerbation of chronic contact dermatitis in rats . *Exp Dermatol* 2003 ; 12 ( 1 ): 47-52 .
- 17) Hattori S, Niimi Y, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Creeping eruption caused by a larva of the suborder Spirurina type X . *Eur J Dermatol* 2003 ; 13 ( 1 ): 87-89 .
- 18) Hattori S, Kawana S : Behcet's syndrome associated with acute myocardial infarction . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 ( 1 ): 49-52 .

- 19) Yoshizawa Y, Kitamura K<sup>1)</sup>, Kawana S, Maibach HI<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Dermatology, Saitama Medical Center, Saitama Medical School, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, School of Medicine, University of California, San Francisco ): Water, salts and skin barrier of normal skin. *Skin Res Technol* 2003; 9 (1): 31-33.
- 20) Aoki E, Aoki M, Kono M, Kawana S: Two Cases of Lymphomatoid Papulosis in Children. *Pediatr Dermatol* 2003; 20 (2): 146-149.
- 21) 菊地伊豆実, 高田香織, 川名誠司: ゾニサミドによる Stevens-Johnson 症候群. *皮膚病診療* 2002; 25 (2): 161-164.
- 22) 矢部朋子, 青木見佳子, 川名誠司: 爪に限局する扁平苔癬の3例. *皮膚臨床* 2002; 44 (3): 293-295.
- 23) 安原尚昭<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川原田晴通<sup>1)</sup>, 小坂祥子, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): フッ化水素含有しみ抜き剤による化学熱傷. *臨床* 2002; 56 (5): 13-16.
- 24) 吉野 恵, 鈴木かやの, 青木見佳子, 楠 俊雄, 川名誠司: 特異なリンパ節型を呈した原発性皮膚ノカルジア症の1例. *西日皮膚* 2002; 64 (2): 207-210.
- 25) 下田貴子, 義澤雄介, 清水 淳<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 術後脱毛症. *皮膚臨床* 2002; 44 (5): 589-591.
- 26) 弓削真由美, 青木見佳子, 川名誠司: 末梢血好酸球, IgE 高値を示した napkin psoriasis の1例. *臨床* 2002; 56 (6): 411-413.
- 27) 吉野 恵, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: 糖尿病患者に合併したガス壊疽の2例. *臨床* 2002; 56 (6): 417-420.
- 28) 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司: 腱鞘巨細胞腫の2例. *皮膚臨床* 2002; 44 (7): 721-723.
- 29) 矢部朋子, 新見やよい, 川名誠司: Bullous Lichen Planus の2例. *皮膚臨床* 2002; 44 (8): 879-882.
- 30) 小坂祥子<sup>1)</sup>, 川原田晴通<sup>1)</sup>, 安原尚昭<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>3)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同外科): 多発性筋炎に合併した男性乳癌の1例. *臨床* 2002; 56 (9): 765-768.
- 31) 中田朋子, 青木見佳子, 川名誠司: Glucose-6-phosphate dehydrogenase 欠損症に生じた皮膚潰瘍. *皮膚病診療* 2002; 24 (9): 979-982.
- 32) 小坂祥子, 新見やよい, 朝倉廣行<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>江戸川区): Follicular Mucinosis の1例. *皮膚臨床* 2002; 44 (9): 991-993.
- 33) 高田香織, 新見やよい, 楠 俊雄, 川名誠司: 炎症性線状疣状表皮母斑の1例. *臨床* 2002; 56 (11): 949-951.
- 34) 堺 則康, 新見やよい, 川名誠司: Eccrine Angiomatous Hamartoma の1例. *日小皮会誌* 2002; 21 (2): 151-154.
- 35) 尾見徳彌, 川名誠司, 小坂祥子, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): Clear Light™ を用いた光線療法による新しいざ瘡治療. *日小皮会誌* 2002; 21 (2): 155-158.
- 36) 尾見徳彌, 小坂祥子, 川名誠司, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学中央電顕微鏡子研究施設, <sup>2)</sup>横浜市): Clear Light™ (Lumenis, Israel) によるざ瘡治療の臨床効果と細菌学的変動. *日本美容皮膚科学会雑誌* 2002; 12 (3): 77-82.
- 37) 尾見徳彌, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): リフトアップサポートを目的としたサプリメント「レヴィフェイス」の効果. *日本美容皮膚科学会雑誌* 2002; 12 (3): 83-88.
- 38) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: Marginal zone B cell lymphoma: 皮膚原発の marginal zone B cell lymphoma の2例. *Skin cancer* 2002; 17 (3): 288-292.
- 39) 加藤篤衛, 尾見徳彌<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>横浜市, <sup>2)</sup>付属病院病理学第二): レーザー脱毛の機種, 出力の違いにおける組織学的変化の検討. *J Nippon Med Sch* 2002; 69 (6): 564-570.
- 40) 秋田政彦, 五十嵐司, 川名誠司: 脊麻後紅斑. *皮膚病診療* 2003; 25 (1): 21-24.
- 41) 落合廣武<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): ムコソルバンによる多形紅斑型薬疹の1例. *皮膚病診療* 2003; 25 (2): 157-160.

- 42) 山西貴仁, 五十嵐司, 川名誠司: drug combinationによる固定薬疹. 皮膚病診療 2003; 25(2): 205-207.
- 43) 久保田智樹, 五十嵐司, 川名誠司: ハンセン病(多菌性 BL type)の1例. 臨皮 2003; 57(2): 131-134.
- 44) 加藤陽子, 東 直行, 川名誠司: 2001年1月から6月までに経験した成人麻疹20例の検討. 西日皮膚 2003; 65(1): 54-57.
- 45) 久保田智樹, 竹崎伸一郎, 山本泰一<sup>1)</sup>, 岩崎 隆<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>川崎市): 右上腹部に生じた乳房外パジェット病の1例. 皮膚臨床 2003; 45(3): 249-252.

(2) 綜説:

- 1) 尾見徳彌: プライマリケアのための皮膚疾患の診かた: 第8回ウイルス感染症 風疹, 麻疹, 水痘の鑑別など. 治療(J Therap) 2002; 84(3): 10-11.
- 2) 東 直行, 川名誠司, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Dermatology, Marselisborg Hospital University of Aarhus Denmark): アトピー性皮膚炎の病態におけるInterleukin-18の関与: 単球由来IL-18について. 日小皮会誌 2002; 21(1): 41-47.
- 3) 尾見徳彌, 川名誠司, 本田光芳<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市, <sup>2)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設): レーザーによる皮膚の再構築: laser resurfacingとnon-abrative wrinkle removal. 日本美容皮膚科学会雑誌 2002; 12: 36-42.
- 4) 尾見徳彌, 川名誠司, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>横浜市): Dye Laser (N-Lite<sup>®</sup>)によるCollagen Replenishment. 皮膚臨床 2002; 44(11): 1185-1189.
- 5) 尾見徳彌, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>Aarhus大学皮膚科): 母親の年齢から. 日小皮会誌 2002; 21(2): 90-93.
- 6) 三石 剛, 北原東一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千代田区): 陰部外下疳. Visual Dermatology 2002; 1(9): 952-953.
- 7) 三石 剛, 北原東一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千代田区): 梅毒性ばら疹. Visual Dermatology 2002; 1(9): 956-957.
- 8) 尾見徳彌: サプリメントと美容皮膚科. 日本美容皮膚科学会雑誌 2002; 12(3): 65-69.
- 9) 東 直行, 川名誠司: 臨床検査 Yearbook 2003, 免疫血清検査の最新情報と, 輸血過誤防止および輸血の最新情報, 第4章 自己免疫疾患検査の最新情報, 6. 皮膚科疾患に必要な免疫血清検査. 臨床病理レビュー 2003; 124: 86-92.
- 10) 尾見徳彌, 奥山ます美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>横浜市): レーザー治療の現状. 皮膚と美容 2003; 35: 16-20.

(3) 研究報告書:

- 1) 山岡淳一: 一酸化窒素(NO)が表皮角化細胞の細胞障害・細胞増殖・分化に及ぼす影響について. 日本リディアオリリー協会 14年度年報 2003; pp37-41.

著 書

- 1) 青木見佳子, 川名誠司: [分担]毛細血管拡張をみたら. 皮膚科診療プラクティス 13 発疹から病気がみえる(宮地良樹, 瀧川雅浩), 2002; pp22-26, 文光堂.
- 2) 川名誠司: [分担]生体の表在組織を診る: 共焦点レーザー走査顕微鏡. 皮膚科診療プラクティス 14 機器を用いたスキングリニック(田上八郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩), 2002; pp122-126, 文光堂.
- 3) 川名誠司: [分担]紫斑: 内科疾患に伴う紫斑. 今日の皮膚疾患治療指針 第3版(斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一), 2002; pp277-278, 医学書院.
- 4) 川名誠司: [分担]紫斑: その他の紫斑. 今日の皮膚疾患治療指針 第3版(斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一), 2002; pp278-279, 医学書院.
- 5) 川名誠司: [分担]プライマリケアのための鑑別診断のポイント: 高齢者に多い皮膚疾患. 今日の皮膚疾患治療指針 第3版(斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一), 2002; pp12-12, 医学書院.
- 6) 川名誠司: [分担]プライマリケアのための鑑別診断のポイント: 外陰部に多い疾患. 今日の皮膚疾患治療指針

- 第3版(斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一), 2002; pp40-41, 医学書院.
- 7) 川名誠司: [分担] 血管傷害の免疫機構. やさしい皮膚免疫学: 免疫からみた皮膚疾患(西岡 清), 2002; pp132-142, 医薬ジャーナル社.
  - 8) 川名誠司: [分担] 全身性血管炎: 側頭動脈炎 結節性多発動脈炎(古典的) 顕微鏡的多発血管炎 Wegener肉芽腫症 アレルギー性肉芽腫性血管炎. 最新皮膚科学大系 第9巻膠原病非感染性肉芽腫(玉置邦彦), 2002; pp160-170, 中山書店.
  - 9) 青木見佳子: [分担] 神経堤起源細胞系母斑: 分離母斑/部分脂肪腫性母斑/点状集簇性母斑/気球細胞母斑/Sutton母斑/先天性巨大色素性母斑. 最新皮膚科学大系 第11巻母斑・母斑症悪性黒色腫(玉置邦彦), 2002; pp48-55, 中山書店.
  - 10) 川名誠司: [分担] アナフィラクトイド紫斑. 今日の診断指針(亀山正邦, 高久史磨), 2002; pp1419-1420, 医学書院.
  - 11) 落合廣武: [分担] 免疫系疾患: アトピー性皮膚炎. 薬物治療学(高橋隆一), 2002; pp732-744, エルゼビア・サイエンス.
  - 12) 川名誠司: [分担] アナフィラクトイド紫斑. 皮膚疾患最新の治療2003-2004(新村真人, 瀧川雅浩), 2003; pp38-39, 南江堂.
  - 13) 新見やよい, 川名誠司: [分担] その他の血管炎: 急性痘瘡状苔癬状秕糖疹, 慢性苔癬状秕糖疹・白色萎縮症・遊走性血栓性静脈炎・川崎病・Mondor病. 最新皮膚科学大系 第4巻紅斑・滲出性紅斑紫斑脈管系の疾患(玉置邦彦), 2003; pp175-187, 中山書店.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 尾見徳彌, 本田光芳<sup>1)</sup>, 川名誠司( <sup>1)</sup>横浜市): サプリメントに関する検討. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 鈴木かやの: 皮膚科外来におけるケミカルピーリング. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.
- 2) 尾見徳彌, 川名誠司: 420nm Intense Continuous Light (Clear Light<sup>®</sup>, Lumenis) 照射による尋常性ざ瘡の治療の検討. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.
- 3) 尾見徳彌: レーザー脱毛の概説. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.

##### (3) セミナー:

- 1) 川名誠司: にきびの最新治療. 第26回小児皮膚科学セミナー,
- 2) 川名誠司: Non-Ablative Wrinkle Reduction Laser (N-Lite UK) 照射による超微形態学的変化. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 3) 尾見徳彌: 420nm Intense Continuous Light (Clear Light<sup>®</sup>, Lumenis) 照射による超微形態学的変化と細菌検査の相関. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 4) 川名誠司: P. acnesと皮膚. 第320会日皮会山形地方会, 2002. 12.

##### (4) ワークショップ:

- 1) 尾見徳彌: 母と子の皮膚科学: アトピー性皮膚炎は防げる? 第26回日本小児皮膚科学会学術大会, 2002. 5.

##### (5) 一般講演:

- 1) Higashi N, Gesser B<sup>1)</sup>, Kawana S, Thestrup-Pedersen K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>Marseliborg Hospital University of Aarhus): mRNA expression and secretion of IL-18 are reduced in monocytes from patients with atopic dermatitis. International Symposium on Atopic Dermatitis (Portland, USA), 2001. 9.
- 2) Omi T, Kawana S, Sato S<sup>1)</sup>, Honda M ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon

- Medical School): Ultrastructural Changes Elicited by a Non-Ablative Wrinkle Reduction Laser (N-Lite). American Society for Laser Medicine and Surgery Twenty-Second Annual Meeting (Atlanta, USA), 2002. 4.
- 3) Loffler H<sup>1)</sup>, Aramaki J, Loffler C<sup>1)</sup>, Kawana S, Happle R<sup>1)</sup>, Effendy I<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Dermatology, Philipp-University of Marburg, Germany, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Municipal Hospital, Bielefeld, Germany): Which Bioengineering Method is Appropriate for Irritant Patch Testing with Sodium Lauryl Sulfate? 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 4) Yoshizawa Y, Futagami A, Kawana S: A case of recurrent neutrophilic dermatosis of the face. The 6th meeting of German-Japanese society of dermatology (Nara), 2002. 11.
- 5) Aramaki J, Loeffler H<sup>1)</sup>, Happle R<sup>1)</sup>, Effendy I<sup>2)</sup>, Sakamaki T<sup>3)</sup>, Kawana S (<sup>1)</sup> Department of Dermatology University of Marburg, Germany, <sup>2)</sup> Bielefeld, Germany, <sup>3)</sup> Kanebo, LTD., Cosmetics Laboratory): The racial differences in the skin irritation between Japanese and German women: Less ceramide in the sebum may contribute to the sensitive skin of Japanese women. 6th Meeting of the German Japanese Society of Dermatology (Nara, Japan), 2002. 11.
- 6) 濱崎せり<sup>1)</sup>, 佐々木りかこ<sup>1)</sup>, 川名誠司, 山本一哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 国立小児病院皮膚科, <sup>2)</sup> 愛育病院皮膚科): 国立小児病院皮膚科における脱毛症の統計と予後. 第65回日皮会東京支部学術大会, 2002. 2.
- 7) 片山美玲, 東 直行, 青木見佳子, 川名誠司: サイトメガ ウィルス感染症の1例. 日皮会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 8) 加藤篤衛, 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科): リン酸コデインによる薬疹の1例. 日皮会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 9) 菊地伊豆美, 藤本和久<sup>1)</sup>, 楠 俊雄, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科): 頭部白癬を疑われた痲皮型疥癬の1例. 日皮会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 10) 安原尚昭<sup>1)</sup>, 安本美奈子<sup>1)</sup>, 秋田政彦<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科): Verruciform xanthomaの1例. 日皮会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 11) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司, 岩切 致<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科): 右大腿部に生じた血管系腫瘍の1例. 第26回日本小児皮膚科学会学術大会, 2002. 5.
- 12) 堺 則康, 新見やよい, 川名誠司: Eccrine Angiomatous Hamartomaの1例. 第26回日本小児皮膚科学会学術大会, 2002. 5.
- 13) 尾見徳彌: ラピレマイルドクリアソープ®, ラピレマイルドトリートメントオイル®のアトピー性皮膚炎患者と正常人における効果の検討. 第26回日本小児皮膚科学会学術大会, 2002. 5.
- 14) 中田朋子, 荒牧 純, 加藤陽子, 東 直行, 川名誠司: シクロスポリンが有効であった結節性痒疹の3例. 日皮会第773回東京地方会, 2002. 5.
- 15) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司: 皮膚原発のmarginal zone B cell lymphomaの2例. 第18回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2002. 6.
- 16) 青木見佳子, Pawankar R<sup>1)</sup>, 新見やよい, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): 基底細胞癌におけるマスト細胞の動態. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 17) 矢部朋子, 新見やよい, 川名誠司: 整形外科手術後に生じたいわゆる脊麻後紅斑の2例. 日皮会第773回東京地方会, 2002. 6.
- 18) 堺 則康, 義澤雄介, 天野彰人, 東 直行, 川名誠司, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院第3内科, <sup>2)</sup> 同高度救命救急センター): 小腸に多発性潰瘍を伴った中毒性表皮壊死症 (TEN) の1例. 日皮会第774回東京地方会 (合同臨床地方会), 2002. 7.
- 19) 安本美奈子, 三石 剛, 川名誠司: Acquired reactive perforating collagenosisの2例. 日皮会第773回東京地方会, 2002. 7.

- 20) 青木恵理, 川名誠司, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第2): 間歇的フットショックストレスはマウス毛周期に影響を与える。日本研究皮膚科学会第27回年次学術大会総会, 2002. 8.
- 21) 尾見徳彌, 川名誠司, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 本田光芳, Hankins RW<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>保健科学研究所): Dye laser (N-Lite) 照射による皮膚の免疫学的な活性化。第3回光老化研究会, 2002. 8.
- 22) 岩切加奈<sup>1)</sup>, 金 恩京<sup>1)</sup>, 藤原正和<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎, 川名誠司(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門): 尋常性乾癬におけるヒト気道トリプシン様プロテアーゼとプロテアーゼ活性化受容体の発現。日本研究皮膚科学会第27回年次学術大会総会, 2002. 8.
- 23) 赤石諭史, 東 直行, 矢部朋子, 荒牧 純, 川名誠司: 好酸球性膿瘍性毛包炎の1例。日皮会第775回東京地方会, 2002. 9.
- 24) 鈴木かやの, 小坂祥子, 矢部朋子, 川名誠司: 5%Hydroquinone軟膏によるadverse reactionの検討。第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.
- 25) 天野彰人, 堺 則康, 義澤雄介, 川名誠司: 中枢神経ループスの1例。日皮会第775回東京地方会, 2002. 9.
- 26) 狩野律子, 小坂祥子, 新見やよい, 川名誠司: 単発性被角血管腫の1例。日皮会第775回東京地方会, 2002. 9.
- 27) 矢部朋子, 三石 剛, 川名誠司: 日本医科大学付属4病院におけるヒトパルボウイルスB19感染症患者の検討。第66回日皮会東京支部学術大会, 2002. 10.
- 28) 下田貴子, 義澤雄介, 川名誠司, 田中紀子<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科): Fabry病兄弟例。第66回日皮会東部支部学術大会, 2002. 10.
- 29) 小宮暢子, 下田貴子, 山形健治, 青木見佳子, 川名誠司, 管 隼人<sup>1)</sup>, 岸雄一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第1外科, <sup>2)</sup>同第2内科): 虫垂切除術を施行されたanaphylactoid purpuraの1例。日皮会第776回東京地方会, 2002. 10.
- 30) 又吉武光, 堺 則康, 天野彰人, 木村陽一, 菊地伊豆実, 矢部朋子, 義澤雄介, 川名誠司: 高齢発症SLEの1例。日皮会第776回東京地方会, 2002. 10.
- 31) 東 直行, 下田貴子, 堺 則康, 荒牧 純, 青木見佳子, 川名誠司, 斉藤京子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科): 経過中に全身性エリテマトーデスを発症したアトピー性皮膚炎の2例。第54回日皮会西部支部学術大会, 2002. 11.
- 32) 中田朋子, 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): ザジデン<sup>®</sup>による多形滲出性紅斑型薬疹の1例。日皮会第777回東京地方会, 2002. 11.
- 33) 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): コチニール色素による即時型アレルギーの2例。第27回日本接触皮膚炎学会学術大会, 2002. 11.
- 34) 吉野公二, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 小宮暢子, 小坂祥子, 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): 即日広範囲デブリードマンを施行し救命し得た壊死性筋膜炎の1例。日皮会第777回東京地方会, 2002. 11.
- 35) 川久保恵<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): G-CSF投与中に生じたNeutrophilic dermatosisの1例。日皮会第777回東京地方会, 2002. 11.
- 36) 高田香織, 金森幸男, 鈴木かやの, 安本美奈子, 川名誠司, 飯田和美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ワクチン療法研究施設): hapter特異的リンパ球によるサイトカイン産生の検討。第52回日本アレルギー学会総会, 2002. 11.
- 37) 蜂須賀淳子, 荒牧 純, 川名誠司, 坂本篤裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 硬膜外ブロックが奏効した肢端紅痛症の1例。日皮会第777回東京地方会, 2002. 11.
- 38) 竹山玲子, 竹腰 進<sup>1)</sup>, 永田英孝<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>東海大学医学部総合診療学系病理診断学部門): 正常ヒト皮膚3次元モデルにおける超微細形態学的検討。日本顕微鏡学会ニューマイクロスコープ分科会, 2002. 12.
- 39) 山岡淳一, 川名誠司: 炎症性サイトカインによる血管内皮細胞障害機序の解析: 一酸化窒素の介在について。日皮会第778回東京地方会, 2002. 12.
- 40) 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司, 波田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 移動式シンチカメラを用いたsentinel lymph node biopsyの試み。日皮会第779回東京地方会, 2003. 1.

- 41) 山形健治, 青木見佳子, 下田貴子, 小宮暢子, 小坂祥子, 吉野公二, 川名誠司, 北川泰之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院整形外科): 原発巣切除12年後に皮下転移を認めた悪性異色腫の1例. 日皮会第779回東京地方会, 2003. 1.
- 42) 小坂祥子, 木村陽一, 吉野公二, 青木見佳子, 川名誠司: 抗リン脂質抗体症候群に伴う深部静脈血栓症を合併したSLEの1例. 第26回皮膚脈管膠原病研究会, 2003. 1.
- 43) 狩野律子, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>2)</sup>, 川名誠司, 北原東一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>3)</sup>千代田区): クラビット®によるアナフィラキシーの1例. 日皮会第779回東京地方会, 2003. 1.
- 44) 義澤雄介, 川名誠司, 北村啓次郎<sup>1)</sup>, MaibachHI<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学総合医療センター皮膚科, <sup>2)</sup>Department of Dermatology, School of Medicine, University of California, San Francisco): 海水療法の科学的検証II: 臨床応用への可能性. 第66回日皮会東京支部学術大会, 2003. 2.
- 45) 新見やよい, 吉野公二, 木村陽一, 川名誠司, 二見良平<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第一外科): 血清p53抗体が陽性で, 胃癌が発見された水泡性類天疱瘡. 第66回日皮会東京支部学術大会, 2003. 2.
- 46) 安本美奈子<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司, 大野則彦<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同外科): B-cell lymphomaに合併した皮膚筋炎の1例. 第66回日皮会東京支部学術大会, 2003. 2.
- 47) 森本健介, 三石 剛, 川名誠司: リウマトイド好中球性皮膚炎の1例. 第66回日皮会東京支部学術大会, 2003. 2.
- 48) 山岡淳一: 紫外線と活性酸素研究: 最近のレビュー. 太陽紫外線防御研究委員会第13回シンポジウム, 2003. 3.

(6) 展示:

- 1) Miura Y, EishiY<sup>1)</sup>, SoejimaN<sup>1)</sup>, Kosaka S, Kawana S (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental University): Quantitative analysis of Propionibacterium acnes and Staphylococcus epidermidis in patients with and without acne vulgaris by Real-Time quantitative PCR. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 2) Aramaki J, Loeffler H<sup>1)</sup>, Sakamaki T<sup>2)</sup>, Effendy I<sup>3)</sup>, Happle R<sup>1)</sup>, Kawana S (<sup>1)</sup>Department of Dermatology University of Marburg, Germany, <sup>2)</sup>Kanebo, LTD, Cosmetics Laboratory, <sup>3)</sup>Bielefeld, Germany): Differences of skin irritation between Japanese and German women. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 3) Kosaka S, Kusakawa I<sup>1)</sup>, Eishi N<sup>2)</sup>, Kawana S (<sup>1)</sup>Department of Pediatrics, St. Luke's International Hospital, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental University): Propionibacterium acnes does not increase in skin with acne neonatorum. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 4) Kawana S, Arai K<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physiology, Nippon Medical School): Corticotropin-Releasing Factor Receptor Type1 is Involved in the Stress-Induced Exacerbation of Chronic Contact Dermatitis. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 5) Omi T, Kawana S, Honda M<sup>1)</sup>, Yamamoto K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Yokohama-shi, <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Aiiiku Hospital): Clinical Efficacy of the Anti-Cellulite Product "Cellasene" on Skin Microcirculation and Cellulite. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 6) Yoshizawa Y, Nomaguchi H<sup>1)</sup>, Izaki S<sup>2)</sup>, Kitamura K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases, <sup>2)</sup>Department of Dermatology, Satama Medical Center, Saitama Medical School): Serum cytokine levels in atopic dermatitis. 20th World Congress of Dermatology (Paris, France), 2002. 7.
- 7) Mitsuishi T, Kawana S, Iida K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>The Reserch Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Disease): Cimetidine treatment of viral warts enhances IL-2 and IFN-r expression in lesional skin. 20th International papillomavirus conference (Paris, France), 2002. 10.
- 8) Takeyama R, Takekoshi S<sup>1)</sup>, Nagata H<sup>1)</sup>, Osamura Y<sup>1)</sup>, Kawana S (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Ultrastructural study of the reconstituted human skin model. The 6th Histochemistry and Cytochemistry Congress (第6回日米合同組織細胞学会)(Seattle, USA), 2002. 7.



- 9) 三石 剛, 川名誠司, 川島 眞<sup>1)</sup>, 江川清文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医科大学皮膚科,<sup>2)</sup>熊本大学皮膚科): 特異な細胞質内封入体を有するウィルス性疣贅. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 10) 新見やよい, Pawankar R<sup>1)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科): 水疱性類天疱瘡病変皮膚における MMP-2, MMP-9, MMP-13の発現の検討. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 11) 小坂祥子, 草川 功<sup>1)</sup>, 江石義信<sup>2)</sup>, 川名誠司(<sup>1)</sup>聖路加国際病院小児科,<sup>2)</sup>東京医科歯科大学病理): 新生児皮膚皮膚における Propionibacterium acnes と Staphylococcus epidermidis の定量的検討: 新生児ざ瘡との関連を含め. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 12) 三浦祐理子, 小坂祥子, 川名誠司, 副島なをみ<sup>1)</sup>, 江石義信<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京医科歯科大学病理): Real-Time quantitative PCR (Taq man) を用いた皮膚常在菌の新しい定量法. 第101回日皮会総会, 2002. 6.
- 13) 三石 剛, 下田貴子, 川名誠司, 栗山雄司<sup>1)</sup>, 三井幸雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本天然物研究所): ビタミンK配合クリームによるくまの治療. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.
- 14) 東 直行, 下田貴子, 堺 則康, 荒牧 純, 青木見佳子, 川名誠司, 斉藤京子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2内科): 経過中に全身性エリテマトーデスを発症したアトピー性皮膚炎の2例. 第54回日皮会西部支部学術大会, 2002. 11.

## [ 第二病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 皮膚腫瘍の臨床診断, 病理組織的検索, 電顕, 酵素抗体法, 形成外科的治療.
2. ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断. HIV感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索. T. Pallidum の cross reactivity の検討.
3. GUP の PCR を用いた早期診断.
4. 接触皮膚炎. 薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする.
5. アトピー性皮膚炎の憎悪因子としてのブドウ球菌や M. Furfur の果たす役割を特に成人型について検討する.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 竹崎伸一郎: 皮膚銀沈着症(銀皮症): 銀粒子の電顕による観察. 第18回医学・生物学電子顕微鏡技術学会総会, 2002. 4.
- 2) 川久保恵, 竹崎伸一郎, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学): G-CSF 投与中に生じた Neutrophilic dermatosis の1例. 日本皮膚科学会第777回東京地方会, 2002. 11.

## [ 多摩永山病院皮膚科 ]

### 研究概要

1. 薬疹, 接触性皮膚炎: パッチテスト, プリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の検索, アレルギーカードの発行.
2. 動物性皮膚疾患: 疥癬, Creeping disease などに対する新しい内服治療の研究.
3. 接触性皮膚炎の感作能: 全身感作が成立した後の皮膚炎の成立を阻止する条件の解明.
4. グリコール酸, ビタミンCローションを用いたケミカルピーリング, イオントフォレーシスによる美容の研究.
5. 抗アレルギー薬, 精神安定剤, ステロイド内服, DPCP を用いた免疫療法などによる難治性円形脱毛症の治療. DPCP を用いたアトピー性皮膚炎に対する免疫療法の研究.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Fujimoto K, Yasuhara N, Kawarada H, Kosaka S<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School): Burns caused by dilute hypofluoric acid in the bleach. J Nippon Med Sch 2002; 69(2): 180-184.
- 2) 安原尚昭, 藤本和久, 川原田晴通, 小坂祥子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): フッ化水素含有しみ抜き剤による科学熱傷. 臨皮 2002; 56(5): 13-16.
- 3) 國重隆生<sup>1)</sup>, 谷内良成<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 安本美奈子, 藤本和久(<sup>1)</sup>多摩永山病院女性診療科・産科): 中毒性表皮壊死症(TEN)型薬疹を伴った帝王切開後MRSA感染症の1例. 日産婦東京会誌 2002; 51(2): 215-218.
- 4) 小坂祥子, 川原田晴通, 安原尚昭, 藤本和久, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>付属病院皮膚科): 多発性筋炎に合併した男性乳癌の1例. 臨皮 2002; 56(9): 765-768.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): リン酸コデインによる薬疹の1例. 日本皮膚科学会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 2) 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 藤本和久, 楠 俊雄<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>: 頭部白癬を疑われた痂皮型疥癬の1例. 日本皮膚科学会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 3) 安原尚昭, 安本美奈子, 秋田政彦, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): Verrucium Xanthomaの1例. 日本皮膚科学会第772回東京地方会, 2002. 4.
- 4) 中田朋子<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): ザジテンによる多型滲出性紅斑型薬疹の1例. 日本皮膚科学会第777回東京地方会, 2002. 11.
- 5) 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): コチニール色素による即時型アレルギーの2例. 第27回日本接触皮膚炎学会, 2002. 11.
- 6) 狩野律子<sup>1)</sup>, 山西貴仁<sup>1)</sup>, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>千代田区): クラビットによるアナフィラキシーの1例. 日本皮膚科学会第779回東京地方会, 2003. 1.
- 7) 安本美奈子, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科, <sup>3)</sup>同外科): B-cell lymphomaに合併した皮膚筋炎の1例. 第66回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2003. 2.

## [ 千葉北総病院皮膚科 ]

### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: パッチテスト, ブリックテスト, チャレンジテストなどによる原因物質の確認と交差感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断と病理学的研究: とくに電顕, 酵素抗体法を用いた研究
- 3) 円形脱毛症における免疫療法の研究
- 4) 難治性潰瘍, 褥創: 新しい素材, 薬剤を用いた保存的治療や外科的治療の研究

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hattori S, Aoki M<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Immediate hypersensitivity to pine nuts . Environmental Dermatology 2002 ; 9 ( 3 ): 132-134 .
- 2) Hattori S, Niimi Y<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Creeping eruption caused by a larva of the suborder Spirurina type X . Eur J Dermatol 2003 ; 13 : 87-89 .
- 3) Hattori S, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School ): Behcet's syndrome associated with acute myocardial infarction . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 49-52 .
- 4) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院皮膚科 ): リン酸コデインによる即時アレルギー型薬疹 . 日本皮膚アレルギー学会雑誌 2002 ; 10 ( 4 ): 139-142 .
- 5) 落合廣武<sup>1)</sup>, 服部怜美, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): ムコソルバンによる多形紅斑型薬疹 . 皮膚病診療 2003 ; 25 ( 2 ): 157-160 .
- 6) 山西貴仁, 五十嵐司, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科 ): drug combination による固定薬疹 . 皮膚病診療 2003 ; 25 ( 2 ): 205-207 .

### 著書

- 1) 服部怜美：〔分担〕痒疹．皮膚疾患最新の治療（新村真人，滝川雅浩），2003；pp21-222，南光堂．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 加藤篤衛<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院皮膚科 ): リン酸コデインによる薬疹の1例 . 日本皮膚科学会第772回東京地方会, 2002 . 4 .
- 2) 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科 ): 皮膚科における薬疹症例のパッチテストについて . 日本医科大学医学会第107回例会, 2002 . 5 .
- 3) 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科 ): コチニール色素による即時型アレルギーの2例 . 第27回日本接触皮膚炎学会総会・学術大会, 2002 . 11 .
- 4) 中田朋子, 山西貴仁, 藤本和久<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科 ): ザジテンによる多形浸出性紅斑型薬疹の1例 . 日本皮膚科学会第777回東京地方会, 2002 . 11 .
- 5) 狩野律子<sup>1)</sup>, 山西貴仁, 藤本和久<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院皮膚科 ): クラビットRによるアナフィラキシーの1例 . 日本皮膚科学会第779回東京地方会, 2003 . 1 .

## 9. 外科学第一講座

### [ 付属病院第 1外科 ]

#### 研究概要

教室では、消化器外科，一般外科，乳腺外科，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている．

1. 急性腹症の病態の解析，イレウスの新しい診断と治療の開発など，临床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている．
  2. 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に現在，積極的に臨床応用を図っている．
  3. 腹腔鏡下手術は，その適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎，早期胃癌，早期大腸癌，癒着性イレウス，門脈圧亢進症さらに肝切除，脾摘術にも応用され，良好な成績を得ている．患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている．
  4. 進行食道癌，胃癌，大腸癌および肝胆膵癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，また個別化治療により，患者の延命とQOLの向上を図っている．
  5. 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績をあげている．
  6. 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌，早期大腸癌に対するEMR，また総胆管結石，膵石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる．
  7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係の臨床的および基礎的な研究が進められている．
  8. 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している．
  9. 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的およびIVRを応用した臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって成績の向上が得られつつある．
  10. 生体部分肝移植は小児と成人に行っているが，成人レシピエントにおける過小グラフト対策として基礎的研究を行っている．また，大血管合併切除後の腹膜による再建法は基礎的研究の臨床応用を始めている．
  11. 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている．
- 現在，教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマ毎に若手医局員が配属され，日夜，熱心に研究が行われており，下記のごとく内外の学会誌，専門誌に発表された．

#### 研究業績

##### 論文

[ 2001 年度追加分 ]

綜説：

- 1) 吉田 寛，田尻 孝：PSE（門脈圧亢進症，食道胃静脈瘤に対する各種治療法のコツとピットフォール）．日門亢会誌 2001；7：251-253．

症例報告：

- 1) 清水哲也，恩田昌彦，古川清憲，吉村和泰，源河敦史，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 大量下血にて発症し緊急手術を施行した小腸gastrointestinal stromal tumor (GIST) の1例．日臨外会誌 2001；62(4): 962-966．

(1) 原著 :

- 1) Egami S, Sugawara Y<sup>1)</sup>, Mizuta K<sup>1)</sup>, Kaneko J<sup>1)</sup>, Kawarasaki H<sup>1)</sup>, Makuuchi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学医学部移植外科 ): Effect of pediatric living-donor liver transplantation on splenomegaly . *Transplantation* 2002 ; : 1639-1642 .
- 2) Hiroi M, Onda M, Uchida E, Aimoto T : Anti-tumor effect of N- [ 3, 4-dimethoxycinnamoyl ] anthranilic acid ( tranilast ) on experimental pancreatic cancer . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 3 ): 224 -234 .
- 3) Hirose Y, Naito Z, Kato S, Onda M, Sugisaki Y : Immunohistochemical Study of CYP2E1 in Hepatocellular Carcinoma Carcinogenesis : Examination with Newly Prepared Anti-human CYP2E1 Antibody . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 3 ): 243-251 .
- 4) Ishizuka T, Tanabe C<sup>1)</sup>, Sakamoto H<sup>1)</sup>, Aoyagi K<sup>1)</sup>, Maekawa M<sup>1)</sup>, Matsukura N, Tokunaga A, Tajiri T, Yoshida T<sup>1)</sup>, Terada M<sup>1)</sup>, Sasaki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Natl. Cancer Cent. Res. Inst. ): Gene amplification profiling of esophageal squamous cell carcinomas by DNA array CGH . *Boichem Biophys Res Commun* 2002 ; 296 : 152-155 .
- 5) Kiyama T, Tajiri T, Tokunaga A, Yoshiyuki T, Barbul A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Sinai Hospital and The Johns Hopkins Medical Institution, Baltimore, Maryland ): Tacrolimus enhances colon anastomotic healing in rats . *Wound Rep Reg* 2002 ; 10 : 308-313 .
- 6) Koizumi M, Onda M, Tanaka N, Seya T, Yamada T, Takahashi Y : Antiangiogenic Effect of Octreotide Inhibits the Growth of Human Rectal Neuroendocrine Carcinoma . *Digestion* 2002 ; 65 : 200-206 .
- 7) Matsukura N, Yokomuro S, Yamada S<sup>1)</sup>, Tajiri T, Sundo T<sup>1)</sup>, Hamada T<sup>3)</sup>, Kamiya S<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> Fox JG<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>2)</sup> Dept. of PathologyII, <sup>3)</sup> Diagnostic Division, Gene Diagnostic Research, Otsuka Assay Laboratories, <sup>4)</sup> Dept. of Infectious Diseases, Kyorin University of Medicine, <sup>5)</sup> Division of Comparative Medicine, Massachusetts Institute of Technology ): Association between *Helicobacter bilis* in Bile and Biliary Tract Malignancies : *H. bilis* in Bile from Japanese and Thai Patients with Benign and Malignant Diseases in the Biliary Tract . *Jpn J Cancer Res* 2002 ; 93 : 842-847 .
- 8) Sasajima K, Onda M, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Maruyama H, Matsutani T, Futami R, Ikezaki H, Takeda S, Takai K, Ogawa R : Role of L-selectin in the development of ventilator-associated pneumonia in patients after major surgery . *J. Hum. Genet* 2002 ; 105 : 123-127 .
- 9) Tajiri T, Onda M, Taniai N, Yoshida H, Mamada Y : A Comparison of Combination Endoscopic Therapy and Interventional Radiology with Esophageal Transection for the Treatment of Esophageal Varices . *Hepato -Gastroenterology* 2002 ; 49 : 1552-1554 .
- 10) Tajiri T, Onda M, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Kumazaki T ( *Radiol* ): Long-term Hematological and Biochemical Effects of Partial Splenic Embolization in Hepatic Chirrhosis . *Hepato -Gastroenterology* 2002 ; 49 ( 47 ): 1445-1448 .
- 11) Tajiri T, Onda M, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Umehara M, Toba M, Yamashita K : Endoscopic scleroligation is a superior new technique for preventing recurrence of esophageal varices . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 2 ): 160 -164 .
- 12) Tajiri T, Onda M, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yamashita K : The natural history of gastric varices . *Hepato-Gastroenterology* 2002 ; 49 : 1180 -1182 .
- 13) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y : Hepatic Parenchymal Resection using an Ultrasonic Surgical Aspirator with Electrosurgical Coagulation . *Hepato -Gastroenterology* 2002 ; 49 : 1649-1651 .
- 14) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata

- A, Kawano Y, Mizuguchi Y : Anticoagulant Therapy in Living-Related Liver Transplantation . Transplantation Proceedings 2002 ; 34 : 2788-2790 .
- 15) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Furukawa K, Takasaki H, Yoshimura K, Yoshida H, Mamada Y, Akimaru K : Good Embolization Response for Colorectal Liver Metastases with Hypervascularity . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 : 1531-1534 .
- 16) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Mamada Y : Combined endoscopic and radiologic intervention to treat esophageal varices . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 : 984-988 .
- 17) Tsuchiya Y, Onda M, Sasajima K, Yamashita K, Nomura T, Makin OH, Maruyama H, Takubo K, Miyashita M : Effects of preoperative chemotherapy on metastatic lymph nodes in esophageal squamous cell carcinoma . Disease of Esophagus 2002 ; 15 : 226-231 .
- 18) Uchida E, Tajiri T, Nakamura Y, Aimoto T, Naito Z : Relationship Between Grade of Fibrosis in Pancreatic Stump and Postoperative Pancreatic Exocrine Activity After Pancreaticoduodenectomy : With Special Reference to Insufficiency of Pancreaticointestinal Anastomosis . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ) : 549-556 .
- 19) Witte MB, Kiyama T, Barbul A : Nitric oxide enhances experimental wound healing in diabetes . Br J Surg 2002 ; 89 : 1594-1601 .
- 20) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N : Endoscopic Findings of Bleeding Esophageal Varices . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 ( 47 ) : 1287-1289 .
- 21) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Koizumi M, Yoshimura K, Takasaki H, Furukawa K : Ultrasonography of Non-perforated Appendicitis in Young Children . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 ( 47 ) : 1293-1295 .
- 22) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Yamashita K : New techniques : Combined Endoscopic Injection Sclerotherapy and Ligation for Acute Bleeding from Gastric Varices . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 : 932-934 .
- 23) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Toba M, Umehara M, Mamada Y, Taniai N, Yamashita K : Endoscopic injection sclerotherapy for the treatment of recurrent esophageal varices after esophageal transection . Digestive Endoscopy 2002 ; 14 ( 3 ) : 93-98 .
- 24) Miyashita T<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Furukawa K, Minobe K, Shimizu K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, <sup>2)</sup> Department of Surgery 2 ) : Breast-Concerning Therapy in the Management of Early-Stage Breast Cancer : Our Experience in 103 Cases . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 24-30 .
- 25) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>, Kato S, Matsukura N ( <sup>1)</sup> Dept. Gastroentrol. Endosc. , Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. Pathol. , Nippon Med. Sch. ) : *Helicobacter pylori* infection, mucosal atrophy and intestinal metaplasia in Asian population : a study in age-, sex-, and endoscopic-diagnosis-matched subjects . Helicobacter 2003 ; 8 : 29-35 .
- 26) Takeda S<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>2)</sup>, Nakanishi K<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Okawa K, Miyashita M, Sasajima K, Tajiri T, Tanaka K<sup>1)</sup> and Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit and Coronary Care Unit, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology ) : Preoperative Administration of Methylprednisolone Attenuates Cytokine-induced Respiratory Failure After Esophageal Resection . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 16-20 .
- 27) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Koizumi M, Yoshimura K, Takasaki H, Furukawa K : Echographie de l'appendicite simple chez les jeunes enfants . Journal mensuel d'echographie 2003 ; 1 : 5-10 .
- 28) 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 本城和義<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 古川清憲 ( <sup>1)</sup> 薬剤部 ) : Flomoxef と Cefmetazole の大腸癌術後感染発症阻止効果における費用体効果分析 . 医療薬学 2002 ; 28 : 47-50 .
- 29) 塩田吉宣<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 佐久間隆, 堀 雅晴<sup>1)</sup>, 高崎秀明, 長谷川博一 ( <sup>1)</sup> 塩田病院 ) : 大腸内視鏡による痔核

結紮術：反転法を中心に．J Nippon Med Sch 2002；69（5）：451-455．

- 30) 田尻 孝, 恩田昌彦, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭：成人に対する生体肝移植．J Nippon Med Sch 2002；69（1）：83-83．
- 31) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 鶴田宏之, 美濃部かおり, 菅 隼人：大腸癌手術における術前免疫賦括投与の影響．侵襲と免疫．免疫と侵襲 2002；11：30-34．
- 32) 安孫子正美<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 山下直行, 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>(1)</sup>坪井病院)：肺野小型病変に対する局在ガイドとしての金属コイル留置法の工夫．日臨外会誌 2002；63（9）：2098-2101．
- 33) 前川隆司<sup>1)</sup>, 松下 晃, 内田英二, 吉岡貴幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>塩野義製薬株式会社創薬研究所)：転移浸潤を促進するMMPと血管新生．肝胆膵 2002；45：503-510．
- 34) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏：I．肝離断法の比較研究3．手割り vs-CUSA Excel, マイクロ波凝固装置（特集肝離断法を考える）．外科 2002；64（5）：514-517．
- 35) 木山輝郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 古川清憲, 田尻 孝：ラット外傷モデルにおける栄養投与と経路の検討．外科と代謝・栄養 2002；36：185-190．
- 36) 野村 務, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦, 田尻 孝, 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 小林正文, 柏木秀幸：腹腔鏡を用いた食道アカラシア手術．J Nippon Med Sch 2002；69（2）：196-199．
- 37) 宮下正夫, 田尻 孝, 笹島耕二, 二見良平, 萩原信敏, 山下精彦, 西 恵吾<sup>1)</sup>, 足立憲治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>西クリニック, <sup>2)</sup>足立中央クリニック)：p53血清抗体を用いた癌検診．日本がん検診・診断学会誌 2003；10（2）：64-67．

(2) 綜説：

- 1) Tokunaga A, Okuda T, Tajiri T, Onda M：Intraoperative Lymphatic Mapping by Dye and/ or Radioactive Tracer in Early Gastric Cancer．J Nippon Med Sch 2002；69（3）：216-217．
- 2) 徳永 昭, 恩田昌彦：創傷治癒に対する高気圧酸素治療．関東地区高気圧環境医学懇話会誌 2002；5（1）：9-9．
- 3) 木山輝郎, 徳永 昭, 田尻 孝：IPMT ( Intraductal pappillary-mucinous tumor)．J Nippon Med Sch 2002；69（5）：503-503．
- 4) 木山輝郎, 徳永 昭, 田尻 孝：Immunonutrition．J Nippon Med Sch 2002；69（5）：507-507．
- 5) 高崎秀明, 恩田昌彦：麻痺性イレウスの治療．外科 2002；64（2）：146-150．
- 6) 高崎秀明, 古川清憲, 田尻 孝：特集・イレウス-診断と治療のコツ 各論 外科的治療（開腹治療）のピットフォール．消化器の臨床 2002；5（5）：565-569．
- 7) 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 木山輝郎, 松田範子, 松倉則夫, 恩田昌彦, 森山雄吉：創傷治癒に対する高気圧酸素治療EBMの解析と今後の展望．日本高気圧環境医学会関東地方会誌 2002；1（1）：6-9．
- 8) 古川清憲, 恩田昌彦, 田尻 孝：日本におけるガイドライン．一般外科感染症におけるガイドライン（2）．感染症のガイドライン．化学療法の領域 2002；18：136-143．
- 9) 松倉則夫：*Helicobacter pylori*と疾患との関わり：知っておくべき心得．J Nippon Med Sch 2002；69：200-204．
- 10) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼：食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術の意義と適応．日門亢会誌 2002；8（3）：185-188．
- 11) 吉村成子, 恩田昌彦, 田尻 孝, 徳永 昭, 高崎秀明, 松田範子：レクリエーションルダイビングにおける健康診断の問題点．日本高気圧環境医学会関東地方会誌 2002；1（1）：41-42．
- 12) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 木山輝郎, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝：胃癌治療における漢方薬．癌の臨床 2002；48（3）：135-142．
- 13) 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 木山輝郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎：III．合併症の予防と対策1．非心臓手術における心疾患合併症（知っておくべき周術期管理）．外科 2002；64（13）：1650-1659．

- 14) 丸山 弘, 田尻 孝, 松谷 毅, 笹島耕二, 宮下正夫: 食道癌手術における接着分子の発現と術前ステロイド投与(特集 外科診療とステロイド療法). 臨床外科 2002 ; 57 (7): 897-900 .
- 15) 吉行俊郎, 徳永 昭, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 恩田昌彦: 再発胃癌患者の消化管閉塞症状に対する palliation 手術・stenting . 手術 2002 ; 56 (2): 159-163 .
- 16) 松倉則夫: *Helicobacter pylori* 感染と関連疾患: そのメカニズムと *H. pylori* の除菌効果 . 癌と化学療法 2002 ; 29 : 1341-1349 .
- 17) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹, シリカン山田, 神谷 茂, 波多間徹, Fox J: 胆道系良・悪性疾患と胆汁中 *Helicobacter bilis* . 日ヘリコバクター会誌 2002 ; 4 : 4-5 .
- 18) 藤田逸郎, 田尻 孝, 徳永 昭: エイズ . 外科 2002 ; 11 : 1365-1365 .
- 19) 徳永 昭, 増田剛太郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: trefoil factor family と消化器癌(特集; trefoil factor family と消化器疾患). G. I. Research 2002 ; 10 (3): 225-232 .
- (3) 研究速報:
- 1) 木山輝郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 免疫抑制剤 Tacrolimus の術後代謝に及ぼす影響 . 日消外会誌 2002 ; 35 (9): 1597-1597 .
- (4) 症例から学ぶ:
- 1) 木山輝郎, 吉岡正人, 吉行俊郎, 徳永 昭, 田尻 孝, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>放射線医学, <sup>2)</sup>内科学第1): 胃切除術後2日目に発症した急性肺動脈血栓塞栓症 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (5): 504-507 .
- (5) 症例報告:
- 1) Akimaru K, Onda M, Shimanuki K, Iwama H, Furukawa K, Sugiyama Y : Colonic adenocarcinoma metastatic to the thyroid . Surgery Today 2002 ; 32 : 151 -154 .
- 2) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Umehara M, Yoshida H, Nomura T, Masuda G, Uchiyama K, Shimizu K, Ochi M : Resections of the Liver, Inferior Vena Cava, and Right Kidney for Recurrence Over 10 Years after Right Adrenalectomy for carcinoma . Eur J Surg 2002 ; 168 : 130-133 .
- 3) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Mineta S : Middle hepatic vein reconstruction using a peritoneal patch : report of a case . Surgery Today 2002 ; 32 : 75 -77 .
- 4) Hirakata A, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y : Prolonged hyperbilirubinemia after living-related liver transplantation : A pediatric case report . Transplantation Proceedings 2002 ; 34 : 2793 -2794 .
- 5) Hirano K, Yamashita K, Yamashita N, Nakatsumi Y, Esumi H, Kawashima A, Ohta T, Mai M, Minamoto T : Non-Hodgkin ' s lymphoma in patient with probable hereditary nonpolyposis colon cancer. report of a case and review of the literature . Dis. Colon Rectum 2002 ; 45 (2): 273-279 .
- 6) Kawano Y, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Yoshimura K, Chansai C : Treatment of low portal flow in a living related liver transplant recipient by ligation of the splenic vein . Transplantation Proceedings 2002 ; 34 : 2795 -2798 .
- 7) Makino H, Tajiri T, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Nomura T, Maruyama H, Nagasawa S, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Yamashita K, Takubo K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept, of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Insititute of Gerontology : Effectiveness of preoperative chemotherapy using carboplatin (CBDCA ) and surgery against an esophageal small cell carcinoma . Disease of the Esophagus 2002 ; 15 : 237-241 .
- 8) Shimizu T, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Aramaki T, Kumazaki T : Bleeding portal-hypertensive gastropathy managed successfully by partial splenic embolization . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 : 947 -949 .



- 9) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y : Reversal of hypoxemia by inhaled nitric oxide in a child with hepatopulmonary syndrome after living-related liver transplantation . Transplantation Proceedings 2002 ; 34 : 2791 -2792 .
- 10) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A : Graft Survival following Three Occurrences of Hepatic Arterial Thrombosis after Living-related Liver Transplantation. A Case Report . Hepato -Gastroenterology 2002 ; 49 ( 47 ) : 1420-1422 .
- 11) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Takasaki H, Mamada Y, Taniai N, Nakamura Y, Kawano Y, Takahashi T : Successful Surgical Treatment of Peritoneal Dissemination of Hepatocellular Carcinoma . Hepato -Gastroenterology 2002 ; 49 : 1663-1665 .
- 12) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Tahara I, Kashiwabara M, Ishikawa Y, Watanabe M, Akimaru K : Extreme left Hepatic Lobular Atrophy in a Case with Hilar Cholangiocarcinoma . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 3 ) : 278-281 .
- 13) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Uchida E, Arima Y, Akimaru K, Yamashita K : Intracystic hemorrhage of a simple hepatic cyst . Hepato-Gastroenterology 2002 ; 49 : 1095 -1097 .
- 14) Yoshioka M, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Kumazaki T : Control of Isolated Gastric Varices by Combination Therapy using Embolization and Endoscopic Scleroligation Therapy . Hepato -Gastroenterology 2002 ; 49 : 955-957 .
- 15) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Futami R, Arima Y, Inoue M, Hatta S, Kishimoto S : Infected hepatic cyst . Hepato-Gastroenterology 2003 ; 24 : 507 -509 .
- 16) 秋谷行宏<sup>1)</sup>, 横山滋彦<sup>1)</sup>, 羽尾邦彦<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 恩田昌彦 ( <sup>1)</sup>国立横須賀病院外科 ) : 著明な電解質異常を来した十二指腸水平脚部癌の1例 . Progress of Digestive Endoscopy 2002 ; 60 ( 2 ) : 60-61 .
- 17) 木山輝郎, 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 松倉則夫, 内田英二, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第3 ) : 隆起性表層拡大型早期胃癌の1例 . Prog. Dig. Endosc 2002 ; 61 ( 2 ) : 84-85 .
- 18) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉田 寛, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫 : 術前静脈塞栓術が有用であった肝硬変合併進行胃癌の1例 . 日臨外会誌 2002 ; 63 ( 12 ) : 2948-2952 .
- 19) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 中村慶春, 江上 聡, 田尻 孝 : 慢性膵炎に合併した Transverse Pancreatic Artery の動脈瘤の1例 . 膵臓 2002 ; 17 ( 3 ) : 230-234 .
- 20) 山本一仁<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 滝沢隆雄<sup>2)</sup>, 福岡猛<sup>2)</sup>, 高橋 光<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>北村山公立病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科 ) : イレウスを呈した特発性小腸穿孔の症例 . 北村山公立病院医学雑誌 2002 ; 7 : 16-20 .
- 21) 山本一仁<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 長澤重直, 吉田 寛, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup>北村山公立外科 ) : 巨大食道粘膜下血腫をきたした特発性血小板減少性紫斑病の1例 . Gastroenterological Endoscopy 2002 ; 44 ( 12 ) : 2070-2076 .
- 22) 山本一仁<sup>1)</sup>, 羽尾邦彦<sup>1)</sup>, 横山滋彦<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 田尻 孝, 恩田昌彦 ( <sup>1)</sup>国立横須賀病院外科 ) : 十二指腸空腸角に穿通した膵仮性動脈瘤の1例 . 日消誌 2002 ; 99 ( 4 ) : 412-417 .
- 23) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 清水一雄<sup>3)</sup>, 中山一隆<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 杉原仁<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup>, 横山宗伯<sup>5)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>病理第1, <sup>3)</sup>外科第2, <sup>4)</sup>内科第3, <sup>5)</sup>病理第2 ) : 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例 . 内科 2002 ; 89 ( 5 ) : 935-945 .
- 24) 川野陽一, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 谷合信彦 : 巨大後腹膜悪性線維性組織球腫の1切除例 . 手術 2002 ; 56 ( 5 ) : 677-680 .

- 25) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 鷹野さやか: 劇症肝不全に対する生体部分肝移植の1例. J Nippon Med sch 2002 ; 69 (3): 286-289 .
- 26) 野村 務, 恩田昌彦, 宮下正夫, 牧野浩司, 笹島耕二, 田尻 孝: 縦隔鏡補助下経食道裂孔の食道切除を行った食道原発早期悪性黒色腫の1例. 日臨外会誌 2002 ; 63 (5): 1157-1161 .
- 27) 松田明久, 田尻 孝, 宮下正夫, 古川清憲, 丸山 弘, 竹田晋浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 重症な呼吸, 循環不全を呈した成人Bochdalek孔ヘルニア嵌頓の1例. 日臨外会誌 2003 ; 64 (1): 70-73 .

(6) 著書:

- 1) Matsukura N, Ohgaki H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Molecular Pathology, IARC): Human cancer by organ site ; Stomach cancer . World Cancer Report ( Ed. B. W. Stewart and P. Kleihues ), WHO/IARC 2003 ; 194-197 .
- 2) 松倉則夫: 内視鏡下遺伝子治療. 最新消化器内視鏡治療 ( 北島政樹 編 ) 2002 ; 4-5 .

(7) 臨床および実験報告:

- 1) 張 玉宝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 恩田昌彦: 残胃の癌の外科治療. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (5): 489-493 .

(8) 臨床医のために:

- 1) 加藤俊二, 恩田昌彦, 会田邦晴, 木山輝郎, 吉行俊郎, 高崎秀明, 松倉則夫, 古川清憲, 徳永 昭, 田尻 孝: Percutaneous Trans Esophageal Gastro-tubing ( PTEG ) の使用経験: 腸管減圧法の工夫と栄養補給路としての有用性. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (4): 386-389 .
- 2) 勝田美和子, 田尻 孝, 野村 務, 宮下正夫, 二見良平, 牧野浩司, 丸山 弘, 笹島耕二, 山下精彦: Argon Plasma Coagulation ( APC ) による食道表在癌の治療. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (4): 383-385 .

著 書

- 1) 田尻 孝, 高崎秀明, 会田邦晴: [ 分担 ] 4. イレウス2腸疾患. 消化器外科学レビュー2003, 2003 ; pp180-183 , 総合医学 .
- 2) 古川清憲: [ 分担 ] 憩室炎. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp678-678 , 医学書院 .
- 3) 古川清憲: [ 分担 ] 自然排便法. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1046-1046 , 医学書院 .
- 4) 古川清憲: [ 分担 ] 十二指腸憩室. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1116-1117 , 医学書院 .
- 5) 古川清憲: [ 分担 ] 洗腸 [ 療法 ]. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1443-1443 , 医学書院 .
- 6) 古川清憲: [ 分担 ] 大腸前処置. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1537-1537 , 医学書院 .
- 7) 古川清憲: [ 分担 ] 虫垂粘液瘤 . 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1632-1632 , 医学書院 .
- 8) 古川清憲: [ 分担 ] 虫垂膿瘍 . 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1632-1632 , 医学書院 .
- 9) 古川清憲: [ 分担 ] 虫垂放線菌症 . 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1632-1632 , 医学書院 .
- 10) 古川清憲: [ 分担 ] 虫垂瘻造設 [ 術 ]. 医学大辞典 ( 総編集 伊藤正雄, 井村裕夫, 高久文麿 ), 2003 ; pp1632-1632 , 医学書院 .

- 11) 古川清憲：〔分担〕治癒性虫垂炎．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp1638-1638，医学書院．
- 12) 古川清憲：〔分担〕腸管憩室症．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp1644-1644，医学書院．
- 13) 古川清憲：〔分担〕腸〔管〕結節形成〔症〕．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp1644-1644，医学書院．
- 14) 古川清憲：〔分担〕パロン徴候．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2001-2002，医学書院．
- 15) 古川清憲：〔分担〕マックバーニー点．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2331-2331，医学書院．
- 16) 古川清憲：〔分担〕慢性虫垂炎．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2348-2348，医学書院．
- 17) 古川清憲：〔分担〕レ - ンの屈曲．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2583-2583，医学書院．
- 18) 古川清憲：〔分担〕レンツマン点．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2583-2583，医学書院．
- 19) 古川清憲：〔分担〕ロウ° ジング徴候．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2586-2586，医学書院．
- 20) 古川清憲：〔分担〕ロ - ゼンシュタイン徴候．医学大辞典（総編集 伊藤正雄，井村裕夫，高久文麿），2003；pp2593-2593，医学書院．

#### 学会発表

〔2001 年度追加分〕

##### 一般講演：

- 1) 江上 聡，小高哲郎<sup>1)</sup>，江村隆起<sup>1)</sup>，村越孝次<sup>1)</sup>，仁科孝子<sup>1)</sup>，田尻 孝，橋都浩平<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>都立八王子小児病院外科）：長期経過観察の後，手術となった先天性十二指腸狭窄症の2例．第783回外科集談会，2001．12．
- 2) 吉行俊郎，徳永 昭，小野寺浩之，増田剛太郎，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，松倉則夫，恩田昌彦，山下精彦：早期胃癌のmorbidityとmortality．第74回日本胃癌学会総会，2002．2．

##### (1) 特別講演：

- 1) 徳永 昭，恩田昌彦：創傷治癒に対する高気圧酸素治療．第1回日本高気圧環境医学会関東地方会，2002．7．

##### (2) シンポジウム：

- 1) 宮下正夫，田尻 孝，笹島耕二，二見良平，萩原信敏，宮 哲正<sup>1)</sup>，ハンキンス・ローリー<sup>1)</sup>，勝又亮祥<sup>1)</sup>，西恵吾<sup>2)</sup>，足立憲治<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>保険科学研究所株式会社，<sup>2)</sup>西クリニック，<sup>3)</sup>足立中央クリニック）：p53血清抗体を用いた癌検診（検体検査によるがん検診・診断の進歩）．第10回日本がん検診・診断学会総会，2002．8．
- 2) 吉田 寛，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，秋丸琥南：食道静脈瘤に対するEVLの意義と適応．第9回日本門脈圧亢進症学会総会，2002．9．
- 3) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫：胃粘膜におけるサイトカインIL-1，IL-8，COX2および胃粘膜防御因子であるTrefol Factor Family1（PS2）のmRNA発現から見た胃癌発生高危険度粘膜の特徴（*H. pylori*の病原性解析とその臨床的意義）．第44回日本消化器病学会大会，2002．10．
- 4) 古川清憲，田尻 孝，鈴木英之，丸山 弘，前澤勝美，松田明久，高崎秀明：重症感染症の病態とBRMの有有用性について（外科重症感染症治療の進歩）．第15回日本外科感染症研究会，2002．11．

### (3) パネルディスカッション：

- 1) Shimizu T, Tajiri T, Akimaru K, Arima Y, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Mizuguchi Y, Takahashi T : Hand-assisted laparoscopic hepatectomy for hepatocellular carcinoma in severe liver cirrhosis . Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( ELSA, 2002 ), 2002 . 9 .
- 2) 加藤俊二, 田尻 孝, 松倉則夫, 松田範子, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 鶴田宏之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*感染と胃癌発生高危険粘膜の関連: 胃粘膜におけるIL-1 , IL-8, COX2および胃粘膜 Trefol Factor Family1 ( PS2 ) のmRNA 発現の特徴 (*Helicobacter pylori*感染と胃癌). 第13回日本消化器癌発生学会総会, 2002 . 9 .
- 3) 富樫晃祥, 田尻 孝, 松倉則夫, 加藤俊二, 増田剛太郎, 徳永 昭: 残胃炎のIL-8誘導に關与する *Helicobacter pylori*と胆汁逆流の役割 (*Helicobacter pylori*感染と胃癌). 第13回日本消化器癌発生学会総会, 2002 . 9 .
- 4) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛: 孤立性胃静脈瘤に対する治療戦略.( 胃静脈瘤に対する治療法の選択: 内視鏡かB-RTOか). 第10回DDW-JAPAN ( 第64回日本消化器内視鏡学会総会 ), 2002 . 10 .
- 5) 木山輝郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃切除術クリニカルパスにおけるセーフティマネージメント ( チーム医療におけるセーフティマネージメント ). 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 6) 古川清憲, 田尻 孝, 高崎秀明, 会田邦晴, 鈴木英之: 消化器外科周術期の病態と感染症の非特異性免疫賦活剤による制御 ( 周術期感染症の病態と治療 ). 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 7) 吉村成子, 恩田昌彦, 田尻 孝, 徳永 昭, 高崎秀明, 松田範子: 当施設で急増しているメニエル型減圧症について [減圧障害の治療指針]. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .
- 8) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 奥田武志, 木山輝郎, 松倉則夫, 恩田昌彦, 百束比古<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>皮膚科): 下肢難治性潰瘍に対する高気圧酸素治療 ( HBO ) の治療効果と血漿 VEGF の変動 . 第32回日本創傷治療学会, 2002 . 12 .
- 9) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭: 診療報酬明細書から見た胃切除クリニカルパスによる治療の成果Clinical Pathによる胃癌治療の進歩 . 第75回日本胃癌学会総会, 2003 . 2 .

### (4) フォーラムセッション：

- 1) 長田祐二<sup>1)</sup>, 平塚哲郎<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠沢 功<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 会田邦晴, 山下精彦, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>内科学第3): 在宅加療中にPTEG挿入部が膨隆, 唇状瘻様変化をきたした1症例 ( 合併症, 偶発症とその対策: 問題解決のための症例提示とディスカッション ). 第2回日本PTEG研究会, 2003 . 2 .
- 2) 谷田貝茂雄<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 加藤俊二, 会田邦晴, 鈴木英之, 吉行俊郎, 勝野 暁, 曾我幸弘<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>やたがいくリニック, <sup>2)</sup>東京女子医第二病院救急医療科): 開業医における在宅末期医療とPTEGの症例経験 ( PTEGの使用経験, PEGとの比較 ). 第2回日本PTEG研究会, 2003 . 2 .

### (5) ワークショップ：

- 1) Matsukura N, Tajiri T, Yokomuro S, Yamada S<sup>1)</sup>, Morino K, Yamahatsu J, Togashi A, Kamiya S<sup>2)</sup>, Fox JG<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Fac. Med. , Ching Mai Univ. , <sup>2)</sup>Dep. Inf. Dise. , Kyorin Univ. , <sup>3)</sup>MIT, USA ): Association between *Helicobacter bilis* in bile and biliary tract malignancies : *H. bilis* in bile from Japanese and Thai patients with benign and malignant diseases in the biliary tract . XV International Workshop on Gastrointestinal Pathology and *Helicobacter* ( Greece ), 2002 . 9 .
- 2) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 奥田武志, 水谷 崇, 加藤俊二, 松倉則夫, 古川清憲: 癌治療中患者の腹部救急 化学療法中の消化管穿孔に対する手術 . 第38回日本腹部救急医学会, 2002 . 3 .
- 3) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 柳 健, 松下 晃, 福原宗久, 山村 進, 廣井 信, 会田邦晴, 恩田昌彦: 実験モデルを用いた分子生物学的膵癌転移制御の検討 ( 遺伝子研究による消化器癌転移制御 ). 第57回日本消

化器外科学会総会，2002．7．

- 4) 横室茂樹，田尻 孝，有馬保生：閉塞性黄疸における炎症性サイトカインIL-6の役割．(術前減黄の必要性和その評価)．第38回日本胆道学会学術集会，2002．9．
- 5) 水口義昭，田尻 孝，秋丸琥甫：減黄効果予測因子としての血清中細胞外マトリックス測定の意義．(術前減黄の必要性和その評価)．第38回日本胆道学会学術集会，2002．9．
- 6) 加藤俊二，田尻 孝，松倉則夫，松田範子，富樫晃祥，増田剛太郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，徳永昭，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：胃粘膜防御因子 Trefol Factor Family 1 (TFF1：PS3)，IL-1，IL-8，COX2のmRNA発現から見た胃癌発生高危険粘膜の特徴 (*H. pylori*)．第61回日本癌学会総会，2002．10．
- 7) 真々田裕宏，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，吉田 寛，横室茂樹，谷合信彦：肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除術 (肝腫瘍に対する腹腔鏡を中心とした低侵襲治療：適応と手技の実際)．第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2002．12．

(6) プレナリーセッション：

- 1) 加藤俊二，田尻 孝，田中元子，増田剛太郎，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，徳永昭：TS1投与効果とReal-time PCR法を用いた生検材料のThymidine Synthase (TS)，Dihydro Pyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNA発現の経時的変化との関連．第40回日本癌治療学会総会，2002．10．

(7) サージカルフォーラム：

- 1) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，徳永 昭，内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2)：胃の発癌におよぼす胃粘膜背景因子と胃酸分泌を制御するIL-1 遺伝子多型性およびそのmRNA発現の個人差．第102回日本外科学会定期学術集会，2002．4．
- 2) 笹島耕二，恩田昌彦，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，二見良平，勝田美和子，高橋 健：L-セレクチンと術後肺炎．第102回日本外科学会定期学術集会，2002．4．
- 3) 徳永 昭，恩田昌彦，木山輝郎，松田範子，増田剛太郎，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，吉行俊郎，松倉則夫，森山雄吉：創傷治癒と高気圧酸素療法：治療効果と血中VEGF．第102回日本外科学会定期学術集会，2002．4．
- 4) 牧野浩司，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，丸山弘，二見良平，山下精彦，Edward G<sup>1)</sup>，Ramaswamy A<sup>1)</sup>，James J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ジョーンズ・ホプキンス大学病理部)：Microarrayによる食道癌の新しい発癌関連遺伝子の検索．第102回日本外科学会定期学術集会，2002．4．
- 5) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，小野寺浩之，加藤俊二，松倉則夫，古川清憲：タクロリムスの組織コラゲナーゼ活性阻害における消化管吻合部治癒促進．第102回日本外科学会定期学術集会，2002．4．

(8) 一般講演：

- 1) Akimaru K, Onda M, Tajiri T, Uchida E, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Aimoto T, Tani ai N, Hiroi M, Hirakata A, Kawano Y, Matsuda N : Tumor marker values of tumor cells within a fine needle after aspiration cytology for hepatobiliary and pancreatic tumors . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 2) Kato S, Matsuda N, Hirakata A, Kawano Y, Tani ai N, Mamada Y, Yoshida H, Akimaru K, Tajiri T : The variation of alcohol metabolic enzyme activities and mRNA levels in the liver due to the genetic polymorphisms and liver cancer risk . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 3) Kawano Y, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Furukawa K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Tani ai N, Hirakata A, Mizuguchi Y, Kumazaki T, Tajima H : A case of ulcerative colitis with thrombosis of the superior mesenteric and portal veins after total colectomy . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .

- 4) Miyashita M, Tajiri T, Kashiwabara M, Futami R, Katsuta M, Yamashita K, Nishi K, Adachi K : Serum p53 Antibody and Screening of Populations with Cancer risks . AACR International Conference, Molecular and Genetic Epidemiology of Cancer , 2002 . 4 .
- 5) Mizuguchi Y, Onda M, Tajiri T, Arima Y, Yokomuro S, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y : A case report of left-sided gallbladder with intrahepatic portal vein anomaly . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 6) Yokomuro S, Tajiri T, Akimaru K, Arima Y : "The effect of HGF/met signaling on Human Cholangiocarcinoma . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 7) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Akimaru K : Endoscopic scleroligation is a superior new technique for preventing recurrence of esophageal varices . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 8) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Akimaru K : Endoscopic injection sclerotherapy for the treatment of recurrent esophageal varices after esophageal transection . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 9) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Akimaru K : Successful Surgical Treatment of Peritoneal Dissemination of Hepatocellular Carcinoma . 5th World Congress of The International HPB Association , 2002 . 4 .
- 10) Tokunaga A, Onda M, Kiyama T, Masuda G, Fujita I, Yoshiyuki T, Matsukura N, Matsuda N, Moriyama Y, Hyakusoku H, Kawana S : Effect of Hyperbaric Oxygen Therapy on Levels of Vasucular Endothelial Growth Factor in Blood of Healthy Volunterrs . 2002 Joint Conference of the Wound Healing Society and the European Tissue Repair Society , 2002 . 5 .
- 11) Kato S, Tajiri T, Masuda G, Togashi A, Tsuruta H, Tokunaga A, Naito Z, Matsukura N : The association of the mRNA expression levels of the IL-1 , IL-8, COX2 and Trefoil Factor Family 1 ( PS2 ) gene in the stomach and the high risk mucosa for gastric carcinogenesis . The 2nd Annual Conference of Korea-Japan Joint Meeting on *Helicobacter Pylori* , 2002 . 6 .
- 12) Maruyama H, Sasajima K, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Futami R, Katsuta K, Takahashi K, Takeda S, Kim C, Miyashita M, Onda M : Increases in soluble tumor necrosis factor receptors coincide with increase in interleukin-6 and proteinases in surgical stress and sepsis . Shock Society twenty-fifth annual conference on shock ( Big Sky, Montana ), 2002 . 6 .
- 13) Matsukura N, Tajiri T, Yokomuro S, Yamada S<sup>1)</sup>, Morino K, Yamahatsu J, Togashi A, Kamiya S<sup>2)</sup>, Fox JG<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Fac. Med. , Ching Mai Univ. , <sup>2)</sup> Dep. Inf. Dise. , Kyorin Univ. , <sup>3)</sup> MIT, USA ) : Association between *Helicobacter bilis* in bile and biliary tract malignancies : *H. bilis* in bile from Japanese and Thai patients with benign and malignant diseases in the biliary tract . The 2nd Annual Conference of Korea-Japan Joint Meeting on *Helicobacter Infection* , 2002 . 6 .
- 14) Matsutani T, Samy TSA<sup>1)</sup>, Schwacha MG<sup>1)</sup>, Gensemer S<sup>1)</sup>, Zheng R<sup>1)</sup>, Horseman ND<sup>1)</sup>, Bland KI<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Universty of Alabama ) : Does prolactin modulate the immune response after trauma-hemorrhage? Shock Society twenty-fifth annual conference on shock ( Big Sky, Montana ), 2002 . 6 .
- 15) Samy TSA<sup>1)</sup>, Zheng R<sup>1)</sup>, Matsutani T, Rue III LW<sup>1)</sup>, Bland KI<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Alabama ) : Differential expression on TREM 1, 2 and 3 in macrophages following trauma-hemorrhage ( TH ) . Shock Society twenty-fifth annual conference on shock ( Big Sky, Montana ), 2002 . 6 .
- 16) Suzuki H, Onda M, Furukawa K, Takasaki H, Aida K, Kan H, Tsuruta H, Matsuda A : Immune response and intraabdominal contamination of laparoscopic colorectal operation : comparison to conventional open abdomi-

- nal operation . The American Society of Colon and Rectal surgeons , 2002 . 6 .
- 17) Yokoyama Y<sup>1)</sup>, Kuebler JF<sup>1)</sup>, Matsutani T, Bland KI<sup>1)</sup>, Wang P<sup>1)</sup>, Chaudry IH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> University of Alabama ): Mechanism of the salutary effect of 17beta-estradiol following trauma-hemorrhage : direct downregulation of kupffer cell IL-6 gene expression and release . Shock Society twenty-fifth annual conference on shock ( Big Sky, Montana ), 2002 . 6 .
  - 18) Chansai C<sup>1)</sup>, Kasetsuwan P<sup>1)</sup>, Krailadsiri W<sup>1)</sup>, Tajiri T, Miki M ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Bhumibol Adulyadej Hospital, Thailand ): Clinical Experience in Self-Expandable Esophageal Stent Placement in Management of Advanced Esophageal Carcinoma in Thailand . Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( ELSA, 2002 ), 2002 . 9 .
  - 19) Hirakata A, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Yokomuro S, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y : A child case of prolonged hyperbilirubinemia after living-related liver transplantation . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 20) Kawano Y, Akimaru K, Shimizu T, Takahashi T, Mizuguchi Y, Taniai N, Mamada Y, Yokomuro S, Yoshida H, Tajiri T, Kumazaki T : A successful case of pharmacokinetic modulating chemotherapy ( PMC ) for stage IVB hepatocellular carcinoma . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 21) Mineta S, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yamamoto K, Kaneko M, Kumita S, Kumazaki T : Hepatic inflow of splenic vein in cirrhotic liver . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 22) Taniai N, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Mamada H, Mineta S, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T : Hepatic parenchymal resection using a ultrasonic surgical aspirator with electrosurgical coagulation . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 23) Tokunaga A, Onda M, Tajiri T, Kiyama T, Masuda G, Fujita I, Yoshiyuki T, Matsukura N, Hyakusoku H, Kawana S, Moriyama Y : Hyperbaric oxygen therapy increases plasma levels of vegf in healthy volunteers and patients with nonhealing wounds . Wound Healing Oxygen & Emerging Therapeutics , 2002 . 9 .
  - 24) Yoshida H, Tajiri T, Akimaru K, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T : Long-term results of multiple minocycline hydrochloride injections for the treatment of symptomatic solitary hepatic cyst . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 25) Yoshida H, Tajiri T, Akimaru K, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T : Extreme left hepatic lobar atrophy associated with hilar cholangiocarcinoma . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 26) Yoshida H, Tajiri T, Akimaru K, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T : Infected hepatic cyst . Asian Pacific Association for The Study of The Liver ( APASL ), 2002 . 9 .
  - 27) Matsuda N, Tajiri T, Akimaru K, Matsukura N, Tokunaga A, Yoshimura S, Kawano Y, Mizuguchi Y, Moriyama Y, Onda M, Naito Z : Effects of Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration After Minor and Major Hepatectomies on Impaired Liver with Carbon Tetrachloride . XIV International Congress on Hyperbaric Medicine , 2002 . 10 .
  - 28) Suzuki H, Tajiri T, Onda M, Furukawa K, Takasaki H, Aida K, Kan H, Tanaka N : Immune response and intraabdominal contamination of laparoscopic colorectal operation -comparison to conventional open abdominal operation- . Tripartite 2002 Colorectal Meeting , 2002 . 10 .
  - 29) Tokunaga A, Tajiri T, Kiyama T, Masuda G, Fujita I, Yoshiyuki T, Takasaki H, Matsukura N, Matsuda N, Hyakusoku H, Kawana S, Moriyama Y, Onda M : Effect of Hyperbaric Oxygen Therapy on Clinical Wound

Healing in Patients with Non-Healing Leg Wounds . XIV International Congress on Hyperbaric Medicine , 2002 . 10 .

- 30) Okuda T, Tajiri T, Tokunaga A, Masuda G, Onodera H, Fujita I, Mizutani T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Kato S, Matsukura N, Sugizaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Path): Intraoperative lymphatic mapping with sentinel node biopsy in the patients with early gastric cancer . The 3rd International Sentinel Node Congress , 2002 . 11 .
- 31) Kawano Y, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Hirakata A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T : Useful treatment of low portal flow of living related liver transplantation with intraoperative splenic vein ligation . 第70回日本医科大学医学部学会総会 , 2002 . 9 .
- 32) 朝長哲哉<sup>1)</sup>, 江上 聡, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 鈴木 完<sup>1)</sup>, 五石圭司<sup>1)</sup>, 横山美良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 新生児・乳児期気管切開例14例の検討 . 第509回日本小児科学会東京都地方会懇話会 , 2002 . 2 .
- 33) 池田研吾<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 福岡 猛<sup>2)</sup>, 長澤重直<sup>2)</sup>, 高橋 光<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): アルゴンプラズマ凝固療法が有効であった Diffuse . 第172回日本消化器病学会東北支部例会 , 2002 . 2 .
- 34) 清水哲也, 山本 剛<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1): 高度骨粗鬆症に伴う多発性肋骨骨折, 胸郭変形から難治性重症呼吸不全を呈したCushing病の1例 . 日本集中治療医学会第29回大会 , 2002 . 2 .
- 35) 高橋 光<sup>2)</sup>, 福岡 猛<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 山村進<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 大量出血を来した多発性胃ポリープを留置スニアにて止血しえた1例 . 第172回日本消化器病学会東北支部例会 , 2002 . 2 .
- 36) 徳永 昭, 恩田昌彦, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 山下精彦: 再発胃癌患者の消化管閉塞症状に対する治療・処置 . 第74回日本胃癌学会総会 , 2002 . 2 .
- 37) 山本一仁<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 李 栄浩<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 福岡 猛<sup>2)</sup>, 高橋 光<sup>2)</sup>, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>北村山公立病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科): 血管造影にて腸管血流低下を確認しえた若年性虚血性大腸炎の1例 . 第172回日本消化器病学会東北支部例会 , 2002 . 2 .
- 38) 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 江上 聡, 豊泉 愛<sup>1)</sup>, 川口裕之<sup>1)</sup>, 小林美由紀<sup>1)</sup>, 林 泰秀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 後腹膜原発 paraganglioma の1例 . 2002年度関東甲信越小児ガン登録研究会 , 2002 . 3 .
- 39) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山下精彦(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 早期胃癌におけるセンチネルリンパ節の同定と微小転移の検討 . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .
- 40) 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 安孫子正美<sup>1)</sup>, 山下直行, 櫻澤信行, 竹之下誠一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>坪井病院): 99mTc標識フチン酸を用いた乳癌センチネルリンパ節生検の有用性 . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .
- 41) 吉行俊郎, 徳永 昭, 水谷 崇, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 恩田昌彦: 胃癌患者の術後心合併症の予防: 血液検査 (NE, ANP, BNP測定) による心疾患のスクリーニング . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .
- 42) 山下直行<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 安孫子正美<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>2)</sup>, 竹之下誠一<sup>3)</sup>, 恩田昌彦(<sup>1)</sup>慈山会医学研究所付属坪井病院外科, <sup>2)</sup>同病理, <sup>3)</sup>福島県立医科大学第二外科): 上部に限局する胃癌の特徴 . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .
- 43) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 富樫晃祥, 徳永 昭: 残胃炎における胆



汁逆流および *Helicobacter pylori* の関与 . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .

- 44) 内田英二, 恩田昌彦, 松下 晃, 相本隆幸, 柳 健, 福原宗久, 廣井 信, 田尻 孝: 膀胱癌に対する tumor dormancy therapy : 血管新生抑制物質による治療実験 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 45) 廣井 信, 恩田昌彦, 内田英二, 相本隆幸, 福原宗久, 松下 晃, 柳 健, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 淺野伍朗<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 江上 格<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ): ハムスター実験膀胱癌モデルにおける N-[3, 4-Dimethoxycinnamoyl]-Anthranilic Acid ( Tranlast ) の抗腫瘍効果 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 46) 櫻澤信行, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 山下直行, 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 安孫子正美<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>1)</sup>, 恩田昌彦 ( <sup>1)</sup> 坪井病院 ): 扁平上皮癌, 印環細胞癌の同時性多発胃癌の1例 . 第88回日本消化器病学会総会 , 2002 . 4 .
- 47) 関田祥久<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 角岡真帆<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 篠澤 功<sup>1)</sup>, 田中周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 勝野 暁, 高崎秀明, 古川清憲, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 内科第3 ): 術前的小腸内視鏡で出血源を同定し得た多発腸管動脈奇形の1例 . 第269回日本消化器病学会関東支部例会, 2002 . 5 .
- 48) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 山下直行, 櫻澤信行, 岸本昌浩<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 坪井病院 ): 大腸癌同時性肝転移症例の治療成績 : 切除例を中心に . 第19回郡山外科懇話会, 2002 . 5 .
- 49) 川本聖郎, 恩田昌彦, 田尻 孝, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 有馬保生, 内田英二, 吉田 寛, 真々田裕宏, 相本隆幸, 奥田武志, 谷合信彦, 鶴田宏之, 清水哲也, 高橋 健, 新井政男, 梁 正彦<sup>1)</sup>, 滝沢隆雄 ( <sup>1)</sup> 三ノ輪病院外科 ): 十二指腸傍乳頭憩室穿孔の1例 . 第269回日本消化器病学会関東支部例会, 2002 . 5 .
- 50) 神田知洋, 田尻 孝, 水谷 崇, 新井政男, 菅 隼人, 源河敦史, 鈴木英之, 会田邦晴, 高崎秀明, 古川清憲: 大腸原発悪性ラブドイド腫瘍の1例 . 第785回外科集談会, 2002 . 6 .
- 51) 村越孝次<sup>1)</sup>, 仁科孝子<sup>1)</sup>, 江村隆起<sup>1)</sup>, 江上 聡, 小高哲郎<sup>1)</sup>, 石田治雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 都立八王子小児病院外科 ): 先天性横隔膜異常に合併する胃穿孔 . 第39回日本小児外科学会, 2002 . 6 .
- 52) 奥田武志, 徳永 昭, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 早期胃癌センチネルリンパ節の同定と微小転移の検討 . 第27回日本外科系連合学会学術集会, 2002 . 6 .
- 53) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 川野陽一, 水口義昭, 平方敦史, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 内藤善哉, 田尻 孝: 正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌, 転移性肝癌組織における炎症性サイトカインIL-8およびCOX2のmRNA発現レベルの相違 ( 第I報 ). 第38回日本肝臓学会総会, 2002 . 6 .
- 54) 増田剛太郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 高崎秀明, 富樫晃祥, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 恩田昌彦: 早期胃癌術後イレウス; 上腹部正中切開と山型横切開の比較 . 第27回日本外科系連合学会学術集会, 2002 . 6 .
- 55) 牧野浩司, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦, Edward G<sup>1)</sup>, Ramaswamy A<sup>1)</sup>, James J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ジョーンズ・ホプキンス大学病理部 ): Microarrayによる食道癌化学療法前後での感受性陽性例の遺伝子発現変化の検討 . 第56回食道疾患研究会 , 2002 . 6 .
- 56) 木山輝郎, 吉行俊郎, 奥田武志, 増田剛太郎, 徳永 昭, 松倉則夫, 田尻 孝, 恩田昌彦: 隆起型表層拡大型早期胃癌の1例 . 第74回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002 . 6 .
- 57) 野村 務, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 田尻 孝, 山下精彦: 食道癌に対する Transhiatal esophagectomy の検討 . 第56回食道疾患研究会 , 2002 . 6 .
- 58) 櫻澤信行, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 山下直行, 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 岩波 洋<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 安孫子正美<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 坪井病院 ): 胃癌手術の合併症の把握と安全性の向上 . 第141回東北外科集談会, 2002 . 6 .
- 59) 奥田武志, 徳永 昭, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻

- 孝：縮小手術のための早期胃癌センチネルリンパ節の同定と微小転移の検討．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 60) 吉行俊郎，木山輝郎，徳永 昭，水谷 崇，奥田武志，藤田逸郎，増田剛太郎，加藤俊二，松倉則夫，田尻孝：胃切除患者におけるクリニカルパスの臨床的意義．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 61) 吉村成子，恩田昌彦，田尻 孝，徳永 昭，高崎秀明，松田範子：レクリエーションダイビングにおける健康診断の問題点．第1回日本高気圧環境医学会関東地方会，2002．7．
- 62) 宮下正夫，恩田昌彦，野村 務，牧野浩司，丸山 弘，二見良平，笹島耕二，山下精彦，田尻 孝：T1b食道癌に対する標準術式：縦隔鏡補助下 Transhiatal esophagectomy．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 63) 源河敦史，恩田昌彦，古川清憲，美濃部かおり，古川恵子，有馬保生，樋口勝美：教室における炎症性乳癌の治療成績．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 64) 古川恵子，蒔田益次郎<sup>1)</sup>，五味直哉<sup>1)</sup>，堀 文子<sup>1)</sup>，西村誠一郎<sup>1)</sup>，小倉廣之<sup>1)</sup>，木村聖美<sup>1)</sup>，井下尚子<sup>1)</sup>，秋山 太<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，坂元吾偉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理，<sup>2)</sup>同乳腺外科)：乳管内視鏡所見と乳管内癌の病理組織亜型の対比．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 65) 古川清憲，恩田昌彦，源河敦史，美濃部かおり，古川恵子，有馬保生，樋口勝美：再発乳癌に対する Decetaxel, Pacilitaxel の使用成績．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 66) 湖山信篤<sup>1)</sup>，吉田初雄<sup>1)</sup>，山下直行，櫻澤信行，岸本昌浩<sup>1)</sup>，竹之下誠一<sup>1)</sup>，恩田昌彦(<sup>1)</sup>坪井病院)：大腸癌術後肺転移治療成績の検討．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 67) 佐久間浩<sup>3)</sup>，秋山 太<sup>1)</sup>，古川恵子，坂元吾偉<sup>1)</sup>，田中久美子，霞富士雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理，<sup>2)</sup>同乳腺外科，<sup>3)</sup>同超音波室)：非浸潤性乳管癌の超音波画像と病理組織亜型との対比．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 68) 小倉廣之<sup>1)</sup>，秋山 太<sup>1)</sup>，堀 文子<sup>1)</sup>，古川恵子，西村誠一郎<sup>1)</sup>，井下尚子<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，坂元吾偉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理，<sup>2)</sup>同乳腺外科)：乳癌原発巣とリンパ節における術前化学療法の影響の組織学的効果．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 69) 水口義昭，田尻 孝，横室茂樹，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，清水哲也，高橋 翼，秋丸琥甫：重症アルコール性肝硬変症に対し生体部分肝移植を行い良好な成績を得た1例．第20回日本肝移植研究会，2002．7．
- 70) 西村誠一郎<sup>1)</sup>，秋山 太<sup>1)</sup>，古川恵子，小倉廣之<sup>1)</sup>，堀 文子<sup>1)</sup>，井下尚子<sup>1)</sup>，坂元吾偉<sup>1)</sup>，高橋かおる<sup>2)</sup>，吉本賢隆<sup>2)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理，<sup>2)</sup>同乳腺外科)：針穿刺経路癌播腫に関する検討．第10回日本乳癌学会総会，2002．7．
- 71) 川野陽一，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，幕内雅敏<sup>1)</sup>，菅原寧彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東大大学院医学系研究科人工臓器・移植外科学)：TIPS施行後のアルコール性肝硬変症に生体部分肝移植を施行した1例．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 72) 川野陽一，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，平方敦史，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，河原崎秀雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>自治医大移植外科)：生体部分肝移植を施行した小児劇症肝不全の1例．第20回日本肝移植研究会，2002．7．
- 73) 川野陽一，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，平方敦史，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学)：肝細胞癌に対する ModifiedPMC療法．第24回リザーバー研究会，2002．7．
- 74) 谷合信彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，吉岡正人，峯田 章，平方敦史，川野陽一，水口義昭：劇症肝不全例に対する肝移植へのbridge use治療．第20回日本肝移植研究会，2002．7．
- 75) 徳永 昭，李 栄浩，増田剛太郎，吉行俊郎，木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，加藤俊二，松倉則夫，田尻孝：Billitec2000による幽門側胃切除後の逆流性胃・食道炎の評価，その治療．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．

- 76) 富樫晃祥, 松倉則夫, 加藤俊二, 鶴田宏之, 小野寺浩之, 増田剛太郎, 徳永 昭, 田尻 孝: 残胃における *Helicobacter pylori* 検出のための最適な 13C 尿素呼吸試験法の検討. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 77) 堀 文子<sup>1)</sup>, 西村誠一郎<sup>1)</sup>, 古川恵子, 小倉廣之<sup>1)</sup>, 井下尚子<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 靄富士雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理,<sup>2)</sup>同外科): 生検後乳癌における MRI の有用性. 第10回日本乳癌学会総会, 2002. 7.
- 78) 木山輝郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 胃切除患者における周術期栄養評価. 第39回日本外科代謝栄養学会, 2002. 7.
- 79) 木村聖美<sup>1)</sup>, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 小倉廣之<sup>1)</sup>, 西村誠一郎<sup>1)</sup>, 古川恵子, 靄富士雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研乳腺病理,<sup>2)</sup>同外科): 非浸潤性乳管癌 (DCIS) の広がり亜型と病理組織亜型の対比. 第10回日本乳癌学会総会, 2002. 7.
- 80) 野村 務, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 田尻 孝, 山下精彦: 食道癌に対する Transhiatal esophagectomy の検討. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 81) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 菅 隼人, 田中宣威: 腹腔鏡下大腸手術の術後経過と免疫応答の変化. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 82) 松久威史<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>病理第2): アジアにおける胃潰瘍, 十二指腸潰瘍の頻度と *Helicobacter pylori* 感染, 幽門部胃炎, 胃体部胃炎の関係. 潰瘍病態研究会第11回フォーラム, 2002. 8.
- 83) 加藤良人<sup>1)</sup>, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 張 雪君<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 大須賀 勝<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 柿沼大輔, 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝(<sup>1)</sup>内科学第1): 転移・再発ドーム下肝細胞癌に対し開胸縦横隔膜的ラジオ波凝固療法が有用であった1例. 第33回臨床肝臓懇話会, 2002. 9.
- 84) 駒崎敏昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 矢部 彩<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>2)</sup>, 寺田淑恵, 田尻 孝, 金 恩京<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター,<sup>2)</sup>老研分子生物,<sup>3)</sup>老研病理部): ヒト膵臓癌における JAK/STAT 系の抑制因子異常. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 85) 源河敦史, 田尻 孝, 古川清憲, 美濃部かおり, 古川恵子, 有馬保生, 樋口勝美: 再発乳癌に対する Docetaxel の外来投与の有用性について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 86) 古川清憲, 田尻 孝, 源河敦史, 美濃部かおり, 古川恵子, 有馬保生, 樋口勝美: 炎症性乳癌の治療について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 87) 江上 聡, 小高哲郎<sup>1)</sup>, 江村隆起<sup>1)</sup>, 村越孝次<sup>1)</sup>, 仁科孝子<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 橋都浩平<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>都立八王子小児病院外科,<sup>2)</sup>東京大学小児外科): 長期経過観察の後, 手術となった先天性十二指腸狭窄症の2例. 第786回外科集談会, 2002. 9.
- 88) 山初和也, 田尻 孝, 古川清憲, 有馬保生, 高崎秀明, 水谷 崇, 谷合信彦, 鶴田宏之, 川野陽一, 張 一光, 佐々木順平: 術前に診断が可能であった, 虫垂粘液嚢腫の1例. 第786回外科集談会, 2002. 9.
- 89) 松田範子, 田尻 孝, 加藤俊二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 松倉則夫, 内藤善哉: 残肝再発におよぼす正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌組織中の IL-8, COX2, HGF の mRNA 発現レベルと肝線維化との関連. 第13回日本消化器癌発生学会総会, 2002. 9.
- 90) 水口義昭, 田尻 孝, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高橋翼, 恩田昌彦, 秋丸琥甫: 肝内門脈走行異常を伴った肝細胞癌の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 91) 川東 豊, 田尻 孝, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永 昭, 奥田武志, 藤田逸郎, 松倉則夫, 内田英二, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦: 類天疱瘡に合併した表層拡大型胃癌の2例. 第271回日本消化器病学会関東支部例会, 2002. 9.
- 92) 浅川一枝<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 安藤 哲<sup>1)</sup>, 尾崎正行<sup>1)</sup>, 釜口晴美<sup>1)</sup>, 佐竹あかね<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 源河敦史, 川本雅司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部,<sup>2)</sup>病理学第1,<sup>3)</sup>病理学第2): 乳腺 Invasive Micropapillary Carcinoma の2例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 93) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二, 有馬保生, 秋丸琥甫: 十二指腸球後性輪状狭窄型膵癌の3例. 第33回日本膵

臓学会大会, 2002 . 9 .

- 94) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 富樫晃祥, 奥田武志, 藤田逸郎, 野村 務, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 若年者胃癌症例の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 95) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 会田邦晴, 横室茂樹, 中村慶春, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦: 切除不能膀胱領域腫瘍に対する胃内容堰き止めを伴う胃空腸吻合術. 第33回日本膀胱学会大会, 2002 . 9 .
- 96) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 丸山 弘, 牧野浩司, 野村 務, 笹島耕二, 館野 温<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線医学): Nedaplastin, 5-FU, Leukovorin, 放射線併用療法が奏効し, 血清中の血管内皮細胞増殖因子が低下した切除不能食道癌の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 97) 富樫晃祥, 田尻 孝, 加藤俊二, 鶴田宏之, 藤田逸郎, 徳永 昭, 松倉則夫: 残胃における *Helicobacter Pylori* 検出のための最適な<sup>13</sup>C尿素呼吸試験法の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 98) 野村 務, 田尻 孝, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 山下精彦: 食道癌に対する縦隔鏡補助下 Transhiatal esophagectomy の検討. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002 . 9 .
- 99) 朝長哲哉<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 古村 眞<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 江上 聡 (<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 小児期に発症した右肺原発 Solitary Fibrous Tumor の1切例. 第37回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2002 . 10 .
- 100) 江上 聡, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 古村 眞<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 消化管通過障害で, 緊急手術となった有嚢性横隔膜ヘルニアの1乳児例. 第37回日本小児外科関東甲信越地方会, 2002 . 10 .
- 101) 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 江上 聡, 有田英子<sup>1)</sup>, 花岡一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 小児癌末期患者に対する携帯PCAポンプによる塩酸モルヒネ静脈投与の経験. 第13回日本小児QOL研究会, 2002 . 10 .
- 102) 奥田武志, 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院病理部): c-kit 陽性消化管間質腫瘍 (GIST) の臨床病理学的特徴. 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 103) 加藤俊二, 田尻 孝, 松田範子, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 松倉則夫, 内藤善哉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第2): 正常肝, 硬変肝, 肝細胞癌組織中の IL-8, COX2, HGF の mRNA 発現レベルが残肝再発や手術成績におよぼす影響. 第10回 DDW - JAPAN (第6回日本肝臓学会大会), 2002 . 10 .
- 104) 会田邦晴, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 源河敦史, 菅 隼人, 高橋 健: 深部血栓症を合併した潰瘍性大腸炎の2例. 第57回日本大腸肛門病学会総会, 2002 . 10 .
- 105) 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 進行胃癌に対する補助化学療法としての経口抗癌剤 TS1 の安全性. 第40回日本癌治療学会総会, 2002 . 10 .
- 106) 吉行俊郎, 徳永 昭, 小野寺浩之, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 早期胃癌の治療成績. 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 107) 吉田 寛, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋 翼, 秋丸琥甫: 食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤結紮術の治療成績の検討. 第10回 DDW-JAPAN (第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002 . 10 .
- 108) 宮下正夫, 田尻 孝, 二見良平, 萩原信敏, 牧野浩司, 笹島耕二, 西 恵吾: p53 血清抗体検査による癌検診. 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 109) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 加藤博之<sup>1)</sup>, 山下直行 (<sup>1)</sup>坪井病院): 大腸癌検診精密検査を標的とした大腸内視鏡検査 (TCS) 受容性の検討. 第10回 DDW-JAPAN (第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002 . 10 .
- 110) 山下直行, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 日吉晴久<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 岸本昌浩<sup>1)</sup>, 和知栄子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 京野昭二<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 石川紀行<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>2)</sup>, 高橋由至<sup>2)</sup>, 山下精彦, 大秋美治<sup>3)</sup>, 田尻 孝 (<sup>1)</sup>坪井病院, <sup>2)</sup>千葉北総病

- 院外科,<sup>3)</sup>同病理部): 胃癌術後に結腸に孤立性再発をきたした2例. 第10回DDW-JAPAN(第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002. 10.
- 111) 松倉則夫, 田尻 孝, 加藤俊二, 富樫晃祥, 増田剛太郎, 鶴田宏之, 徳永 昭: 残胃粘膜のIL-8誘導に關する胆汁逆流と*H. pylori*の役割. 第44回日本消化器病学会大会, 2002. 10.
- 112) 松田範子, 田尻 孝, 加藤俊二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 松倉則夫, 秋丸琥甫, 徳永 昭, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 正常肝, 硬変肝細胞癌, 転移性肝癌組織におけるIL-8, COX2, HGF, Cytochrome p4502E1(CYP2E1)のmRNA発現の特徴. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 113) 水口義昭, 田尻 孝, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高橋 翼, 有馬保生, 秋丸琥甫: 閉塞性黄疸患者における減黄効果, 予後推定因子としてのextra cellular matrix血清中測定の意義. 第10回DDW - JAPAN(第6回日本肝臓学会大会), 2002. 10.
- 114) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 加藤俊二, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 水谷 崇, 鶴田宏之: 横行結腸の狭窄型虚血性大腸炎の1手術例. 第10回DDW-JAPAN(第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002. 10.
- 115) 生越喬二<sup>1)</sup>, 小柳泰久<sup>1)</sup>, 幕内博康<sup>1)</sup>, 落合武徳<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>1)</sup>, 関川敬義<sup>1)</sup>, 沖永功太<sup>1)</sup>, 平川弘聖<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 藤井政志<sup>1)</sup>, 鈴木孝雄<sup>1)</sup>, 飯沼久江<sup>1)</sup>, 加藤俊二(<sup>1)</sup>日本癌病態治療研究会): 胃癌のオーダーメイド治療を目指して: HLA-oriented Therapyの試み. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 116) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 川野陽一, 水口義昭: 肝移植へのbridge useとしての劇症肝不全症例に対する治療法. 第10回DDW - JAPAN(第6回日本肝臓学会大会), 2002. 10.
- 117) 藤田逸郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 増田剛太郎, 松倉則夫, 木山輝郎, 加藤俊二: 再発, 切除不能胃癌に対するTS-1有効性の検討. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 118) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 廣井 信, 福原宗久, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): PGHAM-1細胞によるハムスター実験肝癌モデル. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 119) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 残胃癌組織における染色体不安定性ならびにEB virusの關与. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 120) 富樫晃祥, 田尻 孝, 松倉則夫, 加藤俊二, 鶴田宏之, 増田剛太郎, 徳永 昭: 13C-UBTを用いた残胃*H. pylori*検出: 最適条件の検討. 第10回DDW-JAPAN(第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002. 10.
- 121) 牧野浩司, 田尻 孝, 笹島耕二, 宮下正夫, 山下精彦, Edward G<sup>1)</sup>, Ramaswamy A<sup>1)</sup>, James J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ジョーンズ・ホプキンス大学病理部): Microarrayによる食道癌の進展に關連する遺伝子の検索. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 122) 木山輝郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 創傷治癒に炎症反応は必要か: タクロリムスによる消化管吻合部治癒促進効果. 第57回日本大腸肛門病学会総会, 2002. 10.
- 123) 木山輝郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 胃癌術後早期退院のための栄養管理の工夫. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 124) 木山輝郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 胃切除クリニカルパスにおける栄養管理の工夫. 第44回日本消化器病学会大会, 2002. 10.
- 125) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 山下精彦: Argon plasma coagulationを用いた食道表在癌治療の検討. 第10回DDW-JAPAN(第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002. 10.
- 126) 鈴木英之, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 菅 隼人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫: 肝動注化学療法後治癒切除し得た大腸癌同時性多発肝転移の1例. 第57回日本大腸肛門病学会総会, 2002. 10.
- 127) 石川義典, 田尻 孝, 吉田 寛: 脱分化型を呈した後腹膜脂肪肉腫の1例. 第64回日本臨床外科学会総会,

- 2002 . 11 .
- 128) 江上 聡, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 当科における胆道閉鎖症術後肝内胆管拡張症例の検討: 過去10年間の症例を中心に. 第29回日本胆道閉鎖症研究会, 2002 . 11 .
- 129) 奥田武志, 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 水谷 崇, 横室茂樹, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 有馬保生, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): c-kit陽性消化管間質腫瘍(GIST)の治療. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 130) 柿沼大輔, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 高橋翼, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 内蔵逆転を伴う肝細胞癌の1切除例. 第34回日本肝臓学会東部会, 2002 . 11 .
- 131) 勝田美和子, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 二見良平, 増田剛太郎, 赤城一郎, 丸山 弘, 笹島耕二, 山下精彦: 周術期ステロイド投与を行ったACTH単独欠損症を有する食道癌の1例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 132) 加藤俊二, 田尻 孝, 徳永 昭, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌手術後の在院死症例の反省と抗癌剤TS-1使用による非切除症例の対比. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 133) 菅 隼人, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴: 大腸癌に対する外来5-FU/IV, 5-FU/IV. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 134) 杉山正彦<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 古村 眞<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 江上 聡(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 鼠径ヘルニアにおけるシルクサインの有用性(腹腔鏡対側検索と比較して). 第18回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2002 . 11 .
- 135) 杉山正彦<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 古村 眞<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 江上 聡(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 腎摘後に急速な肝・肺転移を認めたStager Wilms腫瘍の1例. 第18回小児ガン学会, 2002 . 11 .
- 136) 谷合信彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 高橋 翼, 清水哲也, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>, 幕内雅敏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学小児外科・移植外科, <sup>2)</sup>東京大学移植外科): 劇症肝不全症例に対する生体部分肝移植. 第34回日本肝臓学会東部会, 2002 . 11 .
- 137) 徳永 昭, 田尻 孝, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 木山輝郎, 高崎秀明, 松倉則夫, 松田範子, 森山雄吉, 恩田昌彦: 創傷治癒に対する高気圧酸素治療: 自験データとEvidenceの解析. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .
- 138) 藤田逸郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 松倉則夫: 残胃早期癌からみた術前内視鏡検査の意義. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 139) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 吉行俊郎, 奥田武志, 木山輝郎, 松倉則夫, 恩田昌彦, 百束比古<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>皮膚科): 高気圧酸素療法(HBO)の治療効果と経皮酸素分圧測定および血漿VEGFの関係. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .
- 140) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 松田範子, 奥田武志, 高崎秀明, 森山雄吉, 恩田昌彦: 下肢難治性潰瘍患者に対するTCM400による経皮酸素分圧モニターを試み. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .
- 141) 増田剛太郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 高崎秀明, 富樫晃祥, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝: 早期胃癌術後イレウス発生における上腹部正中切開法と山型横切開法との比較. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 142) 松田範子, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 松倉則夫, 徳永 昭, 森山雄吉, 吉村成子, 恩田昌彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 障害肝切除量の差による残肝再生の比較と高気圧酸素療法の影響. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .

- 143) 水口義昭, 田尻 孝, 加藤俊二, 横室茂樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高橋翼, 松田範子, 松倉則夫, 秋丸琥甫: 胆管細胞癌発症における組織中HGFmRNA発現量の検討. 第34回日本肝臓学会東部会, 2002. 11.
- 144) 吉行俊郎, 田尻 孝, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 徳永昭: 胃癌患者への十全大補湯の術前・術後投与による免疫栄養評価の改善効果. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 145) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 佐藤尚紀<sup>1)</sup>, 山下直行, 櫻澤信行<sup>(1)</sup>坪井病院): 大腸癌に対するLV/5FU療法とsecond-lineとしてのCPT-11/CDDP療法. 第6回福島BCM研究会, 2002. 11.
- 146) 高橋 健, 田尻 孝, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 山下精彦: 水疱性類天疱瘡を併存した食道扁平上皮癌の1例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 147) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 赤城一郎, 高橋 健, 勝田美和子, 丸山 弘, 牧野浩司, 野村 務, 笹島耕二: p53血清抗体陽性を示した食道悪性黒色腫の1症例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 148) 朝長哲哉<sup>1)</sup>, 江上 聡, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 杉山正彦<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部小児外科): 新生児・乳児期気管切開例10例の検討. 第13回日本小児呼吸器外科研究会, 2002. 12.
- 149) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 徳永 昭, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 松倉則夫, 内田英二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛: 急速に肉眼的形態の変化した表層浸潤を伴うIIc型類似進行胃癌の1例. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 150) 杉山正彦<sup>1)</sup>, 金森 豊<sup>1)</sup>, 朝長哲弥<sup>1)</sup>, 高安 肇<sup>1)</sup>, 橋都浩平<sup>1)</sup>, 江上 聡<sup>(1)</sup>東京大学医学部小児外科): 学童期になり感染を繰り返した気管支閉鎖の1例. 第13回日本小児呼吸器外科研究会, 2002. 12.
- 151) 野村 務, 田尻 孝, 宮下正夫, 笹島耕二, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 勝田美和子, 柏原 元, 山下精彦: Argon plasma coagulation施行後再発を認めた食道表在癌症例の検討. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 152) 林 良紀<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 杉浦敏昭<sup>1)</sup>, 川上明彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>内科学第3): 小児食道アカラシアの1例. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 153) 二見良平, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 笹島耕二: 食道癌術後遺残食道にパレット上皮化を認めた1例. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 154) 増田剛太郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 李 栄浩, 吉行俊郎, 富樫晃祥, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 幽門側胃切除患者に対する術後のアンケートとBilitec2000による胆汁逆流評価. 第32回胃外科・術後障害研究会, 2002. 12.
- 155) 湖山信篤<sup>1)</sup>, 山下直行, 櫻澤信行, 佐藤尚紀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>坪井病院): 上部胃癌(U)の特徴とその合理的対応. 第21回東京外科系臨床研究会学術集会, 2002. 12.
- 156) 木山輝郎, 田尻 孝, 吉行俊郎, 徳永 昭, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 松倉則夫, 内田英二, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛: 急速に肉眼的形態の変化した表層浸潤を伴うIIc類似進行胃癌の1例. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 157) 松田明久, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 会田邦晴, 菅 隼人, 鶴田宏之, 進士誠一: 結腸癌における転移陽性リンパ節個数と予後との関係. 第58回大腸癌研究会, 2003. 1.
- 158) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二: 自己免疫性膵炎の診断と治療. 日本医科大学医学会第109回例会, 2003. 2.
- 159) 奥田武志, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 杉崎祐一<sup>(1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病理部): 当教室における胃原発Gastrointestinal Mesenchymal Tumor切除例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 160) 高橋 翼, 水田耕一<sup>1)</sup>, 菱川修司<sup>1)</sup>, 北 嘉昭<sup>1)</sup>, 宇野武志<sup>1)</sup>, 田中宏幸<sup>1)</sup>, 河原崎秀雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>自治医科大学小児外科): 小児肝移植例における脾摘の検討. 第16回小児脾臓研究会, 2003. 2.

- 161) 高橋 翼, 田尻 孝, 鈴木英之, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷谷信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也: 肝動注化学療法後切除し得た大腸癌多発肝転移の2症例. 第25回リザーバー研究会, 2003. 2.
- 162) 宮下正夫, 田尻 孝, 二見良平, 柏原 元, 水谷 崇, 吉行俊郎, 野村 務, 牧野浩司, 徳永 昭, 山下精彦: 部位別にみた食道胃接合部癌の術後再発形式. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 163) 山村 進<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 福岡 猛<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>(1)</sup>北村山公立病院): 好酸球性食道炎の1例. 第174回日本消化器病学会地方会, 2003. 2.
- 164) 吉行俊郎, 田尻 孝, 徳永 昭, 増田剛太郎, 小野寺浩之, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 十全大補湯の術前・術後投与による胃癌患者の免疫・栄養指標の改善効果. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 165) 山本一仁<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 福岡 猛<sup>1)</sup>, 小野寺 浩之<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>(1)</sup>北村山公立病院外科): 術後臍膿瘍を呈した胆嚢大腸瘻合併総胆管結石症の1例. 日本消化器病学会第174回東北支部例会, 2003. 2.
- 166) 新見やよい<sup>1)</sup>, 吉野公二<sup>1)</sup>, 木村陽一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 二見良平, 宮下正夫, 田尻 孝<sup>(1)</sup>皮膚科): 血清p53抗体が陽性で, 胃癌が発見された水泡性類天疱瘡. 第66回日皮会東京支部学術大会, 2003. 2.
- (9) トピックス:
- 1) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 峯田 章, 平方敦史, 田久保海誉: 腹膜を用いた大静脈損傷の修復に関する実験的研究. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- (10) ビデオシンポ:
- 1) 山下直行, 吉田初雄<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 佐藤尚紀<sup>1)</sup>, 竹之下誠一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>(1)</sup>坪井病院外科, <sup>2)</sup>福島県立医大2外): 幽門側胃切除, B-1吻合における器械の有用性(胃手術における吻合法). 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- (11) ワ-クショップ:
- 1) 谷谷信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭: 生体肝移植周術期における抗凝固療法の工夫. 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002. 3.
- (12) 要望演題:
- 1) 木山輝郎, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 奥田武志, 藤田逸郎, 増田剛太郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻孝: 胃切除患者におけるクリニカルパスの臨床的意義. 第27回日本外科系連合学会学術集会, 2002. 6.

## [ 多摩永山病院外科 ]

### 研究概要

(1) 臨床における問題点を研究課題として, 研究結果を臨床ヘフィード・バックすることにより治療成績の向上をめざしている. 研究成果を学会発表し論評をうけ, さらにこれを学術雑誌に論文掲載することにより知識の整理, 問題解決の探究心を培う.

- 1) 中心的研究対象は肝・胆・膵疾患で消化管, 乳腺疾患などに加え, 侵襲による生体反応である.
- 2) 基礎的研究は病理学的, 分子生物学的手法を用い病理部との共同研究により消化器疾患を対象として行なっている.

各種悪性腫瘍の分子細胞遺伝子学的検討

定量的 real time RCR法を用いた新しい悪性腫瘍に対する遺伝子診断

- 3) 内視鏡下外科手術の術式の工夫, 手術成績向上への検討
- 4) 厚生労働省班研究「がんの社会学」



## 5) 日本がん臨床試験推進機構 (JACCRO) の新規臨床試験への参加実施

(2) 胸部疾患は肺癌, 肺良性腫瘍, 縦隔腫瘍 (胸腺腫など), 肺気腫, 自然気胸など年々増加の傾向を示し, 各疾患に対する鏡視下手術も積極的に取り入れ治療成績の向上を目指している. 血管病変は大動脈瘤をはじめ, 閉塞性動脈硬化症, Buerger病, 深部静脈血栓症, 下肢静脈瘤など血管外科領域に対する治療および臨床的研究を行い治療成績の向上に努めている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Kitayama H<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Ryu A<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Yamamoto H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Pathology, Tama-nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Dept. Neurosurgery, Tama-nagayama Hospital ): Amelanotic melanoma of the anterior mediastinum . J Jpn Soc Clin Cytol 2002 ; 41 ( 2 ): 106-111 .
- 2) Takubo K<sup>1)</sup>, Honma N<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1)</sup>, Izumiyama-Shimomura N<sup>1)</sup>, Kammori M<sup>1)</sup>, Sasajima K, Esaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Oncocytic adenocarcinoma of the stomach : parietal cell carcinoma . Am J Surg Pathol 2002 ; 26 ( 4 ): 458-465 .
- 3) Nakamura K<sup>1)</sup>, Izumiyama-Shimomura N<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1)</sup>, Aoyagi Y<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Tsuchiya E<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Oshimura M<sup>1)</sup>, Sasajima K, Nakachi K<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Comparative analysis of telomere lengths and erosion with age in human epidermis and lingual epithelium . J Invest Dermatol 2002 ; 119 ( 5 ): 1014-1019 .
- 4) Koizumi M, Onda M<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Yamada T<sup>2)</sup>, Takahashi Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery1, <sup>2)</sup> Dept. Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Antiangiogenic effect of octreotide inhibits the growth of human rectal neuroendocrine carcinoma . Digestion 2002 ; 65 ( 4 ): 200-206 .
- 5) Makino H<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Sasajima K, Miyashita M<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Nagasawa S<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Hagiwara N, Yamashita K<sup>1)</sup>, Takubo K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery1, <sup>2)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology ): Effectiveness of preoperative chemotherapy using carboplatin ( CBDCA ) and surgery against an esophageal small cell carcinoma . Dis Esophagus 2002 ; 15 ( 3 ): 237-241 .
- 6) Tsuchiya Y, Onda M<sup>1)</sup>, Sasajima K, Yamashita K<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Hagiwara N, Takubo K<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery1 ): Effects of preoperative chemotherapy on metastatic lymph nodes in esophageal squamous cell carcinoma . Dis Esophagus 2002 ; 15 ( 3 ): 226-231 .
- 7) Hiroi M, Onda M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Surgery1 ): Anti-tumor effect of N- [3. 4-dimethoxycinnamoyl] anthranilic acid ( tranilast ) on experimental pancreatic cancer . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 3 ): 224-234 .
- 8) Takeda S<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Okawa K, Miyashita M<sup>3)</sup>, Sasajima K, Tajiri T<sup>3)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Intensive Care Unit, <sup>2)</sup> Dept. Anesthesiology, <sup>3)</sup> Dept. Surgery1 ): Preoperative administration of methylprednisolone attenuates cytokine-induced respiratory failure after esophageal resection . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ): 16-20 .
- 9) 渡邊秀裕, 江上 格: 高齢者胃癌手術症例の特徴と問題点. 日本高齢者消化器医学会誌 2001 ; 3 ( 2 ): 43-48 .
- 10) 野村 務<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>1)</sup>, 杉浦敏昭<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 小林正文<sup>2)</sup>, 柏木秀幸<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科学第1, <sup>2)</sup> 内科学第3, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学 外科 ): 腹腔鏡を用いた食道アカラシア手術. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 2 ): 196-199 .
- 11) Sasajima K, Onda M, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Maruyama H, Matsutani T, Futami R, Ikezaki H, Takeda S, Takai K, Ogawa R : Role of L-selectin in the development of ventilator-associated

pneumonia in patients after major surgery . J Surg Res 2002 ; 105 ( 2 ) : 123-127 .

- 12) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Argon Plasma Coagulation ( APC ) による食道表在癌の治療 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ) : 383-385 .
- 13) 渡邊秀裕, 鈴木成治, 江上 格 : 前後期別にみた高齢者胃癌手術症例の検討 . 日本高齢者消化器医学会誌 2002 ; 4 ( 2 ) : 25-30 .
- 14) 長谷川博一, 江上 格 : 内視鏡的腸瘻術 ( PEJ ) の適応と実際 . 消化器の臨床 2002 ; 5 ( 3 ) : 321-325 .
- 15) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 阿部久美子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 飯田信也, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺硬癌に関する細胞学的, 組織学的検討 : 穿刺吸引細胞診でいかに正しく診断するか . 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 1 ) : 64-72 .
- 16) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 阿部久美子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 飯田信也, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺硬癌に関する細胞学的, 組織学的検討 : 穿刺吸引細胞診でいかに正しく診断するか . 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 1 ) : 64-72 .

## (2) 症例報告 :

- 1) 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 恩田昌彦 : 術前診断しえた閉鎖孔ヘルニアの1例 . 外科 2001 ; 63 ( 4 ) : 487-489 .
- 2) 土屋喜一, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 前田昭太郎 : effect of preoperative chemotherapy on metastatic lymph nodes in esophageal squamous cell carcinoma . Dis Esophagus 2002 ; 15 ( 3 ) : 226-231 .

## 著 書

- 1) Watanabe H, Egami K, Miyamoto M, Iida S, Fujita I, Suzuki S, Nakamura K, Teramoto T, Yoshioka M, Onda M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surgery1): [ 分担 ] Assessment and countermeasure in gastric cancer patients relapsed and died after curative operation . 4th International Gastric Cancer Congress ( Murray F. Brennan, MD ; Martin S. Karpeh, Jr. MD ), 2001 ; pp379-383, Monduzzi Editore .
- 2) Egami K, Tajiri T<sup>1)</sup>, Uchida E, Miyamoto M, Yokoyama T, Nakamura Y, Iida S, Hasegawa H, Okihama Y<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surgery1, <sup>2)</sup>Dept. Gastroenterology, Tama-nagayama Hospital): [ 共著 ] Pancreaticobiliary Maljunction : Its Etiological Role in Biliary Disease . Pancreaticobiliary Maljunction ( Y. Koyanagi, T. Aoki ), 2002 ; pp197-197, Igaku Tosho .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 山本英希, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久 : 自然気胸治療の問題点と対策 . 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .

### (2) 教育講演 :

- 1) 清水 一<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 原 博<sup>1)</sup>, 鈴木成治, 栗原雄司<sup>2)</sup>, 太田吉男<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子病理, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>3)</sup>同病理部): 細胞診に有用な分子生物学的解析手技の実際について . 第21回日本臨床細胞学会神奈川地方会, 2002 . 9 .

### (3) シンポジウム :

- 1) 渡邊秀裕, 江上 格 : 予後からみた高齢者胃癌手術症例の検討 . 第4回日本高齢消化器医学会議, 2002 . 1 .

(4) 一般講演 :

- 1) Nakamura Y, Egami K, Miyamoto M, Yokoyama T, Uchida E<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Surgery 1): A case of pancreatic insulinoma . 5th world congress of the international hepato-pancreato-biliary association , 2002 . 4 .
- 2) Yokoyama T, Egami K, Miyamoto M, Watanabe H, Hasegawa H, Iida S, Suzuki S, Nakamura T, Teramoto T, Okawa K, Takashima Y, Yoshioka M, Tajiri T, Onda M : Percutaneous and laparoscopic approaches of Radiofrequency ablation ( RFA ) treatment for liver cancer . 5th WORLD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL HEPATO-PANCREATO-BILIARY ASSOCIATION ( IHPBA ), 2002 . 4 .
- 3) Miyamoto M, Egami K, Watanabe H, Hasegawa H, Iida S, Suzuki S, Yokoyama T, Shimomura T, Ohkawa K, Hagiwara N, Hiroi S, Takashima Y, Fukuhara M, Tajiri T : LAPAROSCOPIC RADIOFREQUENCY ABLATION ( RFA ) WITH PERCUTANEOUS OR TRASDIAPHRAGMATIC APPROACH . ELSA2002 ( Tokyo, Japan ), 2002 . 9 .
- 4) Yokoyama T, Egami K, Watanabe H, Hasegawa H, Miyamoto M, Iida S, Suzuki S, Okawa K, Hiroi M, Takashima Y, Fukuhara M, Yamamura S, Tajiri T : LAPAROSCOPICALLY ASSISTED SURGERY FOR CONGENITAL BILE DUCT DILATATION. -REPORT OF TWO PEDIATRIC CASES . Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( ELSA, 2002 ), 2002 . 9 .
- 5) 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 福原宗久, 廣井 信, 山村 進, 相本隆幸, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 飯田信也, 鈴木成治, 寺本 忠, 萩原信敏, 松田 健, 江上 格 : 十二指腸洗浄液中K-ras変異解析およびCEA濃度測定 : 膵癌診断における有用性 . 第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001 . 5 .
- 6) 高島良樹, 江上 格, 渡辺秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 外科学第1): 当科における大腸癌肝転移治療とその予後 . 第64回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 7) Egami K, Nakamura Y, Wada M, Watanabe H, Iida S, Miyamoto M, Teramoto T, Yamamura S, Yoshioka M, Onda M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. Surgery1): Laparoscopic radiofrequency ablation ( RFA ) for the treatment of hepatic cancer . International Surgical Week 2001 ( Brussels, Belgium ), 2001 . 8 .
- 8) Miyamoto M<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Shimomura T<sup>1)</sup>, Ohkawa K<sup>1)</sup>, Takashima Y<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Japan, <sup>2)</sup> The 1st Department of Surgery, Nippon Medical School, Japan): Management Strategy of Laparoscopic Surgery for Common Bile Duct Stones . International Hepato-Biliary Pancreatic Surgery 2002 ( Tokyo, Japan ), 2002 . 4 .
- 9) Egami K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Shimomura S<sup>1)</sup>, Yamamura Y<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Japan, <sup>2)</sup> 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Japan): Clinicopathological study of Hilar Bile Duct Carcinoma . 5th WORLD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL HEPATO-PANCREATO-BILIARY ASSOCIATION ( Tokyo, Japan ), 2002 . 4 .
- 10) Yokoyama T<sup>1)</sup>, Egami K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>1)</sup>, Hasegawa H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Okawa K<sup>1)</sup>, Takashima Y<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Japan, <sup>2)</sup> 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Japan): Percutaneous and laparoscopic approaches of Radiofrequency ablation ( RFA ) treatment for liver cancer . 5th WORLD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL HEPATO-PANCREATO-BILIARY ASSOCIATION ( Tokyo, Japan ), 2002 . 4 .

- 11) Iida S, Egami K, Maeda S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Pathology, Tama-nagayama Hospital): A Study of Preoperative Chemotherapy Combined with Docetaxel and Epirubicin under Biweekly Administration in Our Department. Thai-Japanese Breast Cancer Conference ( Chiang Mai, Thailand ), 2002 . 8 .
- 12) Iida S, Egami K, Teramoto T, Watanabe H, Hasegawa H, Miyamoto M, Suzuki S, Yokoyama T, Okawa K, Hagiwara N, Takashima Y, Hiroi M, Fukuhara M, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surgery1): Analysis of Characteristics of Laparoscopically-assisted Colorectal Resection Compared with Open Resection. Congress of Endoscopic and Laparoscopic surgeons of Asia, 2002 ( ELSA, 2002)( Tokyo ), 2002 . 9 .
- 13) Miyamoto M, Egami K, Watanabe H, Hasegawa H, Iida S, Suzuki S, Yokoyama T, Shimomura T, Ohkawa K, Hagiwara N, Hiroi S, Takashima Y, Fukuhara M, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surgery1): A transdiaphragmatic approach through minithoracotomy facilitates tumor access when performing laparoscopic radiofrequency ablation. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( Tokyo, Japan ), 2002 . 9 .
- 14) Yokoyama T, Egami K, Watanabe H, Hasegawa H, Miyamoto M, Iida S, Suzuki S, Okawa K, Hiroi M, Takashima Y, Fukuhara M, Yamamura S, Tajiri T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. Surgery1): Laparoscopically assisted surgery for congenital bile duct dilatation -Report of two pediatric cases. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( Tokyo, Japan ), 2002 . 9 .
- 15) Miyamoto M, Egami K, Watanabe H, Hasegawa H, Iida S, Suzuki S, Yokoyama T, Shimomura T, Okawa K, Hagiwara N: Laparoscopic radiofrequency ablation ( RFA ) with percutaneous or transdiaph. ELSA 2002 ( Tokyo, Japan ), 2002 .
- 16) 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>1)</sup>, 大川敬一, 福原宗久, 廣井 信, 松下 晃<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 慢性膵炎に対する Frey 手術. 第63回日本臨床外科学会総会, 2001 . 10 .
- 17) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): リンパ節転移と予後との対比からみた早期胃癌手術のあり方. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 18) 長谷川博一, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>外科学第1): 早期胃癌リンパ節転移陽性率よりみた腹腔鏡下胃手術の適応と問題点. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 19) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): アポトーシス関連蛋白 ( bcl-2 · bcl-6 · p53 ) 及び MIB-1 発現からみた胃原発非 MALT 型 B cell lymphoma の検討. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 20) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 中村 孝, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹: 高齢者胃癌の手術治療と予後. 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 21) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): MALT lymphoma 成分の含有度と各種蛋白発現からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 22) 廣井 信, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 福原宗久, 松下 晃<sup>1)</sup>, 柳 健<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): ハムスター実験膵癌モデルにおける N-[3, 4-dimethoxycinnamoyl]anthranilic acid ( tranilast ) の抗腫瘍効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 23) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 細根 勝<sup>1)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): アポトーシス関連蛋白発現からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断・治療に関する検討.

第11回日本癌病態治療研究会, 2002. 6.

- 24) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 福原宗久: 胃癌における多重癌の臨床. 第27回日本外科系連合学会学術集会, 2002. 6.
- 25) 飯田信也, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 鈴木成治, 横山 正, 寺本 忠, 高島良樹, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 当科における Docetaxel/Epirubicin 併用 biweekly 術前化学療法の検討. 第10回日本乳癌学会総会, 2002. 7.
- 26) 横山 正, 江上 格, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 中村 孝, 鈴木成治, 下村隆保, 寺本 忠, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 呼吸不全および全身衰弱を来した巨大葉状腫瘍の1切除例. 第10回日本乳癌学会総会, 2002. 7.
- 27) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): KIT, PDGFR 発現からみた胃 GIST 症例の検討. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 28) 福原宗久, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): トロトラスト肝障害によると考えられる肝腫瘍の1例. 第65回城西外科研究会, 2002. 9.
- 29) 宮本昌之, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 鏡視下 RFA における小開胸, 経横隔膜のアプローチの意義. 第21回 Microwave Surgery 研究会, 2002. 9.
- 30) 川野記代子<sup>1)</sup>, 秋山裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 飯田信也, 江上 格, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): Hercep Test の基礎的検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 31) 長谷川博一, 江上 格, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 多摩永山病院における胃癌手術成績の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 32) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発 GIST の診断・治療に関する検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 33) 土屋喜一, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 骨盤内臓器の合併切除を行なった大腸癌症例の臨床的検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 34) 廣井 信, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 山本英希, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久: 肝癌のラジオ波熱凝固療法症例の検討(第2報): アプローチ困難例に対する工夫. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 35) 山本英希, 松島申治, 萩原信敏, 江上 格, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2): 胸壁腫瘍の形をとった肉腫型悪性中皮腫. 第123回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 9.
- 36) 長谷川博一, 江上 格, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 末岡伸夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神保町消化器科・内科): 腹腔鏡下胃手術における色素法を用いた電子拡大内視鏡診断の実用性. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 37) 福原宗久, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井 信, 高島良樹, 有馬保夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 胆嚢癌症例における腹腔鏡下胆嚢摘出術施行症例と開腹胆嚢摘出術施行症例との比較. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 38) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 下村隆保, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井

- 信, 高島良樹, 福原宗久, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 各種蛋白発現及び MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の診断・治療に関する検討 . 第 44 回日本消化器病学会大会, 2002 . 10 .
- 39) 横山 正, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 内田英二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第 1 ): 胆管拡張を合併しない膵・胆管合流異常症例の検討 : 胆道癌合併例を中心として . 第 25 回日本膵管胆道合流異常研究会, 2002 . 10 .
- 40) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部 ): アボトーシス関連蛋白発現・MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の病理診断・治療に関する検討 . 第 61 回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 41) 渡邊秀裕, 鈴木成治, 江上 格 : 年代別にみた胃癌切除例の検討 . 第 61 回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 42) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博, 進士誠一<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>病理学第 2, <sup>3)</sup>外科学第 1 ): 進行大腸癌における Lumican の発現 . 第 61 回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 43) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 消化管原発 Diffuse large B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討 . 第 40 回日本癌治療学会総会, 2002 . 10 .
- 44) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治 : 治癒切除術後の再発死亡例からみた胃癌治療の問題点 . 第 40 回日本癌治療学会総会, 2002 . 10 .
- 45) 宮本昌之 : C. C. C. と鑑別困難であった肝門部 H. C. C. の 1 例 . 第 1 回多摩肝胆膵クラブ, 2002 . 10 .
- 46) 横山 正, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 廣井 信, 福原宗久 : 胆管穿孔を伴った先天性総胆管拡張性 ( 戸谷 IVa ) の 1 例 . 第 37 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2002 . 10 .
- 47) 小泉岐博, 江上 格, 渡邊秀裕, 笹島耕二, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 土屋喜一, 高島良樹, 福原宗久 : 当科における大腸低分化型腺癌症例の検討 . 第 15 回多摩大腸疾患懇話会, 2002 . 11 .
- 48) 渡邊秀裕, 江上 格, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 福原宗久 : 後期高齢者胃癌の年代推移 : 切除例での検討 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 49) 飯田信也, 江上 格, 長谷川博一, 山本英希, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 萩原信敏, 高島良樹, 廣井 信, 福原宗久, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第 1 ): 当科における Epirubicin/Docetaxel 併用 biweekly 術前化学療法法の検討 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 50) 高島良樹, 江上 格, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井 信, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第 1 ): 当科における大腸癌肝転移治療とその予後 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 51) 鈴木成治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部 ): 悪性度からみた胃原発性 GIST 症例の臨床病理学的検討 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 52) 横山 正, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 大川敬一, 萩原信敏, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第 1 ): 化学療法が奏功した原発巣不明未分化癌の 2 症例 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .
- 53) 大川敬一, 江上 格, 萩原信敏, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 下村隆保, 廣井 信, 高島良樹, 福原宗久 : 大腸低分化型腺癌における臨床病理学的検討 . 第 64 回日本臨床外科学会総会, 2002 . 11 .

- 54) 山本英希, 松島申治, 江上 格, 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2): 肺・縦隔疾患における術中免疫染色併用迅速診断の試み. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 55) 小泉岐博, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下胆嚢摘出時の落下結石により術後4年目に腹壁膿瘍を形成した1例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 56) 飯田信也: 当科における Docetaxel/Epirubicin 併用 biweekly 術前化学療法の検討. 第11回多摩乳腺懇話会, 2002. 11.
- 57) 横山 正: 当科における肝癌の腹腔鏡下 MCT・RFA 療法の適応と手段について. 第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002. 12.
- 58) 横山 正, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 大川敬一, 廣井信, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久: 肝癌ラジオ波凝固療法におけるアプローチ法の検討. 第22回多摩消化器シンポジウムプログラム, 2003. 1.
- 59) 大川敬一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 廣井信, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久: 大腸癌肝転移の検討. 第22回多摩消化器シンポジウム, 2003. 1.
- 60) 渡邊秀裕, 江上 格, 鈴木成治: 高齢者胃癌症例における重複癌. 第5回日本高齢消化器医学会議, 2003. 1.
- 61) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 廣井 信, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第2): S字状結腸脾転移に対する腹腔鏡下脾臓摘出術. 第11回クリニカル・ビデオフォーラム, 2003. 1.
- 62) 宮本昌之, 笹島耕二, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 山本英希, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 廣井 信, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久, 江上 格: 当科における総胆管結石症の治癒戦略: 腹腔鏡下手術を中心に. 第3回多摩消化器手術手技研究会, 2003. 2.
- 63) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一: 高齢者胃癌手術治療の留意点. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 64) 長谷川博一, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 飯田信也, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一, 末岡伸夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>神保町消化器科・内科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胃癌縮小手術における術前電子拡大内視鏡診断の有用性. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 65) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 横山 正, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖濱裕司<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格(<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): MIB-1 index からみた胃原発性GIST症例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 66) 廣井 信, 江上 格, 笹島耕二, 松島申治, 渡邊秀裕, 長谷川博一, 宮本昌之, 山本英希, 飯田信也, 横山 正, 鈴木成治, 大川敬一, 土屋喜一, 高島良樹, 小泉岐博, 福原宗久: 脾癒合不全に発症した急性脾炎の1例: 随伴性脾仮性嚢胞に対するドレナージ法について. 第2回多摩肝胆膵クラブ, 2003. 3.

## [ 多摩永山病院消化器科 ]

### 研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし, それらに関する研究と, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している. 現在, 消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている.

- 1) 日常診療では, 地域中核病院でもある当院の性格を活かし, 消化管出血や閉塞性黄疸など多くの救急患者を受け入れるとともに, 上部および下部消化管の内視鏡検査など検査診断技術の向上に努めている.
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている. 早期癌の内視鏡的治療, 総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努力している.

- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法（5-ASA 注腸療法など）を中心とした臨床研究を続けている。また、潰瘍性大腸炎に対する白血球（顆粒球）吸着療法やステロイド動注療法の症例を蓄積している。
- 4) イレウス、腹膜炎など、急性腹症の病態と治療について、研究を継続中である。
- 5) 肝硬変症、門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により、放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている。
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法、肝細胞癌に対する治療についても、症例を蓄積中である。
- 7) GERD（Gastro-esophageal Reflux Disease）についての臨床研究を継続している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 松田 健, 永嶋裕司, 高島良樹, 柳 健, 沖濱裕司, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院 外科,<sup>2)</sup>外科学第1): 胃内視鏡の粘膜切除術の検討。多摩消化器シンポジウム誌 2002 ; 16 (1): 40-45 .
- 2) 平本義浩, 松田 健, 沖濱裕司, 永嶋裕司, 江上 格<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する5アミノサリチル酸注腸療法。多摩消化器シンポジウム誌 2003 ; 17 : 14-17 .

#### (2) 綜説：

- 1) 松田 健：過敏性腸症候群。J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (5): 508-508 .

### 学会発表

〔 2001 年度追加分 〕

#### 一般講演：

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 松田 健, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>3)</sup>, 山田宣孝<sup>4)</sup>, Surasak B<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>同千葉北総病院小児科,<sup>3)</sup>同外科学第1,<sup>4)</sup>病理学第2,<sup>5)</sup>チェンマイ大学家庭医学): タイ人小児における *Helicobacter pylori* 感染：日本人小児との比較。第7回日本ヘリコバクター学会, 2001 . 6 .

#### (1) 一般講演：

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 松田 健, 桑原健太郎<sup>2)</sup>, 松倉則夫<sup>3)</sup>, 山田宣孝<sup>4)</sup>, Surasak B<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科,<sup>2)</sup>千葉北総病院小児科,<sup>3)</sup>外科学第1,<sup>4)</sup>病理学第2, チェンマイ大学家庭科医学): タイ人小児における *Helicobacter pylori* 感染：日本人小児との比較。第7回日本ヘリコバクター学会, 2001 . 6 .
- 2) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): アポトーシス関連蛋白 ( bcl-2・bcl-6・p53 ) 及びMIB-1発現からみた胃原発非 B cell lymphoma の検討。第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 3) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): アポトーシス関連蛋白 ( bcl-2・bcl-6・p53 ) 及びMIB-1発現からみた胃原発非 MALT 型 B cell lymphoma の検討。第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 4) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>同病理部): KIT, PDGFR発現からみた胃原発GIST症例の検討。第57回日本消化器外科学会総会, 2002 . 7 .
- 5) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 沖濱祐司, 松田 健, 前田昭



- 太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): KIT, PDGFR発現からみた胃原発GIST症例の検討. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 6) 松田 健, 坂東功一, 廣瀬洋一郎, 秋谷行宏, 沖濱裕司, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 孤立性潰瘍発症後に隆起性病変を併発し2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 7) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発GISTの診断・治療に関する検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 8) 松田 健, 坂東功一, 廣瀬洋一郎, 秋谷行宏, 沖濱裕司, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 孤立性潰瘍発症後に隆起性病変を併発し2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 9) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 沖濱裕司, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発GISTの診断・治療に関する検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 10) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部) アポトーシス関連蛋白発現・MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の病理診断・治療に関する検討. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 11) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 各種蛋白発現及び MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の診断・治療に関する検討. 第10回DDW-JAPAN (第44回日本消化器病学会大会), 2002. 10.
- 12) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 消化管原発 Diffuse large B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学検討. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 13) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 沖濱祐司, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 各種蛋白発現及び MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の診断・治療に関する検討. 第44回日本消化器病学会大会 (DDW-Japan 2002), 2002. 10.
- 14) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱祐司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 消化管原発 Diffuse large B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 15) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 沖濱祐司, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): アポトーシス関連蛋白発現・MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の病理診断・治療に関する検討. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 16) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松田 健, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発性GIST症例の臨床病理学的検討. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 17) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱祐司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科,

- 2)同病理部): 悪性度からみた胃原発性GIST症例の臨床病理学的検討. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 18) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): MIB-1 index からみた胃原発性GIST症例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 19) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): MIB-1 index からみた胃原発性 GIST 症例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 20) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 川並汪一<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>老人病研究所分子病理, <sup>4)</sup>外科学第1): Microsatellite marker を用いた定量的 real time PCR 法による胃癌組織のDNAコピー数の検出と genetic instability に関する検討. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 3.
- 21) 松田 健, 坂東功一, 秋谷行宏, 沖濱裕司, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 2型直腸癌との鑑別を要した直腸粘膜脱症候群の1例. 第89回日本消化器病学会総会, 2003. 3.
- 22) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, Mohamad G<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 松田 健, 沖濱裕司, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>外科学第1): 定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織のDNAコピー数と臨床予後に関する検討. 第103回日本外科学会定期学術集会, 2003. 6.

## [ 千葉北総病院外科 ]

### 研究概要

消化器外科および一般外科領域における基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. また千葉県北部地区の学会, 研究会にも積極的に参加し, その重責を担っている.

1. 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対する外科的治療とともに化学療法を組み合わせた集学的治療を行い, 患者の延命とQOLの向上を図り良好な成績を得ている.

2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.

3. 腹腔鏡下手術については胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌, 早期大腸癌, また進行癌にも適応拡大し, 手技の改良とともに低侵襲手術の導入を積極的に行ない評価を得ている.

4. 乳癌症例の増加に伴い手術例数の増加, 適応に準じた縮小手術の積極的な導入, 進行乳癌に対する化学内分泌療法により乳癌患者のQOLの向上に努めている.

5. 消化器癌を中心として病理学的・分子生物学的手法を用いた癌の生物学的特性に関する研究を行い国際学会をはじめ学会発表とともに内外の学会誌, 専門誌へ発表している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Koizumi Y<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Seya T<sup>2)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Takahashi Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of 1st Surg., Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Dept. of Surg., Chiba Hokusoh Hp., Nippon Medical School): Antiangiogenic Effect of Octreotide Inhibits the Growth of Human Rectal Neuroendocrine Carcinoma. Digestion 2002; 65(4): 200-206.

- 2) Gonzales AA, Segura AM, Horiba K, Qian S, Yu ZX, Stetler-Stevenson W, Willerson JT, McAllister HA J (<sup>1</sup>NHLBI, National Institutes of Health): Matrix metalloproteinases and their tissue inhibitors in the lesions of cardiac and pulmonary sarcoidosis: an immunohistochemical study. Human Pathology. 2002; 33 (12): 1158-1164.

#### 学会発表

##### (1) フォーラムセッション:

- 1) 工藤秀徳, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 高橋 翼<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 山下精彦, 田中宣威, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1): 滑脱型食道裂孔ヘルニアにて胸腔内に胃がある症例に対するPTEG施行経験と合併症(合併症, 偶発症とその対策: 問題解決のための症例提示とディスカッション). 第2回日本PTEG研究会, 2003. 2.

##### (2) 一般講演:

- 1) Seya T, Tanaka N, Takahashi Y, Shinji S, Yamashita K, Yokoi K, Ishiwata T, Naitoh Z: Expression of lumican in colorectal cancer with liver metastasis. 18th United International Cancer Congress (Oslo, Norway), 2002. 6.
- 2) Tanaka N, Seya T, Yamashita K, Yokoi K, Takahashi Y, Koizumi M, Horiba K, Shinji S, Tajiri T, Naito Z, Oaki Y: Expression of matrix metalloproteinase-9 in gastric cancer. 10th United European Gastroenterology Week, 2002. 10.
- 3) 高橋 翼, 山下精彦, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 堀場光二, 白川 毅, 瀧田雅仁, 高橋由至, 坂東功一, 小泉岐博, 峯田 章, 寺田淑恵, 松田明久(<sup>1</sup>外科学第1): 原発性十二指腸印環細胞癌の1例. 第267回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 4) 進士誠一, 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 高橋由至, 小泉岐博, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 進行大腸癌におけるルミカンの発現意義. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 5) 瀬谷知子, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例におけるLumicanの発現. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 6) 京野昭二, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 瀧田雅仁, 白川 毅, 高橋由至, 坂東功一, 小泉岐博, 峯田 章, 寺田淑恵, 松田明久, 勝野 暁, 山下精彦: 早期胃癌の治療法の選択: とくにEMRの適応について. 第64回日本消化器内視鏡学会総会, 2002. 10.
- 7) 横井公良, 田中宣威, 京野昭二, 石川紀行, 瀬谷知子, 白川 毅, 高橋由至, 山下精彦, 大秋美治<sup>1)</sup>, 松本智司, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第1): STI571が奏効した再発小腸GISTの1例. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 8) 高橋由至, 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 横井公良, 堀場光二, 小泉岐博, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 進行胃癌におけるルミカンの発現についての検討. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 9) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 堀場光二, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 進行大腸癌におけるLumicanの発現. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 10) 瀧田雅仁, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 白川 毅, 坂東功一, 高橋由至, 小泉岐博, 峯田 章, 寺田淑恵, 松田明久, 勝野 暁, 山下精彦: 腹腔鏡下胃局所切除術後の経過中に早期食道癌を合併した1例. 第10回DDW-JAPAN (第64回日本消化器内視鏡学会総会), 2002. 10.
- 11) 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 横井公良, 堀場光二, 高橋由至, 小泉岐博, 進士誠一, 大秋美治<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>外科学第1): 胃癌におけるMMP-9発現の意義.

第61回日本癌学会総会，2002．10．

- 12) 石川紀行，田中宣威，京野昭二，横井公良，瀬谷知子，堀場光二，白川 毅，瀧田雅仁，小泉岐博，高橋由至，坂東功一，峯田 章，寺田淑恵，山下精彦，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): Paclitaxelと5'-DFURとの併用療法が効果的であった乳癌肺転移の1症例．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 13) 小泉岐博，田中宣威，京野昭二，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，瀧田雅仁，高橋由至，峯田 章，寺田淑恵，山下精彦，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 腹腔鏡下胆嚢摘出術時の落下結石により術後4年目に腹壁膿瘍を形成した1例．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 14) 峯田 章，田中宣威，京野昭二，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，瀧田雅仁，高橋由至，山下精彦，田尻 孝<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>2)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>千葉北総病院病理): 右中咽頭(扁桃)に転移を来した胆嚢癌の1例．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 15) Seya T<sup>1)</sup>，Tanaka N<sup>1)</sup>，Takahashi Y<sup>1)</sup>，Shinji S<sup>1)</sup>，Yamashita K<sup>1)</sup>，Yokoi K<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Zenya N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hp, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Dept. of Pathol, Nippon Medical School): Expression of lumican in colorectal cancer with liver metastasis．18th United International Cancer Congress (Oslo, Norway), 2002．6．
- 16) Tanaka N<sup>1)</sup>，Seya T<sup>1)</sup>，Shinji S<sup>1)</sup>，Koizumi M<sup>1)</sup>，Takahashi Y<sup>1)</sup>，Yokoi K<sup>1)</sup>，Yamashita K<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Naitoh Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hp, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Dept. of Pathol, Nippon Medical School): Expression of lumican in advanced colorectal cancer．18th United International Cancer Congress (Oslo, Norway), 2002．6．
- 17) Seya T<sup>1)</sup>，Tanaka N<sup>1)</sup>，Yokoi K<sup>1)</sup>，Horiba K<sup>1)</sup>，Takahashi Y<sup>1)</sup>，Koizumi M<sup>1)</sup>，Shinji S<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Naitoh Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hosp, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Dept. of Pathol, Nippon Medical School): Lumican expression in advanced colorectal cancer．10th United European Gastroenterology Week (Geneve, Switzerland), 2002．10．
- 18) Takahashi Y<sup>1)</sup>，Tanaka N<sup>1)</sup>，Seya T<sup>1)</sup>，Yamashita K<sup>1)</sup>，Kyono S<sup>1)</sup>，Yokoi K<sup>1)</sup>，Koizumi M<sup>1)</sup>，Ishiwata T<sup>2)</sup>，Naitoh Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hp, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Dept. of pathol, Nippon Medical School): Lumican expression in advanced gastric cancer．10th United European Gastroenterology Week (Geneve, Switzerland), 2002．10．
- 19) Tanaka N<sup>1)</sup>，Seya T<sup>1)</sup>，Yamashita K<sup>1)</sup>，Yokoi K<sup>1)</sup>，Takahashi Y<sup>1)</sup>，Koizumi M<sup>1)</sup>，Horiba K<sup>1)</sup>，Shinji S<sup>1)</sup>，Tajiri T<sup>2)</sup>，Naito Z<sup>3)</sup>，Oaki Y<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hp, Nippon Medical School，<sup>2)</sup>Dept. of Surg, Chiba Hokusoh Hp, Nippon Medical School，<sup>3)</sup>Dept. of Pathol, Nippon Medical School): Expression of matrix metalloproteinase-9 in gastric cancer．10th United European Gastroenterology Week (Geneve, Switzerland), 2002．10．
- 20) 瀬谷知子，田中宣威，山下精彦，京野昭二，横井公良，石川紀行，高橋由至，小泉岐博，進士誠一，恩田昌彦<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>，大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1，<sup>2)</sup>病理第2，<sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 大腸癌肝転移症例におけるLumicanの発現．第102回外科学会総会，2002．4．
- 21) 進士誠一，田中宣威，瀬谷知子，山下精彦，京野昭二，横井公良，石川紀行，高橋由至，小泉岐博，恩田昌彦<sup>1)</sup>，石渡俊行<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>，大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1，<sup>2)</sup>病理第2，<sup>3)</sup>千葉北総病院病理): 進行大腸癌におけるルミカンの発現意義．第102回外科学会総会，2002．4．
- 22) 横井公良，田中宣威，山下精彦，京野昭二，石川紀行，瀬谷知子，大秋美治<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>外科第1): GIST17例の臨床病理学的検討．第57回日本消化器外科学会総会，2002．7．
- 23) 瀬谷知子，田中宣威，横井公良，堀場光二，高橋由至，小泉岐博，進士誠一，石渡俊行<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，田尻孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2，<sup>2)</sup>外科第1): 進行大腸癌におけるLumicanの発現．第61回日本癌学会総会，2002．10．
- 24) 田中宣威，瀬谷知子，山下精彦，横井公良，堀場光二，高橋由至，小泉岐博，進士誠一，大秋美治<sup>1)</sup>，田尻

- 孝<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>病理第2): 胃癌における MMP - 9 発現の意義. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 25) 高橋由至, 田中宣威, 瀬谷知子, 山下精彦, 横井公良, 堀場光二, 小泉岐博, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 田尻孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>外科第1): 進行胃癌におけるルミカンの発現についての検討. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 26) 瀧田雅仁, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 白川 毅, 坂東功一, 高橋由至, 小泉岐博, 峯田 章, 寺田淑恵, 松田明久, 勝野 暁, 山下精彦: 腹腔鏡下胃局所切除術後の経過中に早期食道癌を合併した1例. 日本消化器内視鏡学会総会, 2002. 10.
- 27) 京野昭二, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 瀧田雅仁, 白川 毅, 高橋由至, 坂東功一, 小泉岐博, 峯田 章, 寺田淑恵, 松田明久, 勝野 暁, 山下精彦: 早期胃癌の治療法の選択: とくにEMRの適応について. 日本消化器内視鏡学会総会, 2002. 10.
- 28) 石川紀行, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 白川 毅, 瀧田雅仁, 小泉岐博, 高橋由至, 坂東功一, 峯田 章, 寺田淑恵, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): Paclitaxelおよび5-DFURとの併用療法が効果的であった乳癌肺転移の1症例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 29) 峯田 章, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 瀧田雅仁, 高橋由行, 山下精彦, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>同病理部): 右中咽頭(扁桃)に転移を来した胆嚢癌の1例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 30) 小泉岐博, 田中宣威, 山下精彦, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 白川 毅, 瀧田雅仁, 高橋由行, 坂東功一, 峯田 章, 寺田淑恵, 田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1): 腹腔鏡下胆嚢摘出術の落下結石により術後4年目に腹壁膿瘍を形成した1例. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 31) 工藤秀徳, <sup>1)</sup>加藤俊二, <sup>1)</sup>高橋 翼, <sup>1)</sup>会田邦晴, <sup>1)</sup>山下精彦, 田中宣威, <sup>1)</sup>田尻 孝(<sup>1)</sup>外科第1): 滑脱型食道裂孔ヘルニアにて胸腔内に胃がある症例に対するPTEG施行経験と合併症. 第2回PTEG研究会, 2003. 2.
- 32) 工藤秀徳, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, <sup>1)</sup>田尻 孝(<sup>1)</sup>外科第1): 早期直腸癌に対する経肛門切除術の一工夫. 第788回外科集談会, 2003. 3.

## 10．外科学第二講座

### [ 付属病院第 2外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科，第二病院外科，第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院胸部外科の各施設において教育，研究，診療を担っている．付属病院第二外科では，以下の項目を重点的に研究している．

1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている．虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている．胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる．

2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間200例の手術を施行している．肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢化，低肺機能，心疾患を有する予備力低下症例に適応し良好な結果をあげ国内外で高い評価を受けている．併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌治療の研究を区内外積極的に行っている．さらに肺縦隔良性疾患，多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実践し社会的に貢献できている．

3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間約180例の手術を行っている．特に内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式の Video assisted neck surgery (VANS法) を国内外で最も早く取り組み高度先進医療として国から認められている．全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表も頻回に行っている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ascione R<sup>2)</sup>, Iannelli G<sup>3)</sup>, Lim KH<sup>2)</sup>, Imura H<sup>1)</sup>, Spampinato N<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup> Bristol Royal Infirmary, <sup>3)</sup> University of Federico II of Naples ): one-stage coronary and abdominal aortic operation with or without cardiopulmonary bypass : early and midterm follow-up . Ann Thorac Surg 2001 ; 72 ( 3 ): 768-774 .
- 2) Tamura K<sup>1)</sup>, Iida T<sup>2)</sup>, Fujii T<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Asano G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Second Department of Surgery, Nippon Medical School ): Floppy Aortic Valves Without Aortic Root Dilatation : Clinical, Histologic, and Ultrastructural Studies . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 355-364 .
- 3) Yamauchi H, Imura H, Maruyama Y, Sakamoto S, Saji Y, Ishii Y, Iwaki H, Uchikoba Y<sup>1)</sup>, Fukumi D<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School ): Evolution of Staged Approach for Fontan Operation . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 2 ): 154-159 .
- 4) Johnson GB<sup>1)</sup>, Brunn GJ<sup>2)</sup>, Kodaira Y, Platt JL<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Immunology Mayo Clinic, <sup>2)</sup> Dept. Surgery Mayo Clinic, <sup>3)</sup> Dept. Immunology Surgery, Pediatrics Mayo Clinic ): Receptor-mediated monitoring of tissue well-being via detection of soluble heparan sulfate by Toll-like receptor4 . J Immunology 2002 ; 168 ( 10 ): 5233-5239 .
- 5) Kitagawa W, Shimizu K, Kumita S<sup>1)</sup>, Akasu H, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup> Department of Radiology ):

Radio-Guided Parathyroidectomy for Primary Hyperparathyroidism Combined With Video-Assisted Surgery Using the Solid-state, Multi-Crystal Gamma Camera . J Surg Oncol 2002 ; 80 ( 3 ) : 173-175 .

- 6 ) Imura H<sup>1)</sup>, Ayres BE<sup>2)</sup>, Suleiman MS<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>Bristol Hears Institute ): Purine Metabolism and Release during Cardioprotection with hyperkalemia and hypothermia . Mol Cell Biochem 2002 ; 237 ( 1-2 ) : 119-127 .
- 7 ) Caputo M<sup>1)</sup>, Modi P<sup>1)</sup>, Imura H<sup>2)</sup>, Pawade A<sup>1)</sup>, Parry A<sup>1)</sup>, Suleiman MS<sup>1)</sup>, Angelini GD<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Bristol Heart Institute, <sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): Cold Blood versus cold crystalloid cardioplegia for Repair of ventricular septal Defects in Pediatric Heart Surgery . Ann Thorac Surg 2002 ; 74 ( 2 ) : 530-535 .
- 8 ) Bessho R, Chambers DJ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute, Guy's and St Thomas' NHS Trust, St Thomas' Hospital ): Myocardial protection with oxygenated esmolol cardioplegia during prolonged normothermic ischemia in the rat . J Thorac Cardiovasc Surg 2002 ; 120 ( 2 ) : 340-351 .
- 9 ) Yajima T, Yamada K, Tanaka S : Protection effects of a silver fiber textile aganist electromagnetic interference in patients with pacemakers . J Artif Organs 2002 ; 5 : 175-178 .
- 10 ) Modi P<sup>1)</sup>, Imura H<sup>2)</sup>, Caputo M<sup>1)</sup>, Pawade A<sup>1)</sup>, Parry A<sup>1)</sup>, Angelini GD<sup>1)</sup>, Suleiman MS<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Bristol Heart Institute, <sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): Cardiopulmonary bypass-induced myocardial reoxygenation injury in pediatric patients with cyanosis . J Thorac Cardiovcsc Surg 2002 ; 124 ( 5 ) : 1035-1036 .
- 11 ) Tenjin T, Yoshino N, Tanaka S : Evaluation of viability by duable-staining fluorescence assay . Jpn J Cancer Chemother 2002 ; 28 ( 11 ) : 2025-2029 .
- 12 ) Imura H<sup>1)</sup>, Modi P<sup>2)</sup>, Pawade A<sup>3)</sup>, Party A<sup>3)</sup>, Suleiman MS<sup>2)</sup>, Angelini GO<sup>2)</sup>, Caputo M<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>Bristol Heard Institute, <sup>3)</sup>Bristol Children's Hospital ): Cardiac Troponin I in Neonates undergoing the Arterial switch operation . Ann Thorac Surg 2002 ; 74 ( 6 ) : 1998-2002 .
- 13 ) Yoshino N<sup>1)</sup>, Tenjin T, Koizumi K, Tanaka S (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): Evaluation of the new micronucleus assay in vitro using a human lung cancer cell line . CYTOMETRY RESEARCH 2002 ; 12 ( 2 ) : 25-30 .
- 14 ) Kanno S, Lerner DL<sup>2)</sup>, Schuessler RB<sup>2)</sup>, Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Yamada KA<sup>2)</sup>, Saffitz JE<sup>2)</sup>, Kovacs A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Hokkaido University, <sup>2)</sup>Washington University ): Echocardiographic evaluation of ventricular remodeling in a mouse model of myocardial infarction . J Am Coll Cardiol 2002 ; 15 ( 6 ) : 601-609 .
- 15 ) Yamauchi S, Ogasawara H, Saji Y, Bessho R, Miyagi Y, Fujii M : Efficacy of Intraoperative Mapping to Optimize the Surgical Ablation of Atrial Fibrillation in Cardiac Surgery . Ann Thorac Surg 2002 ; 74 ( 2 ) : 450-457 .
- 16 ) Koizumi K, Haraguchi S, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Akiyama H, Tanaka S : Video-Assisted Lobectomy in Elderly Lung Cancer Patients . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2002 ; 50 ( 1 ) : 15-22 .
- 17 ) Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Okada D, Yamagishi S, Miyamoto T, Nakayama K, Nakajima Y, Tanaka S : Evaluation of postoperative complication in lung cancer patients with less than 1 liter of preoperative FEV1.0 . 8th Central European Lung Cancer Conference 2002 ; Proceedings : 187-189 .
- 18 ) Shimizu K, Kumita S<sup>1)</sup>, Kitamura Y, Nagahama M<sup>2)</sup>, Kitagawa W, Akasu H, Oshina T<sup>1)</sup>, Kumasaki T<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>伊藤病院 ): Trial of autotransplantation of cryopreserved thyroid tissue for postoperative hypothyroidism in patients with Graves' disease . J Am Coll Surg 2002 ; 194 : 14-22 .
- 19 ) Miyashita T<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Furukawa K<sup>2)</sup>, Minobe K<sup>2)</sup>, Shimizu K (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>同第一外科 ): Breast-conserving therapy in the management of early-stage breast cancer. Our experience in 103 cases . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 24-30 .

- 20) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hatori N , Hirai K , Tanaka S : Video-assisted endoscopic thyroid and parathyroid surgery using totally gasless anterior neck skin lifting method-Report of 130 cases . Surg Today 2002 ; 32 : 862-868 .
- 21) Shimizu K , Kumita S<sup>1)</sup> , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka S ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科 ): Reply to : Fatal thyroid crisis years after two thyroidectomies for Graves' disease : Is thyroid tissue autotransplantation for post-thyroidectomy hypothyroidism worthwhile? . J Am Coll Surg 2002 ; 195 : 434-436 .
- 22) Shimizu K , Namimatsu S<sup>1)</sup> , Kitagawa W , Akasu H , Takatsu K , Sugisaki Y , Tanaka S ( <sup>1</sup> 付属病院病理部 ): Immunohistochemical, biochemical and immunoelectron microscopic analysis of antigenic proteins on neuroendocrine cell tumors using monoclonal antibody HISL-19 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 365-372 .
- 23) Shimizu K , Maeda S , Minami S , Hayashida N , Kuroki T , Furuichi A , Sugiyama N , Ishigaki K , Suto R , Furui J , Kanematsu T : Video-assisted neck surgery for thyroid and parathyroid diseases . Biomed Pharmacother 2002 ; 56 : 92-95 .
- 24) Iwamura T<sup>1)</sup> , Shimizu K , Tanaka S ( <sup>1</sup> 第二病院消化器病センター ): Morphological and histochemical characteristics of mast cells and the content of in-tissue histamine in various pathological parathyroids : Do mast cells participate in hormone secretion in human parathyroids? J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 347-354 .
- 25) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hirai K , Tanaka S : Video-assisted minimally invasive endoscopic thyroid surgery using a gasless neck skin lifting method-153 cases of benign thyroid tumors and applicability for large tumors- . Biomed Pharmacother 2002 ; 56 : 88-91 .
- 26) Hinokiyama K , Hatori N , Ochi M , Maehara T<sup>1)</sup> , Tanaka S ( <sup>1</sup> Department of Surgery II, National Defense Medical College ): Myocardial Protective Effect of Lidocaine during Experimental Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting . Ann Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 9 ( 1 ): 36-42 .
- 27) Okubo N , Hatori N , Ochi M , Tanaka S : Comparison of m-RNA Expression for Inflammatory mediators in Leukocyte between On-pump and Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting . Ann Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 9 ( 1 ): 43-49 .
- 28) Kanno S , Kovacs A<sup>1)</sup> , Yamada KA<sup>1)</sup> , Saffitz J<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Washington University ): Connexin 43 as a determinant of myocardial infarct size following coronary occlusion . J Am Coll Cardiol 2003 ; 41 : 681-686 .
- 29) Koizumi K , Haraguchi S , Hirata K , Mikami I , Fukushima M , Okada D , Yamagishi S , Enomoto Y , Nakayama K , Akiyama H , Tanaka S : Lobectomy by Video-Assisted Thoracic Surgery for Lung Cancer Patients aged 80 years or more . Ann Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 9 ( 1 ): 14-21 .
- 30) Shimizu K , Tanaka S : Minimally invasive thyroidectomy . Asian J Surg 2003 ; 26 : 92-100 .
- 31) Shimizu K , Nakajima Y , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka S : Surgical therapy in Hashimoto's thyroiditis . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 : 34-39 .
- 32) Ochi M , Hatori N , Saji Y , Sakamoto S , Nishina D , Tanaka S : Application of off-pump coronary artery bypass grafting for patients with acute coronary syndrome requiring emergency surgery . Ann Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 9 : 29-35 .
- 33) Ochi M , Hatori N , Hinokiyama K , Saji Y , Tanaka S : Subclavian artery reconstruction in patients undergoing coronary artery bypass grafting . Ann Thoracic Cardiovasc Surg 2003 ; 9 : 57-61 .
- 34) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 田中茂夫 : 頸部皮膚吊り上げ法 ( VANS法 ) による甲状腺微小乳頭癌に対する内視鏡下甲状腺片葉切除術とリンパ節 ( D1 ) 郭清術 . 日鏡外会誌 2002 ; 7 ( 2 ): 155-159 .
- 35) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 汲田伸一郎<sup>1)</sup> , 隈崎達夫<sup>1)</sup> , 田中茂夫 ( <sup>1</sup> 同放射線科 ): 副甲状腺機能亢進症に対するラジオナビゲーション手術 . 手術 2002 ; 56 ( 10 ): 1487-1492 .
- 36) 岡田大輔 , 小泉 潔 , 川本雅司<sup>1)</sup> , 逸見しのぶ<sup>1)</sup> , 平井恭二 , 三上 徹 , 田中茂夫 , 吾妻安良太<sup>2)</sup> , 工藤翔二<sup>2)</sup> ,



- 福田 悠<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第1,<sup>2)</sup>付属病院内科第4): 特発性間質性肺炎合併肺癌における術後急性憎悪の臨床病理学的検討. 日本肺癌学会誌 2002; 42(6): 567-572.
- 37) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 前後期別にみた高齢者胃癌手術症例の検討. 日本高齢者消化器医学会議誌 2002; 4(2): 25-30.
- 38) 清水一雄, 中島由貴, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 外科的治療の対象となる橋本病はあるか? 東京都医師会雑誌 2002; 55: 55-59.
- 39) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 平井恭二, 田中茂夫: 鏡視下手術の現況と問題点・適応と限界・甲状腺外科. 日外会誌 2002; 103: 708-712.
- 40) 武市宣雄<sup>1)</sup>, 星 正治<sup>1)</sup>, 田中公夫<sup>1)</sup>, ザクシバズマジローフ<sup>1)</sup>, 早川武彦<sup>1)</sup>, 岡本哲治<sup>1)</sup>, 安井 弥<sup>1)</sup>, 前田亮<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>武市甲状腺クリニック): 広島原爆被爆者甲状腺細胞にみられた微小核: 放射線による影響か. セミパラチンスクの症例も加えて. 広島医学 2002; 55: 198-201.
- 41) 落 雅美, 別所竜蔵, 井村 肇, 石井庸介, 佐地嘉章, 坂本俊一郎, 田中茂夫: 左主幹部病変例を含む多枝病変例に対する心拍動下冠動脈バイパス術の役割. 日本冠疾患学会誌 2002; 8: 49-53.
- 42) 北川 亘, 清水一雄: 原発性副甲状腺機能亢進症に対する内視鏡補助下副甲状腺切除術. 内分泌外科 2003; 20(1): 59-64.
- 43) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: 内分泌外科シリーズ 第9報: 甲状腺癌の疫学に関する最新のデータ. J Nippon Med Sch 2003; 70(1): 57-61.
- (2) 綜説:
- 1) Igarashi T, Mone O<sup>1)</sup>, Stinivasan R<sup>1)</sup>, Re F<sup>1)</sup>, Childs R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>NIH): Exploring the role of allogeneic immunotherapy for non-hematological malignancies: proof of concept and potential immune mechanisms of graft-vs-tumor effects in solid tumors. Hematologica 2002; 87(6): 2-5.
- 2) Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka S: Video-assisted endoscopic endocrine neck surgery with a benefit of cosmesis: A new technique using a totally gasless anterior neck skin lifting method. J Nippon Med Sch 2002; 69: 2-3.
- 3) 新田 隆: 外科的治療の意義と現状. 臨床医 2002; 28(6): 725-727.
- 4) 新田 隆: 臨床医のために: 心房細動の外科治療. J Nippon Med Sch 2002; 69(3): 294-299.
- 5) 新田 隆: 話題: 心不全に対する両心室ペーシング療法. J Nippon Med Sch 2002; 69(3): 314-315.
- 6) 新田 隆: 心房細動の外科治療とその将来の展望. メディカル朝日 2002; 31(6): 49-51.
- 7) 新田 隆: 心房細動の現況と将来の展望. 循環制御 2002; 23(2): 132-136.
- 8) 清水一雄, 赤須東樹: 看護ケアに必要な最新の医学的知識 甲状腺疾患に対する内視鏡下手術. 臨床看護 2002; 28: 1248-1254.
- 9) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 内視鏡補助下甲状腺手術の現況と問題点: 皮膚吊り上げ法(VANS法). 臨床外科 2002; 57: 1320-1325.
- 10) 清水一雄, 北川 亘: 甲状腺癌の治療に関する最新のデータ. 臨外(増刊号) 2002; 57: 42-47.
- 11) 落 雅美: 「一週一話」川崎病冠動脈病変の治療. 日本医事新報 2002; 4071: 89-90.
- (3) 研究報告書:
- 1) 井村 肇: 小児開心術における新しい心筋保護法: Controlled Repertusion がもたらす虚血・再還流障害の軽減効果と心筋代謝への影響. J Nippon Med Sch 2002; 69(6): pp618-619.
- (4) 症例報告:
- 1) Mikami I, Koizumi K, Shimizu K, Kawamoto M, Hemmi S, Haraguchi S, Hirata T, Akiyama H, Hirai K, Tanaka S: Functional mediastinal Parathyroid cyst. Surg Today 2002; 32(4): 351-353.
- 2) Hirata T, Koizumi K, Haraguchi S, Hirai K, Mikami I, Tanaka S: Thoracoscopic Approach for Congeni-

- tal Bronchoesophageal Fistula in an Adult . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2002 ; 50 ( 4 ) : 168-172 .
- 3) Masaki Y<sup>1)</sup>, Gomibuchi M<sup>2)</sup>, Tanaka S ( <sup>1)</sup>Secomedic Hospital , <sup>2)</sup>千葉北総病院胸部外科 ): Carcinoma Positive for Epstein-Barr Virus Staining Mediastinal Lymph Node Origination? JJTCVS 2002 ; 50 ( 3 ) : 122-124 .
  - 4) Akasu H , Shimizu K , Kitagawa W , Ishii R , Tanaka S : Evaluation of an alternative, subclavicular approach to thyroidectomy . Med Sci Monit 2002 ; 8 ( 11 ) : CS80-CS82 .
  - 5) Kitagawa W , Shimizu K , Akasu H , Tanaka S : Radioguided parathyroidectomy for renal hyperparathyroidism . Med Sci Monit 2003 ; 9 ( 2 ) : CS9-12 .
  - 6) Tamura K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup>, Yamauchi H , Okada R<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup>Division of Surgical Pathology Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Department of Pediatrics Nippon Medical School , <sup>3)</sup>Gunma Puz Junior of Nursery ): Tumorous deformity of mitral valve leaflet after chordal rupture in a child . Pathol Int 2003 ; 53 : 51-57 .
  - 7) 北川 亘 , 清水一雄 , 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 赤須東樹 , 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>同放射線科 ): モバイル型ガンマカメラを併用した原発性上皮小体機能亢進症に対する Radio-guided parathyroidectomy . 内分泌外科 2002 ; 19 ( 2 ) : 112-115 .
  - 8) 佐々木孝 , 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐地嘉章 , 小笠原英継<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部心臓血管・呼吸器外科 ): 上大静脈閉塞に対し剣状突起下アプローチにより心筋電極 VVI ペースメーカー植込み術を施行した1例 . 不整脈 2002 ; 18 ( 4 ) : 532-534 .
  - 9) 佐々木孝 , 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 駒崎敏明<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>海老名総合病院外科 ): 虫垂粘液嚢胞腺腫の3例 . 日本外科系連合学会雑誌 2002 ; 27 ( 5 ) : 779-783 .
  - 10) 大森裕也 , 新田 隆 , 石井庸介 , 宮城泰雄 , 坂本俊一郎 , 田中茂夫 : 僧帽弁逆流に合併した発作性心房細動の心表面マッピング所見 . 心臓 2002 ; 34 ( 特別号5 ) : 7-8 .
  - 11) 坂本俊一郎 , 落 雅美 , 大久保直子 , 石井庸介 , 別所竜蔵 , 田中茂夫 : 2度の医原性大動脈解離を発症した若年性 Marfan 症候群の1例 . 日本心臓血管外科学会誌 2002 ; 31 ( 4 ) : 282-284 .

## 著 書

- 1) 別所竜蔵 , 田中茂夫 : [ 分担 ] 植込み型徐細動器 ( ICD ). 実地診療に即した心不全診断・診療マニュアル ( 高野照夫 , 清野精彦 ), 2002 ; pp282-290 , 医薬ジャーナル社 .
- 2) 小泉 潔 : [ 分担 ] 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ . 呼吸器疾患 ( 工藤翔二 , 中田絨一郎 , 永井厚志 ), 2002 ; pp315-323 , 日本医事新報社 .
- 3) 藤松利浩 : [ 分担 ] 小切開による多枝病変に対する on pump CABG Part Access System を用いない多枝病変に対する minimal access CABG . 低侵襲心臓外科手術 改定第2版 ( 総監修 尾本良三 総編集 許 俊鋭 ), 2002 ; pp135-141 , ( 株 ) 診断と治療社 .
- 4) 清水一雄 : [ 分担 ] 96 「再現」医師国会試験問題解説書・2003 ( 再現 医師国家試験問題解説書編集委員会 ), 2002 ; 医学評論社 .
- 5) 清水一雄 : [ 分担 ] 甲状腺疾患 . 治療マニュアル ( 高見 博 , 森 昌朋 , 編集協力 : 安部好文 ), 2002 ; pp79-82 , 南江堂 .
- 6) 落 雅美 : [ 分担 ] 心筋梗塞の管理・治療 : 外科治療 ( 合併症を含む ). 新しい診断と治療の ABC : 心筋梗塞 ( 高野照夫 ), 2002 ; pp199-210 , 最新医学社 大阪 .
- 7) 小泉 潔 : [ 分担 ] 低肺機能合併肺癌に対する治療戦略 , 機能温存と治癒度に関して . 重症胸部外科疾患の治療指針 ( 日本胸部外科学会卒後教育委員会 ), 2003 ; pp220-231 , 日本胸部外科学会 .
- 8) 小泉 潔 : [ 分担 ] 胸腔鏡による治療 . 呼吸器疾患 : 専門医にきく最新の臨床 ( 工藤翔二 , 永井厚志 ), 2003 ; pp87-89 , 中外医学社 .

## 学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

### 一般講演 :

- 1) 大森裕也, 山内仁紫, 坂本俊一郎, 石井庸介, 八巻重雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 公立刈田総合病院 ): 高度肺血管病変を伴った成人心房中隔欠損症の3手術例 . 第4回成人先天性心疾患研究会, 2002 . 1 .
- 2) 大森裕也, 新田 隆, 石井庸介, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 田中茂夫 : 僧帽弁逆流に合併した発作性心房細動の心表面マッピング所見 . 第16回不整脈外科研究会, 2002 . 2 .

### (1) 特別講演 :

- 1) 新田 隆 : 心房細動の外科治療 . 第5回臨床不整脈・ペースメーカー研究会, 2002 . 7 .
- 2) 落 雅美 : Off-pump CABGの可能性を追求して . 千葉循環器談話会, 2002 . 7 .
- 3) 清水一雄 : 外科的甲状腺疾患に対する診断と治療 . 三重内分泌外科セミナー, 2003 . 2 .
- 4) 清水一雄 : 橋本病の治療 . 三重内分泌外科セミナー, 2003 . 2 .
- 5) 清水一雄 : 甲状腺・副甲状腺疾患に対する内視鏡手術 : 200例の経験 . 第5回ゆりかもめ内分泌・代謝懇話会, 2003 . 2 .
- 6) 清水一雄 : 橋本病の手術適応 . 第5回ゆりかもめ内分泌・代謝懇話会, 2003 . 2 .
- 7) 清水一雄 : 甲状腺, 上皮小体に対する内視鏡手術200例の経験から得た手術手技と成績 . 第20回信州内分泌談話会, 2003 . 3 .

### (2) 招待講演 :

- 1) Nitta T : Interactions Between the ICD and Pacemaker . 第5回 International Seminar : Therapy for the Treatment of Ventricular Arrhythmias and ICD Patient Management ( San Diego, CA ), 2002 . 5 .
- 2) Nitta T : Surgery for Atrial Fibrillation : Radial Procedure to Prevent Thromboembolism . 第7回 Arrhythmia Symposium ( Seoul, Korea ), 2002 . 6 .
- 3) Nitta T : Live-narrated Surgery Demonstration : The Radial Procedure . 第2回 Annual Conference on the Surgical Treatment of Atrial Fibrillation ( New York, NY ), 2002 . 6 .
- 4) Nitta T : Hands-on Laboratory : The Radial Procedure . 第2回 Annual Conference on the Surgical Treatment of Atrial Fibrillation ( New York, NY ), 2002 . 6 .
- 5) Koizumi K : Evaluation of Video-Assisted Lobectomy for Lung Cancer . 2nd International Association for the Study of Lung Cancer, China Seminar ( China ), 2002 . 10 .
- 6) 平田知己, 小泉 潔, 田中茂夫, 江見 充<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所 ): Gene Profiling in Lung Cancer for Tailor Made Therapy . 2nd International Association for the Study of Lung Cancer, China Seminar ( 中国・大連 ), 2002 . 10 .
- 7) 別所竜蔵 : 産業医のための循環器疾患診断のポイントと最近の話題 . 平成14年度日本医師会認定産業医学研修会, 2003 . 2 .

### (3) 教育講演 :

- 1) 新田 隆 : ICDセミナー : 合併症とその対策 . 第17回日本心臓ペースンギン電気生理学学会学術大会, 2002 . 5 .
- 2) 北川 亘 : 腎性副甲状腺機能亢進症に対する最新の治療 . 日本医師会生涯教育講座 平成14年度第2回医学講座プログラム, 2002 . 7 .
- 3) 新田 隆 : VTの術中マッピング . 第3回九州重症不整脈研究会, 2002 . 7 .

### (4) シンポジウム :

- 1) Ochi M, Hatori N, Bessho N, Saji Y, Tanaka S : Feasibility of off-pump coronary artery bypass grafting in patients with acute coronary syndrome requiring an emergency revascularization . 15th Annual Meeting of

the International Society of Cardio-Thoracic Surgeons ( Korea ), 2002 . 10 .

- 2) 久吉隆郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Respiratory Center, Thoracic Surgery. Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, JAPAN): Chest wall resection and reconstruction for malignant tumors . 第2回IASLC 中国, 大連肺癌研究会(大連), 2002 . 11 .
  - 3) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Takatsu K , Ishii R : Endoscopic endocrine neck surgery using totally gasless anterior neck skin lifting method with a benefit of cosmesis : An experience of 150 cases . The 8th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons ( Kuara Lumpur, Malaysia ), 2002 .
  - 4) Kanno S , Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Saffitz JE<sup>2)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>Hokkaido University , <sup>2)</sup>Washington University ): Connexin43 as a determinant of infarct size and arrhythmia inducibility . 第66回日本循環器学会総会, 2002 . 4 .
  - 5) 新田 隆, 中野純子, 別所竜蔵, 井村 肇, 矢島俊巳, 田中茂夫: ICD植込み例における両心室ペースキングの適応 . 第17回日本心臓ペースキング電気生理学会学術大会, 2002 . 5 .
  - 6) 新田 隆, 大森裕也, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 別所竜蔵, 井村 肇, 菅野重人, 矢島俊巳, 田中茂夫: 心房細動根治療法の中期・長期遠隔期成績: Radial手術の血栓塞栓症予防効果 . 第17回日本心臓ペースキング電気生理学会学術大会, 2002 . 5 .
  - 7) 坂本俊一郎, 新田 隆, 石井庸介, 田中茂夫, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): サテライトシンポジウムI: 心臓術後の不整脈先天性心疾患術後 Incisional atrial reentry tachycardiaは予防できるか: 心房切開線峡部の伝導特性の解明から . 第17回日本心臓ペースキング電気生理学会学術大会, 2002 . 5 .
  - 8) 佐々木孝, 山内茂生<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 佐地嘉章, 落 雅美, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部心臓血管・呼吸器外科): CHFを繰り返した虚血性僧房弁閉鎖不全に対する1手術例(虚血性心室瘤の外科). 第7回日本冠動脈外科学会学術大会, 2002 . 7 .
  - 9) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子: 前頸部皮膚吊り上げ法による甲状腺, 上皮小体腫瘍に対する視鏡下手術(VANS法): 160例の経験から得られた工夫, 改善 . 第14回日本内分泌外科学会総会, 2002 .
  - 10) 小泉 潔, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 山岸茂樹, 岡田大輔, 榎本 豊, 川島徹生, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 久吉隆郎<sup>3)</sup>, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院外科, <sup>2)</sup>埼玉県立癌センター胸部外科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 肺癌に対する胸腔鏡下手術 . 第43回日本呼吸器学会総会, 2003 . 3 .
- (5) パネルディスカッション:
- 1) 落 雅美: イブニング・ケースカンファレンス: 診断・治療に難渋した症例の問題点 . 第43回日本脈管学会総会 .
  - 2) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 田中茂夫: 原発性副甲状腺機能亢進症に対するRIナビゲーション手術 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
  - 3) 新田 隆, 坂本俊一郎, 石井庸介, 大久保直子, 井村 肇, 別所竜蔵, 菅野重人, 田中茂夫: 心房細動に対するRadial手術 . 第102回日本外科学会総会, 2002 . 4 .
- (6) ワークショップ:
- 1) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 佐々木孝<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 山内茂夫<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>2)</sup>, 小泉 潔, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>第二病院外科): 金属メッシュとマーレックスメッシュ併用による胸壁再建症例の術後経過の検討 . 第55回日本胸部外科学会総会, 2002 . 10 .
  - 2) 佐地嘉章, 矢島俊巳, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 新田 隆, 田中茂夫: ペースメーカーにおけるClosed Loop Adaptive Stimulation System (CLASS)の有用性 . 第40回日本人工臓器学会, 2002 . 10 .
  - 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 高津圭介<sup>1)</sup>, 長幡武光<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 三上 巖, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 西村仁志<sup>2)</sup>, 田中茂夫, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>埼玉癌センター胸部外

科): N2陽性・非小細胞肺癌の体系的遺伝子発現. 第40回日本癌学会, 2002. 10.

- 4) 山本英希, 江上 格<sup>1)</sup>, 松島申治, 渡辺秀裕, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 鈴木成治, 横山 正<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 自然気胸治療の問題点と対策(気胸). 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.

(7) 一般講演:

- 1) Nakajima Y, Shimizu K, Kitagawa W, Haruki A, Takatsu K, Tanaka S: Surgical therapy in Hashimoto's thyroiditis. (Soul), 2002. 4.
- 2) Sakamoto S, Nitta T, Ishii Y, Ohmori H, Miyagi Y, Kanno S, Tanaka S: Location of Interatrial Electrical Connections and Their Conduction Properties: A Significant role of in the sustenance of AF. North American Society of Pacing and Electrophysiology 23rd Annual scientific sessions (San Diego), 2002. 5.
- 3) Tenjin T, Tanaka S: Relationship between cyclin D1 gene amplification and breast amplification and breast cancer by dual color fluorescence in situ hybridization. The International Society for Analytical Cytology XXI (San Diego), 2002. 5.
- 4) Obara K<sup>1)</sup>, Mohamed G<sup>2)</sup>, Tenjin T, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Kawanami O<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器センター, <sup>2)</sup>同老人病研究所病理部門): Comparative genomic hybridization study on esophageal cancer cell lines with induced high-level chromoresistance. The International Society For Analytical Cytology Xxi(San Diego), 2002. 5.
- 5) Ochi M, Hatori N, Bessho R, Saji Y, Tanaka S: Subclavian artery reconstruction in patients undergoing coronary artery bypass grafting. 10th Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery (Korea), 2002. 5.
- 6) 宮本哲也, 小泉 潔, 平田知己, 三上 徹, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 榎本 豊, 岡本淳一, 田中茂夫: A case of pulmonary carcinosarcoma with bronchioloectasia. International Society of Cardio-Thoracic Surgeons (韓国・濟州島), 2002. 7.
- 7) Fujii M, Avkiran M<sup>1)</sup>, Chambers D<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Molecular Cardiology, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital, <sup>2)</sup>Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital): MYOCARDIAL PROTECTION WITH INTERMITTENT CROSS-CLAMP FIBRILLATION: IMPROVEMENT WITH SODIUM-HYDROGEN EXCHANGE INHIBITION. 22nd European Section Meeting of the International Society for Heart Research (Szeged, Hungary), 2002. 7.
- 8) Fujii M, Chambers D<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital): INTERMITTENT CROSS-CLAMP FIBRILLATION: DOES PROTECTION INVOLVE AN ISCHEMIC PRECONDITIONING MECHANISM? 22nd European Section Meeting of the International Society for Heart Research (Szeged, Hungary), 2002. 7.
- 9) Kinoshita H, Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Okada D, Kawashima T, Yamagishi S, Miyamoto T, Okamoto J, Tanaka S: Signet-Ring Cell Adenocarcinoma of the Lung - A Case Report. International Society of Cardio-Thoracic Surgeons (Cheju Island, KOREA), 2002. 7.
- 10) Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Tanaka S: Minimally invasive radioguided parathyroidectomy (MIRP) for primary hyperparathyroidism combined with video-assisted endoscopic surgery using the solid-state, multi-crystal gamma camera. Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 (ELSA, 2002)(Tokyo), 2002. 9.
- 11) Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Okada D, Yamagishi S, Miyamoto T, Nakayama K, Nakajima Y, Tanaka S: Evaluation of postoperative complication in lung cancer patients with less than 1 liter of preoperative FEV1.0. 8th Central European Lung Cancer Conference, 2002. 9.

- 12) Nakajima Y , Koizumi K , Hirata T , Hirai K , Hukushima M , Okada D , Yamagishi S , Miyamoto T , Tanaka S : Comparison of Changes in Pulmonary Function between Lobectomy by VATS and Lobectomy by Standard Thoracotomy for Lung Cancer Combined with Chronic Obstructive Pulmonary Disease . 8th Central European Cancer ( Wien ), 2002 . 9 .
- 13) Akasu H , Shimizu K , Kitagawa W , Takatsu K , Ishii R , Tanaka S : VANS ( Video-Assisted Neck Surgery ) method for large nodular goiter . ELSA 2002 ( Tokyo ), 2002 . 9 .
- 14) Hirai K , Koizumi K , Daisuke O , Yamagishi S , Fukushima M , Tanaka S : Expression of ALCAM/CD166 in nonsmall cell lung cancer . 8th CELCC ( Austria, Vienna ), 2002 . 9 .
- 15) Nakayama K , Koizumi K , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Fukusima M , Yamagishi S , Okada D , Enomoto Y , Kinoshita H , Miyamoto T , Okamoto J , Nakajima Y : Clinical Evaluation of Surgical Treatment in Lung Cancer Patients aged 80 years or more . 8th central European Cancer ( vienna ), 2002 . 9 .
- 16) Sakamoto S , Nitta T , Ishii Y , Kanno S , Ohmori H , Miyagi Y , Yajima T , Tanaka S : A significant Role of Interatrial Connections in Atrial activation and Perpetuation of AF . American Heart Association scientific sessions 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 17) Yamada K , Green KG<sup>1)</sup> , P, MD RC<sup>1)</sup> , S, MD, PhD JE<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Washington University in St Louis. School of Medicine, Department of Pathology ): Coordinated Regulation of intercellular Junction Proteins in Cardiac Myocytes . American Heart Association Science Session 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 18) Igarashi T , Srncivasan R<sup>1)</sup> , Wynberg J<sup>1)</sup> , Takahashi Y<sup>1)</sup> , Becknell B<sup>2)</sup> , Caligiuri M<sup>2)</sup> , Linehan WM<sup>1)</sup> , Childs R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> NIH , <sup>2)</sup> Ohio State University ): Generation of Allogenic NK cells with Selective Cytotoxicity to Melanoma and Renal Cell Carcinoma Based on KIR-Ligand Incompatibility . American Society of Hematology ( フィラデルフィア ), 2002 . 12 .
- 19) Ohmori H , Nitta T , Miyagi Y , Ishii Y , Kanno S , Yajima T , Tanaka S : MINI-THORACOTOMY APPROACH FOR BIVENTRICULAR PACING . XII World Congress on Cardiac Pacing and Electrophysiology ( 香港 ), 2003 . 2 .
- 20) Miyagi Y<sup>1)</sup> , Nitta T<sup>1)</sup> , Ishii Y<sup>1)</sup> , Omori H<sup>1)</sup> , Sakamoto S<sup>1)</sup> , Yamada K<sup>1)</sup> , Tanaka S<sup>1)</sup> , Yamada S<sup>1)</sup> , Asano G<sup>2)</sup> ( Department of Pathology ): Off-Pump AF surgery Using Radiofrequency Energy . XIIth World Congress on Cardiac Pacing and Electrophysiology ( Hong Kong ), 2003 . 2 .
- 21) Kanno S , Betsuyaku T<sup>1)</sup> , Nitta T , Tanaka S , Shuessler RB<sup>2)</sup> , Yamada KA<sup>2)</sup> , Saffitz JE<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University , <sup>2)</sup> Washington University ): Infarct healing and remodeling in Cx43-deficient mice . The XIIth World Congress on Cardiac Pacing and Electrophysiology ( Hong Kong ), 2003 . 2 .
- 22) 宮本哲也 , 小泉 潔 , 平田知己 , 平井恭二 , 三上 巖 , 福島光浩 , 窪倉浩俊 , 岡田大輔 , 山岸茂樹 , 木下裕康 , 川島徹生 , 榎本 豊 , 岡本淳一 , 田中茂夫 : VIDEO-ASSISTED THORACIC SURGERY FOR 10 YEARS OR LESS OF INFANTS . SOCIETY OF AMERICAN GASTROINTESTINAL ENDOSCOPIC SURGEONS ( アメリカ・ Los Angeles ), 2003 . 3 .
- 23) Fujii M , Avkiran M<sup>1)</sup> , Chambers D<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular Cardiology, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital , <sup>2)</sup> Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital ): MYOCARDIAL PROTECTION WITH INTERMITTENT CROSS-CLAMP FIBRILLATION IS IMPROVED BY THE SODIUM-HYDROGEN EXCHANGER INHIBITOR, CARIPORIDE . 2003 Annual Scientific Meeting of the Society of Cardiothoracic Surgeons of Great Britain and Ireland ( Edinburgh, UK ), 2003 . 3 .
- 24) 北川 亘 , 清水一雄 , 赤須東樹 , 高津圭介 , 石井律子 , 田中茂夫 : モバイル型ガンマカメラを併用した原発性上皮下体機能亢進症に対するラジオガイド下手術 . 第14回日本内分泌外科学会総会 , 2002 . 6 .

- 25) 山内仁紫, 落 雅美, 中野純子, 大森裕也, 檜山和広, 宮城泰雄, 山田研一, 菅野重人, 小川俊一<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科学 ): 川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療の遠隔期予後 . 第55回日本胸部外科学会総会, 2002 . 10 .
- 26) Nitta T, Sakamoto S, Ishii Y, Ohkubo N, Imura H, Bessho R, Kanno S, Tanaka S : The Effect of the Radial Procedure on Thromboembolism Associated with Atrial Fibrillation . 第66回日本循環器学会総会, 2002 . 4 .
- 27) 中島由貴, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 徹, 福島光浩, 岡田大輔, 中山景介, 田中茂夫 : 肺気腫合併肺癌に対する肺切除術後肺機能の評価 . 第42回呼吸器病学会総会, 2002 . 4 .
- 28) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Kanno S, Saffitz JE<sup>2)</sup>, Yamada KA<sup>2)</sup>, Kohya T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University, <sup>2)</sup> Washington University ): Spontaneous ventricular tachycardia in mice following myocardial infarction . 第66回日本循環器学会総会, 2002 . 4 .
- 29) Betsuyaku T<sup>1)</sup>, Kanno S, Yamada KA<sup>2)</sup>, Kohya T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hokkaido University, <sup>2)</sup> Washington University ): Arrhythmia in mice with both Cx43 and Kv4.2W362F mutation . 第66回日本循環器学会総会, 2002 . 4 .
- 30) Ochi M, Hatori N, Bessho R, Ishii Y, Tanaka S : Feasibility of off-pump coronary artery bypass grafting for patients suffering from acute coronary syndrome . 第66回日本循環器学会総会, 2002 . 4 .
- 31) 宮城泰雄, 新田 隆, 石井庸介, 大森裕也, 坂本俊一郎, 山田規予美, 田中茂夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, ( <sup>1)</sup> 第2病理 ): 外科用高周波 ablation probe を用いた心拍動下心房線状焼灼の実験的検討 : Off-pump 心房細動手術に向けて . 第55回 日本胸部外科学会総会, 2002 . 10 .
- 32) Kanno S, Nitta T, Tanaka S, Saffitz J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Washington University ): Infarct healing and arrhythmogenesis in Cx43-deficient mice . 第67回日本循環器学会総会, 2003 . 3 .
- 33) 張 一光, 平井恭二, 岡田大輔, 福島光浩, 小泉 潔, 田中茂夫 : 術前放射線治療が有効であった限局性悪性胸膜中皮腫の1手術例 . 第121回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002 . 2 .
- 34) 平井恭二, 小泉 潔, 岡田大輔, 福島光浩, 平田知己, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫 : 非小細胞肺癌における ALCAM/CD166 発現の意義について . 第42回日本呼吸器学会総会, 2002 . 3 .
- 35) 岡田大輔, 逸見しのぶ<sup>1)</sup>, 中山智子<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 原口秀司, 小泉 潔, 田中茂夫, 臼杵二郎<sup>2)</sup>, 榎本達治<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理第1, <sup>2)</sup> 内科第4 ): 間質性肺炎合併肺癌手術例の検討 . 第42回日本呼吸器学会総会, 2002 . 4 .
- 36) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): リンパ節転移と予後との対比からみた早期胃癌手術のあり方 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 37) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): 高齢者胃癌の手術治療と予後 . 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 38) 井村 肇<sup>1)</sup>, Angelini GD<sup>2)</sup>, Suleiman MS<sup>2)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup> Bristol Heart Institute ): Myocardial Cell Damage After Repair of Congenital Heart Disease . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 39) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 同病理部 ): アポトシス関連蛋白 ( Bcl-2 · Bcl-6 · P53 ) 及び MIB-1 発現からみた胃原発非 MALT 型 B cell lymphoma の検討 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
- 40) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原

- 信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>病理部): MALT lymphoma成分の含有度と各種蛋白発現からみた胃原発Diffuse large B cell lymphomaの検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002. 4.
- 41) 坂本俊一郎, 新田 隆, 石井庸介, 大森裕也, 宮城泰雄, 菅野重人, 矢島俊巳, 田中茂夫: 心房間伝導路の局在と伝導様式の検討. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 42) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子: 甲状腺, 上皮小体腫瘍に対する美容上利点のある新しい手術法の確立: 吊り上げ法による内視鏡下手術(VANS法)150例の臨床経験. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 43) 檜山和弘<sup>1)</sup>, 徳野慎一<sup>1)</sup>, Valen G<sup>2)</sup>, Vaage J<sup>2)</sup>, 前原正明<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>防衛医科大学第二外科, <sup>2)</sup>Karolinska Hospital): CABGの静脈グラフト採取における外科的侵襲とグラフト閉塞の原因となる血管炎症反応に関する分子生物学的検討. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 44) 宮城泰雄, 新田 隆, 石井庸介, 大森裕也, 坂本俊一郎, 山田規予美, 田中茂夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 高周波ablation probeによる心拍動下心房線焼灼法: 心外膜, 心内膜アプローチの比較. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 45) 大久保直子, 羽鳥信郎, 落 雅美, 新田 隆, 矢島俊巳, 山内仁紫, 別所竜蔵, 井村 肇, 石井庸介, 坂本俊一郎, 清水佳世, 川瀬康裕, 中野純子, 田中茂夫: On-pump及びOff-pumpにおける炎症性サイトカインm-RNA発現の相違について. 第102回外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 46) 落 雅美, 羽鳥信郎, 佐地嘉章, 別所竜蔵, 田中茂夫: Acute coronary syndromeに対する緊急手術としてのoff-pump CABGの意義. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 47) 中山景介, 小泉 潔, 原口秀司, 平井恭二, 平田知己, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 榎本 豊, 川島徹生, 木下裕康, 山岸茂樹, 宮本哲也, 岡本淳一, 中島由貴, 田中茂夫: 超高齢者肺癌の外科治療. 第42回呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 48) 大森裕也, 山内仁紫, 朽方規喜, 落 雅美, 新田 隆, 矢島俊巳, 菅野重人, 別所竜蔵, 井村 肇, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>放射線医学): Color duplex scanningによる不全交通枝術前マーキングの有用性. 第30回日本血管外科学会学術総会, 2002. 5.
- 49) 朽方規喜, 落 雅美, 矢島俊巳, 田中茂夫: 深大腿動脈形成術を併用した腸骨動脈大腿動脈Cross-over-Bypass術. 第30回日本血管外科学会学術総会, 2002. 5.
- 50) 別所竜蔵, 落 雅美, 石井庸介, 坂本俊一郎, 井村 肇, 矢島俊巳, 田中茂夫: 胸腹部大動脈瘤手術症例の検討(病因および手術範囲による術式・補助手段の工夫). 第30回日本血管外科学会学術総会, 2002. 5.
- 51) 山内茂生, 小笠原英継, 佐地嘉章, 佐々木孝: マッピングを併用した心房細動手術40症例の興奮伝播様式と術後成績. 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2002. 5.
- 52) 小笠原英継<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐地嘉章, 佐々木孝, 田畑美弥子, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部心臓血管・呼吸器外科): 膿瘍と血腫との鑑別が困難であった腸腰筋膿瘍に合併した破裂性腹部大動脈瘤の1例. 第30回日本血管外科学会学術総会, 2002. 5.
- 53) 小笠原英継<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐々木孝, 佐地嘉章, 田畑美弥子, 田中茂夫, 小原俊彦<sup>2)</sup>, 野村敦宣<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>付属病院第一内科): ヒス束ペースングの心機能に与える影響: ペースメーカー植込みを必要とする徐脈性不整脈患者を対象として. 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2002. 5.
- 54) 宮本哲也, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 山岸茂樹, 木下裕康, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 田中茂夫: 肺原発の癌肉腫の1切除例. 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002. 5.
- 55) 坂本俊一郎, 石井庸介, 大森裕也, 宮城泰雄, 清水佳世, 新田 隆, 田中茂夫: 心房間伝導路の局在と伝導特性および心房中隔興奮伝播様式についての実験的検討. 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2002. 5.



- 56) 小泉 潔, 中島由貴, 中山景介, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 山岸茂樹, 榎本 豊, 木下裕康, 岡本淳一, 田中茂夫, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属第二病院外科, <sup>2)</sup>埼玉県立癌センター胸部外科 ): 肺癌に対する VATS lobectomy の評価と今後の方針 . 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002 . 5 .
- 57) 佐々木孝, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 佐地嘉章, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 ): Penetrating atherosclerotic ulcer が原因と考えられた腹部限局型解離性動脈瘤の2例 . 第30回日本血管外科学会総会, 2002 . 5 .
- 58) 中島由貴, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 宮本哲也, 田中茂夫 : 胸腔鏡下胸部交感神経切除術が有効であった特発性肢端紅痛症の2例 . 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002 . 5 .
- 59) 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 佐々木孝<sup>1)</sup>, 田中茂夫 ( <sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院胸部外科 ): 腹部大動脈に限局した解離性大動脈瘤の1例 . 第30回日本血管外科学会学術総会, 2002 . 5 .
- 60) 宮城泰雄, 新田 隆, 石井庸介, 大森裕也, 坂本俊一郎, 山田規予美, 田中茂夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第2 ): RF surgical probe を用いた心拍動下心房線状焼灼の実験的検討 : 心外膜側焼灼と心内膜側焼灼の比較 . 第17回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2002 . 5 .
- 61) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 田中茂夫 : 肺気腫合併肺癌に対する VATS lobectomy の評価 . 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002 . 5 .
- 62) 平井恭二, 小泉 潔, 岡田大輔, 山岸茂樹, 平田知己, 原口秀司, 田中茂夫 : ヒト非小細胞肺癌組織における Maspin タンパク発現の意義について . 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002 . 5 .
- 63) 中山景介, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 山岸茂樹, 榎本 豊, 木下裕康, 岡本淳一, 中島由貴, 田中茂夫 : 冠動脈バイパス術と肺癌外科治療の1期的手術の経験 . 第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002 . 5 .
- 64) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科 ): 胃癌における多重癌の臨床 . 第27回日本外科系連合学会学術集会, 2002 . 6 .
- 65) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫 : 内視鏡補助下甲状腺手術 ( VANS法 ) の工夫, 改良点について . 第12回吊り上げ法手術研究会, 2002 . 6 .
- 66) 大森裕也, 落 雅美, 山内仁紫, 山田研一, 檜山和弘, 宮城泰雄, 仁科 大, 清水佳世, 中野純子, 田中茂夫 : 川崎病巨大冠動脈瘤に対し瘤縫縮術を施行した1例 . 第122回胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002 . 6 .
- 67) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部 ): アポトーシス関連蛋白発現からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断治療に関する検討 . 第11回癌病態治療研究会, 2002 . 6 .
- 68) 朝山 功<sup>1)</sup>, 清水一雄, 山田 哲<sup>1)</sup>, 石川隆志<sup>1)</sup>, 山田美恵子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>金地病院 ): 前頸部吊り上げ法による鏡視下甲状腺切除術30例の検討 . 第14回日本内分泌外科学会総会, 2002 . 6 .
- 69) 城所 葉<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>付属病院第3内科 ): 甲状腺乳頭癌におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の解析 . 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 70) 江本直也<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 清水一雄 ( <sup>1)</sup>付属病院第3内科 ): 高感度微量解析法を用いた甲状腺乳頭癌で消失している FGF-2 結合性ヘパラン硫酸の構造解析 . 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 71) 天神敏博, 吉野直之, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄, 田中茂夫 : 乳癌加療に用いるアドリマイシンを利用した新しい細胞毒性試験 . 第10回日本乳癌学会, 2002 . 6 .

- 72) 田畑美弥子<sup>1)</sup>, 富士崎隆<sup>1)</sup>, 大場英巳<sup>1)</sup>, 向井佐志彦<sup>1)</sup>, 前田隆志<sup>1)</sup>, 渡辺一彦<sup>1)</sup>, 加藤秀和<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 三好和将<sup>1)</sup>, 新本雄健<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>佼成病院外科): 若年男性に生じた限局性大腿動脈瘤の1例. 外科集談会, 2002. 6.
- 73) 中島由貴, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 田中茂夫: 橋本病の中には外科治療の対象となる疾患があるか? 第14回日本内分泌外科学会総会, 2002. 6.
- 74) 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 建部 祥<sup>1)</sup>, 青木賢治<sup>1)</sup>, 倉岡節夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>水戸済生会総合病院 心臓血管外科): 成人で手術した中間型心内膜床欠損症の1例. 第122回胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 6.
- 75) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: ACTH非依存性両側副腎皮質大結節性過形成(AIMAH)の臨床経験. 第14回内分泌外科学会総会, 2002. 6.
- 76) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 田中茂夫: VANS法による長径70mmの結節性甲状腺腫摘除の経験から学んだこと. 第12回吊り上げ法手術研究会, 2002. 6.
- 77) 雁野さやか, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 宮本哲也, 張 一光, 小泉 潔, 田中茂夫: 肺原発カルチノイドの2手術例. 第122回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 6.
- 78) 岡田大輔, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 西村仁志<sup>1)</sup>, 小斉平聖治<sup>2)</sup>, 駒形浩史<sup>2)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 酒井 洋<sup>2)</sup>, 米田修一<sup>2)</sup>, 西田一典<sup>3)</sup>, 土屋永壽<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科, <sup>2)</sup>同呼吸器科, <sup>3)</sup>同病理科): 左肺癌手術後40日で発症し, ステロイド大量療法にて救命し得た急性間質性肺炎の1例. 第134回日本肺癌学会関東部会, 2002. 7.
- 79) 山内仁紫, 落 雅美, 中野純子, 大森裕也, 井村 肇, 別所竜蔵, 池上 英<sup>1)</sup>, 内木場庸子<sup>2)</sup>, 倉持雪穂<sup>2)</sup>, 深澤隆治<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第2, <sup>2)</sup>小児科): 川崎病巨大冠動脈瘤に対する外科治療. 第38回日本小児循環器学会総会, 2002. 7.
- 80) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 沖浜裕史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): KIT・PDGFR発現からみた胃GIST症例の検討. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 81) 佐々木孝, 山内茂生<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 胸部下行大動脈瘤術後脳梗塞を認めた1例. 第18回東葛心臓血管外科研究会, 2002. 7.
- 82) 檜山和弘, 落 雅美, 羽鳥信郎, 菅野重人, 山田研一, 大久保直子, 宮城泰雄, 大森裕也, 仁科 大, 清水佳世, 新田 隆, 矢島俊巳, 田中茂夫: 担癌症例に対するoff pump CABG 18例の経験. 第7回日本冠動脈外科学会学術集会, 2002. 7.
- 83) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平井恭二, 福島光浩, 宮本哲也, 川本雅司<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>病理学第1): 肺原発印環細胞癌の1切除例. 第134回日本肺癌学会関東部会, 2002. 7.
- 84) 大久保直子, 羽鳥信郎, 落 雅美, 矢島俊巳, 新田 隆, 山内仁紫, 別所竜蔵, 坂本俊一郎, 清水佳世, 田中茂夫: 炎症性サイトカインm-RNAの発現: off-pumpとon-pump CABGでの比較. 第7回日本冠動脈外科学会学術大会, 2002. 7.
- 85) 吉野直之<sup>1)</sup>, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): ヒト肺癌培養細胞を用いた小核試験の検討. 第21回日本サイトメトリー学会, 2002. 8.
- 86) 天神敏博, 吉野直之, 三上 巖, 田中茂夫: 正常ヒト乳腺上皮培養細胞を用いた細胞毒性テスト. 第21回日本サイトメトリー学会, 2002. 8.
- 87) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: 術中シンチグラフィを併用した原発性副甲状腺機能亢進症に対するラジオガイド下内視鏡補助下手術. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 88) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 田中茂夫: 頸部皮膚吊り上げ法(VANS法)による甲状腺, 副甲状腺手術の工夫, 改良点. 第5回内視鏡下内分泌手術研究会, 2002. 9.
- 89) 山本英希, 松島申治, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 胸壁腫瘍の形をとった肉腫型悪性中皮腫. 第123回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 9.

- 90) 宮本哲也, 小泉 潔, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 田中茂夫: 「転移性肺腫瘍に対する胸腔鏡補助下手術症例の検討」. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 91) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井信<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 沖浜裕史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発GISTの診断・治療に関する検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 92) 吉野直之<sup>1)</sup>, 天神敏博, 小泉 潔, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 培養細胞を用いた遺伝子毒性の評価: 新しい小核試験の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 93) 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 佐々木孝<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 診断に苦慮した肺犬糸状虫症の1例. 第123回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 9.
- 94) 坂本俊一郎, 新田 隆, 石井庸介, 宮城泰雄, 大森裕也, 菅野重人, 矢島俊巳, 田中茂夫: 心房中隔興奮伝播様式: 心房間伝導路の局在と伝導特性. 第19回日本心電学会学術集会, 2002. 9.
- 95) 中島由貴, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 岡田大輔, 榎本 豊, 宮本哲也, 田中茂夫: 胸腔鏡下胸部交感神経切除術が有効であった特異性肢端紅痛症の2例. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 96) 宮城泰雄, 新田 隆, 石井庸介, 大森裕也, 坂本俊一郎, 山田規予美, 田中茂夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2): 外科用高周波ablation probeを用いた心拍動下心房線状焼灼の実験的検討: 心外膜側焼灼と心内膜側焼灼の比較. 第19回日本心電学会学術集会, 2002. 9.
- 97) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平井恭二, 福島光浩, 宮本哲也, 田中茂夫: 当科における縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術の検討. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 98) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 大きな甲状腺病変に対応するためのVANS法の改良と工夫(長径74mmの結節性甲状腺腫摘除の経験とともに). 第15回内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 99) 平井恭二, 小泉 潔, 宮本哲也, 川島徹生, 山岸茂樹, 福島光浩, 平田知己, 田中茂夫: 間質性肺炎合併肺癌に対する胸腔鏡下手術症例の検討: 開胸下手術群との比較. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 100) 平井恭二, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 三上 徹, 福島光浩, 木下裕康, 山岸茂樹, 岡田大輔, 川島徹生, 宮本哲也, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 田中茂夫: 間質性肺炎, 肺線維症の肺切除術. 第2回呼吸器胸腔鏡外科クラブ研究会, 2002. 9.
- 101) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 治癒切除術後の再発死亡例からみた胃癌治療の問題点. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 102) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 年代別にみた胃癌切除例の検討. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 103) 井村 肇<sup>1)</sup>, Suleiman MS<sup>2)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>2)</sup>Bristol Heart Institute): 発育途上心筋 Isolated Myocyte Model における Controlled Repertusion の検討. 第55回日本胸部外科学会総会, 2002. 10.
- 104) 別所竜蔵, Chambers DJ<sup>1)</sup>, 落 雅美, 田中茂夫(<sup>1)</sup>Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic surgery, The Rayne institute, Guy's and St Thomas' NHS Trust, St Thomas' Hospital): Esmolol cardioplegia (Importance of oxygenation compared to St Thomas' cardioplegia). 第55回日本胸部外科学会総会, 2002. 10.
- 105) 宮本哲也, 小泉 潔, 落 雅美, 羽鳥信郎, 原口秀司, 平田知己, 別所竜蔵, 山田研一, 平井恭二, 三上 徹, 福島光浩, 山岸茂樹, 榎本 豊, 岡本淳一, 田中茂夫: 冠動脈バイパス術と肺癌外科治療の心肺同時手術を行った3症例. 第55回日本胸部外科学会総会, 2002. 10.
- 106) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 沖浜裕史<sup>2)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 各種蛋白発現及び MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の診

- 断・治療に関する検討．第44回日本消化器病学会大会（DDW），2002．10．
- 107) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>同病理部) アポトーシス関連蛋白発現・MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の病理診断・治療に関する検討．第61回日本癌学会総会，2002．10．
- 108) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，廣井信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>3)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科，<sup>3)</sup>同病理部)：消化管原発 Diffuse large B cell lymphoma 手術症例の臨床病理学的検討．第40回日本癌治療学会，2002．10．
- 109) 吉野直之<sup>1)</sup>，天神敏博，小泉 潔，田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科)：ヒト肺癌培養細胞を用いた小核試験の検討．第40回日本癌治療学会総会，2002．10．
- 110) 坂本俊一郎，新田 隆，石井庸介，宮城泰雄，大森裕也，菅野重人，矢島俊巳，田中茂夫：心房間伝導路の検討：心房間伝導路の同定と伝導特性．第55回日本胸部外科学会総会，2002．10．
- 111) 小泉 潔，原口秀司<sup>1)</sup>，平田知己，平井恭二，三上 徹，福島光浩，岡田大輔，川島徹生，山岸茂樹，榎本豊，木下裕康，岡本淳一，中山景介，中島由貴，田中茂夫(<sup>1)</sup>第二病院外科)：閉塞性換気障害を有する肺癌外科治療での肺機能予測の再評価：開胸術と胸腔鏡補助手術との比較から．第55回日本胸部外科学会総会，2002．10．
- 112) 平田知己，小泉 潔，永井尚生<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>，久吉隆郎，原口秀司，平井恭二，三上 徹，福島光浩，宮本哲也，岡田大輔，山岸茂樹，西村仁志<sup>2)</sup>，秋山博彦<sup>2)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>日本医科大学老人病研究所，<sup>2)</sup>埼玉癌センター)：非小細胞肺癌の体系的遺伝子解析．第55回日本胸部外科学会総会，2002．10．
- 113) 平井恭二，小泉 潔，岡田大輔，川島徹生，山岸茂樹，宮本哲也，平田知己，原口秀司，田中茂夫：ヒト非小細胞肺癌組織における Maspin タンパク発現の意義について．第43回日本肺癌学会総会，2002．10．
- 114) 平井恭二，小泉 潔，岡田大輔，川島徹生，山岸茂樹，宮本哲也，平田知己，原口秀司，田中茂夫：ヒト非小細胞肺癌組織における Maspin タンパク発現の意義について．第56回日本胸部外科学会総会，2002．10．
- 115) 久吉隆郎<sup>1)</sup>，吉野直之<sup>1)</sup>，佐々木孝<sup>1)</sup>，小笠原英継<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，山内茂生<sup>1)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科)：acetabular (stainless) mesh と marlex mesh による胸壁再建を行った右肺全摘後胸壁再発肺癌の1例．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 116) 岡田大輔，秋山博彦<sup>1)</sup>，西村仁志<sup>1)</sup>，小斉平聖治<sup>2)</sup>，駒形浩史<sup>2)</sup>，小林国彦<sup>2)</sup>，酒井 洋<sup>2)</sup>，米田修一<sup>2)</sup>，西田一典<sup>3)</sup>，土屋永壽<sup>3)</sup>，山本光伸<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科，<sup>2)</sup>同呼吸器科，<sup>3)</sup>同病理科，<sup>4)</sup>北多摩病院外科)：肺癌再切除症例の治療成績の検討．第43回日本肺癌学会総会，2002．11．
- 117) 渡邊秀裕，江上 格，長谷川博一，宮本昌之，飯田信也，鈴木成治，横山 正，大川敬一，萩原信敏，高島良樹，福原宗久(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科)：後期高齢者胃癌の年代推移；切除例での検討．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 118) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，田中茂夫：術中シンチグラフィを併用した原発性副甲状腺機能亢進症に対するラジオナビゲート手術．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 119) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，田中茂夫：原発性副甲状腺機能亢進症に対するラジオナビゲーション手術：術中シンチグラフィ併用の経験．第35回甲状腺外科研究会，2002．11．
- 120) 山本英希，松島申治，江上 格<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>2)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同病理部)：肺・縦隔疾患における術中免疫染色併用迅速診断の試み．第43回日本肺癌学会総会，2002．11．
- 121) 大森裕也，山内仁紫，落 雅美，新田 隆，矢島俊巳，菅野重人，檜山和弘，宮城泰雄，保坂純郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>放射線医学)：Color duplex scanによる不全交通枝術前マーキングの検討．第43回日本脈管学会総会，2002．11．

- 122) 別所竜蔵, 落 雅美, 石井庸介, 山田研一, 佐地嘉章, 神戸 将, 矢島俊巳, 田中茂夫: 胸腹部大動脈瘤手術症例の検討. 第43回日本脈管学会総会, 2002. 11.
- 123) 宮本哲也, 小泉 潔, 落 雅美, 平田知己, 平井恭二, 羽鳥信郎, 原口秀司, 別所竜蔵, 山田研一, 三上 巖, 福島光浩, 山岸茂樹, 榎本 豊, 岡本淳一, 田中茂夫: 冠動脈バイパス術と肺癌外科治療の心肺同時手術を行った3症例. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 124) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): 悪性度からみた胃原発性 GIST 症例の臨床病理学的検討. 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.
- 125) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部心臓血管・呼吸器外科): 高度石灰化病変を有する連合弁膜症に対して Translocation 法による二弁置換術, 冠動脈バイパス術を施行した1例. 第31回千葉冠動脈疾患研究会, 2002. 11.
- 126) 宇留野隆<sup>1)</sup>, 宮内 昭<sup>1)</sup>, 清水一雄, 中野恵一<sup>1)</sup>, 高村勇貴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>隈病院): 再発甲状腺癌手術症例の検討. 第35回甲状腺外科学会, 2002. 11.
- 127) 城所 葉<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup>, 芦澤真代<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>付属病院内科第3): サイログロブリンの甲状腺細胞増殖刺激作用. 第45回日本甲状腺学会, 2002. 11.
- 128) 江本直也<sup>1)</sup>, 城所 葉<sup>1)</sup>, 芦澤真代<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 清水一雄(<sup>1)</sup>付属病院内科第3): Basedow 病甲状腺におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の特異性. 第45回日本甲状腺学会, 2002. 11.
- 129) 天神敏博, 吉野直之, 山岸茂樹, 福島光裕, 平井恭二, 赤須東樹, 北川 亘, 小泉 潔, 清水一雄, 田中茂夫: Adriamycin を用いた培養細胞による毒性テスト. 第40回日本癌治療学会, 2002. 11.
- 130) 栗田二郎, 落 雅美, 菅野重人, 山田研一, 田中茂夫: 4枝 Off-pump CABG に Carotid-Subclavian Bypass を同時施行した1例. 第10回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2002. 11.
- 131) 中島由貴, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 福島光浩, 山岸茂樹, 岡田大輔, 榎本 豊, 宮本哲也, 田中茂夫: 胸壁原発 PNET 術後, 2回の再発再手術を経て長期生存している1例. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 132) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 中山景介, 中島由貴, 田中茂夫: 低肺機能肺癌症例の術後合併症の検討. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 133) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: Marine-Lenhart 症候群の臨床経験. 第35回甲状腺外科学会, 2002. 11.
- 134) 中山景介, 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 山岸茂樹, 岡田大輔, 木下裕康, 川島徹生, 榎本 豊, 岡本淳一, 宮本哲也, 中島由貴, 田中茂夫: 80歳以上の超高齢者肺癌外科治療戦略: 定型的開胸術と胸腔鏡補助手術との比較. 第43回日本肺癌学会総会, 2002. 11.
- 135) 岡田大輔, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 西村仁志<sup>1)</sup>, 小斉平聖治<sup>2)</sup>, 駒形浩史<sup>2)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 酒井 洋<sup>2)</sup>, 米田修一<sup>2)</sup>, 西田一典<sup>3)</sup>, 土屋永壽<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科, <sup>2)</sup>同呼吸器科, <sup>3)</sup>同病理科): 完全内臓逆位症に合併した肺腺癌の1切除例. 第135回日本肺癌学会関東部会, 2002. 12.
- 136) 仁科 大<sup>1)</sup>, 落 雅美, 羽鳥信郎, 山田研一, 菅野重人, 佐地嘉章, 檜山和弘, 宮城泰雄, 大森裕也, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): 多枝病変例に対する3枝以上再建の OPCAB 例の検討. 第16回日本冠疾患学会, 2002. 12.
- 137) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 高度石灰化病変を有する連合弁膜症例に対して Translocation 法により二弁置換術を施行した1例. 第15回東葛心臓血管外科学会, 2002. 12.

- 138) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 高度石灰化病変を有する連合弁膜症に対して Translocation 法により二弁置換術を施行した1例. 第14回第二外科研究会, 2002. 12.
- 139) 田畑美弥子, 新浪 博<sup>1)</sup>, 須田優司<sup>1)</sup>, 市川誠一<sup>1)</sup>, 伴 哲雄<sup>1)</sup>, 山本真人<sup>1)</sup>, 浅野竜太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大附属第二病院): 胸骨小切開アポローチで Aortic coynnectov を用いた超高齢者 MIDCAB の1例. 第186回日循環東甲信越地方会, 2002. 12.
- 140) 有田 淳<sup>1)</sup>, 大場英己<sup>1)</sup>, 渡辺一彦<sup>1)</sup>, 加藤 秀和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>佼成病院): 白血球吸着療法が著功した難治性潰瘍性大腸炎の1例. 外科集談会, 2002. 12.
- 141) 朝山 功<sup>1)</sup>, 石川隆志<sup>1)</sup>, 山田 哲<sup>1)</sup>, 北川 亘, 清水一雄(<sup>1)</sup>金地病院): 機能性上皮小体嚢腫の1例. 第7回北区医師会学術集談会, 2002.
- 142) 渡邊秀裕<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 高齢者胃癌症例における重複癌. 第5回日本高齢消化器医学会議, 2003. 1.
- 143) 佐地嘉章, 落 雅美, 羽鳥信郎, 山田研一, 菅野重人, 檜山和弘, 宮城泰雄, 田中茂夫: CABGにおける小皮膚切開による直視下橈骨動脈グラフト採取法. 第17回心臓血管外科ウインターセミナー, 2003. 1.
- 144) 渡邊秀裕, 江上 格, 笹島耕二, 長谷川博一, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 横山 正, 大川敬一(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 高齢者胃癌手術治療の留意点. 第75回日本胃癌学会総会, 2003. 2.
- 145) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): Translocation 法により弁置換術を施行した高度石灰化病変を有する連合弁膜症例. 第125回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2003. 2.
- 146) 岡田大輔, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 西村仁志<sup>1)</sup>, 小斉平聖治<sup>2)</sup>, 駒形浩史<sup>2)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 酒井 洋<sup>2)</sup>, 米田修一<sup>2)</sup>, 西田一典<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター胸部外科, <sup>2)</sup>同呼吸器科, <sup>3)</sup>同病理科): Combined Small Cell and Pleomorphic Carcinoma の1切除例. 第136回日本肺癌学会関東部会, 2003. 3.
- 147) 中島由貴, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 山岸茂樹, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 宮本哲也, 田中茂夫: 術前1秒量が1L未満の肺癌症例での術後3ヶ月以内死亡例の検討. 第43回日本呼吸器病学会総会, 2003. 3.
- 148) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 木下裕康, 宮本哲也, 岡本淳一, 中山景介, 中島由貴, 田中茂夫: 低肺機能肺癌手術症例の術後合併症の検討. 第43回日本呼吸器病学会総会, 2003. 3.
- 149) 小笠原英継<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 佐々木孝, 井村 肇<sup>1)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部外科): ヒス束ペースメーキングの心機能に与える影響: ペースメーカー植込みを必要とする徐脈性不整脈患者を対象として. 第40回日本人工臓器学会, 2003. 10.
- 150) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>2)</sup>, 沖浜裕司<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同消化器科, <sup>3)</sup>同病理部): MIB-1 index からみた胃原発性GIST症例の検討. 第75回日本胃癌学会総会, 2003.

## [ 第二病院外科 ]

### 研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている。

1) 心臓血管外科領域: 開心術周術期における各種薬剤の薬理効果, および有効な心筋保護の確立について研究中有る。OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行っている。また, 高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の評価・管理・治療法について検討し, 成績の向上を計って

いる,末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である。

2)呼吸器外科領域:胸腺腫を除く縦隔腫瘍,転移性肺腫瘍,自然気胸に対してほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み,肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット,デメリットを評価している。また,再発肺癌や二次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。集学的治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている。

3)乳腺・甲状腺内分泌外科領域:診断では,MRIを中心にした微細画像診断により,癌の進展携帯を評価し,手術方針の決定に役立てている。手術では,鏡視下乳房温存手術を中心に,非定型的乳房切除術,乳頭・皮膚温存・乳腺全摘術を行い,さらにセンチネルリンパ節生検を行うよう準備を進めている。化学療法は,外来通院投与を中心に積極的に行い,QOLを高めるよう努力している。また,タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法について,その有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

## 研究業績

### 論文

#### (1)原著:

- 1) Hioki M, Iedokoro Y, Kawamura J, Yamashita Y, Yoshino N, Orii K, Masuda S, Yamashita K, Tanaka S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery II): Left Retroperitoneal Approach using a Retractor to Repair Abdominal Aortic Aneurysms: A Comparison with the Transperitoneal Approach. *Surgery Today* 2002; 32: 577-580.

### 著書

- 1) 原口秀司:〔自著〕第4章主な呼吸器疾患とその診察 外科的治療の適用となる主な疾患とその治療法。看護学5, 疾病の成り立ちと回復の促進, 呼吸器疾患/腎疾患(工藤翔二, 山田 明), 2002; pp154-178, メヂカルフレンド社。

### 学会発表

#### (1)一般講演:

- 1) 原口秀司, 織井恒安, 村野光和, 宅島美奈, 山下浩二, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 甲状腺癌との重複を疑った肺癌甲状腺転移の1例。第19回日本呼吸器外科学会総会, 2002. 5.
- 2) 増田 栄, 日置正文, 宅島美奈, 山下康夫, 織井恒安, 家所良夫, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2外科): Peters 奇形を伴うAAE及び大動脈縮窄症の1手術例。第122回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 6.
- 3) 宅島美奈, 原口秀司, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 日置正文, 久吉隆郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 長期生存した異時性多発肺癌の1例。第122回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 6.
- 4) 山下浩二, 原口秀司, 山下康夫, 織井恒安, 宅島美奈, 村野光和, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院外科第2): Paclitaxel, Anthracycline 耐性転移性乳癌に対するTrastuzumabの有効性の検討。第11回日本乳癌学会, 2002. 7.
- 5) 原口秀司, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 山下浩二, 日置正文(<sup>1)</sup>付属病院外科第2): 肺癌胸腔鏡下手術の侵襲性と予後について。第15回日本内視鏡外科学会総会シンポジウム, 2002. 9.
- 6) 原口秀司, 日置正文, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 山下浩二, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 久吉隆郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院外科第2, <sup>2)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 肺癌切除例における重複癌症例の臨床的検討。第43回日本肺癌学会総会, 2002. 10.

- 7) 遠藤直哉, 織井恒安, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 松本光司<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院第2外科): Fibromuscular dysplasia による左総腸骨動脈瘤破裂の1症例. 第10回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2002. 11.
- 8) 山下浩二, 遠藤直哉美, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 原口秀司, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第2外科): 当院における鏡視下乳腺切除術28例の検討. 第12回日本乳腺内視鏡手術研究会報告, 2002. 11.

## [ 多摩永山病院内視鏡科 ]

### 研究概要

消化管疾患に関連した研究発表, 症例報告を行った.

1) 東南アジア諸国(中華人民共和国:北京,福州,ベトナム社会主義共和国:ホー・チ・ミン,タイ王国:チェンマイ)と日本における上部消化管疾患, *Helicobacter pylori*感染の相違について種々の角度から検討, 報告した. この成績は *Helicobacter pylori*の研究に関しては世界でも権威のある雑誌 *Helicobacter*にも掲載された. 日本人では消化性潰瘍のうち胃潰瘍が多いのに対し, 中国人, ベトナム人, タイ人では十二指腸潰瘍が多いこと, *Helicobacter pylori*感染率はベトナム人<日本人 中国人<タイ人であることが明らかとなった. また, *Helicobacter pylori*陽性日本人の萎縮, 腸上皮化生スコアは *Helicobacter pylori*陽性ベトナム人, 中国人, タイ人に比し有意に高かった. この原因については今後の解明が待たれる.

2) アジア諸国の研究調査を拡大するため, ミャンマー, ネパール, カンボジア, フィリピン, 中国(上海)に行き, 共同研究の打ち合わせを行った. また, ベトナム中部のフエでの調査も始まった.

3) 外来症例における *Helicobacter pylori*関連を中心に内視鏡的止血術, アルゴンプラズマ凝固, 内視鏡検査受診者における感染症(B型肝炎, C型肝炎, 梅毒, エイズ)の頻度に関する論文も執筆した.

4) *Helicobacter pylori*関連演題のシンポジウム講演, ワークショップ講演, 海外講演, 一般講演を多数行った.

5) 上部消化管病変の発見される頻度が高い血液透析患者における胃十二指腸疾患, *Helicobacter pylori*感染に関する研究を開始した.

6) 上部消化管に関する症例報告(Double pylorus, 若年者胃癌, GIST, 他)を行った.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>2)</sup>, Kato S<sup>1)</sup>, Tomtitchong P<sup>3)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Masaru M<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Yamada N<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>チェンマイ大学外科(タイ王国, チェンマイ), <sup>3)</sup>タマサト大学外科(タイ王国, バンコク), <sup>4)</sup>病理学第2): Genetic differences in interleukin-1 polymorphisms among four Asian populations: an analysis of the Asian paradox between *H. pylori* infection and gastric cancer incidence. J. Exp. Cancer Res 2003; 22(1): 47-55.
- 2) Matsuhisa T, Yamada N<sup>1)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsukura N<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>外科第1): *Helicobacter pylori* infection, mucosal atrophy and intestinal metaplasia in Asian population: a comparative study in age-, gender- and endoscopic diagnosis- matched subjects. Helicobacter 2003; 8(1): 29-35.
- 3) 松久威史: 出血性潰瘍の内視鏡的止血術: クリップ法, 局注法, アルゴンプラズマ凝固法について. 消化器の臨床 2002; 5(2): 136-140.
- 4) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*陽性アジア人高齢者における組織学的胃炎の観察: 日本人高齢者との比較. 日本高齢消化器医学会議雑誌 2002; 4(2): 68-74.



(2) One Point Advice :

- 1) 松久威史: 消化器領域におけるアルゴンプラズマ凝固 (APC) 法の有用性. Medical Practice 2002 ; 19 (6): 1052-1052 .
- 2) 松久威史: *Helicobacter pylori*感染診断における糞便 Hp抗原検査 (HpSA). Medical Practice 2003 ; 20 (2): 343-343 .

(3) 話題 :

- 1) 松久威史: *Helicobacter pylori*除菌療法の現状と問題点. J Nippon Med Sch 2003 ; 70 (1): 82-83 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2): *Helicobacter pylori*除菌後にみられた胃病変の内視鏡的観察 (*H. pylori* 除菌後の諸問題: 内視鏡の観点から). 第74回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2002 . 6 .

(2) ワークショップ :

- 1) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*陽性アジア人における背景胃粘膜の比較観察 (*H. pylori*感染と胃炎). 第8回日本ヘリコバクター学会, 2002 . 6 .
- 2) 松久威史, 日下部史郎, 芳村昇治, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*除菌 regimenの検討: 除菌不成功例への対策を含めて (*H. pylori*二次除菌の問題). 第8回日本ヘリコバクター学会, 2002 . 6 .

(3) 一般講演 :

- 1) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* infection, gastritis, mucosal atrophy and intestinal metaplasia in Asian populations : age, gender and endoscopic diagnosis matched study . The 2nd annual conference of Korea-Japan joint meeting on *Helicobacter pylori* infection (Nikko, Japan), 2002 . 6 .
- 2) Yoshimura J, Matsuhisa T : Experience of immunological rapid urease test used for the diagnosis of *Helicobacter pylori* infection . The 2nd annual conference of Korea-Japan joint meeting on *Helicobacter pylori* infection (Nikko, Japan), 2002 . 6 .
- 3) Matsuhisa T, Kusakabe S, Yoshimura J, Maeda S<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): Evaluation of regimens used for *Helicobacter pylori* eradication . The 2nd annual conference of Korea-Japan joint meeting on *Helicobacter pylori* infection (Nikko, Japan), 2002 . 6 .
- 4) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): Study of the prevalence of *Helicobacter pylori* infection and the difference of gastroduodenal disease in Asian populations compared with Japanese : age, gender and endoscopic diagnosis matched study . 10th United European Gastroenterology Week (Geneva, Switzerland), 2002 . 10 .
- 5) Matsuhisa T, Matsukura N<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)外科第1, <sup>2)</sup>病理学第2): Study of the ration of corpus gastritis to antrum gastritis (C/A ratio) in *Helicobacter pylori* positive Asian populations compare with Japanese : age, gender and endoscopic diagnosis matched study . 10th United European Gastroenterology Week (Geneva, Switzerland), 2002 . 10 .
- 6) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>: *Helicobacter pylori*感染別にみた萎縮と腸上皮化生: アジア諸国の比較. 第63回日本消化器内視鏡学会総会, 2002 . 4 .
- 7) 松久威史, 芳村昇治, 日下部史郎, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理学第2): 東京都千代田区と多摩市における *Helicobacter pylori*感染率の検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002 . 4 .
- 8) 日下部史郎, 芳村昇治, 松久威史: *Helicobacter pylori*感染診断におけるヘリコセンサ (HLS-2000) の使用経験 .

- 第74回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2002．6．
- 9) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2): 日本人とベトナム人老年者における背景胃粘膜の観察：胃十二指腸疾患，*Helicobacter pylori*感染を含めて．第44回日本老年医学会学術集会，2002．6．
- 10) 芳村昇治，日下部史郎，松久威史：*Helicobacter pylori*感染診断に用いる免疫学的迅速ウレアーゼ試験検査の検討．第8回日本ヘリコバクター学会，2002．6．
- 11) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2): ベトナム人小児における*Helicobacter pylori*感染：日本人小児との比較．第8回日本ヘリコバクター学会，2002．6．
- 12) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>，鈴木美貴<sup>2)</sup>，渡邊雅俊<sup>2)</sup>，安達敏行<sup>2)</sup>，田中則好<sup>2)</sup>，岡本富美子<sup>2)</sup>，岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2，<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院)：透析患者における上部消化管疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察：非透析例とのcase control study．第47回日本透析医学会学術集会・総会，2002．7．
- 13) 松久威史：胃炎の民族差 - *Helicobacter pylori*陽性アジア人の比較．第22回東京Hp研究会，2002．8．
- 14) 松久威史，松倉則夫<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)外科第1，<sup>2)</sup>病理学第2): アジアにおける胃潰瘍，十二指腸潰瘍の頻度と*Helicobacter pylori*感染，幽門部胃炎，体部胃炎の関係．潰瘍病態研究会第11回フォーラム，2002．8．
- 15) 松久威史，日下部史郎，芳村昇治，田原一郎，高須 勝，宮本安盛，高橋 央，前田昭太郎<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*感染別にみた背景胃粘膜の検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 16) 田原一郎，芳村昇治，松久威史：経過を追跡し得た後天性double pylorusの1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 17) 高須 勝，芳村昇治，松久威史：若年者胃癌の1例とその特徴．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 18) 宮本安盛，松久威史：内視鏡的胃腺腫切除術後の残存病変に癌が発生した1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 19) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>，鈴木美貴<sup>2)</sup>，渡邊雅俊<sup>2)</sup>，安達敏行<sup>2)</sup>，田中則好<sup>2)</sup>，岡本富美子<sup>2)</sup>，岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2，<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院)：血液透析患者における上部消化管疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察．第75回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2002．12．
- 20) 松久威史，山田宣孝<sup>1)</sup>，鈴木美貴<sup>2)</sup>，渡邊雅俊<sup>2)</sup>，安達敏行<sup>2)</sup>，岡本富美子<sup>2)</sup>，岡本明彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)病理学第2，<sup>2)</sup>医療法人吉祥会岡本医院)：高齢血液透析患者における上部消化管疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察．第5回日本高齢消化器医学会議，2003．1．
- 21) 高須 勝，田原一郎，宮本安盛，芳村昇治，松久威史：貧血を契機に発見された胃GISTの1例．第44回多摩消化器病研究会，2003．3．

## 11. 脳神経外科学講座

### [ 付属病院脳神経外科 ]

#### 研究概要

平成14年度当教室における論文業績は英文22編、和文40編の計62編であった。英文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍4編、他の脳腫瘍8編、分子生物学2編、脳血管障害3編、神経外傷2編、その他3編であり、基礎的研究12編、臨床的研究9編および社会医学的研究1編であった。一方、和文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍12編、他の脳腫瘍5編、脳血管障害5編、神経外傷4編、モニタリング等4編、その他10編であり、基礎的研究6編、臨床的研究34編であった。これに、分担著書として和文31編が加わる。学会発表は、267回あり、内国際学会は15回であった。

当教室の研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれており、脊髄グループができてつある。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者数も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない。ただ、脳虚血に関する実験的研究が本年から出始めており、今後これに引き続き業績が期待される。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もおり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助手以上には科研費応募を義務としている。勿論個人間の偏りはあるが、現教室員数からみるとこれらの条件は十分に満たしているものと思われる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yamada SM, Yamada S<sup>1)</sup>, Hayashi Y, Takahashi H<sup>2)</sup>, Teramoto A, Matsumoto K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Daini Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine ): Fibroblast growth factor receptor ( FGFR ) 4 correlated with the malignancy of human astrocytomas . *Neurol Res* 2002 ; 24 ( 3 ): 244-248 .
- 2) Yoshida D<sup>1)</sup>, Watanabe K, Noha M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Suppression of matrix metalloproteinase activity by SI-27 : detection by a new activity assay with S-2444, a specific chromogenic peptide . *J Neur-Oncol* 2002 ; 58 ( 1 ): 1-11 .
- 3) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital ): Benefits of percutaneous endoscopic button gastrostomy in neurological rehabilitation therapy . *Int J Rehabil Res* 2002 ; 25 ( 2 ): 157-161 .
- 4) Aoki M<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Kusunoki T<sup>1)</sup>, Tahara S, Kawanah S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology ): Angiolympoid hyperplasia with eosinophilia associated with anomalous dilatation of occipital artery : IL-5 and VEGF expression of lesional mast cells . *Arch Dermatol* 2002 ; 138 ( 7 ): 982-984 .
- 5) Yamada SM, Teramoto A, Yamada S<sup>1)</sup>, Hoshiai YC<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Daini Hospital, <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology, Jikei University School of Medicine ): Severe Papilledema

Identified 3 Weeks After Head Injury-Case Report- . *Neurol Med Chir* 2002 ; 42 ( 7 ): 293-296 .

- 6) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital ): Ventriculoperitoneal shunt dysfunction during rehabilitation : prevalence and countermeasures . *Am J Phys Med Rehabil* 2002 ; 81 ( 8 ): 571-578 .
- 7) Wakabayashi K<sup>12)</sup>, Shimura T<sup>3)</sup>, Mizutani N<sup>3)</sup>, Koide A<sup>4)</sup>, Yamagiwa O<sup>5)</sup>, Mori F<sup>2)</sup>, Nishiyama K<sup>6)</sup>, Tanaka R<sup>6)</sup>, Takahashi H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Brain Disease Research Center, Niigata University , <sup>2)</sup> Department of Neuropathology , Institute of Brain Science, Hirosaki University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Murakami General Hospital , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery , Yokohama Shintoshu Neurosurgical Hospital , <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery, Niigata University , <sup>7)</sup> Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University ): Primary intracranial solitary leptomeningeal glioma : a report of 3 cases . *Clin Neuropathol* 2002 ; 21 ( 5 ): 214-219 .
- 8) Yokota H<sup>1)</sup>, Naoe Y<sup>1)</sup>, Nakabayashi M<sup>1)</sup>, Unemoto K<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>1)</sup>, Node Y , Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine ): Cerebral endothelial injury in severe head injury : The significance of measurements of serum thrombomodulin and von Willebrand factor . *J Neurotrauma* 2002 ; 19 ( 9 ): 1007-1015 .
- 9) Tahara S , Kurotani R<sup>1)</sup>, Ishii Y , Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A , Osamura RY<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): A Case of Cushing's Disease Caused by Pituitary Adenoma Producing Adrenocorticotrophic Hormone and Growth Hormone Concomitantly : Aberrant Expression of Transcription Factors NeuroD1 and Pit-1 as a Proposed Mechanism . *Mod Pathol* 2002 ; 15 ( 10 ): 1102-1105 .
- 10) Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Shinshu University School of Medicine ): The Current State of Neurosurgery in Japan . *Neurosurg* 2002 ; 51 ( 4 ): 864-870 .
- 11) Toda S , Ikeda Y<sup>1)</sup>, Teramoto A , Hirakawa K<sup>2)</sup>, Uekusa K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine ): Highly reproducible rat model of reversible forebrain ischemia modified four-vessel occlusion model and its metabolic feature . *Acta neurochir* 2002 ; 144 ( 12 ): 1297-1304 .
- 12) Teramoto A : Contemporary transsphenoidal surgery for pituitary adenomas with emphasis on complications . *Biomed Pharmacother* 2002 ; 56 ( Suppl ): 154s-157s .
- 13) Yoshida D<sup>1)</sup>, Watanabe K , Noha M , Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A , Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Tracking cell invasion of human glioma cells and the suppression by anti -matrix metalloproteinase agent in rodent brain slice model . *Brain Tumor Pathol* 2002 ; 19 ( 2 ): 69-76 .
- 14) Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Isobe H<sup>1)</sup>, Ryu A<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Sanno N , Yamamoto H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Amelanotic melanoma of the anterior mediastinum-a case report- . *Clin Cytol* 2002 ; 41 : 106-111 .
- 15) Sano T<sup>1)</sup>, Kovacs K<sup>2)</sup>, Asa SL<sup>3)</sup>, Yamada S<sup>4)</sup>, Sanno N<sup>5)</sup>, Yokoyama S<sup>6)</sup>, Takami H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology , University of Tokushima School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Pathology , St . Michael's Hospital , University of Toronto , <sup>3)</sup> Department of Laboratory Medicine and Pathobiology , University of Toronto , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery , Toranomon Hospital , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery , Faculty of Medicine , Kagoshima University , <sup>7)</sup> Department of Surgery , Teikyo University ): Pituitary adenoma with "Honeycomb golgi" appearance

- showing a phenotypic change at recurrence from clinically nonfunctioning to typical cushing disease . *Endocr Pathol* 2002 ; 13 ( 2 ): 125-130 .
- 16 ) Yoshida S<sup>1)</sup>, Harada H<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Fukino K , Teramoto A , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ) : Head-to-head juxtaposition of Fas-associated phosphatase-1 ( FAP-1 ) and c-Jun NH2-terminal kinase 3 ( JNK3 ) genes : genomic structure and seven polymorphisms of the FAP-1 gene . *J Hum Genet* 2002 ; 47 ( 11 ): 614-619 .
- 17 ) Harada H<sup>1)</sup>, Kimura A<sup>1)</sup>, Fukino K , Yasunaga S<sup>1)</sup>, Nishi H<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology ) : Genomic structure and eight novel exonic polymorphisms of the human N-cadherin gene . *J Hum Genet* 2002 ; 47 ( 6 ): 330-332 .
- 18 ) Noha M , Laurance M<sup>1)</sup>, Vives KP<sup>1)</sup>, Gunel M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Yale University School of Medicine ) : Suppression of notch signaling induces apoptosis in tumors of neural and glial lineage . *J Neuro-Oncol* 2002 ; 4 ( Suppl 1 ): 69-69 .
- 19 ) Sanno N<sup>1)</sup>, Teramoto A , Osamura RY<sup>2)</sup>, Horvath E<sup>3)</sup>, Kovacs K<sup>3)</sup>, Lloyd RV<sup>4)</sup>, Scheithauer BW<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology , Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pathology , St. Michael's Hospital , University of Toronto , <sup>4)</sup> Department of Laboratory Medicine and pathology , Mayo Clinic , <sup>5)</sup> Department of Pathology , Mayo Clinic ) : Pathology of Pituitary tumors . *Neurosurg Clin N Am* 2003 ; 14 ( 1 ): 25-39 .
- 20 ) Kanazawa R , Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine ) : Osteosarcoma arising from the skull-case report- . *Neurol med chir* 2003 ; 43 ( 2 ): 88-91 .
- 21 ) Furukawa T<sup>1)</sup>, Hoshino S<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Asakura T , Takahashi M<sup>4)</sup>, Atsumi T , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neuropathology, Heiseiteishi Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neuropathology, Heiwadai Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neuropathology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd ) : The glutamate AMPA receptor antagonist, YM872, attenuates cortical tissue loss, regional cerebral edema, and neurological motor deficits following experimental brain injury in rats . *J Neurotrauma* 2003 ; 20 ( 3 ): 269-278 .
- 22 ) Yoshida D<sup>1)</sup>, Watanabe K , Noha M , Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ) : Anti-invasive effect of an anti-matrix metalloproteinase agent in a murine brain slice model utilizing the serial monitoring of green fluorescent protein-labeled glioma cells . *Neurosurg* 2003 ; 52 ( 1 ): 187-197 .
- 23 ) 喜多村孝幸 : 神経内視鏡による脳室内腫瘍の摘出 . *Clin Neurosci* 2002 ; 20 ( 4 ): 480-481 .
- 24 ) 坂本 徹<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup>, 青木亜佐子<sup>1)</sup>, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 山川裕之<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学学生 , <sup>2)</sup> 病理第2 ) : Coronary Intervention ( PTCA/Stent ) 後の剖検例に対する臨床病理学的検討 . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 2 ): 172-179 .
- 25 ) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科 ) : 新しいmatrix metalloproteinase 活性測定法 . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 2 ): 211-211 .
- 26 ) 寺本 明 : 経蝶形骨下垂体腫瘍摘出術 . *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2002 ; 74 ( 5 ): 91-94 .
- 27 ) 横堀将司<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院救命救急センター , <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科 ) : 重症多発外傷に合併した内頸動脈損傷に対し脱着式バルーン塞栓術が有効であった1例 . *日本救命医学会誌* 2002 ; 13 ( 4 ): 209-214 .
- 28 ) 寺本 明 : 下垂体腫瘍の治療 . *日本内科学会雑誌-特集 : 内科100年のあゆみ* 2002 ; 91 ( 4 ): 1081-1084 .

- 29) 草薨博昭, 寺本 明, 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室): くも膜下出血後の血液凝固線溶系の検討. 脳神経外科 2002 ; 30 (4): 399-403 .
- 30) 田原重志, 寺本 明: この患者をどう診断するか 月経不順, 乳汁分泌をきたし, 下垂体部腫瘍を認めた症例. CLINICIAN'02 2002 ; 511 (49): 63-64 .
- 31) 大山健一, 和田誠基<sup>1)</sup>, 佐藤 俊, 渡辺国博, 玉置智規, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 片山茂裕<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>3)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>埼玉医科大学第四内科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 出産後尿崩症を呈し顕在化した成長ホルモン産生下垂体腺腫の1例. ホルモンと臨床 2002 ; 50 (増刊号): 16-20 .
- 32) 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 5 内分泌疾患の診断・治療 下垂体卒中. 日本医師会雑誌特別号 2002 ; 127 (12): 216-217 .
- 33) 松野 彰<sup>1)</sup>, 長島 正<sup>1)</sup>, 片上秀喜<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明, 桐野高明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部市原病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>3)</sup>東京大学医学部脳神経外科): 成長ホルモン産生下垂体腺腫における視床下部ホルモンGHRHの発見の意義. 日本内分泌学会雑誌 2002 ; 78 (Suppl): 44-46 .
- 34) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): Pituitary incidentalomaの長期治療成績からみた治療選択. 日本内分泌学会雑誌 2002 ; 78 (Suppl): 61-62 .
- 35) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 高木 亮<sup>4)</sup>, 青山純夫<sup>5)</sup>, 橋詰良夫<sup>6)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>日本医科大学教育推進室, <sup>2)</sup>同生理第2, <sup>3)</sup>同内科第2, <sup>4)</sup>同放射線科, <sup>5)</sup>博慈会記念総合病院内科, <sup>6)</sup>愛知医科大学加齢医科学研究所老化形態部門): Neurological CPC・96 亜急性に進行する対麻痺で発症し, 約1ヶ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例. 脳と神経 2002 ; 54 (6): 543-549 .
- 36) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>教育推進室): 質疑応答 水頭症に対する脳室腹腔シヤント術の合併症. 日本醫事新報 2002 ; (4082): 142-143 .
- 37) 桂研一郎<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 杉山弘行<sup>4)</sup>, 寺本 明, 片山泰朗<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>東京都立荏原病院神経内科, <sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>4)</sup>東京都立荏原病院脳神経外科, <sup>5)</sup>日本医科大学第二内科): 神経内科からみた無症候性未破裂脳動脈瘤の治療の選択の現状. The Mt. Fuji Workshop on CVD 2002 ; 20 (別冊): 13-15 .
- 38) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果. 漢方と最新治療 2002 ; 11 (3): 291-293 .
- 39) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): テント脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討. 救急医学 2002 ; 26 (9): 1041-1045 .
- 40) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>高度救命救急センター): 治療法の選択と予後予測. 救急医学 2002 ; 26 (9): 1009-1015 .
- 41) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 「One-way ball valveを利用した体外脳室心房短絡術: 脳室ドレナージ中の患者のADL改善のために」の論文について(2). 脳神経外科 2002 ; 30 (9): 1025-1027 .
- 42) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 草薨博昭<sup>1)</sup>, 山口文雄, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 化学療法の有用性が示唆された小児Choroid Plexus Carcinomaの長期生存例. 癌と化学療法 2002 ; 29 (10): 1849-1852 .
- 43) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 大山雅史<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 三谷和子<sup>4)</sup>, 石井堅二<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>内科第2, <sup>4)</sup>東京都老人総合研究所ポジロン医学研究施設): [18F]PET画像のJackknife検定と健常者平均画像との差分画像: 進行性核上性麻痺の検討. 千葉核医学研究会誌 2002 ; 18 (1): 23-27 .
- 44) 前川正義<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科): 慢性硬膜下血腫の誘因となる頭部外傷時CT所見. 神経外傷 2002 ; 25 (2): 93-95 .

- 45) 山口文雄, 大井良之<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>2)</sup>, 中村利枝<sup>2)</sup>, 五十嵐亜希<sup>2)</sup>, 久保田稔<sup>3)</sup>, 澤田恵子<sup>4)</sup>, 志村俊郎<sup>5)</sup>, 高橋弘<sup>6)</sup>, 小林士郎<sup>7)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 麻酔科学, <sup>2)</sup> 生理機能センター, <sup>3)</sup> 多摩永山病院生理機能センター, <sup>4)</sup> 同脳神経外科, <sup>5)</sup> 教育推進室, <sup>6)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>7)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおけるBIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性. 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ): 1181-1188 .</sup>
- 46) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 教育推進室): 連載 医療保険制度の問題と改革への提言 ( 9 ) 現場からの実例・提言: 同日施行手術の保険請求制約について. 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ): 1249-1253 .
- 47) 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学): 非機能性下垂体腺腫197例の免疫組織化学的検討. 日本内分泌学会雑誌 2002 ; 78 ( Suppl ): 117-119 .</sup>
- 48) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 玉置智規, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 志村俊郎<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 教育推進室): テント上脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討. CI 研究 2002 ; 24 ( 1 ): 17-24 .</sup>
- 49) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 下垂体 incidentaloma . medicina 2002 ; 39 ( 11 ): 1362-1364 .</sup>
- 50) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 内科医が使う薬の副作用・相互作用 内分泌疾患薬 プロモクリプチン ( パーロデル ). medicina 2002 ; 39 ( 11 ): 346-348 .</sup>
- 51) 金澤隆三郎, 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 両側外傷性頸動脈損傷に対し血管内治療を行った1例. Neurosurg Emerg 2002 ; 7 : 59-62 .</sup>
- 52) 喜多村孝幸: 片頭痛治療薬コハク酸スマトリプタン. カレントセラピー 2002 ; 20 : 194-196 .
- 53) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 病気のはなし 脳下垂体腫瘍. 検査と技術 2002 ; 30 ( 5 ): 418-424 .</sup>
- 54) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頭蓋内疾患のモニタリングとしての血液マーカー: 脳血管内皮損傷の指標. 神経外傷 2002 ; 25 : 24-27 .</sup>
- 55) 飯田修平<sup>1)</sup>, 米満弘之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>3)</sup>, 吹田明日香<sup>4)</sup>, 岩崎 榮<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup> 練馬総合病院, <sup>2)</sup> 熊本機能病院, <sup>3)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>4)</sup> 日本放送協会, <sup>5)</sup> ( 学 ) 日本医科大学): 地域に根ざした民間病院間に連携. 全日本病院協会雑誌 2002 ; 13 ( 1 ): 23-50 .
- 56) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 11 末端肥大症 末端肥大症の外科治療. 内分泌・糖尿病科 2002 ; 15 : 327-332 .</sup>
- ( 2 ) 研究報告書 :
- 1) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): 悪性グリオーマ細胞における微小管蛋白の微小管阻害剤投与時の細胞内動態 ( No. 11671398 ). 平成 11-13 年度文部省科学研究費報告書 ( 基盤研究 ( C ) ( 2 ) ) 2002 .
- 2) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): GFP 遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの微小管阻害剤の抗浸潤効果 ( No. 14571340 ) ( 新規 ). 平成 14-16 年 文部省科学研究費補助金 ( 基盤研究 ( C ) ( 2 ) ) 2003 .
- ( 3 ) 綜説 :
- 1) 小島豊之, 寺本 明: 99mTc-MIBI を用いた radio-guided surgery . Clin Neurosci 2002 ; 20 ( 8 ): 948-949 .
- 2) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): Journal and book review ; Biochemical characterization of pediatric brain tumors by using in vivo and ex vivo magnetic resonance spectroscopy . 小児の脳神経 2002 ; 27 ( 6 ): 478-479 .
- 3) 喜多村孝幸: 頭痛の臨床: 脳神経外科の立場から. 不定愁訴 2002 ; 50 : 20-32 .

(4) 雑文：

- 1) 岡 芳久<sup>1)</sup>, 貞本和彦<sup>1)</sup>, 寺本 明, 島 健<sup>2)</sup>, 安達直人<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 貞本病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 中国労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 厚生労働省特別医療指導監査官): 現場からの実例・提言: 脳神経外科の立場からの保険診療の矛盾. 脳神経外科 2002 ; 30 ( 12 ): 1361-1365 .

著 書

- 1) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 血腫を伴う転移性脳腫瘍 . Clin Neurosci , 2002 ; pp475-476 , 中外医学社 .
- 2) 戸田茂樹, 寺本 明 : [ 分担 ] 事故防止のための注射と輸液の知識 VI . 各種病態における輸液とその注意 脳外手術の輸液と注意 . 臨牀看護 , 2002 ; pp883-887 , へるす出版 .
- 3) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 頭蓋外に浸潤発達した髄膜腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp595-596 , 中外医学社 .
- 4) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : Wyburn-Mason 症候群 . Clin Neurosci , 2002 ; pp715-716 , 中外医学社 .
- 5) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 嚢胞性髄膜腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp831-832 , 中外医学社 .
- 6) 寺本 明 : [ 分担 ] 下垂体腺腫の治療 . 下垂体取扱い規約 ( 第 2 版 ) , 2002 ; pp282-285 , 金原出版 .
- 7) 足立好司 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 頭皮悪性リンパ腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp951-952 , 中外医学社 .
- 8) 山口 文雄, 寺本 明 : [ 分担 ] 電気生理学的モニタリング : 術中脳機能モニタリング . Clin Neurosci , 2002 ; pp1003-1007 , 中外医学社 .
- 9) 山口文雄 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 悪性髄膜腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp1063-1064 , 中外医学社 .
- 10) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 腫瘍内出血を伴う神経膠芽腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp1193-1194 , 中外医学社 .
- 11) 山王なほ子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] Pituitary and Hypothalamic Lesions . 脳神経外科レビュー - 10 2002 年度版 ( 山浦 晶 監・編 , 田中隆一 , 堀 智勝 , 山田和雄 編 ) , 2002 ; pp30-39 , 三輪書店 .
- 12) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [ 分担 ] V . 大脳鎌髄膜腫 大脳鎌髄膜腫 . 脳神経外科 Advanced Practice7 髄膜腫 , 2002 ; pp38-43 , メジカルビュー社 .
- 13) 寺本 明 : [ 分担 ] pituitary adenomas . 脳神経外科臨床指針 ( 橋本信夫 編 ) , 2002 ; pp353-362 , 中外医学社 .
- 14) 野手洋治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 高度救命救急センター): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 破裂後下小脳動脈末梢部動脈瘤および脳動静脈奇形の合併 . Clin Neurosci , 2002 ; pp1311-1312 , 中外医学社 .
- 15) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 乏突起星細胞腫 . Clin Neurosci , 2002 ; pp1423-1424 , 中外医学社 .
- 16) 山田昌興<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 帝京大学溝口病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科): [ 分担 ] 遺伝子的分析により glioblastoma 様の FGFR 発現を認めた gliomatosis cerebri の 1 例 . ポストシークエンス時代における 脳腫瘍の研究と治療 ( 田淵和雄 , 白石哲也 編 ) , 2002 ; pp265-269 , 九州大学出版会 .
- 17) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [ 分担 ] びまん性脳損傷 . 脳神経外科臨床指針 ( 橋本信夫 編 ) , 2002 ; pp489-496 , 中外医学社 .
- 18) 田原重志, 寺本 明 : [ 分担 ] II 臨床編 [ 各論 ] 1. 脳腫瘍手術 3-1) 下垂体部腫瘍 : 手術 . 脳神経外科手術と麻酔 基礎と臨床 , 2002 ; pp240-252 , 医書出版部 .
- 19) 喜多村孝幸 : [ 分担 ] 頭部外傷 . 小児科 , 2002 ; pp1364-1365 , 金原出版 .
- 20) 喜多村孝幸 : [ 分担 ] 顔貌でわかる脳疾患 . Brain Nursing , 2002 ; pp27-31 , メディカ出版 .



- 21) 喜多村孝幸：〔分担〕間脳-下垂体（脳の深部無意識下にも働くホメオスタシスの中枢）. Brain Nursing , 2002 ; pp1170-1176 , メディカ出版 .
- 22) 足立好司, 横田 隆<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕cDNA マイクロアレイによるヒトグリオーマ細胞の遺伝子発現解析. ポストシークエンス時代における 脳腫瘍の研究と治療 (田淵和雄, 白石哲也 編), 2002 ; pp83-89 , 九州大学出版会 .
- 23) 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 〔翻訳〕17章 内分泌系. カラー版アンダーウッド病理学 (鈴木利光, 森 道夫 監訳), 2002 ; pp417-449 , 西村書店 .
- 24) 山口文雄, 寺本 明: 〔分担〕II検査法 3. 術中脳機能モニタリング. Annual Review 神経 (柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田 誠, 清水輝夫, 寺本 明 編 ), 2003 ; pp46-51 , 中外医学社 .
- 25) 吉田大蔵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : 頭蓋osteosarcoma . Clin Neurosci , 2003 ; pp103-104 , 中外医学社 .
- 26) 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 〔分担〕VII. 主な脳動脈瘤の手術 前交通動脈瘤 pterional/orbitocranial (orbitofrontal) approach . 脳神経外科 Advanced Practice 8 脳動脈瘤 (寺本 明 編), 2003 ; pp84-91 , メジカルビュー社 .
- 27) 寺本 明: 〔編集〕脳神経外科 Advanced Practice 8 脳動脈瘤, 2003 ; メジカルビュー社 .
- 28) 高橋 弘<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : Fibrous meningioma . Clin Neurosci , 2003 ; pp219-220 , 中外医学社 .
- 29) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 〔分担〕Neuroimaging Quiz : epidermoid . Clin Neurosci , 2003 ; pp343-344 , 中外医学社 .
- 30) 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 〔分担〕救急室における看護の役割. 脳神経外科看護の知識と実際, 2003 ; pp127-160 , メディカ出版 .
- 31) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): 〔分担〕第5章化学療法 5. 血管新生阻害剤. 先端医療シリーズ18 脳神経外科 脳腫瘍の最新医療 (高倉公朋 監), 2003 ; pp169-174 , 先端医療技術研究所 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望 . 第1回岐阜頭痛疾患研究会, 2002 . 4 .
- 2) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 手術の出来る脳卒中 . 平成13年度日本医科大学同窓会千葉県支部総会, 2002 . 4 .
- 3) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望 . 第1回三重頭痛疾患研究会, 2002 . 5 .
- 4) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 前交通動脈瘤に対するアプローチ法の選択 . 第5回房総EVENING FORUM , 2002 . 5 .
- 5) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望 . 新宿医師会懇話会, 2002 . 6 .
- 6) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望 . 足立区医師会学術講演会, 2002 . 6 .
- 7) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 高齢者下垂体腫瘍の治療方針 . 第42回関東脳神経外科懇話会, 2002 . 6 .
- 8) 喜多村孝幸：片頭痛治療に関する全国アンケート調査 : 中間報告 . アディタスジャパン, 2002 . 7 .
- 9) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点 . 郡山頭痛研究会, 2002 . 7 .
- 10) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点 . 高知頭痛研究会, 2002 . 7 .
- 11) 寺本 明：脳腫瘍の診断と治療 . 社会保険大学校特別講演会, 2002 . 7 .
- 12) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤の治療 : パイパスを用いて . 千駄木ニューロカンファレンス, 2002 . 7 .
- 13) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈狭窄症 . 第4回脳卒中勉強会, 2002 . 7 .

- 14) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と展望．頭痛の診断と治療大阪学術講演会，2002．7．
  - 15) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．文京区薬剤師会生涯教育研修会，2002．7．
  - 16) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：下垂体分子病理における最近の知見．下垂体研究会，2002．8．
  - 17) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．佐賀県医師会学術講演会，2002．8．
  - 18) 寺本 明：Cushing 病の診断と治療．第35回間脳下垂体疾患研究会，2002．8．
  - 19) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．千代田区医師会懇話会，2002．9．
  - 20) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頭部外傷について．柏市消防本部救急講演会，2002．9．
  - 21) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：脳神経外科領域における最先端医療．平成14年度印旛地区小・中学校長研究協議会，2002．9．
  - 22) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．片頭痛の診断と治療シンポジウム愛知，2002．9．
  - 23) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．新宿戸塚医師会懇話会，2002．10．
  - 24) 寺本 明：Cushing 病の診断と治療：最近の動向．第5回新潟県性腺機能カンファランス，2002．10．
  - 25) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．東濃神経疾患を語る会，2002．10．
  - 26) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：日常診療に役立つ脳卒中の最新知識：脳卒中治療室での経験より．市原市医師会学術講演会，2002．11．
  - 27) 山王直子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科)：脳神経疾患最新の診断と治療．第16回俱進会東京支部会講演会，2002．11．
  - 28) 寺本 明：脳下垂体腫瘍の診断と治療：最近の動向．第5回埼玉脳外科トピックス懇話会，2002．11．
  - 29) 喜多村孝幸：頭痛治療の現状と問題点．神奈川薬剤師セミナー，2002．12．
  - 30) 寺本 明：経蝶形骨下垂体1400例の合併症．第40回愛媛脳神経外科懇話会，2003．1．
  - 31) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：脳卒中入門：脳卒中治療室( SCU )での経験より．第8回今治市・越智郡医師会医学講演会，2003．1．
  - 32) 喜多村孝幸：脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術．ブレイントーク研究会，2003．2．
  - 33) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：脳卒中入門「脳卒中にならないために」．八千代市長寿会連合会福祉大会講演会，2003．2．
  - 34) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：外来における脳卒中の診断と治療．茂原市長生郡医師会学術講演会，2003．3．
  - 35) 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頭部外傷および脳血管障害．流山市消防本部救急講演会，2003．3．
- (2) 教育講演：
- 1) 喜多村孝幸：日本における頭痛治療の現状．第30回日本頭痛学会メディアセミナー，2002．10．
  - 2) 寺本 明：ホルモン産生下垂体腺腫の治療．第6回日本内分泌病理学会，2002．10．
  - 3) 喜多村孝幸：「21世紀は脳の時代」21世紀の脳神経外科手術：神経内視鏡手術の進歩．日本医科大学医師会生涯教育講座，2002．10．
  - 4) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明：脳室内腫瘍40例における神経内視鏡手術の有用性．第7回日本脳腫瘍の外科学会，2002．11．
  - 5) 寺本 明：下垂体インシデンタローマの病態と自然史．第13回日本間脳下垂体腫瘍学会，2003．2．
- (3) シンポジウム：
- 1) 高橋 弘<sup>1)</sup>，足立好司，山口文雄，吉田大蔵<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>教育推進室)：小児悪性グリオーマの治療戦略．第30回日本小児神経外科学会，2002．6．
  - 2) 玉置智規，高橋雅道<sup>1)</sup>，坂本真幸<sup>1)</sup>，泉 雅文<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科)：脳動脈瘤における低体温麻酔の意義．第5回日本脳低温療法研究会，2002．7．

- 3) 山王直子<sup>1)</sup>, 大山健一, 田原重志, 梅岡克哉, 加藤 譲<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>厚生省特定疾患 間脳下垂体機能障害調査研究班): 下垂体 incidentaloma の治療: 全国多施設調査報告より. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
  - 4) 水成隆之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): STA-Proxymal MCA Anastomosis における Recipient Artery の選択. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
  - 5) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中間哲郎<sup>2)</sup>, 石之神小織<sup>2)</sup>, 志賀直子<sup>2)</sup>, 中林基明<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 重症くも膜下出血に対する脳低温療法における治療困難例の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
  - 6) 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 当教室における内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の適応と方法. 第9回日本神経内視鏡学会, 2002. 11.
  - 7) 喜多村孝幸: 神経内視鏡に関する全国アンケート調査2002報告. 第9回日本神経内視鏡学会, 2002. 11.
  - 8) 野手洋治, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 山本修三<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 頭部外傷急性期の頭蓋底および顔面損傷に対する治療. 第8回日本脳神経外科救急学会, 2003. 1.
  - 9) 梅岡克哉, 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 山田 明, 大山健一, 石井雄道, 山崎道生, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): ラトケ嚢胞の自然経過に対する検討. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
  - 10) 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 水村 直<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>放射線医学): ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
  - 11) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 山本修三<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 寺本 明, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): くも膜下出血急性期の最重症例 ( WFNS grade 5 ) に対する直達手術の検討. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003. 3.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) 野手洋治, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 大都市特有の事故: Platform accident. 第5回日本臨床救医学会総会, 2002. 4.
  - 2) 喜多村孝幸: 経口トリプタン使用のコツ. 片頭痛 治療の最前線, 2002. 7.
- (5) セミナー:
- 1) 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Dural AVF に対するNBCAを用いたTAE. 第3回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2002. 6.
  - 2) 寺本 明: 下垂体腫瘍の診断と治療: 最近の動向. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
  - 3) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): AVM に対する血管内治療. 第6回西関東脳神経血管内治療セミナー, 2003. 3.
  - 4) 小南修史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳血管内治療に役立つ血管解剖 Part 1 内頸動脈系の発生とNormal Variant. 第6回西関東脳神経血管内治療セミナー, 2003. 3.
- (6) ワークショップ:
- 1) 喜多村孝幸: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術. 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- (7) 一般講演:
- 1) Kim K, Arai K<sup>1)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Teramoto A, Shibasaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Physiology, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital): The expression of TRH type I receptor mRNA in human pituitary adenoma. The 4th Annual Meeting of Korean medical society in Pyongyang ( Pyongyang, North Korea ), 2002. 4.
  - 2) Yoshida D<sup>1)</sup>, Noha M, Watanabe K, Takahashi H<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital): Suppression of matrix metalloproteinase activity by SI-27; Detection with

- S-2444, a specific peptide . The 5th Biennial Brain Tumor Satellite Symposium ( Chicago, USA ), 2002 . 4 .
- 3) Toda S , Ikeda Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine ): Neuroprotective effect of carvedilol ; antihypertensive drug on brain edema and endogenous superoxide scavenging activity in cerebral ischemia-reperfusion injury in rats . The 70th AANS Annual Meeting ( Chicago, IL, USA ), 2002 . 4 .
  - 4) Yamaguchi F , Gonatas NK<sup>1)</sup> , Morrison RS<sup>2)</sup> , Takahashi H<sup>3)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, University of Pennsylvania School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurological Surgery, University of Washington , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Loss of golgi marker in Glioma . The 70th AANS Annual Meeting ( Chicago, IL, USA ), 2002 . 4 .
  - 5) Furukawa T<sup>1)</sup> , Hoshino S<sup>2)</sup> , Kobayashi S<sup>3)</sup> , Asakura T , Takahashi M<sup>4)</sup> , Atsumi T , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Heiseiteishi Hospital , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd ): The glutamate AMPA receptor antagonist, YM872, attenuates cortical tissue loss, regional cerebral edema, and neurological motor deficits following experimental brain injury in rats . The 70th AANS Annual Meeting ( Chicago, IL, USA ), 2002 . 4 .
  - 6) Mishina M<sup>1-3)</sup> , Senda M<sup>1,4)</sup> , Kiyosawa M<sup>1,5)</sup> , Ishiwata K<sup>1)</sup> , De Voder AG<sup>6)</sup> , Nakano H<sup>7)</sup> , Toyama H<sup>8)</sup> , Oda K<sup>1)</sup> , Kimura Y<sup>1)</sup> , Ishii K<sup>1)</sup> , Sasaki T<sup>1)</sup> , Oyama M<sup>1,2)</sup> , Komaba Y<sup>1-3)</sup> , Kobayashi S<sup>3)</sup> , Kitamura S<sup>2)</sup> , Katayama S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>4)</sup> Institute of Biomedical Research and Innovation , <sup>5)</sup> Department of Ophthalmology and Visual Science, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School ): Normal distribution of GABA A receptor in visual cortex of early onset blindness . The 49th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Los Angeles, USA ), 2002 . 6 .
  - 7) Ishii Y , Sanno N<sup>1)</sup> , Teramoto A , Osamura RY<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Analysis of functional differentiation and transcription factors in non-functioning pituitary adenoma . The 84th ENDO Annual Meeting ( San Francisco, California ), 2002 . 6 .
  - 8) Osamura RY<sup>1)</sup> , Ishii Y , Messam AC<sup>2)</sup> , Umeoka K , Sanno N<sup>3)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>2)</sup> Laboratory of Molecular Medicine and Neuroscience, National Institute of Neurological Disorders and Stroke, NIH , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamagayama Hospital ): Expression of neural stem cell marker nestin in human pituitary glands and pituitary adenomas . The 84th ENDO Annual Meeting ( San Francisco, California ), 2002 . 6 .
  - 9) Mishina M<sup>1)</sup> , Oyama M<sup>2)</sup> , Ishii K<sup>2)</sup> , Mitani K<sup>2)</sup> , Komaba Y<sup>1)</sup> , Ishiwata K<sup>2)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Kitamura S<sup>2)</sup> , Katayama Y<sup>2)</sup> , Senda M ( <sup>1)</sup> Department of Neurology/Neurosurgery Neurological Institute Chiba Hokuso Hospital Nippon Medical School , <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine ): Statistical parametric mapping for cerebral metabolism of glucose and clinical symptoms in progressive supranuclear palsy . The 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai, Japan ), 2002 . 6 .
  - 10) Takahashi H<sup>1)</sup> , Adachi K , Yamaguchi F , Yoshida D<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Usefulness of combined platinum chemotherapy ( PEC regimen ) as a postoperative palliative therapy against malignant glioma . The 52th Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons ( Philadelphia, PA, USA ), 2002 . 9 .

- 11) Noha M , Laurance M<sup>1)</sup> , Vives KP<sup>1)</sup> , Gunel M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Yale University School of Medicine ): Suppression of notch signaling inhibits the expression of AKT2 and AKT3, but not AKT1 . The 5th congress of the European Association of Neuro-Oncology ( Florence, Italy ), 2002 . 9 .
- 12) Tahara S , Sanno N<sup>1)</sup> , Osamura RY<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of pituitary homeo box 1 ( Ptx1 ) in human non-neoplastic pituitaries and pituitary adenomas . "Somatostatin receptor physiology and targets for Somatostatin analogue therapy"-A Young Investing Meeting ( Barcelona, Spain ), 2002 . 11 .
- 13) Umeoka K , Sanno N<sup>1)</sup> , Osamura RY<sup>2)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine ): Expression of GATA-2 in human pituitary adenomas . "Somatostatin receptor physiology and targets for Somatostatin analogue therapy"-A Young Investing Meeting ( Barcelona, Spain ), 2002 . 11 .
- 14) Hoshino S<sup>1)</sup> , Inoue K<sup>2)</sup> , Yokoyama T<sup>3)</sup> , Kobayashi S<sup>4)</sup> , Asakura T , Teramoto A , Itohara S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital , <sup>2)</sup> Laboratory for Behavioural Genetics, Brain Research Institute, RIKEN , <sup>3)</sup> National Institute of Animal Health , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Prions prevent brain damage and blood-brain barrier disruption after experimental brain injury . The 12th international symposium on Brain Edema and brain tissue injury ( Hakone, Japan ), 2002 . 11 .
- 15) Atsumi T<sup>1)</sup> , Hoshino S<sup>2)</sup> , Furukawa T<sup>3)</sup> , Kobayashi S<sup>4)</sup> , Asakura T , Takahashi M<sup>5)</sup> , Yamamoto Y<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Heiwadai Hospital , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Heiseitateishi Hospital , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , <sup>5)</sup> Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd ): The glutamate AMPA receptor antagonist, YM872, regional cerebral edema, and breakdown of the blood-brain barrier following experimental brain injury in rats Brain edema . The 12th international symposium on Brain Edema and brain tissue injury ( Hakone, Japan ), 2002 . 11 .
- 16) Teramoto A : Complications of transsphenoidal surgery in 1216 patients with pituitary tumor . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 17) Terada T , Kojima T , Yamaguchi F , Umeoka K , Teramoto A : Intratumoral hemorrhage of the germinoma : a case report . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 18) Oyama K , Kojima T , Mizumura S<sup>1)</sup> , Sanno N<sup>2)</sup> , Kumita S<sup>1)</sup> , Kumazaki T<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital ): Evaluation of cardiac function before and after removal of pituitary adenoma in acromegalic patients using single photon emission computerized tomography . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 19) Kominami S<sup>1)</sup> , Yoshida Y<sup>2)</sup> , Kanazawa R<sup>2)</sup> , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Transarterial embolization with NBCA for dural arteriovenous fistulae . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 20) Kitagawa R<sup>1)</sup> , Yamada S<sup>2)</sup> , Noha M , Adachi K , Takahashi H<sup>3)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Teikyo University Mizonokuchi Hospital ,

- <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Surgical approach to cystic brain tumors in old ages . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 21) Adachi K , Takahashi H<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital ): Analysis of gene expression in human glioma cells by cDNA microarray . The 30th Anniversary Meeting of China-Japan Medical Association ( Beijing, China ), 2002 . 11 .
- 22) Kominami S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Transarterial Embolization with NBCA for dural AVF's . Val D'isere Working Group on Interventional Neuroradiology Meeting ( Val D'isere, France ), 2003 . 1 .
- 23) Kominami S<sup>1)</sup> , Yoshida Y , Kanazawa R , Kobayashi S<sup>1)</sup> , Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital ): Endovascular Treatment of Brain Arteriovenous Malformations by Targeted Partial Embolization with N-Butyl Cyanoacrylate . 2003 Joint Neurosurgical Convention Mt. Bandai&PPNC-3rd International Mt. Bandai Symposium for Neuroscience 4th Pan Pacific Neurosurgery Congress ( Honolulu, Hawaii ), 2003 . 2 .
- 24) 戸田茂樹, 佐藤英尊, 足立好司, 寺本 明: 頸椎前方固定術における Acufix Anterior Cervical Plate の有用性について . 第11回脳神経外科手術と機器学会, 2002 . 4 .
- 25) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明, 上山博康<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): 内頸動脈 large-giant aneurysm に対する手術戦略 . 第11回脳神経外科手術と機器学会, 2002 . 4 .
- 26) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科 ): 低侵襲かつ安全な脊髄脊椎手術: 超音波骨メスを用いて . 第11回脳神経外科手術と機器学会, 2002 . 4 .
- 27) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科第2 ): 若年性脳梗塞におけるその特徴の検討 . 第27回日本脳卒中学会総会, 2002 . 4 .
- 28) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科第2 ): エダラボン使用により脳塞栓の出血性変化は減少するか . 第27回日本脳卒中学会総会, 2002 . 4 .
- 29) 渡辺めぐみ<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科第2 ): ヘパリン使用時の early CT sign と脳塞栓出血性変化の関係 . 第27回日本脳卒中学会総会, 2002 . 4 .
- 30) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 山本修三<sup>1)</sup>, 竹井麻生, 土屋雅人, 山本保博<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ): 急性期くも膜下出血重症例 ( Grade 5 ) に対する治療方針 . 第31回日本脳卒中の外科学会, 2002 . 4 .
- 31) 金 景成, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 頭蓋外で分岐した後下小脳動脈末梢部動脈瘤に対し transcondylar approach が有用であった1例 . 第31回日本脳卒中の外科学会, 2002 . 4 .
- 32) 渡邊 玲, 水成隆之<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ): 内頸動脈巨大動脈瘤の治療における Radial artery graft の有用性 . 第31回日本脳卒中の外科学会, 2002 . 4 .
- 33) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 脳硬塞で発症した未破裂血栓性中大脳動脈瘤に対する治療戦略 . 第31回日本脳卒中の外科学会, 2002 . 4 .
- 34) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 大山雅史<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 三谷和子<sup>4)</sup>, 石井賢二<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学内科第2 ,

- 4) 東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究施設): [18F]FDG PET 画像のJackknife検定と健常者平均画像との差分画像: 進行性核上性麻痺の検討. 第35回千葉核医学研究会, 2002. 4.
- 35) 野手洋治, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): “Platform accident”患者治療のピットフォール. 第16回日本外傷学会, 2002. 5.
- 36) 勝野 亮, 原島克之, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 突然意識障害で発症し頭部CTにて広範囲な脳浮腫を呈した脳動静脈奇形の1例. 第16回日本神経救急学会学術集会, 2002. 5.
- 37) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 渡邊国博, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>病理第2): Mouse brain slice modelとpEGFP gene導入ヒトglioma細胞を用いた抗matrix metalloproteinase 剤の浸潤抑制効果の解析. 第20回日本脳腫瘍病理学会, 2002. 5.
- 38) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 山王直子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 吉田大蔵<sup>3)</sup>, 寺本 明, 森 修<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>4)</sup>病理第2): 中枢性神経細胞腫の2症例: glial componentの電顕所見を中心に. 第20回日本脳腫瘍病理学会, 2002. 5.
- 39) 岡村正哉<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科): 繰り返す脳出血で発見された静脈血栓症の1例. 第28回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 5.
- 40) 土屋雅人<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 齋藤寛浩<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同脳神経センター神経内科): 術後意識障害の遷延した急性硬膜外血腫の1例. 第28回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 5.
- 41) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 大山雅史<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 三谷和子<sup>4)</sup>, 石井賢二<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科第2, <sup>4)</sup>都老人医療センター神経内科, <sup>5)</sup>同ポジットロン医学研究部門): 進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝と症状との関係: SPM99を用いた検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 42) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山康朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>内科第2): 若年性脳硬塞におけるその部位・背景の検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 43) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎黄色靭帯骨化症の手術法の検討. 第11回道東脊髄疾患懇話会, 2002. 6.
- 44) 戸田茂樹, 佐藤英尊, 足立好司, 寺本 明: 頸椎前方固定術におけるCervical plateの選択について. 第17回日本脊髄外科学会, 2002. 6.
- 45) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎外側椎間板障害の画像診断で一部CT-myelographyが必要な理由: 臨床症状の観点から. 第17回日本脊髄外科学会, 2002. 6.
- 46) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎黄色靭帯骨化の1治験例. 第17回日本脊髄外科学会, 2002. 6.
- 47) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断: 231手術例の検討. 第17回日本脊髄外科学会, 2002. 6.
- 48) 鈴木雅規, 田原重志, 星野 茂<sup>1)</sup>, 金 景成, 深沢隆治<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>平和台病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学小児科学, <sup>3)</sup>第二病院脳神経外科): 生後一ヶ月で脳出血を発症した正期産児の1例. 第30回日本小児神経外科学会, 2002. 6.
- 49) 金 景成, 新井桂子<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 寺本 明, 芝崎 保<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生理第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現に関する検討: 第2報. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.

- 50) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学 ): TSH産生下垂体腺腫その診断と治療の問題点. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 51) 秋野公造<sup>1)</sup>, 大津留晶<sup>2)</sup>, 太組一朗, Shlomo M<sup>3)</sup>, 山下俊一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>長崎大学医学部解剖学第一, <sup>2)</sup>同原研分子医療部門, <sup>3)</sup>Cedars-Sinai Research Institute, UCLA ): 下垂体PTTG遺伝子の肝再生時における新機能の発見. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 52) 山王なほ子<sup>1)</sup>, 田原重志, 金 景成, 大山健一, 石井雄道, 梅岡克哉, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): 下垂体前葉機能検査における低容量TRH負荷試験の提唱. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 53) 林 周兵<sup>1)</sup>, 野口貴史<sup>1)</sup>, 高野幸路<sup>1)</sup>, 寺本 明, 藤田敏郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京大学医学部腎臓内分泌内科 ): TRHによるGHの奇異性反応の機構について. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 54) 羽二生邦彦<sup>1)</sup>, 立花克彦<sup>2)</sup>, 藤枝憲二<sup>2)</sup>, 田中敏章<sup>2)</sup>, 五十嵐裕<sup>2)</sup>, 島津 章<sup>2)</sup>, 田中弘之<sup>2)</sup>, 谷澤隆邦<sup>2)</sup>, 寺本明, 西 美和<sup>2)</sup>, 長谷川行洋<sup>2)</sup>, 肥塚直美<sup>2)</sup>, 平野岳毅<sup>2)</sup>, 藤田敬之助<sup>2)</sup>, 横谷 進<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>羽二生クリニック, <sup>2)</sup>成長科学協会成長ホルモン治療研究専門委員会 ): Very severe short stature with severe GHDに関する検討. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 55) 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学 ): 非機能性下垂体腺腫197例の免疫組織化学的研究. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 56) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 大山健一, 梅岡克哉, 金 景成, 石井雄道, 黒谷玲子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学 ): 高齢者非機能性下垂体腺腫の臨床・病理学的検討. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 57) 高橋育克<sup>1)</sup>, 升田雄史<sup>1)</sup>, 佐藤尚太郎<sup>1)</sup>, 高橋 隆<sup>1)</sup>, 大塚史子<sup>1)</sup>, 井上 穰<sup>1)</sup>, 谷山松雄<sup>1)</sup>, 鈴木晟時<sup>1)</sup>, 寺本明, 石井雄道, 長村義之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>昭和大学藤が丘病院内科内分泌代謝科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学 ): GH, PRLの分泌を伴うTSH産生下垂体腺腫の1例. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 58) 山田 明, 長村義之<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科 ): Cushing病における下垂体double adenomaの1例. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 59) 片山秀喜<sup>1)</sup>, 米川忠人<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>3)</sup>, 山王なほ子<sup>4)</sup>, 寺本 明, 石橋みゆき<sup>5)</sup>, Ho K<sup>6)</sup>, 橋田誠一<sup>2)</sup>, 松倉茂<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>宮崎医科大学医学部第三内科, <sup>2)</sup>同第一生理学, <sup>3)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>4)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>5)</sup>帝京大学医学部第四内科, <sup>6)</sup>St. Vincents病院内分泌部門 ): 先端巨大症におけるグレリン分泌: OGTTに対するGH反応とオクトレオチドによるGH抑制反応. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 60) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科 ): 水頭症患者における脳室心房 (VA) シャント手術30例の検討. 第86回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 6.
- 61) 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 血栓溶解療法に工夫を要した内頸動脈塞栓症の1例. 第86回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 6.
- 62) 森本大二郎, 小島豊之, 山口文雄, 足立好司, 寺本 明: 腫瘍内出血にて発症した悪性リンパ腫の1例. 第86回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 6.
- 63) 前川正義<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>目白病院脳神経外科 ): 血管内アプローチにて治療した, 前下小脳動脈瘤分枝脈絡叢動脈部破裂動脈瘤の1例. 第86回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 6.
- 64) 高橋雅道<sup>1)</sup>, 泉 雅文<sup>1)</sup>, 楚良繁雄<sup>1)</sup>, 玉置智規, 江口恒良<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科 ): 同時期多発性に脳内出血を来した2例. 第86回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 6.
- 65) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): 意識障害に対する漢方製剤の効果. 第11回意識障害治療学会, 2002. 7.
- 66) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同脳神経センター神経内科 ): 画像上識別に難渋した松果体部腫瘍. 第29回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 7.



- 67) 玉置智規, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 坂本真幸<sup>1)</sup>, 泉 雅文<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 亀田総合病院脳神経外科): 高齢者脳動脈瘤患者における中等度低体温麻酔の評価. 第5回日本脳低温療法研究会, 2002. 7.
- 68) 村井保夫, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する balloon angioplasty 後の脳循環. 第8回日本脳代謝モニタリング学会, 2002. 7.
- 69) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 酒寄 修<sup>3)</sup>, 濱本 真<sup>3)</sup>, 大山雅史<sup>4)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>4)</sup>, 三谷和子<sup>5)</sup>, 石井賢二<sup>6)</sup>, 木村裕一<sup>3)</sup>, 織田圭一<sup>6)</sup>, 河村和紀<sup>6)</sup>, 佐々木徹<sup>6)</sup>, 石渡喜一<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 同内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学内科学第2, <sup>5)</sup> 東京都老人医療センター神経内科, <sup>6)</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設): PET を用いたパーキンソン病における sigma-1 受容体分布-Preliminary Study-. 第2回パーキンソン病フォーラム, 2002. 8.
- 70) 山口文雄, Gonatas NK<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> ペンシルベニア大学病理学, <sup>2)</sup> ワシントン大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 第二病院脳神経外科): グリオーマにおけるゴルジ蛋白の発現低下. 第3回日本分子脳神経外科学会, 2002. 8.
- 71) 河野 潤, 永井尚生<sup>1)</sup>, 横田 隆<sup>1)</sup>, 足立好司, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科): cDNA microarray を用いた神経膠腫の悪性度進展に伴い発現異常を示す遺伝子のスクリーニング. 第3回日本分子脳神経外科学会, 2002. 8.
- 72) 金 景成, 酒井直之, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明, 芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 生理第2): GH 産生腺腫をはじめとする各種下垂体腺腫における GHRHR 遺伝子発現に関する検討. 第3回日本分子脳神経外科学会, 2002. 8.
- 73) 田原重志, 喜多村孝幸, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 耳鼻咽喉科学): 内視鏡下経鼻蝶形骨手術の基本術式. 第15回日本内視鏡外科学会, 2002. 9.
- 74) 土屋雅人<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>3)</sup>, 益子邦洋<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター神経内科, <sup>3)</sup> 同救命救急センター): ドクターヘリにて救命しえたラグビーによる急性硬膜下血腫の1例. 第16回千葉県重症患者管理研究会, 2002. 9.
- 75) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 中村俊孝<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): L1/2 椎間板ヘルニアの手術例. 第18回東北北海道脊髄疾患研究会, 2002. 9.
- 76) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 勝野 亮<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 岡村正哉<sup>2)</sup>, 渡邊 玲<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター神経内科): 視野障害にて発症した鞍上部腫瘍. 第30回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 9.
- 77) 岡村正哉<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup> 同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 内科第2): 脳出血を繰り返した静脈血栓症の1例. 第50回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 9.
- 78) 戸田茂樹: 脳虚血再灌流におけるフリーラジカルの役割: ラット脳4血管閉塞モデルを用いて. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 79) 山口文雄, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明, 青木 亘<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 斎藤幸一<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 生理機能センター): 術中モニタリングにおける体性感覚誘発電位 (SEP) と運動誘発電位 (MEP) による運動領野の同定の相違についての検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 80) 寺田てる美, 小島豊之, 山口文雄, 田原重志, 山田 明, 寺本 明: 小児発症の非機能性下垂体腺腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 81) 河野 潤, 吹野晃一, 足立好司, 山口文雄, 寺本 明, 永井尚生<sup>1)</sup>, 横田 隆<sup>1)</sup>, 長幡武光<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 老人病研究所分子生物学部門): cDNA microarray を用いた神経膠腫の悪性度進展に伴い発現異常を示す遺

- 伝子のスクリーニング．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 82) 吉田祥子<sup>1)</sup>，原田晴仁<sup>1)</sup>，永井尚生<sup>1)</sup>，吹野晃一，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> (老人研究所分子生物学部門，<sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科)：4q21上FAP-1遺伝子-JNK3遺伝子のプロモーター領域の重複．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 83) 柳田裕美<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>2)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>，横山宗伯<sup>3)</sup>，寺本明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup> 同脳神経外科，<sup>3)</sup> 病理第2)：再発をくりかえしMIB-1 Indexの高値化を示した脊索腫の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 84) 横田 隆<sup>1)</sup>，河野 潤，足立好司，山口文雄，寺本 明，江見 充<sup>1)</sup> (老人研究所分子生物学部門)：多型性神経膠芽腫発生進展の体系的遺伝子発現解析．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 85) 寺田てる美，小島豊之，山口文雄，梅岡克哉，寺本 明：出血にて発症したgerminomaの1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 86) 金 太一<sup>1)</sup>，坂本真幸<sup>1)</sup>，玉置智規，楚良繁雄<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>1)</sup> (亀田総合病院脳神経外科)：鎖骨下動脈盗血症候群に対しEC-VA bypassを施行した1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 87) 草 博昭，吉田陽一，吉田大蔵<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> (第二病院脳神経外科)：くも膜下出血後の凝固線溶能の検討．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 88) 鈴木雅規<sup>1)</sup>，林 伸吉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科)：腫瘍内出血で発症した頭蓋内骨肉腫の1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 89) 永田 淳<sup>1)</sup>，金 景成，山田正三<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup> (虎の門病院脳神経外科)：末端肥大症を伴ったdouble pituitary tumorの1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 90) 山田昌興，中根 一<sup>1)</sup>，青木 誠<sup>1)</sup>，中山比登志<sup>1)</sup> (帝京大学附属溝口病院脳神経外科)：脳内出血で発症し3ヶ月で急速に増大したglioblastoma multiformeの1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 91) 木暮一成<sup>1)</sup>，勝野 亮<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：長期間post polio syndromeと診断されていた重症頸椎症の1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 92) 杉山 誠，岡田 崇<sup>1)</sup>，樋口皓史<sup>1)</sup>，矢部薫憲<sup>1)</sup> (東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科)：特徴的な画像所見を示した比較的稀なMicrocystic meningiomaの1例．第87回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．9．
- 93) 星野 茂<sup>1)</sup>，井上敬一<sup>2)</sup>，横山 隆<sup>3)</sup>，小林士郎<sup>4)</sup>，寺本 明，糸原重美<sup>2)</sup> (平和台病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 理化学研究所脳科学総合研究センター，<sup>3)</sup> 国立動物衛生研究所，<sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：Prion prevents brain damage after experimental brain injury．第211回日本痴呆学会，2002．10．
- 94) 星野 茂<sup>1)</sup>，井上敬一<sup>2)</sup>，横山 隆<sup>3)</sup>，小林士郎<sup>4)</sup>，朝倉隆之，寺本 明，糸原重美<sup>2)</sup> (平和台病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 理化学研究所脳科学総合研究センター，<sup>3)</sup> 国立動物衛生研究所，<sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：Prions prevent brain damage after experimental brain injury．第21回日本痴呆学会学術集会，2002．10．
- 95) 渥美生弘<sup>1)</sup>，星野 茂<sup>2)</sup>，古川哲也<sup>3)</sup>，高橋正泰<sup>4)</sup>，小林士郎<sup>5)</sup>，寺本 明，山本保博<sup>1)</sup> (高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 平和台病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 平成立石病院脳神経外科，<sup>4)</sup> 山之内製薬第一創薬研究所，<sup>5)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果．第30回日本救急医学会総会・学術集会，2002．10．
- 96) 横田 隆<sup>1)</sup>，江見 充<sup>1)</sup>，河野 潤，足立好司，寺本 明 (老人病研究所分子生物学部門)：cDNA マイクロアレイを用いた多型性神経膠芽腫の遺伝子発現解析．第61回日本癌学会総会，2002．10．
- 97) 水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明，上山博康<sup>2)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科)：頭蓋内外血行再建術の適応と手技．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 98) 小南修史<sup>1)</sup>，吉田陽一<sup>2)</sup>，金澤隆三郎<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，内藤 功<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 老年病研究所附属病院脳神経外科)：硬膜動静脈瘻に対するNBCAを用いた経動脈的塞栓術．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．

- 99) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 血管吻合手術手技のトレーニングと実際. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 100) 戸田茂樹, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (昭和大学医学部脳神経外科): ラット脳虚血再灌流に対する Carvedilol の脳浮腫軽減作用及びSOD様活性の増強について. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 101) 山田昌興<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (帝京大学溝口病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 第二病院脳神経外科): GlioblastomaにおけるFGFR 4発現と放射線治療, 化学療法の治療成績との関係. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 102) 山口文雄, 青木 亘<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (生理機能センター, <sup>2)</sup> 麻酔科学, <sup>3)</sup> 第二病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおけるBIS ( Bispectral Index ) とF-waveの関連. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 103) 吉田陽一, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (多摩永山病院脳神経外科): クッシング病に対する海綿静脈洞サンプリング45症例の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 104) 大山健一, 小島豊之, 水村 直<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (放射線医学, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): SPECTを用いた末端肥大症患者の術前後における心機能改善度の評価. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 105) 吹野晃一, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄, 江見 充<sup>2)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 老人研究所分子生物学部門): 脳腫瘍細胞株における多剤耐性遺伝子のcDNA発現プロファイル. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 106) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup> (東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 水頭症患者における脳室心房 (VA) シャント手術30例の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 107) 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 森本大二郎, 水村 直<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (放射線医学): ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 108) 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 吉田竜介<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>1)</sup>, 松園幸雅<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 山本修三<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (高度救命救急センター): 脳死下臓器提供時における諸問題の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 109) 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 渡邊国博, 饒波正博, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 病理第2): Brain slice modelでのpEGFP gene導入ヒトglioma細胞を用いた抗matrix metalloproteinase剤の浸潤抑制効果. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 110) 金澤隆三郎, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明, 杉崎祐一<sup>2)</sup> (第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 病理第2): 悪性グリオーマに対するMMP阻害剤 (SI-27) によるアポトーシスの誘導. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 111) 高橋 弘<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (第二病院脳神経外科): Significance of postoperative combined platinum chemotherapy (PEC) against malignant astrocytoma. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 112) 齋藤寛浩, 渡邊 玲, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈狭窄内血栓移動防止を目的とした緊急balloon塞栓術. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 113) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>2)</sup>, 古川哲也<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>4)</sup>, 寺本 明, 高橋正泰<sup>4)</sup> (高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 平和台病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 平成立石病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>5)</sup> 山之内製薬第一創薬研究所): 実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果 (第3報). 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 114) 植松正樹, 大澤郁郎<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明, 太田成男<sup>1)</sup> (老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup> 第二病院病理部, <sup>3)</sup> 同脳神経外科): 脳腫瘍におけるアポトーシス阻害蛋白のSurvivinの発現とindex

- の臨床的有用性．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 115) 足立好司，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): IL-12とIL-18の併用による坑グリオーマ免疫療法．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 116) 草薷博昭，高橋 弘<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>第二病院脳神経外科): 加熱重合アクリル樹脂を用いた骨形成術．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 117) 金 景成，山王なほ子<sup>1)</sup>，酒井直之，新井桂子<sup>2)</sup>，寺本 明，芝崎 保<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>生理第2): GH産生腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現に関する検討：第2報．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 118) 山王直子<sup>1)</sup>，大山健一，田原重志，梅岡克哉，加藤 譲<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>厚生省特定疾患 間脳下垂体機能障害調査研究班): 下垂体incidentalomaの治療：全国多施設調査報告より．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 119) 林 伸吉<sup>1)</sup>，寺本 明，志村俊郎<sup>2)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，原島克之<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>教育推進室): 高齢者頭部外傷後の脳血流検査の検討．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 120) 志村俊郎<sup>1)</sup>，喜多村孝幸，小林士郎<sup>2)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明，森 修<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>3)</sup>生理第2): 中枢性神経細胞腫5症例の臨床病理学的研究：そのグリアへの分化を中心に．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 121) 原島克之，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Presigmoid approachにおける開頭時の工夫．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 122) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>2)</sup>，駒場祐一<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>同脳神経センター神経内科，<sup>3)</sup>内科第2): heparin使用時のearly CT signと脳塞栓出血性変化の関係についての検討．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 123) 鈴木紀成，植松正樹，寺本 明：クリッピング手術後に小脳出血を生じた2例．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 124) 木暮一成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，藤原昌治<sup>2)</sup>，中村俊幸<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 低侵襲かつ安全な脊髄脊椎手術-超音波骨メスを用いて．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 125) 酒井直之<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，鈴木紀成<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA Graftが奏功した外傷性内頸動脈解離の1例．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 126) 松本亮司<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎，腰椎病変合併症例の検討：当科での手術症例について．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 127) 井須豊彦<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 生体内分解吸収性スクリューを用いた頸椎前方除圧術：頸椎変性疾患における経験．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 128) 藤原昌治<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>，松本亮司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎前方固定術および経椎体前方除圧術における隣椎間への影響．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 129) 山田 明<sup>1)</sup>，山王直子<sup>2)</sup>，長村義之<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): Cushing病に伴う下垂体double adenoma．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 130) 田原重志，山王なほ子<sup>1)</sup>，石井雄道，大山健一，梅岡克哉，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外

- 科,<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): いわゆる low GH acromegaly の臨床病理学的検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 131) 前川正義<sup>1)</sup>, 福田清輔<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 目白病院脳神経外科): 破裂脳動脈瘤に対する治療方針: clipping と coiling の共存時代を迎えて. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 132) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 颯<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 野手洋治, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 急性期頸髄損傷における生化学的アプローチ. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 133) 喜多村孝幸, 田原重志, 金 景成, 寺本 明: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の工夫. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 134) 金 景成, 山田正三<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 峯山智佳<sup>1)</sup>, 小田原雅人<sup>1)</sup>, 佐野壽昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): 特異な組織形態を示した ACTH 産生巨大下垂体腺腫の1例. 第6回日本内分泌病理学会, 2002. 10.
- 135) 木暮一成<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 長期間 Post-polio syndrome と診断された重症頸椎症の1例. 第9回東北海道脳神経外科研究会, 2002. 10.
- 136) 藤原昌治<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎前方除圧術と頸椎前方固定術の比較検討. 第9回東北海道脳神経外科研究会, 2002. 10.
- 137) 石井雄道: 非機能的下垂体腫瘍における転写因子とホルモンの発現: 免疫組織化学的, 分子生物学的検討. 第11回日本医科大学内分泌懇話会, 2002. 11.
- 138) 福地孝明<sup>1)</sup>, 桂研一郎<sup>3)</sup>, 五十嵐博中<sup>3)</sup>, 松信精一<sup>4)</sup>, 神谷達司<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>内科第2, <sup>4)</sup>腎クリニック): ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量: 腎機能障害の程度, PSL 治療, 糖尿病有無による分類の検討第3報. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002. 11.
- 139) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 第二病院脳神経外科): IL-12 と IL-18 の相乗効果: in vitro, in vivo グリオーマでの検討. 第20回日本脳腫瘍学会総会, 2002. 11.
- 140) 喜多村孝幸: 片頭痛治療に関する全国アンケート調査. 第30回日本頭痛学会総会, 2002. 11.
- 141) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 藤原昌治<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 若年頸椎症に関する考察. 第37回日本脊髄障害医学会, 2002. 11.
- 142) 水成隆之<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): IC large aneurysm に対する suction&decompression 法について. 第51回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 11.
- 143) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 診断, 治療が困難であった海綿状血管腫の画像診断と病理組織学的検討. 第7回日本脳腫瘍の外科学会, 2002. 11.
- 144) 小島豊之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 森本大二郎, 水村 直<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup>放射線科): ガンマプローブおよびモバイルガンマカメラを用いた脳腫瘍摘出術. 第7回日本脳腫瘍の外科学会, 2002. 11.
- 145) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 前頭蓋底部髄膜腫において前頭洞開放時の再建にバイオボックスの使用経験. 第7回日本脳腫瘍の外科学会, 2002. 11.
- 146) 杉山 誠, 岡田 崇<sup>1)</sup>, 樋口皓史<sup>1)</sup>, 矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): シヤント腎炎の1例. 第88回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 11.
- 147) 坂本真幸<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 玉置智規, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 小脳原発 glioblastoma の1例. 第88回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 11.
- 148) 竹井麻生, 寺田てる美, 山口文雄, 足立好司, 寺本 明: 蝶形骨洞内に進展した primary intracranial germinoma の1例. 第88回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 11.
- 149) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳

- 神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): NBCA を用いて治療し得た Spinal dural AVF の 1 例. 第 88 回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 11.
- 150) 大山健一, 田原重志, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明: 神経内視鏡にて生検術を行った悪性リンパ腫の 1 例. 第 9 回日本神経内視鏡学会, 2002. 11.
- 151) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 血栓のある内頸動脈をバルーンにて閉塞し, 対側からのアプローチにて中大脳動脈血栓溶解術を施行した 1 例. 第 18 回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 152) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>3)</sup>高度救命救急センター): 脳動静脈奇形に対する血管内治療のスタンダードーNBCAを用いた Targeted Partial Embolization. 第 18 回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 153) 小南修史<sup>1)</sup>, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 経静脈アプローチが困難な硬膜動静脈瘻に対する NBCA を用いた経動脈的塞栓. 第 18 回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 154) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 金澤隆三郎<sup>3)</sup>, 吉田陽一<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>川口市立医療センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup>第二病院脳神経外科): 眼動脈より術前 NBCA 塞栓術を施行し得た嗅溝部髄膜腫の 1 例. 第 18 回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 155) 高橋陽子<sup>1)</sup>, 須田 智<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>2)</sup>, 酒井直之<sup>2)</sup>, 山田 明<sup>2)</sup>, 木暮一成<sup>2)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>2)</sup>, 福地孝明<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科): 急性意識障害をきたし, MRI で多発性病変を認めた症例. 第 32 回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 1.
- 156) 鈴木紀成: 当科における CEA について. 千駄木ニューロカンファレンス, 2003. 1.
- 157) 村井保夫: 当科における血行再建術について. 千駄木ニューロカンファレンス, 2003. 1.
- 158) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>2)</sup>, 須田 智<sup>2)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 木暮一成<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>2)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 福地孝明<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>同神経内科): 難治性の頭痛を呈した中年女性の 1 例. 第 32 回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 1.
- 159) 玉置智規<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 江口恒良<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 高齢者小脳多形性神経膠芽腫の 1 例. 第 5 回川崎脳神経外科懇話会, 2003. 1.
- 160) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 後方除圧術を行った腰椎分離すべり症の 1 例. 第 5 回北海道脊髄手術研究会, 2003. 1.
- 161) 山田 明, 山王直子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腫瘍における SNAP25 の発現. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 162) 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 石井雄道, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): プロラクチン産生腫瘍および成長ホルモン産生腺腫の Cabergoline による治療経験. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 163) 石井雄道, 江頭 登<sup>1)</sup>, 竹腰 進<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 非機能性下垂体腺腫における転写因子とホルモンの発現: 免疫組織化学的, 分子生物学的検討. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 164) 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 石井雄道, 大山健一, 梅岡克哉, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): いわゆる low GH acromegaly の臨床病理学的研究. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 165) 永田 淳<sup>1)</sup>, 金 景成, 山田正三<sup>1)</sup>, 臼井雅昭<sup>1)</sup>, 佐野壽昭<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科, <sup>2)</sup>徳島大学第一病院): 先端巨大症を伴った double pituitary adanomas の 1 例. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 166) 盛田幸司<sup>1)</sup>, 高野幸路<sup>1)</sup>, 野口貴史<sup>1)</sup>, 沖永寛子<sup>1)</sup>, 高野順子<sup>1)</sup>, 山田正三<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>東京大学医学部腎

- 臓・内分泌内科,<sup>2)</sup> 虎の門病院脳神経外科): 下垂体腺腫の病因として ptd-FGFR4 の意義について. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 167) 寺田てる美, 小島豊之, 田原重志, 山口文雄, 足立好司, 寺本 明: 浸潤性に蝶形骨下方に発育した germinoma の1例. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 168) 山崎道生, 石井雄道, 梅岡克哉, 大山健一, 田原重志, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 東海大学医学部病態診断系病理学): 画像診断が困難であった下垂体腺腫の2例. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003. 2.
- 169) 小島豊之, 喜多村孝幸, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山口文雄, 寺田てる美, 水村 直<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学): 特発性低髄圧症候群の診断におけるモバイル型ガンマ・カメラの有用性. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 170) 吹野晃一, 寺尾 健, 小島豊之, 足立好司, 寺本 明: 胃癌硬膜転移による慢性硬膜下血腫の1例: 穿頭術後のIMP-SPECT 所見について. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 171) 山口文雄, 王力 群<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>東京電機大学超電導応用研究所): fMRI を用いた脳機能術前評価の意義. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 172) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断-231手術例のMRI, CTM 所見の再検討. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 173) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 渡邊国博<sup>1)</sup>, 土屋雅人<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷患者における脳血流の検討. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 174) 渡邊国博<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>2)</sup>, 山崎道生, 岸本晃男<sup>3)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,<sup>3)</sup> 松江病院脳神経外科): 多発性脳血管奇形に合併した破裂脳動脈瘤の症例. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 175) 山田昌興, 中根 一<sup>1)</sup>, 青木 誠<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>帝京大学医学部附属溝口病院脳神経外科): T1 シンチでは診断困難でありMRSにて診断に至った low grade glioma の1例. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 176) 戸田茂樹, 石井雄道, 寺田てる美, 高木 亮<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学): 中大脳動脈狭窄症におけるCT 灌流画像とSPECTによる脳血流評価の差異について. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 177) 石井雄道, 高木 亮<sup>1)</sup>, 小島豊之, 山口文雄, 寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学): 術前診断にCT 灌流画像が有用であった髄膜腫の1例. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 178) 立山幸次郎, 金 景成, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 教育推進室): -knife 施行後に腫瘍出血をきたした chordoma の1例. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 179) 竹井麻生, 寺田てる美, 大山健一, 山口文雄, 足立好司, 寺本 明: 蝶形骨洞内進展を来した neurohypophyseal germinoma の1症例. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 180) 勝野 亮, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 突如の意識障害で発症し, 頭部CTにて広範な脳浮腫を呈した脳動静脈奇形の症例. 第32回日本神経放射線学会, 2003. 2.
- 181) 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治, 横田裕行<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 山本修三<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): くも膜下出血患者における脳脊髄液中S-100 蛋白の測定. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003. 2.
- 182) 立山幸次郎, 田原重志, 寺田てる美, 竹井麻生, 石井雄道, 大山健一, 戸田茂樹, 山口文雄, 喜多村孝幸, 寺本 明: 画像検査にて偶発的に発見され, 術前 octreotide 投与が有効であった TSH 産生下垂体腺腫の一治検例. 第3回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2003. 2.
- 183) 水谷暢秀<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 術前診断困

- 難であった内頸動脈瘤の1例．第52回東葛地区脳神経外科研究会，2003．2．
- 184) 水谷暢秀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳室穿破をともなった脳内出血．第5回脳卒中勉強会，2003．2．
- 185) 玉置智規<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，江口恒良<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>2)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 脳動脈瘤手術における中等度低体温麻酔の評価．日本医科大学医学会第109回例会，2003．2．
- 186) 大山健一，小島豊之，水村 直<sup>1)</sup>，山王なほ子，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>放射線医学): SEPCTを用いた末端肥大症患者の術前後における心機能改善度の評価．第13回日本間脳下垂体腫瘍学会，2003．3．
- 187) 金 景成，山田正三<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，峯山智佳<sup>2)</sup>，小田原雅人<sup>2)</sup>，佐野壽昭<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科，<sup>2)</sup>虎の門病院内分泌代謝科，<sup>3)</sup>徳島大学第一病理): 特異な超微細組織形態を示したACTH産生巨大下垂体腺腫の1例．第13回日本間脳下垂体腫瘍学会，2003．3．
- 188) 山崎道生，山王なほ子<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): -ナイフ照射後に腫瘍摘出しACTH及びGH発現を見たGH産生腫瘍の1例．第14回CRH・ACTH研究会，2003．3．
- 189) 金 景成，山田正三<sup>1)</sup>，臼井雅昭<sup>1)</sup>，竹下 章<sup>1)</sup>，小澤安則<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院脳神経外科): Acromegalyにて発症した多発性下垂体腺腫の3例．第1回東京アクロメガリーフォーラム，2003．3．
- 190) 梅岡克哉，山王直子<sup>1)</sup>，田原重志，水成隆之<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 下垂体卒中を契機に軽快したAcromegalyの1例．第1回東京アクロメガリーフォーラム，2003．3．
- 191) 鈴木紀成<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，渡邊 玲<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>2)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>同放射線科): 頭部外傷患者におけるMRI T2\*強調画像．第25回日本神経外傷学会，2003．3．
- 192) 玉置智規，江口恒良<sup>1)</sup>，原 貴之<sup>1)</sup>，坂本真幸<sup>1)</sup>，高橋雅道<sup>1)</sup>，金 太一<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 骨形成術後感染時のMRI拡散強調画像．第26回日本神経外傷学会，2003．3．
- 193) 酒井直之<sup>1)</sup>，渡邊 玲<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，齋藤寛浩<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明，上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): Trap & RA Graft を施行した外傷性内頸動脈解離の2例．第26回日本神経外傷学会，2003．3．
- 194) 横田裕行<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>1)</sup>，猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>2)</sup>，佐藤秀貴<sup>2)</sup>，野手洋治<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>3)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>高度救命救急センター，<sup>3)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 外傷性脳血管障害急性期診断と治療の問題点．第26回日本神経外傷学会，2003．3．
- 195) 林 伸吉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，渡邊国博<sup>1)</sup>，土屋雅人<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷後の脳血流の検討．第26回日本神経外傷学会，2003．3．
- 196) 玉置智規，江口恒良<sup>1)</sup>，原 貴之<sup>1)</sup>，坂本真幸<sup>1)</sup>，高橋雅道<sup>1)</sup>，金 太一<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>亀田総合病院脳神経外科): 脳動脈瘤手術における中等度低体温麻酔の評価．第28回日本脳卒中学会総会，2003．3．
- 197) 齋藤寛浩，鈴木紀成，寺尾 健，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，玉置智規，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 当院における内頸動脈内膜剥離術．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 198) 村井保夫，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 血管吻合手術手技のトレーニング．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 199) 渡邊 玲<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>2)</sup>，駒場祐一<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>3)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>同神経内科，<sup>3)</sup>内科第2): 脳塞栓症early CT signとヘパリン使用時の出血性変化についての検討．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 200) 鈴木紀成，植松正樹，梅岡克哉，水成隆之<sup>1)</sup>，寺本 明(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): くも膜



- 下出血に対する開頭術後の髄液循環．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 201) 水谷暢秀<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 重症脳内出血の急性期治療．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 202) 水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤に対する直達手術：術前診断できない壁の性状に対応するために．第32回日本脳卒中の外科学会，2003．3．
- 203) 鈴木雅規<sup>1)</sup>，須田 智<sup>2)</sup>，酒井直之<sup>1)</sup>，山田 明<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>2)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>同神経内科): 見当識障害にて発症した脳室内腫瘍の1例．第33回千葉北総神経放射線研究会，2003．3．
- 204) 酒井直之<sup>1)</sup>，鈴木雅規<sup>1)</sup>，須田 智<sup>2)</sup>，山田 明<sup>1)</sup>，木暮一成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>2)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>2)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，<sup>2)</sup>同神経内科): 転移性脳腫瘍の疑いの1例．第33回千葉北総神経放射線研究会，2003．3．
- 205) 須田 智<sup>1)</sup>，鈴木雅規<sup>2)</sup>，酒井直之<sup>2)</sup>，山田 明<sup>2)</sup>，木暮一成<sup>2)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小南修史<sup>2)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター神経内科，<sup>2)</sup>同脳神経外科): 脳幹をはじめ，多発性病変を呈した高血圧性脳症と考えられた1例．第33回千葉北総神経放射線研究会，2003．3．
- 206) 寺尾 健，上山憲司<sup>1)</sup>，中川原譲二<sup>1)</sup>，村橋威夫<sup>1)</sup>，原 敬二<sup>1)</sup>，白居礼子<sup>1)</sup>，関 隆史<sup>1)</sup>，大里俊明<sup>1)</sup>，武田利兵衛<sup>1)</sup>，中村博彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中村記念病院脳神経外科): 中膜筋層の炎症のためpatch graft を使用した頸動脈内膜剥離術の1例．第50回日本脳神経外科学会北海道地方会，2003．3．
- 207) 土屋雅人<sup>1)</sup>，渡邊国博<sup>1)</sup>，林 伸吉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>(1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 画像診断が困難であった下垂体腺腫の1例．第89回日本脳神経外科学会関東地方会，2003．3．
- 208) 杉山 誠，岡田 崇<sup>1)</sup>，樋口皓史<sup>1)</sup>，矢部薫憲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): 術前診断が困難であったglioblastomaの1例．第89回日本脳神経外科学会関東地方会，2003．3．
- 209) 石井雄道，戸田茂樹，寺田てる美，渥美生弘，寺本 明: 特発性骨髄硬膜外血腫における手術の適応と時期について．第89回日本脳神経外科学会関東地方会，2003．3．

## [ 第二病院脳神経外科 ]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的疾患（顔面痙攣，三叉神経痛など）とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を対象としているが，臨床的，基礎的研究も盛んで，毎年確実に国内外に論文を発表している．特に，悪性腫瘍に関しては，多くの基礎的研究に基づいて特異的免疫療法と非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する臨床的研究が盛んである．また，分子生物学的研究も盛んで，一部文科省科学研究補助金の援助を受けながら，脳腫瘍の悪性度にしたがって発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究，腫瘍血管新生抑制に関する基礎的研究，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎研究，さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている．

一方，臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を行い，良好な結果をおさめてきている．脳血管障害や頭部外傷に関しては超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである．小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経系奇形に関しても，形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Yoshida D, Watanabe K<sup>1)</sup>, Noha M, Takahashi H, Teramoto A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, <sup>2)</sup>Nippon Medical School Hospital): Suppression of matrix metalloproteinase activity by SI-27: detection by a new activity assay with S-2444, a specific chromogenic peptide. J. Neurooncol 2002; 58 (1): 1-11.
- 2) Yamada S<sup>1)</sup>, Yamada S<sup>2)</sup>, Hayashi Y, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Loma Linda University): Fibroblast growth factor receptor (FGFR) 4 correlated with the malignancy of human astrocytomas. Neurol. Res. 2002; 24 (3): 244-248.
- 3) Yoshida D, Watanabe K<sup>1)</sup>, Noha M, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): Tracking cell invasion of human glioma cells and the suppression by anti-matrix metalloproteinase agent in rodent brain slice model. Brain Tumor Pathol. 2002; 19 (2): 69-76.
- 4) Kanazawa R, Yoshida D, Takahashi H, Matsumoto K, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Osteosarcoma arising from the skull: case report. Neurol. Med. Chir (Tokyo) 2002; 43 (2): 88-91.
- 5) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): SI-27, a novel inhibitor of matrix metalloproteinases with antiangiogenic activity: detection with a variable-pressure scanning electron microscope. Neurosurgery 2002; 50 (3): 578-587.
- 6) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): Suppression of matrix metalloproteinase activity by SI-27: detection by a new activity assay with S-244, a specific chromogenic peptide. J. Neurooncol 2002; 58 (1): 1-11.
- 7) Yoshida D, Watanabe K<sup>1)</sup>, Noha M, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopy): Anti-invasive effect of an anti-matrix metalloproteinase agent in a murine brain slice model using the serial monitoring of green fluorescent protein-labeled glioma cells. Neurosurgery 2003; 51 (1): 187-197.
- 8) 高橋 弘: Neuroimaging Quiz: 血腫を伴う転移性脳腫瘍の1例. Clinical Neurosci 2002; 20 (4): 475-476.
- 9) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>2)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 玉置智規, 小林士郎<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院, <sup>2)</sup>同多摩永山病院, <sup>3)</sup>同千葉北総病院): テント上脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討. CT研究 2002; 24 (1): 17-24.
- 10) 草薙博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果. 漢方と最新治療 2002; 11 (3): 291-293.
- 11) 高橋 弘: Neuroimaging Quiz: 腫瘍内出血を伴う神経膠芽腫の1例. Clinical Neurosci 2002; 20 (10): 1193-1194.
- 12) 高橋 弘, 草薙博昭, 山口文雄<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 化学療法の有用性が示唆された小児Choroid Plexus Carcinomaの長期生存例. 癌と化学療法 2002; 29 (10): 1849-1852.
- 13) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 五十嵐亜希<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>2)</sup>, 澤田恵子<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明(<sup>1)</sup>付属病院, <sup>2)</sup>同多摩永山病院): 脳腫瘍術中マッピングにおけるBIS (Bispectral Index) モニタリングの有用性. 脳外 2002; 30 (11): 1181-1188.

- 14) 玉置智則, 小松原清光<sup>1)</sup>, 林 靖人, 植松正樹, 大山健一<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 水成隆之<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院, <sup>2)</sup>千葉北総病院): 粥状動脈硬化性頸動脈病変と脳室周囲高信号域 (PVH) の関連性. 脳外 2002 ; 31 (4): 393-398 .
- 15) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz 頭蓋外に浸潤発達した髄膜腫. Clinical Neurosci. 2002 ; 20 (5): 595-596 .
- 16) 吉田大蔵: Neuroimaging Quiz 頭蓋osteosarcoma. Clinical Neurosci. 2003 ; 21 (1): 103-104 .

(2) 綜説:

- 1) 高橋 弘: Journal and book review : Intracystic chemotherapy with bleomycin in the treatment of cranio-pharyngioma . 小児の脳神経 2002 ; 27 (1): 60-61 .
- 2) 高橋 弘: 小児神経外科の主な疾患と最新の治療: テント下腫瘍. Clinocal Neurosci 2002 ; 20 (3): 211-212 .
- 3) 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院): 新しいmatrix metalloproteinase活性測定法. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (2): 211-212 .
- 4) 高橋 弘: Journal and book review : Biochemical characterization of pediatric brain tumors by using in vivo magnetic resonance spectroscopy . 小児の脳神経 2002 ; 27 (6): 478-479 .

(3) 研究報告書:

- 1) 吉田大蔵: GFP 遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの微小管阻害剤の抗浸潤効果. 平成 14 - 16 年文部省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)(2)) 2002 .
- 2) 吉田大蔵: 悪性グリオーマ細胞における微小管阻害剤投与時の細胞内動態. 平成 11 - 13 年度文部省科学研究費報告書 (基盤研究 (C)(2)) 2002 .

著 書

- 1) 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): [ 分担 ] 第 5 章 化学療法 5 血管新生阻害剤. 先端医療シリーズ 18 脳神経外科 脳腫瘍の最新医療 (高倉公朋), 2003 ; pp169-174, 先端医療技術研究所 .
- 2) 高橋 弘: [ 分担 ] 生物学的免疫応答: . 脳腫瘍の最新医療 (高倉公朋), 2003 ; pp136-139, 先端医療技術研究所 .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 小児悪性グリオーマの治療戦略. 第 30 回日本小児神経外科学会, 2002 . 6 .

(2) 一般講演:

- 1) 金澤隆三郎, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院): 悪性グリオーマに対する MMP 阻害剤 (SI-27) によるアポトーシスの誘導. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 2) Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Gonatas NK<sup>2)</sup>, Morrison RS<sup>3)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Pennsylvania Univercity, <sup>3)</sup>Washington Univercity): Loss of Golgi maker in glioma . The 70th Annual Meeting of American Association of Neurological Surgeons. ( Chicago ), 2002 . 4 .
- 3) Yoshida D, Noha M, Watanabe K<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Suppression of matrix metalloproteinase activity by SI-271 detection with S-2444 : a specific peptide ( AANS/CNS section on tumors ). 5th Biannual Brain Tumor Satellite Symposium ( Chicago ), 2002 . 4 .
- 4) Takahashi H, Adachi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Nippon Medical School Hospital): Usefulness of combined platinum chemotherapy ( PEC regimen ) as a postoperative therapy against malignant glioma . The 52st Annual Meeting of American Congress of Neurological Surgeons. ( Philadelphia ), 2002 . 9 .

- 5) 金澤隆三郎, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): 後頭骨に発生した osteosarcoma の 1 例. 第 85 回日本脳神経外科関東地方会, 2002 . 3 .
- 6) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 深沢隆治<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): 生後一ヶ月で脳出血を発症した正期出産児の 1 例. 第 30 回日本小児神経外科学会, 2002 . 6 .
- 7) 草薨博昭, 竹井麻生, 吉田陽一, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): i 意識障害に対する漢方製剤の効果. 第 11 回意識障害治療学会, 2002 . 7 .
- 8) 山口文雄<sup>1)</sup>, Gonatas NK<sup>2)</sup>, Morrison RS<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院, <sup>2)</sup> Pennsylvania University, <sup>3)</sup> Washington University): グリオーマにおけるゴルジ蛋白の発現低下. 第 3 回分子脳神経外科学会, 2002 . 8 .
- 9) 吉田祥子<sup>1)</sup>, 原田晴仁<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 虎ノ門病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院): 4q21 上 FAP-遺伝子-JNK3 遺伝子のプロモーター領域の重複. 第 70 回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 10) 草薨博昭, 吉田陽一, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): くも膜下出血後の凝固線溶能の検討. 第 87 回日本脳神経外科関東地方会, 2002 . 9 .
- 11) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): Significance of postoperative combined platinum chemotherapy ( PEC ) against malignant astrocytoma . 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 12) 吹野晃一<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 山口文雄<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>2)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院, <sup>2)</sup> 老人病研究所): 脳腫瘍細胞株における多剤耐性遺伝子の cDNA 発現プロファイル. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 13) 植松正樹, 大澤郁郎<sup>1)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 第二病院病理部): 脳腫瘍におけるアポトーシス阻害蛋白の Survivin の発現と index の臨床的有用性. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 14) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): IL-12 と IL-18 の併用による坑グリオーマ免疫療法. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 15) 草薨博昭, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): 加熱重合アクリル樹脂を用いた骨形成術. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 16) 吉田大蔵, 渡辺国博<sup>1)</sup>, 饒波正博, 高橋 弘, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同病理部): 坑 matrix metalloproteinase 剤の浸潤抑制効果. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 17) 山口文雄<sup>1)</sup>, 青木 亘<sup>2)</sup>, 中村利枝<sup>2)</sup>, 五十嵐亜希<sup>2)</sup>, 大井良之<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同生理機能センター, <sup>3)</sup> 同麻酔科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおける BIS ( Bispectral Index ) と F-wave の関連. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 18) 山田昌興<sup>1)</sup>, 中山比登志<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 帝京大学付属溝口病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院): Glioblastoma における FGFR4 発現と放射線治療. 第 61 回日本脳神経外科学会総会, 2002 . 10 .
- 19) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 付属病院): IL-12 と IL-18 の相乗効果: in vitro, in vivo グリオーマでの検討. 第 20 回日本脳腫瘍学会総会, 2002 . 11 .
- 20) 玉置智則, 高橋 弘, 江口恒良<sup>1)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所): 高齢者小脳多形性神経膠芽腫の 1 例. 第五回川崎脳神経外科懇話会, 2003 . 1 .
- 21) 玉置智則, 高橋 弘, 江口恒良<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院): 脳動脈瘤手術における中等度低体温麻酔の評価. 日本医科大学医学会第 109 回例会, 2003 . 2 .
- 22) 玉置智則, 江口恒良<sup>1)</sup>, 原 貴之<sup>1)</sup>, 坂本真幸<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院): 脳動脈瘤手術における中等度低体温麻酔の評価. 第 28 回脳卒中学会, 2003 . 3 .
- 23) 玉置智則, 江口恒良<sup>1)</sup>, 原 貴之<sup>1)</sup>, 坂本真幸<sup>1)</sup>, 高橋雅道<sup>1)</sup>, 金 太一<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup> 老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院): 骨形成術後感染時の MRI 拡散強調画像. 第 26 回神経外傷学会, 2003 . 3 .

## [ 多摩永山病院脳神経外科 ]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設として、診療・教育・研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている。以下の研究を、神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて行っている。

1. 急性期血管障害患者・外傷性びまん性脳損傷の症例において、CT・MRI・MRA・3D-CTによる画像診断、SPECTによる脳血流の評価を行っている。持続頭蓋内圧測定（光センサー硬膜下法）、脳血流測定（超音波ドップラー法）、電気生理学的検査（聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位）等の諸検査により脳血管攣縮・脳虚血の病態解明を行っている。

2. 悪性脳腫瘍に対して、手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等、集学的治療を行っている。SPECTによる核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている。

3. 脳梗塞急性期患者において、フリーラジカルスカベンジャー、抗トロンピン薬など薬剤投与下、SPECT、経頭蓋的ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している。

4. 頭痛に対して各種薬剤投与による経時的な経頭蓋骨ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している。三叉神経痛・顔面痙攣に対しても外来にての内服治療および手術治療にて、良好な成績を収めている。

5. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。

6. 頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Sano T<sup>1)</sup>, Kovacs K<sup>2)</sup>, Asa SL<sup>3)</sup>, Yamada S<sup>4)</sup>, Sanno N<sup>5)</sup>, Yokoyama S<sup>6)</sup>, Takami H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, University of Tokushima School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Pathology, St. Michael's Hospital, University of Toronto, Toronto, Ontario, Canada, <sup>3)</sup> Department of Laboratory Medicine and Pathobiology, University of Toronto, Toronto, Ontario, Canada, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, Kagoshima University, <sup>7)</sup> Department of Surgery, Teikyo University ): Pituitary adenoma with "Honeycomb golgi" appearance showing a phenotypic change at recurrence from clinically nonfunctioning to typical cushing disease. *Endocrine Pathology* 2002 ; 13 ( 2 ): 125-130 .

2) Wakabayashi K<sup>12)</sup>, Shimura T<sup>3)</sup>, Mizutani N<sup>3)</sup>, Koide A<sup>4)</sup>, Yamagiwa O<sup>5)</sup>, Mori F<sup>2)</sup>, Nishiyama K<sup>6)</sup>, Takahashi H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Brain Disease Research Center, <sup>2)</sup> Department of Neuropathology, Institute of Brain Science, Hirosaki University School of Medicine, Hirosaki, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Murakami General Hospital, Murakami, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Yokohama Shintoshin Neurosurgical Hospital, Yokohama, <sup>6)</sup> Department of Neurosurgery, Brain Research Institute, Niigata University, Niigata, <sup>7)</sup> Department of Pathology, Brain Research Institute, Niigata University, Niigata ): Primary intracranial solitary leptomeningeal glioma : a report of 3 cases. *Clinical Neuropathology* 2002 ; 21 ( 5 ): 214-219 .

3) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Isobe H, Ryu A, Azuma K, Sanno N, Yamamoto H : Amelanotic melanoma of the anterior mediastinum : a case report . *J. Jpn. Soc. Clin Cytol* 2002 ; 41 : 106-111 .

- 4) Tahara S, Kurotani R, Isiii Y, Sanno N, Teramoto A, Osamura R : A Case of Cushing's Disease Caused by Pituitary Adenoma Producing Adrenocorticotrophic Hormone and Growth Hormone Concomitantly : Aberrant Expression of Transcription Factors NeuroD1 and Pit-1 as a Proposed Mechanism . Mod Pathol 2002 ; 15 : 1102-1105 .
- 5) Umeoka K, Sanno N, Osamura RY, Teramoto A : Expression of GATA-2 in human pituitary adenomas . Modern Pathology 2003 ; 15 ( 1 ) : 11-17 .
- 6) Sanno N, Teramoto A<sup>1)</sup>, Osamura RY<sup>2)</sup>, Horvath E<sup>3)</sup>, Kovacs K<sup>3)</sup>, Lloyd RV<sup>4)</sup>, Scheithauer BW<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of pathology, Tokai University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Pathology, St. Michael's Hospital, University of Toronto , <sup>4)</sup> Department of Laboratory Medicine and pathology, Mayo Clinic , <sup>5)</sup> Department of Pathology, Mayo Clinic ) : Pathology of Pituitary tumors . Neurosurg Clin N Am 2003 ; 14 : 25-39 .
- 7) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学, <sup>2)</sup> 脳神経外科学 ) : テント上脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討 . CI 研究 2002 ; 24 : 17-24 .
- 8) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 荒巻琢己<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 脳神経外科学, <sup>2)</sup> 内科学第1 ) : 話題 : 卒前医学教室の新しい流れ . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ) : 403-403 .
- 9) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科 ) : くも膜下出血後の血液凝固線溶系の検討 . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 4 ) : 399-403 .
- 10) 山王なほ子, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 脳神経外科学 ) : 病気のはなし : 脳下垂体腫瘍 . 検査と技術 2002 ; 30 ( 5 ) : 418-424 .
- 11) 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明 : Pituitary incidentaloma の長期治療成績からみた治療選択 . 日本内分泌学会雑誌 2002 ; 78 ( suppl ) : 61-62 .
- 12) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 高木 亮<sup>4)</sup>, 青山純夫<sup>5)</sup>, 橋詰良夫<sup>6)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup> 付属病院病理部, <sup>3)</sup> 同内科学第2, <sup>4)</sup> 同放射線医学, <sup>5)</sup> 博慈会記念総合病院内科, <sup>6)</sup> 愛知医科大学加齢医学研究所老化形態部門 ) : Neurological CPC ・ 96 垂急性に進行する対麻痺で発症し, 約1ヶ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例 . 脳神経 2002 ; 54 ( 6 ) : 543-549 .
- 13) 山王直子, 寺本 明 : 5 内分泌疾患の診断・治療 下垂体卒中 . 日本医師会雑誌特別号 2002 ; 127 ( 12 ) : 216-217 .
- 14) 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 寺本 明 : 下垂体 incidentaloma . medicina 2002 ; 39 ( 8 ) : 1362-1364 .
- 15) 山王なほ子, 寺本 明 : 内科医が使う薬の副作用・相互作用 内分泌疾患薬 プロモクリプチン ( パーロデル ) . medicina 2002 ; 39 ( 11 増刊号 ) : 346-348 .
- 16) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 青木 亘<sup>3)</sup>, 中村利枝<sup>3)</sup>, 五十嵐亜希<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>4)</sup>, 澤田恵子<sup>5)</sup>, 志村俊郎<sup>5)</sup>, 高橋弘<sup>6)</sup>, 小林士郎<sup>7)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 同麻酔科, <sup>3)</sup> 同生理機能センター, <sup>4)</sup> 多摩永山病院生理機能センター, <sup>5)</sup> 同脳神経外科, <sup>6)</sup> 第二病院脳神経外科, <sup>7)</sup> 同千葉北総病院脳神経外科 ) : 脳腫瘍術中マッピングにおける BIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性 . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ) : 1181-1188 .
- 17) 志村俊郎 : 連載 医療保険制度の問題と改革への提言 ( 9 ) 現場からの実例・提言 : 同日施行手術の保険請求制約について . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ) : 1249-1253 .
- 18) 志村俊郎, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 脳神経外科学 ) : 質疑応答 水頭症に対する脳室腹腔シャント術の合併症 . 日本醫事新報 2002 ; 4082 : 142-143 .

## 著 書

- 1) 志村俊郎 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz . Clin Neurosci , 2002 ; pp831-832 , 中外医学社 .
- 2) 山王直子 : [ 分担 ] Neuroimaging Quiz : 乏突起星細胞腫 oligo-astrocytoma . Clin Neurosci , 2002 ; pp1423-

1424, 中外医学社.

- 3) 山王なほ子: [分担] Pituitary and Hypothalamic Lesions. 脳神経外科レビュー 10 2002年度版(山浦 晶, 田中隆一, 堀 智勝, 山田和雄), 2002; pp30-39, 三輪書店.
- 4) 山王直子, 長村義之: [翻訳] 17章 内分泌系. カラー版アンダーウッド病理学(鈴木利光, 森 道夫), 2002; pp417-419, 西村書店.
- 5) 山王直子: [分担] Neuroimaging Quiz: epidermoid. Clin Neurosci, 2003; pp343-344, 中外医学社.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 山王直子: 高齢者下垂体腫瘍の治療方針. 第42回関東脳神経外科懇話会, 2002. 6.
- 2) 山王直子: 下垂体分子病理における最近の知見. 下垂体研究会, 2002. 8.
- 3) 山王直子: 脳神経疾患最新の診断と治療. 第16回俱進会東京支部会講演会, 2002. 11.

##### (2) シンポジウム:

- 1) 山王直子, 大山健一, 田原重志, 梅岡克哉, 加藤 譲, 寺本 明: 下垂体 incidentaloma の治療: 全国多施設調査報告より. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 2) 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>教育推進室): 本学の医学教育と医師国家試験. 日本医科大学教育推進室医学教育シンポジウム, 2002. 12.

##### (3) 一般講演:

- 1) Shimura T, Teramoto A, Aramaki T: New trends in the syllabus and educational approach in a Japanese private medical school. Association for Medical Education in Europe (Lisbon, Portugal), 2002. 89.
- 2) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>病理部): 中枢性神経細胞腫の2症例: glial component の電顕所見を中心に. 第20回日本脳腫瘍病理学会, 2002. 5.
- 3) 山王なほ子, 石井雄道, 田原重志, 長村義之, 寺本 明: TSH産生下垂体腺腫その診断と治療の問題点. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 4) 山王なほ子, 石井雄道, 田原重志, 長村義之, 寺本 明: 下垂体前葉負荷試験における低容量法の提唱. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002. 6.
- 5) 鈴木雅規, 林 伸吉, 山王直子, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 腫瘍内出血で発症した頭蓋内骨肉腫の1例. 第87回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 9.
- 6) 山王直子<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 加藤 譲<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>厚生省特定疾患 間脳下垂体機能障害調査研究班): 下垂体 incidentaloma の治療: 全国多施設調査報告より. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 7) 林 伸吉, 寺本 明, 志村俊郎, 山王直子, 原島克之(<sup>1)</sup>日本医科大学医学部脳神経外科, <sup>2)</sup>東戸塚記念病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷後の脳血流検査の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 8) 志村俊郎, 喜多村孝幸, 小林士郎, 山王直子, 寺本 明, 森 修<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 中枢性神経細胞腫5症例の臨床病理学的研究: そのグリアへの分化を中心に. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 9) 林 伸吉, 志村俊郎, 山王直子, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 前頭蓋底部髄膜腫において前頭洞開放時の再建にバイオベックスの使用経験. 第7回日本脳腫瘍の外科学会, 2002. 11.
- 10) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 山王直子, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 寺本明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理第2, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 再発をくりかえしMIB-1 Indexの高値化を示した脊索腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002.
- 11) 山王直子: プロラクチン産生腫瘍および成長ホルモン産生腺腫のカベルゴリンによる治療経験. 第13回日本間

脳下垂体腫瘍学会，2003．2．

- 12) 林 伸吉，山王直子，渡邊国博，土屋雅人，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷患者における脳血流の検討．第26回日本脳神経CI学会総会，2003．2．
- 13) 渡邊国博，酒井直之<sup>1)</sup>，山崎道生<sup>2)</sup>，岸本晃男<sup>3)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同付属病院脳神経外科，<sup>3)</sup>松江病院): 多発性脳血管奇形に合併した破裂脳動脈瘤の症例．第26回日本脳神経CI学会総会，2003．2．
- 14) 土屋雅人，渡邊国博，林 伸吉，山王直子，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 画像診断が困難であった下垂体腺腫の1例．第89回日本脳神経外科学会関東地方会，2003．3．
- 15) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，田原重志<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科): 下垂体卒中を契機に軽快した Acromegaly の1例．第1回東京アクロメガリーフォーラム，2003．3．
- 16) 林 伸吉，山王直子，渡邊国博，土屋雅人，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷後の脳血流の検討．第26回日本神経外傷学会，2003．3．
- 17) 山崎道生<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>1)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病理): ナイフ照射後に腫瘍摘出し ACTH 及び GH 発現を見た GH 産生腫瘍の1例．第14回 CRH・ACTH 研究会，2003．3．

## [ 千葉北総病院脳神経外科 ]

### 研究概要

開設後9年が経過した千葉北総病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら，脳血管障害，頭部外傷，脳腫瘍，脳代謝，脳血管内手術，脊髄脊椎外科を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った．平成12年開設の Stroke Care Unit (SCU) および，脳卒中ホットラインも順調に稼働しており，病診連携も確固たるものとなった．平成14年1月より本格的なドクターヘリを用いての急性期患者の搬送を開始し，脳神経外科患者が3割を越えた．

1) 脳血管障害：若年者脳梗塞における部位・背景の検討を行った．エタラボン使用による脳塞栓の出血性変化に関して報告した．内頸動脈巨大脳動脈瘤に対する手術戦略を検討した．STA-proximal MCA anastomosis における recipient artery の選択法を決定した．

2) 頭部外傷：プリオンが実験頭部外傷後の脳損傷を軽減させる事実を報告した．外傷性脳血管障害に対し種々の検討を行った．

3) 脳腫瘍：髄膜種に対し術前NBCA塞栓術を行い良好な結果が得られた．

4) 脳代謝：進行性核上麻痺の脳ブドウ糖代謝と症状との関係をSPM99を用いて検討した．[C-11]SA4305 PETを用いてパーキンソン病におけるsigma-1受容体分析のpreliminary studyを行った．ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量を詳細に検討した．

5) 脳血管内手術：AVMに対するNBCAを用いた Targeted Partial Embolization を血管内治療のスタンダードとして発表した．dural AVF 治療におけるNBCAを用いたTEAの有用性を発表した．

6) 脊髄脊椎外科：脊髄脊椎手術における超音波骨メスの安全性を報告した．若年頸椎症に関する考察を加えた．腰部脊椎管狭窄症231手術例のMRI, CTM 所見の再検討を行った．



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Furukawa T<sup>3)</sup>, Hoshino S<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>4)</sup>, Atsumi T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan. , <sup>2)</sup> Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan. , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, Chiba, Japan. , <sup>4)</sup> Neuroscience Research, Pharmacology Laboratories, Institute for Drug Discovery Research, Yamanouchi Pharmaceutical Co. Ltd. , Ibaraki, Japan. ): The glutamate AMPA receptor antagonist, YM872, attenuates cortical tissue loss, regional cerebral edema, and neurological motor deficits after experimental brain injury in rats. Journal of Neurotrauma 2003 ; 20 (3) : 269-278 .
- 2) 横堀将司<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 小南修史, 小林士郎, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 重症多発外傷に合併した内頸動脈損傷に対し脱着式バルーン塞栓術が有効であった1例. 日本救急学会誌 2002 ; 13 (4) : 209-214 .
- 3) 桂研一郎<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 小林士郎, 杉山弘行<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学神経内科, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>東京都立荏原病院神経内科・脳神経外科): 神経内科からみた無症候性未破裂脳動脈瘤の治療の選択の現状. Mt. Fuji シンポジウム 別冊 2002 ; 20 : 13-15 .
- 4) 飯田修平<sup>1)</sup>, 米満弘之<sup>2)</sup>, 小林士郎, 吹田明日香<sup>3)</sup>, 岩 榮<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>練馬総合病院, <sup>2)</sup>熊本機能病院, <sup>3)</sup>日本放送協会, <sup>4)</sup>(学)日本医科大学): 地域に根ざした民間病院間に連携. 全日本病院協会雑誌 2002 ; 13 (1) : 23-50 .
- 5) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 小林士郎, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>脳神経外科): テント 脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討. CI研究 2002 ; 24 (1) : 17-24 .
- 6) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史, 小関一英<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup>日本医科大学救命救急センター, <sup>3)</sup>同救急医学科): 治療法の選択と予後予測. 救急医学 2002 ; 26 (9) : 1009-1015 .
- 7) 水成隆之: 高血圧性脳出血の治療法. 救急医学 2002 ; 26 (9) : 1041-1045 .
- 8) 三品雅洋, 駒場祐一, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 大山雅史<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 三谷和子<sup>2)</sup>, 石井堅二<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>日本医科大学第二内科, <sup>2)</sup>東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究施設): [18F]FDG PET 画像のJack-knife 検定と健常者平均画像との差分画像: 進行性核上性麻痺の検討. 千葉核医学研究会誌 2002 ; 18 (1) : 23-27 .
- 9) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 青木 亘<sup>3)</sup>, 中村利枝<sup>3)</sup>, 五十嵐亜希<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>3)</sup>, 澤田恵子<sup>4)</sup>, 志村俊郎<sup>4)</sup>, 高橋弘<sup>5)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科, <sup>3)</sup>生理機能センター, <sup>4)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>5)</sup>第二病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおける BIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性. 脳神経外科 2002 ; 30 (11) : 1181-1188 .
- 10) 金澤隆三郎, 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 両側外傷性頸動脈損傷に対し血管内治療を行った1例. Neurosurgical Emerg 2002 ; 7 : 59-62 .

### 著書

- 1) 小林士郎: [分担] びまん性脳損傷. 脳神経外科臨床指針 (橋本信夫), 2002 ; pp489-496, 中外医学社 .
- 2) 水成隆之: [分担] 大脳鎌髄膜腫. 脳神経外科 Advanced Practice 7 髄膜腫, 2002 ; pp38-43, Medical View 社 .
- 3) 水成隆之: [分担] 前交通動脈瘤-pterional / orbitocranial (orbitofrontal) approach. 脳神経外科 Advanced Practice 8 脳動脈瘤, 2003 ; pp84-91, Medical View 社 .

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：手術の出来る脳卒中．平成13年度日本医科大学同窓会千葉県支部総会，2002．4．
- 2) 水成隆之：前交通動脈瘤に対するアプローチ法の選択．第5回房総EVENING FORUM，2002．5．
- 3) 水成隆之：未破裂脳動脈瘤の治療：バイパスを用いて．千駄木ニューロカンファレンス，2002．7．
- 4) 水成隆之：内頸動脈狭窄症．第4回脳卒中勉強会，2002．7．
- 5) 小林士郎：頭部外傷について．柏市消防本部救急講演会，2002．9．
- 6) 小林士郎：脳神経外科領域における最先端医療．平成14年度印旛地区小・中学校長研究協議会，2002．9．
- 7) 小林士郎：日常診療に役立つ脳卒中の最新知識：脳卒中治療室での経験より．市原市医師会学術講演会，2002．11．
- 8) 小林士郎：脳卒中入門～脳卒中治療室（SCU）での経験より．第8回今治市・越智郡医師会医学講演会，2003．1．
- 9) 小林士郎：脳卒中入門「脳卒中にならないために」．八千代市長寿会連合会福祉大会講演会，2003．2．
- 10) 水谷暢秀：脳室穿破をともなった脳内出血．第5回脳卒中勉強会，2003．2．
- 11) 小林士郎：頭部外傷および脳血管障害．流山市消防本部救急講演会，2003．3．
- 12) 小林士郎：外来における脳卒中の診断と治療．茂原市長生郡医師会学術講演会，2003．3．

### (2) 一般講演：

- 1) Mishina M, Oyama M<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Mitani K<sup>1)</sup>, Komaba Y, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Senda M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology/Neurosurgery Neurological Institute Chiba Hokusai Hospital Nippon Medical School, <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine Nippon Medical School ): Statistical Parametric Mapping for Cerebral Metabolism of Glucose and Clinical Symptoms in Progressive Supranuclear Palsy . The 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 2) Mishina M, Senda M<sup>1,4)</sup>, Kiyosawa M<sup>1,5)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Voder Anne GD<sup>6)</sup>, Nakano H<sup>7)</sup>, Toyama H<sup>1,8)</sup>, Keiichi O<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Oyama M<sup>1,2)</sup>, Komaba Y, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Kitamura S<sup>2)</sup>, Katayama Yasuo<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Institute of Biomedical Research and Innovation, <sup>5)</sup> Department of Ophthalmology and Visual Science, Tokyo Medical and Dental University, Graduate School, <sup>6)</sup> Positron Tomography Laboratory, Universite Catholique de Louvain, <sup>7)</sup> Department of Ophthalmology, Tsukuba University, <sup>8)</sup> Medical Information Processing Office, Research Center of Charged Particle Therapy, National Institute of Radiological Sciences ): Normal distribution of GABA A receptor in visual cortex of early onset blindness . The 49th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Los Angeles ), 2002 . 6 .
- 3) Kominami S, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Transarterial embolization with NBCA for dural arteriovenous fistulae . Japan-China Medical Conference 2002 Japan-China Friendship Neurosurgical Symposium 2002 ( Beijing China ), 2002 . 11 .
- 4) Kominami S : Transarterial embolization with NBCA for dural AVF's . VAL D'ISERE WORKING GROUP ON INTERVENTIONAL NEURORADIOLOGY MEETING 2003 ( France ), 2003 . 1 .
- 5) Kominami S, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ): Endovascular Treatment of Brain Arteriovenous Malformations by Targeted Partial Embolization with N-Butyl Cyanoacrylate . 2003 Joint Neurosurgical Convention Mt. Bandai&PPNC-3rd International Mt. Bandai Symposium for Neuroscience 4th Pan Pacific Neurosurgery Congress, ( Honolulu ), 2003 . 2 .
- 6) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科 ):

- 内頸動脈 large giant aneurysm に対する手術戦略．第11回脳神経外科手術と機器学会，2002．4．
- 7) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，中村俊孝<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：低侵襲かつ安全な脊髄脊椎手術～超音波骨メスを用いて．第11回脳神経外科手術と機器学会，2002．4．
  - 8) 三品雅洋，駒場祐一，小南修史，水成隆之，小林士郎，大山雅史<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>2)</sup>，石井賢二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学内科第2，<sup>2)</sup> 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設)：[18 F]FDG PET 画像のJack-knife 検定と健常者平均画像との差分画像：進行性核上性麻痺の検討．第35回千葉核医学研究会，2002．4．
  - 9) 駒場祐一，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第2，<sup>2)</sup> 脳神経外科学)：若年性脳梗塞におけるその特徴の検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
  - 10) 三品雅洋，駒場祐一，水成隆之，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第2，<sup>2)</sup> 脳神経外科学)：エダラボン使用により脳塞栓の出血性変化は減少するか．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
  - 11) 渡辺めぐみ，三品雅洋，水成隆之，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第2，<sup>2)</sup> 脳神経外科学)：ヘパリン使用時のearly CT sign と脳塞栓出血性変化の関係についての検討．第27回日本脳卒中学会総会，2002．4．
  - 12) 水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 脳神経外科学)：脳硬塞で発症した未破裂血栓性中大脳動脈瘤に対する治療戦略．第31回日本脳卒中の外科学会，2002．4．
  - 13) 渡辺 玲，水成隆之，村井保夫，小南修史，小林士郎，上山博康<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 旭川赤十字病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：内頸動脈巨大動脈瘤の治療におけるRadial artery graftの有用性．第31回日本脳卒中の外科学会，2002．4．
  - 14) 金 景成，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 脳神経外科学)：頭蓋外で分岐した後下小脳動脈末梢部動脈瘤に対し transcondylar approach が有用であった1例．第31回日本脳卒中の外科学会，2002．4．
  - 15) 勝野 亮，原島克之，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 脳神経外科学)：突然意識障害で発症し頭部CTにて広範囲な脳浮腫を呈した脳動静脈奇形の1例．第16回日本神経救急学会学術集会，2002．5．
  - 16) 岡村正哉，土屋雅人，森本大二郎，齋藤寛浩，渡辺 玲，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：繰り返す脳出血で発見された静脈血栓症の1例．第28回千葉北総神経放射線研究会，2002．5．
  - 17) 土屋雅人，森本大二郎，岡村正哉，齋藤寛浩，渡辺 玲，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：術後意識障害の遷延した急性硬膜外血腫の1例．第28回千葉北総神経放射線研究会，2002．5．
  - 18) 三品雅洋，駒場祐一，小林士郎，大山雅史<sup>1)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>，三谷和子<sup>2)</sup>，石井賢二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 日本医科大学内科第2，<sup>2)</sup> 都老人医療センター神経内科，<sup>3)</sup> 都老人研ポジトロン医学研究部門)：進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝と症状との関係：SPM99を用いた検討．第43回日本神経学会総会，2002．5．
  - 19) 駒場祐一，小林士郎，片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第2)：若年性脳硬塞におけるその部位・背景の検討．第43回日本神経学会総会，2002．5．
  - 20) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，中村俊孝<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：頸椎外側椎間板障害の画像診断で一部CT-myelographyが必要な理由：臨床症状の観点から．第17回日本脊髄外科学会，2002．6．
  - 21) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，中村俊孝<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：頸椎黄色靭帯骨化の一治験例．第17回日本脊髄外科学会，2002．6．
  - 22) 木暮一成，井須豊彦<sup>1)</sup>，藤原昌治<sup>1)</sup>，中村俊孝<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：腰部脊柱管狭窄症の画像診断：231手術例の検討．第17回日本脊髄外科学会，2002．6．
  - 23) 渡辺 玲，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 脳神経外科学)：血栓溶解療法に工夫を要した内頸動脈塞栓症の1例．第86回日本脳神経外科学会関東地方会，2002．6．
  - 24) 小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 脳神経外科学)：Dural AVFに対するNBCAを用いたTAE．第3回脳神経血管内治療琉球セミナー，2002．6．

- 25) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 頸椎黄色靭帯骨化症の手術法の検討。第11回東脊髄疾患懇話会, 2002. 6.
- 26) 村井保夫, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する balloon angioplasty 後の脳循環。第8回日本脳代謝モニタリング学会, 2002. 7.
- 27) 森本大二郎, 勝野 亮, 土屋雅人, 岡村正哉, 渡辺 玲, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 画像上識別に難渋した松果体部腫瘍。第29回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 7.
- 28) 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 酒寄 修<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 大山雅史<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 三谷和子<sup>3)</sup>, 石井賢二<sup>4)</sup>, 木村裕一<sup>4)</sup>, 織田圭一<sup>4)</sup>, 河村和紀<sup>4)</sup>, 佐々木徹<sup>4)</sup>, 石渡喜一<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学内科第2, <sup>3)</sup>東京都老人医療センター神経内科, <sup>4)</sup>東京都老人総合研究所ポジットロニ医学研究施設): [C-11]SA4305 PETを用いたパーキンソン病における sigma-1 受容体分布: Preliminary Study. 第2回パーキンソン病フォーラム, 2002. 8.
- 29) 土屋雅人, 勝野 亮, 森本大二郎, 岡村正哉, 渡辺 玲, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup>脳神経外科): ドクターヘリにて救命しえたラグビーによる急性硬膜下血腫の1例。第16回千葉県重症患者管理研究会, 2002. 9.
- 30) 岡村正哉, 三品雅洋, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2): 脳出血を繰り返した静脈血栓症の1例。第50回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 9.
- 31) 木暮一成, 勝野 亮, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 長期間 post polio syndrome と診断されていた重症頸椎症の1例。第87回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 9.
- 32) 森本大二郎, 勝野 亮, 土屋雅人, 岡村正哉, 渡辺 玲, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 視野障害に発症した鞍上部腫瘍。第30回千葉北総神経放射線研究会, 2002. 9.
- 33) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 中村俊孝<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): L1/2椎間板ヘルニアの手術例。第18回東北海道脊髄疾患研究会, 2002. 9.
- 34) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): STA-proxymal MCA anastomosis における recipient artery の選択。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 35) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 内藤 功<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>同脳神経外科学, <sup>3)</sup>老年病研究所附属病院脳神経外科): 硬膜動静脈瘻に対するNBCAを用いた経動脈の塞栓術。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 36) 渡辺 玲, 三品雅洋, 駒場祐一, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2, <sup>2)</sup>脳神経外科学): ヘパリン使用時, のearly CT sign と脳塞栓出血性変化の関係についての検討。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 37) 原島克之<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): Presigmoid approach における開頭時の工夫。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 38) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 血管吻合手術手技のトレーニングと実際。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 39) 齋藤寛浩, 渡辺 玲, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 内頸動脈内血栓移動防止を目的とした緊急ballon塞栓術。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 40) 酒井直之, 村井保夫, 鈴木紀成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): RA Graftが奏功した外傷性内頸動脈解離の1例。第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 41) 星野 茂<sup>1)</sup>, 井上敬一<sup>2)</sup>, 横山 隆<sup>3)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 糸原重美<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>理化学研究所脳科学総合研究センター, <sup>3)</sup>国立動物衛生研究所): Prion prevents brain damage after experimental brain injury. 第211回日本痴呆学会, 2002. 10.

- 42) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科): 低侵襲かつ安全な脊髓脊椎手術～超音波骨メスを用いて. 第61日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 43) 松本亮司<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 木暮一成, 藤原昌治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎, 腰椎病変合併症例の検討～当科での手術症例について. 第61日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 44) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 木暮一成, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 生体内分解吸収性スクリューを用いた頸椎前方除圧術: 頸椎変性疾患における経験. 第61日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 45) 藤原昌治<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 木暮一成, 松本亮司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方固定術および経椎体前方除圧術における隣接椎間への影響. 第61日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 46) 木暮一成, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 長期間Post-polio syndrome と診断された重症頸椎症の1例. 第9回 東北北海道脳神経外科研究会, 2002. 10.
- 47) 藤原昌治<sup>1)</sup>, 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科学): 頸椎前方除圧術と頸椎前方固定術の比較検討. 第9回 東北北海道脳神経外科研究会, 2002. 10.
- 48) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 藤原昌治<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): 若年頸椎症に関する考察. 第37回日本脊髄障害医学会, 2002. 11.
- 49) 福地孝明, 桂研一郎<sup>1)</sup>, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>1)</sup>, 神谷達司<sup>1)</sup>, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2): ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量一腎機能障害の程度, PSL治療, 糖尿病有無による分類 の検討第3報. 第14回日本脳循環代謝学会総会, 2002. 11.
- 50) 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): NBCAを用いて治療し得たSpinal dural AVFの1例. 第88回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 11.
- 51) 水成隆之, 鈴木雅規, 小林士郎: IC large aneurysm に対するsuction&decompression法について. 第51回東葛地区脳神経外科研究会, 2002. 11.
- 52) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修史, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 吉田陽一<sup>3)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>川口市立医療センター, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>3)</sup>第二病院脳神経外科): 眼動脈より術前NBCA塞栓術を施行し得た嗅溝部髄膜腫の1例. 第18回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 53) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 経静脈アプローチが困難な硬膜動静脈瘻に対するNBCAを用いた経動脈の塞栓. 第18回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 54) 小南修史, 吉田陽一<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>3)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学, <sup>3)</sup>救急医学): 脳動静脈奇形に対する血管内治療のスタンダードーNBCAを用いたTargeted Partial Embolization. 第18回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 55) 金澤隆三郎<sup>1)</sup>, 小南修史, 吉田陽一<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>第二病院脳神経外科): 血栓のある内頸動脈をバルーンにて塞栓し, 対側からのアプローチにて中大脳動脈血栓溶解術を施行した1例. 第18回日本脳神経血管内治療学会, 2002. 12.
- 56) 高橋陽子, 須田 智, 鈴木雅規, 酒井直之, 山田 明, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 急性意識障害をきたし, MRIで多発性病変を認めた症例. 第32回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 1.
- 57) 鈴木雅規, 高橋陽子, 須田 智, 酒井直之, 山田 明, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 難治性の頭痛を呈した中年女性の1例. 第32回千葉北総神経放射線研究会, 2003. 1.
- 58) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科): 後方除圧術を行った腰椎分離すべり症の1例. 第5回北海道脊髄手術研究会, 2003. 1.
- 59) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の画像診断-231手術例のMRI, CTM所見の再検討. 第26回日本脳神経CI学会総会, 2003. 2.
- 60) 水谷暢秀, 酒井直之, 水成隆之, 小林士郎: 術前診断困難であった内頸動脈瘤の1例. 第52回東葛地区脳神経

外科研究会, 2003 . 2 .

- 61) 勝野 亮, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 突然の意識障害で発症し, 頭部CTにて広範な脳浮腫を呈した脳動静脈奇形の症例. 第32回日本神経放射線学会, 2003 . 2 .
- 62) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 下垂体卒中を契機に軽快したAcromegalyの1例. 第1回東京アクロメガリーフォーラム, 2003 . 3 .
- 63) 鈴木雅規, 須田 智, 酒井直之, 山田 明, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 見当識障害にて発症した脳室内腫瘍の1例. 第33回千葉北総神経放射線研究会, 2003 . 3 .
- 64) 酒井直之, 鈴木雅規, 須田 智, 山田 明, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 転移性脳腫瘍の疑いの1例. 第33回千葉北総神経放射線研究会, 2003 . 3 .
- 65) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 未破裂脳動脈瘤に対する直達手術; 術前診断できない壁の性状に対応するために. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003 . 3 .
- 66) 齋藤寛浩, 水成隆之, 鈴木紀成, 寺尾 健, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 当院における頸動脈内膜剥離術. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003 . 3 .
- 67) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 血管吻合手術手技のトレーニング. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003 . 3 .
- 68) 渡辺 玲, 三品雅洋, 駒場祐一<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第2, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 脳塞栓症 early CT signとヘパリン使用時の出血性変化についての検討. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003 . 3 .
- 69) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 植松正樹<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科学): くも膜下出血に対する開頭術後の髄液循環. 第32回日本脳卒中の外科学会, 2003 . 3 .
- 70) 酒井直之, 渡辺 玲, 村井保夫, 齋藤寛浩, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>旭川赤十字病院脳神経外科): Trap & RA Graft を施行した外傷性内頸動脈解離の2例. 第26回日本神経外傷学会, 2003 . 3 .
- 71) 横田裕行<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救急センター, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>脳神経外科学): 外傷性脳血管障害急性期診断と治療の問題点. 第26回日本神経外傷学会, 2003 . 3 .
- 72) 須田 智, 鈴木雅規, 酒井直之, 山田 明, 木暮一成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳幹をはじめ, 多発性病変を呈した高血圧性脳症と考えられた1例. 第33回千葉北総神経放射線研究会, 2003 . 3 .
- 73) 小南修史: AVMに対する血管内治療. 第6回西関東脳神経血管内治療セミナー, 2003 . 3 .
- 74) 小南修史: 脳血管内治療に役立つ血管解剖 Part1 内頸動脈系の発生とNormal Variant. 第6回西関東脳神経血管内治療セミナー, 2003 . 3 .

## 12．整形外科学講座

### [ 付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科 ]

#### 研究概要

整形外科学教室の平成14年度の研究は、臨床的研究と分子生物学的な基礎的研究に大別することが出来る。臨床的研究としては、厚生科学研究補助金による「介護作業における腰痛予防に関する調査研究」、「科学的根拠（EBM）に基づいた腰痛診療のガイドラインの策定に関する研究」の研究結果を集約し、報告書の作成を行った。また、脊椎部、肩・肘・股・膝関節部、手の外科、足の外科、骨・軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸・腰椎部疾患の診断・治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経・腱の障害に対する治療法、骨延長術の工夫、肩関節周辺骨折に対する手術的治療の新知見などを発表した。膝関節部では、関節症の生化学的分析、足関節手術法、腫瘍増殖能の検討なども行っている。

基礎的研究では、疼痛緩和に関する電気生理学的研究、老人病研究所との共同研究である分子生物学的研究を報告した。骨組織再生における分子生物学的研究、ES細胞による研究は次年度に収載される予定である。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Murashige R : A Report of Two Cases of Volar and Dorsal Fractures of the Middle Phalany Caused by a Basketball . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 376-378 .
- 2) Hashiguchi H , Shirai Y , Nakayama Y , Miyamoto M , Ito H : Clinical outcomes of lumbar disc herniation treated with microdiscectomy . Journal of Japanese Society of Lumbar Spine Disorders 2002 ; 8 : 141-145 .
- 3) Uesaka S , Nakayama Y , Yoshihara K , Ito H : Significance of chondroitin sulfate isomers in the synovial fluid of osteoarthritis patients . J Orthop Science 2002 ; 7 : 231-238 .
- 4) Ota N , Nakajima T , Ezura Y<sup>1)</sup> , Iwasaki H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hoshino T<sup>1)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>1)</sup> , Ito H , Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日医分子生物 ): Association of a single nucleotide variant in the human tumor necrosis factor alpha promoter region with decreased . Annals of Human Biology 2002 ; 29 : 550-558 .
- 5) Suzuki Y , Shirai Y : Motor nerve conduction analysis of double crush syndrome in a rabbit model . Journal of Orthopaedic Science 2003 ; 8 ( 1 ): 69-74 .
- 6) Sawaizumi T , Nanno M , Ito H : Vascularized second metacarpal bone graft in scaphoid . Journal of Reconstructive Microsurgery 2003 ; 18 : 99-106 .
- 7) Sawaizumi T , Ito H : Lengthening of the amputation stumps of the distal phalanges using modified Ilizarov method . Journal of Hand Surgery 2003 ; 28A : 316-322 .
- 8) Ishida R , Emi M<sup>1)</sup> , Ezura Y<sup>1)</sup> , Iwasaki H<sup>1)</sup> , Yoshida H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>2)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Shiraki M , Ito H , Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology and Geriatrics Hospital, Tokyo, Japan , <sup>2)</sup>Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Kwasaki, Japan , <sup>3)</sup>Department of Geriatric Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan ): Association of a Haplotype ( 196Phe/532Ser ) in the Interleukin-1-Receptor Associated Kinase ( IRAKI ) Gene With Low Radial Bone Mineral Density in Two Independent Populations . Journal of Bone and Mineral Research 2003 ; 18 : 419-423 .
- 9) 橋口 宏 , 伊藤博元 , 青木孝文 , 萬歳祐子 , 北村繁行 : 鎖骨遠位端骨折に対する肩鎖関節 plate の有用性とその

問題点・骨折 2002 ; 24 : 425-427 .

- 10) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉: 橈骨遠位端骨折後の手根骨配列異常. 骨折 2002 ; 24 ( 2 ): 736-738 .
- 11) 澤泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 六郷知行, 高比良薫: Bennett 脱臼骨折に対し我々がおこなっている経皮的整復法. 骨折 2002 ; 24 : 742-745 .
- 12) 北川泰之, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2,<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): MIB - 1抗体を用いた腱鞘巨細胞腫の細胞増殖能の検討. 東日本整災会誌 2002 ; 14 : 174-178 .
- 13) 橋口 宏, 伊藤博元, 南野光彦, 中原義人, 六郷知行: スポーツにより発症した肘頭疲労骨折の治療経験. 日本肘関節研究会雑誌 2002 ; 9 : 139-140 .
- 14) 吉原 潔, 南 和文, 中嶋隆夫, 村田修二, 伊藤博元: 膝前十字靭帯部分断裂に対する Thermal Shrinkage 法の試み. 関節鏡 2002 ; 27 ( 1 ): 61-64 .
- 15) 橋口 宏, 伊藤博元, 高山景範, 萬歳祐子, 植松直子: 上腕骨近位部粉碎骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績. 肩関節 2002 ; 26 : 493-496 .
- 16) 宮本雅史, 白井康正, 元文芳和, 伊藤博元: 棘突起中縦割式脊柱管拡大術の治療効果と問題点: 頸椎症性脊髄症の治療を中心として. 骨・関節・靭帯 2002 ; 15 : 967-975 .
- 17) 中嶋隆夫, 南 和文, 深井靖雄, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 玉井健介: 不安定型大腿骨転子部骨折に対するリン酸カルシウム骨ペースト補填法の経験. Hip Joint 2002 ; 28 : 317-321 .
- 18) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 中原義人: 手根管症候群に対する手関節掌側装具の治療成績と適応: 順行性感覚神経inching法による検討. 日本手の外科学会誌 2002 ; 19 ( 4 ): 432-435 .
- 19) 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 六郷知行, 伊藤博元: 成人ばね指に対するステロイド腱鞘内注入法: トリアムシノロンとベタメサゾンの比重. 日本手の外科学会誌 2002 ; 19 : 543-546 .
- 20) 青木孝文, 橋口 宏: PLLA ピンを用いた鎖骨骨折の治療経験. 関節外科 2002 ; 21 : 40-45 .
- 21) 村重良一: 第1・2楔状骨間離開に対する経皮的スクリュー固定. 整形外科 2002 ; 53 ( 11 ): 1397-1401 .
- 22) 家田俊也<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 白井康正, 南 和文, 中嶋隆夫( <sup>1)</sup>大洗海岸病院整形外科): 手指足趾骨折症例に対する Ilizarov Minifixator 創外固定器の使用経験. 骨折 2002 ; 24 : 413-416 .
- 23) 南野光彦, 武内俊次, 藤井信人, 水野伸一, 高松 真, 伊藤博元: 鎖骨近位端骨折の治療経験. 東日本整形災害外科学会誌 2003 ; 15 ( 1 ): 66-70 .
- 24) 澤泉卓哉, 南野光彦, 青木孝文, 中原義人, 伊藤博元: Ilizarov Minifixator による手指延長の治療成績. 日本創外固定・骨延長学会誌 2003 ; 14 : 37-41 .
- 25) 萬歳祐子, 伊藤博元, 高山景範: 力士に発症した肩峰骨端癒合不全の1例. 東日本整形災害外科学会誌 2002 ; 14 : pp502-505 .
- 26) 上坂真司: 化膿性膝関節炎後の高度内反変形膝に対し人工膝関節置換術を施行した1例. 神奈川整形災害外科医会雑誌 2002 ; 14 ( 5 ): pp191-196 .

## (2) 総説:

- 1) 白井康正, 宮本雅史, 伊藤博元: EBM に基づいた治療の進め方 (急性腰痛症). 日本医師会雑誌 2002 ; 127 : EB66-68 .
- 2) 青木孝文, 伊藤博元: 髄内釘を用いたRA足関節固定術. 骨・関節・靭帯 2002 ; 15 : 1153-1158 .
- 3) 宮本雅史, 元文芳和, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症の診断治療. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 583-587 .
- 4) 伊藤博元: 骨・軟部組織に対するメカニカル・ストレス. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 2 ): 359-362 .
- 5) 伊藤博元, 澤泉卓哉: Penning model のよる橈骨遠位端骨折の創外固定. 整形災害外 2002 ; 45 ( 4 ): 321-328 .
- 6) 宮本雅史, 伊藤博元: 頸椎症性疾患に対するリハビリテーション. 関節外科 2003 ; 22 ( 4月増刊 ): 59-64 .



(3) 研究報告書：

- 1) 中嶋祐作, 玉井健介, 宮本雅史, 北川泰之, 江川慶長, 伊藤博元: 骨盤に発生した巨大な続発性軟骨肉腫の1例. 関東整災誌 2002; 33: pp146-149.
- 2) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 水江史樹: 尺骨急性塑性変形を伴った小児モンテジア脱臼骨折の3症例. 日本肘関節研究会誌 2002; 9(1): pp107-108.

著 書

- 1) 澤泉卓哉, 伊藤博元, 黒川高秀<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学横浜市北部病院): [分担] 1cm以下の極短小指節骨の骨延長法. 関節外科増刊号: 最近の創外固定の展開, 2002; pp124-129, メジカルビュー社.
- 2) 澤泉卓哉: [分担] イソザロフ法による手指末節骨の仮骨延長法. 整形災害外科 増刊号: 創外固定の基礎と臨床, 2002; pp419-424, 金原出版.
- 3) 青木孝文: [分担] 装具療法: モデルと適応のすべて: 先天性内反足. 新OS NOW 17, 2003; pp136-141, メジカルビュー社.
- 4) 橋口 宏, 伊藤博元: [分担] 鎖骨骨折・遠位端骨折・肩鎖関節プレート固定法. アトラス四肢骨折治療基本主義マニュアル, 2003; pp27-33, 全日本病院出版会.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 成田哲也: バスケットボール競技特性と膝前十字靭帯損傷. 第28回宮崎県スポ - ツ医学研究会, 2003. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 伊藤博元: 肩関節痛の診断的アプローチ. 山口大学整形外科検討会, 2002. 5.
- 2) 伊藤博元: 肩関節痛の診断と治療へのアプローチ: RAを含めて. 荒川整形外科フォーラム, 東京, 2002. 6.
- 3) 伊藤博元: 肩関節外傷とスポーツ障害の診断的アプローチ. 北陸整形外科集談会, 2002. 6.
- 4) 伊藤博元: 肩関節外傷と障害の診断的アプローチ. 安比夏期セミナー, 2002. 8.
- 5) 成田哲也: スポーツ外傷・障害の種目特性. 第29回日本整形外科学会スポーツ医学研修会, 2002. 8.
- 6) 伊藤博元: 肩の外傷とスポーツ障害の診断的アプローチ. 神奈川臨床整形外科医会, 2002. 9.
- 7) 成田哲也: 運動のためのメディカルチェック: 整形外科系. 平成14年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会, 2002. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) Ito H, Rokugou T, Shirai Y: The efficacy of Transcutaneous Electrical Nerve Stimulation in rat spinal cord. 12th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium, Kanagawa, 2006, 2. 6. (Kanagawa), 2002. 6.
- 2) Aoki T: Clinical Use of Sensory Nerve Conduction Study with Inching Technique. The 12th. Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Kanagawa), 2002. 6.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 成田哲也, 橋口 宏, 上坂真司, 森 淳, 飯澤典茂, 伊藤博元: スポーツ選手膝前十字靭帯再建術における術後5ヶ月(競技復帰前)MRIの意義. 第51回東日本臨床整形外科学会, 2002. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 北村繁行, 町田浩子<sup>1)</sup>, 池内正子<sup>1)</sup>, 廣瀬志弘<sup>1)</sup>, 舟岡宏幸<sup>1)</sup>, 大串 始<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産業技術総合研究所ティッシュエンジニアリングセンター): アルミナセラミックス上での骨髄間葉系細胞の骨芽細胞への分化. 第24回バイオマテリアル学会, 2002. 11.
- 2) Hashiguchi H, Ito H, Banzai Y, Yamada T, Kitamura S, Tomori Y: Application of stabilized subcutaneous transposition method for ulnar nerve transfer at the elbow. SICOT/SIROT 2002 XXII World Congress (San Diego), 2002. 8.

- 3) Aoki T, Ito H, Kawaji H, Banzai Y, Suzuki Y: Tibio-fibular syndesmosis injury associated with malleolar fractures of the ankle. 1st. Triennial Meeting of IFFAS ( San Francisco ), 2002 . 9 .
- 4) Hashiguchi H, Ito H, Banzai Y, Yamada T: Correlation between postoperative outcomes and radiological findings of hemiarthroplasty for displaced fractures of the proximal humerus . The 4th Academic Congress of the Asian Shoulder Association ( Seoul ), 2002 . 11 .
- 5) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 六郷知行, 小寺訓江: 鈎状突起骨折の治療経験 . 第15回日本肘関節研究会, 2002 . 2 .
- 6) 中嶋祐作, 青木孝文, 江川慶長, 友利裕二, 伊藤博元: イリザロフ創外固定器で治療した熱傷後内反尖足の1例 . 第612回関東整形災害外科学会 月例会, 2002 . 2 .
- 7) 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 伊藤博元: 成人ばね指に対するステロイド腱鞘内注入法: トリアムシノロンとベタメサソンの比較 . 第45回日本手の外科学会, 2002 . 4 .
- 8) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 中山義人: 手根管症候群に対する手関節掌側装具の治療成績と適応: 順応性感覚神経inching法による検討 . 第45回 日本手の外科学会, 2002 . 4 .
- 9) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 棘突起縦割脊柱管拡大術を行った頸椎性脊髄症の画像所見と治療成績の検討 . 第75回日本整形外科学会, 2002 . 5 .
- 10) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 吉原 潔: 脊椎手術後の深部静脈血栓症 ( DVT ) の検討 . 日本医科大学医学会第107回例会, 2002 . 5 .
- 11) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 山田哲士, 植松直子, 北村繁行: 肩腱板不全断裂に対する保存療法の治療成績 . 第75回日本整形外科学会学術集会, 2002 . 5 .
- 12) 堀口 元, 高山景範, 金田和容, 福田慶一, 伊藤博元: 肩甲下筋腱単独断裂の1例 . 第613回整形外科集説会東京地方会, 2002 . 5 .
- 13) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 伊藤博元: 手根幹症候群に対する手関節掌側装具の治療成績と適応: 電気生理学的検討 . 第75回日本整形外科学会, 2002 . 5 .
- 14) 青木孝文, 伊藤博元, 河路秀巳, 山田哲士, 中嶋祐作: 小児外反扁平足に対する装具療法の検討 . 第75回日本整形外科学会学術集会, 2002 . 5 .
- 15) 河路秀巳, 青木孝文, 北川泰之, 太田信孝, 伊藤博元: 陥没型踵骨ヶ折の術後機能評価 . 第27回日本足の外科学会, 2002 . 6 .
- 16) 鈴木康之, 青木孝文, 河路秀巳, 萬歳祐子, 伊藤博元: 遠位脛腓間結合損傷の関節造影による検討 . 第27回日本足の外科学会学術集会, 2002 . 6 .
- 17) 小林俊之, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 吉原 潔, 伊藤博元, 宮本雅史, 元文芳和: 脊椎手術後の深部静脈血栓症 ( DVT ) の検討 . 第31回日本脊椎脊髄病学会, 2002 . 6 .
- 18) 澤泉卓哉, 南野光彦, 八百板仁志, 栗山直之, 中原義人, 村田修二, 山田哲士, 江川慶長, 伊藤博元: 小児上腕骨外顆骨折新鮮例の手術成績の検討 . 第28回日本骨折治療学会, 2002 . 6 .
- 19) 中嶋祐作, 青木孝文, 河路秀巳, 萬歳祐子, 鈴木康之, 小寺訓江, 伊藤博元: 中足骨頭部痛の病態と治療法の検討 . 第27回日本足の外科学会, 2002 . 6 .
- 20) 青木孝文, 河路秀巳, 鈴木康之, 萬歳祐子, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元: 小児外反扁平足に対する装具療法の検討 . 第27回日本足の外学会, 2002 . 6 .
- 21) 鈴木康之, 伊藤博元, 北川泰之, 澤泉卓哉, 家田俊也<sup>3)</sup>, 南部昭彦, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理学部, <sup>3)</sup>大洗海岸病院 ): 手に発生した骨外性軟骨腫の2例 . 第35回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2002 . 7 .
- 22) 村田修二, 伊藤博元, 南 和文, 中嶋隆夫, 深井靖雄, 小林俊之, 吉原 潔: チタン製肩鎖関節プレートの使用経験と力学的検討 . 第28回日本骨折治療学会, 2002 . 7 .
- 23) 橋口 宏, 伊藤博元, 萬歳祐子, 山田哲士, 植松直子, 村重良一: 上腕骨骨幹部骨折に対する逆行性髓内釘固

- 定法の治療成績．第28回日本骨折治療学会，2002．7．
- 24) 家田俊也<sup>1)</sup>，伊藤博元，澤泉卓哉，中嶋隆夫<sup>(1)</sup>大洗海岸病院整形外科)：手指開放性骨折に対するIlizarov Minifixator 創外固定器の使用経験．第28回日本骨折治療学会，2002．7．
- 25) 北川泰之，伊藤博元，澤泉卓哉，武内俊次，角田 隆，丸山晴久，金 竜，高松 眞，南部昭彦，横山宗伯<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：腱鞘巨細胞腫の治療成績と問題点．第35回日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会，2002．7．
- 26) 中原義人：脛骨近位端線損傷の2例．第28回日本骨折治療学会，2002．7．
- 27) 南野光彦，澤泉卓哉，橋口 宏，中原義人，六郷知行，伊藤博元：肘関節脱臼を伴った橈骨頭および橈骨頸部骨折の治療経験．第28回日本骨折治療学会，2002．7．
- 28) 服部幹彦，北川泰之，鈴木康之，伊藤博元：アルコール依存症に合併したBenignsymmetrical lypomatosisの2例．第35回日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学会，2002．7．
- 29) 青木孝文，今野俊介，河路秀巳，萬歳祐子，堀口 元，土田美月，伊藤博元：創外固定法を併用して治療したショパール関節脱臼骨折の1例．第28回 日本骨折治療学会，2002．7．
- 30) 中嶋隆夫，南 和文，深井靖雄，小林俊之，吉原 潔，村田修二，伊藤博元，玉井健介：不安定型大腿骨転子部骨折に対するリン酸カルシウム骨ペーストを用いた骨充填補強法．第28回骨折治療学会，2002．7．
- 31) 尾崎大也，麻生定光<sup>1)</sup>，山縣久美<sup>1)</sup>，須藤堅太郎，伊藤博元，太田茂男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生化学)：アポトーシスをターゲットとした治療 スーパーアポトーシス抑制因子FNKを用いた変形性関節症への応用．第11回アポトーシス研究会，2002．8．
- 32) 河路秀巳，玉井健介，鈴木康之，伊藤博元：明確な原因を認めず単純X線像にて骨頭不整像を呈した股関節痛の2例．第29回日本股関節学会，2002．9．
- 33) 橋口 宏，伊藤博元，萬歳祐子：スポーツによる上腕骨近位骨端線離開の治療成績．第29回日本肩関節学会，2002．9．
- 34) 今野俊介，宮本雅史，元文芳和，白井康正，伊藤博元：看護・介護労働者の腰痛アンケート調査における腰痛評価とその検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 35) 中嶋隆夫：大腿骨転子下骨折術後，治療に難渋した1症例．第1回千葉西北部整形外科研究会，2002．9．
- 36) 橋口 宏，中原義人，山田哲士，伊藤博元，澤泉卓哉：柔道により発症した両側橈骨茎状突起疲労骨折の1例．第8回 神奈川手・肘の外科研究会，2002．10．
- 37) 橋口 宏，山田哲士，伊藤博元，萬歳祐子：McLaughlin法を行った肩腱板広範囲断裂に対する術後MRIの検討．第51回東日本整形災害外科学会，2002．10．
- 38) 南野光彦，武内俊次，藤井信人，水野伸一，高松 眞，伊藤博元：鎖骨近位端骨折の治療経験．第51回東日本整形災害外科学会，2002．10．
- 39) 宮本雅史，元文芳和，今野俊介，金田和容，山田哲士，伊藤博元：頸椎椎間板ヘルニアに対する棘突起縦割式脊柱管拡大術の治療成績．第51回東日本整形災害外科学会，2002．10．
- 40) 青木孝文，澤泉卓哉，伊藤博元，赤石文洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院)：パネ指手術後のPIP関節部痛についての1考慮．第8回 神奈川手・肘の外科研究会，2002．10．
- 41) 中嶋隆夫，南 和文，深井靖雄，小林俊之，吉原 潔，村田修二：不安定型大腿骨転子部骨折治療におけるバイオペックスによる骨充点補強効果の臨床的検討．第3回千葉骨ペースト研究会，2002．10．
- 42) 吉澤隆明，青木孝文，北川泰之，伊藤博元，堀口 元，須藤悦宏：距骨下関節脱臼の治療経験．第616回関東整形外科災害外科学会 地方会，2002．11．
- 43) 吉原 潔，南 和文，中嶋隆夫，深井靖雄，小林俊之，村田修二：日常生活動作からみた大腿骨頸部骨折．第3回千葉股関節研究会，2002．11．
- 44) 元文芳和，宮本雅史，今野俊介，金田和容，山田哲士，伊藤博元：腰椎椎間板ヘルニアの保存療法の適応．第10回日本腰痛学会，2002．11．

- 45) 今野俊介, 青木孝文, 金 竜, 萬歳祐子, 服部幹彦, 江川慶長, 小寺訓江, 伊藤博元: 単潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) の加算回数に関する考慮. 第32回日本臨床神経生理学会学術大会, 2002. 11.
- 46) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 白井康正, 伊藤博元: 介護従事者と看護従事者の職業性腰痛の実態に関する調査研究. 第10回日本腰痛学会, 2002. 11.
- 47) 青木孝文, 南野光彦, 今野俊介, 萬歳祐子, 南部昭彦, 小寺訓江, 伊藤博元: 手根管症候群に対する知覚性インテグレーション法: 波形解析を中心として. 第32回日本臨床神経生理学会, 2002. 11.
- 48) 田中陽子, 玉井健介, 河路秀巳, 伊藤博元: 中年男性に発症し大腿骨頸部内側骨折を合併した一過性大腿骨頭萎縮症の1例. 地方会, 2002. 12.
- 49) 八百板仁志, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 南部昭彦: 不安定型橈骨遠位端骨折に対する non-bridging 型創外固定の治療成績. 第17回東日本手の外科研究会, 2003. 2.
- 50) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行, 小寺訓江, 伊藤博元: 橈骨遠位端関節内骨折における関節鏡視下整復の有用性. 第17回東日本手の外科研究会, 2003. 2.
- 51) 澤泉卓哉, 南野光彦, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行, 小寺訓江, 伊藤博元: 小児上腕骨顆上骨折後の anterior spike の残存と内旋変形. 第15回日本肘関節研究会, 2003. 2.
- 52) 南野光彦, 藤井信人, 水野伸一, 高松 眞, 武内俊次, 伊藤博元, 澤泉卓哉: 末節骨裂離骨片を伴った深指屈筋腱停止部皮下断裂の1例. 第618回整形外科集談会東京地方会, 2003. 2.
- 53) 南野光彦, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 六郷知行, 小寺訓江: 伸筋腱中央策皮下断裂を伴ったPIP関節掌側脱臼の1例. 第17回東日本手の外科研究会, 2003. 2.
- 54) 花岡央泰, 澤泉卓哉, 北川泰之, 伊藤博元: 環指・小指CM関節脱臼骨折を伴う有鉤骨骨折の1例. 日本医科大学医学会第109回例会, 2003. 2.
- 55) 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元, 赤石文洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院): パネ指手術後のPIP関節部痛についての1考慮. 第17回東日本手の外科学会, 2003. 2.
- 56) 飯澤典茂, 成田哲也, 森 淳, 武田知道, 堀口 元, 伊藤博元: 競技スポーツ選手膝前十字靭帯再建術における術後MRI描出不良例の検討. 第28回 日本膝関節学会, 2003. 3.
- 57) 廣瀬志弘<sup>1)</sup>, 寿 典子<sup>1)</sup>, 町田浩子<sup>1)</sup>, 池内正子<sup>1)</sup>, 北村繁行, 大串 始<sup>1)</sup>, 立石哲也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産業技術総合研究所ティッシュエンジニアリングセンター): 凍結保存ヒト骨髄由来間葉系細胞の viability 判定. 第24回日本再生医療学会, 2003. 3.
- 58) 小林俊之, 南 和文, 吉原 潔, 中嶋隆夫, 伊藤博元, 成田哲也: 人工膝関節置換術後の深部静脈血栓症 (DVT) の検討. 第28回日本膝関節学会, 2003. 3.
- 59) 橋口 宏, 山田哲士, 成田哲也, 伊藤博元, 萬歳祐子: 生体吸収性材料を用いた鎖骨骨折の治療成績. 第43回関東整形災害外科学会, 2003. 3.
- 60) 吉原 潔, 南 和文, 小林俊之, 中嶋隆夫, 伊藤博元: Thermal shrinkage による膝関節内構成体の組織化学的变化. 第28回日本膝関節学会, 2003. 3.
- 61) 青木孝文, 河路秀巳, 北川泰之, 中嶋祐作, 伊藤博元: 吸収性骨接合材を使用した足関節周辺骨折の治療経過に関する検討. 第43回関東整形災害外科学会, 2003. 3.
- (6) ポスター:
- 1) Kitagawa Y, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Sawaizumi T, Ito H (<sup>1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): Tumor proliferation activity of giant all tumor of tendon sheath. 第22回 SIROT world congress (San Diego USA), 2002. 8.
- 2) Kitagawa Y, Ito H, Sawaizumi T, Aoki T, Tsunoda T, Maruyama H: FINE NEEDLE ASPIRATION CYTOLOGY FOR SOFT TISSUE TUMORS OF THE HAND. 第22回 SICOT world congress (San Diego USA), 2002. 8.
- 3) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 金田和容, 山田哲士, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症の手術治療成績. 第75回日本整形外科学会学術集会, 2002. 5.

## 13．産婦人科学講座

### [ 付属病院女性診療科・産科 ]

#### 研究概要

研究は、周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖医学の三つの領域と手術学に大別され、各分野で活発に行われた。

周産期医学領域では、正常妊娠および妊娠中毒症などの病態における adenosine の役割に関する研究が継続され、免疫機構との関連が検討された。また、双胎妊娠における endothelin や adenosine の役割と、そこへの免疫機構の関与が検討された。

婦人科腫瘍では、子宮癌の発癌のメカニズムに対する遺伝子レベルでの解析が行われた。臨床面では、新しい抗癌剤投与方法である Negative Balanced Isolated Pelvic Perfusion (NIPP) 法が放射線科と共同で研究された。

生殖医学では、加齢やhCG投与が卵子の質にどのように影響するか、ミトコンドリア動態を解析することで検討が進んでいる。臨床面では、不育症に対する夫リンパ球療法の治療効果と末梢血NK活性との関連性に関する検討がなされた。

手術学では、Gasless Laparoscopic Surgery の適応拡大とその有用性についての検討がなされ、さらに術式の改良が検討された。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nakai A, Yokota A, Koshino T, Araki T : Assessment of endometrial perfusion with doppler ultrasound in spontaneous and stimulated menstrual cycles . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ) : 328-332 .
- 2) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Yoneyama K, Power GG, Araki T : Relationship between adenosine and T-helper1/T-helper2 imbalance in women with preeclampsia . Obstet Gynecol 2002 ; 99 ( 4 ) : 641-646 .
- 3) Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Yoneyama K, Doi D, Otsubo Y, Araki T : The T-helper1/T-helper2 balance in peripheral blood of women with hyperemesis gravidarum . Am J Obstet Gynecol 2002 ; 187 ( 6 ) : 1631-1635 .
- 4) Nakai A, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Windows of therapeutic opportunity on fetal growth retardation induced by transient intrauterine ischemia in rats . J Nippon Med Sch 2002 ; 6 ( 6 ) : 534-542 .
- 5) Watanabe S, Otsubo Y, Araki T : The current perception thresholds in normal pregnancy . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ) : 342-346 .
- 6) Kamoi S, Ohaki Y, Mori O, Okada S, Sete M, Matsushita N, Kawamura T, Arai T : A care of ovarian endometrioid adenocarcinoma with yolk sac tumor component in a postmenopausal women . APMIS 2002 ; 110 : 508-514 .
- 7) Saitoh M, Ishihara K, Sekiya T, Araki T : Anticipation of uterine bleeding in placenta previa based on vaginal sonographic evaluation . Gynecologic and Obstetrics Investigation 2002 ; 54 ( 1 ) : 37-42 .
- 8) Asakura H, Nakai A, Araki T : Clinical relevance of grade III placenta in assessment of low level 'plasmin antithrombin III in pregnant women at term . J Nippon Med Sch 2002 ; 70 ( 5 ) : 415-422 .
- 9) Asakura H, Nakai A, Araki T : Correlation between intrascapular deep temperature and plasma free fatty acid levels in pregnant women with hyperemesis . Arch Gynecol Obstet 2002 .

- 10) Yoshimatsu K , Araki T : Detection of the cervical gland area in threatened preterm labor using transvaginal sonography in the assessment of cervical maturation and the outcome of pregnancy . *Gynecologic and Obstetric Investigation* 2002 ; 53 ( 3 ): 149-156 .
- 11) Nakai A , Shibasaki Y , Taniuchi Y , Oya A , Asakura H : Effect of dexamethasone on mitochondrial maturation in the fetal rat brain . *Am J Obstet Gynecol* 2002 ; 186 : 574-578 .
- 12) Asakura H , Nakai A , Power G P , Araki T : Effect of different thermal conditions during uteroplacental ischemia on fetal growth of Sprague-Dawley rats . *Reprod Fertil Develop* 2002 ; 14 : 1-7 .
- 13) Kamoi S , Ohaki Y , Mori M , Yokoyama M , Kawamoto Y , Kawamura T , Araki T : Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : Cytological and immuno-histochemical observation of a case . *Pathology International* 2002 ; 52 : 75-81 .
- 14) Kurose K , Gilley K , Matsumoto S , Watson PH , Zhou XP , Eng C : Frequent somatic mutations in PTEN and TP53 are mutually exclusive in the stroma of breast arcinomas . *Nat Genet* 2002 ; 32 : 355-357 .
- 15) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Yoneyama K , Doi D , Araki T : Increased plasma adenosine concentrations and the severity of preeclampsia . *Obstet Gynecol* 2002 ; 100 : 1266-1270 .
- 16) Shinagawa T , Suzuki S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : Maternal plasma adenosine and endothelin-1 levels in twin gestation complicated by preeclampsia . *Archive of Gynecology and Obstetrics* 2002 ; 267 ( 2 ): 72-75 .
- 17) Suzuki S , Kuwajima T , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T : Maternal peripheral T-helper 1-type and T-helper 2-type immunity in nonpreeclamptic twin pregnancies . *Gynecol Obstet Invest* 2002 ; 53 : 140-143 .
- 18) Shinagawa T , Suzuki S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : Maternal plasma adenosine and endothelin-1 levels in twin gestation complicated by preeclampsia . *Arch Gynecol Obstet* 2002 ; 267 : 72-75 .
- 19) Yoneyama Y , Kobayashi H , Chihara H , Yamada T , Otsubo Y , Araki T : Plasma 5'- nucleotidase activities increase in women with hyperemesis gravidarum . *Clin Biochem* 2002 ; 35 : 361-364 .
- 20) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Miura A , Kuwabara Y , Ishino H , Kiyokawa Y , Doi D , Yoneyama K , Kobayashi H , Araki T : Plasma 5'-nucleotidase activities and uric Acid levels in women with pre-eclampsia . *Gynecol Obstet Invest* 2002 ; 54 ( 3 ): 168-171 .
- 21) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Miura A , Doi D , Otsubo Y , Araki T : Plasma nitric oxide levels and the expression of P-selectin on platelets in preeclampsia . *Am J Obstet Gynecol* 2002 ; 187 : 676-680 .
- 22) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Ishino H , Miura A , Kuwabara Y , Kuwajima T , Ito N , Kiyokawa Y , Otsubo Y , Araki T : Regulation of plasma adenosine levels in normal pregnancy . *Gynecol Obstet Invest* 2002 ; 53 : 71-74 .
- 23) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Miura A , Kobayashi H , Doi D , Araki T : Relation between adenosine deaminase activities and cytokine-producing T cells in women with preeclampsia . *Clin Biochem* 2002 ; 35 : 303-306 .
- 24) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T : Relation between maternal serum adenosine deaminase and plasma adenosine levels in twin pregnancies . *Clin Biochem* 2002 ; 35 : 417-419 .
- 25) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Yoneyama K , Doi D , Araki T : Relationship between adenosine deaminase activity and cytokine-secreting T cells in normal pregnancy . *Obstet Gynecol* 2002 ; 100 : 754-758 .
- 26) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Doi D , Yoneyama K , Otsubo Y , Araki T : Relationship between plasma malondialdehyde level and adenosine deaminase activities in preeclampsia . *Clinica Chimica Acta* 2002 ; 322 : 169-173 .
- 27) Nakai A , Miyake H , Oya A , Asakura H , Koshino T , Araki T : Reproducibility of pulsed doppler mea-

- surements of the maternal renal circulation in normal pregnancies and those with pregnancy-induced hypertension. *Ultrasound Obstet Gynecol* 2002 ; 19 : 598-604 .
- 28) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Otsubo Y , Araki T : Serum adenosine deaminase activity in women with hyperemesis gravidarum . *Clin Chim Acta* 2002 ; 324 : 141-145 .
- 29) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Miura A , Kuwabara Y , Ishino H , Kiyokawa Y , Doi D , Yoneyama K , Araki T : Serum adenosine deaminase activity in women with pre-eclampsia . *Gynecol Obstet Invest* 2002 ; 54 ( 3 ) : 164-167 .
- 30) Nakai A , Shibazaki Y , Taniuchi Y , Nagano R , Oya A , Koshino T , Araki T : Short therapeutic window for nifedipine in transient intrauterine ischemia in fetal rat brain . *Brain Research* 2002 ; 943 : 30-37 .
- 31) Asakura H , Nakai A , Gordon GP , Araki T : Short-term effects of different thermal conditions during uteroplacental ischemia on fetal growth of Sprague-Dawley rats . *Reprod Fertil Dec* 2002 ; 14 : 1-7 .
- 32) Kuwabara Y , Nishino T , Okamoto K , Araki T , Eger BT , Pai EF , Nishino T : The Key Residue for Conversion of Electron Acceptor Specificity of Xanthine Oxidoreductase Analyzed by Site-Directed Mutagenesis . *Flavins and Flavoproteins* ( S. Chapman et al, eds. ) Rudolf Weber 2002 ; 275-279 .
- 33) Nakai A , Shibazaki Y , Taniuchi Y , Oya A , Asakura H : Vitamins ameliorate secondary mitochondrial failure in neonatal rat brain . *Pediatr Neurol* 2002 ; 27 : 30-35 .
- 34) Chihara H , Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Araki T : Basal metabolic rate in hyperemesis gravidarum : Comparison to normal pregnancy and response to treatment . *Am J Obstet Gynecol* 2003 ; 188 : 434-438 .
- 35) Suzuki S , Araki T : Fetomaternal interface of cytokine patterns in intrauterine infection . *Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine* 2003 ; 13 : 211-212 .
- 36) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T : Relation between plasma endothelin-1 levels and T helper-1 : T helper-2 immunity in women with twin pregnancies . *Arch Gynecol Obstet* 2003 ; ( 267 ) : 227-229 .
- 37) Watanabe S , Asakura H , Power GG , Araki T : Alterations of thermoregulation in women with hyperemesis gravidarum . *Arch Gynecol Obstet* 2003 ; 267 ( 4 ) : 221-226 .
- 38) Ichikawa M , Sugita M , Takahashi M , Satomi M , Takeshita T , Araki T , Takahashi H : Breast milk macrophages spontaneously produce GM-CSF and differentiate into dendritic cells in the presence of exogenous IL-4 alone . *Immunology* 2003 ; 108 ( 2 ) : 189-195 .
- 39) Kuwabara Y , Shima Y , Takeuchi M , Shinohara T , Awataguchi K , Araki T , Shin S : Critical pulmonary stenosis with intact ventricular septum and fetal arrhythmias . *Arch Gynecol Obstet* 2003 ; 267 ( 4 ) : 236-238 .
- 40) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Miura A , Kuwabara Y , Ishino H , Kiyokawa Y , Doi D , Yoneyama K , Araki T : Serum adenosine deaminase activity and its isoenzyme pattern in women with normal pregnancies . *Arch Gynecol Obstet* 2003 ; 267 ( 4 ) : 205-207 .
- 41) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Miura A , Kuwabara Y , Ishino H , Kiyokawa Y , Doi D , Yoneyama K , Araki T : Changes in the proportion of T-helper1 and T-helper2 cells in cord blood after premature rupture of membranes . *Arch Gynecol Obstet* 2003 ; 267 ( 4 ) : 217-220 .
- 42) Yoneyama Y , Kobayashi H , Chihara H , Yamada T , Otsubo Y , Araki T : Plasma 5'-nucleotidase activities and uric acid levels women with preeclampsia . *Gynecol Obstet Invest* 2003 ; 54 : 168-171 .
- 43) Yoneyama Y , Kobayashi H , Chihara H , Yamada T , Otsubo Y , Araki T : Serum adenosine deaminase activity in women with preeclampsia . *Gynecol Obstet Invest* 2003 ; 54 : 164-167 .
- 44) 鈴木俊治 , 朝倉啓文 , 荒木 勤 , 進 純郎 : 骨盤計測 . *産科と婦人科* 2002 ; 243-244 .
- 45) 三浦 敦 , 鈴木俊治 , 荒木 勤 : IUGR ( 子宮内胎児発育不全 ) は反復しやすいか ? *産婦人科の実際* 2002 ;

151 (5): 659-663 .

- 46) 竹下俊行, 荒木 勤: 妊娠中毒症の病態維持に影響を与える因子: 血管内皮細胞と細胞間接着分子. 産婦人科の実際 2002 ; 151 (6): 825-831 .
- 47) 清川寧子, 村田知昭, 河合尚基: 脳転移を来たした進行卵巣癌の1例. 日本産婦人科学会東京地方部会誌 2002 ; 51 (2): 168-171 .
- 48) 米山剛一: レーザー装置. 臨床婦人科産科 2002 ; 56 (9): 1160-1165 .
- 49) 米山芳雄, 三浦 敦, 澤倫太郎, 荒木 勤: 胎盤遺伝子発現プロファイリングによる妊娠中毒症の病因解明. 日本妊娠中毒症学会雑誌 2002 ; 45-48 .
- 50) 三浦 敦, 米山芳雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 荒木 勤: 妊娠中毒症における血漿 Nitric oxide と血小板 P-selectin 発現機構の検討. 日本妊娠中毒症学会雑誌 2002 ; 103-104 .
- 51) 鈴木俊治, 林 隆, 加藤真紀子, 三浦 敦, 五十嵐美和, 林 瑞成, 荒木 勤: Amniotic rupture sequence によると推定された早期流産の1例. 臨産 2002 ; 56 : 683-685 .
- 52) 沖野恵子, 米山剛一, 武内 務, 平泉良枝, 三浦 敦, 土居大祐, 太田雄治郎, 明楽重夫, 荒木 勤: 子宮筋腫術後に顕症化した結核性腹膜炎. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報 2002 ; 39 (1): 25-29 .
- 53) 奥平さやか, 米山剛一, 馬場直美, 五十嵐健治, 沖野恵子, 土居大祐, 朝倉啓文, 荒木 勤: 子宮体癌術後に発症した血栓塞栓症. 日産婦東京会誌 2002 ; 51 (2): 196-199 .
- 54) 林 瑞成, 朝倉啓文: 新生児の補液と注意. 臨床看護 2002 ; 28 (6): 977-979 .
- 55) 鈴木俊治: 双胎妊娠の至適娩出時期. 産婦治療 2002 ; 85 : 591-594 .
- 56) 鈴木俊治: 双胎妊娠の至適娩出時期. 日産婦誌 2002 ; 54 : 361-364 .
- 57) 浜村幸恵, 米山剛一, 山田 隆, 土居大祐, フェンフォン, 荒木 勤, 恩田宗彦, 杉崎祐一: 多彩な組織像を示した子宮体部原発癌肉腫. 日産婦東京会誌 2002 ; 51 : 334-337 .
- 58) 朝倉啓文, 荒木 勤: 胎児心拍数の制御, 調節. 産婦の実際 2002 .
- 59) 朝倉啓文, 清川 尚: 分娩におけるアメニティーへの配慮と安全性の確保. 臨床産婦 2002 ; 56 (12): 1414-1417 .
- 60) 鈴木俊治, 米山芳雄, 澤倫太郎, 村田知昭, 武内 務, 奥平さやか, Power GG, 荒木 勤: 母獣に対する酸素投与がヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける脳温変化にあたる影響. 日産婦関東連合会報 2002 ; 39 : 387-391 .
- 61) 鴨井青龍, 松下径広, 河村 堯, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 荒木 勤, 大秋美治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): 卵巣硬化間質性腫瘍の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2002 ; 20 (1): 137-141 .
- 62) 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮腔癒着症: 手技の工夫と成績を中心として. 日本生殖外科学会雑誌 2003 ; 15 (1): 988-992 .
- 63) 小西英喜, 磯崎太一, 大坪保雄, 渡辺昇一, 中山裕樹, 加藤久盛, 小川秀臣, 畑 俊夫, 富岡康弘, 荒木 勤, 米山剛一, 土居大祐, 石原楷輔, 松島 隆, 吉松和彦, 深見武彦, 河合尚基, 高橋秀彦: 卵巣漿液性嚢胞腺癌に対する First line/Second line としての T-J Biweekly 療法. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2003 ; 21 (1): 1-9 .
- 64) 清川寧子, 村田知昭, 河合尚基: 大量性器出血を来たした若年性子宮体癌の1例. 日本産婦人科学会東京地方部会誌 2003 ; 51 (1): 94-97 .
- 65) 米山剛一, 沖野恵子, 土居大祐, 荒木 勤: 婦人科悪性腫瘍術後の血栓症発症因子に関する臨床的検討. 産婦人科の実際 2003 ; 52 : 1-5 .

## (2) 綜説:

- 1) 竹内正人: 産科領域の Do Not : 超音波診断による妊娠週数確認での Do Not ! ペリネイタルケア 2002 ; 21 (4): 2-3 .
- 2) 荒木 勤, 中井章人: 産科救急疾患とその初期治療 子宮発育遅延 Initial treatments and maternal trans-



- port in the management of the intrauterine fetal growth retardation . 産婦人科治療 2002 ; 184 .
- 3) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 妊婦に水分摂取を制限すること . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 5 ) : 2-3 .
  - 4) 林 瑞成 , 澤倫太郎 , 荒木 勤 : 妊娠中毒症の輸血と注意 . 臨床看護 2002 ; 28 ( 6 ) : 988-992 .
  - 5) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 妊娠中毒症で極端な塩分制限をすること . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 6 ) : 2-3 .
  - 6) 竹下俊行 , 荒木 勤 : 妊娠中毒症の新しい展開? 病態解明はどこまで進んだか? : 血管内細胞と細胞間接着分子 . 産婦人科治療 2002 ; 151 ( 6 ) : 825-832 .
  - 7) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 双胎の妊娠初期に膜性診断をしないこと . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 7 ) : 2-3 .
  - 8) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 妊娠糖尿病のスクリーニングの時期における Do Not . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 8 ) : 2-3 .
  - 9) 荒木 勤 : 双胎妊娠 : 21 世紀の humanized care を求めて . 日本産科婦人科学会雑誌 2002 ; 54 ( 8 ) : 999-1005 .
  - 10) 竹下俊行 : クリニカル Update? 臨床最前線 , いま何が問題か? 不育症をどう扱う「免疫療法の有効性と限界」 . 日本産科婦人科学会雑誌 2002 ; 54 ( 9 ) : 409-409 .
  - 11) 竹下俊行 , 明楽重夫 , 荒木 勤 : 今 , 求められる感染予防対策 , 術後感染予防? 内視鏡手術 . 産婦人科治療 2002 ; 152 ( 9 ) : 2059-2063 .
  - 12) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 胎児発育の評価における Do Not . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 9 ) : 2-3 .
  - 13) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : IUGR の考え方における Do Not . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 10 ) : 2-3 .
  - 14) 竹内正人 : 周産期を楽しく過ごすために . 周産期医学 2002 ; 32 ( 10 ) : 1340-1344 .
  - 15) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 予定日超過の取り扱いにおける Do Not . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 11 ) : 2-3 .
  - 16) 竹内正人 : 産科領域の Do Not : 十分な静脈麻酔をしないで胎盤用手剥離をすること . ペリネイタルケア 2002 ; 21 ( 21 ) : 2-3 .
  - 17) 竹内正人 , 進 純郎 : マタニティーメディアとのかかわり . 周産期医学増刊 2002 ; 32 : 146-150 .
  - 18) 竹内正人 : リスク妊婦のバースプラン . ペリネイタルケア 2002 ; 273 : 14-18 .
  - 19) 竹内正人 : 今日における胎児心拍数モニタリングの意義 ( 医師の立場で ) . 助産師 2002 ; 57 : 6-9 .
  - 20) 中山裕樹<sup>1)</sup> , 黒瀬圭輔 , 佐治晴哉<sup>1)</sup> , 田中 躍<sup>1)</sup> , 武内 務<sup>1)</sup> , 杉浦 賢<sup>1)</sup> , 加藤久盛<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター ) : 子宮体癌の手術法 : 基幹部切除は予後に反映するか . 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2002 ; 20 : 416-420 .
  - 21) 荒木 勤 , 鈴木俊治 : 新生児仮死 , 呼吸障害 , チアノーゼ . 日産婦誌 2002 ; 54 : 517-523 .
  - 22) 中山裕樹<sup>1)</sup> , 清水基弘<sup>1)</sup> , 佐治晴哉<sup>1)</sup> , 黒瀬圭輔 , 杉浦 賢<sup>1)</sup> , 加藤久盛<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター ) : 増えてきた子宮体癌 : 子宮体癌縮小手術の実際 . 産婦人科治療 2002 ; 85 : 666-669 .
  - 23) 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル 周産期の臨床手技 106 : 4 スメアの採取法 . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 17-19 .
  - 24) 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル 周産期の臨床手技 106 : 6 外診 ( 子宮底・腹囲の測定 ) . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 24-25 .
  - 25) 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル 周産期の臨床手技 106 : 7 ドブラー ( 児心音聴取 ) . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 26-27 .
  - 26) 稲川和男 , 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技 106 : 1 妊娠反応 . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 10-11 .
  - 27) 稲川和男 , 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技 106 : 2 尿検査 . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 12-13 .
  - 28) 竹内正人 : 妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技 106 : 3 母子健康手帳の記載の仕方 . ペリネイタルケア 2002 ; 夏季 : 14-16 .

- 29) 竹内正人：妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技106：5 内診．ペリネイタルケア 2002；夏季：20-22．
- 30) 竹内正人：妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技106：59 双胎の分娩．ペリネイタルケア 2002；夏季：148-149．
- 31) 竹内正人：妊娠から出産・育児までのケアマニュアル周産期の臨床手技106：8 ドブラー（児心音聴取）．ペリネイタルケア 2002；夏季：26-27．
- 32) 竹内正人：産科領域のDo Not：妊婦健診での外診で心がけたいこととDo Not！ペリネイタルケア 2003；21（1）：2-3．
- 33) 竹内正人：自然分娩のあり方．産婦人科治療 2003；86（1）：7-11．
- 34) 竹内正人：産科領域のDo Not：骨盤位の取扱いにおけるDo Not！ペリネイタルケア 2003；21（2）．
- 35) 竹内正人：ふたごの出生状況．チャイルドヘルス 2003；6（3）：4-8．
- 36) 竹内正人：産科領域のDo Not：骨盤位の自然娩出機転を知らないで骨盤位牽出術を行うこと！ペリネイタルケア 2003；21（3）：2-3．
- 37) 竹内正人：人工妊娠中絶手術の実際．助産雑誌 2003；57（3）：18-23．
- 38) 河合尚基：卵巣漿液性嚢胞腺癌に対するFirst line / Second lineとしてのT-J Biweekly療法．日本婦人科腫瘍学会雑誌 2003；21（1）：1-9．
- 39) 竹内正人：子ども達にどう話す？「不妊治療」．ツインズ 2003；47：5-8．
- 40) 鈴木俊治：子宮破裂のリスクファクター．産婦の実際 2003；52：179-185．

### (3) 研究報告書：

- 1) 竹内正人，小林秀資：妊娠，出産状況がADHDの発症に及ぼす影響 パースコホート研究デザイン：平成13年度厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業：母子保健サービスの効果的な提供に関する研究．平成13年度研究報告書 2002；pp3-150．

### 著 書

- 1) 明楽重夫：〔分担〕細径腹腔鏡による検査・手術．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編），2002；pp182-183，金原出版．
- 2) 明楽重夫：〔分担〕子宮外妊娠の検査法：より迅速・正確な診断をめざして．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編），2002；pp188-189，金原出版．
- 3) 明楽重夫：〔分担〕腹腔鏡検査の検査機器と麻酔．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編），2002；pp180-181，金原出版．
- 4) 明楽重夫：〔分担〕腹壁吊り上げ法による検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行編），2002；pp184-187，金原出版．
- 5) 太田雄治郎：〔分担〕HPV DNA typing の実際・婦人科臨床検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 6) 太田雄治郎：〔分担〕化学療法を行うにあたっての検査・婦人科臨床検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；金原出版．
- 7) 土居大祐：〔分担〕細胞診の取り方：良い例・悪い例．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp120-121，金原出版．
- 8) 米山剛一：〔分担〕羊水塞栓症の病態生理と診断に必要な検査．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp106-109，金原出版．
- 9) 米山剛一：〔分担〕子宮肉腫の術前診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp132-133，金原出版．

- 10) 米山剛一：〔分担〕産婦人科領域の血栓症の診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp162-163，金原出版．
- 11) 米山剛一：〔分担〕腫瘍マーカーによる卵巣腫瘍の診断．図解臨床産科婦人科検査法（荒木 勤，竹下俊行），2002；pp132-133，金原出版．
- 12) 米山芳雄，荒木 勤：〔分担〕胎児発育と栄養・代謝 新女性医学大系29．胎児の成長と発達（武谷雄二 編），2002；pp155-161，中山書店．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 荒木 勤：双胎：21世紀のhumanized care を求めて．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．

##### (2) 招待講演：

- 1) Takeuchi M：Client Friendly Service．JICA RHプロジェクトセミナー（ベトナム），2003．1．

##### (3) 教育講演：

- 1) 朝倉啓文：胎児脳障害発生過程を考える：一過性子宮内虚血と遅発性エネルギー代謝不全．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．

##### (4) シンポジウム：

- 1) Kuwabara Y, Nishino T, Okamoto K, Araki T, Eger BT, Pai EF：The Key Residue for Conversion of Electron Acceptor Specificity of Xanthine Oxidoreductase Analyzed by Site-Directed Mutagenesis．Flavins and Flavoproteins 2002（The fourteenth international symposium）(UK), 2002．7．
- 2) 朝倉啓文：産科リスクを軽減する体制「小児科産科若手医師を確保するために」．「今後の医療体制を考える」．日本学術会議，2002．9．
- 3) 中山裕樹，清水基弘，佐治晴哉，黒瀬圭輔，杉浦 賢，加藤久盛，武内 務，八田充子，松下径広，宮城悦子，小野瀬亮：各臓器がんにおけるリンパ節廓清手術の評価「子宮体癌における傍大動脈リンパ節廓清の評価」．第40回日本癌治療学会，2002．10．
- 4) 竹内正人：葛飾赤十字産院における多胎支援について．第61回日本公衆衛生学会，2002．10．
- 5) 中山裕樹，清水基弘<sup>1)</sup>，佐治晴哉<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔，杉浦 賢<sup>1)</sup>，加藤久盛，小野瀬亮<sup>2)</sup>，仲沢経夫<sup>2)</sup>，土居大祐，太田雄治郎（<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>2)</sup>横浜市大産婦人科）：子宮体部横紋筋肉腫の1例．第41回日本臨床細胞学会秋期大会，2002．11．
- 6) 黒瀬圭輔，清水基弘，佐治晴哉，杉浦 賢，加藤久盛，中山裕樹：子宮頸部上皮内腫瘍に対する光線力学的治療（Photodynamic therapy：PDT）の成績およびHPVの消退と細胞診像について．第13回日本光線力学学会，2003．3．

##### (5) パネルディスカッション：

- 1) 明楽重夫，山田 隆，三浦 敦，渡辺美千明，竹下俊行，荒木 勤：これからの内視鏡手術を語ろう． - TelesurgeryからRoboticsまで - ，婦人科腹腔鏡手術に対する音声制御内視鏡ロボット（AESOP）の応用．第15回日本内視鏡外科学会，2002．9．

##### (6) ワークショップ：

- 1) Akira S, Yamada T, Miura A, Watanabe M, Wei J, Sun S S, Takeshita T, Araki T：Gasless laparoscopically assisted surgery in the gynecologic field．Congress of ELSA 2002（東京），2002．9．
- 2) 米山芳雄，澤倫太郎，三浦 敦，荒木 勤：胎盤遺伝子発現プロファイリングによる妊娠中毒症の病因解明．第23回日本妊娠中毒症学会，2002．9．
- 3) 加藤久盛，清水基弘，佐治晴哉，黒瀬圭輔，杉浦 賢，小野瀬亮，中山裕樹，八田充子，土居大祐，宮城悦子，小野瀬亮：若年者子宮頸部細胞診の問題点．第41回日本臨床細胞学会秋期大会，2002．10．

(7) 一般講演：

- 1) Yoneyama K , Okino K , Doi D , Yoneyama Y , Hamamura Y , Matsumura Y , Abe T , Araki T : Risk factors of postoperative thromboembolism in gynecologic oncology patients . XIIth International vascular biology meeting ( Karuizawa ) , 2002 . 5 .
- 2) Yoneyama K , Okino K , Doi D , Yoneyama Y , Araki T : Risk factors of postoperative thrombosis in gynecologic oncology patients . The 12th International Vascular Biology Meeting ( Karuizawa, Japan ) , 2002 . 6 .
- 3) Kaseki H , Fukami T , Matsushima T , Ishihara K , Araki T : Comparison between Harmonic land II . Congress of ELSA 2002 , 2002 . 9 .
- 4) Akira A , Yamada T , Miura A , Watanabe M , Jun W , Shu SS , Takeshita T , Araki T : Gasless Laparoscopically Assisted Surgery in the Gynecologic Field . Congress of ELSA 2002 , 2002 . 9 .
- 5) Takeshita T , Yamada T , Miura A , Akira S , Wei J , Sun SS , Araki T : The feasibility and effectiveness of hysteroscopic surgery using a coaxial bipolar system in the treatment of intrauterine lesions . Congress of ELSA 2002 ( 東京 ) , 2002 . 9 .
- 6) Chihara H , Otsubo Y , Yamaguchi M , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T , Suzuki S : Basal Metabolic Rate in Pregnant Women with Preeclampsia ; Enhanced Early Detection of The Disease . SGI Year 2003 Annual Meeting ( Washington D. C. ) , 2003 . 1 .
- 7) Chihara H , Otsubo Y , Yamaguchi M , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T , Suzuki S : Metabolic rate in pregnancy with preeclampsia : enhanced early detection of the disease . The 50 th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation ( USA ) , 2003 . 3 .
- 8) Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Miura A , Negishi Y , Kawase R , Chihara H , Araki T : Plasma adenosine levels and expression of soluble E- and P- selectin in postmenopausal women . The 50th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation ( DC, USA ) , 2003 . 3 .
- 9) Chihara H , Arlin B , Christian H , Yoneyama Y , Sawa R , Suzuki S , Araki T , Gordon G : Effect of cooling and Hypoxia on Cerebral Blood Flow and Heat Production by The Fetal Sheel Brain . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 10) Oya A , Nakai A , Taniuchi Y , Asakura H , Yokota A , Nagano R , Koshino T , Ataki T : The immunosuppressant drug FK506 ameliorates neonatal cerebral mitochondrial dysfunction and energy failure after transient intrauterine ischemia in rats . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 11) 三並伸二 , 斎藤糧三 , 品川志野 , 吉松和彦 , 小西英喜 , 可世木久幸 , 石原楷輔 , 荒木 勤 : 3D-Ultrasonography による妊卵着床・発育動態に関する検討 . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 12) 関谷伊久乃 , 中井章人 , 三宅秀彦 , 大屋敦子 , 横田明重 , 朝倉啓文 , 越野立夫 , 荒木 勤 : HELLP症候群における母体肝動脈と門脈の血流代償作用発現に関する検討 . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 13) 荒木 勤 : Scareless healing : 目立たない傷跡をめざして . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 14) 竹下俊行 : クリニカルUpdate? 臨床最前線, いま何が問題か? 不育症をどう扱う「免疫療法の有効性と限界」 . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 15) 市川雅男 , 竹下俊行 , 里見操緒 , 金 栄淳 , 高橋秀実 , 荒木 勤 : ヒト母乳マクロファージ由来の樹状細胞の検討 . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 16) 松下径広 , 小木三郎 , 阿部俊之 , 峯 伸也 , 桑島豊彦 , 五十嵐俊夫 , 鴨井青龍 , 河村 堯 , 荒木 勤 : 骨盤リンパ節郭清術後の後遺症 , 下肢浮腫に対しての治療の試み . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 17) 松島 隆 , 品川志野 , 小西英喜 , 可世木久幸 , 石原楷輔 , 荒木 勤 : 子宮内膜症における卵管内・腹腔内マクロファージの活性 . 第54回日本産科婦人科学会 , 2002 . 4 .
- 18) 土居大祐 , 馬場直美 , 五十嵐美和 , 沖野恵子 , 鴨井青龍 , 太田雄治郎 , 米山剛一 , 小西英喜 , 荒木 勤 : 子宮

- 頸部腺癌におけるneoadjuvant chemotherapyとしてのBOAI療法の効果．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．
- 19) 鴨井青龍，小木三郎，阿部俊之，桑島豊彦，松下径広，土居大祐，太田雄治郎，若月雅美，米山剛一，河村堯，荒木 勤：術前病理組織標本を用いた子宮頸部扁平上皮癌の術前化学療法の効果予知．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．
  - 20) 深見武彦，吉松和彦，斎藤 恵，品川志野，林 康子，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：妊娠中期の妊婦健診に経膈超音波検査の導入は早産予防に有効か．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．
  - 21) 米山剛一，沖野恵子，土居大祐，村松好克，浜村幸恵，稲川智子，太田雄治郎，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：婦人科悪性腫瘍術後の血栓症発症因子に関する臨床的検討．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．
  - 22) 神戸 仁，中井章人，井尾裕子，大屋敦子，横田明重，朝倉啓文，越野立夫，荒木 勤：母体のトレーニング効果：分娩による活性酸素の産生を中心に．第54回日本産科婦人科学会，2002．4．
  - 23) 吉松和彦，小西英喜，松島 隆，土居大祐，石原楷輔，荒木 勤，富岡康弘，畑 俊夫，加藤久盛，中山裕樹，渡辺昇一，大坪保雄：One stay chemotherapy によるT-J Biweekly 療法は患者の社会性の維持に貢献しうるか？第54回日本産科婦人科学会学術講演会，2002．4．
  - 24) 沖野恵子，米山剛一，土居大祐，太田雄治郎，浜村幸恵，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：良性および悪性卵巣腫瘍におけるチミジンホスホリラーゼの発現動態の検討．第54回日本産科婦人科学会学術講演会，2002．4．
  - 25) 林 隆，林 瑞成，石原珠紀，明楽重夫，荒木 勤：母体血中有核赤血球のCYP21Bゲノム遺伝子におけるPCR-SSCP法を用いたSNP解析．第54回日本産科婦人科学会総会，2002．4．
  - 26) 山田 隆，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤：産婦人科領域における腹腔鏡補助下手術：腹壁吊り上げ法とラッププロテクターミニを用いて．第12回吊り上げ研究会，2002．5．
  - 27) 明楽重夫，山田 隆，竹下俊行，荒木 勤：腹腔内組み立て式吊り上げ鉤による産婦人科手術450例の経験．第12回吊り上げ研究会，2002．5．
  - 28) 加藤久盛，佐治晴哉<sup>1)</sup>，田中 躍<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔，杉浦 賢<sup>1)</sup>，中山裕樹<sup>(1)</sup>神奈川県立がんセンター)：頸部上皮内腫瘍(CIN)に対する光線力学的治療の治療成績およびHPVの消退について．第12回日本光線力学学会，2002．5．
  - 29) 浜村幸恵，米山剛一，山田 隆，松村好克，土居大祐，荒木 勤，恩田宗彦，杉崎祐一：多彩な組織像を示した子宮体部原発の癌肉腫．第322回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2002．5．
  - 30) 阿部 崇，米山剛一，沖野恵子，土居大祐，川本雅司，渡会泰彦，浅川一枝，杉崎祐一：子宮内膜細胞診を契機に手術に至った大腸癌卵管転移例．第43回日本臨床細胞学会総会，2002．5．
  - 31) 沖野恵子，米山剛一，阿部 崇，土居大祐，横山宗伯，川本雅司，松原美幸，浅川一枝，渡会泰彦，杉崎祐一：卵巣腫瘍として発見された子宮体部癌肉腫卵巣転移例．第43回日本臨床細胞学会総会，2002．5．
  - 32) 河合尚基：当院におけるクリニカルパスの現況．第441回日本大学医学会例会，2002．5．
  - 33) 峯 克也，渡辺昇一，大坪保雄：帝王切開術後に呼吸不全を合併した症例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
  - 34) 佐藤浩一，斎藤糧三，三並伸二，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：Ovarian Leiomyoma の1症例．第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．
  - 35) 小木三郎，阿部俊之，松下径広，五十嵐俊夫，若月雅美，鴨井青龍，河村 堯，荒木 勤：高用量MPA療法が奏功し，その後に正常分娩となった若年性子宮内膜癌．第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．
  - 36) 斎藤 恵，菊谷真理子，深見武彦，吉松和彦，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：術前卵管癌を強く疑わせた1例．第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．
  - 37) 国重浩二，谷内良成，三宅秀彦，横田明重，中井章人，越野立夫，荒木 勤：帝王切開後MRSA感染症治療中に中毒性表皮壊死症(TEN)型薬疹を併発した1例．第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．

- 38) 若月雅美, 小木三郎, 阿部俊之, 松下径広, 五十嵐俊夫, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 当院における妊娠肝機能障害の要因. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2002. 6.
- 39) 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤: 当科における過去5年間の子宮損傷の検討. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2002. 6.
- 40) 松村好克, 館岡佐知, 沖野恵子, 林 隆, 林 端成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 脳内出血発症4年後に妊娠32週で外傷性てんかんに発症した症例の検討. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2002. 6.
- 41) 稲川智子, 明楽重夫, 三浦 敦, 竹下俊行, 荒木 勤: 腹腔鏡下手術が性腺摘出に有用であった精巢性女性化症候群. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2002. 6.
- 42) 貝原賢二, 林 隆, 五十嵐美和, 林 端成, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 保存的治療により子宮温存が可能であった癒着胎盤症例の検討. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2002. 6.
- 43) 浜村幸恵, 米山剛一, 山田 隆, 三浦 敦, 沖野恵子, 稲川智子, 平泉良枝, 土居大祐, 荒木 勤: Endometrial intraepithelial carcinoma が疑われた子宮体癌症例の臨床病理学的検討. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 6.
- 44) 山田 隆, 米山剛一, 浜村幸恵, 松村好克, 馬場直美, 阿部 崇, 土居大祐, 荒木 勤: 子宮体部原発卵黄嚢腫瘍の1例. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 6.
- 45) 山中美智子, 住吉好雄, 菅原智香, 石川浩史, 田中政信, 朝倉啓文: 葉酸摂取勸奨への検討と分析. 第42回日本先天異常学会, 2002. 6.
- 46) 中山裕樹, 田中 躍<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛, 武内 務, 松下径広, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 仲沢経夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 細胞診による子宮癌検診の現状と課題「子宮癌検診の精度管理と検査士の保護」(タスクフォース). 第43回日本臨床細胞学会, 2002. 6.
- 47) 黒瀬圭輔, 田中 躍<sup>1)</sup>, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛, 中山裕樹, 武内 務, 八田充子, 土居大祐, 宮城悦子<sup>1)</sup>, 小野瀬亮<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 子宮外腺癌と過ったIUD留置例の検討. 第43回日本臨床細胞学会, 2002. 6.
- 48) 佐治晴哉, 田中 躍, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢, 加藤久盛, 中山裕樹, : 当院における子宮内膜間質肉腫症例の検討. 第4回神奈川県婦人科腫瘍研究会, 2002. 6.
- 49) 加藤久盛, 佐治晴哉, 田中 躍, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢, 中山裕樹: 頸部上皮内腫瘍(CIN)に対する光線力学的治療の治療成績およびHPVの消退について. 第32回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2002. 7.
- 50) 中山裕樹, 佐治晴哉, 黒瀬圭輔, 田中 躍, 杉浦 賢, 加藤久盛: 子宮体癌術後補助化学療法の適応. 第32回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2002. 7.
- 51) 杉浦 賢, 佐治晴哉, 田中 躍, 黒瀬圭輔, 加藤久盛, 中山裕樹: 卵巣癌Paclitaxel & Carboplatin (TJ) 療法後の再発, 無効症例の検討. 第32回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2002. 7.
- 52) 米山芳雄, 澤倫太郎, 荒木 勤: 前期破水が胎児臍帯血Th1/Th2バランスに及ぼす影響の解析. 第38回日本新生児学会, 2002. 7.
- 53) 稲川智子, 明楽重夫, 三浦 敦, 竹下俊行, 荒木 勤: 鼠径ヘルニアの手術を既往に持つ精巢性女性化症候群に対する腹腔鏡下手術. 第42回日本産科婦人科内視鏡学会, 2002. 8.
- 54) 明楽重夫, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤: 腹壁吊り上げ法を用いた腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術(LAM): 教育病院における標準術式として. 第42回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2002. 8.
- 55) 山田 隆, 松村好克, 竹下俊行, 明楽重夫, 荒木 勤, 近藤幸尋, 西村泰司, 村上正洋, 百束比古: 細径腹腔鏡が真性半陰陽の確定診断に有用であった1症例. 第15回日本内視鏡外科学会, 2002. 9.
- 56) 松島 隆, 可世木久幸, 三並伸二, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮内膜症に合併した卵巣平滑筋腫の1例.

第15回日本内視鏡外科学会，2002．9．

- 57) 黒瀬圭輔，清水基弘，佐治晴哉，杉浦 賢，加藤久盛，中山裕樹，上田明子，大金直樹，小松祐子，中村満美子，田村 猛：子宮筋腫様発育を示した頸部小細胞癌の1例．第21回日本臨床細胞学会神奈川地方会，2002．9．
- 58) 三浦 敦，米山芳雄，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠中毒症における血漿Nitric Oxideと血小板P-Selectin 発現機構の検討．第23回日本中毒症学会，2002．9．
- 59) 川端伊久乃，中井章人，三宅秀彦，朝倉啓文，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症における母体肝循環変化について：HELLP症候群発症予知を中心に．第23回日本中毒症学会，2002．9．
- 60) 馬場直美，山田 隆，藤江裕美，山口昌子，沖野恵子，五十嵐健治，米山芳雄，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠初期に発症した母体食道裂孔ヘルニアおよび逆流性食道炎の症例：妊娠悪阻との関連について．第323回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2002．9．
- 61) 山田 隆，山口昌子，三浦 敦，米山芳雄，中井章人，朝倉啓文，荒木 勤：各種体温下の一過性子宮胎盤虚血と胎仔発育との関連性；妊娠ウィスターSDラットを用いての検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 62) 沖野恵子，八田充子，黒瀬圭輔，荒木 勤，永井尚生，江見 充：子宮頸癌の体系的遺伝子発現解析．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 63) 久木野竜一，深見武彦，小西英喜，斉藤糧三，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：術前管理中に突然下肢の動脈血栓症を来した子宮体癌の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 64) 馬場直美，山田 隆，山口昌子，三浦 敦，米山芳雄，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠初期に発症した食道裂孔ヘルニアおよび逆流性食道炎の症例：妊娠悪阻との関連について．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 65) 久木野竜一，深見武彦，小西英喜，斉藤糧三，三並伸二，品川志野，吉松和彦，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：子宮体癌の術前管理中に突然下肢の激痛にて発症した動脈血栓症の1例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 66) 佐藤浩一，三並伸二，品川志野，吉松和彦，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：子宮頸管妊娠の1症例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 67) 藤江裕美，菊谷真理子，斉藤糧三，斉藤 恵，吉松和彦：常位胎盤早期剥離を疑わせた臍帯卵膜付着の1例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 68) 三宅秀彦，谷内良成，中井章人，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：前置胎盤に対する自己血輸血の有用性．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 69) 根岸靖幸，荻原弘光，米山剛一，松村好克，山口昌子，八田充子，土居大祐，荒木 勤：多彩な組織所見を呈した子宮癌肉腫．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 70) 山口昌子，山田 隆，八田充子，米山芳雄，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠22週に発症した急性リンパ性白血病の症例の検討．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 71) 渋井庸子，吉松和彦，斉藤 恵，深見武彦，松島 隆，石原楷輔，荒木 勤：皮下に発症した子宮内膜症の2例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 72) 松村好克，明楽重夫，山田 隆，竹下俊行，三浦 敦，荻原弘光，根岸靖幸，荒木 勤：腹腔鏡にて確定診断しえた真性半陰陽の1例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 73) 五十嵐美和，三浦 敦，朝倉禎史，渋井庸子，土居大祐，竹下俊行，荒木 勤：卵巣悪性腫瘍と鑑別を要した炎症性retention cystの1例．第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2002．10．
- 74) 西 弥生，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤，富山僚子，佐藤嘉兵：マウスを用いたGV期卵成熟培養後の受精・発生能についての検討．第126回日本不妊学会関東地方部会，2002．10．
- 75) 西 弥生，富山僚子，小林 護，明楽重夫，竹下俊行，佐藤嘉兵，荒木 勤：hCGがGV期卵子体外受精に及ぼす影響．第20回日本受精着床学会，2002．10．

- 76) 杉浦 賢, 清水基弘, 佐治晴哉, 黒瀬圭輔, 加藤久盛, 中山裕樹: 進行子宮癌に対するCDDP併用放射線療法における至適投与量. 第40回日本癌治療学会, 2002. 10.
- 77) 加藤久盛, 佐治晴哉, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢, 中山裕樹, : 婦人科再発癌における長期生存症例の治療方法について. 第40回日本癌治療学会, 2002. 10.
- 78) 米山剛一, 三浦 敦, 沖野恵子, 土居大祐, 小西英喜, 鴨井青龍, 村田 智, 田島廣之, 隈崎達夫, 荒木 勤: 進行子宮頸癌に対するNIPP (negative balanced isolated pelvic perfusion) 療法. 第40回日本癌治療学会総会, 2002. 10.
- 79) 米山剛一, 川本雅司, 沖野恵子, 八田充子, 阿部 崇, 土居大祐, 松原美幸, 渡会泰彦, 杉崎祐一: Endometrial intraepithelial carcinoma の存在を疑った子宮体癌症例の病理学的検討. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 10.
- 80) 土居大祐, 阿部 崇, 沖野恵子, 八田充子, 米山剛一, 松原美幸, 渡会泰彦, 杉崎祐一: 婦人科細胞診に出現した悪性リンパ腫の3症例の検討. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 10.
- 81) 金 栄淳, 竹下俊行, 加藤真紀子, 里見操緒, 西 弥生, 五十嵐健治, 明楽重夫, 荒木 勤: 習慣流産に対する夫リンパ球免疫療法後のNK細胞活性と皮内反応の変化率について. 第47回日本不妊学会, 2002. 10.
- 82) 丸山智美, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 無排卵女性の血清レプチンについて. 第47回日本不妊学会, 2002. 10.
- 83) 竹内正人: フィンランドにおける出産ケアサービス Social Obstetrics という概念. 第61回日本公衆衛生学会, 2002. 10.
- 84) 桑原慶充, 西野朋子, 岡本 研, 松村智裕, 川口裕子, 荒木 勤, 西野武士: X線結晶構造に基づく, 部位特異的変異法によるキサンチン脱水素酵素の活性変換メカニズムの検討. 日本生化学会, 2002. 10.
- 85) 里見操緒, 市川雅男, 杉田昌彦, 新谷英滋, 竹下俊行, 高橋英実: ヒト母乳中マクロファージのIL-4による分化とHIV運搬の可能性. 第16回日本エイズ学術集会, 2002. 11.
- 86) 里見操緒, 竹下俊行, 金 栄淳, 市川雅男, 西 弥生, Wei J, 明楽重夫, 荒木 勤, : 夫リンパ球免疫療法の注射部位遅延型過敏反応抑制率と末梢血NK細胞活性変化率についての検討. 第17回日本生殖免疫学会学術集会, 2002. 11.
- 87) 奥平さやか, 武内 務, 峯 伸也, 桑島豊彦, 鈴木俊治: 発熱を伴う頭痛で発症した心因性疼痛の1例. 第20回江東・千葉西ブロック産婦人科合同卒後研修会, 2002. 11.
- 88) 荻原弘光, 米山芳雄, 大坪保雄, 澤倫太郎, 荒木 勤, 鈴木俊治: 正常妊婦および妊娠中毒症妊婦における分時換気量および酸素消費量の検討. 第22回日本臨床栄養学会, 2002. 11.
- 89) 朝倉啓文: 健やかな妊娠と出産のために「新しい母子健康手帳とその利用」. 第23回これからの母子保健を考えるシンポジウム, 2002. 11.
- 90) 黒瀬圭輔, 清水基弘, 佐治晴哉, 杉浦 賢, 八田充子, 武内 務, 松下径広, 土居大祐, 加藤久盛, 中山裕樹: 子宮頸部小細胞癌3例の検討. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 11.
- 91) 佐治晴哉<sup>1)</sup>, 清水基弘<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔, 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 宮城悦子<sup>2)</sup>, 小野瀬亮<sup>2)</sup>, 土居大祐, 太田雄治郎 ( <sup>1)</sup> 神奈川がんセンター婦人科, <sup>2)</sup> 横浜市大産婦人科 ): 子宮内膜吸引細胞診による腹腔内病変の診断. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 11.
- 92) 市川雅男, 杉田昌彦, 高橋めぐみ, 里見操緒, 新谷英滋, 竹下俊行, 荒木 勤, 高橋秀実: ヒト母乳マクロファージのGM-CSF産生能とIL-4単独添加による樹状細胞分化の試み. 日本免疫学会, 2002. 12.
- 93) 山口昌子, 荻原弘光, 明楽重夫, 土居大祐, 米山剛一, 荒木 勤: 急性前骨髄球性白血病に合併した出血性黄体嚢胞の1例. 第325回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 2.
- 94) 朝倉啓文: 妊娠と出産における安全性と快適性の確保. シンポジウム「小児科産科若手医師を確保するために」. 「今後の医療体制を考える」, 2003. 3.



95) 奥平さやか, 米山剛一, 馬場直美, 五十嵐健治, 沖野恵子, 朝倉啓文, 荒木 勤: 子宮体癌術後に発症した血栓塞栓症. 第320回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2003. 3.

## [ 第二病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

1. 超音波診断学 妊娠初期退治および周産期における, 胎児超音波診断に加え, 1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究, 2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測, 3) 子宮頸管無力症における超音波画像の変化  
4) 妊娠初期胎嚢像の三次元超音波断層像等の研究を行っている.

婦人科領域では, 日常的に腫瘍内血管血流を測定しており, 卵巣腫瘍では, 超音波画像による組織型診断の試みも行われている.

2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や, 内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている

3. 婦人科腫瘍学 抗がん剤タキソールの臨床研究施設であり, 副作用の解析, 研究発表を行っている. 子宮頸癌におけるHPV typing による追跡調査を継続している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Yoshimatsu K, Sekiya T, Ishihara K, Fukami T, Otabe T, Araki T: Detection of the Cervical Gland Area in Threatened Preterm Labor Using Transvaginal Sonography in the Assessment of Cervical Maturation and the Outcome of Pregnancy. Gynecologic and Obstetric Investigation 2002; 53: 149-156.
- 2) Matsushima T, Kaseki H, Ishihara K, Araki T: Assessment Of fallopian tube cytology for the diagnosis of endometriosis and hydrosalpinx. J Nippon Med Sch 2002; 69 (5): 445-450.
- 3) Saitoh M, Ishihara K, Sekiya T, Araki T: Anticipation of Uterine Bleeding in Placenta Previa Based on Vaginal Sonographic Evaluation. Gynecologic and Obstetric Investigation 2002; 54: 37-42.
- 4) Feng H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Konishi H, Araki T: Expression of MUC1 and MUC2 Mucin Gene Products in Human Ovarian Carcinomas. Jpn J Clin Oncol 2002; 32 (12): 525-529.
- 5) Matsushita N<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>2)</sup>, Konishi H, Araki T ( <sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 老研分子病理 ): Association of Ovarian Tumor Epithelium Coexpressing HLA-DR and CA-125 Antigens with Tumor Infiltrating Cytotoxic T Lymphocytes. J Nippon Med Sch 2003; 70 (1): 40-44.
- 6) 佐藤浩一, 品川志野, 可世木久幸, 石原楷輔: 子宮脱膀胱脱治療器具 ( 新型ペッサリー ) の開発 ( 臨床予備試験 ). 日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2002; 39 (1): 35-37.
- 7) 佐藤浩一, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 井上 保<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 株式会社北里サプライ ): 新型ペッサリーの開発 ( 第一報 )( 開発の経緯 ). 日本更年期医学会雑誌 2002; 10 (2): 225-228.
- 8) 可世木久幸, 深見武彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮腔癒着. 日生殖外科学誌 2002; 15 (1): 89-94.
- 9) 吉松和彦, 深見武彦, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中期の超音波は早産の予測に有用か. 産婦人科の世界 2002; 54 (10): 49-56.

##### (2) 綜説:

- 1) 深見武彦, 石原楷輔: 頸管無力症の診断2 経膈超音波による診断. 臨床婦人科産科 2002; 56 (7): 848-852.
- 2) 片山美鈴<sup>1)</sup>, 竹崎伸一郎<sup>2)</sup>, 小西英喜, 山本泰一<sup>2)</sup>, 吉田秀也<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 第二病院皮膚科 ): 臍部子宮内膜症の1例. 皮膚科の臨床 2002; 44 (7): 824-825.

- 3) 小西英喜：卵巣漿液性嚢胞腺癌に対する First line/Second line としての T-J Biweekly 療法．日本婦人科腫瘍学会雑誌 2002；20(4)：461-461．
- 4) 松島 隆，石原楷輔：産婦人科診療における超音波のポイント（産科領域）II．妊娠中・後期5 胎盤所見とその異常．産科と婦人科 2002；69(11)：1624-1631．
- 5) 小西英喜，深見武彦，石原楷輔：血栓症で発症した子宮体癌の1例．日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報 2002；39(4)：399-406．
- 6) 小西英喜，石原楷輔：CPDは存在するか．周産期医学 2002；32(12)：1599-1603．
- 7) 加藤久盛<sup>1)</sup>，雨宮 清<sup>2)</sup>，新井正秀<sup>3)</sup>，今井一夫<sup>4)</sup>，小野瀬亮<sup>5)</sup>，木村昭裕<sup>6)</sup>，小西英喜<sup>7)</sup>，木挽貞慈<sup>8)</sup>，斎藤馨<sup>9)</sup>，田島敏久<sup>10)</sup>，仲沢経夫<sup>5)</sup>，藤川 浩，村上 優<sup>11)</sup>，柳沢和孝<sup>12)</sup>，高橋亨正<sup>13)</sup>，住吉好雄<sup>14)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター，<sup>2)</sup>けいゆう病院，<sup>3)</sup>北里大学病院，<sup>4)</sup>横須賀市立市民病院，<sup>5)</sup>横浜市立大学病院，<sup>6)</sup>横浜市立市民病院，<sup>7)</sup>第二病院産婦人科，<sup>8)</sup>川崎市立川崎病院，<sup>9)</sup>聖マリアンナ医科大学病院，<sup>10)</sup>慈誠会病院，<sup>11)</sup>東海大学大磯病院，<sup>12)</sup>柳沢産婦人科，<sup>13)</sup>秦野赤十字病院，<sup>14)</sup>横浜市愛児センター)：平成13年度神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍登録集計報告．日産婦神奈川会誌 2003；39(2)：47-51．
- 8) 深見武彦，石原楷輔：産婦人科領域での超音波診断の現況と最近の進歩．産婦人科治療 2003；86(2)：133-140．
- 9) 林 敏彦<sup>1)</sup>，小西英喜，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科，<sup>2)</sup>付属病院放射線科)：卵巣癌の staging．画像診断 2003；23(3)：265-270．
- 10) 可世木久幸：子宮外妊娠手術（産婦人科手術療法マニュアル・内視鏡下手術）．産と婦 2003；70(増刊号)：307-312．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 石原楷輔：婦人科における超音波診断．東京MEセミナー，2003．1．
- 2) 石原楷輔：母性における最新の超音波診断と知見．第16回神奈川母性衛生学会，2003．2．

##### (2) 招待講演：

- 1) 石原楷輔：超音波診断における最近の知見．尼崎産婦人科医会，2002．8．
- 2) 石原楷輔：経膈超音波と最近の知見．小田原産婦人科医会，2002．8．
- 3) 石原楷輔：経膈超音波の最近の症例．厚木・座間産婦人科医会，2002．10．
- 4) 石原楷輔：最新の超音波診断．横浜産婦人科医会，2002．6．
- 5) 石原楷輔：超音波診断：経膈超音波を中心に．岐阜産婦人科医会，2002．7．
- 6) 小西英喜：再発卵巣癌に対する T-J ( Paclitaxel-Carbolatin ) Biweekly 療法．新潟婦人科腫瘍研究会，2002．7．
- 7) 石原楷輔：経膈超音波の基礎と活用．イアンドナルド超音波講座，2002．10．
- 8) 石原楷輔：超音波診断における最近の知見．鳥取産婦人科医会，2003．2．

##### (3) ワークショップ：

- 1) 小西英喜：卵巣漿液性嚢胞腺癌に対する First line/Second line としての T-J Biweekly 療法．第33回日本婦人科腫瘍学会学術集会，2002．11．

##### (4) 一般講演：

- 1) Matsushima T, Kaseki H, Ishihara K, Araki T : Classification of hysteroscopic adhesiolysis for uterine synechia . 31th Annual Meeting of the American Association of Gynecologic ( Miami Florida ), 2002 . 11 .
- 2) Kaseki H, Fukami T, Matsushima T, Ishihara K, Araki T : Comparison between Harmonic I and II . The Congress of the Society of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia ( ELSA ), 2002 . 9 .
- 3) 吉松和彦，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：One stay chemotherapyによる T-J Biweekly 療法は患者の社会性の維持に貢献しうるか？第54回日本産科婦人科学会総会学術講演会，2002．4．

- 4) 深見武彦, 吉松和彦, 斎藤 恵, 品川志野, 林 康子, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 妊娠中期の妊婦健診に経膈超音波検査の導入は早産予防に有効か. 第54回日本産科婦人科学会総会, 2002. 4.
- 5) 松島 隆, 品川志野, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮内膜症における卵管内・腹腔内マクロファージの活性. 第54回日本産科婦人科総会学術講演会, 2002. 4.
- 6) 三並伸二, 斎藤糧三, 品川志野, 吉松和彦, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 3D-Ultrasonographyによる妊卵着床・発育動態に関する検討. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 7) 斎藤 恵, 菊谷真理子, 深見武彦, 吉松和彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 術前に卵管癌を強く疑わせた1例. 第103回産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 6.
- 8) 三並伸二, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 3D-ultrasonographyによる早期胎嚢像検出部位の臨床的意義. 日本超音波医学会第75回学術集会, 2002. 6.
- 9) 菊谷真理子, 松島 隆, 石原楷輔: 常位胎盤早期剥離におけるCTGの検討. 第19回分娩監視研究会, 2002. 6.
- 10) 斎藤糧三, 松島 隆, 菊谷真理子, 三並伸二, 深見武彦, 吉松和彦, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 甲状腺機能亢進症にて発症した卵巣甲状腺癌の1例. 第32回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2002. 7.
- 11) 松島 隆, 可世木久幸, 三並伸二, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮内膜症に合併した卵巣平滑筋腫の1例. 第15回内視鏡外科学会, 2002. 9.
- 12) 藤江裕美, 斎藤 恵, 菊谷真理子, 吉松和彦, 石原楷輔: 臍帯卵膜付着の1例. 第362回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2002. 9.
- 13) 渋井庸子, 斎藤 恵, 吉松和彦, 小西英喜, 石原楷輔: 腹壁腫瘤として精査した子宮内膜症の2例. 第362回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2002. 9.
- 14) 佐藤浩一, 三並伸二, 吉松和彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮頸管妊娠の1例(過去5症例を考察して). 第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 10.
- 15) 佐藤浩一, 三並伸二, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 井上 保: 新型ペッサリーの開発(2). 第17回日本更年期医学会学術集会, 2002. 10.
- 16) 菊谷真理子, 斎藤糧三, 吉松和彦, 松島 隆, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 常位胎盤早期剥離における超音波検査の有用性. 第104回日産婦関東連合地方部会, 2002. 10.
- 17) 渋井庸子, 吉松和彦, 斎藤 恵, 深見武彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 皮下に発症した子宮内膜症の2例. 第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 10.
- 18) 藤江裕美, 菊谷真理子, 斎藤糧三, 斎藤 恵, 吉松和彦, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: 常位胎盤早期剥離を疑わせた『臍帯卵膜付着の1例』. 第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 10.
- 19) 久木野竜一, 深見武彦, 小西英喜, 斎藤糧三, 三並伸二, 品川志野, 吉松和彦, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮体癌の術前管理中に突然下肢の激痛にて発症した動脈血栓症の1例. 第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 10.
- 20) 佐藤浩一, 斎藤糧三, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 頸管妊娠の三症例. 第363回日産婦神奈川地方部会, 2002. 11.
- 21) 斎藤 恵, 松島 隆, 可世木久幸, 小西英喜, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 長澤由美<sup>1)</sup>, 大田芳男<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部): 細胞診組織診にて卵管癌を強く疑わせた1例. 第41回日本臨床細胞学会, 2002. 11.
- 22) 大島正行<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 菊谷真理子, 松島武彦, 小西英喜, 石原楷輔(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 脊椎麻酔下の帝王切開時にエフェドリンによる2度の房室ブロックをきたした1症例. 第360回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 第103回分娩と麻酔研究会, 2002. 12.
- 23) 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 菊谷真理子, 吉松和彦, 松島 隆, 小西英喜, 石原楷輔(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科): 子宮収縮と胸部硬膜外圧の変動. 第360回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 第103回分娩と麻酔研究会, 2002. 12.

## [ 多摩永山病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

#### (1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について、身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では、超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能変化の評価をはじめ、スポーツが妊娠、分娩に与える影響予後を広範囲に調査している。また、産褥期の子宮復古、母乳栄養の確立に関しても、興味深い成績をあげつつある。

#### (2) 出生前診断

従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え、非侵襲的な母体尿中hCG core fragmentによる出生前診断の可能性を検討している。

#### (3) 周産期領域

臨床面では、妊娠中毒症、子宮内胎児発育遅延に対し、超音波断層装置、生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層装置による母体腎、肝臓の観察では、新たな視点から、妊娠中毒症発症に関する有益なデータが集積しつつある。また、胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血再灌流傷害の関係を検討している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nakai A, Miyake H, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Reproducibility of pulsed doppler measurements of the maternal renal circulation in normal pregnancies and those with pregnancy-induced hypertension . *Ultrasound Obstet. Gynecol.* 2002 ; 19 : 598-604 .
- 2) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Nagano R, Oya A, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Short therapeutic window for infedipine in transient intrauterine ischemia in fetal rat brain . *Brain Research* 2002 ; 943 : 30-37 .
- 3) Nakai A, Shibazaki Y<sup>1)</sup>, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Vitamins ameliorate secondary mitochondrial failure in neonatal rat brain . *Pediatric Neurology* 2002 ; 27 ( 1 ): 30-35 .
- 4) Nakai A, Yokota A, Koshino T, Araki T : Assessment of endometrial perfusion with doppler ultrasound in spontaneous and stimulated menstrual cycles . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 4 ): 328-332 .
- 5) Nakai A, Oya A : Accuracy and reproducibility of ultrasound measurements in obstetrics management . *Gynecol Obstet Invest* 2002 ; 54 : 31-36 .
- 6) Asakura H, Nakai A, Araki T : Clinical relevance of grade III placenta in assessment of low level of plasma antithrombin III activity in pregnant women at term . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 5 ): 415-421 .
- 7) Asakura H, Nakai A, Power GG<sup>1)</sup>, Araki T ( <sup>1)</sup>Center for Perinatal Biology of Loma Linda University, CA, U. S. A. ): Short-term effects of different thermal conditions during uteroplacental ischemia in fetal growth of sprague-dawley rat . *Reprod Fertil Dev* 2002 ; 14 : 335-361 .
- 8) Nakai A, Taniuchi Y, Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Windows of therapeutic opportunity on fetal growth retardation induced by transient intrauterine ischemia in rats . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 6 ): 534-541 .

- 9) Kobe H, Nakai A, Koshino T, Araki T : Effect of regular maternal exercise on lipid peroxidation levels and antioxidant enzymatic activities before and after delivery . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ) : 542-548 .
  - 10) Nakai A, Yamada H, Oya A, Koshino T, Araki T : Doppler ultrasound measurement of cerebral blood flow in healthy pregnant women . J Med Ultrasonics 2002 ; 29 ( 4 ) : 189-194 .
  - 11) 国重隆生, 谷内良成, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 安本美奈子<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科 ): 中毒性表皮壊死症 ( TEN ) 型薬疹を伴った帝王切開後 MRSA 感染症の1例 . 日産婦東京会誌 2002 ; 51 ( 2 ) : 215-218 .
  - 12) 山田浩子, 三田俊二, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 北原由紀<sup>1)</sup>, 上玉麻子<sup>1)</sup>, 中山滋章<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院眼科 ): 妊娠中毒症に合併した漿液性網膜症の1例 . 日産婦東京会誌 2002 ; 51 ( 3 ) : 315-318 .
  - 13) 三田俊二, 奥田直貴, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部 ): 母体死亡に至った劇症型 A 群レンサ球菌感染症の1例 . 日産婦東京会誌 2002 ; 51 ( 4 ) : 454-459 .
  - 14) 三宅秀彦, 国重浩二, 山田浩子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人 : 帝王切開創に着床し, 妊娠初期に子宮破裂に至った症例 . 日産婦東京会誌 2003 ; 58 ( 1 ) : 38-41 .
- (2) 綜説 :
- 1) Sasaki S : Management of gestational trophoblastic diseases in Japan - A review . Pracenta 2003 ; 24 ( Supplement ) : s28-s32 .
  - 2) 荒木 勤, 中井章人 : 産婦人科救急治療ガイド : 産科救急疾患とその初期治療 : 胎児 : 子宮内発達遅延 . 産婦人科治療 2002 ; 84 ( 増刊 ) : 836-841 .
  - 3) 浅井光興<sup>1)</sup>, 佐々木純一<sup>2)</sup>, 中井章人, 友田昭二<sup>3)</sup>, 目崎 登<sup>4)</sup>, 越野立夫 ( <sup>1)</sup>愛知医科大学産婦人科, <sup>2)</sup>総合守谷第一病院産婦人科, <sup>3)</sup>大阪市立住吉病院産婦人科, <sup>4)</sup>筑波大学体育科学系 ): 特集 : アスリートにおける突然死 : 妊婦とスポーツ : 母児の安全のために . 臨床スポーツ医学 2002 ; 19 ( 8 ) : 911-932 .
  - 4) 越野立夫 : 特集 : 産婦人科領域における血液製剤の使用法 : 保険診療での血液製剤の使用法 . 産と婦 2002 ; 69 ( 8 ) : 1057-1062 .
  - 5) 佐々木茂, 三田俊二, 磯崎太一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>海老名総合病院産婦人科 ): 特集 : 腫瘍性疾患と周産期医学 : 悪性腫瘍を中心に : 妊娠と絨毛性疾患 . 周産期医学 2002 ; 32 ( 8 ) : 1029-1034 .
  - 6) 佐々木茂 : 性腺ホルモン検査とhCG検査の問題点 . 血清反応のあゆみ 2002 ; ( 173 ) : 1-17 .
  - 7) 越野立夫, 中井章人 : 特集 : 周産期医学から出産・育児を考える : 出産編 : 快適なお産に向けて : 産前教育 : 胎教 . 周産期医学 2002 ; 32 ( 増刊 ) : 114-117 .

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 越野立夫 : 妊娠とスポーツ . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 2) 川端伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における母体肝循環変化について : HELLP症候群発症予知を中心に . 第23回日本妊娠中毒症学会, 2002 . 9 .
- 3) 越野立夫 : 女性のライフサイクルとスポーツ . 第495回日本産科婦人科学会宮城地方部会例会, 2003 . 3 .

### (2) 招待講演 :

- 1) Sasaki S : Management of gestational trophoblastic diseases in Japan . 8th Meeting of the International Federation of Placenta Associations (( Melbourne Australia )), 2002 . 10 .

### (3) シンポジウム :

- 1) 越野立夫 : 胎教 : 母と胎児のコミュニケーション ( 周産期における母児の絆は今 : 母性の目覚め, スイッチオン ). 第16回神奈川母性衛生学会総会ならびに学術集会, 2003 . 2 .

(4) ワークショップ:

- 1) 佐々木茂: 絨毛癌の化学療法は進歩したか. 第20回日本絨毛性疾患研究会, 2002. 11.

(5) 一般講演:

- 1) Oya A, Nakai A, Taniuchi Y, Asakura H, Yokota A, Nagano R, Koshino T, Araki T: The immunosuppressant drug FK 506 ameliorates neonatal cerebral mitochondrial dysfunction and energy failure after transient intrauterine ischemia in rats. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 2) 関谷伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: HELLP症候群における母胎肝動脈と門脈の血流代償作用発現に関する検討. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 3) 神戸 仁, 中井章人, 井尾裕子<sup>1)</sup>, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤<sup>(1)</sup>井上レディースクリニック): 母体運動のトレーニング効果: 分娩による活性酸素の産生を中心に. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 4) 柴崎敬乃<sup>1)</sup>, 中井章人, 横山和子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院麻酔科): NMDA受容体拮抗薬 MK-801が一過性子宮虚血再灌流による新生仔脳障害に及ぼす影響について. 日本麻酔学会第49回大会, 2002. 4.
- 5) 山田浩子, 三田俊二, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫: 妊娠中毒症に合併した漿液性網膜剥離の1例. 第322回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2002. 5.
- 6) 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤: 当科における過去5年間の子宮損傷の検討. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 6.
- 7) 国重浩二, 谷内良成, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤: 帝王切開後 MRSA 感染症治療中に中毒性表皮壊死症 (TEN) 型薬疹を併発した1例. 第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 6.
- 8) 三田俊二, 奥田直貴, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 母体死亡に至った劇症型 A 群レンサ球菌感染症の1例. 第323回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2002. 9.
- 9) 神戸 仁, 中井章人, 三宅秀彦, 大屋敦子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 分娩前後の母体活性酸素, 抗酸化物質産生に及ぼす妊婦運動の影響. 第43回日本母性衛生学会総会学術集会, 2002. 9.
- 10) 国重浩二, 谷内良成, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 安本美奈子<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院皮膚科): 中毒性表皮壊死症 (TEN) 型薬疹を併発した帝王切開後 MRSA 感染症の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 11) 山田浩子, 三田俊二, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫, 北原由紀<sup>1)</sup>, 上玉麻子<sup>1)</sup>, 中山滋章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院眼科): 漿液性網膜剥離を合併した妊娠中毒症の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 12) 三宅秀彦, 谷内良成, 大屋敦子, 横田明重, 中井明重, 佐々木茂, 越野立夫: 女性診療科・産科における子宮穿孔症例の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 13) 山田 隆<sup>1)</sup>, 山口昌子<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 米山芳雄<sup>1)</sup>, 中井章人, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): 各種体温下における一過性子宮胎盤虚血と胎仔発育との関連性: 妊娠ウイスター SD ラットを用いた検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 14) 高橋 肇, 山口 暁<sup>1)</sup>, 横田明重, 中井章人, 越野立夫<sup>(1)</sup>山口病院): サイトメガロウイルス (CMV) 母子感染についての検討. 第43回日本母性衛生学会総会学術集会, 2002. 9.
- 15) 三宅秀彦, 谷内良成, 中井章人, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 前置胎盤に対する自己輸血の有用性. 第104回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2002. 10.
- 16) 川端伊久乃, 中井章人, 大屋敦子, 神戸 仁, 朝倉啓文, 越野立夫, 町田利正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>町田産婦人科): 産褥期の骨密度と母体運動に関する preliminary study. 第16回女性スポーツ医学研究会学術集会, 2002. 12.
- 17) 三宅秀彦, 国重浩二, 山田浩子, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 中井章人: 帝王切開創に着床し, 妊娠初期

に子宮破裂に至った症例．第324回日本産婦人科学会東京地方部会例会，2002．12．

- 18) 永野玲子<sup>1)</sup>，奥田直貴<sup>1)</sup>，弘末卓也<sup>1)</sup>，大村 浩<sup>1)</sup>，若麻績佳樹<sup>1)</sup>，立山尚子<sup>2)</sup>，川端伊久乃，西邑信男<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>都立母子保健院産婦人科，<sup>2)</sup>多摩南部地域病院婦人科，<sup>3)</sup>博慈会記念病院麻酔科 ): 帝王切開術における脊椎麻酔：高比重プロピロカインの使用．第324回日本産婦人科学会東京地方部会例会，2002．12．
- 19) 川端伊久乃，大屋敦子，三宅秀彦，三田俊二，高橋 肇，横田明重，佐々木茂，越野立夫，中井章人，町田利正<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>町田産婦人科 ): 妊婦スポーツが産褥期の骨密度に与える影響に関する preliminary study．第16回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第325回日産婦東京地方部会例会，2003．2．
- 20) 奥田直貴<sup>1)</sup>，永野玲子<sup>1)</sup>，立山尚子<sup>1)</sup>，川端伊久乃，国重浩二，弘末卓也<sup>1)</sup>，大村 浩<sup>1)</sup>，若麻績佳樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立母子保健院 ): 当院におけるGBS陽性妊婦への予防的抗生剤投与とその中止について．第16回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第325回日産婦東京地方部会例会，2003．2．

## [ 千葉北総病院女性診療科・産科 ]

### 研究概要

現在のところ，臨床研究を主体としている．即ち，周産期の分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究を，また生殖内分泌の分野では，不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を，さらに腫瘍学の分野では，悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている．また，最近では，深部静脈血栓症の患者が，産科，婦人科を問わず増加し，その治療法についても検討を行なっている．千葉北総病院産婦人科は，臨床的には癌患者の終末医療にも力を入れており，精神的側面を含めて合併症の解析を行ないつつある．

### 研究業績

#### 論 文

##### (1) 原著：

- 1) Kamoi S , Ohaki Y<sup>1)</sup> , Mori O<sup>1)</sup> , Yokoyama M<sup>1)</sup> , Kawamoto Y<sup>2)</sup> , Kawamura T , Araki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, N. M. S. , <sup>2)</sup> Surgical Pathology, N. M. S. Hospital , <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology ): Epithelioid trophoblastic tumor of the uterus : cytological and immunohistochemical observation of a case. . *Pathol Int.* 2002 ; 52 ( 2 ): 75-81 .
- 2) Kamoi S , Ohaki Y<sup>1)</sup> , Mori O<sup>1)</sup> , Okada S<sup>2)</sup> , Seto M , Matsushita N , Kawamura T , Araki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, N. M. S. , <sup>2)</sup> Department of Radiology, N. M. S. , <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, NMS ): A case of ovarian endometrioid adenocarcinoma with yolk sac tumor component in a postmenopausal woman. . *Acta Pathologica Microbiologica et Immunologica Scandinavica* 2002 ; 110 ( 3 ): 508-514 .
- 3) Kamoi S , AlJuboury M<sup>1)</sup> , Akin MR<sup>1)</sup> , Silverberg SG<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, University of Maryland ): Immunohistochemical staining in the distinction between primary endometrial and endocervical adenocarcinomas : another viewpoint. . *Int J Gynecol Pathol.* 2002 ; 21 ( 2 ): 217-223 .
- 4) Ichikawa M , Sugita M<sup>1)</sup> , Takahashi M<sup>1)</sup> , Satomi M , Takeshita T , Araki T , Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Immunology, NMS Hospital , <sup>2)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, NMS Hospital ): Breast milk macrophages spontaneously produce granulocyte-macrophage colony-stimulating factor and differentiate into dendritic cells in the presence of exogenous interleukin-4 alone . *Immunology* 2003 ; 108 ( 2 ): 189-195 .
- 5) Matsushita N , Ghazizade M<sup>1)</sup> , Konishi H<sup>2)</sup> , Araki T<sup>3)</sup> : Association of Ovarian Tumor Epithelium Coexpressing HLA-DR and CA-125 Antigens with Tumor Infiltrating Cytotoxic T Lymphocytes . *Journal of Nippon Medical School* 2003 ; 70 ( 1 ): 40-44 .

- 6) 鴨井青龍, 大秋美治<sup>1)</sup>, 松下径広, 河村 堯, 武内 務<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>2)</sup>, 太田雄治郎<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>産婦人科学): 卵巣硬化性間質性腫瘍の1例. 日本婦人科腫瘍学会誌 2002; 20(1): 137-141.
- 7) 松下径広, 河村 堯: 外陰, 膣の出血 その診断と治療. 産婦人科の治療 2002; 84(5): 562-567.

## 著 書

- 1) 200 201: [分担]ピル服用前の検査. 図解臨床産婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行編集), 2002; 金原出版, 東京.
- 2) 鴨井青龍: [分担]子宮内清掃術の術前キ術中検査. 図解臨床産婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行編集), 2002; pp208-209, 金原出版, 東京.
- 3) 鴨井青龍: [分担]子宮筋腫におけるGnRHa療法中の効果判定のための検査法. 図解臨床産婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行編集), 2002; pp154-155, 金原出版, 東京.
- 4) 河村 堯: [分担]産婦人科検査とインフォームド・コンセント. 図解臨床産婦人科検査法(荒木 勤, 竹下俊行編集), 2003; pp6-7, 金原出版, 東京.

## 学会発表

### (1) ワークショップ:

- 1) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Kamoi S, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Katuki H<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Asano<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, N. M. S.): Three Interesting Cases of Trophoblastic Tumor. The 8th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai.), 2002. 2.

### (2) 一般講演:

- 1) 小木三郎, 貝原賢二, 市川雅男, 五十嵐健治, 松下径広, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯: 妊娠中にDVTを発症した2症例の検討. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成14年度冬期学術講演会, 2003. 2.
- 2) Kamoi S, Ohaki S<sup>1)</sup>, Matsushita N, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Kawamura T, Araki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, <sup>2)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology): Mitotic Index Vs Computer-Quantified KI-67 Nuclear Antigen Labeling Index As Predictors of Chemotherapy Response In Uterine Cervical Carcinoma. The 9th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (Seoul. Korea), 2002. 10.
- 3) 峯 伸也, 小木三郎, 阿部俊之, 桑島豊彦, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯: 子宮摘出を行い救命しえた癒着胎盤の2例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成13年度冬期学術講演会, 2002. 2.
- 4) 鴨井青龍, 小木三郎, 阿部俊之, 桑島豊彦, 松下径広, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学産婦人科学): 術前病理組織標本を用いた子宮頸部扁平上皮癌の術前化学療法の効果予知. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 5) 松下径広, 小木三郎, 阿部俊之, 峯 伸也, 桑島豊彦, 五十嵐俊夫, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 骨盤リンパ節廓清術後の後遺症, 下肢浮腫に対する治療の試み. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 6) 土居大祐, 馬場直美, 五十嵐美和, 沖野恵子, 鴨井青龍, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: 子宮頸部腺癌におけるneoadjuvant chemotherapyとしてのBOAI療法の評価. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 7) 沖野恵子, 米山剛一, 土居大祐, 太田雄治郎, 浜村幸恵, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 良性および悪性腫瘍におけるチミジンホスホリラーゼの発現動態の検討. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 8) 米山剛一, 沖野恵子, 土居大祐, 松村好克, 浜村幸恵, 稲川智子, 太田雄治郎, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 婦人科悪性腫瘍術後の血栓発症因子に関する臨床的検討. 第54回日本産科婦人科学会学術講演会, 2002. 4.
- 9) 小木三郎, 阿部俊之, 松下径広, 五十嵐俊夫, 鴨井青龍, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): 高用量MPA療法が奏効し, その後に正常分娩となった若年性子宮内膜癌. 第103回日本産科



婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．

- 10) 若月雅美，小木三郎，阿部俊之，松下径広，五十嵐俊夫，鴨井青龍，河村 堯，荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 当院における妊娠肝機能障害の要因．第103回日本産科婦人科学会関東連合地方部会，2002．6．
- 11) 米山剛一<sup>1)</sup>，三浦 敦<sup>1)</sup>，沖野恵子<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，鴨井青龍，村田 智<sup>2)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>，荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 付属病院放射線科): 進行子宮頸癌に対するNIPP (negative balanced isolated pelvic perfusion) 療法．第40回日本癌治療学会総会，2002．10．
- 12) 市川雅男，朝倉禎史，小木三郎，五十嵐健治，若月雅美，鴨井青龍，河村 堯，江本直也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科): 妊娠中期に診断されたクッシング症候群の1例．日本産科婦人科学会千葉地方部会平成14年度冬期学術講演会，2003．2．

## 14. 耳鼻咽喉科学講座

[ 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・第二病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科 ]

### 研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部腫瘍学、音声言語学ならびに嚙下に関するものであり、その成果を4病院あわせて報告している。その研究手法として臨床薬理的、生理学的、形態学的、分子生物学的方法等を用いて行われている。

平成14年度は耳科学として抗がん剤や感染による内耳障害の解明が動物実験で進められ、アポトーシスや活性酸素の関与を示した多くの英文論文が発表された。またヒト内耳構成蛋白の解明も昨年同様進められ、実際の成果を出した。この内耳固有蛋白を用いて「外リンパ瘻」の診断が可能であることを証明し、本学TLOの承認を得て臨床応用に向かっている。全体的に内耳の研究の今年度の進行は早く、免疫学的なアプローチも含め充実している。めまい平衡医学では臨床的にも基礎的にも研究が進展した。眼球運動の三次元解析については耳石の機能解析がほぼ終了し、数編の英文論文として報告した。また新技術開発計画や科研費を得て始められた高速度撮影の研究も進展し、次の展開に入っている。

免疫・アレルギー学では、今年度から厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業「花粉症の各種治療法によるQOLの評価と新しい治療法の基礎的研究」を大久保が主任研究者として行うことになった。花粉症に対する各種治療法が研究されている。アレルギーや鼻のポリープに関する基礎的研究も数々の科研費を獲得し進められ、好酸球浸潤のメカニズムなどについて研究が進められ国際学会を中心して発表されている。

一方では、ヒトでしか解析できない嚙下や発声機能に関しての研究が頭頸部悪性腫瘍や神経変性疾患などを対象にして研究が進められている。患者のQOL向上に必要な機能であり、今後の更なる発展が期待される。

教室全体の研究に対する姿勢は「リサーチマインド」であり、臨床・研究を通して行われ、内外から評価を受けている。その結果は多くの研究費の取得として現れている。来年度も教職員全体で一層の努力をしてゆくつもりである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) Nomura I<sup>1)</sup>, Katsunuma T<sup>1)</sup>, Iida M<sup>1)</sup>, Tomita H<sup>1)</sup>, Tomikawa M<sup>1)</sup>, Pawankar R, Saito H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Div. of Allergy, National Childrens Hospital): Human mast cell progenitors in peripheral blood from atopic subjects with high IgE levels. Clin Exp Allergy 2002; 31 (9): 1424-1431.
- 2) Watanabe KI, Tomiyama S, Jinnouchi K, Yagi T: Expression of caspase-activated deoxyribonuclease (CAD) and caspase 3 (CPP32) in the hydropic cochlea of guinea pigs - 2nd report. European Archives of Oto-rhino-laryngology 2002; 259 (5): 26-30.
- 3) Watanabe KI, Jinnouchi K, Yagi T: Immunoreactivity for myeloperoxidase (MPO) in the vestibule after the injection of bacterial: lipopolysaccharide into the middle ear. Auris Nasus Larynx 2002; 29 (3): 241-251.
- 4) Watanabe KI, Inai S, Jinnouchi K, Baba S, Hess A, Michel O, Yagi T: Nuclear-factor Kappa B (NF-kB) -inducible nitric oxide synthase (iNOS/NOSII) pathway damages the stria vascularis in Cisplatin-treated mice. Anti-Cancer Res 2002; 22 (6): 4081-4086.
- 5) Yagi T: Incidence and characteristics of otosclerosis in the Japanese population. Auris Nasus Larynx 2002; 29: 257-260.

- 6) 藤倉輝道<sup>1)</sup>, 山内陽子<sup>(1)</sup> 谷津保健病院): I型アレルギーの関与が示唆された上顎洞粘膜嚢胞の1症例。アレルギーの臨床 2002 ; 22 ( 11 ): 68-71 .
- 7) Watanabe KI , Jinnouchi K , Tomiyama S , Yagi T : Expression of caspaseactivated deoxyribonuclease ( CAD ) and caspase 3 ( CPP32 ) in the hydropiccochlea of guinea pigs-second report . Eur Arch Otorhinolaryngol 2002 ; 259 : 257-261 .
- 8) Watanabe KI , Inai S , Jinnouchi K , Baba S , Hess A<sup>1)</sup> , Michel O<sup>1)</sup> , Yagi T ( <sup>1)</sup> Dept. of ENT, University of Cologne ): Nuclear-factor kappa B ( NF-kB ) -inducible nitric oxide synthase ( iNOS/NOS II ) pathway damages the stria vascularis in the cisplatin-treated mice . Journal of anticancer research 2002 ; 22 ( 6 ): 4081-4086 .
- 9) Pawankar R , Yamagishi S<sup>1)</sup> , Nonaka M , Ozu C , Watanabe S , Yagi T ( <sup>1)</sup> 谷津保険病院耳鼻咽喉科 ): Allergic Rhinitis : An Overview of Present to Novel Therapies . 耳鼻免疫アレルギー 2002 ; 20 ( 2 ): 166-169 .
- 10) Watanabe KI , Jinnouchi K , Hess A<sup>1)</sup> , Baba S , Michel O<sup>1)</sup> , Yagi T ( <sup>1)</sup> Dept. of ENT, University of Cologne ): Carboplatin ( CBDCA ) induces less apoptosis in the cochlea of guinea pigs than cisplatin ( CDDP ). Chemotherapy 2002 ; 48 ( 2 ): 82-87 .
- 11) Watanabe KI , Jinnouchi K , Pawankar R , Yagi T : Immunoreactivity for myeloperoxidase ( MPO ) in the vestibule after the injection of bacterial lipopolysaccharide into the middle ear . Auris Nasus Larynx 2002 ; 29 : 241-245 .
- 12) Tomiyama S : Experimental autoimmune labyrinthitis : Assesment of molecular size of autoantigens in fractions of inner ear proteins eluted on the mini whole gel eluter . Acta Otolaryngol ( Stockh ) 2002 ; 122 ( 11 ): 692-697 .
- 13) Kimura Y<sup>1)</sup> , Pawankar R , Aoki M<sup>1)</sup> , Niimi Y<sup>1)</sup> , Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology ): Mast cells and T cells in Kimura's disease express increased levels of interleukin-4, interleukin-5, eotaxin and RANTES . Clin Exp Allergy 2002 ; 32 ( 12 ): 1787-1793 .
- 14) Pawankar R : Novel roles of antihistamines : beyond H1 receptor blockage . Ind J Otolaryngology 2003 ; 55 ( 1 ): 10-18 .
- 15) Pawankar R , Niphadkar P<sup>1)</sup> , Shah N<sup>2)</sup> , Chitale V<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> J. J hospital, Bombay , <sup>2)</sup> Bombay hospital, Bombay , <sup>3)</sup> Poona hospital, Pune ): Epidemiology of allergic rhinitis and asthma in Maharashtra State : Pilot study . Ind J Rhinology 2003 ; 4 ( 1 ): 24-32 .
- 16) Pawankar R : Evidence on the new ARIA classification persistent and intermittant rhinitis . Ind J Chest Diseases 2003 ; 44 ( 1 ): 68-76 .
- 17) Pawankar R , Bunnag C<sup>1)</sup> , Vicente G<sup>2)</sup> , Gendeh B<sup>3)</sup> , Yuen A<sup>4)</sup> , Fang S<sup>5)</sup> , Cho J<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Mahidol University, Bangkok , <sup>2)</sup> St. luke's Hospital, Manila , <sup>3)</sup> Unibersity of Malayasia, Kualalumpur , <sup>4)</sup> Hong Kong University, Hong Kong , <sup>5)</sup> Tainan University, Tainan , <sup>6)</sup> Kyung Hee University, Seoul ): Epidemiology of allergic rhinitis in Asia : First report . Ind J Rhinology 2003 ; 4 ( 1 ): 42-50 .
- 18) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Cytokine profile and adhesion molecule expression nasal gamma delta T cells . New Advances in Allergy 2003 ; 5 ( 1 ): 14-21 .
- 19) Aoki M<sup>1)</sup> , Pawankar R<sup>1)</sup> , Niimi Y , Kawana S ( <sup>1)</sup> Dept. of Dermatology ): Mast Cells in Basal Cell Carcinoma Express VEGF, IL-8 and RANTES . Int Arch Allergy Immunol 2003 ; 130 ( 3 ): 216-223 .
- 20) 横島一彦 , 中溝宗永 : 耳鼻咽喉科領域心因性疾患の対応 頭頸部癌 . MB ENTONI 2002 ; 12 ( 1 ): 21-26 .
- 21) 大久保公裕 , 後藤 穰 , 奥田 稔 : スギ花粉防御器具に関するEBM . アレルギー科 2002 ; 13 ( 2 ): 126-130 .
- 22) 大久保公裕 , 後藤 穰 , 島田健一 , 奥田 稔 , 八木聡明 , 大カ一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 明治乳業ヘルスサイエンス研究所 ): スギ花粉症に対する舌下抗原特異的免疫療法 : パイロットスタディー . 日鼻誌 2002 ; 41 ( 1 ): 30-35 .

- 23) 稲井俊太<sup>1)</sup>, 渡邊健一, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>北村山公立病院 ): 一側性感音難聴を呈したサルコイドーシスの1症例 . 耳喉頭頸 2002 ; 74 ( 4 ): 271-276 .
- 24) 池園哲郎 : めまい・難聴遺伝子COCHのプロテオーム解析 . Equilibrium Res 2002 ; 61 ( 1 ): 47-53 .
- 25) 藤倉輝道 : Data Analysis : 花粉症患者の鼻粘膜ではIgE産生が特続的に行われている . 鼻アレルギーフロンティア 2002 ; 2 ( 4 ): 34-35 .
- 26) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科 ): 喉頭痙攣と胃食道逆流症 ( GERD ): PPIによる診断的治療の有用性 . 喉頭 2002 ; 14 ( 1 ): 25-28 .
- 27) 大久保公裕, 後藤治典<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>後藤耳鼻咽喉科 ): 費用便益からみた抗原特異的免疫療法 . 現代医療 2002 ; 34 : 1233-1239 .
- 28) 富山俊一 : 実験的自己免疫性迷路炎モデルの開発 : 分離内耳蛋白の自己抗原性 . 耳鼻免疫アレルギー 2002 ; 20 ( 2 ): 70-71 .
- 29) 野中 学, パワンカール ルビー, 福元 晃, 八木聰明 : 鼻由来線維芽細胞からのeotaxin産生 ( 第2報 ) . 耳鼻免疫アレルギー 2002 ; 20 ( 2 ): 58-59 .
- 30) 三枝英人 : 「 信仰 」 を捜して . 医学と福音 2002 ; 54 ( 7 ): 13-15 .
- 31) 小泉康雄, 新藤 晋, 横島一彦, 中溝宗永, 八木聰明, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>付属病院病理部 ): 頸縦隔型脂肪肉腫の1例 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2002 ; 74 ( 9 ): 622-626 .
- 32) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聰明 : シスプラチンとカルボプラチンによる前庭障害の違い : DNAの断片化による検討 . 頭頸部自律神経研究会 2002 ; 19 ( 7 ): 26-30 .
- 33) 近藤直美<sup>1)</sup>, Chung Kian F<sup>2)</sup>, Pawankar R ( <sup>1)</sup>岐阜大学医学部小児病態学 ): The Role of Viral Respiratory Infections in Childhood Asthma, adult Asthma and Nasal Allergies . International Review of Asthma 2002 ; 4 ( 3 ): 10-34 .
- 34) 大久保公裕, 馬場廣太郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>独協医科大学耳鼻科 ): 薬物ベースラインからみた花粉症治療 : 患者満足度を高める花粉症治療を目指して . 医事新報 2002 ; 4100 : 22-26 .
- 35) 池園哲郎 : 立ち直り反射と偏奇現象 . 耳鼻咽喉科Q & A 六法出版 東京 2002 ; 316-317 .
- 36) 渡邊健一, 稲井俊太, 陣内 賢, 八木聰明 : シスプラチン投与マウスにおける血管条障害とNF-kappaBおよびiNOSの発現 . Audiology Japan 2002 ; 45 ( 5 ): 577-578 .
- 37) 三枝英人 : 嚥下障害に対する耳鼻咽喉科医の役割 : 嚥下障害治療の実際 . 日本耳鼻咽喉科学会第16回専門医講習会テキスト 2002 ; 29-33 .
- 38) 藤倉輝道, 山内陽子 : I型アレルギーの関与が示唆された上顎洞粘膜のう胞の1症例 . アレルギーの臨床 2002 ; 22 ( 11 ): 888-891 .
- 39) 州崎春海<sup>1)</sup>, 今井 透<sup>2)</sup>, 大久保公裕, 瀬戸浩之<sup>1)</sup>, 難波真由美<sup>1)</sup>, ほか23名 ( <sup>1)</sup>昭和大耳鼻科, <sup>2)</sup>聖路加病院耳鼻科 ): スギ花粉症に対するラマトロバンの効果 : 東京都内多施設オープン試験成績 . 耳鼻咽喉科展望 2002 ; 45 ( 6 ): 517-526 .
- 40) 大久保公裕, 友永和宏<sup>1)</sup>, 島 哲也<sup>2)</sup>, 江川雅彦<sup>3)</sup>, 松根彰志<sup>4)</sup>, ほか14名 ( <sup>1)</sup>豊永耳鼻科, <sup>2)</sup>済生会川内病院耳鼻科, <sup>3)</sup>鹿児島生協病院耳鼻科, <sup>4)</sup>鹿児島大耳鼻科 ): プロピオン酸フルチカゾン小児用点鼻液 ( 小児用フルナーゼR点鼻液25 ) の第III相臨床試験 : 小児通年性アレルギー性鼻炎に対する小児専用点鼻液を用いたプロピオン酸フルチカゾンとプロピオン酸ベクロメタゾンエアロゾール剤の比較検討 . 耳鼻咽喉科展望 2002 ; 45 ( 6 ): 503-516 .
- 41) 愛野威一郎, 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明 ( <sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科 ): 経鼻経管栄養チューブの長期間留置が原因と考えられた声門上狭窄の1例 . 日本気管食道科学会雑誌 2003 ; 54 ( 1 ): 38-42 .
- 42) 馬場俊吉 : 単純性慢性中耳炎の術後聴力改善の新・旧判定基準の検討 . Otol Jpn 2003 ; 13 ( 1 ): 10-11 .
- 43) 三枝英人 : 胃・食道逆流症 ( GERD ) と咽喉頭症状 ; その形態学的考察 . 東京都医師会雑誌 2003 ; 56 ( 2 ): 49-59 .

(2) 綜説 :

- 1) Naclerio R<sup>1)</sup>, Rosenwasser L<sup>2)</sup>, Ohkubo K ( <sup>1)</sup> Univ. of Chicago , <sup>2)</sup> Natl Jewish Medical Research Center ): Allergic rhinitis : current and future treatment . Clin Exp All Rev 2002 ; 2 : 137-147 .
- 2) Pawankar R : Allergic rhinitis and its impact on asthma : an evidence-based treatment strategy for allergic rhinitis . Asian Pac J Allergy Immunol 2002 ; 20 ( 1 ) : 43-52 .
- 3) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma . Ind J Rhinology 2002 ; 3 ( 4 ) : 2-10 .
- 4) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Mast cell-epithelial cell interactions in allergic airway disease . Curr Advances in Allergy 2002 ; 4 ( 4 ) : 68-76 .
- 5) Pawankar R : Low dose long term macrolide therapy for chronic sinusitis . Ind J Otolaryngology 2002 ; 54 ( 4 ) : 43-58 .
- 6) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis : asthma, sinusitis to otitis media . Ind J Rhinology 2003 ; 4 ( 1 ) : 2-8 .
- 7) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Ozu C , Yagi T : Mast cells in allergic and non-allergic upper airway diseases . Curr Advances in Allergy 2003 ; 5 ( 1 ) : 26-32 .
- 8) Pawankar R : Nasal polyposis : an update : editorial review . Curr Opin Allergy Clin Immunol 2003 ; 3 ( 1 ) : 1-6 .
- 9) Pawankar R : Allergy From the Nose to the Lung . Clin Exp Allergy Reviews 2003 ; 3 ( 1 ) : 1-3 .
- 10) Pawankar R : Mast cells can regulate eosinophil migration in the late phase allergic response . Current Drug Reports 2003 ; 5 ( 1 ) : 6-12 .
- 11) Pawankar R : Exploring the role of Leukotriene receptor antagonists in the management of allergic rhinitis and co-morbid asthma . Clin Exp Allergy Reviews 2003 ; 3 ( 2 ) : 74-82 .
- 12) Pawankar R , Nonaka M , Yamagishi S , Ozu C , Yagi T : Nasal polyps : Role of Atopy and infection . Rhinology Consensus Workshop Report 2003 ; 23-28 .
- 13) 大久保公裕 : スギ花粉症例における花粉防御具の効果の客観性評価 . アレルギー科 2002 ; 15 ( 2 ) : 120-123 .
- 14) 大久保公裕 : 春以外にもある花粉症 . Mebio 2002 ; 19 ( 4 ) : 110-115 .
- 15) 大久保公裕 : 免疫療法 . モダンフィジシャン 2002 ; 22 ( 4 ) : 443-446 .
- 16) 大久保公裕 : スギ花粉症の治療 : 総論 . モダンフィジシャン 2002 ; 22 ( 2 ) : 197-200 .
- 17) 大久保公裕 : 花粉症の免疫療法 . JOHNS 2002 ; 18 ( 1 ) : 95-98 .
- 18) 大久保公裕 , 後藤 穰 : 抗原特異的免疫療法 ( 減感作療法 ) : 最新の治療 . 今月の治療 2002 ; 10 ( 2 ) : 166-172 .
- 19) 中溝宗永 : 耳鼻咽喉科・頭頸部外科における手術の危険度42. 甲状腺腫摘出術 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2002 ; 74 ( 5 ) : 201-204 .
- 20) 大久保公裕 : 副鼻腔嚢胞 ( 術後性頬部嚢胞 ) 手術の合併症 : その実際と対処法 . 耳喉頭頸 2002 ; 74 ( 5 ) : 87-90 .
- 21) 大久保公裕 : スギ花粉症の免疫療法 : 抗原特異的免疫療法の効果と副作用 . 医学の歩み 2002 ; 200 ( 5 ) : 437-441 .
- 22) 池園哲郎 : 慢性めまいの問診 . ENTONI 2002 ; 13 : 8-15 .
- 23) 八木聰明 : 半規管と耳石器障害によるめまい . 日医雑誌 2002 ; 127 : 1479-1482 .
- 24) 八木聰明 : 外傷性耳小骨連鎖離断の手術 . 耳鼻臨床 2002 ; 95 : 1204-1205 .
- 25) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎におけるインフォームドコンセントの実際 . 現代医療 2002 ; 34 : 21-26 .
- 26) 後藤 穰 , 大久保公裕 : 季節性アレルギー性鼻炎とその治療 . アレルギーの臨床 2002 ; 22 ( 3 ) : 178-183 .
- 27) 大久保公裕 : 免疫療法の適応と効果 . Prog Med 2002 ; 22 : 389-393 .

- 28) 後藤 穰, 大久保公裕: スギ花粉症におけるペプチド療法と新しい抗原を用いた減感作療法の実際. アレルギーの臨床 2002 ; 22 ( 8 ): 77-80 .
- 29) Pawankar R, Masuyama K<sup>1)</sup>, Minoguchi ( <sup>1)</sup>山梨医科大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>昭和大学医学部内科 ): ARIA : Proceedings of Round Table discussion . 鼻アレルギー フロンティア 2002 ; 1-8 .
- 30) 後藤 穰, 大久保公裕: アレルギー性鼻炎. 総合臨床 2002 ; 51 ( 9 ): 2687-2688 .
- 31) 馬場俊吉: 耳鳴から分かる病気. 都薬雑誌 2002 ; 24 ( 10 ): 20-24 .
- 32) 大久保公裕: 切開・剥離: 耳鼻咽喉科領域における高周波ラジオ波の応用. JOHNS 2002 ; 18 ( 11 ): 1865-1867 .
- 33) 大久保公裕: 花粉症の手術療法: 適応・方法と選択基準. 医薬ジャーナル 2002 ; 38 ( 12 ): 3299-3303 .
- 34) 大久保公裕, 奥田 稔: アレルギー性鼻炎のQOL. アレルギー科 2003 ; 15 ( 1 ): 13-18 .
- 35) 後藤 穰, 大久保公裕: スギ花粉症における抗原回避, 除去の効果とその有用性の検証. 治療学 2003 ; 37 ( 1 ): 45-47 .
- 36) 大久保公裕: 季節性アレルギー性鼻炎 (花粉症) の診断と治療. 日医雑誌 2003 ; 129 ( 2 ): 221-225 .
- 37) 後藤 穰: 抗原回避は医療費削減に貢献できるか. アレルギーの臨床 2003 ; 23 ( 2 ): 17-22 .
- 38) 後藤 穰, 大久保公裕: スギ花粉症における花粉防御器具の効果の客観的評価. アレルギー科 2003 ; 15 ( 2 ): 120-123 .
- 39) 後藤 穰, 大久保公裕: 頭頸部外科手術: トラブルの予防と対応. JOHNS 2003 ; 19 ( 3 ): 357-360 .
- (3) 研究報告書:
- 1) 後藤 穰, 大久保公裕: スギ花粉症に対する舌下免疫療法に関する研究. 平成14年度厚生労働省科学研究費助成金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 研究報告会抄録集 2003 ; pp165-165 .
- 2) 大久保公裕: 花粉症のQOLによる治療法の効果と新しい治療法の基礎的研究 主任研究員. 平成14年度厚生労働省科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 2003 ; pp161-170 .
- 3) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 齋藤明彦, 長谷川純: 外リンパ中のCOCHLIN - Tomoprotein (CTPの基礎と臨床応用). 厚生労働省特定疾患研究対策事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成14年度報告書 2003 ; pp40-43 .
- (4) 抄録集:
- 1) 後藤 穰, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 奥田 稔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科): ハウスダストダニ通年性鼻アレルギー患者における連続誘発試験. 第14回気道病態シンポジウム 2003 ; 27-28 .
- (5) 症例報告:
- 1) 愛野威一郎, 三枝英人, 新美成二, 八木聡明: 経鼻経管栄養チューブの長期間留置が原因と考えられた声門上狭窄の1例. 日本気管食道科学会 2003 ; 54 ( 1 ): 38-42 .
- (6) 翻訳:
- 1) 後藤 穰: 免疫療法によって小児花粉症患者の喘息発症頻度が減少する. 鼻アレルギーフロンティア 2003 ; 3 ( 1 ): 30-31 .

## 著 書

- 1) Pawankar R : [ 自著 ] Allergic rhinitis : Cause Care and control . Handbook for patients ( Pawankar R & Vijayan VK ), 2002 ; pp1-34 , Creative International .
- 2) Pawankar R : [ 自著 ] Allergic rhinitis : From pathogenesis to evidence-based ARIA-WHO guidelines . Guidebook for specialists in Allergy ( Pawankar R & Vijayan VK ), 2002 ; pp1-24 , Creative International .
- 3) Pawankar R : [ 分担 ] Link between rhinitis and asthma : Role of LTRAs in rhinitis and asthma . Proceedings of the Asia Pacific International Symposium on Leukotrienes , 2002 ; pp12-16 , Elsevier Science .

- 4) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Ozu C , Yagi T : [ 分担 ] Novel Concepts on Allergic Rhinitis : From pathogenesis to treatment . New Trends in Allergy V ( J. Ring and H. Behrendt ) , 2002 ; pp259-269 , Springer-Verlag Berlin .
- 5) Pawankar R : [ 分担 ] Future therapies for rhinitis and asthma especially Anti-IgE therapy . One-Airway One Disease ( A. Shah and A. Bhome ) , 2003 ; pp24-32 , Int Medical Publishers .
- 6) Pawankar R , Nonaka M , Yamagishi S , Takizawa R , Ozu C , Yagi T : [ 分担 ] Novel concepts on nasal polyps : Role of mast cells . IFOS Consensus document on Nasal Polyps ( R. Mosges, D. Passali ) , 2003 ; pp21-26 , Elsevier Science .
- 7) Pawankar R : [ 自著 ] Allergic rhinitis : diagnosis and treatment . Handbook for clinicians ( Pawankar R & Vijayan VK ) , 2003 ; pp1-38 , Creative International .
- 8) Pawankar R : [ 分担 ] Pathophysiology of rhinosinusitis . Update in Rhinology ( V. Sood & A. Agarwal ) , 2003 ; pp24-38 , Int Medical Publishers .
- 9) Pawankar R : [ 分担 ] Evidence-based treatment of allergic rhinitis . Update in Rhinology ( V. Sood and A. Agarwal ) , 2003 ; pp84-96 , Int Medical Publishers .
- 10) Pawankar R : [ 分担 ] T cell-structural cell interactions in allergic disease . Update in Allergy and Immunology ( A. Shah and SN. Gaur ) , 2003 ; pp46-58 , Mrittika International .
- 11) Pawankar R : [ 分担 ] Mast cells in allergic rhinitis and asthma . Update in Allergy and Immunology ( A. Shah and SN Gaur ) , 2003 ; pp76-89 , Mrittika International .
- 12) 八木聰明 : [ 分担 ] 薬物による内耳障害 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp118-120 , 中山書店 .
- 13) 八木聰明 : [ 分担 ] メニエール病 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp121-124 , 中山書店 .
- 14) 八木聰明 : [ 分担 ] 良性発作性頭位めまい症 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp124-127 , 中山書店 .
- 15) 八木聰明 : [ 分担 ] 前庭神経炎 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp126-127 , 中山書店 .
- 16) 八木聰明 : [ 分担 ] 動揺病 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp127-128 , 中山書店 .
- 17) 八木聰明 : [ 分担 ] 内耳奇形 . 看護のための最新医学講座耳鼻咽喉科疾患 ( 喜多村健 ) , 2002 ; pp128-129 , 中山書店 .
- 18) 野中 学 : [ 分担 ] 鼻閉・鼻漏 . 耳鼻咽喉科オフィスクリニック : 主訴への対応 ( 小田 恂 ) , 2002 ; pp70-76 , 医学書院 .
- 19) 足立 満<sup>1)</sup> , Pawankar R ( <sup>1)</sup> 昭和大学医学部第一内科 ) : [ 分担 ] 上気道と下気道の関連性 . 第14回 日本アレルギー学会春季臨床大会サテライトシンポジウム Proceedings , 2002 ; pp1-8 , 株式会社インターサイエンス社 .
- 20) 中溝宗永 , 横島一彦 : [ 分担 ] 術後観察のポイント , チェックの要点 . 耳鼻咽喉科頭頸部外科処置手術シリーズ4. 頭頸部再建手術と術後処置 ( 岡本美孝 , 森山 寛 , 佃 守 , 高橋 姿 ) , 2002 ; pp15-20 , メディカルビュー社 .
- 21) 馬場俊吉 : [ 分担 ] 第96回医師国家試験問題解説書 , 2002 ; 医学評論社 .
- 22) 馬場俊吉 : [ 自著 ] APPROACH SERISE 2002 , 2002 ; 医学評論社 .
- 23) 三枝英人 : [ 分担 ] 重症筋無力症 . 新臨床耳鼻咽喉科学 ( 加我君孝・他編著 ) , 2002 ; pp218-219 , 中外医学社 .
- 24) 三枝英人 : [ 分担 ] パーキンソン病 . 新臨床耳鼻咽喉科学 ( 加我君孝・他編著 ) , 2002 ; pp222-223 , 中外医学社 .

- 25) 三枝英人：〔分担〕喉頭アミロイドーシス．新臨床耳鼻咽喉科学（加我君孝・他編著），2002；pp213-214，中外医学社．
- 26) 三枝英人：〔分担〕筋ジストロフィー．新臨床耳鼻咽喉科学（加我君孝・他編著），2002；pp219-222，中外医学社．
- 27) 中溝宗永：〔分担〕頸部腫瘍．今日の治療指針（ポケット版）（山口 徹，北原光夫），2003；pp1012-1013，医学書院．
- 28) 中溝宗永：〔分担〕頸部腫瘍．今日の治療指針（デスク版）（山口 徹，北原光夫），2003；医学書院．
- 29) 野中 学：〔分担〕Data Analysis．鼻アレルギー - フロンティア，2003；pp28-29，メディカルレビュー - 社．
- 30) 馬場俊吉：〔分担〕急性感音難聴．今日の治療指針2003（山口 徹 北原光夫），2003；pp988-989，医学書院．
- 31) 大久保公裕：〔分担〕ARIA とその意義．アレルギー・リウマチ膠原病の最新医療（狩野庄吾，中川武正），2003；pp71-75，先端医療技術研究所．
- 32) 大久保公裕：〔共著〕アレルギー性鼻炎の治療ガイドライン：減感作を含めた薬物療法．第7回那須ティーチイン記録集（川内秀之），2003；pp18-27，日本アレルギー協会．
- 33) 大久保公裕：〔共著〕アレルギー疾患：花粉症．ガイドライン外来診療：今日の診療のために（宮本昭正），2003；pp90-96，日経メディカル．
- 34) 青木秀治：〔分担〕医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史麿），2003；pp10-2365，医学書院．
- 35) 野中 学：〔分担〕医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史麿），2003；pp10-2365，医学書院．
- 36) 大久保公裕：〔分担〕医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史麿），2003；pp10-2365，医学書院．
- 37) 中溝宗永：〔分担〕医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史麿），2003；pp10-2365，医学書院．
- 38) 馬場俊吉：〔分担〕中耳炎と半規管瘻孔．耳鼻咽喉科診療プラクティス 11. 中耳疾患治療の最前線：保存的療法 VS 手術的療法（加我君孝），2003；pp56-59，文光堂．
- 39) 馬場俊吉：〔分担〕中耳手術で聴力改善しない場合の機序と対策．耳鼻咽喉科診療プラクティス 11. 中耳疾患治療の最前線：保存的療法 VS 手術的療法（加我君孝），2003；pp81-81，文光堂．
- 40) 野中 学：〔分担〕ジフテリア性扁桃炎．医学大辞典，2003；pp1079-1079，医学書院．
- 41) 野中 学：〔分担〕咽頭ジフテリア．医学大辞典，2003；pp161-161，医学書院．
- 42) 野中 学：〔分担〕咽頭炎．医学大辞典，2003；pp160-160，医学書院．
- 43) 野中 学：〔分担〕咽頭結核．医学大辞典，2003；pp160-160，医学書院．
- 44) 野中 学：〔分担〕咽頭側索炎．医学大辞典，2003；pp161-161，医学書院．
- 45) 野中 学：〔分担〕咽頭梅毒．医学大辞典，2003；pp161-161，医学書院．
- 46) 野中 学：〔分担〕咽頭扁桃炎．医学大辞典，2003；pp161-161，医学書院．
- 47) 野中 学：〔分担〕偽膜アンギナ．医学大辞典，2003；pp536-536，医学書院．
- 48) 野中 学：〔分担〕急性咽頭炎．医学大辞典，2003；pp553-553，医学書院．
- 49) 野中 学：〔分担〕急性化膿性唾液管炎．医学大辞典，2003；pp554-554，医学書院．
- 50) 野中 学：〔分担〕急性顎下腺炎．医学大辞典，2003；pp554-554，医学書院．
- 51) 野中 学：〔分担〕急性喉頭気管支炎．医学大辞典，2003；pp556-556，医学書院．
- 52) 野中 学：〔分担〕急性上咽頭炎．医学大辞典，2003；pp557-557，医学書院．
- 53) 野中 学：〔分担〕急性扁桃炎．医学大辞典，2003；pp562-562，医学書院．
- 54) 野中 学：〔分担〕口蓋垂炎．医学大辞典，2003；pp770-770，医学書院．
- 55) 野中 学：〔分担〕口蓋扁桃炎．医学大辞典，2003；pp771-771，医学書院．
- 56) 野中 学：〔分担〕上咽頭炎．医学大辞典，2003；pp1152-1152，医学書院．
- 57) 野中 学：〔分担〕正中菱形舌炎．医学大辞典，2003；pp1372-1372，医学書院．
- 58) 野中 学：〔分担〕舌扁桃炎．医学大辞典，2003；pp1410-1410，医学書院．



- 59) 野中 学：〔分担〕線維索性唾液管炎．医学大辞典，2003；pp1420-1420，医学書院．
- 60) 野中 学：〔分担〕腺窩性アングナ．医学大辞典，2003；pp1423-1423，医学書院．
- 61) 野中 学：〔分担〕潰瘍性咽頭炎．医学大辞典，2003；pp338-338，医学書院．
- 62) 野中 学：〔分担〕潰瘍性舌炎．医学大辞典，2003；pp339-339，医学書院．
- 63) 野中 学：〔分担〕猩紅熱アングナ．医学大辞典，2003；pp1163-1163，医学書院．
- 64) 青木秀治：〔分担〕悪性外耳炎．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp10-10，医学書院．
- 65) 青木秀治：〔分担〕外耳奇形．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp317-317，医学書院．
- 66) 青木秀治：〔分担〕外耳腫瘍．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp317-317，医学書院．
- 67) 青木秀治：〔分担〕外耳道異物．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 68) 青木秀治：〔分担〕外耳道炎．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 69) 青木秀治：〔分担〕外耳道骨腫．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 70) 青木秀治：〔分担〕外耳道湿疹．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 71) 青木秀治：〔分担〕外耳道真菌症．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 72) 青木秀治：〔分担〕外耳道癬．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 73) 青木秀治：〔分担〕外耳道反射．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp318-318，医学書院．
- 74) 青木秀治：〔分担〕鼓膜炎．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp890-890，医学書院．
- 75) 青木秀治：〔分担〕鼓膜切痕．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp890-890，医学書院．
- 76) 青木秀治：〔分担〕耳介．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp987-987，医学書院．
- 77) 青木秀治：〔分担〕耳介血腫．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp987-988，医学書院．
- 78) 青木秀治：〔分担〕耳介側頭神経．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp988-988，医学書院．
- 79) 青木秀治：〔分担〕耳介軟骨膜炎．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp989-989，医学書院．
- 80) 青木秀治：〔分担〕耳垢腺腫．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp1022-1022，医学書院．
- 81) 青木秀治：〔分担〕耳出血．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp1032-1032，医学書院．
- 82) 青木秀治：〔分担〕耳痛．医学書院 医学大辞典（伊藤正男・井村裕夫・高久史磨），2003；pp1054-1054，医学書院．

学書院 .

- 83) 青木秀治 : [ 分担 ] 耳漏 . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp1216-1216 , 医学書院 .
- 84) 青木秀治 : [ 分担 ] 青色鼓膜 . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp1356-1356 , 医学書院 .
- 85) 青木秀治 : [ 分担 ] 側頭筋膜 . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp1494-1494 , 医学書院 .
- 86) 青木秀治 : [ 分担 ] 道上棘 . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp1751-1751 , 医学書院 .
- 87) 青木秀治 : [ 分担 ] びまん性外耳道炎 . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp2079-2079 , 医学書院 .
- 88) 青木秀治 : [ 分担 ] 耳ポリープ . 医学書院 医学大辞典 ( 伊藤正男 · 井村裕夫 · 高久史磨 ), 2003 ; pp2365-2365 , 医学書院 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

- 1) Pawankar R : Novel Anti-inflammatory Roles of antihistamines . 25th Annual meeting of Pediatric Society of Mexico, Mexico ( Mexico ), 2002 . 4 .
- 2) Pawankar R : Evidence based treatment of allergic rhinitis : The ARIA guidelines . 26th Annual meeting of Otolaryngology Society of Mexico ( Mexico ), 2002 . 4 .
- 3) Pawankar R : ARIA -WHO Initiative guidelines . Rhinitis Consensus Meeting ( Miami ), 2002 . 4 .
- 4) Pawankar R : Nasal polyps : Is surgery the ultimate answer : Role of medical therapy . 25th Bombay ENT Association meeting ( Mumbai ), 2002 . 5 .
- 5) Pawankar R : Pharmacotherapy versus Immunotherapy in allergic rhinitis : pros and cons . 25th Bombay ENT Association meeting ( Mumbai ), 2002 . 5 .
- 6) Pawankar R : Mast cell-IgE-IgE receptor network in allergic rhinitis . 8th Spring Meeting of Korean Society of Allergology ( Seoul ), 2002 . 5 .
- 7) Pawankar R : Nasal polyps : Novel concepts on pathogenesis . 16th Annual Congress of the Rhinology Society of Turkey ( Diyarbirkir ), 2002 . 6 .
- 8) Pawankar R : ARIA WHO Initiative guidelines for allergic rhinitis . 16th Annual Congress of the Rhinology Society of Turkey ( Diyarbirkir ), 2002 . 6 .
- 9) Pawankar R : Pathomechanisms of allergic rhinitis : An Update . 1st Annual Congress of the Bangladesh Society ( Dhaka ), 2002 . 7 .
- 10) Pawankar R : Nasal polyps : Factors that predict recurrence to medical management . Symposium of Bombay chapter of Association of Otolaryngologists of India ( Mumbai ), 2002 . 7 .
- 11) Pawankar R : Immunotherapy in allergic rhinitis and asthma . Baroda ENT Seminar ( Baroda ), 2002 . 8 .
- 12) Pawankar R : Novel concepts of Nasal polyps : Factors that predict recurrence to medical management . Indian Academy of Allergy : Karnataka chapter ( Bangalore ), 2002 . 8 .
- 13) Pawankar R : Allergic rhinitis and asthma : The link from pathogenesis to treatment . Joint Seminar of Rhinology Society and Chest Society of Goa ( Goa ), 2002 . 8 .
- 14) Pawankar R : Measurement of Quality of life in patients with allergic rhinitis . Kolkata chapter of Association of Otolaryngologists of India ( Kolkata ), 2002 . 8 .

- 15) Pawankar R : Rhinitis and Asthma as Combined Airway Syndrome . Punjab chapter of Indian Chest Society ( Chandigarh ), 2002 . 8 .
- 16) Pawankar R : Nasal polyps : Factors that predict recurrence to medical management . Rhinology chapter of ENT Society of Hyderabad ( Hyderabad ), 2002 . 8 .
- 17) Pawankar R : Role of allergy in chronic sinusitis . Seminar of Rajasthan ENT Association ( Jaipur ), 2002 . 8 .
- 18) Pawankar R : Link between rhinitis and asthma to evidence-based treatment . Seminar of Rhinology chapter of Delhi ( Delhi ), 2002 . 8 .
- 19) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma to the ARIA-WHO Initiative . 1st Middle East Congress of Allergy & Immunology ( Beirut ), 2002 . 9 .
- 20) Pawankar R : Mast cells in Allergic Airway Disease . 3rd Symposium on Allergy & Immunology , 2002 . 10 .
- 21) Pawankar R : Indications and safety of topical corticosteroids in rhinosinusitis . 5th Congress of the Indian Academy of Allergy ( Pune ), 2002 . 11 .
- 22) Pawankar R : Oration : Update on allergic rhinitis and the combined airway syndrome . 5th Congress of the Indian Academy of Allergy ( Pune ), 2002 . 11 .
- 23) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma : Emerging therapies like LTRs . Annual Congress of Thai Society of Allergology ( Bangkok ), 2002 . 11 .
- 24) Pawankar R : Mast cell-epithelial cell interactions in allergic disease . Annual Congress of Thai Society of Allergology ( Bangkok ), 2002 . 11 .
- 25) Pawankar R : Anti-IgE therapy in allergic rhinitis . Mahidol University ENT meeting ( Bangkok ), 2002 . 11 .
- 26) Pawankar R : Role of leukotriene receptor antagonists in combined airway syndrome . Rhinology Seminar of Bombay chapter of Association of Otolaryngologists of India ( Mumbai ), 2002 . 11 .
- 27) Pawankar R : Role of newer antihistamines : beyond H1 receptor blockage . Seminar of Pune ENT Association ( Pune ), 2002 . 11 .
- 28) Pawankar R : ARIA-WHO Initiative an evidence-based guideline for Allergic Rhinitis . 20th Annual Congress of the Maharashtra ENT Society ( Thane ), 2002 . 12 .
- 29) Pawankar R : Rhinitis and asthma : Role of LTRAs in combined airway syndrome . 36th Annual Congress of the Indian College of Allergy and Applied Immunology ( Chennai ), 2002 . 12 .
- 30) Pawankar R : Indications and safety of intranasal corticosteroids in rhinosinusitis . 36th Annual Congress of the Indian College of Allergy and Applied Immunology ( Chennai ), 2002 . 12 .
- 31) Pawankar R : Role of leukotriene receptor antagonists in combined airway syndrome . Symposium of the Chest Society of India : South Zone ( Chennai ), 2002 . 12 .
- 32) Pawankar R : ARIA-WHO guidelines for allergic rhinitis . 10th ASEAN ORL Congress ( Brunei ), 2003 . 1 .
- 33) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma to WHO-ARIA guidelines . 56th Annual Congress of the Association of Otolaryngologists of India ( Patna ), 2003 . 1 .
- 34) Pawankar R : Leukotriene receptor antagonists as emerging therapy for one airway one disease . International Chest Congress of Patel Chest ( Delhi ), 2003 . 1 .
- 35) Pawankar R : Rhinitis-Asthma Link : Can treating allergic rhinitis prevent asthma? . Seminar of Association of Chest Physicians of Bihar ( Patna ), 2003 . 1 .
- 36) Pawankar R : Role of Leukotriene receptor antagonists in one airway one disease . Seminar of the Association of Chest Physicians of Brunei ( Brunei ), 2003 . 1 .
- 37) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis in children . Seminar of the Indian Pediatric Society : West Zone ( Indore ), 2003 . 1 .

- 38) Yagi T : 1. Management of vertiginous patient 2. Otitis media with effusion in Japanese population . ENT Conference in Changmai University ( Changmai Thailand ), 2003 . 2 .
- 39) Pawankar R : Novel concepts on nasal polyps : pathogenesis to treatment . ENT Conference in Changmai University ( Chiangmai ), 2003 . 2 .
- 40) Yagi T : Does cupulolithiasis or canalolithiasis cause BPPV . 43rd Siriraj Scientific Conference Workshop on Vertigo-Tinnitus-Hearing Loss-Neuro-Otologic Approach ( Bangkok Thailand ), 2003 . 3 .
- 41) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma . 4th Respiratory Symposium : One Airway One Disease , 2002 . 4 .
- 42) 三枝英人 : 逆流性食道炎の診断と治療 . 胃・食道逆流症 ( GERD ) と咽喉頭症状 ; その形態学的考察 . 日本医師会生涯教育講座 , 2002 . 6 .
- 43) 八木聡明 : 日常診察におけるめまいの取り扱い . 山形県地方部会第95回例会 , 2002 . 9 .
- 44) 馬場俊吉 : めまいの診断と治療 . 勝浦市夷隅医師会学術講演会 , 2002 . 10 .
- 45) Pawankar R : Allergic rhinitis : Evidence-based treatment strategies . 日本耳鼻咽喉科学会厚木支部 , 2003 . 2 .
- ( 2 ) 招待講演 :
- 1) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎のQOL . 青春会 , 2003 . 2 .
  - 2) Pawankar R : Diagnosis and management of allergic rhinitis . Rhinology Workshop ( Chennai ), 2002 . 7 .
  - 3) 大久保公裕 : 花粉症最新診療の実際 . 日本アレルギー協会アレルギー研修2002 , 2002 . 4 .
  - 4) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎と喘息の関連性 . 第192回北九州耳鼻咽喉科臨床懇話会 , 2002 . 6 .
  - 5) 大久保公裕 : 免疫療法の展望 . 第7回東京アレルギー懇話会 , 2002 . 6 .
  - 6) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOL . 中央区アレルギー疾患懇話会 , 2002 . 7 .
  - 7) 三枝英人 : ヒト舌の解剖学的研究とその機能についての考察 . ATR人間情報科学研究所内講演会 , 2002 . 10 .
  - 8) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎に対する免疫療法 . 第5回岡山耳鼻咽喉科フォーラム , 2002 . 10 .
  - 9) 後藤 穰 : 診療ガイドラインによる鼻アレルギーの治療戦略 . 神田 , 千代田区医師会合同学術講演会 , 2002 . 10 .
  - 10) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLについて . 第3回慶應義塾大学耳鼻咽喉科学術講演会 , 2002 . 12 .
  - 11) 大久保公裕 : 花粉症治療の最前線 . 北区学術講演会 , 2002 . 12 .
  - 12) 三枝英人 : 嚥下のリハビリテーションの実際 . 国際医療福祉大学言語聴覚障害学学科内講演会 , 2003 . 1 .
  - 13) 大久保公裕 : 耳鼻咽喉科外来での最新治療 : 鼻アレルギーから救急治療まで . 神戸地区耳鼻咽喉科医会講演会 , 2003 . 1 .
  - 14) 大久保公裕 : 薬物ベースラインからみた花粉症治療 . 栃木県鹿沼学術講演会 , 2003 . 1 .
  - 15) 青木秀治 : 鼓膜形成術 . 川崎市耳鼻咽喉科医会学術講演会 , 2003 . 1 .
  - 16) 後藤 穰 : これでわかる花粉症 診断・治療の実際と落とし穴 . 北埼玉群市医師会学術講演会 , 2003 . 1 .
  - 17) 後藤 穰 : 鼻アレルギー診療ガイドラインによる治療戦略 . 新居浜市医師会学術講演会 , 2003 . 1 .
  - 18) 後藤 穰 : スギ花粉症の臨床 診断・治療の落とし穴 . 静岡県耳鼻咽喉科学術講演会 , 2003 . 1 .
  - 19) 後藤 穰 : 鼻アレルギー診療ガイドラインによる治療戦略 . 水戸市医師会学術講演会 , 2003 . 2 .
  - 20) 後藤 穰 : 臨床医の小児アレルギー性疾患ガイドラインの実際 ( アレルギー性鼻炎について ) . 第2回小児気管支喘息フォーラム in 多摩 , 2003 . 3 .
  - 21) 後藤 穰 : スギ花粉症に対する免疫療法 . 第48回大阪耳鼻咽喉科アレルギー同好会 , 2003 . 3 .
- ( 3 ) 教育講演 :
- 1) Pawankar R : Role of atopy in nasal polyposis . Kyung Hee University Meeting ( Seoul ), 2002 . 5 .
  - 2) Pawankar R : Low dose macrolide therapy in chronic sinusitis . Kyung Hee University Meeting ( Seoul ), 2002 . 10 .
  - 3) Pawankar R : Medical management of rhinosinusitis . Educational Seminar Series of Hyderabad ENT Asso-

- ciation ( Hyderabad ), 2002 . 12 .
- 4) Pawankar R : Nasal challenge tests with allergen . Special Seminar of Indian Academy of Allergy ( Bangalore ), 2002 . 12 .
  - 5) Pawankar R : Immunological evaluation of efficacy of treatment in allergic rhinitis . 56th Annual Congress of the Association of Otolaryngologists of India ( Patna ), 2003 . 1 .
  - 6) Pawankar R : Clinical parameters and objective assessment in allergic rhinitis . Pune University Seminar ( Pune ), 2003 . 1 .
  - 7) Pawankar R : Classification, diagnosis and treatment of rhinosinusitis . Pune University Seminar ( Pune ), 2003 . 1 .
  - 8) 八木聰明 : ENGのとおり方 . 第25回日本平衡機能検査技術者特別講習会 , 2002 . 10 .
  - 9) 三枝英人 : 嚙下透視検査 ( video-fluorography : VF ) で何を見るのか ? 関東嚙下訓練者講習会 , 2002 . 11 .
  - 10) 大久保公裕 : 小児領域の鼻アレルギーの実際と対策 . 第39回日本小児アレルギー学会 , 2002 . 11 .
  - 11) 大久保公裕 : アレルギー疾患に対する減感作療法 . 第52回日本アレルギー学会 , 2002 . 11 .
- ( 4 ) シンポジウム :
- 1) 藤倉輝道<sup>1)</sup>, 山内陽子 ( <sup>1)</sup> 谷津保健病院 ) : 鼻アレルギーにおける H1 受容体拮抗薬のケモカイン産生への影響 . 第15回 気道病態シンポジウム , 2003 . 2 .
  - 2) Pawankar R : Role of LTRAs in Allergic rhinitis and co-morbidities . 1st Asia Pacific Leukotriene Symposium ( Seoul ), 2002 . 4 .
  - 3) Pawankar R : Evidence-based ARIA-WHO guidelines for allergic rhinitis . 8th Spring Meeting of Korean Society of Allergology ( Seoul ), 2002 . 5 .
  - 4) Pawankar R : IgE receptor in allergic rhinitis : pathogenesis to clinical implication . 17th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose ( Ulm ), 2002 . 6 .
  - 5) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Ozu C , Yagi T : Novel concepts on Nasal Polyps . 17th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose ( Ulm ), 2002 . 6 .
  - 6) Pawankar R , Bunnag C<sup>1)</sup> , Vicente G<sup>2)</sup> , Gendeh B<sup>3)</sup> , Cho J<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Mahidol university. Bangkok , <sup>2)</sup> St. luke's hospital, Manila , <sup>3)</sup> Unibersity of Malayasia, Kuala Lumpur , <sup>4)</sup> Kyung Hee university, Seoul ) : Epidemiology of allergic rhinitis and asthma in Asia . 17th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose ( Ulm ), 2002 . 6 .
  - 7) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Ozu C , Yagi T : Epithelial cells as immunomodulatory cells in allergic rhinitis . 17th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose ( Ulm ), 2002 . 6 .
  - 8) Pawankar R : Potential Roles of LTRAs in allergic rhinitis and comorbid asthma . 21st Annual Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Immunology ( Naples ), 2002 . 6 .
  - 9) Pawankar R , Nonaka M , Yagi T : Recurrent nasal polyps : Factors that predict . 8th Annual Congress of the Polish Society of Allergy ( Lodz ), 2002 . 6 .
  - 10) Pawankar R : Evidence-bassed treatment of allergic rhinitis . 8th Annual Congress of the Polish Society of Allergy ( Lodz ), 2002 . 6 .
  - 11) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Nonaka M , Yagi T : Role of Gamma delta T cells in allergic airway disease . 17th International Congress of the International Federation of Otolaryngology Societies ( Cairo ), 2002 . 9 .
  - 12) Pawankar R : Potential role of the humanized Anti-IgE monoclonal antibody in allergic rhinitis . 17th International Congress of the International Federation of Otolaryngology Societies ( Cairo ), 2002 . 9 .
  - 13) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Oz C , Yagi T : Allergy & Infection in the upper airways in chil-

- dren . 17th International Congress of the International Federation of Otolaryngology Societies ( Cairo ), 2002 . 9 .
- 14) Pawankar R : Evidence-based treatment of allergic rhinitis : ARIA WHO Initiative . 17th International Congress of the International Federation of Otolaryngology Societies ( Cairo ), 2002 . 9 .
  - 15) Pawankar R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Recurrent nasal polyps : Factors that predict . 1st Middle East Congress of Allergy & Immunology ( Beirut ), 2002 . 9 .
  - 16) Pawankar R : Indications and Safety of Intranasal Corticosteroids . 1st Middle East Congress of Allergy & Immunology ( Beirut ), 2002 . 9 .
  - 17) Pawankar R : LTRAs : Their potential role in allergic rhinitis . 1st Middle East Congress of Allergy & Immunology ( Ulm ), 2002 . 9 .
  - 18) Pawankar R : Rhinitis and Asthma : One Airway One Disease . 4th Asian Pacific Association of Pediatric Allergy Respiriology and Immunology , 2002 . 9 .
  - 19) Pawankar R : Clinical trials with anti-IgE for allergic rhinitis . 5th Asian Pacific Congress of Allergy and Immunology ( Seoul ), 2002 . 10 .
  - 20) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Ozu C , Nonaka M , Yagi T : RANTES but not SCF regulates intraepithelial mast cell migration in allergic rhinitis . 24th Collegium International Allergologicum ( Bermuda ), 2002 . 11 .
  - 21) Pawankar R : Novel roles of antihistamines : beyond H1 receptor blockade . 20th Annual Congress of the Maharashtra ENT Society ( Thane ), 2002 . 12 .
  - 22) Pawankar R : Potential role of LTRAs in allergic rhinitis . 3rd World Congress of Immunopathology ( Singapore ), 2002 . 12 .
  - 23) Pawankar R : Indications and safety of intranasal corticosteroids in upper airway disease . 3rd World Congress of Immunopathology ( Singapore ), 2002 . 12 .
  - 24) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Role of gamma-delta T cells in allergic airway disease . 3rd World Congress of Immunopathology ( Singapore ), 2002 . 12 .
  - 25) Pawankar R : Topical corticosteroids in allergic rhinitis : From indications to Safety . 10th ASEAN ORL Congress ( Brunei ), 2003 . 1 .
  - 26) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis in children . 56th Annual Congress of the Association of Otolaryngologists of India ( Patna ), 2003 . 1 .
  - 27) Pawankar R : Low dose long term therapy with macrolides in chronic sinusitis . 43rd Sirirajji Scientific Conference ( Bangkok ), 2003 . 3 .
  - 28) Okubo K , Okuda M : The development of quality of life questionnaire for allergic rhinitis in Japan ( Synergy on management of allergic rhinitis ) . 8th Asian Research Symposium in Rhinology ( Tainan ), 2003 . 3 .
  - 29) Pawankar R : Understanding the link between rhinitis and asthma : ARIA Initiative . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Tainan ), 2003 . 3 .
  - 30) Pawankar R : Recurrent nasal polyps : Factors that predict to medical management . 9th Asian Research Symposium in Rhinology ( Tainan ), 2003 . 3 .
  - 31) Pawankar R : Link between rhinitis and asthma : Role of LTRAs in rhinitis and the ARIA guidelines . 2nd International Symposium on Leukotrienes , 2002 . 6 .
  - 32) 野中 学 , Pawankar R , 福元 晃 , 八木聡明 : 鼻線維芽細胞の特殊性と好酸球浸潤 . 第41回日本鼻科学会総会 , 2002 . 9 .
  - 33) 池園哲郎 : メニエール病の治療「メニエール病と遺伝子治療」. 第61回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会 , 2002 . 10 .

- 34) 三枝英人：嚥下障害に対する耳鼻咽喉科医の役割：嚥下障害治療の実際．第16回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会，2002．11．
- 35) 大久保公裕，後藤 穰：スギ花粉症の減感作療法（スギ花粉症 予防および治療研究の最前線）．第52回日本アレルギー学会，2002．11．
- 36) 大久保公裕，石川 哮<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>熊本大学）：スギ花粉症に対する抗IgE（Omalizumab）の効果（免疫療法の展望）．第52回日本アレルギー学会，2002．11．
- 37) 野中 学，福元 晃，Pawankar R，荻原 望，酒主敦子，八木聡明：グラム陽性菌とグラム陰性菌の菌体成分刺激による鼻茸線維芽細胞からのRANTES産生について．第21回耳鼻免疫アレルギー学会，2003．2．
- 38) 大久保公裕：耳鼻咽喉科の立場から（小児アレルギー性鼻炎の診断と治療）．第21回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2003．3．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) Pawankar R：Indication and safety of immunotherapy in rhinitis and asthma．5th Congress of the Indian Academy of Allergy (Pune)，2002．11．
  - 2) 三枝英人：麻痺側声帯がほぼ正中位で固定した反回神経麻痺による音声障害の対応について．東日本音声外科懇話会，2002．4．
  - 3) Pawankar R：Allergic rhinitis and its Impact on Asthma．Round Table discussion on ARIA，2002．5．
  - 4) 馬場俊吉：単純性慢性中耳炎（中耳手術の聴力改善成績の判定基準をめぐって）．日本耳科学会，2002．10．
  - 5) 後藤 穰：小児アレルギー性鼻炎．第30回アレルギーQ&A研究会，2003．1．
- (6) セミナー：
- 1) 後藤 穰：免疫療法の新しい展開．3大学セミナー，2002．7．
  - 2) 大久保公裕：花粉症の低年齢化．第39回日本小児アレルギー学会，2002．11．
- (7) ワークショップ：
- 1) 大久保公裕：鼻アレルギーとEBM（耳鼻咽喉科・頭頸部外科とEBM）．第16回日本耳鼻咽喉科専門医講習会，2002．11．
- (8) 一般講演：
- 1) Pawankar R：Evidence-based diagnosis and treatment of allergic rhinitis．1st Annual Congress of the Bangladesh Society (Dhaka)，2002．7．
  - 2) Yasuo K，Maki K，Yagi T：Video image analysis system using a 4 times high-speed infra-red CCD camera．22nd Barany Society Meeting (Seattle, USA)，2002．9．
  - 3) Watanabe KI，Inai S，Hess A<sup>1)</sup>，Michel O<sup>1)</sup>，Yagi T（<sup>1)</sup>Dept. of ENT, University of Cologne）：Acoustic stimulation causes the expression of inducible nitric oxide synthase (iNOS/NOS II) in the vestibule of guinea pigs．39th Workshop on Inner Ear Biology (Belgium, Liege)，2002．9．
  - 4) Yamagishi S<sup>1)</sup>，Pawankar R，Nonaka M，Takizawa R，Yagi T（<sup>1)</sup> 谷津保険病院耳鼻咽喉科）：Increased Expression of the Fc RI in Nasal Epithelial Cells of Allergic Rhinitis：Its Upregulation by IL-4．Asian Pacific Association of Pediatrics Allergy, Respiratory and Immunology (Tokyo, Japan)，2002．9．
  - 5) Okubo K，Gotoh M，Okuda M：The effect of substance P on eosinophil function in allergic nasal mucosa．6th International Academic Conference on Immuno- & Molecular Biology in Otolaryngology (Jeju Island)，2002．10．
  - 6) Okubo K，Ogino S<sup>1)</sup>，Nagakura T<sup>2)</sup>，Ishikawa T<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>Osaka Univ.，<sup>2)</sup>Yoga Allergy Clinic，<sup>3)</sup>Kumamoto Univ.）：Clinical efficacy of Omalizumab on seasonal allergic rhinitis associated with Japanese cedar pollen．60th Am Acad Allergy Asthma & Immunol (Denver)，2003．3．
  - 7) Pawankar R，Yamagishi S，Nonaka M，Koichi H<sup>1)</sup>，Ozu C，Watanabe S（<sup>1)</sup>Dep. of Bioregulatory Fanc-

- tion, University of Tokyo): Synergistic Induction of TARC in nasal epithelial cells and fibroblasts by IL-4 IL-13 and TNF-alpha and its correlation to CCR4+T cells in patients with allergic rhinitis . 60th Annual meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology ( Denver ), 2003 . 3 .
- 8) Nonaka M , Fukumoto A , Pawankar R , Ogihara N , Sakanushi A , Yamagishi S , Yagi T : Synergistic Induction of TARC in Fibroblasts by IL-4 and LPS : Modulation by TGF- $\beta$  1 . 60th Annual meeting of the American Adademy of Allergy , Asthma , and Immunology ( Denver ), 2003 . 3 .
- 9) Yamagishi S<sup>1)</sup> , Pawankar R , Takizawa R , Nonaka M , Yagi T ( <sup>1)</sup> 谷津保険病院耳鼻咽喉科 ): Nasal Epithelial Cells Express the Fc $\epsilon$ RI : IL-4 Induced Upregulation of the Fc $\epsilon$ RI and IL-6 Production . 60th American Academy of Allergy, Asthma, and Immunology ( Denver, Colorado ), 2003 . 3 .
- 10) 山岸茂夫, Ruby P , 野中 学, 滝沢竜太, 八木聡明: 鼻粘膜上皮細胞における Fc $\epsilon$ RI の発現とその機能 . 第21 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2002 . 2 .
- 11) 三枝英人, 愛野威一郎, 八木聡明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 国際医療福祉大学言語聴覚障害学科 ): 当科で行っている間欠的口腔食道栄養法 (OE 法) とその適応について . 第11 回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2002 . 4 .
- 12) 李 麗淑, 池園哲郎, 新藤 晋, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 小林俊充<sup>2)</sup>, 八木聡明 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学学生化学第2, <sup>2)</sup> 東北大学 ): 遺伝性難聴 DFNA9 病因遺伝子 COCH のアイソフォーム . 第103 回 日本耳鼻咽喉科学会総会, 2002 . 5 .
- 13) 横島一彦, 小津千佳, 福元 晃, 稲井俊太, 馬場俊吉: 頸部神経鞘腫に対する神経機能温存手術 . 日本医科大学医学会第107 回例会, 2002 . 5 .
- 14) 峯田 章<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横島一彦, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 同病理部 ): 右扁桃に転移した胆嚢癌の1 例 . 日本医科大学医学会第107 回例会, 2002 . 5 .
- 15) 福元 晃, 野中 学, 荻原 望<sup>2)</sup>, 酒主敦子, 小津千佳, 八木聡明 ( <sup>2)</sup> 海老名総合病院耳鼻咽喉科 ): 喘息のある慢性副鼻腔炎における血中及鼻汁中 eotaxin の検討 . 第103 回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2002 . 5 .
- 16) 新見やよい<sup>1)</sup>, Pawankar R , 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 皮膚科学 ): 水疱性類天疱瘡病変皮膚における MMP-2, MMP-9, MMP-13 の発現の検討 . 第101 回日本皮膚科学会総会学術大会, 2002 . 6 .
- 17) 青木見佳子<sup>1)</sup>, Pawankar R , 新見やよい<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 皮膚科学 ): 基底細胞癌におけるマスト細胞の動態 . 第101 回日本皮膚科学会総会学術大会, 2002 . 6 .
- 18) 稲井俊太, 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 矢嶋裕徳: 喉頭粘表皮癌の1 症例 . 第26 回日本頭頸部腫瘍学会, 2002 . 6 .
- 19) 中溝宗永, 横島一彦, 矢嶋裕徳, 粉川隆行, 中嶋博史, 斉藤明彦, 粉川美生, 稲井俊太, 八木聡明, 森園徹志: 頭頸部癌における遊離空腸による再建の手術成績 . 第26 回日本頭頸部腫瘍学会, 2002 . 6 .
- 20) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 中嶋博史, 粉川美生, 小津千佳, 稲井俊太: 頭頸部癌終末期医療における余命告知の意義と問題点 . 第26 回日本頭頸部腫瘍学会, 2002 . 6 .
- 21) 杉崎一樹, 後藤 穰, 大久保公裕: 急速減感作療法の安全性と効果: 手術症例について . 第49 回臨床アレルギー研究会, 2002 . 6 .
- 22) 横島一彦, 空野恵理子, 小津千佳, 福元 晃, 稲井俊太, 渡邊幸子, 馬場俊吉: 上頸部手術における大耳介神経の取り扱い . 第61 回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2002 . 6 .
- 23) 小津千佳, 馬場俊吉, 空野恵理子, 横島一彦, 福元 晃, 稲井俊太, 渡邊幸子: 突発性難聴の治療成績 . 第61 回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2002 . 6 .
- 24) 杉田公美, 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聡明: 標準化スギ花粉エキスによる平成14 年スギ花粉症の治療効果 . 第64 回 耳鼻咽喉科臨床学会, 2002 . 6 .
- 25) 渡邊健一, 富山俊一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聡明: 内リンパ嚢局所免疫動物における NF- $\kappa$ B の発現と前庭障害 . 第20 回頭頸部自律神経研究会, 2002 . 8 .



- 26) 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 中村 毅, 八木聰明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学  
科): 芍薬甘草湯が有効であった内転型痙攣性発声障害の2例. 第18回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, 2002. 9.
- 27) 中村 毅, 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 八木聰明: 六君子湯が有効であった非特異的喉頭肉芽腫の3症  
例. 第18回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, 2002. 9.
- 28) 杉崎一樹, 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聰明: 急速減感作療法の安全性と効果. 第41回日本鼻科学会, 2002. 9.
- 29) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻由来線維芽細胞からのeotaxin産生に  
対するTGF- $\beta$ 1の影響について. 第41回日本鼻科学会総会, 2002. 9.
- 30) 池園哲郎, 馬場俊吉, 八木聰明: 人工内耳埋込術後の経過. 第62回日本医科大学耳鼻咽喉科4病院集談会, 2002. 9.
- 31) 稲井俊太, 渡邊健一, 八木聰明: 音響刺激による聴覚障害と誘導型一酸化窒素構成酵素. 第12回日本耳科学会,  
2002. 10.
- 32) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 齋藤明彦, 長谷川純, パワンカール ルビー, 八木聰明: 外リンパ特異的蛋白  
による外リンパろう診断の試み 第1報. 第12回日本耳科学会総会, 2002. 10.
- 33) 野中 学, 福元 晃, 小津千佳, Pawankar R, 馬場俊吉, 八木聰明: 喘息患者の滲出性中耳炎における好酸  
球浸潤の機序についての検討: 慢性副鼻腔炎との比較. 第12回日本耳科学会総会, 2002. 10.
- 34) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 小泉康雄, 斉藤明彦, 愛野威一郎, 小川千鶴子, 新藤 晋: 頭頸部における  
遊離組織移植後の血管閉塞症例の検討. 第40回日本癌治療学会, 2002. 10.
- 35) 三枝英人, 田沼久美子<sup>1)</sup>, 山下和雄<sup>2)</sup>, 新美成二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学解剖学第2,<sup>2)</sup>同解剖学第1,<sup>3)</sup>国際医療  
福祉大学言語聴覚障害学): 舌神経の神経線維解析的研究. 第47回日本音声言語医学会総会, 2002. 10.
- 36) 粉川隆行, 三枝英人, 八木聰明, 新美成二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学): オトガイ舌筋と上咽頭  
収縮筋の機能的関係についての筋電図学的研究. 第47回日本音声言語医学会総会, 2002. 10.
- 37) 小泉康雄, 木村まき, 八木聰明: 4倍速CCDカメラによる眼球運動三次元解析システム. 第61回日本めまい平  
衡医学会総会, 2002. 10.
- 38) 新藤 晋, 池園哲郎, 李 麗淑, 八木聰明, 石崎正通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1): 発生過程におけるCochlinの発見ラッ  
トを用いた研究 第2報. 第61回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 2002. 10.
- 39) 粉川美生, 木村まき, 八木聰明: 眼球の安定性に対する重力の影響について. 第61回日本めまい平衡医学会総  
会・学術講演会, 2002. 10.
- 40) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: シスプラチンによる前庭障害とNuclear Factor kappa B (NF-  
kB)-iNOS系の活性化. 第12回日本耳科学会, 2002. 10.
- 41) 稲井俊太, 渡邊健一, 八木聰明: 音響刺激による聴覚障害と誘導型一酸化窒素合成酵素の発現. 第12回日本耳  
科学会, 2002. 10.
- 42) 寺西正明<sup>1)</sup>, Michel O<sup>2)</sup>, 渡邊健一, 中島 務<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>名古屋大学耳鼻咽喉科,<sup>2)</sup>ケルン大学耳鼻咽喉科): 誘導  
型NO合成酵素ノックアウトマウスにおけるシスプラチン聴器毒性の抑制効果. 第12回日本耳科学会, 2002. 10.
- 43) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 八木聰明: シスプラチン投与マウスにおける血管条障害とNF-kappa Bおよ  
びiNOSの発現. 第47回日本聴覚医学会, 2002. 10.
- 44) 富山俊一: 実験的自己免疫性迷路炎モデル: 内耳抗体標的組織の免疫組織化学的検討. 第12回日本耳科学会,  
2002. 10.
- 45) 野中玲子, 野中 学, 八木聰明: 真珠腫性中耳炎の耳小骨におけるマトリックスメタロプロテアーゼの免疫組  
織学的検討. 第12回日本耳科学会総会, 2002. 10.
- 46) 三枝英人: ビデオX線透視による披裂軟骨脱臼症の診断. 縦縞会研究会, 2002. 11.
- 47) 中溝宗永: 当科における頭頸部癌治療: 再建外科を中心に. 青春会, 2002. 11.
- 48) 福元 晃, 野中 学, Pawankar R, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明: 鼻由来線維芽細胞からのeotaxin産生  
IL-4とLPSによる相乗効果とTGF- $\beta$ 1の影響. 第52回日本アレルギー学会総会, 2002. 11.

- 49) 後藤 穰, 大久保公裕: 血中および鼻粘膜上皮層中SPの花粉飛散による変化. 第52回日本アレルギー学会, 2002. 11.
- 50) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 中嶋博史, 愛野威一郎, 粉川美生, 小津千佳, 三枝英人: クリニカルパスを使用した下咽頭・喉頭全摘術後の管理の可能性. 第54回日本気管食道科学会, 2002. 11.
- 51) 中溝宗永, 横島一彦, 三枝英人, 粉川隆行, 小津千佳, 愛野威一郎, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 森園徹志<sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)</sup>: 頭頸部癌における遊離空腸による再建の手術成績 摂食状況の検討. 第54回日本気管食道科学会, 2002. 11.
- 52) 愛野威一郎, 三枝英人, 中村 毅, 八木聰明: 慢性咳嗽とその喉頭所見について. 第54回日本気管食道科学会総会, 2002. 11.
- 53) 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 中村 毅, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明<sup>(<sup>1)</sup>国際医療福祉大学言語聴覚障害学科)</sup>: 喉頭挙上の左右差があることに起因する嚥下障害に対する手術による対応. 第54回日本気管食道科学会総会, 2002. 11.
- 54) 横山有希子, 馬場俊吉, 福元 晃, 小津千佳, 渡邊幸子, 横島一彦: 顔面神経減荷術の成績. 第62回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2002. 11.
- 55) 渡邊幸子, 横島一彦, 小津千佳, 福元 晃, 横山有希子, 馬場俊吉: 先天性梨状陥凹瘻の2症例. 第62回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2002. 11.
- 56) 峯田 章<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 横島一彦, 大秋美治<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部)</sup>: 中咽頭に転移した胆嚢癌の1例. 第64回臨床外科学会, 2002. 11.
- 57) 愛野威一郎, 三枝英人, 中村 毅, 八木聰明: 慢性咳嗽と喉頭所見について. 日本気管食道科学会, 2002. 11.
- 58) 横山有希子, 馬場俊吉, 福元 晃, 小津千佳, 渡邊幸子, 横島一彦: 顔面神経減荷術の成績. 第62回日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2002. 11.
- 59) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 荻原 望, 酒主敦子, 八木聰明: 気道における鼻線維芽細胞の特殊性と好酸球浸潤. 第6回アレルギー気道上皮細胞研究会, 2002. 12.
- 60) 増野 聡, 渡邊健一, 長谷川純, 木村まき, 山内陽子, 青木秀治: 当科における突発性難聴症例の統計学的検討. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 第122回 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会, 2002. 12.
- 61) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 斉藤明彦, 小泉康雄, 愛野威一郎, 八木聰明: 縦隔気管孔形成症例の鎖骨断端と第一肋骨固定の遠隔成績. 第13回日本頭頸部外科学会, 2003. 1.
- 62) 横島一彦, 小津千佳, 中溝宗永, 福本 晃, 稲井俊太, 渡邊幸子, 横山有希子, 馬場俊吉: 耳下腺腫瘍手術における大耳介神経後枝温存の可能性. 第13回日本頭頸部外科学会, 2003. 1.
- 63) 小津千佳, 横島一彦, 福元 晃, 稲井俊太, 中溝宗永, 渡邊幸子, 横山有希子, 馬場俊吉: 第一鰓溝由来鱈性癌の1症例. 第13回日本頭頸部外科学会, 2003. 1.
- 64) 三枝英人, 愛野威一郎, 粉川隆行, 中村 毅: 喉頭挙上の左右差があることに起因する嚥下障害に対する手術による対応. 第25回日本嚥下研究会, 2003. 2.
- 65) 藤倉輝道<sup>1)</sup>, 山内陽子<sup>(<sup>1)</sup>付属病院耳鼻咽喉科)</sup>: 鼻アレルギーにおけるH1受容体拮抗薬のケモカイン産生への影響. 第15回気道病態シンポジウム, 2003. 2.
- 66) 富山俊一: 実験的自己免疫性迷路炎: Whole gel eluter 分画内耳抗原による内耳抗体産生. 第21回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2003. 2.
- 67) 山岸茂夫<sup>1)</sup>, Pawankar R, 滝沢竜太, 野中 学, 八木聰明<sup>(<sup>1)</sup>谷津保険病院耳鼻咽喉科)</sup>: 鼻粘膜上皮細胞におけるFc RIの発現とその機能. 第21回耳鼻免疫アレルギー学会, 2003. 2.
- 68) 福元 晃, 横島一彦: 胆嚢癌扁桃転移症例への対応 インフォームドコンセントに難渋した症例. 第3回千葉頭頸部腫瘍研究会, 2003. 2.
- 69) 木村まき, 渡邊健一, 増野 聡, 長谷川純, 山内陽子, 青木秀治: 鼻口蓋嚢胞の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第123回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会, 2003. 3.

## 15．泌尿器科学講座

### [ 付属病院泌尿器科 ]

#### 研究概要

##### 臨床研究

従来開腹で行っていた手術の全てを腹腔鏡下手術で行っているが、特に、前立腺癌全摘の腹腔鏡下手術は本邦で先端をいっており、開腹術と比較した検討を行っている。

前立腺癌の手術にあたっては、その診断技術が重要であるが、前立腺特異抗原（PSA）およびその関連パラメーターによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断に関する研究のみならず、超音波パワードブラ法、超音波 Fusion 3D法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている。

膀胱癌、上部尿路腫瘍、腎癌の治療においては、特に、quality of life（QOL）を重視し、最先端技術を駆使し臓器温存を行っている。中でも、オリンパスとの共同研究による膀胱癌に対する超音波内視鏡、上部尿路腫瘍に対する超音波細径プローブの開発およびその臨床応用（深達度診断）、浸潤性膀胱癌に対する抗癌剤の動注化学療法、腹腔鏡下腎部分切除術等が挙げられる。

男性学にも力を入れており、勃起機能検査、薬物療法、男性更年期に関する研究を行っている。

放射線医学講座隅崎教授との共同研究として、浸潤性膀胱癌に対する「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」の開発と臨床応用を行っている。perfusion CTを世界に先駆け腎癌組織型の術前鑑別診断に対し応用している。

##### 基礎研究

ヌードマウスを用いた泌尿生殖器腫瘍に対する基礎的臨床的研究を20余年行っているが、それに加え、最近の研究を以下に示した。

1. 癌の「低酸素応答」について、泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究。
2. 生体内微量金属メタロチオネインと抗癌剤耐性および腎機能保護の研究。
3. 老人病研究所分子生物学部門江見教授のご指導のもと、「膀胱癌、前立腺癌における染色体・遺伝子異常の解明」に関する研究。
4. 前立腺炎に対する免疫組織学的研究。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tomita M, Kimura G, Kondo Y, Tsuboi N, Abe H, Ohba S, Hattori T, Nishimura T: Clinical experiences with a Ellik type bladder evacuator without fragment reflux. . Japanese Journal Endourology ESWL 2002 ; 15 (1): 56-58 .
- 2) Kiriyaama I, Ogaki K<sup>1)</sup>, Ohba S<sup>1)</sup>, Nishimura T ( <sup>1)</sup> Tohsei National Hospital ): Neoadjuvant Hormonal Therapy Prior to Radical Prostatectomy : Evaluation of Pathological Downstaging and Biochemical Relapse . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 (5) : 422-427 .
- 3) Hara S, Kondo Y, Matsuzawa I, Hashimoto Y, Kimura G, Akimoto M, Imura N : Expression of cyclooxygenase-2 in human bladder and renal cell carcinoma . Adv Exp Med Biol 2002 ; 507 : 123-126 .
- 4) Abe Y, Nishimura T, Miura T, Uchikoba T, Ohno T<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Surgery, <sup>2)</sup> Dept. Pathology ): Cystosarcoma phyllodes of the seminal vesicle . International Journal of Urology 2002 ; 9 : 599-601 .

- 5) Fujiwara H, Emi M<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Nishimura T, Konishi N<sup>2)</sup>, Kubota Y<sup>3)</sup>, Ichikawa T<sup>4)</sup>, Takahashi S<sup>5)</sup>, Shuin T<sup>6)</sup>, Habuchi T<sup>7)</sup>, Ogawa O<sup>8)</sup>, Inoue K<sup>9)</sup>, Skolnick Mark H<sup>10)</sup>, Swensen J<sup>10)</sup>, Camp Nicola J<sup>11)</sup>, Sean V Tavtigian<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept. Molecular Biology, Nippon Med Sch, <sup>2)</sup>Dept. Pathology, Nara Med Univ, <sup>3)</sup>Dept. Urology, Yokohama City Univ Med Sch, <sup>4)</sup>Dept. Urology, Graduate Sch Med, Chiba Univ, <sup>5)</sup>Dept. Pathology, Nagoya City Univ Med Sch, <sup>6)</sup>Dept. Urology, Kouchi Med Univ, <sup>7)</sup>Dept. Urology, Akita Univ Med Sch, <sup>8)</sup>Dept. Urology, Univ Kyoto Med Sch, <sup>9)</sup>Univ Hawaii, Queen's Med Center, <sup>10)</sup>Myriad Genetics Inc, <sup>11)</sup>Genetic Epidemiology Group, Dept Med Informatics Univ. Utah Sch Med ): Association of common missense changes in ELAC2 ( HPC2 ) with prostate cancer in Japanese case-control series . Journal of Human Genetics 2002 ; 47 ( 12 ): 641-647 .
- 6) Maynard MA, Qi H, Chung J, Lee EHL EHL, Kondo Y, Hara S, Conaway RC, Conaway JW, Ohh M : Multiple splice variants of the human HIF-3a locus are targets of the VHL E3 Ubiquitin ligase complex . J Biol Chem 2003 ; 278 ( 13 ): 11032-11040 .
- 7) Kiriyaama I, Ohgaki K<sup>1)</sup>, Ohba S<sup>1)</sup>, Egawa K<sup>2)</sup>, Nishimura T ( <sup>1)</sup>Tohsei National Hospital, <sup>2)</sup>Suruga National Sanatorium Hansen's Disease Hospital ): Prostate cancer in patients with Hansen's disease . International Journal of Urology 2003 ; 10 : 177-179 .
- 8) 近藤幸尋 : 21世紀の膀胱癌に対する化学療法の展望 . 泌尿器外科 2002 ; 15 : 449-450 .
- 9) 木村 剛, 木全亮二, 斉藤友香, 吉田和弘, 西村泰司 : 前立腺体積が前立腺癌診断パラメーター及び前立腺癌の臨床病理学的特性に与える影響について . 日本臨床60巻増刊号 2002 ; 11 : 479-485 .
- 10) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木村 剛, 濱崎 務, 木全亮二, 鈴木康友, 三浦剛史, 内木場拓史, 堀内和孝, 坪井成美, 西村泰司 : 腎腫瘍に対する無阻血マイクロ波組織凝固装置を用いた腹腔鏡下腎部分切除術 . 腎癌研究会会報 2002 ; 23 : 19-20 .
- 11) 西村泰司 : 前立腺肥大症に対する診療ガイドライン . 東京都医師会雑誌 2002 ; 55 ( 10 ): 1633-1638 .
- 12) 木村 剛, 木全亮二, 斉藤友香, 西村泰司 : 超音波 Fusion 3D法による前立腺癌診断 . メディカルレビュー 2002 ; 26 ( 2 ): 40-46 .
- 13) 木全亮二, 坪井成美<sup>1)</sup>, 近藤幸尋, 松沢一郎, 塩路 豪<sup>2)</sup>, 木村 剛, 大澤秀一, 西村泰司 ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院, <sup>2)</sup>国立東静岡病院 ): Microwave tissue coagulator 使用による腎部分切除術の経験 . Journal of Microwave Surgery 2002 ; 20 : 93-96 .
- 14) 木全亮二, 西村泰司 : 血尿から腎癌の発見 . 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 ( 12 ): 1581-1584 .
- 15) 木村 剛, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 内木場拓史<sup>1)</sup>, 木全亮二, 近藤幸尋, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 西村泰司 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院, <sup>2)</sup>第二病院 ): Interferon-, cimetidine, UFT が有効であった rapid growth type 進行性腎細胞癌の1例 . 腎癌研究会会報 2003 ; 24 : 38-39 .
- 16) 大澤秀一, 木村 剛, 木全亮二, 松沢一郎, 西村泰司 : 腎癌術後再発におけるインターフェロン 予防投与の意義 . 腎癌研究会会報 2003 ; 24 : 32-33 .
- 17) 三谷比呂士<sup>1)</sup>, 横山英一郎<sup>1)</sup>, 西村泰司 ( <sup>1)</sup>ミタニ泌尿器科 ): 泌尿器科の日帰り手術 . からだの科学 2003 ; ( 229 ) : 58-62 .
- (2) 綜説 :
- 1) 木村 剛 : IFN-a+ シメチジン併用療法, 免疫化学療法の最新知識, 腎細胞癌 免疫療法の最新知識 . Urological Nursing 2002 ; 7 ( 7 ): 656-658 .
- 2) 桐山 功, 西村泰司 : 尿管・尿管吻合 . 臨床泌尿器科 2002 ; 56 ( 11 ): 895-898 .
- 3) 西村泰司 : 慢性前立腺炎 : 非細菌性と細菌性の対比 : 治療 . 泌尿器外科 2002 ; 15 ( 11 ): 1205-1209 .
- 4) 近藤幸尋 : 前立腺全摘除術の適応と実際 . 臨床看護 2003 ; 29 ( 1 ): 61-67 .
- 5) 近藤幸尋 : 膀胱癌のマーカー : 尿中BTA, 尿中NMP22精密測定 . Medical practice 2003 ; 20 ( 3 ): 518-518 .

## 著 書

- 1) 木村 剛：〔共著〕US [パワードブラ] 前立腺癌．泌尿器科診療のための画像診断．基本検査から最新モダリティまで（馬場志郎・池田俊昭・谷本伸弘），2003；pp17-25，メジカルビュー社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 西村泰司：前立腺炎についての思考．第7回埼玉県西部地区泌尿器科研究会，2003．3．

### (2) 教育講演：

- 1) 木村 剛：前立腺癌について．文京区民公開講座，2003．3．
- 2) 木村 剛：前立腺疾患．PSA 検診勉強会（小石川医師会，文京区医師会，豊島区医師会），2002．4．
- 3) 西村泰司：前立腺肥大症に対する診療ガイドライン．日本医師会生涯教育講座，2002．6．
- 4) 木村 剛：前立腺癌の診断．文京区医師会，2002．9．
- 5) 西村泰司：腎・尿路結石治療の進歩．第32回日本腎臓学会東部学術大会，2002．10．
- 6) 木村 剛：前立腺疾患とPSA．足立区医師会，2002．11．
- 7) 木村 剛：PSA による早期前立腺癌診断．印西地区医師会，2003．1．
- 8) 木村 剛：前立腺癌を見逃さないために．荒川区医師会，足立区医師会，2003．3．
- 9) 木村 剛：前立腺癌について．日本医科大学近隣医療機関勉強会，2003．3．

### (3) シンポジウム：

- 1) Nishimura T：How I perform laparoscopic radical nephrectomy for RCC．16th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL，2002．11．
- 2) 近藤幸尋：Androgen 投与（ART）は前立腺癌・前立腺肥大症発生・憎悪に結びつかないか？第2回日本 Aging Male 研究会，2002．9．
- 3) 木村 剛，三浦剛史<sup>1)</sup>，内木場拓史<sup>1)</sup>，木全亮二，近藤幸尋，堀内和孝<sup>2)</sup>，西村泰司（<sup>1)</sup>千葉北総病院，<sup>2)</sup>第二病院）：Interferon- $\alpha$ ，cimetidine，UFT が有効であった rapid growth type 進行性腎細胞癌の1例．第24回腎癌研究会，2002．10．
- 4) 近藤幸尋，西村泰司：ネオブラダー作製にあたって（簡単に作ろう Neobladder：ここがポイント）．日本泌尿器科学会東部総会，2002．11．

### (4) パネルディスカッション：

- 1) 木村 剛，木全亮二，斉藤友香，西村泰司：血流を加味した前立腺癌の超音波診断：Fusion 3D 法．第90回日本泌尿器科学会総会，2002．4．

### (5) ワークショップ：

- 1) 近藤幸尋，松沢一郎，木村 剛，濱崎 務，木全亮二，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術．第15回内視鏡外科学会，2002．11．

### (6) 一般講演：

- 1) Kondo Y，Matsuzawa I，Kimura G，Nishimura T，Hara S：Overexpression of hypoxia-inducible factor-1a in bladder cancer cells increases tumorigenic potency．American Association for Cancer Research（San Francisco），2002．4．
- 2) Kimura G，Kimata R，Saito Y，Nishimura T：POWER DOPPLER ULTRASOUND ENHANCE THE SPECIFICITY OF THE DIAGNOSTIC PARAMETERS RELATED TO PROSTATE SPECIFIC ANTIGEN IN EARLY PROSTATE CANCER DETECTION：A MULTIVARIATE ANALYSIS．97th American Urological Association annual meeting（Orlando），2002．5．
- 3) Horiuchi Kazutaka，Shimizu H，Uchikoba T，Miura T，Kimura G，Kondo Y，Nishimura T：High-fre-

- quency endoluminal ultrasonography using a novel ultrasonic cystofiberscope for staging transitional cell carcinoma of the bladder . 97th American Urological Association annual meeting ( Orlando ), 2002 . 5 .
- 4) Kondo Y, Matsuzawa I, Kimura G, Horiuchi K, Tsuboi N, Yoshida K, Nishimura M : Laparoscopic radical prostatectomy is possible to be standard therapy for early prostate cancer . 26th Congress of the Societe Internationaled' Urologie ( Stockholm ), 2002 . 9 .
  - 5) Kondo Y, Matsuzawa I, Hara S, Akimoto M, Nishimura T : Role of hypoxia inducible factor-1a on angiogenesis in human bladder cancer . 26th Congress of the Societe Internationaled' Urologie ( Stockholm ), 2002 . 9 .
  - 6) 木村 剛, 林 宏光<sup>1)</sup>, 木全亮二, 齋藤友香, 小山行秀, 坪井成美, 西村泰司, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学): CT Perfusion 法により腎癌組織型の鑑別診断は可能か? 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 7) 近藤幸尋, 松沢一郎, 鈴木康友, 木村 剛, 原俊太郎, 西村泰司: 膀胱腫瘍における低酸素応答因子の血管新生における役割 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 8) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 齋藤友香, 西村泰司: Sildenafil使用はテストステロン値に変化を与えらるか? 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 9) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 佐藤三洋, 野村可之<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 坪井成美, 西村泰司(<sup>1)</sup>北村山公立病院): 腹腔鏡下前立腺全摘除術: その合併症と有用性 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 10) 木全亮二, 近藤幸尋, 塩路 豪, 木村 剛, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 西村泰司, 村田 智<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup>放射線医学): 浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 11) 木全亮二, 木村 剛, 鈴木康友, 三浦剛史, 佐藤三洋, 吉田和弘, 西村泰司: Bellini duct carcinoma のdynamic CT の特徴 . 第77回千葉泌尿器科集談会, 2002 . 6 .
  - 12) 松沢一郎, 近藤幸尋, 濱崎 務, 内木場拓史, 富田 勝, 吉田和弘, 西村泰司: 経尿道的治療を行ったミューラー氏管嚢胞の1例 . 第77回千葉泌尿器科集談会, 2002 . 6 .
  - 13) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 西村泰司: 前立腺の3次元血管構築の解析 . 第6回臨床解剖研究会, 2002 . 7 .
  - 14) 木村 剛, 佐藤三洋, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司: Partin table versus Egawa table : 当院の根治的前立腺全摘症例での検討 . 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002 . 9 .
  - 15) 松沢一郎, 木全亮二, 近藤幸尋, 西村泰司, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第3): ワーファリンが奏功した持続勃起症 . 日本性機能学会, 第13回学術総会, 2002 . 9 .
  - 16) 木村 剛, 佐藤三洋, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司: 日本版 nomogram ( Egawa table ) で, PSA failure ( PSAF ) は予測可能か? 当院の根治的前立腺全摘術症例での検討 . 第40回日本癌治療学会, 2002 . 10 .
  - 17) 大澤秀一, 木村 剛, 木全亮二, 松沢一郎, 西村泰司: 腎癌術後再発におけるインターフェロン 予防投与の意義 . 第24回腎癌研究会, 2002 . 10 .
  - 18) 中村亮介, 高橋 亮, 近藤幸尋, 三田征治, 丸山隆幸, 国本 学, 原俊太郎: 膀胱癌の発症・進展におけるプロスタグランジンE受容体EP1の機能の解明 . 第75回日本生化学会大会, 2002 . 10 .
  - 19) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 鈴木康友, 吉田和弘, 富田祐司, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における経皮的膀胱頸部牽引 . 第15回内視鏡外科学会, 2002 . 11 .
  - 20) 山田 隆, 松村好克, 竹下俊行, 明楽重夫, 荒木 勤, 松沢一郎, 近藤幸尋, 西村泰司, 村上正洋, 百束比古: 細径腹腔鏡が真性半陰嚢の確定診断に有用であった1症例 . 第15回内視鏡外科学会, 2002 . 11 .
  - 21) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木村 剛, 堀内和孝, 坪井成美, 濱崎 務, 鈴木康友, 木全亮二, 三浦剛史, 内木場拓史, 佐藤三洋, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘術における経皮膀胱頸部牽引の有用性 . 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002 . 11 .
  - 22) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木村 剛, 濱崎 務, 木全亮二, 佐藤三洋, 内木場拓史, 三浦剛史, 堀内和孝, 坪井成美,

- 清水宏之, 吉田和弘, 西村泰司: 腎腫瘍に対する無阻血マイクロ波組織凝固装置を用いた腹腔鏡下腎部分切除術の有用性. 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002. 11.
- 23) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木村 剛, 内木場拓史, 佐藤三洋, 清水宏之, 渡辺 潤, 塩路 豪, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術の手術時間規定因子の解析. 16th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL, 2002. 11.
- 24) 近藤幸尋, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 木全亮二, 木村 剛, 堀内和孝, 坪井成美, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における体外式膀胱頸部牽引. 16th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL, 2002. 11.
- 25) 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 齋藤友香, 吉田和弘, 西村泰司, 沖 守<sup>1)</sup>, 長谷川潤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>はせがわ病院): AESOPを用いた腹腔鏡下前立腺全摘術. 16th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL, 2002. 11.
- 26) 原俊太郎, 近藤幸尋, 国本 学: 低酸素応答性転写因子HIF-3aのsplicing variantのヒト組織における発現. 第25回日本分子生物学会年会, 2002. 12.
- 27) 富田祐司, 濱崎 務, 鈴木康友, 松沢一郎, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 後腹膜神経鞘腫の1例. 第558回日本泌尿器科学会東京地方会, 2003. 1.
- 28) 木村 剛, 佐藤三洋, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司: PSA failureに対する日本版nomogram (Egawa table) の有用性について. 泌尿器がん治療フォーラム2003, 2003. 2.
- 29) 原俊太郎, 村松香織, 細見朋子, 石田周子, 近藤幸尋, 国本 学: ヒト低酸素応答性転写因子HIF-3aのsplicing variantの発現と性状. 日本薬学会第123年会, 2003. 3.
- 30) 齋藤友香, 濱崎 務, 近藤幸尋, 木村 剛, 鈴木康友, 松沢一郎, 富田祐司, 吉田和弘, 西村泰司, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 沖 守<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>はせがわ病院): 巨大尿管ポリープの1例. 第560回日本泌尿器科学会東京地方会, 2003. 3.

## [ 第二病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では, 腎癌, 尿路上皮腫瘍, 前立腺癌, 精巣腫瘍などの尿路生殖器腫瘍をはじめ, 尿路結石, 前立腺肥大症, 排尿障害を中心に診療ならびに研究を行っている.

- 1) 腎癌に対して腹腔鏡下腎摘除術ならびに腎温存手術を積極的に行い, 進行性腎癌に対しては, 免疫化学療法を行い, 治療成績について検討している.
- 2) 尿路上皮内癌の治療および表在性膀胱腫瘍の再発予防に対するBCG注入療法の治療効果について検討している.
- 3) 浸潤性膀胱癌に対しては, 経尿道的腫瘍切除術と動脈内注入療法を行い, 膀胱温存の可能性について検討している. 浸潤性上部尿路腫瘍に対しては, 手術療法と化学療法を組み合わせた集学的治療を行い治療成績について検討している.
- 4) 前立腺癌の早期発見に対するドプラーを用いた経直腸の前立生検術の有効性について検討している.
- 5) 早期前立腺癌に対して, 腹腔鏡下前立腺摘除術を行い, 治療成績について検討している.
- 6) 基礎的には, 膀胱癌・前立腺癌の発症に係わる遺伝子の検索および同定を行っている.
- 7) 腎結石ならびに尿管結石に対して, 体外衝撃波結石破碎術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている.
- 8) ホルミウムYAGレーザーを用いた内視鏡手術, 腹腔鏡下手術の有用性について検討している.
- 9) プタを用いた基礎実験を行い, 細径プローブ超音波による膀胱の正常層構造を同定し, 今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用している. さらに, 細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し, 臨床応用している.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Hiromichi F, Emi M<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Kubota Y<sup>4)</sup>, Ichikawa T<sup>5)</sup>, Takahashi S<sup>6)</sup>, Shuin T<sup>7)</sup>, Habuchi T<sup>8)</sup>, Ogawa O<sup>9)</sup>, Inoue K<sup>10)</sup>, Skolnick Mark H<sup>11)</sup>, Swensen J<sup>11)</sup>, Camp Nicola J<sup>12)</sup>, Tavtigian Sean V<sup>11)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nara Medical University, <sup>4)</sup> Department of Urology, Yokohama City Medical University, <sup>5)</sup> Department of Urology, Graduate School of Medicine Chiba University, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Nagoya City University Medical School, <sup>7)</sup> Department of Urology, Kouchi Medical University, <sup>8)</sup> Department of Urology, Akita University Medical School, <sup>9)</sup> Department of Urology, University of Kyoto Medical School, <sup>10)</sup> University of Hawaii, Queen's Medical Center, <sup>11)</sup> Myriad Genetics, Inc. <sup>12)</sup> Genetic Epidemiology Group Department of Medical Informatics, University of Utah School of Medicine ): Association of common missense changes in ELAC2 ( HPC2 ) with prostate cancer in a Japanese case-control series . J. Hum. Genet. 2002 ; 47 ( 10 ): 641-648 .
- 2) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ): 腎腫瘍に対する無限度マイクロ波組織凝固装置を用いた腹腔鏡下腎部分切除術 . 腎癌研究会会報 2002 ; 23 : 19-20 .
- 3) 木全亮二<sup>1)</sup>, 坪井成美, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 国立東静病院泌尿器科 ): Microwave tissue coagulator 使用による腎部分切除術の経験 . Journal of Microwave Surgery 2002 ; 20 : 92-96 .
- 4) 木村 剛<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ): Interferon- $\gamma$ , cimetidine UFT が有効であった rapid growth type 進行性腎細胞癌の1例 . 腎癌研究会会報 2003 ; 24 : 38-39 .

#### (2) 綜説 :

- 1) 堀内和孝 : 静脈性腎盂造影 ( IVP ) を安全に行う上での注意点 . 内科総合誌 Medical Practice 2002 ; 19 ( 12 ): 2110-2110 .

### 学会発表

#### (1) シンポジウム :

- 1) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ): 腎腫瘍に対する無阻血マイクロ波組織凝固装置を用いたハンドアシスト法による腹腔鏡下腎部分切除術 「腎癌に対する細菌の手術療法について」 . 第23回腎癌研究会, 2002 . 4 .
- 2) 木村 剛<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院泌尿器科 ): Interferon- $\gamma$ , cimetidine UFT が有効であった rapid growth type 進行性腎細胞癌の1例 . 第24回腎癌研究会, 2002 . 10 .

#### (2) パネルディスカッション :

- 1) 木村 剛<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 齋藤友香, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): 血流を加味した前立腺癌の超音波診断 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .

#### (3) 一般講演 :

- 1) Horiuchi K, Shimizu H<sup>1)</sup>, Uchikoba T<sup>2)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept . of Urological, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Dept . of Urological, Nippon Medical School Chibahokuso



Hospital ): HIGH-FREQUENCY ENDOLUMINAL ULTRASONOGRAPHY USING A NOVEL ULTRASONIC CYSTOFIBERSCOPE FOR STAGING TRANSITIONAL CELL CARCINOMA OF THE BLADDER . 97th American Urological Association Annual Meeting (Orland), 2002 . 5 .

- 2) Kondo Y<sup>1)</sup>, Matsuzawa I<sup>1)</sup>, Kimura G<sup>1)</sup>, Horiuchi K, Tsuboi N, Yoshida K<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Urological, Nippon Medical School Hospital ): Laparoscopic radical prostatectomy is possible to be standard therapy for early prostate cancer . 26th Congress of the Societe International of Urologie ( Stockholm ), 2002 . 9 .
  - 3) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 野村可之<sup>3)</sup>, 清水宏之<sup>3)</sup>, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>3)</sup>北村山公立病院泌尿器科 ): 腹腔鏡下前立腺全摘除術: その合併症と有用性 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 4) 木村 剛<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 齋藤友香, 小山行秀<sup>1)</sup>, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科 ): CT Perfusion 法により腎癌組織型の鑑別診断は可能か? 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 5) 木全亮二<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 西村泰司<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同放射線科 ): 浸潤性膀胱癌に対する閉鎖循環下抗癌剤灌流療法: 治療効果と副作用について . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 6) 堀内和孝, 清水宏之<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 坪井成美, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科 ): ENDOLUMINAL ULTRASONOGRAPHY による尿路上皮腫瘍の深達度診断 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 7) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 濱崎 努<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 小山行秀<sup>1)</sup>, 阿部裕之<sup>3)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>3)</sup>多摩永山病院泌尿器科 ): 腹腔鏡下前立腺全摘術における経皮的膀胱頸部牽引の有用性 . 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 8) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 齋藤友香, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科 ): Sildenafil 使用はテストステロン値に変化を与えるか? 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002 . 4 .
  - 9) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科 ): 腹腔鏡下前立腺全摘術における経皮膀胱頸部牽引の有用性 . 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002 . 9 .
  - 10) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>, 三浦剛史<sup>2)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 清水宏之<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>千葉北総病院泌尿器科 ): 腎腫瘍に対する無阻血マイクロ波組織凝固装置を用いた腹腔鏡下腎部分切除術の有用性 . 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002 . 9 .
  - 11) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 坪井成美, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科 ): 腹腔鏡下前立腺全摘除術における体外式膀胱頸部牽引 . 16th Congress of the Japanese Society of Endourology and ESWL , 2002 . 11 .
- (4) ポスターセッション :
- 1) Horiuchi K, Shimizu H<sup>1)</sup>, Fujiwara H, Oka F, Tsuboi N, Nishimura T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Urology, Nippon Medical School Hospital ): ENDOVEVICAL ULTRASONOGRAPHY USING A ULTRASONIC CYSTOFIBERSCOPE FOR STAGING BLADDER TUMORS . Congress of Endoscopic and laparoscopic Surgeons of Asia, 2002 ( ELSA, 2002 )( TOKYO, JAPAN ), 2002 . 9 .

## [ 多摩永山病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科は、開設して14年になるが研究業績の主なものは次のようなものである。

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は、1984年に開始して以来2000例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。

この術式を用いて研究を行っている。最近ではPSAの研究が多い。

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は、内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより、前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では、早期前立腺癌に対して、輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では、腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3横指）前立腺全摘除術を施行している。断端陽性例に対しては放射線療法を行っている。

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては、組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては、組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6ヶ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術か腎摘出術を行っている。

今までの研究では、9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍：副腎、腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

1) Zou W, Hiraoka Y: Clinical Comparative Evaluation of Radical Retropubic and Perineal Prostatectomy Approaches for Prostate Cancer. Acta Urol Jpn 2003; 49: 11-16.

##### (2) 綜説：

1) 平岡保紀, 清水有二, 高橋洋文, 鈴木康友<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科): 尿失禁の手術(膀胱頸部挙上術). 臨床泌尿器科 2002; 56(4): 288-291.

2) 平岡保紀: 前立腺肥大症の治療. year note 2003 別冊 SELECTED ARTICLES 2002; 801-811.

3) 阿部裕行: 泌尿器科検査治療の最近の動向. 新医療 2002; 88-91.

4) 平岡保紀, 左 維: 前立腺肥大症の生化学診断法(癌との鑑別を含めて). 日本臨床 2002; 60(11): 342-345.

5) 平岡保紀, 高橋洋文, 清水有二: 前立腺肥大症. 薬局別冊(病気と薬の説明ガイド2003) 2003; 54: 569-573.

##### (3) 症例：

1) Abe H, Nishimura T<sup>1)</sup>, Miura T<sup>2)</sup>, Uchikoba T<sup>2)</sup>, Ohno T<sup>3)</sup>, Ishikawa N<sup>3)</sup>, Yokoi K<sup>3)</sup>, Ohaki Y<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital): Cystosarcoma phyllodes of the seminal vesicle. Int J Urol 2002; 599-601.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 平岡保紀：会陰式前立腺全摘除術．山梨泌尿器科手術手技研究会，2002．9．

### (2) 招待講演：

- 1) 平岡保紀：平岡式経尿道の前立腺剥離切除術．中国南京医科大学招待講演（中国，南京），2002．12．

### (3) 一般講演：

- 1) 平岡保紀：TURP施行時に露出される浅層の外腺様組織は解剖学的外腺組織と一致するのか．第90回日本泌尿器科学会総会，2002．4．
- 2) 平岡保紀：TURP施行時に露出される浅層の外腺様組織は解剖学的外腺組織と一致するのか．第63回多摩泌尿器科医会，2002．11．

### (4) ポスター：

- 1) 平岡保紀：CLINICAL COMPARATIVE EVALUATION OF RADICAL RETROPUBIC AND PERINEAL PROSTATECTOMY APPROACHES FOR PROSTATE CANCER．26th Congress of the Societe Internationale d' Urologie ( Stockholm )，2002．9．

## [ 千葉北総病院泌尿器科 ]

### 研究概要

当科では，尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石，排尿障害，勃起障害を中心に診療・研究を行っているが，特筆すべきものを以下に示す．

- 1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には，根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い，膀胱温存の可能性について検討している．基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる塩酸ピラルピシンの癌細胞内への取り込みを検討している．
- 2) 前立腺癌の正診率を高めるため超音波パワードプラ法を採用している．限局性前立腺癌に対しては，本邦で先端をいっている腹腔鏡下前立腺全摘除術を行い開腹術との比較検討を行うと共に，骨盤の大きさが手術に与える影響を調べている．局所浸潤性前立腺癌に対しては，ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている．基礎的には前立腺操作におけるPSA molecular formの変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている．
- 3) アンドロジーに関しては，雄ラットの性行動中の筋電図からその周波数特性により得た新知見について薬物使用の可能性を検討している．

### 研究業績

#### 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Horiuchi K<sup>1)</sup>, Shimizu H<sup>2)</sup>, Uchikoba T, Miura T, Kimura G<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>2)</sup>, Nishimura T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Daini Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School Hospital ): HIGH-FREQUENCY ENDOLUMINAL ULTRASONOGRAPHY USING A NOVEL ULTRASONIC CYSTO-FIBER-SCOPE FOR STAGING TRANSITIONAL CELL CARCINOMA OF THE BLADDER. 97th American Urological Association Annual Meeting ( Orland ), 2002. 5.
- 2) 佐藤三洋, 木村 剛<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院泌尿器科 ): 前立腺操作におけるPSA変動の検討．第90回日本泌尿器科学会総会，2002．4．
- 3) 堀内和孝<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰

- 司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>第二病院泌尿器科): ENDOLUMINAL ULTRASONOGRAPHYによる尿路上皮腫瘍の深達度診断. 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002. 4.
- 4) 松沢一郎<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 野村可之<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>3)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>北村山公立病院泌尿器科,<sup>3)</sup>第二病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺全摘除術: その合併症と有用性. 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002. 4.
- 5) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 三浦剛史, 内木場拓史, 佐藤三洋, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>第二病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺全摘術における経皮膀胱頸部牽引の有用性. 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002. 9.
- 6) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 佐藤三洋, 内木場拓史, 三浦剛史, 堀内和孝<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 清水宏之<sup>2)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>第二病院泌尿器科,<sup>3)</sup>北村山公立病院泌尿器科): 腎腫瘍に対する無阻血マイクロ波組織凝固装置を用いた腹腔鏡下腎部分切除術の有用性. 第67回日本泌尿器科学会東部総会, 2002. 9.
- 7) 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 三浦剛史, 内木場拓史, 小山行秀<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>3)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科,<sup>2)</sup>多摩永山病院泌尿器科,<sup>3)</sup>第二病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺前立腺全摘術における経皮的膀胱頸部牽引の有用性. 第90回日本泌尿器科学会総会, 2002. 10.

## 16. 眼科学講座

### [ 付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科 ]

#### 研究概要

本年度も、眼サルコイドーシス（眼サ症）を中心としたぶどう膜炎の臨床（大原）、角結膜疾患の臨床と基礎（高橋、堀）、白内障手術に関する臨床と基礎（大原、志和、小原澤、茨木）、学生・研修医の教育の研究（志和、小原澤）をメインテーマとして研究を行った。

眼サ症の臨床研究については、診断、治療、病因をテーマとし、研究成果をシンポジウムなどでぶどう膜炎研究グループが発表した。

角結膜疾患では、角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫学的検討、新鮮羊膜上皮が発現する炎症関連因子などの研究成果を角膜カンファランスや日本眼科学会総会などで発表した。白内障手術に関する臨床と研究面においては、眼内から摘出した眼内レンズの組織学的検討、摘出した前囊の祖引き学的検討、後発白内障の定量化の研究、眼内手術による瞳孔変形が虹彩による個人認証システムにおよぼす影響を発表した。

学生・研修医の教育の研究面では、当院で運用しているマルチメディア装置による早期臨床教育の実態を報告し、また、サイバーエデュケーションシステムの活用状況について紹介し教育における研究と実践を行った。その他、多数の症例報告を行い、眼科臨床面における診断と治療法につき研究を継続した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kagaya F<sup>1)</sup>, Hori J, Kamiya K<sup>1)</sup>, Kaji Y<sup>1)</sup>, Oshika T<sup>1)</sup>, Amano S<sup>1)</sup>, Yamagami S<sup>1)</sup>, Tsuru T, Tanaka S, Matsuda H, Yagita H, Okumura K: Inhibition of murine corneal allograft rejection by treatment with antibodies to CD80 and CD86. *Exp Eye Res* 2002; 74: 131-139.
- 2) Hori J, Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Schepens Eye Reseach Institute, Harvard Medical School ): Survival in high-risk eyes of epithelium-deprived orthotopic couneal allografts reconstituted in vitro with syngeneic epithelium. *IOVS* 2002; 44 ( 2 ): 658-664.
- 3) Ng TF<sup>1)</sup>, Osawa H<sup>1)</sup>, Hori J, Young MJ<sup>1)</sup>, Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Schepens Eye Research ): Allogeneic neonatal neuronal retina grafts display psrtial immune privilege in the subcapsular space of the kidney. *J Immunol* 2002; 169 ( 10 ): 5601-5606.
- 4) Takahashi H, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Takahashi R<sup>2)</sup>, Ohmura T<sup>2)</sup>, Shimamura S<sup>3)</sup>, Ohara K ( <sup>1)</sup> 麻酔科, <sup>2)</sup> わかもと製薬, <sup>3)</sup> 東京歯科大学 ): Free Radicals in Phacoemulsification and Aspiration Procedures. *Arch Ophthalmol* 2002; 120 ( 10 ): 1348-1352.
- 5) Igarashi T, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Takahashi H, Ohara K, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology ): New strategy for in vivo transgene expression in corneal epithelial progenitor cells. *Current Eye Research* 2003; 21 ( 1 ): 46-50.
- 6) Igarashi T, Miyake K<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Ohara K, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Mokecular Biology, Division of Gene Therapy, <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy model. 2003; 10 ( 3 ): 219-226.
- 7) 堀 純子: 羊膜の免疫学的な特殊性. *眼科手術* 2002; 15: 11-15.

- 8) 中元兼二：糖尿病網膜症．自警 2002；84：40-41．
- 9) 大塚千明，高橋 浩，大原國俊：鼻側角膜切開超音波乳化吸引術を行った壊死性強膜炎．あたらしい眼科 2002；19：223-226．
- 10) 堀口さおり，東 永子，志和利彦，大原國俊：逆Capsular block syndromeの1例．眼科手術 2002；15 (3)：375-377．
- 11) 坪田一男<sup>1)</sup>，井上 孝<sup>1)</sup>，水口 清<sup>1)</sup>，佐藤 裕<sup>1)</sup>，中野洋子<sup>1)</sup>，斎藤一郎<sup>1)</sup>，吉野健一，野々山進<sup>1)</sup>，下野正基<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京歯科大学)：：シェーグレン症候群における腺破壊のメカニズムと涙液および唾液分泌の分子機構に関する研究．歯科学報 2002；102(3)：168-170．
- 12) 新井江里子，高橋 浩，大原國俊：ケラトエピセリン遺伝子解析を施行したプレデスメジストロフィの1例．眼紀 2002；53(3)：279-281．
- 13) 上玉麻子，高橋 浩，東 永子，大原國俊：慢性関節リウマチの周辺部角膜穿孔に対し羊膜移植を施行した1例．眼紀 2002；53(10)：935-938．
- 14) 神元亜季子，横山恭典，茨木信博：視力予後良好であった両眼性網膜中心動脈閉塞症による血管新生緑内障の1例．眼臨 2002；96(9)：934-937．
- 15) 五十嵐勉，島田 隆<sup>1)</sup>，大原國俊(<sup>1)</sup>生化学第2)：遺伝子治療の基礎と眼疾患への応用．あたらしい眼科 2002；19(9)：1185-1196．
- 16) 大原國俊：サルコイドーシス治療に関する見解：2003．日本眼科学会雑誌 2003；107(2)：113-121．

## 著 書

- 1) Igarashi T, Miyake K<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>1)</sup>, Takahashi H, Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>生化学第2)：〔分担〕In vivo gene transfer into corneal epithelial progenitor cells by viral vectors. Advances in experimental medicine and biology (Vol 506), Lacrimal Gland, Tear Film, and Dry Eye Syndromes 3, . Basic science and clinical relevance (Sullivan DA, Stern ME, Tsubota K, Dartt DA, Sullivan RM, Bromberg BB), 2002；pp1309-1314, Kluwer academic/Plenum publishers．
- 2) 堀 純子：〔共著〕角膜内皮細胞：最近の知見と展望，選択的免疫反応抑制．眼科診療プラクティス，2002；pp85-87，文光堂．
- 3) 吉野健一，坪田一男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京歯科大学)：〔共著〕ドライアイクリニックの立ち上げ方．ドライアイ診療PPP (ドライアイ研究会編)，2002；pp94-109，東京メディカルビュー．
- 4) 高橋 浩：〔共著〕結膜炎．外来診療クイックマニュアル第3版(メディカルブレイン)，2003；pp288-289，イーホープ社．
- 5) 高橋 浩：〔共著〕アレルギー性結膜炎の薬物治療．外来診療クイックマニュアル第3版(メディカルブレイン)，2003；pp290-291，イーホープ社．
- 6) 高橋 浩：〔共著〕角膜炎(角膜潰瘍)．外来診療クイックマニュアル第3版(メディカルブレイン)，2003；pp308-309，イーホープ社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 高橋 浩：角膜上皮治療の進歩．第49回獨協越谷病院眼科研究会，2002．6．
- 2) 吉野健一：オルソケラトロジー．第14回COST，2002．7．
- 3) 大原國俊：白内障手術：プレチヨップによる核分割の利点と欠点 術後眼内水晶体上皮細胞のTV付きスリット所見．第4回城東地区眼疾患セミナー，2002．9．
- 4) 大原國俊：ぶどう膜炎．保険医療講習会，東京，平成14年10月5日．保険医療講習会，2002．10．

- 5) 中元兼二：ラタノプロストを中心とした眼圧下降治療．ファルマシア首都圏テレフォンカンファレンス，2002．10．
- 6) 高橋 浩：角膜上皮疾患治療の進歩：ドライアイから遺伝子治療まで．第727回東京眼科集談会，2002．12．
- 7) 志和利彦：白内障：後囊破損，硝子体脱出時の戦略．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 8) 中元兼二：正常眼圧緑内障の診断と治療 眼圧日内変動を中心として．ファルマシア首都圏テレフォンカンファレンス，2003．3．

(2) シンポジウム：

- 1) 東 永子：「ぶどう膜炎と病診連携Q&A」サルコイドーシス．第35回日本眼科講演会，2002．6．

(3) 一般講演：

- 1) 松井洋法，鈴木幸史，堀 純子，志和利彦，大原國俊：網膜動脈閉塞症の治療中に多臓器不全をきたした1症例の経験．第108回日本医大眼科症例検討会，2002．6．
- 2) Igarashi T，Miyake K<sup>1)</sup>，Kato M，Suzuki N<sup>1)</sup>，Ishizaki M<sup>2)</sup>，Takahashi H，Ohara K，Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy, <sup>2)</sup> Department of Pathology): HIV vector mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative retinopathy model．ARVO ( Florida ), 2002．5．
- 3) Takahashi H，Igarashi T，Fujimoto C，Ogata K，Ishizaki M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Pathology): Immunohistochemical observation of the effects of the amniotic membrane after corneal alkali burn．ARVO ( Florida ), 2002．5．
- 4) Hori J，Ohara K，Sakuragawa N<sup>1)</sup>，Streilein JW<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 国立精神神経センター，<sup>2)</sup> Schepens Eye Research): Pro-inflammatory effect of amniotic epithelial allografts on orthotopic corneal allografts．ARVO ( Florida ), 2002．5．
- 5) Fujimoto C，Hori J，Ohara K，Streilein JW<sup>1)</sup>，Takemori T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Schepens Eye Research，<sup>2)</sup> 国立感染症研究所疫学): Role of recipient epithelium in inhibition of langerhans cells migration into orthotopic corneal allografts．ARVO ( Florida ), 2002．5．
- 6) Kato K<sup>1)</sup>，Miyake K<sup>1)</sup>，Suzuki N<sup>1)</sup>，Okabe M<sup>1)</sup>，Igarashi T，Nagashima M<sup>2)</sup>，Yoshino S<sup>2)</sup>，Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Biochemistry and Molecular Biology，<sup>2)</sup> Joint Disease and Rheumatism): HIV Vector-mediated gene transfer of angiostatin inhibits synovial cell proliferation and angiogenesis of collagen induced mouse model．American society of gene therapy ( Boston ), 2002．6．
- 7) Igarashi T，Miyake K<sup>1)</sup>，Kato M<sup>1)</sup>，Kato K<sup>1)</sup>，Suzuki N<sup>1)</sup>，Ishizaki M<sup>2)</sup>，Takahashi H，Ohara K，Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy, <sup>2)</sup> Department of Pathology): Inhibition of neovascularization in a murine proliferative retinopathy model by lentivirus mediated expression of angiostatin．The Japan Society of Gene Therapy ( Tokyo ), 2002．7．
- 8) Yoshino K，Suzuki M，Komiya T：Comparison of the quality of vision in patients with postoperative LASIK and post Ortho-K treatment, both with myopia less than 4D．Global orthokeratology symposium ( Toronto ), 2002．8．
- 9) Ohara K，Shiwa T，Oharazawa H，Azuma H，Suzuki H，Kawazoe N：The lens epithelial cells in pseudophakic eyes．ESCRS ( Nice ), 2002．9．
- 10) Igarashi T，Miyake K<sup>1)</sup>，Kato M<sup>1)</sup>，Hayakawa J<sup>1)</sup>，Ishizaki M<sup>2)</sup>，Takahashi H，Ohara K，Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy, <sup>2)</sup> Department of Pathology): Bone marrow cells differentiated into neuron and glia in the mouse retina．ISER ( Switzerland ), 2002．10．
- 11) Igarashi T，Miyake K<sup>1)</sup>，Kato K<sup>1)</sup>，Kurai T，Ishizaki M<sup>2)</sup>，Takahashi H，Ohara K，Shimada T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy, <sup>2)</sup> Department of Pathology): Lentivirus-mediated expression of angiostatin efficiently inhibits neovascularization in a murine proliferative

- retinopathy model . European society of gene therapy ( France ), 2002 . 10 .
- 12) Kurai T , Igarashi T , Kato M , Noro T<sup>1)</sup> , Miyake K<sup>1)</sup> , Ogawa K<sup>1)</sup> , Ishizaki M<sup>2)</sup> , Takahashi H , Ohara K , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Adeno-associated virus mediated systemic delivery of endostatin inhibits retinal angiogenesis without affecting growth and development of newborn mice . European society of gene therapy ( France ), 2002 . 10 .
  - 13) Igarashi T , Kurai T , Hayakawa J<sup>1)</sup> , Kawabata K<sup>1)</sup> , Miyake K<sup>1)</sup> , Ishizaki M<sup>2)</sup> , Takahashi H , Ohara K , Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy , <sup>2)</sup> Department of Pathology ): Circulating bone marrow cells migrated into the retinal tissue of the newborn mice and differentiated into retinal cells . American society of hematology ( USA ), 2002 . 12 .
  - 14) Hori J , Streilein JW<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Svelpens Eye Research ): Survival in high-risk eyes of epithelium-deprived orthotopic corneal allografts reconstituted in vitro with syngeneic epithelium . SERI-ARVO ( Singapore ), 2003 . 2 .
  - 15) Fujimoto C , Hori J , Ohara K , Streilein JW<sup>1)</sup> , Takemori T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Schepens Eye Research , <sup>2)</sup> 国立感染症研究所免疫 , Fujimoto C, Hori J, Ohara K, Streilein JW<sup>1)</sup>, Takemori T<sup>2)</sup> ( 1 : Schepens Eye Research ) ( 2 : 国立感染症研究所免疫 ) ): Role of recipient epithelium in inhibition of langerhans cells migration into orthotopic corneal allografts . SERI-ARVO ( Singapore ), 2003 . 2 .
  - 16) 高橋 浩 , 五十嵐勉 , 藤本千明 , 大原國俊 , 石崎正通<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理第1 ): 角膜アルカリ熱傷に対する羊膜移植の免疫組織学的検討 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 17) 堀 純子 , 大原國俊 , 櫻川宣男<sup>1)</sup> , 竹森利忠<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立精神神経センター , <sup>2)</sup> 国立感染症研究所免疫 ): 新鮮羊膜上皮が発現する炎症関連因子 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 18) 野田康雄<sup>1)</sup> , 天野史郎<sup>1)</sup> , 三村達哉<sup>1)</sup> , 大鹿哲郎<sup>1)</sup> , 下村直樹<sup>2)</sup> , 堀 純子 , 永井祐三<sup>3)</sup> , 宮田和典<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学 , <sup>2)</sup> 同愛記念病院 , <sup>3)</sup> 宮田眼科病院 ): 培養ヒト角膜内皮細胞の性状の共焦点顕微鏡による検討 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 19) 藤本千明 , 堀 純子 , 大原國俊 , 竹森利忠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立感染症研究所免疫 ): キメラ角膜移植後の効果相における免疫特権の検討 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 20) 中元兼二 , 南野麻美<sup>1)</sup> , 紀平弥生<sup>1)</sup> , 村井恵子<sup>1)</sup> , 福田 匠<sup>1)</sup> , 安田典子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京警察病院 ): 正常眼圧緑内障におけるラタノプロストの眼圧日内変動に及ぼす効果 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 21) 五十嵐勉 , 三宅弘一<sup>1)</sup> , 加藤美穂 , 加藤 興<sup>1)</sup> , 鈴木典子<sup>1)</sup> , 高橋 浩 , 大原國俊 , 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 生化学第2 ): HIV ベクターを使った網膜新生血管をに対する遺伝子治療 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 22) 奥川加寿子<sup>1)</sup> , 神谷和孝<sup>1)</sup> , 内田彩子<sup>1)</sup> , 天野史郎<sup>1)</sup> , 大鹿哲郎<sup>1)</sup> , 櫻川宣男<sup>2)</sup> , 堀 純子 ( <sup>1)</sup> 東京大学 , <sup>2)</sup> 国立精神神経センター ): ヒト羊膜上皮細胞培養上清点眼後の角膜におけるサイトカイン発現の変化 . 日本眼科学会総会 , 2002 . 5 .
  - 23) 柿木一邦 , 中嶋花子 , 高橋 浩 , 大原國俊 : 硝子体手術後に遷延性角膜上皮欠損を呈した1症例 . 第108回日本医大眼科症例検討会 , 2002 . 6 .
  - 24) 堀口さおり , 岩波美陽 , 矢口智恵美 , 若山かおり , 清水暢夫 : 全身疾患を合併した Peters 奇形の1例 . 第108回日本医大眼科症例検討会 , 2002 . 6 .
  - 25) 小原澤英彰 , 村野奈緒 , 鈴木久晴 , 東 永子 , 志和利彦 , 大原國俊 , 大西克尚<sup>1)</sup> , 雑賀司珠也<sup>1)</sup> , 宮本 武<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 和歌山医大 ): 術後 IOL 偏値によるレンズ交換 , 整復時に摘出した水晶体前囊の組織所見 . 第17回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2002 . 6 .
  - 26) 小原澤英彰 , 村野奈緒 , 鈴木久晴 , 東 永子 , 志和利彦 , 大原國俊 : 摘出眼内レンズの組織学的検討 . 第17回日本眼内レンズ屈折手術学会 , 2002 . 6 .
  - 27) 鈴木久晴 , 村野奈緒 , 倉井年幸 , 東 永子 , 志和利彦 , 大原國俊 : 白内障手術における角膜内皮スペキュラー



- マイクロスコープの再現性：同一内皮部分の反復撮影．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 28) 杉田 達，山中昭夫<sup>1)</sup>，可児一孝<sup>2)</sup>，阿部國臣<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>神戸海星病院，<sup>2)</sup>滋賀医大，<sup>3)</sup>コーナンメディカル)：LEDによる術中前眼部観察．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 29) 大原千佳，大原國俊，東 永子，志和利彦：著しい角膜内皮障害がある緑内障発作眼のlensectomy：soft shellの効果．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 30) 村上順子<sup>1)</sup>，杉田 達(<sup>1)</sup>杉田眼科)：当院におけるLASEK症例の検討．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 31) 尾碓典子，大原國俊，志和利彦，東 永子，川村邦彦，村野奈緒：鑷子で折りたたむSensar IOLの挿入．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 32) 松田章男，大原國俊，志和利彦，小早川信一郎：当院における強度近視眼の白内障手術．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 33) 村野奈緒，東 永子，郡司桂子，片桐有葉，志和利彦，大原國俊：IOL摘出の理由．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 34) 大原國俊，大久保彰<sup>1)</sup>，宮本孝文<sup>2)</sup>，宮久保寛<sup>3)</sup>，禰津直久(<sup>1)</sup>おおくぼ眼科，<sup>2)</sup>明瞳眼科クリニック，<sup>3)</sup>宮久保眼科)：IOL術後炎症におけるプロムフェナク点眼液の消炎効果．第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．
- 35) 村野奈緒，大原國俊，中嶋花子，東 永子，片桐有葉：結核性ぶどう膜炎と考えられた1例．第36回日本眼炎症学会，2002．7．
- 36) 堀 純子，内田彩子<sup>1)</sup>，大原國俊，竹森利忠<sup>2)</sup>，櫻川宣男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神神経センター，<sup>2)</sup>国立感染症研究所)：ヒト新鮮羊膜組織抽出液中の抗炎症因子．第36回日本眼炎症学会，2002．7．
- 37) 吉野健一：最新屈折矯正法「オルソケラトロジーの最新の知見」．第45回日本コンタクトレンズ学会，2002．7．
- 38) 中元兼二：キサラタンの眼圧下降効果．城東眼科医臨床懇話会，2002．7．
- 39) 加藤美穂，堀 純子，小原澤英彰，高橋 浩，大原國俊：視神経萎縮を伴った球状角膜の1例．第109回日本医大眼科症例検討会，2002．9．
- 40) 北原由紀，丹吳英介，秋庭幹生，山口 貴，中山滋章：広範な網脈絡膜萎縮をきたした妊娠中毒症の1例．第109回日本医大眼科症例検討会，2002．9．
- 41) 中元兼二，南野麻美<sup>1)</sup>，福田 匠<sup>1)</sup>，紀平弥生<sup>1)</sup>，村井恵子<sup>1)</sup>，安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院)：正常眼圧緑内障におけるラタノプロストの眼圧日内変動に及ぼす効果．第13回日本緑内障学会，2002．9．
- 42) 鈴木久晴，村野奈緒，郡司桂子，堀 純子，高橋 浩，志和利彦，大原國俊：低角膜内皮細胞密度15症例の主因と細胞形体．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 43) 小原澤英彰，志和利彦，大原國俊，高橋 浩，堀米秀一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ネクスト(株))：日本医大眼科におけるマルチメディアを用いた早期教育システムについて．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 44) 志和利彦，大原國俊，高橋 浩，堀米秀一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>ネクスト(株))：日本医大における手術教育用デジタル映像データベースについて．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 45) 森瀬景子，志和利彦，大原國俊：虹彩紋理による個人認証システムの使用経験．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 46) 中元兼二，南野麻美<sup>1)</sup>，紀平弥生<sup>1)</sup>，村井恵子<sup>1)</sup>，福田 匠<sup>1)</sup>，安田典子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京警察病院)：正常眼圧緑内障の眼圧日内変動におけるラタノプロストとゲル基剤チモロール効果比較．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 47) 片桐有葉，高橋 浩，志和利彦，大原國俊，橋本綱子<sup>1)</sup>，菊池伊豆見<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科学)：診断に苦慮し角膜移植に至ったアスペルギルス症の1例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 48) 高橋 浩，東 永子，大原國俊：羊膜移植後に再発した角膜ヘルペスの1例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 49) 村野奈緒，大原國俊，東 永子，中嶋花子，飯島千鶴子<sup>1)</sup>，宇多重員<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>二本松眼科)：サルコイドーシスが

- 疑われた APMPPE 様眼底を呈した1例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 50) 東 永子，大原國俊，川添奈緒，中嶋花子：ステロイド大量療法を行った妊娠早期の原田病の1例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 51) 北原由紀，中山滋章，上玉麻子：広範な脈絡膜動脈壁障害をきたした妊娠中毒症の1例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 52) 郡司桂子，大原國俊，志和利彦：硝子体手術により視機能温存ができた von Hippel Lindau (VHL) 病の1症例．第56回日本臨床眼科学会，2002．9．
- 53) 中元兼二：正常眼圧緑内障の診断と治療 眼圧日内変動を中心として．江戸川区眼科医会講演会，2002．11．
- 54) 大原國俊，山口恵子，中嶋花子，東 永子，村野奈緒，工藤翔二<sup>1)</sup>，吾妻安良太<sup>1)</sup>，高橋卓夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4)：サ症の臨床診断基準改訂と眼サ症診断．第22回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会，2002．11．
- 55) 高橋卓夫<sup>1)</sup>，吾妻安良太<sup>1)</sup>，松田久仁子<sup>1)</sup>，榎原桂太郎<sup>1)</sup>，榎本達治，白杵二郎<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，大原國俊，川並汪一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4，<sup>2)</sup>老人病研究所病理部門)：眼サルコイドーシス疑い患者における気管支肺胞洗浄液中リンパ球の形体学的特徴の検討．第22回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会，2002．11．
- 56) 王 明聡，堀 純子，大原國俊：角膜移植におけるlatanoprost 投与後の拒絶反応の検討．第13回日本医科大学外国人留学者研究会，2002．11．
- 57) 加藤美穂，堀 純子，小原澤英彰，高橋 浩，大原國俊：視神経萎縮を伴った球状角膜の1例．第727回東京眼科集談会，2002．12．
- 58) 中元兼二：正常眼圧緑内障の診断と治療 眼圧日内変動を中心として．ひまわり会講演会，2002．12．
- 59) 小原澤英彰，東 佑美，郡司桂子，松井洋法，鈴木久晴，川越タユミ，志和利彦，大原國俊：疎水性アクリル眼内レンズの後発白内障：EPCO法による定量解析．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 60) 川越タユミ，鈴木久晴，小原澤英彰，志和利彦，大原國俊：白内障術後に水晶体囊真性落屑が確認された2症例．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 61) 村野奈緒，志和利彦，森瀬景子，山口恵子，大原國俊：特異な形態を示した液状後発白内障の1例．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 62) 赤星隆幸，大原國俊：Phaco Prechop：基礎編．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 63) 林 一彦<sup>1)</sup>，長谷川豊<sup>2)</sup>，飯田知弘<sup>3)</sup>，志和利彦，玉置泰裕<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>はやし眼科，<sup>2)</sup>岩手医大，<sup>3)</sup>群馬大，<sup>4)</sup>東京大)：ICGでいま何がわかるか，いま何ができるか．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 64) 坪井俊児<sup>1)</sup>，杉田 達，藤田善史<sup>2)</sup>，稲村幹夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>坪井眼科，<sup>2)</sup>藤田眼科，<sup>3)</sup>稲村眼科クリニック)：日帰り白内障手術，こうすれば安全だ：パート3．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 65) 赤星隆幸：低エネルギー超音波白内障手術．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 66) 吉野健一：スキルトランスファー「マイクロケラトームの使い方」．第26回日本眼科手術学会，2003．1．
- 67) 王 明聡，堀 純子，大原國俊：角膜移植におけるlatanoprost 投与後の拒絶反応の検討．第27回角膜カンファランス，2003．2．
- 68) 堀 純子，王 明聡，大原國俊：眼組織への羊膜移植後の遅延型過敏反応．第27回角膜カンファランス，2003．2．
- 69) 鈴木久晴，高橋 浩，堀 純子，志和利彦，大原國俊：白内障術前患者の角膜内皮細胞密度．第27回角膜カンファランス，2003．2．
- 70) 川村邦彦，堀 純子，高橋 浩，大原國俊：鈍的外傷後の角膜多局所における内皮細胞変化．第27回角膜カンファランス，2003．2．
- 71) 加藤美穂，堀 純子，小原澤英彰，高橋 浩，大原國俊，加藤卓次<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大学眼科)：視神経萎縮を伴った片眼性の球状角膜の1例．第27回角膜カンファランス，2003．2．
- 72) 廣瀬敦視，松井洋法，小原澤英彰，志和利彦，大原國俊：肝膿瘍から両眼内炎を合併した1症例．第729回東京眼科集談会，2003．2．

- 73) 中元兼二：正常眼圧緑内障の診断と治療 眼圧日内変動を中心として．文京区眼科学術講演会，2003．3．
- 74) 中元兼二：正常眼圧緑内障の診断と治療 眼圧日内変動を中心として．緑内障勉強会，2003．3．
- 75) 郡司桂子，堀 純子，志和利彦，高橋 浩，大原國俊：緑膿菌による角膜潰瘍の1例．第110回日本医大眼科症例検討会，2003．3．
- 76) 松井洋法，堀 純子，中嶋花子，大原國俊：ステロイドパルス療法を施行した乳頭血管炎の1症例．第110回日本医大眼科症例検討会，2003．3．
- 77) 矢口智恵美，岩波美陽，堀口さおり，若山かおり，清水暢夫：アテローム様所見を呈した上眼瞼扁平上皮癌の1例．第110回日本医大眼科症例検討会，2003．3．
- 78) 北原由紀，中山滋章，山口 貴，秋庭幹生，丹呉英介：両眼同時に視力低下した蝶形骨洞嚢胞の1例．第110回日本医大眼科症例検討会，2003．3．

## [ 千葉北総病院眼科 ]

### 研究概要

教室員全員で，白内障日帰り手術のクリティカルパス構築のための臨床研究を行った．また，教室員全員で緑内障治療薬の効果，副作用に関する臨床研究を継続した．また，斜視・弱視外来で斜視患者の臨床研究を行った．

基礎研究では，茨木教授，後藤医局長を中心に，水晶体上皮細胞の培養実験で，白内障，後発白内障の成因，予防，治療法開発の研究を行った．種元助手を中心に，水晶体上皮細胞の細胞周期に関する基礎研究を行った．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Miyake K<sup>1)</sup>, Ibaraki N ( <sup>1)</sup> Miyake Eye Clinic ): Prostaglandins and cystoid macular edema . *Surv Ophthalmol* 2002 ; 47 ( 1 ): S203-218 .
- 2) Ayaki M<sup>1)</sup>, Ooguro N<sup>2)</sup>, Azuma N<sup>3)</sup>, Majima Y<sup>4)</sup>, Yata K<sup>4)</sup>, Ibaraki N, Singh DP<sup>5)</sup>, Ko V<sup>5)</sup>, Shinohara T<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Fujigaoka Hospital, Showa University , <sup>2)</sup> Osaka University , <sup>3)</sup> National Center for Child Health and Development , <sup>4)</sup> Fujita Health University , <sup>5)</sup> Harvard Medical School ): Detection of cytotoxic anti-LEDGF autoantibodies in atopic dermatitis . *Autoimmunity* 2002 ; 35 ( 5 ): pp319-327 .
- 3) 神元亜季子<sup>1)</sup>, 横山恭典, 茨木信博 ( <sup>1)</sup> 東埼玉総合病院 ): 視力予後良好であった両眼性網膜中心動脈閉塞症による血管新生緑内障の1例．*臨眼医* 2002 ; 96 ( 9 ): 934-937 .
- 4) 上玉麻子, 高橋 浩<sup>1)</sup>, 東 永子<sup>2)</sup>, 大原國俊<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院眼科 , <sup>2)</sup> あそか病院眼科 ): 慢性関節リウマチの周辺部角膜穿孔に対し羊膜移植を施行した1例．*眼紀* 2002 ; 53 ( 12 ): 935-938 .

##### (2) 綜説：

- 1) 三宅謙作<sup>1)</sup>, 太田一郎<sup>1)</sup>, 扇谷 晋<sup>1)</sup>, 三宅三平<sup>1)</sup>, 茨木信博, 後藤陽子 ( <sup>1)</sup> 眼科三宅病院 ): 防腐剤黄斑症．*臨眼* 2002 ; 56 ( 8 ): 1303-1310 .
- 2) 茨木信博：白内障治療薬の現状 エビデンスはあるのか？ *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 4 ): 404-405 .
- 3) 茨木信博：後発白内障成因の最近の考え方．*日本の眼科* 2002 ; 73 ( 12 ): 24-24 .
- 4) 茨木信博：後発白内障．*臨眼* 2002 ; 56 : 1749-1753 .
- 5) 茨木信博：眼科診療のエッセンス．*レジデントノート* 2003 ; 4 ( 12 ): 79-84 .

#### 著書

- 1) 茨木信博：〔自著〕白内障．実践診断指針．日本医師会雑誌特別号（出月康夫，石井裕正，跡見 裕，神保勝一，橋本信也），2002 ; pp346-347，日本医師会．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 茨木信博：白内障手術後の諸問題．第119回東邦大学眼科学術研究会，2002．7．

### (2) シンポジウム：

- 1) 茨木信博：細胞レベルでの水晶体再生の可能性．第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会，2002．6．

### (3) 一般講演：

- 1) Tanemoto K, Ibaraki N : Cyclin D1 in Human Lens Epithelial Cells . ARVO meeting ( Ft. Lauderdale, Florida, USA ), 2002 . 5 .
- 2) Tanemoto K, Ibaraki N : THE EXPRESSION OF CYCLIN D1 IN LENS EPITHELIAL CELLS . XV international congress of eye research ( Geneva, Swiss ), 2002 . 10 .
- 3) 岡本仁史<sup>1)</sup>, 茨木信博, 弓削堅志<sup>2)</sup>, Reddy VN<sup>3)</sup>, 田野保雄<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立大阪南病院, <sup>2)</sup> 関西医科大学附属洛西ニュータウン病院, <sup>3)</sup> Michigan State University, <sup>4)</sup> 大阪大学 ): 不死化ヒト水晶体上皮における上皮成長因子による細胞内反応 . 第106回日本眼科学会総会, 2002 . 5 .
- 4) 種元桂子, 茨木信博 : ヒト水晶体上皮細胞におけるサイクリンD1の発現 . 第106回日本眼科学会総会, 2002 . 5 .
- 5) 扇谷 晋<sup>1)</sup>, 太田一郎<sup>1)</sup>, 三宅三平<sup>1)</sup>, 三宅謙作<sup>1)</sup>, 茨木信博, 後藤陽子 ( <sup>1)</sup> 眼科三宅病院 ): 防腐剤添加有無のチモロール点眼による術後早期偽水晶体眼の嚢胞様黄斑浮腫発生頻度 . 第41回日本白内障学会・第17回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2002 . 6 .
- 6) 後藤陽子, 茨木信博 : 肺と結膜下に炎症性偽腫瘍を認めた1症例 . 第56回日本臨床眼科学会, 2002 . 9 .
- 7) 横山恭典, 後藤陽子, 種元桂子, 薄木玲子<sup>1)</sup>, 佐治 守<sup>1)</sup>, 茨木信博 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤科 ): 防腐剤非添加緑内障点眼薬の点眼瓶の汚染について . 第56回日本臨床眼科学会, 2002 . 9 .
- 8) 上玉麻子, 種元桂子, 後藤陽子, 深川 晃, 横山恭典, 茨木信博 : POAG, NTGにおけるラタノプロスト単剤投与の効果 . 第727回東京眼科集談会, 2002 . 12 .
- 9) 石井貴士<sup>1)</sup>, 小佐野博史<sup>1)</sup>, 西郡秀夫<sup>1)</sup>, 茨木信博 ( <sup>1)</sup> 帝京大学薬学部薬物治療学教室 ): 水晶体上皮細胞が分泌するマトリックスメタプロテインナーゼの解析 . 第29回水晶体研究会, 2003 . 1 .
- 10) 長井紀章<sup>1)</sup>, 鍋倉智裕<sup>1)</sup>, 伊藤吉将<sup>1)</sup>, 川上吉美<sup>2)</sup>, 池田誠宏<sup>2)</sup>, 岡林春樹<sup>3)</sup>, 茨木信博 ( <sup>1)</sup> 近畿大学薬学部製剤学研究室, <sup>2)</sup> 兵庫医科大学眼科, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学先端医研 ): ヒト水晶体上皮細胞株SRA01/04へのインターフェロン及びLPS刺激により誘導されるiNOSについて . 第29回水晶体研究会, 2003 . 1 .

## 17. 麻酔科学講座

### [ 付属病院麻酔科 ]

#### 研究概要

本年度も本教室の研究テーマであるショックの病態と治療，手術侵襲機序の解明とその対策，心臓麻酔，周術期体液代謝管理，疼痛管理とペインクリニック，外科系集中治療と呼吸管理につき継続的な研究がなされた．以下に本年度の主な研究内容を示す．

#### 基礎的研究：

- (1) 組織環流モデル（サイトカイン，麻酔薬の検討）
- (2) ショックモデル（抗ショック薬，一酸化炭素の検討）
- (3) 培養細胞研究（麻酔薬，フリーラジカルの検討）
- (4) パッチクランプモデル（呼吸中枢の検討）
- (5) 神経原性疼痛モデル（鎮痛物質の検討）
- (6) PCRによる遺伝子発現（ショック，麻酔の検討）

#### 臨床的検討：

- (1) ショック患者の病態生理と麻酔
- (2) 外科侵襲防御
- (3) 周術期循環動態解析
- (4) 心疾患患者の周術期管理
- (5) 周術期の体液代謝管理
- (6) 外科系集中治療と非侵襲呼吸管理
- (7) ペインクリニックにおける neuropathic pain の対策
- (8) 日帰り手術麻酔管理

#### 研究業績

##### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ishida H, Ire K, Suganuma E, Fujii E, Muraki T, Ogawa R : A lipid A analog ONO-4007 induces tolerance to plasma leakage in mice . *Inflamm Res* 2002 ; 51 : 38-43 .
- 2) Yamada R, Tsuchida S, Hara Y, Tagawa M, Ogawa R : Apoptotic lymphocyte induced by surgical trauma in dogs . *J Anesth* 2002 ; 16 : 131-137 .
- 3) Wauke K, Nagashima M, Kato N, Ogawa R, Yoshino S : Comparative study between thromboembolicism and total knee arthroplasty with or without tourniquet in rheumatoid arthritis patients . *Arch Orthop Trauma Surg* 2002 ; 122 : 442-446 .
- 4) Shiga T, Inoue T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): Insertion of the transesophageal echocardiography probe via endoscopy mask . *Anesthesia and Analgesia* 2002 ; 95 ( 3 ) : 561-563 .
- 5) Shimizu T, Sakamoto A, Ogawa R : Inhibition of inducible nitric oxide synthase attenuates interleukin-1 induced vascular hyporeactivity in the rabbit . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 ( 2 ) : 149-153 .
- 6) Takeda S, Nakanishi K, Ikezaki H, Kim C, Sakamoto A, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup> 付属病院集中治療室 ): Cardiac marker response to coronary artery bypass graft surgery with cardiopulmonary bypass and

- aortic cross-clamping . *Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia* 2002 ; 16 : 421-425 .
- 7) Takahashi H<sup>1)</sup>, Sakamoto A , Takahashi R<sup>1)</sup>, Ohmura T<sup>1)</sup>, Shimmura S<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院眼科): Free radicals in phacoemulsification and aspiration procedres . *Archives of Ophthalmology* 2002 ; 120 : 1348-1352 .
- 8) Suzuki H<sup>1)</sup>, Kimura M<sup>1)</sup>, Sakamoto A , Hada M<sup>1)</sup>, Takazawa K<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>1)</sup>, Mori T<sup>1)</sup>, Endo S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院神経科): One-year folow-up outcome of relapse and recurrence after electroconvulsion therapy in major depression . *Japanese journal of general hospital psychiatry* 2002 ; 14 : 148-156 .
- 9) Oshima M<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Sakamoto A , Ogawa R , Watanabe T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 第二病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 石心会川崎幸病院心臓血管外科): Anesthetic management in two patients who underwent surgery for Stanford type A acute aortic dissection using transapical aortic cannulation . *Circulation Control* 2002 ; 23 : 289-292 .
- 10) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A , Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 博慈会記念病院麻酔科): Intravenous colforsin daropac, a water-soluble forskolin derivative, prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction in humans. . *Critical Care Medicine* 2002 ; 30 : 820-826 .
- 11) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>3)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 博慈会記念病院麻酔科 , <sup>3)</sup> Yale大学麻酔科): Oral Tizanidine, an  $\alpha_2$ -adrenoceptor Agonist, Reduces Minimum Alveolar Concentration ( MAC ) of Sevoflurane in humanadults . *Anesthesia and Analgesia* 2002 ; 95 : 393-396 .
- 12) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>3)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 博慈会記念病院麻酔科 , <sup>3)</sup> Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundaton, Ohio, USA ): Intravenous verapamil blunts hyperdynamic responses during electroconvulsive therapy without altering seizure activity . *Anesthesia and Analgesia* 2002 ; 95 : 400-402 .
- 13) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>3)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 博慈会記念病院麻酔科 , <sup>3)</sup> Yale 大学麻酔科): The effects of intravenous lignocaine on haemodynamics and seizure duration during electroconvulsive therapy . *Anesthesia and Intensive Care* 2002 ; 30 : 742-746 .
- 14) Kato N , Nakanishi K , Yoshino S<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism Nippon Medical School ): Abnormal echogenic findings detected by transesophageal echocardiography and cardiorespiratory impairment during total knee arthroplasty with tourniquet . *Anesthesiology* 2002 ; 97 ( 5 ) : 1123-1128 .
- 15) Takeda S , Nakanishi K , Ikezaki H , Kim C , Sakamoto A , Tanaka K<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup> 付属病院集中治療室): Cardiac marker responses to coronary artery bypass grafting with cardiopulmonary bypass and aortic cross-clamping . *J Cardiothorac Vasc Anesth* 2002 ; 16 : 421-425 .
- 16) Tanaka K<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takeda S , Takano T<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院集中治療室 , <sup>2)</sup> 内科第1 , <sup>3)</sup> 外科第2): Clinical course, timing of rupture and relationship with coronary recanalization therapy in 77 patients with ventricular free wall rupture following acute myocardial infarction . *J Nippon Med Sch* 2002 ; 69 : 481-488 .
- 17) Takayama H , Takeda S , Saitoh SK , Hayashi H , Takano T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第1 , <sup>2)</sup> 付属病院集中治療室): Spontaneous isolated dissection of the superior mesenteric artery . *Internal Medicine* 2002 ; 41 : 713-716 .
- 18) Sasajima K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Ikezaki H , Takeda S , Takai K , Ogawa R (<sup>1)</sup> 付属病院第1外科): Role of L-selectin in the development of ventilator-associated pneumonia in patients after major surgery . *Journal of surgical research* 2002 ; 105 :

123-127 .

- 19) Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Wajima Z<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 ): Insertion of the transesophageal echocardiography via endoscopy mask . *Anesth Analg* 2002 ; 95 : 561-563 .
- 20) Kitamura A , Marszalec W<sup>1)</sup>, Yeh JZ<sup>1)</sup>, Narahashi T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>ノースウエスタン大学薬理学教室 ): Effects of halothane and propofol on excitatory and inhibitory synaptic transmission in rat cortical neurons. . *J Pharmacol Exp Ther* 2003 ; 304 ( 1 ): 162-171 .
- 21) Takeda S<sup>1)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Ikezaki H , Nakanishi K , Sakamoto A , Okawa K<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Sasajima K<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室 , <sup>2)</sup>同第1外科 ): Preoperative administration of methylprednisolone attenuates cytokine-induced respiratory failure after esophageal resection . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 : 16-20 .
- 22) Wajima Z<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>3)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科 , <sup>2)</sup>博慈会記念病院麻酔科 , <sup>3)</sup>Yale 大学麻酔科 ): Intravenous nicorandil prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction in humans . *Crit Care Med* 2003 ; 31 : 485-490 .
- 23) Takeda S , Kim C , Ikezaki H , Nakanishi K , Sakamoto A , Miyashita M<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>付属病院第1外科 , <sup>2)</sup>同集中治療室 ): Preoperative administration of methylprednisolone attenuates cytokine-induced respiratory failure after esophageal resection . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 : 16-20 .
- 24) Akada S , Takeda S , Ogawa R : Salicylate action on medullary inspiratory neuron activity in a brainstem-spinal cord preparation from newborn rats . *Anesth Analg* 2003 ; 96 : 407-411 .
- 25) Tanaka K<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takeda S , Takano T<sup>2)</sup>, Ochi M<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>3)</sup>, Tamura K ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室 , <sup>2)</sup>同第1内科 , <sup>3)</sup>同第2外科 ): Clinicopathological characteristics of 10 patients with rupture of both ventricular free wall and septum ( double rupture ) after acute myocardial infarction . *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 : 21-27 .
- 26) Iwasaki K<sup>1)</sup>, Nomoto Y<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Yokota T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>関東労災病院麻酔科 ): Vital capacity induction with 8% sevoflurane and N2O causes cerebral hyperemia. . *J Anesth* 2003 ; 17 ( 1 ): 1-5 .
- 27) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): 腸間膜牽引症候群に引き続いて発症した冠動脈スパスムの1症例 . *臨床麻酔* 2002 ; 26 ( 4 ): 683-684 .
- 28) 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 , 小河原美代子<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 , <sup>2)</sup>同中央手術室 ): 過去20年間における帝王切開患者の変遷 . *日本手術医学会誌* 2002 ; 23 : 183-184 .
- 29) 杉本季久造<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 , 増子はるみ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 , <sup>2)</sup>同中央手術室 ): この20年間における婦人科手術の変遷 . *日本手術医学会誌* 2002 ; 23 : 185-187 .
- 30) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 内木亮介<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): タニケットの神経線維別神経機能への影響 . *ペインクリニック* 2002 ; 23 ( 10 ): 1401-1404 .
- 31) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): 子宮鏡併用レーザー切除術の麻酔中に肺水腫を来した1症例 . *臨床麻酔* 2002 ; 26 ( 10 ): 1513-1515 .
- 32) 藤田宏子 , 竹田晋浩 , 池崎弘之 , 四維東州 , 二神生爾<sup>1)</sup>, 小川 龍 , 田中啓治<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室 ): Still病による多臓器不全に血球貧食症候群を併発した1症例 . *日本集中治療医学会雑誌* 2002 ; 9 : 415-416 .
- 33) 松田明久<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 竹田晋浩 ( <sup>1)</sup>付属病院第1外科 ): 重症な呼吸 , 循環不全を呈した成人Bochdalek孔ヘルニア嵌頓の1例 . *日本臨床外科学会雑誌* 2003 ; 64 : 70-73 .

(2) 総説 :

- 1) 小川 龍 : 産科救急麻酔 : 子宮内用除去 , 帝王切開の麻酔を中心に . *産婦人科治療* 2002 ; 84 ( 5 ): 1036-1041 .

- 2) 小川 龍：膠漆輸液．ICUとCCU 2002；26(5)：341-346．
- 3) 小川 龍：手術室での輸液と注意．臨床看護 2002；28(6)：873-876．
- 4) 小川 龍：ショックとサイトカイン．Heart View 2002；6(7)：1015-1019．
- 5) 坂本篤裕：頑性腰痛発生のメカニズムと神経ブロック療法．J Nippon Med Sch 2002；69(6)：588-592．
- 6) 坂本篤裕：くすり：ランジオロール．臨床麻酔 2002；26(12)：1857-1859．
- 7) 竹田晋浩：BiPAP Visionを使用したときのICU専門医と研修医の会話．人工呼吸 2002；19(2)．
- 8) 竹田晋浩：効果的で感染予防につながる気管内呼吸の手引きとは：エビデンスに基づく提案．看護学雑誌 2002；66(6)：550-555．
- 9) 竹田晋浩，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)付属病院第一内科)：事故防止のための注射と輸液の知識：集中治療室(ICU/CCU)での輸液と注意．臨床看護 2002；28(6)：870-872．
- 10) 竹田晋浩：二酸化炭素再呼吸による非侵襲的心拍出量測定モニター：NICO(Non-invasive cardiac output)．エレクトロニクス臨床 2002；72：1-8．
- 11) 坂本篤裕：頑性疼痛を呈した肢端紅痛症と神経ブロック．J Nippon Med Sch 2003；70(1)：66-68．
- 12) 竹田晋浩：カテコラミンQ & A ドパミンの新たな可能性について．Pharma Medica 2003；21：95-97．

## 著 書

- 1) 小川 龍：〔分担〕呼吸管理のEBM．呼吸管理(丸川征四郎，槇田浩史編集)，2002；pp410-418，中外医学社．
- 2) 小川 龍：〔分担〕輸液．臨床麻酔学全書(上)(花岡一雄ほか編集)，2002；pp814-829，真興交易医書出版部．
- 3) 坂本篤裕：〔分担〕34. 熱傷患者．MGH クリティカルケアブック(稲田英一)，2002；pp555-576，メディカルサイエンスインターナショナル．
- 4) 小川 龍：〔分担〕体液異常の診断と輸液計画．体液管理，輸液マニュアル(相川直樹監修)，2003；pp75-78，照林社．
- 5) 小川 龍：〔分担〕輸液製剤の特徴と適応．体液，輸液マニュアル(相川直樹監修)，2003；pp78-82，照林社．

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 坂本篤裕：救命救急医療における緊急麻酔．第5回急性期医療研究会，2002．6．
- 2) 坂本篤裕：短時間作用型 ブロッカーの循環管理と新たな応用．第1回多摩循環セミナー，2002．9．
- 3) 坂本篤裕：短時間作用型 ブロッカーによる循環管理．第3回未来麻酔研究会，2002．12．

### (2) シンポジウム：

- 1) 中西一浩，竹田晋浩<sup>1)</sup>，清水 淳，金 徹<sup>1)</sup>，池崎弘之，坂本篤裕，小川 龍(<sup>1</sup>)集中治療室)：非血管手術を受ける心疾患合併患者の術前リスク評価におけるドパミン負荷心エコー法．日本臨床麻酔学会第22回大会，2002．10．
- 2) 竹田晋浩：非侵襲的連続心拍出量モニター(NICO)に対する有効性の検討．18回循環器情報処理研究会，2002．11．

### (3) パネルディスカッション：

- 1) 竹田晋浩：非侵襲的心拍出量測定法の有効性．18回循環器情報処理研究会，2002．11．

### (4) セミナー：

- 1) 坂本篤裕：超短時間作用型 ブロッカーの循環管理と新たな作用．日本麻酔科学会第49回大会，2002．4．
- 2) 坂本篤裕：VIMA 最前線-臨床におけるVIMAの実際．日本麻酔科学会第49回大会，2002．4．
- 3) 竹田晋浩：救急における呼吸アセスメント．第4回日本救急看護学会，2002．11．



(5) 一般講演:

- 1) Oshima M<sup>1)</sup>, Inagi T<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科): Influence of ischemic conditions induced by a tourniquet on function of nerves. . ASA annual meeting (Orland ( USA )), 2002 . 10 .
- 2) Oshima M<sup>1)</sup>, Inagi T<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Shimada Y<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科): Effects of Tourniquet on Current Perception Thresholds. . 7th America-Japan Anesthesia Congress ( Kofu ( JAPAN )), 2002 . 10 .
- 3) Wajima Z<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>2)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Yoshikawa T<sup>3)</sup>, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundaton, Ohio, USA ): Effect of Prophylactic Bronchodilator Treatment Using Intravenous Colforsin Daropate, a Water-soluble Forskolin Derivative, on Lung Resistance and Lung Compliance after Tracheal Intubation. . American Society of Anesthesiologists 2001 Annual Meeting ( Orlando, Florida, USA ), 2002 . 10 .
- 4) 中西一浩, 竹田晋浩, 清水 淳, 金 徹, 池崎弘之, 小川 龍: ドブタミン負荷心エコー法による術前評価. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 5) 小川 龍, 坂本篤裕, 大井良之, 北村 晶, 中西一浩, 本郷 卓: 医育機関付属特定機能病院麻酔科の収支. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 6) 北村 晶, 小川 龍, 佐藤良一<sup>1)</sup>, Narahashi T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Northwestern University Medical School): ラット皮質ニューロンにおけるカルシウムチャンネルへのハロセンの作用の考察. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 7) 池崎弘之, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>外科第1): 生体肝移植周術期の Sonoclot™ による血液凝固能モニターの有用性. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 8) 中島祐史, 赤田信二, 池崎弘之, 竹田晋浩, 小川 龍: 食道癌術後に心タンポナーデを呈した症例. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 9) 山口真人<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 益田律子<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): リドカイン外用薬による特発性三叉神経痛の治療. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 10) 河原裕泰<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): PGE2のレセプターアンタゴニストであるEP1レセプターアンタゴニストはCC1モデルにより生じる痛覚過敏をモルヒネと同等に抑制する. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 11) 丸山晃一<sup>1)</sup>, 本郷 卓, 小林徳行, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>信州大学医学部麻酔・蘇生学教室): 経口クロニジン前投薬がターニケット解除直後の血行動態に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 12) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 赤田信二, 中西一浩, 坂本篤裕, 金 徹<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>集中治療室): オピオイドによる呼吸抑制に対するカンナビノイドの作用. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 13) 金 徹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>集中治療室): ミダゾラムはウサギの頸動脈小体の低酸素換気応答を抑制しないが, 高酸素下での神経活動電位を抑制する. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 14) 大井良之, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 渡辺朋子<sup>2)</sup>, 北澤由香, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>小山市民病院麻酔科, <sup>2)</sup>海老名総合病院麻酔科): 術中輸液の再検討: シンプルな輸液療法をめざして. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 15) 岩崎かな子<sup>1)</sup>, 藤田宏子<sup>1)</sup>, 石渡美和子<sup>1)</sup>, 横田哲也<sup>1)</sup>, 野本幸子<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>関東労災病院麻酔科): 気腹下胆嚢摘出術中の脳波, 心拍変動解析: 全身麻酔と硬膜外麻酔併用の比較. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 16) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup>Yale 大学麻酔科): ペラパルミが電気痙攣療法 ( ETC ) 時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 17) 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院麻酔科): 敗血症ショックにおける心機能抑制に対する誘導型一酸化窒素合成阻害薬, L-canvanine の効果. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .

- 18) 坂本篤裕, 清水 淳, 鈴木規仁, 松村純也, 小川 龍: 炎症性サイトカインによる心筋抑制機序における一酸化炭素産生系の関与. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 19) 岸川洋昭, 坂本篤裕, 小川 龍: NOはフリーラジカルによる肝細胞アポトーシスを軽減する. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 20) 板羽秀徳, 北村 晶, 小川 龍: 長期ステロイド服用患者における自律神経機能障害の発生と術後心筋虚血への影響. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 21) 渡辺朋子<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>海老名総合病院麻酔科): 腹腔鏡下手術においてストレスホルモンの変動はみられるか. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 22) 大島正行<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科): タニケットの神経線維別神経機能への影響. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 23) 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 大島正行<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>第二病院麻酔科): 帝王切開術中の硬膜外圧変動. 日本麻酔科学会第46回大会, 2002. 4.
- 24) 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍, 南 和<sup>2)</sup>, 渡邊 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>石心会川崎幸病院心臓血管外科): 経心尖部上行大動脈送血を用いたStanford A型急性大動脈解離手術2症例の麻酔管理. 第23回日本循環制御医学会, 2002. 5.
- 25) 本郷 卓, 大井良之, 坂本篤裕, 小川 龍: CRPSタイプIと考えられるが, きっかけとなる原因が全く不明であった1例. 日本ペインクリニック学会第36回大会, 2002. 7.
- 26) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 吉河達祐<sup>1)</sup>, 今永和幸<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>千葉北総病院麻酔科): 脊椎麻酔時におけるphantom sensationについて(第二報; チアミラルはphantom sensationを変化しうる). 第36回日本ペインクリニック学会, 2002. 7.
- 27) 及川恵子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 太田眞夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 坂本篤裕, 落 雅美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院内科第1, <sup>2)</sup>同内科第3, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>同外科第2): 自己骨髄細胞による重傷末梢血管疾患に対する血管再生療法. 第1回日本組織移植学会総会, 2002. 8.
- 28) 守屋慶一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 藤谷 仁, 亀山幹彦<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 林 明総<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 小野寺英貴, 金 徹, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 加藤活人, 小原俊彦, 高山守正, 高野照夫<sup>(1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同救急救命センター): 先天性大動脈弁狭窄症に心室細動を発生しbystander CPRがなされ, 院外にて心拍再開し救命し得た中年女性の1例. 第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2002. 8.
- 29) 藤谷 仁, 小野寺英貴, 金 徹, 宮本哲也<sup>1)</sup>, 仁科 大<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 右肺出血に対し分離肺換気およびステロイド投与が有効であった1例. 第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方, 2002. 8.
- 30) 大島正行<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍, 渡邊 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>石心会川崎幸病院心臓血管外科): 経心尖部上行大動脈送血を用いたStanford A型急性大動脈解離手術の麻酔管理. 第7回日本心臓血管麻酔学会, 2002. 9.
- 31) 宮本正章<sup>1)</sup>, 及川恵子<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 平山悦之<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 太田眞夫<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>4)</sup>, 坂本篤裕<sup>(1)</sup>付属病院内科第1, <sup>2)</sup>同内科第3, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>同外科第2): 重傷末梢血管疾患に対する自己骨髄細胞による血管再生療法. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 32) 木村真理子, 大井良之, 坂本篤裕, 小川 龍: 心房性ナトリウム利尿ペプチドの術中少量投与が, 水分・電解質代謝, 及び他のホルモンに与える影響. 日本臨床麻酔学会第22回大会, 2002. 10.
- 33) 森山みちる, 小川 龍: Adenosine代謝物質による, herpes zosterに由来する痛みの軽減について. 日本臨床麻酔学会第22回大会, 2002. 10.
- 34) 岩崎かな子<sup>1)</sup>, 石渡美和子<sup>1)</sup>, 横田哲也<sup>1)</sup>, 野本幸子<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>(1)</sup>関東労災病院麻酔科): General anesthe-

- sia in a patient with Shy-Drager syndrome with heart rate variability . 日本臨床麻酔学会第22回大会, 2002 . 10 .
- 35) 池崎弘之, 森山みちる, 北澤由香, 後藤吉次, 西川晃司, 赤田信二, 坂本篤裕, 小川 龍: 脳死・臓器摘出術の麻酔科医の役割に関する1考察 . 日本臨床麻酔学会第22回大会, 2002 . 10 .
- 36) 大島正行<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎<sup>1)</sup>, 横山健至<sup>1)</sup>, 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 杉本季久造<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>第二病院麻酔科 ): WPW 症候群を合併した口蓋扁桃摘出術の麻酔経験 . 日本臨床麻酔学会第22回大会, 2002 . 10 .
- 37) 高木啓倫<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 小鹿野道雄<sup>1)</sup>, 山下照代<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>2)</sup>, 坂本篤裕, 小川 龍, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>4)</sup>, 田中茂夫<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院第1内科, <sup>2)</sup>同第3内科, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>同第2外科 ): 自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法の成績 . 日本医科大学医学会第109回例会, 2003 . 2 .
- 38) 阿部 豊<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中沢 賢<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 竹下俊之<sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup>, 明樂重夫<sup>2)</sup>, 八田充子<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 坂本篤裕, 大井良之, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科 ): 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術 . 日本医科大学医学会第109回例会, 2003 . 2 .
- 39) 山本 剛<sup>1)</sup>, 塚 宏一<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小野寺英貴, 金 徹, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>同内科第1, <sup>3)</sup>同放射線科 ): 重症急性肺塞栓症に対する治療戦略: 第一選択はカテーテル血管内治療である . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 40) 進士誠一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 山崎貴明<sup>1)</sup>, 金 徹, 竹田晋浩, 田中啓治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院第1外科, <sup>2)</sup>同集中治療室 ): ICU 患者に対する内視鏡下バルーン付き経鼻栄養チューブ留置の試み . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 41) 小野寺英貴, 藤谷 仁, 金 徹, 竹田晋浩, 菅沼恵美子, 斉藤好史, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院集中治療室 ): 敗血症に合併した肺血栓塞栓症の1例 . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 42) 金 徹, 藤谷 仁, 小野寺英貴, 竹田晋浩, 安武正弘<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 小川 龍, 田中啓治<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院第1内科, <sup>2)</sup>同第1外科, <sup>3)</sup>同集中治療室 ): 当初カテーテル感染が疑われた食道癌術後の悪性症候群の1例 . 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 43) 篁 武郎: 肝脾不和によると考えられる痛み, 不快感を呈した1例 . 第39回日本東洋心身医学研究会学術集会, 2003 . 2 .
- 44) 篁 武郎: 肝気に対する治療が功を奏した痛みやしびれの2症例 . 第7回日本東洋医学会山形県部会, 2003 . 3 .

## [ 第二病院麻酔科 ]

### 研究概要

従来通り産科麻酔の研究を継続し, 帝王切開手術中の硬膜外圧の変動, 子宮収縮薬投与時の硬膜外圧の変動, 仰臥位低血圧症候群発生時の硬膜外圧の変動, 仰臥位低血圧症候群回復過程での硬膜外圧と下肢静脈圧の変動, 20年間における帝王切開患者の背景因子的変化, 帝王切開脊椎麻酔時の低血圧治療として第一選択のエフェドリンによるAVブロック誘発症例, 重症化することの多い羊水塞栓症をBystander CPR と大量新鮮血輸血により救命した症例について報告した .

上行大動脈瘤手術においては人工心肺時, 大腿動脈送血することが多いが, 脳血管障害を回避するために心尖部より大動脈弁を越えて送血カニューレを留置し, 順行性に送血する際の麻酔管理について報告した .

腸間膜牽引症候群により発生した低血圧の治療に伴う冠動脈スパズム, 術後に甲状腺クリーゼを発症した症例, 子宮鏡併用レーザー子宮筋腫核出術中に肺水腫を来した症例, ミオパチー合併症例の麻酔経験, プロポフォルによるアナフィラキシー様反応を疑った症例, WPW 症候群合併症例の麻酔経験につき報告した .

当施設では, エピドラスコピーを積極的に導入しているが, その適応は明確となっていない, その一部となりえる基準を報告した .

乳癌手術は非定型乳房切除術が主流となってきたが、その術後鎮痛につき報告した。  
タニケツトペインの成因はいまだに解明されておらず、対処に難渋することがある。電流知覚閾値を用いてタニケツトの神経に与える影響を神経線維別に検討した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Oshima M, Shimada Y, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Watanabe T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Cardiovascular Center, Sekishinkai Kawasaki Saiwai Hospital ): Anesthetic Management in Two Patients Who Underwent Surgery for Stanford Type A Acute Aortic Dissection Using Transapical Aortic Cannulation . Circulation control 2002 ; 23 ( 3 ): 289-292 .
- 2) Oshima M, Kikutani T, Inagi T, Kikutani M<sup>1)</sup>, Shimada Y ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Second Hospital ): A case of second-degree atrioventricular blockade induced by ephedrine during spinal anesthesia for Cesarean section . 分娩と麻酔 2002 ; 83 : 18-21 .
- 3) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 腸管膜牽引症候群に引き続いて発症した冠動脈スパズムの1症例 . 臨床麻酔 2002 ; 26 ( 4 ): 683-684 .
- 4) 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室 ): 過去20年間における帝王切開患者の変遷 . 日本手術医学会誌 2002 ; 23 ( 2 ): 183-184 .
- 5) 杉本季久造, 大島正行, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 増子ハルミ<sup>2)</sup>, 小河原美代子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科, <sup>2)</sup> 第二病院中央手術室 ): この20年間における婦人科手術の変遷 . 日本手術医学会誌 2002 ; 23 ( 2 ): 185-187 .
- 6) 稲木敏一郎, 大島正行, 横山健至, 菊谷健彦, 丸茂穂積, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 卵巣癌の術後に甲状腺クリーゼを発症した1症例 . 麻酔 2002 ; 51 ( 5 ): 573-574 .
- 7) 菊谷健彦, 大島正行, 島田洋一, 菊谷真理子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院産婦人科 ): 子宮収縮と胸部硬膜外圧の変動 . 分娩と麻酔 2002 ; 83 : 22-26 .
- 8) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 赤羽日出男, 内木亮介, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): タニケツトの神経線維別神経機能への影響 . ペインクリニック 2002 ; 23 ( 10 ): 1401-1404 .
- 9) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): 子宮鏡併用レーザー切除術の麻酔中に肺水腫をきたした1症例 . 臨床麻酔 2002 ; 26 ( 10 ): 1513-1515 .
- 10) 内木亮介, 横山健至, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): エピドラスコピが効果的であった症例 : 硬膜外ブロック効果低下例を中心として . 日本ペインクリニック学会誌 2003 ; 10 ( 1 ): 33-37 .

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Oshima M, Inagi T, Yokoyama K, Shimada S, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Effects of Tourniquet on Current Perception Thresholds . 7th AMERICA-JAPAN ANESTHESIA CONGRESS ( Kofu, JAPAN ), 2002 . 10 .
- 2) Oshima M, Inagi T, Yokoyama K, Shimada Y, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology ): Influence of ischemic conditions induced by a tourniquet on function of nerves . ASA annual meeting ( Orland, USA ), 2002 . 10 .
- 3) 大島正行, 稲木敏一郎, 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ): タニケツトの神経線維別神経機能への影響 . 日本麻酔科学会第49回大会, 2002 . 4 .

- 4) 菊谷健彦, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): 帝王切開術中の硬膜外圧変動. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
  - 5) 杉本季久造, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 大島正行, 島田洋一: 非定型的乳房切除術での術後鎮痛. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
  - 6) 菊谷健彦, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 杉本季久造, 島田洋一(<sup>1)</sup>第二病院産婦人科): 仰臥位低血圧症候群と硬膜外圧変動 Epidural pressure change with supine hypotensive syndrome. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
  - 7) 大島正行, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>, 南 和<sup>2)</sup>, 渡邊 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科, <sup>2)</sup>石心会川崎幸病院心臓血管外科): 経心尖部上行大動脈送血を用いたStanford A型急性大動脈解離手術2症例の麻酔管理. 第23回日本循環制御医学会総会, 2002. 5.
  - 8) 稲木敏一郎, 鈴木万三, 菊谷健彦, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: Bystander CPRと大量新鮮血輸血により救命しえた羊水塞栓症の1症例. 第104回分娩と麻酔研究会, 2002. 6.
  - 9) 内木亮介: 癌性疼痛とフェンタニールパッチ. モルヒネからの移行. 第1回神奈川痛みの研究会, 2002. 9.
  - 10) 井上雅則<sup>1)</sup>, 井梅和美<sup>1)</sup>, 花出 豊<sup>1)</sup>, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 松岡和彦<sup>1)</sup>, 島田洋一(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 第二病院における輸血業務システム化の提案. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
  - 11) 大島正行, 島田洋一, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 渡邊 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科, <sup>2)</sup>石心会川崎幸病院心臓血管外科): 経心尖部上行大動脈送血を用いたStanford A型急性大動脈解離手術の麻酔管理. 第7回日本心臓血管麻酔学会学術大会・総会, 2002. 9.
  - 12) 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 大島正行, 杉本季久造, 島田洋一: 原因不明のミオパチー合併症例に対する麻酔経験. 第22回臨床麻酔学会, 2002. 10.
  - 13) 菊谷健彦, 稲木敏一郎, 横山健至, 大島正行, 鈴木万三, 杉本季久造, 島田洋一: プロポフォールによるアナフィラキシー様反応が疑われた1症例. 第22回臨床麻酔学会, 2002. 10.
  - 14) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院麻酔科): WPW症候群を合併した口蓋扁桃摘出術の麻酔経験. 第22回臨床麻酔学会, 2002. 10.
  - 15) 大島正行, 稲木敏一郎, 菊谷健彦, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 島田洋一(<sup>1)</sup>第二病院産婦人科): 当施設における帝王切開患者の変遷. 第105回分娩と麻酔研究会, 2002. 11.
  - 16) 菊谷健彦, 稲木敏一郎, 菊谷真理子<sup>1)</sup>, 大島正行, 松島 隆<sup>1)</sup>, 石原楷輔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院産婦人科): 脊椎麻酔導入後に発症した仰臥位低血圧の回復過程における硬膜外圧及び下肢静脈圧の変動. 第105回分娩と麻酔研究会, 2002. 11.
- (2) ディバイト:
- 1) 大島正行: 全身麻酔 + 硬膜外麻酔. 第9回硬膜外麻酔研究会, 2003. 2.

## [ 多摩永山病院麻酔科 ]

### 研究概要

ペインクリニック領域において, 様々な治療困難な痛みに対する新しい神経ブロックを考案しているが, 現在は顎関節症を対象とした研究を行っている.

また小児に対し, 安全で効果的な術後鎮痛の研究も継続して行っている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 話題：

- 1) 石原之法：TCIとBIS．J Nippon Med Sch 2002；69(2)：212-212．

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Wajima Z<sup>1)</sup>, Imanaga K<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>1)</sup>, Yoshikawa T, Inoue T<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Anesthesia, Chiba Hokusyo Hospital, <sup>2)</sup> Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Effect of Prophylactic Bronchodilator Treatment Using Intravenous Colforsin Daropate, a Water-soluble Forskolin Derivative, on Lung Resistance and Lung Compliance after Tracheal Intubation . American Society of Anesthesiologists 2002 Annual Meeting ( Orland, Florida, USA ), 2002 . 10 .
- 2) 輪島善一郎<sup>1)</sup>, 吉河達祐, 小倉 明<sup>1)</sup>, 今永和幸<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 付属病院麻酔科 ): ベラバミルが電気痙攣療法 ( ECT ) 時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響 . 日本麻酔学会第49回大会, 2002 . 4 .
- 3) 輪島善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>1)</sup>, 小倉 明<sup>1)</sup>, 吉河達祐, 今永和幸<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 付属病院麻酔科 ): 脊椎麻酔時における phantom sensation について ( 第二報 ; チアミラルは phantom sensation を変化しうる ). 第36回日本ペインクリニック学会, 2002 . 7 .

## [ 千葉北総病院麻酔科 ]

### 研究概要

「外科的侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止」, 「硬膜外麻酔・脊椎麻酔の生体への影響および管理法・手技」をテーマとした臨床研究が継続されている。

本年度も, 手術室, 病室, 外来 ( ペインクリニック ) など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践手技に関する研究が行われた。患者の苦痛の除去, QOLの改善はもとより, 医師側の治療への協力・助力となる方向での手技的配慮などを主題とした研究が中心となった。鎮痛法 ( 術後鎮痛, 難治性疼痛, 脊椎麻酔, 神経ブロック ) の向上に向けた研究は, 今後も継続して行うことにしている。

産科麻酔後の鎮痛法, プロポフォール麻酔による鎮静度の評価, 慢性疼痛患者の痛覚認識の特徴, 電気痙攣療法の麻酔管理, 麻酔中の気道の保護, モニタリングや薬物などに関する新たな知見が得られつつあるところである。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Imanaga K, Shiga T, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Intravenous colforsin daropate, a water-soluble forskolin derivative, prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction in humans . Critical Care Medicine 2002 ; 30 ( 4 ): 820-826 .
- 2) Wajima Z, Yoshikawa T<sup>1)</sup>, Ogura A<sup>2)</sup>, Imanaga K, Shiga T, Inoue T, Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Tokyo Jikeikai Medical School, Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ): Oral tizanidine, an  $\alpha_2$ adrenoceptor agonist, reduces minimum alveolar concentration

(MAC) of sevoflurane in human adults . Anesthesia and Analgesia 2002 ; 95 ( 2 ) : 393-396 .

- 3) Wajika Z , Yoshikawa T<sup>1)</sup> , Ogura A , Imanaga K , Shiga T<sup>2)</sup> , Inoue T , Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Tokyo Jikeikai Medical School, Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Center for Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation , <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Intravenous verapamil blunts hyperdynamic responses during electroconvulsive therapy without altering seizure activity . Anesthesia and Analgesia 2002 ; 95 ( 2 ) : 400-402 .
- 4) Shiga T , Wajika Z , Inoue T , Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Insertion of the transesophageal echocardiography probe via endoscopy mask . Anesthesia and Analgesia 2002 ; 3 : 561-563 .
- 5) Kato N , Nakanishi K<sup>1)</sup> , Yoshino S<sup>2)</sup> , Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School ) : Abnormal echogenic findings detected by transesophageal echocardiography and cardiorespiratory impairment during total knee arthroplasty with tourniquet . Anesthesiology 2002 ; 97 ( 5 ) : 1123-1128 .
- 6) Wajima Z , Yoshikawa T<sup>1)</sup> , Ogura A<sup>2)</sup> , Shiga T , Inoue T , Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anaesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anaesthesiology, Yale University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Anaesthesiology, Nippon Medical School ) : The effect of intravenous lignocaine on haemodynamics and seizure during electroconvulsive therapy . Anesthesia and Intensive Care 2002 ; 30 ( 6 ) : 742-746 .
- 7) Wajima Z , Yoshikawa T<sup>1)</sup> , Ogura A<sup>2)</sup> , Imanaga K , Shiga T , Inoue T , Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Tokyo Jikeikai Medical School, Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Intravenous nicorandil prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction in humans . Critical Care Medicine 2003 ; 31 ( 2 ) : 485-490 .

## (2) 総説 :

- 1) 益田律子 : 硬膜外麻酔では麻酔決定に比重はどのくらいの意味をもつか? 臨床麻酔 2002 ; 26 ( 7 ) : 1105-1107 .
- 2) 益田律子 : 等比重 0.5% プピバカインによる脊髄も膜下麻酔, 調節の工夫 : 大腿骨人工骨頭置換術, 虫垂切除術, 帝王切開に対して . 臨床麻酔 2002 ; 26 ( 12 ) : 1853-1855 .

## 著 書

- 1) 益田律子 : [ 分担 ] 脳血管収縮薬 . ペインクリニックで用いる薬 + ( 小川節郎 ) , 2002 ; pp101-111 , 真興交易 ( 株 ) 医書出版部 .
- 2) 井上哲夫 : [ 分担 ] 上気道確保に必要な解剖 . 麻酔科診療プラクティス 5 ( 高崎真弓 , 弓削孟文 , 稲田英一 ) , 2002 ; pp38-41 , 分光堂 .
- 3) 井上哲夫 : [ 分担 ] 気管チューブの入れ換え . ( ワンポイントアドバイス ) . 麻酔科診療プラクティス 7 ( 高崎真弓 , 弓削孟文 , 稲田英一 ) , 2002 ; pp145-145 , 文光堂 .
- 4) 井上哲夫 : [ 分担 ] 気道確保 . 臨床麻酔学全書 ( 上巻 ) ( 花岡一雄 , 真下 節 , 福田和彦 ) , 2002 ; pp611-628 , 真興交易 .
- 5) 井上哲夫 : [ 翻訳 ] 気道管理 . MGHクリティカルケアブック第3版 ( 稲田英一 , 槇田浩史 , 四津良平 ) , 2002 ; pp45-76 , メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 6) 井上哲夫 : [ 分担 ] 麻酔器具 . 麻酔科学スタンダードI臨床総論 ( 小川節郎 , 新宮 興 , 武田純三 , 西野 卓 ) , 2003 ; pp55-63 , 克誠堂出版 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 益田律子 : 等比重0.5%ブピバカインによる脊髄くも膜下麻酔 . 第40回日本麻酔学会関東甲信越地方会 , 2002 . 9 .
- 2) 益田律子 : くも膜下鎮痛 . 日本臨床麻酔学会第22回大会 , 2002 . 10 .
- 3) 益田律子 : 脊髄くも膜下麻酔による呼吸抑制と呼吸停止 . 第15回日本局所麻酔学会 , 2002 . 11 .

### (2) 一般講演 :

- 1) Masuda R , Inoue T , Yamaguchi M , Wajima Z : Effects on postcesarean analgesia and oxygen saturation by neuraxial single morphine administration . The IASP ( International Association Study of Pain ) 10th World Congress on Pain ( San Diego ) , 2002 . 8 .
- 2) Wajima Z , Imanaga K , Shiga T<sup>1)</sup> , Ogura A , Yoshikawa T<sup>2)</sup> , Inoue T , Ogawa R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Center of Anesthesiology Research, The Cleveland Clinic Foundation , <sup>2)</sup> Department of Anesthesia, Hakujuikai Memorial Hospital , <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Effect of prophylactic bronchodilator treatment using intravenous colforsin daropate, a water-soluble forskolin derivative, on lung resistance and lung compliance after tracheal intubation . American Society of Anesthesiologists 2002 Annual Meeting ( Orlando ) , 2002 . 10 .
- 3) Ogura A<sup>1)</sup> , Wajima Z , Yoshikawa T<sup>2)</sup> , Imanaga K<sup>3)</sup> , Inoue T , Ogawa R<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Yale University School of Medicine , <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, Mitsui Memorial Hospital , <sup>4)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School ) : Comparison of the extent of sensory block level between multi-orifice and single orifice epidural catheters in the lumbar region . NYSSA 56th Postgraduate Assembly ( New York ) , 2002 . 12 .
- 4) 輪嶋善一郎 , 吉河達祐<sup>1)</sup> , 小倉 明<sup>2)</sup> , 今永和幸<sup>3)</sup> , 志賀俊哉 , 井上哲夫 , 小川 龍<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 博慈会記念病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 , <sup>3)</sup> 三井記念病院麻酔科 ) : ペラパミルが電気痙攣療法 ( ECT ) 時の血行動態と痙攣時間に及ぼす影響 . 日本麻酔学会第49回大会 , 2002 . 4 .
- 5) 益田律子 , 井上哲夫 , 横山和子<sup>1)</sup> , 輪嶋善一郎 , 山口真人 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院麻酔科 ) : くも膜下・硬膜外モルヒネ単回投与による帝王切開術後鎮痛効果と術後 SpO<sub>2</sub> 値の変動 . 日本麻酔学会第49回大会 , 2002 . 4 .
- 6) 山口真人 , 益田律子 , 井上哲夫 , 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 ) : リドカイン軟膏による特発性三叉神経痛の治療 . 日本麻酔学会第49回大会 , 2002 . 4 .
- 7) 加藤信也 : 停電復旧後も自動的に再始動しない人工呼吸器に注意 . 日本麻酔学会第49回大会 , 2002 . 4 .
- 8) 後藤眞弓 , 益田律子 , 井上哲夫 : 医療ガス配管設備定期点検後におきたガスの誤接続 . 第5回千葉麻酔医学会 , 2002 . 6 .
- 9) 金 徹<sup>1)</sup> , 竹田晋浩<sup>2)</sup> , 小野寺英貴<sup>1)</sup> , 池崎弘之<sup>1)</sup> , 中西一浩<sup>1)</sup> , 井上哲夫 , 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院麻酔科 , <sup>2)</sup> 同集中治療室 ) : 当院集中治療室における NPPV ( Bi PAP ) 10年間の使用 . 第24回日本呼吸療法医学会学術総会 , 2002 . 7 .
- 10) 輪嶋善一郎 , 志賀俊哉 , 小倉 明<sup>1)</sup> , 吉河達祐 , 今永和幸<sup>2)</sup> , 井上哲夫 , 小川 龍<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立ガンセンター麻酔科 , <sup>2)</sup> 三井記念病院麻酔科 , <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科 ) : 脊椎麻酔時における Phantom sensation について ( 第二報 ; チアミラルは phantom sensation を変化しうる ) . 日本ペインクリニック学会第36回大会 , 2002 . 7 .
- 11) 益田律子 , 田沼久美子<sup>1)</sup> , 井上哲夫 , 南 和文<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 解剖学第2 , <sup>2)</sup> 千葉北総病院整形外科 ) : クモ膜下腔における新たな髄膜構造について . 日本ペインクリニック学会第36回大会 , 2002 . 7 .
- 12) 齊藤敏之<sup>1)</sup> , 井上哲夫 , 大井良之<sup>2)</sup> , 田 秀蘭<sup>2)</sup> , 伊藤博信<sup>1)</sup> , 吉本正美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 解剖学第2 , <sup>2)</sup> 付属病院麻酔科 ) : 第12胸椎・第1腰椎脊髄神経後枝内側枝の特殊性 . 第9回硬膜外研究会 , 2003 . 2 .



## 18．救急医学講座

### [ 付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック ]

#### 研究概要

平成14年度の研究概要を班別に記す．

##### 1．外傷班

多発外傷の治療成績を TRISS method による症例検討を行った．なかでも，damage control surgery における IVR の有用性，2次病院から3次病院へ搬送された外傷症例に対するの評価を報告した．また，外傷の評価，治療に関して JATEC，PTEC への参加，協力を行った．

##### 2．熱傷班

重症熱傷における循環管理において hamp 療法の検討を行い，その有用性を研究報告した．また臨床においては熱傷医療の質の改善のために看護部と共同にて小範囲熱傷（熱傷面積20%以下）におけるクリニカルパスおよびマニュアルを作成し報告した．

##### 3．脳外班

例年通り頭部外傷の各種モニタリングの結果について報告した．

クモ膜下出血の髄液中の S100 蛋白の測定結果につき報告した．

脳外科手術後の美容的な修復において新素材の導入とし学会報告をした．

##### 4．災害班

国際・災害班においては，国内においては，厚労省の班研究として，FIFA ワールドカップ2002における，Mass Gathering における集団災害対応を行った．また，天然痘テロ対応の訓練を千葉県にて実施した．国外の災害対応としては，イラク危機に対して，政府の調査団やNPO「HuMA」のヨルダンにおける難民支援活動に班員を派遣した．

##### 5．整形班

臨床的には多発外傷患者に対する Damage Control Orthopedics を実践していくとともに，その適応についても検討中である．基礎的には骨折に合併する脂肪塞栓症候群の機序解明に向けて，基礎研究班と共同して second hit theory の動物実験を行っている．

##### 6．中毒班

現在，緊用されている除草剤のアニリン・カーバメイト合剤（クサノンA）による急性中毒の治療法を検討し，日本中毒学会総会で症例報告を行った．

##### 7．病態生理班

頭部外傷急性期における凝固線溶動態に関する検討を継続して行い，フィブリノゲン分解の重要性を論文にて報告した．また，敗血症におけるナトリウム利尿ペプチドの動態と病態への関与，さらにトロンボポエチンを中心とした血小板，凝固線溶動態の解析を行った．

##### 8．基礎研究班

出血性ショック後の ARDS/MOF の発現機序の解明とその治療戦略が研究テーマである．出血性ショックに対する代用赤血球の使用は，腸管リンパ液による好中球に対する cytotoxicity や肺血管透過性を軽減することを明らかにした．さらに，濃厚赤血球による好中球の cytotoxicity に対する影響についても検討した．

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 大友康裕, 辺見 弘, 本間正人, 益子邦洋, 小関一英, 横田順一朗, 村田厚夫, 島崎修次: 重症外傷搬送先医療施設選定には, 受け入れ病院の診療の質評価が必須である: 厚生労働科学研究「救命救急センターにおける重症外傷患者への対応の充実に向けた研究」の結果報告. 日外傷会誌 2002; 16: 319-323.
- 2) 本間正人, 井上潤一, 大友康裕, 辺見 弘: 日本における災害時派遣医療チーム (DMAT) の構築と問題点について. 日本集団災害医学会誌 2002; 7: 95-100.
- 3) Hirata K<sup>1)</sup>, Kurokawa A ( <sup>1)</sup> 付属病院薬剤部): Chlorhexidine gluconate ingestion resulting in fatal respiratory distress syndrome. Vet Hum Toxicol 2002; 44: 89-91.
- 4) Yokota H, Naoe Y, Unemoto K, Kushimoto S, Kurokawa A, Node Y, Yamamoto Y: Cerebral endothelial injury in severe head injury: The significance of measurements of serum thrombomodulin and the von Willebrand factor. J Neurotrauma 2002; 29 (9): 473-480.
- 5) Okajima K, Harada N, Kushimoto S, Uchiba M: Role of microthrombus formation in the development of ischemia/reperfusion-induced liver injury in rats. Thrombosis & Haemostasis 2002; 88 (3): 473-480.
- 6) Kondo H, Seo N, Yasuda T, Hasizume M, Koido Y, Ninomiya N, Yamamoto Y: Post-flood infectious diseases in Mozambique. Prehospital Disaster Med 2002; 17 (3): 126-133.
- 7) Kushimoto S, Arai M, Aiboshi J, Harada N, Tosaka N, Koido Y, Yoshida R, Yamamoto Y: The role of interventional radiology in patients requiring damage control laparotomy. J Trauma 2003; 54 (1): 171-176.
- 8) 二宮宣文, 小井土雄一, 山本保博, 石井達男<sup>1)</sup>, 青木政幸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 白髭橋病院, <sup>2)</sup> ワールドアクセス): 国際患者搬送におけるデジタルカメラを利用したテレメディスン. 日本航空医療学会雑誌 2001; 2 (2): 21-25.
- 9) 首山明美<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 榎原牧子<sup>1)</sup>, 青木政幸<sup>1)</sup>, 石井達男<sup>2)</sup>, 岡村正江<sup>2)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> ワールドアクセスジャパン, <sup>2)</sup> 白髭橋病院): 国際患者搬送における看護師の役割と問題点. 日本航空医療学会雑誌 2002; 3 (1): 31-36.
- 10) 柴田泰史, 野本剛史, 久志本成樹, 山本保博: 頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解産物, フィブリン分解産物測定による線溶動態の解析. 医学検査 2002; 51 (5): 665-669.
- 11) 新井正徳, 増野智彦, 登坂直規, 原田尚重, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 腹部外傷における abdominal compartment syndrome (ACS) の治療戦略. 日救急医学会誌 2002; 13 (5): 289-294.
- 12) 上田康晴<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 多摩永山病院救命救急センター): 重症患者の人工呼吸中におけるプロポフォール持続鎮静の臨床的検討. 日本集中治療医学会雑誌 2002; 9 (3): 241-242.
- 13) 尾本健一郎<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>2)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): ソノクロットTMによる凝固機能評価に温度変化を及ぼす影響. 日本救急医学会雑誌 2002; 13 (10): 668-673.
- 14) 野口裕幸, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 新井正徳, 小井土雄一, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山本保博 ( <sup>1)</sup> 外科第1, <sup>2)</sup> 集中治療室): 劇症肝不全 (FHF) に対する当大学の取り組み: 臨床工学技士の立場より. ICUとCCU 2003; 27 (別冊号): S106-S107.

#### (2) 綜説:

- 1) 大友康裕: 腹部・骨盤外傷. Expert Nurse 2002; 18: 191-195.
- 2) 大友康裕: 災害拠点病院の機能とネットワーク. 臨床と薬物治療 2003; 22: 179-183.
- 3) 二宮宣文: ヨーロッパ視察を終えて. 月刊消防 2001; 23 (5): 11-16.
- 4) 小野寺謙吾, 野口裕幸, 新井正徳, 相星淳一, 山本保博: 輸液/輸血急速輸中システム. 救急医療ジャーナル

- 2002 ; 10 ( 2 ) : 48-50 .
- 5) 山本保博<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>2)</sup> : 災害時における医療機関の対応と薬剤師への期待 . 月刊薬事 2002 ; 44 : 843-849 .
  - 6) 山本保博, 平田清貴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院薬剤部 ) : 災害時における医療機関の対応と薬剤師への期待 . 月刊薬事 2002 ; 44 ( 5 ) : 15-21 .
  - 7) 山本保博 : FIFA ワールドカップ大会における集団災害医療体制 . 週間医学界新聞 2002 ; ( 2487 ) : 1-3 .
  - 8) 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博 : 後腹膜出血と damage control . 救急医学 2002 ; 26 ( 6 ) : 667-672 .
  - 9) 新井正徳, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博 : 腹部外傷における damage control の手術成績 . 救急医学 2002 ; 26 ( 6 ) : 707-714 .
  - 10) 川井 真, 平田清貴, 山本保博 : <さまざまな状況における輸液療法> 熱傷 . 内科 2002 ; 90 : 94-98 .
  - 11) 山本保博, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター ) : 臓器提供サイドからみた臓器摘出の問題点と解決策 . 今日の移植 2002 ; 15 ( 4 ) : 321-325 .
  - 12) 山本保博, 平田清貴, 川井 真 : [さまざまな状況における輸液療法] 熱傷 . 臨床雑誌「内科」 2002 ; 90 ( 1 ) : 90 : 93-90 : 98 .
  - 13) 山本保博, 横田裕行<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院救命救急センター ) : 救急施設からみた脳死臓器提供の問題点 . 日本移植学会雑誌「移植」 2002 ; 37 ( 4 ) : 141-146 .
  - 14) 山本保博 : 災害医療の将来像 . 治療学 2002 ; 36 ( 9 ) : 73-84 .
  - 15) 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博 : 心電図, 心筋逸脱酵素, 超音波 . 救急医学 胸部外傷診断・治療の進歩 2002 ; 26 ( 12 ) : 1679-1683 .
  - 16) 山本保博, 小井土雄一, 川井 真 : 救急医療研修・1 : 臨床研修化に伴う研修医の受け入れ体制をどうするか「日本医科大学付属病院救急医療修練プログラムの検証」 . 病院 2002 ; 61 ( 11 ) : 59-63 .
  - 17) 山本保博 : W 杯における救急・集団災害医療体制の構築 . 救急医療ジャーナル 2002 ; ( 58 ) : 8-12 .
  - 18) 久志本成樹, 小川太志 : 輸液療法 : 輸液計画・公式とその実際 . 救急医学 2003 ; 27 ( 1 ) : 36-38 .
  - 19) 小井土雄一 : 合併症対策 呼吸不全 . 救急医学 熱傷治療マニュアル 2003 ; 27 ( 1 ) : 52-54 .
  - 20) 柴田泰史, 山本保博 : 救急医療のなかでの臨床検査 . 臨床検査 2003 ; 47 ( 1 ) : 71-74 .
- ( 3 ) 研究報告書 :
- 1) 相星淳一, 辻井厚子, 上田康晴, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本 保博 : 広範囲熱傷に対する外科的治療の変遷に関する 25 年間の治療成績からの検討 . 熱傷 2002 ; 28 ( 4 ) : pp26-27 .
  - 2) 上田康晴, 相星淳一, 小野寺謙吾, 新井正徳, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博 : 気道熱傷例に対する挿管の適応基準 . 熱傷 2002 ; 28 ( 4 ) : pp38-39 .
  - 3) 上田康晴, 相星淳一, 二股 健, 磯部将人, 野崎正太郎, 大泉 旭, 川井 真, 山本保博 : 疼痛, 鎮静対策の是非 . 熱傷 2002 ; 28 ( 4 ) : pp45-46 .
  - 4) 上田康晴, 原田尚重, 吉田竜介, 山本保博 : HOT 患者の急性増悪について . 日本救急医学会関東地方会雑誌 2002 ; 23 : pp162-163 .
  - 5) 青木克憲<sup>1)</sup>, 相川直樹<sup>1)</sup>, 島崎修次<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> 慶應義塾大学医学部救急部, <sup>2)</sup> 杏林大学医学部救急医学, <sup>3)</sup> 日本医科大学救急医学 ) : 全国医学部・医科大学における救急医学の卒前教育の現況と課題についてのアンケート調査結果報告 . 日本救急医学会雑誌 2002 ; 13 ( 12 ) : pp757-768 .
  - 6) 小井土雄一 : 気管挿管について . 平成 14 年度海外救急事情調査報告書 ( 米国編 ) 2003 ; pp6-22 .
  - 7) 山本保博<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 石井 昇<sup>3)</sup>, 石原 哲<sup>4)</sup>, 杉山 貢<sup>5)</sup>, 藤井千穂<sup>6)</sup>, 杉本勝彦<sup>7)</sup>, 浅井康文<sup>8)</sup>, 勝見敦<sup>9)</sup>, 森村尚登<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> ( 主任研究者 ), <sup>2)</sup> ( 分担研究者 ) 日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup> ( 分担研究者 ) 神戸大学医学部災害・救急医学, <sup>4)</sup> ( 分担研究者 ) 医療法人誠和会白鬚橋病院, <sup>5)</sup> ( 分担研究者 ) 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター, <sup>6)</sup> ( 分担研究者 ) 大阪府立千里救命救急センター, <sup>7)</sup> ( 分担研究者 ) 昭和大学横浜市北部病院救命救急センター, <sup>8)</sup> ( 分担研究者 ) 札幌医科大学附属病院救命救急センター, <sup>9)</sup> ( 分担研究者 ) 武蔵野赤

十字病院救命救急センター，<sup>10)</sup>(分担研究者)国立横浜病院救命救急センター):平成14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害のガイドライン作成とその評価に関する研究」.平成14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害のガイドライン作成とその評価に関する研究」研究報告書 2003.

- 8) 山本保博<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 石井 昇<sup>3)</sup>, 石原 哲<sup>4)</sup>, 杉山 貢<sup>5)</sup>, 藤井千穂<sup>6)</sup>, 杉本勝彦<sup>7)</sup>, 浅井康文<sup>8)</sup>, 勝見敦<sup>9)</sup>, 森村尚登<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>(主任研究者), <sup>2)</sup>(分担研究者)日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup>(分担研究者)神戸大学医学部災害・救急医学, <sup>4)</sup>(分担研究者)医療法人誠和会白鬚橋病院, <sup>5)</sup>(分担研究者)横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター, <sup>6)</sup>(分担研究者)大阪府立千里救命救急センター, <sup>7)</sup>(分担研究者)昭和大学横浜市北部病院救命救急センター, <sup>8)</sup>(分担研究者)札幌医科大学附属病院救命救急センター, <sup>9)</sup>(分担研究者)武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>10)</sup>(分担研究者)国立横浜病院救命救急センター):平成13年度, 14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害のガイドライン作成とその評価に関する研究」.平成13年度, 14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害のガイドライン作成とその評価に関する研究」総合研究報告書 2003.
- 9) 山本保博<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>2)</sup>, 桑原紀之<sup>3)</sup>, 原口義座<sup>4)</sup>, 大久保一郎<sup>5)</sup>, 岡部信彦<sup>6)</sup>, 中村 修<sup>7)</sup>, 徳永章二<sup>8)</sup>, 島崎修次<sup>9)</sup>, 相川直樹<sup>10)</sup>, 志方俊之<sup>11)</sup>, 島津岳士<sup>12)</sup>(<sup>1)</sup>(主任研究者)日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup>(分担研究者)同救急医学, <sup>3)</sup>(分担研究者)自衛隊中央病院, <sup>4)</sup>(分担研究者)国立病院東京災害医療センター救命救急センター, <sup>5)</sup>(分担研究者)筑波大学社会医学系, <sup>6)</sup>(分担研究者)国立感染症研究所感染症情報センター, <sup>7)</sup>(分担研究者)慶應義塾大学環境情報学, <sup>8)</sup>(分担研究者)九州大学医学研究院予防医学/疫学/医学統計学, <sup>9)</sup>(分担研究者)杏林大学医学部救急医学, <sup>10)</sup>(分担研究者)慶應義塾大学医学部救急部, <sup>11)</sup>(分担研究者)帝京大学法学部, <sup>12)</sup>(分担研究者)大坂大学大学院医学系研究科):平成14年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」.平成14年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「国内での発生が稀少のため知見が乏しい感染症対応のための技術的基盤整備に関する研究」総括・分担研究報告書 2003.
- 10) 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 石井 昇<sup>3)</sup>, 吉岡敏治<sup>4)</sup>, 杉山 貢<sup>5)</sup>, 布施 明<sup>6)</sup>, 杉本勝彦<sup>7)</sup>, 浅井康文<sup>8)</sup>, 勝見敦<sup>9)</sup>, 森村尚登<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup>(主任研究者), <sup>2)</sup>(分担研究者)日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup>(分担研究者)神戸大学医学部災害・救急医学, <sup>4)</sup>(分担研究者)大坂府立病院救急診療科, <sup>5)</sup>(分担研究者)横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター, <sup>6)</sup>(分担研究者)川口市立医療センター救命救急センター, <sup>7)</sup>(分担研究者)昭和大学横浜市北部病院救命救急センター, <sup>8)</sup>(分担研究者)札幌医科大学附属病院救命救急センター, <sup>9)</sup>(分担研究者)武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>10)</sup>(分担研究者)国立横浜病院救命救急センター):平成14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害医療対応の一環としての医療搬送用ヘリコプター配置に関する研究」.平成14年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「Mass Gatheringにおける集団災害医療対応の一環としての医療搬送用ヘリコプター配置に関する研究」研究報告書 2003.
- 11) 島崎修次<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 田中秀治<sup>3)</sup>, 高見佳宏<sup>4)</sup>, 猪口貞樹<sup>5)</sup>, 岡田芳明<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>(主任研究者)杏林大学医学部救急医学, <sup>2)</sup>(分担研究者)日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup>(分担研究者)国士舘大学救急医学, <sup>4)</sup>(分担研究者)杏林大学医学部形成外科, <sup>5)</sup>(分担研究者)東海大学医学部救急医学, <sup>6)</sup>(分担研究者)防衛医科大学校病院救急部):平成14年度厚生労働科学研究費補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「凍結同種皮膚を用いた皮膚の再生の研究」:同種皮膚の採取と保存に関する研究.平成14年度厚生労働科学研究費補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「凍結同種皮膚を用いた皮膚の再生の研究」総括・分担研究報告書 2003.
- 12) 山本保博:除細動について.平成14年度海外救急事情調査報告書(米国編) 2003; pp3-5.

#### (4) 報告書:

- 1) 大友康裕:平成13年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「救命救急センターにおける

重症外傷患者への対応充実に向けた研究」研究報告書．2002．

(5) 総論：

- 1) 山本保博，野口裕幸：155．心停止・救急蘇生．腎疾患治療薬マニュアル2002～2003（腎と透析）2002；53（増刊号）：594-599．

著書

- 1) 大友康裕：〔分担執筆〕救急看護へのサポート 急変時，救急現場での看護の役割「突然の病気の場合」．In 杉本勝彦編．救急看護へのサポート，2002；pp7-29，南山堂．
- 2) 大友康裕：〔分担執筆〕救急看護へのサポート 急変時，救急現場での看護の役割「病棟・院内で急変の場合」．In 杉本勝彦編．救急看護へのサポート，2002；pp10-11，南山堂．
- 3) 大友康裕：〔分担執筆〕救急看護へのサポート 急変時，救急現場での看護の役割「敗血症性ショック」．In 杉本勝彦編．救急看護へのサポート，2002；pp122-124，南山堂．
- 4) 大友康裕：〔分担執筆〕救急救命士標準テキスト（改訂第6版）骨盤・四肢外傷．In 救急救命士教育研究会監修．救急救命士標準テキスト（改訂第6版），2002；pp705-713，へるす出版．
- 5) 大友康裕：〔分担執筆〕救急救命士標準テキスト（改訂第6版）皮膚・軟部組織外傷．In 救急救命士教育研究会監修．救急救命士標準テキスト（改訂第6版），2002；pp714-718，へるす出版．
- 6) 大友康裕：〔分担執筆〕第19回救急救命士国家試験問題 解答・解説集．第21回救急救命士国家試験問題 解答・解説集，2002；pp66-102．
- 7) 大友康裕：〔分担執筆〕トリアージ（Triage）と3T．In 災害医学；国際災害研究会編，2002；pp198-210，南山堂．
- 8) 大友康裕：〔分担執筆〕外傷初期診療ガイドラインJATEC．日本外傷学会外傷研修コース開発委員会編，2002；へるす出版．
- 9) 大友康裕：〔分担執筆〕頸部穿通性（鋭的）外傷．山口 徹，北原光夫編．今日の治療指針，2003；pp36-37，医学書院．
- 10) 大友康裕：〔分担執筆〕心膜腔（心嚢）穿刺法，心膜切開法．山口 徹，北原光夫編．今日の治療指針，2003；pp88-89，医学書院．
- 11) 二宮宣文：〔分担〕末梢静脈カテーテル留置法，静脈切開法．今日の治療指針2002年版，2002；pp75-75，医学書院．
- 12) 二宮宣文，山本保博：〔分担〕化学災害事故におけるトリアージと除染患者搬送について．救急医学 26，2002；pp239-241，へるす出版．
- 13) 二宮宣文：〔分担〕災害現場における救出医療．医学の歩み，2002；pp929-932，医歯薬出版．
- 14) 二宮宣文：〔分担〕派遣企業としての健康危機管理対策．海外勤務と健康，2002；pp3-5，海外勤務健康管理センター．
- 15) 小井土雄一：〔分担〕出血性ショック．～ナースのポケットに強い味方～救急看護へのサポート（杉本勝彦），2002；pp130-132，南山堂．
- 16) 小井土雄一：〔分担〕不正性器出血．～ナースのポケットに強い味方～救急看護へのサポート（杉本勝彦），2002；pp249-251，南山堂．
- 17) 小井土雄一：〔分担〕鼻出血．～ナースのポケットに強い味方～救急看護へのサポート（杉本勝彦），2002；pp252-254，南山堂．
- 18) 小井土雄一：〔分担〕めまい．～ナースのポケットに強い味方～救急看護へのサポート（杉本勝彦），2002；pp255-257，南山堂．
- 19) 小井土雄一：〔分担〕腹部外傷．救命救急士標準テキスト（救急救命士教育研究会），2002；pp697-704，へるす出版．

- 20) 山本保博：〔分担〕看護学大辞典．看護学大辞典，2002；メディカルフレンド社．
- 21) 山本保博：〔分担〕B. 人間と人間生活．救急救命士標準テキスト（改訂第6版）（救急救命士教育研究会），2002；pp7-8，へるす出版．
- 22) 牧野俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック）：〔分担〕第21回救急救命士国家試験問題解答解説集，2002；へるす出版．
- 23) 山本保博：〔監修〕第21回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第21回救急救命士国家試験問題解答・解説集（監修），2002；へるす出版．
- 24) 二宮宣文：〔分担〕列車事故．災害医学（山本保博，鶴飼 卓，杉本勝彦），2002；pp105-112，南山堂．
- 25) 小井土雄一：〔分担〕海難事故．災害医学（山本保博，鶴飼 卓，杉本勝彦），2002；pp125-132，南山堂．
- 26) 山本保博：〔分担〕国際社会と災害．災害医学（山本保博，鶴飼 卓，杉本勝彦），2002；pp247-256，南山堂．
- 27) 山本保博：〔分担〕集中治療医学．臨床工学技士標準テキスト，2002；pp627-631，金原出版（株）．
- 28) 牧野俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック）：〔総説〕旅行者血栓症，いわゆるエコノミークラス症候群，2002；pp27-32，都薬雑誌．
- 29) 牧野俊郎<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック）：〔分担〕第22回救急救命士国家試験問題解答解説集，2002；へるす出版．
- 30) 山本保博：〔分担〕外傷性ショック．今日の診断指針第5版，2002；pp510-511，医学書院．
- 31) 山本保博：〔監修〕第22回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第22回救急救命士国家試験問題解答・解説集（監修），2002；へるす出版．
- 32) 牧野俊郎<sup>1)</sup>，前田容子<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>2</sup>千葉北総病院）：〔総説〕AED使用の現状と課題，2002；pp33-39，MCメディカ出版．
- 33) 片田正一<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>3)</sup>，片田裕子<sup>4)</sup>（<sup>1</sup>東京大学医学部附属病院救急部集中治療部，<sup>2</sup>新東京国際空港クリニック所長，<sup>3</sup>千葉北総病院救命救急センター助教授，<sup>4</sup>富山医科薬科大学大学院医学系看護学専攻）：〔共著〕Emergency Nursing，2002；pp68-73，メディカ出版．
- 34) 川井 真：〔分担〕脊椎・脊髄外傷．外傷初期診療ガイドライン（日本外傷学会・日本救急医学会），2002；pp103-114，へるす出版．
- 35) 山本保博，野口裕幸：〔分担〕心停止・救急蘇生．腎疾患治療薬マニュアル2002-2003，2002；pp594-599，東京医学社．
- 36) 山本保博：〔分担〕空気塞栓．腎疾患治療薬マニュアル2002-2003，2002；pp600-601，東京医学社．
- 37) 相星淳一：〔分担〕乱用薬物中毒（覚醒剤，大麻，麻薬）．今日の治療指針 2003年版（山口 徹 北原光夫），2003；pp120-121，医学書院．
- 38) 山本保博：〔監修〕救急救命士国家試験対策エッセンシャルズ1基礎編（第3版）．救急救命士国家試験対策エッセンシャルズ1基礎編（監修），2003；へるす出版．
- 39) 山本保博：〔監修〕救急救命士国家試験対策エッセンシャルズ2実践編．救急救命士国家試験対策エッセンシャルズ2実践編（第3版）（監修），2003；へるす出版．
- 40) 山本保博，中谷壽男<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>関西医科大学救急医学科）：〔分担〕急性中毒．今日の治療指針2003年版，2003；pp1099-1124，医学書院．
- 41) 川井 真：〔自著〕救急医療における卒後教育モデルの開発とデジタル画像教育効果の研究．平成13年度文部科学研究報告書，2003；pp1-212，基礎研究C．
- 42) 山本保博：〔分担〕家庭の医学[大活字版]．家庭の医学[大活字版]（柳下徳雄），2003；小学館．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 成田空港における肺血栓塞栓症；いわゆる旅行者血栓症の実情について．第40回川崎循環器懇話会，2002．3．
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): エコノミクラス症候群（旅行者血栓症）の最前線．神奈川県病院薬剤師会薬学セミナー，2002．6．
- 3) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 国際空港と肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）．第10回山形止血・血栓セミナー，2003．1．
- 4) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 国際空港と肺血栓塞栓症の実情．第18回神奈川急性循環不全研究会，2003．1．
- 5) 二宮宣文：地域における災害医療対策の現状と課題．第19回日本救急医学会東海地方会総会，2002．11．
- 6) 川井 真：多発外傷における四肢外傷治療戦略．北海道Emergency OrthopedicTrauma Seminar，2002．11．
- 7) 山本保博：2002FIFA ワールドカップにおける医療搬送用ヘリコプター配置の経験．第9回日本航空医療学会，2002．11．

### (2) 招待講演：

- 1) Kawai M：Treatment of Extensive Burned patients in Japan．The 13th China- Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( China ), 2002．9．
- 2) 小井土雄一，杉本勝彦，勝見 敦，森村尚登，山本保博：FIFA ワールドカップ大会におけるスタジアム内外の医療体制．2002年韓国救急医学会（釜山），2002．4．
- 3) 吉田竜介：救急救命士処置拡大とメディカルコントロールに関して．第9回北東北心臓病救急セミナー，2002．10．
- 4) 川井 真：新しい救急医学を学ぶ．都立青山病院 救急医療研修会，2002．11．
- 5) 川井 真：救急診療ガイドラインについて．秋田県千秋耳鼻科懇話会，2003．2．

### (3) 教育講演：

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 初診時の判断と対応；航空機に起因する疾患．第5回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 2) 山本保博：バイオテロリズムと医療対応．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 3) 山本保博：生物兵器とテロの歴史からみた21世紀の対策．第4回日本救急看護学会学術集会，2002．11．
- 4) 川井 真：気道確保と換気．第9回Emergency Orthopedic Trauma Association，2003．2．
- 5) 小井土雄一：高齢者外傷．日本医師会生涯教育講座，2003．2．

### (4) 基調講演：

- 1) 山本保博：AHA ガイドラインズ2000に基づくBLS, ACLSについて．第85回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会），2002．3．

### (5) シンポジウム：

- 1) 相星淳一，辻井厚子，上田康晴，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，山本保博：広範囲熱傷に対する外科的治療の変遷に関する25年間の治療成績からの検討．第28回日本熱傷学会総会，2002．6．
- 2) 上田康晴，相星淳一，小野寺謙吾，新井正徳，久志本成樹，川井 真，山本保博：ラリングアルマスクやtwo-way tubeは絶対か？【救急現場における気道確保の問題点】．第5回日本臨床救急医学会総会，2002．6．
- 3) 久志本成樹，川井 真，小井土雄一，磯部将人，小川太志，原田尚重，相星淳一，吉田竜介，山本保博：重症腹部・骨盤外傷に対するdamage control とinterventional radiologyの併用戦略．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 4) 上田康晴，山本保博：当センターにおける呼吸管理戦略の変遷【呼吸管理戦略】．第30回日本救急医学会総会，2002．10．

- 5) 山本保博<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 原田尚重<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>2)</sup>, 岡村忠夫<sup>2)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学,<sup>2)</sup>同薬理学): アナンダミドおよび2-アラキドノイルグリセロール投与によるモルモットのエンドトキシン様作用発現. 第7回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2003. 1.
  - 6) 久志本成樹, 小川太志, 原田尚重, 磯部将人, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 山本保博: 肝損傷例における開腹適応と術式選択: damage controlとIVRをどのように位置付けるか 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
  - 7) 川井 真, 岩切 致, 久志本成樹, 黒川 顕, 辺見 弘, 山本保博: 広範囲熱傷に対する人工真皮を用いた臨床研究. 日本熱傷学会関東地方会, 2003. 2.
  - 8) 山本保博: アナンダミドおよび2-アラキドノイルグリセロール投与によるモルモットのエンドトキシン様効果発現. 第7回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2003. 3.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 久志本成樹, 相星淳一, 小井土雄一, 吉田竜介, 新井正徳, 松園幸雅, 原田尚重, 登坂直規, 川井 真, 山本保博: 重症腹部外傷に対するdamage control celiotomyにおけるinterventional radiologyの役割. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
  - 2) 川井 真, 新井正徳, 上田正晴, 久志本成樹, 山本 博: 重症熱傷におけるクリニカルパス導入は可能か? 第5回日本臨床救急医学会総会, 2002. 4.
  - 3) 上田康晴, 相星淳一, 小野寺謙吾, 新井正徳, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 気道熱傷例に対する挿管の適応基準【討論セッション】. 第28回日本熱傷学会総会, 2002. 6.
  - 4) 上田康晴, 相星淳一, 二股 健, 磯部将人, 野崎正太郎, 大泉 旭, 川井 真, 山本保博: 疼痛, 鎮静の是非【討論セッション】. 第28回日本熱傷学会総会, 2002. 6.
  - 5) 久志本成樹: 3例の法的脳死判定に基づく臓器提供施設としての経験から. 第1回東日本支部「臓器の提供に関する懇話会」, 2003. 3.
- (7) セミナー:
- 1) 久志本成樹: 根拠に基づいた救急医療. 第6回新潟県医師会病診連携学術講演会, 2002. 6.
  - 2) 久志本成樹: 外傷急性期における凝固線溶異常: 生理的止血, DIC, 頭部外傷. 第30回日本救急医学会総会, 2002. 10.
- (8) ワークショップ:
- 1) 二宮宣文, 原口義座<sup>1)</sup>, 友保洋三<sup>1)</sup>, 吉岡敏治<sup>2)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター,<sup>2)</sup>大阪府立病院): 災害医療ネットワークにおける災害拠点病院の役割. 第29回日本救急医学会総会・学術集会, 2001. 11.
  - 2) 小井土雄一, 山本保博, 杉山 貢, 吉岡敏治, 浅井康文, 石井 昇, 杉本勝彦, 勝見 敦, 森村尚登, 布施明: 2002年FIFAワールドカップにおける医療搬送用ヘリコプター配置の経験. 第8回日本集団災害医学会総会, 2003. 2.
  - 3) 森村尚登, 勝見 敦, 小井土雄一, 杉本勝彦, 浅井康文, 石井 昇, 石原 哲, 杉山 貢, 吉岡敏治, 藤井千穂, 辺見 弘, 山本保博: 2002年FIFAワールドカップ大会関連傷病者データと開催中体制の解析 厚生労働省研究班中間報告. 第8回日本集団災害医学会総会, 2003. 2.
  - 4) 勝見 敦, 森村尚登, 小井土雄一, 杉本勝彦, 浅井康文, 石井 昇, 石原 哲, 杉山 貢, 吉岡敏治, 藤井千穂, 辺見 弘, 山本保博: 2002 FIFAWC大会における集団災害医療体制構築への活動: 日常的なmass gatheringに対する救急・集団災害医療体制の構築に向けて. 第8回日本集団災害医学会総会, 2003. 2.
- (9) 一般講演:
- 1) Kushimoto S, Yamamoto Y, Shibata Y: Increased fibrinogenolysis is involved in coagulopathy in patients with closed head injury. Society of Critical Care Medicine, 31th Critical Care Congress ( San Antonio, Texas, USA ), 2003. 1.



- 2) 山本修三, 田上正茂, 中林基明, 佐藤秀貴, 野崎正太郎, 二宮宣文, 野手洋治, 山本保博: 脳室内出血で発症した破裂末梢性後下小脳動脈瘤と脳動脈奇形合併例. 第51回日本救急医学会関東地方会, 2001. 6.
- 3) 曾山明美<sup>1)</sup>, 青木政幸<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 山本保博, 石井達男<sup>2)</sup>, 岡村正江<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>ワールドアクセス, <sup>2)</sup>白髭橋病院): 国際患者搬送における看護婦の役割と問題点. 第8回日本航空医療学会, 2001. 11.
- 4) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 野口裕幸, 柴田康史, 小野寺謙吾, 小井土雄一, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学): 不活性ガス(IG-541)による低酸素環境の人体に対する影響. 第29回日本救急医学会総会・学術集会, 2001. 11.
- 5) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学): Lipopolysaccharideの意識下無拘束モルモットの腸管収縮に及ぼす影響. 第29回日本救急医学会総会・学術集会, 2001. 11.
- 6) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 野崎正太郎, 相星淳一, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学): 意識下無拘束モルモット腸管平滑筋実験モデルにおけるLipopolysaccharideの腸管収縮に及ぼす影響. 第6回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2002. 1.
- 7) 二宮宣文, 根本加代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学): 覚醒モルモットにおけるLipopolysaccharideの結腸弛緩作用. 第75回日本薬理学会年会, 2002. 3.
- 8) 小野寺謙吾, 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 山本保博, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉: 出血性ショック後のラット腸管におけるlactateとalanineの変化: リボソーム内包型ヘモグロビンを蘇生輸液に用いて. 日本shock学会, 2002. 5.
- 9) 野口裕幸: パルスオキシメータの経時的変化管理の検討について. 日本臨床工学技士会, 2002. 5.
- 10) 柴田泰史, 野本剛史, 山本保博, 相星淳一, 仁平 信, 林田真喜子, 大野曜吉: TOX/Seeによる薬物スクリーニングの検討. 第51回日本医学検査学会, 2002. 5.
- 11) 堺 則康<sup>1)</sup>, 義澤雄介<sup>1)</sup>, 天野彰人<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第3内科, <sup>2)</sup>同高度救命救急センター): 小腸に多発性潰瘍を伴った中毒性表皮壊死症(TEN)の1例. 日皮会第774回東京地方会(合同臨床地方会), 2002. 7.
- 12) 小野寺謙吾, 相星淳一, 久志本成樹, 柿沼敏行, 山本保博, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉: ラット出血性ショックモデルに対する代用赤血球の効果. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 13) 野口裕幸, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 新井正徳, 小井土雄一, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>外科第1, <sup>2)</sup>集中治療室): 劇症肝不全(FHF)に対する当大学の取り組み: 臨床工学技士の立場より. 日本急性血液浄化学会, 2002. 9.
- 14) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 相星淳一, 吉田竜介, 山本保博, 仁平 信, 林田真喜子, 大野曜吉: 乱用薬物スクリーニング検査キットの有用性の検討: TOX/SeeとTriageの比較検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 15) 二宮宣文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>1)</sup>, 山本保博(<sup>1)</sup>薬理学): エンドトキシン血症モルモットにおける抗インフルエンザウイルス剤の効果. 第30回日本救急医学会総会, 2002. 10.
- 16) 二宮宣文, 原田尚重, 小井土雄一, 佐藤秀貴, 大泉 旭, 中埜信太郎, 山本保博: 多発テロに対するドクターカー運用と救命率向上に関する研究. 第30回日本救急医学会総会, 2002. 10.
- 17) 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 小野寺謙吾, 柿沼敏行, 山本保博: 人赤血球濃厚液の多核白血球のcytotoxicityに対する影響. 第30回 日本救急医学会総会, 2002. 10.
- 18) 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 岩瀬龍之<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック): 国際空港における放射線技師の役割. 第48回日本宇宙航空環境医学会総会, 2002. 11.
- 19) 大野香那恵<sup>1)</sup>, 平田清貴<sup>2)</sup>, 松本宜明<sup>1)</sup>, 中野渡雄一, 清水万紀子<sup>1)</sup>, 上田康晴, 福岡正道<sup>1)</sup>, 平野公成<sup>2)</sup>, 黒川 顕, 山本保博(<sup>1)</sup>昭和薬科大学, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院薬剤部): フルコナゾール併用時のミダゾラム血中濃度上昇の検討. 第23回日本臨床薬理学会, 2002. 12.
- 20) 平田清貴<sup>1)</sup>, 大野香那恵<sup>2)</sup>, 松本宜明<sup>2)</sup>, 清水万紀子<sup>2)</sup>, 中野渡雄一, 上田康晴, 福岡正道<sup>2)</sup>, 平野公成<sup>1)</sup>, 黒川

- 頭, 山本保博<sup>(1)</sup> 付属病院薬剤部,<sup>(2)</sup> 昭和薬科大学): CHDF 施行患者におけるミダゾラム体内動態に関する検討. 第23回日本臨床薬理学会, 2002. 12.
- 21) 吉田竜介, 佐藤憲明, 水安達也, 山本保博: AHAにおける心肺蘇生法の指導要領について. 第11回全国救急隊員シンポジウム, 2003. 1.
- 22) 平田清貴<sup>1)</sup>, 小川太志, 宮崎善史, 平野公成<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup> 付属病院薬剤部): 当院高度救命救急センターにおける急性薬毒物中毒加算の影響. 第17回日本中毒学会東日本地方会, 2003. 1.
- 23) 日谷明裕<sup>1)</sup>, 菊池 均<sup>1)</sup>, 新井康弘<sup>1)</sup>, 横田 勉<sup>1)</sup>, 田中義枝<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>2)</sup><sup>(1)</sup> 成田空港検疫所,<sup>(2)</sup> 日本医科大学新東京国際空港クリニック): 海外における日本人渡航者の疾病予防に関する意識および実際の罹患状況. 第4回日本検疫医学会総会, 2003. 2.
- 24) 小野寺謙吾, 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 柿沼敏行, 山本保博: 出血性ショックに対するLiposome-encapsulated hemoglobinの効果: 腸管組織酸素代謝と遠隔臓器傷害. 日本医科大学医学会第109回例会, 2003. 2.
- 25) 上田康晴, 柴田泰史, 磯部将人, 小川太志, 原田尚重, 小井土雄一, 山本保博: TDM調査から見たテイコブラニン投与方法について. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.
- 26) 上田康晴, 磯部将人, 相星淳一, 小井土雄一, 山本保博: 重症患者におけるロピバカイン持続硬膜外ブロックの有用性について. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.
- 27) 宮元亮子, 上田康晴, 宮崎善史, 野口裕幸, 大泉 旭, 相星淳一, 川井 真, 山本保博: 心原性心肺停止例に対するt-PA製剤の投与について. 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 28) 高山泰宏, 上田康晴, 原田尚重, 柿沼敏行, 花田有里子, 吉田竜介, 二宮宣文, 山本保博: Transthoracic Biphagic Methodによるmyocardial damageについて. 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 29) 上田康晴, 山本保博, 小井土雄一, 久志本成樹, 原田尚重, 小川太志, 志賀尚子, 宮崎善史, 高山泰宏: 重症患者における $\omega$ -3系脂肪酸を多く含有する経管栄養剤の検討. 第7回CCM輸液研究会, 2003. 2.
- 30) 佐藤秀貴, 志賀尚子, 山本修三, 野手洋治, 山本保博: バイオベックスによる美容的頭蓋形成. 第53回 日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 31) 柴田泰史, 野本剛史, 里村克章, 上田康晴, 山本保博: 心筋マーカー測定キット「ラピチェックH-FABP」および「トロップTセンシティブ」の問題点について. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.
- 32) 野口裕幸, 上田康晴, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 人工呼吸器と加温加湿器・呼吸回路の組み合わせによる1回換気量表示の違い. 日本集中治療医学会, 2003. 3.
- 33) 佐藤秀貴, 野手洋治, 志賀尚子, 横田裕行, 山本保博: くも膜下出血症例におけるCSF中のS100 蛋白の測定. 第32回脳卒中外科学会, 2003. 3.
- 34) 平田清貴<sup>1)</sup>, 大野香那恵, 松本宜明, 清水万紀子, 小川太志, 原田尚重, 上田康晴, 志賀尚子, 野口裕幸, 福岡正道, 平野公成<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>(1)</sup> 付属病院薬剤部): CHDF 施行患者におけるフルコナゾール体内動態に関する検討. 日本薬学会第123年会, 2003. 3.
- (10) Forum session :
- 1) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 辺見 弘: 外傷患者の来院時血中乳酸値および体温によって予後予測はどこまで可能か? 第102回日本外科学会総会, 2002. 4.
- 2) 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 大友 康裕, 原口義座, 辺見 弘: 徹底討論「DIC診断基準; 病態により異なる基準が必要か, 同一でよいか」DIC診断基準: 病態により異なる基準が必要: DICの基準は, 特に外傷や出血性疾患は分けるべきである. 第30回日本救急医学会総会, 2002. 10.
- (11) Oral Presentation :
- 1) 長岡孝典, 辺見 弘, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一: 搬送中における傷病者のVF 検出の問題点について. 第4回日本臨床救急医学会総会, 2002. 4.
- 2) 加藤 宏, 大友 康裕, 本間正人, 井上潤一, 長谷川栄寿, 原口義座, 辺見 弘, 山本保博, 川井 真: 急性四

- 肢麻痺を生じた頸椎化膿性脊椎炎の2例．第4回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 3) 玉井文洋，大友康裕，本間正人，井上潤一，小林辰輔：気道出血を伴う肺挫傷症例に対する予防的ユニベントチューブ挿入の意義．第4回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 4) 斉藤 究，加藤 宏，井上潤一，本間正人，大友康裕，辺見 弘：ウンパチイソギンチャク刺傷による足趾循環障害に対し高気圧酸素療法を施行した1例．第4回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 5) 我満佳子，小俣二郎，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，小林辰輔，山本武史，長谷川栄寿，霧生信明，篠 美和，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：芽胞が染色された破傷風の1例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- 6) 濱中洋平，霧生信明，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，小林辰輔，山本武史，長谷川栄寿，篠 美和，小俣二郎，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：外傷性胃破裂の2例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- 7) 本間正人，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，小林辰輔，山本武史，長谷川栄寿，霧生信明，篠 美和，小俣二郎，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：最近導入したドクターカー出動100件の経験．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- 8) 長谷川栄寿，加藤 宏，大友康裕，本間正人，井上潤一，小林辰輔，山本武史，霧生信明，篠 美和，小俣二郎，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：肛門周囲膿瘍から波及した重症下肢蜂窩織炎の1例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- 9) 石橋雄次，小林辰輔，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，山本武史，長谷川栄寿，霧生信明，篠 美和，小俣二郎，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：仮性肝動脈瘤破裂の1例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- 10) 根本景子，小篠美和，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，小林辰輔，山本武史，長谷川栄寿，霧生信明，小俣二郎，杉本親寿，原口義座，辺見 弘：回腸腫瘍と仙腸関節炎を合併した絞扼性腸閉塞の1例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．
- (12) Panel Discussion :
- 1) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，井上潤一，加藤 宏，石原 晋：パネルディスカッション 救急現場から病院治療への一貫性；病着後の問題 救急現場救護活動と病院治療は一貫させるべきである：病院前救護の標準化が進みつつある外傷を例として．第4回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 2) 井上潤一，大友康裕，太田圭介，小林辰輔，玉井文洋，霧生信明，本間正人，辺見 弘：第16回日本外傷学会パネルディスカッション「外傷診療におけるピットフォール」外傷診療におけるピットフォール-Preventable Death 症例からの検討．第16回日本外傷学会，2002．5．
- 3) 江口 豊，大友康裕：パネルディスカッション「救急領域のDIC診断・管理・治療方針の作成について」：救急領域のDIC．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 4) 井上潤一，本間正人，大友康裕，辺見 弘，福島憲治，浅利 靖：救助チームと連携した都市探索救助活動 Urban Search and Rescueの確立に向けて：東京消防庁および国際緊急援助隊との合同訓練より．第8回日本集団災害医学会，2003．2．
- (13) Poster :
- 1) Onodera K, Aiboshi J, Kaoru K, Kushimoto S, Yamamoto Y, Hirakawa K, Uekusa K, Ohno Y : The effect of liposome-encapsulated hemoglobin on tissue oxygen metabolism of small intestine following hemorrhagic shock in rats . American Association for the Surgery of Trauma ( Orlando, Florida, USA ), 2002 . 9 .
- (14) Poster Presentation :
- 1) 太田圭介，井上潤一，本間正人，加藤 宏，大友康裕，辺見 弘，森川健太郎，高里良男，島田栄治，倉本憲明：Covered metallic stentにて治療し得た頸部穿通性外傷による内頸動脈損傷の1例．第16回日本外傷学会，

2002 . 5 .

- 2) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 辺見 弘: 術後のデジタルサブトラクション胆道膵管造影 (DSCP) により膵管分枝損傷を診断した膵頭部損傷の1例. 第16回日本外傷学会, 2002 . 5 .
- 3) 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 大友 康裕, 原口義座, 辺見 弘: 当院における多数傷病者化学災害に対する取り組み. 第30回日本救急医学会総会, 2002 . 10 .

(15) Symposium :

- 1) 大友康裕, 辺見 弘, 本間正人, 益子邦洋, 小関一英, 横田順一朗, 村田厚夫, 島崎修次: 第16回日本外傷学会シンポジウム「外傷患者の搬送先; 適切な選定は?」重症外傷搬送先医療施設選定には, 受け入れ病院の診療の質評価が必須である. 第16回日本外傷学会, 2002 . 5 .
- 2) 大友康裕: 健康危機へのpreparedness (準備): 救急, 災害医療, 放射線災害への訓練と組織から学ぶ: 災害拠点病院における訓練と組織. 第61回日本公衆衛生学会, 2002 . 10 .
- 3) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 小林辰輔, 霧生信明, 原口義座, 辺見 弘: シンポジウム「21世紀の重症多発外傷に対する治療戦略」: 出血性損傷を伴う頭蓋内血腫症例の救命率向上のためには. 第30回日本救急医学会総会, 2002 . 10 .
- 4) 大友康裕, 江口 豊: DIC コンセンサスシンポジウム: 救急領域のDIC. 第25回日本血栓止血学会, 2002 . 11 .

(16) Work Shop :

- 1) 大友康裕: ワークショップ「外傷診療研修 (JATEC) のコース展開について」: コース開発中に認められた諸問題; 議論すべき"Q & A". 第30回日本救急医学会総会, 2002 . 10 .
- 2) 本間正人, 井上潤一, 大友 康裕, 原口義座, 辺見 弘: 災害時派遣医療チーム (DMAT) の構築の課題: 厚生労働省特別科学研究班の検討より. 第8回日本集団災害医学会, 2003 . 2 .

(17) フリーディスカッション :

- 1) 近藤久禎, 小井土雄一, 山本保博: 災害医学における事例研究のあり方について. 第8回日本集団災害医学会総会, 2003 . 2 .

(18) ポスター :

- 1) Onodera K, Aiboshi J, Koike K, Kakinuma T, Kushimoto S, Yamamoto Y, Hirakawa K, Uekusa K, Ohno Y: The effect of liposome-encapsulated hemoglobin on tissue oxygen metabolism of small intestine following hemorrhagic shock in rats. The 9th International Symposium on Blood Substitute Program (Tokyo, Japan), 2003 . 3 .
- 2) 小野寺謙吾, 相星淳一, 小池 薫, 久志本成樹, 柿沼敏行, 山本保博: 出血性ショックに対するLiposome-encapsulated hemoglobinの効果: 腸管組織酸素代謝と遠隔臓器傷害. 第30回日本救急医学会総会・学術集会, 2002 . 11 .

(19) 講演 :

- 1) 大友康裕: 医療機関における災害時の対応 (トリアージを含めて). 第2回飯能地区健康危機管理研修会, 2003 . 2 .
- 2) 大友康裕: わが国における防ぎ得た外傷死 (Preventable Trauma Death ; PTD) 根絶のための課題と今後の展望. 第19回日本救急医学会東海地方会 , 2003 . 2 .
- 3) 大友康裕: 腹部外傷における観血的治療法の進歩と現状. 第2回飯塚救急セミナー , 2003 . 3 .

(20) 徹底討論 :

- 1) 相星淳一, 上田康晴, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 超早期植皮術の有用性についての検討: 熱傷とtwo insult theory. 第30回 日本救急医学会総会, 2003 . 10 .

## [ 多摩永山病院救命救急センター ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Hirata K<sup>1)</sup>, Kurokawa A ( <sup>1)</sup> 付属病院 ) : Chlorhexidine gluconate ingestion resulting in fatal respiratory distress syndrome . Veterinary and Human Toxicology 2002 ; 44 ( 4 ) : 89-91 .
- 2) Yokota H : Cerebral endothelial injury in severe head injury. The significance of measurements of serum thrombomodulin and the Von Willebrand factor . Journal of Neurotrauma 2002 ; 19 ( 9 ) : 1007-1015 .
- 3) 伊藤敬雄<sup>1)</sup>, 山寺博史<sup>1)</sup>, 黒澤 尚<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 原田章子<sup>1)</sup>, 横田裕行, 黒川 顕, 遠藤俊吉<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院精神神経科, <sup>2)</sup> 付属病院神経科 ) : 高次救命救急センターにおける精神科 consultation-liaison service を開始して . 総合病院精神医学 2002 ; 14 : 64-74 .
- 4) 弥富俊太郎, 島田 靖, 小野寺謙吾, 加地正人, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕 : 持続動注療法にて著効なく開腹ドレナージ術に至った重症急性すい炎の1例 . Therapeutic Research 2002 ; 23 ( 2 ) : 192-198 .
- 5) 上田康晴<sup>1)</sup>, 相星淳一<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 中村敏弘, 横田裕行, 黒川 顕 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ) : 重症患者の人工呼吸中におけるプロポフォール持続鎮静の臨床的検討 . 日本集中治療医学会雑誌 2002 ; 3 ( 9 ) : 241-243 .
- 6) 久野将宗, 中野渡雄一, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ) : 救急領域におかえる重症心不全 . Cardiovascular Med-Surg 2002 ; 4 ( 4 ) : 35-40 .
- 7) 上笹 宙, 菊池広子, 小柳美雪, 玉井英世, 弥富俊太郎, 小川理郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕 : 腹膜刺激症状を主症状とし, まれな転帰をたどった突発性食道破裂の1例 . Therapeutic Research 2002 ; 23 ( 12 ) : 2447-2452 .
- 8) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 同脳神経外科 ) : 頭蓋内疾患のモニタリングとしての血液マーカー, 血管内皮損傷の指標 . 神経外傷 2003 ; 25 ( 1 ) : 24-27 .
- 9) 横田裕行 : 脳死判定における短潜時体制感覚誘発電位 ( SSEP ) の意義 . 日臨救医誌 2003 ; 6 ( 6 ) : 8-14 .

##### (2) 綜説 :

- 1) 横田裕行 : 学校救急処置 脳外科 : 頭部外傷の診断とその初期治療 . 子どもと健康 2002 ; 71 : 37-44 .
- 2) 横田裕行, 山本裕行 : 臓器提供サイドからみた臓器提出の問題点と解決策 . 今日の移植 2002 ; 15 : 321-325 .
- 3) 横田裕行, 山本保博<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ) : 救急施設からみた脳死下臓器提供の問題点, 移植 . 移植 2002 ; 37 : 141-146 .
- 4) 横田裕行 : 救急医療からみた法律に基づいた脳死判定の現状と問題点 . 日本臨床生理学会雑誌 2002 ; 317-326 .
- 5) 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 松園幸雅<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ) : 臓器提供施設からみた臓器提供手順の問題点 . 日本救急医学会雑誌 2002 ; 13 ( 2 ) : 73-77 .
- 6) 小川理郎 : 頭部太平洋上における洋上救急医療の現状と問題点 . 海上医学研究雑誌 2002 ; 39 : 53-64 .
- 7) 黒川 顕, 横田裕行, 久保田稔<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 多摩永山病院中央検査室 ) : 救急医療とモニター : 脳神経 ABR . Clinical Engineering 2002 ; 13 : 327-331 .
- 8) 横田裕行 : 意識障害患者の救急医療 . Clinical Neuroscience 2002 ; 20 ( 4 ) : 470-473 .
- 9) 横田裕行 : ガス中毒 検査計画法 . 総合臨床 2002 ; 51 ( 5 ) : 1835-1838 .
- 10) 黒川 顕 : 臨床検査の公式集 検査計画法 麻薬・覚醒剤 . 総合臨床 2002 ; 51 ( 5 ) : 1857-1860 .
- 11) 小川理郎, 横田裕行, 黒川 顕 : 救急救命での輸液と注意 . 臨床看護 2002 ; 28 ( 6 ) : 862-869 .
- 12) 横田裕行, 中野渡雄一, 直江康孝, 弥富俊太郎, 加地正人, 畝本恭子, 黒川 顕 : 蘇生限界の判断 . Emer-

gency Nursing 2002 ; 15 ( 8 ) : 25-30 .

- 13) 黒川 顕 : 硬膜外 ( 下 ) 血腫 . 看護学雑誌 2002 ; 66 ( 8 ) .
- 14) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明, 佐藤秀貴, 小林士郎, 寺本 明 : 頭蓋内疾患のモニタリングとしての血液マーカー 脳血管内皮損傷の指標 . Clinical Neuroscience 2002 ; 20 ( 9 ) : 1056-1059 .
- 15) 布施 明<sup>1)</sup>, 小南修司<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>川口医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 治療法の選択と予後 . 救急医学 2002 ; 26 ( 9 ) : 1009-1015 .
- 16) 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕 : 術後管理のポイントとピットフォール . 救急医学 2002 ; 26 ( 9 ) : 1027-1031 .
- 17) 畝本恭子, 横田裕行 : 救急領域における心肺蘇生以外の使い方 : 脳死後の組織保存について . Lisa 2002 ; 9 ( 9 ) : 1174-1174 .
- 18) 横田裕行 : 救急医学からみた脳硬塞急性期における診断と治療 : 脳保護療法導入の臨床的意義とその実際 . medicament news 2003 ; 1 : 10-11 .
- 19) 横田裕行 : 意識レベルの判定法 . Clinical Neuroscience 2003 ; 21 ( 3 ) : 258-260 .

### (3) 研究報告書 :

- 1) 横田裕行 : 主任研究報告書 ヒトゲノム・再生医療等研究事業 . 厚生労働省 2002 .
- 2) 横田裕行 : 分担研究報告書 ヒトゲノム・再生医療等研究事業 . 厚生労働省 2002 .
- 3) 横田裕行 : 厚生労働省 ヒトゲノム・再生医療等研究「脳死下での臓器移植の社会基盤に向けての研究」. 主任研究報告書 2003 .
- 4) 横田裕行 : 厚生労働省 ヒトゲノム・再生医療等事業「臓器提供施設内における臓器提供施設に関する研究」. 分担研究報告書 2003 .

### (4) エディトリアル :

- 1) 黒川 顕 : 分析機関の協力ネットワークについて . 中毒研究 2003 ; 16 : 19-20 .

### 著 書

- 1) 横田裕行 : [ 分担 ] 脳振盪 . ポケット版 今日の治療指針 ( 多賀須幸男, 尾形悦郎 山口 徹, 北原光夫 ), 2002 ; pp32-32, 医学書院 .
- 2) 横田裕行 : [ 編集 ] acute stroke の治療指針, 2002 ; 救急医学 .
- 3) 黒川 顕 : [ 分担 ] 高齢者の救急疾患 . 改定6版救急救命士標準テキスト ( 救急救命士教育委員会 ), 2002 ; pp616-625, へるす出版 .
- 4) 横田裕行 : [ 分担 ] 脳死 . 看護のための最新医学講座, 2002 ; pp114-119, 中山書店 .
- 5) 黒川 顕 : [ 分担 ] 第21回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 . 第21回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 ( 山本保博 ), 2002 ; pp3-14, へるす出版 .
- 6) 加地正人 : [ 分担 ] 出血性ショック救急ナースの輸液・血液製剤のHow To . エマージェンシーナースング ( 黒川 顕 ), 2002 ; pp137-154, メディカ出版 .
- 7) 黒川 顕 : [ 分担 ] 代表的救急薬品とその使用法 . 最新 救急マニュアル ( 小林国男 ), 2002 ; pp90-96, Expert Nurse 照林社 .
- 8) 黒川 顕 : [ 分担 ] 第22回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 . 第22回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 ( 山本保博 ), 2002 ; pp3-14, へるす出版 .
- 9) 横田裕行 : [ 分担 ] 突然の頭痛 : 応急処置と緊急検査 . 今日の治療指針 ポケット版 ( 山口 徹, 北原光夫 ), 2003 ; pp4-5, 医学書院 .
- 10) 黒川 顕 : [ 分担 ] 循環器官用薬中毒 . 今日の治療指針 ( 医学書院 ), 2003 ; pp3-14, 医学書院 .

- 11) 黒川 顕：〔分担〕血液製剤と人体 救急ナースの輸液・血液製剤How To . エマージェンシーナースング (黒川 顕), 2003 ; pp8-12, メディカ出版 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 横田裕行：臓器移植の現状と問題点 . 第8回長野県腎移植推進講演会, 2003 . 3 .

##### (2) シンポジウム：

- 1) 黒川 顕：EBMに基づく診療の実際 熱傷 . 第5回日本臨床救急医学会総会, 2002 . 4 .  
2) 猪鹿倉恭子, 小野寺謙吾, 直江康孝, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重症クモ膜下出血に対する脳低体温療法の適応と限界 . 第5回日本脳低体温療法研究会, 2002 . 7 .  
3) 加地正人, 小川理郎, 上笹 宙, 久野将宗, 小柳正雄, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 重症多発外傷の救急室手術の意義と課題 . 第30回日本救急医学会総会, 2002 . 11 .  
4) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕：重症クモ膜下出血に対する脳低体温療法中の経頭蓋骨度プラー検査について . 第8回日本脳神経外科救急学会, 2003 . 1 .  
5) 黒川 顕, 横田裕行, 中野渡雄一：ICUで倫理的問題に直面する時 ICUにおける倫理問題と対策 . 第30回日本集中治療医学会総会・看護部会, 2003 . 2 .

##### (3) セミナー：

- 1) 横田裕行：脳死判定について . 平成14年度臓器移植セミナー, 2002 . 11 .

##### (4) ワークショップ：

- 1) 横田裕行：救急医療施設からみた法律に基づく脳死判定の実際と問題点 . 第39回日本臨床神経生理学学会, 2002 . 11 .

##### (5) 一般講演：

- 1) 小川理郎, 島田 靖, 菊池広子, 弥富俊太郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕：発症4日後の血栓溶解療法で改善した右腎梗塞の1例 . 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002 . 2 .  
2) 小柳正雄, 上笹 宙, 中野渡雄一, 直江康孝, 小川理郎, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕：よく創による左大腿骨骨折に血管損傷を合併した1例 . 第52回日本救急医学会関東地方会, 2002 . 2 .  
3) 加地正人, 小川理郎, 上笹 宙, 弥富俊太郎, 玉井英世, 横田裕行, 黒川 顕：心嚢を経由し, 心, 肝, 下大静脈を損傷した腹部刺創の1例 . 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002 . 3 .  
4) 小川理郎, 加地正人, 横田裕行, 弥富俊太郎, 上笹 宙, 黒川 顕：経横隔膜脾刺創を認めた多発刺創の1例臓 . 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002 . 3 .  
5) 上笹宙, 玉井英世, 弥富俊太郎, 小川理郎, 加地正人, 横田裕行, 黒川 顕：腹膜刺激症状を主症状とし, まれな転帰をたどった特発性食道破裂の1知見例 . 第38回日本腹部救急医学会総会, 2002 . 3 .  
6) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 分子マーカーからみた頭部外傷による脳血管内皮損傷のメカニズム . 第25回日本神経外傷学会, 2002 . 3 .  
7) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>脳神経外科学): 外傷性脳血管障害急性期診断と治療の問題点 . 第26回日本神経外傷学会, 2002 . 3 .  
8) 横田裕行, 上笹 宙, 小柳正雄, 直江康孝, 弥富俊太郎, 畝本恭子, 黒川 顕, 久保田稔<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院検査室, <sup>2)</sup>救急医学): 脳死症例における短潜時大性感覚誘発電位 (SSEP): モニタージュの工夫と所見 . 第5回日本臨床救急医学会総会, 2002 . 4 .  
9) 小川理郎, 加地正人, 島田 靖, 直江康孝, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕：重症急性メタノール中毒の1救

- 命例．第5回日本臨床救急医学会総会，2002．4．
- 10) 横田裕行，久野将宗，上笹 宙，小柳正雄，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，猪鹿倉恭子，黒川 明，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 頸髄損傷における急性期血清NSE-100 測定の意義．第16回日本外相学会，2002．5．
  - 11) 横田裕行: 分液分子マーカーからみた頸髄損傷の病態．第8回多摩脊椎・脊髄カンファランス，2002．5．
  - 12) 稲垣栄次，横田裕行，黒川 顕: ショック症状を呈したGuillaine-Barre症候群の1例．東京医科大学・日本医科大学カンファランス，2002．7．
  - 13) 横田裕行，直江康孝，畝本恭子，黒川 顕: 頸椎・頸髄損傷における前方固定用ケージの使用経験．第6回多摩神経外傷カンファランス，2002．7．
  - 14) 横田裕行: 学校救急処置: 脳外科。「子供と健康」研究フォーラム，2002．8．
  - 15) 稲垣栄次，高久多希郎，飯田浩章，細川雄亮，荻原護久，藤田まり，上笹 宙，久野将宗，蔵口 潤，小柳正雄，中野渡雄一，弥富俊太郎，直江康孝，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 大量の偽膜を排泄し，腎不全を合併した偽膜性腸炎の1例．第34回東京医大・日本医大合同救命救急カンファランス，2002．9．
  - 16) 横田裕行，直江康孝，猪鹿倉恭子，黒川 顕，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 急性期頸髄損傷における生化学的アプローチ．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
  - 17) 猪鹿倉恭子，中間哲郎，直江康孝，石之神小織，志賀尚子，中林基明，布施 明，佐藤秀貴，横田裕行，黒川 顕，山本保博，寺本 明: 重症くも膜下出血に対する低体温療法における治療困難例の検討．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
  - 18) 小柳正雄，飯田浩章，久野将宗，原 俊輔，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 杵創による大腿骨骨折と大腿動静脈損傷の1例．第30回過大侵襲研究会，2002．11．
  - 19) 芦刈淳太郎，麻野 泰，寺岡 慧，有賀 徹，飯野泰彦，横田裕行，今井純子，川村梨紗，大宮かおり，菊池雅美，黒川 清: 臓器提供意思表示カードを所持しながらも脳死下での臓器提供に至らなかった事例の検討．第38回日本移植学会，2002．12．
  - 20) 竹井麻生，野手洋治，横田裕行，佐藤秀貴，志賀尚子，山本修三，寺本 明，山本保博: 脳死下臓器移植における諸問題の検討．第8回日本脳神経外科救急医学会，2003．1．
  - 21) 玉井英世，原 俊輔，久野将宗，小柳正雄，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，小川理郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 大量血胸を来した貴胸を奇静脈損傷の1例．第35回日本医大・東京医大救命救急合同カンファランス，2003．2．
  - 22) 直江康孝，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 重症頭部外傷患者に対する軽度低体温療法中の呼吸器合併症．第7回多摩神経外傷カンファランス，2003．2．
  - 23) 玉井英世，原 俊輔，久野将宗，小柳正雄，中野渡雄一，直江康孝，弥富俊太郎，小川理郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 大量血胸を来した奇静脈損傷の1例．第35回日本医大・東京医大救命救急合同カンファランス，2003．2．
  - 24) 久野将宗，島田 靖，横田裕行，黒川 顕: 地域災害拠点病院における災害訓練のためのケーススタディ作成．第8回日本集団災害医学会総会，2003．2．
  - 25) 原 俊輔，飯田浩章，久野将宗，小柳正雄，直江康孝，弥富俊太郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: Warfarin服用中，咽頭後血腫による気道閉塞をきたした1症例．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．8．
- (6) ポスター:
- 1) 飯田浩章，稲垣栄次，久野将宗，小柳正雄，弥富俊太郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: 体操競技中に受傷した頸椎・頸髄損傷の2例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 2) 細川雄亮，稲垣栄次，上笹 宙，弥富俊太郎，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕: III度熱傷に重症熱中症を合併した1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．



- 3) 芦刈淳太郎：日本医科大学多摩永山病院救命救急センター．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 4) 高久多希郎，飯田浩章，増野 聡，久野将宗，小柳正雄，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：臨床しょうじょうより Marchiafava-Bignami Disease を疑った1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 5) 荻原護久，中野渡雄一，直江康孝，蔵口 潤，加地正人，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕，細根 勝<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部)：鼻腔・副鼻腔から頭蓋内に進展した悪性黒色腫の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 6) 横田裕行，久野将宗，上笹 宙，小柳正雄，中野渡雄一，弥富俊太郎，直江康孝，黒川 顕，久保田稔<sup>1)</sup>，小川理郎<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室，<sup>2)</sup>救急医学)：脳幹病変における短潜時体性感覚誘発電位(SSEP) N18, P13の意義．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 7) 畝本恭子，直江康孝，中林基明<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，加地正人，横田裕行，黒川 顕，久保田稔<sup>2)</sup>，杉原秀人<sup>2)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>多摩永山病院中央検査室)：重症くも膜下出血に対する軽度脳低体温療法の際の経頭蓋骨度ドブラー検査の評価の検討．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 8) 直江康孝，横田裕行，畝本恭子，中野渡雄一，黒川 顕：MRSA 脳室炎に対するバンコマイシンの髄腔内投与による1治験例．第30回日本救急医学会総会，2002．11．

## [ 千葉北総病院救命救急センター ]

### 研究概要

当施設は，千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された．その後，平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に，また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された．近年は，救急患者のヘリ搬送ネットワークの構築も行い，平成11年4月には救命救急センターに認定され，各種学会において活発な活動を行っている．平成13年10月よりドクターヘリ事業を開始し，重傷外傷の治療に目覚ましい効果を挙げている．研究テーマとしては，救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発，新しい心肺脳蘇生法の開発，多発外傷の病態生理，特に臓器相関の解明，重症熱傷や気道熱傷の病態解明，急性中毒の病態生理の解明ならびに敗血症，SIRS，多臓器不全の病態解明，感染制御，救急医学教育学の研究等がある．またプレホスピタルケアの充実を目指し，北総救命会においての救急隊員に対する講習会，北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mashiko K, Otsuka T, Shimazaki S, Kohama A, Kamishima G, Katsurada K, Sawada Y, Matsubara I, and Yamaguchi K : An outcome study of out-of-hospital cardiac arrest using the Utstein template - a Japanese experience . Resuscitation 2002 ; 55 : 241-246 .
- 2) 東 和明，小池 薫<sup>1)</sup>，小林辰輔<sup>2)</sup>，望月 徹，益子邦洋，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科救急医学，<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学)：集中治療患者における血漿スーパー抗原の測定．日本救急医学会雑誌 2002 ; 13 (5) : 239-245 .
- 3) 益子邦洋，有賀 徹<sup>1,2)</sup>，上嶋権兵衛<sup>1,2)</sup>，山本修三<sup>1,2)</sup>，坂本哲也<sup>1,2)</sup>，井上徹英<sup>1,2)</sup>，鈴木荘太郎<sup>2)</sup>，梅里良正<sup>2)</sup>，伊藤弘人<sup>1)</sup>，前田幸宏<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本救急医学会診療の質評価指標に関する委員会，<sup>2)</sup>日本病院管理学クリニカルインディケータに開発に関する研究会)：三次救急医療機関の機能を評価する指標の開発と今後の課題．日本救急医学会雑誌 2002 ; 13 (12) : 769-778 .
- 4) 佐藤成志<sup>1)</sup>，鈴木 普<sup>2)</sup>，松本 尚，益子邦洋(<sup>1)</sup>市原市消防局，<sup>2)</sup>印西地区消防組合消防本部)：評価表を用

いたバッグ・マスク手技訓練の試み．日本臨床救急医学会雑誌 2003；6（1）：26-30．

- 5) 鈴木 普<sup>1)</sup>，佐藤成志<sup>2)</sup>，松本 尚，益子邦洋（<sup>1)</sup>印西地区消防組合白井消防署，<sup>2)</sup>市原市消防局）：北総救命会における救急業務高度化の研究；バッグアンドマスク換気訓練を通して．プレホスピタル・ケア 2003；16（1）：46-49．

(2) 綜説：

- 1) 益子邦洋：救急救命士の処置範囲について検討を急げ．アスカ21 2002；11（2）：10-11．
- 2) 小関一英<sup>1)</sup>，益子邦洋，横田順一郎<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>1)</sup>，藤田 尚<sup>1)</sup>，森村尚登<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本外傷学会 Trauma Registry 検討委員会）：AIS-90によるISS算出法とスコア判定のための部位別簡易チャート．日本外傷学会雑誌 2002；16（2）：202-211．
- 3) 松本 尚，益子邦洋：動き始めたドクターヘリ推進事業／添乗ドクターの立場から．救急医療ジャーナル 2002；10（3）：12-15．
- 4) 片田正一，益子邦洋：胸部外傷とdamage control．救急医学 2002；26（6）：679-685．
- 5) 松本 尚：事後検証作業の実際と課題．プレホスピタル・ケア 2002；15（3）：2-5．
- 6) 益子邦洋：外傷センターの整備は緊急の課題（PartII）．アスカ21 2002；11（3）：10-11．
- 7) 益子邦洋，松本 尚，望月 徹，工廣紀斗司，原 義明，片田正一：胸部外傷におけるDamage control．日本外科学会雑誌 2002；103（7）：511-516．
- 8) 松本 尚，益子邦洋：後腹膜出血に対する手術．消化器外科 特集 腹部外傷の手術 2002；25（10）：1549-1555．
- 9) 上川雄士，益子邦洋：心外傷．救急医学 2002；26（10）：1489-1493．
- 10) 益子邦洋：メディカルコントロール体制の構築による交通事故死傷者削減の取り組み．アスカ21 2002；11（4）：10-11．
- 11) 松本 尚，益子邦洋：多発外傷時におけるdamage control．救急医学 2002；26（12）：1710-1713．
- 12) 田代賢司<sup>1)</sup>，松本 尚，益子邦洋（<sup>1)</sup>印西地区消防組合白井消防署）：消防組織と医療機関のコラボレーション；千葉北総地域の試み．プレホスピタル・ケア 2002；15（6）：13-15．
- 13) 片田正一<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>2)</sup>，益子邦洋，片田裕子<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>東京大学医学部附属病院救急部集中治療部，<sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック，<sup>3)</sup>富山医科薬科大学大学院医学系看護学専攻）：救急処置と看護；エコノミークラス症候群．エマージェンシー・ナーシング 2002；15（12）：68-73．
- 14) 益子邦洋：交通事故の衝突予防，被害軽減には，医学と工学が連携した国家的プロジェクトが必要；日本版CIRENの立ち上げへ向けて．アスカ21 2003；12（1）：10-11．
- 15) 益子邦洋：Letter to the editor：「Overtriage%，Undertriage%の定義に関して」に対するコメント．日本外傷学会雑誌 2003；17（1）：21-21．
- 16) 廣瀬敦視，益子邦洋：消化管合併症；上部消化管出血を中心に．救急医学 2003；27（1）：55-57．
- 17) 益子邦洋：病院前救護における外傷教育のあり方；PTEC検討会の歩み．プレホスピタル・ケア 2003；16（1）：1-5．
- 18) 松本 尚，益子邦洋：ドクターヘリコプターの運用とメディカルコントロール．救急医療ジャーナル 2003；11（1）：12-15．

(3) 研究報告書：

- 1) 益子邦洋：分担研究：評価指標に関する調査研究 報告書．厚生科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業 三次救急医療施設における医療情報データベースの基盤整備と，二次救急医療体制の確立と評価方法の開発に関する研究 平成13年度 統括・分担研究報告書 2002；pp55-147．
- 2) 小濱啓次<sup>1)</sup>，石原 晋<sup>2)</sup>，甲斐達朗<sup>3)</sup>，金 弘<sup>4)</sup>，杉山 貢<sup>5)</sup>，田中経一<sup>6)</sup>，野口 宏<sup>7)</sup>，畑尾正彦<sup>8)</sup>，羽生田俊<sup>9)</sup>，福田充宏<sup>10)</sup>，益子邦洋，山中郁夫<sup>11)</sup>，山本五十年<sup>12)</sup>，横田順一郎<sup>13)</sup>（<sup>1)</sup>川崎医科大学救急医学，<sup>2)</sup>県立

- 広島病院救命救急センター，<sup>3)</sup>大阪府立千里救命救急センター，<sup>4)</sup>船橋市立医療センター救命救急センター，<sup>5)</sup>横浜市立大学市民総合医療センター救命救急センター，<sup>6)</sup>福岡大学医学部救命救急医学，<sup>7)</sup>愛知医科大学高度救命救急センター，<sup>8)</sup>日本赤十字武蔵野短期大学，<sup>9)</sup>日本医師会，<sup>10)</sup>川崎医科大学救急医学，<sup>11)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院，<sup>12)</sup>東海大学医学部救命救急医学，<sup>13)</sup>大阪府立泉州救命救急線tナー): メディカルコントロールに係わる医師研修プログラムの検討．平成13年度厚生科学研究費補助金 病院前救護体制の構築に関する研究 分担研究 メディカルコントロールに係わる医師研修プログラムの検討 2002 ; pp1-16 .
- 3) 小濱啓次<sup>1)</sup>，上嶋権兵衛<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>1)</sup>，益子邦洋，三井俊介<sup>1)</sup>，赤羽基臣<sup>1)</sup>，古川定昭<sup>1)</sup>，衛藤文一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新ガイドライン下における第一種応急救護処置教育の在り方に関する調査研究委員会委員): 新ガイドライン下における第一種応急救護処置教育の在り方に関する調査研究報告書．新ガイドライン下における第一種応急救護処置教育の在り方に関する調査研究報告書 2002 ; pp1-76 .
- 4) 島崎修次<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，益子邦洋，小関一英<sup>3)</sup>，横田順一郎<sup>4)</sup>，大友康裕<sup>5)</sup>，村田厚夫<sup>1)</sup>，山口芳裕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>杏林大学医学部救急医学，<sup>2)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>4)</sup>大阪府立泉州救命救急センター，<sup>5)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 救命救急センターにおける重症外傷患者への対応の充実に向けた研究報告書．平成13年度厚生労働科学研究費補助金 救命救急センターにおける重症外傷患者への対応の充実に向けた研究報告書 2002 ; pp1-156 .
- 5) 益子邦洋，魚谷増男<sup>1)</sup>，岡田芳明<sup>1)</sup>，小濱啓次<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，葛西 猛<sup>1)</sup>，篠田伸夫<sup>1)</sup>，金子正光<sup>1)</sup>，西川 渉<sup>1)</sup>，吉岡敏治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>特定非営利活動法人 救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)): 21世紀の救急搬送における消防・防災ヘリの活用方法に関する研究．救急救命 2002 ; 5 (1): pp34-37 .
- 6) 松本 尚，益子邦洋: 救急業務の高度化とメディカルコントロール体制の基盤作りに関する研究．救急救命 2002 ; 5 (2): pp26-29 .
- 7) 益子邦洋: 応急救護処置の普及促進の在り方に関する調査研究報告．応急救護処置の普及促進の在り方に関する調査研究報告書 2003 ; pp1-69 .
- 8) 朝日信夫<sup>1)</sup>，石井俊彦<sup>1)</sup>，今井通子<sup>1)</sup>，岡田 勇<sup>1)</sup>，上嶋権兵衛<sup>1)</sup>，島崎修次<sup>1)</sup>，沼倉勝則<sup>1)</sup>，野口 宏<sup>1)</sup>，羽生田俊<sup>1)</sup>，前川和彦<sup>1)</sup>，益子邦洋，水崎保男<sup>1)</sup>，山越芳男<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>1)</sup>，山本五十年<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急業務高度化推進委員会委員): 救急業務高度化推進委員会報告書．救急業務高度化推進委員会報告書 2003 ; pp1-90 .
- 9) 島崎修次<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，野口 宏<sup>1)</sup>，小濱啓次<sup>1)</sup>，益子邦洋，石原 晋<sup>1)</sup>，中澤 誠<sup>1)</sup>，武田 省<sup>1)</sup>，羽生田俊<sup>1)</sup>，吉崎賢介<sup>1)</sup>，朝日信夫<sup>1)</sup>，林栄太郎<sup>1)</sup>，森 正志<sup>1)</sup>，辻井 章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急搬送における重傷度・緊急度判断基準作成委員): 救急搬送における重症度・緊急度判断基準作成委員会；中間報告書．救急搬送における重傷度・緊急度判断基準作成委員会；中間報告書 2003 ; pp1-12 .
- (4) シンポジウム司会者まとめ
- 1) 益子邦洋: シンポジウム「外傷患者搬送先；適切な選定は？」司会者まとめ．日本外傷学会雑誌 2002 ; 16 (4): 330-333 .
- (5) 症例報告:
- 1) 横堀将司，望月 徹，松本 尚，工廣紀斗司，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科): 重症多発外傷に合併した内頸動脈損傷に対し脱着式バルーン塞栓術が有効であった1例．日本救急医学会雑誌 2002 ; 13 (4): 209-214 .
- 2) 望月 徹，片田正一，松本 尚，大友康裕<sup>1)</sup>，加地正人<sup>2)</sup>，工廣紀斗司，原 義明，東 和明，森田良平，廣瀬敦視，益子邦洋(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター救命救急センター，<sup>2)</sup>日本医科大学救急医学): 治療に難渋した若年者外傷性胸部仮性大動脈瘤の1手術例．日本救急医学会関東地方会雑誌 2002 ; 23 : 40-45 .

## 著 書

- 1) 益子邦洋：〔分担〕疫学・プレホスピタル外傷学（プレホスピタル外傷研究会），2002；pp2-8，永井書店。
- 2) 益子邦洋：〔分担〕第1章救急医学概論 観察の意義．改定第6版 救急救命士標準テキスト（救急救命士教育研究会監修），2002；pp223-224，へるす出版。
- 3) 益子邦洋：〔分担〕第1章救急医学概論 全身の観察．改定第6版 救急救命士標準テキスト（救急救命士教育研究会監修），2002；pp224-239，へるす出版。
- 4) 益子邦洋：〔分担〕第1章救急医学概論 緊急度・重傷度の判断と対応．改定第6版 救急救命士標準テキスト（救急救命士教育研究会監修），2002；pp249-252，へるす出版。
- 5) 益子邦洋：〔分担〕第1章救急医学概論 局所の観察．改定第6版 救急救命士標準テキスト（救急救命士教育研究会編集），2002；pp240-248，へるす出版。
- 6) 小濱啓次<sup>1)</sup>，上嶋権兵衛<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>1)</sup>，益子邦洋，三井俊介<sup>1)</sup>，赤羽基臣<sup>1)</sup>，古川定昭<sup>1)</sup>，松本治男<sup>1)</sup>，衛藤文一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 応急救護処置[指導員用]教本改定委員会）：〔分担〕応急救護処置[指導員用]（警察庁交通局監修・社団法人全日本交通安全協会編集），2002；pp1-92，社団法人全日本自動車教習所協会連合会。
- 7) 小濱啓次<sup>1)</sup>，上嶋権兵衛<sup>1)</sup>，山中郁男<sup>1)</sup>，益子邦洋，神波 豊<sup>1)</sup>，三井俊介<sup>1)</sup>，赤羽基臣<sup>1)</sup>，田邊八洲雄<sup>1)</sup>，今井大助<sup>1)</sup>，衛藤文一郎<sup>1)</sup>，田村正博<sup>1)</sup>，松本治男<sup>1)</sup>，古川定昭<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 旅客自動車の運転者による応急救護処置[指導員用]編集委員会）：〔分担〕旅客自動車の運転者による応急救護処置[指導員用]（警察庁交通局監修・社団法人全日本自動車教習所協会連合会編集），2002；pp1-206，社団法人全日本自動車教習所協会連合会。
- 8) 益子邦洋，松本 尚，望月 徹：〔分担〕多発外傷．看護のための最新医学講座 第25巻 救急（日野原重明・井村裕夫監修，岩井郁子・北村聖監修協力，中谷壽男），2002；pp257-261，中山書店。
- 9) 大塚敏文<sup>1)</sup>，益子邦洋（<sup>1)</sup> 日本医科大学名誉教授）：〔共著〕ERハンドブック；初期救急から救命救急まで，2002；pp1-418，（株）インターメディカ。
- 10) 益子邦洋：〔分担〕内科学総論/治療学/救急治療/4．出血性疾患．改定第6版 内科学書（島田 馨 責任編集），2002；pp207-210，中山書店。
- 11) 益子邦洋：〔分担〕内科学総論/治療学/救急治療/5．急性腹症．改定第6版 内科学書（島田 馨 責任編集），2002；pp210-213，中山書店。
- 12) 益子邦洋：〔分担〕緊張性気胸．今日の治療指針 第5版（亀山正邦・高久史磨 総編集），2002；pp531-532，医学書院。
- 13) 岡田芳明<sup>1)</sup>，桂田菊嗣<sup>2)</sup>，相馬一玄<sup>3)</sup>，塚田勝夫<sup>4)</sup>，堤 晴彦<sup>5)</sup>，益子邦洋（<sup>1)</sup> 防衛医科大学校病院救急部，<sup>2)</sup> 大阪府立病院，<sup>3)</sup> 北里大学医学部救急医学，<sup>4)</sup> 東京消防庁救急部救急指導課課長補佐，<sup>5)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター）：〔分担〕救急隊員標準テキスト（救急隊員用教本作成委員会編集），2002；へるす出版。
- 14) 廣瀬敦視，益子邦洋：〔分担〕救急患者への対処 胸部外傷．ナース必携 最新救急マニュアル（小林国男 責任編集），2002；pp184-190，照林社。
- 15) 益子邦洋：〔分担〕緊急検査の理解．系統看護学講座 別巻4 救急看護学（加来信雄・藤井千穂・葛西 猛・千代孝夫・高橋章子編集），2003；pp128-138，医学書院。

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：救急業務の高度化とメディカルコントロール体制．第11回青森救急医学会総会，2002．7．
- 2) 松本 尚：「メディカルコントロール」の重要性について；千葉県北総地域．第20回 富山救急医療研究会，2002．9．
- 3) 益子邦洋：我が国におけるメディカルコントロール体制の現状と将来．第82回北海道医学大会，2002．10．

- 4) 益子邦洋：メディカルコントロール体制構築に向けて：地域で何をなすべきか。仙台外傷初療標準化セミナー，2003. 2.
- (2) 招待講演：
- 1) 益子邦洋：交通安全対策としての外傷システム構築。第5回今後の交通・安全懇談会，2002. 7.
- (3) 教育講演：
- 1) 松本 尚：メディカルコントロールの概念と北総救命会の歩み。第19回船橋救輪会，2002. 6.
- 2) 松本 尚：千葉県におけるドクターヘリの運航状況について。日本救急医学会関東地方会，第40回救急隊員学術研究会，2003. 2.
- (4) 基調講演：
- 1) 益子邦洋：ドクターヘリとメディカルコントロール。救急医療シンポジウム，2002. 8.
- 2) 益子邦洋：救命・救急医療の実態と外傷センター整備構想。市民フォーラム「交通事故死ゼロを目指して」，2002. 11.
- (5) シンポジウム：
- 1) 大友康裕<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，本間正人<sup>2)</sup>，益子邦洋，小関一英<sup>2)</sup>，横田順一朗<sup>2)</sup>，村田厚夫<sup>2)</sup>，島崎修次<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター，<sup>2)</sup>平成13年度厚生科学特別研究「救命救急センターにおける重症外傷患者への対応の充実に向けた研究」研究班)：重症外傷搬送先医療施設選定には，受け入れ病院の診療の質評価が必須である。第16回日本外傷学会，2002. 5.
- 2) 原 義明，森田良平，小柳正雄<sup>1)</sup>，野崎正太郎<sup>1)</sup>，山崎亮一<sup>1)</sup>，加藤 宏<sup>1)</sup>，大泉 旭<sup>1)</sup>，益子邦洋，川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：重症外傷に伴う呼吸器合併症の予防と治療。第30回日本整形外科学会，2002. 5.
- 3) 山中郁男<sup>1)</sup>，吉崎賢介<sup>2)</sup>，佐々木昌一<sup>3)</sup>，大山恭司<sup>4)</sup>，中村恵子<sup>5)</sup>，松本 尚(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院，<sup>2)</sup>総務省消防庁救急救助課，<sup>3)</sup>厚生労働省医政局指導課，<sup>4)</sup>岡崎消防本部，<sup>5)</sup>青森県立保健大学健康科学部)：メディカルコントロール体制における救急医療教育。第24回救急コ・メディカルセミナー，2002. 9.
- 4) 松本 尚：メディカルコントロール体制における救急医療教育。第24回救急コ・メディカルセミナー，2002. 9.
- 5) 松本 尚，原 義明，工廣紀斗司，上川雄士，森田良平，廣瀬敦視，望月 徹，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：Prehospital resuscitationとTrauma bypassの必要性。第30回日本救急医学会総会・学術集会，2002. 10.
- 6) 原 義明，森田良平，益子邦洋，長谷川栄寿<sup>1)</sup>，塚本剛志<sup>1)</sup>，山崎 亮<sup>1)</sup>，加藤 宏<sup>1)</sup>，大泉 旭<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：当施設における急性化膿性骨髄炎の治療戦略。第9回救急整形外傷セミナー，2003. 1.
- 7) 益子邦洋，篠澤洋太郎<sup>1)</sup>，山本五十年<sup>2)</sup>，小池 薫<sup>1)</sup>，亀山元信<sup>3)</sup>，山田康雄<sup>4)</sup>，沼倉勝則<sup>5)</sup>，伊藤芳司<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院医学系研究科麻酔救急医学講座，<sup>2)</sup>東海大学病院救命救急センター，<sup>3)</sup>仙台市立病院救命救急センター，<sup>4)</sup>国立仙台病院救命救急センター，<sup>5)</sup>仙台市消防局救急課)：メディカルコントロール体制構築と外傷初療標準化プログラムの普及。仙台外傷初療標準化セミナー，2003. 2.
- 8) 益子邦洋：ヘリコプターを活用した広域救急医療。平成14年度千葉県医師会救急・災害医療対策医療研修会，2003. 2.
- (6) パネルディスカッション：
- 1) 工廣紀斗司，松本 尚，望月 通，東 和明，片田正一，原 義明，大森章代<sup>1)</sup>，宮古つき子<sup>1)</sup>，増淵恵美子<sup>1)</sup>，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部)：Clinical pathwayは多発外傷診療の質を向上させるか。第5回日本臨床救急医学会，2002. 4.
- 2) 西山誠一<sup>1)</sup>，益子邦洋，越智元郎<sup>2)</sup>，河端敏男<sup>3)</sup>，木下秀紀<sup>4)</sup>，景浦しげ子<sup>5)</sup>，高石 和<sup>1)</sup>，山内敬子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東予救命救急センター，<sup>2)</sup>愛媛大学医学部救急医学部，<sup>3)</sup>新居浜市南消防署，<sup>4)</sup>愛媛県防災航空事務所，<sup>5)</sup>愛媛県西条地方局)：東予地区における救急医療体制の確立を目指して。救急医療シンポジウム，2002. 8.
- (7) セミナー：
- 1) 松本 尚：救助・救急現場における新たな外傷傷病者に対するアプローチ。第5回東京救助救急研究会夏季セ

ミナー，2002．7．

- 2) 松本 尚：救急医療を取り巻く現況と課題及びメディカルコントロール体制構築について．平成14年度全国消防長会東近畿支部巡回講習会，2002．9．

(8) 一般講演：

- 1) Takuhiro K, Hara Y, Matsumoto H, Mochizuki T, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine Nippon Medical School): Teamwork training of emergency department staff using a high-fidelity simulator to enhance the efficacy of a newly developed clinical pathway for multiple trauma patients． Association for Medical Education in Europe (Lisbon, Portugal), 2002．8．
- 2) 浅野仁志<sup>1)</sup>，松本 尚，益子邦洋(<sup>1)</sup>佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部)：ドクターヘリに係わる消防側の問題点について．第5回千葉県救急医療研究会，2002．4．
- 3) 宮古つき子<sup>1)</sup>，二俣美鶴<sup>1)</sup>，松本 尚，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部)：ドクターヘリ事業におけるフライトナース研修カリキュラムの必要性．第5回千葉県救急医療研究会，2002．4．
- 4) 小関一英<sup>1)</sup>，益子邦洋，横田順一郎<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>1)</sup>，藤田 尚<sup>1)</sup>，森村尚登<sup>1)</sup>，青木則明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Trauma Registry 検討委員会，<sup>2)</sup>School of Health Information Sciences, University of Texas Health Science)：Trauma Registry 準備状況報告．第16回日本外傷学会，2002．5．
- 5) 浅井康文<sup>1)</sup>，栗本義彦<sup>1)</sup>，林 靖之<sup>2)</sup>，川島隆久<sup>3)</sup>，遠藤幸男<sup>4)</sup>，平安山英盛<sup>5)</sup>，益子邦洋(<sup>1)</sup>札幌医科大学医学部救急集中治療部，<sup>2)</sup>大阪府立千里救命救急センター，<sup>3)</sup>久留米大学医学部高度救命救急センター，<sup>4)</sup>帝京大学救命救急センター，<sup>5)</sup>沖縄県立中部病院外科)：心大血管損傷分類の問題点．第16回日本外傷学会，2002．5．
- 6) 松本 尚，益子邦洋，廣瀬敦視，森田良平，東 和明，原 義明，工廣紀斗司，望月 徹，片田正一，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：ドクターヘリを中心とした外傷システムの構築．第16回日本外傷学会，2002．5．
- 7) 本郷公英<sup>1)</sup>，牛島朋子<sup>1)</sup>，伊藤憲祐<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，小原俊彦<sup>1)</sup>，星野公彦<sup>1)</sup>，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup>，大森章代<sup>2)</sup>，望月 徹，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部，<sup>2)</sup>同看護部)：ドクターヘリ搬送により早期完全血行再建に成功した心原性ショックを回避し得た急性心筋梗塞再発症の1例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
- 8) 足立宏太，望月 徹，松本 尚，片田正一，工廣紀斗司，原 義明，森田良平，廣瀬敦視，益子邦洋：119番通報時のドクターヘリ要請により，緊張性気胸の発生寸前で救命し得た小児鈍的胸腹部外傷の1例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
- 9) 上川雄士，益子邦洋：鈍的外傷による心破裂，肝損傷1救命例．第123回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2002．9．
- 10) 今泉孝敬<sup>1)</sup>，三船俊英<sup>1)</sup>，品田卓郎<sup>1)</sup>，吉田博史<sup>1)</sup>，横山真也<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，星野公彦<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup>，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部)：重症循環器疾患患者のドクター・ヘリ搬送．第16回千葉県重症患者管理研究会，2002．9．
- 11) 土屋将人<sup>1)</sup>，勝野 亮<sup>1)</sup>，森本大二郎<sup>1)</sup>，岡村正哉<sup>1)</sup>，渡辺 玲<sup>1)</sup>，小暮一成<sup>1)</sup>，三品雅洋<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，松本 尚，益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経センター)：ドクター・ヘリにて救命しえたラグビーによる急性硬膜下血腫の1例．第16回千葉県重症患者管理研究会，2002．9．
- 12) 齋藤伸行，廣瀬敦視，森田良平，上川雄士，原 義明，工廣紀斗司，松本 尚，望月 徹，益子邦洋：農耕機による臀部高度挫滅創から敗血症性ショックを来した1例．第16回千葉県重症患者管理研究会，2002．9．
- 13) 工廣紀斗司，松本 尚，原 義明，望月 徹，片田正一，森田良平，廣瀬敦視，益子邦洋，山本保博(<sup>1)</sup>救急医学)：ダイナミックシュミレーターを用いた救急救命士の教育システムの構築．第30回日本救急医学会総会・学術集会，2002．10．
- 14) 原 義明，廣瀬敦視，森田良平，工廣紀斗司，松本 尚，望月 徹，川井 誠，益子邦洋，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：重症骨盤骨折に対する救急ドクターヘリ搬送効果．第30回日本救急医学会総会・学術集会，2002．10．

- 15) 望月 徹, 工廣紀斗司, 松本 尚, 原 義明, 廣瀬敦視, 森田良平, 片田正一, 足立宏太, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 臨床微生物データ解析用ソフトウェアWHONET導入の院内感染対策における有用性. 第30回日本救急医学会総会・学術集会, 2002. 10.
- 16) 吉田樹一郎, 齋藤伸行, 竹内直英, 阿部 新, 三船俊英, 森 隆浩, 森田良平, 上川雄士, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 呼吸困難にて発症し, 意識障害, ショック, 代謝性アシドーシスを呈して来院し, 診断, 治療に難渋した1症例. 第3回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2002. 10.
- 17) 阪本雄一郎, 松本 尚, 工廣紀斗司, 望月 徹, 原 義明, 上川雄士, 森田良平, 齋藤伸行, 川村邦彦, 片岡幸子, 益子邦洋: 「damage control」の決断に苦慮した小児肝損傷の1例. 第29回外傷症例検討会, 2002. 11.
- 18) 齋藤伸行, 森田良平, 阪本雄一郎, 上川雄士, 工廣紀斗司, 原 義明, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 重症不安定骨盤骨折の早期治療戦略に検討を要した1症例. 第30回過大侵襲研究会, 2002. 11.
- 19) 松本 尚, 益子邦洋, 原 義明, 工廣紀斗司, 望月 徹, 森田良平, 上川雄士, 阪本雄一郎, 廣瀬敦視, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 千葉県ドクターヘリシステムの現状と課題. 第9回日本航空医療学会, 2002. 11.
- 20) 二俣美鶴<sup>1)</sup>, 宮古つき子<sup>1)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院看護部): ドクターヘリにおけるフライトナーズの役割と教育・研修カリキュラムの必要性. 第9回日本航空医療学会, 2002. 11.
- 21) 村井綱児<sup>1)</sup>, 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 岩本将人<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 吉川真由美<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 三船俊英<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 吉田博史<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 今孝孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 上川雄士, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 望月 徹, 工廣紀斗司, 益子邦洋(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): 心筋梗塞切迫破裂との鑑別が困難であった心タンポナーデを伴う化膿性心膜炎の1例. 第14回千葉Critical Care Medicine研究会, 2002. 12.
- 22) 阪本雄一郎, 松本 尚, 工廣紀斗司, 望月 徹, 原 義明, 上川雄士, 森田良平, 齋藤伸行, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 腸間膜損傷における腸管切除の適否についての一考察. 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 23) 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 齋藤伸行, 望月 徹, 松本 尚, 益子邦洋: IABOを用いた出血性ショックの初療戦略. 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 24) 齋藤伸行, 工廣紀斗司, 原 義明, 上川雄士, 阪本雄一郎, 森田良平, 望月 徹, 松本 尚, 益子邦洋, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): サウナにて熱中症に陥った多臓器不全症例の集学的治療経験. 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- (9) デモンストレーションと解説:
- 1) 松田 潔<sup>1)</sup>, 松本 尚, 山本五十年<sup>2)</sup>, 高多虎男<sup>3)</sup>, 上野伸一<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup>東海大学医学部救命救急医学, <sup>3)</sup>金沢消防本部, <sup>4)</sup>河北広域消防事務組合消防本部): 外傷現場の観察処置法. 第12回日本救急医学会北陸地方会, 2002. 6.
- (10) ポスター:
- 1) Takuhiro K, Azuma K, Hara Y, Matsumoto H, Mochizuki T, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine Nippon Medical School): USE OF A HIGH-FIDELITY SIMULATOR FOR IMPARTING TRAINING ON THE USE OF AN EMERGENCY PERCUTANEOUS CARDIOPULMONARY SUPPORT SYSTEM AS A METHOD TO IMPROVE PATIENT SAFETY. Trauma Care 2002 (Staranger Norway), 2002. 5.
- 2) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Hara Y, Mark Wallace<sup>1)</sup>, Mashiko K, Yamamoto Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>EMS Japan, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine): USE OF A HIGH-FIDELITY SIMULATOR AS AN INITIAL TRAINING METHOD FOR NEWLY ENROLLED JAPANESE DOCTOR HELICOPTER CREWS. Airmed 2002 (Interlaken Switzerland), 2002. 9.
- 3) Takuhiro K, Matsumoto H, Mochizuki T, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Hara Y, Ebihara K<sup>1)</sup>, Mashiko K, Yamamoto Y(<sup>1)</sup>Funabashi Fire Department, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine): Use

of dynamic simulation for training Japanese Emergency Medical Technicians to compensate for the lack of training opportunities . International Meeting on Medical Simulation ( San Diego USA ), 2003 . 1 .

## [ 新東京国際空港クリニック ]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 綜説：

- 1) 牧野俊郎：旅行者血栓症，いわゆるエコノミークラス症候群 2002；27-32 .
- 2) 牧野俊郎，前田容子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院)：AED使用の現状と課題 2002；33-39 .

#### 著書

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：〔分担〕第21回救急救命士国家試験問題解答解説集，2002；へるす出版 .
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：〔分担〕第22回救急救命士国家試験問題解答解説集，2002；へるす出版 .
- 3) 片田正一<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>3)</sup>，片田裕子<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部付属病院救急部集中治療部，<sup>2)</sup>日本医科大学新東京国際空港クリニック，<sup>3)</sup>千葉北総病院救命救急センター，<sup>4)</sup>富山医科薬科大学大学院医学系看護学専攻)：〔共著〕Emergency Nursing，2002；pp68-73，メディカ出版 .

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：成田空港における肺血栓塞栓症；いわゆる旅行者血栓症の実情について．第40回川崎循環器懇話会，2002．3 .
- 2) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：エコノミークラス症候群（旅行者血栓症）の最前線．神奈川県病院薬剤師会薬学セミナー，2002．6 .
- 3) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：国際空港と肺血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）．第10回山形止血・血栓セミナー，2003．1 .
- 4) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：国際空港と肺血栓塞栓症の実情．第18回神奈川急性循環不全研究会，2003．1 .

##### (2) 教育講演：

- 1) 牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：初診時の判断と対応；航空機に起因する疾患．第5回日本臨床救急医学会総会，2002．4 .

##### (3) 一般講演：

- 1) 村越秀光<sup>1)</sup>，恵志正輝<sup>1)</sup>，浅野悦洋<sup>1)</sup>，岩瀬龍之<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新東京国際空港クリニック)：国際空港における放射線技師の役割．第48回日本宇宙航空環境医学会総会，2002．11 .
- 2) 日谷明裕<sup>1)</sup>，菊池均<sup>1)</sup>，新井康弘<sup>1)</sup>，横田勉<sup>1)</sup>，田中義枝<sup>1)</sup>，牧野俊郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>成田空港検疫所，<sup>2)</sup>日本医科大学新東京国際空港クリニック)：海外における日本人渡航者の疾病予防に関する意識および実際の罹患状況．第4回日本検疫医学会総会，2003．2 .



## 19．形成外科学講座

### [ 付属病院形成外科・美容外科 ]

#### 研究概要

形成外科教室2002年度の研究は、ケロイドの分子遺伝学的研究、脂肪組織由来幹細胞を用いた組織工学、腹直筋皮弁および、真皮下血管網皮弁の解剖学的研究など多岐にわたった。その成果の一部には学会賞が授与され、また科学研究費の取得対象ともなっており、いずれも次年度のみならず今後引き続き教室の主要テーマになる命題であると思われる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Suzuki K<sup>1)</sup>, Aoki M<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Miyazawa S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Electron Microscopy Center, Kitazato University ): Metastatic Silicone Granuloma : Lupus Miliaris Disseminatus Facial-like Facial Nodules and Sicca Complex in a Silicone Breast Implant Recipient . ARCH DERMATOL 2002 ; 138 ( 4 ): 537-538 .
- 2) Ogawa R, Hyakusoku H, Aoki R, Tanuma K<sup>1)</sup>, Pennington D G<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo Japan, <sup>2)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Hand Surgery, Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia ): An anatomical and clinical study of the dorsal intercostal cutaneous perforators-Its application to free microvascular augmented subdermal vascular network ( ma-SVN ) flaps . Br J Plast Surg 2002 ; 55 ( 5 ): 396-401 .
- 3) Hyakusoku H, Gao J-H<sup>1)</sup>, Pennington D G<sup>2)</sup>, Aoki R, Murakami M, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Nan-Fan Hospital, Goangzhou, China, <sup>2)</sup> Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia ): The microvascular augmented subdermal vascular network ( ma-SVN ) flap : its variations and recent development in using intercostal perforators . Br J Plast Surg 2002 ; 55 ( 5 ): 402-411 .
- 4) Zuk PA<sup>1)</sup>, Zhu M<sup>1)</sup>, Ashjian P<sup>1)</sup>, De Ugarte DA<sup>1)</sup>, Huang JI<sup>1)</sup>, Mizuno H, Alfonso ZC<sup>2)</sup>, Fraser JK<sup>2)</sup>, Benhaim P<sup>2)</sup>, Hedrick MH<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery and Orthopedics, Regenerative Bioengineering and Repair Laboratory, UCLA School of Medicine, Los Angeles, California 90095, <sup>2)</sup> Department of Medicine and the Jonsson Comprehensive Cancer Center, Division of Hematology and Oncology, UCLA School of Medicine, Los Angeles, California 90095 ): Human adipose tissue is a source of multipotent stem cells . Mol Biol Cell 2002 ; 13 ( 12 ): 4279-4295 .
- 5) Sano K, Hallock GG<sup>1)</sup>, Rice DC<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Plastic Surgery, The Lehigh Valley Hospitals, <sup>2)</sup> Advanced Clinical Technologies Department, The Lehigh Valley Hospitals ): Vein division is unnecessary for an adequate delay in the rat TRAM flap . Plast Reconstr Surg 2003 ; 111 ( 1 ): 300-305 .
- 6) Ogawa R, Mitsuhashi K, Hyakusoku H, Miyashita T ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ): Postoperative Electron-Beam Irradiation Therapy for Keloids and Hypertrophic Scars : Retrospective Study of 147 Cases Followed for More Than 18 Months . Plast Reconstr Surg 2003 ; 111 ( 2 ): 547-553 .
- 7) Hyakusoku H, Ogawa R : The small-wave incision for long keloids . Plast Reconstr Surg 2003 ; 111 ( 2 ): 964-965 .
- 8) 小川 令, 三橋 清, 百束比古, 王 春梅, 岩切 致, 千明美保, 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫: われわれ

のケロイド・肥厚性癬痕に対する術後電子線照射療法の治療成績：18ヶ月以上の経過観察症例について．日本形成外科学会誌 2002；22(5)：357-361．

- 9) 水野博司, Hedrick MH<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Departments of Surgery and Orthopedics, Regenerative Bioengineering and Repair Laboratory, UCLA School of Medicine, Los Angeles, California 90095): 脂肪組織由来細胞による Tissue Engineering：形成外科への応用の可能性について．形成外科 2002；45(5)：433-443．
- 10) 村上正洋, 百束比古, 小川 令, 高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Plastic Surgery, Nanfang Hospital, The First Military Medical University, Guanzhou, 51516, China): 肩甲回旋動脈付加狭茎後頭頸背真皮下血管網皮弁の解剖学的ならびに臨床医学的研究．日本マイクロサージャリー学会誌 2002；15(4)：223-235．
- 11) 河原理子, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 中国製 polyacrylamide hydrogel (商品名: Amazingel<sup>®</sup>) の顔面注入後合併症の1例．日本美容外科学会会報 2002；24(3)：95-100．
- 12) 小川 令, 青木 律, 百束比古, 中村 敏, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 悪性黒色腫が嚢胞を伴う無色素性悪性黒色腫として頭蓋内転移したと思われる1例．skin cancer 2002；17(2)：182-188．
- 13) 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 小川 令, 岩切 致, 百束比古(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 良性腫瘍の放射線治療：皮膚・骨軟部ケロイド．臨床放射線(別冊) 2002；47：122-131．
- 14) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 千明美保<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚用接着剤 Octyl-2-cyanoacrylate の接着強度試験と補強剤複合法(RC)法の考案．日本形成外科学会誌 2002；22(12)：815-819．
- 15) 石丸さやか, 内谷栄一, 小川 令, 村上正洋, 百束比古: 酢酸による化学損傷の2例, 2002；pp103-108, 日本熱傷学会誌．
- 16) 百束比古: 熱傷後肥厚性癬痕予防と治療．救急医学 2003；27(1)：88-89．
- 17) 松浦香野<sup>1)</sup>, 小川 令, 濃沼政美<sup>2)</sup>, 中尾千代美<sup>1)</sup>, 青木 律, 百束比古(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>同薬剤部): 熱傷後肥厚性癬痕の掻痒に対するヨモギローションの止痒効果．日本熱傷学会誌 2003；29(1)：50-56．

## (2) 総説：

- 1) 百束比古: 下肢熱傷の初期治療．形成外科 2002；45(増刊)：173-178．
- 2) 岩切 致<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 植皮術．救急医学 2003；27(1)：72-73．

## 著 書

- 1) 百束比古: [分担] スポーツと損傷：顔面軟部組織の損傷．ENTONI(産業医科大学名誉教授 牧嶋和見), 2002；pp32-41, 全日本病院出版会．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Hyakusoku H: History and social problems of augmentatoin materials for cosmetic purpose in Japan and Asia . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Nanjing), 2002 . 9 .
- 2) Hyakusoku H, Aoki R, Ogawa R: Current status of tissue engineering in plastic and reconstructive surgery . 7th Vietnamese Society for Burn Injuries (Hanoi), 2002 . 12 .
- 3) Mizuno H, Hyakusoku H, Ogawa R, Aoki R, Hiramoto T, Vinh V-Q: Current status of tissue engineering in plastic and reconstructive surgery . 7th Vietnamese Society for Burn Injuries (Hanoi), 2002 . 12 .
- 4) Aoki R, Hyakusoku H: Social prognosis of post extensive burn patients . 7th Vietnamese Society for Burn Injuries (Hanoi), 2002 . 12 .
- 5) 百束比古: 形成外科領域における scarless healing への挑戦．第54回日本産婦人科学会総会・学術講演会, 2002 . 4 .
- 6) 百束比古: 形成外科領域における微小血管外科を応用した最新の再建手術について．血管外科アカデミー, 2002 . 8 .

(2) シンポジウム :

- 1) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, モハマッド ガジザデ<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>分子細胞構造学 ): ケロイド原因遺伝子の解明及び新しい治療法の確立を目指して . 第11回日本形成外科学会基礎学術集会, 2002 . 10 .
- 2) 百束比古, 河原理子, 井上幸彦 : 新しい生体内注入異物における問題点と施行におけるICについて . 第25回日本美容外科学会総会, 2002 . 10 .

(3) パネルディスカッション :

- 1) 百束比古 : 異物の成分, 安全性 . (社)日本美容医療協会定例総会学術講習会, 2002 . 5 .
- 2) 青木 律, 村上正洋, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup>付属病院皮膚科 ): 顔面皮膚悪性腫瘍摘出術におけるちょっとしたコツ . 第18回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2002 . 6 .
- 3) 百束比古 : 口唇部 ~ 頸部瘢痕拘縮における植皮と薄い皮弁の使い分け . 第28回日本熱傷学会総会・学術集会, 2002 . 6 .

(4) 一般講演 :

- 1) Ogawa R, Hyakusoku H, Igota S, Murakami M, Aoki R, Vinh V-Q, Gao J-H : Dorsal intercostal perforators ( DICPs ) augmented sudermal vascular network ( SVN, super-thin ) flaps for reconstructing postburn cervical scar contranctures . 11th International Society of Burn Injuries ( Seattle ), 2002 . 8 .
- 2) Igota S, Hyausoku H, Ogawa R, Ishimaru S, Murakami M, Aoki R, Hua Gao J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nan-fun Hospital, First Military Medical University, Guanghou, China ): Variation of a staged subdermal vascular network ( SVN ) flap designed in abdominal region for reconstructing material for the extensively burned hand . 11th International Society of Burn Injuries ( Seattle ), 2002 . 8 .
- 3) Hyakusoku H, Iwakiri I, Ogawa R, Vinh V-Q, Gao J-H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Nan-fun Hospital, First Military Medical University, Guanghou, China ): Microvascular augmented version of the cervico-pectral subdermal vascular network ( CP-SVN ) flap with lateral thoracic transposition flap for the post-burn neck scar contracture reconstruction . 11th International Society of Burn Injuries ( Seattle ), 2002 . 8 .
- 4) Chin T, Hyakusoku H, Igota S : Our surgical procedure of repairing inverted nipples and usefulness of postoperative fixation using pierces . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 5) Hyakusoku H : Twenty-year-results of the square flap methods and principle . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 6) Murakami M, Aoki R, Nishikawa M, Kazki R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>STUDIO KAZKI ): Usefulness and its feedback to reconstructive operation of make-up therapy in burned patients . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 7) Kawai M<sup>1)</sup>, Oizumi A<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Yamamoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>CCM, Nippon Medical School Hospital ): Treatment of extensive burned patients in Japan . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 8) Mizuno H, Min Z<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Hedrick M H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>ULCA School of Medicine ): Age-Related Differentiation Potential of Human Processed Lipoaspirate Cells . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 9) Wang C-M<sup>2)</sup>, Hyakusoku H, Nishigai K<sup>1)</sup>, Nakazawa N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept Joint and Rheumatism, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Plastic Surgery Hospital of CAMS ): Expression and modulation of growth regulating genes specific to keloid fibroblastic cell . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 10) Hiramoto T, Hyakusoku H, Gao J-H, Murakami M, Iwakiri I, Ogawa R : Usefulness of platysma pedicled subdermal vascular network flaps . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .

- 11) Koike S , Hiko H , Murakami M , Oki K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>General Aizu Central Hospital ): Narrow pedicled paraumbilical perforator flap for covering donor sites of Chinese flap . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 12) Ogawa R , Hyakusoku H , Murakami M : The clinical and anatomical study of dorsal intercostal cutaneous perforators -It's application to microvascular augmented super-thin ( SVN ) flaps- . 13th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery ( Nanjing ), 2002 . 9 .
- 13) Tokunaga A<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Masuda G<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Matsuzaka N<sup>1)</sup>, Matsuda N<sup>1)</sup>, Hyakusoku H , Kawana S<sup>2)</sup>, Moriyama Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Surgery, Nippon Medical School , <sup>2)</sup>Dermatology, Nippon Medical School ): Hyperbaric oxygen therapy increases plasma levels of vegf in healthy volunteers and patients with nonhealing wounds . 26th Wound healing oxygen & emerging the therapeutics ( Columbus ), 2002 . 9 .
- 14) Mizuno H , Hyakusoku H , Murakami M , Akimoto M , Ogawa R : Cervico-pectoral subdermal vascular network ( super-thin ) flaps with or without microvascular augmentation . 6th International Course on Perforator Flaps ( Taipei ), 2002 . 10 .
- 15) Hyakusoku H , Ogawa R , Mizuno H , Gao J-H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nanfang Hospital, First Military Medical University ): Development and refinement of the microvascular augmented subdermal vascular network ( super-thin ) flaps . 6th International Course on Perforator Flaps ( Taipei ), 2002 . 10 .
- 16) Ogawa R , Hyakusoku H , Mizuno H : Super-thin Flaps Augmented with Dorsal Intecostal Cutaneous Perforators ( DICPs )-The anatomical study of DICPs and the operation planning using color Doppler ultrasonography- . 6th International Course on Perforator Flaps ( Taipei ), 2002 . 10 .
- 17) Akaishi S , Ogawa R , Hyakusoku H : Effectiveness of postoperative electron-beam irradiation therapy for auricular keloids . 8th International Cogress of oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery ( Bali ), 2002 . 10 .
- 18) Hyakusoku H : Late complications after foreign materials including hydrogel ( amazing gel ) injected patients 1. our 30years experience and new problems . 8th International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery ( Bali ), 2002 . 10 .
- 19) Fujimoto M , Ogawa R , Hyakusoku H , Miyasita T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Radiology ): Multidisciplinary management of keloids and hypertrophic scars : our 12 years experience . 8th International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery ( Bali ), 2002 . 10 .
- 20) Nakamura S , Hyakusoku H : Late complications after foreign material injected patients 2. result of the salvage operation in 24 cases using free bilaterally divided tramc flap . 8th International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery ( Bali ), 2002 . 10 .
- 21) Okuda T , Hyakusoku H , Igota S : Our prodedure of inverted nipple repair and its fixation using piercing procedure . 8th International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery ( Bali ), 2002 . 10 .
- 22) Ogawa R , Hyakusoku H , Aoki R : The Therapeutic Outcomes of Keloids and Hypertrophic Scars . 7th Vietnamese Society for Burn Injuries ( Hanoi ), 2002 . 12 .
- 23) Mizuno H : Human Processed Lipoaspirate Cells ; Mesengenic Potential in vitro and Future Clinical Application . 第20回ヒト細胞学会 , 2002 . 8 .
- 24) 小川 令 , 百束比古 , 藤本将史 : 背部肋間動脈皮膚穿通枝のカラードップラーによる検索と臨床応用 . 第45回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2002 . 4 .
- 25) 村上正洋 , 百束比古 , 平井 隆 , 秋元正宇 , 青木 律 , 岩切 致 , 小川 令 : Superficial Cervical Artery Skin Flap-15年間の経験と今後の展望 . 第45回日本形成外科学会総会・学術集会 , 2002 . 4 .

- 26) 岩切 致, 百束比古, 片岡幸子, 中村 敏, 利根川均<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): Free RAM flap with thinned DIEP skin flapによる足部潰瘍の治療経験. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 27) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 小川 令: 新しい生体内埋入異物の画像診断. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 28) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚用接着剤の強化法(RC法)臨床適用. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 29) 岩切 致, 百束比古, 片岡幸子, 奥田貴史, 利根川均<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 遊離そけい皮弁にて再建した小児耳介, 頬部色素性母斑の1例. 第45回 日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 30) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): True Human Tailの1例. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 31) 小川 令, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>2)</sup>, 岩切 致(<sup>1)</sup>千葉北総病院, <sup>2)</sup>マリノクリニック): われわれの行っているケロイドおよび肥厚性瘢痕に対する縫合法. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 32) 青木 律, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 村上正洋, 大木更一郎<sup>2)</sup>, 中塚貴志<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>3)</sup>埼玉医科大学形成外科): 生体肝臓移植手術における形成外科医の関与と問題点. 第45回 日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 33) 小川 令, 百束比古, 岩切 致, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 当院におけるケロイドに対する術後電子線療法の長期結果の検討. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 34) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 皮膚用接着剤の強化法(RC法)臨床適用. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 35) 岩切 致, 百束比古, 片岡幸子, 奥田貴久, 利根川均<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 遊離そけい皮弁にて再建した小児耳介, 頬部色素性母斑の1例. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 36) 岩切 致, 百束比古, 片岡幸子, 中村 敏, 利根川均<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): Free RAM flap with thinned DIEP skin flapによる足部潰瘍の治療経験. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 37) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 小川 令: 新しい生体内埋入異物の画像診断. 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4.
- 38) 二神綾子<sup>1)</sup>, 青木美佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 岩切 致, 百束比古(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 右大腿部に生じた血管系腫瘍の1例. 第26回日本小児皮膚科学会, 2002. 5.
- 39) 陳 貴史, 村上正洋, 百束比古, 伊吾田慎一, 後藤宙人, 青木見佳子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 皮弁上に再発した尿道浸潤を伴う外陰部 Paget 病. 第18回 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2002. 6.
- 40) 片岡幸子, 岩切 致, 青木 律, 百束比古: 当初 occult cancer と考えられた腺癌右腋窩リンパ節転移の1例. 第18回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2002. 6.
- 41) 岡 敏行<sup>1)</sup>, 佐伯和則<sup>2)</sup>, 村上正洋, 青木 律, 百束比古, 黒田周一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>千葉北総病院形成外科): 剖検にて判明したアポクリン腺癌と悪性リンパ腫の重複癌の1例. 第18回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2002. 6.
- 42) 小川 令, 青木 律, 百束比古, 中村 敏, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 悪性黒色腫が嚢胞を伴う無色素性悪性黒色腫として頭蓋内転移した1例. 第18回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2002. 6.
- 43) 青木 律, 百束比古, 村上正洋, 西川みどり, かつきれいこ<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>STUDIO KAZKI): メイクアップ療法から鑑みた熱傷再建術式の検討. 第28回日本熱傷学会 総会・学術集会, 2002. 6.
- 44) 奥田貴久, 百束比古, 石丸さやか, 村上正洋: 再発をくり返す頭部熱傷瘢痕潰瘍の治療についての検討. 第28回日本熱傷学会総会・学術集会, 2002. 6.
- 45) 藤本将史, 百束比古, 伊吾田慎一, 小川 令, 村上正洋, 青木 律: 遊離-遊離型真皮下血管網皮弁の顔面頸部熱傷後瘢痕拘縮に対する適応. 第28回日本熱傷学会 総会・学術集会, 2002. 6.

- 46) 小池幸子, 百束比古, 村上正洋, 青木 律, 小川 令: 当科における腋窩癒痕拘縮再建術式の検討. 第28回日本熱傷学会 総会・学術集会, 2002. 6.
- 47) 奥田貴久, 百束比古, 石丸さやか, 村上正洋: 再発をくり返す頭部熱傷癒痕潰瘍の治療についての検討. 第28回 日本熱傷学会総会・学術集会, 2002. 6.
- 48) 村上正洋, 百束比古, 岩切 致<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 手掌部の熱傷後癒痕拘縮部再建における真皮下血管網皮弁の有用性. 第28回日本熱傷学会総会・学術集会, 2002. 6.
- 49) 松浦香野<sup>1)</sup>, 小川 令, 中尾千代美<sup>1)</sup>, 青木 律, 濃沼政美<sup>2)</sup>, 百束比古, 村上正洋 (<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>同薬剤部): 熱傷後肥厚性癒痕に対するヨモギローションの止痒効果. 第28回日本熱傷学会総会・学術集会, 2002. 6.
- 50) 陳 貴史<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 広頸筋皮弁により再建した顔面熊咬傷の1例. 日本形成外科学会関東支部 第230回東京地方会, 2002. 6.
- 51) 村上正洋, 石丸さやか, 陳 貴史, 百束比古, 坪井成美<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 糸井由里恵<sup>3)</sup>, 立麻典子<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同女性診療科, <sup>3)</sup>下館市民病院形成外科, <sup>4)</sup>同小児科): 真性半陰陽の1例. 第84回日本美容外科学会学術集会, 2002. 7.
- 52) 百束比古, 青木 律, 村上正洋, 水野博司, 石丸さやか, 河原理子, 小川 令: 乳房再建術: とくに巨大な乳房の再建を中心に. 第70回 日本医科大学医学会総会, 2002. 8.
- 53) 山田 隆<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 松澤一郎<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 西村泰司<sup>2)</sup>, 村上正洋, 百束比古 (<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同泌尿器科): 細径腹腔鏡が真性半陰陽の確定診断に有用であった1症例. 第15回日本内視鏡外科学会, 2002. 9.
- 54) 石丸さやか, 村上正洋, 陳 貴史, 百束比古, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 大木由加志<sup>3)</sup>, 糸井由里恵<sup>4)</sup>, 立麻典子<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>同小児科, <sup>4)</sup>下館市民病院形成外科, <sup>5)</sup>同小児科): 陰核肥大の2例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 55) 久保一人, 奥田貴久, 百束比古, 石丸さやか, 村上正洋: 難治性頭部熱傷潰瘍の治療について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 56) 大木琴美<sup>1)</sup>, 小池幸子<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 白石恭子<sup>2)</sup>, 村上正洋, 百束比古 (<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>同小児科): BCG接種後のリンパ節炎の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 57) 村上正洋, 石丸さやか, 中村 敏, 百束比古: 弯曲爪の治療経験. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 58) 小川 令, 百束比古, 岩切 致, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 館野 温<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): ケロイドに対する術後電子線照射を含めた集学的治療. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 59) 青木 律, 百束比古, 村上正洋, 石丸さやか, 河原理子, 平井 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科): 顔面色素斑に対する各種治療法の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 60) 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 松本美保<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 河原理子, 小川 令, 百束比古 (<sup>1)</sup>法医学): SR-MAS NMR法による人工補填物質の分析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 61) 平本剛士, 村上正洋, 百束比古, 岩切 致<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): 手掌部癒痕拘縮再建におけるIPC flapの有効性. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 62) 陳 貴史, 百束比古, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 大木琴美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科): 広頸筋皮弁により再建した顔面複雑損傷の経験. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 63) 妙見章一, 百束比古, 水野博司, 藤本将史: Prefabricated Flapによる耳介再建の経験. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 64) 奥田貴久, 百束比古, 石丸さやか: 形成外科・美容外科にて再建した斜顔面裂 (Tessier No. 3 cleft) の1症例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 65) 河原理子, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>法医学): 中国製polyacrylamid hydrogel を使用

- した Amazingel の顔面への注入を受け、術後合併症をきたした症例について．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 66) 赤石諭史，藤本将史，中村 敏，青木 律，百束比古：まぐろ漁りに使用される大型の釣り針による刺創の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 67) 松浦香野<sup>1)</sup>，中尾千代美<sup>1)</sup>，小川 令，濃沼政美<sup>2)</sup>，青木 律，百束比古（<sup>1)</sup> 付属病院看護部，<sup>2)</sup> 薬剤部）：熱傷後肥厚性瘢痕患者の掻痒に対する看護：ヨモギローションを使用して．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 68) 水野博司，百束比古：形成外科領域における再生医学．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 69) 赤石諭史，東 直行<sup>1)</sup>，矢部朋子<sup>1)</sup>，荒牧 純<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院皮膚科）：好酸球性膿疱性毛包炎の1例．日本皮膚科学会 第775回東京地方会，2002．9．
- 70) 王 春梅<sup>1)</sup>，百束比古，石丸さやか，村上正洋，西海けい子<sup>2)</sup>，中澤南堂<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 中国医学科学院協和医科大学・形成外科病院研究センター，<sup>2)</sup> 統制御機構病理学）：ケロイドの病態発現に関する遺伝子検索．第11回日本形成外科学会基礎学術集会，2002．10．
- 71) 水野博司，百束比古：ヒト脂肪組織由来細胞増殖能，分化能の年齢による相違．第11回日本形成外科学会基礎学術集会，2002．10．
- 72) 青木 律，百束比古，村上正洋，石丸さやか，河原理子，平井 隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 第二病院形成外科）：顔面色素斑に対する治療戦略．第25回日本美容外科学会総会，2002．10．
- 73) 河原理子，百束比古，平川慶子<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 法医学）：新しい生体内埋入異物の画像診断．第25回日本美容外科学会総会，2002．10．
- 74) 石丸さやか，小川 令，百束比古：当科における耳介部瘢痕ケロイド症例に対する電子線治療の検討．第25回日本美容外科学会総会，2002．10．
- 75) 水野博司，百束比古，妙見章一，藤本将史：Prefabricated cartilage grafted flap の遊離移植による耳介再建の経験．第20回 日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会，2002．11．
- 76) 藤本将史，百束比古，水野博司，妙見章一，村上正洋：外鼻，上口唇再建を要した劇症型肺炎球菌感染症の1例．第20回 日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会，2002．11．
- 77) 小川 令，百束比古，村上正洋，青木 律：External supercharged free TRAM flap を用いた比較的巨大な乳房再建の2症例．第29回 日本マイクロサージャリー学会学術集会，2002．11．
- 78) 岩切 致<sup>1)</sup>，百束比古，村上正洋，大木更一郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター，<sup>2)</sup> 総合会津中央病院形成外科）：Free thin DIEA flap の下腿・足部再建に対する適用：いくつかの工夫．第29回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2002．11．
- 79) 陳 貴史，村上正洋，百束比古，小川 令，平本剛史，水野博司：前胸部に作成される真皮下血管網皮弁とその微小血管束付加の要否．第29回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2002．11．
- 80) 土佐眞美子<sup>1)</sup>，モハメッドガジザデ<sup>2)</sup>，清水 一<sup>2)</sup>，平井 隆<sup>1)</sup>，川並汪一<sup>2)</sup>，百束比古（<sup>1)</sup> 第二病院形成外科，<sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門）：ケロイド電子線治療に関する臨床および遺伝子解析．第32回日本創傷治癒学会，2002．12．
- 81) 小川 令，百束比古，宮下次廣<sup>1)</sup>，館野 温<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院放射線科）：ケロイドに対する術後電子線照射療法：当院における13年間の治療と今後の展望．第32回日本創傷治癒学会，2002．12．
- 82) 増田剛太郎<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，百束比古，川名誠司<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院第1外科，<sup>2)</sup> 同皮膚科）：下肢難治性潰瘍に対する高気圧酸素治療（HBO）の治療効果と血漿 VEGF の変動．第32回日本創傷治癒学会，2002．12．
- 83) 奥田貴久<sup>1)</sup>，黒田周一<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科）：脳外科手術後の創のトラブル取り扱いについて．千葉東葛地区形成外科懇話会，2003．2．

- 84) 小川 令, 百束比古, 中村 敏, 石丸さやか, Vinh V-Q, 高 建華<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中国第一軍医大学南方病院形成外科): 単茎真皮下血管網皮弁による顔面熱傷瘢痕拘縮再建7例の検討. 第11回日本熱傷学会関東地方会, 2003. 2.
- 85) Vinh V-Q, 百束比古, 村上正洋, 青木 律, 水野博司, 河原理子, 小川 令, 片岡幸子, 平本剛史, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, Trung L-T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院高度救命救急センター): ベトナム国立熱傷研究所の現状と日本医科大学との交流についての報告. 第11回日本熱傷学会関東地方会, 2003. 2.
- 86) 河原理子, 百束比古: 海外美容手術ツアーの1事例. 第86回日本美容外科学会学術集会, 2003. 2.
- 87) 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 高木啓倫<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 太良修平<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 水野博司, 落 雅美<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科, <sup>3)</sup>外科第2): 重症末梢動脈閉塞性疾患に対する自己骨髄幹細胞血管再生療法の有用性. 第2回日本再生医療学会総会, 2003. 3.
- 88) 陳 貴史, 青木 律, 河原理子, 百束比古: 舌に発生した海綿状血管腫の治療経験. 日本形成外科学会関東支部 第232回東京地方会, 2003. 3.
- 89) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院形成外科): 低出力ダイオードレーザー (Buff Light) によるニキビ治療の経験. 日本形成外科学会関東支部. 第233回東京地方会, 2003. 3.
- 90) 大木琴美<sup>1)</sup>, 陳 貴史<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 百束比古(<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>第二病院形成外科): 上眼瞼黄色肉芽腫の1例. 日本形成外科学会関東支部. 第233回東京地方会, 2003. 3.

## [ 第二病院形成外科 ]

### 研究概要

基礎研究面では, 正常皮膚ならびにケロイド由来の培養線維芽細胞に電子線照射を行い, 照射前後の細胞周期制御因子の動態の解析を行うことでケロイド発生機序の解明をすすめている. このなかで, 電子線照射後のCdc25A 遺伝子過剰発現とケロイドとの関連性が示唆された.

また, ケロイド由来培養線維芽細胞にたいして, 電子線照射前後の発現遺伝子の変化をcDNA マイクロアレイ法を用いて検討し, 種々の知見を得た. これらを元に, さらにケロイドの発生機序を解析中である. 臨床面においては, 低侵襲手術をテーマとして, 漏斗胸手術における胸腔鏡下胸骨拳上術 (Nuss法) などを積極的に行い, 良好な結果を得ている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 土佐真美子, 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): True Human Tail の1例. 日本形成外科学会誌 2002 ; 22 : 783-787 .
- 2) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 平井 隆, 村上正洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院形成外科・美容外科): 全外鼻再建6例の経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2002 ; 18 : 142-148 .

#### 著書

- 1) Hirai T : [ 分担 ] External use of a wireframe for sheet skin grafting . Innovative techniques in skin surgery ( Marwali Harahap ), 2002 ; pp471-482 , Marcel Dekker ( New York ).

#### 学会発表

##### (1) 招待講演:

- 1) 平井 隆: シワ治療の適応と選択. 第20回日本美容皮膚科学会学術大会, 2002. 9.



## (2) シンポジウム :

- 1) 土佐真美子, ガジザデモハマド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): ケロイド原因遺伝子の解明および新しい治療法の確立を目指して(形成外科領域における遺伝子解析の最前線). 第11回日本形成外科学会総会基礎学術集会, 2002. 10.

## (3) 一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Tosa M, Shimizu H<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Hirai T, Inoue K<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): Gene expression profiles of normal skin and keloid fibroblasts by cDNA microarray analysis. Sixth Annual Functional Genomics: Genomics on Target (Boston), 2002. 11.
- 2) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Tosa M, Shimizu hajime<sup>1)</sup>, egawa S<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Hirai T, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): Expression of Cdc25 cyclin-dependent protein kinases in keloid lesions. 第27回日本皮膚科学会学術大会, 2002. 8.
- 3) Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Tosa M, Egawa S<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup>, Hirai T, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所): Increased Levels of Cell Division Cycle 25A Protein in Keloid Lesions. 第32回日本創傷治癒学会, 2002. 12.
- 4) 土佐真美子, 平井 隆, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): True Human Tailの1例. 第45回日本形成外科学会総会, 2002. 4.
- 5) 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 石丸さやか<sup>1)</sup>, 河原理子<sup>1)</sup>, 平井 隆(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): 顔面色素斑に対する各種治療法の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 6) 土佐真美子, ガジザデモハマド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): ケロイド電子線治療の臨床および遺伝子解析. 第32回創傷治癒学会, 2002. 12.
- 7) 土佐真美子, ガジザデモハマド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 平井 隆, 川並汪一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科): ケロイドの電子線治療に関する基礎的研究; 電子線照射前後のCdc25Aの発現について. 第9回ケロイド肥厚性癬痕研究会, 2003. 3.

## [ 千葉北総病院形成外科 ]

### 研究概要

皮膚用接着剤の力学的強度に関する研究を行い、縫合系に匹敵する強度を持つ新しい接着法であるRC法を開発し、さらに臨床応用した。

非線形・大変形対応の有限要素法プログラムパッケージを導入し皮膚手術のコンピュータシミュレーションの研究を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>, 平井 隆<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 第二病院形成外科): 全外鼻再建6例の経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2002 ; 18 ( 2 ): 142-148 .
- 2) 秋元正宇, 千明美保, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚用接着剤Octyl-2-cyanoacrylateの接着強度試験と補強材複合法 ( RC法 ) の考案 . 日本形成外科学会誌 2002 ; 22 ( 12 ): 815-819 .

#### 学会発表

##### (1) 一般講演 :

- 1) Masataka A, Shuichi K, Hiko H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): Use of calcium phosphate bone cement in old facial fracture. The 4th Asian Pacific Craniofacial Association Conference ( Tokyo ), 2002. 10 .
- 2) 秋元正宇, 千明美保, 黒田周一, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚用接着剤の強化法 ( RC法 ) と臨床応用 . 第45回日本形成外科学会総会・学術集会, 2002. 4 .

## 20．付属病院付置施設等

### [ 付属病院集中治療室 ]

#### 研究概要

付属病院集中治療室（ICU & CCU）は、開設以来いよいよ30年をむかえる。本年は、東京都のメディカルフロントティア戦略によって、循環器救急体制も大きく様変わりしつつある。長年続いてきた東京都CCUネットワークも再編成を余儀なくされ、新しく生まれ変わろうとしている。循環器救急は、従来の集中治療のスタイルから救命救急センターや胸痛センターとの共存を模索しなければならない。本年の日本集中治療医学会では、“CCUの過去、現在、未来”と題したシンポジウムが開催され、将来のICU、CCUがどの様にあるべきかが論議された。

集中治療医学会CCU研究会を中心に全国規模の循環器救急のアンケート調査を行い、12,000例を超える急性心筋梗塞が集計された。また厚生省班研究のテキスト“急性心筋梗塞を見逃さないために”を作成中である。さらに、肺血栓塞栓症の予防マニュアル作りが三重大学を中心に行われ、これに参加した。

論文は、急性心筋梗塞に伴う心破裂や肺血栓塞栓の治療、心破裂の病態と治療などに関する英文原著をはじめ、急性冠症候群、急性大動脈解離、急性肺血栓塞栓症、難治性不整脈に関する英文発表も数多くなされた。

臨床では、ASOの再生医療が軌道に乗るとともに、今度は心筋梗塞患者に対する血管再生の試みが行われようとしている。短時間持続型遮断剤の治験や、急性心筋梗塞後のACEとARBの比較試験、アミオダロンやニフェカルントの難治性不整脈に対する臨床治験も始まった。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1)原著：

- 1) Takeda S, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Ikezaki H<sup>1)</sup>, Kim C, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Tanaka K, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesia ): Cardiac marker responses to coronary artery bypass grafting with cardiopulmonary bypass and aortic cross-clamping . J Cardiothorac Vasc Anesth 2002 ; 16 : 421-425 .
- 2) Tanaka K, Sato N, Yasutake M, Takeda S, Takano T<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup>Second Department of Surgery ): Clinical course, timing of rupture and relationship with coronary recanalization therapy in 77 patients with ventricular free wall rupture following acute myocardial infarction. . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ): 481-488 .
- 3) Takayama H, Takeda S, Saitoh SK, Hayashi M, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Spontaneous isolated dissection of the superior mesenteric artery . Internal Medicine 2002 ; 41 ( 9 ): 713-716 .
- 4) Sasajima K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Maruyama H, Matsutani T<sup>1)</sup>, Futami R<sup>1)</sup>, Ikezaki H, Takeda S, Takai K, Ogawa R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>First Department of Surgery , <sup>2)</sup>Department of Anesthesia ): Role of L-selectin in the development of ventilator-associated pneumonia in patients after major surgery . Journal of surgical research 2002 ; 105 : 123-127 .
- 5) Miura H<sup>1)</sup>, Kiuchi K, Nejima J<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine ): Limitation of infarct size and ventricular remodeling in patients with completely reperfused acute anterior myocardial infarction. -The potential role of ischemia time- . Clin Cardiol 2002 ; 25 : 566-571 .
- 6) Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Abe Y<sup>1)</sup>, Komada Y<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Takayama M<sup>2)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線医学 , <sup>2)</sup>内科学第1 ): Acute pulmonary thromboembolism : clinical assessment of newly developed interventional radiology technique . J Nippon Med Sch

2002 ; 69 ( 5 ) : 463-467 .

- 7) Takeda S , Kim C , Ikezaki H<sup>1)</sup> , Nakanishi K<sup>1)</sup> , Sakamoto A<sup>1)</sup> , Miyashita M<sup>2)</sup> , Sasajima K<sup>2)</sup> , Tajiri T<sup>2)</sup> , Tanaka K , Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesia , <sup>2)</sup> First Department of Surgery ) : Preoperative administration of methylprednisolone attenuates cytokine-induced respiratory failure after esophageal resection . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 16-20 .
  - 8) Tanaka K , Sato N , Yasutake M , Takeda S , Takano T<sup>1)</sup> , Ochi M<sup>2)</sup> , Tanaka S<sup>2)</sup> , Tamura K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> First Department of internal Medicine , <sup>2)</sup> Second Department of Surgery , <sup>3)</sup> Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital ) : Clinicopathological characteristics of 10 patients with rupture of both ventricular free wall and septum ( double rupture ) after acute myocardial infarction . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 21-27 .
  - 9) 山本 剛 , 笠神康平 , 坪 宏一 , 佐藤直樹 , 安武正弘<sup>1)</sup> , 田中啓治 ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ) : IABPカテーテル抜去時における経皮的血管縫合デバイス ( Proster ) の有用性について . 循環器科 2002 ; 51 : 463-464 .
  - 10) 山本 剛 , 長戸孝道<sup>1)</sup> , 清水秀治<sup>1)</sup> , 古明地弘和<sup>1)</sup> , 大須賀勝<sup>1)</sup> , 里村克章<sup>1)</sup> , 勝田悌実<sup>1)</sup> , 荒牧琢己<sup>1)</sup> , 横山宗伯<sup>2)</sup> , 松本光司<sup>2)</sup> , 内藤善哉<sup>2)</sup> , 浅野ありさ<sup>3)</sup> , 渡辺 淳<sup>4)</sup> , 島田 隆<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 , <sup>2)</sup> 病理学第2 , <sup>3)</sup> 小児科学 , <sup>4)</sup> 生化学第2 ) : 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例 . 薬理と治療 2002 ; 30 ( suppl. 2 ) : S385-S391 .
  - 11) 藤田宏子 , 竹田晋浩 , 池崎弘之<sup>1)</sup> , 四維東州<sup>1)</sup> , 二神生爾<sup>1)</sup> , 小川 龍<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 麻酔科学 ) : Still病による多臓器不全に血球貧食症候群を併発した1症例 . 日本集中治療医学会雑誌 2002 ; 9 : 415-416 .
  - 12) 磯田麻理<sup>1)</sup> , 木内 要 , 子島 潤<sup>1)</sup> , 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ) : 冠動脈疾患患者におけるレプチンおよびインスリン抵抗性の役割 : グルコースクランプ法を用いた検討 . J Cardiol 2002 ; 40 ( 2 ) : 51-57 .
  - 13) 田島廣之<sup>1)</sup> , 隈崎達夫<sup>1)</sup> , 村田 智<sup>1)</sup> , 阿部 豊<sup>1)</sup> , 駒田康成<sup>1)</sup> , 中沢 賢<sup>1)</sup> , 山本 剛 , 高山守正<sup>2)</sup> , 田中啓治 , 高野照夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学 , <sup>2)</sup> 内科学第1 ) : 急性肺血栓塞栓症に対する新しい治療法の開発と臨床評価 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 5 ) : 463-467 .
  - 14) 松田明久 , 田尻 孝<sup>1)</sup> , 宮下正夫<sup>1)</sup> , 古川清憲<sup>1)</sup> , 丸山 弘<sup>1)</sup> , 竹田晋浩 ( <sup>1)</sup> 外科学第1 ) : 重症な呼吸 , 循環不全を呈した成人Bochdalek孔ヘルニア嵌屯の1例 . 日本臨床外科学会雑誌 2003 ; 64 : 70-73 .
- ( 2 ) 綜説 :
- 1) 金 徹 , 田中啓治 : 肺動脈カテーテル . 救急医学 2002 ; 26 ( 10 ) : 1284-1287 .
  - 2) 高野照夫<sup>1)</sup> , 山本 剛 ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ) : 深部静脈血栓症と肺塞栓症 : 診療と治療 : 特に関節リウマチ患者の人工関節置換術との関係について . 関節の外科 2002 ; 29 : 111-116 .
  - 3) 竹田晋浩 : BiPAP Vision を使用したときのICU 専門医と研修医の会話 . 人工呼吸 2002 ; 19 ( 2 ) .
  - 4) 竹田晋浩 : 効果的で感染予防につながる気管内吸引の手法とは : エビデンスに基づく提案 . 看護学雑誌 2002 ; 66 ( 6 ) : 550-555 .
  - 5) 竹田晋浩 , 高野照夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科学第1 ) : 事故防止のための注射と輸液の知識 . 集中治療室 ( ICU/CCU ) での輸液と注意 . 臨床看護 2002 ; 28 ( 6 ) : 870-872 .
  - 6) 竹田晋浩 : 二酸化炭素再呼吸による非侵襲的心拍出量測定モニター : NICO ( Non-invasive cardiac output ) . エレクトロニクスの臨床 2002 ; 72 : 1-8 .
  - 7) 田中啓治 , 仁科 大 : ラフサポートとしての補助循環 ~ IABP . 救急・集中治療 2002 ; 14 ( 10 ) : 1015-1023 .
  - 8) 田中啓治 : ドパミン . Pharma Medica 2002 ; 20 ( 10 ) : 163-167 .
  - 9) 竹田晋浩 : カテコラミンQ & A . ドパミンの新たな可能性について . Pharma Medica 2003 ; 21 : 95-97 .

## 著 書

- 1) 田中啓治 , 坪 宏一 : [ 分担 ] 心不全患者のモニタリング . 実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル

- (高野照夫, 清野精彦 編), 2002 ; pp45-52, 医薬ジャーナル社 .
- 2) 田中啓治, 坏 宏一 : [ 分担 ] 非薬物療法の手順 . 実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル (高野照夫, 清野精彦 編), 2002 ; pp90-98, 医薬ジャーナル社 .
- 3) 佐藤直樹 : [ 分担 ] 強心薬による治療 . 実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル (高野照夫, 清野精彦 編), 2002 ; pp229-236, 医薬ジャーナル社 .
- 4) 竹田晋浩 : [ 分担 ] IV 非薬物療法 心不全における呼吸管理 “ 実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル ” . 医薬ジャーナル (高野照夫, 清野精彦), 2002 ; pp262-266, 医薬ジャーナル社 .

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Tanaka K, Sato Naoki, Yasutake M : The role of prophylactic intraaortic balloon pumping ( IABP ) during percutaneous coronary intervention ( PCI ) in acute coronary syndrome . The 6th Annual Scientific Meeting of the Japanese Heart Failure Society ( Tokyo ), 2002 . 10 .
- 2) 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 清水 淳<sup>1)</sup>, 金 徹, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 非血管手術を受ける心合併患者の術前リスク評価におけるドブタミン負荷心エコー法 (シンポジウム). 第22回日本臨床麻酔学会総会, 2002 . 10 .
- 3) 佐藤直樹, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 急性心不全における神経体液性因子およびサイトカイン測定の意義 . 第39回日本臨床生理学会総会, 2002 . 11 .
- 4) 竹田晋浩: 非侵襲的連続心拍出量モニター ( NICO ) に対する有効性の検討 (シンポジウム). 第18回循環器情報処理研究会, 2002 . 11 .
- 5) 田中啓治: 日本医大CCUの30年の変遷と, これから目指すべき未来像 (シンポジウム). 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .

### (2) パネルディスカッション :

- 1) 山本 剛, 高木啓倫, 亀山幹彦, 林 明聡, 坏 宏一, 藤田進彦, 笠神康平, 佐藤直樹, 田中啓治, 中込明裕<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の妥当性について (心筋梗塞を見逃さないために: 早期診断から病態に応じた治療戦略). 第21回心筋梗塞研究会, 2002 . 7 .
- 2) 竹田晋浩: 非侵襲的心拍出量測定法の有効性 . 第18回循環器情報処理研究会, 2002 . 11 .

### (3) セミナー :

- 1) 田中啓治: 内科医から見たIABPの適応とその応用 . 第3回IABPに関するセミナー, 2002 . 6 .
- 2) 佐藤直樹: PDE . 冠インターベンション学会, 2002 . 7 .

### (4) ワークショップ :

- 1) 山本 剛: 肺血栓塞栓症 . 第43回日本脈管学会総会, 2002 . 11 .

### (5) 一般講演 :

- 1) Hayashi M : Which is the optimal ablative procedure in selective slow pathway ablation? : From the result of a randomized comparison of the straight linear . 5th Taipei-Tokyo Joint Conference of Cardiac Arrhythmias ( Taipei ), 2002 . 10 .
- 2) Hayashi M, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohmura K<sup>1)</sup>, Satoh N, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Tanaka K, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>First Department of Internal Medicine): A novel mechanism of post-infarction ventricular tachycardia originating in left posterior Purkinje fibers . 75th American Heart Association Scientific Sessions 2002 ( Chicago, USA ), 2002 . 11 .
- 3) Kasagami Y, Yamamoto T, Akutsu K, Hayashi M, Kameyama M, Takagi H, Satoh N, Yasutake M,

- Tanaka K , Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Yamane Y<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Indications for successful aspiration thrombectomy using Rescue™ catheter . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 4 ) Hayashi M , Kameyama M , Satoh N , Tanaka K , Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Tateoka K<sup>1)</sup>, Taniguchi H , Abe J<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Hirasawa Y<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohmura K<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Ventricular tachycardia arising from left posterior Purkinje fibers after myocardial infarction : A proposed mechanism of post-infarction ventricular arrhythmias . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 5 ) Kidokoro Y , Sato N , Tanaka K , Kasagami Y , Yamamoto T , Hayashi M , Kameyama M , Takagi H , Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Clinical Characteristics of acute heart failure with and without improvements of mitral regurgitation . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 6 ) Yamamoto T , Kasagami Y , Akutsu K , Kameyama M , Takagi H , Hayashi M , Sato N , Yasutake M , Tanaka K , Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Comparison of aggressive interventional therapy with traditional thrombolysis for acute massive pulmonary embolism . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 7 ) Takagi H , Satoh N , Tanaka K , Kasagami Y , Yamamoto T , Hayashi M , Kameyama M , Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Risk stratification by neurohumoral factors and hemodynamics on admission in acute heart failure . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 8 ) Kameyama M , Hirayama Y<sup>1)</sup>, Yashima M<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>3)</sup>, Saitoh H<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Tama Nagayama Hospital , <sup>3)</sup> Department of Intensive and Coronary Care Unit, Hokusou Hospital , <sup>4)</sup> Dr. Hiro's Medical Office ): Roles of Ca<sup>2+</sup> Pump Function of Sarcoplasmic Reticulum in the Mechanism of Electrical and Mechanical Alternans . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 9 ) Sato N , Tanaka K , Kasagami Y , Yamamoto T , Akutsu K , Hayashi M , Kameyama M , Takagi H , Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine , <sup>2)</sup> Department of Radiology ): Discrepancy between pre synaptic and post synaptic dysfunctions of cardiac sympathetic nerves in human heart failure . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 10 ) Hayashi M , Kameyama M , Takagi H , Akutsu K , Yamamoto T , Kasagami Y , Satoh N , Yasutake M , Tanaka K , Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine ): Beneficial effect of nifekalant in patients with hemodynamically unstable paroxysmal atrial fibrillation resistant to direct current delivery . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 11 ) Yamamoto T , Takagi H , Akutsu K , Fujita N , Satoh N , Tanaka K , Yasutake M<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): The Revised Criteria for Acute Myocardial Infarction : Anything Better or Nothing Worse? The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .

- 12) Hayashi M, Tanaka K, Katoh T<sup>1)</sup>, Takagi H, Morita N<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Akutsu K, Yamamoto T, Fujita N, Ono T, Satoh N, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Nifekalant Facilitates Transthoracic Cardioversion in Critically Ill Patients with Hemodynamically Unstable Atrial Fibrillation. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- 13) Ono T<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Guan Y<sup>3)</sup>, Gang Y<sup>3)</sup>, Hnatkova K<sup>3)</sup>, Lee T<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Malik M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup> The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Yashio Heart Clinic, <sup>3)</sup> London University, St. George's Hospital The Medical School): Can the T-Wave Morphology Analysis Get into the Same Dilemma as QT Dispersion? The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- 14) Morita N, Kobayashi Y, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Hirasawa Y, Abe J, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Ohara T, Ohmura K, Hirayama Y, Atarashi H, Katoh T, Takano T(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Relationship between Structural Characteristics of the Crista Terminalis and Its Transverse Conduction in Patients with Atrial Flutter. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- 15) Yamamoto T, Takagi H, Nishina D, Hayashi M, Akutsu K, Fujita N, Ono T, Satoh N, Tanaka K, Yasutake M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School): Difference in the Clinical Course of Acute Massive Pulmonary Embolism: In-Hospital vs Out-Hospital Onset. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- 16) Tokuyama K<sup>1)</sup>, Satoh N, Kamiya M<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Tanaka K, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Effects of Central Sympathoinhibition via Imidazole Receptor Activation on the Progression of Heart Failure in Conscious Beagles. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.
- 17) 徳泉澄子<sup>1)</sup>, 青木 聡<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 渋井俊之, 藤田進彦, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科学第1): 合併心奇形のない右側大動脈弓(鏡画像)に発症した解離性大動脈瘤. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2002. 2.
- 18) 高木啓倫: 早期発症型HITTSによる難治性左主幹部血栓閉鎖を来し治療に難渋した不安定狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2002. 2.
- 19) 竹田晋浩, 赤田信二<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 金 徹, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): オピオイドによる呼吸抑制に対するカンナビノイド的作用. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 20) 金 徹, 竹田晋浩, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): ミダゾラムはウサギの頸動脈小体の低酸素換気応答を抑制しないが, 高酸素下での神経活動電位を抑制する. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 21) 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 清水 淳<sup>1)</sup>, 金 徹, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): ドブタミン負荷心エコー法による術前心評価. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 22) 池崎弘之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 中島祐史, 田中啓治, 谷海信彦<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>外科学第1): 生体肝移植周術期の Sonoclot™による血液凝固モニターの有用性. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 23) 中島祐史<sup>1)</sup>, 赤田信二<sup>1)</sup>, 池崎弘之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学): 食道癌術後に心タンポナーデを呈した症例. 日本麻酔科学会第49回大会, 2002. 4.
- 24) 山本 剛, 長戸孝道<sup>1)</sup>, 清水秀治<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野ありさ<sup>3)</sup>, 渡辺 淳<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>小児科学, <sup>4)</sup>生化学第2): 診断に難渋した高度胆汁うっ滞を伴う骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 第269回

日本消化器病学会関東支部例会，2002．5．

- 25) 坏 宏一，高山守正<sup>1)</sup>，高木啓倫，ズライガトジハド<sup>1)</sup>，笠神康平，山本 剛，佐藤直樹，鈴木雄一郎<sup>1)</sup>，山根吉人<sup>1)</sup>，藤田進彦<sup>1)</sup>，青木 聡<sup>1)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，藤岡幹雄<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，中込明裕<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 新世紀ステント (Bx Velocity および Multi Link Tristar) の使用成績．第11回日本心血管インターベンション学会学術集会，2002．6．
- 26) 山本 剛，長戸孝道<sup>1)</sup>，清水秀治<sup>1)</sup>，古明地弘和<sup>1)</sup>，大須賀勝<sup>1)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，勝田悌実<sup>1)</sup>，荒牧琢己<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>2)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>，浅野ありさ<sup>3)</sup>，渡辺 淳<sup>4)</sup>，島田 隆<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>病理学第2，<sup>3)</sup>小児科学，<sup>4)</sup>生化学第2): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリン症の1例．第10回肝病態生理研究会，2002．6．
- 27) 高久多喜郎，山本 剛，進士誠一，高木啓倫，亀山幹彦，林 明聡，坏 宏一，笠神康平，佐藤直樹，田中啓治，牛島明子<sup>1)</sup>，高山英男<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，高橋 直人<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>放射線科，<sup>3)</sup>第二病院内科): 潰瘍性大腸炎に急性広範性肺血栓塞栓症を合併した1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第184回学術集会，2002．6．
- 28) 金 徹，竹田晋浩，小野寺英貴，池崎弘之<sup>1)</sup>，中西一浩<sup>1)</sup>，井上哲夫<sup>2)</sup>，小川 龍<sup>1)</sup>，田中啓治(<sup>1)</sup>麻酔科学，<sup>2)</sup>千葉北総病院麻酔科): 当院集中治療室における NPPV (BiPAP) 10年間の使用．第24回日本呼吸療法医学会学術総会，2002．7．
- 29) 林 明聡，田中啓治: 血行動態破綻を来す電氣的除細動抵抗性心房細動に対するニフェカランの除細動成功率改善効果．第一回ニフェカラン研究，2002．7．
- 30) 守屋慶一，藤田進彦，藤谷 仁，亀山幹彦，高木啓倫，林 明聡，坏 宏一，山本 剛，小野寺英貴，金 徹，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治，小川太志<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，加藤活人<sup>2)</sup>，小原俊彦<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>，高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>内科学第1): 先天性大動脈弁狭窄症に心室細動を発症し bystander CPR がなされ，院外にて心拍再開し救命し得た中年女性の1例．第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2002．8．
- 31) 藤谷 仁，小野寺英貴，金 徹，宮本哲也<sup>1)</sup>，仁科 大，平井恭二<sup>1)</sup>，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治(<sup>1)</sup>外科学第2): 右肺出血に対し分離肺換気およびステロイド投与が有効であった1例．第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2002．8．
- 32) 石川正也<sup>1)</sup>，佐藤直樹，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): モノクロタリン誘発性肺高血圧モデルにおける ブロッカーの予防効果．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 33) 坏 宏一，鈴木 享<sup>2)</sup>，高木啓倫，林 明聡<sup>1)</sup>，藤田進彦，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，ズライガトジハド<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>東京大学大学院循環器内科): 大動脈解離急性期における血清中 MMP/TIMP系および Plasminogen/plasmin 系の動態．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 34) 土田貴也<sup>1)</sup>，清野精彦<sup>1)</sup>，佐藤直樹，高野照夫<sup>1)</sup>，菊岡万里子<sup>2)</sup>，久米真澄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>付属病院治験支援室): 睡眠時異常呼吸を合併する慢性心不全症例の臨床背景と夜間在宅酸素療法導入に関する検討．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 35) 山本英世<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，宗像 亮<sup>1)</sup>，村上大介<sup>1)</sup>，ズライガトジハド<sup>1)</sup>，佐藤直樹，中込明裕<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): 急性冠症候群が疑われ診断にドプタミン負荷が有用であった functional left ventricular obstruction の2例．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 36) 五十嵐美和，亀山幹彦，中島 泰，高木啓倫，林 明聡，坏 宏一，藤田進彦，山本 剛，小野寺英貴，金 徹，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治，安武正弘<sup>1)</sup>，高野照夫，池崎弘之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>麻酔科学): 二度の心停止を経験し蘇生後脳症の経時的改善により ICD 植え込み適応となった特発性心室細動の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第185回学術集会，2002．9．
- 37) 工藤律子，藤谷 仁，藤田進彦，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，東 春香<sup>1)</sup>，大野忠明<sup>1)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，中沢 賢<sup>2)</sup>，隅崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>放射線医学): 急性肺塞栓症を合

併した先端巨大症の1例．第9回肺塞栓症研究会，2002．10．

- 38) 山本 剛，高木啓倫，亀山幹彦，林 明聡，坏 宏一，佐藤直樹，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，隅崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>放射線医学)：重症急性肺塞栓症に対する積極的カテーテル治療の効果．第43回日本脈管学会総会，2002．11．
- 39) 山本 剛，坏 宏一，藤田進彦，小野寺英貴，金 徹，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>放射線医学)：重症急性肺塞栓症に対する治療戦略：第一選択はカテーテル血管内治療である．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
- 40) 小野寺英貴，藤谷 仁，金 徹，竹田晋浩，菅沼恵美子，斉藤好史，田中啓治：敗血症に合併した肺血拴塞症の1例．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
- 41) 金 徹，藤谷 仁，小野寺英貴，竹田晋浩，安武正弘，宮下正夫<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，小川 龍<sup>2)</sup>，田中啓治(<sup>1)</sup>外科学第1，<sup>2)</sup>麻酔科学)：当初カテーテル感染が疑われた食道癌術後の悪性症候群の1例．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
- 42) 藤田進彦，高木啓倫，亀山幹彦，林 明聡，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，高野照夫<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1，<sup>2)</sup>放射線科学)：ベットサイドでの右心機能測定法：右心カテーテル法とモバイルガンマカメラを用いた心プールシンチ法の比較．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
- 43) 進士誠一<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，山崎貴明<sup>1)</sup>，金 徹，竹田晋浩，田中啓治，田尻 孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1)：ICU患者に対する内視鏡下バルーン付経鼻栄養チューブ留置の試み．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．

## [ 付属病院病理部 ]

### 研究概要

スタッフは，専任病理医2名，暫定助手1名(留学を終え12月に復帰)，技師10名．

今年度は，電子顕微鏡施設ならびに病理学第二講座の研究業績の一部が特別に加わっているが，中央診断部門と位置づけられた部署の特性並びに施設面における講座優先の体制下にあつて，研究内容は日常業務の中で見出した症例の解析と病理学講座・臨床講座との共同研究が中心になっている．

付属病院病理部を選択した基礎配属の学生ならびに技師の学会発表が定着したが，中でも，田村助教が指導した学生による，日本胸部外科学総会におけるポスター発表・討論，脈管学会総会における口演は大きな反響を呼び高い評価を得た．前年病理学会で発表した学生達の研究も論文として纏められ，病理部の検体を解析した学生の研究も英論文として纏められ，それぞれJournal of Nippon Medical Schoolに掲載された．病理学的backbone持った新たな研究者の種は着実に蒔かれている．発芽することを期待したい．

心血管系の分野では，他に，他施設との共同研究が推進され，心臓弁膜，心筋に関する解析結果が論文として発表された．

腎炎の治療に向けての研究も，病理学教室スタッフとの腎研究班として継続された．

細胞診の分野でも，症例検討の体制が漸く軌道に乗り，貴重症例の報告に加えて纏まった形の研究成果を発表出来た．次年度にはさらなる成果を生み出すことを期待したい．

40回を越えたリンパ腫勉強会を始め，脳腫瘍研究会，乳腺，婦人科領域，肝臓等，研究会・勉強会を病理学教室と共に定期的開催している．各分野での共同研究が推進されることが期待される．

今年度は，従前から検討してきた抗原賦活化法で大きな成果を得た．論文への纏めは進行中であるが，内外の学会発表で大きな反響を得た．病理部らしい成果を，今後も日常業務の中から見出して行く．



## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Tamura K, Iida T<sup>1,2</sup>, Fujii S<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>2</sup>, Asano G<sup>1</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>外科学第2): Floppy aortic valves without aortic root dilatation: clinical, histologic, and ultrastructural studies. J Nippon Med Sch 2002; 69 (4): 355-364.
- 2) Onda M<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Wang R<sup>1</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>病理学第2): Expression of lumican in thickened intima and smooth muscle cells in human coronary atherosclerosis. Exp Mol Pathol 2002; 72 (2): 142-149.
- 3) Naito Z<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Kurban G<sup>1</sup>, Tezuka K<sup>1</sup>, Kawamoto Y<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>病理学第2): Expression and accumulation of lumican protein in uterine cervical cancer cells at the periphery of cancer nests. Int J Oncol 2002 May; 20 (5): 943-8 2002; 20 (5): 943-948.
- 4) Hirose Y<sup>1</sup>, Naito Z<sup>2</sup>, Kato S<sup>1</sup>, Onda M<sup>2</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>外科学第1, <sup>2</sup>病理学第2): Immunohistochemical study of CYP2E1 in hepatocellular carcinoma carcinogenesis: examination with newly prepared anti-human CYP2E1 antibody. J Nippon Med Sch 2002 Jun; 69 (3): 243-51 2002; 63 (3): 243-251.
- 5) Ohashi R<sup>1</sup>, Shimizu A<sup>1</sup>, Masuda Y<sup>1</sup>, Kitamura H<sup>1</sup>, Ishizaki M<sup>1</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1</sup>(<sup>1</sup>病理学第1): Peritubular Capillary Regression during the Progression of Experimental Obstructive Nephropathy. J Am Soc Nephrol 13: 1795-805, 2002 2002; 13: 1795-1805.
- 6) Lu YP<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Moriyama Y<sup>1</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>1</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): Expression of lumican in human colorectal cancer cells. Pathol Int 2002 Aug; 52 (8): 519-26 2002; 52 (8): 519-526.
- 7) Ishiwata T<sup>1</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Lu YP<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Kawamoto Y<sup>1</sup>, Teduka K<sup>1</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>病理学第2): Differential distribution of fibroblast growth factor (FGF)-7 and FGF-10 in L-arginine-induced acute pancreatitis. Exp Mol Pathol 2002 Dec; 73 (3): 181-90 2002; 73 (3): 181-190.
- 8) Tanaka K<sup>1</sup>, Sato N<sup>1</sup>, Yasutake M<sup>1</sup>, Takeda M<sup>1</sup>, Takano T<sup>2</sup>, Ochi M<sup>3</sup>, Tanaka S<sup>3</sup>, Tamura K (<sup>1</sup>集中治療室, <sup>2</sup>内科学第1, <sup>3</sup>外科学第2): Clinicopathological characteristics of 10 patients with rupture of both ventricular free wall and septum (double rupture) after acute myocardial infarction. J Nippon Med Sch 2003; 70 (1): 21-33.
- 9) Satou E<sup>1</sup>, Kawamoto M<sup>4</sup>, Nakayama T<sup>4</sup>, Kunugi S<sup>4</sup>, Yoshimura A<sup>2</sup>, Haraguchi S<sup>3</sup>, Okada D<sup>3</sup>, Tanaka S<sup>3</sup>, Sugisaki Y, Fukuda Y<sup>4</sup>, Koizumi K<sup>3</sup>(<sup>1</sup>日本医科大学第5学年, <sup>2</sup>内科学第4, <sup>3</sup>外科学第2, <sup>4</sup>病理学第1): Prognostic suggestion in the evaluation of solid component in poorly differentiated adenocarcinoma of the lung. J Nippon Med Sch 2003; 70 (1): 28-33.
- 10) Naito Z<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Lu YP<sup>1</sup>, Teduka K<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>病理学第2): Transient and ectopic expression of lumican by acinar cells in L-arginine-induced acute pancreatitis. Exp Mol Pathol 2003; 74 (1): 33-39.
- 11) Naito Z<sup>1</sup>, Takashi E<sup>1</sup>, Xu G<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Teduka K<sup>1</sup>, Yokoyama M<sup>1</sup>, Yamada N<sup>1</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>1</sup>(<sup>1</sup>病理学第2): Different influences of hyperglycemic duration on phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in rat heart. Exp Mol Pathol 2003; 74 (1): 23-32.
- 12) Onda M<sup>1</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Wang R<sup>1</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Kawahara K<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Sugisaki Y (<sup>1</sup>病理学第2): Expression of keratinocyte growth factor receptor (KGFR/FGFR2 IIIb) in vascular smooth muscle cells. Pathol Int 2003 Mar; 53 (3): 127-32 2003; 53 (3): 127-132.
- 13) Sawada N<sup>1</sup>, Ishiwata T<sup>1</sup>, Naito Z<sup>1</sup>, Maeda S<sup>2</sup>, Sugisaki Y, Asano G<sup>1</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>多摩永山病

院病理部): Immunohistochemical localization of endothelial cell markers in solitary fibrous tumor . Pathol Int 2003 ; 52 ( 12 ): 769-776 .

- 14) 坂本 徹<sup>1)</sup>, 田村浩一, 青木亜左子<sup>1)</sup>, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 山川裕之<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>医学部学生 ): Coronary intervention ( PTCA/Stent ) 後の解剖例に対する臨床病理学的検討 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 2 ): 172-179 .
- 15) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 永井祥子, 浅川枝一, 松原美幸, 渡会泰彦 ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): 神経細胞への分化を伴った浸潤性乳癌3例 . 日本臨床細胞学会誌 2002 ; 41 : 14-20 .
- 16) 小泉康雄<sup>1)</sup>, 新藤 晋<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 八木聡明<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 横山宗伯, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>耳鼻咽喉科学, <sup>2)</sup>外科学第1 ): 頸縦隔型脂肪肉腫の1例 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2002 ; 74 : 622-626 .
- 17) 北川泰之<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 家田俊也<sup>1)</sup>, 南部昭彦<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 杉崎祐一, 前田昭太郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>整形外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): MIB - 1抗体を用いたけん鞘巨細胞腫の細胞増殖能の検討 . 東日本整形災害外科学会誌 2002 ; 14 : 174-178 .

#### (2) 症例報告 :

- 1) 小林義典<sup>1)</sup>, 高山英男<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup>, 中山一隆<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>5)</sup>, 内藤善哉<sup>6)</sup>, 横山宗伯<sup>6)</sup>, 田村浩一, 福田 悠<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第1, <sup>3)</sup>外科学第2, <sup>4)</sup>内科学第3, <sup>5)</sup>病理学第1, <sup>6)</sup>病理学第2 ): 炎症性偽腫瘍と診断された両側副腎癌の1例 . 内科 2002 ; 89 ( 5 ): 935-945 .
- 2) Tamura K, Sugisaki Y, Okawa S<sup>1)</sup>, Yamauchi H<sup>2)</sup>, Okada R<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>群馬パーパス看護短期大学 ): Tumorous deformity of mitral valve leaflet after chordal rupture in a child . Pathol Int 2003 ; 53 ( 1 ): 51-57 .

#### (3) 総説 :

- 1) Sato S<sup>1)</sup>, Adachi A<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Dai W<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ): Ultrastructure of normal rat hepatocytes : stereological arrangement of the organellae . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 6 ): 512-513 .
- 2) 田村浩一 : ( 特集 : Marfan 症候群の外科 ) Marfan 症候群の心血管系病理 . 胸部外科 2002 ; 55 ( 8 ): 616-622 .
- 3) 井内康輝<sup>1)</sup>, 堤 寛<sup>2)</sup>, 田村浩一, 川本雅司<sup>3)</sup>, 鬼島 宏<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学, <sup>2)</sup>藤田保健衛生大学医学部第1病理, <sup>3)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>4)</sup>東海大学医学部総合診療系病理診断学部門 ): 新医師臨床研修制度におけるCPCレポート作成と症例提示の意義 . 医学のあゆみ 2003 ; 204 ( 12 ): 885-890 .
- 4) 田村浩一, 井内康輝<sup>1)</sup>, 堤 寛<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 鬼島 宏<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学講座病理学, <sup>2)</sup>藤田保健衛生大学医学部第1病理, <sup>3)</sup>日本医科大学病理学第1, <sup>4)</sup>東海大学医学部総合診療系病理診断学部門 ): 新医師臨床研修制度はいかにになるべきか : レポート作成の要点と留意事項 . 医学のあゆみ 2003 ; 204 ( 12 ): 891-901 .

#### 学会発表

##### (1) 研究報告書 :

- 1) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Matsubara M, Naito Z<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Katayama H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): A fine needle aspiration cytology of soft-tissue tumors, the 7-year experience at Nippon Medical School. The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua Hin ). 2003 . 1 .

##### (2) シンポジウム :

- 1) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 松原美幸, 片山博徳<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の有用性 . 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002 . 11 .

(3) ワークショップ:

- 1) Liu A. M, Maeda S<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Oguro T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>Dept. of Pathology ): The role of electron microscopic study in fine needle aspiration cytology . The Ninth Thai-Japanese Workshop on Diagnostic Cytopathology ( Bangkok, Thailand ), 2003 . 1 .
- 2) 清水 章<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 森貴博一<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1 ): 糸球体硬化にまで進展する進行性実験腎炎における糸球体毛細血管網の動態 . 第91回日本病理学会総会, 2002 . 4 .
- 3) 川本雅司<sup>1)</sup>, 松原美幸, 佐藤春明, 鈴木あかね, 渡會泰彦, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1 ): 腺癌と鑑別を要する細胞が出現する良性・非腫瘍性病変「小型肺腺癌の細胞像の検討: 良性病変から早期腺癌まで」. 第43回日本臨床細胞学会総会, 2002 . 6 .

(4) 一般講演:

- 1) 富樫真由美<sup>1)</sup>, 田村浩一, 万里小路直樹<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>昭和女子大学大学院生活機構研究科, <sup>2)</sup>日本医科大学病理学第1 ): 心弁膜硬化と大動脈・動脈硬化症の関連 . 第70回日本医科大学医学総会, 2002 . 9 .
- 2) Kitamura H<sup>1)</sup>, Yim EE<sup>2)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Ajou University School of Medicine ): A 71 year-old woman with hypertension and edema ; A case of monoclonal immunoglobulin deposition disease . The 1st Korean-Japanese Joint conference of the renal pathology ( Seoul, Korea ), 2002 . 4 .
- 3) Liu A. M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Hosone M<sup>2)</sup>, Namimatsu S ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): A case of microvillous lymphoma with CD30+ALCL-B features . XI Meeting of the EAHP ( Siena, Italy ), 2002 . 5 .
- 4) Namimatsu S, Matubara M, Ozaki M, Wakamatu K<sup>1)</sup>, Gahzizadeh M<sup>2)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門 ): Application of cytraconic anhydride ( CCA ) for antigen retrieval immunohistochemistry . The 6th Joint Meeting of The Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry and The Histochemical Society ( Seattle ), 2002 . 7 .
- 5) Liu A. M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Hosone M<sup>2)</sup>, Namimatsu S ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部 ): Immunohistochemical and ultrastructural studies of four cases of CD30+ TIA-1+ ALK+ anaplastic large cell lymphoma . The 6th joint meeting of the japan society of histochemistry and cytochemistry and the histochemical society ( Seattle Washinton USA ), 2002 . 7 .
- 6) Takashi E<sup>1)</sup>, Xu G<sup>1)</sup>, Tezuka K<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): Aging induced failure of myocardial ERK1/2 during ischemia-reperfusion via intracellular glycation . 6th Joint meeting of the JSHC & HCS ( Seattle ), 2002 . 7 .
- 7) Xu G<sup>1)</sup>, Takashi E<sup>1)</sup>, Tezuka K<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): Short and long period hyperglycemia induce different reaction of ERK1/2 in rat heart . 6th Joint meeting of the JSHC & HCS ( Seattle ), 2002 . 8 .
- 8) Takashi E<sup>1)</sup>, Xu G<sup>1)</sup>, Tezuka K<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第2 ): Inhibited ERK1/2 phosphorylation and intracellular glycation in aging rat heart . ISHR 19th annual meeting of Japanese section ( Yamagata ), 2002 . 10 .
- 9) Liu A. M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Azuma K<sup>2)</sup>, Sugisaki Y, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>病理学第2 ): Large cell neuroendocrine carcinoma of the lung - Immunohistochemical and electron microscopic studies . XXIVth International Congress of the International Academy of Pathology ( Amsterdam, Netherlands ), 2002 . 10 .
- 10) Shimizu A<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup>, Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Sugisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第1 ): Vascular endothelial growth factor165 ( VEGF165 ) prevents immune-mediated necrotizing and crescentic glomerular injury and accelerates glomerular repair in the experimental crescentic glomerulonephritis

- (GN). ASN 35th Annual Meeting & Scientific Exposition Submission Program ( Philadelphia, USA ), 2002 . 11 .
- 11) Kawamoto M<sup>1)</sup>, Matsubara M, Sato H, Satake A, Sugaisaki Y ( <sup>1)</sup>病理学第1): Difficulty in the cytological distinction between pulmonary well differentiated adenocarcinoma cells and non - malignant cells . 日中医学会大会 ( 北京 ), 2002 . 11 .
  - 12) Liu A. M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Maeda S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Azuma K<sup>2)</sup>, Matsushima S<sup>3)</sup>, Yamamoto H<sup>3)</sup>, Egami K<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>同内科, <sup>4)</sup>同外科, <sup>5)</sup>病理学第2): Large cell carcinoma with neuroendocrine features of the lung : Immunohistochemical and electron microscopic studies . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 13) 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第1): Thy-1腎炎のメサンギウム流路障害負荷による影響について . 第91回日本病理学会総会, 2002 . 4 .
  - 14) 清水 章<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1): 進行性半月体形成性実験腎炎に対する VEGF を用いた積極的な糸球体毛細血管の再生促進の影響 . 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
  - 15) 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第1): Thy-1腎炎におけるプロタミン投与による影響について . 第45回日本腎臓学会学術総会, 2002 . 5 .
  - 16) 吉田博史<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup>, 田村浩一, 前田昭太郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>同病理部, <sup>3)</sup>内科学第1): 解剖による経皮的中隔心筋焼灼術既往例の心臓病理所見 . 第11回日本心血管インターベンション学会, 2002 . 6 .
  - 17) 沖野恵子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 松原美幸, 浅川一枝, 渡會泰彦, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>女性診療科・産科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>病理学第1): 卵巣腫瘍として発見された子宮体癌肉腫卵巣転移例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2002 . 6 .
  - 18) 阿部 崇<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 渡會泰彦, 浅川一枝, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>女性診療科・産科, <sup>2)</sup>病理学第1): 子宮内膜細胞診を契機に手術に至った大腸癌卵管転移例 . 第43回日本臨床細胞学会, 2002 . 6 .
  - 19) 喬 炎<sup>1)</sup>, 徐 光<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>病理学第2): 加齢心筋におけるリン酸化 ERK1/2 の減少と AGEs の形成 . 第44回日本老年医学会, 2002 . 6 .
  - 20) 新井孝司<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 石川吾利美<sup>1)</sup>, 田村尚美<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第1): 抗一本鎖 DNA 抗体を用いたアポトーシス細胞の同定 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002 . 9 .
  - 21) 片岡光枝<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 石川吾利美<sup>1)</sup>, 田村尚美<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 福田 悠<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第1): 腎糸球体における毛細血管網傷害後の血管再生 . 第34回日本臨床電子顕微鏡学会, 2002 . 9 .
  - 22) 松原美幸, 釜口晴美, 尾崎正行, 佐藤春明, 村瀬幸宏, 浅川一枝, 永井祥子, 佐竹あかね, 渡會泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一, 川本雅司<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 穿刺吸引細胞診判定不能例について . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 23) 浅川一枝, 永井祥子, 安藤 哲, 尾崎正行, 釜口晴美, 佐竹あかね, 佐藤春明, 松原美幸, 田村浩一, 杉崎祐一, 源河敦史<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 乳線 invasive micropapillary carcinoma の2例 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 24) 浅川一恵, 佐竹あかね, 村瀬幸宏, 渡會泰彦, 源河敦史<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第1, <sup>3)</sup>病理学第2): 乳線 Invasive Micropapillary Carcinoma の2例 . 第16回日本臨床細胞学会関東連合会総会および学術集会, 2002 . 9 .
  - 25) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 竹内俊次<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 松原美幸, 杉崎祐一, 北川泰之<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同整形外科, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>付属病院整形外科): 結節性筋膜炎の2症例 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .

- 26) 枝川聖子<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 松本光司<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>5)</sup>, 佐藤雅史<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 大原國俊<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門,<sup>2)</sup>第二病院病理部,<sup>3)</sup>同放射線科,<sup>4)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>5)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>6)</sup>内科学第4,<sup>7)</sup>眼科学): 気管支肺胞洗浄法 (Bronchoalveolar Lavage : BAL): 本学における現状と疾患特異性について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 27) 並松茂樹, 村瀬幸宏, 渡會泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: 電気ポット・CCA (Citraconic anhydride) を用いた抗原賦活法. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 28) 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 茆原弘光<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 山口昌子<sup>1)</sup>, 八田充子<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科): 多様な組織像が観察された子宮癌肉腫. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 29) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 戴 威<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 正常ラット肝細胞の立体超微構造. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2002. 9.
- 30) 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): ウーロン茶抽出物 (OTE) を用いたブロック染色による小腸粘膜杯細胞の電顕観察. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2002. 9.
- 31) 並松茂樹, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 2.5%グルタルアルデヒド固定した組織は免疫電顕が可能か. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2002. 9.
- 32) 戴 威<sup>1)</sup>, 並松茂樹, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, 安達彰子<sup>1)</sup>, 劉 効蘭<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 電子顕微鏡観察の為の結合組織染色 2. 種種漢方薬による検討. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2002. 9.
- 33) 田村浩一: 心弁膜における創傷治癒過程: 動物実験による病理組織学的検討. 第55回日本外科学会総会, 2002. 10.
- 34) բ富佐穂里<sup>1)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 広本敦之<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一, 矢島俊巳<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>医学部学生,<sup>2)</sup>外科第2): ペースメーカー植込み後の心筋電極接触部における病理組織変化. 第55回日本胸部外科学会, 2002. 10.
- 35) 土井研人<sup>1)</sup>, 野入英世<sup>1)</sup>, 平田恭信<sup>2)</sup>, 藤田敏郎<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>3)</sup>, 北村博司<sup>3)</sup>, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>東京大学腎臓内分沁内科,<sup>2)</sup>東京大学循環器内科,<sup>3)</sup>病理学第1): 本態性クリオグロブリン血症に伴う膜性増殖性糸球体腎炎 (MPGN) にて慢性腎不全を呈する1例の長期観察. 第32回日本腎臓学会東部学術大会, 2002. 10.
- 36) 渡會泰彦, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>病理学第2): 脂腺への分化を伴う耳下腺上皮筋上皮癌の1例. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 10.
- 37) 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松原美幸, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>3)</sup>, 北川泰之<sup>4)</sup>, 竹内俊次<sup>4)</sup>, 伊藤博元<sup>4)</sup>, 前田昭太郎<sup>1,3)</sup>, 杉崎祐一<sup>1,2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>病理学第1,<sup>3)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>4)</sup>整形外科科学): 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の有用性. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 10.
- 38) 土居大祐<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 八田充子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 松原美幸, 渡會泰彦, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>産婦人科学): 婦人科細胞診に出現した悪性リンパ腫の3症例の検討. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 10.
- 39) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 竹内俊次<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 松原美幸, 杉崎祐一, 北川泰之<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup>病理学第2,<sup>3)</sup>整形外科科学): 結節性筋膜炎の2症例. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 10.
- 40) 松原美幸, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 北川泰之<sup>2)</sup>, 前田美穂<sup>3)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>病理学第2,<sup>2)</sup>整形外科科学,<sup>3)</sup>小児科学): 大細胞Ewing肉腫の1例. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 10.
- 41) 小野真平<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>医学部学生): 経皮的冠動脈インターベンション, エタノール中隔心筋焼灼術, 高周波カテーテル焼灼術の施行部に共通して認めた特殊心筋線維化巣. 第43回日本脈管学会総会, 2002. 11.
- 42) 川本雅司<sup>1)</sup>, 佐藤春明, 佐竹あかね, 浅川一枝, 釜口晴美, 永井祥子, 松原美幸, 村瀬幸宏, 渡會泰彦, 杉崎祐一 (<sup>1)</sup>病理学第1): 肺原発Signet-ring cell carcinomaの1例. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 11.
- 43) 米山剛一<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 沖野恵子<sup>1)</sup>, 八田充子<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 松原美幸, 渡會泰彦, 杉崎祐一

(<sup>1</sup>)女性診療科・産科,<sup>2</sup>)病理学第1): Endometrial intraepithelial carcinomaの存在を疑った子宮体癌症例の病理学的検討. 第41回日本臨床細胞学会秋期総会, 2002. 11.

## [ 付属病院中央検査部 ]

### 研究概要

当中央検査部は,今年度も学術研究面と臨床支援体制の充実に積極的に取り組み,広角的な範囲の業績をもたらしている.今年度の主な概要は次の通りである.全自動分析装置を用いた便潜血測定 of 解析,赤痢アเมอร์ーに関する症例報告,血清蛋白分画の傾向とデ-タ解析法について,免疫分野では自動化による梅毒脂質抗体の検索,ラテックス免疫比濁法を用いたRPR自動化の検討,血液凝固分野では合成リン脂質を用いたAPTT測定法の検討,自動分析装置コアグレックス-800を用いたD・ダイマーの測定やプロゾーンチェックへの対応,細菌検査分野ではMRSAや多剤耐性緑膿菌の動向,週毎の細菌検出状況の統計,高度救命救急分野では乱用薬物スクリーニングの検討,血液浄化時の薬剤対応,心筋マーカーの利用と問題点について,抗生物質投与方法による血中薬物のモニタリング効果,頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン・フィブリン分解産物測定による線溶動態の解析,緊急医療の中での臨床検査の実際,教育分野では未病と臨床検査,JICA研修生への指導体制,管理分野では施設管理上の院内清浄化へのチェックや衛生委員会院内感染対策部会・エイズ結核対策部会への対応,その他,都内における公共機関より依頼の精度管理事業への調査指導協力などの継続課題や,診療報酬改正に伴う包括医療制度への臨床支援体制の構築と医業経営に関する収支効果の変革など,極めて幅広い領域において活発な活動が行われた.

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1)柴田泰史,野本剛史,久志本成樹<sup>1)</sup>,山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)救急医学):頭部外傷急性期におけるフィブリノゲン分解産物,フィブリン分解産物測定による線溶動態の解析.医学検査 2002; 51(5): 665-669.
- 2)三橋 太,石野三智男,中村祐三,野本剛史,里村克章:便潜血用全自動分析装置Hemo-LIAS200の評価. Aysmex Journal 2003; 30-90.

##### (2)綜説:

- 1)小長谷勝利<sup>1)</sup>,橋本政子(<sup>1</sup>)日本医学技術専門学校):未病と臨床検査.日本医学技術専門学校『学校誌』2002; 3: 2-7.
- 2)柴田泰史,山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)救急医学):緊急医療のなかでの臨床検査.臨床検査 2003; 47(1): 71-74.

#### 著書

- 1)野本剛史:〔分担〕精度管理調査結果報告.平成14年度版.第21回東京都衛生検査所精度管理事業報告書(東京都立衛生研究所),2003;東京都健康局医療製作部.

#### 学会発表

##### (1)一般講演:

- 1)柴田泰史,野本剛史,山本保博<sup>1)</sup>,相星淳一<sup>1)</sup>,仁平 信<sup>2)</sup>,林田真喜子<sup>2)</sup>,大野曜吉<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>)救急医学,<sup>2)</sup>法医学):TOX/Seeによる薬物スクリーニングの検討.第51回日本医学検査学会,2002.5.
- 2)石野三智男,田尾清一,三橋 太,中村祐三,野本剛史:全自動便潜血分析装置の比較(第1報):特に分析装置の性能評価.第51回日本医学検査学会,2002.5.
- 3)三橋 太,田尾清一,石野三智男,中村祐三,野本剛史:全自動便潜血分析装置の比較(第2報):特に採便容

- 器の性能評価．第51回日本医学検査学会，2002．5．
- 4) 長谷川栄子，金子幸江，福田高久，野本剛史：ラテックス免疫比濁法を原理としたRPR自動化法の基礎的検討．第51回日本医学検査学会，2002．5．
  - 5) 影山憲貴，高木 豊，萩原直久，野本剛史：合成リン脂質を用いたAPTT測定試薬の検討．第51回日本医学検査学会，2002．5．
  - 6) 高木 豊，影山憲貴，寺尾幸重，野本剛史：コバス試薬D・ダイマーのコアグレックス-800への適用．第51回日本医学検査学会，2002．5．
  - 7) 磯部将人<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>1)</sup>，相星淳一<sup>1)</sup>，吉田竜介<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，林田真喜子<sup>2)</sup>，仁平 信<sup>2)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup>，柴田泰史，平田清貴<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>法医学，<sup>3)</sup>付属病院薬剤部)：血液浄化法が有用であったアニソン・カーバメイト合剤(クサノンA)大量服用例．第24回日本中毒学会総会，2002．7．
  - 8) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，相星淳一<sup>1)</sup>，吉田竜介<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，仁平 信<sup>2)</sup>，林田真喜子<sup>2)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup>：乱用薬物スクリーニング検査キットの有用性の検討：TOX/SeeとTriage8の比較検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 9) 石野三智男，三橋 太，中村祐三，野本剛史，里村克章：全自動便潜血免疫化学測定装置の比較(第1報)特に分析装置の基本性能について．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 10) 三橋 太，石野三智男，中村祐三，野本剛史，里村克章：全自動便潜血免疫化学測定装置の比較(第2報)特に採便容器の評価について．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 11) 小林紘士，三橋 太，中村祐三，野本剛史，里村克章：付属病院において検出された赤痢アメーバ症の2症例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 12) 中村祐三，玉手ひさ子，田島克美，石野三智男，野本剛史，里村克章：当院における血清蛋白分画の傾向と，数値データについて．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 13) 三橋 太，石野三智男，中村祐三，野本剛史：全自動便潜血分析装置の評価：分析装置および採便容器の比較．第34回日本臨床検査自動化学会大会，2002．9．
  - 14) 金子幸江，長谷川栄子，福田高久，野本剛史，里村克章：自動化測定による梅毒脂質抗体検査の評価．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 15) 影山憲貴，高木 豊，萩原直久，野本剛史，里村克章：合成リン脂質を用いたAPTT測定試薬の基礎的検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
  - 16) 高木 豊，影山憲貴，萩原直久，野本剛史：コアグレックス-800によるプロゾーンチェック法の検討．第34回日本臨床自動化学会大会，2002．9．
  - 17) 柴田泰史，野本剛史，里村克章，上田康晴<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：心筋マーカー測定キット「ラピチェックH-FABP」および「トロップTセンシティブ」の問題点について．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
  - 18) 上田康晴<sup>1)</sup>，柴田泰史，小川太志<sup>1)</sup>，原田尚重<sup>1)</sup>，磯部将人<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：TDM調査から見たテイコプラニン投与方法について．第30回日本集中治療医学会総会，2003．2．
  - 19) 高山康広<sup>1)</sup>，原田尚重<sup>1)</sup>，柿沼敏行<sup>1)</sup>，花田有里子<sup>1)</sup>，柴田泰史，吉田竜介<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：Transthoracic biphasic methodによるmyocardial damageについて．第53回日本救急医学会関東地方会，2003．2．

## [ 付属病院薬剤部 ]

### 研究概要

平成14年度も病棟薬剤業務を中心に，医薬品を通して患者さんの利益に貢献するための研究を行った．

医薬品の有効性，安全性の面からは，薬物相互作用に関して「フルコナゾール併用時のミダゾラムの血中濃度上

昇についての検討」, CHDF による薬物濃度の変化に関しては「CHDF 施行患者におけるミダゾラムの体内動態」, 「CHDF 施行患者におけるフルコナゾールの体内動態」についてまとめた。また, アミノグリコシド系抗菌薬の体内動態については「熱傷患者とアミノグリコシド系抗菌薬の分布容積とサードスペースの検討」と題し, 癌疼痛管理に関しては問題となる副作用対策についてまとめ「癌疼痛管理と副作用対策」と題し発表した。

その他, 市販されていない注射薬を安全管理の面から院内製剤として病棟に供給したことについて, 「IVH 用ヘパロックシリンジ注の開発と評価」と題し発表した。

薬剤経済等の面からは, 多くの病棟で導入されてきたクリニカルパスの薬剤経済および薬剤業務との関連について検討し「胃切除クリニカルパスの入院時薬剤費におよぼす諸因子の影響」, 「クリニカルパスを用いた薬剤管理指導業務の検討」と題し発表した。クリニカルパスを用いることにより, 医療の質の確保と効率化が期待されており, 今後医療費の包括化に対応して益々多くの疾患の治療に導入されることが考えられるが, 薬剤部としては継続してクリニカルパスにおける医薬品の適正使用と効率性について研究していく予定である。

近年医療環境は激変しており, 当然ながら薬剤師業務に対するニーズも変化している。医薬品の有効性, 安全性, 経済性についての研究をとおし, それらのニーズに適切に対応し, 患者さんの利益に貢献できるように努力したいと考えている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Hirata K, Kurokawa A : Chlorhexidine gluconate ingestion resulting in fatal respiratory distress syndrome . Vet Hum Toxicol 2002 ; 44 ( 2 ) : 89-91 .
- 2) Ise Y, Nagase H<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬学部): Modulation of  $\mu$ -opioidergic systems on mecamlamine-precipitated nicotinedwithdrawal aversion in rats . Neuroscience Letters 2002 ; 323 ( 4 ) : 164-166 .
- 3) Nishizawa K, Hirano M, Kimura A<sup>1)</sup>, Mochizuki T<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Yamamura S<sup>2)</sup>, Momose Y<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup>東邦大学薬学部): Administration of Aminoglycosides Antibiotics for Critically Ill Patients . 応用薬理 2003 ; 64 ( 1/2 ) : 15-21 .
- 4) 濃沼政美, 西澤光代, 瀬尾 誠, 高瀬知永, 平野公晟, 伊藤克敏<sup>1)</sup>, 荒川秀俊<sup>1)</sup>, 前田昌子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学薬学部): 院内製剤「IVH 用ヘパロック-シリンジ注」の開発と評価 . 医療薬学 2002 ; 28 ( 6 ) : 541-550 .
- 5) 伊勢雄也, 本城和義, 宋 静香, 瀬尾 誠, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>外科第1): 胃切除クリティカルパスに薬剤管理指導業務を導入することによる薬剤経済学的有用性 . J Nippon Med Sch 2003 ; 70 ( 1 ) : 53-56 .
- 6) 伊勢雄也, 本城和義, 宋 静香, 瀬尾 誠, 片山志郎, 平野公晟, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>看護部, <sup>2)</sup>外科第1): 胃切除クリニカルパスの入院時薬剤費に及ぼす諸因子の影響 . 日病薬誌 2003 ; 39 ( 2 ) : 205-207 .
- 7) 伊勢雄也, 本城和義, 宋 静香, 瀬尾 誠, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>外科第1): 胃切除患者にクリティカルパスと薬剤管理指導業務を導入することによる薬剤経済学的有用性 . 医療薬学 2003 ; 29 ( 1 ) : 28-33 .
- 8) 濃沼政美, 瀬尾 誠, 高瀬知永, 西澤光代, 平野公晟, 荒川秀俊<sup>1)</sup>, 前田昌子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学薬学部): キシレン含有油性インクのプラスチック製輸液容器に対する影響 . 医療薬学 2003 ; 29 ( 2 ) : 203-209 .

#### (2) 綜説:

- 1) 片山志郎, 宮田広樹, 平野公晟: モルヒネの副作用と対策 ( 緩和医療と薬剤師 ). 薬局 2002 ; 53 ( 4 ) : 1517-1521 .
- 2) 平田清貴, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 災害時における医療機関の対応と薬剤師への期待 . 月刊薬事 2002 ; 44



(5): 843-849 .

- 3) 伊勢雄也, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟, 成田 年<sup>1)</sup>, 鈴木 勉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>星薬科大学薬学部): 末期癌患者におけるSSRIの有用性. J Neurosci Pain Res 2002 ; 4 (1): 20-26 .
- 4) 片山志郎, 平野公晟: 薬剤の調製とその管理(事故防止のための注射と輸液の知識). 臨床看護臨時増刊号 2002 ; 28 (6): 784-787 .
- 5) 濃沼政美: 人の汗の中に抗菌物質が! ファルマシア 2002 ; 38 (7): 685-686 .
- 6) 平田 清貴, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): <さまざまな状況における輸液療法> 熱傷. 内科 2002 ; 9 (1): 94-98 .
- 7) 伊東明彦<sup>1)</sup>, 渡邊一則<sup>1)</sup>, 伊勢雄也, 飯塚雄次<sup>1)</sup>, 氏原 淳<sup>1)</sup>, 落合 葵<sup>1)</sup>, 長谷川英雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都病院薬剤師会薬務薬制部): 注射剤調剤業務に関する調査報告. 東京都病院薬剤師会誌 2002 ; 51 (4): 355-360 .
- 8) 片山志郎: 貴重な薬学的ケアを優良報告にまとめるために. J of JSHP 2002 ; 138 (8): 88-89 .
- 9) 伊勢雄也, 平野公晟: 注射薬調剤による適正使用推進の経済的評価. Medical Pharmacy 2002 ; 36 (6): 11-14 .

## 著 書

- 1) 片山志郎, 山村重雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): [編著] 薬剤師のためのがん疼痛緩和ケア. ADVANCE CREATE (平野公晟監修・片山志郎・山村重雄編), 2002 ; アドバンスクリエイト社 .

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) 松浦香野<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 中尾千代美<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>2)</sup>, 濃沼政美, 百束比古<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>同形成外科・美容外科): 熱傷後肥厚性瘢痕に対するヨモギローションの止痒効果. 第28回日本熱傷学会総会, 2002 . 6 .
- 2) 渡邊暁洋, 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟: 癌疼痛管理および副作用対策. 医療薬学フォーラム, 2002 . 7 .
- 3) 磯部将人<sup>1)</sup>, 上田康晴<sup>1)</sup>, 平田清貴, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 仁平 信<sup>2)</sup>, 相星淳一<sup>2)</sup>, 平野公晟, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>法医学): 血液浄化法が有用であったアニリン・カーバメイト合剤(クサノンA)大量服用例. 第24回日本中毒学会総会, 2002 . 7 .
- 4) 瀬尾 誠, 本城和義, 宋 静香, 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟, 三瓶由紀子<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>同外科第1): 「結腸切除術クリティカルパス」を用いた薬剤管理指導業務の検討. 日本病院薬剤師会第32回関東ブロック学術大会, 2002 . 8 .
- 5) 加藤あゆみ, 渡邊暁洋, 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟: 癌性疼痛管理および副作用対策. 日本病院薬剤師会第32回関東ブロック学術大会, 2002 . 8 .
- 6) 蒲池みどり, 多田けい子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 当院におけるDI業務の検討(第5報). 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 7) 岩上正明, 片山志郎, 平野公晟, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院中央検査部): 付属病院における抗菌薬の使用動向. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 8) 渡邊暁洋, 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟: 副作用対策フローチャートを利用した癌疼痛管理. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 9) 瀬尾 誠, 本城和義, 宋 静香, 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟, 三瓶由紀子<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>: 結腸切除術クリティカルパスを用いた薬剤管理指導業務の取り組み. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 10) 中嶋基広, 西澤健司, 片山志郎, 平野公晟: 付属病院における薬剤管理指導業務について(第2報). 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 11) 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟, 三橋恭子<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院看護部, <sup>2)</sup>外科第1): 胃切

除クリニカルパスの入院時薬剤費に及ぼす諸因子の影響．第12回日本医療薬学会年会，2002．10．

- 12) 西澤健司，平野公晟，山村重雄<sup>1)</sup>，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): 熱傷患者におけるアミノグリコシド系抗菌薬の分布容積とサードスペースの検討．第12回日本医療薬学会年会，2002．10．
- 13) 大野香那恵<sup>1)</sup>，平田清貴，松本宜明<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>2)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，福岡正道<sup>1)</sup>，平野公晟，黒川 顕<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>救急医学): フルコナゾール併用時のミダゾラム血中濃度上昇の検討．第23回日本臨床薬理学会，2002．12．
- 14) 平田清貴，大野香那恵<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>2)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，福岡正道<sup>1)</sup>，平野公晟，黒川 顕<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>救急医学): CHDF 施行患者におけるミダゾラム体内動態に関する検討．第23回日本臨床薬理学会，2002．12．
- 15) 菅谷量俊，新谷文隆<sup>1)</sup>，田村哲彦<sup>2)</sup>，福生吉裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>クスリのアラヤ，<sup>2)</sup>タムラ薬局，<sup>3)</sup>(財)博滋会老人病研究所): 健康食品の実態調査(第2報): 「第4回21世紀 食と健康フォーラム」アンケート調査より．第9回日本末病システム学会，2003．1．
- 16) 平田清貴，小川太志<sup>1)</sup>，宮崎善史<sup>1)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学): 当院高度救命救急センターにおける急性薬物中毒加算の影響．第17回日本中毒学会東日本地方会，2003．1．
- 17) 山村重雄<sup>1)</sup>，竹平理恵子<sup>1)</sup>，川田桂子<sup>1)</sup>，百瀬弥寿徳<sup>1)</sup>，西澤健司，片山志郎，平野公晟(<sup>1)</sup>東邦大学薬学部): ニューラルネットワークと多変量ロジスティック回帰分析による重症感染症患者の血中濃度推移予測と予測制度の比較．日本薬学会第123年会，2003．3．
- 18) 平田清貴，大野香那恵<sup>1)</sup>，松本宜明<sup>1)</sup>，清水万紀子<sup>1)</sup>，小川太志<sup>2)</sup>，原田尚重<sup>2)</sup>，上田康晴<sup>2)</sup>，志賀尚子<sup>2)</sup>，野口裕幸<sup>2)</sup>，福岡正道<sup>1)</sup>，平野公晟，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>昭和薬科大学薬学部，<sup>2)</sup>救急医学): CHDF 施行患者におけるフルコナゾール体内動態に関する検討．日本薬学会第122年会，2003．3．

## [ 付属病院生理機能センター ]

### 研究概要

近年の日本経済の中，医療分野でもかつてない大きな変革もたらされている．平成15年4月より大学病院などの特定機能病院や一部の国立病院に対して，診療報酬の包括評価制度が導入されることが決まり，出来高払いから定額払いへと変わることにより，医療現場にどのような影響をもたらすのかまったく予想のつかない状況である．

病院経営上の観点から，今後ますますスタッフの『コスト意識』が問われる時代になり，ややもすると利益最優先の疎診疎療にもなりかねない．しかしながら，大学病院の性格上『診療・教育・研究』の3本柱は堅持していかなければならず，医療スタッフの一員として高度の医療技術を臨床側に提供することを常に意識し，患者の満足度を少しでも高める努力が必要であると考える．

このような厳しい状況の中，ドブタミン負荷心エコーをはじめ，呼吸器疾患における呼気中一酸化窒素(NO)濃度の検討，自転車エルゴメーターに関する検討，心筋梗塞に対する運動療法が血中ビタミンC濃度におよぼす影響など継続的に研究を行っている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) 山口文雄<sup>1)</sup>，大井良之<sup>1)</sup>，青木 亘，中村利枝，五十嵐亜希，久保田稔<sup>1)</sup>，澤田恵子<sup>1)</sup>，志村俊郎<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおけるBIS(Bispectral Index)モニタリングの有用性．NEUROLOGICAL SURGERY 脳神経外科 2002; 30(11)．

## 著 書

- 1) Miura K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Honma H ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): [ 自著 ] Interception of aortic regurgitation by vegetation plug in a patient with infective endocarditis . Heart , 2002 ; pp362-362 , Heart .
- 2) 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子 ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): [ 自著 ] ドブタミン負荷心エコー法による冠動脈疾患の診断 : 経静脈心筋コントラストエコー法と経胸壁心エコー・ドブラ法による冠血流評価法との併用 . 心臓 , 2002 ; pp4-5 , 心臓 .

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Takayama M<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Yamane Y<sup>1)</sup>, Ohno T<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Fujioka M<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Honma H, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1 ): Effectiveness and safety of percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy : single center experience . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 2) Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Fujita N<sup>1)</sup>, Aoki S<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Ohno T<sup>1)</sup>, Honma H, Kusama Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1 ): Temporary ballon occlusion halfly predicts reduction of pressure gradient in percutaneous catheter treatment with alcohol for hypertrophic obstructive cardiomyopathy ( HOCM ) . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 3) Fukuma N<sup>1)</sup>, Miura K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Tsuchida T<sup>1)</sup>, Mabuchi K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Igarashi A, Nakamura T, Sugaya J, Saito K ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): Influence of Cardiac Rehabilitation on Oxidative Stress Marker and Consumption of Ascorbic Acid in Patients with Myocardial Infarction . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 4) Fukuma N<sup>1)</sup>, Miura K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Tsuchida T<sup>1)</sup>, Mabuchi K<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Nakamura T, Igarashi A, Sugaya J, Saito K ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): Randomized Crossover Study of Alteration of Heart Rate Response to Norepinephrine by Pedaling Rate during Ergometer Exercise in Normal Volunteer . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 5) Ohno T<sup>1)</sup>, Honma H, Munakata R<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1 ): The New Index of Regional Left Ventricular Function Using Tissue Doppler Imaging in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 6) 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 安武ひろ子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 松崎つや子 ( <sup>1)</sup>内科学第1 ): Strain rate imaging による局所心機能評価 . 日本心エコー学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 7) 菅谷寿理, 山本雪貴美, 斎藤公一, 山本和男<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第4 ): 呼気中一酸化窒素 ( NO ) 濃度測定に環境 NO 濃度が及ぼす影響 . 日本呼吸管理学会 , 2002 . 6 .
- 8) 山本雪貴美, 菅谷寿理, 斎藤公一, 山本和男<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第4 ): 呼吸器疾患における呼気中一酸化窒素 ( NO ) 濃度の検討 . 日本呼吸管理学会 , 2002 . 6 .
- 9) 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 中里 馨<sup>1)</sup>, 松崎つや子, 佐藤淳子, 水瀬 学, 石井玲子, 福間裕美子<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1 , <sup>2)</sup>放射線科学 ): 高齢者の巨大縦隔嚢胞の1例 . 第75回日本超音波医学会 , 2002 . 6 .
- 10) 中村利枝, 山本雪貴美, 加藤政利, 吉田由紀子, 五十嵐亜希, 平野美子, 菅谷寿理, 斎藤公一, 福間長知<sup>1)</sup>, 金澤宏美<sup>1)</sup>, 美浦和代<sup>1)</sup>, 木村祐子<sup>1)</sup>, 土田貴也<sup>1)</sup>, 及川恵子<sup>1)</sup>, 馬淵浩輔<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>内科学第1 ): 工

ルゴメーター負荷におけるペダル回転速度が呼気ガス分析におよぼす影響．第8回日本心臓リハビリテーション学会総会，2002．9．

- 11) 五十嵐亜希，菅谷寿理，山本雪貴美，加藤政利，吉田由紀子，平野美子，中村利枝，斎藤公一，福間長知<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，木村祐子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，愛須紀子<sup>1)</sup>，及川恵子<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞例におけるビタミンC摂取量と血中濃度．第8回日本心臓リハビリテーション学会総会，2002．9．
- 12) 大野忠明<sup>1)</sup>，本間 博，宗像 亮<sup>1)</sup>，時田祐吉<sup>1)</sup>，吉川雅智<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，松崎つや子(<sup>1)</sup>内科学第1): 低用量ドブタミン負荷経静脈心筋コントラスト・エコーによる冠動脈疾患の評価．日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 13) 五十嵐亜希，菅谷寿理，吉田由紀子，山本雪貴美，平野美子，中村利枝，斎藤公一，本間 博，黒田 肇，美浦和代<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，木村祐子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，及川恵子<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 心筋梗塞に対する運動療法が血中ビタミンC濃度におよぼす影響．第70回日本医科大学医学会総会，2002．10．
- 14) 青木 亘，中村利枝，五十嵐亜希，菅谷寿理，斎藤公一，本間 博，黒田 肇，山口文雄<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，喜多村孝幸<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学): 術中モニタリングにおける体性感覚誘発電位(SEP)と運動誘発電位(MEP)による運動領野の同定の相違についての検討．第70回日本医科大学医学会総会，2002．10．
- 15) 中村利枝，山本雪貴美，加藤政利，吉田由紀子，五十嵐亜希，平野美子，菅谷寿理，斎藤公一，本間 博，黒田 肇，福間長知<sup>1)</sup>，美浦和代<sup>1)</sup>，木村祐子<sup>1)</sup>，土田貴也<sup>1)</sup>，及川恵子<sup>1)</sup>，馬淵浩輔<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第1): 自転車エルゴメーター回転数の差異による運動時心肺応答の変化．第70回日本医科大学医学会総会，2002．10．
- 16) 菅谷寿理，山本雪貴美，五十嵐亜希，宗方祐美子，竹田裕子，与那嶺弘子，青木 亘，平野美子，瀬川純子，中村利枝，斎藤公一，本間 博，黒田 肇，山本和男<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 呼気一酸化窒素(NO)濃度の日内変動．第70回日本医科大学医学会総会，2002．10．
- 17) 山本雪貴美，菅谷寿理，五十嵐亜希，宗方祐美子，竹田裕子，与那嶺弘子，青木 亘，平野美子，瀬川純子，中村利枝，斎藤公一，本間 博，黒田 肇，山本和男<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4): 呼気中一酸化窒素(NO)と呼吸器疾患．第70回日本医科大学医学会総会，2002．10．

## [ 付属病院看護部 ]

### 研究概要

付属病院看護部では，臨床における看護の質を向上する目的で看護研究に積極的に取り組んでいる．

1．救急看護領域では，家族ニードアセスメントツールCNS-FACEの信頼性と妥当性の検証ならびにそれを活用した自殺企図患者家族のニード分析，家族のケア参加がもたらす家族ニード充足の検証，呼吸器感染予防の観点から，口唇周囲に存在する病原菌と呼吸器系に存在する病原菌の同定と感染経路の検討，ジャクソンリース内の細菌汚染防止の検討，プリセプターのストレス要因とストレス反応から個別的な支援体制の検討，熱傷処置におけるクリティカルパスの作成について報告した．

2．集中治療看護領域では，緊急生体部分肝移植を受けた患児の母親の受容プロセスとそのサポートの検討，生体肝移植を受けた患者家族の潜在的な不安の分析と移植看護の検討，長期呼吸管理下重症心不全患者の看護援助，看護師の手洗い行動と影響を及ぼす要因の分析について報告した．

3．遺伝外来では，羊水検査でマーカー染色体が発見された夫婦への遺伝カウンセリング，染色体異常の遺伝カウンセリング，Werdnig-Hoffmann病の出生前診断に対する遺伝カウンセリング事例から看護職の役割の考察，日本医科大学遺伝外来の現状と看護師の役割について報告した．

4．肥厚性癩痕に対するヨモギローションの止痒効果の検討，RA患者の足病変及びフットケアの実態とその援助，睡眠時異常呼吸合併の臨床背景と夜間在宅酸素療法導入の検討，産婦の会陰切開縫合に対する冷電法による疼痛緩和

や創傷治療への有効性の検討, HOT患者の日常生活形態型高圧酸素ポンベと液体酸素ポンベ(ヘリオス)の比較, ベット上安静患者の便秘改善に対するアロマセラピー腹部マッサージの有効性について報告した.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 山勢博彰<sup>1)</sup>, 山勢善江<sup>2)</sup>, 石田美由紀<sup>3)</sup>, 佐藤憲明, 菅原美樹<sup>4)</sup>, 瀬川久江<sup>4)</sup>, 松本幸枝<sup>5)</sup>, 坂田久美子<sup>6)</sup>, 石井明代<sup>7)</sup>, 林 明美<sup>8)</sup>, 山下陽子<sup>6)</sup>, 島本千秋<sup>9)</sup>, 西尾治美<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> 山口大学医学部保健学科, <sup>2)</sup> 日本赤十字九州国際大学, <sup>3)</sup> 市立札幌病院, <sup>4)</sup> 日本看護協会看護研修学校, <sup>5)</sup> 東京女子医科大学病院, <sup>6)</sup> 愛知医科大学病院, <sup>7)</sup> 大阪市立病院, <sup>8)</sup> 慶応義塾大学病院, <sup>9)</sup> 大阪市立大学病院, <sup>10)</sup> 日本大学板橋病院): 重症・救急患者家族アセスメントのためのニード&コーピングスケールの開発: 暫定版CNS - FACEの作成過程とニードの構成概念の評価. 日本救急看護学会雑誌 2002; 3(2): 23-34.
- 2) 山勢博彰<sup>1)</sup>, 山勢善江<sup>2)</sup>, 石田美由紀<sup>3)</sup>, 佐藤憲明, 菅原美樹<sup>4)</sup>, 瀬川久江<sup>4)</sup>, 松本幸枝<sup>5)</sup>, 坂田久美子<sup>6)</sup>, 石井明代<sup>7)</sup>, 林 明美<sup>8)</sup>, 川名陽子<sup>6)</sup>, 島本千秋<sup>9)</sup>, 西尾治美<sup>10)</sup>(<sup>1)</sup> 山口大学医学部保健学科, <sup>2)</sup> 日本赤十字九州国際大学, <sup>3)</sup> 市立札幌病院, <sup>4)</sup> 日本看護協会看護研修学校, <sup>5)</sup> 東京女子医科大学病院, <sup>6)</sup> 愛知医科大学, <sup>7)</sup> 大阪府立大学, <sup>8)</sup> 慶応義塾大学病院, <sup>9)</sup> 大阪市立大学病院, <sup>10)</sup> 日本大学板橋病院): 重症・救急患者家族アセスメントツールの開発: 完成版CNS - FACEの作成プロセス. 日本集中治療医学会雑誌 2003; 10(1): 9-16.

#### (2) 綜説:

- 1) 西澤健司<sup>1)</sup>, 木野毅彦(<sup>1)</sup> 付属病院薬剤部): 薬剤による尿検査値への影響. 臨床看護 2002; 28(3): 424-429.
- 2) 遠藤晴子: 透析(ICU・CCU版 新人ナースのためのチェックリスト). ハートナーシング 2002; 15(4): 82-86.
- 3) 高橋真理: 呼吸困難・呼吸停止(心疾患患者の急変対応). ハートナーシング 2002; 15(5): 106-112.
- 4) 西澤健司<sup>1)</sup>, 木野毅彦(<sup>1)</sup> 薬剤部): 輸液セットと薬剤の相互作用・注射配合の注意のポイント. 臨床看護 2002; 28(5): 725-729.
- 5) 西澤健司<sup>1)</sup>, 木野毅彦(<sup>1)</sup> 薬剤部): 血管外漏出によって障害を引き起こす可能性のある薬剤. 臨床看護 2002; 28(7): 1133-1137.
- 6) 長谷川幸子: 事故防止のための注射と輸液の知識: ナースに求められるリスクマネジメント. 臨床看護 2002; 750-756.
- 7) 西澤健司<sup>1)</sup>, 木野毅彦(<sup>1)</sup> 薬剤部): せん妄の看護とせん妄を引き起こす薬剤. 臨床看護 2002; 28(8): 1281-1287.
- 8) 平原隆子, 浦田麻衣子, 榎本久美子: 集中治療室に入室した患者の社会的問題へのアプローチ. 病院 2002; 61(11): 901-905.
- 9) 西澤健司<sup>1)</sup>, 木野毅彦(<sup>1)</sup> 薬剤部): 睡眠. 臨床看護 2002; 28(12): 1874-1879.
- 10) 伊与恭子: 中心静脈留置カテーテル(特集: ICU・CCUにおけるルート管理). ハートナーシング 2003; 16(1): 79-83.
- 11) 伊与恭子, 原 千鶴: 集中治療領域の看護: エビデンスに基づく看護実践とは(特集: EBNは臨床看護に役立つか). EB NUSING 2003; 3(1): 34-36.
- 12) 土橋夕香: 集中治療室におけるBIPAP装着患者の看護基準とその活用. 看護技術 2003; 49(1): 22-25.
- 13) 原 千鶴, 鈴木由美, 高橋久美子<sup>1)</sup>, 内村洋子<sup>2)</sup>, 白畑恭子, 織田早苗<sup>3)</sup>, 宮田 忍<sup>1)</sup>, 藤岡久恵<sup>3)</sup>, 竹内恵美子, 柴原幸子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 多摩永山病院, <sup>2)</sup> 第二病院, <sup>3)</sup> 千葉北総病院): 倫理的感受性を高める継続教育(特集: 倫理的問題への看護の視点). 看護展望 2003; 28(1): 29-37.

- 14) 木野毅彦, 西澤健司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬剤部): 内服薬; その注意点と確認のポイント. 臨床看護 2003; 29(1): 126-130.
  - 15) 佐藤憲明, 伊藤睦美: 意識障害で開口障害のある患者のオーラルケア. Emergency Nursing 2003; 16(2): 80-86.
  - 16) 佐藤憲明: 知らなきゃ危い人工呼吸器の基本. ナース専科 2003; 23(3): 53-61.
  - 17) 生山美奈子, 山口文子: 超音波ネブライザーの準備, および正しく使用するための説明と介助ができますか? (総特集: 先輩ナースが教えるワンポイントアドバイス: 基礎看護技術). 臨床看護 2003; 29(3): 410-413.
  - 18) 大谷和子, 尾崎仁美: 酸素マスクの種類とその特徴を理解し, 指示どおりの酸素吸入と正しい取り扱いができますか? (総特集: 先輩ナースが教えるワンポイントアドバイス: 基礎看護技術). 臨床看護 2003; 29(3): 398-402.
  - 19) 千葉弘子, 江藤香織: 中央配管式アウトレット・酸素ポンペを用いた正しい酸素吸入ができますか? (総特集: 先輩ナースが教えるワンポイントアドバイス基礎看護技術). 臨床看護 2003; 29(3): 403-409.
- (3) 研究報告書:
- 1) 伊与恭子, 遠藤晴子, 大平雅子, 原 千鶴: 夜勤看護婦の疲労緩和にアロマテラピーは有効か. 日本集中治療医学会雑誌 2002; 9(1): pp55-56.
  - 2) 萩原潤子, 早坂百合子: 緊急入院した患者を抱える家族の思い: 患者家族の抱える不安. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2002; 23(40): pp206-207.
  - 3) 松浦香野, 小川 令<sup>1)</sup>, 濃沼政美<sup>2)</sup>, 中野千代美, 青木 律<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup>同薬剤部): 熱傷後肥厚性癬痕の掻痒に対するヨモギローションの止痒効果. 日本熱傷学会機関誌 2003; 29(1): pp60-66.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 早坂百合子: クリティカルケアにおける新人教育の問題(クリティカルケア領域における現任教育-現状と課題). 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.

### (2) ワークショップ:

- 1) 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 右田 眞<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院小児科, <sup>2)</sup>分子遺伝医学): 日本医科大学付属病院遺伝外来における看護師の役割 現状と課題. 第1回日本遺伝看護研究会総会, 2002. 9.

### (3) 一般講演:

- 1) 石飛奈緒, 花島真由美, 佐山由香, 藤本千尋, 高橋聡子, 伊藤博希, 佐藤憲明, 早坂百合子: ジャクソンリース回路内の細菌汚染防止の検討: ジャクソンリースに人工鼻を装着して. 第5回日本臨床医学会総会, 2002. 4.
- 2) 鈴木由美, 渡辺裕子, 千葉弘子, 右田 眞<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>2)</sup>, 折茂英生<sup>3)</sup>, 浅野ありさ<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院小児科, <sup>2)</sup>同産婦人科, <sup>3)</sup>分子遺伝医学): Werdig-Hoffmann 病の出生前診断に対する遺伝カウンセリングにおける看護職の役割. 第26回日本遺伝カウンセリング学会, 2002. 5.
- 3) 島田 隆<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>2)</sup>, 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子(<sup>1)</sup>分子遺伝医学, <sup>2)</sup>付属病院小児科): 日本医科大学付属病院遺伝外来の現状. 第26回日本遺伝カウンセリング学会, 2002. 5.
- 4) 瀧川真朱美, 田中ようこ, 市川裕子, 熊谷奈緒美, 背戸陽子, 田口涼子, 藤田昌久, 早坂百合子: 熱傷処置におけるクリニカルパスの作成. 第28回日本熱傷学会, 2002. 6.
- 5) 高橋美紀, 木野毅彦, 山下いずみ, 軽部裕子, 森 英代, 東 倫衣: 携帯用液体酸素ボンベ(ヘリオス)と携帯用高圧酸素ボンベの患者使用感の比較. 第12回日本呼吸器管理学会, 2002. 7.
- 6) 市川 匠<sup>1)</sup>, 福永由美<sup>1)</sup>, 森田智子<sup>1)</sup>, 中村千瑞子<sup>1)</sup>, 山形幸子<sup>1)</sup>, 永田浩一<sup>1)</sup>, 松信精一<sup>2)</sup>, 川辺満彦<sup>2)</sup>, 飯野

- 靖彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>腎クリニック,<sup>2)</sup>付属病院第二内科):症候性低血圧予防がQOLに与える影響.第47回日本透析医学会学術集会総会,2002.7.
- 7)阿部春美,山下いずみ,斉藤千春:NYHA心機能分類を基にした日常生活行動範囲基準の導入を試みて:非虚血性慢性左心不全患者に対して.第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,2002.8.
- 8)多田直子,大阿久佳依,千田 忍,藤田聖司:ベッド上安静患者の便秘に対するアロマテラピー腹部マッサージの効果.第33回日本看護学会 成人看護II,2002.8.
- 9)瀬戸利昌:緊急生体部分肝移植を受けた患児をもつ母親の混乱に対する援助.第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会,2002.8.
- 10)内田由香,西宮直美,大竹和香子,鈴木由美:会陰切開部の疼痛緩和・創傷治療に対する冷電法の有効性.第43回日本母性衛生学会,2002.9.
- 11)鈴木由美,渡辺 淳<sup>1)</sup>,川瀬里衣子<sup>2)</sup>,島 義雄<sup>2)</sup>,島田 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学分子遺伝医学,<sup>2)</sup>葛飾赤十字産院):羊水検査でマーカー染色体が発見された夫婦への遺伝カウンセリング.第1回日本遺伝看護研究会総会,2002.9.
- 12)松浦香野,中尾千代美,小川 令<sup>1)</sup>,濃沼政美<sup>2)</sup>,青木 律<sup>1)</sup>,百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科,<sup>2)</sup>薬剤部):熱傷後肥厚性患者の掻痒に対する看護:ヨモギローションを使用して.第70回日本医科大学医学会総会,2002.9.
- 13)松浦香野,小川 令<sup>1)</sup>,中尾千代美,青木 律<sup>1)</sup>,濃沼政美<sup>2)</sup>,百束比古<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科・美容外科,<sup>2)</sup>同薬剤部):熱傷後肥厚性瘢痕に対するヨモギローションの止痒効果.第28回日本熱傷学会,2002.9.
- 14)土田貴也<sup>1)</sup>,清野精彦<sup>1)</sup>,佐藤直樹<sup>1)</sup>,高野照夫<sup>1)</sup>,菊岡万里子,久米真澄(<sup>1)</sup>内科第1):睡眠時異常呼吸を合併する慢性心不全症例の臨床背景と夜間在宅酸素療法導入に関する検討.第50回日本心臓病学会学術集会,2002.9.
- 15)辛島有美,伊藤博希,末広善太,大川友司,軽部 厚,神保香織,関沢恵子,荻原潤子,佐藤憲明,藤田昌久,早坂百合子:ディスボ・ザブル人工呼吸器回路の導入による安全管理の向上と看護業務の効率化をめざして.第4回日本救急看護学術集会,2002.11.
- 16)竹原典子,梅野奈美,鈴木木子,稗田多恵,森田晃美,佐藤憲明,早坂百合子:当高度救命救急センターに勤務するプリセプター看護師のストレスとストレス反応.第4回日本救急看護学会学術集会,2002.11.
- 17)村上美乃枝,福土真由美,谷口かおり,八木沙友理,小杉佳代,佐藤憲明,早坂百合子,山勢博彰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山口大学医学部保健学科):自殺企図患者を持つ患者のニード:CNS-FACEを活用して.第4回日本救急看護学術集会,2002.11.
- 18)長栄美津子:慢性関節リウマチ患者のフットケアの実態.平成14年度東京都看護協会看護研究学会,2002.11.
- 19)知久博美,樋口周子:長期呼吸管理が必要な重症心不全患者の日常性回復に向けての看護介入.第22回東京CCU研究会,2002.11.
- 20)山勢博彰<sup>1)</sup>,山勢善江<sup>2)</sup>,石田美由紀<sup>3)</sup>,佐藤憲明,菅原美樹<sup>4)</sup>,瀬川久江<sup>4)</sup>,松本幸枝<sup>5)</sup>,坂田久美子<sup>6)</sup>,石井明代<sup>7)</sup>,林 明美<sup>8)</sup>,川谷陽子<sup>6)</sup>,島本千秋,西尾治実(<sup>1)</sup>山口大学医学部保健学科,<sup>2)</sup>日本赤十字九州国際看護大学,<sup>3)</sup>市立札幌病院,<sup>4)</sup>日本看護協会看護研修学校,<sup>5)</sup>東京女子医科大学病院,<sup>6)</sup>愛知医科大学病院,<sup>7)</sup>大阪府立病院,<sup>8)</sup>慶応義塾大学病院):完成版CNS-FACEの信頼性と妥当性.第4回日本救急看護学会,2002.11.
- 21)中川仁美,伊藤睦美,菅 由紀,大橋さくら,稲田保治,萩口紗千子,小島一郎,佐藤憲明,早坂百合子:口腔周囲に存在する病原菌と気道感染の関連における検討:口唇周囲の清拭の必要性.第30回日本集中治療医学会総会,2003.2.
- 22)新宅好美,大貫朋子,榊 由里,内海清乃,小林 梢,横田亜希子,長谷川ゆみ,磯崎奈津子,宮脇里枝,武正泰子,大橋留美,佐藤憲明,早坂百合子:救急センターにおける家族援助を考える:家族の意思決定を促す

- アプローチを試みて(第2報). 第53回日本救急医学会関東地方会, 2003. 2.
- 23) 和泉洋子: 生体肝移植を受けた患児の家族と看護師が直面した相互作用の様相. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.
- 24) 鈴木智恵子, 高橋真理, 橋本牧子, 原 千鶴: 集中治療室における看護師の手洗いの現状とその行動に影響を及ぼす要因の分析. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003. 2.
- 25) 三橋恭子: ドレナージとしてPTEGを留置されている患者の看護: その管理と問題点. 第2回PTEG研究会, 2003. 3.
- 26) 島田 隆, 渡辺 淳, 浅野ありさ, 右田 眞, 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子: 日本医科大学付属病院遺伝外来の現状. 第70回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

## [ 付属病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

放射線技術部門は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である. 各画像検査部門で, それぞれよりよい撮像技術およびより良い画像を求めて研究を進めている.

MRI部門では, 血液の信号を抑制した状態でT1強調画像を撮像可能な新しいpulse sequenceの開発, MRCPの撮像技術に関する検討および, 造影剤を使用しない血管描出技術である2D-TOF法による撮像時間短縮技術に関して報告した. 実用的な撮像時間で下肢全体を造影剤を使用せずに描出可能となった.

一般撮影部門では, フラットパネルの物理的評価, 被曝線量低減効果の基礎検討を行い, デジタルマンモグラフィの最適な臨床応用を可能とした. また, 廃液が一切でないドライシステムの経時的な変化の基礎的検討を行った.

核医学部門では, gated SPECTデータから解析するQGSプログラムの解析結果に与える影響について検討を行った. また, gated SPECTを用いた経時的局所収縮変化の解析を通して, Wall Thickening Mapの開発を行った.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 小林宏之: Comparison of Noise Characteristics between CR System and Full-Field Digital Mammography System. Digital Mammography: IWDM2002 2002; 6: 72-75.
- 2) 谷越雅幸: Evaluation of the exposure dose reduction in Full-Field Digital Mammography System. IWDM2002 2002; 6: 149-151.
- 3) 土橋俊男, 鈴木 健: Triple Inversion Recovery法を用いたT1 Black Blood Imagingの評価. 日放技学誌 2002; 58(9): 1237-1244.
- 4) 土橋俊男, 岩崎 淳, 藤田 功<sup>1)</sup>, 森 克彦, 鈴木 健<sup>1)</sup>さいたま市立病院中央放射線科): Fast Recovery Single Shot Fast Spin Echo法を用いたMR Cholangiopancreatographyの検討. 日放技学誌 2002; 58(11): 1517-1523.

##### (2) 綜説:

- 1) 土橋俊男: k-space ordering方式の違いによる画像の特徴: elliptical centric view orderingの特徴と活用術. 関西MRI技術研究会 2002; (10): 89-100.
- 2) 小林宏之: FPDマンモグラフィの使用経験. 新医療 2002; 29(10): 147-149.
- 3) 小林宏之: フラットパネルの臨床応用. 日放技学誌 2003; 59(1): 40-41.
- 4) 土橋俊男: MRIにおける血管描出の最新技術・利用技術. 日放技学誌 2003; 59(3): 328-326.



## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 土橋俊男：k-space から見た撮像技術の進歩．茨城県放射線技師会，2002．12．

### (2) シンポジウム：

- 1) 小林宏之：デジタルマンモグラフィ装置 Senographe 2000D（フラットパネルディテクタの臨床応用）．日本放射線技術学会，2002．4．
- 2) 土橋俊男：MRIにおける血管描出の最新技術（各モダリティにおける血管描出の最新技術）．日本放射線技術学会，2002．4．
- 3) 櫻井 実：QGSを用いた gated SPECT 解析結果に与える影響：空間分解能の違いがQGSに及ぼす影響．Nuclear Medicine Technical Conference，2002．9．

### (3) セミナー：

- 1) 土橋俊男：撮像技術の理解（1）-（4）：MRI 検査（初級コース）．日本放射線技師会，2002．7．

### (4) 一般講演：

- 1) 小林宏之，谷越雅幸，内山菜智子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：Comparison of Noise Characteristics between CR System and Full-Field Digital Mammography System．IWDM（ドイツ），2002．6．
- 2) 谷越雅幸，小林宏之，内山菜智子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：Evaluation of the exposure dose reduction in Full-Field Digital Mammography System．IWDM（ドイツ），2002．6．
- 3) 村木巖太郎，土橋俊男，松村善雄，岩崎 淳，菊池一朗，鈴木 健，松田 豪<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>GE 横河メディカルシステム（株）)：elliptical centric法における脂肪抑制（Spec-IR）の基礎的検討（2）．日本放射線技術学会，2002．4．
- 4) 吉田伸二郎，小林宏之，谷越雅幸，増山桂一，澤田勝利，鈴木 健：デジタルマンモグラフィにおける被曝低減への基礎的検討．日本放射線技術学会，2002．4．
- 5) 須田匡也，谷越雅幸，増山桂一，吉田伸二郎，小林宏之，大湾朝仁，鈴木 健：ドライシステムにおける経時的変化の検討．日本放射線技術学会，2002．4．
- 6) 小林宏之，谷越雅幸，増山桂一，吉田伸二郎，鈴木 健：デジタルマンモグラフィシステムのノイズ特性の比較．日本放射線技術学会東京部会，2002．5．
- 7) 谷越雅幸，小林宏之，黒田大介，鈴木 健：Full Field Digital Mammography システムにおける被曝低減の検討．日本放射線技術学会東京部会，2002．5．
- 8) 土橋俊男，松村善雄，村木巖太郎，藤田 功<sup>1)</sup>，鈴木 健（<sup>1)</sup>さいたま市立病院中央放射線科）：parallel imaging と half Fourier の比較：心電図同期2D-TOF MRA における検討．日本磁気共鳴医学会，2002．9．
- 9) 藤田 功<sup>1)</sup>，土橋俊男，三橋則行<sup>1)</sup>，打田隆夫<sup>1)</sup>，細野英雄<sup>1)</sup>，富永紳一<sup>1)</sup>，工藤 健<sup>2)</sup>，宮田知子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>さいたま市立病院中央放射線科，<sup>2)</sup>東芝メディカル（株）)：FBI における技術的問題の検討．日本磁気共鳴医学会，2002．9．
- 10) 松村善雄，土橋俊男，村木巖太郎，水谷光樹，森 克彦，鈴木 健：Parallel imaging1 と half Fourier の比較：骨盤・下肢領域における心電図同期2D TOF-MRA での検討．日本放射線技術学会，2002．10．
- 11) 櫻井 実，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>1)</sup>，斎藤晴美<sup>2)</sup>，小菅 豊，上森真理子，鳥羽正浩<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科，<sup>2)</sup>千葉北総病院中央検査室)：心電図同期SPECT を用いた経時的局所収縮能変化の解析：Wall Thickening Map の開発．日本核医学会，2002．11．
- 12) 櫻井 実，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>1)</sup>，小菅 豊（<sup>1)</sup>付属病院放射線科）：肺塞栓症における核医学検査の実際：病室での検査を中心に．関東核医学画像処理研究会，2003．3．

## [ 日本医科大学腎クリニック ]

### 研究概要

当施設は付属病院の付置医療機関として、平成9年2月に開設され、付属病院腎臓内科（内科学第2教室）が診療・教育・研究を担当している。主たる診療は外来維持透析（血液透析、腹膜透析）のほか、慢性糸球体腎炎、糖尿病性腎症など腎疾患一般の外来診療を行っている。

主な研究内容としては

1. 血液透析患者における腎性骨症の治療法の検討
2. 血液透析患者における血圧の日内変動の検討
3. 透析患者の各種降圧薬と合併症の関連についての検討
4. 透析液の清浄化と各種透析器の違いによる透析合併症の検討
5. 閉塞性動脈硬化症における炭酸浴療法の効果の検討

### 研究業績

#### 論文

(1) 綜説：

- 1) 柏木哲也<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：電解質異常治療薬の使い方。レジデントノート 2002；4(4)：81-87。
- 2) 柏木哲也<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：慢性腎不全の看護9：透析合併症。月刊ナーシング 2002；22(10)：62-67。
- 3) 松信精一<sup>1)</sup>，柏木哲也，飯野靖彦<sup>1)</sup>：V．透析患者に対するくすりの使い方：上部消化管疾患（胃・十二指腸潰瘍）。腎と透析増刊号：腎疾患治療薬マニュアル2002 2003 2002；53(増刊)：482-485。
- 4) 柏木哲也<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：IV．電解質異常に関連する腎障害へのくすりの使い方：高浸透圧症候群，低浸透圧症候群。腎と透析増刊号：腎疾患治療薬マニュアル2002 2003 2002；53(増刊)：290-295。
- 5) 松信精一<sup>1)</sup>，柏木哲也，飯野靖彦<sup>1)</sup>：外来透析導入。成人病と生活習慣病 2003；33(2)：202-206。

#### 著書

- 1) 柏木哲也<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：〔分担〕各種臓器障害とその対策：腎不全。ショックの臨床（矢崎義雄），2002；pp227-235，医薬ジャーナル社。
- 2) 斉藤サビーネ京子<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：〔分担〕第2章各種病態における輸液2) 血清電解質濃度の異常 酸塩基平衡異常。ポケット輸液マニュアル（北岡建樹），2002；pp98-108，羊土社。
- 3) 松信精一：〔分担〕第2章各種病態における輸液2) 血清電解質濃度の異常 Na代謝異常 K代謝異常。ポケット輸液マニュアル（北岡建樹），2003；pp67-79，羊土社。
- 4) 柏木哲也<sup>1)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2)：〔分担〕第1章輸液療法に必要な体液電解質の基礎知識3) 栄養・代謝の基礎知識。ポケット輸液マニュアル（北岡建樹），2003；pp33-46，羊土社。
- 5) 松信精一，柏木哲也<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>：〔分担〕A 全身の症状・症候 血清K濃度異常。外来診察のすべて（高久史磨），2003；pp128-129，メジカルビュー社。

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 河邊満彦，奥村ともみ，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：慢性維持透析患者における経時的各種血清骨マーカー

- 一の検討．日本腎臓学会学術総会，2002．5．
- 2) 岸川裕之，田畑一秀，斉藤綾子，市川匠，内海甲一，松信精一，河邊満彦，飯野靖彦：ポリエーテルスルホン膜PES-150Dの性能評価．日本透析医学会総会，2002．7．
- 3) 鈴木実子，市川匠，福永由美，森田智子，中村千瑞子，山形幸子，永田浩一，松信精一，河邊満彦，飯野靖彦：症候性低血圧予防がQOLに与える影響．日本透析医学会総会，2002．7．
- 4) 河邊満彦<sup>1)</sup>，清水光義<sup>1)</sup>，内海甲一<sup>2)</sup>，松信精一，飯野靖彦<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>佼成病院腎センター，<sup>2)</sup>内科学第2): 約1.5年間の血清骨代謝マーカー変動による検討．日本透析医学会総会，2002．7．

## [ ワクチン療法研究施設 ]

### 研究概要

当研究施設は，1972年の開設以来，丸山千里先生が開発されたSSM（人型結核菌体抽出物質：いわゆる丸山ワクチン）による癌の免疫療法を研究の中心課題としている．SSMの治験登録患者は，2003年3月31日現在，360,485名を数え，依然として多数の新規患者の紹介を受けており，新患・再来・郵送申し込みを含めると多い日には400名以上の患者を迎えている．SSMは有償治療薬という形で供給されているが，実際には治療薬として使用されていることを考慮し，主治医からの経過報告をもとに画一的使用方法に限定せず各患者について個別に使用法を検討している．この研究の結果，当初からの基本投与方法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日法からA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで，化学療法・放射線療法などの副作用軽減や一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある．SSM使用患者は，多くがSSM開始時点で進行期癌であったにも拘らず，良好な一般状態（Performance Status）を維持しつつ長期延命の報告がみられることは，SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる．

現在は，SSMの使用状況・成績についての検討・報告に加え，SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifier（BRM）としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について，特に進行期癌患者におけるQuality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から，当研究施設ならではの膨大な症例数をもとにした臨床生命表による検討，SSMの作用が有効に発揮される背景要因の検討などを行っている．また，他療法との関連やSSMの経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Iida K, Hirai T, Hashimoto H, Goto H, Nagazumi A, Sakamoto S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University): Maruyama vaccine and murine colorectal cancer. Med Postgrad 2002; 40(6): 538-543.
- 2) 飯田和美，平井和人<sup>1)</sup>，木下敏夫<sup>2)</sup>，安田洋祐<sup>2)</sup>，木谷孔保<sup>2)</sup>，塚田裕<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医学技術専門学校，<sup>2)</sup>株式会社エスアールエル健康商品事業部，<sup>3)</sup>杏林大学医学部): ザ・プロポリス経口投与による抗腫瘍作用について．医と薬学 2003；49(1): 77-83.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 高田香織<sup>1)</sup>，金森幸男<sup>1)</sup>，鈴木かやの<sup>1)</sup>，安本美奈子<sup>1)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup>，飯田和美(<sup>1)</sup>皮膚科学): haptens 特異的リンパ球によるサイトカイン産生の検討．第52回日本アレルギー学会総会，2002．11．

## 21. 第二病院付置施設等

### [ 第二病院消化器病センター ]

#### 研究概要

消化器病センターは1989年より日本医科大学付属第二病院の診療科として診療を開始し、1991年独立した診療科として運営細則が制定された。初代部長三樹 勝教授、二代目部長馬越正通教授指導のもと、消化器外科医および消化器内科医の協力にて、消化器疾患全般の診断から治療まで幅広く診療を行ってきた。1998年4月、第三代部長に森山雄吉教授が着任し、消化器外科、内科、内視鏡の各専門分野の充実が進み、臨床面だけでなく、臨床腫瘍学および消化器病学の基礎研究にも力を入れている。

研究内容：1) 消化器癌の集学的治療、2) 腸閉塞の保存的・外科的治療、3) 再建法・吻合法の工夫、4) 消化管穿孔に対する大網移植術、5) 低侵襲性手術の導入（各種腹腔鏡下手術、胸腔鏡下食道切除術）、6) 鏡視下手術の技術改良と適応拡大、7) 消化管・胆道・血管内ステント治療、8) 自己血輸血、9) 増殖因子阻害による大腸癌抑制、10) 肝細胞癌の発癌に関する研究（老人病研究施設との合同研究）、11) 胃癌、大腸癌の免疫組織化学および分子生物学的研究、12) ヘリコバクター・ピロリと上部消化管病変（胆汁逆流、微量元素との関連）、13) Laser capture microdissectionによるCGH解析法、14) 胆石、胆汁の微量元素分析、15) 食道癌放射線感受性に関する基礎研究、16) 電子内視鏡画像処理と病理組織所見との比較、17) functional dyspepsiaの病態生理、18) 血液浄化法（血漿交換、PMX）

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Watanabe M, Moriyama Y : Primary Gastric T-Cell Lymphoma without Virus Type 1 : Report of a case . Surg Today 2002 ; 32 ( 5 ) : 525-530 .
- 2) Yue Ping L<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Watanabe M, Naito Z<sup>1)</sup>, Moriyama Y, Sugizaki Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology II, Nippon Medical School ): Expression of Lumican in Human Colorectal Cancer Cells . Pathol Int 2002 ; 52 ( 5 ) : 519-526 .
- 3) Shibuya T, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Kokuma M, Shioya T, Watanabe Y, Moriyama Y, Matsumoto K<sup>2)</sup>, Yokosuka I<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Ebina General Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Second Hospital of Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Ono Hospital ): Metachronous adenocarcinoma occurring at a colostomy site after abdominoperineal resection for rectal carcinoma . J Gastroenterol 2002 ; 37 ( 1 ) : 387-390 .
- 4) Kurihara Y, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Bo H, Shimizu H<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Moriyama Y, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Biology and Pathology, institute of Gerontology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> First Department of Surgery, Nippon Medical School ): Genome-Wide Screening of Laser Capture Microdissected Gastric Signet-Ring Cell Carcinomas . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 3 ) : 235-242 .
- 5) Iwamura T, Shimizu K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery II, Nippon Medical School ): Morphological and Histochemical Characteristics of Mast cells and Content of In-tissue Histamine in Various Pathological Parathyroids : Do Mast Cells Participate in Hormone Secretion in Human Parathyroids? . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ) : 347-354 .
- 6) Minami A : Expandable Metallic Stent-Assisted Biliary Lithotripsy in patients with Billroth II Gastrectomy . Digestive Endoscopy 2003 ; 15 ( 1 ) : 48-50 .

- 7) Nagai H<sup>1)</sup>, Naka T<sup>2)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Komazaki T, Yabe A<sup>1)</sup>, Jin E<sup>1)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>, Kisimoto T<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Nakamura M<sup>3)</sup>, Kobayashi Y<sup>4)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Molecular Biology and Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Medicine III, Osaka University Medical School, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nara Medical University, <sup>4)</sup> Department of pathology, Saitama Cancer Center Hospital): Hypermethylation associated with inactivation of the SOCS-1 gene, a JAK/STAT inhibitor, in human hepatoblastoma. Journal of Human Genetics 2003; 48 (2): 65-69.
- 8) 塩谷 猛, 田中洋一<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 大倉康男<sup>2)</sup>, 関根 毅<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同臨床病理部): 肝細胞癌の縦隔リンパ節転移巣が食道内に穿破した1例. 日本消化器外科学会雑誌 2002; 35 (5): 492-496.
- (2) 総説:
- 1) 三並 敦: 重積胆管結石に対する経乳頭の治療: EST・EPD・EMS-L. 消化器内視鏡 2002; 14 (7): 1102-1108.
- 2) 三並 敦: 胆道ドレナージ (EBD): metallic stent. 消化器内視鏡 2002; 14 (9): 1402-1403.

## 著 書

- 1) 小山雅章, 藤本武利<sup>1)</sup>, 木村 健<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 平塚胃腸病院): [分担] 大腸の解剖. 大腸検査の正しいマネジメント (平塚秀雄), 2002; pp2-7, 医薬ジャーナル社.
- 2) 小原邦彦, 佐藤 健<sup>1)</sup>, 徐 健泰<sup>1)</sup>, 平塚 卓<sup>1)</sup>, 桧山 護<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 平塚胃腸病院): [分担] 大腸疾患のあらまし. 大腸検査の正しいマネジメント (平塚秀雄), 2002; pp14-27, 医薬ジャーナル.
- 3) 三並 敦: [分担] ERCP関連手技の偶発症: 穿孔例を中心に. 胆道・膵の治療内視鏡 (山中恒夫・辻 忠男), 2002; pp10-15, メジカルビュー社.
- 4) 三並 敦, 藤田力也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 癌研究会付属病院内視鏡科): [分担] 胆道 胆管鏡の現状. 今日の消化器疾患治療指針 第2版 (多賀須幸男・三田村圭二・幕内雅敏), 2002; pp102-105, 医学書院.
- 5) 渡辺昌則, 森山雄吉: [分担] 経静脈栄養から経腸栄養への移行のコツ. 治療 (特集: 総合診療医・家庭医のためのすぐに使える輸液マニュアル), 2003; pp271-272, 南山堂.
- 6) 渡辺昌則, 森山雄吉: [分担] 経腸栄養剤の選択のコツ. 治療 (特集: 総合診療医・家庭医のためのすぐに使える輸液マニュアル), 2003; pp281-282, 南山堂.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 渡辺昌則, 村上雅彦<sup>1)</sup>, 岩村太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 栗原雄司, 塩谷 猛, 内藤英二, 渋谷哲男, 草野満夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup> 昭和大学第2外科): 胸部食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の手術成績 (内視鏡手術は本当にBeneficialか?: 食道癌). 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002. 9.
- 2) 渡辺昌則, 村上雅彦<sup>1)</sup>, 岩村太郎, 吉野雅則, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 草野満夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup> 昭和大学第2外科): 食道癌占拠部位から考えた胸腔鏡下食道切除術の術式, 手術手順の工夫 (鏡視下手術どこまでできるか: 食道). 第64回日本臨床外科学会総会, 2002. 11.

### (2) ワークショップ:

- 1) 三並 敦: EMSを利用した総胆管結石治療. 第63回日本内視鏡学会総会, 2002. 4.
- 2) 吉野雅則, 渡辺昌則, 村上雅彦<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>2)</sup>, 三浦克洋, 岩村太郎, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 草野満夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉(<sup>1)</sup> 昭和大学第二外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属第二病院外科): 胸腔鏡下食道切除術への胸骨縦切開・付加的縦隔郭清の経験. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.

### (3) 一般講演:

- 1) Obara K, Tenjin T<sup>1)</sup>, Shioya T, Shibuya T, Moriyama Y (<sup>1)</sup> Nippon Medical School 2nd. Surgery): Compar-

- tive Genomic Hybridization Study in Esophageal Cancer Cell Lines with Induced High Level Chemoresistance . ISAC 2002 ( Sandiego ), 2002 . 5 .
- 2) Matsuda N<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Akimoto K<sup>1)</sup>, Matukura N<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Yoshimura S<sup>1)</sup>, Kawano S<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Moriyama Y, Naito Z<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> Department of Surgery I, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology II ): Effect of Hyperbaric Oxygen on Liver Regeneration After Minor and Major hepatectomies on impaired Liver with Carbon . XIV th International Congress on Hyperbaric Medicine , 2002 . 10 .
  - 3) Mizutani S, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Natori J<sup>1)</sup>, Mori Y<sup>1)</sup>, Hirota A<sup>1)</sup>, Maruyama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Ebina General Hospital ): Three operative case of obturator hernia . 18th world congress of digestive surgery ( Hong Kong ), 2002 . 12 .
  - 4) 塩谷 猛, 渡辺昌則, 小熊將之, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部 ): 胃癌における Dihydropyrimidine dehydrogenase ( DPD ) 発現の検討 . 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002 . 4 .
  - 5) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2 ): アンチセンスオリゴを用いた mRNA レベルでの線維芽細胞増殖因子阻害による大腸癌増殖制御の可能性 . 第102回日本外科学会総会, 2002 . 4 .
  - 6) 渋谷哲男, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛, 小熊將之, 森山雄吉, 松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院, <sup>2)</sup>日本医科大学第二病院病理部 ): 大腸癌における nm23 の発現, p53-LOH, DCC-LOH および replication error ( RER ) の検討 . 第102回日本外科学会総会, 2002 . 4 .
  - 7) 水谷 聡, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 森 康昭<sup>1)</sup>, 広田 淳<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>海老名総合病院外科 ): 最近経験した閉鎖孔ヘルニアの3例 . 第27回日本外科系連合学会総会, 2002 . 6 .
  - 8) 渡辺昌則, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉野雅則, 小峯 修, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2 ): mRNA レベルでの線維芽細胞増殖因子阻害による大腸癌増殖制御の可能性 . 第57回日本消化器外科学会総会, 2002 . 7 .
  - 9) 紅葉 良, 塩谷 猛, 小原邦彦, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 森山雄吉, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>外科学第2 ): 食道癌による食道気管瘻, 気管狭窄に対する double stents の経験 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 10) 松信哲朗, 渡辺昌則, 村上雅彦<sup>1)</sup>, 小泉正樹, 内藤英二, 渋谷哲男, 日置正文<sup>2)</sup>, 草野満夫<sup>1)</sup>, 森山雄吉 (<sup>1)</sup>昭和大学第二外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属第二病院外科 ): 同時性三重複癌に対する鏡視下手術の1例 . 第15回日本内視鏡外科学会総会, 2002 . 9 .
  - 11) 駒崎敏昭, 森山雄吉, 永井尚生<sup>1)</sup>, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 金 恩京<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>外科第1, <sup>3)</sup>老人病研究所病理部 ): ヒト膵臓癌における JAK/STAT 系の抑制因子異常 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 12) 永井尚生<sup>1)</sup>, 矢部 彩<sup>1)</sup>, 岩崎公典<sup>1)</sup>, 長幡武光<sup>1)</sup>, 音田正光<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 森山雄吉, 寺田淑恵<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2)</sup>外科第1 ): 遺伝子発現から見た肝癌の分子病態像 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 13) 矢部 彩<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 峰 伸也<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 宮崎久美<sup>1)</sup>, 藤原博道<sup>1)</sup>, 横田隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学部門 ): TOC ( tylosis with oesophageal cancer ) 領域における原因遺伝子としての DEAD Healicase 遺伝子単離 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
  - 14) 小原邦彦, 藤本武利<sup>1)</sup>, 佐藤 健<sup>1)</sup>, 檜山 護<sup>1)</sup>, 煎本正博<sup>1)</sup>, 加藤 洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>平塚胃腸病院, <sup>2)</sup>癌研究会付属病院病理部 ): 膵腺扁平上皮癌の1例 . 第14回日本超音波学会関東甲信越地方会, 2002 . 9 .
  - 15) 小原邦彦, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 吉野雅則, 小熊將之, 渋谷哲男, 森山雄吉: 当科における大腸癌穿孔症例の検討 . 第57回日本大腸肛門病学会総会, 2002 . 10 .
  - 16) 三並 敦: 採石困難症例への EMS-Lithotripsy . 第64回消化器日本内視鏡学会総会, 2002 . 10 .
  - 17) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 増田剛太郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科第1 ): 創傷治癒に対する高気圧酸素治療: 自験データと Evidence の解析 . 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002 . 11 .

- 18) 松田範子<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 吉村成子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 外科第1, <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 障害肝切除量の差による残肝再生の比較と高圧酸素療法の影響. 第37回日本高気圧環境医学会総会, 2002. 11.
- 19) 松信哲朗, 渡辺昌則, 三浦克洋, 小泉正樹, 栗原雄司, 岩村太郎, 塩谷 猛, 尾形昌男, 内藤英二, 小熊将之, 渋谷哲男, 森山雄吉: 胃癌TS-1投与症例の検討. 第23回神奈川胃癌治療研究会, 2002. 12.
- 20) 永井信也, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 鈴木 操<sup>2)</sup>, 森 隆<sup>3)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup> 熊本大学動物資源開発センター, <sup>3)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター ): 改良型アポトーシス抑制因子FNKによる肝虚血再灌流における細胞死の抑制. 第25回日本分子生物学会年会, 2002. 12.
- 21) 永井信也, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 鈴木 操<sup>2)</sup>, 森 隆<sup>3)</sup>, 麻生定光<sup>1)</sup>, 森山雄吉, 太田成男<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup> 熊本大学動物資源開発研究センター, <sup>3)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター ): ミトコンドリアを標的としたスーパーアポトーシス抑制因子FNK蛋白投与による肝虚血再灌流における細胞死の抑制. 第2回ミトコンドリア研究会年会, 2002. 12.
- 22) 南部弘太郎, 西村洋治<sup>1)</sup>, 小林照忠<sup>1)</sup>, 伊藤嘉智<sup>1)</sup>, 渡部裕志<sup>1)</sup>, 飯塚昌志<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 竹下勇太郎<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西田一典<sup>2)</sup>, 黒住昌史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター腹部外科, <sup>2)</sup> 同病理科 ): S状結腸間膜に発生した悪性神経鞘腫の1例. 第787回外科集談会, 2002. 12.
- 23) 尾崎卓司, 渋谷哲男, 松信哲朗, 小峯 修, 渡辺昌則, 内藤英二, 小熊将之, 松本光司<sup>1)</sup>, 森山雄吉 ( <sup>1)</sup> 第二病院病理部 ): 日本住血吸虫症を伴った大腸癌の1例. 第788回外科集談会, 2003. 3.

(4) Plenary Session :

- 1) Watanabe M, Murakami M<sup>1)</sup>, Iwamura T, Shioya T, Shibuya T, Kusano M<sup>1)</sup>, Moriyama Y ( <sup>1)</sup> Department of Second Surgery, Showa University ): Video Assisted Thoracoscopic Esophagectomy with Radical Lymphadenectomy for Esophageal Cancer . The 19th Congress of Pan-Pacific Surgical Association ( Hawaii ), 2002. 10.

(5) Video Session :

- 1) Watanabe M, Masuda S<sup>1)</sup>, Iwamura T, Shioya T, Hioki M<sup>1)</sup>, Shibuya T, Moriyama Y ( <sup>1)</sup> Department of Surgery Second Hospital Nippon Medical School ): Thoracoscopic Esophagectomy with Upper Median Sternotomy for Esophageal Cancer . The 6th Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia( Tokyo ), 2002. 9.

## [ 第二病院リハビリテーションセンター ]

### 研究概要

リハビリテーション科では、脳外科、神経内科、整形外科、小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり、患者層は多彩であるとともに、スタッフも医師をはじめ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、看護師といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている。研究面にもこのことが反映され、各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている。

リハ医学の基礎的な分野では、主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ、またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている。

理学療法・作業療法分野では、高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている。言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソーシャルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説:

- 1) 竹内孝仁: 高齢者の健康と生活を改善. 介護予防に期待が高まるパワーリハビリテーション. おはよう21 2002; (6): 4-7.
- 2) 竹内孝仁: 高齢社会にパワーを. 介護保険情報 2002; (5): 6-9.
- 3) 竹内孝仁: パワーリハビリテーションの威力: 「活動力」を回復させ「行動変容」促進 財政危ぶまれる介護保険を救う切り札に. ばんぼう 2002; (5): 130-133.
- 4) 宇野 彰<sup>1)</sup>, 新貝尚子, 狐塚順子<sup>2)</sup>, 坂本和哉, 春原則子<sup>3)</sup>, 金子真人<sup>4)</sup>, 加我牧子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立精神・神経センター精神保健研究所, <sup>2)</sup>埼玉県立小児医療センター保健発達部, <sup>3)</sup>東京都済生会中央病院リハビリテーション科, <sup>4)</sup>都立大塚病院リハビリテーション科): 大脳可塑性と側性化の時期: 小児失語症からの検討. 音声言語医学 2002; 43(2): 207-212.
- 5) 穠山尚子: 脳血管障害でみられる言語障害. 総合脳神経ケア サポートブック 2002; 17-19.
- 6) 穠山尚子: 構音障害の特徴とケア. 総合脳神経ケア 2002; 1(1): 31-36.
- 7) 竹内孝仁: 総論 福祉サービスの「質」の構造. 経営協 2002; (4): 5-7.
- 8) 竹内孝仁: 遊ビリテーション, そして福祉レクリエーションの現在と課題. 月刊総合ケア 2002; 12(6): 42-45.
- 9) 竹内孝仁: パワーリハビリテーションの実践: パワーリハビリテーションをめざす活動的な日常生活への行動変容. GPネット 2002; (6): 20-23.
- 10) 竹内孝仁: (6) 痴呆性高齢者のリハビリテーション. 介護老人保健施設職員ハンドブック2002年度 2002; 150-152.
- 11) 木村義徳: 高齢社会にパワーを. 介護保険情報 2002; (5): 16-22.
- 12) 竹内孝仁: 医師はコミュニティケアの門番になれ! Home Care Medicine 2002; (6): 50-51.
- 13) 竹内孝仁: ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程 第3巻 第8章 第3節 リハビリテーション医療の基礎知識.(財)長寿社会開発センター 2002; 203-239.
- 14) 竹内孝仁: 座談会 保健・医療・福祉の連携を促進するもの. ジェロントロジーニューホライズン 2002; 14(3): 8-14.
- 15) 竹内孝仁: パワーリハビリテーション: 介護予防・自立支援のための新しい手法. 月刊総合ケア 2002; 12(7): 64-67.
- 16) 穠山尚子: 失語症の特徴とケア. 総合脳神経ケア 2002; 1(2): 30-35.
- 17) 竹内孝仁: 介護保険の理念と財政基盤を揺るがす待機者問題. 介護保険情報 2002; (7): 8-11.
- 18) 竹内孝仁: パワーリハビリテーション. 整形外科のMarketing & Management 2002; 1(2): 2-4.
- 19) 竹内孝仁: パワーリハビリテーション: 活動性の向上と高齢者の行動変容をめざして. 月刊総合ケア 2002; 12(8): 64-66.
- 20) 竹内孝仁: パワーリハビリテーションとその効果. Home Care Medicine 2002; (8): 52-53.
- 21) 竹内孝仁: 上手に利用しよう! 介護保険. 月刊寿 2002; (9): 36-41.
- 22) 竹内孝仁: パワーリハビリテーションの動作学. 月刊総合ケア 2002; 12(9): 64-67.
- 23) 穠山尚子: 異常の発見と障害の評価方法. 総合脳神経ケア 2002; 1(3): 25-33.
- 24) 竹内孝仁: ケアマネジャーの質の向上のために. Home Care Medicine 2002; (9): 58-60.
- 25) 竹内孝仁: 特養待機者問題を考える. 介護保険情報 2002; (10): 24-28.
- 26) 木村義徳: 虚弱高齢者の体力トレーニングの効果と課題. 理学療法 2002; 19(9): 1012-1017.
- 27) 木村義徳: トレーニングプログラムの基礎理論. パワーリハビリテーションNo 1 2002; 37-42.



- 28) 木村義徳：川崎市におけるパワーリハビリテーション．パワーリハビリテーションNo 1 2002；104-109．
- 29) 竹内孝仁：介護保険制度をいかに育てるか：英国コミュニティケアの定点観測から．Home Care Medicine 2002；(10)：54-56．
- 30) 竹内孝仁：虚弱高齢者の健康増進に対する新しい戦略：パワーリハビリテーション．理学療法 2002；19(9)：979-983．
- 31) 竹内孝仁：ケアマネジャー業務は標準化できるか？月刊介護保険 2002；(11)：26-27．
- 32) 竹内孝仁：日本の福祉システムの将来を考える(最終回)：英国コミュニティケアの定点観測から．Home Care Medicine 2002；(11)：54-56．
- 33) 穠山尚子：言語障害のリハビリテーション．総合脳神経ケア 2002；1(4)：34-38．
- 34) 竹内孝仁：介護保険の救世主になるか「パワーリハビリテーション」：川崎市の介護予防事業の実績．介護保険情報 2002；(11)：20-23．
- 35) 竹内孝仁：特養待機者問題を考える．介護保険情報 2002；(11)：50-54．
- 36) 竹内孝仁：パワーリハビリテーションという考え方：筋力というより「動作性」の改善．月刊スポーツメディスン 2002；(11)：10-13．
- 37) 竹内孝仁：今までのリハとはこんなに違う！パワーリハ．月刊ナースデータ 2002；23(12)：29-31．
- 38) 竹内孝仁：パワーリハビリテーション．ふれあいネット 2002；(12)：30-31．
- 39) 木村義徳：パワーリハビリテーションの進めかた．月刊総合ケア 2002；12(11)：68-71．
- 40) 竹内孝仁：パワーリハビリテーション．老健 2002；(12)：36-39．
- 41) 竹内孝仁：要介護者のADL向上にパワーリハビリテーションを生かす．月刊ケアマネジメント 2002；(12)：24-25．
- 42) 竹内孝仁：根拠のある介護を目指して．高齢者ケア 2002；6(4)：105-109．
- 43) 竹内孝仁：特養待機者問題を考える：最終回．介護保険情報 2002；(12)：38-42．
- 44) 竹内孝仁：在宅生活におけるサポート．総合臨床 2002；51(12)：3155-3160．
- 45) 木村義徳：パワーリハビリテーションの進めかた．月刊総合ケア 2002；12(12)：63-67．
- 46) 穠山尚子：看護のかかわりでADLが改善され在宅復帰できた重度失語症患者．総合脳神経ケア 2002；1(5)：19-24．
- 47) 竹内孝仁：介護保険3年：見えてきた課題．月刊総合ケア 2003；13(2)：6-13．
- 48) 宮田光明：川崎市におけるパワーリハビリテーションの試み．月刊総合ケア 2003；13(1)：64-67．
- 49) 竹内孝仁：パワーリハビリテーションの考え方．理学療法ジャーナル 2003；37(2)：148-155．
- 50) 竹内孝仁：高齢者の転倒，閉じこもりの問題点．Home Care Medicine 2003；(3)：6-8．
- 51) 竹内孝仁：パワーリハビリテーションの基礎理論．月刊福祉環境 2003；19-23．
- 52) 穠山尚子：多方面からのアプローチで精神的安定が得られた失語症患者．総合脳神経ケア 2003；1(6)：19-23．
- 53) 竹内孝仁：寝たきりや痴呆を予防する社会的関係性そしてレクリエーション．イキイキ音楽療法のしごと場 2003；2：52-53．
- 54) 竹内孝仁：パワーリハビリテーション：高齢者のパワーを引き出す．ブレインナーシング 2003；19(4)：79-79．
- 55) 竹内孝仁：介護予防の理念と介護予防事業．歯界展望 2003；101(4)：844-848．
- 56) 竹内孝仁：介護保険でのケアマネジメントの成果と課題．月刊ケアマネジメント 2003；14(4)：12-15．

(2) 研究報告書：

- 1) 川口祥子<sup>1)</sup>，竹内孝仁，穠山尚子，長田優香，大矢亜野<sup>(1)</sup> 国立療養所東宇都宮病院神経内科)：橋被蓋部出血により両側方注視麻痺，垂直方向性眼振，体幹・左上下肢失調を呈した症例のリハビリテーション経験．リハビリテーション医学 2002；39(5)：pp245-248．

## 著 書

- 1) 竹内孝仁：〔監修〕新編老人介護の安心百科．新編老人介護の安心百科，2002；主婦と生活社．
- 2) 竹内孝仁：〔監修〕ホームヘルプガイドQ & A．ホームヘルプガイドQ & A，2002；医歯薬出版．
- 3) 竹内孝仁：〔分担〕介護相談員養成テキスト．介護相談員養成テキスト，2002；介護相談・地域づくり連絡会．
- 4) 竹内孝仁：〔分担〕老年医学テキスト〔改訂版〕．老年医学テキスト〔改訂版〕，2002；日本老年医学会．
- 5) 竹内孝仁：〔分担〕生活援助員等業務ハンドブック．生活援助員等業務ハンドブック，2003；財団法人高齢者住宅財団．
- 6) 竹内孝仁：〔共著〕リハビリテーション論．新版介護福祉士養成講座，2003；中央法規．
- 7) 竹内孝仁：〔共著〕リハビリテーション医学白書．リハビリテーション医学白書（日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション医学白書委員会），2003；医学書院．
- 8) 穂山尚子：〔分担〕褥瘡処置法・ストーマケア法．新・図解日常診療手技ガイド：縮刷版，2003；pp685-691，分光堂．

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 堀切頼子，望月秀樹，熊耳さやか，竹内孝仁：訓練後の効果判定に及ぼす初期評価の影響：Trail Making Testを用いての検討．第36回日本作業療法学会，2002．6．
- 2) 宮田光明，木村義徳，丸山玲子，榎本雪絵，井上直子，竹内孝仁：外科的手術後経過不良患者への運動負荷の検討（low intensity）での運動療法の検討．第37回理学療法士学術集会，2002．7．
- 3) 井上直子，榎本雪絵，木村義徳，宮田光明，丸山玲子，竹内孝仁：川崎市川崎区におけるA型機能訓練事業参加の現状調査及びQOL評価．第37回理学療法士学術集会，2002．7．
- 4) 宮田光明，木村義徳，井上直子，榎本雪絵，丸山玲子，竹内孝仁：川崎市におけるパワーリハの結果報告と今後の取り組み．第2回パワーリハビリテーション学術大会，2003．1．
- 5) 丸山玲子，木村義徳，宮田光明，井上直子，榎本雪絵，竹内孝仁：パーキンソン病に対するパワーリハビリテーションの効果．第2回パワーリハビリテーション学術大会，2003．1．
- 6) 井上直子，木村義徳，宮田光明，榎本雪絵，丸山玲子，竹内孝仁：パワーリハにおける準備運動，マシン負荷時の運動負荷量に対する結果．第2回パワーリハビリテーション学術大会，2003．1．
- 7) 榎本雪絵，木村義徳，宮田光明，井上直子，丸山玲子，竹内孝仁：パワーリハビリテーション施行後のQOLの変化について．第2回パワーリハビリテーション学術大会，2003．1．
- 8) 堀切頼子，望月秀樹，西田有紀子，竹内孝仁：パワーリハビリテーション施行におけるTrail Making Testを用いての意義．第2回パワーリハビリテーション学術大会，2003．1．

## [ 第二病院病理部 ]

### 研究概要

これまでと同様に外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断難解例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体であり，症例報告あるいは症例解析などの学会発表および論文報告を毎年コンスタントに行っている．平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが，リアルタイムに患者の既往歴を検索出来ると同時に，各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易であることから，臨床科の依頼に沿った疾患の統計学的な解析も行っている．スタッフ（医師1名，技師5名）の少ない当病理部としては，各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが，各スタッフの得意分野（肝臓病理および臓器移植の病理，細胞診断）から徐々に研究を発展させて行きたいと考えてい

る。また、これまでの年報でも述べたが、平成5年より続けている群馬大学との共同研究（1）臓器移植の際の保存再灌流障害（肺、肝臓、小腸、心臓）に関する研究、（2）NHBD（non-heart beating donor）からの臓器移植に関する研究は、一昨年、昨年に引き続き国内外で高い評価を得たが、今年度は「臓器の虚血再灌流障害：基礎と臨床」として一つの区切りをつけた。現在これらの研究に対し、さらに課題を発展させ実験を継続中である。その他、平成7年より慶応大学医学部で、平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的な検討に関する共同研究は、平成12年より本学、昨年より自治医科大学も加わり継続して行っている。本学の生体肝移植も徐々に軌道に乗ってきた感があり、これからも付属病院病理部と共同し臨床病理学的な検討を続けて行きたいと考えている。

## 研究業績

### 論文

#### （1）原著：

- 1) Hashimoto N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Daisuke Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Tokumine M, Totsuka O<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Effects of a p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor as an additive to Euro-Collins solution on reperfusion injury in canine lung transplantation . *Transplantation* 2002 ; 74 ( 4 ): 320-326 .
- 2) Mohara J<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): The optimal pressure for initial flush with UW solution in heart procurement . *J Heart Lung Transplant* 2002 ; 21 ( 4 ): 383-390 .
- 3) Ohwada S<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Aiba M<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Advantages of Celsior solution in graft preservation from non-heart-beating donors in a canine liver transplantation model . *J Surg Res* 2002 ; 102 ( 4 ): 71-76 .
- 4) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawashima Y<sup>1)</sup>, Tomizawa N<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): 99mTc-labeled human serum albumin scintigraphy for the diagnosis of pulmonary edema . *Int J Surg Invest* 2002 ; 3 ( 4 ): 193-203 .
- 5) Mohara J<sup>1)</sup>, Oshima K<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Aizaki M<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Is the UW solution adequate as an initial flush solution for heart procurement? A comparative study of Celsior and UW solutions . *Int J Angiol* 2002 ; 11 ( 5 ): 150-152 .
- 6) Shibuya T<sup>1)</sup>, Uchiyama K<sup>2)</sup>, Kokuma M<sup>1)</sup>, Shioya T<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Yokosuka I<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>海老名総合病院 ): Metachronous adenocarcinoma occurring at a colostomy site after abdominoperineal resection for rectal carcinoma . *J Gastroenterol* 2002 ; 37 ( 6 ): 387-390 .
- 7) Matsumoto K, Yamamoto T : Pleomorphic hyalinizing angiectatic tumor of soft parts : A case report and literature review . *Pathol Int* 2002 ; 52 ( 9 ): 664-668 .
- 8) Hashimoto N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Yokoe T<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): Effects of a bradykinin B ( 2 ) receptor antagonist, FR173657, on pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs . *J Heart Lung Transplant* 2002 ; 21 ( 10 ): 1022-1029 .
- 9) Sunose Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawata K<sup>1)</sup>, Iwazaki S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Ohwada S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学 ): The effect of FR167653 in a canine total hepatic vascular exclusion model . *Hepatogastroenterol* 2003 ; 50 ( 2 ): 161-164 .
- 10) Kanazawa R<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第二病院脳神経外科 ): Os-

teosarcoma arising from the skull . Neurol Med Chir 2003 ; 43 ( 2 ) : 88-91 .

( 2 ) 綜説 :

- 1) 松本光司, 井藤久雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>鳥取大学医学部第一病理学): 特異な胆管炎の病理: 主として肝内胆管における . 病理と臨床 2003 ; 21 ( 1 ) : 55-61 .
- 2) 松本光司: 臓器移植の病理: 肝臓移植 . 移植 2003 ; 38 ( 1 ) : 24-35 .

著 書

- 1) 松本光司: [ 分担 ] 虚血再灌流障害の病理 . 臓器の虚血再灌流障害: 基礎と臨床 ( 森下靖雄 ), 2002 ; pp70-88 , 診断と治療社 .

学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 肺移植時に保存液へ p38 MAPK 阻害剤を添加した場合の保護効果 . 第 18 回日本肺および心肺移植研究会, 2002 . 1 .
- 2) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): Non-heart-beating donor からの心臓移植: 群馬大学式冠灌流装置を用いた低圧持続冠灌流の効果 . 第 6 回群馬臓器障害研究会, 2002 . 1 .
- 3) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナーからの心臓移植実験 . 第 20 回日本心臓移植研究会学術集会, 2002 . 2 .
- 4) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナーからの同所性心臓移植実験 . 第 32 回日本心臓血管外科学会, 2002 . 2 .

( 1 ) 一般講演 :

- 1) Hashimoto N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Otani Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Tokumine M<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): A bradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonist ameliorates pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs . 7th congress of the Asian society of transplantation ( New Delhi ), 2002 . 3 .
- 2) Otani Y<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): The effects of a selective cyclooxygenase-2 inhibitor on ischemia-reperfusion injury in the rat lung . 6th congress of the Asian society of Transplantation ( New Delhi ), 2002 . 3 .
- 3) Tomizawa N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Sunose Y<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Kawate S<sup>1)</sup>, Tanaka T<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Oriuchi N<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): A new radiological examination for the diagnosis of pulmonary edema : 99m Tc-HAS scintigraphy . 7th congress of the Asian society of Transplantation ( New Delhi ), 2002 . 3 .
- 4) Hashimoto N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Yoshinari D<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Tokumine H<sup>1)</sup>, Totsuka O<sup>1)</sup>, Ohwada S<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): Effects of FR167653, a p38 mitogen-activated protein kinase inhibitor, as an additive to Euro-Collins solution on reperfusion injury in canine lung transplantation . 22nd annual meeting and scientific sessions of international society for heart and lung transplantation ( Washington, DC ), 2002 . 4 .
- 5) Koike N<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Ohki S<sup>1)</sup>, Tsutsumi H<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Morishita Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外

- 科学): The effect of short-term coronary perfusion using a perfusion apparatus on canine heart transplantation from non-heart-beating donors. ISHLT 2002 Annual Meeting (Washington, DC), 2002. 4.
- 6) 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): Non-heart-beating donorからの心臓移植におけるFR167653の効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 7) 川田 清<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 小腸の虚血再灌流傷害に対するCyclooxygenase-2拮抗剤(FK3311)の効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 8) 倉林 誠<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 矢端義弘<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): ラット肝温阻血再灌流傷害におけるNO donorの効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 9) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナーからの同所性心移植実験: 短時間低圧持続冠灌流保存の有効性について. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 10) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 織内 登<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 選択的なcyclooxygenase-2抑制による肺虚血再灌流傷害の軽減について. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 11) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 田中俊行<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬肺の虚血再灌流傷害に対するbradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonist (FR173657)の効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 12) 堤 裕史<sup>1)</sup>, 茂原 淳<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心移植における心筋虚血再灌流傷害に対するcyclooxygenase 2抑制の効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 13) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 田中俊行<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 拡大肝切除を伴う肝虚血再灌流傷害におけるBradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonistの効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 14) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 犬の肺温阻血再灌流傷害および同所性肺移植モデルにおけるbradykinin B<sub>2</sub>受容体拮抗剤の効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 15) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 肺移植時の再灌流傷害に対するp38 mitogen-activated protein kinase阻害剤のEuro-Collins液への添加剤としての効果. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 16) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小熊將之<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 胃癌におけるDihydropyrimidine dehydrogenase (DPD)発現の検討. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 17) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小熊將之<sup>1)</sup>, 岩村太郎<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 大腸癌におけるnm23の発現, p53-LOH, DCC-LOHおよびreplication error (RER)の検討. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002. 4.
- 18) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 群馬大学式冠灌流装置を用いた心停止ドナーからの心移植実験. 第9回日本臓器保存生物医学学会総会, 2002. 5.
- 19) 齋藤良明, 太田吉男, 長澤由英, 大庭孝男, 大塚俊司, 松本光司, 山本泰一: 子宮頸部に発生した悪性リンパ種. 第43回日本臨床細胞学会総会, 2002. 5.
- 20) 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 岩崎 茂<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 田中俊行<sup>1)</sup>, 松本光

- 司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 選択的な cyclooxygenase-2 抑制による肝虚血再灌流傷害に対する軽減効果について. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 21) 荒川和久<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 松本光司, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 小腸の虚血再灌流障害に対する Bradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonist の効果. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002. 7.
- 22) 橋本直樹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 肺移植時の再灌流傷害に対する p38 mitogen-activated protein kinase 阻害剤の Euro-Collins 液への添加剤としての効果. 第49回北関東医学会総会, 2002. 9.
- 23) 戸塚 統<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 堤 裕史<sup>1)</sup>, 橋本直樹<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手進<sup>1)</sup>, 田中俊行<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 拡大肝切除を伴う肝虚血再灌流傷害における Bradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonist の効果. 第38回日本移植学会, 2002. 10.
- 24) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心停止ドナーからの心臓移植における FR167653 添加保存液の心筋保護効果. 第38回日本移植学会総会, 2002. 10.
- 25) 倉林 誠<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 矢端義弘<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 田中俊行<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 松本光司, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): ラット肝温阻血再灌流傷害における NO donor の効果. 第37回日本移植学会総会, 2002. 10.
- 26) 大木 茂<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小池則匡<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 常温体外循環開心術におけるエンドトキシン吸着の有用性. 第38回日本移植学会総会, 2002. 10.
- 27) 荒川和久<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 戸塚 統<sup>1)</sup>, 赤尾敬彦<sup>1)</sup>, 村岡正人<sup>1)</sup>, 松本光司, 大和田進<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 小腸の虚血再灌流障害に対する Bradykinin B<sub>2</sub> receptor antagonist の効果. 第38回日本移植学会総会, 2002. 10.
- 28) 朴 英智<sup>1)</sup>, 井上幹也<sup>1)</sup>, 君塚 圭<sup>1)</sup>, 藤崎 滋<sup>1)</sup>, 腰永従道<sup>1)</sup>, 柴田昌彦<sup>1)</sup>, 富田涼一<sup>1)</sup>, 松本光司, 福澤正洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本大学医学部第一外科学): 腸管不全症例の長期 TPN 管理下における肝機能障害と interleukin-18 の関与. 第37回日本移植学会総会, 2002. 10.
- 29) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 小林光伸<sup>1)</sup>, 吉成大介<sup>1)</sup>, 倉林 誠<sup>1)</sup>, 須納瀬豊<sup>1)</sup>, 濱田邦弘<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 川手 進<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 肝虚血再灌流傷害に対する MAP kinase 抑制の効果. 第29回低温医学会総会, 2002. 11.
- 30) 小池則匡<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大木 茂<sup>1)</sup>, 徳峰雅彦<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>群馬大学医学部第二外科学): 心停止ドナーからの心臓移植における p38 MAPK 阻害剤添加保存液の心筋保護効果. 第20回群馬移植研究会, 2002. 11.
- 31) 太田吉男, 大庭孝男, 大塚俊司, 斎藤良明, 長澤由英, 松本光司, 山本泰一: 胸水中に腫瘍細胞の出現したリンパ管肉腫の1例. 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002. 11.
- 32) 齋藤 恵<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 可世木久幸<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 長澤由英, 太田吉男, 松本光司(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門): 細胞診, 組織診にて卵管癌を強く疑わせた1例. 第41回日本臨床細胞学会秋期大会, 2002. 11.
- 33) 遠藤直哉<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>1)</sup>, 宅島美奈<sup>1)</sup>, 川村 純<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 松本光司, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>付属病院第二外科): Fibromuscular dysplasia による左総腸骨動脈瘤破裂の1症例. 第10回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2002. 11.

## [ 第二病院中央検査室 ]

### 研究概要

診療保険点数（検査実施料）の大幅な削減により、日常検査の処理（依頼）件数が着実に増加しているにも拘らず収益性が低下している状況である。これを踏まえ、あらゆる検査コスト低減の一環として、現行の各種検査法および測定機器の見直しと改善を、昨年度から引き続き検討してきた。特に感染症関連の検査では、新規法、改良法ともに進展が目覚しく、核酸増幅法などの最先端技術についても積極的に検討を重ねた結果、日常業務への導入を実現し迅速対応も可能となった。

今後においても、正確さと迅速性への追求を継続しつつ、より簡便で効率の良い診療支援体制を構築できるよう、検査室一丸となって研鑽を積み重ねていきたい。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木憲康, 坂倉剛志, 野本恵子：当院におけるフルオロキノロン耐性淋菌の検出状況。第51回日本医学検査学会, 2002. 5.
- 2) 越谷美由紀, 西島美輝子, 山賀節子, 隠岐和美, 鈴木久美, 荒井誠一, 渡部紀子, 高久貴子, 新宅孝征, 松岡和彦：第二病院職員におけるABI, baPWV測定報告（第1報）。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 3) 津金香代子, 浅井逸子, 森本 進, 新宅孝征, 松岡和彦：全自動化学発光酵素免疫測定法によるHBeAg, HBeAb, HBe抗体, およびHBe抗体IgMの基礎的検討。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 4) 坂倉剛志, 鈴木憲康, 野本恵子, 新宅孝征, 松岡和彦：第二病院における過去4年間の抗酸菌, PCR法の検出状況。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 5) 井上雅則, 井梅和美, 花出 豊, 新宅孝征, 松岡和彦, 島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科)：第二病院における輸血業務システム化の提案。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 6) 臼井一城, 成定昌昭, 吉岡美香, 井出尚子, 中島由美子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦：MDA-180による血漿FDP測定に関する基礎的検討（第2報）。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 7) 因泥弘之, 小伊藤保雄, 吉田美和, 新宅孝征, 松岡和彦：遺伝子Ligase Chain Reaction (LCR法)を用いたChlamydia trachomatis検出検討。第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

## [ 第二病院薬剤科 ]

### 研究概要

院外処方せんの発行が段階的に実施された今年度は、外来 - 入院により患者への薬の情報元が異なる状況となった。今年度も「適正な薬物療法の実践のため、病院薬剤師が医療の中で何をしなければならぬか」を引き続きのテーマとした。外来の患者に対しては、生命に関わる疾患の代表として糖尿病に対する、患者の意識調査を行い「何が必要な情報であるか」を、また、病棟担当薬剤師が多数活躍していた時代と現在とでの病棟におけるメディカルスタッフが、「適正使用のための情報」の内容、件数、問い合わせ先などに変化があったか業務比較調査を報告した。さらに、県病院薬剤師会レベルでの「高齢者における薬物の適正使用調査」を報告した。これら、医療環境の中で病院薬剤師に求められているニーズに応えるべく研究を行った。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) セミナー：

- 1) 小坂好男：医薬品情報の実際．平成15年度神奈川県病院薬剤師会病院診療所薬局実務者講習会，2003．2．

#### (2) 一般講演：

- 1) 島田慰彦，坂田 穰<sup>1)</sup>，田中恒明<sup>2)</sup>，津村広行<sup>3)</sup>，牧島絹子<sup>4)</sup>，藤本 康<sup>5)</sup>，渡邊義久<sup>6)</sup>，増原慶壮<sup>7)</sup>，土田節男<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup>昭和大学藤が丘病院，<sup>2)</sup>済生会横浜南部病院，<sup>3)</sup>済生会神奈川病院，<sup>4)</sup>東海大学大磯病院，<sup>5)</sup>横浜新緑病院，<sup>6)</sup>横浜労災病院，<sup>7)</sup>聖マリアンナ医大病院，<sup>8)</sup>けいゆう病院 )：神奈川県内の高齢者に対するセフカペンピボキシルの適正使用調査 ( 神奈川県病院薬剤師会医薬品適正使用委員会報告II )．第32回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会，2002．8．
- 2) 野口周作，渋谷正則，島田慰彦，森田秋夫，菊池有道：糖尿病患者の低血糖症状と対処法に関するアンケート．第12回日本医療薬学会年会，2002．10．
- 3) 小坂好男，佐藤数馬，堀田多嘉江，若城由美子，菊池有道：患者QOLへの薬剤師の関わり ( 第IX報 )：医薬品の適正使用のための後方支援．第12回日本医療薬学会年会，2002．10．

## [ 第二病院看護部 ]

### 研究概要

1. 医療の場の安全性について，特に救急看護領域で発生しやすいインシデント，アクシデントについて都内5大学病院を対象にアンケート調査を行い，その要因について分析した．
2. ナースステーション内で日中車椅子で過ごす脳外科患者と看護師の関わりについて，参加観察，アンケート調査を行い関わりの有効性を見出した．
3. 父性意識調査第1報 妊婦健診時夫の付き添いで来院するケースに対し，夫自身が何を知りたいのか．また，子育てについて積極的に参加しようとするものは何かについて調査．
4. 父性意識調査第2報 父親教室や夫立会い分娩に対しどのように考えているのかを調査．
5. 子育て支援の一環として，病棟に相談用電話を設置．相談内容と指導内容について研究．
6. 切迫流産の患者が大部屋という環境の中で，どのようなストレスがあり，どのように対処しているのか，また看護師の関わり方について調査．
7. 母乳分泌不全の母親に対し，母乳分泌増進にアロマ ( エッセンシャルオイル：レモン，レモングラス ) を導入し，育児支援を行ったケースについて．
8. 大学病院における子育て支援の問題点について，どのように指導し，解決しているか．

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 小河原美代子：〔分担〕大学病院における子育て支援．周産期医学 2002 Vol. 32 増刊号，2002；pp298-302，東洋医学社．

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 田口吉子：救急看護の質保証におけるリスクマネジメント．第4回日本救急看護学会学術集会，2002．11．

##### (2) ワークショップ：

- 1) 小河原美代子：大学病院における子育て支援 ( 地域の子育てを支えあうために )．日本チャイルド・ケア・ネット



トワーク・オープン講座，2002．8．

(3) 一般講演：

- 1) 山根梨加，相馬照美，大沢いずみ，小河原美代子，横尾香代子：妊婦から出産後にかけての父性意識の変化．第43回日本母性衛生学会，2002．9．
- 2) 後藤由貴子，堀越百合：ナースステーション内で日中車椅子で過ごす脳外科患者と看護師の関わりの実態．第6回神奈川看護学会，2002．11．
- 3) 菅原麻美，山根梨加，相馬照美，大沢いずみ，小河原美代子，横尾香代子：妊婦から出産後にかけての父性意識の変化．第16回神奈川県母性衛生学会，2003．2．
- 4) 中村たえこ，西尾麻衣子，宇佐美歆子，相馬照美，小河原美代子，横尾香代子：大学病院からの子育て支援：何でも電話相談窓口を開設して．第16回神奈川県母性衛生学会，2003．2．
- 5) 松尾有加里，横尾香代子，関根史子，小河原美代子：切迫流早産で入院した妊婦のストレスコーピングについて．第16回神奈川県母性衛生学会，2003．2．
- 6) 舩谷寛子：母乳育児支援にアロマセラピーを用いて．第16回神奈川県母性衛生学会，2003．2．

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [ 多摩永山病院病理部 ]

#### 研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，病理学教室から大学院生が病理部に配属され，また臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，さらにタイ国病理学者の留学以外にも中国より留学中の整形外科医を大学院生および研究生として迎え，研究部門もさらに充実してきた。

現在の主な研究テーマは以下の通りである。

- (1) 乳腺腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立，2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について，3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究（HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について）
- (2) 骨軟部腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用），2) Solitary fibrous tumor 及び GIST (gastro intestinal stromal tumor) について
- (3) 子宮癌；1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法。
- (4) リンパ節病変；1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ，2) リンパ節病変の分子生物学的検索，3) 悪性リンパ腫の細胞診断学。
- (5) 術中迅速診断，免疫染色の確立

#### 研究業績

##### 論文

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Matsuda T<sup>1)</sup>, Okihama Y<sup>1)</sup>, Egami K<sup>2)</sup>, Wada M<sup>2)</sup>, Yoshioka M<sup>2)</sup>, Maeda S, Onda M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital NMS, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, NMS, <sup>3)</sup> Department of Surgery 1, NMS ): Complete cure of malignant lymphoma of the stomach with a huge adrenal lesion achieved by preoperative chemotherapy and surgery. *Surgery Today* 2001 ; 31 ( 1 ): 62-67 .
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 外科学第1 ): 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢 adenomyomatosis の3例. *日消外会誌* 2001 ; 34 ( 3 ): 229-233 .

総説：

- 1) 吉岡正智<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 片山博徳, 松田 健<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 秋丸琥甫<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 田中宣威<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 同消化器科, <sup>3)</sup> 外科学第1 ): 膵 Solid-Pseudopapillary Tumor の臨床病理学的特徴と外科的治療：本邦報告302例と自験6例について. *胆と膵* 2001 ; 22 ( 1 ): 45-52 .

[ 2001 年度追加分 ]

原著：

- 1) Matsuda T<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Tsuchiya Y<sup>1)</sup>, Okihama Y<sup>1)</sup>, Egami K<sup>2)</sup>, Yoshioka M<sup>2)</sup>, Maeda S, Onda M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama Hospital NMS, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital NMS, <sup>3)</sup> Department of Surgery 1, NMS ): A clinical evaluation of lymphangioma of the large intestine : A case presentation of lymphangioma of the descending colon and a review of 279 Japanese cases. *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 ( 3 ): 262-265 .

(1) 原著 :

- 1) Sawada N<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Maeda S, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Goro A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology 2, NMS): Immunohistochemical localization of endothelial cell markers in solitary fibrous tumor. Pathology International 2002 ; 52 ( 12 ): 769-776 .
- 2) 前田昭太郎: 各種臓器における境界病変 (異形成) の細胞像. Medical Technology 2002 ; 30 ( 4 ): 393-397 .
- 3) 前田昭太郎: 境界病変の細胞像: 病理側からの提言. 日本臨床細胞学会雑誌 2002 ; 41 ( 3 ): 209-215 .

(2) 綜説 :

- 1) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 飯田信也<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 乳腺硬癌に関する細胞学的, 組織学的検討: 穿刺吸引細胞診で如何に正しく診断するか. 日本臨床細胞学会雑誌 2003 ; 42 ( 1 ): 64-72 .
- 2) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 脳腫瘍の術中迅速細胞診. Medical Technology 2003 ; 31 ( 3 ): 320-324 .

著 書

- 1) 前田昭太郎, 磯部宏昭, 横山宗伯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): [ 2001年追加分: 分担 ] 骨腫瘍 (II-8-1). 細胞診断学入門: 基礎と臨床 ( 社本幹博, 長村義之 ), 2001 ; pp174-179, 名古屋大学出版 .
- 2) 前田昭太郎, 片山博徳, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): [ 2001年追加分: 分担 ] 軟部腫瘍 (II-8-2). 細胞診断学入門: 基礎と臨床 ( 社本幹博, 長村義之 ), 2001 ; pp179-185, 名古屋大学出版 .
- 3) 前田昭太郎, 清水秀樹<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部): [ 2001年追加分: 分担 ] 中枢神経 (II-8-3). 細胞診断学入門: 基礎と臨床 ( 社本幹博, 長村義之 ), 2001 ; pp185-192, 名古屋大学出版 .
- 4) 前田昭太郎, 松原美幸<sup>1)</sup>, 細根 勝 (<sup>1)</sup>付属病院病理部): [ 2001年追加分: 分担 ] 小児腫瘍 (II-8-4). 細胞診断学入門: 基礎と臨床 ( 社本幹博, 長村義之 ), 2001 ; pp192-195, 名古屋大学出版 .
- 5) 細根 勝: [ 分担 ] 4. 体腔液原発悪性リンパ腫. 体腔液細胞診アトラス: 体腔液細胞診の理解のために ( 海老原善郎, 亀井敏昭 ), 2002 ; pp104-109, 株式会社篠原出版新社 .

学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) Iida S, Onda M, Tokunaga A, Kiyama T, Egami K, Maeda S : Analysis of the role of basic fibroblast growth factor during duodenal ulcer healing . 11th Annual Educational Symposium of the Wound Healing Society ( Albuquerque NM ), 2001 . 5 .
- 2) 北川泰之<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 角田 隆<sup>1)</sup>, 丸山晴久<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 横山宗伯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 低悪性度軟骨肉腫の治療と問題点. 第34回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 2001 . 7 .
- 3) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 細根勝, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): p53発現・MIB-1 index からみた胃原発非 Pure MALT型 B cell lymphoma 6例の検討. 第56回日本消化器外科学会総会, 2001 . 7 .
- 4) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎 (<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 胆嚢 adenomyomatosis は前癌病変か? 第24回日本膵胆管合流異常研究会, 2001 . 9 .
- 5) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 石塚朋樹<sup>1)</sup>, 山村

- 進<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): bcl-2・p53発現, MIB-1 indexを用いた胃原発性Diffuse large B cell lymphomaの病理組織学的検討. 第60回日本癌学会総会, 2001. 9.
- 6) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 細根 勝, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 大細胞成分からみた胃原発 MALT型 B cell リンパ腫の診断・治療に関する検討. 第39回日本癌治療学会総会, 2001. 11.

#### (1) シンポジウム:

- 1) Maeda S: Cytology of tumor and degeneration. 第41回日本臨床細胞学会総会(山口県), 2002. 11.
- 2) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 一迫 玲<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東北大学大学院歯学研究科口腔病理学分野): 悪性リンパ腫の細胞診と分子生物学的解析手技: FNACとflow cytometryの併用を中心に. 第43回日本臨床細胞学会総会, 2002. 5.

#### (2) ワークショップ:

- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori* 除菌 regimen の検討: 除菌不成功例への対策を含めて. 第8回日本ヘリコバクター学会, 2002. 6.

#### (3) 一般講演:

- 1) Liu AM<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Hosone M, Namimatsu S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for EM Reseaches, NMS): A CASE OF MICROVILLOUS LYMPHOMA WITH CD30+ ALCL-B FEATURES. The XI Meeting of the European Association for Haematology (Siena, Italy), 2002. 5.
- 2) Hosone M, Maeda S, Katayama H, Isobe H, Sugisaki Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, NMS): DIAGNOSTIC ROLE OF FINE NEEDLE ASPIRATION CYTOLOGY (FNAC) OF LYMPH NODES COMBINED WITH FLOW CYTOMETRIC IMMUNOPHENOTYPING. 8th International Conference on Malignant Lymphoma (Lugano, Switzerland), 2002. 6.
- 3) Liu AM<sup>1)</sup>, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Hosone M, Namimatsu S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Central Institute for EM Reseaches, NMS): Immunohistochemical and ultrastructural studies of four cases of CD30+TIA-1+ALK+ Anaplastic large cell lymphoma. The Sixth Joint Meeting of JSHC and HCS (Seattle Washington), 2002. 7.
- 4) Liu A<sup>1)</sup>, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Azuma K, Sugisaki Y<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Central Instiute for EM Reseaches, <sup>2)</sup>NMS HP Parhology, <sup>3)</sup>NMS Department of Pathology 2): Lage cell neuroendocrine carcinoma of the lung: immunohistochemical and electron microscopic studies. 25th International Congress of the International Academy of Pathology (Amsterdam), 2002. 10.
- 5) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology 2): The utility of rapid immunosatining for cytological samples in rapid intraoperative diagnosis. The 1st Korea-Japan Joint Meeting for Cytopathology (Korea), 2002. 10.
- 6) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Isobe Hiroaki, Sannou N<sup>1)</sup>, Naito Zenya<sup>2)</sup>, Yokoyama Munehiro<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup> Department of Brain-Surgery, Nippon Medical School, TamaNagayama Hospital Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Pathology 2, NipponMedical School): Primary intracranial osteosarcoma: a case report. The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Hua-Hin, Thailand), 2003. 1.
- 7) Katayama Hironori, Maeda S, Hosone M, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School.): Technical examination of HER2 status in breast cancer: an immunohistochemical study Including correlations with cytological findings and estrogen receptor status. The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Hua-Hin, Thailand), 2003. 1.

- 8) Obana Y , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Isobe H , Takeuchi T<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> , Yokoyama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopedics, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital , <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Clear cell chondrosarcoma a case report . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua-Hin, Thailand ) , 2003 . 1 .
- 9) Watanabe M<sup>1)</sup> , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Isobe H , Abe K , Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Medical Student, Nippon Medical school, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Pathology 2, Nippon Medical School ): A comparison study of Papanicolaou, Giemsa and H-E stains in cytology and histology . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua-Hin, Thailand ) , 2003 . 1 .
- 10) Liu AM<sup>1)</sup> , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Oguro T<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>2)</sup> , Yokoyama M<sup>2)</sup> , Sugisaki Y<sup>12)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches , <sup>2)</sup> Department of Pathology 2, Nippon Medical School ): The Role of Electron Microscopic Studies in Fine Needle Aspiration Cytology . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua-Hin, Thailand ) , 2003 . 1 .
- 11) Isobe H , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Abe K , Yokoyama M<sup>1)</sup> , Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School ): Fine Needle Aspiration ( FNA ) Cytology of Intramuscular Nodular Fasciitis : Cytologic-Histologic Correlations between Two Separate cases . The 9th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology ( Hua-Hin, Thailand ) , 2003 . 1 .
- 12) Hosone M , Maeda S , Katayama H , Isobe H , Naito Z<sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology 2 , <sup>2)</sup> NMS HP Pathology ): Fine needle aspiration cytology ( FNAC ) of 40 cases of histologically-definite node-based lymphomas with flow cytometric immunophenotyping . The Third IAP Asia Pacific Meeting ( IAP2003 ) ( Bangkok, Thailand ) , 2003 . 1 .
- 13) Liu AM<sup>1)</sup> , Sugisaki Y<sup>1)</sup> , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Azuma K , Matushima S<sup>2)</sup> , Yamamoto H<sup>2)</sup> , Egami K<sup>2)</sup> , Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Central Institute for EM Researches , <sup>2)</sup> Department of Surgery, Tama Nagayama HP , NMS, <sup>3)</sup> Department of Pathology, NMS ): Large cell carcinoma with neuroendocrine features of the lung : Immunohistochemical and electron microscopic studies . 第70回日本医科大学医学会総会 , 2002 . 9 .
- 14) 劉 愛民<sup>1)</sup> , 前田昭太郎 , 細根 勝 , 片山博徳 , 東 敬子 , 松島申治<sup>2)</sup> , 山本英希<sup>2)</sup> , 江上 格<sup>2)</sup> , 杉崎祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設 , <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科 ): Large cell carcinoma with neuroendocrine feature of the lung Differentiation between LCNEC and LCCND . 第43回日本肺癌学会総会 , 2002 . 11 .
- 15) 鈴木成治<sup>1)</sup> , 渡辺秀裕<sup>1)</sup> , 長谷川博一<sup>1)</sup> , 宮本昌之<sup>1)</sup> , 飯田信也<sup>1)</sup> , 横山 正<sup>1)</sup> , 寺本 忠<sup>1)</sup> , 下村隆保<sup>1)</sup> , 大川敬一<sup>1)</sup> , 萩原信敏<sup>1)</sup> , 高島良樹<sup>1)</sup> , 沖浜裕司<sup>2)</sup> , 松田 健<sup>2)</sup> , 細根 勝 , 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 , <sup>2)</sup> 同消化器科 ): アポトーシス関連蛋白 ( bcl-2 ・ bcl-6 ・ p53 ) 及び MIB-1 発現からみた胃原発非 MALT 型 B cell lymphoma の検討 . 第102回日本外科学会定期学術集会 , 2002 . 4 .
- 16) 松久威史<sup>1)</sup> , 芳村昇治<sup>1)</sup> , 日下部史郎<sup>1)</sup> , 前田昭太郎 , 山田宣孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内視鏡科 , <sup>2)</sup> 病理学第2 ): 東京都千代田区と多摩市における *Helicobacter pylori* 感染率の検討 . 第88回日本消化器病学会総会 , 2002 . 4 .
- 17) 長尾 緑<sup>1)</sup> , 白田忠男<sup>1)</sup> , 藤田千歳<sup>1)</sup> , 猪野優子<sup>1)</sup> , 矢野 侃<sup>1)</sup> , 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup> 荒川区がん予防センター ): 集団検診で発見された肺癌42例の検討 . 第43回日本臨床細胞学会総会 , 2002 . 5 .
- 18) 片山博徳 , 前田昭太郎 , 細根 勝 , 磯部宏昭 , 柳田裕美 , 阿部久美子 , 日吾美栄子 , 原 博 , 横山宗伯<sup>1)</sup> , 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第2 ): 術中迅速診断における細胞診材料への迅速免疫染色の検討 . 第43回日本臨床細胞学会総会 , 2002 . 5 .
- 19) 鈴木成治<sup>1)</sup> , 渡辺秀裕<sup>1)</sup> , 長谷川博一<sup>1)</sup> , 宮本昌之<sup>1)</sup> , 飯田信也<sup>1)</sup> , 横山 正<sup>1)</sup> , 細根 勝 , 江上 格<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院外科 ): アポトーシス関連蛋白発現からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断・治療に関する検討 . 第11回日本癌病態治療研究会 , 2002 . 6 .

- 20) 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 下村隆保<sup>1)</sup>, 寺本忠<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝<sup>(1)</sup>多摩永山病院外科): 呼吸不全および全身衰弱を来した巨大葉状腫瘍の一切除例. 第10回日本乳癌学会総会, 2002. 7.
- 21) 山本英希<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 細根 勝, 前田昭太郎, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第2): 胸壁腫瘍の形をとった肉腫型悪性中皮腫. 第123回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2002. 9.
- 22) 尾花ゆかり, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 秋山裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 武内俊次<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 淡明細胞型軟骨肉腫の1例: 臨床病理学的鑑別診断について. 第16回臨床細胞学会関東連合会総会, 2002. 9.
- 23) 福原宗久<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 土屋喜一<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): トロトラスト肝障害によると考えられる肝腫瘍の1例. 第65回城西外科学会, 2002. 9.
- 24) 土屋喜一<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 大川敬一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 高島良樹<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 福原宗久<sup>1)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 骨盤内臓器の合併切除を行った大腸癌症例の臨床的検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 25) 渡辺真智子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 阿部久美子, 日吾美栄子(<sup>1)</sup>医学部第3学年): 腫瘍診断(細胞診, 組織診)における各種染色法(パパニコロウ, ギムザ, H・E染色)の特長に関する検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 26) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 川野記代子, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 金澤宏美<sup>2)</sup>, 大塚俊昭<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>多摩永山病院内科): 剖検時迅速細胞診が有用であった心臓肉腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 27) 枝川聖子<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>5)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 前田昭太郎, 大秋美治<sup>4)</sup>, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 大原國俊<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup>第二病院放射線科, <sup>3)</sup>同病理部, <sup>4)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>5)</sup>付属病院病理部, <sup>6)</sup>内科学第4, <sup>7)</sup>眼科学): 気管支肺胞洗浄法(Bronchoalveolar Lavage: BAL): 本学における現状と疾患特異性について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 28) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 劉 愛民<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 脳原発骨肉腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 29) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 術中迅速診断における迅速免疫染色併用の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 30) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 武内俊次<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup>, 北川泰之<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院病理部, <sup>4)</sup>同整形外科): 筋肉内結節性筋膜炎の2症例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 31) 尾花ゆかり, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 武内俊次<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup>病理学第2): 淡明細胞型軟骨肉腫の1例: 臨床病理学的な鑑別診断. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 32) 川野記代子, 秋山裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 飯田信也<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>病理学第2): Hercep Testの基礎的検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 33) 柳田裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 再発をくりかえしMIB-1 Indexの高値化を示した脊索腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 34) 松久威史<sup>1)</sup>, 日下部史郎<sup>1)</sup>, 芳村昇治<sup>1)</sup>, 田原一郎<sup>1)</sup>, 高須 勝<sup>1)</sup>, 宮本安盛<sup>1)</sup>, 高橋 央<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 山田宣孝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内視鏡科, <sup>2)</sup>病理学第2): *Helicobacter pylori*感染別にみた背景胃粘膜の検討. 第70

回日本医科大学医学会総会，2002．9．

- 35) 磯部宏昭，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，武内俊次<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>，横山宗伯<sup>2)</sup>，松原美幸<sup>3)</sup>，杉崎祐一<sup>3)</sup>，北川泰之<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院整形外科，<sup>2)</sup>病理学第2，<sup>3)</sup>付属病院病理部，<sup>4)</sup>同整形外科): 筋肉内結節性筋膜炎の2症例．第41回日本臨床細胞学会秋期大会，2002．10．
- 36) 前田昭太郎，細根 勝，原 博，片山博徳，磯部宏昭，柳田裕美，志村俊郎<sup>1)</sup>，山王直子<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup>病理学第2): 脳原発骨肉腫の1例：術中迅速細胞診の有用性．第41回日本臨床細胞学会秋期大会，2002．10．
- 37) 横山宗伯<sup>1)</sup>，松原美幸<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，片山博徳，細根 勝，北川泰之<sup>3)</sup>，武内俊次<sup>3)</sup>，伊藤博元<sup>3)</sup>，前田昭太郎，杉崎祐一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>付属病院病理部，<sup>3)</sup>整形外科学): 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の有用性．第41回日本臨床細胞学会秋期大会，2002．10．
- 38) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，細根 勝，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科): アポトーシス関連蛋白発現・MIB-1 index からみた大腸原発悪性リンパ腫の病理組織診断・治療に関する検討．第61回日本癌学会総会，2002．10．
- 39) 片山博徳，前田昭太郎，細根 勝，内藤善哉<sup>1)</sup>，横山宗伯<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2): 術中迅速診断における迅速免疫染色併用の検討：迅速組織材料と細胞診材料との比較検討を含めて．第49回日本臨床検査医学会総会，2002．11．
- 40) 鈴木成治<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，大川敬一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，高島良樹<sup>1)</sup>，福原宗久<sup>1)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，細根 勝，前田昭太郎，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科): 悪性度からみた胃原発性GIST症例の臨床病理学的検討．第64回日本臨床外科学会総会，2002．11．
- 41) 鈴木成治<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，渡辺秀裕<sup>1)</sup>，長谷川博一<sup>1)</sup>，宮本昌之<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，松田 健<sup>2)</sup>，沖浜裕司<sup>2)</sup>，細根 勝，江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科，<sup>2)</sup>同消化器科): MIB-1 index からみた胃原発性GIST症例の検討．第75回日本胃癌学会総会，2003．3．

## [ 多摩永山病院中央検査室 ]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は，臨床検査学の進歩のなかで，新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し，新検査法の実現を追っている．また，日常の臨床検査全体の精度管理，検査方法および迅速測定を実施し，各種の検査における臨床との関連を見つつ，質の向上と検査測定法の確立を目指している．

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>，久野将宗<sup>1)</sup>，上笹 宙<sup>1)</sup>，中野渡雄一<sup>1)</sup>，弥富俊太郎<sup>1)</sup>，加地正人<sup>1)</sup>，畝本恭子<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，久保田稔，山本保博<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター，<sup>2)</sup>救急医学): 脳死判定における短潜時体性感覚誘発電位 (SSEP) の意義：聴性脳幹反応 (ABR) との比較から．日本臨床救急医学会誌 2002；6(1): 8-14．
- 2) 山口文雄<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>，大井良之<sup>2)</sup>，青木 亘<sup>3)</sup>，中村利枝<sup>3)</sup>，五十嵐亜希<sup>3)</sup>，久保田稔，澤田恵子<sup>4)</sup>，志村俊郎<sup>4)</sup>，高橋 弘<sup>5)</sup>，小林士郎<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科，<sup>2)</sup>同麻酔科，<sup>3)</sup>同生理機能センター，<sup>4)</sup>多摩永山病院脳神経外科，<sup>5)</sup>第二病院脳神経外科，<sup>6)</sup>千葉北総病院脳神経外科): 脳腫瘍術中皮質マッピングにおける BIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性．NEUROLOGICAL SURGERY 2002；30(11): 1181-1188．

##### (2) 綜説：

- 1) 池野廣幸：最新の病院検査 (装置) で何がわかるか：便の検査で何がわかる．先端 2002；10(2): 6-7．

2) 中澤 宏：未来科学？擬似科学1．検査と技術 2003；31（2）：135-135．

(3) 研究報告書：

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>、有賀 徹<sup>2)</sup>、豊田 泉<sup>2)</sup>、石松伸一<sup>3)</sup>、今西智之<sup>4)</sup>、大庭正敏<sup>5)</sup>、川口 務<sup>6)</sup>、久保田稔、菅 貞郎<sup>7)</sup>、北原孝雄<sup>8)</sup>、久志本成樹<sup>9)</sup>、塩野 茂<sup>10)</sup>、園生雅弘<sup>11)</sup>、庄田 基<sup>12)</sup>、進藤健次郎<sup>13)</sup>、田中秀治<sup>14)</sup>、中北和夫<sup>15)</sup>、西山謹吾<sup>16)</sup>、丹羽 潤<sup>17)</sup>、広瀬保男<sup>18)</sup>、前川剛志<sup>19)</sup>、松山 武<sup>20)</sup>、矢崎誠治<sup>21)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター、<sup>2)</sup>昭和大学医学部救急医学、<sup>3)</sup>聖路加国際病院救急部、<sup>4)</sup>市立川崎病院脳神経外科、<sup>5)</sup>古川市立病院脳神経外科、<sup>6)</sup>福岡徳州会病院脳神経外科、<sup>7)</sup>東京歯科大学市川総合病院神経外科、<sup>8)</sup>北里大学医学部救命救急医学、<sup>9)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター、<sup>10)</sup>大阪府中河内救命救急センター、<sup>11)</sup>帝京大学医学部神経内科、<sup>12)</sup>藤田保健衛生大学医学部脳神経外科、<sup>13)</sup>由利組合総合病院脳神経外科、<sup>14)</sup>杏林大学医学部救急医学、<sup>15)</sup>国立南和歌山病院脳神経外科、<sup>16)</sup>高知赤十字病院救命救急センター、<sup>17)</sup>市立函館病院脳神経外科、<sup>18)</sup>新潟市民病院救命救急センター、<sup>19)</sup>山口大学医学部高度救命救急センター、<sup>20)</sup>奈良県立医科大学脳神経外科、<sup>21)</sup>日本大学駿河台病院救命救急センター)：臓器提供施設内における臓器提供システムに関する研究．厚生労働省「ヒトゲノム 再生医療研究事業」2002年 2002．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 池野廣幸：便の検査で何がわかる．第46回先端医療技術開発研究会，2002．7．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 鈴木美子、井上 淳、菅野由紀、池野廣幸、鈴木 健：汎用機による高感度CRP測定の有用性．第51回日本医学検査学会，2002．5．
- 2) 林 綾子、田所久子、手寫浩恵、杉原秀人、水谷行伸、酒井貴史、佐藤寛之、池野廣幸、鈴木 健：24時間血圧測定による夜間降圧の評価にどの測定値が最も有効か．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 3) 酒井貴史、佐藤寛之、林 綾子、田所久子、手寫浩恵、杉原秀人、水谷行伸、池野廣幸、鈴木 健：QTc、QTd 測定における自動計測ソフトQTD 1の有用性．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 4) 菊地英子、井口輝彦、林 綾子、池野廣幸、鈴木 健：検査室におけるインシデントレポートの分析．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 5) 渡部百合子、柴田明佳、恩田怜子、池野廣幸、鈴木 健：同時発症した夫婦の三日熱マラリア．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 6) 澁谷志保子<sup>1)</sup>、加地正人<sup>2)</sup>、畝本恭子<sup>2)</sup>、横田裕行<sup>2)</sup>、黒川 顕<sup>2)</sup>、杉原秀人、久保田稔(<sup>1)</sup>医学部第4学年、<sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：多摩永山病院救命救急センターにおける急性血液浄化法の現状．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 7) 柴田明佳、渡部百合子、恩田怜子、池野廣幸、鈴木 健：トロンボテスト試薬（トロンボテストオーレン）は全自動血液凝固測定装置（ラックローター）で使用可能か．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 8) 杉原秀人、久保田稔、池野廣幸、鈴木 健、直江康孝<sup>1)</sup>、畝本恭子<sup>1)</sup>、横田裕行<sup>1)</sup>、黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：来院時心配停止患者における蘇生後脳症の神経生理学的検査所見と予後について．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 9) 横田裕行<sup>1)</sup>、久野将宗<sup>1)</sup>、上笹 宙<sup>1)</sup>、小柳正雄<sup>1)</sup>、中野渡雄一<sup>1)</sup>、弥富俊太郎<sup>1)</sup>、直江康孝<sup>1)</sup>、黒川 顕<sup>1)</sup>、小川理朗<sup>2)</sup>、山本保博<sup>2)</sup>、久保田稔(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター、<sup>2)</sup>救急医学)：脳幹病変における短潜時体性感覚誘発電位（SSEP）N18、P13の意義．第30回日本救急医学会総会，2002．10．
- 10) 畝本恭子<sup>1)</sup>、直江康孝<sup>1)</sup>、加地正人<sup>1)</sup>、横田裕行<sup>1)</sup>、黒川 顕<sup>1)</sup>、中林基明<sup>2)</sup>、布施 明<sup>2)</sup>、佐藤秀貴<sup>2)</sup>、山本保博<sup>2)</sup>、久保田稔、杉原秀人(<sup>1)</sup>多摩永山病院救命救急センター、<sup>2)</sup>救急医学)：重症くも膜下出血に対する軽度脳低体温療法の際の経頭蓋ドップラー検査の評価の検討．第30回日本救急医学会総会，2002．10．



(3) 一般講演：

- 1) 井口輝彦, 浅井信治, 相澤泰与, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健, 矢部隆一<sup>1)</sup>, 尾方博子<sup>1)</sup>, 清水 弘<sup>1)</sup>, 山崎節子<sup>1)</sup>, 田所憲治<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都西赤十字血液センター): 早期流産患者より検出したp型の1症例. 第50回日本輸血学会総会, 2002. 5.
- 2) 井上 淳, 浅井信治, 菊地英子, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健: 救命救急センターを併設している施設における臨床検査システムの更新について. 第51回日本医学検査学会, 2002. 5.

## [ 多摩永山病院薬剤科 ]

### 研究概要

医薬分業が急速に進展しつつある現在, 薬剤師の存在が大きく問われている. そのような環境の中, 当薬剤科はチーム医療の一員として薬物の適正使用, また患者のQOL向上を目的として研究を行っている.

その中で, 内科, 薬科大学との共同で心疾患, 喘息, 糖尿病などで患者QOL向上に薬剤師が果たす役割について研究, 考察を行った. また小児科とは苦味を持つ薬物のコンプライアンス改善を目的として小児のQOLについて研究した.

救命救急センター, 薬科大学とはCHDF施行時の薬物の治療について, さらに内科とQT延長を誘引する薬物, 相互作用など薬物の適正使用について調査, 研究を行い報告した.

また, 調剤業務におけるリスク防止に対する取り組みについても発表した.

今後, 病院でのチーム医療の一員として薬剤師の役割を充分果たせるよう努力し, 大きく向上していきたい.

### 研究業績

#### 著 書

- 1) 山本靖子<sup>1)</sup>, 山田朋子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup>東京薬科大学薬学部総合医療薬学講座・薬物治療学分野, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院内科): [ 自著 ] 外来虚血性心疾患患者のQOL. 臨床薬理, 2003; pp131-132, 日本臨床薬理学会.

#### 学会発表

(1) セミナー：

- 1) 村田和也：小児への服用上の工夫について．平成14年度調剤実務研修会，2003．2．

(2) 一般講演：

- 1) Ishii K<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Ohtuka T<sup>1)</sup>, Kasagami Y<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Unemoto T, Murata K, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Ooyama Y<sup>2)</sup>, Morikawa M<sup>2)</sup>, Terasawa T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Cardiology, <sup>2)</sup>Department of Pharmacy, <sup>3)</sup>Department of Pharmacotherapy, Tokyo University of Pharmacy and Life Science): -Blocker Treatment Associated with Physical Aspect of Quality of Life in Out-of-Hospital Patients with Myocardial Infarction. 第67回日本循環器学会, 2003. 3.
- 2) 村田和也：抗ヒスタミン薬の服薬指導．第20回 多摩臨床シンポジウム, 2002. 7.
- 3) 稲葉育広, 藤中祐美子, 平瀬美弥子, 亀山明美, 伊藤淳雄, 村田和也：MRSA感染症患者に対するアルベカシンの投与方法に関する検討．医療薬学フォーラム2002 第10回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2002. 7.
- 4) 椎野元裕, 村田和也：当院における薬品管理の見直し：薬品SPDを導入して．日本病院薬剤師会関東ブロック第32回学術大会, 2002. 8.
- 5) 畝本賜男, 村田和也, 高瀬真人<sup>1)</sup>, 飛田正俊<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学): 小児用細粒剤のコンプライアンス向上の試み 苦味マスキング剤の評価. 第70回日本医科大学 総会, 2002. 9.

- 6) 平瀬美弥子, 藤中祐美子, 畝本賜男, 村田和也: 多摩永山病院薬剤科における調剤過誤防止対策. 第70回日本医科大学総会, 2002. 9.
- 7) 川井正宏<sup>1)</sup>, 伊藤淳雄, 村田和也, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 三原 潔<sup>1)</sup>, 緒方宏泰<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 明治薬科大学薬学部大学院臨床薬学専攻, <sup>2)</sup> 多摩永山病院救命救急センター): 血液濾過透析による薬物除去性に関する文献的考察. 第23回日本臨床薬理学会年会, 2002. 10.
- 8) 高田雅史, 佐々部真紀子, 畝本賜男, 村田和也, 石川さと子<sup>1)</sup>, 望月正隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 共立薬科大学有機薬化学): 5-Aminosalicylic acid (メサラジン) 注腸液製剤の安定性の検討. 第12回日本医療薬学会, 2002. 10.
- 9) 山本靖子<sup>1)</sup>, 山田朋子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup> 東京薬科大学薬学部総合医療薬学講座・薬物治療学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院内科): 外来虚血性心疾患患者のQOL (第2報). 第23回日本臨床薬理学会年会, 2002. 12.
- 10) 伊藤淳雄, 藤中祐美子, 亀山明美, 村田和也, 山田英俊<sup>1)</sup>, 渡邊清司<sup>2)</sup>, 松本有右<sup>2)</sup>, 滝川秀樹<sup>3)</sup>, 松尾和美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup> 手稲溪仁会病院薬剤部, <sup>2)</sup> 八王子薬剤センター薬局, <sup>3)</sup> 兵庫県西宮市薬剤師会滝川薬局, <sup>4)</sup> 兵庫県しらさぎ薬局健康館): 気管支喘息患者に対する薬物療法とQOLの評価に関する研究. 第4回薬物療法QOL研究会学術大会, 2003. 1.
- 11) 亀山明美, 藤中祐美子, 伊藤淳雄, 村田和也: 当院外来における成人気管支喘息患者に対するSF-36を用いたQOL評価に関する検討. 第4回薬物療法QOL研究会学術大会, 2003. 1.
- 12) 藤中祐美子, 村田和也, 岸田 浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科学第1): 当院におけるQT延長作用を有する薬剤の使用実態調査について. 日本薬学会第123回年会, 2003. 3.
- 13) 山下菜穂子<sup>1)</sup>, 野澤 (石井) 玲子<sup>1)</sup>, 竹内幸一<sup>1)</sup>, 木本陶子, 村田和也, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 明治薬科大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 持続的血液濾過透析施行患者におけるピアペナムの体内動態と変動要因の考察. 日本薬学会第123年会, 2003. 3.
- 14) 山本靖子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup> 東京薬科大学薬学部, <sup>2)</sup> 内科学第1): 外来陳旧性心筋梗塞患者のQOL: 病態と治療内容による検討. 日本薬学会第123年会, 2003. 3.
- 15) 嶋島智子<sup>1)</sup>, 森川正子<sup>1)</sup>, 寺澤孝明<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>2)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 鈴木 健<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 村田和也(<sup>1)</sup> 東京薬科大学薬学部, <sup>2)</sup> 内科学第1): 外来通院糖尿病患者のQOLに影響を及ぼす因子の検討. 日本薬学会第123年会, 2003. 3.

## [ 多摩永山病院看護部 ]

### 研究概要

- 1) 生活習慣病の患者, 家族の両者に焦点をあて, 健康観, 生活習慣の違いを調査し, 今後の指導の方向性を探った.
- 2) 廊下に設置した見守り機の活用を図ることにより, 病室への距離が縮まり, 患者とのより身近な関係を築くことができた.
- 3) CHDFに対する知識の浸透を図り, 継続的な教育の企画, アイテムの作成により統一した看護の提供に繋げることができた.
- 4) 向精神薬による急性薬物中毒患者の実態を分析し, 精神科医との連携を得て, 患者中心に考えたパスが作成できた.
- 5) 有働式腹臥位療法は患者にストレスをかけることなく, 意識レベル, 機能回復の改善に有効であるとの示唆を得た.
- 6) 卒後年度毎に実施している年間教育プログラムの中で, 医療事故に着目し, さまざまな角度から分析を試みる教育を行った.

7) 術後から日中の感覚刺激を与えるケアを行うことにより、覚醒時間の拡大を図ることができ、生活リズムをつけ術後せん妄予防につなげることができた。

8) 患児の成長発達に合わせた遊びを意識し、あらゆる関わりの中に遊びの要素を取り入れた工夫をする必要を検証した。

9) 肺障害例に対する効果等の検証、循環動態の検証、変動の有無、導入時期と施行中の注意点の検討をした。

10) 救命救急で入退院を繰り返す急性薬物中毒の患者を通し、アディクションを広義の立場からとらえ考察した。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 久保睦子，高木 香，後藤由香：糖尿病患者・家族の健康観の違いが及ぼす自己管理への影響：MHLCを用いて。第33回日本看護学会，2002．8．
- 2) 寺尾洋介，石ヶ森重之，山田美緒，小山多貴子，石川秀一，緋田雅美，野口 素：CHDFマニュアル導入における1考察。第13回日本急性血液浄化学会学術集会，2002．9．
- 3) 内藤洋子，松丸美那，白坂 綾，佐藤淳子，立川ゆみ，武藤雅子：患者のニーズを満たすための見守り機の有用性。第33回日本看護学会，2002．10．
- 4) 城戸竜一，塩津正己，石川秀一，緋田雅美，野口 素：急性薬物中毒「向精神薬」患者のクリニカルパスの実態報告と再検討。第4回救急看護学会総会，2002．11．
- 5) 永井佐江子，永田静香，本多広子，石川秀一，塩津正己，緋田雅美，野口 素：急性期リハビリテーションとしての有動式腹臥位療法の有効性。第4回日本救急看護学会総会，2002．11．
- 6) 緋田雅美：救急領域におけるアディクションについて。第1回日本アディクション学会，2002．12．
- 7) 高橋久美子：院内教育「医療事故」を考える。第3回南多摩医療圏地域保健フォーラム，2003．1．
- 8) 萩原貴代，田中千夏，吉本直美，佐藤優子：術後せん妄予防のケアを考える：日中覚醒を促すための感覚刺激を与えて。平成14年度東京都看護協会南部地区看護研究発表会，2003．2．
- 9) 北山由香里，石橋春美，小林克彦，小倉美奈，北中千恵子：緊急入院した患児が入院環境に適応するまでの現状調査：入院生活動作と対人関係に焦点を当てて。平成14年度東京都看護協会南部地区看護研究発表会，2003．2．
- 10) 本多広子，石川 秀一，塩津正己，緋田雅美，野口 素：背側肺障害に対して前方45°シムス位実施における管理の検討。第30回集中治療学会，2003．2．

## [ 多摩永山病院放射線科技師室 ]

### 研究概要

#### 1. 医療従事者の放射線防護

看護師は、どの診療科に所属していても、その業務課程で様々な形で放射線診療に関わりを持つことから、放射線の基礎的な知識が必要である。しかし、アンケートの結果より、放射線被ばくに対して誤解している看護師は多く、58名中10人17%もの看護師が『放射線技師の寿命は、被ばくにより一般に短い』と考えている。

この様に、多くの看護師が放射線に対し何らかの不安や恐怖、誤解を抱いている。このような現状を踏まえ、医療従事者で唯一放射線の体系的な教育を受けている診療放射線技師が、解り易く解説した『医療従事者の放射線防護講習』を行い、受講者の90%が放射線被ばくに対する不安が解消されている。

看護師卒後教育の一環として医療従事者の放射線防護講習を行い、放射線についての知識、正しい放射線防護を教える事は、放射線診療に携わる看護師の不安や誤解を解消し、円滑な放射線診療を実践する上で非常に重要である。

#### 2. 放射線科の危機管理

当院放射線科において緊急時対策として、ヨード造影剤ショック等対策において医師、技師、看護師、受け付けの連係を取った緊急時医療対策の構築

当院、放射線科では、毎日300人からの患者の検査、撮影を行っています。放射線科で起こりうる、AMI（急性心筋梗塞）の発作、ヨード造影剤によるヨードショックなど様々な状況に、最前の対応を取る為、造影剤による副作用と対策の講習会、ヨードショックシュミレーションなどを放射線科（放射線科医師、放射線科看護師、放射線技師、受付）と救命救急科医師、外来看護婦と連携を取って行ってきました。しかし、医師以外の医療従事者には、緊急時における心肺蘇生に対する体験がなく、緊迫する緊急時に、医師とより良い連携を取り、最前の医療を行うには、医療従事者が心肺蘇生等の救命講習により、その知識と実施体験を持つことは重要である。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 笹沼和智，根津伸弘：看護師に対する医療放射線防護講習：放射線の理解と正しい防護のための講習とアンケート調査より．東京放射線 2002；49（579）．

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) 笹沼和智：放射線防護・管理．パーシェントケア学術大会，2003．3．

#### (2) 一般講演：

- 1) 笹沼和智，金沢博行，深瀬秀夫，柳川豊彦，阿部光夫，山下勝己，濱口雄慈，根津伸弘：放射線科の危機管理体制の確立（2）．平成14年度 全国放射線技師学術大会，2002．10．
- 2) 北俣 真，笹沼和智，織田 宏，深瀬秀夫，濱口雄慈，根津伸弘：放射線科の危機管理体制の確立（1）．平成14年度 全国放射線技師総合学術大会，2002．10．

## 23．千葉北総病院付置施設等

### [ 千葉北総病院内科 ]

#### 研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている．そのため、研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消火器、内分泌および呼吸器疾患とほぼ内科領域全般を網羅している．

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究．冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である．

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断および肝生検を実施．組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている．

神経では、CT、MRI検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討、および電気生理検査による中枢、抹消神経疾患の定量的評価、検討を行っている．

腎臓では、蛋白尿から、急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている．特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている．

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている．

内分泌では、甲状腺を中心にFGSとの関連を研究している．

呼吸器では、肺癌に対する併用療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている．

#### 研究業績

##### 論文

##### (1)原著：

- 1) Mishina M , Senda M , Kiyosawa M , Ishiwata K , G De Volder Anne , Nakano H , Toyama H , Oda K , Kimura Y , Ishii K , Sasaki T , Ohyama M , Komaba Y , Kobayashi S , Kitamura S , Yasuo K : Normal distribution of GABA<sub>A</sub> receptor in visual cortex of early onset blindness . The Journal of Nuclear Medicine 2002 ; 43 ( 5) : 253-253 .
- 2) Ohyama M , Ishiwata K , Ishii K , Mishina M , Kitamura S , Kawamura K , Kimura Y , Sasaki T , Oda K , Mitani K , Katayama Y : The First Evaluation of Sigma1 Receptors in Patients with Alzheimer's Disease Using PET and a Newly Developed Ligand : . The Journal of Nuclear Medicine 2002 ; 43 ( 5) : 243-243 .
- 3) Kobayashi K , Hino M , Fukuoka M , Noba K , Kinoshita H , Kimura I , Taguchi T , Ryuunosuke K , Horikoshi N , Niitani H : Phase I studies of nogitecan hydrochloride for Japanese . Int. J. Clin Oncol 2002 ; 7 : 177-186 .
- 4) Sakai S , Mizuno K , Tomimura M , Tanabe J<sup>1)</sup> , Seimiya K , Takano M , Yokoyama S<sup>1)</sup> , Ohba T<sup>1)</sup> , Uemura R<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院集中治療室 , <sup>2)</sup> 国立東静病院内科 ) : Visualized Plaque Debris as a Cause of Distal Embolization After Percutaneous Coronary Intervention in Patient With Unstable Angina . Catheterization and Cardiovascula Interventions 2002 ; 55 : 113-117 .
- 5) Sadoshima J<sup>1)</sup> , Montagne O<sup>1)</sup> , Wang Q<sup>1)</sup> , Yang Gui-P<sup>1)</sup> , Warden J<sup>1)</sup> , Liu J<sup>1)</sup> , Takagi G , Karoor Vijaya L<sup>1)</sup> , Hong C<sup>1)</sup> , Johnson G L<sup>1)</sup> , Vatner D E<sup>1)</sup> , Vatner S F<sup>1)</sup> : The MEKK1-JNK pathway plays a protective

role in pressure overload but does not mediate cardiac hypertrophy . Jurnal of Clinical Invest 2002 ; 110 : 271-279 .

- 6) Fujimori S , Kishida T , Uchida N , Ohiso G , Kotoyori M , Yoshizawa M , Matsumoto S<sup>1)</sup> , Tanaka N<sup>1)</sup> , Yamashita K<sup>1)</sup> , Sakamoto C<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>付属病院内科第3 ) : Changes in endoscopic findings of primary aortoduodenal fistula . Digestive Endoscopy 2002 ; 14 : 178-180 .
- 7) Fujimori S , Kishida T , Mitsui K<sup>3)</sup> , Yonezawa M<sup>3)</sup> , Nagato K<sup>3)</sup> , Shibata Y<sup>3)</sup> , Tanaka S<sup>3)</sup> , Tatsuguchi A<sup>3)</sup> , Sato J<sup>3)</sup> , Yokoi K<sup>1)</sup> , Tanaka T<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Sakamoto C<sup>3)</sup> , Kobayashi M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>同病理科 , <sup>3)</sup>内科第3 ) : Influence of Alcohol Consumption on the Association Between Serum Lipids and Colorectal Adenomas . Scand J Gastroenterol 2002 ; 37 : 1309-1312 .
- 8) Kim Song-J<sup>1)</sup> , Kim Young-K<sup>1)</sup> , Takagi G , Huang Cheng-H<sup>1)</sup> , Geng Yong-J<sup>1)</sup> , Vatner Stephan F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>UMDNJ-New Jersey Medical School ) : Enhanced iNOS Function in Myocytes One Day after Brief Ischemic Episode . American Journal of Physiology 2002 ; 282 : 423-428 .
- 9) Fujimori S , Kishida T , Mitsui K<sup>3)</sup> , Seo T<sup>3)</sup> , Yonezawa M<sup>3)</sup> , Shibata Y<sup>3)</sup> , Shinozawa I<sup>3)</sup> , Tanaka S<sup>3)</sup> , Tatsuguchi A<sup>3)</sup> , Sato J<sup>3)</sup> , Yokoi K<sup>1)</sup> , Tanaka N<sup>1)</sup> , Ohaki Y<sup>2)</sup> , Sakamoto C<sup>3)</sup> , Kobayashi M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 , <sup>2)</sup>同病理科 , <sup>3)</sup>内科第3 ) : Mean corpuscular volume ( MCV ) and the risk of colorectal adenoma in menopausal women . Hepato-Gastroenterology 2003 ; 50 : 392-395 .
- 10) Fujita M<sup>1)</sup> , Mizuno K , Ho M<sup>2)</sup> , Tsukahara R<sup>2)</sup> , Miyamoto A<sup>3)</sup> , Miki O<sup>4)</sup> , Ishii K<sup>5)</sup> , Miwa K<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>College of Medical Technology, Kyoto University , <sup>2)</sup>Division of Cardiology, Kawasaki Social Insurance Hospital , <sup>3)</sup>Division of Cardiology, Kawasaki Saiwai Hospital , <sup>4)</sup>Division of Cardiology, Nishi Saitama Chuo National Hospital , <sup>5)</sup>2nd Dept. of Internal Medicine, Kansai Electric Power Hospital ) : Sarpogrelate treatment reduces restenosis after coronary stenting . American Heart Journal 2003 ; 145 ( 3 ) : E16-19 .
- 11) Takano M , Seimiya K , Yokoyama S<sup>1)</sup> , Okamatsu K , Ishibashi F , Uemura R , Hata N<sup>1)</sup> , Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusho Emergency ) : Unique Single Coronary Artery with Acute Myocardial Infarction . Japanese Heart Journal 2003 ; 44 ( 2 ) : 271-276 .
- 12) 三品雅洋 , 駒場祐一 , 小南修史 , 水成隆之 , 小林士郎 , 大山雅史 , 片山泰朗 , 三谷和子 , 石井賢二 : [<sup>18</sup>F]FDG PET 画像の Jackknife 検定と健常者平均画像との差分画像 - 進行性核上性麻痺の検討 . 千葉核医学研究会誌 2002 ; 18 ( 1 ) : 23-27 .
- 13) 清宮康嗣 , 品田卓郎<sup>1)</sup> , 岡松健太郎 , 石橋史行 , 掃部弘行 , 大場崇芳<sup>1)</sup> , 横山真也<sup>1)</sup> , 富村正登 , 畑 典武<sup>1)</sup> , 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室 ) : 肺血栓塞栓に伴う重症肺高血圧に対する PGI<sub>2</sub> 製剤の効果 . 日本冠疾患学会雑誌 2002 ; 8 ( 2 ) : 65-68 .
- 14) 掃部弘行 , 岡松健太郎 , 水野杏一 : 冠動脈内視鏡にて複数のクレーター状のプラーク崩壊を認めた急性心筋梗塞例 . 日本冠疾患学会雑誌 2002 ; 8 ( 3 ) : 111-112 .
- 15) 水野杏一 : 不安定プラーク診断の最前線 . Heart View 2003 ; 2 ( 2 ) : 9-12 .
- 16) 水野杏一 , 中村治雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>財団法人三越厚生事業団 ) : 介入試験の企画と実際-CAG 東日本 Just Study . The Lipid 2003 ; 14 ( 1 ) : 38-44 .

## (2) 総説 :

- 1) 岡松健太郎 , 水野杏一 : 急性冠症候群再灌流療法 . 救急医学 ; ER における循環器疾患の管理 2002 ; 26 ( 10 ) : 1353-1363 .
- 2) 張 静<sup>1)</sup> , 水野杏一 ( <sup>1)</sup>留学生 ) : 高脂血症管理 心疾患 . 今月の治療 2002 ; 10 ( 11 ) : 52-54 .
- 3) 水野杏一 : 生活習慣病と冠動脈疾患 . Progress in Medicine 2003 ; 23 ( 1 ) : 63-67 .

## 著 書

- 1) 日野光紀, 工藤翔二: [共著] 肺癌の診断と治療 最新の研究動向 バクリタキセル. 日本臨床60巻 増刊号5, 2002; pp343-348, 日本臨床社.
- 2) 日野光紀, 工藤翔二: [共著] 呼吸器疾患専門医に聞く最新の治療. 第2版, 胸膜中皮腫の診断と治療, 2002; pp264-266, 中外医学社.
- 3) 掃部弘行, 水野杏一: [共著] 心筋梗塞の概念・定義. 新しい診断と治療のABC4 循環器1 心筋梗塞(高野照夫), 2002; pp9-18, 最新医学社.
- 4) 高野雅充, 水野杏一: [共著] 冠動脈内視鏡から学ぶこと. Coronary Intervention(光藤和明), 2002; pp28-32, 株式会社メジカルセンス.
- 5) 掃部弘行, 水野杏一: [共著] 血管内視鏡法. 心血管イメージング 新世代の診断法(玉木長良), 2002; pp22-29, メディカルビュー.
- 6) 水野杏一: [自著] 血管内視鏡検査. わかりやすい動脈硬化(寺元民生・桑島 徹), 2002; pp65-69, ライフサイエンス出版.
- 7) 水野杏一: [自著] 血管内視鏡. 内科学書2(島田 馨・朝倉 均), 2002; pp1197-1198, 中山書店.
- 8) 水野杏一: [自著] NMRスペクトロスコピー. 内科学書2(島田 馨・朝倉 均), 2002; pp1198-1198, 中山書店.
- 9) 山口 徹<sup>1)</sup>, 石川欽司<sup>2)</sup>, 一色高明<sup>3)</sup>, 井野隆史<sup>4)</sup>, 上松瀬勝男<sup>5)</sup>, 北村惣一郎<sup>6)</sup>, 住吉徹哉<sup>7)</sup>, 高野照夫<sup>8)</sup>, 茅野眞男<sup>9)</sup>, 野々木宏<sup>6)</sup>, 延吉正清<sup>10)</sup>, 平山治雄, 堀江俊伸, 幕内晴朗, 光藤和明, 本宮武司, 川副浩平, 白土邦男, 藤原久義, 川副浩平, 白土邦男, 藤原久義, 山崎 力, 水野杏一( <sup>1)</sup> 虎ノ門病院, <sup>2)</sup> 近畿大学, <sup>3)</sup> 帝京大学, <sup>4)</sup> 自治医科大学附属大宮医療センター, <sup>5)</sup> 日本大学, <sup>6)</sup> 国立循環器病センター, <sup>7)</sup> 榊原記念病院, <sup>8)</sup> 日本医科大学第一内科, <sup>9)</sup> 国立病院東京医療センター, <sup>10)</sup> 小倉記念病院, 名古屋第二赤十字病院, 埼玉県立循環器・呼吸器病センター, 倉敷中央病院, 大森赤十字病院, 岩手医科大学附属循環器医療センター, 東北大学大学院医学系研究科, 岐阜大学大学院医学研究科, 岩手医科大学附属循環器医療センター, 東北大学大学院医学系研究科循環器病態学, 岐阜大学大学院医学研究科再生医科学再生応用, 東京大学薬剤疫学講座): [共著] 循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2000-2001年度合同研究班報告) 急性冠症候群の診療に関するガイドライン. Circulation Journal, 2002; pp1123-1163, 社団法人日本循環器学会.
- 10) 水野杏一: [自著] 血栓溶解療法. Beyond Angiography 冠循環への新しいアプローチ(山口 徹・齊藤 穎), 2003; pp152-153, 南江堂.
- 11) 水野杏一: [自著] 生活習慣病と冠動脈疾患. Progress in Medicine, 2003; pp63-67, ライフサイエンス.
- 12) 張 静<sup>1)</sup>, 水野杏一( <sup>1)</sup> 留学生): [共著] 4S Scandinavian Simvastatin Survival Study. NAVIGATOR 高脂血症ナビゲーター(山田信博・石橋 俊・代田浩之), 2003; pp196-197, メディカルビュー社.
- 13) 水野杏一: [自著] 血管冠病変の検査: 血管内視鏡. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴(上松瀬勝男), 2003; pp8-9, 中山書店.
- 14) 水野杏一: [自著] 不安定狭心症の抗凝血療法. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴(上松瀬勝男), 2003; pp50-51, 中山書店.
- 15) 水野杏一: [自著] 異型狭心症の薬物療法. 狭心症の治療(安定, 不安定を含む)50(上松瀬勝男), 2003; pp52-53, 中山書店.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) Takagi G, Takagi I<sup>1)</sup>, Kim Song Jung R<sup>2)</sup>, Kudej aymond K<sup>2)</sup>, Yang Gui-P<sup>2)</sup>, Karoor Vijaya L<sup>2)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>2)</sup>, Vatner Stephen F<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> The 1st Dept. of Medicine Nippon Medical School): iNOS Regulates

Diastolic Dysfunction in the Development of Heart Failure . 第 67 回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

- 2) 稲見茂信, 高野雅充, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室)</sup>: 冠動脈内視鏡所見とステント再狭窄 . 第 8 回日本血管内治療学会 , 2002 . 7 .
- 3) 岡松健太郎, 稲見茂信, 石橋史行, 高野雅充, 清宮康嗣, 掃部弘行, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高木 元, 酒井俊太, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室)</sup>: 血管内視鏡と血管内エコーを用いたプラーク破綻の内的要因と外的要因の評価 . 第 16 回日本心臓血管内視鏡学会総会 , 2002 . 10 .
- 4) 酒井俊太, 清宮康嗣, 高野雅充, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 高木 元, 水野杏一: エバンブルー染色血管内視鏡: 冠攣縮性狭心症における検討 . 第 16 回日本心臓血管内視鏡学会総会 , 2002 . 10 .
- 5) 水野正之<sup>2)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 高野雅充, 石橋史行, 酒井俊太, 水野杏一<sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>同中央画像検査室)</sup>: ACS における IVUS plaque 像解析と STENT 再狭窄 . 第 21 回日本心臓血管インターベンション学科学科 , 2002 . 10 .

(2) パネルディスカッション :

- 1) 岡松健太郎, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 掃部弘行, 高木 元, 酒井俊太, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室)</sup>: Therapeutic interventions based on angioscopic findings . 第 16 回日本冠疾患学会総会 , 2002 . 12 .

(3) ランチョンセミナー :

- 1) 酒井俊太, 水野杏一: 血管内視鏡から見たステントによる急性心筋梗塞責任病変の黄色プラークの変化 . 第 16 回日本心臓血管内視鏡学会総会 , 2002 . 10 .
- 2) 小川友裕, 村井綱児, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行 , 清宮康嗣, 高木 元, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一, 高野照夫<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>内科第 1)</sup>: 亜急性期にプラーク破綻像を血管内視鏡, IVUS で観察した 1 例 . 第 21 回日本心臓血管インターベンション学会総会 , 2002 . 10 .
- 3) 水野杏一: Vulnerable Plaque にどこまでせまれるか . 第 43 回日本脈管学会総会 , 2002 . 11 .

(4) 一般講演 :

- 1) Wang M<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>2)</sup>, Natividad Filipinas F<sup>1)</sup>, Lakatta Edward G<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>不明, <sup>2)</sup>UMDNJ, New Jersey Medical School)</sup>: Altered Matrix Metalloprotease - 2 Regulation and Tissue Angiotensin and Age - Associated Aortic Remodeling In Non-Human Primates . 3rd Annual Conference on Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology ( Salt Lake City ), 2002 . 5 .
- 2) Mishina M, Senda M, Kiyosawa M, Ishiwata K, Volder Anne G D, Nakano H, Toyama H, Oda K, Kimura Y, Ishii K, Sasaki T, Ohyama M, Komaba Y, Kobayashi S, Kitamura S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>(<sup>1)</sup>付属病院)</sup>: Normal distribution of GABA<sub>A</sub> receptor in visual cortex of early onset blindness . The 49th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Los Angeles ), 2002 . 6 .
- 3) Mishina M, Ohyama M, Ishii K, Mitani K, Komaba Y, Ishiwata K, Kobayashi S, Kitamura S, Katayama Y, Senda M : Statistical Parametric Mapping for Cerebral Metabolism of Glucose and Clinical Symptoms in Progressive Supranuclear Palsy . 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 4) Ohyama M, Ishiwata K, Ishii K, Mishina M, Kitamura S, Kawamura K, Kimura Y, Sasaki T, Oda K, Mitani K, Katayama Y<sup>(<sup>1)</sup>付属病院)</sup>: The First Evaluation of Sigma1 Receptors in Patients with Alzheimer's Disease Using PET and a Newly Developed Ligand : 11C SA4503 . The 49th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting ( Los Angeles ), 2002 . 6 .
- 5) Ohta Y, Nariai T, Ishii K, Ishiwata K, Mishina M, Ohno K : Voxel Based and ROI Based Statistical



- Analysis of PET Parameters as Guides for Surgical Treatment of Intractable Mesial Temporal Lobe Epilepsy . 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain, ( Sendai ), 2002 . 6 .
- 6) Ishii K , Nakamura M , Nariai T , Mishina M , Ohyama M , Oda K , Ishiwata K : Functional Anatomy of Crossed Cerebellar Diaschisis . 8th International Conference on Functional Mapping of the Human Brain ( Sendai ), 2002 . 6 .
  - 7) Yan L<sup>1)</sup> , Li H<sup>1)</sup> , Ge H<sup>1)</sup> , Takagi G , Lieber S<sup>1)</sup> , Asai K<sup>1)</sup> , Natividad Filipinas F<sup>1)</sup> , Vatner Stephen F<sup>2)</sup> , Vatner Dorothy E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>不明 , <sup>2)</sup>UMDNJ, New Jersey Medical School ): A Proteomic Mechanism to Explain Gender Differences in  $\alpha$ -Adrenergic Receptor Desensitization in Aging Monkeys . American Heart Association 75th Scientific Sessions ( Chicago ), 2002 . 11 .
  - 8) Soma T , Hino M , Tanaka Y , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Respiratory Disease Center , <sup>2)</sup>Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Treatment Of Acute Bronchospasm With Noninvasuve Pressure Ventilation ( NIPPV ). Annual meeting of American Thoracic Society , 2002 . 1 .
  - 9) Hino M , Kobayashi K , Takenaka K , Takeda Y , Gemma A , Shibuya M , Yoneda S , Kudoh S ( <sup>1)</sup>The East Japan Chesters Group ( EJCG ): WEEKLY ADMINISTRATION OF IRINOTECAN ( CPT-11 ) PLUS CISPLATIN ( CDDP ) FOR NON-SMALL CELL LUNG CANCER ( NSCLC ). American Society of Clinical Oncology Thirty-Eighth Annual Meeting Thirty-Eighth Annual Meeting , 2002 . 5 .
  - 10) Ono Y , Hino M , Narato R , Tanaka Y , Uehara T , Soma T , Kokubo Y , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Respiratory Disease Center , <sup>2)</sup>Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): Phase 1 study of Paclitaxel, carboplatin, and UFT in chemo-naive patients with advanced non-small-cell lung cancer ( NSCLC ). American Society of Clinical Oncology Thirty-Eighth Annual Meeting , 2002 . 5 .
  - 11) Tanaka Y , Hino M , Soma T , Kudoh S ( <sup>1)</sup>Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Respiratory Disease Center , <sup>2)</sup>Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ): A NEW INDEX TO EVALUTE THE PHYSICAL STATUS OF PATIENTS WITH CHRONIC RESPIRATORY DISEASE . Annual meeting of American Thoracic Society , 2003 . 1 .
  - 12) 日野光紀<sup>1)</sup>, 樫戸律子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 杣知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 小野靖<sup>1)</sup>, 嶋崎千壽<sup>2)</sup>, 柳下照子<sup>2)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター , <sup>2)</sup>同院内感染症対策委員会 ): 14印環マクロライド長期少量持続投与中の慢性呼吸器疾患患者の鼻腔由来ブドウ球菌の耐性化について . 第18回環境感染学会総会 , 2002 . 1 .
  - 13) 日野光紀<sup>1)</sup>, 柳下照子<sup>2)</sup>, 嶋崎千壽<sup>2)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター , <sup>2)</sup>同院内感染症対策委員会 ): 14印環マクロライド長期少量持続投与中の慢性呼吸器疾患患者の鼻腔由来ブドウ球菌の耐性化について . 第107回日本医科大学医学会地方会 , 2002 . 1 .
  - 14) 樫戸律子 , 日野光紀 , 吉川栄省 , 小野靖 , 小久保豊 , 杣知行 , 田中庸介 , 上原隆志 , 工藤翔二 : Cancer Dyspnea Scale ( CDS ) を用いた慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸困難感の評価 . 第107回日本医科大学医学会例会 , 2002 . 5 .
  - 15) 竹内雅文 , 小野瀬裕之 , 江本直也 , 近藤幸壽 , 三浦剛史 , 川俣博志 : 頻回の妊娠中毒症の既往をもつ原発性アルドステロン症の1例 . 第12回臨床内分泌代謝 , 2002 . 3 .
  - 16) 三品雅洋 , 駒場祐一 , 水成隆之 , 小林士郎 , 片山泰朗 , 寺本明 : エダラボン使用により脳塞栓の出血性変化は減少するか . 第27回日本脳卒中学会総会 , 2002 . 4 .
  - 17) 三品雅洋 , 駒場祐一 , 小南修史 , 水成隆之 , 小林士郎 , 大山雅史 , 片山泰朗 , 三谷和子 , 石井賢二 : [18F] FDG PET 画像のJackknife検定と健常者平均画像との差分画像 : 進行性核上性麻痺の検討 . 第35回千葉核医学研究会 , 2002 . 4 .

- 18) 駒場祐一, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明: 若年性脳梗塞におけるその特徴の検討. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 19) 渡辺めぐみ, 三品雅洋, 駒場祐一, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明: ヘパリン使用時のearly CT signと脳塞栓出血性変化の関係についての検討. 第27回日本脳卒中学会総会, 2002. 4.
- 20) 日野光紀, 榎戸律子, 田中庸介, 上原隆志, 柚 知行, 小久保豊, 小野 靖, 工藤翔二: 14員環マクロライド長期少量持続投与中の慢性呼吸器疾患患者の鼻腔由来ブドウ球菌の体制化について. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 21) 榎戸律子, 日野光紀, 吉川栄省, 田中庸介, 上原隆志, 柚 知行, 小久保豊, 小野 靖, 工藤翔二: Cancer Dyspnea Scale (CDS) を用いた慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸困難感の評価. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 22) 田中庸介, 日野光紀, 榎戸律子, 柚 知行, 小久保豊, 小野 靖, 工藤翔二: 慢性呼吸器疾患の呼吸不全病態の具体的スコアリング化の検討. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 23) 吉川栄省, 榎戸律子, 日野光紀, 橋場由紀, 田中庸介, 上原隆志, 柚 知行, 小久保豊, 小野 靖, 工藤翔二: 慢性呼吸器疾患におけるうつ病との関連因子とQOL. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 24) 柚 知行, 日野光紀, 榎戸律子, 田中庸介, 上原隆志, 小久保豊, 小野 靖, 川口直義, 谷内七三子, 工藤翔二: 軽症中等症喘息患者に対するオノン, テオドール比較試験, 第1報. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 25) 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 谷内七三子<sup>1)</sup>, 川口直義<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 内科第4): 原発性非小細胞肺癌に対するCBDCA+Paclitaxel+UFT併用療法の第1相試験. 第42回日本呼吸器学会総会, 2002. 4.
- 26) 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 同院内感染症対策委員会, <sup>3)</sup> 内科第4): 医療関係者によるツベルクリン反応自己計測の試み. 第77回日本結核病学会総会, 2002. 4.
- 27) 藤森俊二, 岸田輝幸, 関田祥久<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 永田和弘<sup>1)</sup>, 柴田喜明<sup>1)</sup>, 篠沢功<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤 順<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 内科第3, <sup>2)</sup> 千葉北総病院外科): 常習飲酒者の大腸腺腫の有無と血清総コレステロールとの関係に対する検討. 第88回日本消化器病学会総会, 2002. 4.
- 28) 平出智晴: Bickerstaff型脳幹脳炎で発症し遷延型Guillain-Barre症候群を呈したIgM抗GM<sub>1</sub>抗体長期陽性例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 29) 三品雅洋: [C-11]SA4305 PETを用いたパーキンソン病におけるsigma: 1受容体分布Preliminary Study. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 30) 三品雅洋, 駒場祐一, 小林士郎, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二: 進行性核上性麻痺の脳ブドウ糖代謝と症状の関係: SPM99を用いた検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 31) 大山雅史, 三品雅洋, 北村 伸, 片山泰朗, 三谷和子, 石渡喜一, 石井賢二, 木村裕一, 織田圭一: シグマ受容体リガンド<sup>11</sup>C-SA4503によるアルツハイマー病への臨床応用. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 32) 駒場祐一, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明: 若年性脳梗塞におけるその部位・背景の検討. 第43回日本神経学会総会, 2002. 5.
- 33) 小野瀬裕之, 江本直也, 及川眞一: p s-201 BMIの変化率と代謝因子. 第45回日本糖尿病学会年次学術集会, 2002. 5.
- 34) 上原隆志, 日野光紀, 小野 靖, 小久保豊, 柚 知行, 田中庸介, 榎戸律子, 河村 堯, 大秋美治: 漿膜炎で発症した卵管結核の1例(子宮結核との比較を加えて). 第141回日本結核学会関東地方会, 2002. 5.
- 35) 鈴木雄一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 富村正登, 野村敦宣, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 右冠動脈入口部にCutting Balloon Angioplasty施工

- 後に螺旋状解離が右冠動脈全体に及んだ1例．第20回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，2002．5．
- 36) 小川友裕，野村敦宣，村井綱児，鈴木 雄一朗<sup>2)</sup>，稲見茂信，石橋史行，岡松健太郎，清宮康嗣，掃部弘行，高野雅充，富村正登，小原俊彦<sup>1)</sup>，佐野純子，水野杏一<sup>(1)千葉北総病院集中治療室，<sup>2)</sup>内科第1)</sup>: デジタル12誘導ホルター心電図にて特異なST-T形態の日内変動を証明したBrugada症候群の1例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．
- 37) 三品雅洋：ラクナ梗塞．第4回脳卒中勉強会，2002．6．
- 38) 江本直也，城所 葉，小野瀬裕之，杉原 仁，清水一雄，及川眞一，豊田亜希子，豊田英尚：高感度微量解析法を用いた甲状腺乳頭癌で消失しているFGF-2結合性ヘパラン硫酸の構造解析．第75回日本内分泌学会学術総会，2002．6．
- 39) 柚 知行，日野光紀，榎戸律子，小野 靖，小久保豊，田中庸介，上原隆志，工藤翔二：気管支生検にて診断したBronchoretaの1例．日本気管支学会関東地方会，2002．7．
- 40) 榎戸律子，日野光紀，小野 靖，柚 知行，田中庸介，上原隆志，吉岡央子，高橋陽子：抗Jo-1抗体陰性のPM/DMに合併した間質性肺炎の急性増悪の1例．呼吸器学会関東地方会，2002．7．
- 41) 日野光紀<sup>1)</sup>，吉岡央子<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小久保豊<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター): 呼吸器器疾患患者に対するマクロライド少量持続投与の*Helicobacter pylori*感染に対する影響．第9回マクロライド新作用研究会，2002．7．
- 42) 森本耕三<sup>1)</sup>，小野啓資<sup>1)</sup>，武村 明<sup>1)</sup>，榎本達治<sup>1)</sup>，弦間明彦<sup>1)</sup>，吾妻安良太<sup>1)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，中溝宗永<sup>2)</sup>，八木聡明<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>3)</sup>，中山智子<sup>3)</sup>，福田 悠<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第4，<sup>2)</sup>耳鼻咽喉科学，<sup>3)</sup>病理学): 頸部CTで発見され，気管支鏡下生検にて線維性組織球腫 (fibrous histiocytoma) が疑われた気管腫瘍の1例．呼吸器学会関東地方会，2002．7．
- 43) 掃部弘行，稲見茂信，高野雅充，岡松健太郎，石橋史行，清宮康嗣，佐野純子，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑 典武<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>(1)千葉北総病院集中治療室</sup>): 冠動脈内視鏡を用いた急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法の有用性の検討．第8回日本血管内治療学会，2002．7．
- 44) 鈴木正彦，石井賢二，三谷和子，石渡喜一，三品雅洋：パーキンソン病における節前・節後ドーパミン機能の相関的解析：voxel based analysis．第2回パーキンソン病フォーラム，2002．8．
- 45) 掃部弘行，清宮康嗣，岡松健太郎，石橋史行，稲見茂信，高野雅充，酒井俊太，水野杏一：冠動脈内視鏡による急性心筋梗塞における発症12時間以内と12時間以降の血栓の性状の比較検討．第11回日本集中治療学会，2002．8．
- 46) 岡村正哉，三品雅洋，小南修史，福地孝明，水成隆之，小林士郎：脳出血を繰り返した静脈洞血栓症の1例．第50回東葛地区脳神経外科研究会，2002．9．
- 47) 北村和広<sup>1)</sup>，上田有香<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，田中庸介<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター，<sup>2)</sup>同病理部): 胸膜原発が疑われた胚細胞性腫瘍の1例．東葛肺癌研究会，2002．9．
- 48) 田中庸介<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，北村和宏<sup>1)</sup>，榎戸律子<sup>1)</sup>，上原隆志<sup>1)</sup>，柚 知行<sup>1)</sup>，小野 靖<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター，<sup>2)</sup>同病理部): 肺内plasmacell granulomaの外來経過観察中に眼窩への同病変の出現，及びPrimary sclerosing cholangitis (PSC)を合併した1例．呼吸器学会関東地方会，2002．9．
- 49) 村井綱児<sup>1)</sup>，小川 紅<sup>2)</sup>，鈴木雄一郎<sup>2)</sup>，小川友裕，稲見茂信，石橋史行，岡松健太郎，掃部弘行，清宮康嗣，高野雅充，横山真也<sup>1)</sup>，野村敦宣，佐野純子，畑 典武<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>(1)千葉北総病院集中治療室，<sup>2)</sup>内科第1)</sup>: 急性冠症候群責任病変部のプラーク破綻像が血管内視鏡上クレーター状に，血管内超音波上空洞状に認められた1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第185回学術集会，2002．9．
- 50) 掃部弘行，岡松健太郎，清宮康嗣，石橋史行，稲見茂信，横山真也<sup>1)</sup>，大場崇芳<sup>1)</sup>，高野雅充，今泉孝敬<sup>1)</sup>，畑

- 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 急性心筋梗塞における血栓溶解療法の有用性. 冠動脈内視鏡による検討. 第50回日本心臓病学会学術集会, 2002. 9.
- 51) 稲見茂信, 小川友裕, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 野村敦宣, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 無症候性プラーク破綻における急性冠症候群と安定虚血性疾患との差異. 第50回日本心臓病学会学術集会, 2002. 9.
- 52) 劉 春玲, 北村 伸, 三品雅洋, 山室 学, 宗像一雄: ハンチントン舞蹈病の1例: 画像所見について. 第6回 Neurology SPECT 定量検討会, 2002. 10.
- 53) 三品雅洋: パーキンソン症候群とPET. 第6回 Neurology SPECT 定量検討会, 2002. 10.
- 54) 張 静<sup>1)</sup>, 石橋史行, 岡松健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 掃部弘行, 佐野純子, 酒井俊太, 横山真也<sup>3)</sup>, 高野雅充, 上村竜太<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>留学生, <sup>2)</sup>国立東静岡病院内科, <sup>3)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院集中治療室): なぜ高齢者に急性冠症候群は多いのか?. 第16回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2002. 10.
- 55) 掃部弘行, 高野雅充, 清宮康嗣, 岡松 健太郎, 石橋史行, 稲見茂信, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室): 冠動脈内視鏡による急性心筋梗塞における発症12時間以内と12時間以降の血栓の性状の比較検討. 第16回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2002. 10.
- 56) Takagi G, Kudeji Raymond K<sup>2)</sup>, Shen You-T<sup>2)</sup>, Takagi I<sup>1)</sup>, Gaussin V<sup>2)</sup>, Karoor Vijaya L<sup>2)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>3)</sup>, Vatner Stephen F<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>1st Dept. of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>不明, <sup>3)</sup>UMDNJ, New Jersey Medical School): 加齢時における心血管 レセプター伝導系に対する性差の役割. 千葉研究会, 2002. 10.
- 57) 三品雅洋, 大山雅史, 石井賢二, 石渡喜一, 織田圭一, 河村和紀, 木村裕一, 佐々木徹, 小林士郎, 北村 伸, 片山泰朗: SPM99を用いた老年変性疾患のFDG PET 画像解析における加齢変化の除去: age matchとANCOVA. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 58) 大山雅史, 石井賢二, 三品雅洋, 三谷和子, 北村 伸, 織田圭一, 木村裕一, 河村和紀, 佐々木徹, 片山泰朗, 石渡喜一: アルツハイマー病におけるシグマ受容体リガンド11C-SA4503と糖代謝の関係. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 59) 石井賢二, 三品雅洋, 鈴木正彦, 三谷和子, 織田圭一, 木村裕一, 河村和紀, 佐々木徹, 石渡喜一: パーキンソン病における節前・節後ドーパミン機能の相関的解析: voxel based analysis. 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.
- 60) 江本直也, 城所 葉, 芦澤真代, 小野瀬裕之, 清水一雄, 及川眞一, 豊田垂希子, 豊田英尚: Basedow病甲状腺におけるサイログロブリンのコンドロイチン硫酸鎖の特異性. 第45回日本甲状腺学会, 2002. 11.
- 61) 日野光紀<sup>1, 2)</sup>, 大久保照義<sup>2)</sup>, 高橋徳雄<sup>2)</sup>, 北村和広<sup>2)</sup>, 榎戸律子<sup>2)</sup>, 上原隆志<sup>2)</sup>, 田中庸介<sup>2)</sup>, 柚 知行<sup>2)</sup>, 小野 靖<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>協栄会大久保記念病院, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, <sup>3)</sup>同病理部): CT下針生検が診断に有用であった陳旧性膿胸原発悪性リンパ腫の1例. 呼吸器病学会関東地方会, 2002. 11.
- 62) 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同病理部): 副腎クリーゼ, 不顕性尿崩症を呈した肺扁平上皮癌の1例. 第135回日本肺癌学会関東部会, 2002. 12.
- 63) 掃部弘行, 高野雅充, 清宮康嗣, 岡松健太郎, 石橋史行, 稲見茂信, 酒井俊太, 高木 元, 小川友裕, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>2)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>内科第1): 冠動脈内視鏡を用いた梗塞責任病変の性状診断による急性心筋梗塞における血栓溶解療法の有用性の検討. 第16回日本冠疾患学会, 2002. 12.
- 64) 稲見茂信, 小川友裕, 張 静<sup>2)</sup>, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 高木 元, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>留学生): Chlamydia pneumoniaeの感染が血漿中酸化LDL濃度に及ぼす影響. 第16回日本冠疾患学会, 2002. 12.

- 65) 清宮康嗣, 高野雅充, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 高木 元, 酒井俊太, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): 冠攣縮性狭心症における内皮障害の診断: エバンスブルー染色を用いて. 第16回日本冠疾患学会, 2002. 12.
- 66) 張 静<sup>1)</sup>, 石橋史行, 岡松健太郎, 稲見茂信, 小川友裕, 高木 元, 清宮康嗣, 掃部弘行, 佐野純子, 酒井俊太, 水野杏一<sup>(1)</sup> (留学生): 不安定冠動脈プラークの形成と冠危険因子の関係 血管内視鏡による検討. 第16回日本冠疾患学会, 2002. 12.
- 67) 三船俊英, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高木 元, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一: 血管内視鏡をガイダンスとして冠動脈インターベンションを行った急性冠症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第186回学術集会, 2002. 12.
- 68) 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 岩本将人<sup>1)</sup>, 阿部 新<sup>1)</sup>, 三船俊英<sup>1)</sup>, 徳山権一<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 野村敦宣, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): Timolol点眼薬が徐脈並びにうつ血性心不全の誘因と考えられた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第186回学術集会, 2002. 12.
- 69) 掃部弘行, 高野雅充, 清宮康嗣, 岡松健太郎, 石橋史行, 稲見茂信, 横山真也<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): 冠動脈内視鏡による急性心筋梗塞における発症12時間以内と12時間以降の血栓の性状の比較検討. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003. 1.
- 70) 張 静, 石橋史行, 岡松健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 掃部弘行, 佐野純子, 酒井俊太, 横山真也<sup>1)</sup>, 高野雅充, 上村竜太<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 国立東静病院): 不安定冠動脈プラークの形成と冠危険因子の関係: 血管内視鏡による検討. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003. 1.
- 71) 清宮康嗣, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 高木 元, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子, 畑 典武<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室): プラーク内容物流出後病変を伴った急性心筋梗塞2症例: PCIの必要性について. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003. 1.
- 72) 水野正之<sup>3)</sup>, 三輪宗史<sup>3)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 高野雅充, 石橋史行, 酒井俊太, 笠原佳子<sup>2)</sup>, 水野杏一, 川村義彦<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 同看護部, <sup>3)</sup> 同中央画像検査室): IVUSを用いたAMI症例のSTENT再狭窄予測の試み. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003. 1.
- 73) 小川友裕, 野村敦宣, 村井綱児<sup>1)</sup>, 鈴木雄一朗<sup>2)</sup>, 稲見茂信, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 掃部弘行, 高野雅充, 富村正登, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 佐野純子, 水野杏一<sup>(1)</sup> (千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 付属病院第一内科): デジタル12誘導ホルター心電図にてST-T形態の特異な日内変動を証明しえたBrugada症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2003. 2.
- 74) 三品雅洋, 駒場祐一, 田中伸幸, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明<sup>(1)</sup> (付属病院): エダラボン使用による心原性脳塞栓の出血性変化: ロジスティック回帰分析を用いた検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 75) 三品雅洋: ラクナ梗塞におけるヘパリン・グリセロール・オザグレールとエダラボン併用の効果. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 76) 駒場祐一, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗: 皮質梗塞患者におけるcrossed cerebral diaschisis: 交絡因子をコントロールしたlogistic解析による検討. 第28回日本脳卒中学会総会, 2003. 3.
- 77) 日野光紀<sup>1)</sup>, 吉川栄省<sup>2)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 国立がんセンター研究所支所精神腫瘍学研究室, <sup>3)</sup> 日本医科大学内科学第4): 慢性呼吸器疾患に伴ううつ病とその関連因子及び呼吸器内科外来への影響. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- 78) 日野光紀<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 内科学第4): 院内肺炎ガイドライン・エンピリック治療の抗菌薬選択の検証. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.

- 79) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科第4): 慢性閉塞性肺疾患患者の運動耐容能評価の指標としての血漿乳酸値の検討. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- 80) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>2)</sup>, 武内浩一郎<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>3)</sup>日本医科大学内科第4): 慢性閉塞性肺疾患患者の病態, 特に運動耐容能評価の新たな指標としてのドップラー心臓超音波検査の検討. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- 81) 上原隆志<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科第4): 顕微鏡的多発性血管炎とChurg-Strauss症候群の呼吸器症状・合併症. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- 82) 小野 靖<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚知行<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科第4): 当院におけるGefitinib (IRESSA) の治療経験. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- 83) 北村和広<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 上山雅子<sup>1)</sup>, 森本耕三<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>内科第4): 原発性非小細胞肺癌に対するCBDCA+Paclitaxel+UFT併用療法の第1, 2相試験. 第43回呼吸器学会総会, 2003. 3.
- (5) 21世紀の脈管学を担う青年医師の研究:
- 1) 稲見茂信, 水野杏一, 馬 淑梅<sup>1)</sup>, 孫 亜清<sup>1)</sup>, 張 静<sup>1)</sup>, 石橋史行, 岡松健太郎, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也<sup>2)</sup>, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 上村竜太<sup>3)</sup>, 野村敦宣, 酒井俊太, 佐野純子(<sup>1)</sup>留学生, <sup>2)</sup>日本医科大学付属千葉北総病院集中治療室, <sup>3)</sup>国立東静岡病院内科): 虚血性心疾患における無症候性ブランク破綻の規定因子と臨床的意義. 第43回日本脈管学会総会, 2002. 11.
- (6) Angiography & Interventional Cardiology:
- 1) Uemura R<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>Tohsei National Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Pathology Chiba Hokushoh Hospital Nippon Medical School): Impact of Plaque Composition on Arterial Remodeling: Comparison Between Atherectomy Tissue and Intravascular Untrasound. Hiromi Kanazawa (Chicago), 2003. 3.
- (7) Basic Science:
- 1) Takagi G, Okumura S<sup>1)</sup>, Kawabe J<sup>1)</sup>, Hong C<sup>1)</sup>, Yang G<sup>1)</sup>, Meguro T<sup>1)</sup>, Takagi I<sup>3)</sup>, Yatani A<sup>1)</sup>, Gaussin V<sup>1)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>1)</sup>, Sadoshima J<sup>1)</sup>, Homcy Charles J<sup>2)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Vector Stephen F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UMDNJ-New Jersey Medical School, <sup>2)</sup>Millennium Boston, <sup>3)</sup>The 1st Dept. of Medicine Nippon Medical School): Adenylyl Cyclase Type 5 Disruption Preserves Cardiac Function in Response to Pressure Overload. Scientific Sessions 2002 (Chicago), 2002. 11.
- 2) Okumura S<sup>1)</sup>, Kawabe J<sup>1)</sup>, Takagi G, Lee Ming-C<sup>1)</sup>, Hong C<sup>1)</sup>, Liu J<sup>1)</sup>, Honda R<sup>1)</sup>, Takagi I<sup>3)</sup>, Yatani A<sup>1)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>1)</sup>, Homcy Charles J<sup>2)</sup>, Vatner Stephen F<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UMDNJ - New Jersey Medical School, <sup>2)</sup>Millennium Pharmaceuticals Inc., <sup>3)</sup>The 1st Dept. of Medicine Nippon Medical School): -Adrenergic, Muscarinic and Calcium-Mediated Regulation of the Heart; Effects of Target Disruption of Type 5 Adenylyl Cyclase Gene. Scientific Sessions 2002 (Chicago), 2002. 11.
- 3) Yatani A<sup>1)</sup>, Takagi G, Honda R<sup>1)</sup>, Kim Song-J<sup>1)</sup>, Xiang G<sup>1)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>1)</sup>, Vatner S<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UMDNJ-New Jersey Medical School): Downregulation of L-Type Ca<sup>2+</sup>Channels as Protective Mechanism for the Denervated Failing Heart. Scientific Sessions 2002 (Chicago), 2002. 11.
- 4) Zhang Q<sup>1)</sup>, Li J<sup>1)</sup>, Yatani A<sup>1)</sup>, Hong C<sup>1)</sup>, Diaz G<sup>1)</sup>, Kim Young K<sup>1)</sup>, Takagi G, Vatner Dorothy E<sup>1)</sup>, Kim Song J<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UMDNJ, New Jersey Medical School): Calcineurin Activity Regulates Cardiac Contractile Func-

tion in Rats in the Absence of Hypertrophy . Scientific Sessions 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .

( 8 ) Basic Science :

- 1) DePre C<sup>1)</sup>, Tomlinson James E<sup>2)</sup>, Takagi G , Anna Z<sup>1)</sup>, Wang L<sup>1)</sup>, Thompson E<sup>1)</sup>, Toper James N<sup>2)</sup>, Gaussin V<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>UMDNJ-New Jersey Medical School , <sup>2)</sup>Millennium Pharmaceuticals Inc. ): Novel Pattern of Pro-Apoptotic Genes Expression during the Transition from Hypertrophy to Failure in Dogs with Chronic Pressure Overload . Scientific Sessions 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .

( 9 ) Clinical Science :

- 1) Fujita M<sup>1)</sup>, Mizuno K , Ho M<sup>2)</sup>, Kunihisa M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Kyoto Univ. College of Medicine , <sup>2)</sup>Kawasaki Social Insurance Hospital , <sup>3)</sup>Kansai Electric Power Hospital ): "Sarpogrelate an Antagonist of 5-HT<sub>2A</sub> Receptor . Scientific Sessions 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 2) MacNeill Brian D<sup>1)</sup>, A Shaw J<sup>1)</sup>, Yabushita H<sup>1)</sup>, DeJoseph D<sup>1)</sup>, Jayfnab C<sup>1)</sup>, Tearney Guillermo J<sup>1)</sup>, Bouma Brett E<sup>1)</sup>, Dart Anthony M<sup>2)</sup>, Kyoichi M , Jang IK-K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>MA Gen Hospital , <sup>2)</sup>Baker Medical Research Institute ): Lipid Rich Plaques Display Greater Vessel Distensibility than Fibrous Plaques : A Combined Optical Coherence Tomography and Intravascular Ultrasound Study . Scientific Sessions ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 3) Ishibashi F , Mizuno K , Takano M , Kamon H , Seimiya K , Uemura R<sup>1)</sup>, Okamatsu K , Inami S , Ohba T<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Tohsei National Hospital , <sup>2)</sup>Hokusho Emergency ): C-Reactive Protein Levels Correlate with Coronary Plaque Vulnerability . Scientific Sessions 2002 ( Chicago ), 2002 . 11 .
- 4) Ishibashi F , Mizuno K , Takano M , Uemura R<sup>1)</sup>, Sakai S , Seimiya K , Kamon H , Okamatsu K , Inami S (<sup>1)</sup>Tosei National Hospital ): Angiographic Coronary Yellow Plaques Can Predict the Future Adverse Clinical Events in Patients with Ischemic Heart Disease . Scientific Sessions 2002 , 2002 . 11 .

( 10 ) Featured Research Session :

- 1) Mizuno K : Predictors of progression of coronary atherosclerosis-Japanese utilization of Simvastatin therapy ( JUST STUDY ). 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 2) Asai K<sup>1)</sup>, Takagi G , Kamiya M<sup>1)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Tohsei National Hospital , <sup>2)</sup>The 1st Dept. of Medicine Nippon Medical School ): Gender and Aging Difference in Baroreflex Sensitivity in Healthy Monkeys . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

( 11 ) Morning Lecture 61 :

- 1) Mizuno K : Intravascular Ultrasound : How We Could Utilize It in the Treatment of Coronary Artery Disease . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

( 12 ) Oral Presentation ( English ) :

- 1) Sakai S , Chaitman Bernard R<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>St. Louis University School of Medicine ): Predicting Six-Month Mortality in Acute Coronary Syndromes : Result from the GUARDIAN Trial . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .

( 13 ) Oral Presentation ( Japanese ) :

- 1) Inami S , Ogawa T , Ishibashi F , Okamatsu K , Kamon H , Seimiya K , Takano M , Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>2)</sup>, Nomura A , Sakai S , Sano J , Mizuno K (<sup>1)</sup>Hokusho Emergency , <sup>2)</sup>Tohsei National Hospital ): Are Multiple Plaque Disruptions More Common in Patients With Acute Coronary Syndrome Than in Patients With Stable Ischemic Heart Disease? American College of Cardiology 52nd Annual Scientific Session ( Chicago ), 2003 . 3 .
- 2) Takano M , Ishibashi F , Okamatsu K , Seimiya K , Kamon H , Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Tomimura M , Uemura R<sup>2)</sup>, Sakai S , Nomura A , Sano J , Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>Hokusho Emergency , <sup>2)</sup>Tohsei Na-

- tional Hospital ): Novel Method to Detect Endothelial Injury in Patients with Vasospastic Angina : Evans Blue Dye . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 3) Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hoshino K<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Matsumori A<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusoh Emergency , <sup>2)</sup> 京都大学大学院循環器学 ): Clinical Significance of Hepatocyte Growth Factor in Acute Coronary Syndrome . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 4) Okamatsu K , Inami S , Kamon H , Seimiya K , Ishibashi F , Takagi G , Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba Takayoshi <sup>1)</sup>, Sakai S , Nomura A , Sano J , Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusoh Emergency ) : Angioscopic Findings in Patients with Non-ST Elevation Acute Coronary Syndromes ( NSTEMI-ACS ) According to Troponin T States . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 5) Inami S , Ogawa T , Ishibashi F , Okamatsu K , Kamon H , Seimiya K , Takano M , Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Takagi G , Nomura A , Sakai S , Sano J , Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusoh Emergency ) : Acute Coronary Syndrome Is Not a Local Vascular Accident but a Pancoronary Process . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 6) Seimiya K , Takano M , Inami S , Okamatsu K , Kamon H , Sakai S , Nomura A , Sano J , Mizuno K : New Method to Detect Endothelial Injury in Patients with Vasospastic Angina : Evans Blue Dye . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- ( 14 ) Poster :
- 1) Mizuno K , Nakamura H<sup>1)</sup>, Ohashi Y<sup>1)</sup>, Kaburagi T<sup>1)</sup>, Kitabatake A<sup>1)</sup>, Tochiwara T<sup>1)</sup>, Hosoda S<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> 万有製薬株式会社 ): Beneficial Effects of Simvastatin on Coronary Atherosclerosis : Japanese Utilization of Simvastatin therapy ( Just Study ) . XIV International Drugs Affecting Lipid Metabolism ( New York ) , 2001 . 9 .
- 2) Takagi G , Kim Song-J<sup>2)</sup>, Kudeji Raymond K<sup>2)</sup>, Yang Gui-P<sup>2)</sup>, Takagi I<sup>1)</sup>, Gaussin V<sup>2)</sup>, Karoor Vijaya L<sup>2)</sup>, Vatner Dorothy E<sup>3)</sup>, Vatner Stephen F<sup>3)</sup>( <sup>1)</sup> 1st Dept. of Medicine, Nippon Medical School , <sup>2)</sup> 不明 , <sup>3)</sup> UMDNJ, New Jersey Medical School ): Regulation of contractile function by iNos in Hypertrophied failing myocytes . Cardiovascular remodeling and function , 2002 . 10 .
- ( 15 ) Poster :
- 1) Okamatsu K , Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Takano M , Seimiya K , Kamon H , Uemura R , Sano J , Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusoh Emergency ) : Do Statins Decrease Plasma Levels of Oxidized Low-Density Lipoprotein? XIV International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism ( New York ) , 2001 . 9 .
- ( 16 ) Poster Session :
- 1) Takayoshi I<sup>1)</sup>, Hoshino K<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Mizuno K , Matsumori A<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Hokusoh Emergency , <sup>2)</sup> 京都大学大学院循環器学 ): Clinical Significance of Hepatocyte Growth Factor in Acute Coronary Syndrome . 1st. Asian Pacific Scientific Forum/AHA ( Honolulu ) , 2002 . 4 .
- ( 17 ) Poster Session ( Japanese ) :
- 1) Uemura R<sup>1)</sup>, Ishibashi F , Okamatsu K , Kamon H , Seimiya K , Takano M , Tomimura M , Nomura A , Sano J , Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tohsei National Hospital ): Compared with Intravascular ultrasound findings histological analysis in coronary plaque . 第66回日本循環器学会学術集会 , 2002 . 4 .
- 2) Sakai S , Chaitman Bernard R ( <sup>1)</sup> St. Louis University School of Medicine ): Increasing the Pre-Test Likelihood Estimate for Non-ST Elevation Myocardial Infarction in Acute Coronary Syndrome : Results from the GUARDIAN Trial . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .
- 3) Inami S , Ogawa T , Ishibashi F , Okamatsu K , Kamon H , Seimiya K , Takano M , Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Takagi G , Nomura A , Sakai S , Sano J , Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusoh Emergency ) : The High Value of hs-CRP Represents the Existence of Plaque Disruption . 第67回日本循環器学会学術集会 , 2003 . 3 .



- 4) Uemura R<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Mizuno K, Ohaki Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Tosei National Hospital, <sup>2)</sup>Hokusho 病院 ): Compared between Uncommon Histological and Morphological Findings in Stable and Unstable Coronary Artery Disease . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 5) Sakai S, Mizuno K, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Takagi G, Seimiya K, Kamon H, Ishibashi F, Inami S, Ogawa T, Imaizumi T<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, ( <sup>1)</sup>Hokusho Emergency ): The Incidence of Complications Associated with Percutaneous Coronary Angioscopy-From the Experiences of 1015 Procedures . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- (18) Special Topics :
- 1) Sano J, Ogawa T, Inami S, Ishibashi F, Okamatsu K, Kamon H, Seimiya K, Takagi G, Sakai S, Nomura A, Mizuno K : Effect of Green Tea Intake on the Development of Coronary Artery Disease . Americal College of Cardiology 52nd Annual Scientific Session , 2003 . 3 .
- (19) ポスター :
- 1) Takagi G : Regulation of Contractile Function by iNOS in Hypertrophied Failing Myocytes . International Symposium on Cardio Vascular Remodeling and Function ( 大阪 ), 2002 . 10 .
- 2) Okamatsu K, Inami S, Ishibashi F, Kamon H, Seimiya K, Takagi G, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Ohba Takayoshi <sup>1)</sup>, Sakai S, Nomura A, Sano J, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup>Hokusho Emergency ): The Relationship between Intracoronary Thrombus and TIMI Frame Count after Percutaneous Coronary Interventions in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第67回日本循環器学会学術集会, 2003 . 3 .
- 3) 張 静, 石橋史行, 岡松健太郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 掃部弘行, 佐野純子, 酒井俊太, 横山真也<sup>1)</sup>, 高野雅充, 上村竜太<sup>2)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>国立東静病院内科 ): なぜ高齢者に急性冠症候群は多いのか? . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 4) 木村裕子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>2)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>内科第1, <sup>2)</sup>千葉北総病院中央画像検査室 ): 千葉北総病院における血圧・脈波伝播速度 (PWV・ABI) 検査の有用性 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 5) 西村とき子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室 ): 消化管領域における超音波検査の有用性の検討 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 6) 大崎恵理子<sup>1)</sup>, 原口友子<sup>1)</sup>, 岡本直人<sup>1)</sup>, 柳下照子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室 ): 千葉北総病院における肺炎球菌 (PAAP・PISP・PRSP). 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 7) 原口友子, 大崎恵理子, 岡本直人, 柳下照子, 飯野幸永, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室 ): 臨床材料から分離された肺炎球菌の薬剤耐性率について . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 8) 張 静<sup>1)</sup>, 馬 淑梅<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>2)</sup>, 岡松健太郎, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 掃部弘行, 佐野純子, 酒井俊太, 横山真也<sup>2)</sup>, 高野雅充, 上村竜太<sup>3)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup>留学生, <sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>3)</sup>国立東静病院内科 ): 急性冠症候群における無症候性ブラーク崩壊発因子としての高血圧の重要性 . 第25回日本高血圧学会総会, 2002 . 10 .
- 9) 稲見茂信, 酒井俊太, 小川友裕, 岡松健太郎, 石橋史行, 清宮康嗣, 掃部弘行, 高木 元, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一 : スtent留置9ヶ月後の血栓性冠動脈stent再狭窄の1例 . 第21回日本心血管インターベンション学科, 2002 . 10 .
- (20) ラウンドディスカッション :
- 1) Mizuno K : Low dose simvastatin retards the progression of coronary atherosclerosis : Japanese Utilization of Simvastatin Therapy ( JUST Stury ). 第66回日本循環器学会学術集会, 2002 . 4 .

## [ 千葉北総病院集中治療室 ]

### 研究概要

急性冠症候群（急性心筋梗塞，不安定狭心症），重症うっ血性心不全，肺血栓塞栓症，解離性大動脈瘤ならびにDIC，SIRS，ARDSなどの重症疾患の集中管理を行い，最新かつ安定した治療法の確立を目指し研究を重ねた．

#### （1）人工補助装置

透析設備，画像診断設備，臨床検査部門が充実しており，集中治療部では重症患者の管理においてこれらをフルに活用しつつ，人工呼吸器，血液浄化法，IABP，PCPSなどの補助装置をフルに駆使している．必要に応じ他診療科との連携もスムーズに行える環境にある．今年度は臨床工学士の積極的な参加が我々の研究活動をより推進し，千葉県における循環器ならびに多臓器不全患者，血液浄化法に関する研究の拠点として活動している．

#### （2）急性冠症候群

本施設では急性冠症候群（急性心筋梗塞ならびに不安定狭心症）の治療に冠動脈内視鏡，血管内エコーを活用し，新しい治療戦略の確立と治療法の選択基準の確立に努めている．また，本疾患に関わるサイトカインについての研究にも着手し発表を積み重ねている．循環器関連の学会において急性冠症候群の治療戦略ならびに病態についての報告を数多くおこなった．

#### （3）うっ血性心不全

急性心不全，慢性心不全の急性増悪の最新の治療に関し，新薬の治験に参加し新しい知見を構築している．集中治療学会地方会での講演依頼も行った．

#### （4）肺血栓塞栓症

画像診断部門，臨床検査部門の協力を得て，本症の急性期病態把握と最新かつ有効な治療法の確立を提唱できる全国でも筆頭の施設である．現在，本疾患に対する一時的ならびに永久下大静脈フィルター装着を含むカテーテル治療の有用性を検討し，日本集中治療学会などで提言を続けている．

#### （5）急性大動脈解離

豊富な症例数をもとに発表を重ねている．特に合併症としての胸水貯留のメカニズムについて研究を続けている．稀有な合併症を有する例もあり，数例の症例報告を行った．

### 研究業績

#### 論文

##### （1）原著：

- 1) Sakai S<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Tomimura M<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Visualized plaque debris as a cause of distal embolization after percutaneous coronary intervention in patient with unstable angina . Catheterization and Cardiovascular Intervention 2002 ; 55 : 113-117 .
- 2) Hata N, Kunimi T<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept of Int Med, Nippon Medical School ): Adhesion Molecules as Markers of Clinical Severity of Stable Angina . International J Angiology 2002 ; 11 ( 4 ): 115-119 .

##### （2）症例：

- 1) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 品田卓郎, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院内科 ): 肺血栓塞栓症に伴う重症肺高血圧に対するPGI2製剤の効果．冠疾患誌 2002 ; 8 ( 2 ): 65-68 .

## 著 書

- 1) 畑 典武：〔分担〕慢性虚血性心疾患における心不全．実地診療に則した心不全診断・治療マニュアル（高野照夫・清野精彦編），2002；pp115-119，医薬ジャーナル社．

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 星野公彦：中等度低体温の心筋細胞における Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> 交換系活性とその caripolide による抑制に及ぼす影響．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 2) 畑 典武：心不全患者紹介のタイミングとその管理．基本的治療から最新治療まで．第3回印旛循環器カンファランス，2003．2．

### (2) シンポジウム：

- 1) 大場崇芳，酒井俊太<sup>1)</sup>，孫 亜清<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也，上村竜太<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：軽中等度糖尿病患者における IVUS ガイド下のステント療法の効果．第20回日本 Metallic Stents & Grafts 研究会，2002．6．
- 2) 稲見茂信<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，大場崇芳，横山真也，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：冠動脈内視鏡とステント再狭窄．第8回日本血管内治療学会，2002．7．
- 3) 水野正之<sup>1)</sup>，横山真也，高野雅充<sup>2)</sup>，石橋史行<sup>2)</sup>，酒井俊太<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>2)</sup>，川村義彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像センター，<sup>2)</sup>同内科)：ACSにおける IVUS Plaque 解析と STENT 再狭窄．第21回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，2002．10．
- 4) 岡松健太郎<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳，高木元<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：血管内視鏡と血管内エコーを用いたプラーク破綻の内的要因と外的要因の評価．第16回日本心臓血管内視鏡学会総会，2002．10．

### (3) パネルディスカッション：

- 1) 岡松健太郎<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，高木 元<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科)：Therapeutic interventions based on angioscopic findings．第16回日本冠疾患学会学術集会，2002．12．

### (4) セミナー：

- 1) 畑 典武：集中治療室における急性心不全の最新治療戦略．第10回日本集中治療医学会東海北陸地方会，2002．6．

### (5) 一般講演：

- 1) Hata N, Imaizumi T, Hoshino K, Ohara T, Ohba T, Yokoyama S, Shinada T, Mizuno K<sup>1)</sup>, Matsumori A<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Cardiovascular Medicine, Kyoto University): Clinical Significance of Hepatocyte Growth Factor in Acute Coronary Syndrome. 1st Asian Pacific Scientific Forum/ AHA (Honolulu), 2002. 4.
- 2) Hata N, Imaizumi T, Hoshino K, Ohara T, Ohba T, Yokoyama S, Shinada T: Clinical Significance of Pleural Effusion in Acute Aortic Dissection. 1st Asian Pacific Scientific Forum/ AHA (Honolulu), 2002. 4.
- 3) Ishibashi F<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Uemura R<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Ohba T, Yokoyama S (<sup>1)</sup>Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): C-reactive protein levels correlate with coronary plaque vulnerability. AHA Scientific Sessions 2002 (Chicago), 2002. 11.
- 4) Inami S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Uemura R<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Are Multiple Plaque Disruptions More Common in Patients with Acute Coronary Syndrome Than in Patients with Stable Ischemic Heart Disease? The 52nd ACC (Chicago),

2003 . 3 .

- 5) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): The Relationship between Intracoronary Thrombus and TIMI Frame Count after Percutaneous Coronary Interventions in Patients with Acute Coronary Syndromes . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 6) Inami S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Takagi G<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): The High Value of hs-CRP Represents the Existence of Plaque Disruption . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 7) Sakai S<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Imaizumi T, Hata N (<sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): The Incidence of Complications Associated with Percutaneous Coronary Angioscopy. From the Experiences of 1015 Procedures . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 8) Okamatsu K<sup>1)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Ohba T<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): Angioscopic Findings in Patients with Non-ST Elevation Acute Coronary Syndromes (NSTEMI-ACS) According to Troponin T Status . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 9) Inami S<sup>1)</sup>, Ogawa T<sup>1)</sup>, Ishibashi F<sup>1)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Kamon H<sup>1)</sup>, Seimiya K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Takagi G<sup>1)</sup>, Nomura A<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>1)</sup>, Sano J<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Int Med, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): The Relationship between Intracoronary Thrombus and TIMI Frame Count after Percutaneous Coronary Interventions in Patients with Acute Coronary Syndromes . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
- 10) 横山真也, 畑 典武, 今泉孝敬, 星野公彦, 小原俊彦, 大場崇芳, 品田卓郎, 松森 昭<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 京都大学大学院循環病態学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属千葉北総病院内科): Clinical Significance of Hepatocyte Growth Factor in Acute Coronary Syndrome . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 11) 高野雅充<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科): Novel Method to Detect Endothelial Injury in Patients with Vasospastic Angina : Evans Blue Dye . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 12) 鈴木雄一朗<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科): 右冠動脈入口部にCutting Balloon Angioplasty施行後に螺旋状解離が見意義冠動脈全体に及んだ1例 . 第20回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002 . 5 .
- 13) 本郷公英, 牛島明子, 伊藤憲祐, 三船俊英, 品田卓郎, 横山真也, 大場崇芳, 小原俊彦, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 大森章代<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院看護部, <sup>2)</sup> 同救命救急センター): ドクターヘリ搬送により早期完全血行再建に成功し心原性ショックを回避し得た急性心筋梗塞再発症の1例 . 日本医科大学医学会第107回例会, 2002 . 5 .
- 14) 小川友裕<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 鈴木雄一朗<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 千葉北総病院内科): デジタル12

誘導ホルター心電図にて特異なST - T形態の日内変動を証明したBrugada症候群の1例．日本医科大学医学会第107回例会，2002．5．

- 15) 三船俊英，品田卓郎，横山真也，大場崇芳，小原俊彦，星野公彦，今泉孝敬，畑 典武，山内茂生<sup>1)</sup>，小笠原英継<sup>1)</sup>，佐々木孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): 周期的に左室滑入する解離内膜により心筋虚血を示した急性大動脈解離の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第184回学術集会，2002．6．
- 16) 掃部弘行<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈内視鏡を用いた急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法の有用性の検討．第8回日本血管内治療学会，2002．7．
- 17) 伊藤憲祐，本郷公英，牛島明子，足立眞理，三船俊英，品田卓郎，吉田博史，横山真也，大場崇芳，星野公彦，今泉孝敬，畑 典武: 他疾患の治療中に発生した肺胞出血による急性呼吸急迫症候群の2例．第11回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2002．8．
- 18) 今泉孝敬，三船俊英，品田卓郎，吉田博史，横山真也，大場崇芳，星野公彦，畑 典武，益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 重症循環器疾患患者のドクターヘリ搬送．第16回千葉県重症患者管理研究会，2002．9．
- 19) 足立眞理，伊藤憲祐，本郷公英，牛島明子，三船俊英，品田卓郎，吉田博史，横山真也，大場崇芳，星野公彦，今泉孝敬，畑 典武，山内茂生<sup>1)</sup>，小笠原英継<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院胸部心臓血管外科): 大動脈二尖弁に発症した感染性心内膜炎の1例．第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 20) 張 静<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，横山真也，高野雅充<sup>1)</sup>，上村竜太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): なぜ高齢者に急性冠症候群は多いのか? 第70回日本医科大学医学会総会，2002．9．
- 21) 村井綱児<sup>1)</sup>，小川 紅<sup>1)</sup>，鈴木雄一朗<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，横山真也，野村敦宣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性冠症候群責任病変部のブランク破綻像が血管内視鏡上クレーター状に，血管内超音波上空洞状に認めた1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第185回学術集会，2002．9．
- 22) 掃部弘行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳，高野雅充<sup>1)</sup>，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性心筋梗塞における血栓溶解療法の有用性．冠動脈内視鏡による検討．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 23) 稲見茂信<sup>1)</sup>，小川友裕<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 無症候性ブランク破綻における急性冠症候群と安定虚血性疾患との差異．第50回日本心臓病学会学術集会，2002．9．
- 24) 張 静<sup>1)</sup>，馬 淑梅<sup>1)</sup>，大場崇芳，岡松健太郎<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，横山真也，高野雅充<sup>1)</sup>，上村竜太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 急性冠症候群における無症候性ブランク崩壊誘発因子としての高血圧の重要性．第25回日本高血圧学会総会，2002．10．
- 25) 張 静<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，横山真也，高野雅充<sup>1)</sup>，上村竜太<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): なぜ高齢者に急性冠症候群は多いのか? 第16回日本心臓血管内視鏡学会総会，2002．10．
- 26) 掃部弘行<sup>1)</sup>，高野雅充<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，横山真也，大場崇芳，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈内視鏡による急性心筋梗塞における発症12時間以内と12時間以降の血栓の性状の比較検討．第16回日本心臓血管内視鏡学会総会，2002．10．
- 27) 稲見茂信<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，馬 淑梅<sup>1)</sup>，孫 亜清<sup>1)</sup>，張 静<sup>1)</sup>，石橋史行<sup>1)</sup>，岡松健太郎<sup>1)</sup>，掃部弘行<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高野雅充，横山真也，大場崇芳，上村竜太<sup>1)</sup>，野村敦宣<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，佐野純子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 虚血性心疾患における無症候性ブランク破綻の規定因子と臨床的意義．第43回日本脈管学会総会，

2002 . 11 .

- 28) 小川友裕<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第1): 亜急性期にプラーク破綻像を血管内視鏡, IVUSで観察した1例. 第21回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2002 . 11 .
- 29) 岡崎怜子, 品田卓郎, 村井綱児, 岩本将人, 阿部 新, 三船俊英, 徳山権一, 吉田博史, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Timolol 点眼薬が徐脈ならびにうっ血性心不全の誘因と考えられた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第186回学術集会, 2002 . 12 .
- 30) 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈内視鏡を用いた梗塞責任病変の性状診断による急性心筋梗塞における血栓溶解療法の有用性の検討. 第16回日本冠疾患学会学術集会, 2002 . 12 .
- 31) 稲見茂信<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 張 静<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 高木元<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Chlamydia pneumoniae の感染が血漿中酸化LDL濃度に及ぼす影響. 第16回日本冠疾患学会学術集会, 2002 . 12 .
- 32) 村井綱児, 岡崎怜子, 岩本将人, 阿部 新, 吉川真由美, 小林宣明, 三船俊英, 品田卓郎, 徳山権一, 吉田博史, 横山真也, 大場崇芳, 今泉孝敬, 畑 典武, 上川雄士<sup>1)</sup>, 斎藤伸行<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 心筋梗塞切迫破裂との鑑別が困難であった心タンポナーデを伴う化膿性心膜炎の1例. 第14回千葉CCM研究会, 2002 . 12 .
- 33) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 畑典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠攣縮性狭心症における内皮障害の診断; エバンスブルー染色を用いて. 第16回日本冠疾患学会学術集会, 2002 . 12 .
- 34) 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 横山真也, 大場崇芳, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 冠動脈内視鏡による急性心筋梗塞における発症12時間以内と12時間以降の血栓の性状の比較検討. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003 . 1 .
- 35) 張 静<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 横山真也, 高野雅充<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): 不安定冠動脈プラークの形成と冠危険因子の関係. 血管内視鏡による検討. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003 . 1 .
- 36) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 小川友裕<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 畑 典武, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): プラーク内容物流出後病変を伴った急性心筋梗塞2症例. PCIの必要性について. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003 . 1 .
- 37) 水野正之<sup>1)</sup>, 三輪宗史<sup>1)</sup>, 横山真也, 高野雅充<sup>2)</sup>, 石橋史行<sup>2)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 笠原佳子<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像センター, <sup>2)</sup>同内科, <sup>3)</sup>同看護部): IVUSを用いたAMI症例のSTENT再狭窄予測の試み. 第13回日本心血管画像動態学会, 2003 . 1 .
- 38) 今泉孝敬, 星野公彦, 大場崇芳, 横山真也, 吉田博史, 品田卓郎, 三船俊英, 畑 典武: 重症急性肺血栓塞栓症における死亡例と生存例の検討: 救命のために必要不可欠なstrategyは何か. 第30回日本集中治療医学会総会, 2003 . 2 .
- 39) 村井綱児, 岡崎怜子, 岩本将人, 阿部 新, 吉川真由美, 小林宣明, 三船俊英, 品田卓郎, 徳山権一, 吉田博史, 横山真也, 大場崇芳, 今泉孝敬, 畑 典武, 上川雄士<sup>1)</sup>, 斎藤伸行<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 工廣紀斗司<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): 心筋梗塞切迫破裂との鑑別が困難であった心タンポナーデを伴う化膿性心膜炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2003 . 2 .
- 40) 今泉孝敬, 三船俊英, 品田卓郎, 徳山権一, 吉田博史, 横山真也, 大場崇芳, 畑 典武, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦

洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急センター): ドクターヘリシステムによる循環器救急疾患搬送の成果. 日本医科大学医学会第109回例会, 2003. 2.

41) 小川友裕<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 鈴木雄一郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 石橋史行<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 佐野純子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): デジタル12誘導ホルター心電図にてST - T形態の特異な日内変動を証明しえたBrugada症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第187回学術集会, 2003. 2.

## [ 千葉北総病院リハビリテーション科 ]

### 研究概要

頭部外傷患者の認知機能障害に対し, 急性期から詳細な評価と急性期認知リハビリの内容, 効果を検討する. 頭部外傷の認知リハビリの有効な時期に関する報告は少なく, 特に急性期から認知リハビリが奏効すれば, 早期社会復帰に貢献できる.

痙性片麻痺のclawing toeは歩行障害の原因となり, 対処が困難なことが多い. 足指の変形矯正をシリコンで採形しながら形状を整える足底装具を作製し, 歩容の改善度, 重心移動の変化, 筋緊張の変化を検討する.

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し, 麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって, さらに筋収縮を促す. 脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において, 手関節伸展, 手指伸展促進と物品把持移動からなる訓練を施行し, 訓練前後での手関節, 手指関節の可動域, 被験筋のroot mean square (RMS), 巧緻性の変化を計測した. 手指関節可動域に改善を認め, 特に手根伸筋のRMSに著しい増加が認められ, 巧緻動作の改善が認められた. 筋電比例式電気刺激は, きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり, 筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される.

アルツハイマー病患者において感覚入力刺激に対応する運動誘発電位にてcortico-cortical inhibitionを検討する. 健常人では電気刺激・磁気刺激感覚が23~24msで60%程度のcortico-cortical inhibitionが認められるが, アルツハイマー病患者では抑制は20%程度にとどまり, 重度であると抑制は殆ど認められなくなる. コリン作動薬の投与によってこのcortico-cortical inhibitionの低下に改善が認められるか検討を行なう.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) Hara Y: Dorsal wrist joint pain in tetraplegic patients during and after rehabilitation. Journal of Rehabilitation 2003; 35(1): 57-61.

##### (2) 綜説:

1) 原 行弘: 内科医のためのリハビリテーション: 排便障害のリハビリテーション. 診断と治療, 増刊号, 377-384 2002; 90(増刊): 377-384.

2) 原 行弘: 高齢者の運動療法. 医学のあゆみ 2002; 203(9): 815-820.

3) 原 行弘: 社会的不利の評価. 総合リハビリテーション 2002; 30(11): 993-998.

4) 原 行弘: 排便障害とリハビリテーション. 排便障害プラクティス 2003; 11(1): 39-44.

#### 学会発表

##### (1) 招待講演:

1) 原 行弘: 障害者のフィジカルフィットネス. 第7回千葉リハビリテーション医療懇話会, 2002. 11.

(2) 教育講演：

1) 原 行弘：排便障害のアプローチ．第5回日本在宅医療学会，2003．2．

(3) シンポジウム：

1) 原 行弘：脳卒中後のMUNE変化（運動単位推定数）．第32回日本臨床神経生理学会学術大会，2002．10．

(4) 一般講演：

1) 原 行弘：中枢性下肢麻痺患者に対する非侵襲的ポータブル表面電極式機能的電気刺激装置の開発．日本リハビリテーション医学会学術大会，2002．6．

2) 小林由紀子，原 行弘，辻内和人：早期からの認知リハビリテーションが奏功した頭部外傷の2症例．日本リハビリテーション医学会関東地方会，2002．6．

## [ 千葉北総病院病理部 ]

### 研究概要

開院以来10年が経過するが，その間に希有例なども含め多数の症例が臨床各科から病理部に提出され，各種疾患の蓄積をもとに腫瘍性疾患のデータベース化が進められている．それらの臨床検体を用い，以下の点を中心に現在も検討を進めている．

1) 泌尿生殖器腫瘍

女性診療科，放射線科，泌尿器科とともに，子宮，卵巣などの女性生殖器および腎尿路系に発生する腫瘍性病変の形態学的，細胞生物学的特性につき，臨床的，画像診断学的所見を合わせ検索を進めている．特に子宮頸癌および体癌の治療に関する効果予知判定や治療に伴う形態学的変化について検討を行った．また，血中腫瘍マーカーのうち特にAFP産生腫瘍に注目し，その臨床病理学的検索を行なった．

2) 消化管腫瘍

大腸癌，GISTなどの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である．特に，GISTに関しては再発例に対する分子標的治療の症例を経験し，その病理学的特徴を検討した．

3) 乳腺腫瘍

外科の協力を得て導入された乳癌治療薬Herceptinの適応症例の選択に用いる検査法Hercep Test法を継続中であり，対象例が蓄積されていく中で，その染色性や染色様式の特徴を細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的に検討中である．

4) 神経変性疾患

アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を第二内科，第二病理などとの共同研究として進めている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

1) Kamoi S<sup>1)</sup>, Ohaki Y, Mori O, Okada S<sup>2)</sup>, Seto M<sup>1)</sup>, Matsushita N<sup>1)</sup>, Kawamura T<sup>1)</sup>, Araki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>3)</sup> Dept. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School ): A case of ovarian endometrioid adenocarcinoma with yolk sac tumor component in a postmenopausal woman. APMIS 2002; 110 (6): 508-514.

2) Abe H<sup>1)</sup>, Nishimura T<sup>1)</sup>, Miura T<sup>1)</sup>, Uchikoba T<sup>1)</sup>, Ohno T<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>2)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup> Dept. of Urology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital ): Cystosarcoma



phylloides of the seminal vesicle . International Journal of Urology 2002 ; 9 ( 10 ) : 599-601 .

- 3) Fujimori S<sup>1)</sup>, Kishida T<sup>1)</sup>, Matsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Nagata K<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Sato J<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>2)</sup>, Ohaki Y, Sakamoto C<sup>3)</sup>, Kobayashi M<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Internal Medicine, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>3)</sup>Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Influence of alcohol consumption on the association between serum lipids and colorectal adenomas . Scand J Gastroenterol 2002 ; 37 ( 11 ) : 1309-1312 .
- 4) Jin E<sup>1)</sup>, Fujiwara M<sup>1)</sup>, Pan X<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Arai S, Ohaki Y, Kajiwara K<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School Second Hospital, <sup>3)</sup>Dept. of Surgical Pathology Section, Japan Red Cross Center Hospital): Protease-activated receptor ( PAR ) -1 and PAR-2 participate in the cell growth of alveolar capillary endothelium in primary lung adenocarcinomas . Cancer 2003 ; 97 ( 3 ) : 703-713 .
- 5) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 高木信一<sup>3)</sup>, 青山純夫<sup>3)</sup>, 橋詰良夫<sup>6)</sup>, 山田宣孝<sup>5)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup>同第2内科, <sup>4)</sup>同脳神経外科, <sup>5)</sup>同病理第2, <sup>6)</sup>愛知医科大学加齢医学研究所神経病理部門): 亜急性に進行する対麻痺で発症し, 約1ヵ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例 . 脳と神経 2002 ; 54 ( 6 ) : 543-549 .

## 著 書

- 1) 川並汪一<sup>1)</sup>, 持丸 博, 新井 悟(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門): [ 共著 ] シリカの経気道投与による肺胞とその毛細血管のリモデリング . エアロゾル研究 ( 日本エアロゾル学会編集事務局 ), 2001 ; pp285-288, 日本エアロゾル学会編集事務局 .

## 学会発表

[ 2001 年度追加分 ]

一般講演 :

- 1) 岡田 進<sup>1)</sup>, 内山史生<sup>1)</sup>, 大秋美治, 河村 堯<sup>2)</sup>, 林 敏彦<sup>3)</sup>, 加藤友康<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>癌研究所付属病院女性診療科・産科): 粘性性卵巣腫瘍のCT ( 石灰化の検出に注目して ) . 第60回日本医学放射線学会学術発表会, 2001 . 4 .
- 2) 北村和広<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 川口直義<sup>1)</sup>, 市野浩三<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 杣 知行<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 五味渕誠<sup>1)</sup>, 大秋美治, 工藤翔二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科第4): 全肺野をwanderingするBOOPパターンを呈したリウマチ肺の1例 . 第144回日本呼吸器学会関東地方会, 2001 . 5 .
- 3) 岡田 進<sup>1)</sup>, 内山史生<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 大秋美治, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 内木場拓史<sup>3)</sup>, 木村 剛<sup>3)</sup>, 堀内和孝<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同女性診療科・産科, <sup>3)</sup>同泌尿器科, <sup>4)</sup>付属病院放射線科): AFPが高値を示した骨盤内腫瘍の検討 . 第29回日本磁気共鳴医学会大会, 2001 . 9 .
- 4) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科第1): アメーバ肝膿瘍の1例 . 第37回日本腹部救急医学会, 2001 . 9 .
- 5) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 教室における大腸癌イレウス 症例の検討 . 第37回日本腹部救急医学会, 2001 . 9 .
- 6) 上原隆志<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 杣 知行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 市野浩三<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>付属病院内科第4): サルコイドーシスと喘息の関連性について . 第147回日本呼吸器学会関東地方会, 2001 . 10 .

- 7) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター ): 血清CA125上昇を認め, 著明な胸水を伴ったSScの1例. 第11回千葉膠原病セミナー, 2001. 11.
- 8) 田中庸介<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター ): IPT経過中にPSCを合併した1例. 第12回東葛肺癌研究会, 2001. 11.
- 9) 進士誠一<sup>1)</sup>, 田中 宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1 ): 膵管内乳頭腫瘍と早期胃癌の1例. 第253回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 12.
- 10) 小久保豊<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 小野 靖<sup>1)</sup>, 榎戸律子<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>1)</sup>, 柚 知行<sup>1)</sup>, 川口直義<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院呼吸器病センター, <sup>2)</sup>内科第4 ): 血小板減少症をきたした肺癌intrasinusoidal metastasisの2例. 第132回日本肺癌学会関東地方会, 2002. 2.

(1) 一般講演:

- 1) Liu AM<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Oguro T, Naito Z<sup>3)</sup>, Yokoyama M<sup>3)</sup>, Sugisaki Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Research and Department of Pathology, <sup>2)</sup>Dep. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3)</sup>Dep. of Pathology, Nippon Medical School ): The Role of Electron Microscopic Study in Fine Needle Aspiration Cytology. The Ninth Thai-Japanese Workshop on Diagnostic Cytopathology ( Thai ), 2003. 1.
- 2) Uemura R<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Yamamoto E<sup>1)</sup>, Tokita Y<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Yokoyama H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Ohaki Y ( <sup>1)</sup>Division of Cardiology, Tohsei National Hospital, Shizuoka, Japan, <sup>2)</sup>Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School ): Compared between Uncommon Histological and Morphological Findings in Stable and Unstable Coronary Artery Disease. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society ( FUKUOKA ), 2003. 3.
- 3) 三枝順子, 清水秀樹, 赤坂久美, 松澤こず恵, 小黑辰夫, 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 京野昭二<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科 ): 乳癌に対するHercep Test: 自験例の解析結果を中心に. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 4) 森 修, 大秋美治, 新井 悟, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 松澤こず恵, 黒木副武<sup>1)</sup>, 中尾安秀<sup>1)</sup>, 飯田 恵<sup>1)</sup>, 川越康博<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3,4)</sup>, 杉崎祐一<sup>3,4)</sup> ( <sup>1)</sup>新松戸中央総合病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院神経内科, <sup>3)</sup>日本医科大学病理第二, <sup>4)</sup>付属病院病理部 ): Neuroaxonal dystrophyを伴うパーキンソン病の1例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 5) 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 松澤こず恵, 清水秀樹, 新井 悟, 森 修, 大秋美治: FSEMの実験病理学への応用とその有用性について. 実験病理組織技術研究会 第9回総会・学術集会, 2002. 5.
- 6) 小黑辰夫, 三枝順子, 赤坂久美, 松澤こず恵, 清水秀樹, 新井 悟, 森 修, 大秋美治: 固定・包埋用力セット改良型を用いた試料作製法の検討. 実験病理組織技術研究会 第9回総会・学術集会, 2002. 5.
- 7) 小野千速<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 濱本達彦<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 平塚哲朗<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>2)</sup>, 黒田 肇<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>内科第3 ): ラジオ波焼灼療法 ( RPA ) を行った肝癌の2例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 8) 峯田 章<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 石川紀行<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 坂東功一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 寺田淑恵<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 大秋美治 ( <sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同耳鼻咽喉科 ): 肝転移・十二指腸浸潤さらには右中咽頭 ( 扁桃 ) に転移を来した胆嚢癌の1例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 9) 濱本達彦<sup>1)</sup>, 岸田輝幸<sup>1)</sup>, 小野千速<sup>1)</sup>, 大磯義一郎<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 滝 保彦<sup>1)</sup>, 平塚哲朗<sup>1)</sup>, 小野瀬裕之<sup>1)</sup>, 藤

- 森俊二<sup>1)</sup>, 吉沢雅史<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup>, 大秋美治, 高橋由至<sup>2)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科,<sup>2)</sup>同外科,<sup>3)</sup>内科学第3): 胆嚢動脈瘤破裂が疑われた1症例. 日本医科大学医学会第107回例会, 2002. 5.
- 10) 相馬廣明<sup>1)</sup>, 山田佳代<sup>1)</sup>, 畑 俊夫<sup>1)</sup>, 小黒辰夫, 藤田浩司<sup>2)</sup>, 工藤玄恵<sup>2)</sup>, 海老原善郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉医科大学産婦人科学,<sup>2)</sup>東京医科大学第二病理学): ネパール妊婦胎盤絨毛の超微構造. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 2002. 9.
- 11) 赤坂久美, 小黒辰夫, 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 河村 堯<sup>1)</sup>, 内木場拓史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>同泌尿器科): 血中  $\alpha$ -fetoprotein 高値を示した肝様腺癌成分を含む悪性腫瘍の2例. 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会並びに学術集会, 2002. 9.
- 12) 枝川聖子<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>5)</sup>, 大秋美治, 佐藤雅史<sup>4)</sup>, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 大原國俊<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所病理部門,<sup>2)</sup>付属病院病理部,<sup>3)</sup>第二病院病理部,<sup>4)</sup>同放射線科,<sup>5)</sup>多摩摩山病院病理部,<sup>6)</sup>内科学第4,<sup>7)</sup>眼科学): 気管支肺胞洗浄法(Bronchoalveolar Lavage: BAL): 本学における現状と疾患特異性について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

## [ 千葉北総病院中央検査室 ]

### 研究概要

千葉県における中核病院である当院中央検査室は、多岐にわたる患者のニーズや日々刻々と変化する検査に対し、柔軟かつ迅速に対処できるように取り組んできた。また、各種の学会やシンポジウムにも積極的に参加発表するなど、学術研究面においても着実に業績を記録している。

中央検査室以外にも当院耳鼻科外来や空港クリニックにおける検査業務など活動範囲を広げている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

- 1) 町田幸雄: インターネット・カメラデン 2003; (36): 54-58.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション:

- 1) 石渡統夫, 稲川美実, 飯野幸永: マイクロタイピングシステムで検出されず試験管アルブミン・間接抗グロブリン法で検出された不規則性抗体の1症例. 第51回日本医学検査学会, 2002. 5.
- 2) 木村裕子, 飯野幸永, 水野杏一: 当院における血圧・脈波伝播速度(PWV・ABI)検査の有用性. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 3) 稲川美実, 石渡統夫, 飯野幸永: 当院で検出された高頻度抗体に対する抗体. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 4) 原口友子, 大 恵理子, 岡本直人, 下照子, 飯野幸永, 水野杏一: 臨床材料から分離された肺炎球菌の薬剤耐性率について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 5) 大 恵理子, 原口友子, 岡本直人, 下照子, 飯野幸永, 水野杏一: 当院における肺炎球菌(PSSP・PISP・PRSP)の検出状況について. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 6) 西村とき子, 飯野幸永, 水野杏一: 消化管領域における超音波検査の有用性の検討. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

##### (2) 一般講演:

- 1) 高橋千秋, 飯野幸永: 末梢循環の治療方針決定にサーモグラフィーが有用であった1症例. 第51回日本医学検査学会, 2002. 5.

## [ 千葉北総病院薬剤科 ]

### 研究概要

MRSA における細菌学的検討を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 浜田康次：骨粗鬆症治療剤（ビスフォスフォネート製剤）. レシピ 2002；1(2)：50-51.
- 2) 葉山修陽<sup>1)</sup>，伊藤義樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科第2，<sup>2)</sup>同薬剤科)：K吸着樹脂とソルビトールの注腸は禁忌？成人病と生活習慣病 2002；32(8)：1049-1049.
- 3) 浜田康次：ニューキノロン剤（反時計廻りの抗菌剤）. レシピ 2002；1(3)：46-47.
- 4) 浜田康次：アレルギー疾患治療剤（眠気のパラドックス）. レシピ 2003；2(1)：58-59.
- 5) 浜田康次：アンジオテンシンII拮抗剤（毒蛇の贈りもの）. レシピ 2003；2(2)：68-69.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 伊藤義樹：調剤．千葉県病基礎実務研修会，2002．9．
- 2) 稲本正之：抗癌剤治療における薬剤科の対応．千葉癌化学療法研究会，2003．2．

##### (2) 一般講演：

- 1) Hamada K, Yamamura S<sup>2)</sup>, Arai K<sup>3)</sup>, Kondou A<sup>3)</sup>：What vitamin products do customers purchase：OTC drugs or food supplements．FIP (Nice (France)), 2002．9．
- 2) 薄木玲子<sup>1)</sup>，佐治 守<sup>1)</sup>，稲本正之<sup>1)</sup>，吉澤一己<sup>1)</sup>，片岡博邦<sup>1)</sup>，柳下照子<sup>2)</sup>，岡本直人<sup>2)</sup>，葉山修陽<sup>3)</sup>：Acrinolの抗菌活性に関する基礎研究．第10回クリニカルファーマシーシンポジウム，2002．7．
- 3) 堀田雅代<sup>1)</sup>，相良由里子<sup>2)</sup>，伊藤義樹<sup>2)</sup>，中山 健<sup>2)</sup>，松田公子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>我孫子東邦病院，<sup>2)</sup>千葉北総病院薬剤科，<sup>3)</sup>浅井病院)：医薬品の客観的評価の試みII．第32回関東ブロック学術大会，2002．8．
- 4) 薄木玲子<sup>1)</sup>，佐治 守<sup>1)</sup>，稲本正之<sup>1)</sup>，吉澤一己<sup>1)</sup>，秋本眞喜雄<sup>2)</sup>：色素系消毒剤アクリノールの抗菌活性に及ぼす光の影響．電気学会，2002．9．
- 5) 浜田康次，大江洋一<sup>2)</sup>，加賀谷肇<sup>2)</sup>，増原慶壮<sup>3)</sup>，吉岡ゆう子<sup>4)</sup>，望月眞弓<sup>5)</sup>，中島 守<sup>6)</sup>：21世紀の病院薬剤師業務の新たな展開に向けて（第2報）「薬剤師のためのコミュニケーション学術講演会」による卒後教育を開催して．日本薬学会第123年会（福岡），2003．3．
- 6) 伊藤義樹<sup>1)</sup>，中山 健<sup>1)</sup>，相良由里子<sup>1)</sup>，實川東洋<sup>1)</sup>，堀田雅代<sup>2)</sup>，松田公子<sup>3)</sup>：医薬品の客観的試み．千葉県病会員発表会，2003．3．

## [ 千葉北総病院中央画像検査室 ]

### 研究概要

中央画像検査室では，診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから，それぞれの画像検査についての研究を進めている．

一般撮影部門では，CRの画像処理パラメータの条件に関する検討や骨密度測定の精度向上および撮影時の誠意の研究開発を各診療科との連携において行っている．透視撮影部門では胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究が進められている．

MRI 検査部門では造影3DMRAの血流背景信号の抑制による検出能の改善, クエン酸アンモニウム製剤を用いた消化管信号の除去技術では特にMRCP撮像において新たな知見が得られた.

MRミエログラフィおよびFRFSE法における肩関節の新しい撮像法の開発, DWIにおけるmotion probing gradient (MPG)の依存性に関する研究が進められている.

CT検査部門では3D-CTの信頼性の向上を目的に設定条件の検討が進んでいる.

RIではSPECTにおける心筋に関する検討, 循環器系の研究を行っている.

放射線治療部門では2種類の光子エネルギーを重ね合わせた線量分布の検討を行い, 治療技術向上をはかり画像診断を総合的に取り扱った研究を進めている.

## 研究業績

### 著書

- 1) 渡辺典男: [分担] 第5章頭部, 骨, 関節単純撮影法. 診療画像技術学-X線-(日本放射線技術学会監修), 2003; pp97-113, オーム社.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム:

- 1) 水野正之: ACSにおけるIVUS plaque像解析とSTENT再狭窄. 第21回日本心血管インターベンション学会 関東甲信越地方会 MEシンポジウム, 2003. 1.

#### (2) 一般講演:

- 1) 加藤文司, 富里謙一, 中村垂矢, 阿部雅志, 渡辺典男, 川村義彦: fast recovery fast spin echo法を用いたMR myelography. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 2) 有馬光一, 櫻井 実, 齋藤晴美, 牧野仁美, 川村義彦: 心電図同期 planar 像によるH/M比の算出. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 3) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: 微細信号によるMulti周波数処理特性の検討. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 4) 河原崎昇, 菅沼一男, 高岡慎市, 田村 京, 渡辺典男, 川村義彦: 放射線治療計画におけるウエッジ使用時の線量分布の検討. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 5) 菅沼一男, 河原崎昇, 高岡慎市, 田村 京, 渡辺典男, 川村義彦: 2種類の光子エネルギーを重ね合わせた線量分布の検討. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 6) 齋藤晴美, 有馬光一, 牧野仁美, 尾科隆司, 川村義彦: 心筋SPECT像およびプラナー像における定量解析誤差: 数値ファントムによる検討. 日本放射線技術学会 第58回総会学術大会, 2002. 4.
- 7) 齋藤晴美: 心筋SPECT像およびプラナー像における定量解析誤差. 日本核医学技術学会 第22回総会学術大会, 2002. 7.
- 8) 村越秀光<sup>1)</sup>, 恵志正輝<sup>1)</sup>, 丸山智之, 川村義彦(<sup>1)</sup>空港クリニック): 空港クリニックにおける放射線技師の役割. 日本放射線技師会 平成14年度総合学術大会, 2002. 10.
- 9) 水野正之, 横山真也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): IVUSを用いたAMI症例のSTENT再狭窄予測の試み. 第13回日本心血管画像動態学会, 2002. 11.
- 10) 菅沼一男, 河原崎昇: 2種類の光子エネルギーを重ね合わせた線量分布の検討. 日本放射線腫瘍学会 第15回JASTRO学術大会, 2002. 11.
- 11) 齋藤晴美, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 木島鉄仁, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 数値ファントムを用いた心筋SPECT下壁欠損の検討: 肝集積の影響. 日本核医学会 第42回日本核医学会総会, 2002. 11.

- 12) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: 患者さんに優しい撮影技術. 日本放射線技師会 第1回ペイシェントケア学術大会, 2003. 3.
- (3) フォーラム:
- 1) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: 患者さんにやさしい撮影技術(ケーススタディ 上肢: 上肢撮影の新しい考え方). 第89回技術フォーラム, 2002. 11.

## [ 千葉北総病院歯科 ]

### 研究概要

歯科治療におけるレーザー治療について, 炭酸ガスレーザー, Nd-YAGレーザーなどのハードレーザーを応用した基礎的, 臨床的研究.

歯周組織再生療法(Gided Tissue Regeneratioin)の応用方法として, 架橋アルギン酸, バイオアクティブ骨セメントメント, 同種血液由来因子(血小板)などの移植材を用いての検討およびインプラント治療への応用についての研究.

全身疾患と歯周病との関連に関する研究.

有病者や身体障害者における口腔衛生管理についての研究.

### 研究業績

#### 論文

- (1) 原著:
- 1) 長弘謙樹<sup>1)</sup>, 鴨井久博<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 重度成人性歯周炎患者に自家骨移植とMTMを用いた1症例. 日本歯周病学会会誌 2002; 44(1): 32-36.

#### 学会発表

- (1) シンポジウム:
- 1) 鴨井久博: 歯周治療における新しい超音波スケーラーの有用性とNd: YAGレーザーとの応用について. 第45回秋季日本歯周病学会総会, 2002. 10.
- (2) 一般講演:
- 1) Sato E<sup>1)</sup>, Kamoi H, Sato S<sup>1)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): The Effects of Platelet Releasate on the Regeneration of the Periodontal Tissue. 日中医学大会2002(北京), 2002. 11.
- 2) Ogawa T<sup>1)</sup>, Kamoi H, Iino M<sup>1)</sup>, Kamoi K<sup>1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): Detection of Priodontopathic Bacteria by PCR Method and Appication of Antibacterial Agents. 日中医学大会2002(北京), 2002. 11.
- 3) 榎本慶子<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 和崎佳子<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 硝酸カリウム含有歯磨剤が象牙質に及ぼす変化. 第117回日本歯科保存学会秋季学会, 2002. 11.
- 4) 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 長井正彦<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): 同種血液由来因子(血小板)の歯周組織再生療法への応用. 第45回春季日本歯周病学会総会, 2002. 4.
- 5) 鴨井久博, 吉田昌弘<sup>1)</sup>, 本山聖子<sup>1)</sup>, 遊佐純子<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): イヌ露出歯根面被覆への同種血液由来因子の応用. 第116回日本歯科保存学会春季学会, 2002. 5.
- 6) 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 田中とも子<sup>2)</sup>, 佐藤 勉<sup>2)</sup>, 鴨井久一<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座, <sup>2)</sup>同衛生学講座): 亜鉛欠乏ラットにおける大腿骨, 下顎骨および歯槽骨の骨密度について. 第51回日本口腔衛生学会総会, 2002. 9.
- 7) 小川智久<sup>1)</sup>, 鴨井久博, 飯野賀子<sup>1)</sup>, 鴨井久一<sup>(1)</sup>(<sup>(1)</sup>日本歯科大学歯学部歯周病学講座): マイナスイオンの口

## [ 千葉北総病院看護部 ]

### 研究概要

本年の院内での研究発表は，14題の発表が行われた．内容的には，各専門領域の臨床での疑問を解決するための試みであった．

<テーマ>

- 1) ATHクリティカルパス：第2段階に向けての取り組み 第2報
- 2) 当ICUにおける抑制の基準作成を試みる
- 3) 全身麻酔下で手術を受ける患者に対するせん妄スケールの妥当性を探る
- 4) 効果的な冷電法の検討
- 5) 小児脳波検査前処置における睡眠状況の調査
- 6) 新旧処置法におけるさい帯脱落時期及びサイ異常の比較
- 7) 当院ICUにおける気管内挿管患者に対する口臭・舌苔を軽減させるための口腔ケア方法の検証
- 8) 自己の入院治療・検査に関する認識と関心
- 9) 手術後の食事に関する経時的感覚の変化
- 10) 酸素流量に伴う気泡音の軽減
- 11) 手術中の体温低下防止への試み
- 12) インサイトW留置に伴う翼接触部のスキントラブル発生予防の工夫
- 13) 6階西病棟における転倒・転落の発生要因分析
- 14) メンタルヘルス科患者転倒事故防止のアセスメントに関する研究

院外発表は2件であった．

#### 「経鼻胃管の交換時期の検討」

口腔内の清潔保持に経鼻胃管が及ぼす影響を検証するため，通常の口腔ケアのもと経鼻胃管栄養法施行症例において，胃管の留置時間と共に変化すると予測される口腔内細菌叢と口腔内細菌数を調査した．その結果，多くの症例で，経鼻胃管留置により，細菌数は増加し，更に口腔内細菌叢の変化も認められた．胃管留置と共に胃管全体が細菌の培地に成りやすいことが推察された．このことは，経鼻胃管の長期留置が口腔内細菌の原因となりうることが示唆された．

「ターミナル期において症状の緩和が困難だった症例」

低アルブミン血漿に伴う下肢の浮腫による下肢の疼痛の軽減方法について症例検討を行った．

本年度は，院外の発表は2件に留まったが，今後院内で発表された研究を院外の研究会や学会への参加を促していきたい．

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 篠田朋美，石垣明美，堀口美紀，松田朋子，南陽子：経鼻胃管の交換時期の検討．第11回意識障害治療学会学術集会，2002．7．
- 2) 出谷くみ，佐藤大輔：ターミナル期の症状の緩和で困難だった症例：低アルブミン血漿に伴う下肢の浮腫による下肢疼痛・症状の軽減について．千葉緩和医療研究会，2003．2．

## 〔 4 〕 付 置 研 究 施 設



# 1. 老人病研究所

## [ 病理学部門 ]

### 研究概要

#### 【I】呼吸器微小循環系内皮細胞の活性機序

肺の血管増生機序が内皮細胞に対する複合した因子に依存することを共焦点レーザー顕微鏡で明らかにした。その際に発生する超微形態学的な表現型の変化の新知見を得ることが出来た。形態学的な変容に関する意義付けを *in vitro* 系実験で証明した。

1) 高度に分化したガス交換機能を担う肺胞毛細血管の内皮は免疫組織化学的に特徴ある表現型を示す。内皮細胞の普遍的特徴である von Willebrand factor (vWf)(凝固因子)を発現せず、一方で抗凝固因子である thrombomodulin (TM)を細胞膜に発現している。これは緩徐な肺循環系で血液凝固を防ぐための生理的防御機構を示唆する。

2) 肺胞線維化の初期にはTMの発現を消失しvWfの発現を認めた。肺癌細胞の肺胞壁表面への浸潤により同様の变化を認め、さらにproteinase-activated receptor (PAR)-2の発現を見出した。PAR-1, 2の機能を *in vitro* で検索した結果、肺動脈由来の内皮細胞 (HPAEC) に強い増生反応を認めた。この事実は、肺動脈内皮細胞がVEGFのみならず、PARの活性化を介しても細胞増生を起こす事実を示唆する。

3) 癌における血管新生にあたり、両者が共同して機能することを意味する。癌の転移に際してはしばしば線維化が発生するが、肺の線維症にも深く関与する可能性がある。特に膠原病に関係する肺線維症病変では血管との関連性があり今後興味ある検討課題である。

【II】Comparative Genomic Hybridization (CGH) と Fluorescence in Situ Hybridization (FISH) 法による薬剤耐性白血病細胞に関する分子病理的研究を行った (福島医大第2病理学教室との共同研究)。

これまでに薬剤耐性遺伝子としてMDR-1, MRP-1, cMOAT ないしMRP-2などが知られている。ヒト骨髄単球性白血病細胞株 (KY-821) から, adriamycin (ADR), arabinofuranosyl-cytosine (ara-C), vincristine (VCR) にそれぞれ耐性の株を樹立した。ADR耐性株はVCRとActinomycin Dにも耐性で、VCR耐性株はara-CとActinomycin Dにも耐性を示した。耐性機能の獲得における遺伝子レベルでの変化を知るためにCGH, FISH, RT-PCR法を用いて分析した結果, chromosomes 7q21. 1, 10, 16p13. 1に最も大きな変化を認めた。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Akasu H<sup>1)</sup>, Shizimu K<sup>1)</sup>, Kitagawa W, Naito Z<sup>2)</sup>, Kawanami O, Tanaka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院第二外科, <sup>2)</sup> 病理第2 ): Histological study of papillary thyroid carcinoma treated with percutaneous ethanol injection therapy. Pathology Int. 2002 ; 52 ( 5-6 ): 406-409 .
- 2) Kurihara Y<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Bo H<sup>1)</sup>, Shimizu H, Kawanami O, Moriyama Y<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 外科第1 ): Genome-wide screening of laser capture microdissected gastric signet-ring cell carcinomas. J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 3 ): 235-242 .
- 3) Shichinohe K<sup>1)</sup>, Shimizu S, Sukanuma M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Ishizaki M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 実験動物管理室, <sup>2)</sup> 病理第1 ): Supplementation of heterologous complement induces anti-Thy-1. 1 nephritis in the mongolian gerbil ( Meriones unguiculatus ). Lab. Animal Sci. 2002 2002 ; 64 ( 6 ): 463-467 .
- 4) Shimizu H, Fukuda T<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Nagashima M, Kawanami O, Suzuki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Pathology, School of Medicine, Fukushima Medical University ): Molecular cytogenetic characterization of drug-resis-

tant leukemia cell lines by comparative genomic hybridization and fluorescence in situ hybridization . Jpn. J. Cancer Res. 2002 ; 93 ( 8 ): 902-910 .

- 5) Feng H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Konishi H<sup>2)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>第二病院女性診療科・産科): Expression of MUC1 and MUC2 mucin gene products in human ovarian carcinomas . Jpn. J. Clin. Oncol. 2002 ; 32 ( 12 ): 525-529 .
- 6) Matsushita M<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Konishi H<sup>2)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院女性診療科・産科,<sup>2)</sup>第二病院女性診療科・産科): Association of ovarian tumor epithelium coexpressing HLA-DR and CA-125 antigens with tumor infiltrating cytotoxic T lymphocytes . J Nippon Med Sch. 2003 ; 70 ( 1 ): 40-44 .
- 7) Enjing J, Fujiwara M, Pan X, Ghazizadeh M, Arai S<sup>1)</sup>, Ohaki Y<sup>1)</sup>, Kajiwara K<sup>2)</sup>, Takemura T<sup>3)</sup>, Kawanami O (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部,<sup>2)</sup>第二病院放射線科,<sup>3)</sup>日本赤十字医療センター病理): Protease-activated receptor ( PAR ) -1 and PAR-2 participate in the cell growth of alveolar capillary endothelium in primary lung adenocarcinomas. Cancer . Cancer 2003 ; 97 ( 3 ): 703-713 .
- 8) Nagai H<sup>1)</sup>, Naka T<sup>2)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Komazaki T<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Jin E<sup>2)</sup>, Kawanami O, Kishimoto T<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Nakamura M<sup>3)</sup>, Kobayashi Y<sup>4)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology,<sup>2)</sup>Dept. of Medicine III, Osaka University Medical School,<sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Nara Medical School,<sup>4)</sup>Dept. of Pathology, Saitama Cancer Center): Hypermethylation associated with inactivation of the SOCS-1 gene, a JAK/STAT inhibitor, in human hepatoblastoma . J. Hum. Genet. 2003 ; 48 : 65-69 .
- 9) Nagai H<sup>1)</sup>, Naka T<sup>2)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Komazaki T<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Jin E, Kawanami O, Kishimoto T<sup>2)</sup>, Konishi N<sup>3)</sup>, Nakamura M<sup>3)</sup>, Kobayashi Y<sup>4)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology,<sup>2)</sup>Dept. of Medicine III, Osaka University Medical School,<sup>3)</sup>Dept. of Pathology, Nara Medical School,<sup>4)</sup>Dept. of Pathology, Saitama Cancer Center): Hypermethylation associated with inactivation of the SOCS-1 gene, a JAK/STAT inhibitor, in human hepatoblastomas . J. Hum. Genet. 2003 ; 48 ( 2 ): 65-69 .

## 著 書

- 1) 川並汪一, 金 恩京: [ 分担 ] 気道リモデリングと血管新生 ( 気管支: 肺循環の相互関与 ). 呼吸器科, 2002 ; pp276-285, 科学評論社 .
- 2) 川並汪一: [ 分担 ] 肺血管内皮細胞 . 別冊・医学のあゆみ. 呼吸器疾患, 2003 ; pp99-104, 医師薬出版 .

## 学会発表

### ( 1 ) 教育講演 :

- 1) 川並汪一: 肺の微小血管内皮細胞の特性: 生物学的活性とその表現型 . 第42回日本呼吸器学会, 2002 . 4 .
- 2) 清水 一: 細胞診に有用な分子生物学的解析の実際について . 第21回日本臨床細胞学会神奈川地方会, 2002 . 8 .

### ( 2 ) シンポジウム :

- 1) 土佐真美子<sup>1)</sup>, ガジザデ モハマッド, 清水 一, 平井 隆<sup>1)</sup>, 川並汪一, 百束比古<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科,<sup>2)</sup>付属病院形成外科): ケロイドの病原遺伝子解析および治療への可能性: ケロイド病原遺伝子の解明および新しい治療薬の開発を目指して . 第11回形成外科学会基礎学術集会, 2002 . 10 .

### ( 3 ) 一般講演 :

- 1) Jin E, Pan X, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Takemura T<sup>1)</sup>, Kawanami O (<sup>1)</sup>日本赤十字医療センター病理): Endothelial cell growth via protease activated receptor ( PAR ) -2 in alveolar capillaries of primary lung adenocarcinoma . 12th International vascular biology meeting ( Karuizawa Japan ), 2002 . 5 .
- 2) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O: Angiogenesis via protease-activated receptor ( PAR ) -1 in human lung vascular endothelial cells . 12th International vascular biology meeting ( Karuizawa Japan ), 2002 . 5 .

- 3) Jin E, Fujiwara M, Pan X, Ghazizadeh M, Kawanami O : Serine protease and proteinase-activated receptors modulate the growth of alveolar capillary endothelium in human lung adenocarcinoma . ALA/ATS International conference ( Atlanta ), 2002 . 5 .
- 4) F, M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O : The role of thrombomodulin and protease-activated receptor-2 on the angiogenesis of alveolar capillaries . ALA/ATS International Conference ( Atlanta ), 2002 . 5 .
- 5) Ghazizadeh M, Tosa M<sup>1)</sup>, Shimizu H, Kawanami O, Hirai T<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Araki T<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>付属病院女性診療科・産科): Gene expression profiles of normal skin and keloid fibroblasts by cDNA microarray analysis . Sixth Annual Functional Geneomics : Genomics on Target ( Boston ), 2002 . 11 .
- 6) Ghazizadeh M, Tosa M<sup>1)</sup>, Shimizu H, Egawa S, Oguro T<sup>2)</sup>, Inoue K<sup>3)</sup>, Hirai T<sup>1)</sup>, Kawanami O (<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): Expression of cdc25 cyclin-dependent protein kinases in keloid lesions . 第27回日本皮膚科学会学術大会, 2002 . 8 .
- 7) Iwakiri K, Jin E, Fujiwara M, Kawanami O : Expression of human airway trypsin-like protease ( HAT ) and protease-activated receptors ( PARs ) in psoriasis vulgaris . 第27回日本皮膚科学会学術大会, 2002 . 8 .
- 8) 岩切加奈, 金 恩京, 藤原正和, 川並汪一, 竹崎伸一郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): Novel protease : human airway trypsin-like protease ( HAT ) in psoriasis vulgaris . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 9) Ghazizadeh M, Kurihara Y<sup>1)</sup>, Bo H<sup>1)</sup>, Shimizu H, Kawanami O, Moriyama Y<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): Comparative genomic hybridization of laser capture microdissected gastric signet-ring cell carcinomas . 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 10) Ghazizadeh M, Tosa M<sup>1)</sup>, Shimizu H, Egawa S, Inoue K<sup>2)</sup>, Oguro T<sup>3)</sup>, Hirai T<sup>1)</sup>, Kawanami O (<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): Increased Levels of Cell Division Cycle 25A Protein in Keloid Lesions . 第32回日本創傷治癒学会, 2002 . 12 .
- 11) 金 恩京, 藤原正和, ガジザデ モハマッド, 川並汪一: 肺胞毛細血管新生におけるセリンプロテアーゼとそのレセプターの役割: 特に肺腺癌について . 第42回日本呼吸器学会, 2002 . 4 .
- 12) 清水 一: cDNA マイクロアレイ法によるシスプラチン耐性卵巣癌細胞における遺伝子プロファイルの解析 . 第13回がんの転移と浸潤増殖に関する研究会, 2002 . 5 .
- 13) 潘 欣, 金 恩京, 藤原正和, ガジザデ モハマッド, 清水 一, 岩切加奈, 川並汪一: 肺線癌における肺胞毛細血管と protease-activated receptor の役割 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 14) 駒崎敏昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 永井尚生<sup>2)</sup>, 寺田淑恵<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 矢部 彩<sup>2)</sup>, 金 恩京, 川並汪一, 江見 充<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>老人病研究所分子生物): ヒト膵臓癌における JAK/STAT 系の抑制遺伝子異常 . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 15) 枝川聖子, 清水 一, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>5)</sup>, 佐藤雅史<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>6)</sup>, 川並汪一(<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>第二病院病理部, <sup>3)</sup>同放射線科, <sup>4)</sup>永山病院病理部, <sup>5)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>6)</sup>内科第4): 気管支肺胞洗浄法 ( Bronchoalveolar Lavage : BAL ): 本学における現状と疾患特異性について . 第70回日本医科大学医学会総会, 2002 . 9 .
- 16) 齋藤 恵<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 加世木久幸<sup>1)</sup>, 枝川聖子, 長澤由英<sup>2)</sup>, 太田吉男<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup>同病理部): 細胞診, 組織診にて卵管癌を強く疑わせた1例 . 第41回日本臨床細胞学会秋季大会, 2002 . 11 .
- 17) 武村民子<sup>1)</sup>, 池 玉蓉<sup>1)</sup>, 生島壮一郎<sup>2)</sup>, 安藤常浩<sup>2)</sup>, 折津 愈<sup>2)</sup>, 金 恩京, 川並汪一(<sup>1)</sup>日本赤十字医療センター病理, <sup>2)</sup>同呼吸器内科): UIP ならびに NSIP における病変部血管内皮細胞の形質変化 . 第43回日本呼吸器学会, 2003 . 3 .
- 18) 金 恩京, 藤原正和, 潘 欣, 武村民子<sup>1)</sup>, 川並汪一(<sup>1)</sup>日本赤十字医療センター病理): 肺胞毛細血管新生における protease-activated receptor ( PAR ) -2 の役割 . 第43回日本呼吸器学会, 2003 . 3 .
- 19) 藤原正和, 金 恩京, 中谷千瑞子, ガジザデ モハマッド, 川並汪一: 肺動脈内皮細胞における protease-activated receptor ( PAR ) -1, PAR-2, PAR-4 の活性化とその反応性の傾向 . 第43回日本呼吸器学会, 2003 . 3 .

## [ 生化学部門 ]

### 研究概要

平成14年度より老人病研究所が中心となって、大学院医学研究科の新設専攻系として加齢科学系専攻が発足し、老人病研究所生化学部門は 細胞生物学分野として再出発した。内容的にレベルの高い論文として発表され、マスコミにも大きく取り上げられた。

(1) 蛋白治療；昨年までに、アポトーシスを抑制する因子Bcl-xの遺伝子を改変し、強力にアポトーシスを抑制する因子FNKを作成した。さらに、FNK蛋白を細胞内に導入する系を作り出した。培養神経細胞の保護効果と脳虚血による保護効果を明確にして、米国科学アカデミー紀要に発表した。国内では、各の新聞紙に紹介された。

(2) 神経変性疾患；ALDH2(アルデヒド脱水素酵素2)は、生理的には酸化ストレスの防御機構として働き、疾病へ関与することを明らかにした。この結果は、Journal Neurochemistryに発表され、国内のマスコミにも大きく取り上げられた。

DLST(ジヒドロリポアミドサクシニル転位酵素)遺伝子には全長DLSTの他に短いMIRTDが存在することを明らかにした。さらに、MIRTDはミトコンドリアの呼吸鎖酵素複合体の集合に関与する因子であることを明らかにした。アルツハイマー病患者脳でMIRTDのmRNA量が減少しており、ミトコンドリア呼吸鎖酵素活性低下がアルツハイマー病の原因のひとつであることが示唆された。この研究成果は、来年度、EMBO Journalに公表の予定である。

(3) ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異の蓄積：糖尿病患者の血液細胞を用いて、糖尿病の罹患期間に依存して、ミトコンドリアDNAの変異が蓄積していくことを明らかにし、Diabetologiaに発表した。

昨年度発足した「日本ミトコンドリア研究会」の年会を、昨年に引き続き太田成男が 学術集会長として第二回の年会を開催した。演題数は80で大幅に増加し、日本ミトコンドリア研究会の基礎が確立された。また、アジアミトコンドリア医学研究学会の設立に貢献した。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nomiyama T<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Hattori N<sup>2)</sup>, Nishimaki K, Nagasaka K, Kawamori R<sup>1)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. Med., Juntendo Univ. , <sup>2)</sup> Dept. Neurology, Sch. Med., Juntendo Univ. ): Accumulation of somatic mutation in Mitochondrial DNA extracted from peripheral blood cells in diabetic patients. . Diabetologia. 2002 ; 45 ( 11 ): 1577-1583 .
- 2) Yamamoto H<sup>1)</sup>, Esaki M<sup>1)</sup>, Kanamori T, Tamura Y<sup>1)</sup>, Nishikawa S<sup>1)</sup>, Endo T<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Department of Chemistry, Graduate School of Science, Nagoya Univ. ): Tim50 Is a subunit of the TIM23 complex that links protein translocation across the outer and inner mitochondrial membranes . Cell 2002 ; 111 ( 4 ): 519-528 .
- 3) Yamada Y<sup>1)</sup>, Ando F<sup>2)</sup>, Niino N<sup>2)</sup>, Ohta S, Shimokata H<sup>2)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. Gene Therapy, Gifu Internatl. Inst. Biotech. Inst. Appl. Biochem. , <sup>2)</sup> Dept. Epidemiol., Natl. Inst. Longevity Sci. ): Association of polymorphisms of the estrogen receptor gene with bone mineral density of the femoral neck in elderly Japanese women . J. Mol. Med. 2002 ; 80 : 452-460 .
- 4) Asoh S, Ohsawa I, Mori T<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>2)</sup>, Hiraide T, Katayama Y, Kimura M, Ozaki D, Yamagata K, Ohta S ( <sup>1)</sup> Saitama Med. Ctr. /Sch. , <sup>2)</sup> Second Dept. Intern. Med. ): Protection against ischemic brain injury by protein therapeutics . Proc. Nat. Acad. Sci. USA. 2002 ; 99 ( 26 ): 17107-17112 .
- 5) Yasukawa T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ohta S, Watanabe K<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup> Dept. Chem. Biotechnol., Graduate Sch. Engin., Univ. Tokyo ): Wobble modification defect suppresses translational activity of tRNAs with MERRF and MELAS mutations . Mitochondrion 2002 ; 2 : 129-141 .

- 6) Nakano K<sup>1)</sup>, Tanabe M<sup>1)</sup>, Nakagawa S<sup>2)</sup>, Ohta S, Suzuki S<sup>3)</sup>, Shimura M<sup>3)</sup>, Matuda S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Kagoshima Women's Junior Coll. , <sup>2)</sup> Sch. Med. , Kagoshima Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Biol. Health Sci. , Kanoya Natl. Inst. Fit. Sports ): Isolation and sequence analysis of the rat dihydrolipoamide succinyltransferase gene . DNA Seq. 2002 ; 13 ( 6 ): 363-367 .
- 7) Harada H<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Ezura Y<sup>1)</sup>, Yokota T<sup>1)</sup>, Ohsawa I, Yamaguchi K<sup>2)</sup>, Ohue C<sup>2)</sup>, Tsuneizumi M<sup>1)</sup>, Mikami I<sup>1)</sup>, Terada Y<sup>1)</sup>, Yabe A<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Mol. Biol. , <sup>2)</sup> Advanced Life Science Inst. , Inc. ): Down-regulation of a novel gene, DRLM, in human liver malignancy from 4q22 that encodes a NAP-like protein . Gene 2002 ; 296 : 171-177 .
- 8) Suzuki Y<sup>1, 2)</sup>, Taniyama M<sup>2)</sup>, Muramatsu T<sup>3)</sup>, Ohta S, Atsumi Y<sup>1)</sup>, Matsuoka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Saiseikai Cent. Hosp. , <sup>2)</sup> Fujigaoka Hosp. , Showa Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ. ): Influence of Alcohol Intake and Aldehyde Dehydrogenase 2 Phenotype on Peripheral Neuropathy of Diabetes . Diabetes Care 2003 ; 26 ( 1 ): 249-249 .
- 9) Suzuki Y<sup>1, 2)</sup>, Taniyama M<sup>2)</sup>, Muramatsu T<sup>3)</sup>, Ohta S, Atsumi Y<sup>1)</sup>, Matsuoka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Saiseikai Cent. Hosp. , <sup>2)</sup> Fujigaoka Hosp. , Showa Univ. , <sup>3)</sup> Dept. Neuropsychiatry, Keio Univ. ): Diabetic Vasculopathy and Alcohol Tolerance Trait in Type 2 Diabetes . Diabetes Care 2003 ; 26 ( 1 ): 246-247 .
- 10) Ohsawa I, Nishimaki K, Yasuda C, Kamino K, Ohta S : Deficiency in a mitochondrial aldehyde dehydrogenase increases vulnerability to oxidative stress in PC12 cells . J. Neurochem. 2003 ; 84 ( 5 ): 1110-1117 .

## 著 書

- 1) 太田成男 : [ 自著 ] ミトコンドリアの起源 . ミトコンドリアとミトコンドリア病 , 2002 ; pp799-804 , 日本臨床社 .
- 2) 麻生定光 , 太田成男 : [ 共著 ] 遺伝子治療と蛋白質治療 . ミトコンドリアとミトコンドリア病 , 2002 ; pp674-678 , 日本臨床社 .
- 3) 安川武宏 , 鈴木 勉 , 太田成男 , 渡辺公綱 : [ 共著 ] 変異ミトコンドリア tRNA の修飾欠損と decoding 異常 . ミトコンドリアとミトコンドリア病 , 2002 ; pp197-201 , 日本臨床社 .
- 4) 金森 崇 , 太田成男 : [ 共著 ] 生化学的検査 : 呼吸鎖複合体活性, ビルビン酸デヒドロゲナーゼ複合体活性など . ミトコンドリアとミトコンドリア病 , 2002 ; pp256-260 , 日本臨床社 .
- 5) 安川武宏 : [ 自著 ] ミトコンドリア DNA の複製機序と修復機構 . ミトコンドリアとミトコンドリア病 , 2002 ; pp24-29 , 日本臨床社 .
- 6) 大澤郁朗 , 太田成男 : [ 共著 ] ミトコンドリアの老化への関与とその機能異常 . Molecular Medicine , 2002 ; pp520-526 , 中山書店 .

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) 太田成男 : MIDAS, a nuclear gene product mediates mitochondrial accumulation in response to mitochondrial dysfunction . 第1回 J-Mit 国際シンポジウム ( 東京 ), 2002 . 10 .
- 2) Ohta S : Deficiency in Mitochondrial Aldehyde Dehydrogenase is a Risk for Late-onset of Alzheimer's disease in the Japanese population by Increasing Vulnerability to Oxidative Stress . The Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine ( Seoul, Korea ), 2003 . 2 .
- 3) 太田成男 : アルツハイマー病の危険因子としてのミトコンドリアアルデヒド脱水素酵素欠損 . 第17回老年期痴呆研究会 , 2002 . 7 .
- 4) 太田成男 : ミトコンドリア遺伝子と疾患 . 第12回遺伝医学セミナー , 2002 . 9 .

- 5) 太田成男：ミトコンドリア研究の展望．日本生物物理学会40回年会プレシンポジウム，2002．10．
- 6) 太田成男，若尾リカ，石橋佳明，麻生定光：単細胞生物死への呼吸系の関与．第25回日本分子生物学会年会，2002．12．

(2) シンポジウム：

- 1) 野見山崇<sup>1)</sup>，田中 逸<sup>1)</sup>，服部信孝<sup>2)</sup>，河盛隆造<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>順天堂大・代謝内分泌，<sup>2)</sup>同・神経学）：糖尿病患者におけるミトコンドリア DNA 体細胞変異蓄積の検討．第75回日本生化学大会，2002．10．
- 2) 麻生定光，大澤郁朗，尾崎大也，森 隆<sup>1)</sup>，桂研一郎<sup>2)</sup>，山縣久美，佐藤佑一朗，西槇貴代美，片山泰朗，太田成男（<sup>1)</sup>埼玉医大・医療セ，<sup>2)</sup>日本医科大学内科第2）：スーパーアポトーシス抑制因子 FNK による蛋白質治療．第75回日本生化学大会，2002．10．
- 3) 大澤郁朗，西槇貴代美，安田知永，紙野晃人，永坂恵子，安藤富士子<sup>1)</sup>，新野直明<sup>1)</sup>，下方浩史<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>国立長寿医療セ・疫学）：ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損と関連疾患．第75回日本生化学大会，2002．10．
- 4) 上村尚美，石橋佳朋，向井有理，麻生定光，宗像可枝<sup>1)</sup>，後藤雄一<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>国立精神・神経セ・神経研）：核遺伝子産物 MIDAS によるミトコンドリア増殖機構．第75回日本生化学大会，2002．10．

(3) 一般講演：

- 1) Ohsawa I, Nishimaki K, Yasuda C, Kamino K, Ohta S: Deficiency in a mitochondrial aldehyde dehydrogenase is a risk factor of Alzheimer's disease and affects on neuronal vulnerability against oxidative stress in PC12 cells. The International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Stockholm, Sweden), 2002. 7.
- 2) 山縣久美，杉本 泉<sup>1)</sup>，安川武弘<sup>2)</sup>，西槇貴代美，鈴木 勉<sup>1)</sup>，林 純一<sup>3)</sup>，渡辺公綱<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命，<sup>2)</sup>東大院・工・化生，<sup>3)</sup>筑波大・生物科学）：核遺伝子抑制変異による変異ミトコンドリア tRNA の機能回復．第4回日本RNA学会年会，2002．7．
- 3) 麻生定光，山縣久美，尾崎大也，森 隆<sup>1)</sup>，桂研一郎<sup>2)</sup>，大澤郁朗，平出智晴<sup>2)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>埼玉医大・医療セ，<sup>2)</sup>日本医科大学第2内科）：細胞導入型スーパーアポトーシス抑制因子 PTD FNK 蛋白投与による治療法の開発．アポトーシス研究会第11回研究集談会，2002．8．
- 4) 大澤郁朗，麻生定光，木村 恵，尾崎大也，山縣久美，太田成男：細胞導入型アポトーシス抑制因子 PTD-FNK の神経細胞におけるミトコンドリアへの局在と細胞死の抑制．アポトーシス研究会第11回研究集談会，2002．8．
- 5) 尾崎大也，麻生定光，山縣久美，須藤賢太郎<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>整形外科）：アポトーシスをターゲットとした治療：スーパーアポトーシス抑制因子 FNK を用いた変型性関節症への応用．アポトーシス研究会第11回研究集談会，2002．8．
- 6) 植松正樹，大澤郁朗，麻生定光，松本光司<sup>1)</sup>，高橋 弘<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>第二病院病理部，<sup>2)</sup>脳神経外科）：脳腫瘍におけるアポトーシス阻害蛋白の Survivin の発現と index の臨床的有用性．第61回日本脳神経外科学会総会，2002．10．
- 7) 大澤郁朗，麻生定光，木村 恵，森 隆<sup>1)</sup>，尾崎大也，山縣久美，太田成男（<sup>1)</sup>埼玉医大・医療セ）：細胞導入型スーパーアポトーシス抑制因子 PTD-FNK 蛋白による神経細胞死抑制．第25回分子生物学会，2002．12．
- 8) 永井信也，小林靖宏，鈴木 操<sup>1)</sup>，森 隆<sup>2)</sup>，麻生定光，森山雄吉<sup>3)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>熊本大・動物資源開発研究セ，<sup>2)</sup>埼玉医大・医療セ，<sup>3)</sup>第二病院・消化器病セ）：改良型アポトーシス抑制因子 FNK による肝虚血再灌流における細胞死の抑制．第25回分子生物学会，2002．12．
- 9) 須藤賢太郎，尾崎大也，山縣久美，麻生定光，成田哲也<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>整形外科学）：改良型アポトーシス抑制因子 FNK 蛋白導入を用いた軟骨組織培養の凍結再融解による細胞死の抑制．第25回分子生物学会，2002．12．
- 10) 金森 崇，西槇喜代美，高田威一郎<sup>1)</sup>，桑原知子<sup>1)</sup>，多比良和誠<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>東大院・工）：POSTD

mRNA を減少させるとミトコンドリア呼吸鎖が低下する．第25回分子生物学会，2002．12．

- 11) 大澤郁朗，石井徳恵，金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男：神経細胞の分化におけるエネルギー代謝低下の必要性．第25回分子生物学会，2002．12．
- 12) 小西由紀，中島尚美，麻生定光，太田成男：ミトコンドリアの障害を感知してミトコンドリアの増殖を促進する因子MIDASの細胞内局在．第25回分子生物学会，2002．12．
- 13) 中島尚美，石橋佳朋，向井有理，麻生定光，後藤雄一<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>国立精神・神経セ・神経研）：核遺伝子産物MIDASによるミトコンドリアの増殖と分布形態の変化．第25回分子生物学会，2002．12．
- 14) 山縣久美，杉本 泉<sup>1)</sup>，安川武宏<sup>2)</sup>，西槇貴代美，鈴木 勉<sup>1)</sup>，林 純一<sup>3)</sup>，渡辺公綱<sup>1,2)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命，<sup>2)</sup>同・工・化生，<sup>3)</sup>筑波大・生物科学）：核遺伝子抑制変異による変異ミトコンドリア tRNA の機能回復．第25回分子生物学会，2002．12．
- 15) 大澤郁朗，石井徳恵，金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男：神経芽細胞におけるDLST 遺伝子の点突然変異：神経細胞の分化におけるエネルギー代謝低下の必要性．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 16) 金森 崇，西槇貴代美，麻生定光，太田成男：DLST 遺伝子のC末端領域蛋白POSTDの役割．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 17) 山縣久美，杉本 泉<sup>1)</sup>，安川武宏<sup>2)</sup>，西槇貴代美，鈴木 勉<sup>1)</sup>，林 純一<sup>3)</sup>，渡辺公綱<sup>12)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>東大院・新領域・先端生命，<sup>2)</sup>同・工・化生，<sup>3)</sup>筑波大・生物科学）：ミトコンドリア病原因変異をもつ細胞の呼吸回復機構．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 18) 永井信也，小林靖宏，鈴木 操<sup>2)</sup>，森 隆<sup>3)</sup>，麻生定光，森山雄吉<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>熊本大・動物資源開発研究セ，<sup>2)</sup>埼玉医大・総合医療セ，<sup>3)</sup>第二病院・消化器病セ）：ミトコンドリアを標的としたスーパーアポトーシス抑制因子FNK 蛋白投与による肝虚血再灌流における細胞死の抑制．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 19) 須藤賢太郎，尾崎大也，山縣久美，麻生定光，成田哲也<sup>1)</sup>，伊藤博元<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>整形外科）：ミトコンドリアヘターゲットする改変型細胞死抑制因子FNK 蛋白導入を用いた軟骨組織培養の凍結再融解による細胞死の抑制．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 20) 上村尚美，石橋佳朋，向井有理，麻生定光，後藤雄一<sup>1)</sup>，太田成男（<sup>1)</sup>国立精神神経セ・神経研）：核遺伝子産物MIDASによるミトコンドリアの増殖．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．
- 21) 小西由紀，上村尚美，麻生定光，太田成男：ミトコンドリアの増殖を促進する因子MIDASの細胞内局在．第2回日本ミトコンドリア研究会年会，2002．12．

## [ 免疫部門 ]

### 研究概要

我々の研究テーマは、癌抑制因子 p53 によるアポトーシス誘導機構の解明である。特に、正常の培養線維芽細胞は、DNA 損傷等の刺激が加わったときには細胞周期の停止が起こるのに対して、癌遺伝子を遺伝子導入した細胞は p53 依存性にアポトーシスが誘導される。このことは、癌遺伝子が活性化した細胞は、将来的に癌細胞へと変化するリスクが高く、この細胞を p53 が排除することで癌を抑制していると考えられ、これを解析している。

我々はこれまでに、p53 依存性に転写誘導される新規遺伝子 BH3-only 因子（線虫では、Bcl-2 に相当する ced-9 に作用してアポトーシスを誘導する egl-1 相当分子であり、Bcl-2 ファミリーに属する）Noxa を同定している。今年度の解析の結果、p53 によって誘導される既知の BH3-only 因子を同定しており、p53 によるアポトーシスはいくつかの BH3-only の発現誘導によって誘導されることが想像された。一方、Bcl-2 ファミリー分子である Bax/Bak 両欠損マウス由来の細胞は p53 依存性のアポトーシスが全く起こらないこと、BH3-only 因子の強制発現によるアポトーシスがこの細胞では誘導されないことが報告された。更に、p53 により直接誘導される BH3-only 因子群によって Bax と Bak が活性化されるものの、これらの因子は直接 Bax や Bak とは結合せず、アポトーシスを抑制する Bcl-2 ファミリー因子としか結合しないという結果を得ている。そこでこれを介在する分子の精製を行ない、その候補となる因子をいくつか同定した。同時に、癌遺伝子を導入したマウス胎児線維芽細胞（MEF）や Rb ないし p21 欠損 MEF といった Rb 系の制御が破綻した細胞で誘導性が変化する標的遺伝子群を同定した。今後、これらの解析を推し進めて、上記の問題の解決を目指していこうと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tobiume K, Saitoh M<sup>1)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Activation of apoptosis signal-regulating kinase 1 by the stress-induced activating phosphorylation of pre-formed oligomer . J. Cell Physiol. 2002 ; 191 ( 1 ): 95-104 .
- 2) Nishitoh H<sup>1)</sup>, Matsuzawa A<sup>1)</sup>, Tobiume K, Saegusa K<sup>1)</sup>, Takeda K<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>2)</sup>, Horii K<sup>23)</sup>, Kakizuka A<sup>23)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2)</sup> Osaka Biosci. Inst. , <sup>3)</sup> Kyoto Univ. ): ASK1 is essential for endoplasmic reticulum stress-induced neuronal cell death triggered by expanded polyglutamine repeats . Genes Dev. 2002 ; 16 ( 11 ): 1345-1355 .
- 3) Matsuzawa A<sup>1)</sup>, Nishitoh H<sup>1)</sup>, Tobiume K, Takeda K<sup>1)</sup>, Ichijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Med. Dent. Univ. ): Physiological roles of ASK1-mediated signal transduction in oxidative stress- and endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis : advanced findings from ASK1 knockout mice . Antioxid. Redox Signal 2002 ; 4 ( 3 ): 415-425 .
- 4) Tachi C<sup>1,2)</sup>, Enomoto T<sup>2)</sup>, Matsubara Y<sup>2)</sup>, Ueda A<sup>2)</sup>, Hasegawa T<sup>2)</sup>, Matsuyama J<sup>2)</sup>, Tsuchiya M<sup>2)</sup>, Ohta M<sup>2)</sup>, Tanabe Y<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Endo H<sup>3)</sup>, Yanada T<sup>3)</sup>, Kuromatsu M<sup>4)</sup>, Hayashi Y<sup>4)</sup>, Asano Y, Yamanouchi K<sup>4)</sup>, Tojo H<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi-kagaku Life Sci. Inst. , <sup>2)</sup> Azabu, Univ. , <sup>3)</sup> National Science Museum , <sup>4)</sup> Univ. Tokyo ): Successful molecular cloning and nucleotide sequence determination of partial amelogenin ( AMELX ) exon DNA fragment recovered from a mounted taxidermic pelt specimen tentatively identified as an extinct wolf species, *Canis lupus hodophilax* Temminck, the Japanese Wolf and stocked at School of Agriculture and Life Sciences, the University of Tokyo . J. Reprod. Dev. 2002 ; 48 ( 6 ): 633-638 .

##### (2) 綜説：

- 1) 織田恵理, 田中信之: p53 の標的遺伝子群によるアポトーシスの制御 . 臨床免疫 ( 特別増刊「アポトーシスの



- すべて」) 2002 ; 38 ( Suppl. 20 ): 106-114 .
- 2) 田中信之 : アポトーシスの制御機構 . 実験医学 ( 増刊 「ここまで分かった形づくりのシグナル伝達」) 2002 ; 20 ( 2 ): 345-351 .
  - 3) 田中信之 : Bcl-2ファミリータンパク質と疾患 . Molecular Medicine 2002 ; 39 ( 6 ): 638-644 .
  - 4) 田中信之 : p53による細胞調節と癌 . Molecular Medicine 2002 ; 39 ( 11 ): 1280-1286 .

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

- 1) 田中信之, 織田恵理, 飛梅 圭, 浅野由ミ, 上原郁野, 大塚秀文 : p53誘導性アポトーシスにおける Bcl-2ファミリー分子の役割 (シンポジウム「がん抑制の分子機構」). 第75回日本生化学会大会, 2002 . 10 .
- 2) 田中信之, 織田恵理, 飛梅 圭 : p53によるアポトーシス誘導機構の解析 (シンポジウム「p53研究の最前線」). 第61回日本癌学会総会, 2002 . 10 .
- 3) 田中信之 : p53によるアポトーシス誘導の分子機構の解析 (シンポジウム「細胞死制御の分子機構」). 第44回歯科基礎医学会学術大会, 2002 . 10 .

##### (2) 一般講演 :

- 1) 田中信之, 織田恵理, 飛梅 圭, 浅野由ミ, 上原郁野, 大塚秀文, 八木修立郎 : BH3-only 因子 Noxa によるミトコンドリアを介したアポトーシス誘導機構の解析 . 第2回 日本ミトコンドリア研究会年会, 2002 . 12 .

## [ 疫学部門 ]

### 研究概要

神経内分泌学を中心として生体の機能制御機構を研究する．生体の個体としての機能とその制御機構についてホルモンを対象として研究している．

#### I. Corticotropin-releasing factor ( CRF ) の生理作用に関する研究

CRFは中枢神経系に広く分布し、その生理作用の多様性がわかってきた．CRFの受容体(1型, 2型)のクローニング、新たな内因性リガンドであるurocortinの発見などによって、CRFのもつ機能や病態との関連の解明が一段と進み、創薬や臨床応用が期待されている．本年度の課題は

- 1) 視床下部CRF 1型受容体 (CRFR-1) 発現調節機構
- 2) CRFの鎮痛作用の解明: CRF ノックアウトマウスを用いた解析
- 3) 慢性ストレスモデル(坐骨神経部分結紮により神経因性疼痛を惹起したラットモデル)での視床下部 下垂体

副腎系の機能解析: 情緒障害との関連

#### II. 成長ホルモンの分泌調節機構に関する研究

下垂体ホルモン分泌における超日リズムの発現機構と意義については不明な点が多く、そのメカニズムの中核については解明されていない．下垂体ホルモンの超日リズムの発現機構を解明することを目的として成長ホルモン (GH) について研究を行ってきた．本年度の課題は

- 1) GHの分泌リズム形成におけるアンドロゲンの意義
- 2) GHのオートフィードバック機構とGH受容体を介する細胞内シグナル伝達

#### III. プロラクチンの分泌調節機構とシグナル伝達に関する研究

下垂体からのプロラクチン (PRL) の分泌調節機構を解明する目的で、視床下部 下垂体のPRL プロラクチン受容体システムについて検討し、視床下部におけるPRLのシグナル伝達機構を検討してきた．本年度の課題は

- 1) 視床下部におけるPRLとPRL受容体の発現様式
- 2) PRLの視床下部細胞内シグナル伝達系

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Naruse M, Tababe A<sup>1)</sup>, Sato A<sup>2)</sup>, Takagi S<sup>1)</sup>, Tsuchiya K<sup>1)</sup>, Imaki T, Takano K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Tokyo Women's Med Univ, <sup>2)</sup> Mito Red Cross Hospital): Aldosterone breakthrough during angiotensin II receptor antagonist therapy in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. Hypertension 2002; 40 (1): 28-33.
- 2) Tokita R, Kasagi Y, Nakata T, Sakae K, Imaki T, Minami S: Microinjection of dihydrotestosterone into the medial preoptic area produces male-like pattern of growth hormone secretion in ovariectomized female rats. Neuroendocrinology 2002; 75: 384-391.
- 3) Nakata T, Yokota T<sup>1)</sup>, Emi M<sup>1)</sup>, Minami S (<sup>1)</sup> Dept Molecular Biology): Differential expression of multiple isoforms of the ELKS mRNAs involved in a papillary thyroid carcinoma. Genes Chrom. Cancer 2002; 35: 30-37.
- 4) Kasagi Y, Horiba N<sup>1)</sup>, Sakai K<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Suda T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> Hirosaki University, School of Medicine, <sup>2)</sup> Juntendo University, School of Medicine): Involvement of cAMP-Responsive Element Binding Protein in Corticotropin-Releasing Factor (CRF)-Induced Down-Regulation of CRF Receptor 1 gene Expression in Rat Anterior Pituitary Cells. J Neuroendocrinol 2002; 14: 587-592.
- 5) Konishi S, Kasagi S, Katsumata H, Minami S, Imaki T: Regulation of corticotropin-releasing factor

( CRF ) type-1 receptor gene expression by CRF in the hypothalamus . Endocrine J 2003 ; 50 ( 1 ) : 21-36 .  
6) 田辺晶代<sup>1)</sup>, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): 原発性アルドステロン症におけるレニン・アルドステロンプロファイルの多様性. 日本内分泌学会雑誌 2002 ; 78 ( Suppl 1 ) : 84-90 .

(2) 綜説 :

- 1) 南 史朗: 視床下部下垂体系に対するGH/IGF-Iの作用と機序. 内分泌・糖尿病科 2002 ; 15 ( Suppl 1 ) : 84-90 .
- 2) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 土谷 健<sup>2)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内, <sup>2)</sup>同4内): 副腎からのアルドステロン分泌調節機構. 血圧 2002 ; 9 : 575-580 .

著 書

- 1) 今城俊浩: [ 自著 ] 無月経, 体重増加, 筋力低下を主訴に来院した29歳女性, 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ. 内分泌疾患 [ 第3版 ], 2002 ; pp169-180, 日本医事新報社 .
- 2) 今城俊浩: [ 自著 ] 1. 尿崩症, 内分泌・代謝疾患の治療と看護. 視床下部疾患の治療と看護, 2002 ; pp53-57, 南江堂 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): ACTH産生下垂体腺腫: 術後内分泌検査と長期予後との関係 ( クリニカルアワー「興味ある症例 下垂体腺腫」). 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 2) 今城俊浩, 宮田麻理子, 笠木陽子, 勝又晴美, 小西俊一郎, 南 史朗: Corticotropin-releasing factor ( CRF ) 1型受容体の発現調節機構. 第29回日本神経内分泌学会学術集会, 2002 . 10 .

(2) 一般講演 :

- 1) Tokita R, Kasagi Y, Nakata T, Tanaka C, Imaki T, Minami S : Prolactin phosphorylates STAT5b and increases SOCS3 and CIS mRNAs in the hypothalamic arcuate nucleus of hypophysectomized rats . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol ), 2002 . 9 .
- 2) Imaki T, Katsumata H, Kasagi Y, Konishi S, Imaki J, Minami S : Role of corticotropin-releasing factor ( CRF ) for traumatic brain injury . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol ), 2002 . 9 .
- 3) Konishi S, Kasagi Y, Katsumata H, Minami S , Imaki T : Regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) type-1 receptor gene expression by CRF in the hypothalamus . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol ), 2002 . 9 .
- 4) Kasagi Y, Katsumata H, Minami S, Imaki T : Investigation of signal transduction systems involved in the up-regulation of corticotropin-releasing factor ( CRF ) type-1 receptor gene expression in cultured rat hypothalamic neurons in vitro . The 5th International Congress of Neuroendocrinology ( Bristol ), 2002 . 9 .
- 5) 中田朋子, 横田 隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 南 史朗 (<sup>1)</sup>分子生物学): 甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子 ELKSの発現とELKS-c-retタンパク質の解析. 第12回Medical Genetics研究会, 2002 . 6 .
- 6) 小西俊一郎, 勝又晴美, 笠木陽子, 南 史朗, 今城俊浩: マウス視床下部でのCorticotropin-releasing factor ( CRF ) 及びCRF1型受容体 ( CRFR-1 ) 発現: ストレス・浸透圧刺激による変化. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 7) 笠木陽子, 勝又晴美, 南 史朗, 今城俊浩: ラット視床下部におけるCRF1型受容体の発現調節機構に関する検討. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 8) 近田直子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 佐藤幹二<sup>1)</sup>, 堀田真理<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): 適切なグルココルチコイド補充療法: 骨密度を指標にした検討. 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .

- 9) 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 田辺晶代<sup>1)</sup>, 高木佐知子<sup>1)</sup>, 今城俊浩, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): 急性ストレス時の組織中Urotensin II ( UTII ) 及びその受容体G protein-coupled receptor 14 ( GPR-14 ) のmRNA発現動態 . 第75回日本内分泌学会学術総会, 2002 . 6 .
- 10) 小西俊一郎, 宮田麻理子, 勝又晴美, 笠木陽子, 南 史朗, 今城俊浩: ラット坐骨神経部分結さつを用いた慢性ストレスモデルでの視床下部: 下垂体: 副腎系の機能解析 . 第29回日本神経内分泌学会学術集会, 2002 . 10 .
- 11) 中田朋子, 笠木陽子, 時田玲子, 田中知恵, 今城俊浩, 南 史朗: ラット視床下部におけるプロラクチンによるSTAT5bのリン酸化に対するエストロゲンの効果 . 第29回日本神経内分泌学会学術集会, 2002 . 10 .
- 12) 笠木陽子, 勝又晴美, 南 史朗, 今城俊浩: 視床下部神経細胞におけるCorticotropin-releasing factor ( CRF ) 1型受容体の発現調節機構 . 第29回日本神経内分泌学会学術集会, 2002 . 10 .
- 13) 今城俊浩, 成瀬光栄<sup>1)</sup>, 高野加寿恵<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京女子医大2内): ACTH産生下垂体腺腫 ( Cushing病 ) の術後治癒判定基準 . 第30回内分泌代謝研究会, 2002 . 12 .

## [ 分子生物学部門 ]

### 研究概要

1) 体系的遺伝子多型 (SNP) 解析: 大規模な人口の解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と表現型間の関係を検討, 骨粗鬆症について遺伝子多型のゲノムワイドな多型マーカーを用いることにより, ビタミンD受容体, エストロゲン受容体, カルシトニン, IL-6, TNF などの骨密度規定遺伝子を同定した.

2) 高脂血症の遺伝解析: 家系連鎖解析法による混合型高脂血症の二遺伝子説を提唱した.

3) 乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断: 多形性DNAマーカーを用いた解析から癌の悪性度, 転移, 再発, 生命予後に関わる遺伝的变化の特定と臨床応用を進め, 乳癌切除例の術後予後予測因子を見出した.

4) 体系的発現解析: 乳癌・甲状腺癌症例を25000遺伝子の載ったcDNAマイクロアレイを用いて体系的遺伝子発現解析を行い, 複数の既知, 新規の遺伝子群の発現亢進・発現低下を明らかにした.

5) ゲノムプロジェクト: 肝癌, 乳癌, 膀胱癌の検体を用いて, DMC1, UBE2, DMHC, SRP68, JNK3A1など, ヒトがんにて発現消失を示す新規遺伝子を同定した.

(1) 平野 明が日本乳癌学会研究奨励賞, 黒瀬圭輔が日本医科大学医学会奨学賞を受賞した.

(2) 本部門の若手研究者が, 東京大学医科研, 東京医科歯科大学, 東京工大, 琉球大学の助手, 研究員に採用され, 東大・医科研, 東京医科歯科大, 東京工大の大学院卒生がポスドクとして赴任した. 東京女子医大, 浜松医大, 宮崎医大の大学院生が国内留学に来ている.

(3) 理研・遺伝子多型研究センター所員を客員として受け入れ, 研究交流・連携の推進を深めた.

(4) 海外との研究交流では, 本部門長がハワイ大学医学部臨床教授を併任することとなった.

(5) 本部門長がセンター長を務める本学知的財産・ベンチャー育成 (TLO) センターが, 全国単科大学初の政府承認TLOセンターとなった.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

1) Nakajima T, Jorde BL<sup>1)</sup>, Ishigami T<sup>1)</sup>, Umemura S<sup>2)</sup>, Emi M, Lalouel JM<sup>1)</sup>, Inoue I<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Univ. Utah Health Sci. Ctr. , <sup>2)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>3)</sup> Tokyo Univ. ): Nucleotide Diversity and Haplotype Structure of the Human Angiotensinogen Gene in Two Populations. *Am. J. Hum. Genet.* 2002 ; 70 ( 1 ): 108-123 .

2) Hattori H, Hirayama T<sup>1)</sup>, Nobe Y, Nagano M<sup>1)</sup>, Kujiraoka T<sup>1)</sup>, Egashira T<sup>1)</sup>, Ishii J<sup>2)</sup>, Tsuji M<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>R&D Center, BML, <sup>2)</sup>Hokkaido Cent. Hosp. ): Eight Novel Mutations and Functional Impairments of the LDL Receptor in Familial Hypercholesterolemia in the North of Japan. *J. Hum. Genet.* 2002 ; 47 ( 2 ): 80-87 .

3) Harada H, Yoshida S, Nobe Y, Ezura Y, Atake T, Koguchi T, Emi M : Genomic Structure of the Human NLK ( nemo-like kinase ) Gene and Analysis of its Promoter Region. *Gene* 2002 ; 20 ( 1-2 ): 175-182 .

4) Sugiyama H<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Emi M, Shiraki M<sup>2)</sup>, Hosoi T<sup>3)</sup>, Orimo H<sup>3)</sup>, Ouchi Y<sup>1)</sup>, Inoue S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Univ. Tokyo, <sup>2)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>3)</sup> Tokyo Metropol. Geriatr. Hosp. ): Ethnic difference in contribution of alleles of the Interleukin-1 Receptor Antagonist ( IL-1RA ) gene to predisposition to osteoporosis. *Geriatr. Gerontol. Int.* 2002 ; 2 ( 2 ): 87-90 .

5) Iwasaki H, Ezura Y, Ishida R, Kajita M, Kodaira M, Knight J<sup>1)</sup>, Daniel S<sup>1)</sup>, Shi M<sup>1)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>Genometrix Inc. ): Accuracy of Genotyping for Single Nucleotide Polymorphism Typing Method Involving hybridization of Short Allele-Specific Oligonucleotides. *DNA Res.* 2002 ; 9 ( 2 ): 59-62 .

6) Harada H, Kimura K<sup>1)</sup>, Fukino K, Yasunaga S<sup>2)</sup>, Nishi H<sup>3)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup> Med. Res. Inst. , <sup>2)</sup> Tsukumi Cen-

- tral Hosp. , <sup>3</sup>Kurume Univ. ): Genomic structure and eight novel exonic polymorphisms of human N-cadherin gene . J. Hum. Genet. 2002 ; 47 ( 6 ): 330-332 .
- 7 ) Tsuneizumi M , Emi M , Hirano A , Utada Y , Tsumagari K , Takahashi K<sup>2</sup> , Kasumi F<sup>2</sup> , Akiyama F<sup>2</sup> , Sakamoto G<sup>2</sup> , Kazui T<sup>1</sup> , Nakamura Y<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Hamamatsu Univ. , <sup>2</sup>Cancer Inst. , <sup>3</sup>IMS, Univ. Tokyo ): Association of Allelic loss at 8p22 with Poor prognosis among Breast Cancers Cases treated with high-dose adjuvant chemotherapy . Cancer Lett. 2002 ; 180 ( 1 ): 75-82 .
- 8 ) Nagahata T , Kosaka N , Shimizu M , Emi M : Molecular Diagnosis for Breast Cancer . Jpn. Med. Assoc. J. 2002 ; 45 ( 6 ): 265-270 .
- 9 ) Yasui K<sup>1</sup> , Arai S<sup>1</sup> , Zhao C<sup>1</sup> , Imoto I<sup>1</sup> , Ueda M<sup>2</sup> , Nagai H , Emi M , Inazawa J<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2</sup>Keio Univ. ): TFDP1, CUL4A, and CDC16 Identified as Targets for Amplification at 13q34 in Hepatocellular Carcinomas . Hepatology 2002 ; 35 ( 6 ): 1476-1484 .
- 10 ) Nagahata T , Hirano A , Utada Y , Tsuchiya S<sup>1</sup> , Takahashi K<sup>2</sup> , Tada T<sup>2</sup> , Makita M<sup>2</sup> , Kasumi F<sup>2</sup> , Akiyama F<sup>2</sup> , Sakamoto G<sup>2</sup> , Nakamura Y<sup>3</sup> , Emi M ( <sup>1</sup>Nagano Cancer Detection Ctr. , <sup>2</sup>Cancer Inst. , <sup>3</sup>IMS, Univ. Tokyo ): Correlation of Allelic Losses and Clinicopathological Factors in 504 Primary Breast Cancers . Breast Cancer 2002 ; 9 ( 3 ): 208-215 .
- 11 ) Ishii J<sup>1</sup> , Nagano M<sup>2</sup> , Kujiraoka T<sup>2</sup> , Ishimara M<sup>2</sup> , Egashira T<sup>2</sup> , Takada D , Tsuji M<sup>1</sup> , Hattori H<sup>2</sup> , Emi M ( <sup>1</sup>Hokkaido Hosp. , <sup>2</sup>R&D Center, BML ): Clinical Variant of Tangier Disease in Japan : mutation of the ABCA1 gene in hypoalphalipoproteinemia with corneal lipidosis . J. Hum. Genet. 2002 ; 47 ( 7 ): 366-369 .
- 12 ) Harada H , Nagai H , Ezura Y , Yokota T , Ohsawa I<sup>1</sup> , Yamaguchi K<sup>2</sup> , Ohue C<sup>2</sup> , Tsuneizumi M , Mikami I , Terada Y , Yabe A , Emi M ( <sup>1</sup>Dept. Biochem. , <sup>2</sup>Advanced Life Science Inst. Inc. ): Down-regulation of a Novel Gene, DRLM, in human Liver Malignancy from 4q22 That Encodes an NAP-like Protein . Gene 2002 ; 296 ( 1-2 ): 171-177 .
- 13 ) Watanabe T<sup>1</sup> , Imoto I<sup>1</sup> , Katahira T<sup>2</sup> , Hirasawa A<sup>1</sup> , Ishiwata I<sup>3</sup> , Emi M , Takayama M<sup>4</sup> , Sato A<sup>5</sup> , Inazawa J<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Tokyo Med. Dent. Univ. , <sup>2</sup>Natl. Nagoya Hosp. , <sup>3</sup>Ishiwata Obs. Gyn. Hosp. , <sup>4</sup>Tokyo Med. Univ. , <sup>5</sup>Fukushima Med. Univ. ): Differentially regulated genes as putative targets of amplifications at 20qin ovarian cancers . Jpn. J. Cancer. Res. 2002 ; 93 ( 10 ): 1114-1122 .
- 14 ) Ogawa S<sup>1</sup> , Emi M , Shiraki M<sup>2</sup> , Hosoi T<sup>3</sup> , Orimo H<sup>3</sup> , Ouchi Y<sup>1</sup> , Inoue S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Univ. Tokyo , <sup>2</sup>Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>3</sup>Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. ): Association of amino acid variation ( Yrp64Arg ) in the beta3-adrenergic Receptor Gene with Bone Mineral Density . Geriatr. Gerontol. Int. 2002 ; 2 ( 3 ): 138-142 .
- 15 ) Onda M , Li D<sup>1</sup> , Suzuki S<sup>1</sup> , Nakamura I<sup>1</sup> , Takenoshita S<sup>2</sup> , Brogren CH<sup>1</sup> , Stampanoni S<sup>1</sup> , Rampino N<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Burnham Inst. , <sup>2</sup>Fukushima Univ. ): Expansion of Microsatellite in the *Thyroid Hormone Receptor-α1* Gene Linked to Increased Receptor Expression and Less Aggressive Thyroid Cancer . Clin. Cancer Res. 2002 ; 8 ( 9 ): 2870-2874 .
- 16 ) Jepsen JK<sup>1</sup> , Wu F<sup>2</sup> , Peragallo HJ<sup>3</sup> , Paul J<sup>2</sup> , Roberts L<sup>2</sup> , Ezura Y , Oldberg A<sup>4</sup> , Birk ED<sup>3</sup> , Chakravarti S<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Mount Sinai Sch. Med. , <sup>2</sup>Johns Hopkins Univ. , <sup>3</sup>Brandeis Univ. , <sup>4</sup>Lund Univ. , <sup>5</sup>Thomas Jefferson Univ. ): A Syndrome of Joint Laxity and Impaired Tendon Integrity in Lumican- and Fibromodulin-deficient Mice . J. Bio. Chem. 2002 ; 277 ( 38 ): 35532-35540 .
- 17 ) Nakata T<sup>1</sup> , Yokota T , Emi M , Minami S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Dept. Bioreg. ): Differential Expression of Multiple Isoforms of the ELKS mRNAs Involved in a Papillary Thyroid Carcinoma . Genes, Chrom. Cancer. 2002 ; 35 ( 1 ): 30-37 .
- 18 ) Shimizu M , Kosaka N , Shimada T , Nagahata T , Iwasaki H , Nagai H , Shiba T<sup>1</sup> , Emi M ( <sup>1</sup>Kitasato Univ. ): Universal Fluorescent Labeling ( UFL ) Method for Automated Microsatellite Analysis . DNA Res. 2002 ; 9 ( 5 ): 173-178 .

- 19) Yoshida S , Harada H , Nagai H , Fukino K , Teramoto A , Emi M : Head-to-head Juxtaposition of Fas-Associated Phosphatase-1 ( FAP-1 ) and c-Jun NH2-terminal Kinase 3 ( JNK3 ) genes : genomic structure and five polymorphisms of FAP-1 gene . *J. Hum. Genet.* 2002 ; 47 ( 11 ): 614-619 .
- 20) Nagai H , Kim YS<sup>1)</sup> , Konishi N<sup>2)</sup> , Baba M<sup>3)</sup> , Yoshimura A<sup>4)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> KIST , <sup>2)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>3)</sup> Mie Univ. , <sup>4)</sup> Kyushu Univ. ) : Combined Hypermethylation and Chromosome Loss Associated with Inactivation of SSI-1SOCS-1/JAB Gene in Human Hepatocellular Carcinomas . *Cancer Lett.* 2002 ; 186 ( 1 ): 59-65 .
- 21) Takada D , Emi M , Ezura Y , Nobe Y , Kawamura K , Iino Y , Katayama Y , Xin Y<sup>1)</sup> , Wu LL<sup>1)</sup> , Larringa SS<sup>1)</sup> , Stephenson SH<sup>1)</sup> , Hunt SC<sup>1)</sup> , Skolnick MH<sup>2)</sup> , Lalouel JM<sup>2)</sup> , Hopkins PN<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cardiovascular Genet. Res. Ctr. , <sup>2)</sup> Univ. Utah Health Sciences Ctr. ) : Interaction between the LDL-receptor gene bearing a novel mutation and a variant in the apolipoprotein A-II promoter : Molecular study in a 1135-member familial hypercholesterolemia kindred . *J. Hum. Genet.* 2002 ; 47 ( 12 ): 656-664 .
- 22) Fujiwara H , Emi M , Nagai H , Nishimura T<sup>1)</sup> , Konishi N<sup>2)</sup> , Kubota Y<sup>3)</sup> , Ichikawa T<sup>4)</sup> , Takahashi S<sup>5)</sup> , Shuin T<sup>6)</sup> , Habuchi T<sup>7)</sup> , Ogawa O<sup>8)</sup> , Inoue S<sup>9)</sup> , Skolnick MH<sup>10)</sup> , Swensen J<sup>10)</sup> , Camp NJ<sup>10)</sup> , Tavtigian S ( <sup>1)</sup> Dept. Urol. , <sup>2)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>3)</sup> Yokohama City Univ. , <sup>4)</sup> Chiba Univ. , <sup>5)</sup> Nagoya City Univ. , <sup>6)</sup> Kouchi Med. Univ. , <sup>7)</sup> Akita Univ. , <sup>8)</sup> Univ. Kyoto , <sup>9)</sup> Univ. Hawaii , <sup>10)</sup> Myriad Genet. Inc. , Univ. Utah ) : Association of common missense changes in ELAC2 ( HPC2 ) with prostate cancer in a Japanese case-control series . *J. Hum. Genet.* 2002 ; 47 ( 12 ): 641-648 .
- 23) Tsuneizumi M : A highly polymorphic CA repeat marker at the EBAG9/RCAS1 locus on 8q23 that detected frequent multiplication in breast cancer . *An. Hum. Bio.* 2002 ; 29 ( 4 ): 457-460 .
- 24) Shinohara Y , Ezura Y , Iwasaki H , Nakazawa I , Ishida R , Nakajima T , Kodaira M , Kajita M , Shiba T<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Kitasato Univ. ) : Three TNF single nucleotide polymorphisms in the Japanese population . *An. Hum. Bio.* 2002 ; 29 ( 5 ): 579-583 .
- 25) Ota N , Nakajima T , Ezura Y , Iwasaki H , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>1)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Ito H<sup>3)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. Hosp. , <sup>2)</sup> Univ. Tokyo , <sup>3)</sup> Dept. Orthoped. ) : Association of a single nucleotide variant in the human tumor necrosis factor alpha promoter region with decreased bone mineral density . *An. Hum. Bio.* 2002 ; 29 ( 5 ): 550-558 .
- 26) Iwasaki H , Emi M , Ezura Y , Ishida R , Kajita M , Kodaira M , Yoshida H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Shiraki M<sup>3)</sup> , Swensen J<sup>3)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup> Tokyo Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>4)</sup> Myriad Genet. ) : Association of a Trp16Ser variation in the Gonadotropin Releasing Hormone ( GnRH ) Signal Peptide with Bone Mineral Density, revealed by SNP-dependent PCR ( Sd-PCR ) Typing . *Bone* 2003 ; 32 ( 2 ): 185-190 .
- 27) Nagai H , Naka T<sup>2)</sup> , Terada Y , Komazaki T , Yabe A , Jin E<sup>1)</sup> , Kawanami O<sup>1)</sup> , Kishimoto T<sup>2)</sup> , Konishi N<sup>3)</sup> , Nakamura M<sup>3)</sup> , Kobayashi Y<sup>4)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Pathol. , <sup>2)</sup> Osaka Univ. Med. Sci. , <sup>3)</sup> Nara Med. Univ. , <sup>4)</sup> Saitama Cancer Ctr. Hosp. ) : Hypermethylation Associated with Inactivation of the SOCS-1 Gene, a JAK/STAT Inhibitor, in Human Hepatoblastomas . *J. Hum. Genet.* 2003 ; 48 ( 2 ): 65-69 .
- 28) Kajita M , Ezura Y , Iwasaki H , Ishida R , Kodaira M , Yoshida H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Shiraki M<sup>3)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup> Tokyo Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. ) : Association of  $\Xi$  381T/C Promoter Variation of Brain Natriuretic Peptide Gene with Low Bone Mineral Density and Rapid Postmenopausal Bone Loss . *J. Hum. Genet.* 2003 ; 48 ( 2 ): 77-81 .
- 29) Ishida R , Emi M , Ezura Y , Iwasaki H , Yoshida H<sup>1)</sup> , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>1)</sup> , Inoue S<sup>2)</sup> , Shiraki M<sup>3)</sup> , Ito H<sup>4)</sup> , Orimo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>2)</sup> Tokyo Univ. , <sup>3)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>4)</sup> Dept. Orthoped. ) : Association of a haplotype ( 196Phe/532Ser ) of variations in the Interleukin-1-Receptor-Asso-

ciated Kinase (IRAK1) Gene with Low Radial Bone Mineral Density in Two Independent Poulations . J. Bone. Miner. Res 2003 ; 18 (3) : 419-423 .

(2) 綜説 :

- 1) 永井尚生, 寺田淑恵, 江見 充: 肝硬変における遺伝子発現異常の解析. 消化器科 2002 ; 34 (1) : 64-68 .
- 2) 高田大輔, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 江見 充 ( <sup>1)</sup>内科第2 ): 高血圧関連遺伝子は何か. 成人病と生活習慣病 2002 ; 32 (4) : 515-519 .
- 3) 岩崎公典, 江面陽一, 江見 充: ゲノム研究各論~ DNA チップ, マイクロアレイ~ . 分子心血管病 2002 ; 3 (3) : 109-114 .
- 4) 江面陽一, 江見 充: 骨粗鬆症のゲノム解析. リウマチ科 2002 ; 28 (2) : 142-147 .
- 5) 永井尚生, 江見 充: 癌の遺伝要因の解明と現状. 医学のあゆみ 2002 ; 202 (10) : 869-876 .
- 6) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 江見 充: 乳癌術後予後のDNA診断とRNA診断. 医薬ジャーナル 2003 ; 39 (3) : 72-77 .

著 書

- 1) 江面陽一, 岩崎公典, 石田良太, 江見 充: [ 分担 ] 骨粗鬆症の遺伝子解析. 遺伝子医学別冊 / 遺伝子医学の入門書 ( 本庶 佑 ), 2003 ; pp265-271 , メディカル・ドゥ .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 江見 充: 乳癌の遺伝子診断 成果と展望. 第80回乳癌症例臨床検討会, 2003 . 1 .
- 2) 江見 充: ゲノム情報に基づく先端医学の進歩. 日本医科大学同窓会学術講演会, 2003 . 2 .

(2) シンポジウム :

- 1) Nagai H , Terada Y , Yabe A , Iwasaki H , Nagahata T , Emi M : Multistep Development of Hepatocellular Carcinoma- Comprehensive Gene Expression Analysis using cDNA Microarray . The 2nd Japan- China Joint Conference for Cancer Research ( Tokushima ), 2002 . 5 .
- 2) Nagahata T , Onda M , Fujimoto T , Tsumagari K , Nagai H , Kasumi F<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> The Cancer Institute ): Comprehensive gene expression analysis predicts postoperative prognosis of ER-negative breast cancer . 25th San Antonio Breast Cancer Symposium ( San Antonio ), 2002 . 12 .
- 3) 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 三木義男<sup>1)</sup>, 武藤徹一郎<sup>1)</sup>( <sup>1)</sup>癌研・外科 ): cDNA マイクロアレイを用いた体系的発現解析による乳癌の術後予後予測. 第10回日本乳癌学会, 2002 . 7 .
- 4) 江見 充, 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 三木義男<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>癌研・外科, <sup>2)</sup>理研・遺伝子多型セ ): 遺伝子研究の臨床応用: 現状と将来: 乳癌・甲状腺癌の検討. 第40回日本癌治療学会総会, 2002 . 10 .
- 5) 江見 充, 江面陽一: 骨粗鬆症の体系的 SNP 解析. 第11回国際医療協力シンポジウム, 2002 . 11 .
- 6) 江見 充, 長幡武光: 乳癌術後予後のDNA・RNA診断. 6th Breast Cancer UP-TO Date Meeting , 2003 . 1 .

(3) 一般講演 :

- 1) Nagai H , Terada Y , Yabe A , Iwasaki H , Fujimoto T , Tsumagari K , Nagahata T , Emi M : Comprehensive Gene Expression Analysis in the Multistep Development of Hepatocellular Carcinoma . 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association ( Tokyo ), 2002 . 4 .
- 2) Terada Y , Nagai H , Hirakata A , Yabe A , Iwasaki H , Nagahata T , Tajiri T<sup>1)</sup> , Onda M<sup>1)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup>Dept. Surg. I ): Distinctive Gene Expression Pattern in association with Hepatocellular Carcinoma Pro-



- gression . 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association ( Tokyo ), 2002 . 4 .
- 3) Nagahata T , Kosaka N , Shimizu M , Iwasaki H , Nagai H , Emi M : Gene Expression Profiling of Hepatitis B Virus-Producing Hepatoma Cell Lines by cDNA Microarray Analysis . 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association ( Tokyo ), 2002 . 4 .
  - 4) Ishida R , Ezura Y , Yoshida H<sup>1)</sup> , Iwasaki H , Suzuki T<sup>1)</sup> , Hosoi T<sup>2)</sup> , Inoue S<sup>3)</sup> , Shiraki M<sup>4)</sup> , Orimo H<sup>2)</sup> , Ito H<sup>5)</sup> , Emi M ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , <sup>2)</sup> Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , <sup>3)</sup> Univ. Tokyo , <sup>4)</sup> Res. Inst. Prac. Invol. Dis. , <sup>5)</sup> Dept. Orthoped. ) : A Single Nucleotide Polymorphism of Interleukin-1-receptor-associated kinase Associate with Bone Mineral Densities of Adult Women . ASBMR ( San Antonio ), 2002 . 9 .
  - 5) Emi M : Association of Common Missense Changes in ELAC2 ( HPC2 ) with Prostate Cancer in A Japanese Population Sample . 2nd The Showa & University of Hawaii Conference ( Hawaii ), 2002 . 10 .
  - 6) Hirata T : Gene Profiling in lung Cancer for tailor made Therapy . The 2nd IASLC China Seminar on Lung Cancer in Dalian ( Dalian ), 2002 . 10 .
  - 7) 平野 明 , 長幡武光 , 永井尚生 , 常泉道子 , 藤本崇司 , 津曲幸二 , 芳賀駿介<sup>1)</sup> , 梶原哲郎<sup>1)</sup> , 霞富士雄<sup>2)</sup> , 坂元吾偉<sup>2)</sup> , 中村祐輔<sup>3)</sup> , 江見 充 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大・二病・外科 , <sup>2)</sup> 癌研 , <sup>3)</sup> 東大・医科研・ヒトゲノム ) : 染色体欠失によるn0乳癌の予後診断 . 第102回日本外科学会 , 2002 . 4 .
  - 8) 藤本崇司 , 長幡武光 , 寺田淑恵 , 常泉道子 , 横山史朗<sup>2)</sup> , 木下 淳<sup>1)</sup> , 清水忠夫<sup>1)</sup> , 今村 洋<sup>1)</sup> , 渡辺 修<sup>1)</sup> , 南雲 浩<sup>1)</sup> , 歌田貴仁<sup>1)</sup> , 岡部聡寛<sup>1)</sup> , 木村聖美<sup>1)</sup> , 平野 明<sup>1)</sup> , 芳賀駿介<sup>1)</sup> , 梶原哲郎<sup>1)</sup> , 永井尚生 , 江見充 ( <sup>1)</sup> 東京女子医大・二病・外科 , <sup>2)</sup> 長野日赤病院・外科 ) : マイクロアレイを用いた腋窩リンパ節転移陽性乳癌の体系的遺伝子発現解析 . 第102回日本外科学会 , 2002 . 4 .
  - 9) 長幡武光 , 清水將史 , 小坂夏紀 , 岩崎公典 , 永井尚生 , 江見 充 : Universal Fluorescent Labeling法によるマイクロサテライトDNA分析の自動化 . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 10) 高田大輔 , 江見 充 , 飯野靖彦<sup>1)</sup> , 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科第2 ) : 家族性高脂血症における修飾因子の遺伝的解析 . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 11) 小野秀二 , 江見 充 , 梅村 敏<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市大・内科第二 ) : 家族性高脂血症の表現型に及ぼす ApolipoproteinHの修飾効果 . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 12) 石田良太 , 江面陽一 , 大益史弘 , 梶田満子 , 白木正孝<sup>1)</sup> , 井上 聡<sup>2)</sup> , 細井孝之<sup>3)</sup> , 鈴木隆雄<sup>4)</sup> , 江見 充 ( <sup>1)</sup> 成人病診療研 , <sup>2)</sup> 東大・老年科 , <sup>3)</sup> 都老人医療セ , <sup>4)</sup> 都老人総合研 ) : Interleukin-1-Receptor-Associated Kinase 遺伝子多型は成人女性の骨密度を規定する . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 13) 江面陽一 , 石田良太 , 大益史弘 , 梶田満子 , 吉田祥子 , 白木正孝<sup>1)</sup> , 井上 聡<sup>2)</sup> , 細井孝之<sup>3)</sup> , 鈴木隆雄<sup>4)</sup> , 江見 充 ( <sup>1)</sup> 成人病診療研 , <sup>2)</sup> 東大・老年科 , <sup>3)</sup> 都老人医療セ , <sup>4)</sup> 都老人総合研 ) : ゴナドトロピン遊離ホルモンのシグナルペプチド遺伝子多型は成人女性の橈骨および腰椎骨密度を規定する . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 14) 大益史弘 , 江面陽一 , 石田良太 , 梶田満子 , 吉田祥子 , 白木正孝<sup>1)</sup> , 井上 聡<sup>2)</sup> , 細井孝之<sup>3)</sup> , 鈴木隆雄<sup>4)</sup> , 江見 充 ( <sup>1)</sup> 成人病診療研 , <sup>2)</sup> 東大・老年科 , <sup>3)</sup> 都老人医療セ , <sup>4)</sup> 都老人総合研 ) : Brain Natriuretic Peptide 遺伝子のプロモーター領域 SNP と成人橈骨骨密度値との相関 . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 15) 中田朋子<sup>1)</sup> , 横田 隆 , 江見 充 , 南 史朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 疫学 ) : 甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子 ELKS の発現と ELKS-c-ret タンパク質の解析 . 第12回 Medical Genetics研究会 , 2002 . 6 .
  - 16) 永井尚生 , 寺田淑恵 , 江見 充 : 肝臓における新規癌関連遺伝子の単離 . 第38回日本肝臓学会総会 , 2002 . 6 .
  - 17) 安居幸一郎<sup>1)</sup> , 有井滋樹<sup>2)</sup> , 上田政和<sup>3)</sup> , 永井尚生 , 江見 充 , 稲澤讓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大・難治研 , <sup>2)</sup> 東京医科歯科大・分子外科治療学 , <sup>3)</sup> 慶應大・外科 ) : 肝臓における13q34増幅領域の標的遺伝子の同定 . 第38回日本肝臓学会総会 , 2002 . 6 .
  - 18) 藤本崇司 , 江見 充 , 音田正光 , 永井尚生 , 津曲幸二 , 長幡武光 , 渡辺 修<sup>1)</sup> , 加藤博之<sup>1)</sup> , 芳賀駿介<sup>1)</sup> , 梶原哲郎<sup>1)</sup> , 斉藤光江<sup>2)</sup> , 霞富士雄<sup>2)</sup> , 秋山 太<sup>2)</sup> , 坂元吾偉<sup>2)</sup> , 三木義男<sup>2)</sup> , 武藤徹一郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 女子医大・二病 .

- 外科, <sup>2)</sup> 癌研・外科): 腋窩リンパ節高転移乳癌における癌死予後と体系的遺伝子発現解析. 第10回日本乳癌学会, 2002. 7.
- 19) 津曲幸二, 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 長幡武光, 藤本崇司, 多田隆士<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 三木義男<sup>1)</sup>, 武藤徹一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 癌研・外科): n0乳癌における再発予後と体系的遺伝子発現解析. 第10回日本乳癌学会, 2002. 7.
- 20) 長幡武光, 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 横山史朗<sup>1)</sup>, 高橋かおる<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>2)</sup>, 武藤徹一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup> 長野日赤・外科, <sup>2)</sup> 癌研・外科): 乳癌におけるホルモン受容体発現と予後との体系的遺伝子発現解析. 第10回日本乳癌学会, 2002. 7.
- 21) 音田正光, 江見 充, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光, 蒔田益次郎<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>1)</sup>, 坂元吾偉<sup>1)</sup>, 三木義男<sup>1)</sup>, 武藤徹一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 癌研・外科): T2, 3乳癌における癌死予後と体系的遺伝子発現解析. 第10回日本乳癌学会, 2002. 7.
- 22) 浦野友彦<sup>1)</sup>, 藤田雅代<sup>1)</sup>, 細井孝之<sup>2)</sup>, 長幡武光, 岩崎公典, 江見 充, 大内尉義<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 東大・加齢医学, <sup>2)</sup> 都老人医療セ): 骨芽細胞老化に伴うTGF- $\beta$ 1応答性低下における分子機構の解析. 第20回日本骨代謝学会, 2002. 7.
- 23) 河野 潤, 永井尚生, 横田 隆, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup> 脳神経外科学): cDNA microarrayを用いた神経膠腫の悪性度進展に伴い発現異常を示す遺伝子のスクリーニング. 第3回日本分子脳神経外科学会, 2002. 8.
- 24) 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光: cDNA マイクロアレイを用いた体系的発現解析による乳癌の術後予後予測. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 25) 永井尚生, 駒崎敏昭, 寺田淑恵, 矢部 彩, 平田知己, 岩崎公典, 長幡武光, 音田正光, 江見 充: 遺伝子発現から見た肝癌の分子病態像. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 26) 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光: T2, 3乳癌における癌死予後と体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 27) 江面陽一, 石田良太, 大益史弘, 梶田満子, 吉田祥子, 小平美奈, 江見 充: 骨粗鬆症の体系的SNP解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 28) 横田 隆, 河野 潤, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup> 脳神経外科学): 多型性神経膠芽腫発生進展の体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 29) 梶田満子, 江面陽一, 石田良太, 大益史弘, 吉田祥子, 小平美奈, 江見 充: ゴナドトロピン遊離ホルモンのシグナルペプチド遺伝子多型は骨密度を規定する. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 30) 吉田祥子, 原田晴仁, 永井尚生, 吹野晃一<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup> 脳神経外科学): 4q21上FAP-1遺伝子\_JNK3遺伝子のプロモーター領域の重複. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 31) 大益史弘, 江面陽一, 石田良太, 梶田満子, 吉田祥子, 小平美奈, 江見 充: Brain Natriuretic Peptide遺伝子のプロモーター領域SNPと成人橈骨骨密度値との相関. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 32) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 江見 充: 乳癌におけるホルモン受容体発現と予後との体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 33) 沖野恵子, 永井尚生, 八田充子<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 江見 充(<sup>1)</sup> 産婦人科学): 子宮頸癌の体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 34) 藤本崇司, 長幡武光, 音田正光, 永井尚生, 江見 充: 腋窩リンパ節高転移乳癌における癌死予後と体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 35) 野辺由紀子, 小野秀二, 高田大輔, 江見 充: HDL-CレベルへのLDL受容体とApoLの遺伝子相互作用. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 36) 高田大輔, 江見 充, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup> 内科第2): 家族性高脂血症におけるLDL受容体とapoA-II変異の遺伝子相互作用. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.

- 37) 石田良太, 江面陽一, 大益史弘, 梶田満子, 伊藤博元<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (整形外科学): Interleukin-1-Receptor-Associated Kinase (IRAK1) 遺伝子多型は成人女性の骨密度を規定する. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 38) 平田知己, 永井尚生, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 高津圭介, 三上 巖<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 長幡武光, 音田正光, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (外科第2): N2陽性・非小細胞肺癌の体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 39) 津曲幸二, 永井尚生, 音田正光, 長幡武光, 藤本崇司, 江見 充: n0乳癌における再発予後と体系的遺伝子発現解析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 40) 小野秀二, 高田大輔, 藤田有子, 江見 充: 高脂血症家系におけるFSHR遺伝子の修飾効果. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 41) 高津圭介, 音田正光, 清水一雄<sup>1)</sup>, 永井尚生, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (外科第2): 甲状腺乳頭癌におけるc-DNA マイクロアレイの検討と今後の展開. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 42) 河野 潤, 永井尚生, 横田 隆, 長幡武光, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (脳神経外科学): cDNA microarrayを用いた神経膠腫の悪性度進展に伴い発現異常を示す遺伝子のスクリーニング. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 43) 駒崎敏昭, 永井尚生, 寺田淑恵, 矢部 彩, 金 恩京<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (病理部門): ヒト膵臓癌におけるJAK/STAT系の抑制因子異常. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 44) 藤田有子, 高田大輔, 江見 充, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) (内科第2): 家族性高脂血症の表現型に及ぼすApolipoprotein Hの修飾効果. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 45) 島田隆史, 清水將史, 小坂夏紀, 長幡武光, 岩崎公典, 永井尚生, 柴 忠義<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (北里大): Universal Fluorescent Labeling 法によるマイクロサテライトDNA分析. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 46) 矢部 彩, 永井尚生, 寺田淑恵, 峯 伸也<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>2)</sup>, 駒崎敏昭, 宮崎久美, 藤原博通<sup>3)</sup>, 横田 隆, 江見 充<sup>(1)</sup> (産婦人科, <sup>2)</sup> 外科第2, <sup>3)</sup> 泌尿器科): TOC (Tylosis with oesophageal cancer) 領域における原因遺伝子としてのDEAD Healicase遺伝子単離. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 47) 小平美奈, 江面陽一, 横田 隆, 石田良太, 梶田満子, 江見 充: SNP依存性PCR (SNP-dependent PCR) によるSNP解析方法の開発. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 48) 音田正光, 江見 充, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 角田達彦<sup>4)</sup> (1) (癌研・外科, <sup>2)</sup> 同・病理, <sup>3)</sup> 同・ゲノムセ, <sup>4)</sup> 理研・遺伝子多型セ): 乳癌における5年生存予後と体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 49) 永井尚生, 駒崎敏昭, 寺田淑恵, 矢部 彩, 平田知己, 岩崎公典, 長幡武光, 音田正光, 江見 充: 体系的遺伝子発現解析による肝癌の病態像. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 50) 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 長幡武光, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (癌研・外科, <sup>2)</sup> 同・病理, <sup>3)</sup> 同・ゲノムセ): T2乳癌における5年生存予後と体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 51) 横田 隆, 河野 潤, 足立好司, 寺本 明, 江見 充<sup>(1)</sup> (脳神経外科学): cDNA マイクロアレイを用いた多型性神経膠芽腫の遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 52) 長幡武光, 永井尚生, 津曲幸二, 藤本崇司, 音田正光, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (癌研・外科, <sup>2)</sup> 同・病理, <sup>3)</sup> 同・ゲノムセ): ER陰性乳癌における5年生存予後と体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 53) 藤本崇司, 音田正光, 永井尚生, 津曲幸二, 長幡武光, 渡辺 修<sup>1)</sup>, 加藤博之<sup>1)</sup>, 小川健治<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 秋山 太<sup>3)</sup>, 坂元吾偉<sup>3)</sup>, 三木義男<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1)</sup> (女子医大・二病・外科, <sup>2)</sup> 癌研・外科, <sup>3)</sup> 同・病理, <sup>4)</sup> 同・ゲノムセ): 腋窩リンパ節高転移乳癌に於る5年生存予後と体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 54) 津曲幸二, 永井尚生, 音田正光, 長幡武光, 藤本崇司, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 秋山 太<sup>2)</sup>, 坂元吾偉<sup>2)</sup>, 三木義男<sup>3)</sup>,

- 千々岩一男<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1) 癌研・外科, 2) 同・病理, 3) 同・ゲノムセ, 4) 宮崎医大・第一外科</sup>): n0乳癌における5年再発予後と体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 55) 平田知己, 永井尚生, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 高津圭介, 三上 巖<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 西村仁志<sup>2)</sup>, 長幡武光, 音田正光, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1) 日本医科大学外科第2, 2) 埼玉がんセンター・胸外</sup>): N2陽性・非小細胞肺癌の体系的遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 56) 高津圭介, 音田正光, 江見 充, 永井尚生, 清水一雄<sup>1)</sup>, 長幡武光, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 長浜充二<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 角田達彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>外科第2 ): 甲状腺乳頭癌におけるc-DNA マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 57) 河野 潤, 永井尚生, 横田 隆, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1) 脳神経外科</sup>): cDNA microarray を用いた神経腫瘍の悪性度進展に關与する遺伝子の発現解析. 第61回日本癌学会総会, 2002. 10.
- 58) 吹野晃一<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 山口文雄<sup>2)</sup>, 江見 充, 永井尚生, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>駒込病院脳神経, <sup>2)</sup>脳神経外科 ): 脳腫瘍細胞株における多剤耐性遺伝子のcDNA 発現プロファイル. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 59) 平田知己, 永井尚生, 小泉 潔, 宮本哲也, 山岸茂樹, 福島光浩, 三上 巖, 平井恭二, 原口秀司, 久吉隆郎, 岡田大輔, 秋山博彦, 西村仁志, 田中茂夫, 江見 充<sup>(1) 日本医科大学外科第2, 2) 埼玉癌センター胸部外科</sup>): 非小細胞肺癌の体系的遺伝子発現解析. 第55回日本胸部外科学会総会, 2002. 10.
- 60) 高津圭介, 音田正光, 清水一雄<sup>1)</sup>, 永井尚生, 長浜充二<sup>2)</sup>, 伊藤公一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>(1) 日本医科大学外科第2, 2) 伊藤病院</sup>): 甲状腺乳頭癌におけるc-DNA マイクロアレイの検討と今後の展開. 第45回日本甲状腺学会, 2002. 11.
- 61) 江見 充, 江面陽一, 梶田満子, 石田良太, 小平美奈, 吉田英世<sup>1)</sup>, 細井孝之<sup>2)</sup>, 井上 聡<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>1)</sup>, 白木正孝<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>都老人総合研, <sup>2)</sup>都老人医療セ, <sup>3)</sup>東大・老年科, <sup>4)</sup>成人病診療研究所 ): 骨粗鬆症の体系的SNP 解析. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 62) 江面陽一, 梶田満子, 石田良太, 大益史弘, 吉田祥子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1) 成人病診療研究所, 2) 東大・老年科, 3) 都老人医療セ, 4) 都老人総合研</sup>): ビタミンD結合蛋白 (DBP) 遺伝子領域の遺伝子多型と成人女性橈骨骨密度値との相関の検討. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 63) 高田大輔, 江見 充, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第2 ): 家族性高脂血症の表現型に及ぼすApolipoprotein Hの修飾効果. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 64) 梶田満子, 江面陽一, 石田良太, 大益史弘, 吉田祥子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1) 成人病診療研究所, 2) 東大・老年科, 3) 都老人医療セ, 4) 都老人総合研</sup>): ゴナドトロピン遊離ホルモン (GnRH) のシグナルペプチド遺伝子多型と成人女性の橈骨・腰椎骨密度との相関. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 65) 石田良太, 江面陽一, 大益史弘, 梶田満子, 白木正孝<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>2)</sup>, 細井孝之<sup>3)</sup>, 鈴木隆雄<sup>4)</sup>, 江見 充<sup>(1) 成人病診療研究所, 2) 東大・老年科, 3) 都老人医療セ, 4) 都老人総合研</sup>): Interleukin-1-Receptor-Associated Kinase 遺伝子多型と成人女性の骨密度の相関. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 66) 小野秀二, 高田大輔, 江見 充, 梅村 敏<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市大・第二内科 ): 家族性高脂血症の表現型に及ぼす成長ホルモン受容体の効果について. 日本人類遺伝学会第47回大会, 2002. 11.
- 67) 中川内哲治<sup>1)</sup>, 副島英伸<sup>1)</sup>, 佐藤勇司<sup>1)</sup>, 松倉史朗<sup>1)</sup>, 北島吉彦<sup>2)</sup>, 原田晴仁<sup>3)</sup>, 中別府雄作<sup>4)</sup>, 関口睦夫<sup>5)</sup>, 宮崎耕治<sup>2)</sup>, 江見 充, 向井常博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>佐医大・分子生命・分子遺伝, <sup>2)</sup>同・医・外, <sup>3)</sup>国際医療セ研・臨床病理・組織形態, <sup>4)</sup>九大・生医研・脳機能, <sup>5)</sup>福岡歯大・生物 ): プロモーター領域のメチル化によるO6-メチルグアニンDNAメチルトランスフェラーゼ (MGMT) の転写制御. 第25回日本分子生物学会, 2002. 12.

## [ 臨床部門 ]

### 研究概要

I. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している。とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった交感神経の1Hz以下のゆらぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見した。このゆらぎは圧受容体反射とは独立であることを相互情報量解析で明らかにした。さらに、この遅い周期の交感神経活動が低次元カオスを起こして、心拍変動の1/fゆらぎを起こしていることも明らかにした。これにより武者らが心拍変動の1/fゆらぎを先駆的に報告して以来謎であったその機序が明らかにされた。高血圧の薬物療法は単に抹消血管を拡張させるだけではなく、中枢性に過度に興奮している交感神経系を抑制させる必要があると考え、その新しい枠組みを考案する予定である。

II. 京都大学生理研の野間教授と心筋イオンチャンネルのモデルを考案することを目指している。筆者は、京都大学生理研の野間教授より提供していただいた心臓ペースメーカー単一細胞の活動電位記録を非線形手法をもちいて解析することによってモデルにかかわるゲート変数、イオン濃度変数は総計12個以上であると推定した。これによって変数が10個しかない従来のモデルでは不充分であることをつきとめた。

III. 非線形現象に興味があり、1999年にDNAの塩基配列のくり返し構造の1/f揺らぎについてのモデルを考案した(Physica D)。今後はDNAの進化に関するモデルについても精力的に研究する予定である。

IV. ある現象がカオスかどうかを判定するのはむずかしい問題で、さまざまな検出方法が提案されている。筆者もこの問題に精力的に取り組んでいる。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Sakata K<sup>1)</sup>, Kumagai H<sup>1)</sup>, Osaka M, Onami T<sup>1)</sup>, Matsuura T<sup>1)</sup>, Imai M<sup>1)</sup>, Saruta T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine): Potentiated sympathetic nervous and renin-angiotensin systems reduce nonlinear correlation between sympathetic activity and blood pressure in conscious spontaneously hypertensive rats. *Circulation* 2002; 106: 620-625.
- 2) 大野則彦<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 大坂元久, 新 博次<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 内科第1): QT 間隔の時間的変動と心室性不整脈: QT variability index と周波数解析による検討. *心電図* 2002; 22: 274-284.

#### 学会発表

##### (1) ワークショップ：

- 1) Kumagai H<sup>1)</sup>, Matsuura T<sup>1)</sup>, Sakata K<sup>1)</sup>, Onami T<sup>1)</sup>, Osaka M, Saruta T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine): Candesartan can reduce cardiovascular events by decreasing sympathetic nerve activity and plasma aldosterone. The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2003. 3.

##### (2) 一般講演：

- 1) Onami T<sup>1)</sup>, Kumagai H<sup>1)</sup>, Sakata K<sup>1)</sup>, Osaka M, Matsuura T<sup>1)</sup>, Imai M<sup>1)</sup>, Saruta T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine): Nonlinear correlation of sympathetic nerve activity with blood pressure was increased by oral treatment with candesartan. International Society of Hypertension(Prague), 2002. 6.
- 2) Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Osaka M, Abe J<sup>1)</sup>, Miyauchi M<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ohmura K<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 内科第1): Quantification of the au-

- tonomic effect on the atrioventricular node by spectral analysis of heart rate variability during regular atrial pacing . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
- 3) Ono T<sup>1)</sup>, Osaka M , Munakata K<sup>1)</sup>, Gang Y<sup>1)</sup>, Guan Y Y<sup>1)</sup>, Hnatkova K<sup>1)</sup>, M, M<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): Can new descriptors of ventricular repolarization detect high-risk patients with implanted cardioverter defibrillator? Usefulness of T-wave morphology analysis . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
  - 4) Matsumoto S<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Ohno N<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Osaka M (<sup>1)</sup>内科第1): T-wave alternans can detect the cardiac involvement in sarcoidosis. . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
  - 5) Matsumoto S<sup>1)</sup>, Hirayama Y<sup>1)</sup>, Saitoh H<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, O, N<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Osaka M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第1): The significance of T-wave alternans for predicting VT or VF in different types of organic heart disease . The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2002 . 4 .
  - 6) Kumagai H<sup>1)</sup>, Onami T<sup>1)</sup>, Sakata K<sup>1)</sup>, Osaka M , Matsuura T<sup>1)</sup>, Imai M<sup>1)</sup>, Iigaya K<sup>1)</sup>, Saruta T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Medicine, Keio University School of Medicine ): Candesartan and Amlodipine reduced the high linearity and increased the low linearity of cardiovascular regulation in spontaneously hypertensive rats . The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2003 . 3 .
  - 7) 大波敏子<sup>1)</sup>, 熊谷裕生<sup>1)</sup>, 佐方克史<sup>1)</sup>, 大坂元久, 松浦友一<sup>1)</sup>, 今井正樹<sup>1)</sup>, 飯ヶ谷嘉門<sup>1)</sup>, 猿田亨男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>慶応義塾大学医学部腎臓内科): カンデサルタンおよびアムロジンの長期経口投与は, 高血圧自然発症ラットの腎交感神経活動と血圧の相関の高い線形性を低下させ, 低い非線形性を増加させた . 第25回日本高血圧学会総会, 2002 . 10 .
  - 8) 大坂元久, 時田玲子<sup>1)</sup>, 笠木陽子<sup>1)</sup>, 今城俊浩<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研究所生体機能制御学): 成長ホルモン分泌リズムのカオスモデル . 第6回生体カオス研究会, 2002 . 11 .

〔 5 〕 そ の 他

# 1. 教育推進室

## 研究概要

平成14年4月の発足以降、種々の学外における医学教育ワークショップへの参加（第15回医学教育者指導者フォーラムと平成14年度医学・歯学教育指導者ワークショップ、第22回国内医科大学視察と討論の会、第7回基本的臨床技能の教育法ワークショップ、第6回医学教育セミナーとワークショップ、第29回医学教育者のためのワークショップ）を介して教育技法の理解と修得に励むとともに、下記の、本学の多々残されていた教育上の諸問題の改革・企画・運営に携わってきた。次年度より、これらに加え、モデル・コア・カリキュラム、基礎・臨床それぞれの間の統合、医学英語、教育評価などに関する学内外の現状分析、学内意識調査など、対象を拡大して検討する予定である。学内の医学教育への参画について以下に具体的検討項目を列記する。

- (1) カリキュラム特に臨床系コース講義の評価と有機的な調整
- (2) 学生・教員に対するアンケート調査による授業に関する認識の分析
- (3) 試験の評価方法と進級・卒業判定制度の見直し
- (4) 特別クラスのカリキュラム編成
- (5) 医師国家試験対策
- (6) 総合試験制度の確立
- (7) 共用試験の対応
- (8) 講演会等の企画による Faculty Development (FD) 活動
- (9) アーリーエクスポージャーの新しい取り組み

## 研究業績

### 論文

[ 1997 年度追加分 ]

総説：

- 1) 大須賀勝, 荒牧琢己：門脈圧亢進症・食道静脈瘤・治療 1998；増巻号：639-641。

[ 2000 年度追加分 ]

原著：

- 1) Satomura K, Yin M<sup>1)</sup>, Sekiyama T, Fujisaki S, Aramaki T, Okumura H<sup>2)</sup>, Ohmoto Y<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of INfections Disease, Yan bian Medical School, China, <sup>2)</sup> Professor Emeritus of Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Institute of New Drug Research, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd ): Effects of SSM ( Specific Substance Maruyama ) on HBe Antigen-Positive Chronic Hepatitis B . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 ( 4 ) : 261-266 .

[ 2001 年度追加分 ]

原著：

- 1) Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Murakami R<sup>1)</sup>, Toba M<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>1)</sup>, Kanazawa R<sup>2)</sup>, Sanno N<sup>2)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Sawada N<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Kumazaki T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology , Tama-Nagayama Hospital , Nippon Medical School , <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery , Tama-Nagayama Hospital , Nippon Medical School , <sup>3)</sup> Department of Radiology , Nippon Medical School ) : Chondroblastoma of the temporal bone . Skeletal Radiol 2001 ; 30 : 714-718 .



(1) 原著 :

- 1) Satomura K, Shimizu S, Nagato T, Komeichi H, Osuga M, Katsuta Y, Aramaki T, Omoto Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of New Drug Research, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd ): Establishment of an assay method for human mast cell chymase . Hepatology Research 2002 ; 24 : 361-367 .
- 2) Wakabayashi K<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>3)</sup>, Mizutani N<sup>3)</sup>, Koide A<sup>4)</sup>, Yamagiwa O<sup>5)</sup>, Mori F<sup>2)</sup>, Nishiyama K<sup>6)</sup>, Tanaka R<sup>6)</sup>, Takahashi H<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Brain Disease Research Center , <sup>2)</sup> Department of Neuropathology , Institute of Brain Science, Hiroasaki University School of Medicine , <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery , Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School , <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Murakami General Hospital , <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery , Yokohama Shintoshu Neurosurgical Hospital, Yokohama , <sup>6)</sup> Departments of Neurosurgery , <sup>7)</sup> Pathology, Brain Research Institute, Niigata University ): Primary intracranial solitary leptomeningeal glioma : a report of 3 cases . Clinical Neuropathology 2002 ; 21 ( 5 ): 214-219 .
- 3) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 脳神経外科学 , <sup>2)</sup> 内科第一 ): 卒前医学教育の新しい流れ . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 ( 4 ): 403-403 .
- 4) 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 救急医学 , <sup>2)</sup> 脳神経外科学 ): テント上脳動脈瘤術後の小脳出血の臨床的検討 . CI研究 2002 ; 24 : 17-24 .
- 5) 草薨博昭<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科学 , <sup>3)</sup> 同多摩永山病院脳神経外科 ): くも膜下出血後の血液凝固線溶系の検討 . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 4 ): 399-403 .
- 6) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 山崎峰雄<sup>3)</sup>, 高木 亮<sup>4)</sup>, 青山純夫<sup>5)</sup>, 橋詰良夫<sup>6)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科学 , <sup>2)</sup> 同病理部 , <sup>3)</sup> 同内科学第2 , <sup>4)</sup> 同放射線医学 , <sup>5)</sup> 博慈会記念総合病院内科 , <sup>6)</sup> 愛知医科大学加齢医科学研究所老化形態部門 ): Neurological CPC ・ 96 亜急性に進行する対麻痺で発症し, 約1ヶ月の経過で呼吸麻痺にて死亡した1例 . 脳神経 2002 ; 54 ( 6 ): 543-549 .
- 7) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大井良之<sup>2)</sup>, 青木 亘<sup>3)</sup>, 中村利枝<sup>3)</sup>, 五十嵐亜希<sup>3)</sup>, 久保田稔<sup>4)</sup>, 澤田恵子<sup>5)</sup>, 志村俊郎<sup>5)</sup>, 高橋弘<sup>6)</sup>, 小林士郎<sup>7)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院脳神経外科 , <sup>2)</sup> 同麻酔科 , <sup>3)</sup> 同生理機能センター , <sup>4)</sup> 同多摩永山病院生理機能センター , <sup>5)</sup> 同脳神経外科 , <sup>6)</sup> 第二病院脳神経外科 , <sup>7)</sup> 千葉北総病院脳神経外科 ): 脳腫瘍術中マッピングにおけるBIS ( Bispectral Index ) モニタリングの有用性 . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ): 1181-1188 .
- 8) 志村俊郎 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): 連載 医療保険制度の問題と改革への提言 ( 9 ) 現場からの実例 ・ 提言 : 同日施行手術の保険請求制約について . 脳神経外科 2002 ; 30 ( 11 ): 1249-1253 .
- 9) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 脳神経外科 ): 質疑応答 水頭症に対する脳室腹腔シャント術の合併症 . 日本醫事新報 2002 ; ( 別冊4082 ): 142-143 .
- 10) 志村俊郎 : Neuroimaging Quiz . Clin Neurosci 2002 ; 831-832 .

(2) 研究報告書 :

- 1) 荒牧琢己 : 肝硬変における静脈瘤に対する薬物療法の研究 . 特殊疾病 ( 難病 ) に関する研究報告書 2003 ; pp29-30 .

(3) 総説 :

- 1) 大須賀勝, 大村和子, 勝田悌実, 荒牧琢己, 高野照夫 : 集学的治療により救命し得た劇症肝不全 . J Nippon Med Sch 2002 ; 69 : 390-394 .
- 2) 里村克章, 荒牧琢己 : III. 消化器疾患 肝硬変症 . 日本医師会雑誌特別号 2002 ; 128 ( 8 ).
- 3) 山本 剛, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野ありさ<sup>3)</sup>, 渡辺 淳<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学第1 , <sup>2)</sup> 第二病院病理部 , <sup>3)</sup> 小児科学 , <sup>4)</sup> 生化学第2 ): 高度胆汁うっ滞を伴った骨髄性プロトポルフィリンの1症例 . 薬理と治療 2002 ; 30 : s385-391 .

## 著 書

- 1) 勝田悌実, 大須賀勝, 荒牧琢己: [共著] III 肝硬変 3 合併症 食道静脈瘤. 図説消化器病シリーズ 10 ウイルス肝炎, 肝硬変 (三田村圭二), 2001; pp179-189, メジカルビュー社.
- 2) 荒牧琢己: [分担] 肝肺症候群 (HPS) 診断のコツ: 肝硬変では手のひら (掌) だけでなく指も診よ. 肝疾患診療のコツと落とし穴 (井廻道夫), 2002; pp89-97, 中山書店.
- 3) 荒牧琢己: [分担] 食道静脈瘤出血予防に対する薬物療法. 肝疾患診療のコツと落とし穴 (井廻道夫), 2002; pp182-183, 中山書店.
- 4) 勝田悌実, 荒牧琢己: [分担] 門脈圧亢進性胃症. 今日の消化器疾患治療指針 (多賀須幸夫, 三田村圭二, 幕内雅敏), 2002; pp355-357, 医学書院.
- 5) 大須賀勝, 荒牧琢己: [分担] 肝血行異常. 内科学書 改訂第6版 (島田 馨), 2002; pp1903-1910, 中山書店.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 志村俊郎: 本学の医学教育と医師国家試験. 日本医科大学教育推進室医学教育シンポジウム, 2002. 12.

### (2) 一般講演:

- 1) Shimura T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Aramaki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Neurosurgery, <sup>2)</sup>Internal Medicine ): New trends in the syllabus and educational approach in a Japanese private medical school. Association for Medical Education in Europe 2002 (Lisbon, Portugal), 2002. 8.
- 2) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 小林土郎<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>病理学第2 ): 中枢性神経細胞腫の2症例: glial componentの電顕所見を中心に. 第20回日本脳腫瘍病理学会, 2002. 5.
- 3) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 横山宗伯<sup>3)</sup>, 寺本明<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>同脳神経外科, <sup>3)</sup>病理学第2, <sup>4)</sup>付属病院脳神経外科 ): 再発をくりかえしMIB-1 Indexの高値化を示した脊索腫の1例. 第70回日本医科大学医学会総会, 2002. 9.
- 4) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科学 ): 腫瘍内出血で発症した頭蓋内骨肉腫の1例. 第87回日本脳神経外科学会関東地方会, 2002. 9.
- 5) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 原島克之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科学, <sup>2)</sup>東戸塚記念病院脳神経外科 ): 高齢者頭部外傷後の脳血流検査の検討. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 6) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 小林土郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森 修<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>脳神経外科学, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部 ): 中枢性神経細胞腫5症例の臨床病理学的研究: そのグリアへの分化を中心に. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002. 10.
- 7) 林 伸吉<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科 ): 前頭蓋底部髄膜腫において前頭洞開放時の再建にバイオペックスの使用経験. 第7回日本脳腫瘍の外科学会, 2002. 11.

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成 14 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究者代表	所属・職	交付額 (千円)	研究課題
特定領域研究(2)		池島三与子	生化学第二・講師	8,500	Muts ヘテロダイマーによるミス マッチ認識機構の解析
"		西野 武士	生化学第一・教授	3,800	金属が関与するセンサーとスイッ チのケミカルバイオロジー
"		西野 武士	生化学第一・教授	14,000	活性酸素種による遺伝子発現誘導 の分子基盤
"		江見 充	老人病研究所・教授	12,000	体系的遺伝子異常解析に基づく乳 癌・甲状腺癌の遺伝子診断法の開発
"		島田 隆	生化学第二・教授	11,000	HIV ベクターの開発
"		西野 朋子	生化学第一・助手	1,700	複反応中心をもつ金属フラビン蛋 白群の構造と機能
"		杉田 昌彦	微生物学・免疫学・教授	4,100	病原性及び非病原性結核菌感染防 御における CD1 を介した脂質抗原 提示の重要性
"		佐藤(織田) 恵理	老人病研究所・助手	4,600	p53 によるアポトーシス誘導及び 癌抑制機構の解析
"		田中 信之	老人病研究所・教授	5,300	がん抑制遺伝子産物による遺伝子 発現制御ネットワークとがん化に 伴う制御破綻の解析
基盤研究(BⅡ2)	一般	太田 成男	老人病研究所・教授	3,400	神経変性疾患の危険因子としての ミトコンドリアの蓄積するアルデ ヒド関連化合物の役割
"	"	荒木 勤	産婦人科学・教授	3,100	Ischemic preconditioning による胎 児能虚血耐性の発現機構
"	"	田中 信之	老人病研究所・教授	5,200	転写因子 p53 による細胞周期 ,アポ トーシスの制御機構の解析
"	"	西野 武士	生化学第一・教授	3,700	フリーラジカルを生成する複合金 属フラビン酵素の構造と機能
"	"	佐久間康夫	生理学第一・教授	5,600	エストロゲン反応性に見られる能 の性差の細胞生理学基盤の解明
"	"	島田 隆	生化学第二・教授	7,200	遺伝子導入及び幹細胞移植技術を 応用した遺伝性神変性疾患の治療 法の開発
"	"	百束 比古	形成外科学・教授	6,200	ケロイド及び肥厚性癬痕の分子病 態と抑制遺伝子の解明 無癬痕外 科治療をめざし
"	"	太田 久彦	医療管理学・講師	4,800	アウトカム評価による脳卒中治療 品質の改善のための介入策の研究・ 開発
基盤研究(CⅠ1)	一般	今城 俊浩	老人病研究所・助教授	1,800	CRF の鎮痛作用の解明 ノックア ウトマウスを用いた解析
"	"	隈崎 達夫	放射線医学・教授	2,500	ハイブリッド・シルクフィブリン による組織吸収型ステント開発の 基盤研究
基盤研究(CⅡ2)	一般	清水 章	病理学第一・講師	900	同種腎移植における免疫寛容(トレ ランス)導入と移植臓器における免 疫応答の特異性
"	"	西谷 里美	生物学・講師	200	変動環境におけるプレフォーメー ションの意義:北極圏のムカゴトラ ノオを例として

基盤研究 (C)(2)	一般	近藤 保彦	生理学第一・助手	1,000	雌ラットの性的動機づけと嗅覚神経系による調節
"	"	大野 曜吉	法医学・教授	900	Aconitine・Tetrodotoxin 混合投与時の生体内薬物動態の解明
"	"	真下 啓子	法医学・助手	600	エタノールによるミトコンドリアの融合と巨大化 培養心筋細胞を用いた数量的解析
"	"	五十嵐博中	内科学第二・講師	1,100	多核種磁気共鳴法を用いた脳賦活時のエネルギー代謝状態の解明
"	"	佐藤 直樹	内科学第一・講師	600	心不全進展過程における延髄のイミダゾリン-1 受容体と 2 アドレナリン受容体の変化
"	"	田島 廣之	放射線医学・助教授	500	致命的急性肺血栓塞栓症に対する血栓破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究
"	"	宮本 正章	内科学第一・助教授	500	重症糖尿病に対するバイオ人工膵幹細胞移植法の確立
"	"	横室 茂樹	外科学第一・助手	1,100	胆管上皮の癌化に対するサイトカイン IL-6, HGF, TGF- $\beta$ 1 の役割
"	"	寺本 明	脳神経外科学・教授	600	下垂体 incidentaloma の臨床・組織学的検討
"	"	池崎 弘之	麻酔科学・助手	300	微小環境不全に対する抗炎症剤の果たす役割の解明
"	"	小川 龍	麻酔科学・教授	600	ショック及び臓器不全発生機序における一酸化炭素ラジカルの役割
"	"	杉本 啓治	解剖学第一・助教授	700	ジアミノフルオルセインジアセテートとアルデヒド基による内皮細胞内 NO の固定検出
"	"	佐藤千登世 (折笠千登世)	生理学第一・助手	1,100	排卵調節におけるエストロゲン受容体 の生理機能に関する研究
"	"	高橋 秀実	微生物学・免疫学・教授	1,000	ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼ活性を抑制する抗体の認識エピトープの同定
"	"	和田 謙	内科学第三・助手	1,700	胃病変における IL-1 による EGF 様増殖因子と EGF 受容体の発現調節に関する研究
"	"	石渡 俊行	病理学第二・講師	700	慢性膵炎における線維芽細胞増殖因子 (FGF)10 の発現と役割
"	"	弦間 昭彦	内科学第四・講師	1,800	樹立したヒト肺癌高転移株による高転移能の機序の解明と臨床応用候補分子の選択
"	"	桂 研一郎	内科学第二・講師	900	アシドーシスにより増悪する虚血性神経細胞障害の分子生物学的機構の解明
"	"	神谷 達司	内科学第二・講師	1,000	虚血損傷過程におけるトロンビンの Apoptosis 誘導作用のメカニズムの解明
"	"	平山 悦之	内科学第一・助手	100	Electrotonic interaction が心筋 M 細胞に及ぼす効果
"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	1,200	てんかん防御機構における海馬顆粒細胞新生の役割に関する実験的研究
"	"	浅野 健	小児科学・講師	700	薬剤耐性癌腫における薬剤耐性とトポイソメラーゼ遺伝子のエピジェネティクスの研究

基盤研究 (C)(2)	一般	猪口 孝一	内科学第三・助教授	1,400	変異 p51/p63, calpastatin 導入 bcr/abl-Tg マウス病態解析
"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	1,700	グレリンの中樞作用
"	"	及川 眞一	内科学第三・教授	1,700	新しい糖尿病発症機序の解明: 血中過酸化脂質の増加による膵 細胞障害について
"	"	木山 輝郎	外科学第一・助手	1,300	創傷治癒におけるマトリックス・メタロプロテアーゼの発現と機能解析
"	"	田尻 孝	外科学第一・教授	1,100	脾静脈血行動態の肝線維化に及ぼす影響
"	"	鈴木 成治	外科学第一・助手	1,100	CGH 法と定量的経時的マイクロサテライト分析法を用いた胃癌組織の新しい遺伝子診断
"	"	坊 英樹	消化器病センター・助手	200	食道扁平上皮癌に対する放射線照射効果のジーンフィルターによる解析
"	"	新田 隆	外科学第二・助教授	2,100	左心房容量負荷モデルにおける心房細胞の電気生理学的機序
"	"	羽鳥 信郎	外科学第二・助教授	600	心臓外科手術侵襲と接着分子: 特に白血球と血管内皮接着分子の遺伝子発現
"	"	北村 晶	麻酔科学・講師	1,400	全身麻酔薬の中樞神経シナプス・イオンチャンネルレベルへの作用
"	"	米山 剛一	産婦人科学・講師	1,300	HGF アンタゴニスト (HGF/NK4) を用いた卵巣癌遺伝子治療への戦略
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	1,100	内耳自己免疫病における内耳免疫傷害機序解明の研究
"	"	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・講師	1,300	アレルギー性鼻炎における鼻粘膜上皮層内への肥満細胞集積の機序
"	"	石崎 正通	病理学第一・助教授	1,500	胎生期眼組織および損傷角膜における Epimorphin の発現動態と役割について
"	"	M Ghazi-zadeh	老人病研究所・助教授	1,100	ケロイド発生に関連する遺伝子群の同定
"	"	川井 真	救急医学・助教授	1,100	救急医療における卒後教育モデルの開発とデジタル画像教育効果の研究
"	"	加藤 昌克	生理学第一・助教授	1,400	内側視索前野 GnRH ニューロンの解析から思春期発達の機構を考える
"	"	阿部 靖子	生化学第一・講師	2,000	慢性骨髄性白血病におけるヘム結合蛋白質 HBP23 の役割
"	"	三宅 一昌	内科学第三・助手	1,400	選択的 COX2 阻害による胃腺腫の発癌予防の可能性と COX1 阻害が発癌に与える影響
"	"	吾妻安良太	内科学第四・講師	1,400	インターフェロン 及び の間質性肺炎・肺線維症の細胞内抑制機序に関する研究
"	"	工藤 翔二	内科学第四・教授	2,100	特発性肺線維症における発癌メカニズムとその制御
"	"	片山 泰朗	内科学第二・教授	2,100	超軽微低体温 (35 ) の神経保護作用のメカニズムの解明 脳保護薬との併用療法

基盤研究 (C)(2)	一般	麻生 定光	老人病研究所・助教授	1,200	アポトーシス抑制蛋白質改良型の投与による虚血性神経細胞死抑制と治療への適用
"	"	中込 明裕	内科学第一・助手	2,000	心不全患者の単球上腫瘍壊死因子発現における急性反応性C蛋白の関与
"	"	勝部 康弘	小児科学・講師	1,800	ヒト血管平滑筋における酸素感受性イオンチャンネルに関する研究
"	"	福永 慶隆	小児科学・教授	1,900	体外増幅したヒト造血幹細胞に対するCXCR4遺伝子導入
"	"	小川 俊一	小児科学・助教授	2,200	心筋・交感神経共同培養細胞を用いた交感神経の虚血プレコンディショニング効果の検討
"	"	村田 智	放射線医学・講師	2,400	肝悪性腫瘍に対する非侵襲的閉鎖循環下抗癌剤灌流療法の基礎的研究
"	"	緒方 清行	内科学第三・助教授	1,400	骨髄異形成症候群芽球の生物学的特性の解明(新規な芽球精製法を用いた解析)
"	"	三宅 弘一	生化学第二・講師	2,100	血管新生抑制物質による多発性骨髄腫の新規治療法(遺伝子治療)の開発
"	"	芝崎 保	生理学第二・教授	1,100	GH分泌惹起物質受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた同受容体の機能解明
"	"	南 史朗	老人病研究所・教授	1,800	成長ホルモンによる視床下部神経修飾作用に関する新規遺伝子の検討
"	"	松倉 則夫	外科学第一・助教授	1,200	内視鏡的粘膜切除術とセンチネルリンパ節転移に対する遺伝子治療による早期胃癌治療
"	"	渡辺 昌則	消化器病センター・助手	700	アンチセンスオリゴを応用した線維芽細胞増殖因子(KGF)阻害による大腸癌増殖制御
"	"	菅野 重人	外科学第二・助手	1,800	虚血心筋 Gap Junction におけるCx43の動態と不整脈発生のメカニズム
"	"	高橋 弘	脳神経外科学・助教授	1,000	DNA マイクロアレイによるインターフェロン抗脳腫瘍効果に果たすシグナル伝達の解析
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	1,000	GFP 遺伝子導入ヒトグリオーマ細胞を用いた脳腫瘍モデルでの抗微小管剤の研究
"	"	山口 文雄	脳神経外科学・講師	900	神経膠細胞の腫瘍化におけるFGFR2の機能解明
"	"	山王 直子	脳神経外科学・講師	1,600	脳下垂体腫瘍における各種視床下部ホルモン受容体発現の解析
"	"	竹田 晋浩	麻酔科学・講師	1,800	内因性カンナビノイドおよびオピオイドによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
"	"	本郷 卓	麻酔科学・助手	1,500	周術期心筋虚血,動脈血酸素飽和度低下にみる糖尿病性自律神経機能障害の影響への考察
"	"	坂本 篤裕	麻酔科学・助教授	2,500	炎症性サイトカインによる心筋抑制機序におけるガス状メディエータの役割と相互作用

基盤研究 (C)(2)	一般	小野寺英貴	麻酔科学・助手	2,100	敗血症性ショック時の HIF-1 の発現に対する吸入麻酔薬の影響
"	"	金 徹	麻酔科学・助手	1,500	呼吸性末梢受容体(頸動脈小体)における酸素感知機構の解明
"	"	近藤 幸尋	泌尿器科学・助教授	2,200	腎細胞癌における低酸素応答性転写因子による腫瘍血管新生に対する制御機構の究明
"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,600	アデノシンによる胎児心筋ハイパネーションの誘導
"	"	大久保公裕	耳鼻咽喉科学・助教授	1,000	Explant Culture を用いた鼻アレルギー過敏性亢進の制御法の開発
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	1,400	線維芽細胞の慢性副鼻腔炎における炎症を誘導する細胞としての重要性の解明
"	"	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・講師	1,300	COCH 遺伝子プロモーターを用いた新たな内耳特異的遺伝子治療法の開発
"	"	水野 博司	形成外科学・助手	2,200	脂肪由来間葉系幹細胞(仮称)による3次元大型脂肪組織の再生構築
"	"	三上 俊夫	スポーツ科学・助教授	2,900	熱ショック蛋白質(HSP70)の転写調節と生体防御作用から運動適応を検討する
"	"	大澤 郁朗	老人病研究所・助手	1,300	アボトシス抑制蛋白サイピンの脳神経細胞生存維持における役割
"	"	Parhar S・Ishwar	生理学第一・講師	1,500	脳内移動型および非移動型 GnRH ニューロンにおける新規遺伝子の単離
萌芽研究		川並 汪一	老人病研究所・教授	500	肺胞壁の線維化過程における血管内皮細胞の役割について
"		坂本 長逸	内科学第三・教授	1,600	新規蛋白質 tomoregulin の血管新生抑制機構解明と血中濃度測定系の確立
"		榊原桂太郎	内科学第四・助手	1,200	ディーゼル排気ガス暴露が結核感染症に及ぼす影響に関する研究
"		八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	1,700	新しい視刺激装置による平衡機能検査法の開発
"		江見 充	老人病研究所・教授	3,300	新しい家系内相関解析法と連鎖不平衡マッピング法を用いた高脂血症の修飾遺伝子の同定
若手研究 (B)		石川 朋子	解剖学第一・助手	500	肝実質細胞の部位差に基づく領域区分と各種血管樹との肝葉内立体配置の観察
"		岡本 研	生化学第一・助手	1,000	X線結晶解析及び、部位特異的変異法によるキサンチン脱水素酵素の構造・機能の研究
"		恩田 宗彦	病理学第二・助手	200	糖尿病例の動脈硬化病変に対する糖化物質と脂質過酸化産物の傷害性についての検討
"		二神 生爾	内科学第三・助手	700	消化管上皮細胞を介した粘膜内 T細胞への刺激伝達の解析
"		新井 悟	病理部・助手	800	CGH 法による肺癌細胞の放射線照射に対する感受性判定
"		村井 保夫	脳神経外科学・助手	500	下垂体腺腫の増殖能,浸潤能における分子生物学的検討
"		鈴木 康友	泌尿器科学・助手	900	ホルモン不応性前立腺癌におけるレドックス制御機構に関する検討



若手研究 (B)	小津 千佳	耳鼻咽喉科学・助手	700	アレルギー性鼻炎における上皮細胞の新たな役割・DEP による影響
"	堀 純子	眼科学・講師	1,000	角膜移植後の拒絶反応を回避するキメラ角膜組織の作成および免疫特権の機序の解明
"	永野 昌俊	薬理学・助手	700	新しいモデル動物を用いた神経因性疼痛の上位中枢に及ぼす可塑的变化の検討
"	山田 丈士	放射線医学・助手	1,300	覚せい剤の体内動態に及ぼすエタノール影響
"	金森 崇	老人病研究所・助手	1,700	C型肝炎ウイルスコア蛋白質による細胞内の酸化ストレスの上昇
"	高野 仁司	内科学第一・助手	1,900	経皮的 iNOS 遺伝子治療による心筋梗塞塞縮小効果の研究
"	堺 則康	皮膚科学・講師	1,600	骨髄系幹細胞の可塑性を利用した表皮遺伝子治療に関する基礎研究
"	東 直行	皮膚科学・講師	1,500	DNA マイクロアレイ法によるアトピー性皮膚炎患者末梢血、皮膚組織の遺伝子解析
"	加藤 陽子	皮膚科学・助手	1,500	アトピー性皮膚炎の病態形成におけるケモカイン、ケモカインレセプターの役割
"	荒牧 純	皮膚科学・助手	1,200	新生児・アトピー性皮膚炎バリアー機構における Cohort 調査
"	町田 稔	放射線医学・助手	1,100	光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた不安定プラーク形成阻害
"	梶原 景子	放射線医学・助手	1,400	末梢発生肺腺癌における CT 画像上のスピクリレーションと組織学的血管リモデリング
"	小田切あすか	生理学第二・助手	1,300	不安調節機構におけるニューロステロイド及び不安関連神経ペプチドの役割の解析
"	中村 弘之	内科学第三・助手	1,800	p51 の新たな機能解析と遺伝子異常解析
"	中村 恭子	内科学第三・助手	1,000	微小残存白血病細胞 (MRD) の生物学的特性 (MRD の質と白血病再発との関連)
"	田村 秀人	内科学第三・助手	1,400	白血病における新規の補助刺激分子 B7-H1, B7-H2, B7-H3 の発現と機能
"	笠木 陽子	老人病研究所・助手	1,700	CRF により発現誘導される新規遺伝子の検索 iCRF ノックアウトマウスを用いて
"	吉野 雅則	消化器病センター・助手	600	フッ化ピリミジン系抗癌剤体謝酵素 DPD の mRNA レベルでの阻害による制癌作用増強
"	平井 恭二	外科学第二・助手	900	ヒト非小細胞肺癌における ALCAM/CD166 の発現の意義について
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	1,900	下垂体腺腫における機能分化に関わる転写因子、各種受容体の発現と協調作用
"	中嶋 祐作	整形外科学・助手	1,800	ヒト骨軟部悪性腫瘍の永久保存と抗癌剤感受性試験の確立及びその臨床応用

若手研究(B)	斉藤 明彦	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	外リンパ特異的蛋白を用いた新しい外リンパ瘻診断法の開発
"	小泉 康雄	耳鼻咽喉科学・助手	2,100	OVARとEVARによる眼球運動の三次元解析
"	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	ヒト舌筋の機能解剖学および機能生理学的研究
"	長谷川 純	耳鼻咽喉科学・助手	1,400	プロテオーム解析を用いた,新たな内耳感染防御機構の解明
"	若林あや子	微生物学・免疫学・助手	1,100	腸内の細菌外毒素が卵白アルブミン特異的免疫反応に与える影響:毒素と食物アレルギー
"	山本 直之	解剖学第二・講師	1,700	複数のGnRHニューロン群による下垂体の多重支配
"	濱田 知宏	生理学第一・助手	1,100	雌性行動神経回路を構成し可視化した視床下部ニューロンに対するエストロジェンの作用

2. 平成 14 年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1 佐久間康夫 生理学第一	基盤研究(C)企画	林 紘治 横浜市立大大学院	脂溶性シグナル分子の脳機能 に対する作用機序
2 仁平 信 法医学	基盤研究(B)	影浦 光義 福岡大学医学部	薬物毒鑑定の精度管理, 信頼 性確保のための戦略研究
3 右田 真 小児科学	基盤研究(B)	望月 秀樹 順天堂大学医学部	AAV ベクターを用いた家族 性パーキンソン病に対する遺 伝子治療の基礎研究
4 太田 成男 老人病研究所	特定領域研究(C)	井原 康夫 東京大学大学院医学系研究科	脳科学の先端的研究
5 太田 成男 老人病研究所	特定領域研究(1)	林 純一 筑波大学生物科学系	ミトコンドリア tRNA 疾患疾 患の病態モデル
6 江見 充 老人病研究所	特定領域研究(C)(1)	中村 祐輔 東京大学医科学研究所	がん研究の総合的推進に関 する研究
			補助金額合計 19,920,000 円

3. 平成 14 年度厚生労働省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況

研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 芝崎 保 生理学第二	主任	特定疾患対策研究事業	中枢性摂食異常症に関する調査研 究
2 芝崎 保 生理学第二	分担	長寿科学総合研究事業 寒川賢治・国立循環病センター	新規ホルモン・グレリンの生理的 意義と老化における役割の解明
3 高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業 竹森利忠・国立感染症研究所	HIV 感染予防に関する研究
4 木村 哲彦 医療管理学	主任	医療技術評価総合研究事業	アウトカムによるリハビリテ ーション病院の機能評価に関する研 究開発
5 太田 久彦 医療管理学	主任	医療技術評価総合研究事業	情報技術を応用した老人リハビリ テーション評価書の基づくアウト カムデータベースの構築
6 新 博次 内科学第一	分担	循環器病研究委託事業 鎌倉史郎・国立循環器病センター	突発性心室細動 (Brugada 症候群) の病態とその治療法に関する研究
7 新 博次 内科学第一	分担	医薬安全総合研究事業 鎌倉史郎・国立循環器病センター	重篤な循環器系副作用 (QT 延長症 候群) の症例情報の収集・評価及び それに基づく併用薬剤等のリスク 因子の解明に関する研究
8 大庭 建三 付属病院老人科	分担	長寿科学総合研究事業 井藤英喜・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病を対象とした前向き 大規模臨床介入研究
9 吉野 慎一 付属病院リウマチ科	分担	免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業	関節リウマチ術後における肺合併 症の原因の解明とその治療研究
10 工藤 翔二 内科学第四	分担	ヒトゲノム・再生医療等研究事業 慶長直人・国立国際医療センター	びまん性汎細気管支炎等遺伝要因 を有する慢性呼吸器疾患の疾患感 受性遺伝子の研究
11 吾妻安良太 内科学第四	分担	特定疾患対策研究事業 貴和敏博東北大加齢医学研	びまん性肺疾患に関する調査研究
12 福永 慶隆 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業 三池輝久 熊本大学医学部	思春期の保健対策の強化及び健康 教育の推進に関する研究
13 福永 慶隆 小児科学	分担	宮脇利男 富山医科薬科大学医学部	原発性免疫不全症候群に関する調 査研究

14	村上 睦美 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業 五十嵐隆 東京大学医学部	小児難治性腎尿路疾患の早期発見 管理治療に関する研究
15	村田 智 放射線医学	分担	がん研究助成金 野村和弘 国立がんセンター	難治癌の総合的な対策に関する研 究
16	江上 格 外科学第一	分担	効果的医療技術の確立推進 山口 建 静岡県立ガンセンター総長	がんの社会学に関する合同研究調 査
17	寺本 明 脳神経外科学	分担	特定疾患対策研究 千原和夫 神戸大学医学部	間脳下垂体機能障害に関する調査 研究
18	白井 康正(名誉教授) 整形外科	主任	労働安全衛生総合研究事業	職業運転手における腰痛予防に関 する調査研究
19	伊藤 博元 整形外科	分担	医療技術評価総合研究事業 四宮 謙一	椎間板ヘルニア診療ガイドライン 策定に関する調査研究
20	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	主任	免疫・アレルギー疾患・予防・治療研究 事業	花粉症のQOL からみた各種治療法 評価と新しい治療法開発の基礎的 研究
21	山本 保博 救急医学	主任	新興・再興感染症研究事業	国内での発生が稀少のため知見が 乏しい感染症対応のための技術的 基盤整備に関する研究
22	山本 保博 救急医学	主任	医療技術評価総合研究事業	Mass Gathering における集団災害 のガイドライン作成とその評価に 関する研究
23	山本 保博 救急医学	分担	ヒトゲノム・再生医療等研究事業 島崎修次杏林大学医学部	凍結同種皮膚を用いた皮膚の再生 の研究
24	山本 保博 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業 原口義座 東京災害医療センター	核・生物毒・化学物質毒災害および 関連する災害(NBC 災害)に対す る総合的医療対応の研究
25	黒川 顕 救急医学	分担	21 世紀型医療開拓推進研究事業 島崎修次・杏林大学医学部	心臓、脳卒中中の急性期における診療 機能の向上及びその研修のありか たに関する研究
26	横田 裕行 救急医学	主任	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	脳死下での臓器移植の社会基盤に 向けての研究
27	横田 裕行 救急医学	主任	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	臓器提供施設内における臓器提供 システムに関する研究
28	益子 邦洋 救急医学	分担	有賀 徹・昭和大学医学部	院内の疾病登録を利用した心筋梗 塞及び脳卒中の治療方法等の向上 に関する研究
29	益子 邦洋 救急医学	分担	島崎修次・杏林大学医学部	救命救急センターにおける重症外 傷患者への対応の充実に向けた研 究
30	益子 邦洋 救急医学	分担	島崎修次・杏林大学医学部	三次救急医療施設における医療情 報データベースの基盤整備と、二次 救急医療体制の確立と評価方法の 開発に関する研究
31	小井土雄一 救急医学	主任	医療技術評価総合研究事業	Mass gathering における集団災害 医療対応の一環としての医療搬送 用ヘリコプター配置に関する研究
32	竹内 孝仁 第二病院リハビリ テーションセンター	分担	長寿科学総合研究 安村誠司・福島県立医科大学	閉じこもり高齢者のスクリーニ ング尺度の作成と介入プログラムの 開発
33	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究委託事業 清水輝夫・帝京大学医学部	筋ジストロフィー及び関連疾患の 臨床病態解明と治療法開発に関 する研究
34	江見 充 老人病研究所	分担	ヒトゲノム・再生医療等研究事業 斉藤 康 千葉大学大学院医学研究科	動脈硬化発症要因の遺伝子および その重用性に関する研究
				補助金額合計 204,850,000 円

4. 平成 14 年度その他省庁, 自治体, 財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1 高市 真一 生物学	科学技術新興事業団 研究情報データベース 化事業	研究助成	生理活性脂質データベース
2 芝崎 保 生理学第二	(財) 喫煙科学研究財団	研究助成	ニコチンによる食欲抑制機序に関する 解析
3 小田切あすか 生理学第二	成長科学協会	研究助成	Growth hormone secretagogue (GHS) 受容体 (GHSE) 発現抑制トランスジェ ニックラットを用いた GH 分泌調節機 序における GHSR の役割に関する検討
4 鈴木 秀典 薬理学	科学技術新興事業団 戦略的基礎研究「脳を知る」	分担研究	抑制性シナプス可塑性の分子機構の解 明とその応用
5 鈴木 秀典 薬理学	(財) 薬理研究会	研究助成	新規抗不安薬の標的としてのタキキ ニン作動性神経機構に関する研究
6 高橋 秀実 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス 財団	研究助成	生体内のリアルタイムの情報に基づい た HIV ウイルス特異的 T 細胞の試験管 内再構築技術の確立
7 高橋 秀実 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス 財団	研究助成	HIV 構造遺伝子と HIV 制御遺伝子のコ ンビネーションワクチンの開発に関す る研究
8 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	ヒト母乳中マクロファージの GM-CSF 産生能と IL-4 添加による樹状細胞への 分化
9 杉田 昌彦 微生物学・免疫学	漢方医薬研究振興財団	研究助成	糖脂質の細胞内輸送と免疫活性化
10 杉田 昌彦 微生物学・免疫学	上原記念生命科学財団	研究助成	ヒト CD1 トランスジェニックマウスの 作製
11 高柳 和江 医療管理学	大和證券ヘルス財団	研究助成	高度排便障害の新治療法による患者満 足度調査: 外科的に造設した盲腸ポ ートからの順蠕動性洗腸による強制排便 についての患者の QOL 向上とその経 済効果
12 片山 泰朗 内科学第二	国立循環器病センター	研究補助金	超急性期虚血性脳血管障害に対する非 侵襲的・モニタリングシステムの構築 に関する研究
13 吉野 横一 付属病院リウマチ科	上原記念科学財団	研究助成	自己免疫疾患における免疫, 神経内分 泌クロストーク機構の解明と涙して泣 くことの影響について
14 永島 正一 付属病院リウマチ科	日本リウマチ財団	研究助成	血管新生抑制からみた関節リウマチ遺 伝子治療の基礎的研究
15 猪口 孝一 内科学第三	高橋産業経済研究財団	研究助成	Ph 陽性本態性血小板血 (Ph+ET) 発症 トランスジェニックマウスの作成と病 態解析
16 田村 秀人 内科学第三	長尾武難病研究基金	研究助成	不良性貧血 (骨髄異形成症候群) の腫 瘍免疫: 抗原提示細胞および MDSi 系球 の新規補助刺激分子群発現について
17 工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成	肺癌発生母地としての突発性肺線維症 の遺伝子不安定性の解析
18 工藤 翔二 内科学第四	東京都難治専門研究	委託研究	呼吸器系 5 疾患認定患者の実態調査 (1)
19 工藤 翔二 内科学第四	公害健康被害補償予防 協会		大気中粒子状物質の呼吸器系に及ぼす 実験的研究
20 弦間 昭彦 内科学第四	がん集学的治療研究財 団	研究助成	肺非小細胞癌術後再発症例に対する cDNA guide-order made 化学療法の臨 床試験

21	小川 俊一 小児科学	日本心臓血圧研究振興会	研究助成	動脈管に存在し酸素を感受して開くカルシウムチャンネルに関する分子生物学的研究	
22	伊藤 保彦 小児科学	森永奉仕会	研究奨励費	小児膠原病患者の免疫能に及ぼす腸管栄養の影響についての検討	
23	平井 恭二 外科学第二	加藤記念バイオサイエンス研究財団	研究助成	ヒト非小細胞肺癌における ALCA/CD166 発現の意義について	
24	中井 章人 産婦人科学	(財)日母おぎゃー献金基金	研究補助金	脳性麻痺発生におけるミトコンドリア膜透過性遷移の役割に関する研究	
25	米山 芳雄 産婦人科学	日本医師会	委託研究助成金	CPT コード導入に向けた実証・評価に関する研究	
26	伊藤 博元 整形外科	高橋産業経済研究財団	研究助成	自家細胞を用いた骨再生・再建における微弱電磁波の研究	
27	市川 太郎 放射線科学	大和証券ヘルス財団	調査研究助成	高齢者における上腹部マルチスライスCTの造影剤静注法の最適化に関する研究	
28	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	東京都衛生局医療福祉部	東京都花粉症対策事業	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作治療研究	
29	山本 保博 救急医学	(財)消防科学総合センター	研究助成	包括的指示下での除細動に関する研究会	
30	吉田 竜介 救急医学	(財)救急振興財団	調査研究	American Heart Association における心肺蘇生法の指導戦略に関する調査研究	
31	渡辺 昌則 第二病院消化器病センター	日本学術振興会	藤田記念医学研究振興基金	mRNA レベルでの線維芽細胞増殖因子阻害による大腸癌増殖制御	
32	田中 信之 老人病研究所生化学部門	木原記念横浜生命科学振興財団	研究助成	癌抑制因子 p53 によるアポトーシス制御機構の解析	
33	田中 信之 老人病研究所生化学部門	病態代謝研究会	研究助成	p53 及び Bcl-2 ファミリー分子による癌化の抑制機構の解析	
34	田中 信之 老人病研究所生化学部門	武田科学振興財団	医学系研究奨励	Bcl-2 ファミリー分子によるがん化の抑制機構の解析	
35	笠木 陽子 老人病研究所疫学部門	加藤バイオサイエンス研究振興財団	国際交流助成	培養視床下部神経細胞における CRF1 型受容体遺伝子発現調節に関わる細胞内情報伝達についての検討	
				研究助成金額合計	66,680,000 円

## 5. 平成 14 年度各種補助金の交付状況一覧 [ 内訳 ]

単位：千円

項 目	平成 14 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
科学研究費補助金			
交付金額		271,400	271,400
私立大学教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行分）			
大学院高度化推進特別経費			
1 大学院整備重点化経費			
教育研究拠点大学院重点経費		294,119	294,119
研究科特別経費			
・研究科分	46,700	25,100	71,800
・学生分	23,100	12,300	35,400
研究科共同研究経費	9,200	9,000	18,200
特別研究学生経費		297	297
学位論文審査協力経費			
海外派遣交流経費			
外国人研究員等特別招聘経費（長期）	300	300	600
2 ティーチング・アシスタント経費	5,300	3,500	8,800
3 教育研究機能活性化特別経費		4,000	4,000
学術研究推進特別経費			
1 学術研究高度化推進経費			
ハイテク・フロンティア等経費			
・ハイテク・リサーチ・センター整備事業	20,000	20,000	40,000
・学術フロンティア推進事業	48,800	48,700	97,500
産学連携研究推進経費	20,000	20,000	40,000
共同研究経費			
・新技術開発研究	8,500	11,500	20,000
2 リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター等支援経費			
リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター			
・リサーチ・アシスタント	30,500	37,000	67,500
・ポスト・ドクター	10,700	12,800	23,500
大学教育高度化推進特別経費			
1 大学教育研究改革推進経費	8,377	7,000	15,377
2 教育・学習方法等改善支援経費			
多元的評価支援分	1,850	600	2,450
3 教養教育改革推進経費	1,800	1,800	3,600
4 海外研修派遣	1,892	1,888	3,780
5 国際シンポジウム開催			
6 国際化教育			
外国人教員による教育		1,000	1,000
高度情報化推進特別経費			
1 情報通信設備（借入）	23,669	10,000	33,669
2 教育学術情報ネットワーク			
教育学術情報ネットワーク	59,572	55,400	114,972

3	教育学術コンテンツ			
	教育研究用ソフトウェア	11,167	10,600	21,767
	教育学術情報データベース等の開発	16,238	16,100	32,338
4	サイバー・キャンパス整備経費			
	合計	347,665	603,004	950,669
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）				
	生涯学習推進特別経費			
	個性化推進特別経費			
1	学習方法の改善			
	大学院基盤整備経費			
	・大学院基盤分		100,954	100,954
	・研究支援分ア		20,582	20,582
	・研究支援分イ		8,645	8,645
	少人数教育の推進		6,000	6,000
2	学習機会の多様化			
	外国人留学生の受入れ		2,987	2,987
	研究施設・設備等運営費			
	・研究施設	35,027	33,800	68,827
	・大型設備等	4,191	3,800	7,991
	合計	39,218	176,768	215,986
私立大学等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）				
教育研究装置整備費補助				
	研究装置	58,931	58,930	117,861
	教育装置	20,750	20,749	41,499
	情報通信施設	13,689	13,688	27,377
	情報通信装置	22,050	22,050	44,100
	研究設備	42,922	12,569	55,491
学術研究振興資金（日本学術振興会）				
	学術研究振興資金	11,500	3,750	15,000
未来開拓学術研究費（文部科学省研究振興局振興企画課）				
	未来開拓学術研究費		69,000	69,000
タンパク 3000 プロジェクト（文部科学省産学連携等研究費）				
	タンパク 3000 プロジェクト		12,000	12,000



## あ と が き

2002年度の業績集に記載された総論文数1996，英文論文数715は前年度と比較して若干ではあるが減少しているとのことである．論文数やインパクトファクターによる評価に問題があるとはいえ，論文発表は研究の活動状況を示す重要な指標の一つであることは間違いなく，今後の健闘を期待したい．

新しい体制になった研究委員会では，日本医大での研究の更なる活性化を目指し，研究環境の改善を積極的に進めていきたいと考えている．今年度は，過去10年間以上もの間手つかずになっていた教育研究費の学内配分方法に対する見直しを始めている．この間，多くの講座やセンターの改廃が行われ，教育研究体制に大きな変更があったにもかかわらず，研究費の配分にはほとんど反映されていなかった．そこで総額約5億円にも上る本学の非競争的研究費（研究計画や実績に対する評価とは無関係に配分されている経費）について，できるだけ公平に，かつ研究の進展に直接結びつくような新たな配分方法を策定するべく 現在の教育・研究の現状を反映させる， 大学としての教育・研究に対する将来構想を反映させる， 共同研究施設の整備を進め研究費を優先的に配分する等を基本方針として作業を行っている．

本学の研究施設は老朽化が進み，そのスペースも十分でないが，研究費については比較的恵まれている．この研究費を有効に使うことで，我々の研究が更に進歩し，その結果として質の高い論文が増加することを期待している．

研究委員会委員長 島田 隆

平成15年 12月 1日 印刷

平成15年 12月 5日 発行

発行 日本医科大学  
研究委員会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

TEL 03(3822) 2131

印刷 株式会社杏林舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

TEL 03(3910) 4311 5